関越自動車道（上越線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書

行田梅木平遺跡

（行田Ⅱ遺跡）

本文編

1997

日本道路公団
群馬県教育委員会
松井田町遺跡調査会

関越自動車道（上越線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書

行田梅木平遺跡
（おくなだうめきだいら）

（行田Ⅱ遺跡）

本文編

1997

日本道路公団
群馬県教育委員会
松井田町遺跡調査会

1．東部調査区全景

2．3号配石墓群検出状況

3．2号配石墓群検出状況

4．1号配石墓群検出状況

巻首写真2

1

2

3

4

1．1号配石墓群検出状況

2．2号配石墓群列石構築状況

3．2号配石墓群立石構築状況

4．1号配石墓群1ー20・21号墓検出状況

序　文

上信越自動車道の建設に伴い、本調査会が発足したのは昭和62年11月のことでした。発掘調査では、縄文時代を中心に弥生、古墳、奈良、平安、中～近世と、私たちの祖先の足跡が間断なく発見されました。ここに至り、ようやくその成果を報告する次第であります。

縄文時代では、国内初の発見となった石棒製作跡の西野牧小山平遺跡をはじめ、早期土器を伴う横川大林遺跡、クッキー状炭化物が出土した行田大道北遺跡、弧状配石墓群の行田梅木平遺跡など、全国規模の重要遺跡が発見されました。また、縄文時代前期から平安時代までの集落である八城二本杉東遺跡、大型掘立柱建物跡の検出で古代東山道の駅家を示唆する原遺跡も注目を集めた遺跡でした。

本町においては、計11箇所の遺跡が発見された訳ですが、これらはこれまで調査されたものとともに、郷土の生い立ちを示す貴重な遺産であります。今でこそ電車や自動車、また飛行機でと、交通の利便性はとどまるところを知りませんが、古くは碓氷峠の峰が行く者の前に大きく立ちはだかったことでしょう。縄文やそれ以前から人々の地域間の交流があったといわれるようですが、遺跡に見られる祖先達の営みの積み重ねの上に現代の私達の文化が成り立っているということ、このことをあらためて認識することが大切なのだと思います。

ここに刊行いたします報告書が、広く皆様に活用されることを祈念するとともに文化財に対する認識を深める一助となれば幸いに存じます。

最後になりましたが、発掘調査から整理作業を通じて御指導・御協力をいただいた日本道路公団、群馬県教育委員会、実務の全てを遂行された山武考古学研究所、また、調査に従事された全ての方々に厚く御礼を申し上げ、序文とさせていただきます。

平成９年３月

松井田町遺跡調査会
会長　武田　弘

例　言

1．本書は、関越自動車道（上越線）建設工事に伴い、事前調査が行われた群馬県碓氷郡松井田町に所在する行田梅木平遺跡の発掘調査報告書である。

2．発掘調査は日本道路公団の委託を受けた群馬県教育委員会の指導で、松井田町教育委員会に松井田町遺跡調査会を設置し、実施したものである。

3．実際の発掘調査及び整理事業は、松井田町遺跡調査会より委託された山武考古学研究所が担当した。

4．遺跡の名称は、群馬県教育委員会が行った昭和59年度事業路線内遺跡分布調査に基づくものであったが、整理調査段階で大字・小字に変更することが妥当と考え、協議の上改名した。

5．遺跡の名称・所在地・面積・調査期間・調査担当者は下記の通りである。

遺　跡　名　行田梅木平遺跡（旧名　行田Ⅱ遺跡）
所　在　地　群馬県碓氷郡松井田町行田1270他
調査面積　28,260㎡（東部調査区17,560㎡・西部調査区10,700㎡）
調査期間　昭和63年（1988）10月1日～同年12月27日
　　平成元年（1989）4月1日～平成3年（1991）2月21日
調査担当者　平田貴正（山武考古学研究所）
　　肥田順一（山武考古学研究所）
　　高柳正春（山武考古学研究所）
　　関本寿雄（山武考古学研究所）
　　間宮政光（山武考古学研究所）

6．本遺跡は発掘調査時において、調査区が東西に長い為、ほぼ中央部に存在する谷を境として、東部調査区と西部調査区に分けて調査を行っている。資料整理についてはそれを踏襲し、本書の作成に当たっては調査時に使用した遺構番号を用いている。

7．本書の編集及び資料整理は、群馬県教育委員会の指導の下、山武考古学研究所において間宮が担当し、本書の作成に当たっては藤井陽子、菅野栄子、総領則子の協力を得た。

8．本書の執筆は下記の通りである。

序章　第1節	飯塚　聡（群馬県教育委員会）
序章　第2・3節	田口　修（松井田町教育委員会）長井正欣（山武考古学研究所）
東部調査区、西部調査区	間宮政光（山武考古学研究所）
調査の成果	〃　　〃

9．配石遺構について、土壌分析をパリノ・サーヴェイ㈱に委託して行った。その結果については科学分析編として別冊編集し掲載した。

10．文字資料の判読は、平川　南　国立歴史民俗博物館教授にご指導頂いた。

11．31号住居跡図版番号1番の漆の鑑定は、永嶋正春　国立歴史民俗博物館助教授にご指導頂いた。

12．発掘調査において、遺跡全体測量は開成測量㈱、航空写真は青高館にそれぞれ依頼した。

13．本遺跡の記録類（図面・写真等）・出土遺物は報告書刊行後、松井田町教育委員会にて保管している。

14. 発掘調査から本書の刊行に至るまで、下記の諸氏・諸機関にご指導・ご協力を賜った。記して感謝の意を表するものである。(敬称略、順不同)

菊池　実　平川　南　永嶋正春　折舘伸二　三浦京子　辻本崇夫　大工原豊　五十嵐俊雄　成田英吉
国立歴史民俗博物館　群馬県教育委員会　群馬県埋蔵文化財調査事業団　前橋文化財研究所
開成測量㈱　新成田総合社　㈱東日本重機　パリノ・サーヴェイ㈱

15. 発掘調査の参加者は下記の通りである。

秋山森雄　浅井芳子　蘭三枝子　蘭美佐子　安藤とく　飯野ふみよ　飯野　直　入澤夏代　五十嵐昌子
石井シマ　石井とみ　伊丹節子　伊丹松子　岩井しづ　岩井登美枝　岩井栄次郎　岩井儀一　岩井ひで
井田年代　井上幸雄　打越　進　上原藤男　大塚虎雄　大塚玲子　大塚　守　大塚愛子　大塚美恵子
岡部みや子　小此木よし子　小此木三代子　小此木起治　大手いね　大手チヨ　大手ふじ江　岡田ウメ
片貝和子　門屋　孝　門屋さかゑ　神小柴エイ　金沢清一郎　岸みつ子　黒田静子　工藤マサ
小林ちえ　小池美恵子　小板橋徳乃　小坂橋昌江　小金沢利幸　小金沢志げ乃　後藤昇二　後藤ふじ子
後藤ちか子　佐藤治子　佐藤茂子　佐藤フジエ　佐藤　巴　佐藤いさ枝　佐藤フミ子　佐藤正子
佐藤幸子　桜井きん　清水サト　清水きち子　清水文子　神宮房子　神宮千代子　白石登美枝
白石ふさゑ　塩谷弘美　塩谷とめ子　塩原かほる　柴山厚子　杉木はま子　鈴木一好　鈴木信子
高橋久子　高橋富美子　高橋達三郎　高橋力生　武井数子　武井　武　田口千代子　田中　実
田村成子　田村たか子　田村春子　土屋光太郎　土屋キミエ　寺島ハツ子　寺島洋子　寺島アキ江
寺島明子　寺島石松　勅使河原恵子　富田昭子　富田静江　富沢昭夫　中山良子　中島三代子
中村卓司　中沢信次　中原ケサ　新田恒雄　畑山洋子　広木和子　古谷きく枝　細矢吾一　松本モト子
松本秋子　増田トヨミ　黛　はつ江　黛　恒三郎　黛　典子　黛　正代　黛　まさ　宮崎テルエ
村瀬スエ　茂木三江　茂木敬吉　山越梅子　山崎ちどり　矢野由利子　由田辰二　吉本美代子
吉本律子　吉本なか　横尾はじめ　和田光江　和田愛作

16. 整理調査の参加者は下記の通りである。

根本時子　伊藤順子　片岡美和子　藤井陽子　木村春代　秋山京子　五十嵐信子　井上とみ子
菅野栄子　鈴木悦子　本田利子　赤星惇子　麻生陽子　川村みき子　総領則子　別府あや子
矢部知恵子　沓間雅子　小沢美和子　村石正子　磯前綾子　杉山君代　高橋民江　植竹真由美
入澤徳子　日沖剛史

凡　例

1．本書の遺構番号は現地において使用した名称をそのまま使用している。

2．遺構実測図中の方位は座標北を示し、土層断面図及び断面図に記した数値はそれぞれ標高を示している。

3．住居跡の平面形は現存している形状で判断し、規模は、遺構中軸線上の壁下端を計測した。また、主軸方向はカマド方向の軸線を基準とし、座標北に対して何度振れているかを記した。壁は、床面からの立ち上がり角度が81～90°を垂直、65～80°を外傾、65°未満を緩斜、さらに90°以上を内傾とした。壁高は、床面から検出面までの残存値である。

4．遺構実測図中において破線での表記は推定部分を表している。

5．本書の挿図縮尺は下記の通りである。ただし統一できないものは各実測図の脇に縮尺を表示した。

遺　構	住居跡・掘立柱建物跡	1/80
	配石墓・集石・竪穴状遺構	1/40
	埋設土器	1/20
遺　物	土　器（縄文・弥生）	1/3・1/4
	石　器（石鏃・石錐・石匙）	2/3
	石　器（石斧・石核）	1/3
	石　器（石皿・多孔石・石棒）	1/5
	カマド・炉	1/40
	土　坑	1/40
	柵　列	1/160
	土　器（歴史）	1/4
	石　器（石錘）	1/2
	石　器（磨石・凹石）	1/4
	土製品（土偶・円盤等）	1/2

6．遺物写真図版の縮尺は基本的に遺物実測図に対応している。

7．遺物番号は、本文・挿図・表・写真図版共に一致している。

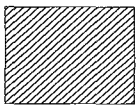
8．石器については計測値・材質を個々の実測図の脇に右の表組で表している。

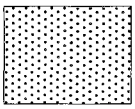
長さ㎜×幅㎜×厚さ㎜
重さｇ：石材

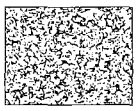
なお、石材については、理学博士　五十嵐俊雄、成田英吉の指導を下に担当者が判断した。

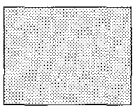
9．本書の挿図に使用したスクリントーン・記号は下記の通りである。

遺　構

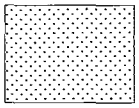

地　山

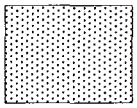

カマド袖部

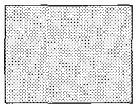

焼　土

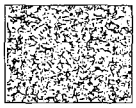

掘り方

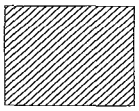
遺　物


黒色処理範囲


赤彩範囲


灰釉陶器施釉範囲


煤付着範囲


礫断面

● 土　器　　■ 石　器　　▲ 鉄　器

西部調査区

第１章　遺跡の立地 ……469
第２章　調査の方法と経過
　第１節　調査の方法 ……473
　第２節　調査の経過 ……473
第３章　基本堆積土層 ……473
第４章　検出された遺構と遺物
　第１節　縄文時代
　　第１項　住居跡 ……475
　　第２項　土　坑 ……495
　　第３項　遺構外出土遺物 ……495
　第２節　古　代
　　第１項　掘立柱建物跡 ……499
　　第２項　土　坑 ……501
　　第３項　溝状遺構 ……503

調査の成果

調査の成果 ……511
配石墓群について ……513
上部配石の構造 ……513
配石墓の構造 ……513
配石墓群の時期 ……515
まとめ ……515

抄　録

目　次

巻首写真
序　　文
例　　言
凡　　例

本　文

序　章

第１節　調査に至る経緯 ……1
第２節　遺跡の位置と考古学的環境 ……3
第３節　調査会の経過 ……9

東部調査区

第１章　遺跡の立地 ……11
第２章　調査の方法と経過
第１節　調査の方法 ……11
第２節　調査の経過 ……13
第３章　検出された遺構と遺物
第１節　縄文時代
第１項　住居跡 ……19
第２項　掘立柱建物跡 ……141
第３項　配　石 ……143
第４項　集　石 ……265
第５項　埋設土器 ……271
第６項　土　坑 ……283
第７項　遺構外出土遺物 ……395
第２節　弥生時代
第１項　埋設土器 ……419
第２項　遺構外出土遺物 ……419
第３節　古　代
第１項　住居跡 ……420
第２項　掘立柱建物跡 ……455
第３項　製鉄跡 ……464
第４項　溝 ……~~466~~ 465
第５項　柵　列 ……~~466~~ 465
第６項　土　坑 ……468

挿図目次

第１図　松井田町地形図……2
第２図　松井田町遺跡分布図……5

東部調査区

第３図　行田梅木平遺跡位置図……11
第４図　調査区位置図……12
第５図　東部調査区トレンチ設定図……14
第６図　東部調査区設定図……16
第７図　東部調査区遺構配置図（縄文）……17
第８図　１号住居跡……20
第９図　１号住居跡出土遺物（１）……22
第10図　１号住居跡出土遺物（２）……23
第11図　１号住居跡出土遺物（３）……24
第12図　２号住居跡・出土遺物（１）……26
第13図　２号住居跡出土遺物（２）……27
第14図　４号住居跡……28
第15図　５・６・７号住居跡、５号住居跡出土遺物（１）……30
第16図　５号住居跡出土遺物（２）……31
第17図　５号住居跡出土遺物（３）……33
第18図　５号住居跡出土遺物（４）、６号住居跡出土遺物（１）……34
第19図　６号住居跡出土遺物（２）……36
第20図　６号住居跡出土遺物（３）……37
第21図　６号住居跡出土遺物（４）、７号住居跡出土遺物（１）……38
第22図　７号住居跡出土遺物（２）……40
第23図　７号住居跡出土遺物（３）……41
第24図　８号住居跡・出土遺物（１）……42
第25図　８号住居跡出土遺物（２）……43
第26図　９号住居跡・出土遺物（１）……44
第27図　９号住居跡出土遺物（２）……46
第28図　９号住居跡出土遺物（３）……47
第29図　９号住居跡出土遺物（４）……48
第30図　９号住居跡出土遺物（５）……49
第31図　10号住居跡・出土遺物（１）……50
第32図　10号住居跡出土遺物（２）……52
第33図　10号住居跡出土遺物（３）……53
第34図　11号住居跡・出土遺物（１）……54
第35図　11号住居跡出土遺物（２）……56
第36図　11号住居跡出土遺物（３）……57
第37図　12号住居跡・出土遺物（１）……58
第38図　12号住居跡出土遺物（２）……59
第39図　12号住居跡出土遺物（３）……60
第40図　13号住居跡……62
第41図　13号住居跡出土遺物（１）……63
第42図　13号住居跡出土遺物（２）……64
第43図　14号住居跡……66
第44図　14号住居跡出土遺物……68
第45図　15号住居跡・出土遺物（１）……69
第46図　15号住居跡出土遺物（２）……70
第47図　16号住居跡・出土遺物……72
第48図　17号住居跡・出土遺物（１）……74
第49図　17号住居跡出土遺物（２）……75
第50図　18号住居跡・出土遺物（１）……76
第51図　18号住居跡出土遺物（２）……78
第52図　19号住居跡・出土遺物……80
第53図　20号住居跡……81
第54図　20号住居跡出土遺物……82
第55図　22号住居跡・出土遺物（１）……84
第56図　22号住居跡出土遺物（２）……85
第57図　23号住居跡・出土遺物（１）……86
第58図　23号住居跡出土遺物（２）……88
第59図　24号住居跡・出土遺物……90
第60図　25号住居跡・出土遺物……92
第61図　28号住居跡・出土遺物……94
第62図　35号住居跡・出土遺物……95
第63図　36・37・54号住居跡、36号住居跡出土遺物……96
第64図　36・37号住居跡出土遺物……98
第65図　38号住居跡・出土遺物（１）……100
第66図　38号住居跡出土遺物（２）……102
第67図　38号住居跡出土遺物（３）……103
第68図　47号住居跡・出土遺物（１）……104
第69図　47号住居跡出土遺物（２）……106
第70図　50号住居跡出土遺物……107

第71図　51・52・53号住居跡、51号住居跡出土遺物（1）……108
第72図　51号住居跡出土遺物（2）……110
第73図　51号住居跡出土遺物（3）……111
第74図　55号住居跡・出土遺物（1）……112
第75図　55号住居跡出土遺物（2）……114
第76図　55号住居跡出土遺物（3）……116
第77図　56号住居跡・出土遺物（1）……118
第78図　56号住居跡出土遺物（2）……119
第79図　57・58・59号住居跡……120
第80図　57・58住居跡出土遺物……122
第81図　59号住居跡出土遺物……124
第82図　60号住居跡・出土遺物……126
第83図　61号住居跡……128
第84図　61号住居跡出土遺物（1）……129
第85図　61号住居跡出土遺物（2）……130
第86図　62号住居跡・出土遺物……132
第87図　63号住居跡……133
第88図　63号住居跡出土遺物（1）……134
第89図　63号住居跡出土遺物（2）……135
第90図　64号住居跡・出土遺物……136
第91図　65号住居跡……138
第92図　65号住居跡出土遺物……139
第93図　4・11号掘立柱建物跡……140
第94図　13号掘立柱建物跡……141
第95図　配石墓群位置図……142
第96図　1号配石墓群列石検出状況……145
第97図　1号配石墓群検出状況……147
第98図　1－1・2号墓……150
第99図　1－3号墓・出土遺物……151
第100図　1－4・5号墓・出土遺物……152
第101図　1－6・7号墓、1－6号墓出土遺物…154
第102図　1－8・11号墓・出土遺物……155
第103図　1－12・13号墓、1－12号墓出土遺物…156
第104図　1－13号墓出土遺物……157
第105図　1－14号墓……158
第106図　1－15号墓……159
第107図　1－16・17・18・19号墓、1－18・19号墓出土遺物……160
第108図　1－20号墓・出土遺物……162
第109図　1－21号墓・出土遺物……164
第110図　1－22号墓・出土遺物（1）……165
第111図　1－22号墓出土遺物（2）……166
第112図　1－23・24・47号墓、1－24・47号墓出土遺物……168
第113図　1－25・26号墓・出土遺物……169
第114図　1－27・28・29・30号墓、1－29号墓出土遺物……170
第115図　1－31・32・33号墓、1－32号墓出土遺物……172
第116図　1－34・35・36・37号墓……174
第117図　1－36号墓出土遺物……175
第118図　1－38・39・40・41・42・43号墓……176
第119図　1－40・42・43号墓出土遺物……178
第120図　1－44・45・46・48・49号墓……180
第121図　1－44・48号墓出土遺物……182
第122図　1号配石墓群　遺物分布図……183
第123図　1号配石墓群　遺物分布図……185
第124図　1号配石墓群出土遺物（1）……188
第125図　1号配石墓群出土遺物（2）……189
第126図　1号配石墓群出土遺物（3）……190
第127図　1号配石墓群出土遺物（4）……192
第128図　1号配石墓群出土遺物（5）……194
第129図　1号配石墓群出土遺物（6）……196
第130図　1号配石墓群出土遺物（7）……198
第131図　1号配石墓群出土遺物（8）……200
第132図　1号配石墓群出土遺物（9）……202
第133図　1号配石墓群出土遺物(10)……204
第134図　1号配石墓群出土遺物(11)……205
第135図　1号配石墓群出土遺物(12)……206
第136図　1号配石墓群出土遺物(13)……207
第137図　1号配石墓群出土遺物(14)……208
第138図　1号配石墓群出土遺物(15)……209
第139図　1号配石墓群出土遺物(16)……210
第140図　1号配石墓群出土遺物(17)……211
第141図　1号配石墓群出土遺物(18)……212
第142図　1号配石墓群出土遺物(19)……213
第143図　1号配石墓群出土遺物(20)……214

第144図　1号配石墓群出土遺物（21）……215
第145図　1号配石墓群出土遺物（22）……216
第146図　1号配石墓群出土遺物（23）……217
第147図　1号配石墓群出土遺物（24）……218
第148図　1号配石墓群出土遺物（25）……219
第149図　1号配石墓群出土遺物（26）……220
第150図　1号配石墓群出土遺物（27）……221
第151図　2号配石墓群列石検出状況……223
第152図　2号配石墓群検出状況……225
第153図　2－1号墓……226
第154図　2－2・3・4号墓、2－2号墓出土遺物…228
第155図　2－5号墓・出土遺物……229
第156図　1号竪穴状遺構・出土遺物……230
第157図　2・3号竪穴状遺構……232
第158図　2号配石墓群遺物出土状況……233
第159図　2号配石墓群出土遺物（1）……237
第160図　2号配石墓群出土遺物（2）……238
第161図　2号配石墓群出土遺物（3）……239
第162図　2号配石墓群出土遺物（4）……240
第163図　3号配石墓群列石検出状況……241
第164図　3号配石墓群検出状況……243
第165図　3－1・2号墓・出土遺物……246
第166図　3－3・4・10号墓、3－3・4号墓出土遺物…248
第167図　3－5・6・7・8号墓、3－5号墓出土遺物…250
第168図　3－9・11・12・13・14・15号墓、
　　3－9・11・12・15号墓出土遺物……251
第169図　3－16・17号墓・出土遺物……252
第170図　3－18・19・20・21号墓、3－18・20・
　　21号墓出土遺物……255
第171図　3－22・23・24号墓……256
第172図　3号配石墓群遺物分布図……259
第173図　3号配石墓群出土遺物（1）……262
第174図　3号配石墓群出土遺物（2）……263
第175図　3号配石墓群出土遺物（3）……264
第176図　1～7号集石……266
第177図　8号集石、2・3号集石出土遺物……268
第178図　4・5号集石出土遺物……269
第179図　6・7・8号集石出土遺物……270
第180図　1・3・4・5・6・7号埋設土器……272
第181図　8～12号埋設土器……274
第182図　13・14・16・18・19埋設土器……276
第183図　20～22号埋設土器……278
第184図　23～26号埋設土器……280
第185図　27・28号埋設置土器……281
第186図　1～17号土坑……282
第187図　18～34・61号土坑……284
第188図　35～56・62・63号土坑……285
第189図　57～60・64～73号土坑……286
第190図　74～88号土坑……287
第191図　89～105号土坑……288
第192図　106～123号土坑……289
第193図　124～129・131・133～141号土坑……290
第194図　142～153・155～157・159号土坑……291
第195図　163～170・173～180・182・183号土坑……292
第196図　184・186～203号土坑……293
第197図　204～217・227号土坑……294
第198図　218・219・221～226・228～236号土坑……295
第199図　237～250号土坑……296
第200図　251～266号土坑……297
第201図　267～287号土坑……298
第202図　288～308号土坑……299
第203図　309～324・340・341・491号土坑……300
第204図　325～339・342・457号土坑……301
第205図　343～363号土坑……302
第206図　364～385・432号土坑……303
第207図　386～409号土坑……304
第208図　410～430号土坑……305
第209図　431・433～453・456号土坑……306
第210図　454・455・458～473・481・493号土坑…307
第211図　474～480・482～487・492号土坑……308
第212図　1・4・7・11・12・14～16号土坑出土遺物…310
第213図　18・19・25・27号土坑出土遺物……312
第214図　27～30・34～36号土坑出土遺物……314
第215図　36・37・39・40・44・45号土坑出土遺物…316
第216図　45・47～49・52・55・56・58・61・65～
　　67・70・71号土坑出土遺物……318

第217図　73・74・77～79・82～84・86号土坑出土遺物…320
第218図　80号土坑出土遺物……321
第219図　86・91～95・101号土坑出土遺物……324
第220図　102～106・109～112・117～119・121号土坑出土遺物……326
第221図　121～125号土坑出土遺物……328
第222図　126・128・134・140・141・143～145号土坑出土遺物……330
第223図　149・151号土坑出土遺物……332
第224図　151～153・155～157号土坑出土遺物…334
第225図　157・159・163・164・168・173～175号土坑出土遺物……336
第226図　176～179・182・183号土坑出土遺物…338
第227図　186・188・203・207・209号土坑出土遺物…340
第228図　209～211・213号土坑出土遺物……342
第229図　214号土坑出土遺物……344
第230図　214～216号土坑出土遺物……346
第231図　216・222・223・228・229・236・239～242・248・249号土坑出土遺物……348
第232図　249・253・257～259・262・263・266号土坑出土遺物……350
第233図　266・268・270～273号土坑出土遺物…352
第234図　277・285・294・297・303・305・306・308～311土坑出土遺物……354
第235図　311・312・314～316号土坑出土遺物…356
第236図　317・318・320～322・325号土坑出土遺物…358
第237図　325～328・330号土坑出土遺物……360
第238図　330・333・335・336号土坑出土遺物…362
第239図　337号土坑出土遺物……364
第240図　338・339・341・342・345・350号土坑出土遺物……366
第241図　350～354号土坑出土遺物……368
第242図　357・358・361・362・371号土坑出土遺物…370
第243図　365号土坑出土遺物……371
第244図　373～375・380・389・398～400・413・417・421・423・426号土坑出土遺物…374
第245図　426・428・431・441・445・448～450・453・457・458号土坑出土遺物……378
第246図　458～460・463～465・467・468号土坑出土遺物……380
第247図　468・469・474～476・478・484・485号土坑出土遺物……382
第248図　遺構外出土遺物（1）……396
第249図　遺構外出土遺物（2）……398
第250図　遺構外出土遺物（3）……400
第251図　遺構外出土遺物（4）……402
第252図　遺構外出土遺物（5）……404
第253図　遺構外出土遺物（6）……406
第254図　遺構外出土遺物（7）……408
第255図　2号埋設土器・遺構外出土遺物……419
第256図　東部調査区遺構配置図（古代）……421
第257図　3号住居跡・出土遺物……423
第258図　21号住居跡・出土遺物……424
第259図　26号住居跡・出土遺物……426
第260図　27号住居跡・出土遺物……427
第261図　29号住居跡……428
第262図　29号住居跡出土遺物……430
第263図　30号住居跡・出土遺物（1）……432
第264図　30号住居跡出土遺物（2）……433
第265図　31号住居跡・出土遺物……434
第266図　32号住居跡・出土遺物……436
第267図　33号住居跡・出土遺物……437
第268図　34号住居跡・出土遺物……438
第269図　39号住居跡・出土遺物……440
第270図　40・41号住居跡……442
第271図　40号住居跡出土遺物……443
第272図　41号住居跡出土遺物……444
第273図　42号住居跡・出土遺物……445
第274図　43号住居跡・出土遺物……446
第275図　44号住居跡・出土遺物……447
第276図　45号住居跡・出土遺物……448
第277図　46号住居跡・出土遺物……450
第278図　48号住居跡・出土遺物……452
第279図　49号住居跡・出土遺物……453
第280図　1・2・3・5号掘立柱建物跡、1号掘立柱建物跡出土遺物……454

第281図　6・7・8・9号掘立柱建物跡、8・9号掘立柱建物跡出土遺物……456
第282図　10・12・14号掘立柱建物跡、10・12号掘立柱建物跡出土遺物……458
第283図　15・16号掘立柱建物跡……460
第284図　17・18・19号掘立柱建物跡……462
第285図　20・21号掘立柱建物跡……463
第286図　1号溝、1号柵列・出土遺物……465
第287図　1・2号製鉄跡・出土遺物……467
第288図　130・132・154・185・220号土坑、154号土坑出土遺物……468

西部調査区

第289図　調査区位置図……469
第290図　西部調査区トレンチ設定図……470
第291図　西部調査区設定図……471
第292図　基本堆積土層図……472
第293図　西部調査区遺構配置図……472
第294図　1号住居跡・出土遺物（1）……474
第295図　1号住居跡出土遺物（2）……476
第296図　1号住居跡出土遺物（3）……478
第297図　1号住居跡出土遺物（4）……480
第298図　1号住居跡出土遺物（5）……482
第299図　1号住居跡出土遺物（6）……483
第300図　1号住居跡出土遺物（7）……484
第301図　2号住居跡・出土遺物（1）……486
第302図　2号住居跡出土遺物（2）……488
第303図　2号住居跡出土遺物（3）……489
第304図　2号住居跡出土遺物（4）……490
第305図　2号住居跡出土遺物（5）……491
第306図　2号住居跡出土遺物（6）……492
第307図　2号住居跡出土遺物（7）……493
第308図　1～7・9～15号土坑……494
第309図　16～23号土坑、2・9・11号土坑出土遺物……496
第310図　11・12号土坑出土遺物、遺構外出土遺物……497
第311図　1・2・3号掘立柱建物跡……498
第312図　4・5・6・7号掘立柱建物跡、8号土坑・出土遺物……500
第313図　1号溝状遺構・出土遺物（1）……502
第314図　1号溝状遺構出土遺物（2）……504
第315図　1号溝状遺構出土遺物（3）……506
第316図　1号溝状遺構出土遺物（4）……508
第317図　1号溝状遺構出土遺物（5）……509
第318図　1号配石墓群構築状況図……512

表目次

第1表　松井田町遺跡一覧表（1）……7
第2表　松井田町遺跡一覧表（2）……8
第3表　松井田町遺跡調査会組織表1……9
第4表　松井田町遺跡調査会組織表2……10

東部調査区

第5表　縄文時代土坑一覧表（1）……383
第6表　縄文時代土坑一覧表（2）……384
第7表　縄文時代土坑一覧表（3）……385
第8表　縄文時代土坑一覧表（4）……386
第9表　縄文時代土坑一覧表（5）……387
第10表　縄文時代土坑一覧表（6）……388
第11表　縄文時代土坑一覧表（7）……389
第12表　縄文時代土坑一覧表（8）……390
第13表　縄文時代土坑一覧表（9）……391
第14表　縄文時代土坑一覧表（10）……392
第15表　縄文時代土坑一覧表（11）……393
第16表　縄文時代土坑一覧表（12）……394
第17表　縄文時代土坑一覧表（13）……395
第18表　遺構外出土遺物石器集計表（1）……409
第19表　遺構外出土遺物石器集計表（2）……411
第20表　遺構外出土遺物石器集計表（3）……413
第21表　遺構外出土遺物石器集計表（4）……415
第22表　遺構外出土石器石材表……417
第23表　古代土坑一覧表……468

西部調査区

第24表　縄文土坑一覧表……497
第25表　古代土坑一覧表……501

序　章

第１節　調査に至る経緯

上信越自動車道（「関越自動車道上越線」）は、首都圏と上信越地方とを結ぶ高速自動車国道として、東京都練馬区を起点とし、新潟県上越市に至る総延長約280㎞（このうち練馬～藤岡インター間80.4㎞は関越自動車道新潟線との重複区間）が日本道路公団によって建設されている。なお、平成５年３月27日には、藤岡～佐久両インター間69.5㎞が供用されており、その後平成７年11月には佐久～小諸両インター間10.8㎞が供用され、そして平成８年11月14日には小諸インター～更埴ジャンクション間36.8㎞が供用されて長野自動車道と接続し、現在信州中野インターまでが供用されている。本県内は、藤岡市・多野郡吉井町・甘楽郡甘楽町・富岡市・甘楽郡下仁田町・甘楽郡妙義町・碓氷郡松井田町の各市町を通過する。

本県部分の埋蔵文化財発掘調査にかかわる上信越自動車道藤岡～佐久間については、昭和47年に基本計画が策定され、同54年に建設大臣より日本道路公団が施工命令を受けている。そして同56年には、藤岡市・吉井町・甘楽町・富岡市・下仁田町（東部）・妙義町・松井田町（東部）の路線が発表され、翌57年には松井田町（西部）・下仁田町（西部）・長野県佐久市までの路線が発表された。

上信越自動車道にかかわる群馬県内の埋蔵文化財の取り扱いと調査経過、ならびに松井田町における埋蔵文化財発掘調査の経緯は以下の通りである。

昭和49年度　藤岡市～下仁田町間に存在する埋蔵文化財について、群馬県教育委員会は県企画部幹線交通課に対し、文化財保護法の遵守、国・県・市町村の各指定文化財を避けること、文化財に関係する事項は県教育委員会文化財保護課と協議すること、等の考え方を示す。

昭和54・55年度　県教育委員会文化財保護課は、路線通過地周辺の埋蔵文化財包蔵地の状況をまとめ、県企画部交通対策課により、『関越自動車道上越線関連公共事業調査報告書』として報告される。

昭和59年度　建設工事の具体化に伴い、日本道路公団から県教育委員会に対し、路線内の埋蔵文化財に関する具体的な調査の依頼がなされ、県教委文化財保護課は包蔵地の詳細分布調査を実施した。

昭和60年度　県教育委員会は分布調査の結果、包蔵地を「遺物分布の濃い部分」「遺物分布の淡い部分」「試掘調査を必要とする部分」に区分、発掘調査必要面積を約100万㎡と想定し、55遺跡を認定した（後の試掘調査によって52遺跡に変更）。そして、埋蔵文化財発掘調査に関する基本方針を次のように策定した。

①発掘調査終了年度は昭和66年度とする。

②発掘調査は㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団を中核機関とし、対応できない部分については調査会方式を導入し、関係市町には進捗状況を考慮しながら協力を求める。

③調査関係別対応面積は次のとおり。

・埋文事業団：富岡市以東の約76万㎡（面積は変動の可能性あり）。

・調査会：下仁田町・妙義町・松井田町の約22万㎡（面積は変動の可能性あり）。

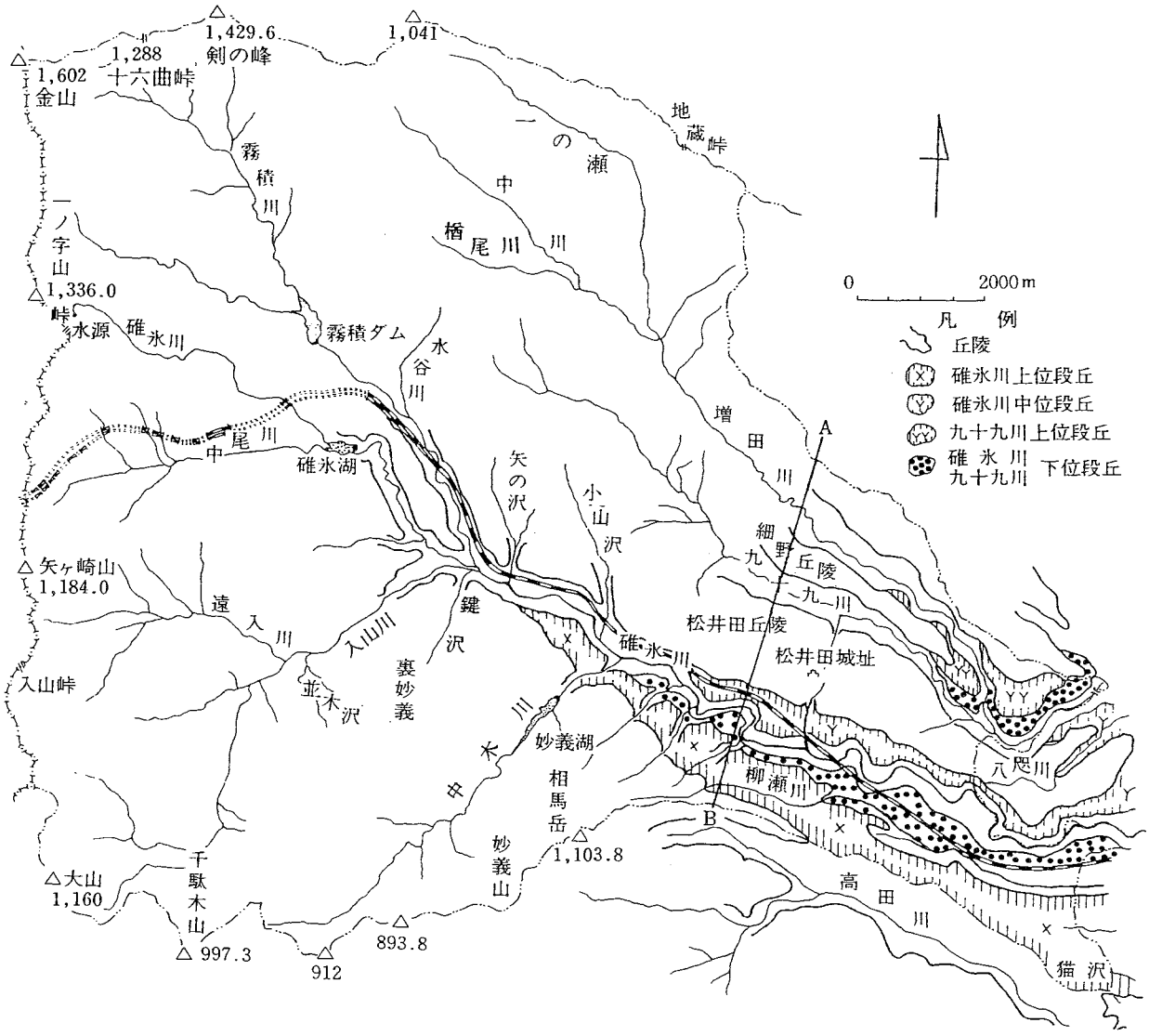
◎発掘調査事業実施方法：日本道路公団東京第二建設局が群馬県教育委員会に対し発掘調査の依頼を行い、年度毎に委託契約を締結する。県教育委員会はこれを受けて、㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団ならびに各遺跡調査会に対し、再委託のかたちで委託契約を締結し、それぞれ発掘調査を実施する。

昭和61年度　４月　㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団により４遺跡にて発掘調査が開始された。

昭和62年度　11月　松井田町遺跡調査会が設立され、年度末３月より発掘調査を開始（～平成３年度迄）

平成４年度　発掘調査の終了した各遺跡について整理事業を開始する。

平成８年度　各遺跡の整理報告書が刊行となり、松井田町遺跡調査会の全事業が終了する。



第１図　松井田町地形図（「松井田町誌」より転載）

第２節　遺跡の位置と考古学的環境

松井田町は群馬県の南西部に位置し、西側は碓氷峠・入山峠・和美峠を境に長野県北佐久郡軽井沢町に接している。松井田町の地形は山地・丘陵・河岸段丘面に大別され、北西部・西部及び南西部には山地が囲み、それぞれの山地から流れる各河川沿いに丘陵や段丘が形成されている。

また、松井田町の市街地から西北西26㎞には浅間山が位置し、有史以前から度重なる噴火を繰り返してきた。この降下火山灰・軽石は、遺構の年代決定の指標にもなっている。

松井田町を流れる主要河川には、碓氷川・九十九川・増田川などがあり、それぞれ並行するように南東流している。丘陵地には、長者久保丘陵・松井田丘陵・西横野丘陵・細野丘陵などがある。河岸段丘は、碓氷川流域・九十九川流域・増田川流域に形成されている。

長者久保丘陵は、剣の峰から地蔵峠を経て南東方向に延び、安中市板鼻まで続く当地方最大の丘陵地で、碓氷郡と群馬郡との分水嶺となっている。松井田丘陵は、剣の峰から松井田城跡を経て安中市名山へと延びるもので、南面を碓氷川及びその支流に、北面を九十九川及びその支流に浸食されている。西横野丘陵は、碓氷川南岸の丘陵で、碓氷郡と甘楽郡との郡境をなし、碓氷谷と鏑谷との分水嶺になっている。同丘陵は表妙義の山稜から派生し、源ヶ原・行田・越泉・上人見を経て、安中市へと続いている。なお、妙義山地の白雲山から流下する猫沢川・柳瀬川が西横野丘陵を東流している。

平坦な地形は、おもに碓氷川・九十九川・増田川流域南側の丘陵上及び河岸段丘上に分布し、この平坦地を中心に遺跡が分布している。以下、各時代ごとに本地域の遺跡を概観する。

旧石器時代

行田大道北遺跡(2)から細石核が出土しているが、旧石器の検出は極めて少ない状況にある。本地域では、浅間山噴火に伴う浅間－板鼻黄色軽石（ＹＰ層：約13,000～14,000年前）や浅間－板鼻褐色軽石（ＢＰ層：約18,000～21,000年前）が厚く堆積し、遺物の検出が困難なことにも起因していると考えられる。また、碓氷川右岸の上位段丘では地表下８～９ｍで広域火山灰の姶良－Ｔｎ火山灰（ＡＴ層：約24,000～25,000年前）が確認される。なお、安中市の古城遺跡で、ＡＴ層前後の局部磨製石斧・ナイフ形石器が出土している。

縄文時代

今回の上信越自動車道関連の発掘調査において、当該期遺跡の状況が多数明らかにされた。

碓氷川右岸では、八城二本杉東遺跡(1)・行田大道北遺跡(2)・行田梅木平遺跡(3)・新堀東源ヶ原遺跡(4)が調査されている。八城二本杉東遺跡では、前期関山式期の住居跡が円形柱穴列を取り囲むように検出された。行田大道北遺跡では、早期押型文期の住居跡１軒・前期黒浜～諸磯式期を中心とする集落跡・後期初頭の敷石住居跡などが検出されている。また、前期の遺構からクッキー状炭化物が出土している。行田梅木平遺跡では、中期末葉から後期にかけて形成されたとみられる弧状列石と配石墓群が３群検出され、西方に位置する妙義山を意識して構築された可能性が指摘されている。新堀東源ヶ原遺跡は、中期初頭～末葉の大規模な集落跡であるが、前期花積下層式期の住居跡及び同時期とみられる滑石製品・未製品・砕片などが大量に検出され、工房跡の可能性も考えられている。同遺跡では、早期押型文期の住居跡も検出されている。

碓氷川左岸では、前期諸磯式・後期加曽利Ｂ式期の住居跡や後期の配石墓が検出された五料野ヶ久保遺跡(6)、早期撚糸文期末の住居跡が検出された横川大林遺跡(8)が調査されている。

碓氷川支流の入山川左岸では、西野牧小山平遺跡(11)から石棒製作跡が発見され、注目されている。同製

作跡は、浅間Ｄ軽石と思われる橙色軽石の直下で検出されており、中期後半の時期が想定されている。

上信越自動車道関連以外でも、前～晩期の遺物が出土した千駄木岩陰遺跡(24)、敷石住居跡４軒など検出された仁田遺跡(23)、後期初頭の敷石住居跡と環状列石が検出された暮井遺跡(22)、前期関山式期の住居跡が検出された八城赤羽根遺跡(18)、後期前半の敷石住居跡が検出された二軒在家二本杉遺跡(17)などの遺跡が調査されている。

弥生時代

碓氷川右岸では、上人見遺跡(13)で再葬墓に使用したとみられる土器が出土しているほか、八城二本杉東遺跡でもほぼ同時期の遺構・遺物が検出されている。また、行田梅木平遺跡では東海地方西部の水神平式と思われる壺が出土している。さらに、松井田工業団地遺跡(15)でも中期後半の住居跡が調査されている。

碓氷川左岸では、五料稲荷谷戸遺跡(7)から中期初頭の岩櫃山式土器が出土している。

細野丘陵東端に位置する国衙遺跡(27)では、中期後半から後期の住居跡３軒が調査されている。

古墳時代

松井田町地域の古墳は、『上毛古墳綜覧』（1938，群馬県）に63基が記載されており、松井田・西横野・塚原・九十九・細野地区などに後期～終末期を中心とした古墳群がある。増田川右岸に位置する下増田上田中遺跡(83)の１号古墳は、Ｔ字状の横穴式石室を有するもので円筒埴輪や須恵器が出土している。同古墳は出土遺物などから６世紀前半（初頭）の築造とみられ、県内における横穴式石室受容期の古墳と考えられる。同様の横穴式石室は、九十九川流域の安中市・後閑３号墳にもみられる。なお、碓氷川流域には安中市に、同じく横穴式石室受容期の前方後円墳である簗瀬二子塚古墳がある。

集落跡は、松井田工業団地遺跡や国衙遺跡などで後期の住居跡が調査されている。また、入山峠祭祀遺跡(89)では、４世紀代から６世紀代の土師器・滑石製模造品が多量に検出されている。なお、同遺跡での祭祀は、奈良・平安時代まで継続するようである。

奈良・平安時代

原遺跡(10)では、布掘りを施す大形の掘立柱建物跡が検出され、東山道の坂本駅跡の一部と推定されている。なお、東山道は入山峠越え・碓氷峠越えの二説がある。また、五料稲荷戸遺跡では、浅間Ｂ軽石が埋没土上層に堆積する大規模な溝状遺構が検出されている。

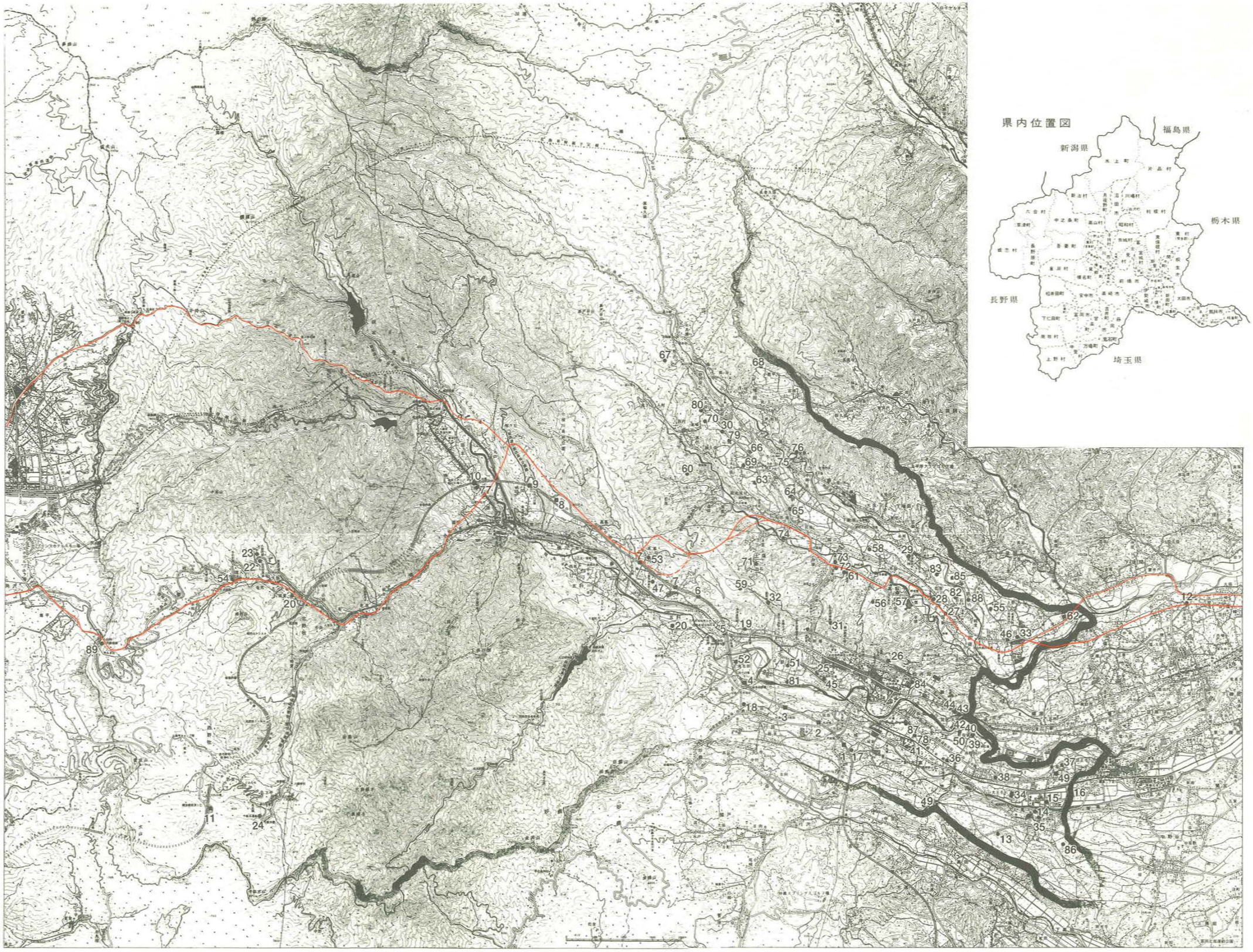
集落跡は、松井田工業団地遺跡で大規模な集落跡が調査されているほか、愛宕山遺跡(26)・仁田遺跡・暮井遺跡・人見北原遺跡(16)・五料山岸遺跡(19)・国衙遺跡・下増田天神原遺跡(29)・二軒在家二本杉遺跡などが調査されている。これらの遺跡の内、愛宕山遺跡では、皇朝十二銭の万年通宝や巡方・丸鞆が出土している。また、上信越自動車道関連では、八城二本杉東遺跡・行田梅木平遺跡・五料平遺跡(5)・五料野ヶ久保遺跡・五料稲荷谷戸遺跡・横川萩の反遺跡(9)・原遺跡で住居跡が調査されている。

生産遺跡としては、松井田工業団地遺跡や新堀陣場遺跡(25)で浅間Ｂ軽石下の水田跡が検出されている。また、高梨子碓貝戸遺跡では、同軽石下の畠跡が調査されている。近接して位置する五料山岸遺跡・五料平遺跡では、多量の須恵器が検出され、周辺に窯跡の存在が推測されている。

中・近世

城郭では、北条氏の重臣・大道寺氏の松井田城(31)が著名で、ほかに松井田西城(32)・小日向城(33)・下増田城・愛宕山城・坂本城・大王寺城・人見城・名山城などが知られている。

生産遺跡では、横川大林遺跡・下増田百石遺跡(88)・上増田長久保遺跡(80)で浅間Ａ軽石下の畠跡が検出されている。また、人見北原遺跡では、「妙義道」と推定される道路状遺構が調査されている。



第２図　松井田町遺跡分布図

第１表　松井田町遺跡一覧表（１）

No	遺　跡　名	時　　代	種　　別	概　　要
1	八城二本杉東遺跡	縄文前期・中期、弥生前期、平安	集落跡	縄文前期関山式期を主体とする集落跡。住居跡35軒、土坑217基、円形柱穴列２列、掘立柱建物跡１棟。
2	行田大道北遺跡	縄文早期～後期	集落跡	縄文前期を主体とする集落跡。住居跡117軒、敷石住居跡１軒、土坑532基、集石５基、溝３条、掘立柱建物跡４棟、ピット群等が検出され、クッキー状炭化物が出土している。
3	行田梅木平遺跡	縄文前期～後期、弥生、平安	配石遺構、集落跡	配石・配石墓群３群、住居跡35軒、土坑506基、屋外埋設土器26基、製鉄跡２基、掘立柱建物跡35棟、集石８基、溝、柵列跡。
4	新堀東源ケ原遺跡	縄文早期～中期、弥生、古墳、平安	集落跡	縄文中期環状集落、住居跡182軒、土坑1070基、チャート剥片集中区１ケ所、屋外埋設土器15基、掘立柱建物跡２棟、古墳２基が検出され、滑石製品・スタンプ型土製品が多量に出土している。
5	五料平遺跡	奈良・平安	集落跡	住居跡７軒、土坑77基、溝４条。集石５基、上野型短頸壺、円面硯等の須恵器が多量に出土し、他に緑釉椀。刀子、鉄族、鉄滓、紡錘車等が出土している。
6	五料野ケ久保遺跡	縄文前期・中期・後期奈良・平安	配石遺構、集落跡	縄文後期配石遺構、配石墓28基を主体とし、堀之内・加曽利Ｂ・高井東式の遺物が多量に出土している。他に縄文前期住居跡７軒、中期住居跡３軒。後期住居跡２軒、敷石遺構２基、集石土坑、埋設土器、奈良・平安時代住居跡２軒、溝２条を検出している。
7	五料稲荷谷戸遺跡	奈良・平安	集落跡、大形溝状遺構	住居跡23軒、掘立柱建物跡４棟、大形溝状遺構１条、畠跡３枚、道跡、溝、井戸等が検出され、大形溝状遺構は道跡の可能性が指摘されている。
8	横川大林遺跡	縄文早期・前期・中期	集落跡、土坑群	縄文早期後半絡条体圧痕文系土器を伴う土坑群、集石、焼土跡を主体として、早期前半住居跡５軒、前期・中期住居跡４軒、近世畑跡等が検出され、黒曜石を主体とする石鏃製作関係の資料が大量に出土している。
9	横川萩の反遺跡	平安	住居跡	平安時代住居跡１軒が検出され、状況的に焼失家屋と考えられる。
10	原遺跡	奈良・平安	集落跡、掘立柱建物跡	住居跡５軒、大形掘立柱建物跡１棟、溝２条。大形掘立柱建物跡は遺構形態と立地条件より、東山道坂本駅家の可能性が指摘され、埋め戻しによる保存処理がとられている。
11	西野牧小山平遺跡	縄文中期	石棒工房跡	全国初の発見例である縄文時代中期末の石棒工房跡が検出され、注目された遺跡である。石棒は最長１ｍを測る大形で原石から未製品・破損品・完成品に至る各段階のものが124点出土し、石棒破片・剥片、石棒製作工具の敲き石、加曽利Ｅ３式土器等が伴う状況で出土している。
12	東山道推定路	古代	古代官道	入山峠、碓氷峠の２説有り。
13	上人見遺跡	弥生	再葬墓	弥生中期の壺、甕、スクレイパー出土。
14	人見谷津遺跡	縄文～古墳、中世	住居跡	弥生後期住居跡、人見城堀切跡、縄文土器、弥生土器、土師器出土。
15	松井田工業団地遺跡	古墳～平安	集落跡、水田跡	古墳から平安時代の住居跡445軒、掘立柱建物跡11棟、Ｂ軽石下の水田跡、古墳、井戸。
16	人見北原遺跡	古墳、平安	集落跡、道路等	平安時代住居跡、ピット群、土坑、近世の道路状遺構。
17	二軒在家二本杉遺跡	縄文、平安	住居跡	縄文後期柄鏡形敷石住居及び平安時代住居跡。
18	八城赤羽根遺跡	縄文、中世	住居跡、包蔵地	縄文前期住居跡、包含層、中世堀跡。
19	五料山岸遺跡	奈良・平安	廃棄場、住居跡	奈良時代土坑１基、須恵器片集中部１、平安時代住居跡２軒。
20	五料丙小竹遺跡	縄文、平安	集落跡、土坑等	縄文中期の配石遺構１基、平安時代住居跡１軒、土坑多数。
21	北野牧狐嘗遺跡	縄文	包蔵地	土器小片のみ。
22	暮井遺跡	縄文～平安	集落跡等	敷石住居を含む縄文住居跡４軒と環状列石、平安時代住居跡１軒、中世溝跡、石垣等。
23	仁田遺跡	縄文～平安	集落跡等	敷石住居を含む縄文住居跡６軒、平安時代住居跡３軒。
24	千駄木岩陰遺跡	縄文～平安	包蔵地（住居跡）	昭和48年に県と町で調査した岩陰遺跡、縄文～平安時代の遺物が多数検出、県指定史跡。
25	新堀陣場遺跡	平安	水田跡	Ｂ軽石下の平安時代水田跡。
26	愛宕山遺跡	奈良～平安	集落跡	住居跡５軒、４号住居より木工用具、装身具、紡錘具、万年通宝出土。
27	国衙遺跡	縄文～平安	集落跡等	石組状遺構と石組炉１基、弥生時代住居跡３軒、古墳時代住居跡４軒、平安時代住居跡４軒。
28	国衙森浦朝日遺跡	縄文～近世	住居跡等	縄文後期柄鏡形敷石住居跡、包含層、弥生後期住居跡、山寄式円墳、江戸末期寺院跡。
29	下増田天神原遺跡	縄文、平安	住居跡、包蔵地	縄文前期包蔵地及び平安住居跡１軒、遺跡西側で三角滴形土製品出土。
30	土塩下原遺跡	縄文	住居跡、包蔵地	縄文中期住居跡２軒、集石遺構３基、炉跡１基、包含層。
31	松井田城	中世	城館跡	安中氏、武田氏を経て北条氏の重臣大道寺駿河守政繁により現在の城が形成された。天正18年（1590）年に前田利家を総大将とする北国勢により落ちる。昭和60年度林道開発計画により事前の発掘調査が行われ、青磁、古瀬戸、刀子、石臼等が出土。
32	松井田西城跡	中世	城館跡	諏訪但馬守の居城と伝えられている。
33	小日向城	中世	城館跡	松井田城の東北の出城として武田氏時代に築かれたものと思われる。
34	大王寺城	中世	城館跡	方形館跡か。上原兵庫の城と伝えられる。
35	人見城	中世	城館跡	南北朝期、足利氏に属した人見四郎恩和の館として創建され、戦国期に大改修が行われたと思われる。
36	河田陣屋	近世	単郭環壕跡	元和２年旗本政親により築かれる。
37	塚原古墳群	古墳	墳墓	10数基の小円墳群、数基は消滅し、うち１基は前方後円墳の可能性あり。
38	西横野６号墳	古墳	墳墓	戦前の調査では直刀２振が出土。宅地内にあり墳丘部は埋込になっている。
39	西横野21号墳	古墳	墳墓	墳丘部は残存しない。畑地面に玄室部の石が数個あるのみ。
40	西横野20号墳	古墳	墳墓	石室の一部を残すのみ。
41	西横野５号墳	古墳	墳墓	石室の大石が少々存在する他はほとんど原型を留めない。
42	松井田２号墳	古墳	墳墓	ほとんど原型を留めていない。石室奥壁と側壁基部の石が少々残存。
43	松井田３号墳	古墳	墳墓	石室は土中に残存しているようである。墳丘上部は削平。

第２表　松井田町遺跡一覧表（２）

No	遺　跡　名	時　　代	種　　別	概　　要
44	松井田５号墳	古墳	墳墓	墳丘は削平され、石室部が僅かに残る。本墳の他すべて横穴式石室の小円墳。
45	松井田６号墳	古墳	墳墓	(えな塚、陣場塚) 300年程前から昭和30年前代までえな塚であったようだ。
46	小日向古墳群	古墳	墳墓	古墳時代末期の小円墳が密集しており、一部前方後円墳も存在する。
47	臼井７号墳（本学院）	古墳	墳墓	東西10ｍ、南北８ｍ、高さ３ｍ。
48	（人見法正寺）	古墳～平安	包蔵地	土師器、須恵器が散布する。古墳群の中にあり、周辺の濃密な散布が想定される。
49	（二軒在家別所）	縄文	包蔵地	縄文中期を中心に濃密な遺物の散布が確認されている。
50	（二軒在家上座馬）	古墳～平安	包蔵地	土師器、須恵器が散布する。周辺への広がりが想定される。
51	（新堀西下原）	縄文～平安	包蔵地	縄文、土師器、須恵器、布目瓦、子持勾玉が出土した。一帯は各期の複合遺跡として濃密な分布があるものと思われる。
52	（五料滝名田）	平安	包蔵地	土器の散布が見られる。
53	（五料高墓）	中世末		板碑、磨耗が進み、年号は不明ながら小型でかなり形骸化しており、中世末期の所産と考えられる。
54	（北野牧遠入）	縄文	包蔵地	縄文時代加曽利Ｂ式期の土器が検出されている。
55	（小日向中原臼田）	縄文～平安	包蔵地	縄文土器、土師器、須恵器が散布。小日向地区で古墳群と共に分布域は広がると思われる。
56	高梨子三次郎遺跡	縄文、古墳～平安	集落跡	古墳～平安時代住居跡14軒、掘立柱建物跡、土坑、溝等。
57	（高梨子中貝戸）	弥生～平安	包蔵地	周辺部は濃密な散布地。弥生、土師器、須恵器が見られる。
58	高梨子椚坂	弥生	包蔵地	弥生後期の樽式土器が散布する。
59	（新井白石）	縄文	包蔵地	遺物の散布が認められる。
60	（土塩山口）	中世末		小型の板碑で記年銘等は不明。中世期の物と考えられる。
61	高梨子碓貝戸遺跡	弥生、奈良・平安	集落跡、畠跡	弥生、奈良～平安の住居跡27軒とＢ軽石下畠跡、集石、土坑等。
62	小日向遠地谷戸遺跡	弥生	住居跡	弥生後期樽式土器及び住居跡２軒。
63	（土塩東大久保）	縄文	包蔵地	昭和33年中期加曽利Ｅ式土器のほぼ完形品が出土。昭和35年畑の開墾の際に前期関山式土器が出土。
64	（新井上原）	縄文	包蔵地	昭和32年、中期勝坂式土器が出土。
65	（土塩畑中）	縄文	包蔵地	昭和49年、道路拡幅の際に後期堀之内式土器の完形品が出土。
66	（上増田上細野原）	縄文	包蔵地	昭和31年、後期加曽利Ｂ式土器が出土。（細野小所蔵）
67	（上増田板ケ沢）	縄文	包蔵地	昭和11年、後期加曽利Ｂ式期の小型コップ型土器が出土。
68	（上増田宮掛～浅谷）	縄文	包蔵地	中期を中心とした土器、石器が濃密に分布している。
69	（土塩地内）	縄文	包蔵地	昭和28年～40年にかけて用水路工事が行われ、これに伴い縄文中期を中心に多くの遺物及び遺構が出土。住居床面の一部、炉、敷石部等の他67の北西では土坑が10数基検出され、該地周辺での広がりが推察される。
70	（土塩長久保）	縄文	包蔵地	中期を中心に遺物が確認されている。
71	（土塩白石）	縄文	包蔵地	中期を中心とした遺物の分布が認められ、石鏃が多く見られる。(60と同一)
72	細野７号墳	古墳	墳墓	（狩家）。上毛古墳総覧によると帆立貝古墳とあるが現状では不明。昭和53年の県道工事の際に葺石の一部と須恵器、土師器片が出土。
73	細野８号	古墳	墳墓	石室部は陥没しているが全体に残存状況は良好。前方後円墳と思われる。
74	（土塩坊地）	鎌倉		建治４（1278）年の銘をもつ板碑。残長171㎝と大型で頂上線、天蓋、瓔珞、種子（キリーク、サ、サク）及び蓮座と共に下部には無量寿経念仏往生願の一節が刻まれる。
75	（上増田引ノ内）	中世末		小型の石碑で記年銘等は全く不明。筒中に所在する。
76	（上増田引ノ内）	中世末		同上。八郡に所在する。
77	原遺跡（町調査分）	縄文、奈良・平安	包蔵地、集落跡	縄文包含層及び奈良～平安期に住居跡４軒、土坑等。
78	二軒在家東光寺遺跡	縄文、平安他	集落跡	縄文住居跡２軒、平安掘立柱建物跡２棟、土坑、溝跡等。
79	土塩西大久保遺跡	縄文	包蔵地	縄文中期遺物包含層。
80	上増田長久保遺跡	縄文、近世	包蔵地、畠跡	縄文土器片少々。Ａ下畠跡、縄文～古代（？）遺跡。
81	新堀東下原遺跡	平安	住居跡	平安時代住居跡２軒、土坑12基。
82	下増田下田中遺跡	古墳、平安	住居跡、墳墓他	古墳時代住居跡２軒、古墳周濠１、平安時代溝跡、土坑。
83	下増田上田中遺跡	縄文、古墳～平安	住居跡、墳墓他	縄文住居跡１軒、弥生土器、Ｔ字形石室円墳２基、平安住居跡１軒。
84	松井田塚越遺跡	縄文、古墳	包蔵地、住居跡	縄文時代土坑、敷石住居跡（？）１軒、古墳時代遺物包含層。
85	下増田十二平遺跡	平安	住居跡	平安時代住居跡２軒、土坑。
86	人見東原遺跡	古墳	集落跡	古墳時代住居跡３軒。
87	八城三日市遺跡	縄文、平安	集落跡	縄文中期住居跡４軒、土坑12基、平安時代溝跡。
88	下増田百石遺跡	古墳、近世	住居跡、畠跡	古墳時代住居跡１軒、Ａ下畠跡。
89	入山峠祭祀遺跡	縄文、近世	祭祀跡	古墳時代前期を中心とする祭祀遺跡、滑石製模造品を主体として土師器、須恵器、銅銭等が出土している。

第３節　調査会の経過

松井田町遺跡調査会は昭和62年度に組織され、西野牧小山平遺跡の確認調査から開始し、平成８年度の報告書刊行をもって解散した。調査組織は以下の通りである。

第３表　松井田町遺跡調査会組織表１（昭和62年度～平成３年度）

組織 ＼ 年度		昭和62年度	昭和63年度	平成元年度	平成２年度	平成３年度
職名	役職	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名
会長	町長	中山治秀	武田弘	武田弘	武田弘	武田弘
副会長	教育長	小板橋文夫	小板橋文夫	宮下初太郎	宮下初太郎	宮下初太郎
理事	教育委員長	宇佐美忠一	宇佐美忠一	宇佐美忠一	宇佐美忠一	佐藤博昭
	文化財調査委員	小林二三雄	小林二三雄	関光保	関光保	関光保
	文化財調査委員	上原富次	上原富次	上原富次	上原富次	上原富次
	総務課長	坂本克朋	坂本克朋	寺嶋正行	春原直方	上原坦
	企画課長	上原坦	上原坦	上原収	上原収	上原収
	財政課長	上原長男	春原直方	萩原修一	白石敏行	白石敏行
	社会教育課長	白石敏行	土屋眞	土屋眞	土屋眞	土屋眞
顧問	県企画部交通対策課長	町田達男	小野宇三郎	小野宇三郎	小野宇三郎	磯貝弘二
	県教委管理部参事文化財保護課長	梅沢重昭	梅沢重昭	梅沢重昭	梅沢重昭	
	県教委管理部文化財保護課長					上月正博
	日本道路公団富岡工事事務所長	栗原紀一	栗原紀一	栗原紀一	倉沢貞夫	倉沢貞夫
	日本道路公団佐久工事事務所長	蛭川友司	蛭川友司			
	山武考古学研究所長	平岡和夫	平岡和夫	平岡和夫	平岡和夫	平岡和夫
監事	監査委員	松本武夫	松本武夫	松本武夫	佐藤敏夫	須藤祐伸
	収入役	小板橋正昭	小板橋正昭	内田武夫	寺嶋正行	寺嶋正行
事務局長	文化財保護係長	伊藤節夫	伊藤節夫	伊藤節夫	伊藤節夫	
	社会教育課課長補佐文化財保護係長					清水博
事務員	文化財保護係主事	水澤祝彦	水澤祝彦	水澤祝彦	水澤祝彦	水澤祝彦
	松井田町遺跡調査会臨時職員	中澤美江子	中澤美江子	中澤美江子	中澤美江子	中澤美江子

第４表　松井田町遺跡調査会組織表２（平成４年度～平成８年度）

組織＼年度		平成４年度	平成５年度	平成６年度	平成７年度	平成８年度
職名	役職	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名
会長	町長	武田弘	武田弘	武田弘	武田弘	武田弘
副会長	教育長	宮下初太郎	宮下初太郎	稲塚勇	稲塚勇	稲塚勇
理事	教育委員長	中島久	山賀基宏	山賀基宏	山賀基宏	山賀基宏
	文化財調査委員	関光保	上原富次	上原富次	上原富次	上原富次
	文化財調査委員	上原富次	佐藤義一	佐藤義一	佐藤義一	佐藤義一
	総務課長	上原坦	白石敏行	白石敏行	白石敏行	白石敏行
	企画課長	上原収	武井貞夫	武井貞夫	武井貞夫	武井貞夫
	財政課長	白石敏行	土屋眞	土屋眞	土屋眞	土屋眞
	社会教育課長	土屋眞	金谷宏二	金谷宏二	金谷宏二	金谷宏二
顧問	県企画部交通対策課長	青木茂一				
	県土木道路建設課長		武井上巳	武井上巳	高橋丑五郎	高橋丑五郎
	県教委管理部参事文化財保護課長	上月正博	荒畑大治	荒畑大治	荒畑大治	
	県教委文化スポーツ部文化財保護課長					土田明
	日本道路公団富岡工事事務所長	佐々木芳文	佐々木芳文			
	日本道路公団佐久工事事務所長			土井俊二	土井俊二	村上友章
	山武考古学研究所長	平岡和夫	平岡和夫	平岡和夫	平岡和夫	平岡和夫
監事	監査委員	須藤祐伸	須藤祐伸	須藤祐伸	中山公平	中山公平
	収入役	寺嶋正行	寺嶋正行	寺嶋正行	寺嶋正行	寺嶋正行
事務局長	社会教育課課長補佐 文化財保護係長	清水博	清水博	清水博	佐野興伸	佐野興伸
事務員	文化財保護係主事	水澤祝彦	田口修	田口修	田口修	田口修
	松井田町遺跡調査会臨時職員	中澤美江子	中澤美江子	中澤美江子	中澤美江子	中澤美江子

東部調査区

第１章　遺跡の立地

行田梅木平遺跡は松井田町行田に所在し、表妙義山から派生する西横野丘陵上に立地する。遺跡の北には長野県との県境に源を発する碓氷川が、中尾川・入山川・水谷川などの小河川の流れを集め関東平野へ向けて東流し、西に目を転ずると奇岩・奇峰が連なる妙義山が聳えている。

行田の地名は、『オコナイ田』・『オコナイト（行人）』に由来すると考えられており、中世以来修験道の山として信仰された妙義山との密接な関係を示している。

地形的に見ると、基盤層は安山岩の砂礫層で、上位に浅間山の噴出物である上部ローム層が被覆し、その上に耕作土である黒褐色土が堆積している。

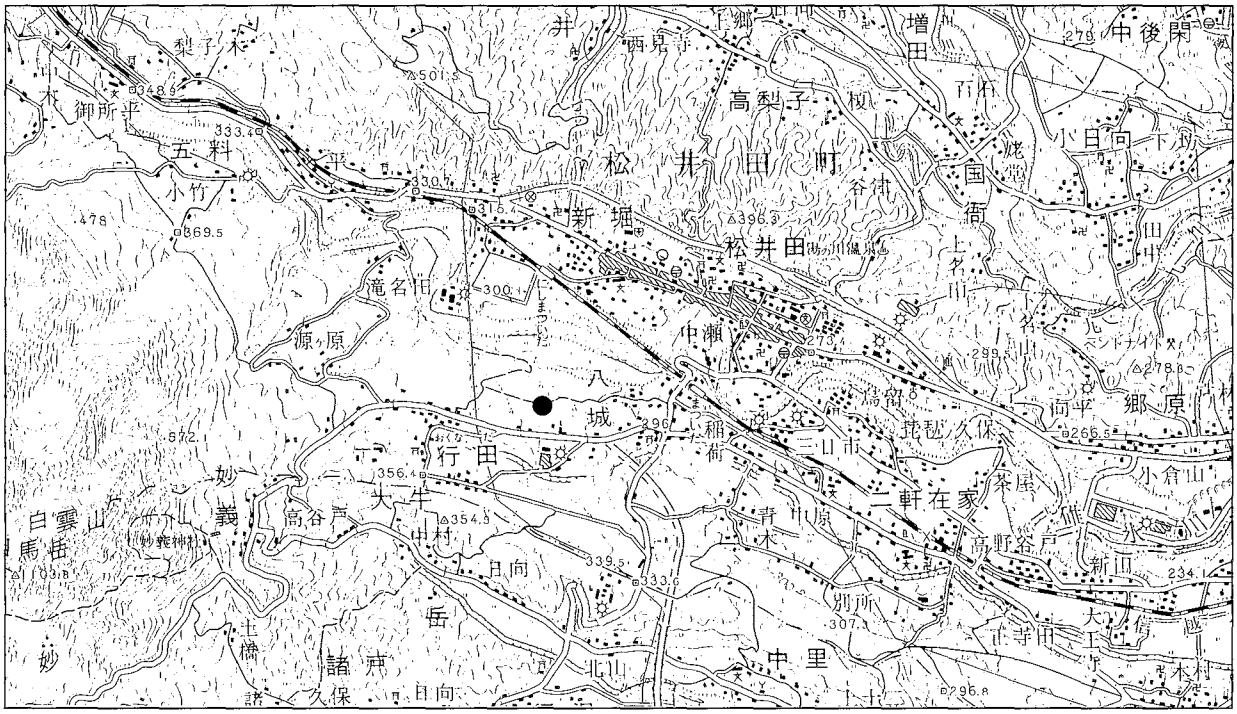
調査区は東西に細長く、中央部に碓氷川へ向かう谷が入り込み、これにより東側を東部調査区、西側を西部調査区とし調査に望んだ。東部調査区の現況は桑あるいは葱類の耕地として活用されていた。調査区の地勢は西から東へと高さを減じ、西には新堀東源ケ原遺跡が、東に行田大道北遺跡がそれぞれ位置する。

第２章　調査の方法と経過

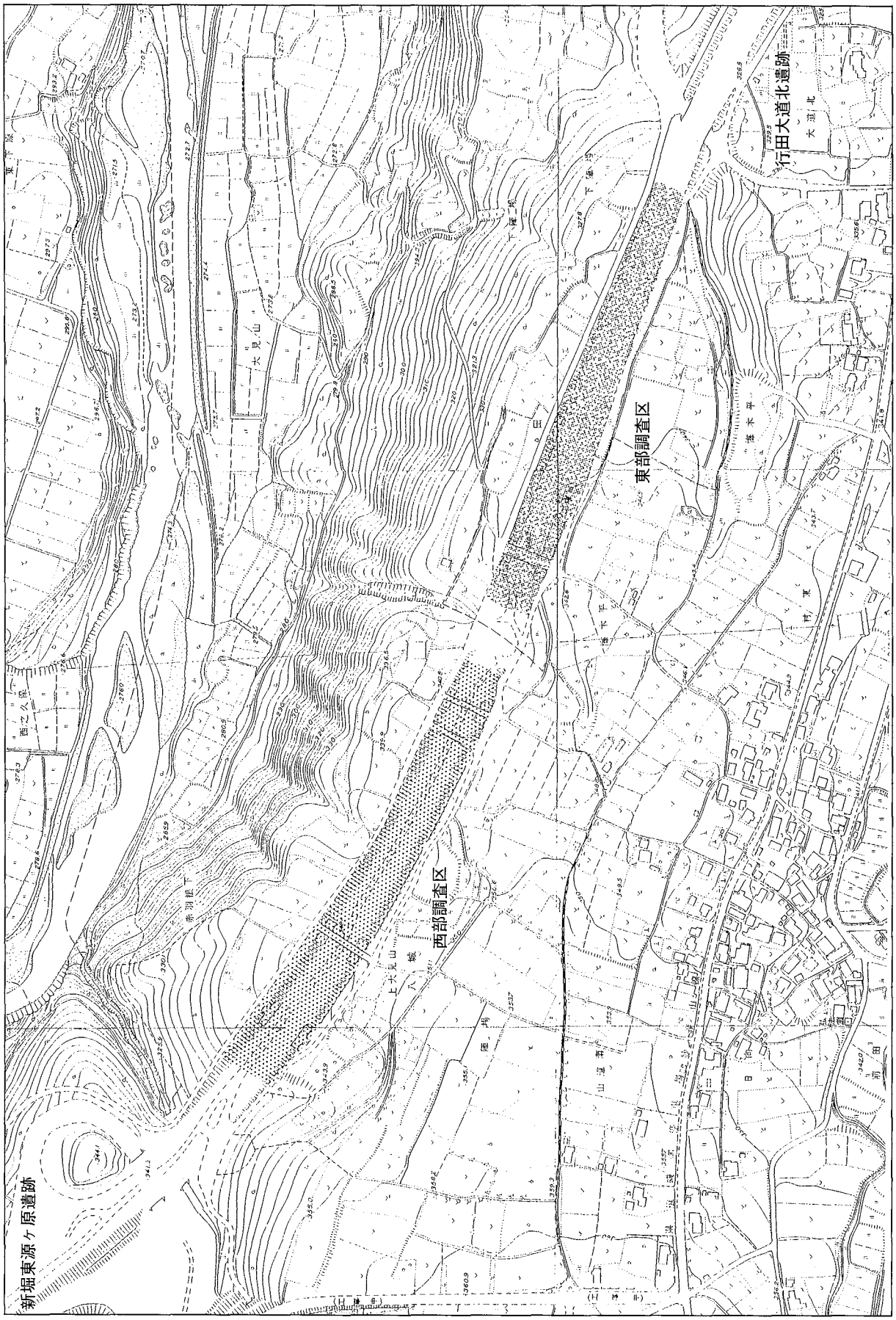
第１節　調査の方法

確認調査　本遺跡は、群馬県教育委員会が昭和59年に実施した現地踏査によって、遺跡の存在が確認されたものである。従って、発掘調査は遺構の分布状況・時期・性格を把握することから着手した。これにあたっては調査対象面積に対して、南北方向を基準としたトレンチの掘り下げによる20%の試掘を実施した。

本調査　確認調査によって得られた成果に基づき、県教育委員会の指導の下本調査の範囲を確定した。行田梅木平遺跡は、南北約50ｍ、東西約１㎞と細長い為、中央部に位置する谷を挟んで東部調査区、西部調査区の名称を使用して調査に望んだ。



第３図　行田梅木平遺跡位置図（1/50,000）



第４図　調査区位置図（1/5,000）

調査は、工事工程により、南側15ｍのパイロット道路部分と北側の本線道路部分に分けられ、パイロット道路部分を先行して調査を行った。

調査区には国家座標に従って10ｍ四方のクリッドを被せ、また、部分的に５ｍ毎に補助杭を設け調査を行った。各グリッドは南北方向をアルファベッド、東西方向を算用数字を付して区別し、遺構実測や遺物の取り上げなどすべてこれを基準とした。調査は、まず表土を除去し、その後精査による遺構確認を行い遺構掘り下げを開始した。本遺跡においては縄文と古代の二面の文化層が確認されており、二面調査となっている。

各遺構の掘り下げは、４分割もしくは２分割を基本にして行い、その他必要に応じてベルトを設定し遺構の埋没状況を観察している。住居跡は、主軸方向か長軸方向を基準に４分割し、極力遺物を個別に取り上げるよう努めた。カマドも４分割法を用いて土層を観察しながら慎重に掘り下げ、最終段階では袖を断ち割り構築状況を把握した。配石及び配石墓は、土層の記録後土壌分析の為のサンプルを採取し、残りをすべてフルイ掛けにより、人骨及び遺物の抽出を試みた。また、用いられた礫は、石材・形状・大きさ・重さ・加工・被熱の痕跡などを一点一点記録した。掘立柱建物跡は、柱痕を確認できるものは２分割し、土層の観察及び記録を行った。土坑は、長軸方向に２分割して記録した。

実測図は、トレンチ設定図を1/500、全体図を1/200、各遺構は1/20を基本とし、配石及び配石墓、埋設土器、カマド、炉は1/10でそれぞれ作図した。

写真撮影は、常時白黒35㎜・カラースライド35㎜、白黒６×７判の３台を使用し、遺物出土・構築・完掘などの各状況毎に撮影し、その他必要に応じて調査状況を随時記録した。また、バルーンを用いて、遺跡全体、配石墓群などの規模の大きな遺構を個別に航空撮影を実施している。

第２節　調査の経過

昭和63年　10月　東部調査区の20％について確認調査を実施し、縄文時代の配石遺構と思われる礫群を２群検出したほか、住居跡10数軒を確認する。

11月　礫群をさらに１群確認し、合計３群となる。これら３群は配石遺構を伴う環状に近い形態であると捉えられた。また、パイロット道路部分の遺構調査を実施する。

12月　遺構の調査を継続し、１・２・５・６・７・12・21・24・25号住居跡の調査を終了する。１号製鉄跡の調査を終了する。

平成元年1月～3月　調査を中断する。

４月　パイロット道路部分に流入・堆積した多量の土砂を除去する。１～３号配石墓群の配石状況を把握する為に、本線部分の表土除去を重機を使用して実施する。

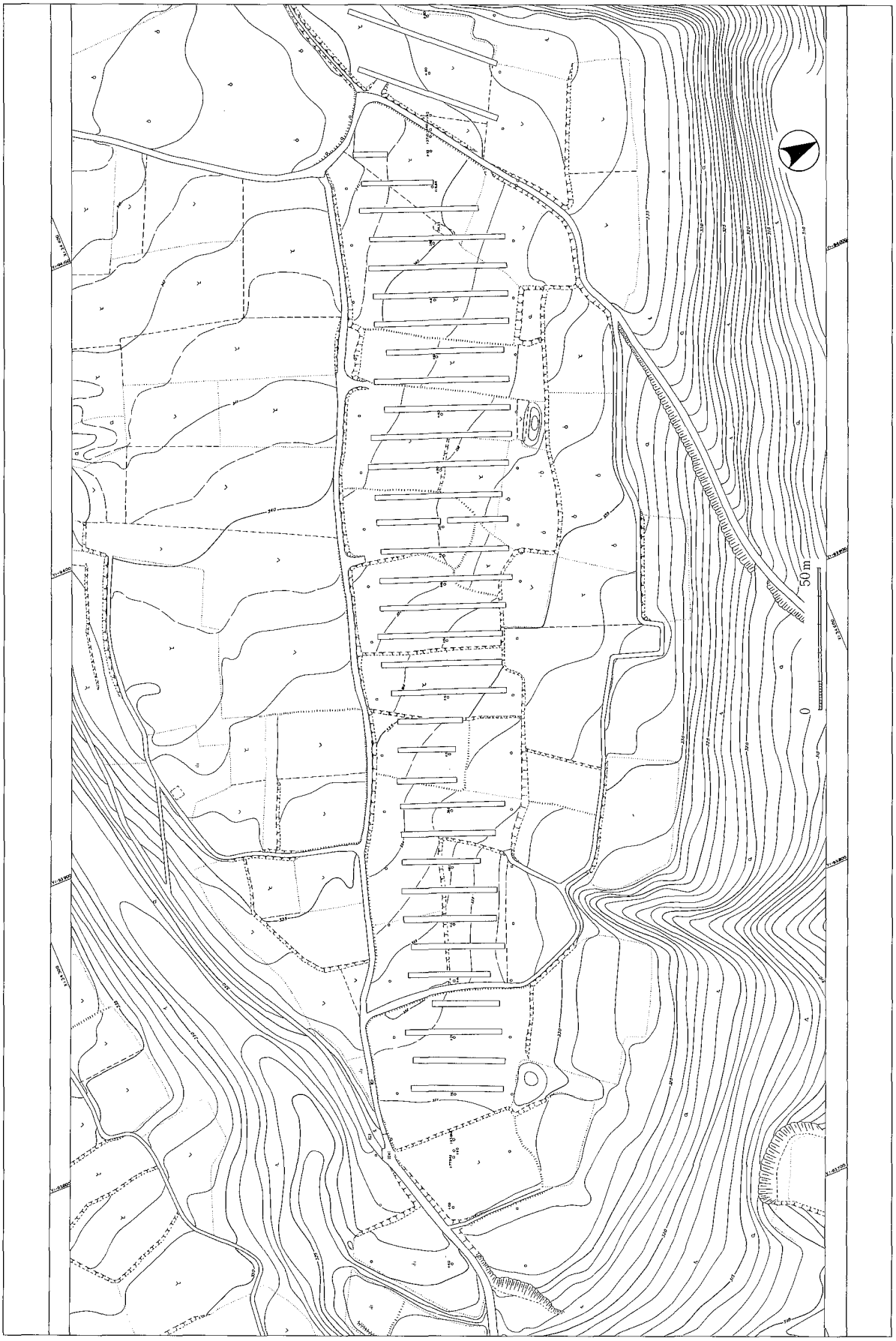
５月　１～３号配石墓群周辺の精査を行い、１号配石墓群北西部にて土偶片を検出する。本線部分の表土除去を継続し、歴史時代の住居跡５軒を確認する。

６月　表土除去・精査を継続する。14日に１・２・３号配石墓群の列石の構築状況を空撮する。

７月　パイロット道路部分の遺構調査を継続する。

８月　パイロット道路部分の調査を継続し、10号住居跡が縄文時代中期の敷石住居であることが判明する。また、９号住居跡と重複して配石墓２基を検出する。２号配石墓群の調査を開始する。19・20日に行田大道北遺跡と合同で現地説明会を実施する。

９月　パイロット道路部分の調査を継続すると共に、１号配石墓群の識別可能な配石墓の調査を開始する。また、工事車両のう回路となる東端部の調査を開始する。



第５図　東部調査区トレンチ設定図

10月　パイロット道路部分の調査を中断し、東端部を先行して調査を行い、これを終了する。1号配石墓群の調査を再開し、整地部分の存在が判明する。

11月　パイロット道路部分の調査を継続する。

12月　パイロット道路部分の調査を継続する。1号配墓群整地部分覆土のフルイ掛けを実施するが、時期を如実に知り得る資料は未検出であった。

平成2年　1月　パイロット道路部分の調査を継続する。1号配石墓群の整地部分、人為的埋土下より配石墓4基を検出する。また、本線部分の表土除去と共に、精査を実施し、歴史時代の住居跡3軒を検出する。

2月　降雪・雨の為調査に進展が見られない。3号配石墓群列石下より配石墓23基を検出する。また、本線部分の表土除去・精査を継続し、歴史時代の住居跡3軒を確認する。

3月　パイロット道路部分1～3号配石墓群の配石墓の調査を継続する。17日にパイロット道路部分のみの空撮を実施する。

4月　パイロット道路部分の調査を継続し、各遺構の調査を終了する。3号配石墓群及びその周辺部は本線部分までの調査を終了し開放する。

5月　本線部分の精査を継続し、住居跡・土坑の調査を実施する。

6月　本線部分の調査を継続すると共に、13日より調査区北部の工事車両用仮設道の表土除去を重機を使用して開始する。精査を実施し住居跡3軒、土坑8基を検出する。

7月　仮設道の表土除去を継続し、19日に終了する。精査を実施し、住居跡7軒、掘立柱建物跡5棟、土坑37基を検出する。

8月　遺構調査を継続し、調査区西側40m程の調査を終了する。また、歴史時代の包含層除去を17日より28日まで重機により行う。精査を実施し、住居跡2軒、掘立柱建物跡2棟、土坑6基を検出する。

9月　遺構調査と共に、包含層除去後の精査も継続する。1号配石墓群周辺にて住居跡3軒を検出する。この結果、これまでに検出された東部調査区の遺構数は、住居跡65軒、掘立柱建物跡21棟、土坑261基、集石3基、製鉄跡2基、溝跡1条、柵列1条、配石墓群3群、屋外埋設土器19基となった。

10月　遺構調査を継続する。1・2号配石墓群及びその周辺の再精査を実施する。2号配石墓群の立地する暗褐色土層の除去を重機を使用して15～22日まで行う。25日、東部調査区西端より東100m部分について空撮を実施し、開放する。

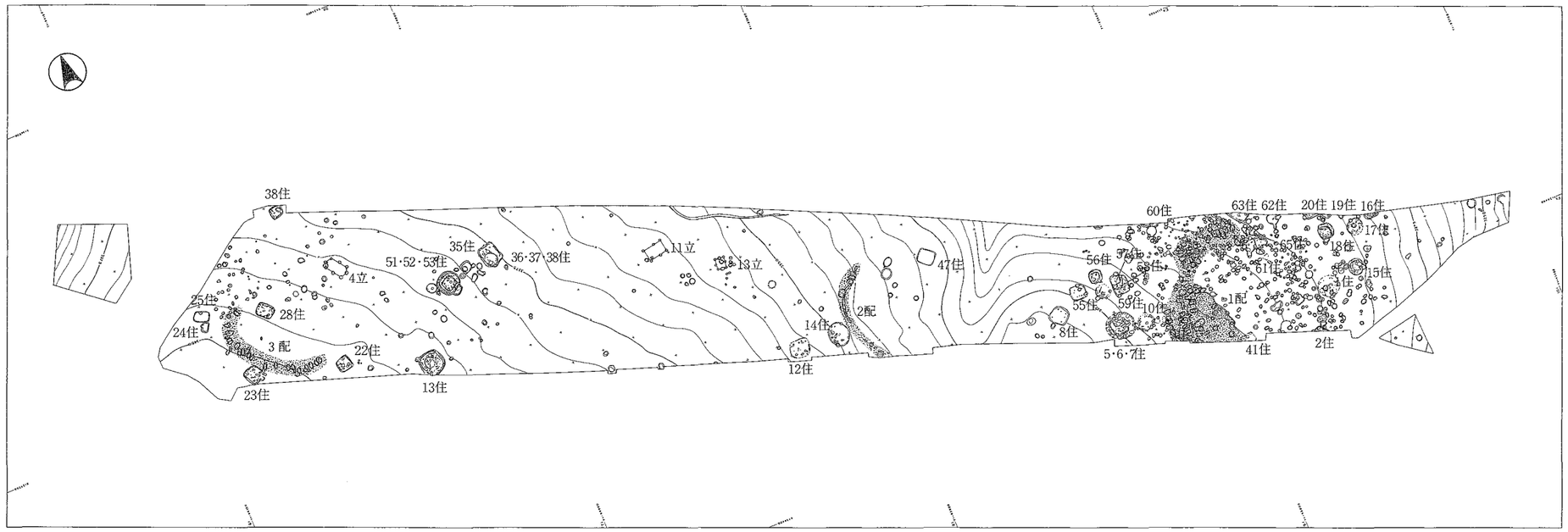
11月　遺構調査を継続すると共に、1号配石墓群東の暗褐色土層の除去を行う。下面にて縄文時代前・中期の住居跡・土坑を検出する。

12月　遺構調査を継続し、2号配石墓群、その周辺遺構の調査を全て終了する。残る調査地は1号配石墓群周辺のみとなる。

平成3年　1月　1号配石墓群とその周辺の遺構調査を継続する。配石墓群内列石下にて配石墓の一部に重複が認められた。ローム面にて確認された前・中期の遺構は遺存状況が比較的良好で、土坑から抉状耳飾りなどが出土している。

2月　7日に空撮を実施する。遺構の掘り下げを終了した為、8日をもって作業員を横川大林遺跡へ移動する。21日までに全測図作成、完掘写真の撮影を行い調査を終了する。

第６図　東部調査区設定図



住……住居跡
立……掘立柱建物跡
配……配石墓群

第７図　東部調査区　遺構配置図（縄文）

第１節　縄文時代

第１項　住居跡

東部調査区では65軒の住居跡が検出され、このうち、縄文時代の遺構は45軒で、前期・中期・後期の各時期に亘っての営みが確認されている。数量的には前期の住居跡が最も多く、調査区の中央部が希薄になる他は、東西にそれぞれ集中する傾向が窺われる。中期・後期へかけては、各配石墓群の周辺に占地しており、１号配石墓群の内・外側には柄鏡形の敷石住居が、２号配石墓群に近接しては、外周に礫を配した14号住居跡、３号配石墓には、25・26号の番号は付したものの、炉・柱穴を伴わず住居跡とするには疑問の残る竪穴が検出され、いずれも配石墓と深い関わりが想定される。

１号住居跡　（第８・９・10・11図）

位置　／調査区東側のEj－94・Fa－94グリッドにおいて検出された。住居跡の遺存状態は悪い。　切り合い関係　／36号土坑と重複し、本跡が新しい構築である。　平面形態　／住居跡北東部分の壁が辛うじて遺存し、この部分とピットの検出状況から円形を呈すると推測される。　規模　／最も遺存状態の良い箇所の深さは0.18ｍを測る。　覆土　／ピット部分の堆積を除くと、３層が確認され、このうち第１層のローム粒・灰色粒を密に含み、炭化物を疎らに含んだ黒褐色土が主体となる。　柱穴　／小形の掘り込みが多数検出されている。最も深いもので床面より48cmを測り、その他は20cm代で平面形態は杭状のものが多い。深さ掘り方共に不統一で配置にも規則性は認められない。　壁　／外傾する。　床面　／ローム層中を床面としているが、凹凸が激しく一定していない。　炉　／痕跡は確認されていない。　付帯施設　／調査時において床下土坑と認識される掘り込みが１基検出されている。この土坑は、住居跡の南側部分に位置し、平面形状は方形気味の円形で、直径1.07ｍ、床面よりの深さ0.40ｍを測り、中央は更に深さ50cmの杭状のピットが見られる。埋没土は、ロームブロックを多量に含んだ黒褐色土が堆積し、壁に立てかけられた状態で第11図40の中央部が貫通した大形の石皿が出土している。また、この他アメーバー状の掘り込みが確認されているが性格については不明である。　遺物　／住居跡南部分に比較的集中し、石皿の出土が目立っている。

遺構の時期　／諸磯ａ式の土器を主体としていることより、縄文前期後半と考えられる。

遺物

本住居跡の出土土器は、いずれも縄文前期後半の遺物で、１～22が諸磯ａ式、23が諸磯ａ式平行の異系統の土器と見られる。

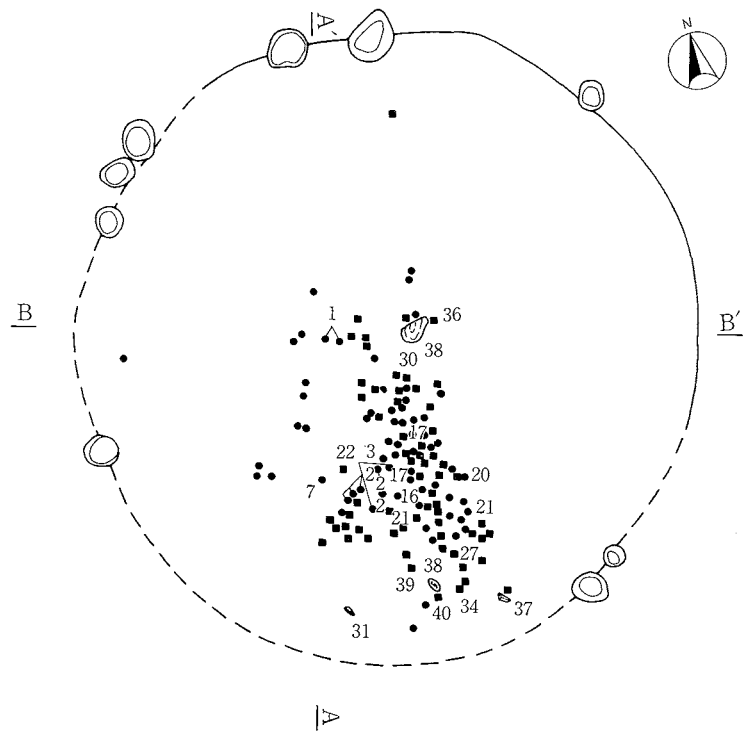
１・２は、口縁部が外反する平縁の深鉢である。１は、口唇部外端に刻目、胴部にＬ縄結節を伴う縄文（RL）を施文し、内面を研磨する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

２は、口唇部上端に刻目、口縁部外面に半截竹管による平行沈線で菱形の文様を構成し、文様の交点に指頭押圧を施す。内面は撫でが施される。胎土は砂粒・雲母を少量含み、焼成は普通で、色調は黒褐色である。

３は２と同一個体と見られる。

４は、口縁部が僅かに内湾する深鉢である。外面は羽状縄文（RL・LR）を地文に、半截竹管による平行沈線で菱形の文様を構成する。内面は研磨が施される。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

５は、外面全体に縄文（RL）を施文し、内面に撫でを施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は灰褐色である。

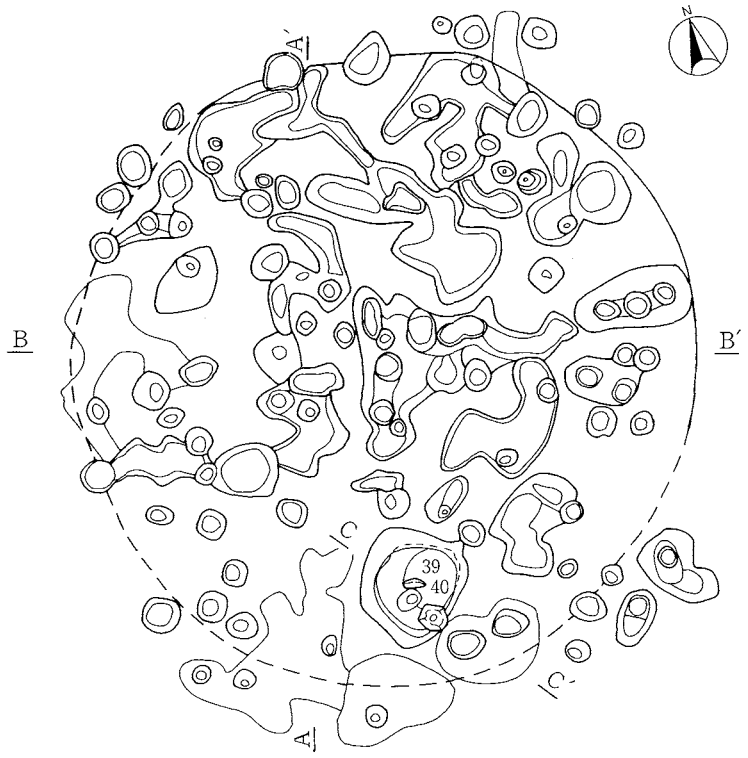


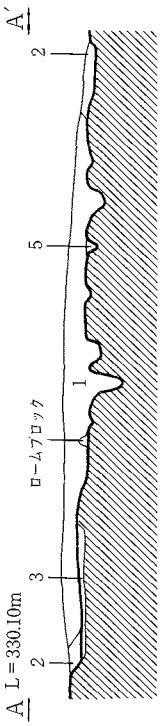
1号住居跡

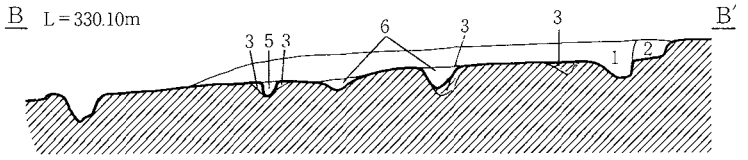
1．黒褐色土　ローム粒・灰色粒密に含む。炭化物疎に含む。しまり強い。粘性なし。
2．暗茶褐色土　炭化物含まない。しまり強い。粘性なし。
3．茶褐色土　地山、掘りすぎ。しまりあり。粘性あり。
4．暗褐色土　2に近似するがローム粒少ない。しまり強い。粘性なし。
5．暗茶褐色土　ローム粒、炭化物疎に含む。しまりあり。粘性あり。
6．暗茶褐色土　ローム粒密に、炭化物・白色粒疎に含む。しまりあり。粘性あり。

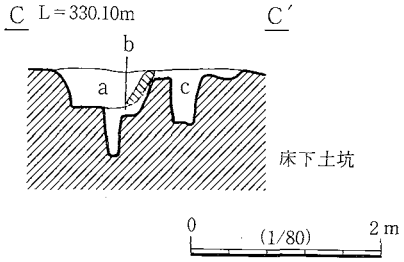
床下土坑

a．黒褐色土　φ3㎝程のロームブロック多く含む。しまり強い。
b．黒褐色土　ローム粒、ＹＰブロック疎に含む。しまり強い。粘性あり。
c．暗褐色土　ローム粒、白色粒多く含む。しまり強い。粘性あり。









第8図　1号住居跡

6は、口縁部が僅かに内湾しながら開く深鉢である。外面全体に縄文（RL）を施文し、内面は撫でを施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

7は、口唇部上端に押圧状の刻目、口縁部外面に縄文（RL）を地文とする縦位の円形刺突列を施す。内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

8は、口唇部が外削ぎ状で、外面全体に無節縄文（L）を施文する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黄褐色である。

9は、口縁部は波状で内湾しながら大きく開く小形の深鉢である。口唇部は内折し、上端に刻目を付す。文様は縦位の細沈線による割り付けに従って平行沈線による木葉文を施し、文様帯の上端を爪形文で画す。内面は研磨する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は普通で、色調は灰褐色である。

10は、縄文（RL）を地文に、縦位の円形刺突列を付し、内面を研磨する。胎土は片岩・砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

11は、縄文（RL）を地文に、平行沈線で対角線構図の区画文を構成する。平行沈線間の縄文は磨り消される。内面は研磨が施される。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は灰褐色である。

12は、縄文（RL）を地文に、平行沈線で対角線構図の区画文を構成する。沈線の交点に円形刺突を施し、文様単位を示す交点には円孔を開ける。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は灰褐色である。

13は12と同一個体と見られる。

14は、波状口縁の深鉢で、地文に縄文（LR）を施文する。また、口縁部に沿って平行沈線を2～3条巡らし、沈線間の縄文を磨り消す。内面は撫でが施される。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

15・16は、縄文（RL）を施文し、内面に研磨を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は15が暗褐色、16が黒褐色である。

17・18・20は、深鉢の胴部下端から底部片で、外面に縄文（RL）を施文し、胎土は砂粒を少量含み、焼成は普通である。17は、内面を研磨し、底面を撫でる。色調は黒褐色を呈する。18は、内面は撫で、底面に研磨を施し、指紋が明瞭に残る。色調は褐色である。20は、内面に研磨を施し、底面は砂底状である。色調は灰褐色を呈する。

19は、小形の深鉢で、縦位の平行沈線で文様を割り付け、その間に数条の斜め沈線を交互に施文して、菱形状の文様を構成する。内面に研磨が施される。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は灰褐色である。

21・22は、4単位波状口縁の深鉢で、胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通である。21は、胴部1/2の残存で、外面の全体に結節を伴う縄文（RL）を施文し、胴部上半を内外面共に研磨する。色調は褐色である。

22は、口縁部1/2の残存で、外面全体に付加縄文L＋rを施文し、原体端部の結目が伴う。内面は研磨が施される。色調は褐色である。

23は、口縁部が僅かに内湾する深鉢で、頸部の縄文を磨り消して無文帯とし、口縁部の縄文下を刺突列で区画する。内面は研磨が施される。胎土は、砂粒を含み、色調は褐色である。

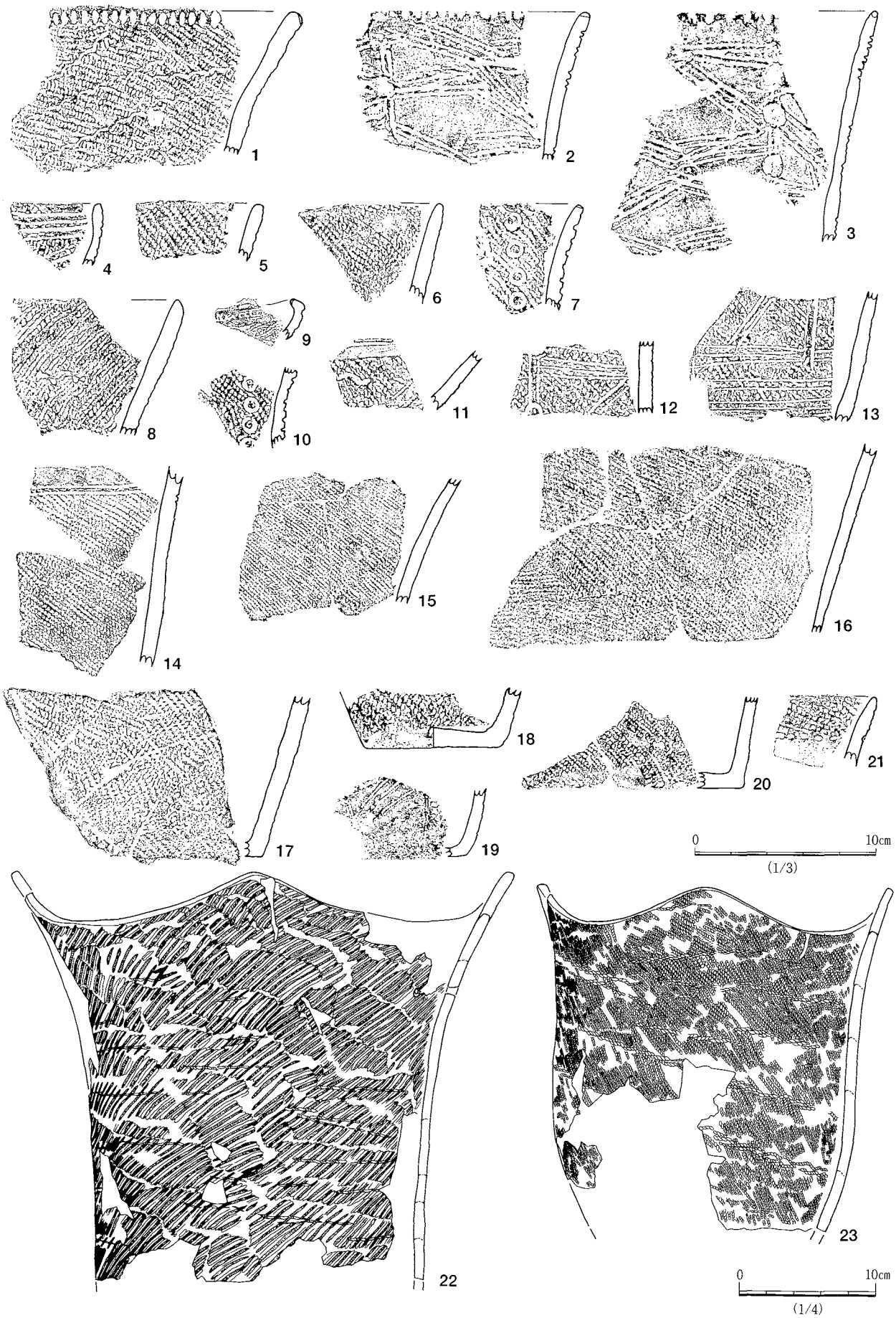
24～40は、石器で、頁岩・チャート・黒曜石・輝石安山岩・緑色片岩を用いている。

24は、短冊形の石斧で、25は、スクレイパー、26は、石錐と見られる。

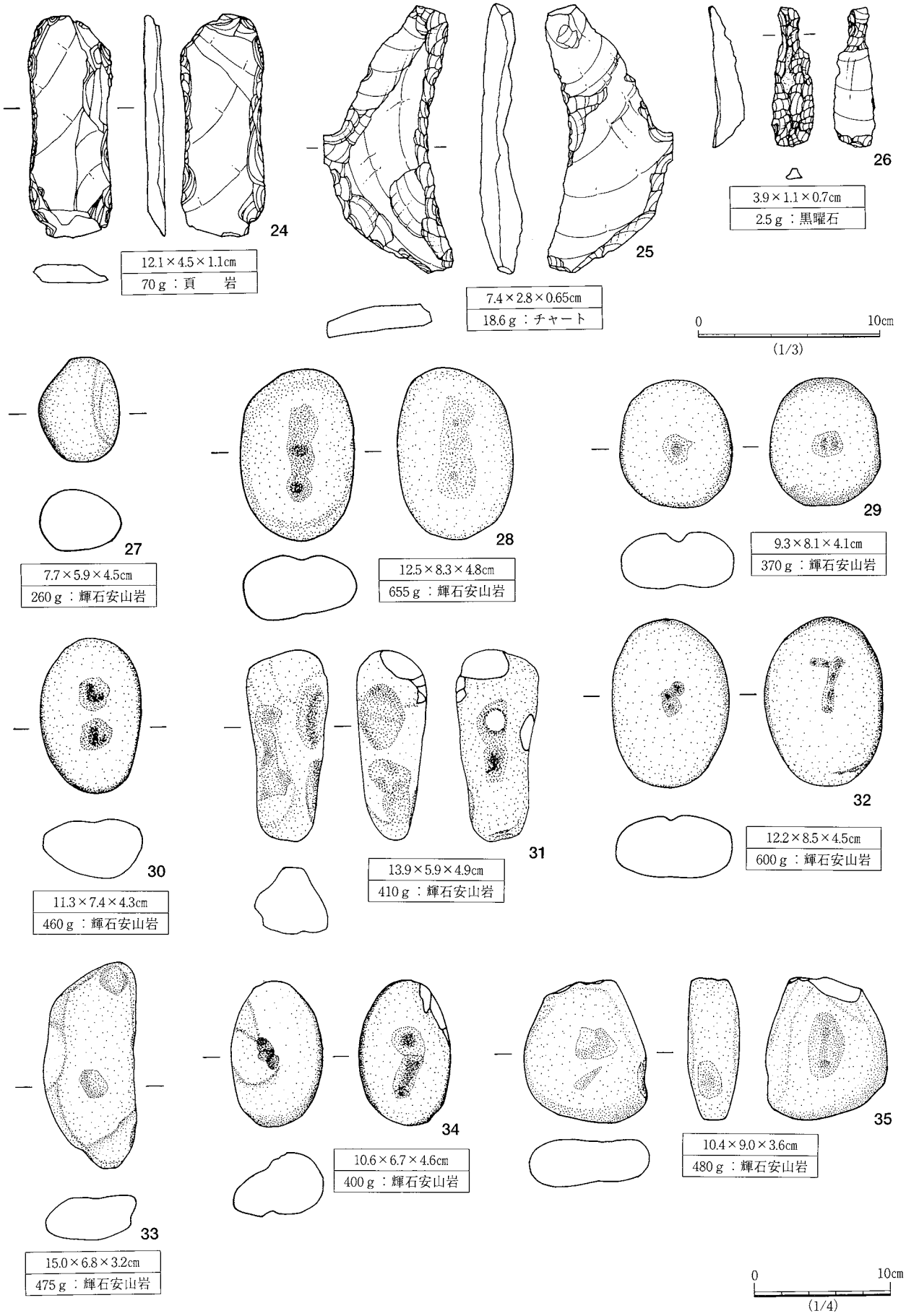
27～35は、輝石安山岩の磨石及び凹石である。

36は、表面が石皿、裏面が多孔石として使用され、ほぼ完形品である。

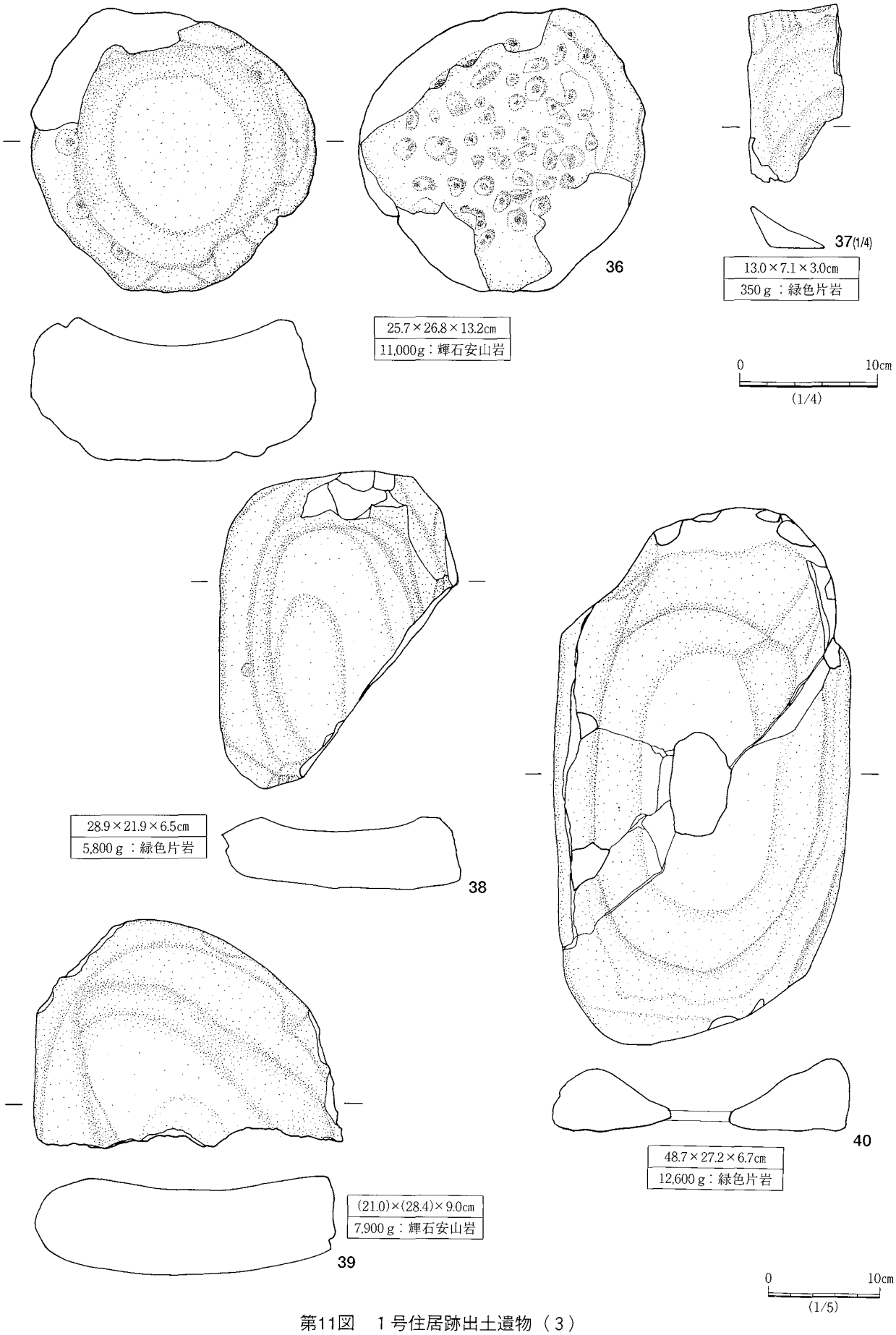
37～39は、石皿の破片、40は、床下土坑から出土した石皿の完形品で、中央部が穿孔されている。



第９図　１号住居跡出土遺物（１）



第10図　1号住居跡出土遺物（2）



第11図　1号住居跡出土遺物（3）

2号住居跡　（第12・13図）

位置　／調査区東側のFa－93・Fb－93において検出された。住居跡南側の大部分が調査区外となる為、従って全域の調査は実施できず全貌は明らかではない。　切り合い関係　／34・35号土坑、1・2号埋設土器と重複し、35号土坑が縄文時代後期、2号埋設土器が弥生時代の所産となっている。34号土坑との前後関係については不明である。　平面形態　／現状においては方形の範疇と見られるが、部分的な検出である為推測の域を脱し得ない。　規模　／断面観察による掘り込みの深さは0.24mを測る。　覆土　／調査区際における観察によると住居跡内に充填している覆土は自然堆積を示すもので、4層に分層される。　柱穴　／柱穴は主柱穴の可能性があるP－1が1基、小形で柱穴状の掘り込みが13基程検出されている。最も浅いもので10cm、深いもので67cmを計測しているが、20～30cm代が中心で、構築状況は浅いものでもしっかりとしている。　壁　／外傾し、検出された範囲内の壁下に壁溝が巡る。壁溝の掘り込みは最も遺存状態の良い所で12cm、他は5cm前後と浅い。　床面　／ローム層中を床面とし、多少の凹凸はあるもののほぼ平坦でしっかりとした構築である。　遺物　／諸磯期の土器片に混じって1点だけであるが、搬入品と見られる北白川下層の土器片が出土している。　遺構の時期　／諸磯b式の土器を主体としていることより、縄文前期後半と考えられる。

遺物

本住居跡の出土土器は、いずれも縄文前期後半の遺物で、1～12が諸磯b式、13が北白川下層と考えられる。

1は、大きな波状口縁部片で、文様は爪形文と斜位の刻目を伴う隆線を交互に数条施し、内面は撫でが施される。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黒灰色である。

2は、深鉢の口縁部片で、平行沈線による三角形状の文様を構成し、内面は撫でが施される。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は普通で、色調は黒灰色である。

3は、深鉢の口縁部片で、縄文（RL）を地文に、斜位の刻目を伴う浮線文で文様を構成し、内面は研磨が施される。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黄灰色である。

4は、深鉢の口縁部片で、口縁部は内折し、口唇部上端に刻目を施す。口縁部に斜位の刻目を伴う2本の隆帯を施し、その両側を爪形文で縁どる。胴部上半は爪形文で構成している。胎土は砂粒を少量含み、焼成は普通で、色調は灰褐色である。

5は、深鉢の口縁部片で、縄文（RL）を地文に、刻目を伴う浮線文で文様を構成し、内面は研磨が施される。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は普通で、色調は灰褐色である。

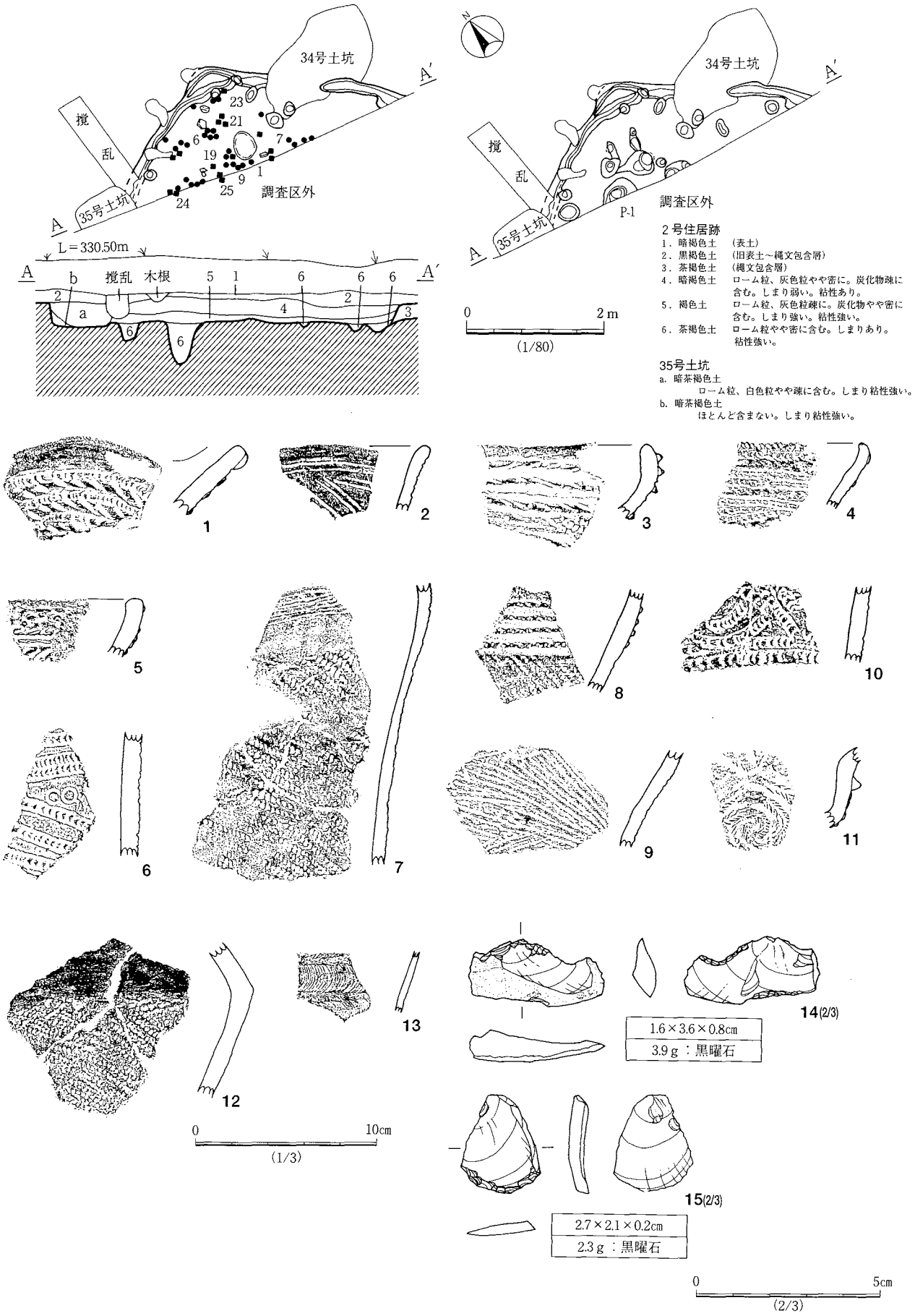
6は、深鉢の胴部片で、2～3条の爪形文で菱形状の区画文を構成する。区画内の無文部に円形刺突を付し、内面は撫でを施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は淡褐色である。

7は、深鉢の胴部片で、口縁部が内湾する胴部上半片である。外面全体に縄文（RL）を施文し、口縁部に集合沈線で文様帯を構成する。内面は撫でが施される。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

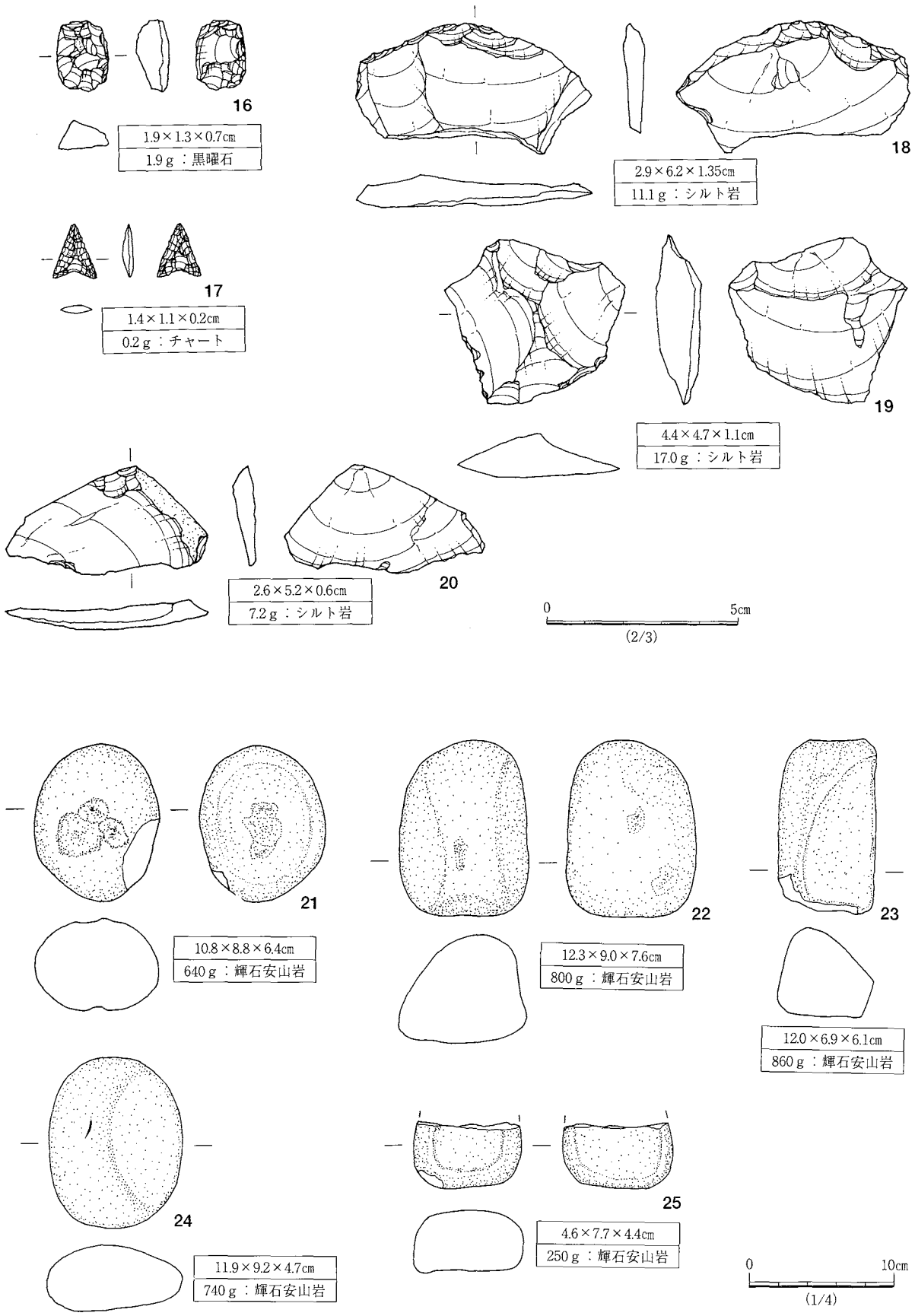
8は、深鉢の胴部片で、外面に縄文（RL）を施文し、口縁部の文様下を4本の浮線文で画す。浮線文にも縄文（RL）を施文し、内面に研磨を施す。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

9は、深鉢の胴部片で、縄文（LR）を地文に、集合沈線で菱形状の文様を構成する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は灰褐色である。

10は、深鉢の胴部片で、2～3条の爪形文で曲線的な文様を構成し、内面は撫でが施される。胎土は砂粒を少量含み、焼成は普通で、色調は灰黄色である。



第12図　2号住居跡・出土遺物（1）



第13図　2号住居跡出土遺物（2）

11は、口縁部片で、袋状に内湾し、波状を呈すると見られる斜位の刻目を伴う浮線文で渦巻状の文様を構成、渦巻の上位に瘤状の貼付文を付す。胎土は砂粒を少量含み、焼成は普通で、色調は黒灰色である。

12は、深鉢の胴部片である。胴部上半は僅かに外傾し、無文で研磨され、胴部下半には縄文（RL）を施す。内面は研磨が施される。なお、縄文帯に伴う結節は、原体端部の結び目と見られる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

13は、器壁3.5㎜で、密に施文する幅広の爪形文を横位に数条付し、内面は入念な撫でを施す。胎土は細砂粒・雲母を多量に含み、焼成は良好で、色調は淡灰褐色である。

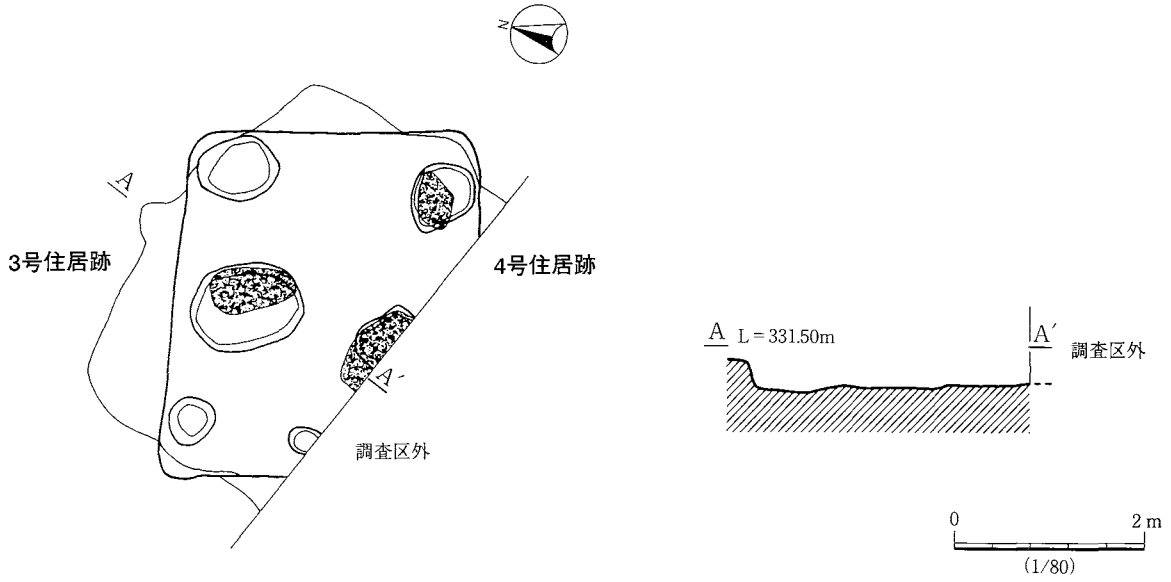
14～25は石器で、14・16・18～20が剥片石器、17が石鏃、21～25が凹石兼磨石である。

21は両面に凹みが確認され１面に擦痕が見られる。

23は３面が、30は２面が良く使用されている。

４号住居跡　（第14図）

位置　／調査区東側のFa－91グリッドにおいて検出された。住居跡の大半が３号住居跡の構築により壊され、また、南側部分が調査区外となっている為、隅角のみの僅かな検出である。　**切り合い関係**　／３号住居跡と重複し、新旧関係では本跡が古い構築である。　**平面形態**　／長方形を呈すると推測される。　**規模**　／長軸3.65ｍ、短軸3.09ｍ、確認面よりの深さ0.25ｍを測る。　**覆土**　／３号住居跡の構築の為不明。**付帯施設**　／浅い皿状で平面楕円形の掘り込みが４ヶ所と、円形を呈する掘り込み２ヶ所がそれぞれ検出されている。このうち楕円形の掘り込み３ヶ所に焼土の堆積が確認される。　**壁**　／遺存状態は悪い。　**床面**　／ローム層中を床面とし、多少の凹凸はあるもののほぼ平坦でしっかりとした構築である。　**遺物・遺構の時期**　／細片が出土しているだけで、縄文時代の範疇であるが時期の限定までは至っていない。



第14図　４号住居跡

5号住居跡　（第15・16・17・18図）

位置　／調査区東側のEi－87・88グリッドにおいて検出された。住居跡の遺存状態は悪い。　切り合い関係　／6・7号住居跡と重複し、本跡が最も新しい構築である。　平面形態　／柱穴の検出状況から円形を呈すると推測される。　規模　／柱穴の範囲が直径9ｍを計測することからこれ以上の規模と見られる。覆土　／白色軽石と炭化物を含んだ黒色土が単層で確認されている。　柱穴　／多少ばらつきはあるものの長径50～125㎝、深さ70㎝代に集中する柱穴の間に長径20～50㎝、深さ30～40㎝代に集中する小ピットが巡る。　壁　／遺存せず不明である。　床面　／一定していない。　炉　／石囲い炉で、住居跡中央部に位置する。　遺物　／本稿においては確実に本住居跡に伴う遺物、特に柱穴周辺から出土しているものを掲載した。　遺構の時期　／出土している土器は堀之内1ないし2式の土器であることより縄文後期の所産と見られる。

6号住居跡　（第15・18・19・20・21図）

位置　／調査区東側のEi－87・88グリッドにおいて検出された。住居跡の遺存状態は悪い。　切り合い関係　／5・7号住居跡と重複し、新旧関係では5号住居跡⇨本跡⇨7号住居跡（新⇨旧）である。　平面形態　／壁溝の検出状況から方形を呈すると推測される。　規模　／壁溝の範囲から計測すると一辺が4.4ｍである。　覆土　／白色軽石と炭化物を含んだ黒色土が確認されているが5号住居跡との差異は判然としない。　柱穴　／図中にスクリーントーンで示したピットが主柱穴に想定され、床面よりの深さはＰ－1が46㎝、Ｐ－2が64㎝、Ｐ－3が66㎝、Ｐ－4が70㎝を計測する。　壁　／遺存せず不明である。　壁溝　／15～25㎝、床面よりの深さ6㎝前後で検出されている。　床面　／全体的には一定する。　炉　／主柱穴に囲まれたほぼ中央部に位置し、炉は炉体土器を伴い周辺は被熱の痕跡を残す。　遺物　／図版番号9の深鉢が炉体土器として設置されていた。　遺構の時期　／出土している土器は堀之内1ないし後期の土器であることより該期の所産と見られる。

7号住居跡　（第15・21・22・23図）

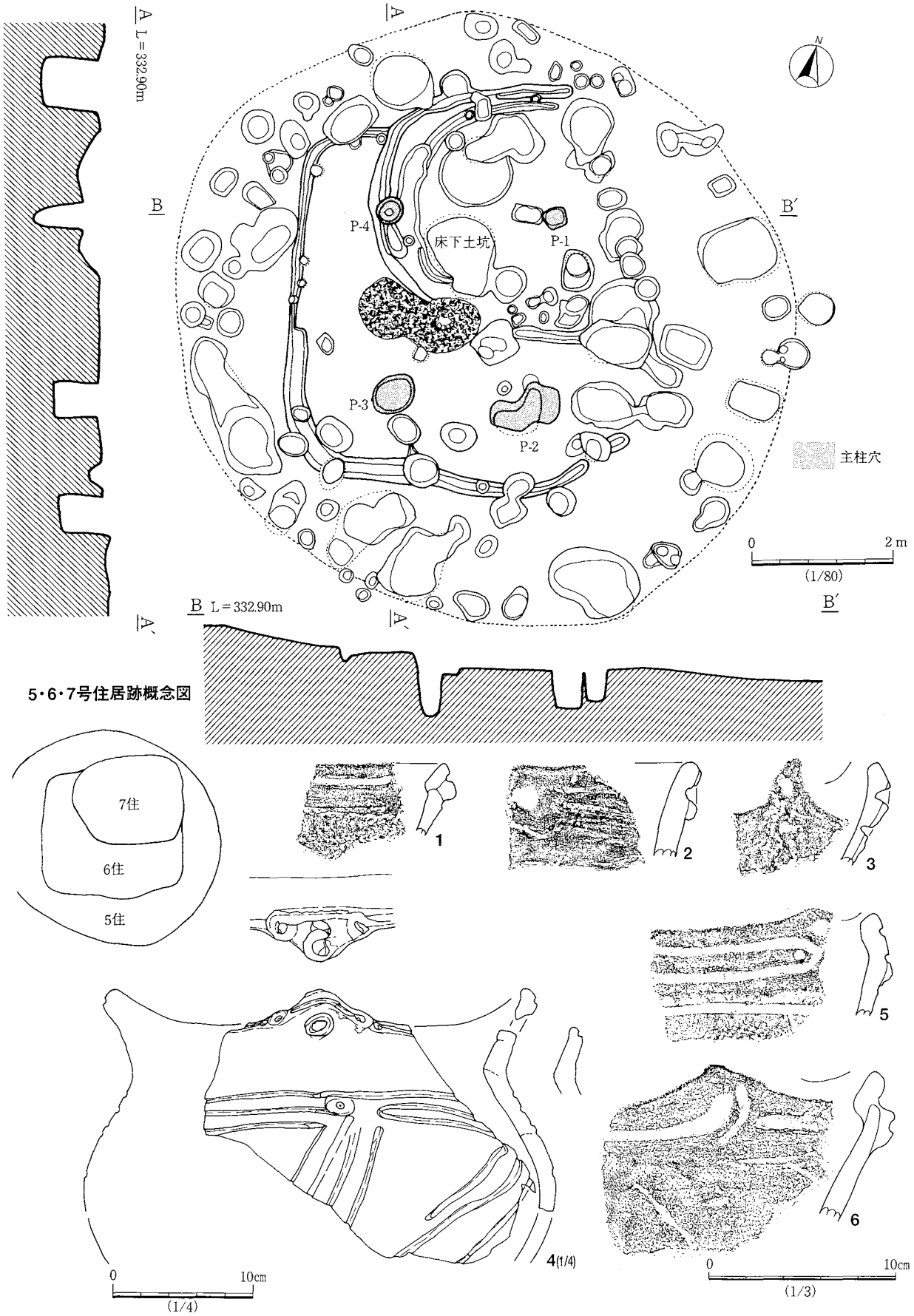
位置　／調査区東側のEi－87・88グリッドにおいて検出された。住居跡の遺存状態は悪い。　切り合い関係　／5・6号住居跡と重複し、本遺構が最も古い構築である。　平面形態　／壁溝の検出状況から楕円形を呈すると推測される。　規模　／壁溝の範囲から計測すると直径は3.6ｍ以上と見られる。　覆土　／ローム粒をやや密に含んだ暗褐色土が確認されている。　柱穴　／重複関係が著しくどの柱穴が伴うか不明である。　壁　／遺存せず不明である。　壁溝　／10～30㎝、床面よりの深さ10㎝前後で二重に巡る。　床面　／多少の起伏はあるものの全体的には一定している。　炉　／不明である。　床下土坑　／調査時において床下土坑として取り扱った掘り込みで、住居跡の西側壁溝側から検出されている。形状は楕円形に近く長計1ｍ、床面よりの深さ66㎝を計測し、底面より深鉢などの遺物が出土している。　遺物　／床下土坑より図版番号1・2の深鉢、3の浅鉢が出土している。　遺構の時期　／出土している土器は諸磯ｂ式を主体としていることより縄文前期後半の所産と見られる。

5号住居跡出土遺物

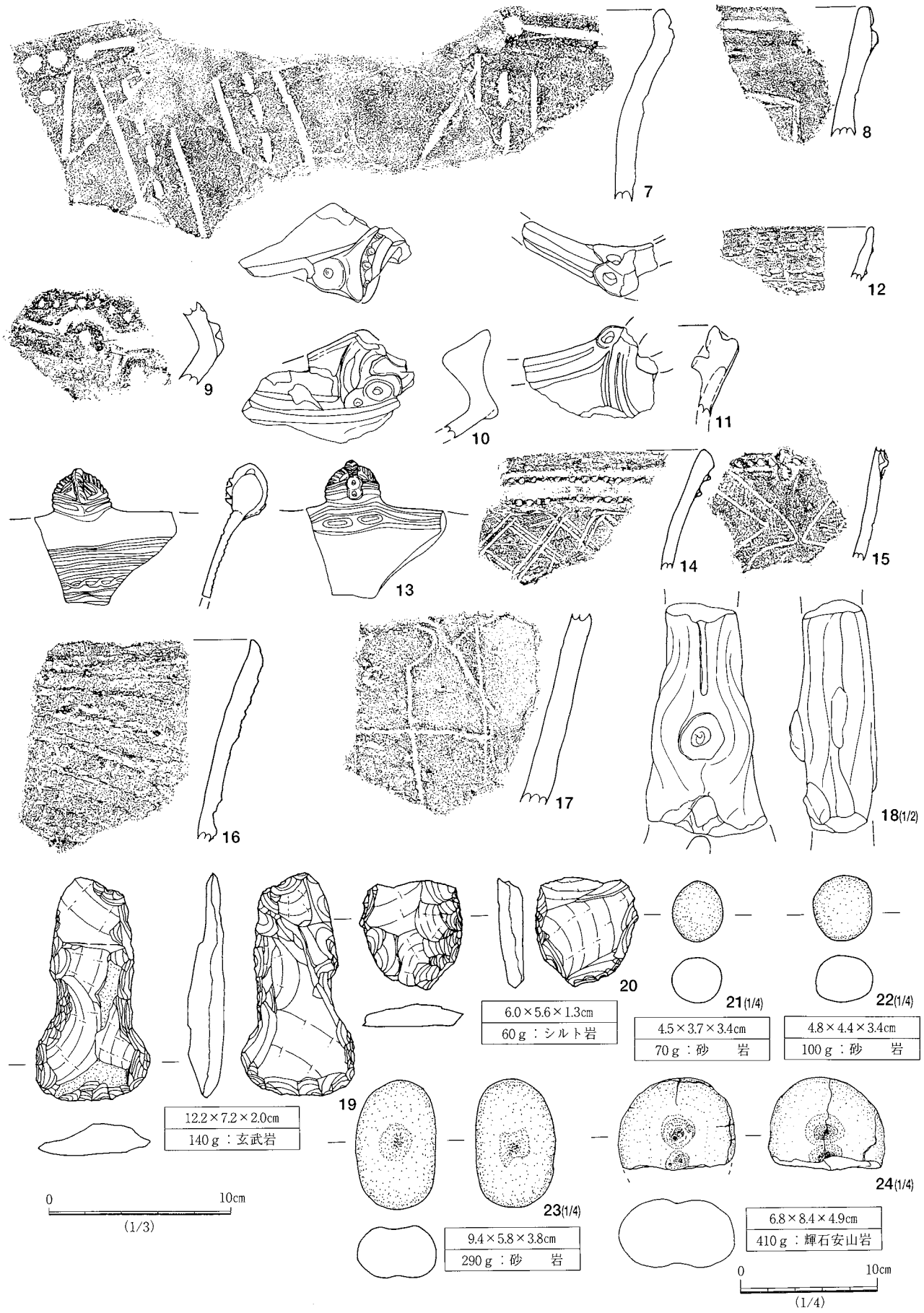
本住居跡の出土土器は、いずれも縄文後期の遺物で、1～10が堀之内1式、11～16が堀之内2式に比定される一群である。

1は、緩い波状口縁の深鉢である。波頂部の円形刺突文を中心に沈線を巡らす。波頂部内側にも円形刺突文を施し、口縁部の内側に稜を設ける。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は褐灰色である。

2は、頸部で緩やかに括れる深鉢である。口縁部は外側に肥厚させ、文様は、円形刺突文を中心に沈線を2本巡らす。胎土は細砂粒を含み、焼成は普通で、色調はにぶい黄橙色である。



第15図　5・6・7号住居跡、5号住居跡出土遺物（1）



第16図　5号住居跡出土遺物（2）

3は、頸部に強い括れを持つ波状口縁の深鉢である。波頂部は、鋭角の山形を呈する細い隆帯を垂下して円形刺突文を施す。胎土は細砂粒を含み、焼成は普通で、色調はにぶい褐色である。

4は、頸部が屈曲する深鉢で、口縁部は波状を呈する。波頂部に円孔による装飾を施し、口縁部に沈線を3条巡らして、波頂部下に円形貼付文を配す。胴部には数条の沈線による幾何学文を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい黄橙色である。

5は、波状口縁の深鉢である。口縁部は稜を持って立ち上がり、波頂部の円形刺突文を中心に、横位の楕円形文を施す。胴部は沈線を巡らして口縁部と区画し縄文（LR）を施文する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい黄橙色である。

6は、口縁部が小さな波状を呈する深鉢である。口縁部外側に稜を持って立ち上がり、波頂部を中心に沈線を巡らす。胎土は粗い細砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は褐灰色である。

7は、大形で頸部が緩やかに括れた深鉢である。口縁部は丸みのある稜を持って立ち上がり、文様は口縁部に円形刺突文を並べて、左右に沈線を巡らす。口縁部直下より沈線を垂下してJ字状文を組み合せ、沈線間に列点文を充填する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい黄橙色である。

8は、頸部に緩い括れを持つ深鉢で、口縁部に丸い稜を持って立ち上がる。口縁部に沈線を巡らし、胴部には沈線による区画文を配す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい黄橙色である。

9は、肩部で強い屈曲を持つ鉢である。円形の粘土を貼り付けて、円形刺突文を施し、更に沈線を巡らして区画する。区画内には列点文を配する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は普通で、色調はにぶい橙色である。

10は、口縁部は屈曲して立ち上がり、口縁部に突起を付す鉢である。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい黄橙色である。

11は、大きな波状口縁の深鉢で、口縁部は大きく開き外稜を持って立ち上がる。波頂部に粘土貼り付けと円形刺突による8の字状文を施す。波頂部より2本の低い隆帯を曲線的に垂下する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい灰黄褐色である。

12は、深鉢の口縁部片である。口縁部は直線的に開いて、口縁端部を内側につまみ出し、直下に凹線を巡らす。口縁部外側に細い断面三角形の隆帯を2本巡らし刻目を付す。胴部には沈線による区画文を施す。

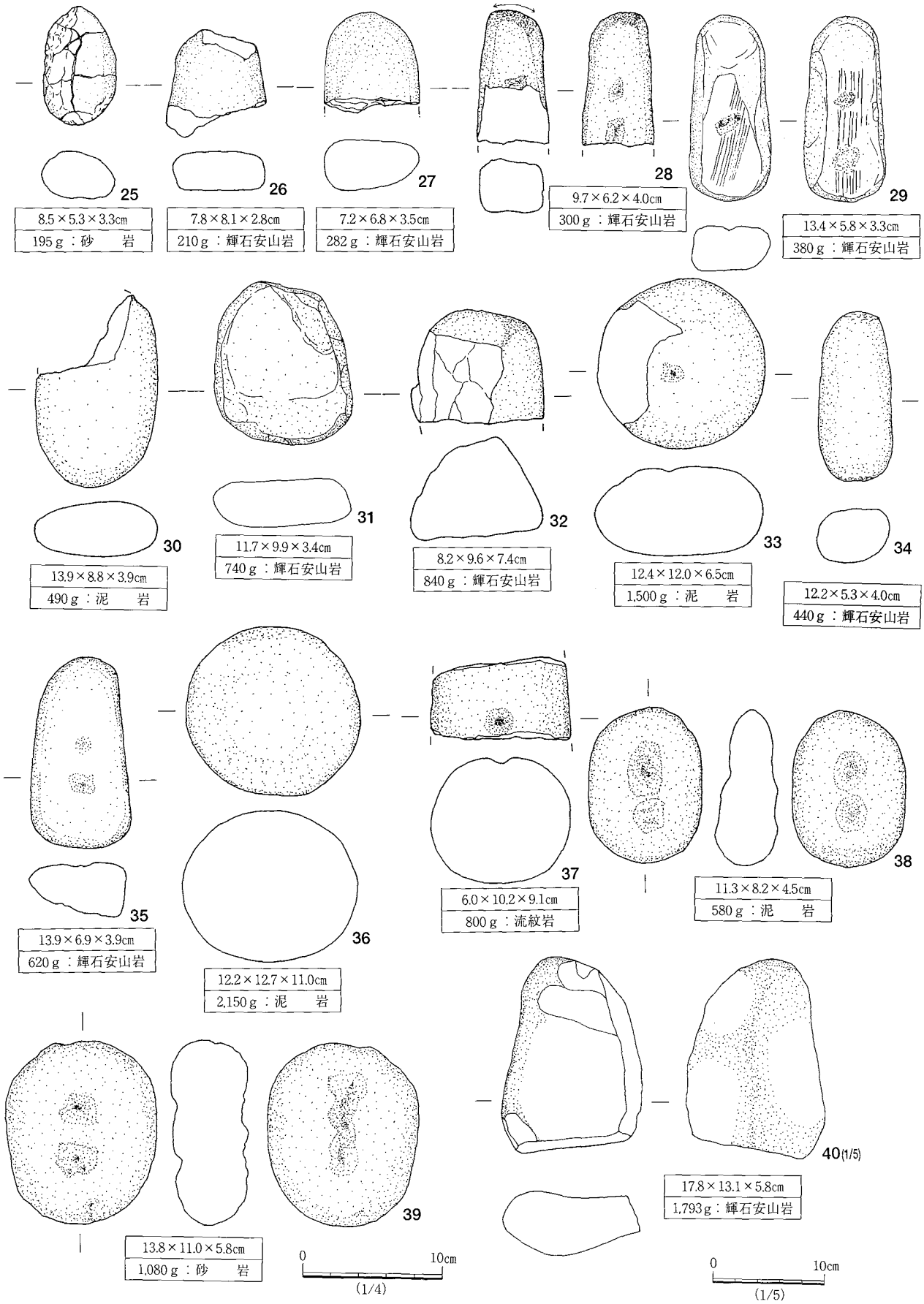
13は、朝顔形に開く深鉢で、口縁部に突起を付す。外面に数条の沈線を巡らし、幅の広い沈線間に鎖状文様を充填する。口縁部内面に突起を中心にした眼鏡状文と沈線を巡らす。胎土は細砂粒を含み、焼成は普通で、色調は褐灰色である。

14は、口縁部が大きく外反する深鉢である。口縁端部は外側に丸みを持ち、口縁部直下に2本の細隆帯を巡らして区画する。胴部は2本の平行沈線による斜稿子文を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は灰黄褐色である。

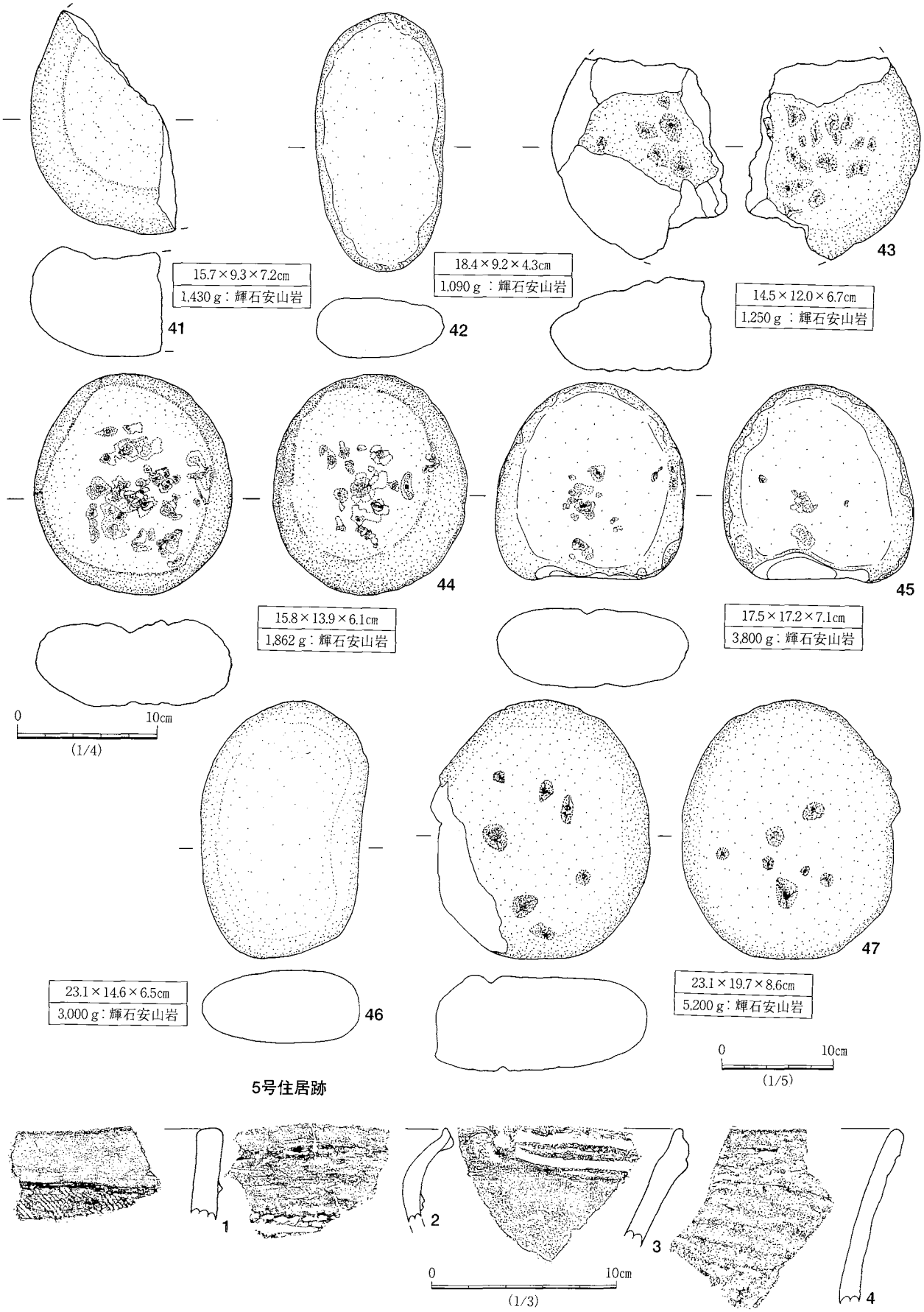
15は、朝顔形にひろがる深鉢である。文様は、細い粘土紐を巡らした上に、8の字状の貼付文を施し、胴部は沈線による幾何学文を配する。沈線間に縄文（RL）を充填する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい黄橙色である。

16は、粗製の深鉢で、外面は指頭による撫でを施し凹凸を残す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい黄橙色である。

17は、大形の深鉢で、沈線による縦位の文様を施す。J字文を配する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい橙色である。



第17図　5号住居跡出土遺物（3）



第18図　5号住居跡出土遺物（4）、6号住居跡出土遺物（1）

18は、土偶の胴部で、上下を欠損する。粘土を棒状にまるめて成形し、胴部をしぼり腹部の膨らみを強調する。へそ部分と妊娠線を表現する。胎土は細砂粒を含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

19・20は、打製石斧で、19は、分銅形である。

21～39・42・46は、磨石及び凹石である。21・22は、小形で、42・46は、大形である。37は、流紋岩製で、石棒からの転用と見られる。

40・41は、石皿の破片である。

43～45・47は、多孔石で、表裏両面に孔が観察される。

6号住居跡出土遺物

本住居跡の出土土器は、いずれも縄文後期の遺物で、1・3が堀之内1式、2・4～13が後期の範疇に含まれる一群である。

1は、大形の深鉢である。口縁部直下に無文帯を設け、細い隆帯を巡らして区画し、区画内に縄文（LR）を施文する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい黄橙色である。

2は、壺の口縁部片である。頸部は立ち上がり、口縁部は外稜を持ち、内側に凹線が巡る。肩部に隆帯と沈線、列点文を施し、やや粗い縄文（LR）を施文する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は褐灰色である。

3は、中形の深鉢である。口縁部は稜を持って立ち上がり、円形刺突を施したボタン状の貼付文のわきから2本の沈線を巡らす。口縁端部の内側に凹線が巡る。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい黄橙色である。

4は、口縁部が大きく広がる深鉢である。外面は粗雑な撫で、内面は丁寧な撫でを施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい黄橙色である。

5は、大形の深鉢の胴部片で、外面に丁寧な縦位の撫でを施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい橙色である。

6は、大形の深鉢の胴部片で、外面に丁寧な縦位の撫でを施す。5と同一個体である。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい橙色である。

7は、注口土器の頸部片で、断面円形の把手を付す。胎土は砂粒を含み、焼成は普通で、色調はにぶい黄橙色である。

8は、大形の深鉢の胴部片である。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい橙色である。

9は、やや大形の深鉢で、底部より直線的に広がって立ち上がる。外面に縦位の粗雑な撫でを施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成はやや軟質で、色調はにぶい黄橙色である。

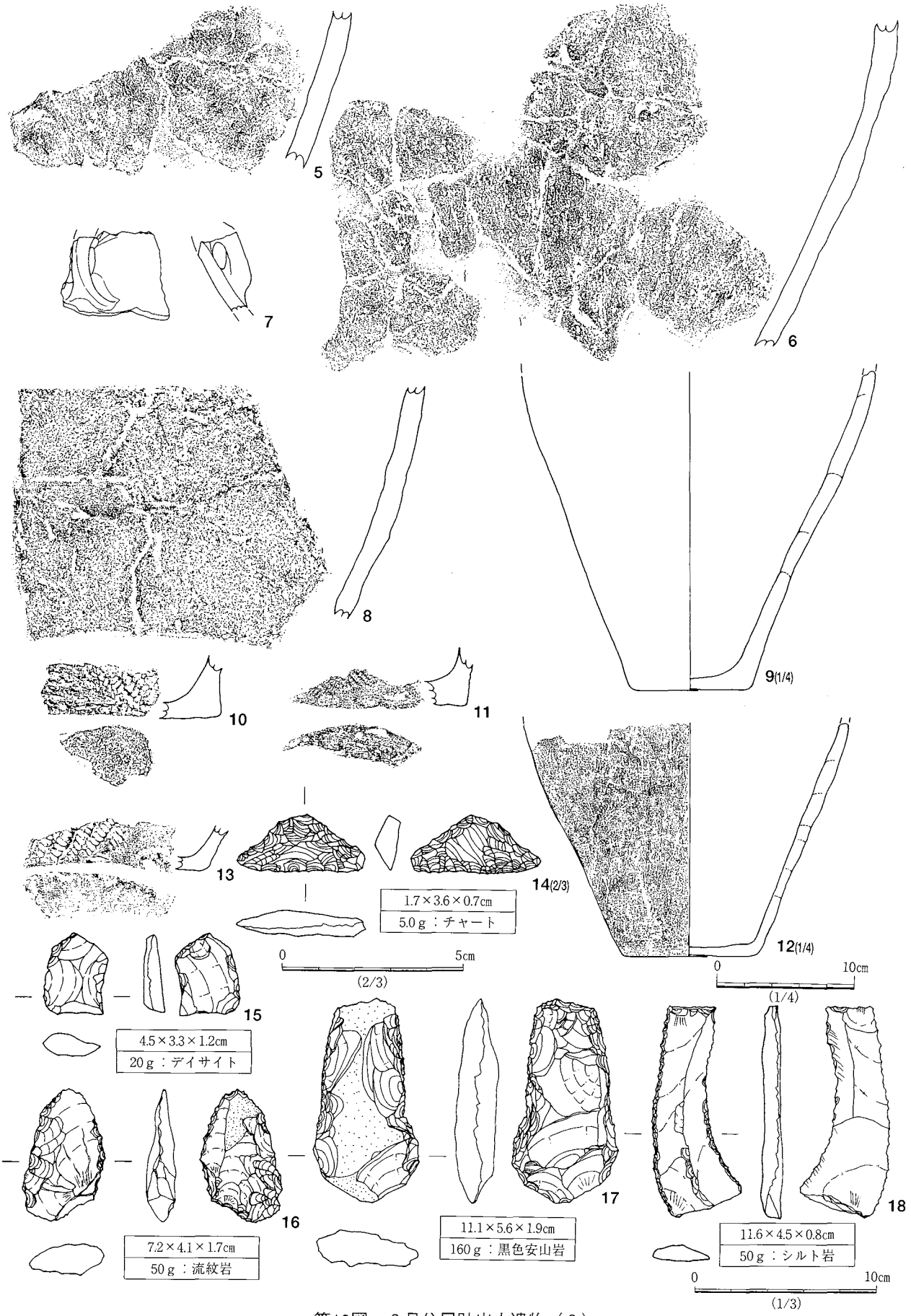
10は、中形の深鉢の底部片で、胴下部まで縄文（RL）を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい黄橙色である。

11は、中形の深鉢の底部片で、胴部は底部より内傾して立ち上がる。文様は、縄文（RL）を施文する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい黄橙色である。

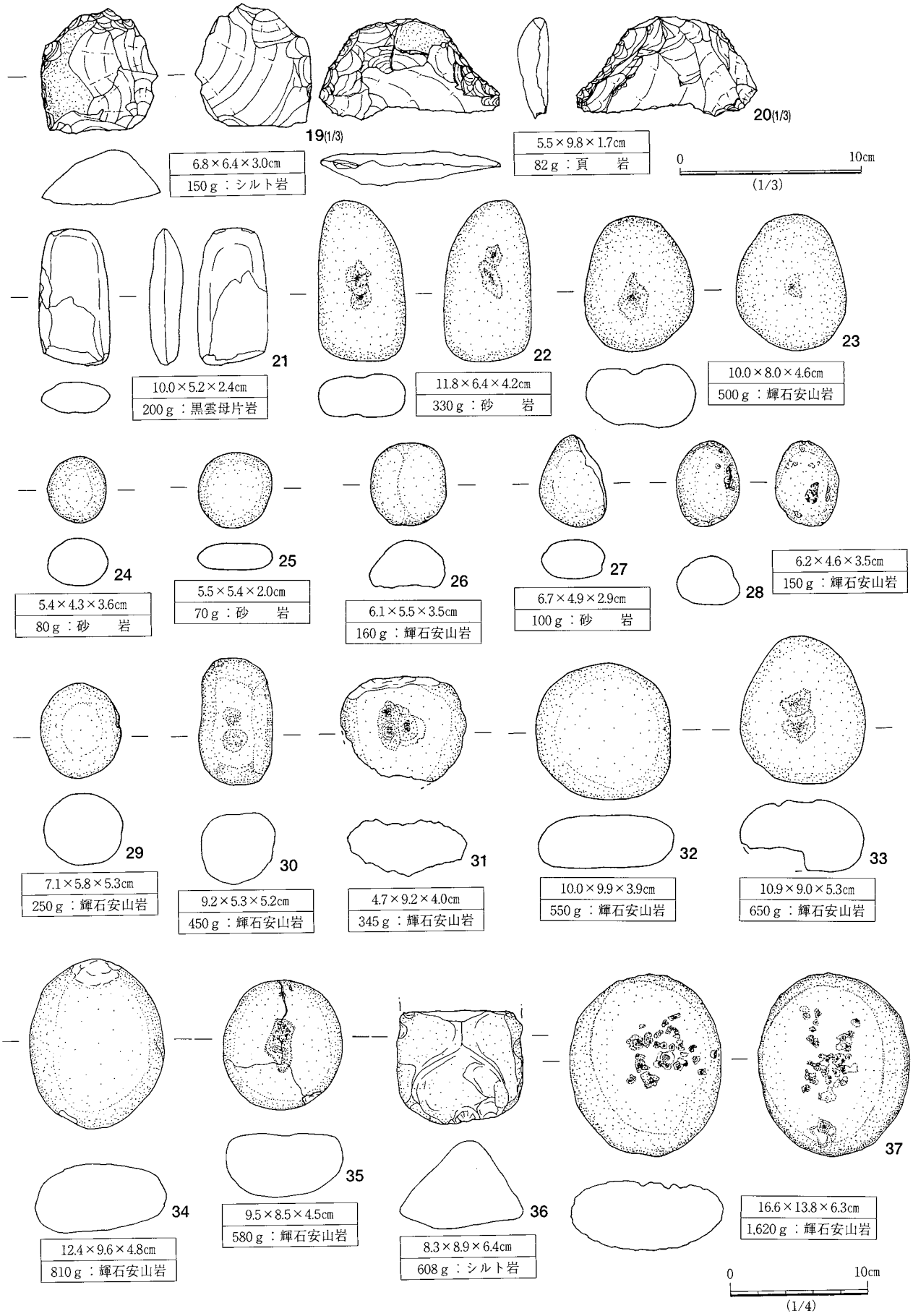
12は、中形の深鉢で、底部より直線的に広がって、胴部中位に丸みを持つ。外面は縦位に粗雑な撫でを施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい橙色である。

13は、中形の深鉢の底部片で、胴下部まで縄文（LR）を施す。全体に薄手の作りである。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は褐灰色である。

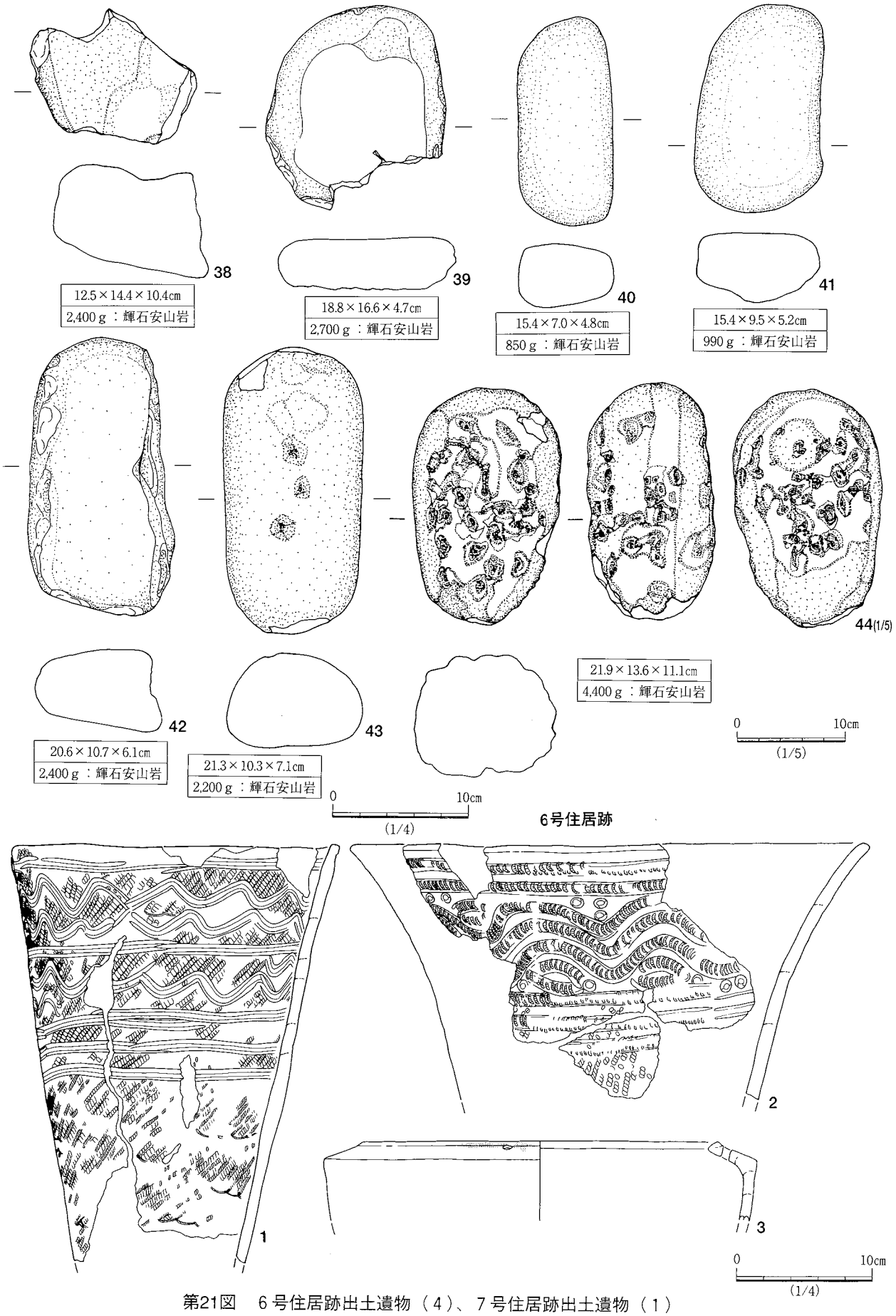
14・18・20は、スクレイパーで、チャート・シルト岩・頁岩を素材とする。



第19図　6号住居跡出土遺物（2）



第20図　6号住居跡出土遺物（3）



第21図　6号住居跡出土遺物（4）、7号住居跡出土遺物（1）

15～17・19は、打製石斧で、17は、短冊形と見られる。

21は、黒雲母片岩で、磨製石斧？の製作途中か。

22～36・40～43は、磨石及び凹石で、24～28が小形、40～43は大形である。28は、被熱の痕跡を残す。

37・44は、多孔石で、44は、側面にも孔が確認される。

38・39は、石皿で、いずれも輝石安山岩を素材とする。

7号住居跡出土遺物

本住居跡の出土土器は、いずれも縄文前期の遺物で、1～23は諸磯b式に比定される一群である。

1は、深鉢の胴部片で、無節縄文（L）を地文に、胴部上半に平行沈線を5条巡らし、上位2帯の沈線間に同平行沈線で波状文を施す。胴部下半に見られる結節は、原体端部の結び目と見られる。内面は撫でから研磨を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は淡褐色である。

2は、口縁部が外反する深鉢である。胴部上半に3条の爪形文で波状文を構成し、下半に斜縄文を施す。文様帯を画す爪形文の一部は押引文を併用し、空白部や文様の交点には円形刺突を付す。内面研磨。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黄褐色である。

3は、口縁部がくの字状に内斜する浅鉢で、口縁部に円孔1つを穿つ。外面の胴部に黒色漆、口唇部下に赤色塗彩が残る。内面は撫でる。胎土は砂粒を少量含み、焼成は普通で、色調は明褐色である。

4は、口縁部がくの字状に内傾する小形の浅鉢で、外面は研磨、内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

5は、大きな波状口縁の深鉢で、口唇部は折り返し状に肥厚する。口縁部に爪形文を数条施し、その間に刻目を施す。内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は明褐色である。

6は、口縁部が弱く外反する肥厚口縁の深鉢である。口縁部に半截竹管による平行沈線を横位に数条施す。内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

7は、口縁部が内湾する深鉢で、口縁部に突起を付す。文様は斜めの刻目を伴う浮線文で構成する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黄褐色である。

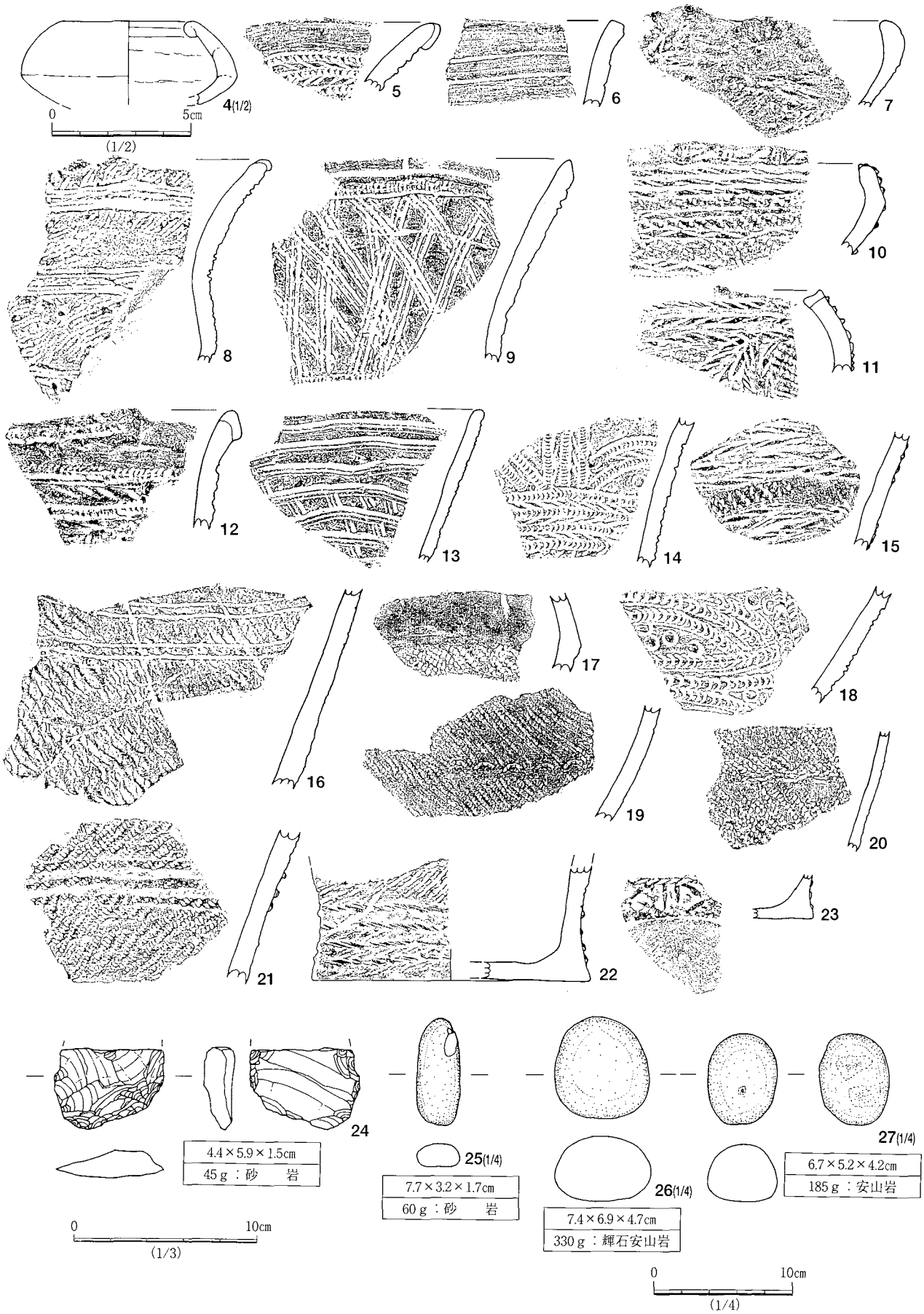
8は、胴部中位が括れる深鉢で、口縁部に2個の突起が付く。外面全体に無節縄文（L）を施し、口縁部及び胴部の括れ部と下半部に、各々2条の平行沈線を巡らす。内面は擦痕が残る。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黒褐色である。

9は、口縁部が外反する深鉢で、口唇部は外削ぎ状である。口縁部と胴部に爪形文を巡らせ、その間に4条単位の条線で斜格子文を構成する。内面は研磨を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黒褐色である。

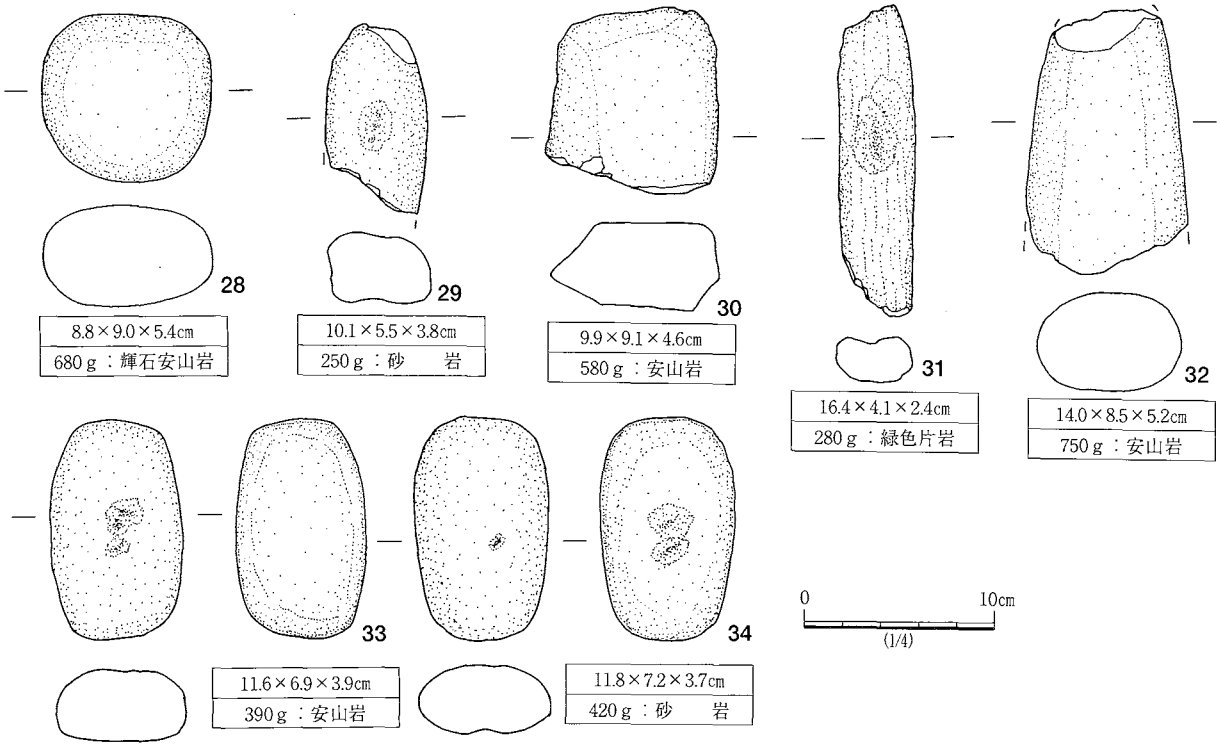
10は、口縁部がくの字状に内折する深鉢で、口唇部上端に浮線装飾を付す。文様は縄文（RL）を地文に、斜めの刻目を伴う浮線文で渦巻状の文様を構成する。内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は灰褐色である。

11は、口縁部が内湾する深鉢で、口唇部の上端に片流れ状の小突起と浮線の装飾を付す。文様は縄文（RL）を地文に、斜位の刻目を伴う浮線文で渦巻状の文様を構成する。内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

12は、口縁部がやや外反する深鉢で、口縁部に爪形文を施したヒレ状の突起を付す。文様は口縁部に爪形文を数条施し、その間に斜位の刻目を付す。口縁部に楕円形の透かし孔あり。胎土は砂粒を少量含み、焼成は普通で、色調は黄褐色である。



第22図　7号住居跡出土遺物（2）



第23図　7号住居跡出土遺物（3）

13は、直線的に開く深鉢で、胴部に条線を間隔をあけて縦位に施文する。口縁部下に同条線を横位に施し、内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黄褐色である。

14は、深鉢の胴部片で、文様は2～3条単位の爪形文で構成され、区画内に円形刺突を施す。爪形文間には斜位の刻目が伴う。内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

15は、胴部片で、縄文（RL）を地文に、2～3条単位の浮線文で文様を構成する。浮線文には斜位の刻目が伴い、内面は撫でる。胎土は砂粒を少量含み、焼成は普通で、色調は黄褐色である。

16は、胴部片で、無節縄文（L）を地文に、半截竹管による平行沈線2～3条を数条巡らす。内面は撫でる。胎土は砂粒を少量含み、焼成は普通で、色調は褐色である。

17は、浅鉢の胴部片で、胴部上半の無文部を赤色塗彩する。下半は縄文（RL）を施文し、内面は研磨する。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は淡褐色である。

18は、胴部片で、2～3条の爪形文で弧線を組み合わせた文様を構成する。区画内に円形刺突を施し、内面は研磨する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

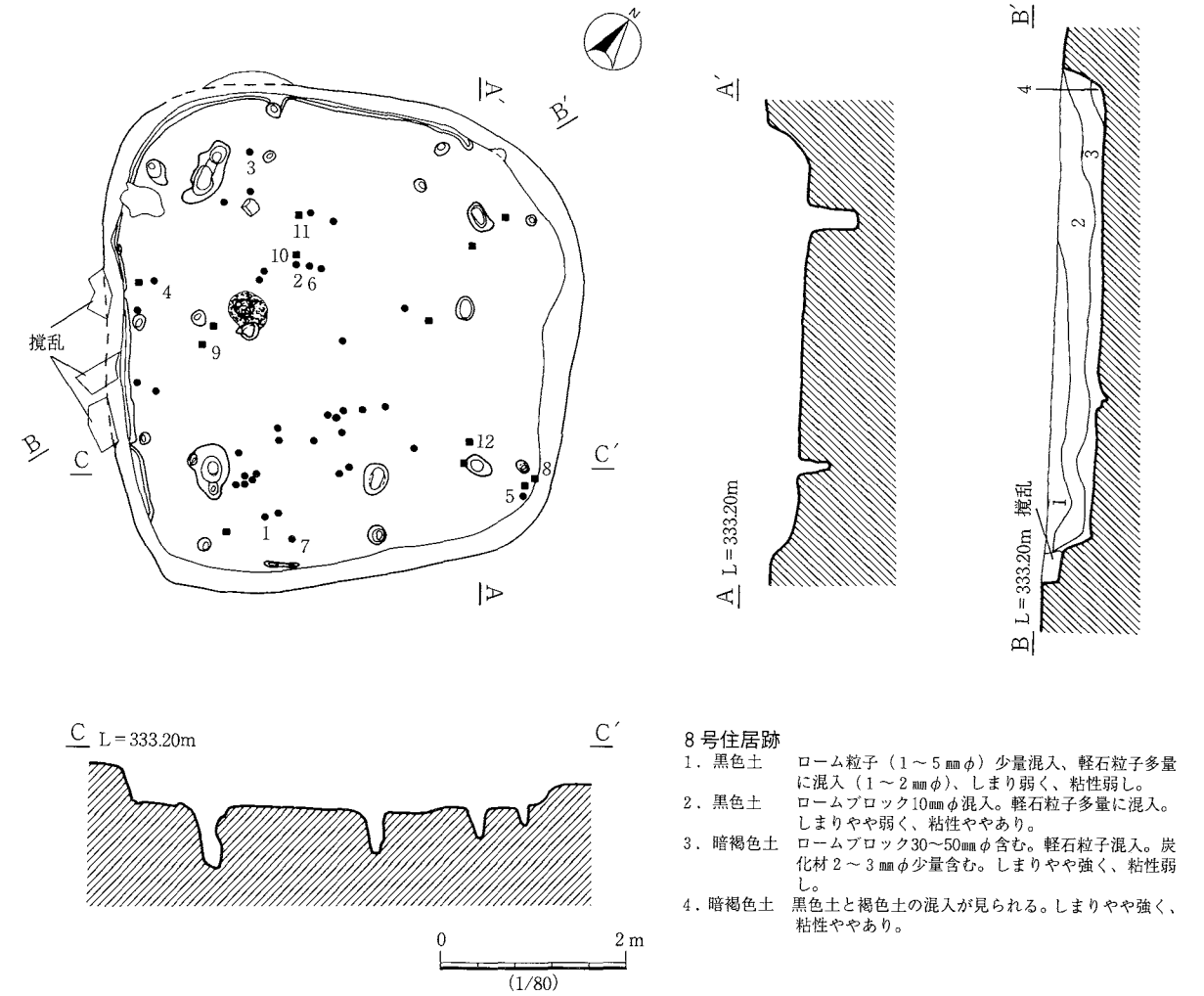
19・20は、胴部片で、全面に結節L縄を伴う縄文（RL）を施文する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は淡褐色である。

21は、胴部片で、縄文（LR）を地文に、3条単位の浮線文を横位に施す。浮線文には縄文（LR）の施文が伴い、内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黒褐色である。

22は、底部片で、無節縄文（L）を地文に、斜位の刻目が伴う浮線文を施す。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

23は、底部片で、縄文（RL）を地文に、浮線文で文様を施す。横位に巡る浮線文には、斜位の刻目が伴い、内面は研磨、底面は撫でる。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黄褐色である。

24は、打製石斧片である。25～34は、磨石及び凹石で、このうち31・32は、棒状である。



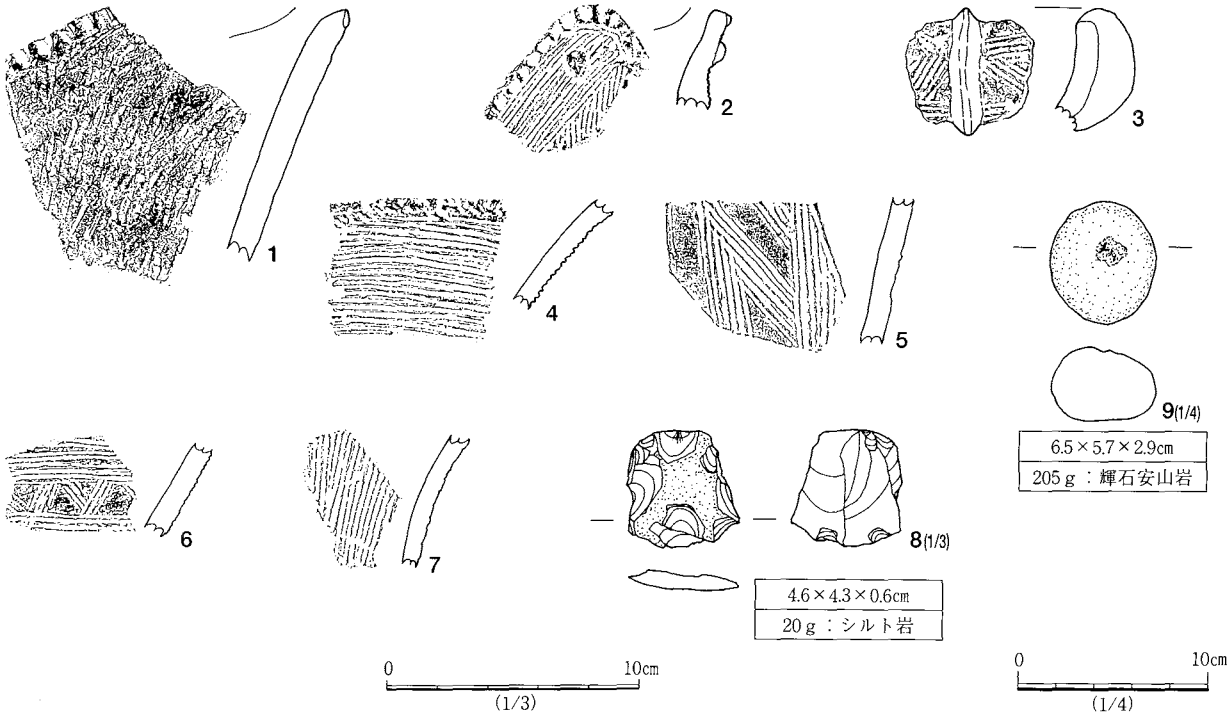
8号住居跡

1．黒色土　ローム粒子（1～5㎜φ）少量混入、軽石粒子多量に混入（1～2㎜φ）、しまり弱く、粘性弱し。

2．黒色土　ロームブロック10㎜φ混入。軽石粒子多量に混入。しまりやや弱く、粘性ややあり。

3．暗褐色土　ロームブロック30～50㎜φ含む。軽石粒子混入。炭化材2～3㎜φ少量含む。しまりやや強く、粘性弱し。

4．暗褐色土　黒色土と褐色土の混入が見られる。しまりやや強く、粘性ややあり。



第24図　8号住居跡・出土遺物（1）

8号住居跡　（第24・25図）

位置　／調査区東側のEh－86グリッドにおいて検出された。比較的住居跡の遺存状態は良い。　切り合い関係　／なし。　平面形態　／ややいびつな隅丸方形。　規模　／長軸5.10ｍ、短軸4.55ｍ、深さは0.36ｍを計測する。　長軸方向　／Ｎ－36°－Ｗ。　覆土　／ピット部分の堆積を除くと、黒色土・褐色土の３層の堆積が見られ、それぞれ軽石の含有が確認される。　柱穴　／Ｐ－１～４が主柱穴に相当し、壁際に補助柱穴が全周する。主柱穴の深さはＰ－１が31㎝・Ｐ－２が52㎝・Ｐ－３が58㎝・Ｐ－４が63㎝を測り、補助柱穴は21～39㎝としっかりとした掘り込みで規則性が窺われる。　壁　／外傾する。　壁溝　／北壁から西壁の壁下に幅７㎝、深さ20㎝前後で検出される。　床面　／ローム層中を床面とし、ほぼ平坦である。

炉　／調査時の所見によるとＰ－１と４を結んだ線上のやや内側が、被熱により楕円形に赤変硬化しており、炉の痕跡と捉えられている。　遺物　／住居跡にほぼ均一に分布するが、石器に比べて土器の出土量が多い。　遺構の時期　／諸磯ｃ式の土器をを主体としていることより、縄文前期後半と考えられる。

遺物

本住居跡の出土土器は、いずれも縄文前期後半の遺物で、諸磯ｃ式と考えられる。

１は、波状口縁の深鉢で、口唇外端にえぐるような刻目を付す。外面全体に無節縄文を施文し、内面に研磨が施される。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

２は、波頂部が２山になる波状口縁の深鉢で、口唇外端にえぐるような刻目を付す。文様は集合沈線で構成され、要所に円形の貼り付け文を付す。内面に研磨が施される。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は灰褐色である。

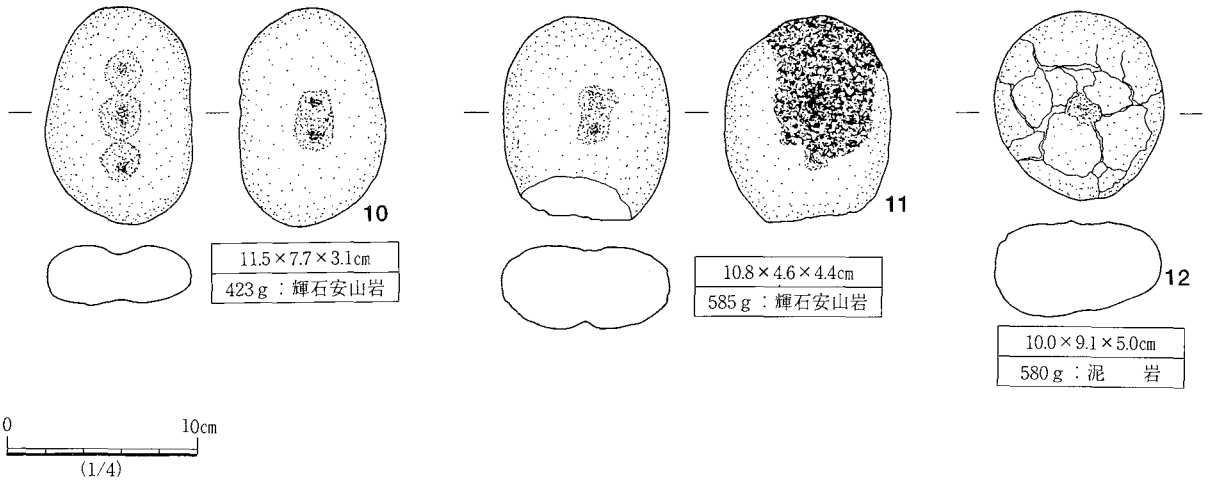
３は、口縁部が内湾する深鉢で文様は集合沈線で構成され、口縁部に耳状の貼り付け文を付す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は灰褐色である。

４～７は、集合沈線で、直線的な文様を構成する。４・６・７は内面に研磨、５の内面は撫でが施される。４・６の胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。５・７の胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黒灰色である。

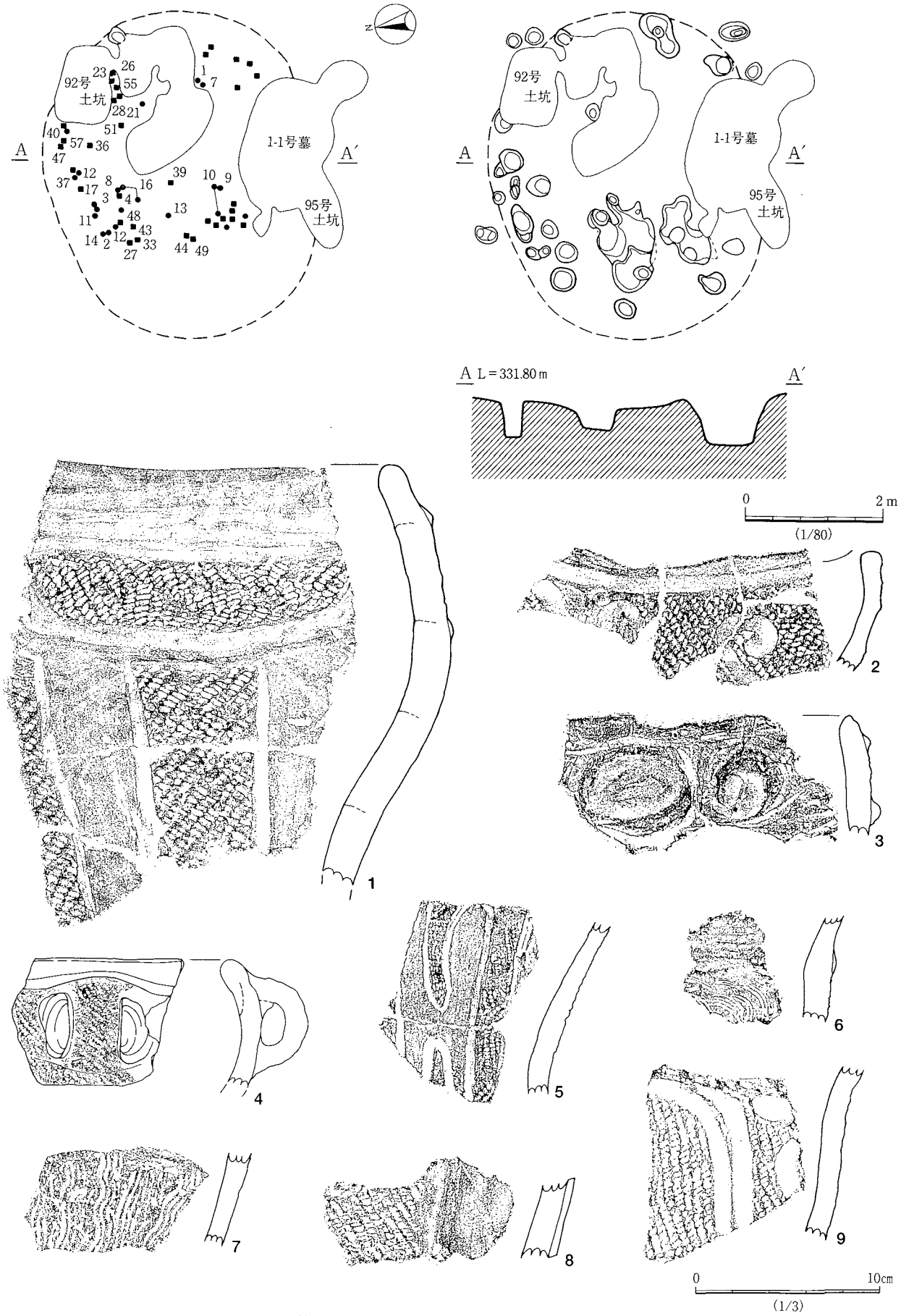
８～12は、石器で、シルト岩・輝石安山岩・泥岩を用いている。

８は、打製石斧片である。

９～12は、磨石及び凹石で、11は煤の付着が確認される。



第25図　８号住居跡出土遺物（２）



第26図　9号住居跡・出土遺物（1）

9号住居跡　（第26・27・28・29・30図）

位置　／調査区東側のEi－89グリッドにおいて検出され、１号配石墓群に近接している。住居跡の遺存状態は極めて悪い。　切り合い関係　／１－１号墓、92・95号土坑、７号埋設土器と重複する。７号埋設土器との前後関係は判然としないが、その他の遺構との関係では本跡が古い構築である。　平面形態　／第26図の破線は推定線であり、柱穴の位置から推し量って円形を呈するものと推測された。　規模　／不明。　覆土　／竪穴としての掘り込みが確認されていない為、遺構内覆土は認められなかった。　柱穴　／各遺構に壊されているものの等間隔に８本の主柱穴が確認される。主柱穴の深さは45～59cmでほぼ一定した掘り込みである。　壁　／不明。　床面　／ローム層中を床面とする。　炉　／不明。　遺物　／ピットに沿う形で分布する。　遺構の時期　／加曽利Ｅ３式の土器を主体としていることより、縄文中期末と考えられる。

遺物

本住居跡の出土土器は、いずれも縄文中期後半から後期前半の遺物で、加曽利加Ｅ３式期が主体である。１～17が加曽利Ｅ３式、18～20が堀之内２式、21が加曽利Ｂ１式、22～24が後期の範疇に含まれると見られる。

１は、大形で平縁の深鉢である。口縁部直下に無文帯を持ち、隆帯で横位の楕円形文を区画する。区画内には縄文を施文し、胴部は口縁部文様帯より沈線を垂下して、縄文部と無文部を交互に配置する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい赤褐色である。

２は、波状口縁の深鉢で、口縁部が僅かに内湾する。口縁部直下に太い沈線を巡らし、縄文を施文して太い沈線で蕨手文などを配置する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は灰黄褐色である。

３・４は、平縁の深鉢で、口縁部が僅かに内湾する。３は、口縁部に隆帯で不規則な楕円形文を並べ沈線をそろえる。全体に粗雑な調整である。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は橙色である。

４は、口縁部直下に橋状把手を持ち縄文を施文し、口縁部に沈線を巡らす。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい黄橙色である。

５は、大形の深鉢で、隆帯を垂下し無文帯を配置する。頸部で括れて、口縁部が緩やかに外反する深鉢である。頸部は幅広の隆帯を巡らし、胴部は櫛歯状工具による条線を曲線的に充填する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい黄橙色である。

６は、頸部で括れて、口縁部が緩やかに外反する深鉢である。頸部に幅広の隆帯を巡らし、胴部は櫛歯状工具による条線を曲線的に充填する。胎土は粗砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい黄橙色である。

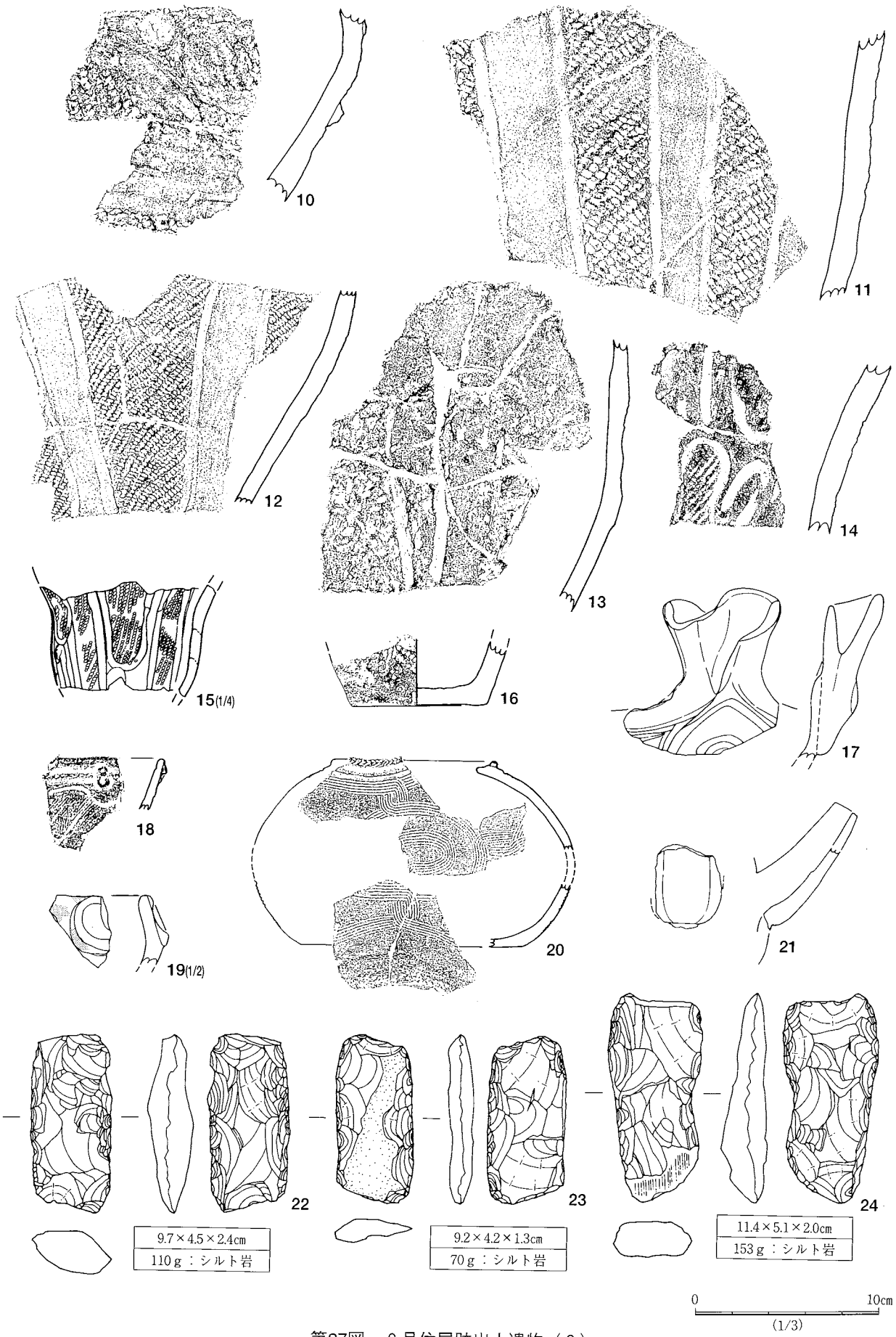
７は、大形の深鉢で、胴部に櫛歯状工具による緩い波状文を縦位に施文する。胎土は粗砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい黄橙色である。

８・９は、胴部で緩く括れる深鉢である。８は、沈線によるＪ字状文を区画して縄文を充填し、無文部は丁寧な撫でが施される。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい黄橙色である。

９は、縄文（RL）施文後太い沈線を逆Ｕ字形に垂下する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい黄橙色である。

10は、隆帯による横位の蕨手文を区画し、縄文（RL）を施文する。隆帯のわきを強く撫で、口縁部文様帯下に無文帯を設ける。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は灰褐色である。

11・12・16は、深鉢で、沈線を垂下して縄文部と無文部を配置する。それぞれ胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい橙色である。



第27図　9号住居跡出土遺物（2）

13・14は、沈線による逆U字形の区画文で、縄文部と無文部を区画する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい黄橙色である。

15は、胴部で緩やかに括れる小形の深鉢で、胴部の文様は縦長の楕円形や垂線を組み合わせ縄文部と無文部を区画し、無文部に蕨手文を配する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は橙色である。

17は、波状口縁の深鉢で、波頂部は大きな突起を作る。8の字状に粘土をひねって一端より低い隆帯を左右に巡らす。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい橙色である。

18は、朝顔形の小形の深鉢で、口縁部下に細い紐状の隆帯を巡らし、刻目を施す。胴部は沈線による幾何学文と区画内に縄文（LR）を施文する。胎土は細砂粒を含み、焼成は普通で、色調はにぶい橙色である。

19は、口縁部が内湾する小形の鉢である。粘土貼り付けによる文様が施され、赤色塗彩が確認される。胎土は細砂粒を含み、焼成は普通で、色調はにぶい橙色である。

20は、注口土器で、口縁部直下に細い隆帯を巡らして、ハの字状の刻目を施す。胴部は櫛歯状工具による施文で、外面に丁寧な研磨が見られる。胎土は細砂粒を含み、焼成は良好で、色調はにぶい赤褐色である。

21は、注口土器である。胴部との接合部に沈線を施し、外面に丁寧な研磨を施す。胎土は細砂粒を含み、焼成は普通で、色調はにぶい黄橙色である。

22～57は、石器で、シルト岩・輝石安山岩・黒曜石・緑色片岩・砂岩・デイサイトを材料とする。

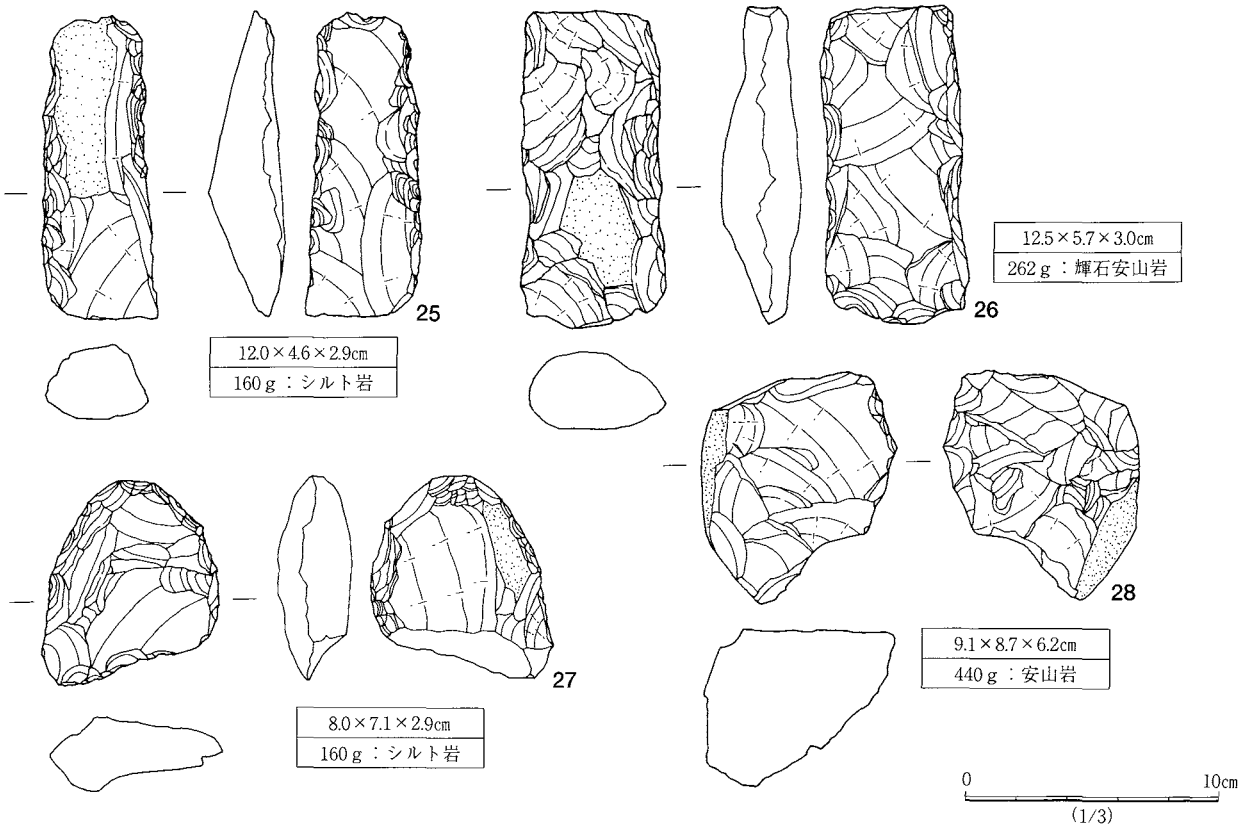
22～26は、短冊形の打製石斧で、27は、打製石斧片、28は、安山岩の石核と見られる。

31～34は、磨製石斧の未製品の可能性があり、35・36が製品である。

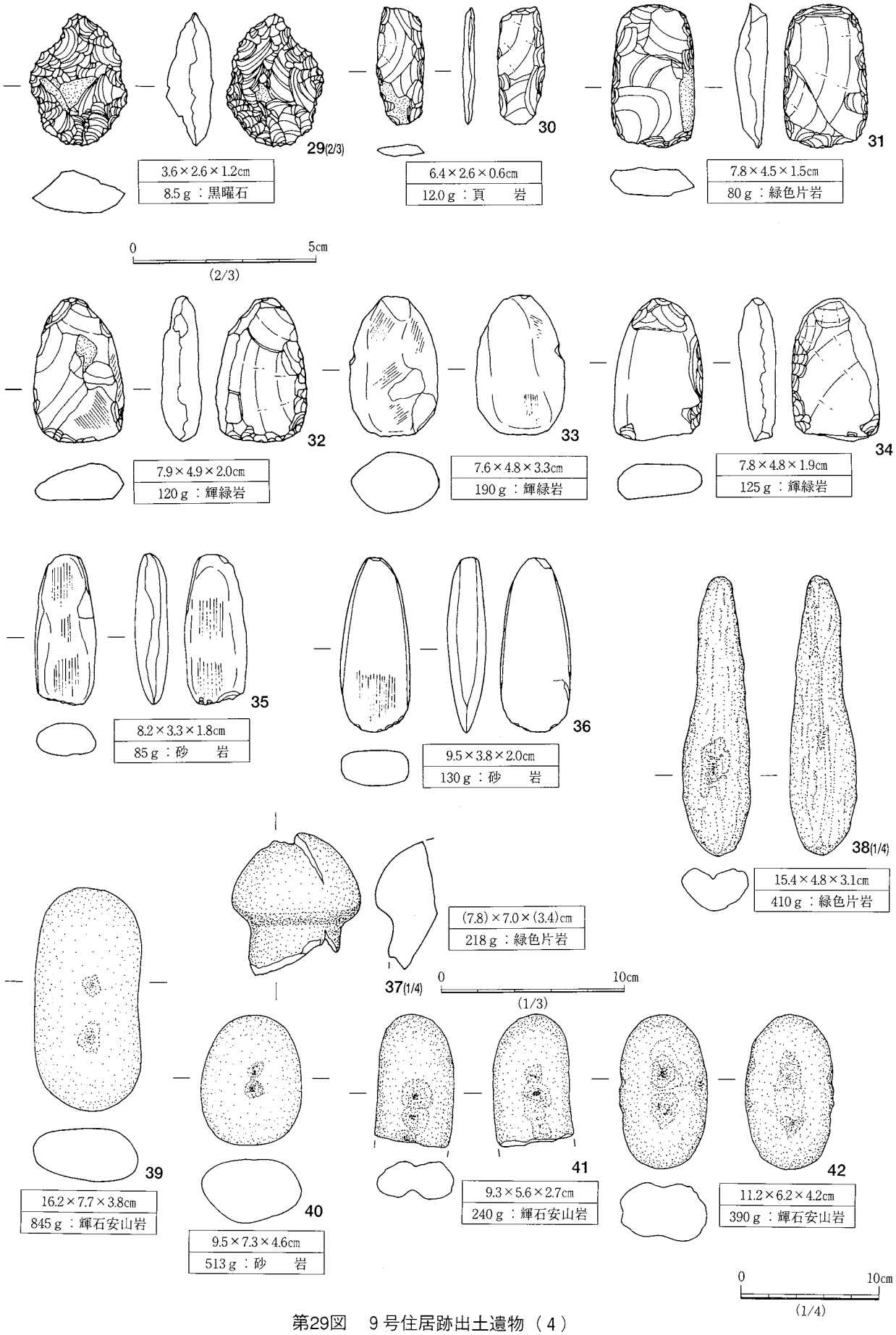
37は、石棒の頭部片、38は、棒状の凹石である。

39～56は、磨石及び凹石で、52・56は、石皿状である。

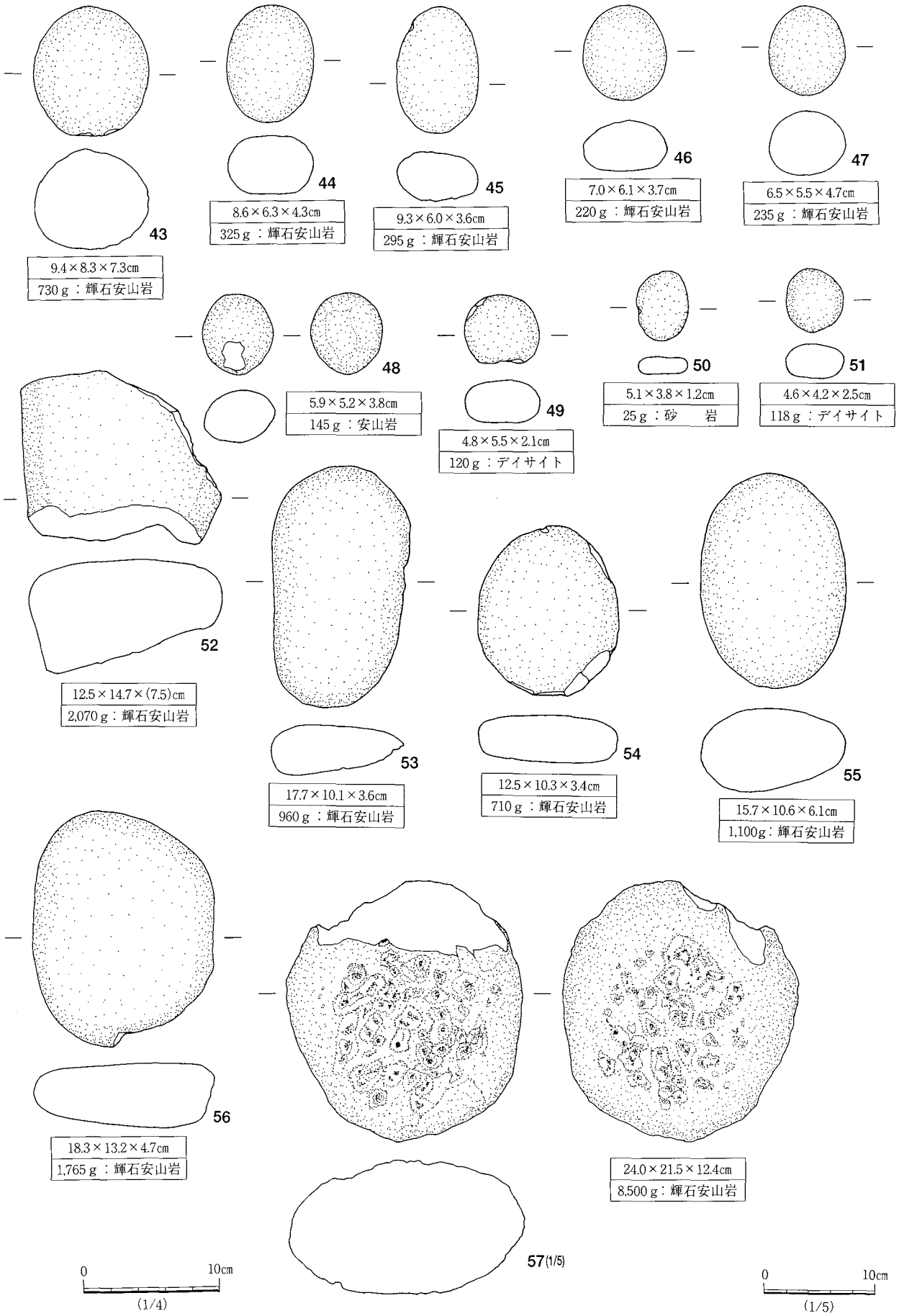
57は、表裏両面に孔が穿たれた多孔石である。



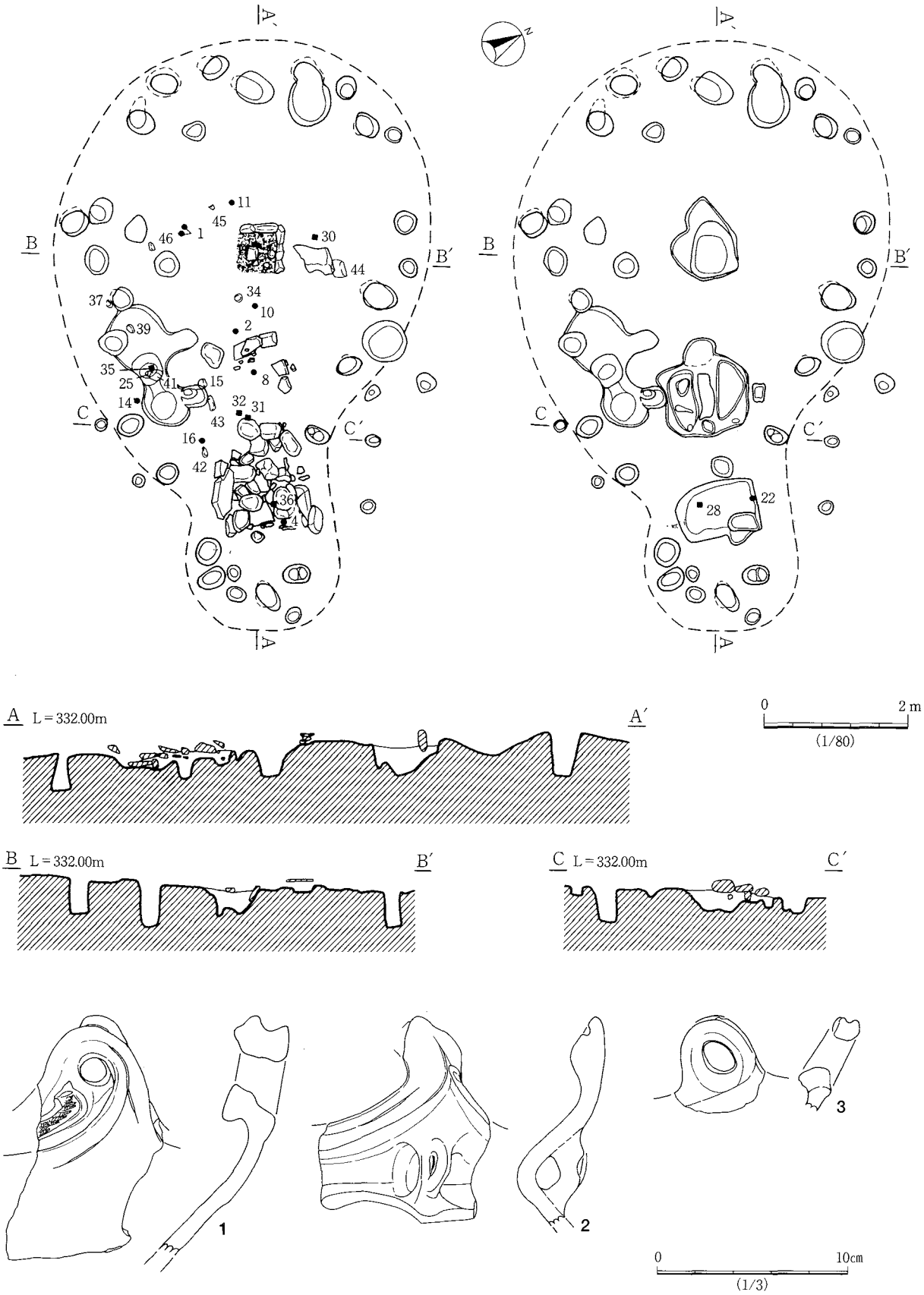
第28図　9号住居跡出土遺物（3）



第29図　9号住居跡出土遺物（4）



第30図　9号住居跡出土遺物（5）



第31図　10号住居跡・出土遺物（1）

10号住居跡　（第31・32・33図）

位置　／調査区東側のEi－88・Ei－89グリッドにおいて検出され、１号配石墓群の西側に近接している。

切り合い関係　／１号溝・129号土坑と重複し、新旧関係では１号溝⇨本跡⇨129号土坑（新⇨旧）である。

平面形態　／柄鏡形の敷石住居と見られる。竪穴構造であるかは確認されなかったが、主体部と張出部に段差が存在することより掘り込みが存在した可能性がある。　規模　／柱穴の位置より全長は8.1m以上、主体部の短径は5.2m以上を計測すると思われる。　長軸方向　／N－62°－W。　覆土　／竪穴としての掘り込みが確認されていない為、遺構内覆土は認められなかった。　柱穴　／柄鏡の形状に沿う形で検出され、最も深いもので床面より67cmを測り、その他は50cm代としっかりとした構築である。　壁　／不明。

床面　／凹凸が激しく一定していない。　炉　／石囲い炉で主体部の中央に付設される。炉は、一辺が60cm前後の方形と見られ、深さ22cm程掘り下げる。現状では２辺の炉石が検出されている。　敷石　／主体部と張出部において敷石の残存が検出される。主体部に検出された敷石は僅かな残片で、主体部には敷石が施されなかった可能性がある。一方、張出部の敷石は比較的遺存状態が良く、板状の安山岩を主体とし側面の縁石は立てかけられ、偏平な安山岩で補っている。埋甕は検出されず、主体部と張出部の接点には方形の掘り込みが確認されている。　遺物　／炉及び主体部と張出部との接点に見られるが、全体に出土量は少ない。土偶の脚部片が出土している。　遺構の時期　／称名寺Ⅱ式の土器を主体としていることより、縄文後期前半と考えられる。

遺物

本住居跡の出土土器は、いずれも縄文後期前半の遺物で、１～９が称名寺Ⅱ式、10～14が堀之内式、15～21が後期の範疇に含まれる。

１・２は、口縁部から胴部へかけての残存で、胴部で強い括れを持って、口縁部へ広がる深鉢である。

１は、口縁部は大きな波状を呈し、波頂部に円孔を設けて、左右に沈線による区画と縄文（LR）を充填する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい橙色である。

２は、突起の付く波状口縁で、波頂部下に括れ部を挟む橋状の把手を付す。胎土・焼成・色調は１と同じ。

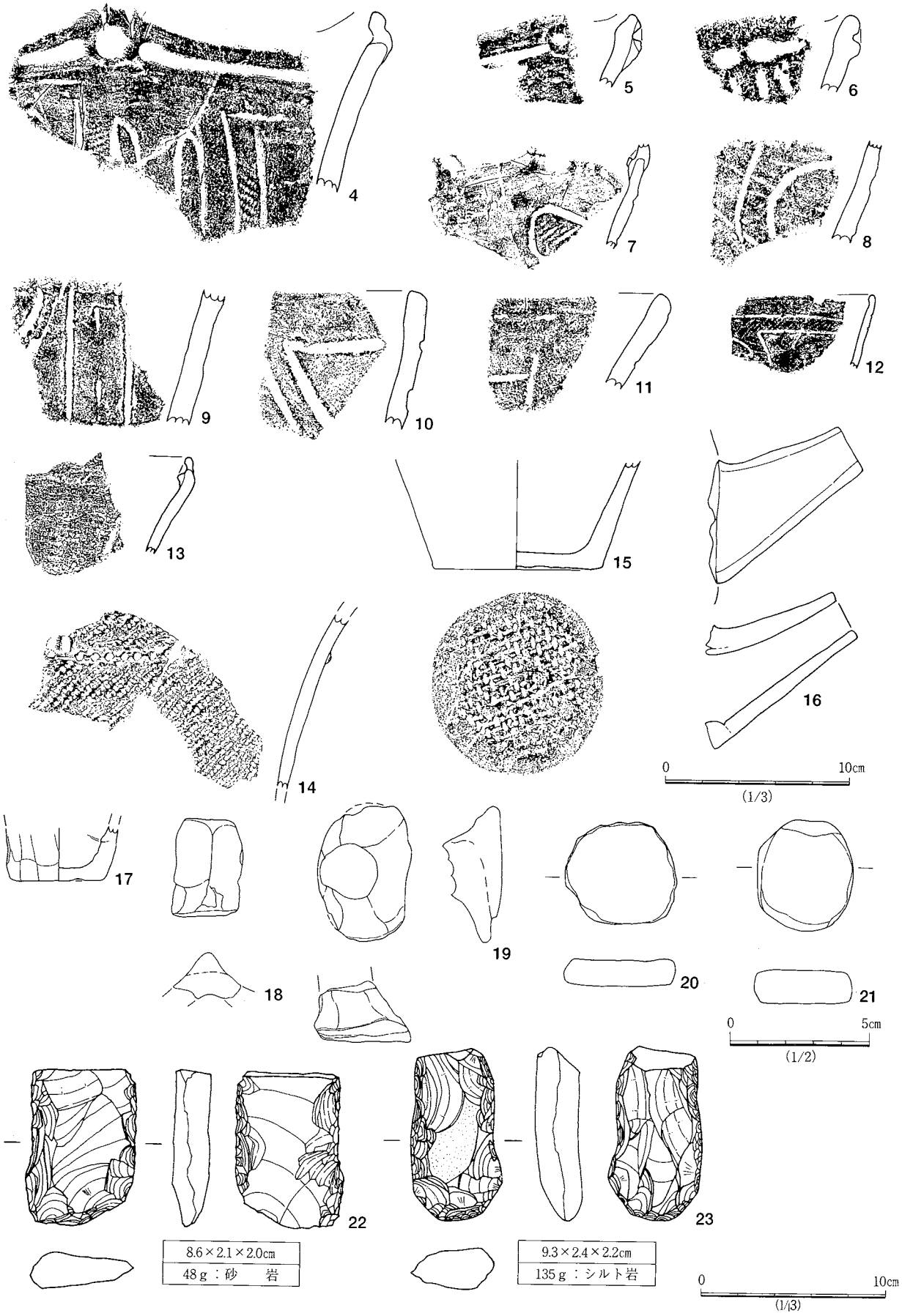
３は、波状口縁の鉢で、口縁部の残存である。波頂部に大きく円孔を穿つ。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい黄橙色である。

４は、口縁部から胴部へかけての残存で、胴部で僅かに括れを持つ深鉢である。口縁部は小さな波状を呈し、波頂部に円形刺突文を施して、左右に沈線を巡らす。胴部は縦位の文様構成で沈線を垂下して区画内に縄文（RL）を充填する。口縁部の内側には凹線が巡る。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい黄橙色である。

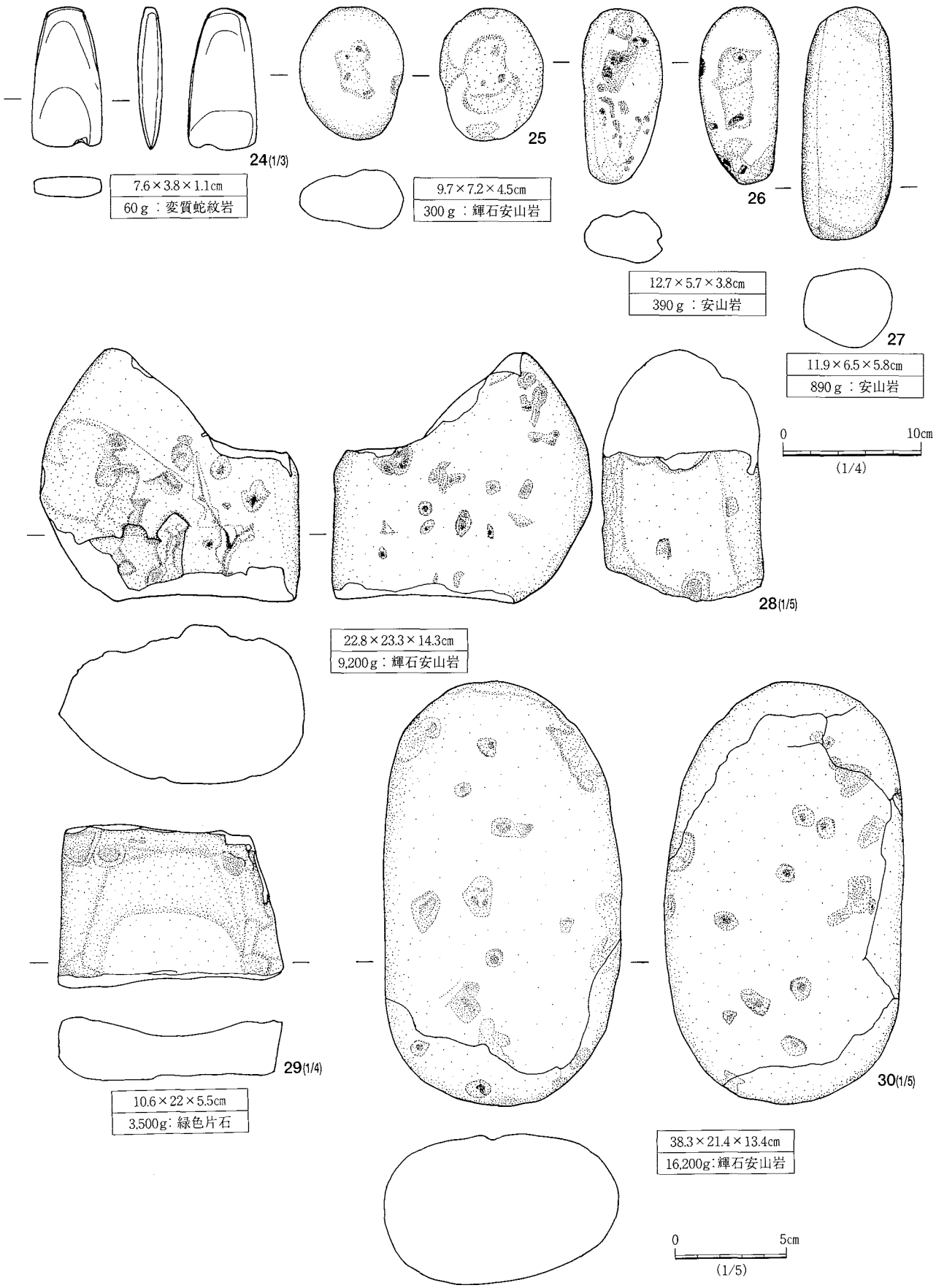
５・６は、口縁部が小さな波状を呈する深鉢の口縁部片である。波頂部に円形刺突文を施し、沈線を巡らす。５の胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい黄橙色である。６の胎土は砂粒を多量に含み、焼成はやや軟質で、色調はにぶい黄橙色である。

７は、口縁部に波状の突起を持つ鉢である。外面は沈線による区画文で、区画内に縄文（L）を充填する。口縁部は内側に肥厚して稜を持つ。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は褐灰色である。

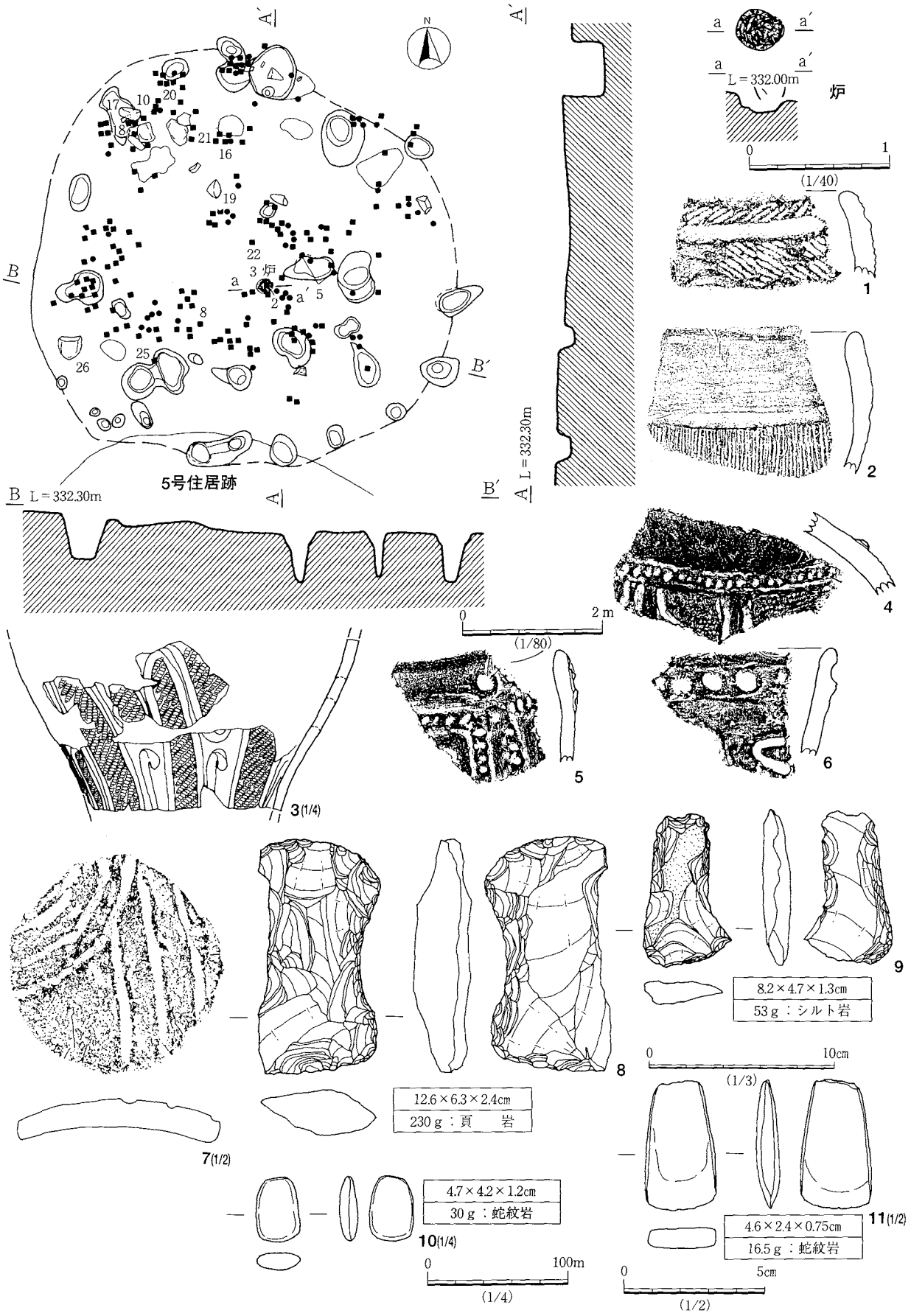
８・９は、深鉢の胴部片である。８は、２本の沈線による区画文を施し、胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい黄橙色である。９は、沈線を垂下して区画し、列点文を充填する。胎土は、粗砂粒多量に含み、焼成はやや軟質で、色調は黒色である。



第32図　10号住居跡出土遺物（2）



第33図　10号住居跡出土遺物（3）



第34図　11号住居跡・出土遺物（1）

10・11は、口縁部直下より沈線による幾何学文を施す。両者共に胎土は砂粒多量に含み、焼成はやや軟質で、色調は灰黄褐色である。

12は、朝顔形に開く深鉢で、口縁端部は内側へ丸く作り出し、直下に凹線が巡る。外面は沈線による幾何学文を施し、２線間に縄文（LR）を充填する。内外面篦状工具による研磨が施される。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

13は、口縁部に小突起を持つ深鉢である。小突起を中心に円孔をあけ、粘土貼り付け後に円形の刺穴を施す。口縁端部は内側に肥厚させ、外面の文様は沈線による区画と区画内充填縄文の組み合わせである。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は褐灰色である。

14は、やや大形の鉢の胴部片で、朝顔形に開くものか。縄文（LR）を地文とし、細い粘土紐による隆帯を巡らして刻みを施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調はにぶい黄橙色である。

15は、深鉢の底部片で、外面に網代痕が確認される。胎土は粗砂粒を多量に含み、焼成はやや軟質で、色調はにぶい赤褐色である。

16は、大形の注口土器で、胴部との接合部が太く丸みを持つ。外面の調整はやや粗雑である。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい黄橙色である。

17は、ミニチュアの鉢で、底部から胴部へかけての残存である。胎土は細砂粒を含み、焼成は普通で、色調はにぶい橙色である。

18は、中空で外面に稜を持つ土製品である。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、褐灰色である。

19は、土偶の脚部片で調整は粗雑である。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、にぶい黄橙色である。

20・21は、円盤状の土製品である。20の胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は橙色である。21の胎土は粗砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい黄橙色である。

22～30は、石器で、砂岩・シルト岩・変質蛇紋岩・輝石安山岩・緑色片岩を用いている。

22・23は、打製石斧、24は、磨製石斧、25～27は、磨石及び凹石、28・30は多孔石、29は、石皿の破片である。

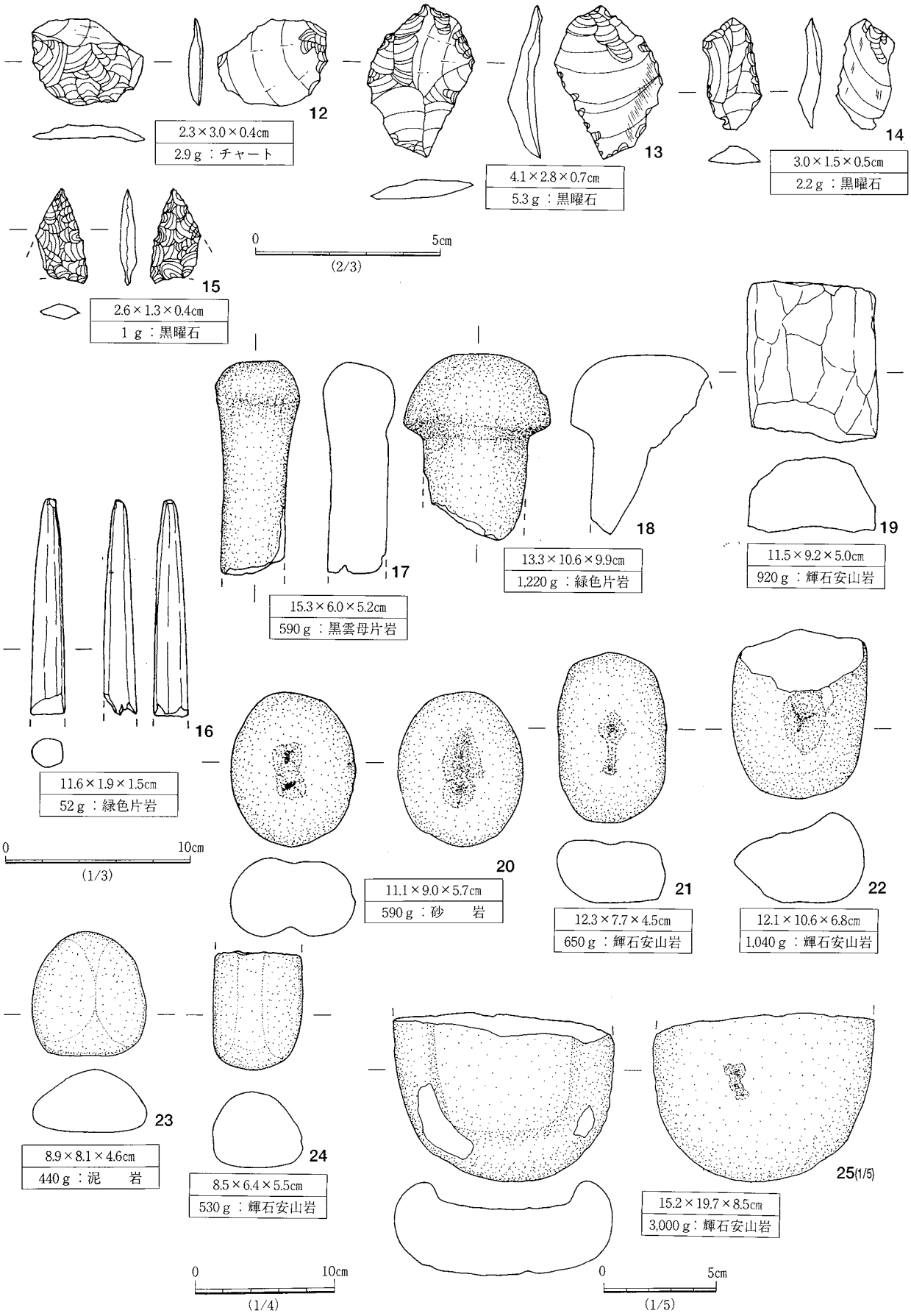
11号住居跡　（第34・35・36図）

位置　／調査区東側のEh－88、Ei－88グリッドにおいて検出された。住居跡の遺存状態は悪い。　**切り合い関係**　／７・59号住居跡と重複し、新旧関係では本跡が新しい構築である。　**平面形態**　／輪郭は不明であるが、柱穴の配置状況から推測して円形を呈するものと判断される。　**規模**　／直径5.9ｍ以上の規模を有すると見られる。　**覆土**　／竪穴としての掘り込みが確認されていない為、遺構内覆土は認められていない。　**柱穴**　／住居跡に伴う可能性が高いもので、最深が70㎝、その他は20㎝代に集中するが、いずれも杭状である。　**壁**　／不明。　**床面**　／ローム面を床面とし、多少の起伏が見られる。　**炉**　／住居跡のほぼ中央部に付設されている。底部を打ち掻いた炉体土器を伴い、被熱の痕跡が確認される。　**遺物**　／住居跡の全域に分布する。石器の出土量が多く石棒が検出されている。　**遺構の時期**　／炉体土器から判断すると中期末の時期と見られる。

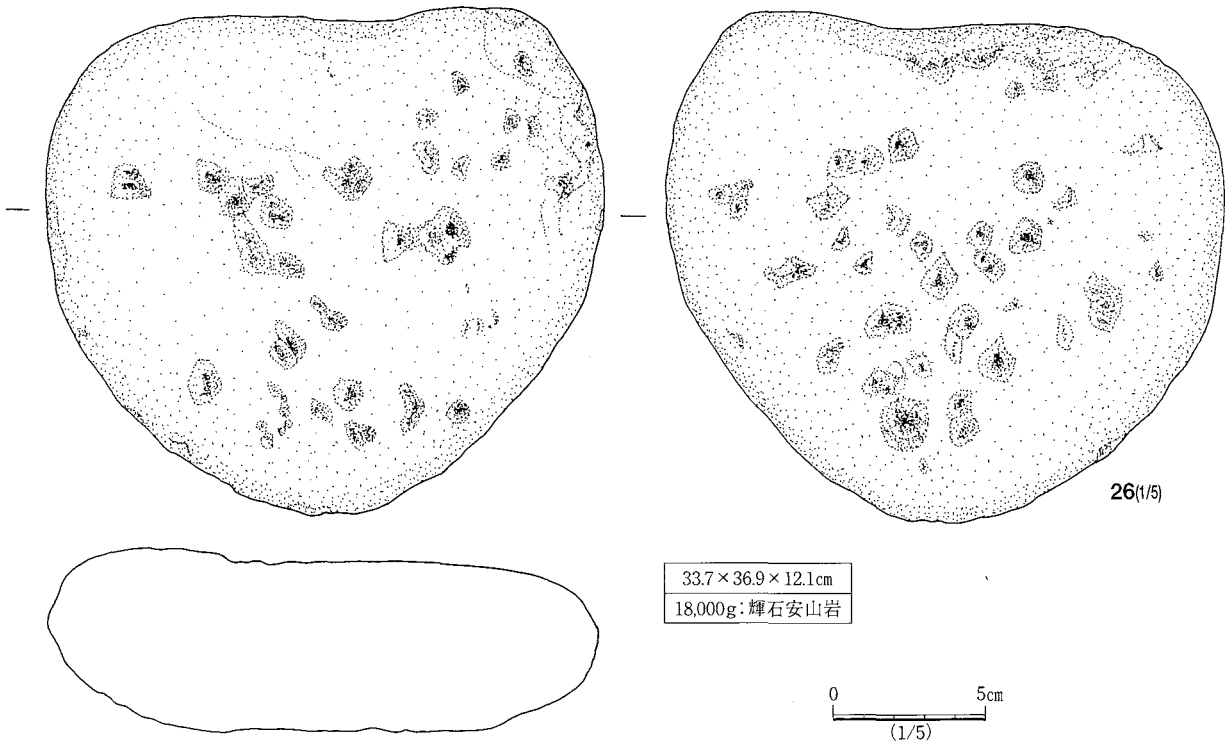
遺物

本遺構から検出された土器は、１～３の加曽利Ｅ３式、４～６の堀之内１式と見られる。

１は、口縁部が波状を呈する深鉢で、縄文（L）を地文として、太い沈線により区画する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は橙色である。



第35図　11号住居跡出土遺物（2）



第36図　11号住居跡出土遺物（3）

2は、口縁部が内湾する平縁の深鉢である。口縁部に無文帯を巡らし、胴部は条線を縦位に、頸部に太い沈線を巡らして口縁部と区画する。外面には丁寧な篦磨きが施される。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調はにぶい橙色である。

3は、深鉢の胴部片で、縄文（RL）施文後、沈線により逆U字形、波状文を組み合わせて無文部と区画し、無文部には蕨手文を配置する。胎土は細砂粒多量に含み、焼成はやや軟質で、色調はにぶい橙色である。

4は、胴部で丸く張りを持ち、頸部で括れる壺様の鉢である。肩部に隆帯を巡らし、刻目を施す。胴部は縄文（LR）を施文し、隆帯より沈線を垂下して無文部と区画する。無文部は丁寧な研磨が施される。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は灰黄褐色である。

5は、小さな波状を呈する深鉢である。波頂部は沈線で、斜格子文を構成し、文様構成は粗雑である。内面は研磨が施される。胎土は砂粒を少量含み、焼成は普通で、色調は褐色である。

6は、平縁の深鉢である。口縁部の外側を肥圧させ、指頭による円形刺突文を並べる。胴部には沈線により施文する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は褐灰色である。

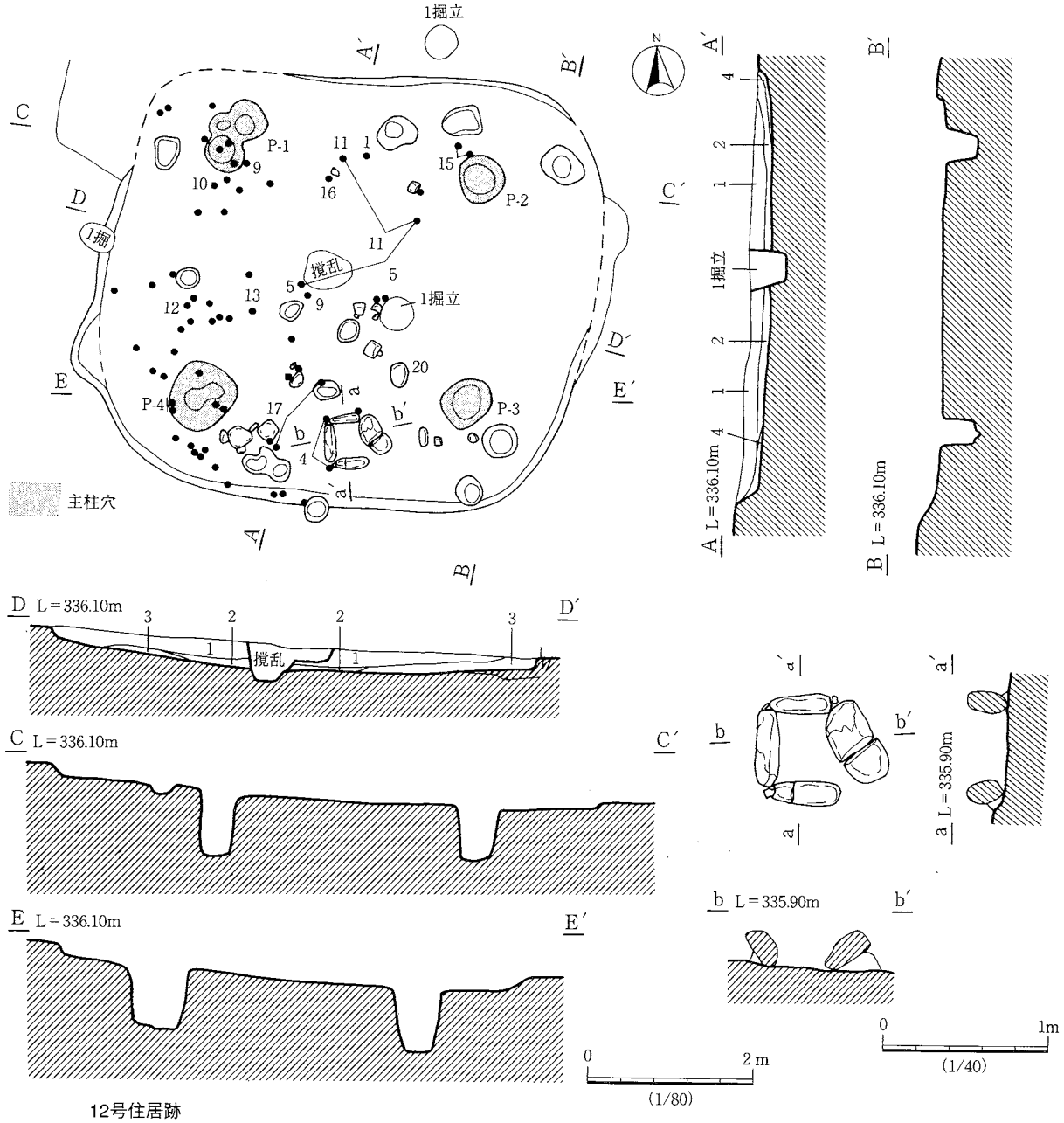
7は、円盤状の土製品で、端部を丁寧に調整する。胎土は砂粒を含み、焼成は普通で、色調は橙色である。

8～26は、石器で、頁岩・シルト岩・蛇文岩・チャート・黒曜石・緑色片岩・黒色雲母片岩・輝石安山岩・砂岩・泥岩を用いている。

8・9は、打製石斧、10・11は、小形の磨製石斧、13・14は、剥片石器、15は、無茎の石鏃である。

16は、石剣、17・18は、石棒、19は、石棒の一部と見られる。

20～24は、磨石及び凹石で、25は、石皿、26は、多孔石である。



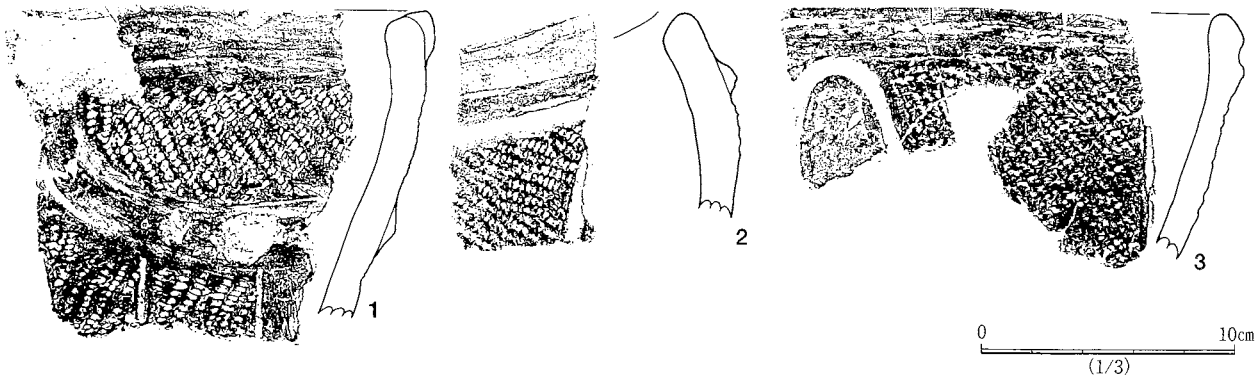
12号住居跡

1．黒褐色土　ローム細粒、白色粒やや密に含む。しまり、粘性あり。

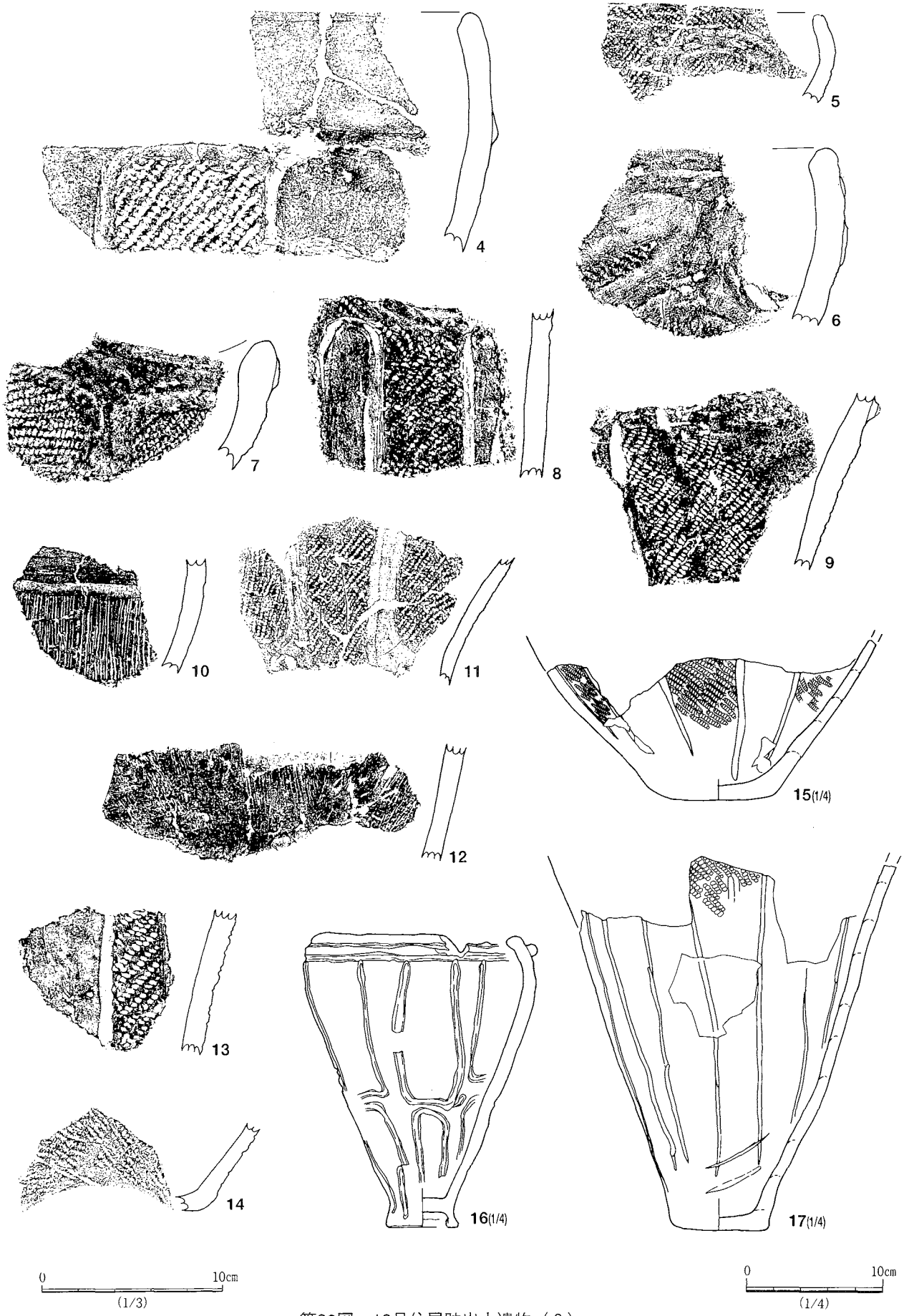
2．黒褐色土　ローム細粒、白色粒少ない。しまり強い。

3．暗茶褐色土　地山（褐色土粒）混入。しまり、粘性あり。

4．茶褐色土　ローム粒疎に含む。しまり、粘性あり。



第37図　12号住居跡・出土遺物（1）



第38図　12号住居跡出土遺物（２）

12号住居跡　（第37・38・39図）

位置　／調査区中央部のEf－78グリッドにおいて検出された。　切り合い関係　／１号掘立柱建物跡と重複し、新旧関係では本跡が古い構築である。　平面形態　／隅角に丸みを持つ方形。　規模　／長軸5.65ｍ、短軸5.15ｍ、深さ0.20ｍを計測する。　長軸方向　／Ｎ－14°－Ｅ。　覆土　／本住居跡は、地山である褐色土層に掘り込まれ、遺構内覆土は、黒褐色土・暗茶褐色土・茶褐色土が合計４層確認されている。　柱穴　／19本が検出され、このうちＰ－１～４の４本が主柱穴に相当し、床面からの深度は、Ｐ－１が80㎝、Ｐ－２が66㎝、Ｐ－３が78㎝、Ｐ－４が79㎝である。この他のピットの深度は10～65㎝とまちまちである。　壁　／緩斜する。　床面　／ローム面を床面とし、住居跡中央へかけて緩やかに傾斜する。しっかりとした構築である。　炉　／石囲炉で、住居跡の南壁近くに付設される。炉は、40㎝×50㎝程の方形と見られ、偏平な安山岩を炉石として使用している。焼土をはじめとした被熱の痕跡は確認されていない。　遺物　／住居跡東部分に分布し、石器よりも土器が多く出土する。　遺構の時期　／加曽利Ｅ３式の土器を主体としていることより縄文中期末の時期と考えられる。

遺物

本遺構から検出された土器は、加曽利Ｅ３式と見られる。

１は、深鉢の口縁部片で、文様は横位の楕円文を隆帯により配置する。内区には縄文（RL）を充填して強い撫でを施す。胴部は縄文施文後に細めの沈線を垂下し無文部を配す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい黄橙色である。

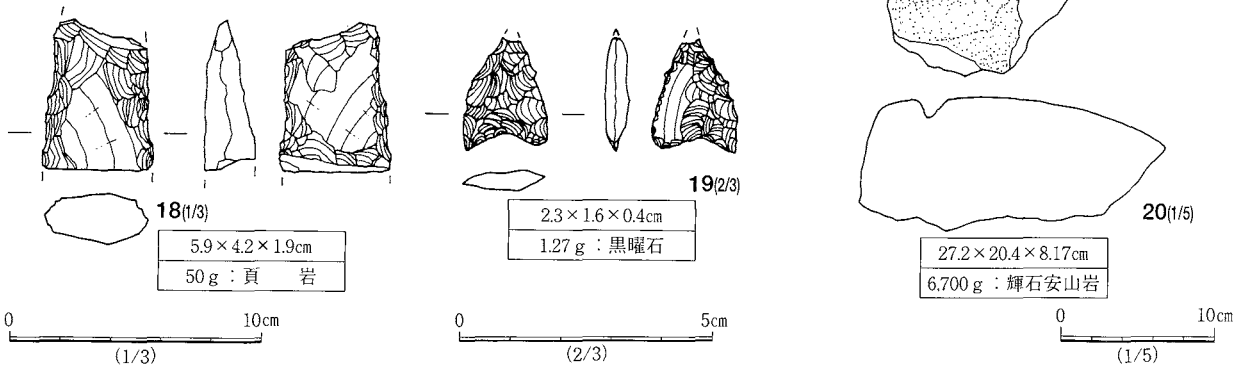
２は、波状口縁の深鉢で、口縁部直下に狭い無文帯を設け、太い沈線で区画する。内区は縄文（RL）施文後、隆帯のわきを強く撫でて沈線とする。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい黄橙色である。

３は、深鉢の口縁部片で、口縁部直下に太い沈線を巡らし、隆帯を添わせる。縄文（RL）施文後、隆帯直下より逆Ｕ字形の沈線を垂下して無文部を配する。胎土は砂粒を含み、焼成は普通で、色調はにぶい黄橙色である。

４は、深鉢の口縁部片で、直下に無文帯を持ち隆帯で胴部文様帯を区画する。胴部は隆帯より垂下する沈線で区画して縄文（RL）部と無文部を配置する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい黄橙色である。

５は、深鉢の口縁部片で下に狭い無文帯を設け、胴部は２本の沈線間を無文として施文する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい黄橙色である。

６は、深鉢の口縁部片で横位の口縁部文様帯を巡らし、内区は縄文（RL）施文後、隆帯のわきを強く撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい橙色である。



第39図　12号住居跡出土遺物（３）

7は、波状口縁の深鉢である。口縁部の文様帯は、隆帯による楕円形などの区画文で、内区の縄文（RL）施文後隆帯のわきを強く撫でる。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい黄橙色である。

8・9は、深鉢の胴部片で、文様は、隆帯による区画文で、胴部は逆U字形に沈線を垂下して無文帯と縄文（RL）帯を配置する。8の胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい黄橙色である。9の胎土は粗細砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は褐灰色である。

10は、胴部片で、胴部に条線を施して沈線で区画し無文帯を配置する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黒褐色である。

11は、深鉢の胴部片で、縄文（RL）施文後、沈線による区画を行って無文帯を巡らし、楕円形文、蕨手文を配置する。胎土は細砂粒を含み、焼成は普通で、色調はにぶい黄橙色である。

12は、胴部に条線を施した後に撫でを施す。胎土は砂粒を含み、焼成は普通で、色調はにぶい橙色である。

13は、深鉢の胴部片で、文様は、沈線による区画で無文帯と縄文（RL）帯を配置し、外面に丁寧な調整が施される。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調はにぶい橙色である。

14は、底部片で、底部の端部に変色部がある。脚台部の接合痕か。文様構成は縄文（RL）が施文される。胎土は砂粒を含み、焼成は普通で、色調は橙色である。

15は、大形の深鉢で、底部は厚く端部に丸みを持つ。縄文（RL）施文後、2本の垂線で区画し、無文部を配置する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は橙色である。

16は、胴部上半に最大径を持ち、底部が高台状を呈する深鉢である。文様は、胴部に沈線を垂下して区画する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は明褐色である。　17は、深鉢の胴下半片である。文様は、胴部に沈線を垂下して、縄文（RL）部と無文部を交互に配置して区画する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は橙色である。

18～20は、石器で、18が打製石斧、19が石鏃、20が多孔石である。

13号住居跡　（第40・41・42図）

位置　／調査区西側のEb－67・68グリッドにおいて検出され、住居跡南西角が僅かに調査区外となる。

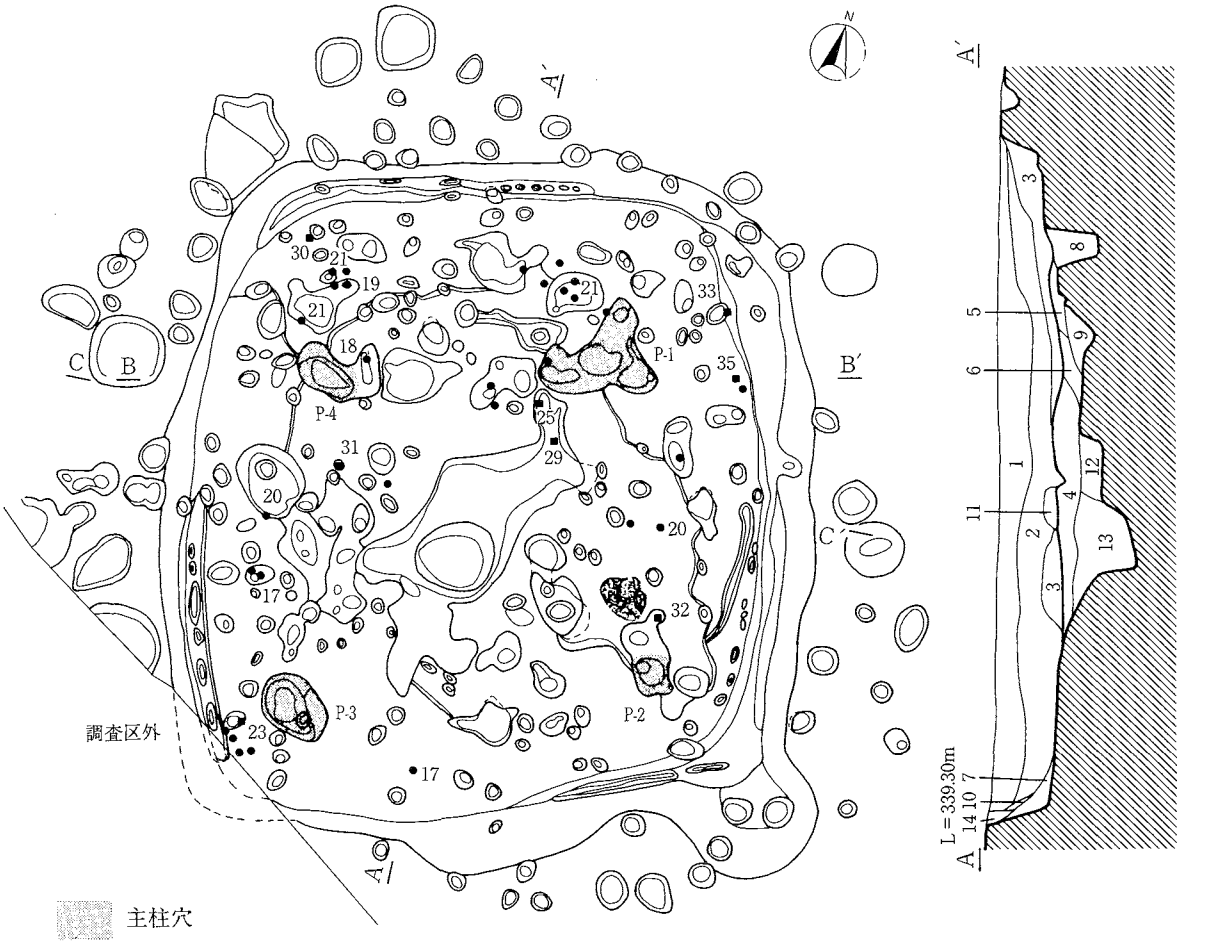
切り合い関係　／なし。　平面形態　／方形。　規模　／長軸6.65ｍ、短軸6.05ｍ、深さ0.65ｍを計測する。

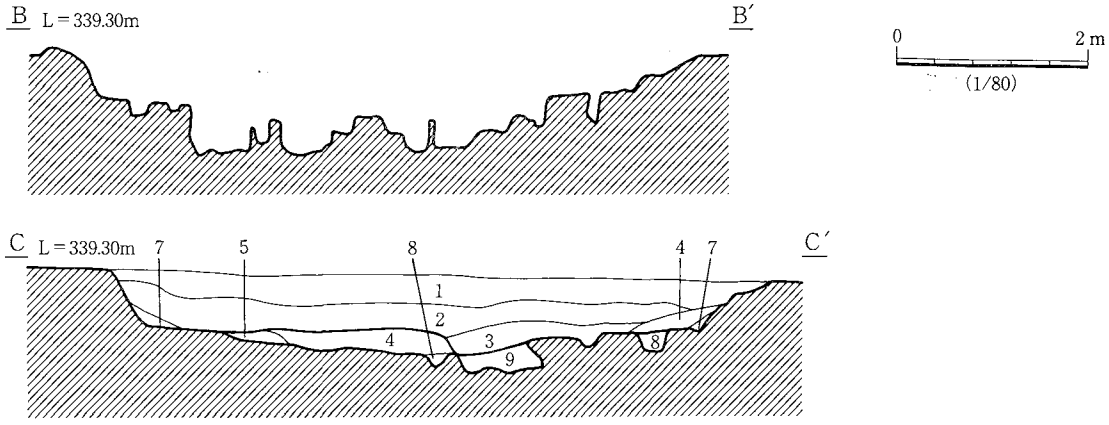
長軸方向　／N－10°－W。　覆土　／本遺構は、地山である黄褐色土層に掘り込まれ、遺構内覆土は、黒色土・黒褐色土・暗褐色土・暗茶褐色土・黄橙色土がそれぞれ堆積する。いずれの層も含有量に相違はあるもののローム粒・灰色粒を含んでいるが、10層中だけにはローム粒・灰色粒を含まず、焼土粒のみを多量に含んでおり、炉の痕跡示している。　柱穴　／多数のピットが穿たれている為判然としないが、P－1～4の4本が主柱穴に相当し、床面からの深度は、P－1が76cm、P－2が75cm、P－3が56cm、P－4が49cmを測る。この他は杭状の小ピットで10～66cmと深さはまちまちである。また、住居跡外側に深さ10～25cmで補助柱穴と推測されるピットが巡る。　壁　／緩斜する。　壁溝　／幅15～40cm、床面よりの深さ6cm程で、断続的ではあるが住居跡の壁下に巡り、壁溝内には長径10cm前後の小ピットが所々検出されている。

床面　／土層図第4・5層の上面を床面とし、全体的には壁際が高くなる。　炉　／楕円形を呈する地床炉で、被熱により赤変硬化し、住居跡南東部分のP－2側に付設される。この他、前述した土層断面図の観察により炉の可能性を有する痕跡が認められ、複数の炉が存在した公算がある。　遺物　／柱穴の周辺に比較的まとまって出土している。遺構の時期／諸磯b式の土器を主体とすることより前期後半と見られる。

遺物

本遺構から出土した遺物は諸磯b式である。

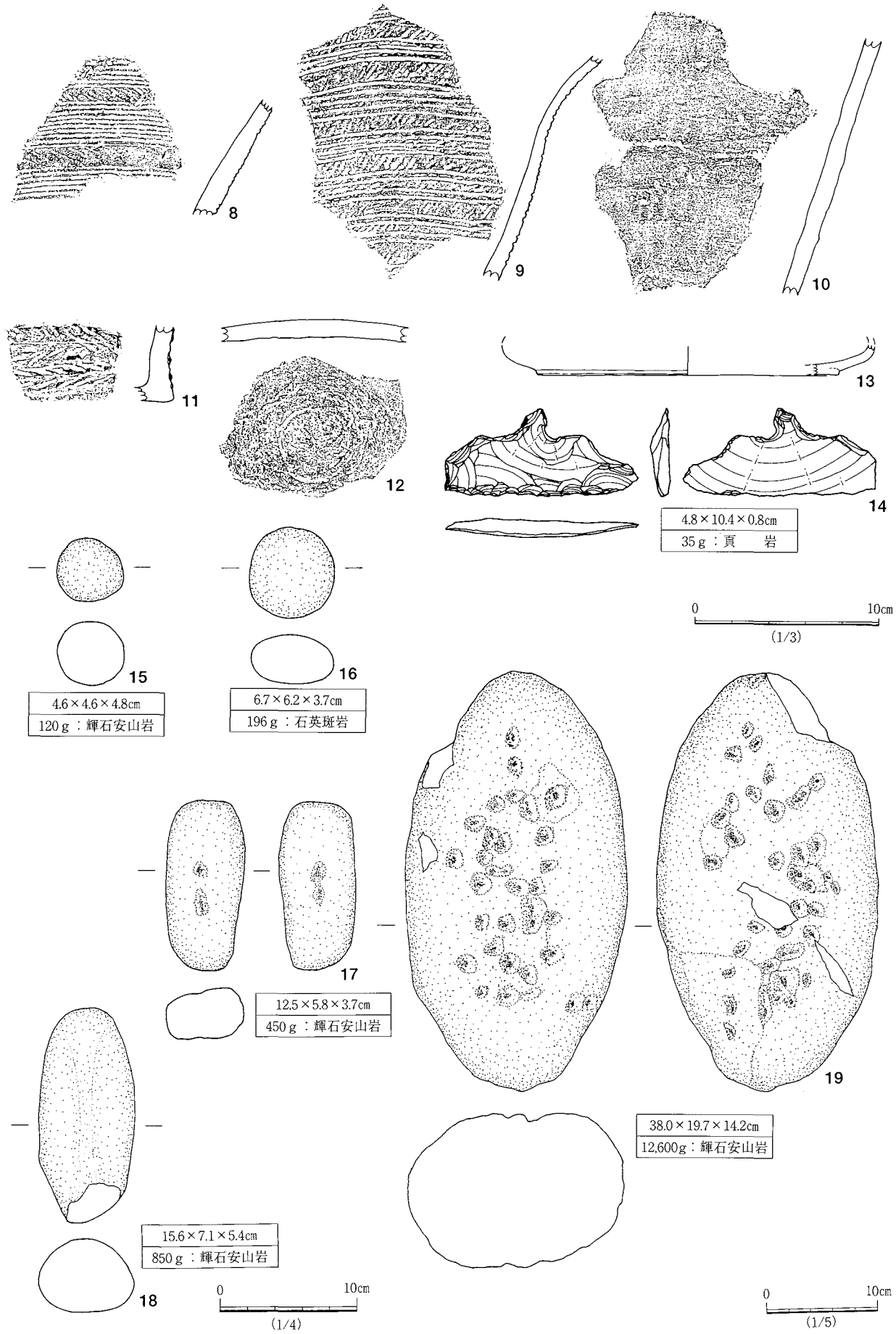




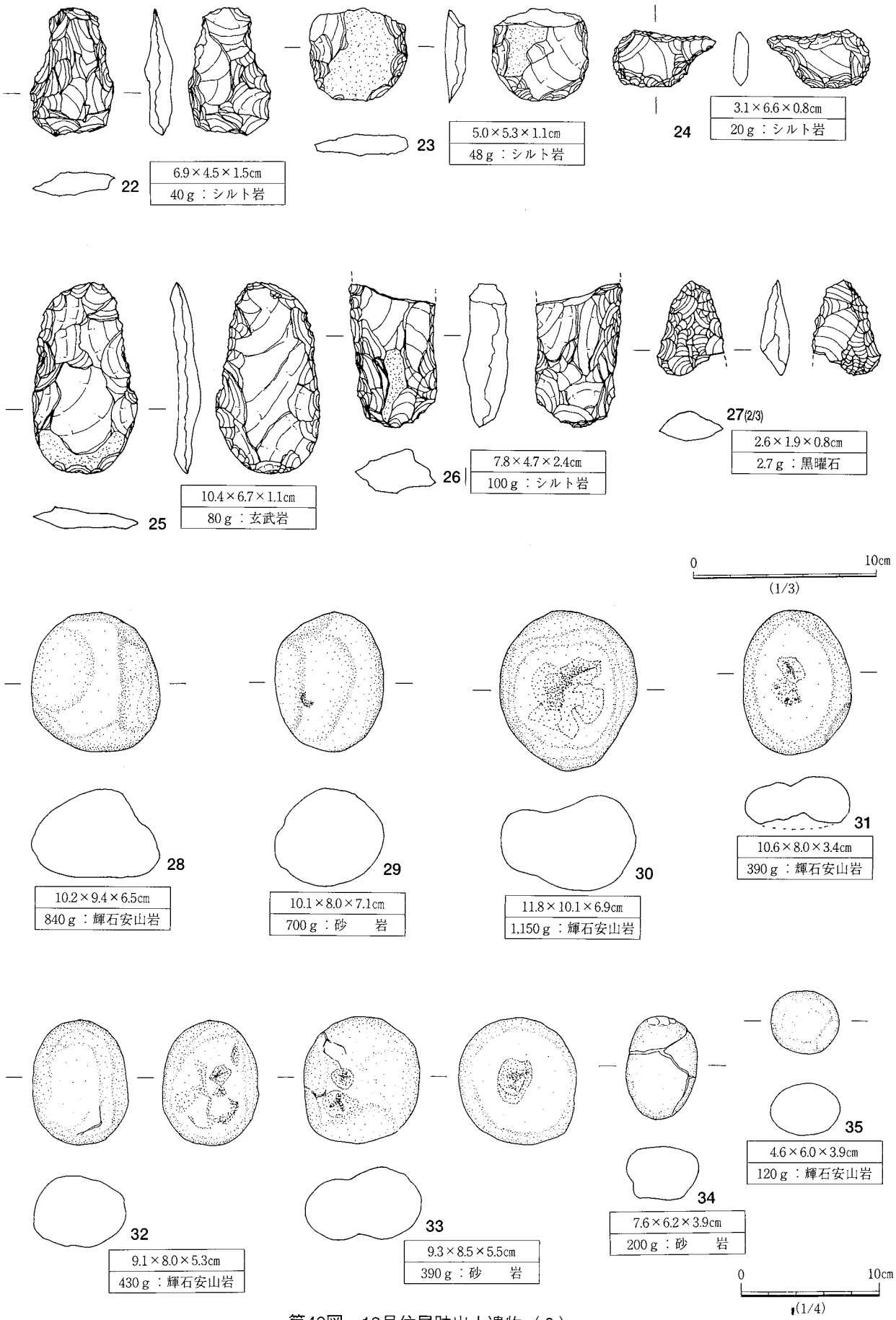
13号住居跡

1．黒色土　ローム粒疎、灰色粒やや密、φ1㎝位のロームブロック含む。しまりあり。粘性弱い。
2．黒褐色土　ローム粒疎、灰色粒やや密、φ1～30㎝位のロームブロックやや多く含む。しまり。粘性あり。
3．黒褐色土　ロームやや密、灰色粒やや密、φ1～30㎝位のロームブロック含む。炭化物疎に含む。しまり強い。粘性あり。
4．黒褐色土　ローム粒疎、灰色粒疎、ロームブロック少ない。炭化物疎に含む。しまり強い。粘性あり。
5．暗褐色土　ローム粒やや密、灰色粒疎やや密に含む。しまり強い。（最大）粘性あり。
6．暗褐色土　ローム粒やや密、灰色粒疎に含む。しまり強い。（最大）粘性あり。
7．暗褐色土　ローム粒、灰色粒疎に含む。茶褐色土に近い。しまりあり。粘性弱い。
8．黒褐色土　ローム粒、灰色粒疎に含む。しまり強い。粘性弱い。
9．暗褐色土　ローム粒、灰色粒疎に含む。φ3㎝位のロームブロック含む。しまり強い。粘性弱い。
10．暗褐色土　ローム粒、ほとんど含まない。茶褐色土に近い。しまりあり。粘性弱い。
11．黄橙褐色土　焼土粒多く含む。炉址？しまりあり。粘性弱い。
12．黒色土　ローム粒ほとんど含まない。しまりやや弱い。粘性あり。
13．暗褐色土　ローム粒疎、ローム・ＹＰブロック含む。しまりあり。粘性弱い。
14．暗茶褐色土　しまりあり。粘性弱い。

第40図　13号住居跡



第41図　13号住居跡出土遺物（1）



第42図　13号住居跡出土遺物（2）

1・2・3・6・7・8・9は、深鉢の口縁部片である。口縁部に浮線文で、渦巻き文を構成し、浮線文には刻目を付す。内面は削り・撫でを施す。

1の胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黄褐色である。

2の胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

3の胎土は砂粒を少量含み、焼成は普通で、色調は黄褐色である。

6は、胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は灰褐色である。

7・8は、胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は灰褐色である。

9は、胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

4は、口縁部が弱く内折する波状口縁部の深鉢である。縄文（RL）を地文に斜位の刻目を付した浮線文で文様を構成する。内面は研磨を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

5は、波状口縁で、波頂部下に貼付文を付す。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

10は、深鉢の口縁部片で、口縁部に2山の突起を付し、縄文（RL）を地文に、平行沈線で渦巻文を構成する。内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

11は、円筒状の深鉢の口縁部片である。外面全体に縄文（RL）を施文し、内面に研磨を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

12は、深鉢の口縁部片で、口縁部に平行沈線を数条施し、胴部上半に同平行沈線を弧状に集合施文する。口縁部には縦長の貼付文を付し、内面は撫でが施される。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

13は、深鉢の口縁部片で、口縁部に渦巻状の突起が突く。文様は縄文（RL）を地文に平行沈線で構成し、内面は撫でられる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

14は、深鉢の口縁部片で、口縁部に猪の把手が付く。文様は縄文（RL）を地文に浮線文で構成され、浮線文には斜位の刻目を付す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は灰褐色である。

15は、口縁部がくの字状に内折する深鉢で、口縁部に浮線文で渦巻文を構成し、浮線文には刻み目を付す。内面には削り及び撫でが施される。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は灰褐色である。

16は、深鉢の胴部上半片で、浮線文で渦巻文を構成し、浮線文には斜位の刻目を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

17は、円筒状の深鉢の胴部片である。縄文（RL）を地文に、斜位の刻目が付く浮線文を2～3状づつタガ状に施す。内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

18は、深鉢の胴部片である。文様構成は集合沈線で、胴部上半が横帯、下半が縦帯となり、内面は撫でが施される。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黒褐色である。

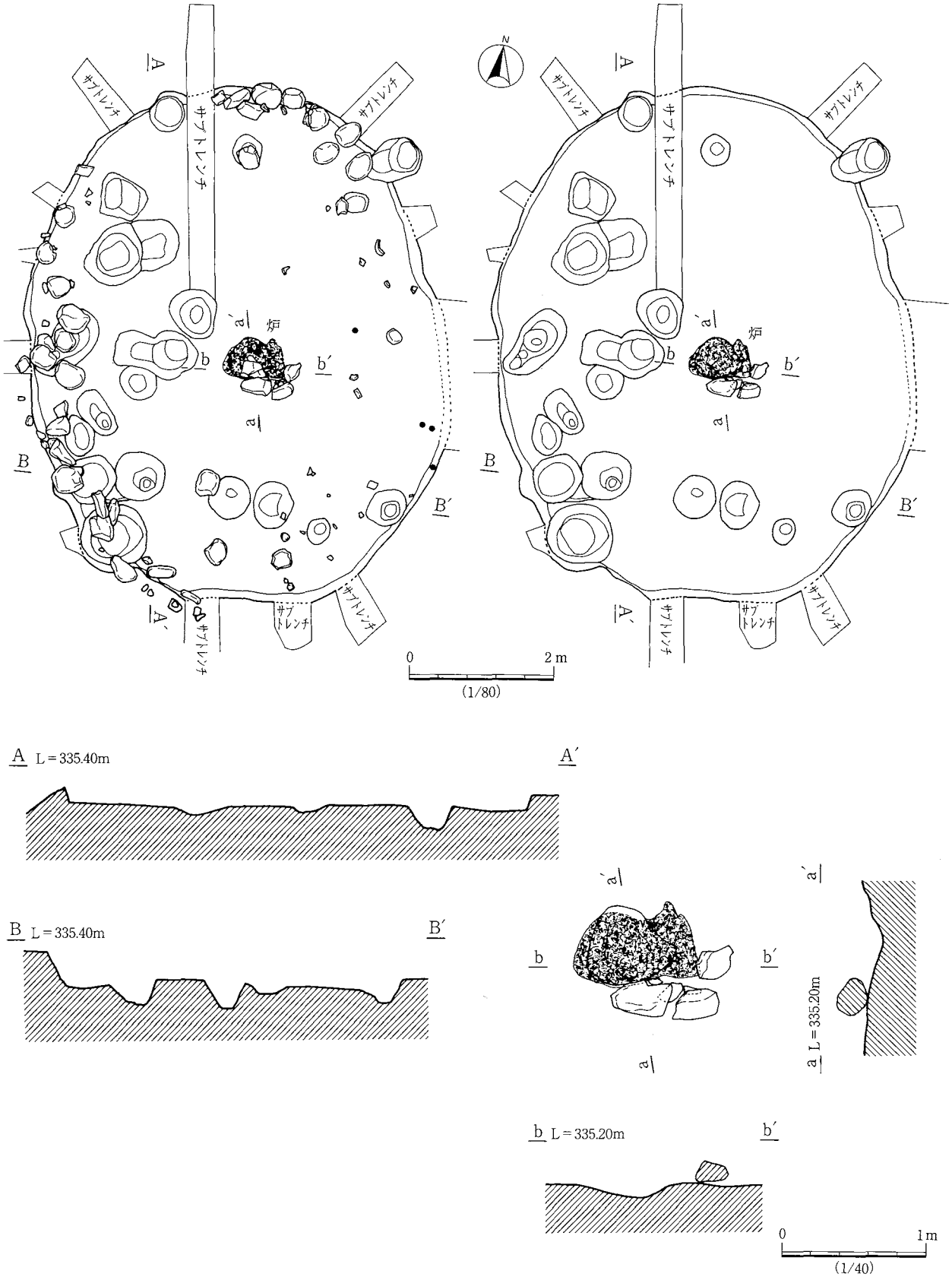
19は、波状口縁の深鉢である。縄文（RL）を地文に、2条と3条を単位とする浮線文を交互に帯状に施文する。口縁部波頂下には渦巻文と瘤状の貼付文を施す。口縁部の浮線文には斜位の刻目を施すが、胴部のにはない。内面は撫でられる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

20は、深鉢の胴部下半片である。縄文（RL）を地文に、2～3本単位の浮線文を数帯施文する。浮線文には斜位の刻目を施し、内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

21は深鉢の胴部片である。縄文（RL）を地文に2～3本単位の浮線文を数帯施文し、内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は暗褐色である。

22～35は石器で、22・23・25・26は、打製石斧、24は、石匙の未製品あるいは石錐と見られる。

27は、石鏃、28～35は、磨石及び凹石である。


A
A´
B
B´
a
a´
b
b´
炉
サブトレンチ
N
0
2m
(1/80)
A L=335.40m
A´
B L=335.40m
B´
a L=335.20m
b L=335.20m
0
1m
(1/40)

第43図　14号住居跡

14号住居跡　（第43・44図）

位置　／調査区中央部のEf－79・80グリッドにおいて検出され、２号配石墓群の西２ｍに位置している。

切り合い関係　／なし。　**平面形態**　／楕円形を呈し、住居跡を囲むような状態で安山岩を主体とした列石が検出され、２号配石墓群と組み合う配石の可能性がある。　**規模**　／長軸6.85ｍ、短軸5.50ｍ、深さ0.15ｍを計測する。　**長軸方向**　／Ｎ－０°。　**覆土**　／検出面よりの掘り込みが浅く、判然としない為サブトレンチを掘り下げての遺構確認となっている。　**柱穴**　／西側にかたよって多数のピットが穿たれる。床面からの深度は、10～88cmとまちまちであるが、概ね10～30cm代に集中している。　**壁**　／外傾する。　**床面**　／多少の起伏はあるものの全体的にはほぼ平坦である。特別に硬化した範囲は確認されていない。　**炉**　／住居跡中央部に検出される。炉は石囲炉で炉石が残存している。火床面は不整形に僅かに掘り窪められ、被熱により赤変硬化する。　**遺物**　／出土量は少ないが、赤彩土器及び磨製石斧が出土している。　**遺構の時期**　／堀之内式の土器を主体としていることより縄文後期と考えられる。

遺物

本遺構から出土した土器は、１～３・５・８が堀之内式、４・６・７・９～11が後期の範疇に納まると見られる。

１は、中形の深鉢の口縁部片で、沈線と刻目で文様が構成される。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は褐灰色である。

２は、小形で精製の深鉢の口縁部片である。朝顔形に開く口縁部を持ち、口縁端部は透かし孔のある小突起を持つ。内側に段を折り込み、口縁部直下に細い隆帯を巡らし、刻目を施す。縦方向にも隆帯を垂下し交点に刺突を施す。内外面は研磨する。胎土は細砂粒を含み、焼成は良好で、色調は褐灰色である。

３は、中形の深鉢の口縁部片で、朝顔形を呈する。口縁部は丸く内側に稜を持ち、口縁部直下に細い隆帯を巡らし刻目を施す。沈線で幾何学文を描き、縄文（LR）を充填し、内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は褐灰色である。

４は、両耳壺か？。口縁部は直立に立ち上がり、外面に丁寧な調整を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい黄橙色である。

５は、注口土器の胴部片か。３本１組の沈線を直線的に配置する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい橙色である。

６は、大形の深鉢で、条線により施文する。胎土は砂粒を含み、焼成は普通で、色調は黒褐色である。

７は、小形の鉢で、内外面に丁寧な研磨を施し、外面に赤色塗彩する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい橙色である。

８は、胴部に丸味のある鉢である。胴部は縄文施文後、３～４条の沈線を垂下して区画する。内外面の調整は良好である。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい黄橙色である。

９は、鉢の胴部片か。外面に赤色塗彩する。胎土は細砂粒を含み、焼成は普通で、色調は褐灰色である。

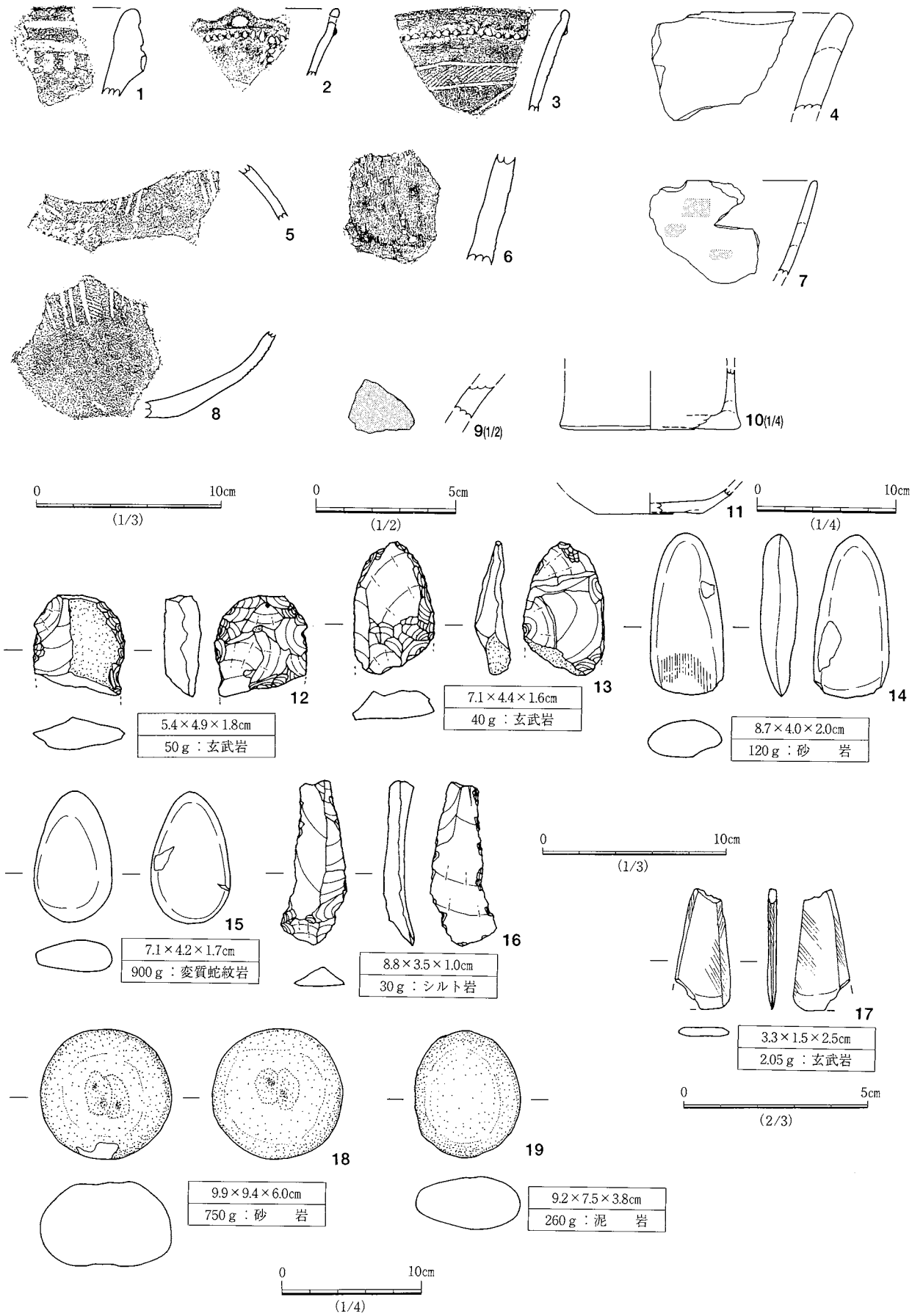
10は、底部の端部が張り出し気味で、胴部は内傾して立ち上がる。外面に縦位の器面調整を施す。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい橙色である。

11は、平底の鉢で、内面の調整が丁寧である。胎土は砂粒を含み、焼成は普通で、色調は褐色である。

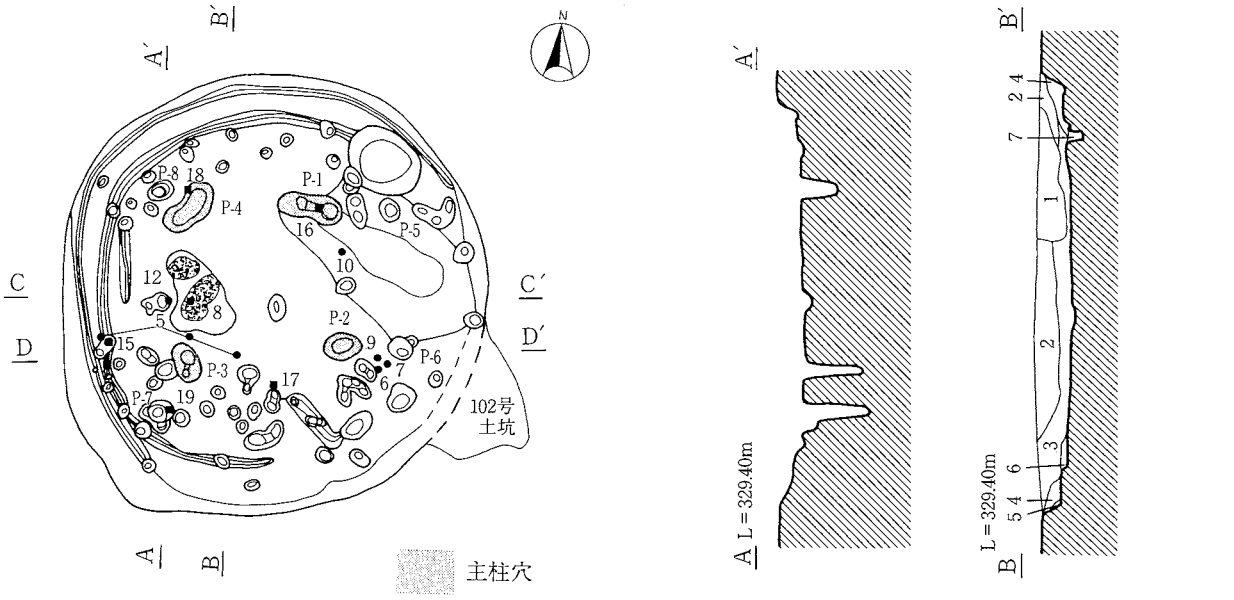
12～19は、石器である。

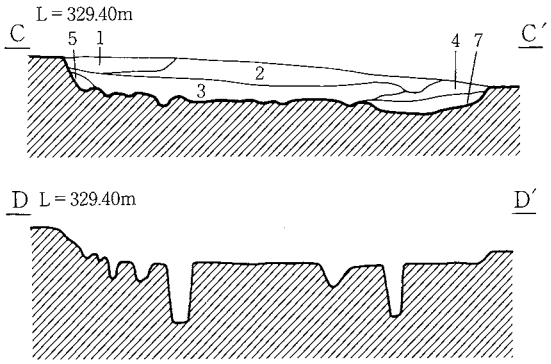
12・13は、打製石斧、14・17は、磨製石斧、15は、磨製石斧の未製品か。

16は、石匙と見られ、18・19は、磨石及び凹石である。



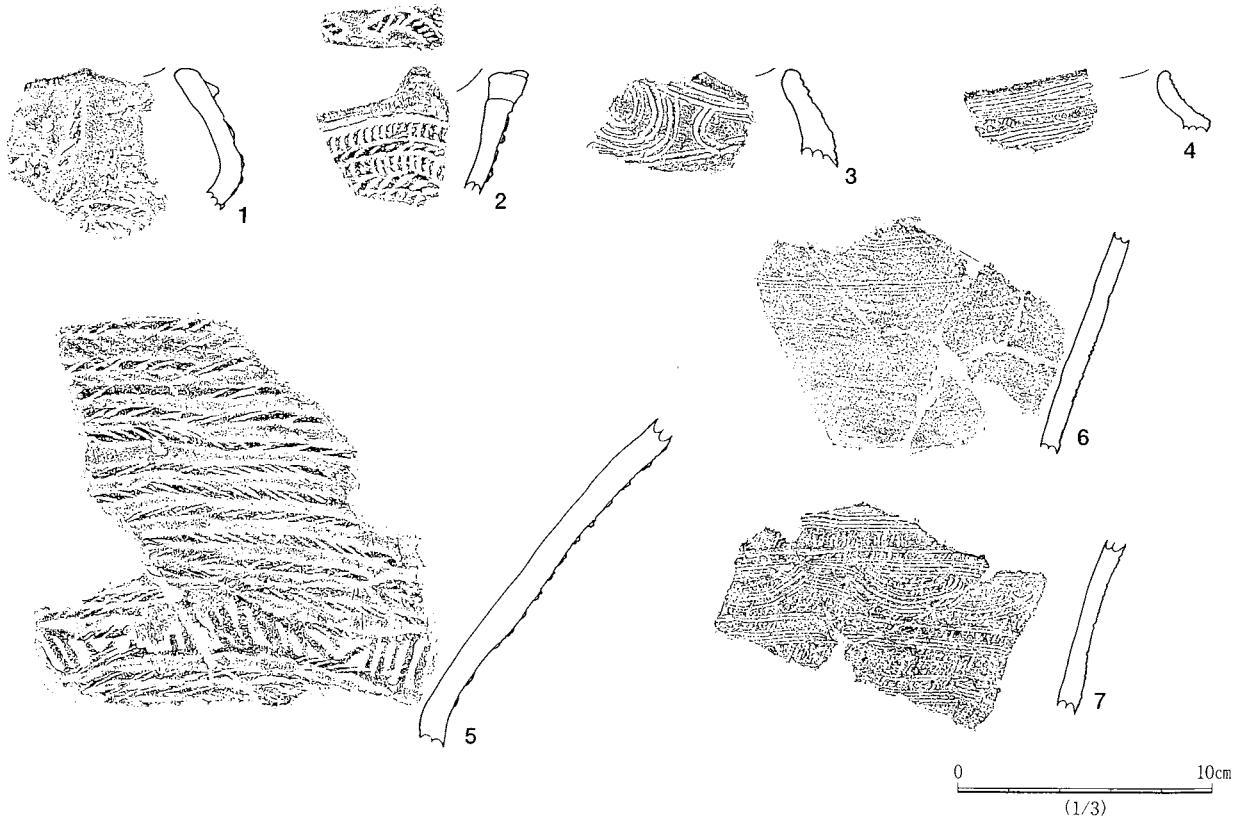
第44図　14号住居跡出土遺物



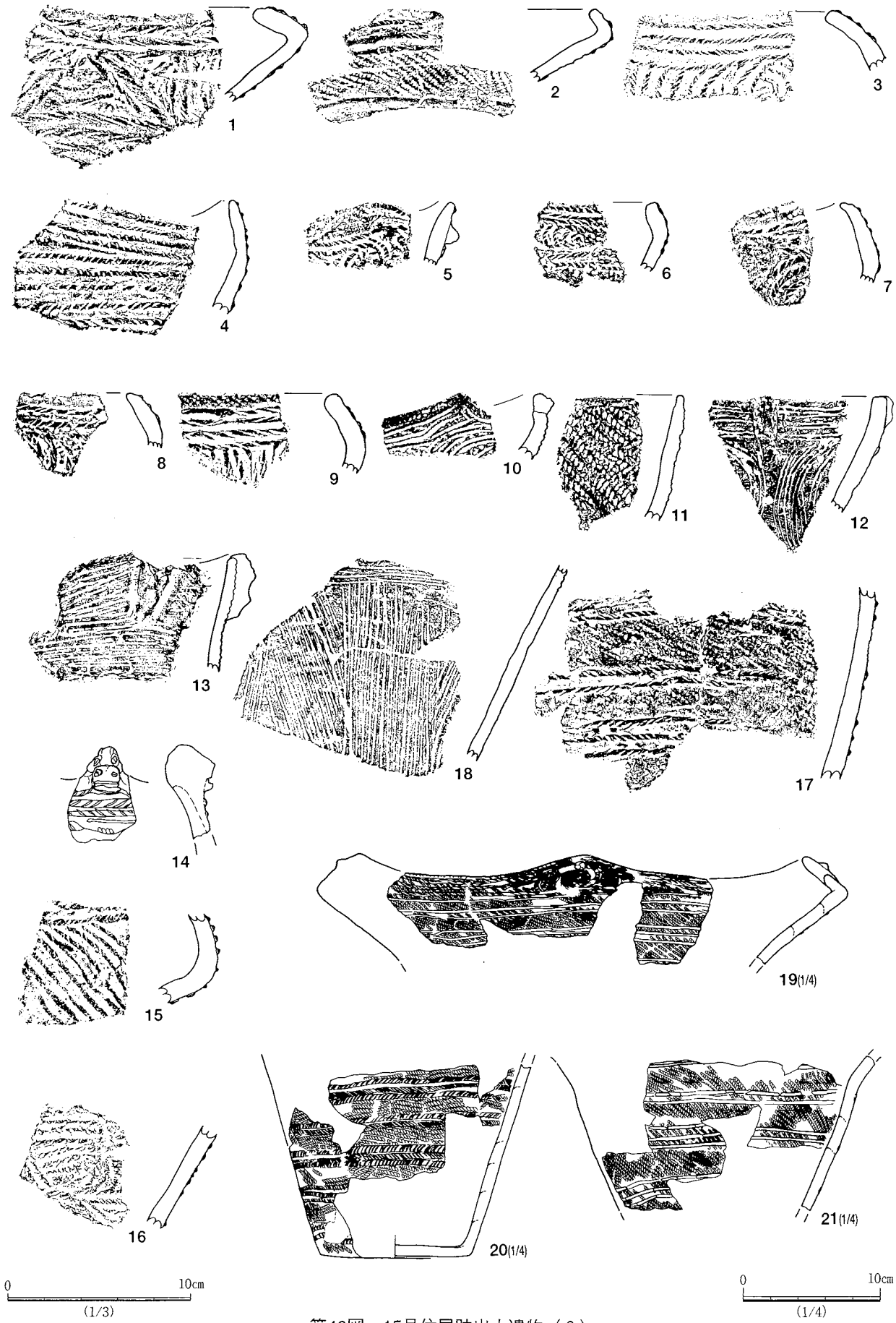


15号住居跡

1.	茶褐色土	ローム粒やや密、白色粒含む。炭化物疎に含む。しまりあり。粘性弱い。
2.	黒褐色土	ローム粒、白色粒やや密に含む。炭化物疎に含む。しまりあり。粘性弱い。
3.	黒褐色土	ローム粒、白色粒やや密に含む。φ1～3㎝位の小ロームブロック含む。しまりあり。粘性弱い。
4.	褐色土	ローム粒疎に含む。しまり強い。粘性あり。
5.	茶褐色土	ローム粒疎に含む。しまり強い。粘性あり。
6.	黒褐色土	ローム粒疎に含む。しまり強い。粘性あり。
7.	暗茶褐色土	φ3～5㎝程のロームブロック多く含む。ローム粒含む。しまり。粘性あり。



第45図　15号住居跡・出土遺物（1）



第46図　15号住居跡出土遺物（２）

15号住居跡　（第45・46図）

位置　／調査区西側のEj－95グリッドにおいて検出されている。　切り合い関係　／102号土坑と重複する。　平面形態　／円形。　規模　／長軸4.65ｍ、短軸4.45ｍ、深さ0.39ｍを計測する。　長軸方向　／Ｎ－3°－Ｅ。　覆土　／茶褐色土層に掘り込まれ、遺構内覆土は、黒褐色土・暗褐色土・暗茶褐色土がそれぞれ堆積する。　柱穴　／多数のピットが穿たれている為判然としないが、Ｐ－１～４の４本が主柱穴に相当すると見られ、床面からの深度は、Ｐ－１が75cm、Ｐ－２が41cm、Ｐ－３が62cm、Ｐ－４が50cmである。また、補助柱穴あるいは建て替えであろうか主柱穴の外側にＰ－５～８が確認される。深さは、Ｐ－５が49cm、Ｐ－６が55cm、Ｐ－７が72cm、Ｐ－８が41cmを測る。この他のピットはいずれも小さく深さも10～33cmとまちまちである。　壁　／外傾する。　壁溝　／住居跡北側から西側へかけて二重に巡り、建て替えあるいは拡張の痕跡を示すものか。計測値は、外側が幅10cm、床面よりの深さ３cm程、内側が幅15cm、床面よりの深さ８cm程である。　床面　／全体的にはほぼ平坦である。　炉　／不整形を呈する地床炉で、被熱により赤変硬化し、Ｐ－３と４の間に付設される。　遺物　／全体的に少ない出土量である。　遺構の時期　／諸磯ｂ式の土器片が主体をなしていることより縄文前期後半と考えられる。

遺物

本遺構から出土した土器は、いずれも諸磯ｂ式に包括されると見られる。

１は、波状口縁の深鉢で、波頂下口縁に猪を表現する。文様は縄文（RL）を地文に浮線文で構成し、浮線文には斜位の刻目を付す。内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

２は、波状口縁の深鉢で、２～３条単位の爪形文の間に斜位の刻目を施文する。内面は研磨する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は灰褐色である。

３は、口縁部が強く内湾する波状口縁の深鉢である。文様は平行沈線で渦巻文を構成する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は普通で、色調は黒褐色である。

４は、口縁部がくの字状に内折する波状口縁の深鉢で、縄文（RL）を地文に、集合沈線で文様を施文する。内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は淡褐色である。

５は、胴部上半が大きく開いた深鉢である。縄文（RL）を地文に、浮線文を横位に集合施文し、胴部の括れ部に梯子状の浮線文を巡らせる。浮線文には斜位の刻目が伴うが、梯子状の部分には施さない。内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は淡褐色である。

６・７・８・９は、深鉢の胴部片である。６は、胴部下半に無節縄文（R）を施し、条線を横位に数本施文する。胴部上半は無文で、内面と共に研磨する。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は淡褐色である。

７は、無節縄文（L）を地文に、条線を横位に数条施文する。括れ部には条線で波状文を、内面は削り、撫でを施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

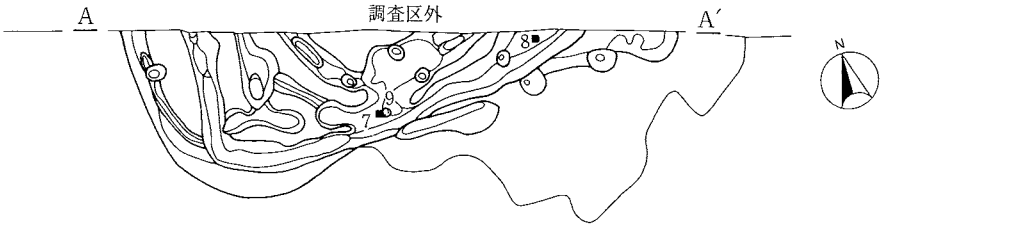
８は、縄文（RL）を地文に、条線を横位に数帯巡らし、内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は淡褐色である。

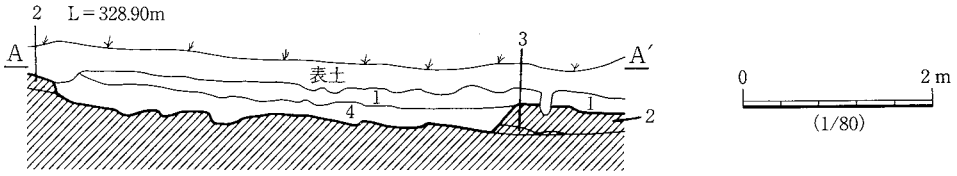
９は、無節縄文（L）を地文に、２条単位の平行沈線を横位に施文し、内面は研磨する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

10は、無文の深鉢で、外面篦削り内面研磨を施す。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

11は、端部が張り出す深鉢である。縄文（RL）を地文に刻目を付した３条の浮線文を施す。底面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

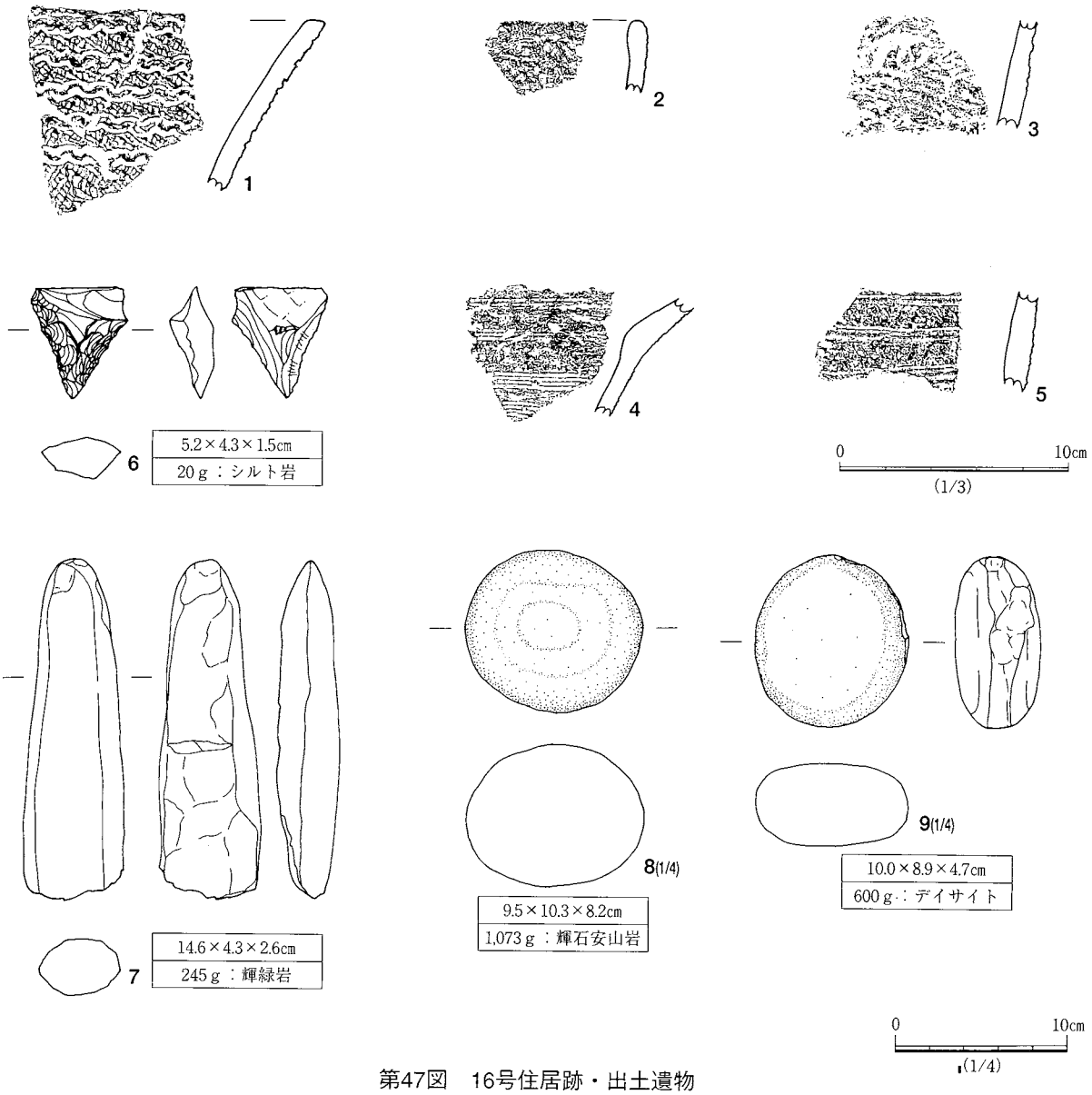
12は、底部片で、内面を撫で、外面を研磨する。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。





16号住居跡

1．黒褐色土　二次堆積ローム粒、白色粒をやや密に含む。耕作による影響大きい。
　　しまりあり。粘性なし。
2．黒褐色土　二次堆積様、ローム粒、白色粒を含む。ＹＰブロック含む。しまりやや強い、粘性弱い。
3．茶褐色土　ローム粒やや密に含む。しまり強い、粘性あり。
4．黒褐色土　ローム粒やや疎、炭化物疎に含む。白色粒密に含む。しまり強い、粘性なし。



第47図　16号住居跡・出土遺物

13は、胴部下半に段を持つ浅鉢である。内外面とも入念に研磨し、外面は黒色で光沢を持つ。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

14は、波状口縁の深鉢で、波頂部には鷲頭上の把手を付す。文様は縄文（RL）を地文に、集合沈線で構成する。内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

14～19が石器で、14は、石匙、15～17は、磨石及び凹石、19は、多孔石である。

16号住居跡　（第47図）

位置　／調査区西側のEi－96グリットにおいて検出されている。　**切り合い関係**　／なし。　**平面形態**　／不明。　**規模**　／東西4.0＋αm、南北1.8＋αm、深さ0.25mを計測する。　**長軸方向**　／不明。　**覆土**　／黒褐色土層に掘り込まれ、遺構内覆土は、黒褐色土・暗褐色土がそれぞれ堆積する。　**柱穴**　／多数の小ピットが穿たれている為判然としない。　**壁**　／外傾する。　**壁溝**　／多数の溝状の掘り込みが確認されている為不明である。　**床面**　／住居跡の掘り方であろうか溝状の掘り込みが多数検出されており床面の状況は明らかではない。　**炉**　／不明。　**遺物**　／部分的な調査の為出土量は少ない。　**遺構の時期**　／全域の調査を実施しておらず詳細は不明であるが、検出された土器は黒浜式の土器片を主体としている。

遺物

本遺構から出土した土器は、いずれも黒浜式に包括されると見られる。

1は、口縁部が弱く外反する深鉢で、口唇部は内削ぎ状である。付加条第1種縄文（RL＋1、LR＋r）で、菱形の羽状縄文を構成する。口縁部に平行沈線による5条の波状文を横位に施文し、内面は研磨する。胎土は繊維を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

2は、口縁部が弱く内湾する深鉢である。外面に縄文（RL）を施文し、内面は撫でる。胎土は繊維を多量に含み、焼成は普通で、色調は黄褐色である。

3は、深鉢で、文様は不明瞭である。胎土は繊維を多量に含み、焼成は普通で、色調は黄褐色である。

4は、胴部がくの字に括れた深鉢である。胴部の括れ部の上下に条線を横位に2本づつ施文し、内面は研磨する。胎土は繊維を多量に含み、焼成は普通で、色調は灰褐色である。

5は、深鉢の胴部片である。縄文（LR）を地文に、平行沈線を横位に3条施文し、内面を撫でる。胎土は繊維を多量に含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

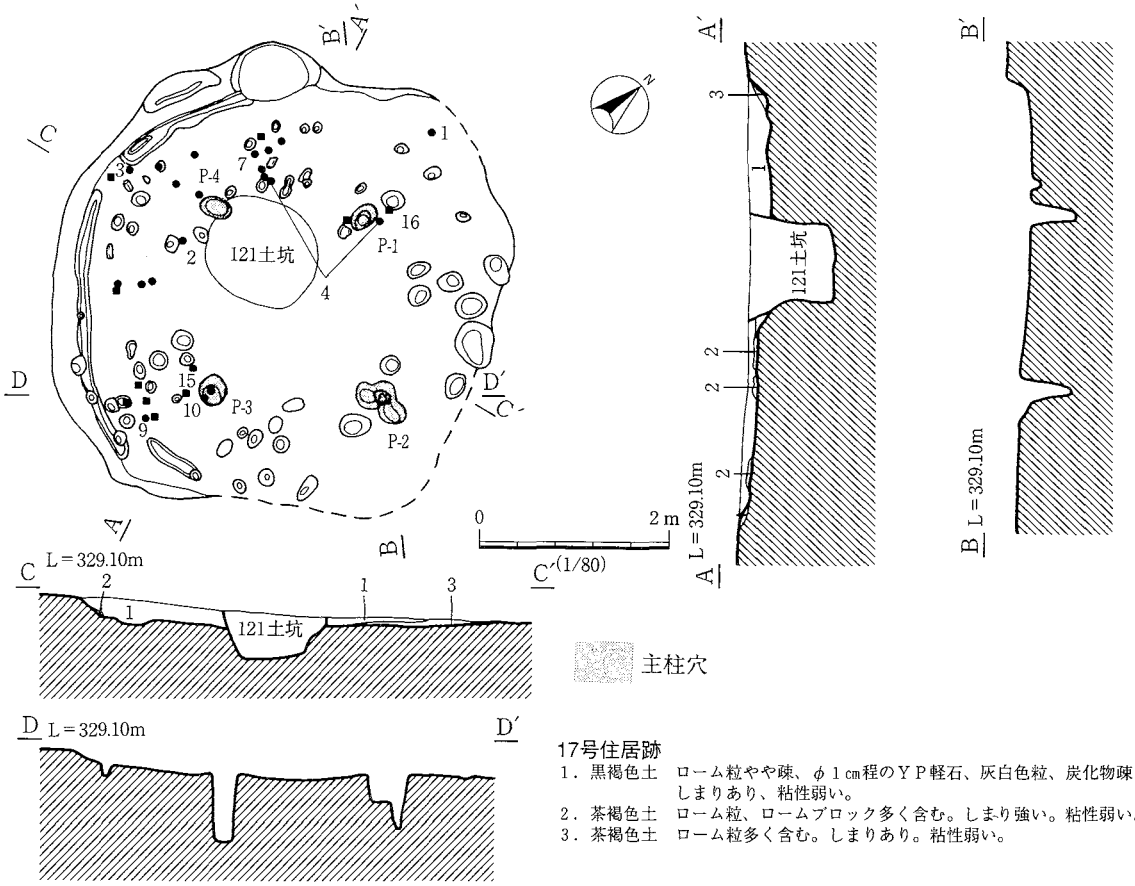
7～9は、石器で、7は、磨製石斧、8・9は、磨石及び凹石で、9の側面に凹みが確認される。

17号住居跡　（第48・49図）

位置　／調査区西側のEj－95・96グリットにおいて検出されている。　**切り合い関係**　／121号土坑と重複し本跡が古い構築である。　**平面形態**　／円形。　**規模**　／長軸4.70m、短軸4.50m、深さ0.10mを計測する。　**長軸方向**　／N－72°－E。　**覆土**　／茶褐色土層に掘り込まれ、遺構内覆土は、黒褐色土・茶褐色土が堆積する。　**柱穴**　／多数のピットが穿たれている為判然としないが、P－1～4の4本が主柱穴に相当すると見られ、床面からの深度は、P－1が48cm、P－2が57cm、P－3が70cm、P－4が52cmである。この他のピットはいずれも小さく12～43cmと深さはまちまちである。　**壁**　／緩斜する。　**壁溝**　／住居跡の西部分に幅10cm、深さ4cm前後で断続的に穿たれる。　**床面**　／全体的にはほぼ平坦である。　**炉**　／なし。　**遺物**　／全体に少ない出土量である。　**遺構の時期**　／諸磯b式の土器片が主体をなしていることより縄文前期後半と考えられる。

遺物

本遺構から出土した土器は、いずれも諸磯b式に包括されると見られる。

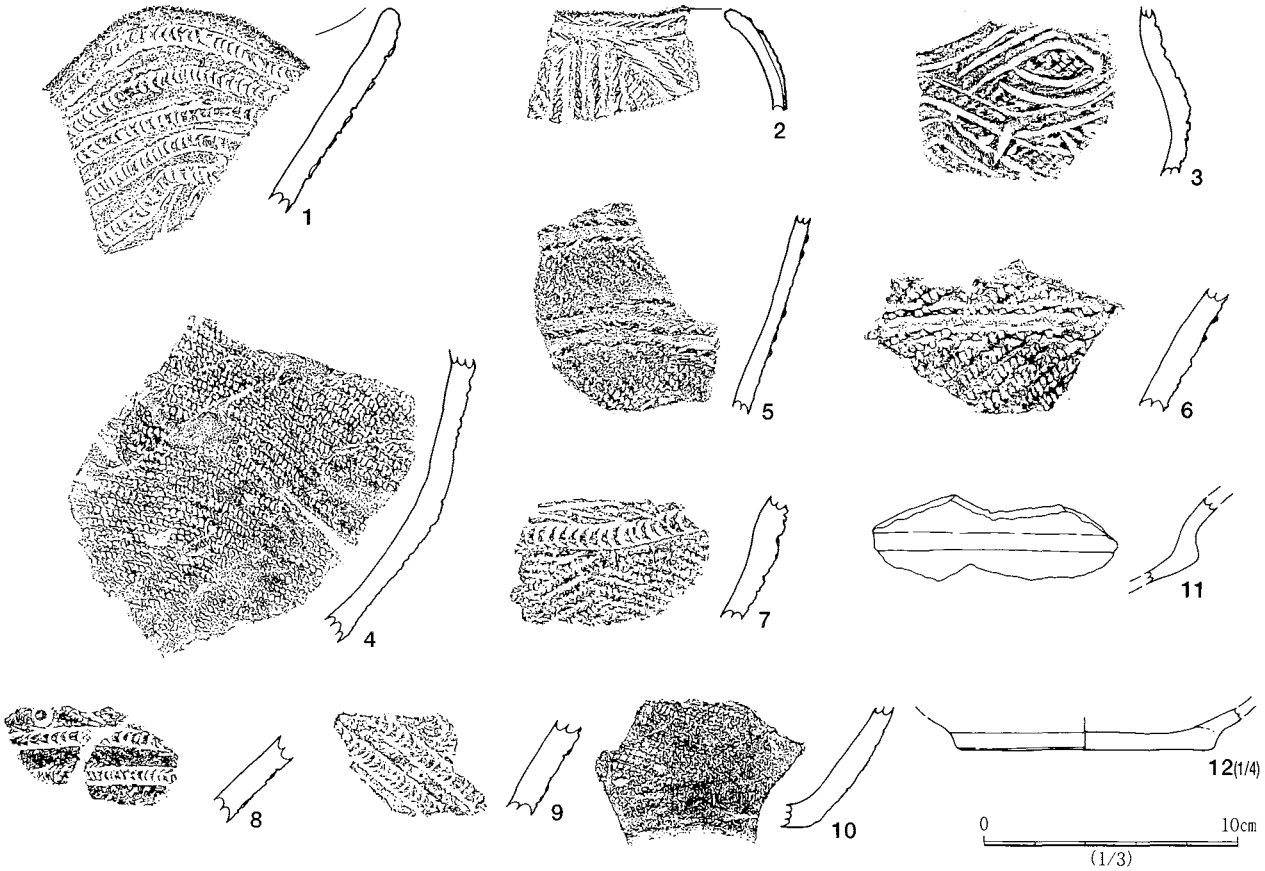


17号住居跡

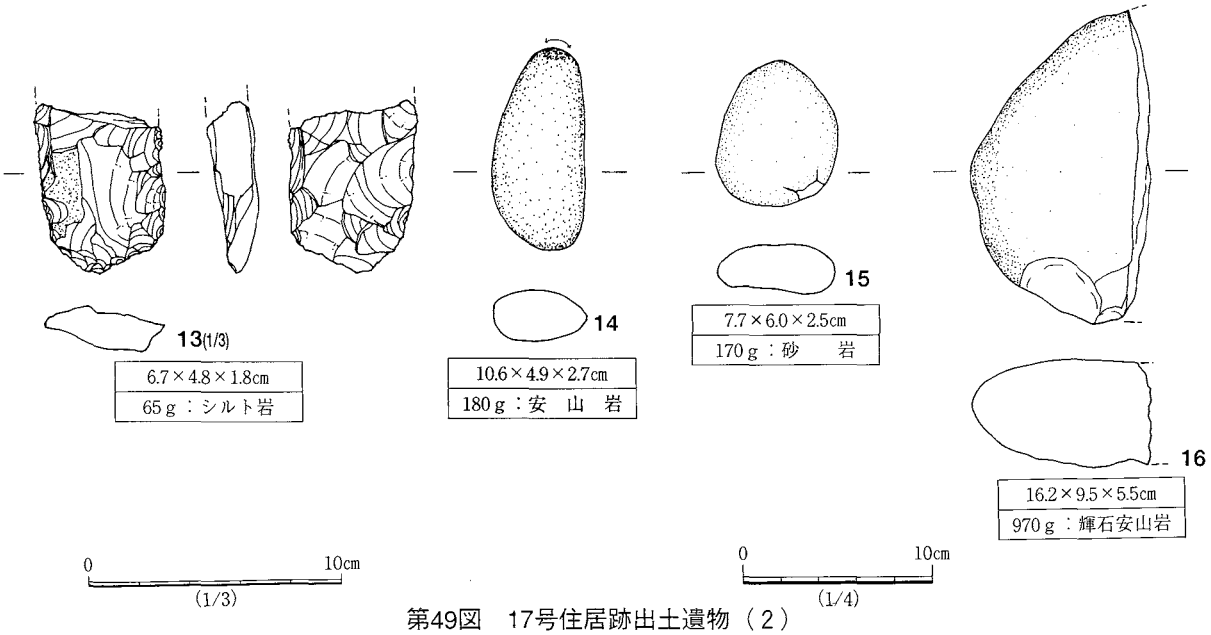
1．黒褐色土　ローム粒やや疎、φ1㎝程のＹＰ軽石、灰白色粒、炭化物疎に含む。しまりあり、粘性弱い。

2．茶褐色土　ローム粒、ロームブロック多く含む。しまり強い。粘性弱い。

3．茶褐色土　ローム粒多く含む。しまりあり。粘性弱い。



第48図　17号住居跡・出土遺物（１）



第49図　17号住居跡出土遺物（2）

1は、波状口縁の深鉢で、口縁部に沿って5条の爪形文を施文し、胴部には平行沈線が見られる。内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は淡褐色である。

2は、口縁部が内湾する波状口縁の深鉢で、口唇部に浮線文を施し、薄手で精緻な作りである。縄文（RL）を地文に、2本単位の浮線文で文様を構成し、浮線文には斜位の刻目を付す。内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

3・4・7は、胴部中位が括れる深鉢である。3は、縄文（RL）を地文に、平行沈線で菱形状の文様を構成し、内面は研磨する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

4は、外面全体に縄文（RL）を施文し、内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

5は、深鉢の胴部片で、縄文（RL）を地文に、2～3条の浮線文を横位に数帯施文し、浮線文には斜位の刻目を付す。内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

6は、5と同じタイプだが、浮線文に縄文（LR）を施文し、内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は灰褐色である。

7は、不規則に施した縄文（RL）を地文に、2～3条の爪形文で文様を構成し、爪形文の間には斜位の刻目を付す。内面は研磨する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

8・9・10は、深鉢の胴部片である。爪形文で文様を構成し、文様の要所に円形刺突を施す。内面は研磨する。胎土は砂粒を多量を含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

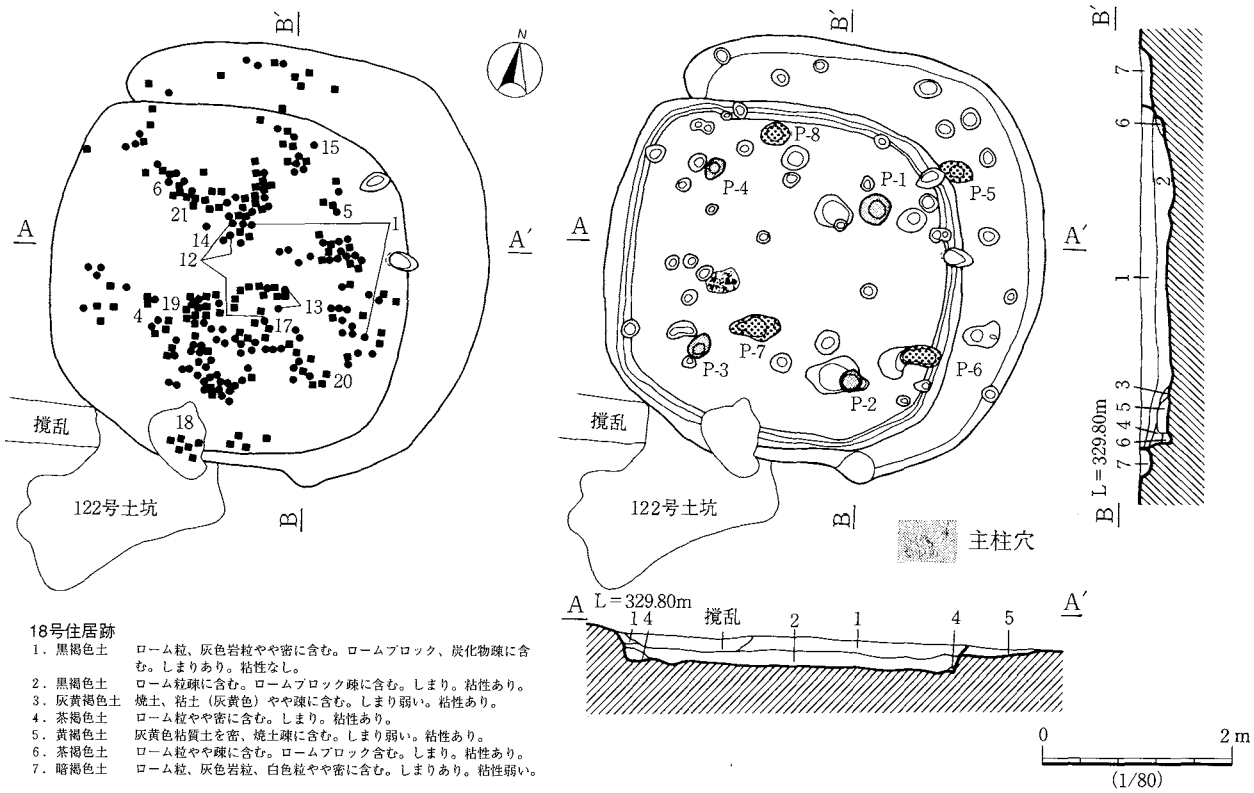
9は、爪形文で文様を構成し、内面は撫でる。胎土は砂粒を含み、焼成は普通で、色調は暗褐色である。

10は、外面に縄文（RL）を施文し、内面、底面共に研磨する。胎土は片岩を少量含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

11は、胴部下半に段を持つ無文の浅鉢で、内外面を軽く研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は灰褐色である。

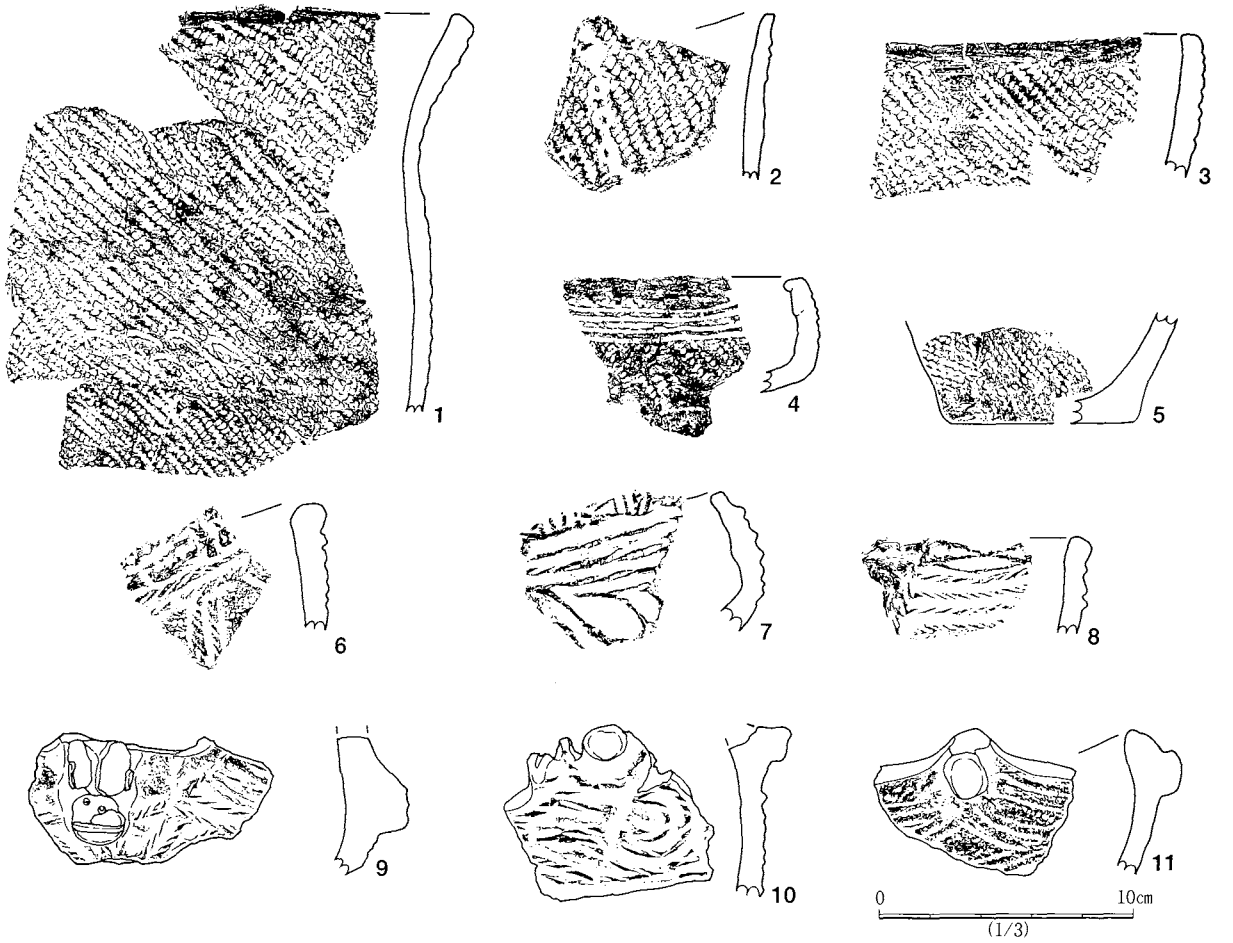
12は、浅鉢の底部片で、外面に赤色塗彩し、内面を研磨する。胎土は雲母・砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

13～16は、石器で、13が打製石斧片、14～16が磨石である。14は先端に叩きの痕跡が確認され、16は、石皿状である。



18号住居跡

1．黒褐色土　ローム粒、灰色岩粒やや密に含む。ロームブロック、炭化物疎に含む。しまりあり。粘性なし。
2．黒褐色土　ローム粒疎に含む。ロームブロック疎に含む。しまり。粘性あり。
3．灰黄褐色土　焼土、粘土（灰黄色）やや疎に含む。しまり弱い。粘性あり。
4．茶褐色土　ローム粒やや密に含む。しまり。粘性あり。
5．黄褐色土　灰黄色粘質土を密、焼土疎に含む。しまり弱い。粘性あり。
6．茶褐色土　ローム粒やや疎に含む。ロームブロック含む。しまり。粘性あり。
7．暗褐色土　ローム粒、灰色岩粒、白色粒やや密に含む。しまりあり。粘性弱い。



第50図　18号住居跡・出土遺物（1）

18号住居跡　（第50・51図）

位置　／調査区西側のEh－95グリッドにおいて検出されている。　切り合い関係　／122号土坑と重複し、本跡が新しい構築である。また、住居跡の外側には深さ10cm程で方形状を呈する掘り込みが確認されており、調査時の所見として遺構番号は付されていないが、重複の可能性が考えられ、スクリントーンで図示したＰ－５～８を主柱穴とする住居跡が存在したと推測される。　平面形態　／方形。　規模　／外側の掘り込みを計測しない長軸は3.77ｍ、短軸は3.55ｍ、深さは0.30ｍである。　長軸方向　／Ｎ－85°－Ｅ。　覆土　／黒褐色土・茶褐色土・灰黄褐色土・黄褐色土がそれぞれ堆積するが、大まかには灰色岩粒・炭化物含有による相違する黒褐色土層２層が主体をなす。　柱穴　／Ｐ－１～４の４本が主柱穴に相当すると見られ、床面からの深度は、Ｐ－１が47cm、Ｐ－２が56cm、Ｐ－３が45cm、Ｐ－４が24cmである。この他のピットはいずれも小さく10～54cmと深さはまちまちである。　壁　／外傾する。　壁溝　／幅14cm前後、深さ５cm前後で住居跡内の壁下に巡る。　床面　／多少の起伏はあるものの全体的にはほぼ平坦である。　炉　／不整形を呈する地床炉で、被熱により赤変硬化し、住居跡西部分のＰ－３と４を結んだ線のやや内側Ｐ－３寄りに付設される。　遺物　／比較的住居跡内に偏り無く出土している。　遺構の時期　／諸磯式の土器を主体としていることより縄文前期後半の所産と見られる。

遺物

本遺構から出土した土器は、１～５が諸磯ａ式、６～15が諸磯ｂ式として包括される一群である。

１は、口縁部が外傾する深鉢で、外面全体に縄文（RL）を施文する。内面は撫で及び研磨を施す。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は明褐色である。

２は、波状口縁の深鉢で、縄文（RL）を地文に縦位の円形刺突列を施す。内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

３は、深鉢の口縁部片で、外面に縄文（RL）を施文する。内面は撫で及び研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は明褐色である。

４は、口縁部片で、縄文（RL）を地文に口唇部近くに沈線を巡らす。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

５は、底部片で、外面に縄文（RL）を施文する。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

６・７・８は、口縁部片で、文様は、斜位の刻目を付した浮線文で構成する。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は明褐色である。

９は、猪の把手が付く深鉢である。文様は、斜位の刻目を付した浮線文で構成する。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は明褐色である。

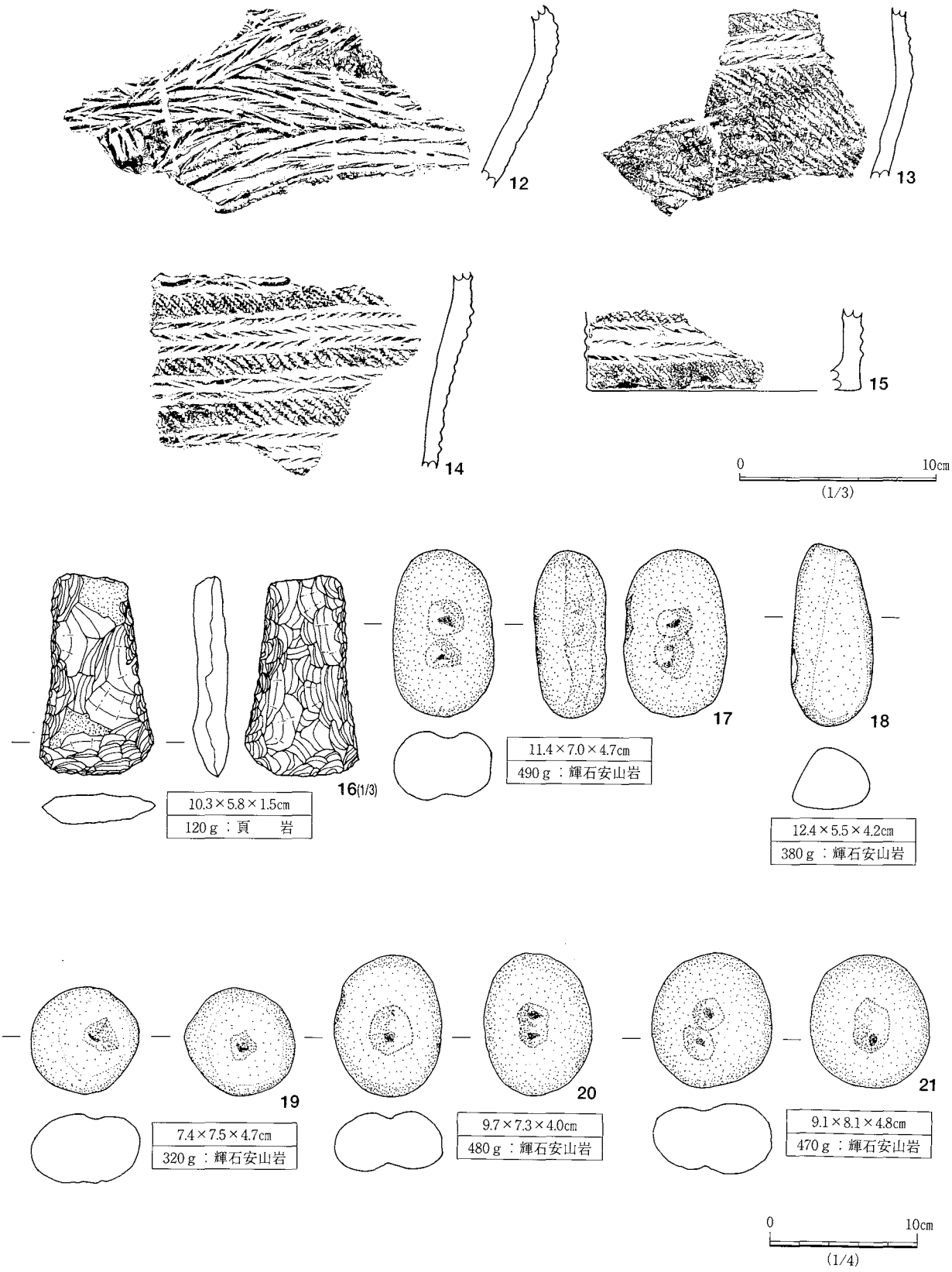
10は、口縁部片で、文様は、斜位の刻目を付した浮線文で渦巻文を構成する。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は明褐色である。

11は、口縁部片で、瘤状の貼付文を付す。文様は、平行沈線で構成する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

12・13・14は、深鉢の胴部片である。文様は、縄文を施文した後、斜位の刻みを施した浮線文を貼り付ける。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

15は、底部片で、文様は、縄文を施文した後、斜位の刻みを施した浮線文を貼り付ける。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は明褐色である。

16は、撥形に属する打製石斧、17～21は磨石及び凹石である。



第51図　18号住居跡出土遺物（２）

19号住居跡　（第52図）

位置　／調査区西側のEi－95グリッドにおいて検出され、遺構の大部分が調査区外となる。　切り合い関係　／なし。　平面形態　／不明。　規模　／東西2.9＋αｍ、南北1.1＋αｍ、深さ0.45ｍを計測する。　長軸方向　／不明。　覆土　／茶褐色土層に掘り込まれ、遺構内覆土は、黒褐色土・暗褐色土・暗茶褐色土・茶褐色土がそれぞれ堆積する。　柱穴　／深さ30cmと14cmの小ピットが２基調査範囲から検出されている。

壁　／外傾する。　壁溝　／幅28cm前後、深さ３～35cmで調査範囲内の壁下に巡る。　床面　／ほぼ平坦である。　炉　／不明。　遺物　／　遺構の時期　／黒浜式の土器を主体としていることにより縄文前期と見られる。

遺物

本遺構から出土した遺物はいずれも黒浜式に包括されるものである。

１・２は、胴部上位が弱く括れた深鉢である。

１は、外面に縄文（RL・LR？）を施文し、部分的に羽状になる。内面は研磨する。胎土は繊維を多量に含み、焼成は普通で、色調は黄褐色である。

２は、外面全体に菱形の羽状縄文を構成し、内面は研磨する。胎土は繊維を多量に含み、焼成は普通で、色調は黒褐色である。

３・４・５・６・７・８・９・10は、深鉢の胴部片である。

３は、縄文（RL）を地文に、条線で波状文を構成し、内面は撫でる。胎土は繊維を多量に含み、焼成は良好で、色調は淡褐色である。

４は、縄文（RL）を地文に、爪形文で文様を構成し、文様の交点に指頭圧痕を施文する。内面は研磨する。胎土は繊維を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

５は、付加条第１種、軸縄前々段反撚り（RLL＋反撚LL）を地文として、口縁部に沿う形で２条単位の平行沈線を施す。内面は研磨する。胎土は繊維を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色から黒褐色である。

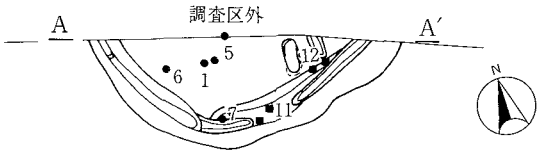
６は、羽状縄文を施文し、内面は撫でる。内面に炭化物が付着する。胎土は繊維を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

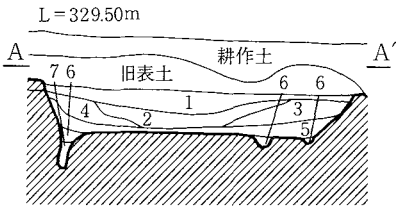
７は、０段３条（RL・LR）の羽状縄文を施文し、内面は撫でる。胎土は繊維・片岩を多量に含み、焼成は普通で、色調は黄褐色である。

８は、胴部上半に、数条の沈線で菱形文を構成し、内面は研磨する。胎土は繊維・片岩を多量に含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

９は、胴部上半に平行沈線で文様を構成し、下半に縄文を施文する。内面は撫でる。胎土は繊維を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

10は、外面全体に無節縄文（L）を施文し、内面を研磨する。胎土は繊維を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

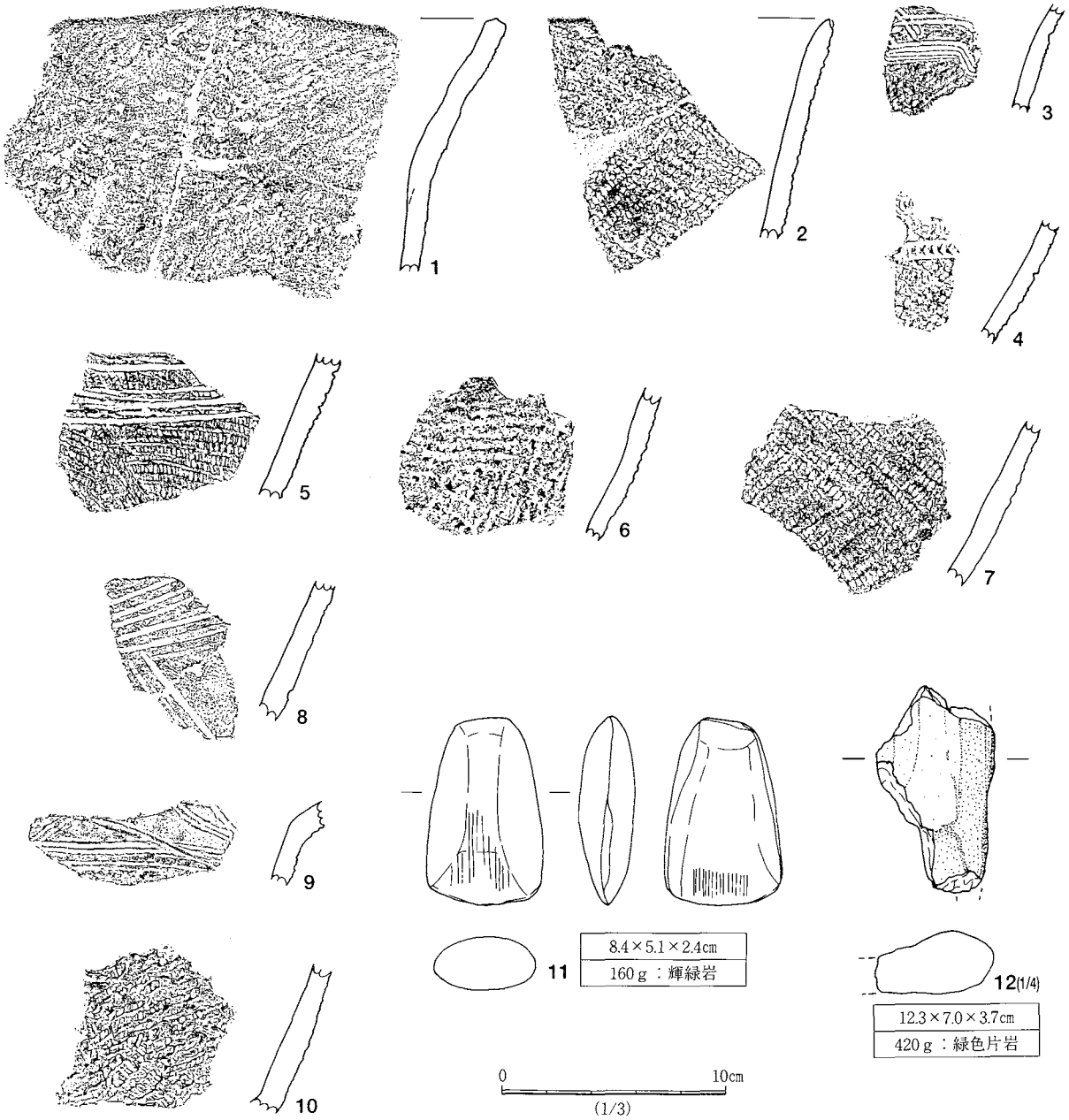




0　　2m
(1/80)

19号住居跡

1．黒褐色土　ローム粒やや密、小ロームブロック含む。白色粒密に含む。炭化物疎に含む。しまり粘性あり。
2．暗褐色土　1よりローム粒、ロームブロック多く含む。しまり粘性あり。
3．暗褐色土　2よりローム粒、ロームブロック多く含む。しまりあり。粘性強い。
4．暗茶褐色土　ローム粒多く含む。しまりあり。粘性弱い。
5．茶褐色土　ロームブロック密に含む。しまり弱い。粘性あり。
6．暗褐色土　ローム粒疎に含む。しまりあり。粘性弱。
7．暗黄褐色土　ローム粒、ロームブロック多量に含む。しまり粘性あり。



第52図　19号住居跡・出土遺物

20号住居跡　（第53・54図）

位置　／調査区西側のEh－94グリッドにおいて検出され、遺構の大部分が調査区外となる。　**切り合い関係**　／126号土坑と重複し、本跡が新しい構築である。　**平面形態**　／不明。　**規模**　／東西3.7＋α m、南北1.5＋α m、深さ0.6 mを計測する。　**主軸方向**　／不明。　**覆土**　／茶褐色土層に掘り込まれ、遺構内覆土は黒褐色土・暗褐色土・暗茶褐色土・茶褐色土が確認される。　**柱穴**　／深さ24～32cmの小ピットが確認される。　**壁**　／外傾する。　**壁溝**　／不明。　**床面**　／壁際へかけて僅かながら壇状に高くなる。　**炉**　／不明。　**遺物**　／部分的な調査の為出土量は少ない。　**遺構の時期**　／全域の調査を実施していない為詳細については不明であるが、出土遺物においては諸磯ｂ式の土器を主体としている。

遺物　本遺構から出土している土器は、諸磯ｂ式の範疇に納まると見られる。

1・3は、口縁部が内折する波状口縁の深鉢である。1は、胴部上半に平行沈線で曲線的な文様を構成し、波頂下には横長の小突起を付す。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は灰褐色である。

2は、口縁部が強く内湾する深鉢である。口唇部に浮線文を網目状に施文し、文様は縄文（RL）を地文に、3条単位の浮線文で渦巻状文を構成している。浮線には斜位の刻目を付し、内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

3は、縄文（RL）を地文に条線を構成する。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

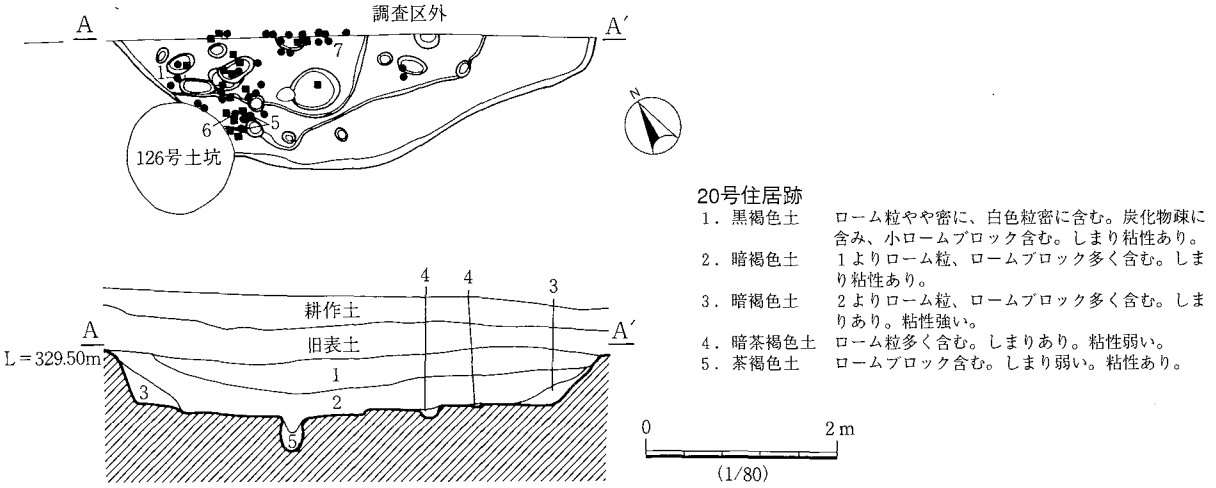
4は、波状口縁の深鉢で、条線で文様を構成し、内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

5・6は、胴部が強く張る壺状の器形である。5は、胴部下半に縄文（RL）を施し、胴部中位は無文で研磨する。底部近くの結節は原体端部の結び目と見られる。研磨部は黒色化しており、黒漆を塗った可能性がある。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

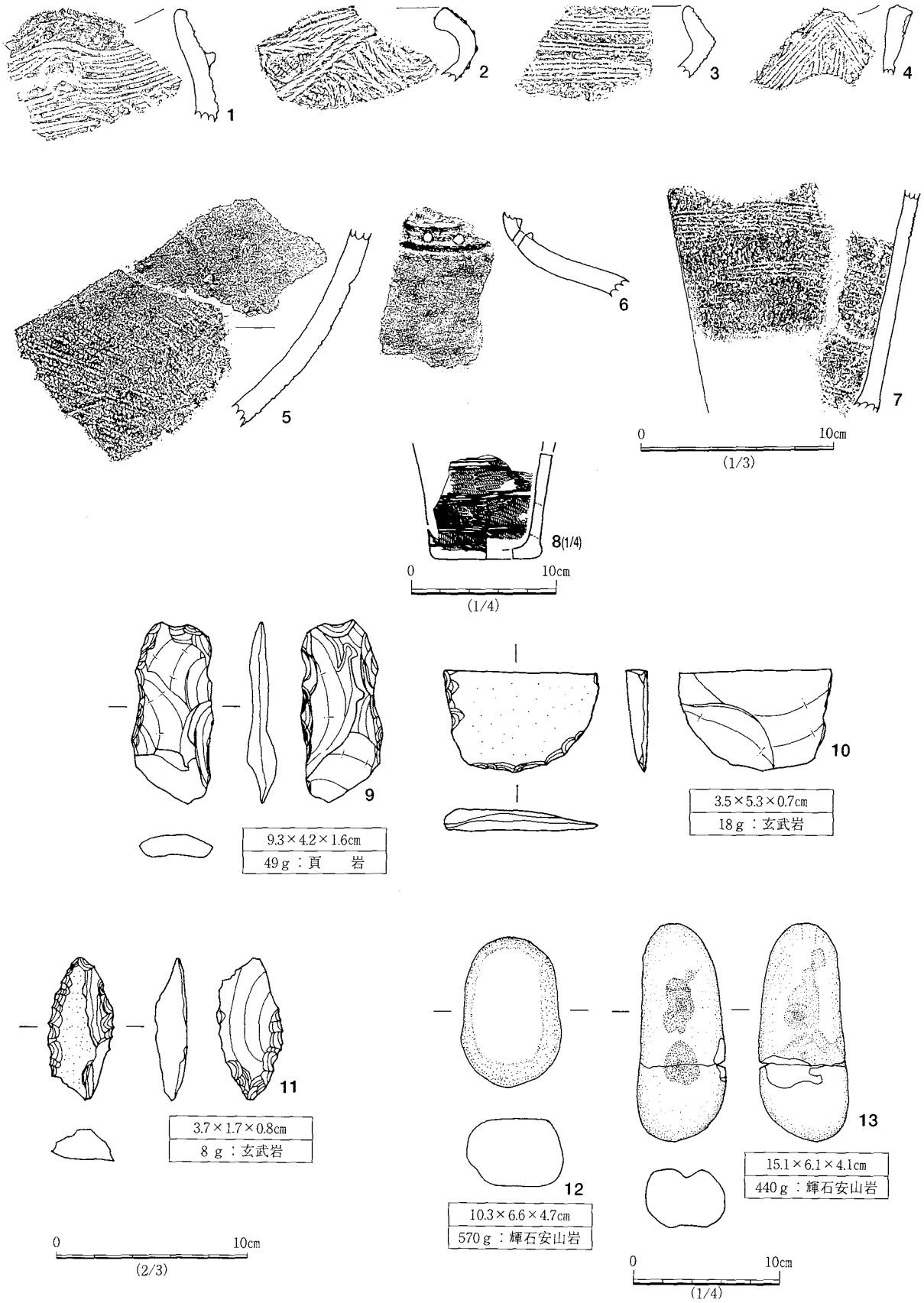
6は、頸部に隆帯を2条施し、その間に円孔を等間隔に穿つ。外面は無文で入念に研磨し、内面も研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

7・8は、深鉢の胴部片である。縄文（RL）を地文に、横位条線帯を数帯施す。内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。8は、縄文（RL）を地文に、2条単位の平行沈線を横位帯状に施文する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は明褐色である。

9～13は、石器で、9が打製石斧、10がスクレイパー、11が剥片石器、12・13が磨石及び凹石である。



第53図　20号住居跡



第54図　20号住居跡出土遺物

22号住居跡　（第55・56図）

位置　／調査区西側のEa－65グリッドにおいて検出された。　**切り合い関係**　／なし。　**平面形態**　／台形。　**規模**　／長軸4.40ｍ、短軸4.30ｍ、深さ0.36ｍを計測する。　**主軸方向**　／Ｎ－11°－Ｗ。　**覆土**　／黒褐色土・暗茶褐色土・茶褐色土が確認され、このうちローム粒・灰色岩粒を含み、ロームブロックの有無及び炭化物の含有量により相違が見られる二層の黒褐色土が主体をなす。　**柱穴**　／Ｐ－１～４が主柱穴と見られ、深さはＰ－１が57cm、Ｐ－２が61cm、Ｐ－３が61cm、Ｐ－４が68cm。この他、17～46cmの小ピットが確認される。　**壁**　／外傾する。　**壁溝**　／幅10cm、深さ３cmで住居跡内の壁下に断続的に巡る。　**床面**　／全体的に起伏がある。　**炉**　／なし。　**遺物**　／比較的柱穴付近に分布が見られ、特にＰ－４近くからは１の深鉢が出土している。　**遺構の時期**　／諸磯ｂ式の土器を主体とし縄文前期後半と見られる。

遺物

本遺構から出土している土器は、諸磯ｂ式の範疇に納まると見られる。

１は、胴部上部が括れた深鉢で、縄文（RL）を地文に、５本単位の爪形文を数帯施文し、内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色から黄褐色である。

２・４は、口縁部が内折する波状口縁の深鉢である。２は、縄文（RL）を地文に、口縁部に浮線文で渦巻状の文様を構成し、浮線文には斜位の刻目を付す。内面は撫でる。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黄褐色から黒褐色である。

３は、口縁部が強く内湾する深鉢で、口縁部に山形の突起を付す。縄文（RL）を地文に、口縁部に平行沈線で渦巻文を構成し、突起下には瘤状の貼付文を付す。内面は撫でる。胎土は砂粒を少量含み、焼成は普通で、色調は黒褐色である。

４は、縄文（RL）を地文に、浮線文で文様を構成する。文様は内折部で区画し、口縁部の浮線文には斜位の刻目を付す。内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黒褐色である。

５は、深鉢の口縁部片である。外面は縄文（RL）を施文し、内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

６は、壺状を呈する有孔の浅鉢で、口唇部の外端が突出する。口唇部下に円孔を等間隔に施し、胴部に平行沈線で文様を施す。口唇部を研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

７は、条線を施す深鉢で、内面は研磨する。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

８・９は、胴部中位が括れた深鉢である。８は、無節縄文（L）を地文に、３本単位の浮線文を数段施し、浮線文の一部に刻目を付す。内面に横位の条痕が観察される。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は明褐色である。

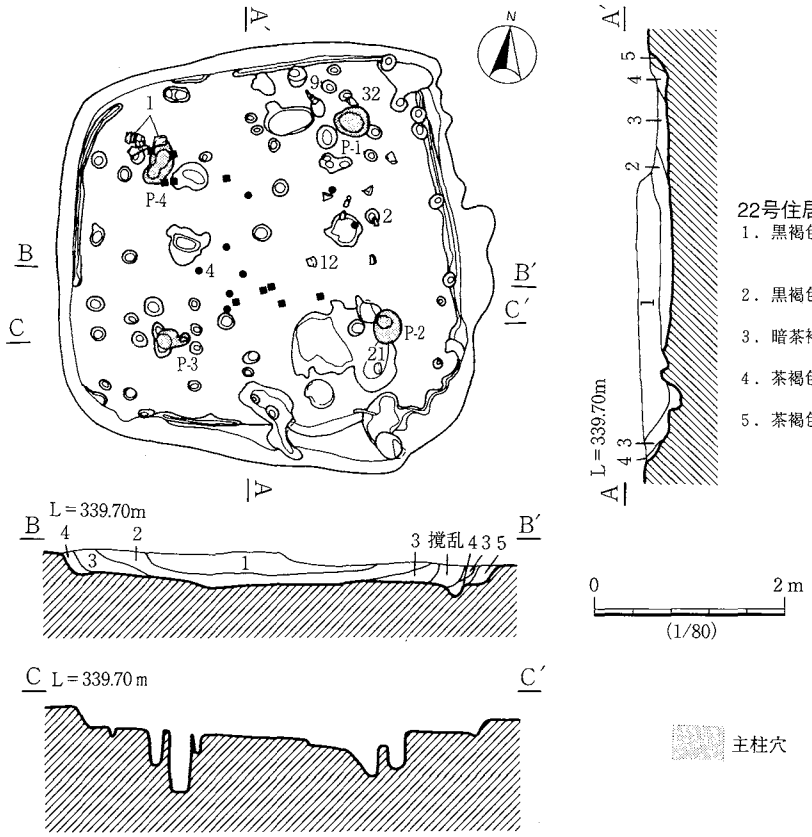
９は、縄文（LR）を地文に、２条と４条の浮線文を交互に施文し、浮線文には、斜位の刻目を付す。内面は撫でる。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

10・11・12は、深鉢の胴部片である。10は、縄文（LR）を地文に、数本単位の浮線文をタガ状に施文し、浮線文には刻目を付す。内面は撫でる。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

11は、縄文（LR）を地文に、数本単位の平行沈線で縦位の文様を構成する。内面は撫でる。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

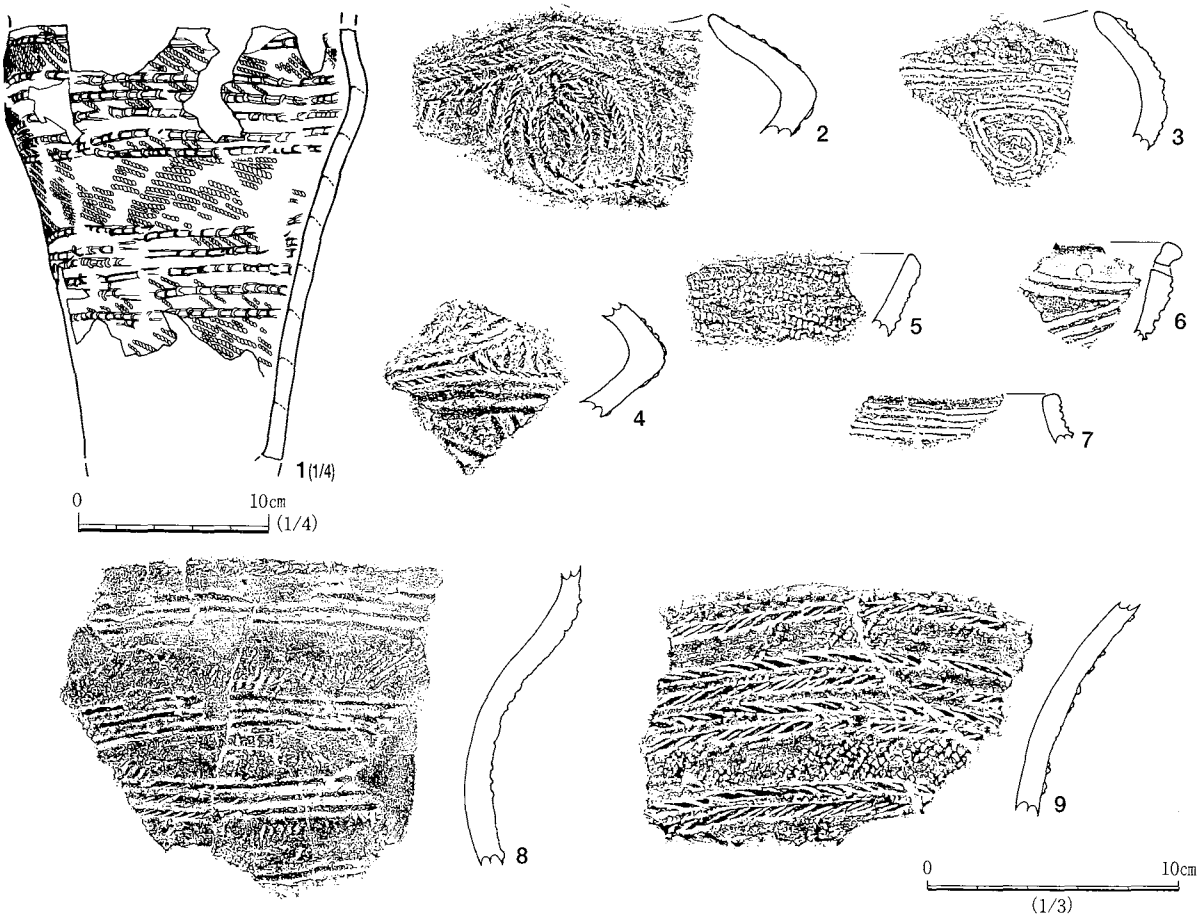
12は、縄文（RL）を地文に、２本単位の浮線文を施文し、浮線文には斜位の刻目を付す。底面は研磨し、内面に炭化物の付着が観察される。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

13～22は石器で、13～16が打製石斧、17が縦形の石匙、18・19が石鏃、20・22が磨石及び凹石である。

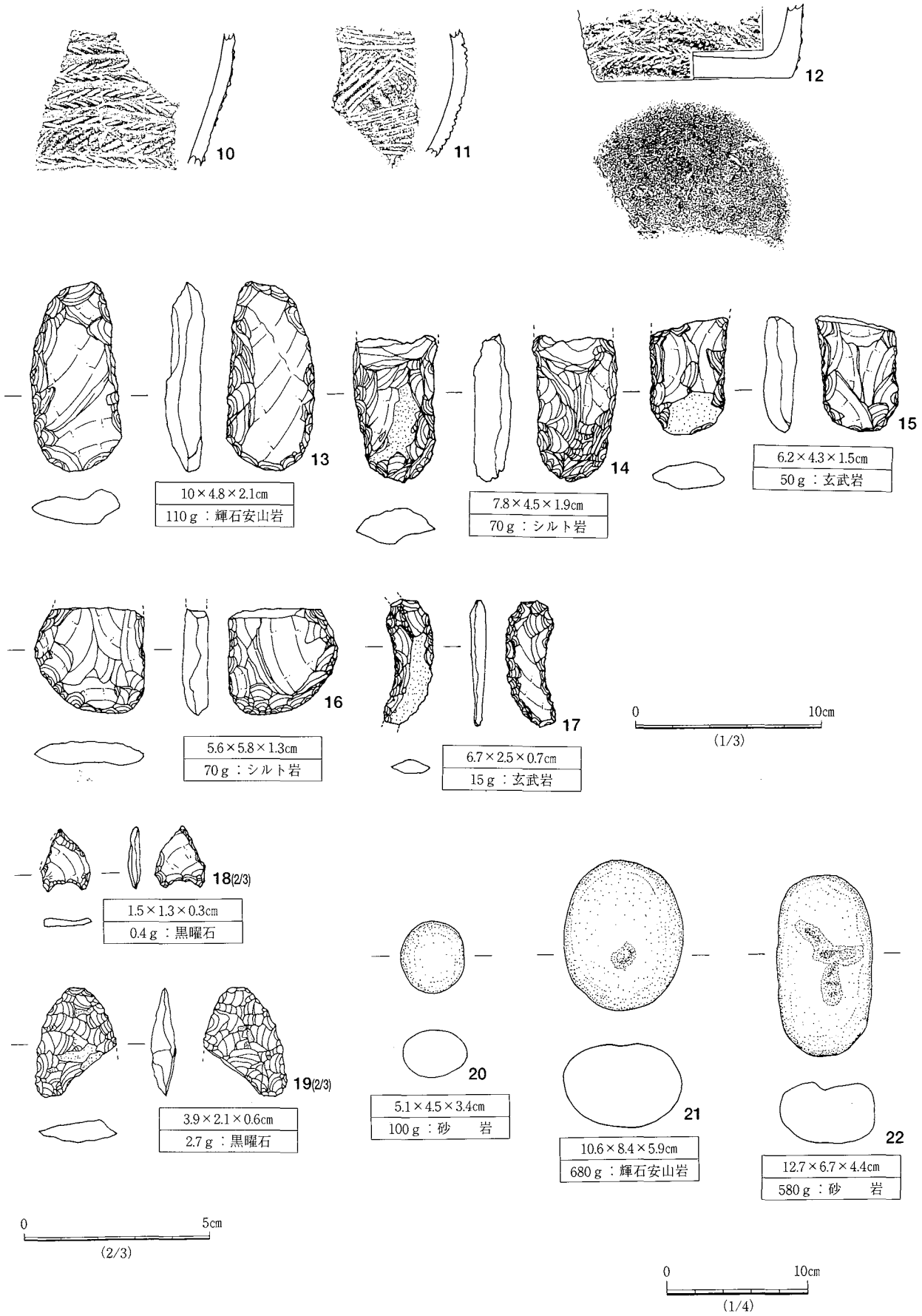


22号住居跡

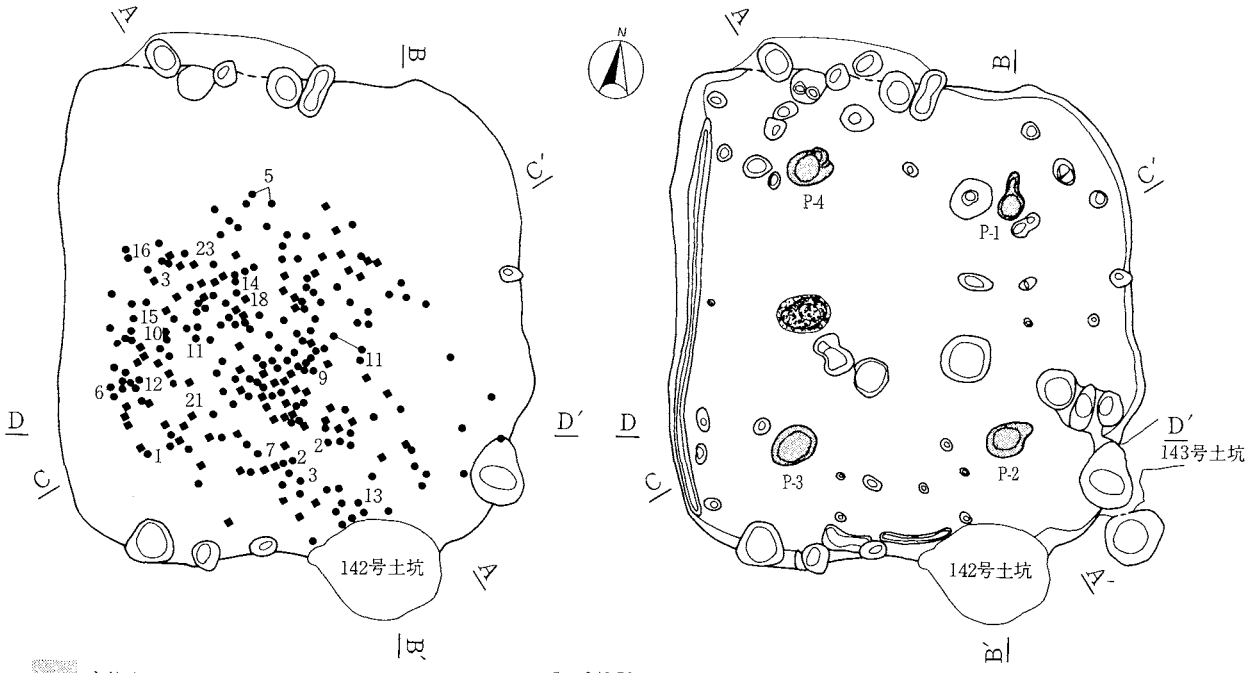
1．黒褐色土	ローム粒、灰白色岩粒、φ1㎝位のロームブロックやや密、炭化物疎に含む。しまり強い。粘性なし。
2．黒褐色土	ローム粒、灰白色粒やや密、炭化物密に含む。しまり強い。粘性弱い。
3．暗茶褐色土	ローム粒やや密に含む。しまり強い。粘性弱い。
4．茶褐色土	ローム粒疎に含む。ロームブロック数点含む。しまりあり。粘性弱い。
5．茶褐色土	ローム粒疎に含む。しまりやや強い。粘性弱い。

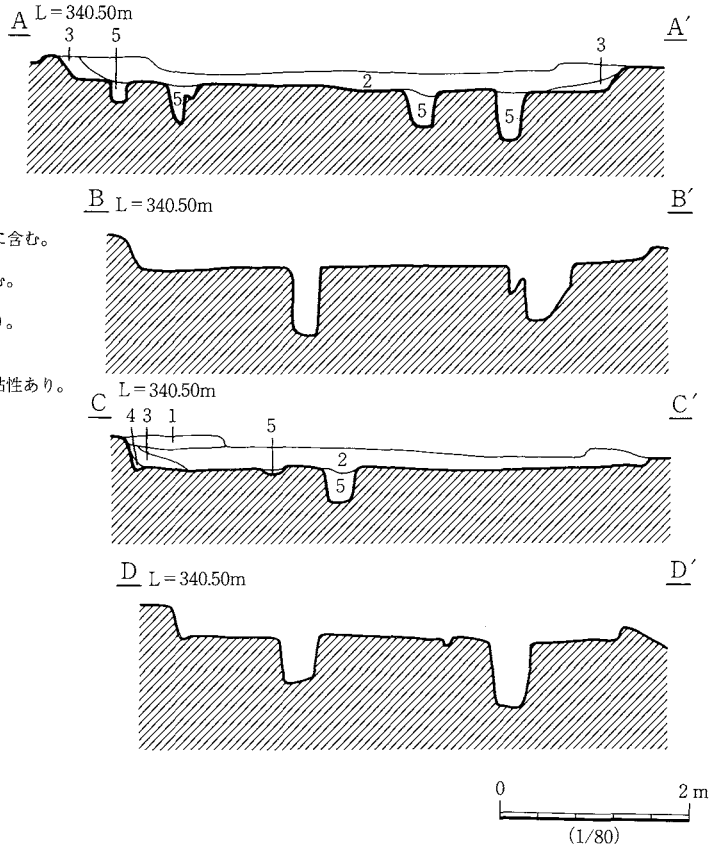


第55図　22号住居跡・出土遺物（1）



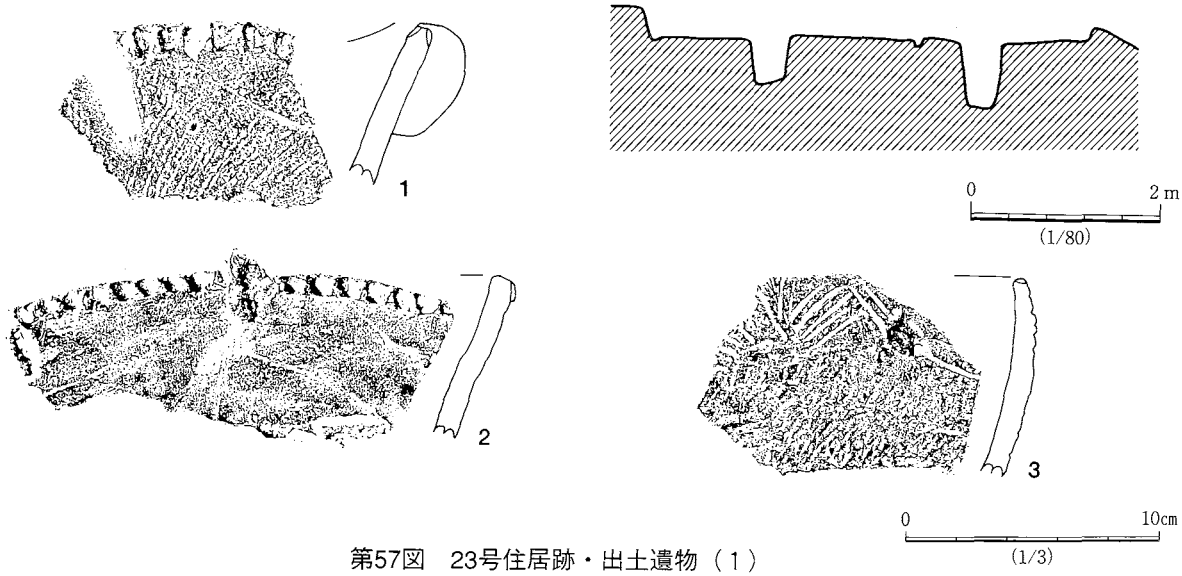
第56図　22号住居跡出土遺物（2）





23号住居跡

1．黒褐色土　ローム粒、ＹＰ軽石粒やや密、白色粒（軽石？）疎に含む。しまりあり。粘性あり。
2．黒褐色土　ローム粒、ＹＰ軽石、白色粒やや密、炭化物疎に含む。しまり強い。粘性なし。
3．黒褐色土　ローム粒、ＹＰやや密、白色粒疎に含む。しまりあり。粘性弱い。
4．暗褐色土　ローム粒密に含む。しまりあり。粘性弱い。
5．黒褐色土　２に比べ、ローム粒、白色粒少ない。しまり強い。粘性あり。



第57図　23号住居跡・出土遺物（１）

23号住居跡　（第57・58図）

位置　／調査区西側のEa－68グリッドにおいて検出された。　**切り合い関係**　／142・143号土坑と重複し、本跡が古い構築である。　**平面形態**　／方形。　**規模**　／長軸4.95ｍ、短軸4.75ｍ、深さ0.23ｍを計測する。　**主軸方向**　／Ｎ－６°－Ｗ。　**覆土**　／黒褐色土・暗褐色土が堆積し、黒褐色土が主体をなす。　**柱穴**　／Ｐ－１～４が主柱穴と見られる。深度はＰ－１が63㎝、Ｐ－２が70㎝、Ｐ－３が50㎝、Ｐ－４が61㎝。この他、13～46㎝の小ピットが確認される。　**壁**　／外傾する。　**壁溝**　／幅20㎝、深さ３㎝で住居跡内の壁下に断続的に巡る。　**床面**　／全体的に起伏がある。　**炉**　／Ｐ－３と４を結んだ線の中央に位置する。形状は楕円形で、表面が被熱により赤変硬化している。　**遺物**　／赤彩土器が出土している。　**遺構の時期**　／諸磯ｃ式の土器が主体で、縄文前期後半と見られる。

遺物

本遺構から出土した土器は、１～11は諸磯ｃ式、12～16は諸磯式の範疇に含まれる。

１は、波状口縁部の深鉢で、口唇部外端と内端にえぐるような刺突を付し、口縁部の波頂下に耳状の貼付文を施す。外面全体に無節縄文（L）を施文し、内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は淡褐色である。

２は、粗製の深鉢で、口唇部外端にえぐるような刺突を付し、口縁部に数個の耳状貼付文を施す。内外面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は暗褐色である。

３は、口縁部が内湾する深鉢である。口唇部上端に爪形状の刺突を付す。口縁部に２～３条の平行沈線で鋸歯文を構成し、縦長の貼付文を施す。胴部には斜縄文をまばらに施文し、内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黒褐色である。

４・７・８は、深鉢の口縁部片で、外面全体に縄文（LR）を施文し、内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黒褐色である。

５は、波状口縁部の深鉢で、山形の突起を付し、不規則な無節縄文（L）を地文に、胴部上半に集合沈線で文様を構成する。内面は撫でる。胎土は砂粒を少量含み、焼成は普通で、色調は黒褐色である。

６は、波状口縁部の深鉢で、口唇部にえぐったような刺突を付し、波頂下に棒状の貼付文を施す。文様は無節縄文（R）をまばらに施文した上に集合沈線を施し、内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は暗褐色である。

７は、口縁部に集合沈線を巡らせ、その上に棒状、ボタン状の貼付文で加飾する。口唇部外端とボタン状貼付文には刺突を行い、内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黄褐色である。

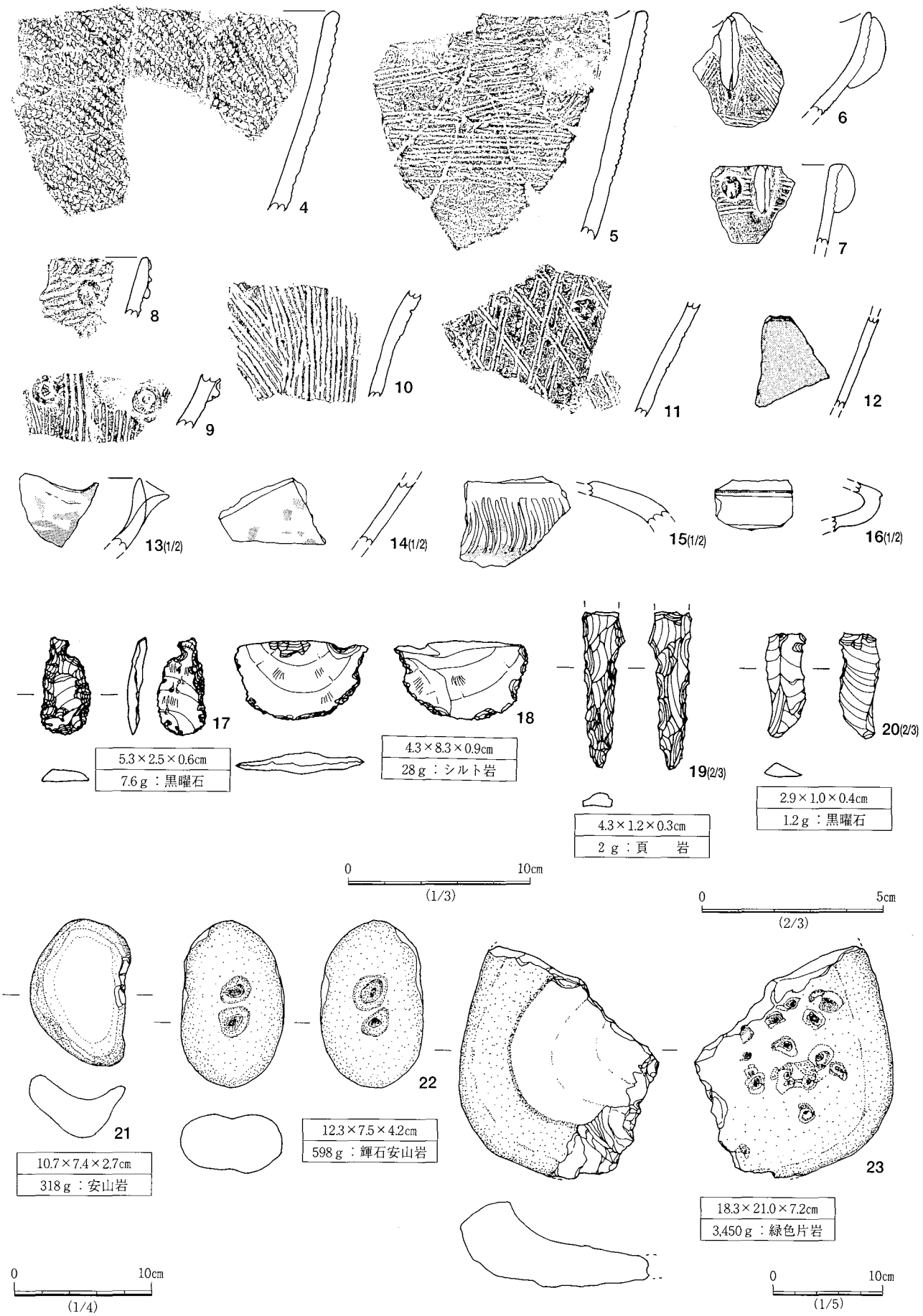
８は、口唇部外端にえぐるような刺突を付す。外面に無節縄文（L）を施文し、刺突を施したボタン状の貼付文を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

９・10・11は、深鉢の胴部片である。９は、集合沈線で縦位構成の文様を施文し、円形刺突を施したボタン状の貼付文を付す。内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

10は、集合沈線で縦位構成の文様を施文し、内面は撫でる。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

11は、平行沈線で斜格子文を施し、その上に棒状、ボタン状貼付文を付すが多くは剝落する。内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は淡褐色である。

12は、浅鉢と見られる。内外面研磨で光沢を持つ。外面の一部に赤色塗彩が残る。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は褐色である。



第58図　23号住居跡出土遺物（2）

13は、片口付き小形土器で、外面に赤色塗彩、内面は撫でる。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は普通で、色調は黒褐色である。

14は、12と同一個体と見られる。

15は、胴部上半が強く内湾する浅鉢で、肩部に赤色塗彩が残り、縦位の縞状痕跡は研磨痕か？。内面は研磨する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は淡褐色である。

16は、胴部に２段の膨らみを持つ小形の浅鉢である。内外面は研磨され、外面の一部に赤色塗彩が残る。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黒褐色である。

17～23は、石器である。

17は、縦形の石匙、18は、スクレーパー、19は、石錐、20は、剥片石器である。

21は、小形の石皿で、22は、表裏両面に凹みが確認される凹石、23は、表面が石皿、裏面に孔が穿たれる多孔石である。

24号住居跡　（第59図）

位置　／調査区西側のDh－61・62グリッド。３号配石墓群の西隣に位置する。　切り合い関係　／なし。　平面形態　／張り出し部を除いた場合長方形を呈する。　規模　／張り出し部を除き長軸2.70ｍ、短軸1.75ｍ、深さ0.10ｍを計測する。　長軸方向　／Ｎ－33°－Ｅ。　覆土　／ローム粒・白色粒の含有する黒褐色土が単層で確認される。　柱穴　／なし。　壁　／掘り込み残存が浅い為僅かな遺存である。壁が認められる所では外傾する。　壁溝　／なし。　張り出し部　／住居跡西壁に壁外へかけて半円形状に40cm程掘り込まれる。　床面　／多少の起伏があるものの全体的にはほぼ平坦である。　炉　／なし。　遺物　／全体的に土器片及び自然礫の出土が目立っている。　遺構の時期　／縄文後期と見られる。

遺物

本遺構から出土した遺物は、１・２が堀之内１式、３～９・11が堀之内２式、10・12が後期の範疇に納まると見られる。

１は、深鉢の口縁部片で、文様は帯状の口縁部に沈線を巡らす。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい橙色である。

２・４は、中形の深鉢である。２は、口縁端部を内側に折り込んで凹線を巡らす。外面は沈線により幾何学文を構成する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい黄橙色である。

３は、小形の鉢で、口縁部に渦巻状の装飾を付けた小突起を持つ。外面は無文。口縁部の内側に沈線を数条巡らし、沈線間に刻目を施す。胎土は細砂粒を含み、焼成は普通で、色調はにぶい橙色である。

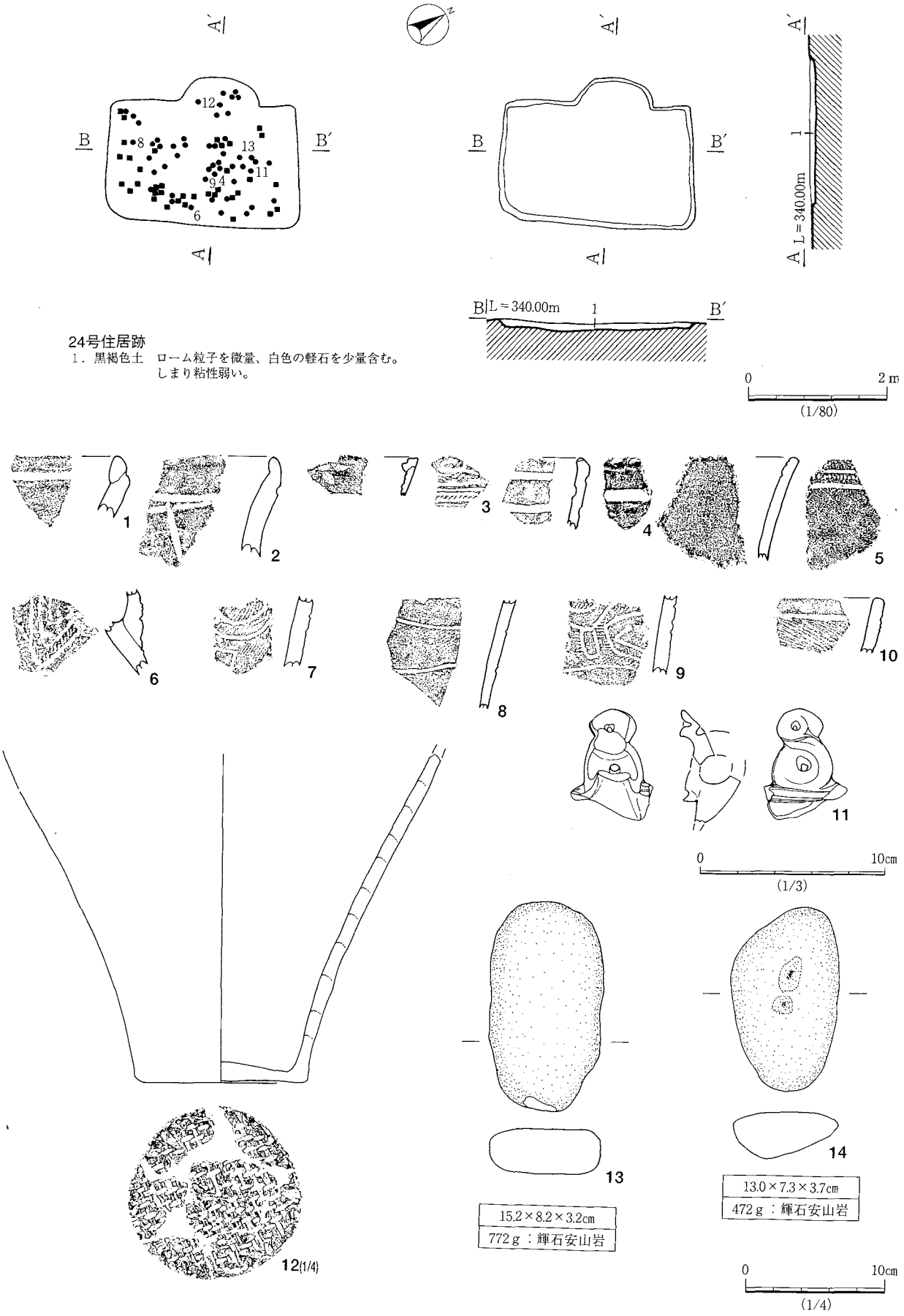
４は、口縁端部に稜を持ち、内側に刻目を施す。外面に沈線を数条巡らし、内面にも沈線を巡らす。胎土は砂粒を含み、焼成は普通で、色調はにぶい褐色である。

５は、口縁部が外反して開く浅鉢で、内面に２本の沈線間に列点文を施す。胎土は砂粒を含み、焼成は普通で、色調はにぶい橙色である。

６は、注口土器の把手か。沈線による三角形の幾何学文を施し、沈線間に縄文（LR）を充填する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい黄橙色である。

７は、鉢の胴部片で、弧状及び直線の細かい沈線により区画を施し、無文部と縄文（LR）部を配す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は褐灰色である。

８は、朝顔形に開く深鉢で、胴部に横位の区画を設け、沈線間に縄文（LR）を施文する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は灰黄褐色である。



第59図　24号住居跡・出土遺物

9は、鉢の胴部片で、細かい沈線によって区画し、無文部と縄文（LR）部を配す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい黄橙色である。

10は、口縁部が直線的に開く鉢である。口縁部下に条線を密集させ、横位の沈線を巡らして区画する。内面の調整は丁寧で平滑である。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい黄橙色である。

11は、口縁部がくの字に内折する深鉢で、口縁部に8の字文様をレリーフした環状把手を付す。口縁部には2本の沈線が巡り、内外面共に研磨する。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は普通で、色調は褐灰色である。

12は、朝顔形に開く深鉢で、外面に丁寧な器面調整を施し、底部に網代痕が観察される。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調はにぶい橙色である。

13・14は、石器で、磨石及び凹石である。

25号住居跡　（第60図）

位置　／調査区西側のDh－61・62グリッド。3号配石墓群の西隣に位置する。　**切り合い関係**　／なし。

平面形態　／長方形を基調とする。　**規模**　／長軸4.35ｍ、短軸2.65ｍ、深さ0.20ｍを計測する。　**長軸方向**　／N－60°－W。　**覆土**　／黒褐色土・暗褐色土の合計2層の堆積が観察される。　**柱穴**　／なし。

壁　／外傾する。　**壁溝**　／なし。　**床面**　／多少の起伏があるものの全体的にはほぼ平坦である。　**炉**　／なし。　**遺物**　／24号住居跡と同様の出土傾向を示し、土器片及び自然礫が多数を占める。　**遺構の時期**　／縄文後期と見られる。

遺物

本遺構より出土した土器は、1～8が加曽利B1式、9～16が後期の範疇に含まれる。

1・2・3は、口縁部が内湾する深鉢である。1は、沈線を数条巡らし、沈線間に縄文（LR）を充填する。無文帯は研磨し、沈線の間をのの字状に区切る。内面は黒色で研磨される。胎土は細砂粒を含み、焼成は良好で、色調はにぶい橙色である。

2は、外面に沈線を数条巡らし、沈線間に縄文（LR）の充填で無文帯と区画する。沈線間を弧線で区切り、内面は黒色研磨する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は褐灰色である。

3は、外面に沈線を数条巡らし、沈線間に縄文（LR）の充填で、無文帯と区画する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は褐灰色である。

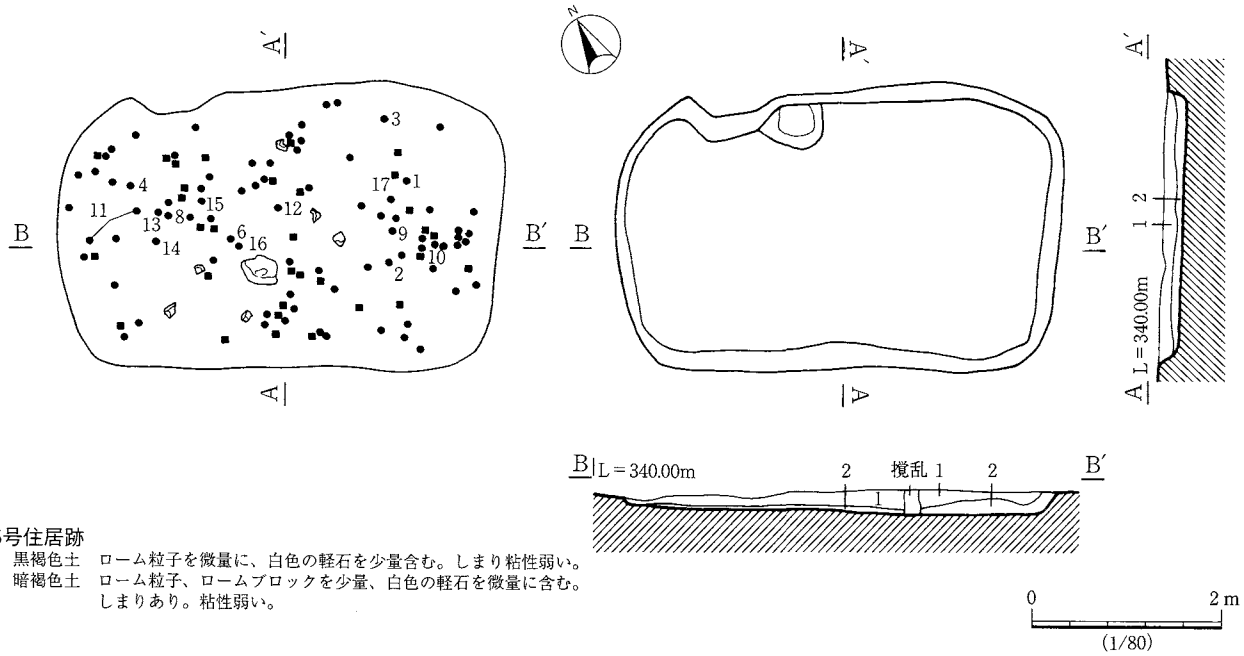
4・5は、胴部に丸味を帯びる鉢である。4は、沈線を数条巡らして、沈線間に縄文（LR）を充填する。無文帯を配して沈線間を区切り、内外面を研磨する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は灰黄褐色である。

5は、数条の沈線を巡らして、沈線間に縄文（LR）を充填し、内外面を研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は灰黄褐色である。

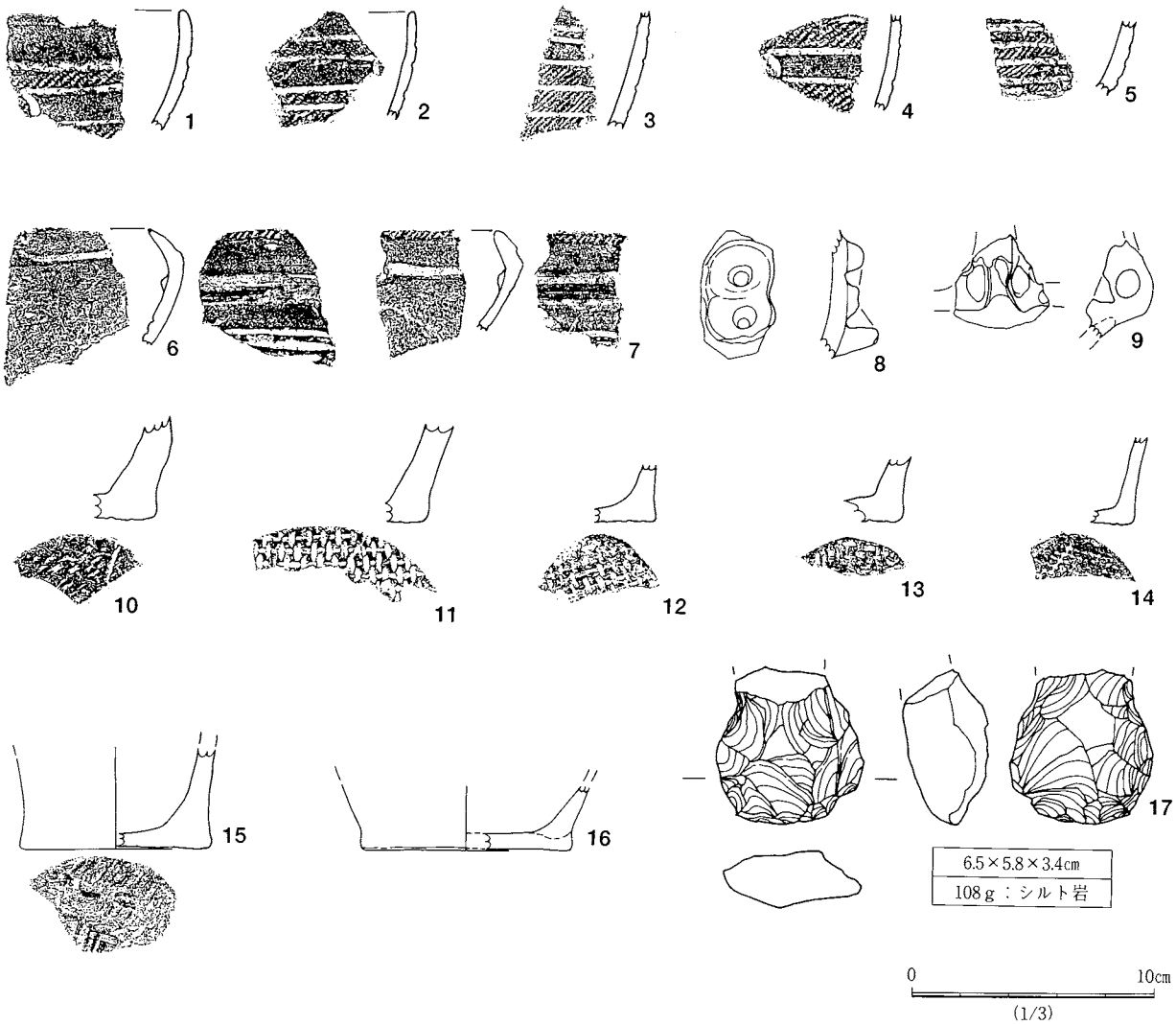
6は、口縁部に稜をもって内湾する深鉢で、口縁部に小突起を付し稜線に沿って沈線を巡らす。口縁端部に刻目を施し、内面は沈線と細かい隆帯及び数条の沈線を施す。沈線間には縄文（LR）を充填し、内面に黒色研磨、外面に削り調整を残す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい黄橙色である。

7は、口縁部がくの字に内折する浅鉢で、口唇部上面に斜位の刻目を付す。口縁部外面に1条の沈線を施すが、以下は無文である。内面に断面三角形の隆帯と沈線を数条施す。内外面は研磨する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黒褐色である。

8は、深鉢の胴部片で、胴部上位に粘土を貼り付けて円形の刺突を施し、8の字状とする。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい黄橙色である。



25号住居跡
1．黒褐色土　ローム粒子を微量に、白色の軽石を少量含む。しまり粘性弱い。
2．暗褐色土　ローム粒子、ロームブロックを少量、白色の軽石を微量に含む。
しまりあり。粘性弱い。



第60図　25号住居跡・出土遺物

9は、波状口縁部の深鉢で、波頂部に橋状把手を作りだし、口縁部の内側にも沈線と円形刺突による施文を施す。内外面は研磨する。胎土は細砂粒を含み、焼成は良好で、色調は褐灰色である。

10・11は、大形の深鉢である。10は、外面の調整は粗雑で、底部に網代痕を残す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい黄色である。

11は、外面の調整は丁寧で、底部に網代痕を残す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい黄橙色である。

12は、小形の深鉢である。、外面の調整は丁寧で、底部に網代痕を残す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は褐灰色である。

13は、深鉢の底部片である。外面の調整は丁寧で、底部に網代痕を残す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は褐灰色である。

14は、小形の深鉢で、底部は網代痕を撫で消している。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい橙色である。

15は、中形の朝顔形を呈する深鉢である。内外面の調整は丁寧で、底部に綾杉状の網代痕が観察される。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい橙色である。

16は、深鉢の底部片で、胎土は砂粒を多量に含み、焼成は軟質で、色調はにぶい橙色である。

17は、石器で、分銅形打製石斧の破片と見られる。

28号住居跡　（第61図）

位置　／調査区西側のDh・Di－63・64グリッドにおいて検出された。　**切り合い関係**　／なし。　**平面形態**　／隅角に丸みを持った長方形。　**規模**　／長軸5.10ｍ、短軸3.95ｍ、深さ0.10ｍを計測する。　**主軸方向**　／N－46°－W。　**覆土**　／黒褐色土・暗褐色土・暗茶褐色土・茶褐色土・黄褐色土の堆積が確認される。　**柱穴**　／Ｐ－１～４の４本が主柱穴と見られ、床面よりの深度はＰ－１が38㎝、Ｐ－２が44㎝、Ｐ－３が47㎝、Ｐ－４が77㎝。この他、壁柱穴であろうか住居跡壁下に長径25～52㎝、深さ22～70㎝のピットが巡る。　**壁**　／僅かな検出であるが、遺存する箇所においては外傾する。　**壁溝**　／なし。　**床面**　／全体的に起伏がある。また、住居跡東側には比高差３㎝前後と僅かではあるが、壁から幅40～60㎝程で帯状の高まりが確認される。　**炉**　／石囲い炉で住居跡のほぼ中央部に付設される。炉は安山岩を使用して方形に造られていたと見られるが東側一辺のみ炉石は検出されていない。また、断面観察によると明瞭な被熱の痕跡は示しておらず、使用頻度は低かったものと推測される。　**遺物**　／全体に出土量は少ない。　**遺構の時期**　／黒浜式土器を主体とすることより縄文前期と見られる。

遺物

本遺構の出土遺物は、黒浜式として一括される一群である。

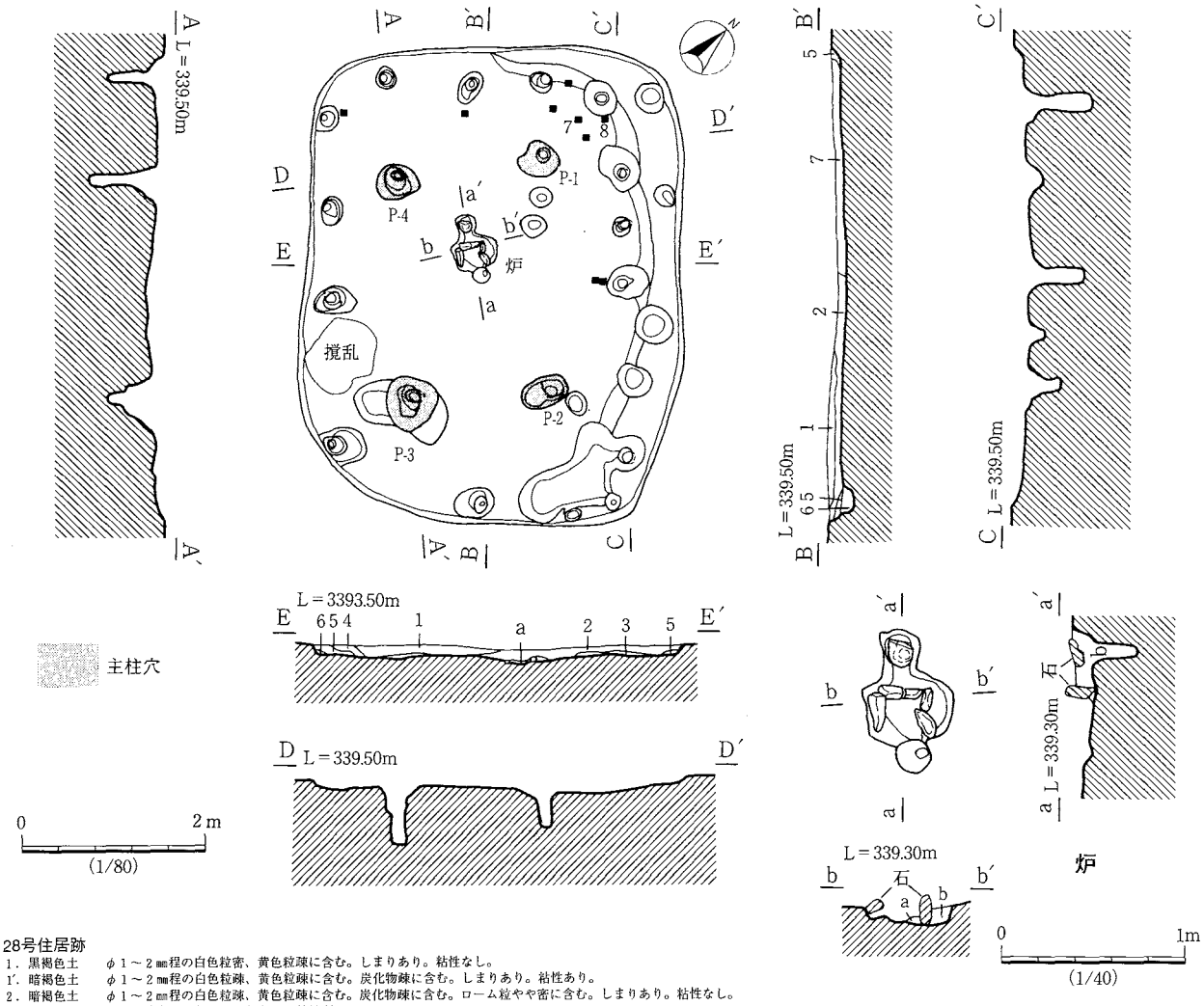
１は、深鉢の口縁部片で、縄文（LR）を施文し、口唇部にも同縄文を施す。内面は撫でる。胎土は繊維を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

２・３・４・５・６は、深鉢の胴部片である。２は、縄文（LR）を施文し、内面は撫でる。胎土は繊維を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。４・６と同一個体である。

３は、菱形羽状縄文を施し、内面を研磨する。胎土は繊維を含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

５は、羽状縄文を施文する。胎土は繊維を多量に含み、焼成は普通で、色調は黒褐色である。

７・８は、石器で、磨石及び凹石である。

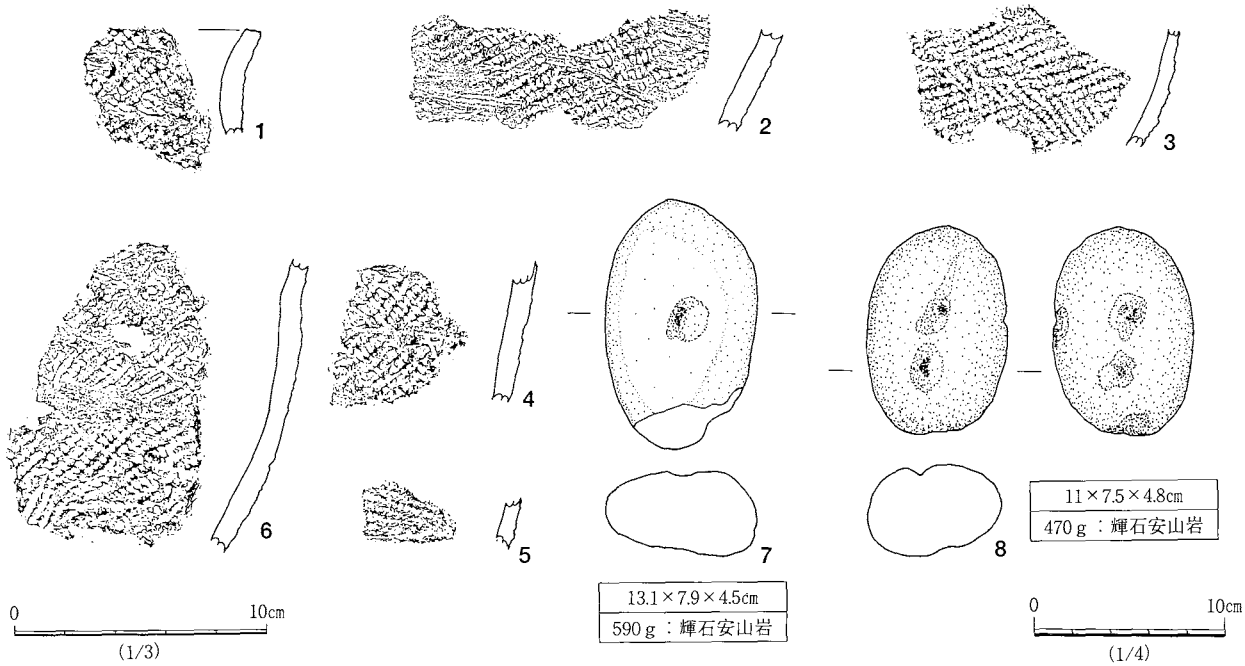


28号住居跡

1．黒褐色土　φ1～2㎜程の白色粒密、黄色粒疎に含む。しまりあり。粘性なし。
1′．暗褐色土　φ1～2㎜程の白色粒疎、黄色粒疎に含む。炭化物疎に含む。しまりあり。粘性あり。
2．暗褐色土　φ1～2㎜程の白色粒疎、黄色粒疎に含む。炭化物疎に含む。ローム粒やや密に含む。しまりあり。粘性なし。
3．暗茶褐色土　ローム粒密に含む。しまりあり。粘性弱い。
4．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒疎に含む。しまりあり。粘性なし。
5．茶褐色土　ローム粒密に含む。しまりあり。粘性なし。
6．黄褐色土　ローム粒密に含む。しまりあり。粘性なし。
7．暗茶褐色土　ロームブロック多く含む。しまりあり。粘性なし。

炉

a．暗褐色土　ローム粒疎に含む。しまりやや弱い。粘性弱い。
b．暗茶褐色土　ローム粒密に含む。しまりあり。粘性あり。



第61図　28号住居跡・出土遺物

35号住居跡　（第62図）

位置　／調査区西側のDi・Dj－69・70グリッドにおいて検出された。　切り合い関係　／228号土坑と重複し、新旧関係では本跡が新しい構築である。　平面形態　／台形状。　規模　／長軸2.85ｍ、短軸2.70ｍ、深さ0.15ｍを計測する。　主軸方向　／Ｎ－30°－Ｗ。　覆土　／暗褐色土・暗茶褐色土・茶褐色土が確認され、このうちローム粒・灰白色岩粒・YP軽石・炭化物を含有した暗褐色土が主体をなす。　柱穴　／なし。　壁　／僅かな検出であるが、その遺存状態においては外傾する。　壁溝　／なし。　床面　／全体的に起伏がある。　炉　／なし。　遺物　／遺物の出土量は少ない。　遺構の時期　／諸磯ｂ式の土器を主体とすることより縄文前期後半と見られる。

遺物

本遺構から出土した土器は、諸磯ｂ式として一括される一群である。

１は、口縁部がくの字状に内折する大きな波状口縁の深鉢で、縄文（RL）を地文に、集合沈線で波頂部に渦巻文を施文する。内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

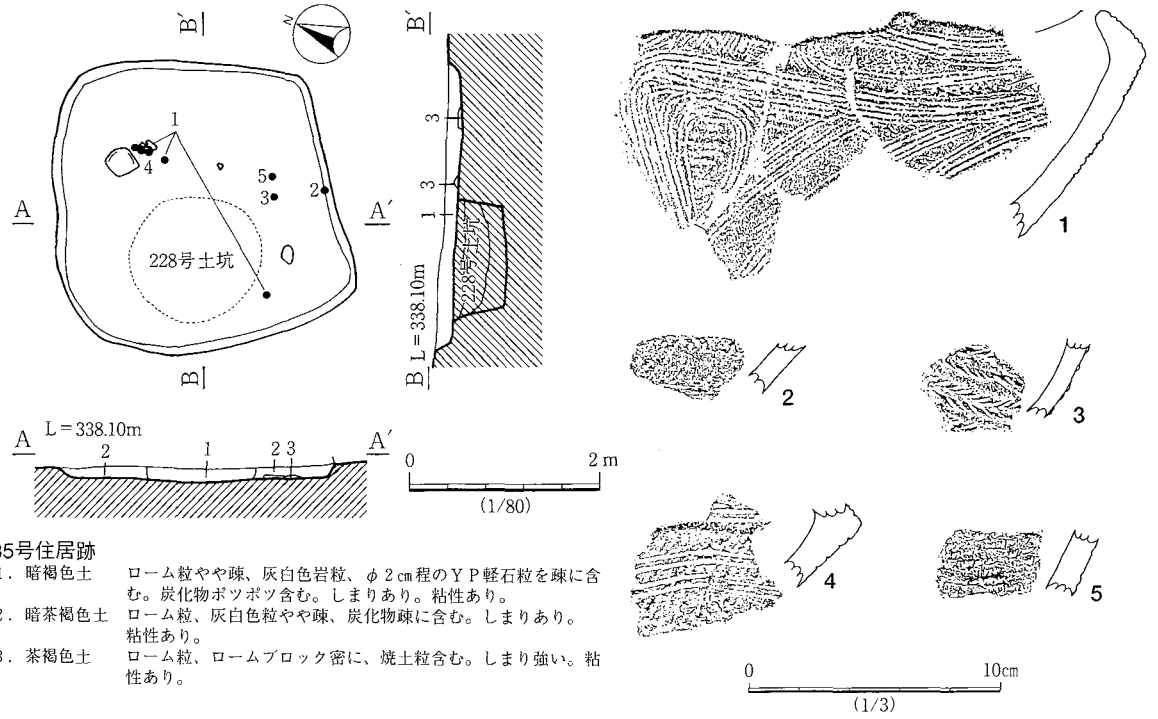
２・３・５は、深鉢の胴部片である。

２は、縄文（LR）を地文に平行沈線で文様を構成し、内面に研磨を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

３は、斜位の刻目を付した浮線文で文様を構成し、内面を研磨する。胎土は砂粒を小量含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

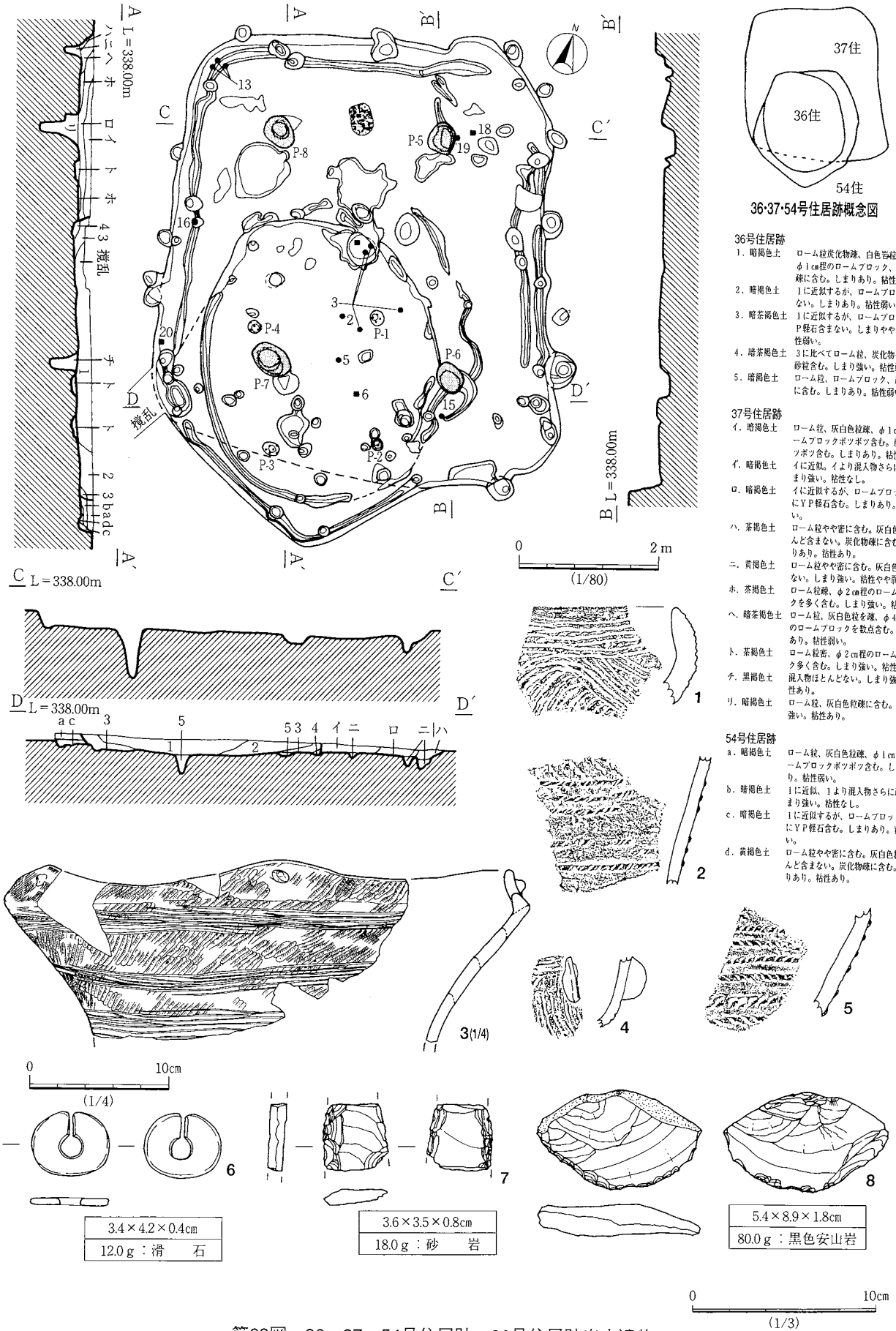
４は、口縁部がくの字状に内折する深鉢で、縄文（LR）を地文に、２条単位の平行沈線で文様を構成する。内面は研磨を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

５は、外面に無節縄文（L）を施文し、内面に研磨を施す。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黒褐色から黄褐色である。



35号住居跡
1．暗褐色土　ローム粒やや疎、灰白色岩粒、φ２cm程のＹＰ軽石粒を疎に含む。炭化物ポツポツ含む。しまりあり。粘性あり。
2．暗茶褐色土　ローム粒、灰白色粒やや疎、炭化物疎に含む。しまりあり。粘性あり。
3．茶褐色土　ローム粒、ロームブロック密に、焼土粒含む。しまり強い。粘性あり。

第62図　35号住居跡・出土遺物



第63図　36・37・54号住居跡、36号住居跡出土遺物

36号住居跡　（第63・64図）

位置　／調査区西側のDi－70・71グリッドにおいて検出された。　切り合い関係　／37・54号住居跡と重複し、新旧関係では本跡が最も新しい構築である。　平面形態　／楕円形。　規模　／長軸4.15ｍ、短軸3.35ｍ、深さ0.18ｍを計測する。　長軸方向　／Ｎ－24°－Ｗ。　覆土　／暗褐色土・暗茶褐色土が堆積し、このうちローム粒・白色粒・炭化物・ロームブロック・YP軽石を含有した暗褐色土が主体をなす。　柱穴　／Ｐ－１～４が主柱穴に相当する可能性があるが、重複関係が著しい為詳細は不明である。各柱穴の深さは、Ｐ－１が51cm、Ｐ－２が39cm、Ｐ－３が44cm、Ｐ－４が41cmである。　壁　／断面観察によると外傾する。　壁溝　／幅15cm前後、深さ３cm前後で断続的に巡る。　床面　／全体的に凹凸が激しい。　炉　／なし。　遺物　／出土量は少ない。抉状耳飾りが出土している。　遺構の時期　／諸磯ｂ式の土器を主体としていることから縄文前期後半と考えられる。

遺物

本遺構の出土土器は、諸磯ｂ式として一括される一群である。

１は、口縁部が内湾する深鉢で、無節縄文（L）を地文に、集合沈線で文様を構成する。内面は研磨される。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

２は、深鉢の胴部片で、無節縄文（R）を地文に、３条単位の浮線文を横位に施文する。浮線文には斜位の刻目を付す。内面は研磨を施す。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黄灰色である。

３は、口縁部がくの字状に内折する４単位波状口縁の深鉢で、無節縄文（L）、結節ｒ縄を地文に、３単位の平行沈線を横位帯状に数帯施文する。口縁部の波頂上には瘤状の貼付文を付す。地文に見られる結節は、原体端部の結び目と見られる。内面は研磨が施される。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

４は、深鉢の口縁部片で、半截竹管を用いた集合沈線で文様を構成する。文様の要所には耳状の貼付文を付し、内面は研磨が施される。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒色である。

５は、深鉢の頸部片で、１本単位の浮線文を横位に施文する。浮線文の刻目は交互に方向を変えている。内面は研磨が施される。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

６は、抉状耳飾りで、滑石製である。

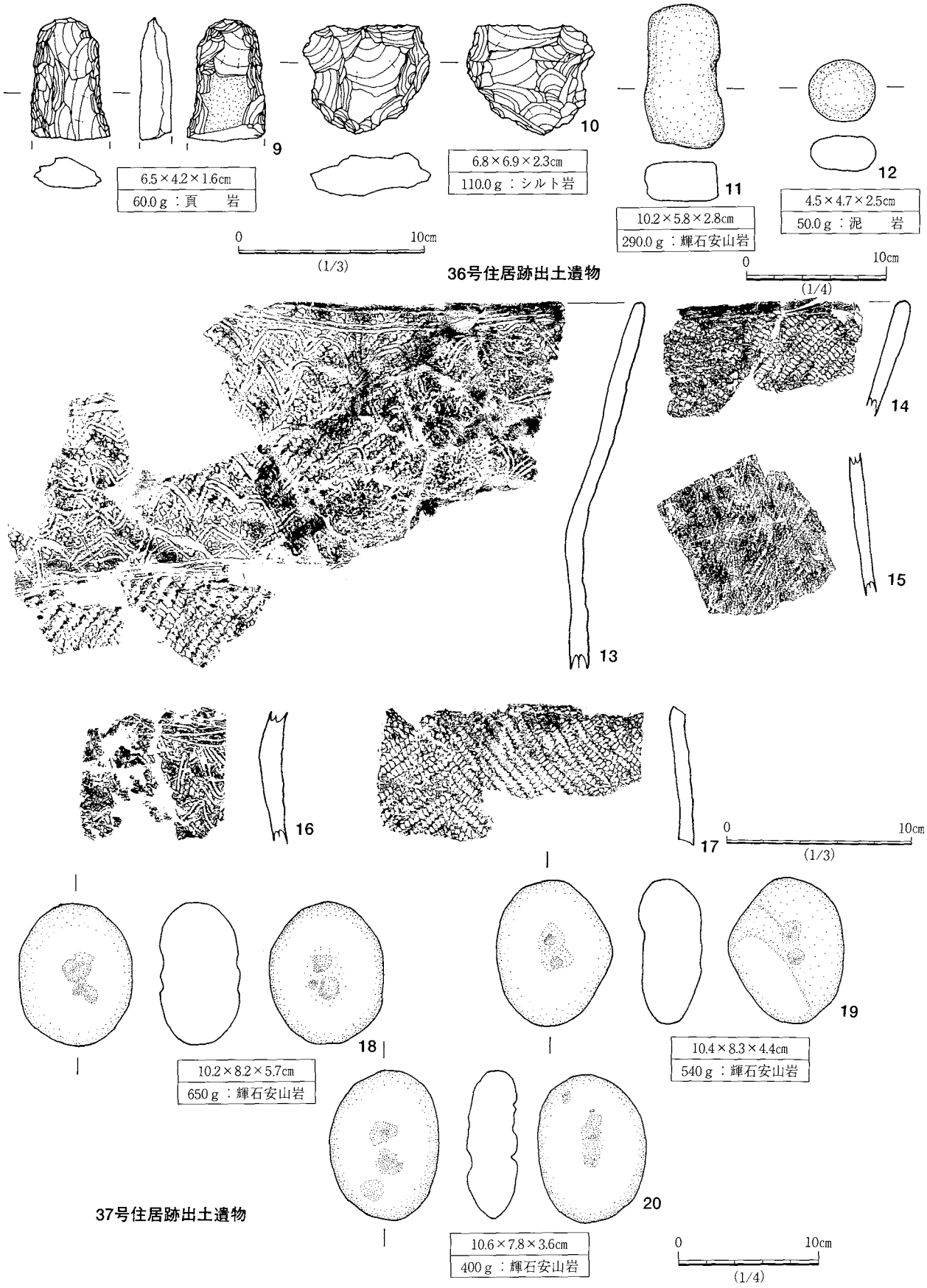
７・８は、石器で、頁岩及び黒色安山岩を材料とする。

７は、小形打製石斧の破片である。

８は、スクレイパーで、黒色安山岩製である。

37号住居跡　（第63・64図）

位置　／調査区西側のDi－70・71グリッドにおいて検出された。　切り合い関係　／36・54号住居跡と重複する。36号住居跡との新旧関係では本跡が古い構築であるが、54号住居跡との前後関係は不明である。　平面形態　／長方形。　規模　／長軸6.35ｍ、短軸5.35ｍ、深さ0.18ｍを計測する。　長軸方向　／Ｎ－19°－Ｗ。　覆土　／暗褐色土・暗茶褐色土・茶褐色土・黄褐色土・黒褐色土がそれぞれ堆積する。　柱穴　／Ｐ－１～４が主柱穴に相当すると見られる。各柱穴の深さは、Ｐ－５が72cm、Ｐ－６が70cm、Ｐ－７が60cm、Ｐ－８は71cmである。この他、深さ11～41cmの壁柱穴が巡る。　壁　／外傾する。　壁溝　／壁下あるいは壁下より離れて幅７～15cm、深さ５cm前後で断続的巡る。　床面　／全体的に凹凸が激しい。　炉　／Ｐ－１～４とを結んだ線の中央部やや外側に位置する地床炉で、被熱の為赤変硬化し、楕円形状を呈する。　遺物　／全体的に少ない出土である。　遺構の時期　／縄文時代前期と見られる。



第64図　36・37号住居跡出土遺物

遺物

本遺構の出土土器は、黒浜式として包括され一群である。

13は、口縁部が外反する深鉢である。文様は、縄文を地文に沈線を横位に多段施文する。内面は撫でる。胎土は、繊維を多量に含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

14は、口縁部が外反する深鉢である。文様は、外面に菱形羽状縄文を施文し、内面は撫でる。胎土は繊維を多量に含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

15は、深鉢の胴部片で、外面に施文の痕跡を残す。胎土は繊維を多量に含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

16は、口縁部が外反する深鉢の頸部片で、縄文を地文に沈線で横位に多段施文する。内面は撫でる。胎土は繊維を多量に含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

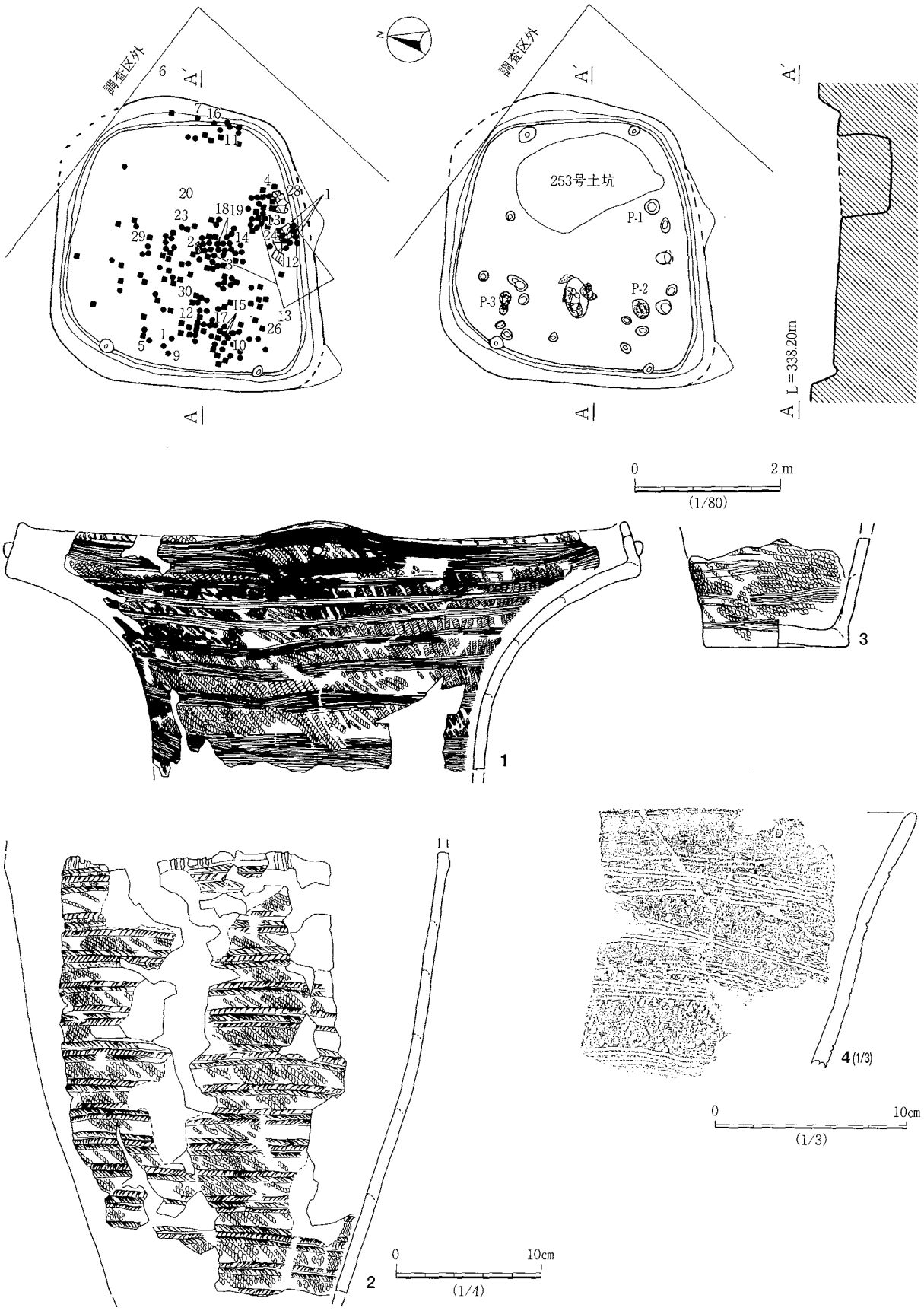
17は、口縁部が外反する深鉢の頸部片で、外面に菱形羽状縄文を施文し、内面は撫でる。胎土は繊維を多量に含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

18～20は、石器で、磨石及び凹石である。いずれも輝石安山岩を素材とする。

54号住居跡　（第63図）

位置　／調査区西側のDi－70・71グリッドにおいて検出された。　切り合い関係　／36・37号住居跡と重複する。36号住居跡との新旧関係では本跡が古い構築であるが、37号住居跡との前後関係は不明である。　平面形態　／周溝の検出状況から形態を判断すると長方形を呈する可能性がある。　規模　／周溝の位置を基準として計測した場合、長軸4.45ｍ、短軸3.85ｍ、深さ0.15ｍとなる。　長軸方向　／前述の平面形状を基に見るとＮ－33°－Ｗとなる。　覆土　／36号住居跡の構築により大半を壊されている為僅かに暗褐色土・黄褐色土を確認しているに過ぎず、全体の堆積状況は不明である。　柱穴　／重複関係が著しくどのピットが伴うものか不明である。　壁　／検出されている範囲では外傾する。　壁溝　／本住居跡の形態を推測できる唯一の痕跡であり、幅５～15㎝、深さ４㎝前後で断続的に巡る。　床面　／全体的に凹凸が激しく一定していない。　炉　／36号住居跡の構築により壊されている為か痕跡は確認されず不明である。　遺物　／検出範囲が僅かで遺存状態が悪い為全体に出土量は少なく、少量の土器片が出土しているに過ぎない。

遺構の時期　／僅かな出土量である土器片が縄文前期の範疇に納まることから、可能性としては前期と推測されるが、推測の息を脱し得ない。



第65図　38号住居跡・出土遺物（1）

38号住居跡　（第65・66・67図）

位置　／調査区西側のDf－65グリッドにおいて検出され、住居跡の一部が調査区外となる。　切り合い関係　／253号土坑と重複し、本跡が古い構築である。　平面形態　／台形状。　規模　／暗褐色土・暗茶褐色土の堆積が合計７層観察される。　柱穴　／Ｐ－１～３が主柱穴に相当すると見られ、残る１本は253号土坑の掘削により消滅したと推測される。各柱穴の深さは、Ｐ－１が28ｍ、Ｐ－２が59ｍ、Ｐ－３が33ｍである。この他、深さ９～35cmの杭状の小ピットが検出されている。　壁　／外傾する。　壁溝　／幅８～16cm、深さ５cm前後で壁下に全周する。　床面　／全体的に平坦である。　炉　／地床炉で、Ｐ－２と４とを結んだ線の中央部に位置する。被熱の為赤変硬化し、楕円形状を呈する。　遺物　／住居跡の南側に比較的遺物の集中が見られる。　遺構の時期　／諸磯ｂ式の土器片を主体としていることより縄文前期後半と見られる。

遺物

本遺構出土の遺物は、諸磯ｂ式に比定される一群である。

１は、胴部上半が外反し、口縁部がくの字状に内折する４単位波状口縁の深鉢である。各波頂部には瘤状の貼付文を付す。文様は縄文（RL）を地文に、条線を帯条に等間隔で施文し、胴部下半では波状の文様を構成するようだが欠損している。内面は研磨する。胎土は砂粒を含み、焼成は普通で、色調は黒褐色である。

２は、胴部が円筒状の深鉢で、縄文（RL）を地文に２条と３条の浮線文を帯状に施す。上位は梯子状の施文で、浮線文には刻目を付し、内面は研磨する。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

３は、深鉢の胴部から底部片で、縄文（RL）を地文に、条線を帯状に数帯施す。内面を研磨し、底面は撫で、両面に炭化物が付着する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

４・７は、深鉢の口縁部片で、縄文（RL）を地文に、横位帯条の集合沈線を多段に施文し、内面は撫でる。４の胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は淡褐色である。７の胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は淡褐色である。

５は、口縁部が大きく開く波状口縁の深鉢である。外面全体に横位の集合沈線を施文し、内面は研磨する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は普通で、色調は黒褐色である。

６・９・10・11は、口縁部がくの字状に内折する深鉢である。６は、無節縄文（Ｌ）を地文に、横位帯状の集合沈線を多段に施文し、内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は淡褐色である。

８は、深鉢の口縁部片で、口縁部に耳状の突起を付す。外面全体に縄文（RL）を施文する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は淡褐色である。

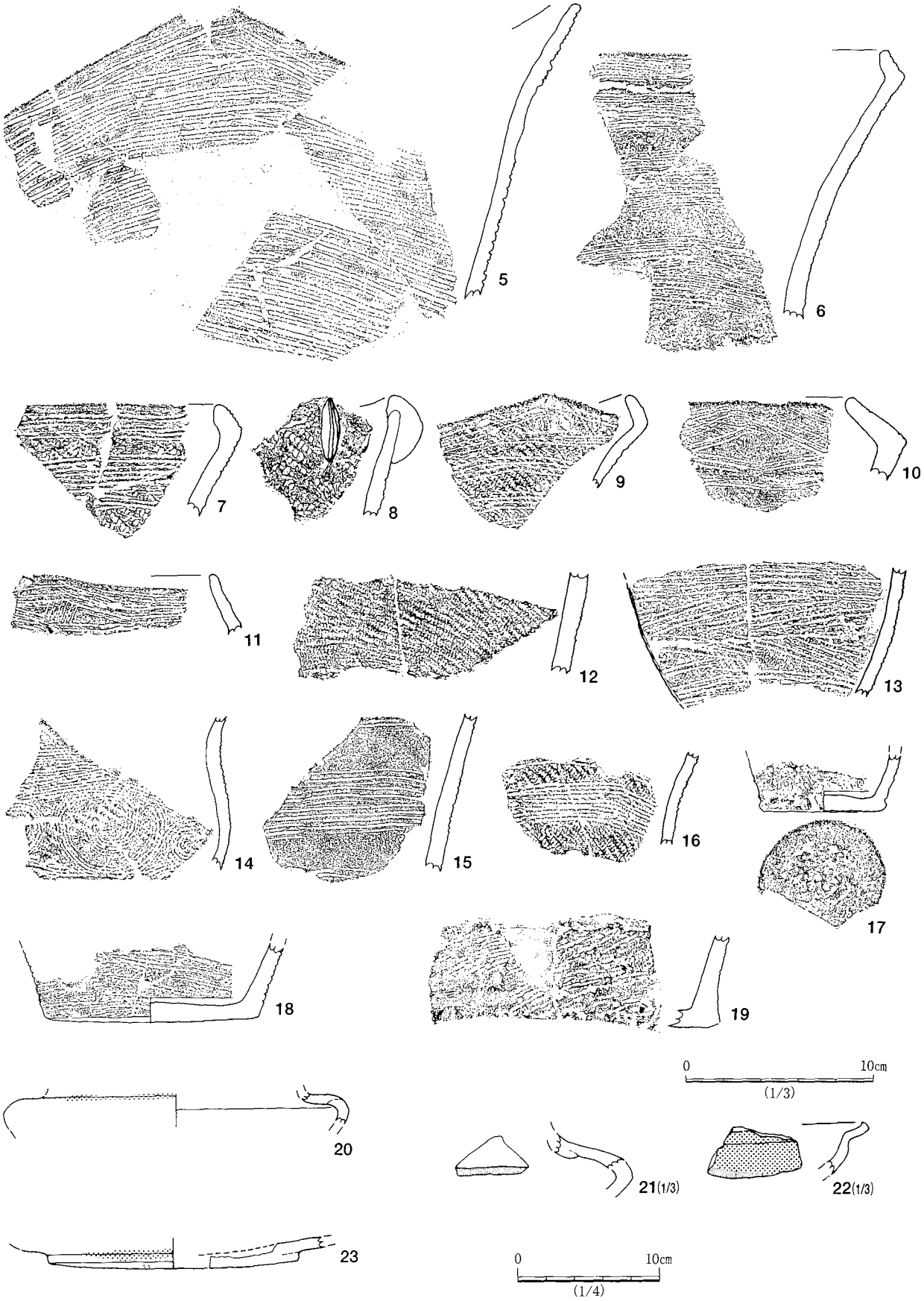
９は、口縁部の波頂下には瘤状の突起を付し、縄文（RL）を地文に２条単位の平行沈線を横位帯状に多段施文する。内面は研磨を施す。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は淡褐色である。

10は、縄文（RL）を地文に、口縁部に２～３条の平行沈線で菱形文を構成する。内面は研磨を施す。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は淡褐色である。

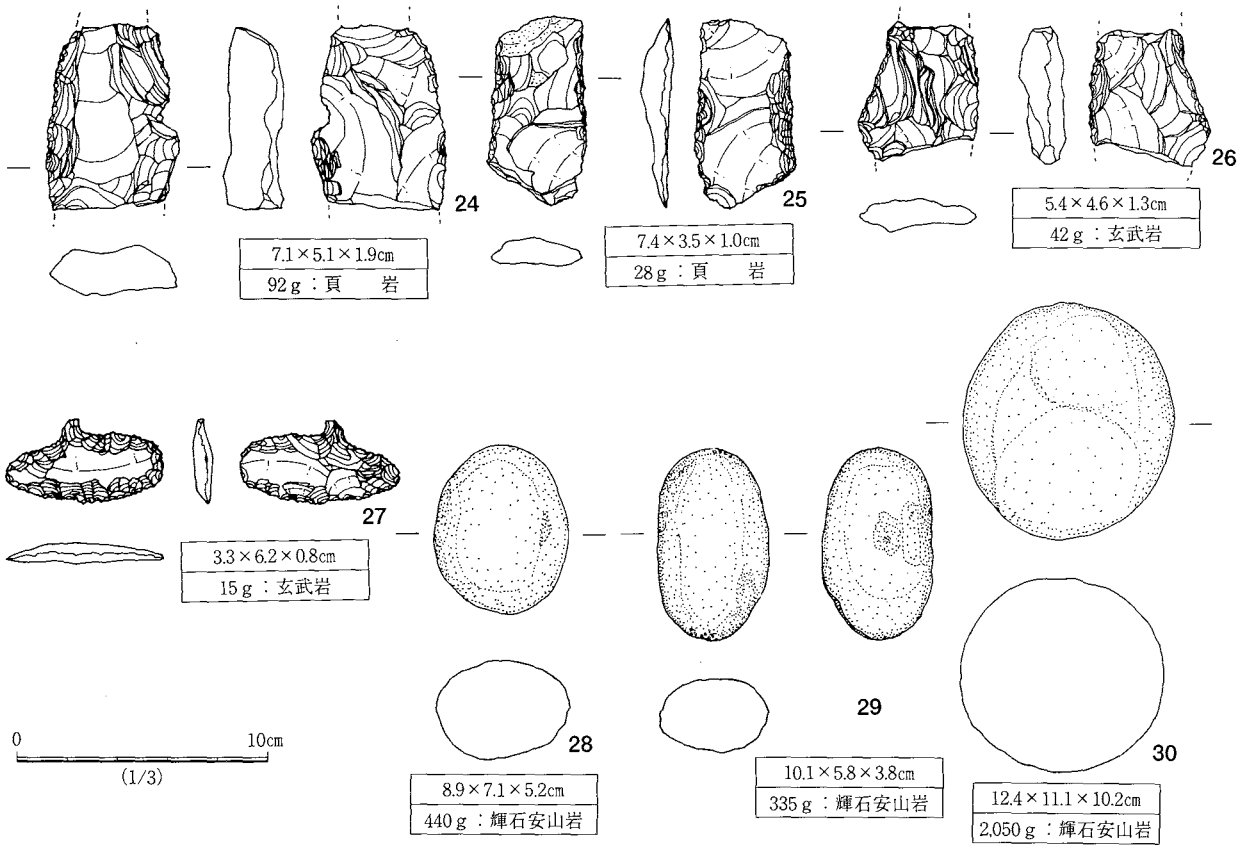
11は、原体不明の縄文を地文に、口縁部に２～３条の平行沈線で菱形文を構成する。菱形文には縦位の短い沈線が伴う。内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は明褐色である。

12・13・14・15・16は、深鉢の胴部片である。12は、外面全体に縄文（RL）を施文し、内面は撫でる。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は淡褐色である。

13は、縄文（RL）を地文に集合沈線を横位帯条に施し、間に平行沈線を矢羽状に充填する。渦巻文も１ヶ所見られる。内面は研磨され炭化物が付着する。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。



第66図　38号住居跡出土遺物（２）



第67図　38号住居跡出土遺物（3）

0　10cm
(1/4)

14は、深鉢の胴部片で、縄文（RL）を地文に、集合沈線で胴部に菱形状区画を構成し、区画内に大小の渦巻文を3個施す。内面は研磨される。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

15は、胴部に集合沈線を横位帯状に多段施文し、内面は撫でる。胎土は砂粒を多量含み、焼成は良好で、色調は淡褐色である。

16は、縄文（RL）を地文に、集合沈線を横位帯状に多段施文する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は明褐色である。

17・18・19は、深鉢の底部片である。

17は、縄文（RL）を施文する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

18は、縄文（RL）を地文に集合沈線を施す。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は明褐色である。

19は、無節縄文（L）を施文する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

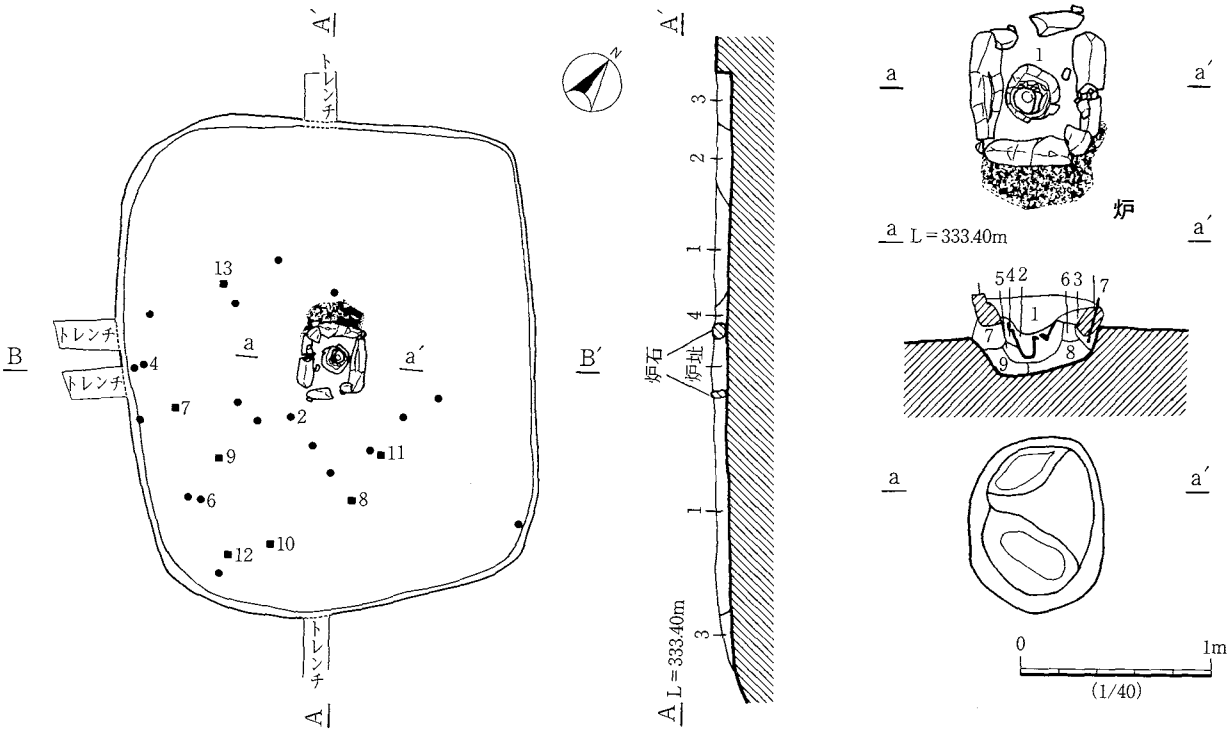
20は、胴部が強く張り出す浅鉢で、外面に黒色漆の塗彩が明瞭に残り、内面に研磨を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒色である。

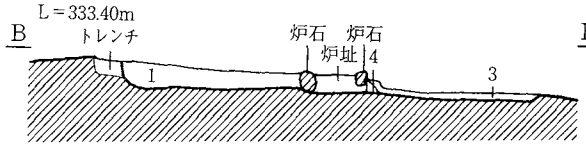
21は、頸部下に円孔を付す浅鉢である。内外面に赤色塗彩が一部に残り、外面に研磨を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黒褐色である。

22は、口縁部が内湾する深鉢で、胴部に黒色漆と赤色塗彩が一部に残る。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黒褐色である。

23は、浅鉢の胴部片で、胴部下半に段を持つ。一部に黒色漆塗彩の痕跡を残し、22と同一個体と見られる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒色である。

24～30は、石器で、24～26は、打製石斧片、27は、石匙、28～30は、磨石及び凹石である。





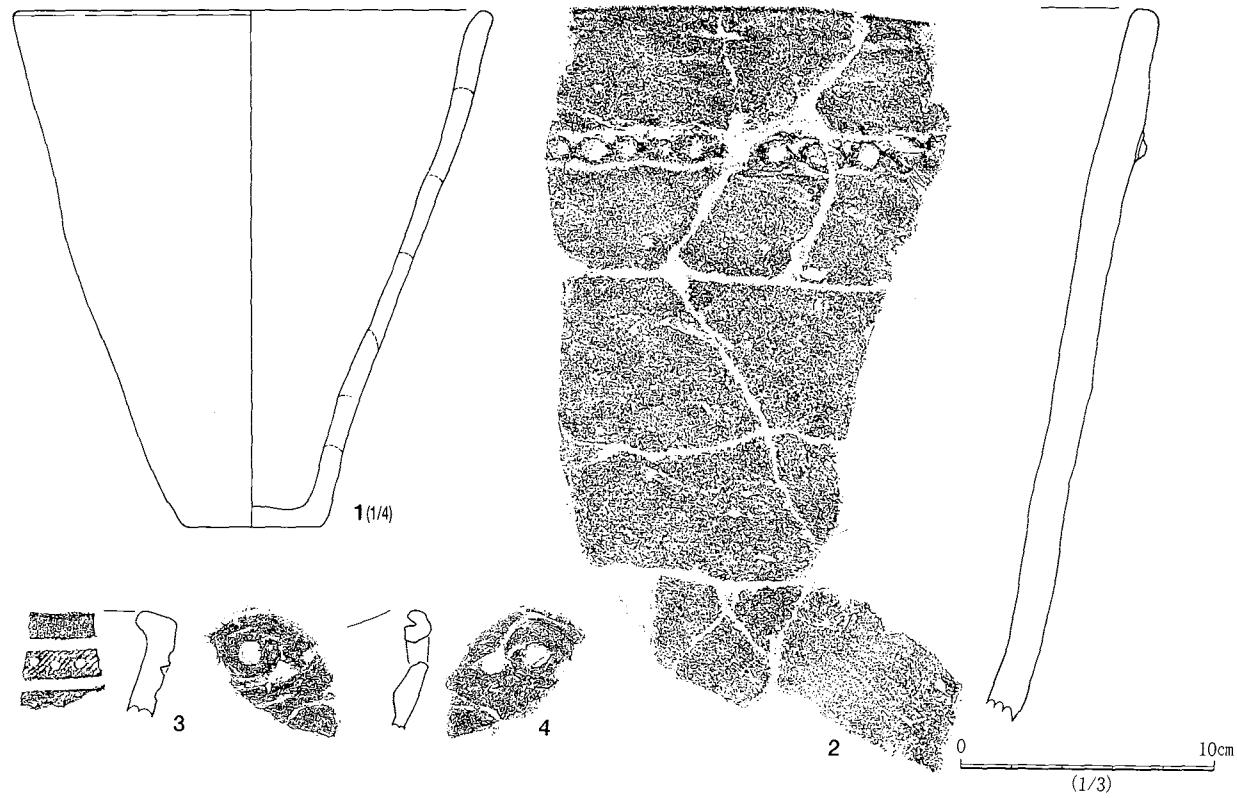
47号住居跡　炉

1．茶褐色土　ローム粒、灰色岩粒疎に含む。しまりあり。粘性弱い。
2．暗褐色土　ローム粒、灰色岩粒含まない。焼土、炭化物疎に含む。しまりあり。粘性あり。
3．暗褐色土　ローム粒、灰色岩粒ポツポツ含む。しまりあり。粘性弱い。
4．暗茶褐色土　ローム粒、灰色岩粒ポツポツ含む。しまりあり。粘性弱い。
5．茶褐色土　ローム粒やや密、焼土粒含む。しまりあり。粘性弱い。
6．茶褐色土　ローム粒やや密、灰色岩粒疎に含む。しまりあり。粘性弱い。
7．暗茶褐色土　ローム粒、灰色岩粒疎に含む。しまりあり。粘性弱い。
8．茶褐色土　ローム粒密、焼土粒やや密に含む。しまりあり。粘性なし。
9．茶褐色土　ローム粒密、ロームブロック含む。しまりやや強い。粘性弱い。

0　2m
(1/80)

47号住居跡

1．暗褐色土　白色粒、ローム粒、灰色粒まばらに含む。しまりあり。粘性弱。
2．暗褐色土　白色粒、ローム粒、黄色粒φ5～10mm、まばらに含む。しまりあり。粘性弱。
3．暗褐色土　白色粒、ローム粒きめ細く、まばらに含む。灰色粒、少量含む。しまりあり。粘性弱。
4．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒、まばらに含む。しまり粘性あり。
5．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒、灰色粒まばらに含む。しまり粘性あり。



第68図　47号住居跡・出土遺物（1）

47号住居跡　（第68・69図）

位置　／調査区中央のEd－83・Ee－82・83グリッドにおいて検出された。　切り合い関係　／なし。　平面形態　／隅角に丸みを持った長方形である。　規模　／長軸4.95ｍ、短軸4.17ｍ、深さ0.14ｍを計測する。　覆土　／掘り込み遺存が14cmと浅いものの、暗褐色土・暗茶褐色土が合計５層堆積し、このうち白色粒・ローム粒・灰色粒をまばらに含んだ暗褐色土が主体をなす。　柱穴　／なし。　壁　／南壁は、遺存せず、その他の３壁は外傾する。　壁溝　／なし。　床面　／ローム層中を床面とし、多少の起伏はあるものの全体的にはほぼ平坦である。　炉　／住居跡中央部に付設された石囲炉である。形状は、75cm×70cmの方形で、長さ50cm前後、厚さ15cm前後の安山岩を用いて構築し、中央に炉体土器を付設している。炉は、床面より20cm程掘り込み、炉石と炉体土器を設置するが、炉石はやや浮いた状態で検出されている。断面観察によると炉体土器の内部には焼土・炭化物のみをまばらに含んだ暗褐色土が観察される。　遺物　／全体的に出土量は少なく、比較的炉を中心とした南側に分布している。　遺構の時期　／炉より検出されている炉体土器から時期を判断すると縄文後期の所産と見られる。

遺物

本遺構から出土している土器のうち、１・２は後期としての一群、３・４・５は、堀之内２式、６は、堀之内式の範疇に納まると見られる一群である。

１は、直線的に開く深鉢の胴部から底部片である。器壁は厚手で、粗雑な作りである。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は軟質で、色調は橙色である。

２は、大形の深鉢で、口縁部直下に隆帯を巡らし、指頭による刻目を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい黄橙色である。

３は、緩い波状口縁の深鉢で、口縁部片である。口縁部端部は内側に丸く肥厚する。文様は沈線を２本巡らして縄文（L）を充填し、円形刺突を施す。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調はにぶい黄橙色である。

４は、波状口縁の鉢の口縁部片である。波頂部に円孔を配して、内面を装飾する。文様は胴部に沈線による区画文を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黒色である。

５は、波状口縁の深鉢である。波頂部内外面に円孔と沈線、円形刺突文を施文する。胎土は砂粒を含み、焼成は普通で、色調はにぶい黄橙色である。

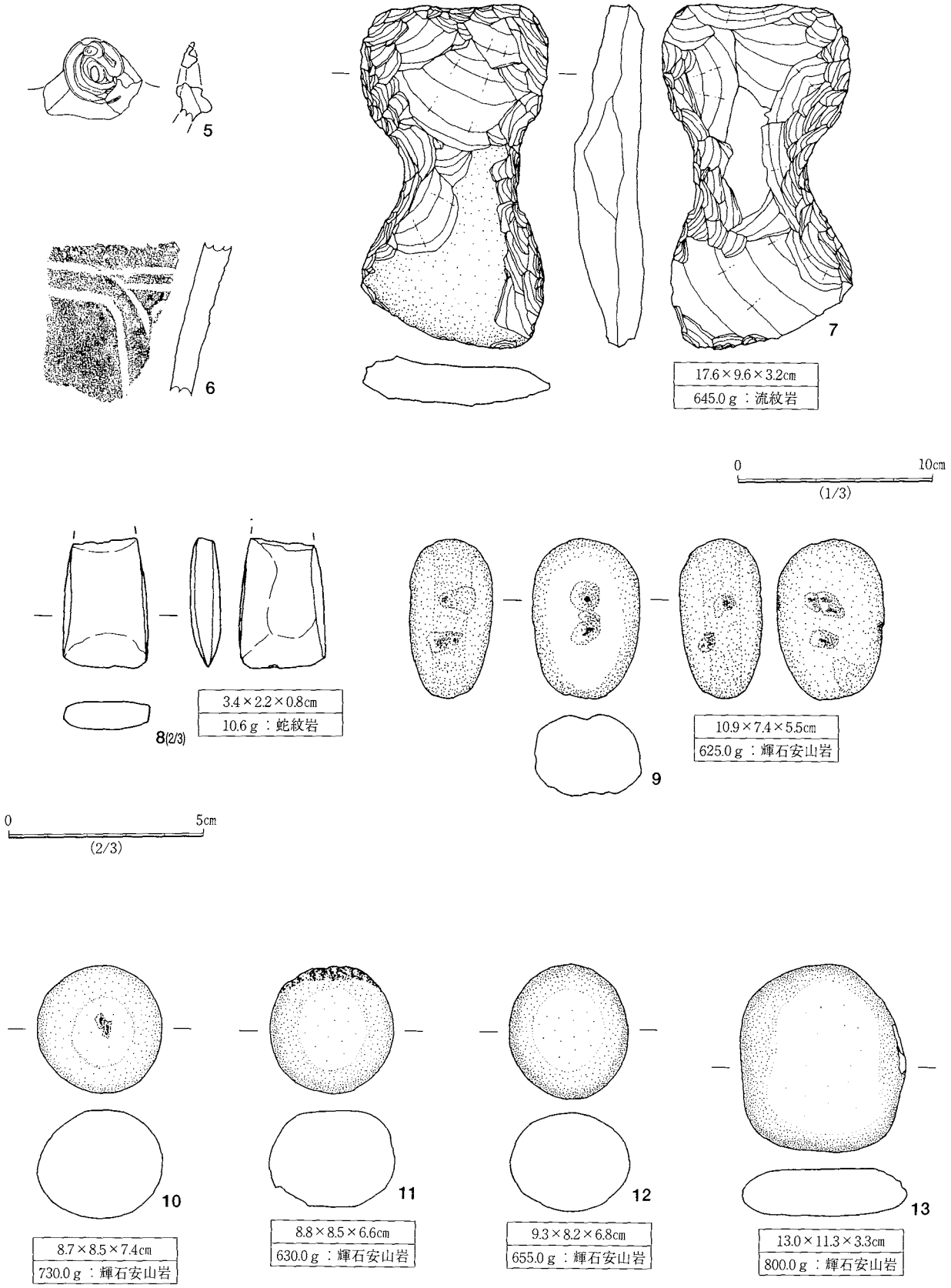
６は、大形の深鉢の胴部片で、２本の沈線で幾何学文様を施す。胎土は砂粒を含み、焼成は普通で、色調はにぶい黄橙色である。

７～13は、石器である。

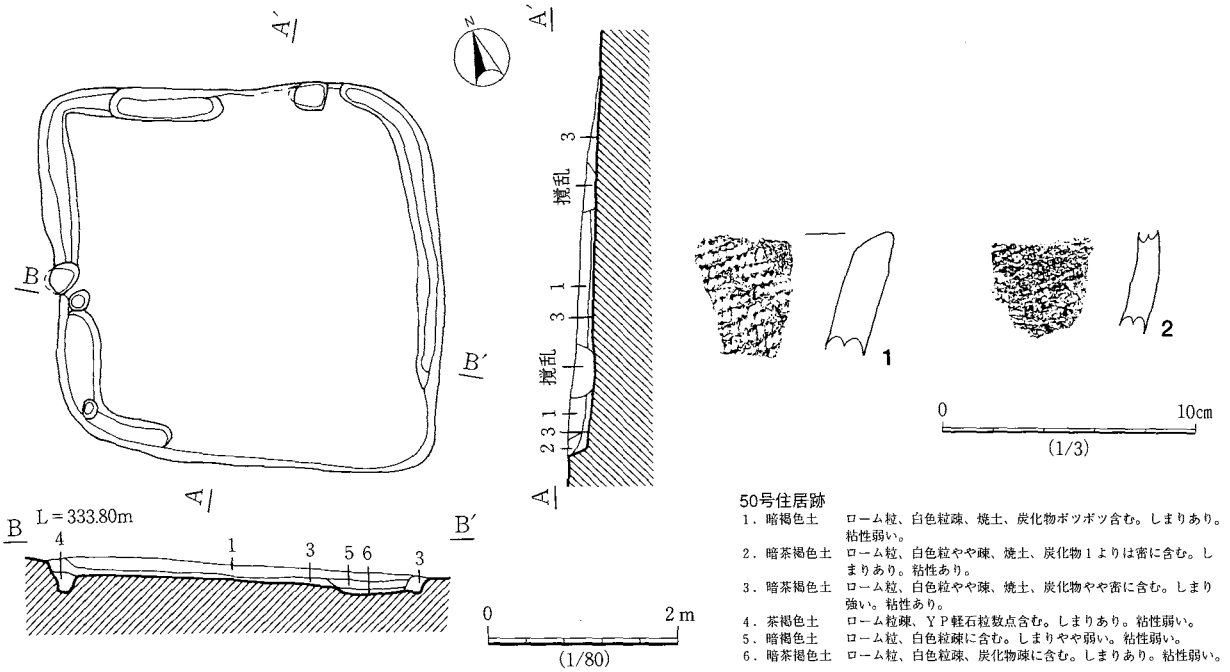
７は、打製石斧で、分胴形である。

８は、小形の磨製石斧で、蛇紋岩製である。

９～13は、磨石及び凹石で、11は、煤の付着が観察される。



第69図　47号住居跡出土遺物（２）



第70図　50号住居跡出土遺物

50号住居跡　（第70図）

位置　／調査区中央のEd－81グリッドにおいて検出された。　切り合い関係　／なし。　平面形態　／隅角に丸みを持った方形。　規模　／長軸3.95ｍ、短軸3.80ｍ、深さ0.33ｍを計測する。　覆土　／暗褐色土・暗茶褐色土・茶褐色土が堆積し、このうち白色粒・ローム粒・焼土粒・炭化粒を含んだ暗褐色土が主体をなす。また、５・６層は遺構埋没過程において別遺構が掘り込まれた可能性を持つ。　柱穴　／住居跡北壁際と西壁際に深さ15cm前後の小ピットが４基確認されている。　壁　／緩やかに立ち上がる。　壁溝　／幅18～35cm、深さ10cm前後で南壁下を除いた壁下に断続的ではあるが巡る。　床面　／ローム層中を床面とする。多少の起伏はあるものの全体的にはほぼ平坦である。　炉　／なし。　遺物　／全体的に出土遺物は少なく、細片ではあるが２点を図示した。　遺構の時期　／諸磯ａ式と見られる土器の細片が出土しているが、判断するのには資料が乏しく不明である。

遺物

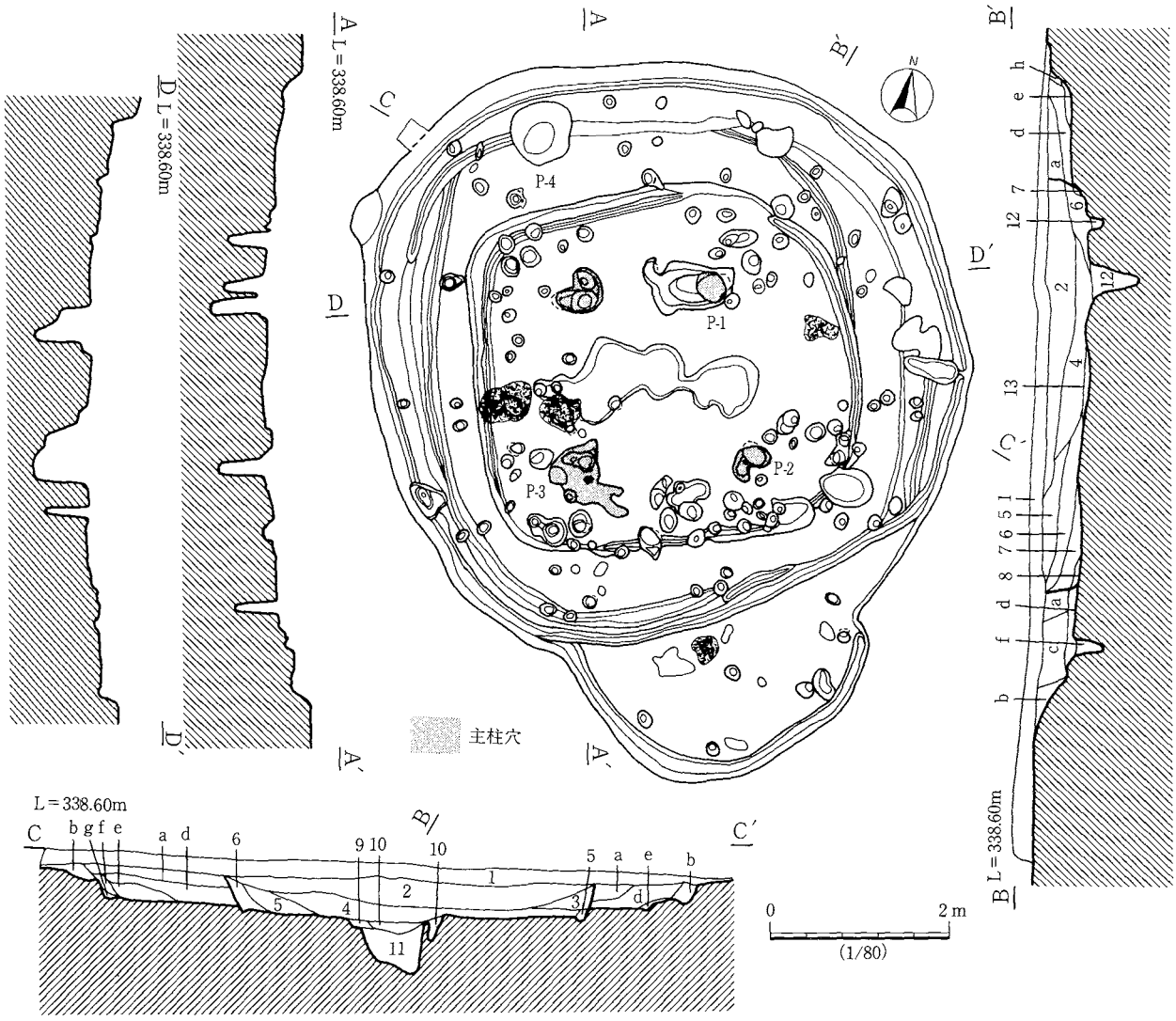
細片であるが２点が出土し、諸磯ａ式の範疇に納まると見られる。

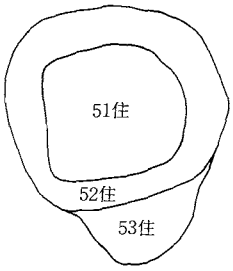
１は、深鉢の口縁部片で、外面に縄文（LR）を施文する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

２は、鉢の胴部片で、外面に施文の痕跡を残す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は不良で、色調は暗褐色である。

51号住居跡　（第71・72・73図）

位置　／調査区西側のDi－69グリッドにおいて検出された。　切り合い関係　／30・52・53号住居跡、９号掘立柱建物跡と重複し、新旧関係では30号住居跡・９号掘立建物跡⇨本跡⇨52・53号住居跡（新⇨旧）である。　平面形態　／隅角に丸みを持った方形。　規模　／長軸4.30ｍ、短軸3.95ｍ、深さ0.43ｍを計測する。　覆土　／暗褐色土・暗茶褐色土が堆積する。このうち、白色粒・ローム粒を含有し、YP軽石の有無によ





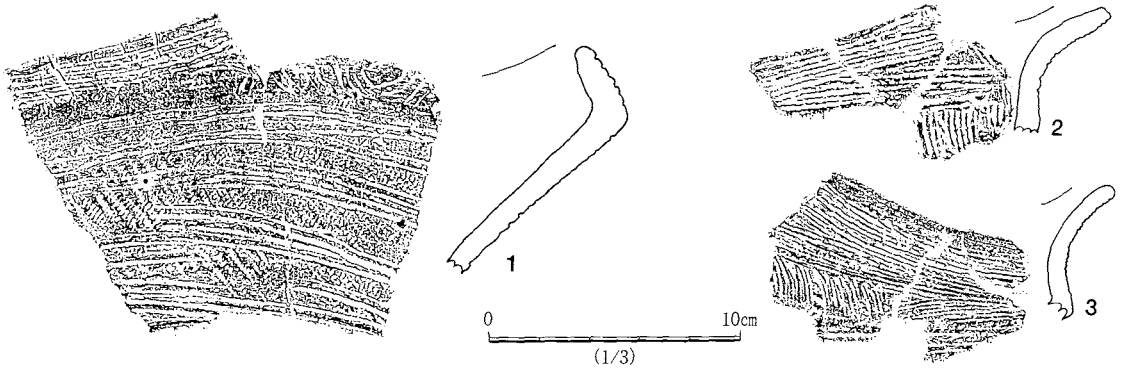
51・52・53号住居跡概念図

51号住居跡

1．暗褐色土　白色粒、ローム粒、まばらに含む。しまり強。粘性弱。
2．暗褐色土　白色粒、ローム粒、ＹＰブロックまばらに含む。しまり強。粘性弱。
3．暗褐色土　白色粒、ローム粒、まばらに含み、ＹＰブロック少量含む。しまり強。粘性弱。
4．暗褐色土　白色粒、ローム粒、ロームブロックφ10～30㎜まばらに含む。しまり強。粘性弱。
5．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒まばらに含む。しまり強。粘性弱。
6．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒、ＹＰブロックまばらに含む。しまり強。粘性弱。
7．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒、炭化物まばらに含む。しまり強。粘性弱。
8．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒まばらに含む。しまり強。粘性弱。
9．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒、ＹＰブロック多量に含む。しまり強。粘性弱。
10．暗褐色土　白色粒、ローム粒ＹＰブロック、まばらに含む。しまり強。粘性弱。
11．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒ＹＰブロック、まばらに含む。しまり強。粘性弱。
12．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒、ＹＰブロック多量に含む。しまり強。粘性弱。
13．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒まばらに含む。しまり強。粘性弱。

52号住居跡

a．暗褐色土　白色粒、ローム粒、ロームブロックまばらに含む。しまり強。粘性弱。
b．茶褐色土　白色粒、ローム粒きめ細くまばらに含む。しまり強。粘性弱。
c．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒、φ10㎜程度密に多量に含む。しまり強。粘性弱。
d．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒、まばらに含む。ＹＰブロック数点含む。しまり強。粘性弱。
e．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒、ロームブロックまばらに含む。しまり強。粘性弱。
f．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒まばらに含む。しまり強。粘性弱。
g．茶褐色土　白色粒、ローム粒まばらに含む。しまり強。粘性弱。
h．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒、ロームブロックまばらに含む。しまり強。粘性弱。



第71図　51・52・53号住居跡、51号住居跡出土遺物（１）

り相違が見られる二層の暗褐色土が主体をなす。　柱穴　／Ｐ－１～４が主柱穴に相当し、床面よりの深さはＰ－１が60㎝、Ｐ－２が57㎝、Ｐ－３が62㎝、Ｐ－４が62㎝である。この他重複関係が著しい為判然としないが、深さ40㎝前後に集中する杭状の小ピットが確認されている。　壁　／外傾する。　壁溝　／幅７～13㎝、深さ３㎝前後で壁下に断続的に巡る。　床面　／ローム層中を床面とし、多少の起伏はあるものの全体的にはほぼ平坦である。　炉　／明瞭な炉の痕跡は確認されなかったが、住居跡東辺中央部際と西辺中央部に３ヶ所の焼土の付着が確認されている。　遺物　／覆土中の遺物が大多数を占める。　遺構の時期　／諸磯ｂ式の土器を主体としていることより縄文前期後半と考えられる。

遺物

本遺構より出土した土器は、諸磯ｂ式に比定される一群である。

１・４・７は、口縁部がくの字状に内折する波状口縁の深鉢である。１は、縄文（RL）を地文に、２条単位の平行沈線を横位帯状に多段施文する。口縁波頂部には、菱形区画を伴う渦巻文を施す。内面は撫でる胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

２・３・６は、口縁部が内湾する深鉢である。２は、口縁部波頂部に風車状の文様を構成すると見られる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。３は、２と同一個体と見られる。

４は、外面に縄文（RL）を施し内面を撫でる。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

５は、口縁部が弱く内湾する大きな波状口縁の深鉢で、波頂部は４単位の山形状を呈し、波頂下には瘤状の貼付文を付すが欠損している。文様は縄文（RL）を地文に、数条単位の平行沈線で構成し、内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

６は、粗雑な作りで内面を撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黒褐色である。

７は、文様は縄文（RL）を地文に、集合沈線を横位帯状に多段施文し、波頂部口縁には縦位の集合沈線を施す。内面は撫で。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は淡褐色である。

８・９・10・11・12・13は、深鉢の胴部片。８は、縄文（RL）を地文に、２～３条単位の浮線文を施し、浮線文には斜位の刻目を付す。内面は研磨。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

９は、縄文（RL）を地文に、数条の平行沈線を横位帯条に施文し、その間に菱形区画を伴う風車状の文様を構成する。内面は撫で。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

10は、外面全体に縄文（LR）を施文する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は普通で、色調は褐色である。

11は、外面全体に縄文（RL）を施文するが、原体端部の結び目が見える。内面は研磨を施す。胎土は砂粒を少量含み、焼成は普通で、色調は黒褐色である。

12は、文様は８と同じ。外面に炭化物が付着する。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

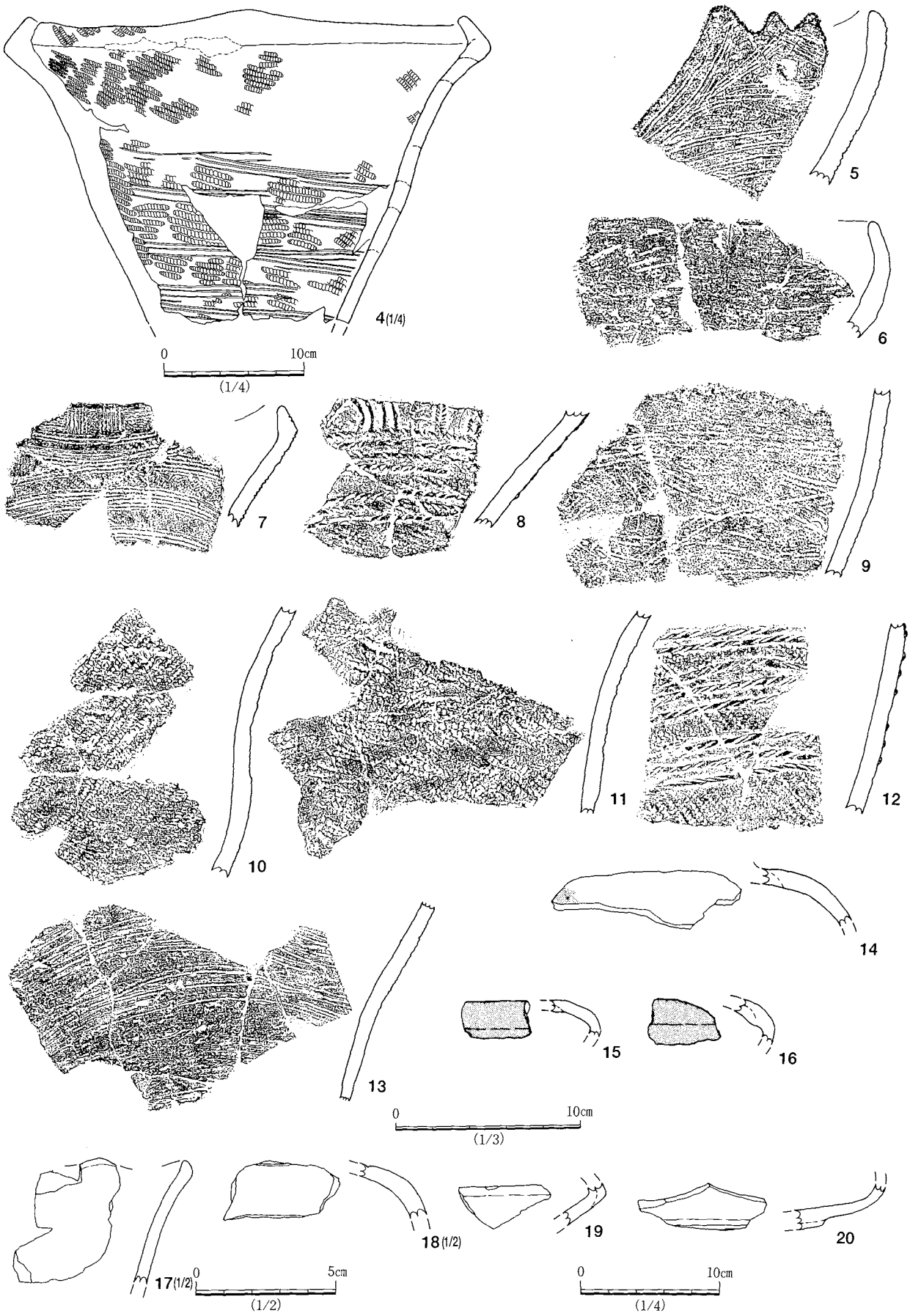
13は、集合沈線を横位帯状に多段施文する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

14・19・20は、浅鉢の胴部片である。内外面に研磨が施され、外面の一部に赤色塗彩が残る。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

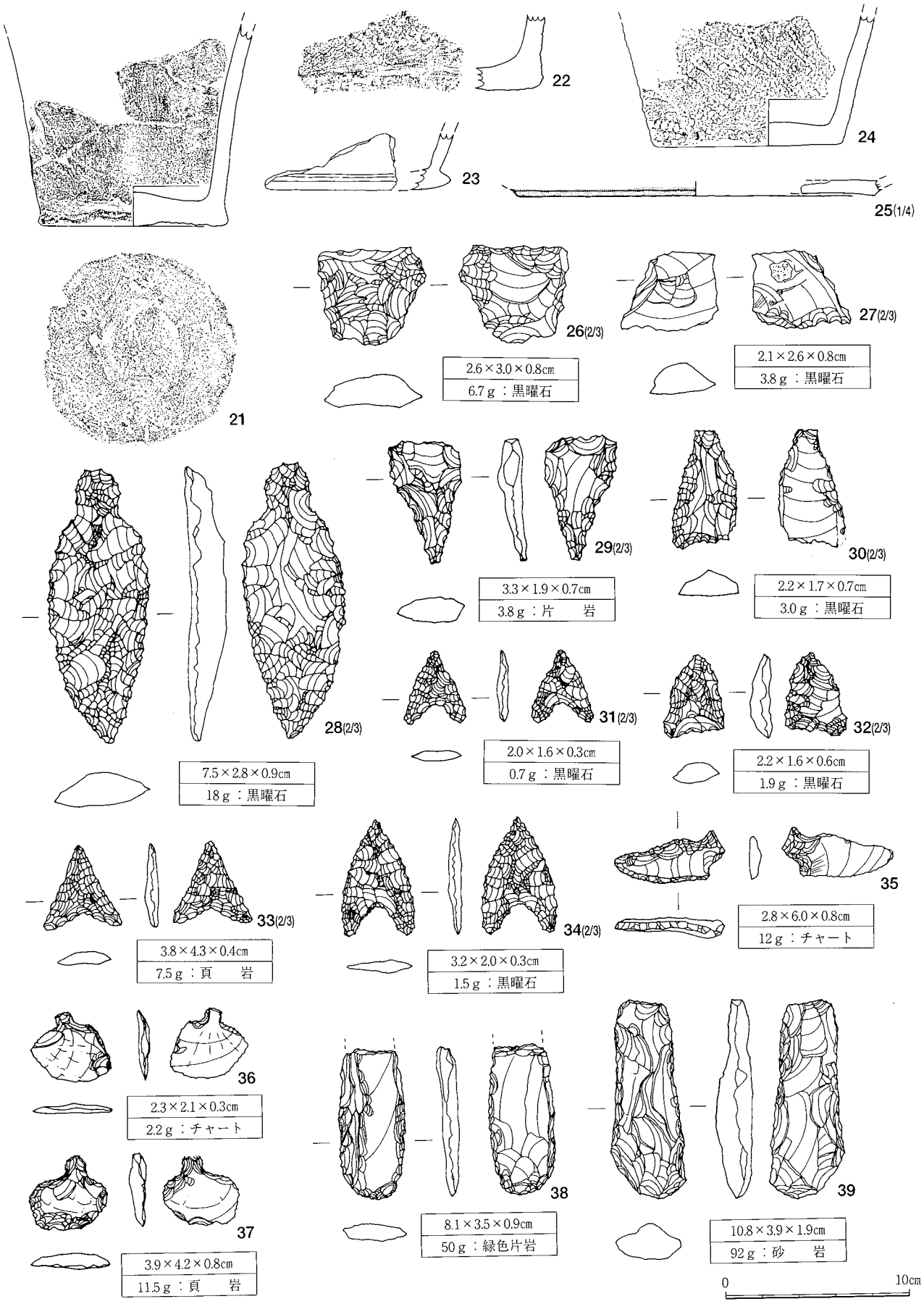
15・16は、浅鉢もしくは、小形土器と見られる。作りはやや雑だが外面の一部に赤色塗彩が残る。胎土は砂粒を少量含み、焼成は普通で、色調は黄褐色である。

17は、ミニチュア土器の口縁部片である。粗製で、波頂部が３山になる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は灰褐色である。

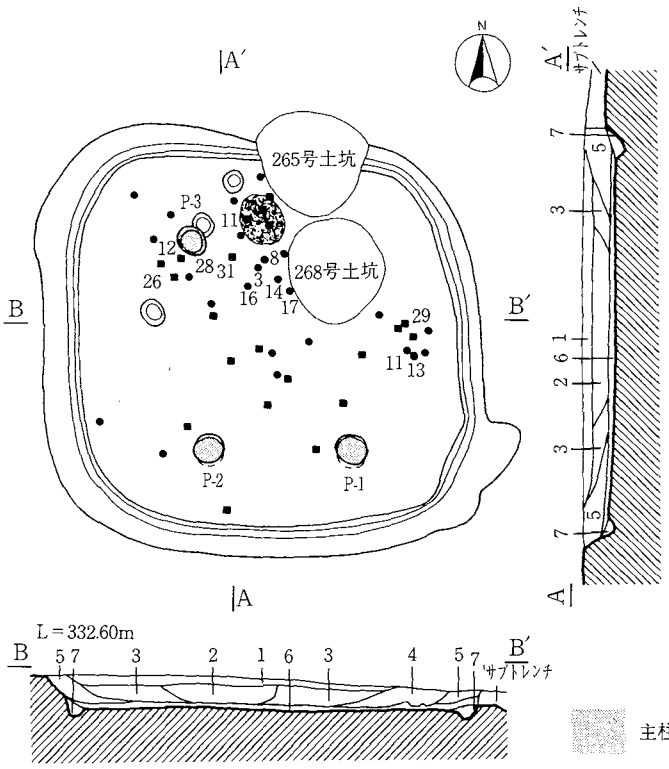
18は、ミニチュア土器の胴部片である。粗製で、口縁部下に沈線が巡る。外面は研磨を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄灰色である。



第72図　51号住居跡出土遺物（２）

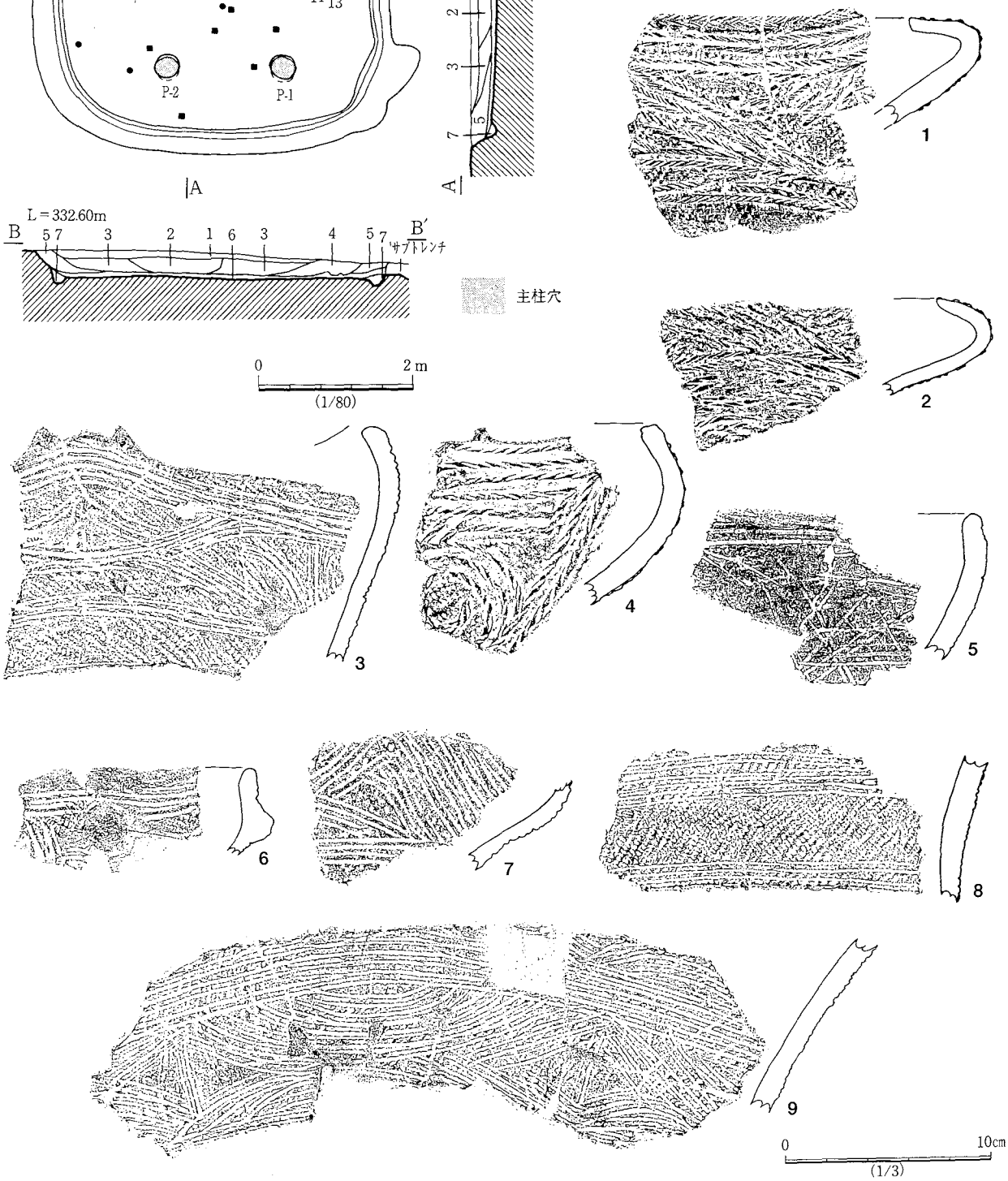


第73図　51号住居跡出土遺物（3）



55号住居跡

1．暗褐色土　白色粒、ローム粒、φ6㎜程まばらに含む。しまりあり。粘性弱。
2．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒、ＹＰブロック、ロームブロック、φ10～40㎜密に含む。しまりあり。粘性弱。
3．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒、ＹＰブロック多量に含む。しまりあり。粘性弱。
4．暗褐色土　白色粒、ローム粒多量に含む。炭化物まばらに含む。しまりあり。粘性弱。
5．暗褐色土　白色粒ローム粒多量に含む。しまりあり。粘性弱。
6．茶褐色土　白色粒ローム粒、まばらに含む。ＹＰブロック数点含む。しまりあり。粘性弱。
7．茶褐色土　白色粒、ローム粒、まばらに含む。しまりあり。粘性弱。



第74図　55号住居跡・出土遺物（1）

19は、内外面に研磨を施す。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

20は、下半に段を持ち内外面に研磨を施す。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

21・22・24・は、深鉢の胴部から底部片である。21は、縄文（RL）をまばらに施文し、内面は研磨する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は普通で、色調は黄褐色である。

22は、外面全体に縄文（RL）を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

23は、鍔を持つ浅鉢で、内外面に研磨を施す。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

24は、外面全体に縄文（RL）を施す。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

25は、胴部下半に段を持つ浅鉢である。外面の一部に赤色塗彩、内外面の一部に黒色漆が認められる。胎土は砂粒・雲母を多量に含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

26～39は、石器である。

26・27・30は、剥片石器である。

28・35・36・37は、石匙で、このうち28は、大形で縦形である。

29は、石錐、31～34は、無茎の石鏃である。

38・39は、打製石斧で、短冊形である。

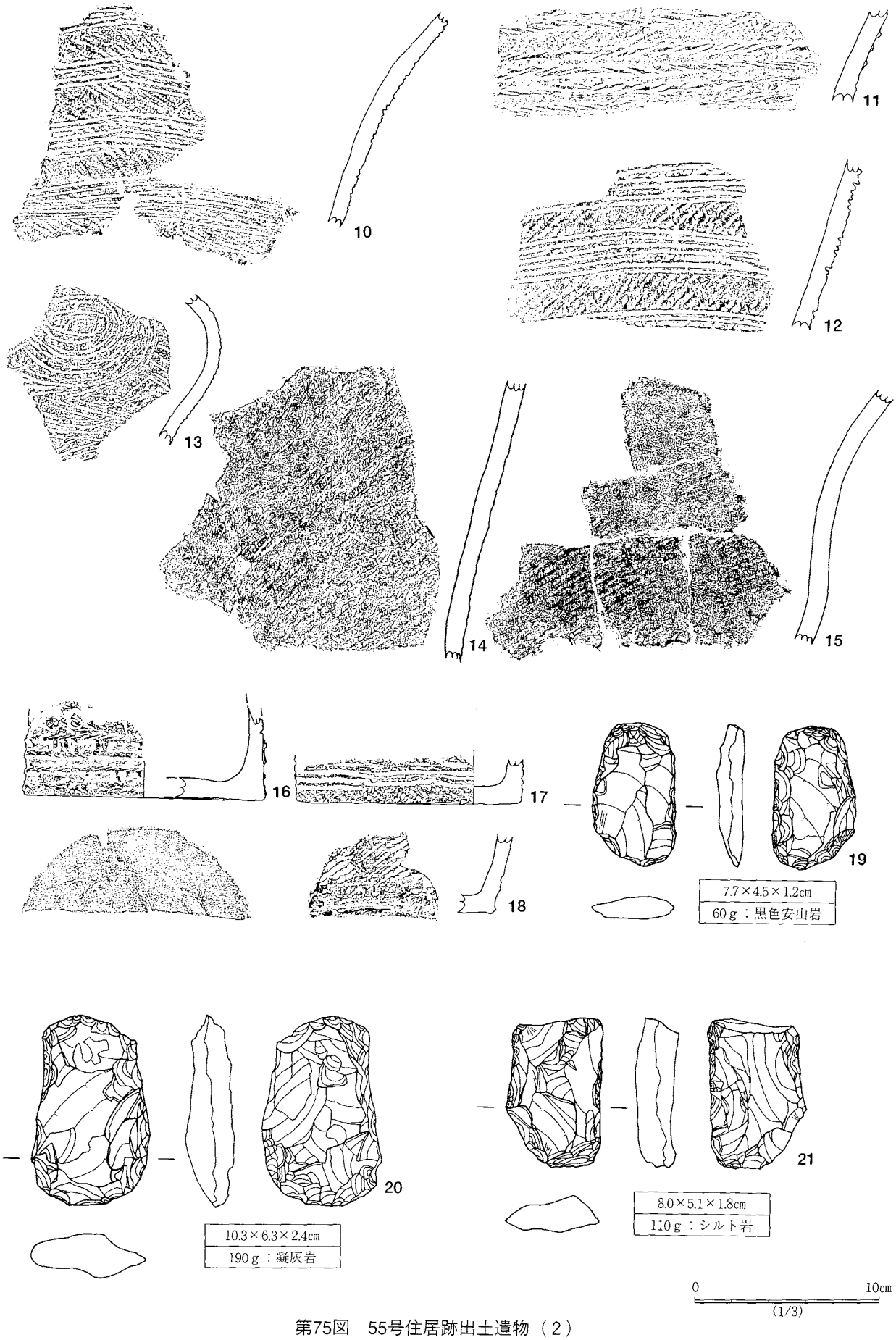
52号住居跡　（第71図）

位置　／調査区西側のDi－69グリッドにおいて検出された。　切り合い関係　／30・51・53号住居跡、9号掘立柱建物跡と重複し、新旧関係では30号住居跡・9号掘立柱建物跡⇨51号住居跡⇨本跡⇨53号住居跡（新⇨旧）である。　平面形態　／方形に近い円形である。　規模　／長軸6.40ｍ、短軸6.20ｍ、深さ0.35ｍを計測する。　長軸方向　／Ｎ－75°－Ｅ。　覆土　／51号住居跡部分を除くと、暗褐色土・暗茶褐色土・茶褐色土がそれぞれ堆積する。　柱穴　／深さ20㎝前後の杭状の小ピットが多数確認されている。　壁　／外傾する。　壁溝　／幅10～15㎝、深さ４㎝前後で壁下とその内側に二重に巡る。　床面　／多少の起伏がある。特に住居跡北側を中心として壁下に幅40㎝程、床面よりの高さ３㎝程と僅かであるが段状となっている。　炉　／51号住居の構築の為不明である。　遺物　／本住居跡に明確に所属すると見られる遺物は不明である。　遺構の時期　／不明。

53号住居跡　（第71図）

位置　／調査区西側のDi－69グリッドにおいて検出された。　切り合い関係　／30・51・52号住居跡、9号掘立柱建物跡と重複し、新旧関係では30号住居跡・9号掘立柱建物跡⇨51号住居跡⇨52号住居跡⇨本跡（新⇨旧）である。　平面形態　／円形あるいは極めて円形に近い方形と推測される。　規模　／他遺構との重複により僅かな検出である為、平面規模については計測不能である。確認面よりの深さは0.18ｍを測る。

長軸方向　／不明。　覆土　／検出された範囲においては僅かながらローム粒・白色粒を含んだ暗褐色土が堆積する。　柱穴　／深さ15㎝前後の小ピットが多数確認されている。　壁　／緩斜する。　壁溝　／調査範囲内においては幅12～18㎝、深さ４㎝前後で壁下に巡る。　床面　／ほぼ平坦で一定しているが、特に使用頻度を物語る硬化面は確認されていない。　炉　／長計30㎝を計測する楕円形の地床炉で、表面は被熱により赤変硬化している。　遺物　／本住居跡に明確に所属すると見られる遺物は見られない。　遺構の時期　／出土遺物がないため縄文時代の範疇であることは明らかであるが詳細は不明である。



第75図　55号住居跡出土遺物（2）

55号住居跡　（第74・75・76図）

位置　／調査区東側のEg－86・87、Eh－86・87グリッドにおいて検出された。　切り合い関係　／265・268号土坑と重複し、新旧関係では本跡が最も古い構築である。　平面形態　／隅角に丸みを持った方形。　規模　／長軸4.50ｍ、短軸4.20ｍ、深さ0.33ｍを計測する。　長軸方向　／N－90°－W。　覆土　／暗褐色土・暗茶褐色土・茶褐色土が堆積し、白色粒・ローム粒・YPブロックの含有が目立っている。　柱穴　／Ｐ－１～３が主柱穴に相当し、残る１本は268号土坑の構築により消滅した公算が高い。各柱穴の床面よりの深さはＰ－１が73㎝、Ｐ－２が69㎝、Ｐ－３が68㎝でほぼ一定している。この他深さ10㎝前後を測るピットが３基確認される。　壁　／外傾する。　壁溝　／幅13㎝、深さ５㎝前後で壁下に全周する。　床面　／多少の起伏はあるものの全体的にほぼ平坦である。　炉　／住居跡北側に付設された地床炉で、楕円形を呈している。　遺物　／比較的主柱穴の内側から出土している。　遺構の時期　／諸磯ｂ式の土器が主体をなすことより縄文前期後半と考えられる。

遺物

本遺構から出土した土器は、諸磯ｂ式として包括される一群である。

１は、口縁部が強く内湾する深鉢で、口縁部上面に綾杉状の刻目を付す。文様は縄文（LR）を地文に３本単位の浮線文で口縁部に波状文様を構成する。浮線文には斜位の刻目を付し、内面を研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黒褐色である。

２は、器形・文様は１と同じだか、浮線文は２本１対で矢羽根状の刻目を施したものを４条１単位で施文している。内面は研磨する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は普通で、色調は黄褐色である。

３は、口縁部が弱く内湾する深鉢である。口縁部に３山の把手を付し、口唇部上端に波状の浮線を施す。文様は縄文（RL）を地文に、２～３条単位の平行沈線で、口縁部に菱形状の文様を構成する。内面は撫でる。胎土は砂粒・チャート・赤褐色岩片を多量に含み、焼成は普通で、色調は暗褐色である。

４は、口縁部が内湾する深鉢である。口縁部山形の小突起を付す。文様は縦位施文の縄文（RL）を地文に、２～３条単位の浮線文で口縁部に渦巻文を構成し、浮線文には斜位の刻目を付す。内面は研磨する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は普通で、色調は黒褐色である。

５は、口縁部が内湾する波状口縁の深鉢である。文様は平行沈線で斜格子文を構成する。文様施文は粗雑で、内面を研磨する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は普通で、色調は褐色である。

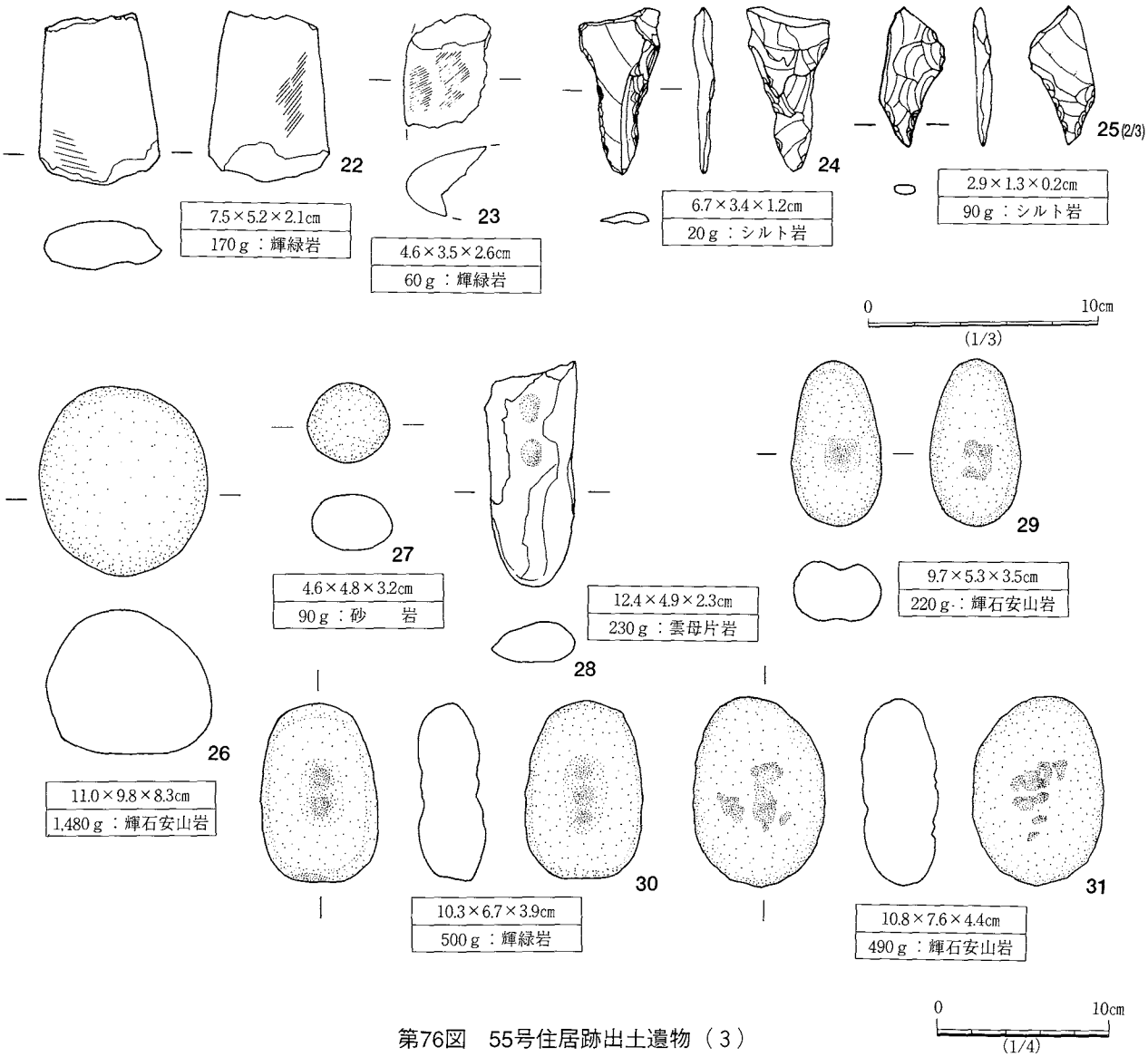
６は、口縁部が内湾する深鉢である。口縁部に山形の小把手を付し、把手の下には円形の貼付文を付す。文様は縄文（RL）を地文に、２条単位の平行沈線で構成し、内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黒褐色である。

７は、口縁部が内湾する深鉢である。縄文（RL）を地文に口縁部に平行沈線で重弧文状の文様を施文し、内面を研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

８は、深鉢の口縁部片である。縄文（LR）を地文に、集合沈線帯を数帯施文し、内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

９は、深鉢の口縁部片である。無節縄文（L）を地文に、集合沈線で横帯区画を構成し、その間に弧線文様を組み合わせて菱形文を構成する。内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黄褐色である。

10は、深鉢の胴部片で、縄文（RL）を地文に、集合沈線帯を数帯施文し、内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は淡褐色である。



第76図　55号住居跡出土遺物（3）

11は、深鉢の胴部片で、無節縄文（L）を地文に、数条単位の浮線文を数帯施文し、浮線文には斜位の刻目を付す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

12は、深鉢の胴部片で、無節縄文（L）を地文に、集合沈線帯を数帯施文し、内面は研磨する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

13は、口縁部が内湾する深鉢で、縄文（RL）を地文に、口縁部に平行沈線で渦巻状文を施文し、内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は灰褐色である。

14は、深鉢の胴部片である。外面全体に無節縄文（L）を施文し、内面は撫でる。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

15は、胴部上半が外反する深鉢である。外面全体に無節縄文（L）を施文し、内面は撫でる。両者共に胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

16は、深鉢の底部片で、底部直上に梯子状に施文した浮線文を2帯施し、その上に円形の刺突列を施す。浮線文には斜位の刻目を付し、地文は撫で消された部分が多いが、2種類の原体による羽状文であろう。内面・底面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

17は、深鉢の底部片で、縄文（RL）を地文に平行沈線で構成し、内面は撫で、底面は研磨する。胎土は砂粒・チャート・赤褐色岩片を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

18は、深鉢の底部片で、外面に無節縄文（L）を施文し、内面、底面は研磨する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

19～31は、石器である。

19～21は、打製石斧で、19は小形である。

22・23は、磨製石斧の破片である。

24・25は、剥片石器としたが、石錐を意図したものか。

26～31は、磨石及び凹石である。

56号住居跡　（第77・78図）

位置　／調査区東側のEg－87グリッドにおいて検出された。　切り合い関係　／なし。　平面形態　／隅角に丸みを持った方形。　規模　／長軸3.70ｍ、短軸3.60ｍ、深さ0.33ｍを計測する。　長軸方向　／Ｎ－6°－Ｅ。　覆土　／暗褐色土・暗茶褐色土・茶褐色土が合計８層堆積し、白色粒・ローム粒の含有が目立っている。　柱穴　／Ｐ－１～４が主柱穴に相当し、この内側よりピットが確認されていることと壁溝が２重に巡っている点により、断面観察により確認はされなかったが拡張あるいは建て替えがなされた可能性を有する。床面よりの深さはＰ－１が41㎝、Ｐ－２が55㎝、Ｐ－３が36㎝、Ｐ－４が40㎝である。この他深さは10～53㎝とまちまちであるがピットが確認されている。また、住居跡外に壁に沿う形でピットが検出されている。確認面よりの深さは深いもので56㎝、他は概ね15㎝前後のものが多数を占める。　壁　／外傾する。壁溝　／幅10～16㎝、深さ７㎝前後で二重に巡る。　床面　／多少の起伏はあるものの全体的にはほぼ平坦である。　炉　／なし。　遺物　／赤彩土器及び小形の鉢が出土している。　遺構の時期　／諸磯式の土器を主体としていることより、縄文前期後半と考えられる。

遺物

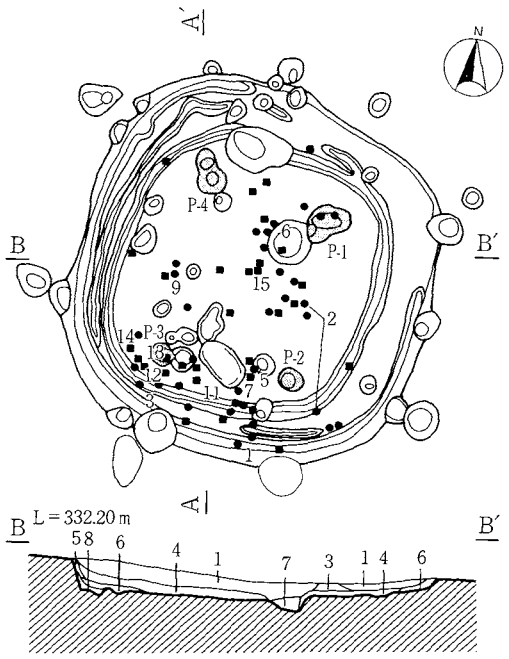
本遺構から出土した土器のうち、１～６が諸磯ａ式、７～10が諸磯式として包括されるであろう一群である。

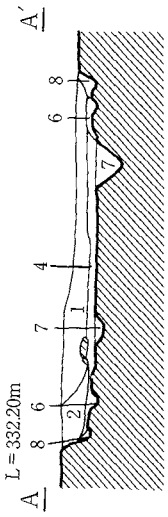
１は、小形の深鉢で、胴部上半片である。縄文（LR）を地文に、胴部上半に平行沈線で弧状の横線を４条施し、沈線間を縦位に条線でつなぎ、内面は研磨する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

２は、口縁部が外反する深鉢である。口縁部に爪形文を４条巡らし、以下に縄文（LR）を施す。内面は研磨する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

３は、口縁部が外反する深鉢である。外面に縄文（RL）を施文し、内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

４は、深鉢の胴部片で、胴部上半に肋骨文を構成し、下半に縄文（RL）を施す。肋骨文には縦位の沈線による割り付け線が伴い、交点には円形押圧を施し、内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は褐色である。



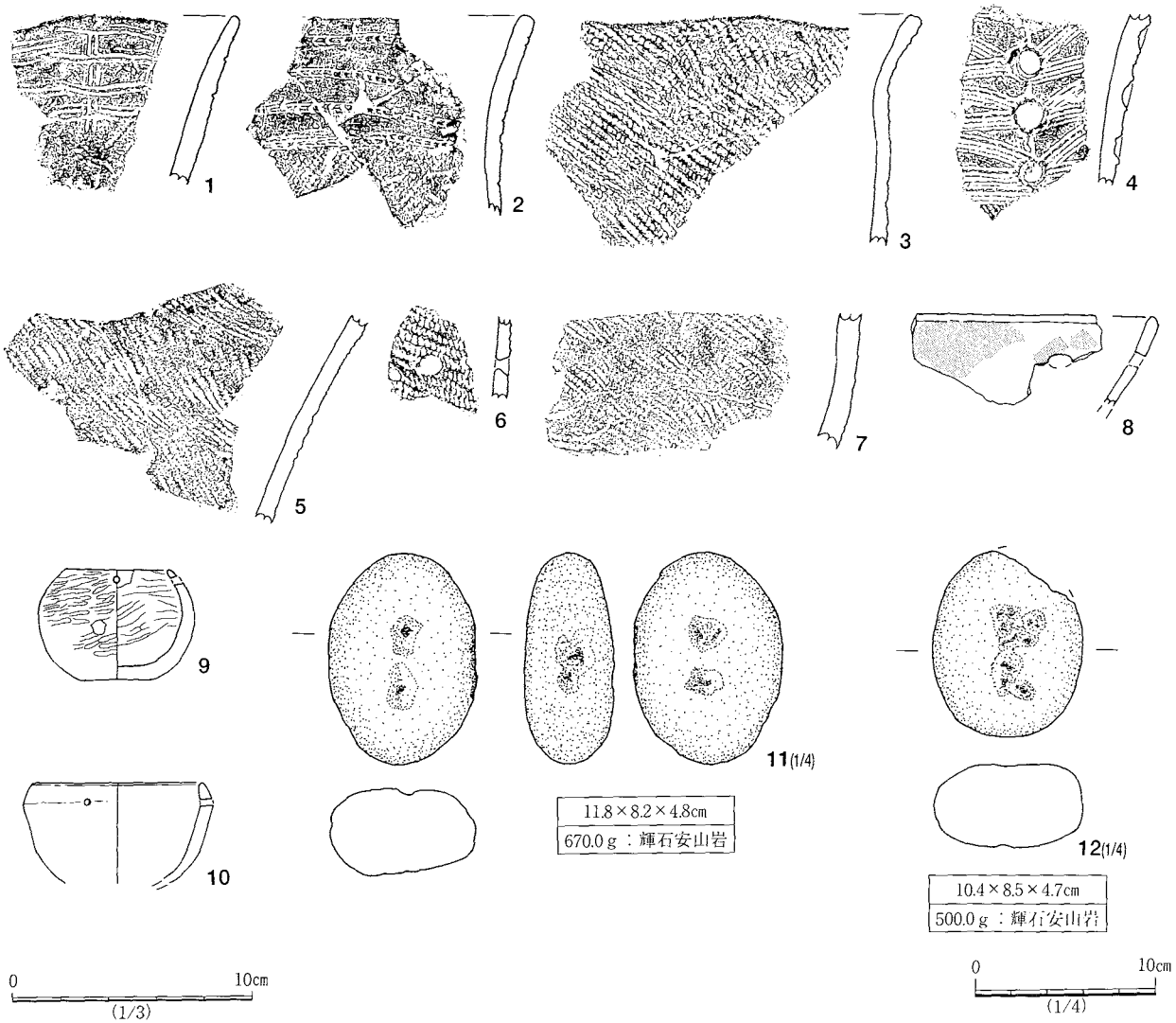


主柱穴

56号住居跡

1．暗褐色土　白色粒、ローム粒、ＹＰブロック、φ10㎜程まばらに含む。しまりあり。粘性弱。
2．暗褐色土　白色粒、ローム粒、灰色粒まばらに含む。しまりあり。粘性弱。
3．暗褐色土　白色粒、ローム粒、ロームブロックまばらに含む。しまりあり。粘性弱。
4．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒、ロームブロックまばらに含む。しまりあり。粘性弱。
5．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒まばらに含む。しまりあり。粘性弱。
6．茶褐色土　白色粒、ローム粒まばらに含む。しまりあり。粘性弱。
7．茶褐色土　白色粒、ローム粒、ロームブロックまばらに含む。しまりあり。粘性弱。
8．茶褐色土　白色粒、ローム粒、ロームブロック、まばらに含む。しまりあり。粘性弱。

0　2m
(1/80)



第77図　56号住居跡・出土遺物（１）

5は、深鉢の胴部片で、外面に縄文（RL）を施文する。上端の一部にL縄の撚糸文が見られるが、これは原体に一部が巻きついた可能性もある。内面は撫でる。胎土は片岩を多量に含み、焼成は普通で、色調は淡褐色である。

6は、深鉢の胴部片で、補修孔が確認され、外面に縄文（RL）を施文し、内面は研磨する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

7は、深鉢の胴部片で、外面に縄文（RL）と結節縄文（L）を施文し、内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黄褐色である。

8は、鉢の口縁部片で、内外面に黒色漆と赤色塗彩が残る。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は淡褐色である。

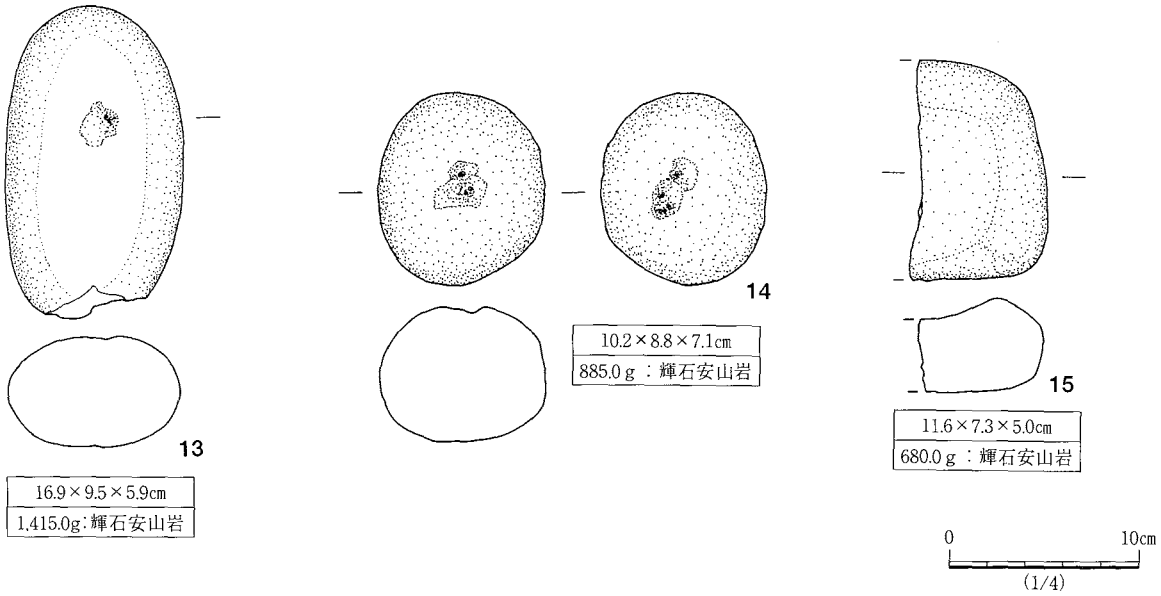
9は、球形状の小形の浅鉢で、口縁部に1対の円孔が付くと見られ、内外面に研磨が施される。胎土は砂粒を少量含み、焼成は普通で、色調は黒褐色である。

10は、口縁部が内湾する小形の鉢で、口縁部に1対の円孔が付くと見られる。内外面は研磨される。胎土は砂粒を少量含み、焼成は普通で、色調は黄褐色である。

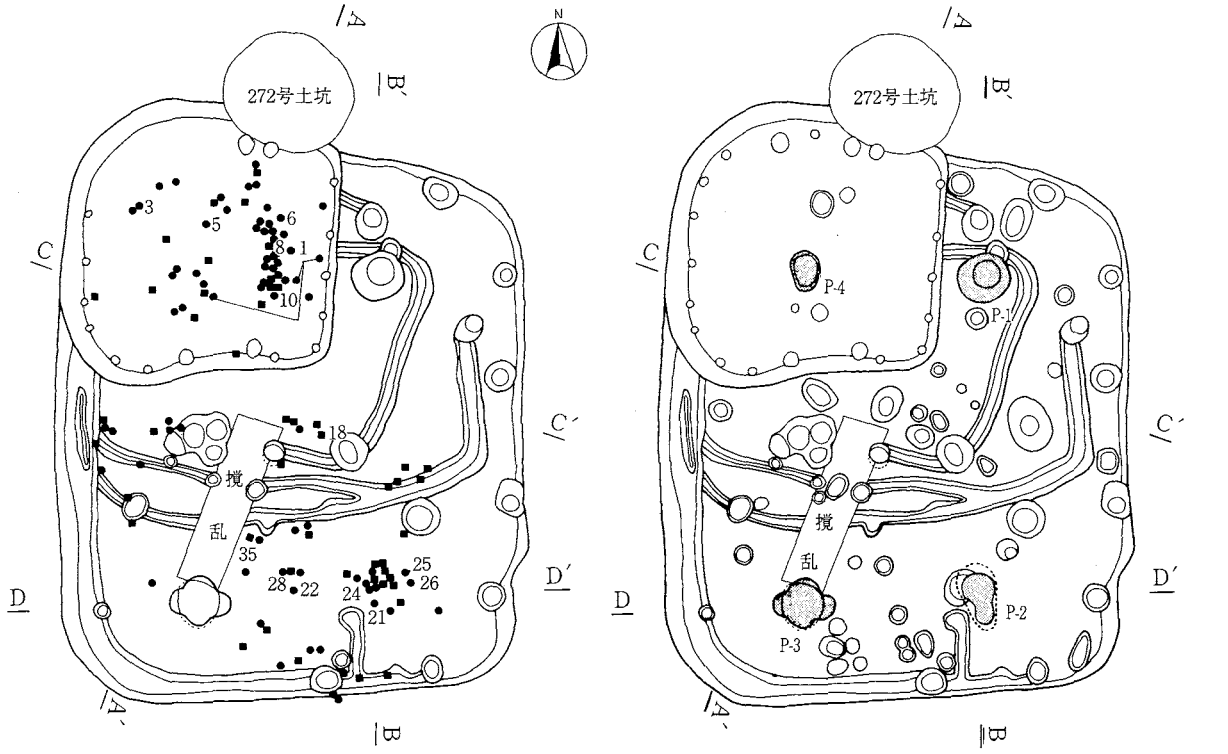
11～15は、石器である。

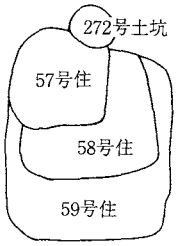
11～14は、磨石及び凹石である。

15は、石皿の破片である。

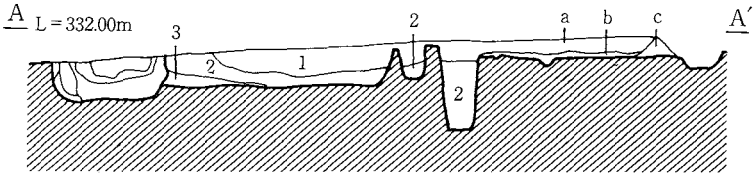


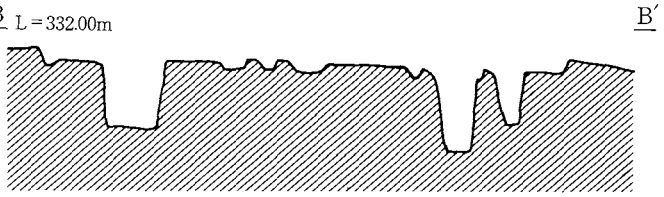
第78図　56号住居跡出土遺物（2）

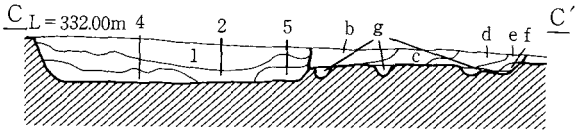


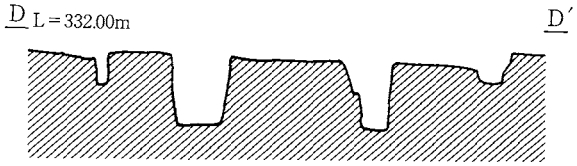


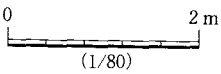
57・58・59号住居跡概念図











57号住居跡

1．暗褐色土　ローム粒、炭化物疎、白色粒、灰色岩粒やや密に含む。しまりあり。粘性あり。
2．暗褐色土　ローム粒、炭化物疎、白色粒、灰色岩粒密、φ1cm程のＹＰ軽石数点含む。しまりあり。粘性あり。
3．暗褐色土　ローム粒、炭化物、白色粒、灰色岩疎に含む。しまりあり。粘性あり。
4．茶褐色土　ローム粒、炭化物、白色粒、灰色岩疎、φ2～3cmのロームブロック含む。しまり強い。粘性強い。
5．暗茶褐色土　ローム粒、炭化物疎、ＹＰ軽石粒、灰色岩やや密に含む。しまり強い。粘性あり。

58号住居跡

a．暗茶褐色土　ローム粒、白色粒、灰色岩粒疎、ＹＰ軽石粒やや密、炭化物疎に含む。しまりあり。粘性あり。
b．暗褐色土　ローム粒、ＹＰ軽石粒疎、灰色岩粒、白色粒密に含む。炭化物疎に含む。しまりやや強い。粘性あり。
c．暗褐色土　ローム粒疎、白色粒、灰色岩粒密に含む。しまりやや強い。粘性強い。
d．暗褐色土　ローム粒疎、白色粒、灰色岩粒やや疎、炭化物疎に含む。しまりあり。しまりやや強い。
e．茶褐色土　ローム粒疎やや密、灰色岩粒ボッボツ含む。しまりあり。粘性あり。
f．茶褐色土　ローム粒疎、灰色岩粒ボッボツ含む。しまりあり。粘性あり。
g．暗褐色土　ローム粒、白色粒、炭化粒疎に含む。しまりあり。粘性弱い。

第79図　57・58・59号住居跡

57号住居跡　（第79・80図）

位置　／調査区東側のEh－88グリッドにおいて検出された。　**切り合い関係**　／58・59号住居跡、272号土坑と重複し、新旧関係は272号土坑⇨本跡⇨58・59号住居跡（新⇨旧）である。　**平面形態**　／ややいびつな方形。　**規模**　／長軸2.65ｍ、短軸2.60ｍ、深さ0.40ｍを計測する。　**長軸方向**　／Ｎ－３°－Ｗ。　**覆土**　／暗褐色土及び茶褐色土・暗茶褐色土が合計５層堆積し、いずれの層もローム粒・炭化物を含有している。　**柱穴**　／壁際に直径10㎝前後、深さ５㎝前後の小ピットが巡る。　**壁**　／外傾する。　**壁溝**　／不明。　**床面**　／ほぼ平坦である。　**炉**　／なし。　**遺物**　／住居跡の中央から東部分に多く分布するが、住居跡の規模が小さい為か、全体に遺物量は少ない。　**遺構の時期**　／諸磯ａ式の土器を主体としていることより縄文前期後半と見られる。

遺物

本遺構から出土した遺物のうち、以下に掲載した土器は、諸磯ａ式として包括される一群である。

１は、口縁部が外反する深鉢で、外面全体に縄文（RL）を施文する。内面は研磨を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は明褐色である。

２は、波状口縁の深鉢で、各波頂下には指頭押圧を行う。文様は縄文（RL）を地文として、各波頂下には懸垂沈線を施し、その間に斜沈線や横沈線を等間隔に施文している。口縁部には枠状の区画を施した後、区画内の縄文を磨り消す。内面は研磨される。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は明褐色である。

３は、口縁部が内湾する波状口縁の深鉢である。文様構成は２と同じで、縄文（RL）を地文として、各波頂下と波低下に懸垂沈線を施し、その間に斜沈線や横沈線を等間隔に施文しているが、平行沈線が爪形文に、指頭押圧が２個１対の円形刺突に代わっている。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は淡褐色から明褐色である。

４は、口縁部が内湾する小さな波状口縁の深鉢で、文様は平行沈線を重複させながら施した数条の沈線帯と、弧形状の刺突列を交互に配して構成する。内面は研磨を施す。形式的には諸磯ａ式の範疇に含まれると見られるが、器形・文様構成ともに黒浜式と共通する。胎土は細砂粒を微量含み、焼成は良好で、色調は灰色である。

５は、口縁部が僅かに外傾する深鉢で、外面全体に縄文（RL）を施文する。内面は撫で及び研磨。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は明褐色である。

６は、２と同一個体と見られる。

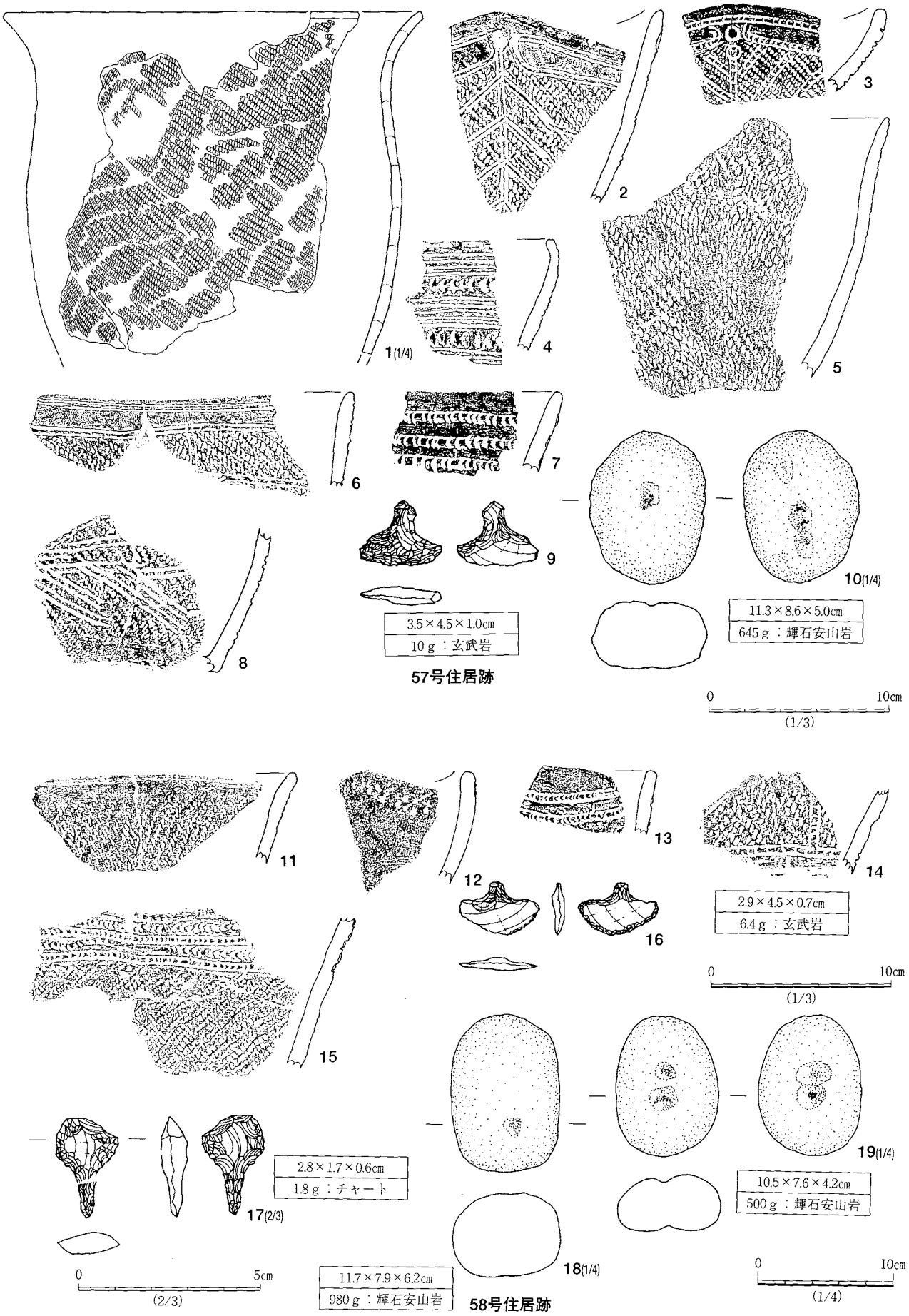
７は、深鉢の口縁部片である。口縁部に爪形文を３条巡らす。内面は研磨する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

８は、深鉢の胴部から底部片で、縄文（RL）を地文に、２条の平行沈線で菱形状の文様を構成する。胎土は片岩を多量に含み、焼成は良好で、色調は明褐色である。

９・10は、石器である。

９は、玄武岩製の石匙である。

10は、輝石安山岩製の凹石である。



第80図　57・58号住居跡出土遺物

58号住居跡　（第80図）

位置　／調査区東側のEh－88グリッドにおいて検出された。　切り合い関係　／57・59号住居跡、272号土坑と重複し、断面観察の結果、新旧関係は272号土坑⇨57号住居跡⇨本跡・59号住居跡（新⇨旧）となる。59号住居跡との前後関係は不明である。　平面形態　／壁溝の位置より推し量ると方形を呈すると見られる。

規模　／壁溝により推測される範囲を計測すると、東西4.00ｍ、南北3.25ｍ、深さ0.18ｍである。　主軸方向　／不明。　覆土　／59号住居跡の覆土になるのか本跡の覆土にあたるのかは、新旧関係が明確にならないと判断できないが、暗褐色土及び茶褐色土・暗茶褐色土が堆積していると見られる。　柱穴　／多数のピットが確認されるが、59号住居跡と重複の為伴うかは不明である。　壁　／壁溝のみの検出であり不明である。　壁溝　／幅10～25㎝、深さ６㎝前後で二重に巡り、別遺構の存在もしくは、建て替え・拡張の痕跡を示す可能性がある。　床面　／多少の凹凸はあるが、全体的にはほぼ平坦である。　炉　／不明。　遺物　／重複関係が著しい為、明確に本住居跡に帰属すると見られる遺物は少ない。そのうち土器と石器を比べると石器及び自然礫の出土量が多い。　遺構の時期　／諸磯ａ式に比定されるであろう土器を主体としていることより縄文前期後半と見られる。

遺物

本遺構から出土した土器のうち、以下に掲載した遺物は、諸磯ａ式に包括される一群である。

11は、口縁部が外反する深鉢で、外面全体に縄文（LR）を施文する。内面は研磨を施す。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は明褐色である。

12は、口縁部が内湾する波状口縁の深鉢である。口唇部に沿って２条の爪形文を施し、口縁部に条線で肋骨文を構成する。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

13は、深鉢の口縁部片で、口縁部に２条の爪形文を弧状に施文する。内面は研磨を施す。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

14は、深鉢の胴部片で、菱形羽状縄文を地文に、爪形文で区画文を構成する。内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

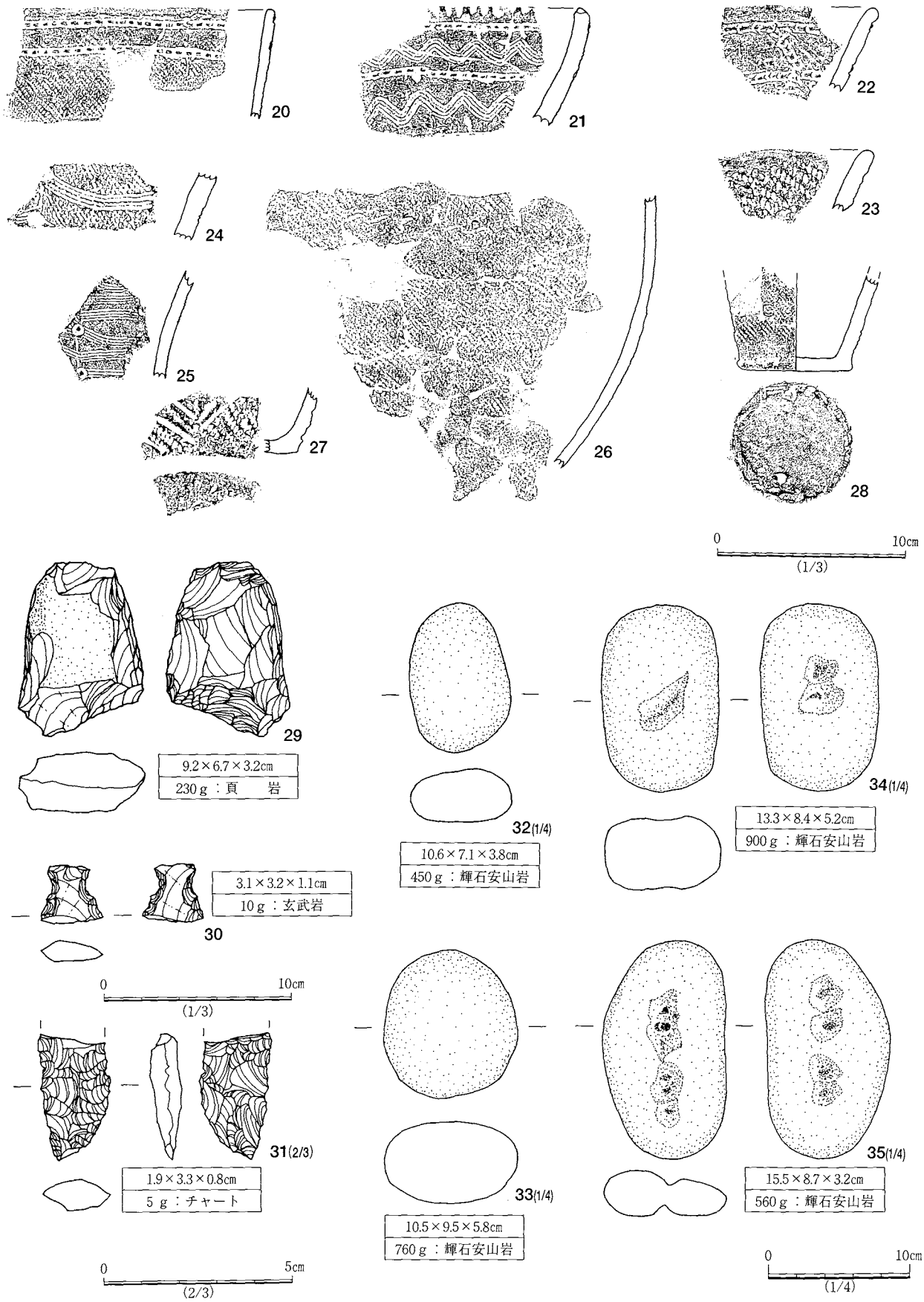
15は、深鉢の胴部片で、口縁部に爪形文を数条施し、胴部には縄文（LR）を施文する。爪形文間には、爪形状刺突列を施す。内面は研磨する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

16～19は、石器である。

16は、玄武岩製の石匙である。

17は、チャート製の石錐である。

18・19は、磨石及び凹石である。



第81図　59号住居跡出土遺物

59号住居跡　（第79・81図）

位置　／調査区東側のEh－88グリッドにおいて検出された。　切り合い関係　／58・59号住居跡、272号土坑と重複し、新旧関係は272号土坑⇨57号住居跡⇨本跡・58号住居跡（新⇨旧）となる。58号住居跡との前後関係は不明である。　平面形態　／長方形。　規模　／長軸5.45ｍ、短軸4.65ｍ、深さ0.18ｍである。　主軸方向　／Ｎ－５°－Ｅ。　覆土　／58号住居跡のものか本跡のものかは新旧関係が明確にならないと判断できないが、暗褐色土及び茶褐色土・暗茶褐色土が堆積している。　柱穴　／Ｐ－１～４が主柱穴の機能を持つものと見られ、床面よりの深さはＰ－１が78㎝、Ｐ－２が68㎝、Ｐ－３が72㎝、Ｐ－４が53㎝をそれぞれ計測する。また、この他では深さが13～56㎝に納まるが、数量的には20㎝前後の小ピットが多数確認されている。　壁　／緩斜する。　壁溝　／幅10～25㎝、深さ６㎝前後で住居跡西から南壁下に穿たれる。　床面　／多少の凹凸はあるが、ほぼ平坦である。　炉　／不明。　遺物　／重複関係が著しい為、明確に本住居跡に帰属すると見られる遺物は少ない。　遺構の時期　／諸磯ａ式に比定されるであろう土器を主体としていることより縄文前期後半と見られる。

遺物

20は、円筒状を呈する深鉢で、口唇部は角頭状である。口縁部に爪形文を２本施し、胴部に縄文（RL）を施文する。内面は研磨する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は淡褐色である。

21は、口縁部が内湾する深鉢である。口唇部上面に刻目を付し、口縁部に爪形文と条線の波状文を交互に施文する。内面は研磨する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

22は、口縁部が外反する深鉢で、口縁部に爪形文を間隔をあけて施し、一部を同爪形文で連結する。内面は研磨する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

23は、口縁部が外反する深鉢である。外面全体に縄文（RL）を施文し、内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

24は、深鉢の口縁部片である。縄文（RL）を地文に、縦位の沈線を基準に条線で肋骨文を構成し、文様の交点に円形刺突を施す。内面は研磨する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

25は、深鉢の胴部片である。文様構成は５と同じだが地文が付かない。内面は研磨する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

26は、深鉢の胴部下半片である。外面に縄文（RL）を施文し、一部に原体端部の結び目が見える。内面及び底面に研磨を施す。胎土は片岩を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

27は、深鉢の胴部片で縄文（RL）を地文に、縦位沈線間に交互に斜沈線を施す。内面は撫でる。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

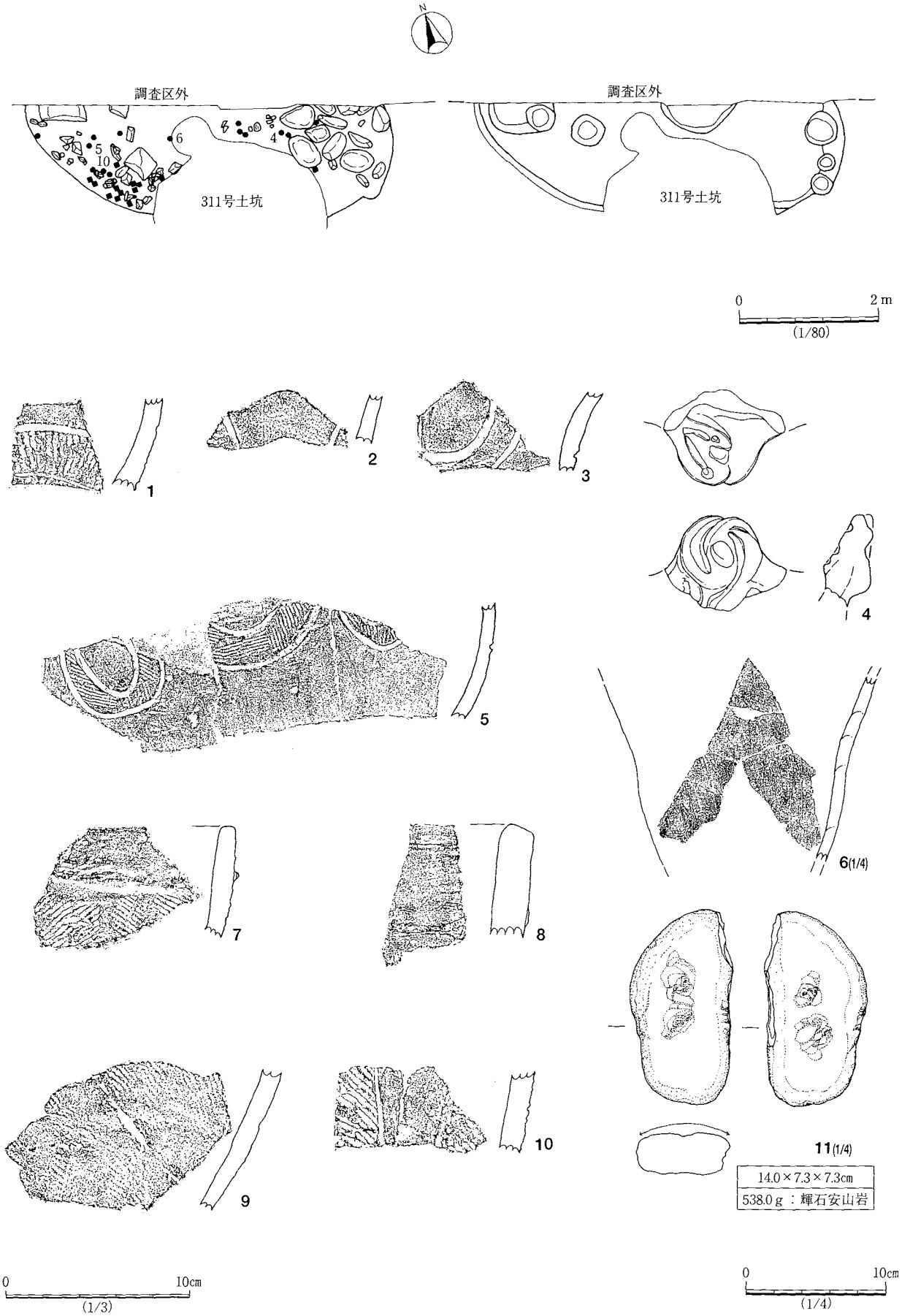
28は、深鉢の胴部から底部片である。外面に縄文（０段３条・RL）を施文する。内面は研磨、底部は撫でる。胎土は片岩を多量に含み、焼成は良好で、色調は明褐色である。

29～35は、石器である。

29は、打製石斧の破片である。

30・31は、石匙の破片である。

32～35は、磨石及び凹石である。



第82図　60号住居跡・出土遺物

60号住居跡　（第82図）

位置　／調査区東側のEg－90グリッドにおいて検出され、１号配石墓群の北西12ｍに位置している。住居跡の大半が調査区外となる為詳細については不明である。　切り合い関係　／311号土坑と重複し、新旧関係では本跡が古い構築である。　平面形態　／住居跡の大半が調査外となるうえに311号土坑に切られ、形状は不明である。なお、一部ではあるが偏平で丸味のある安山岩を用いた敷石が検出され、敷石住居であった可能性が高い。　規模　／東西4.80ｍ、南北1.50＋αｍ、深さ0.10ｍである。　主軸方向　／不明。　覆土　／ローム粒・白色粒を含んだ茶褐色土が堆積する。　柱穴　／深さ60cm程のピットが５本確認されているが、その機能については不明である。　壁　／外傾する。　壁溝　／調査範囲内においては検出されていない。　床面　／住居跡東側に長計50cm前後の比較的偏平な安山岩が敷かれており、この敷石は調査区外へと続く。　炉　／不明。　遺物　／住居跡の部分的な調査の為全体に出土量は少ない。　遺構の時期　／全容が明らかではない為詳細は不明であるが、出土遺物のみから判断すると称名寺式に比定される土器が主体で、縄文後期と見られる。

遺物

本遺構から出土した遺物のうち、１～４は称名寺Ⅰ式、５は称名寺Ⅱ式、６～10は称名寺式の範疇に含めたが、加曽利Ｅ系統とも言うべき一群である。

１は、深鉢の胴部片である。文様は充填縄文手法による帯縄文で渦巻文を構成すると見られる。内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黒褐色である。

２は、胴部中位が括れる深鉢で、文様構成は１と同じと見られる。内面は撫でられる。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

３は、胴部中位が括れる深鉢である。文様構成は５と同じだが下段は円形文となり、無文部と内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

４は、波状口縁の深鉢で、波頂部の表裏に刺突や沈線に伴うＣ字状の貼付文を施文する。外面では入組み状に構成され、ここから隆線を垂下すると見られる。胎土は砂粒を少量含み、焼成は普通で、色調は灰褐色である。

５は、深鉢の胴部片である。文様は、充填縄文手法による帯縄文で、２段構成のＪ字文を構成すると見られる。無文部と内面を研磨する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は普通で、色調は灰褐色である。

６は、深鉢の胴部片で、無文である。内外面共に研磨する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は普通で、色調は灰褐色である。

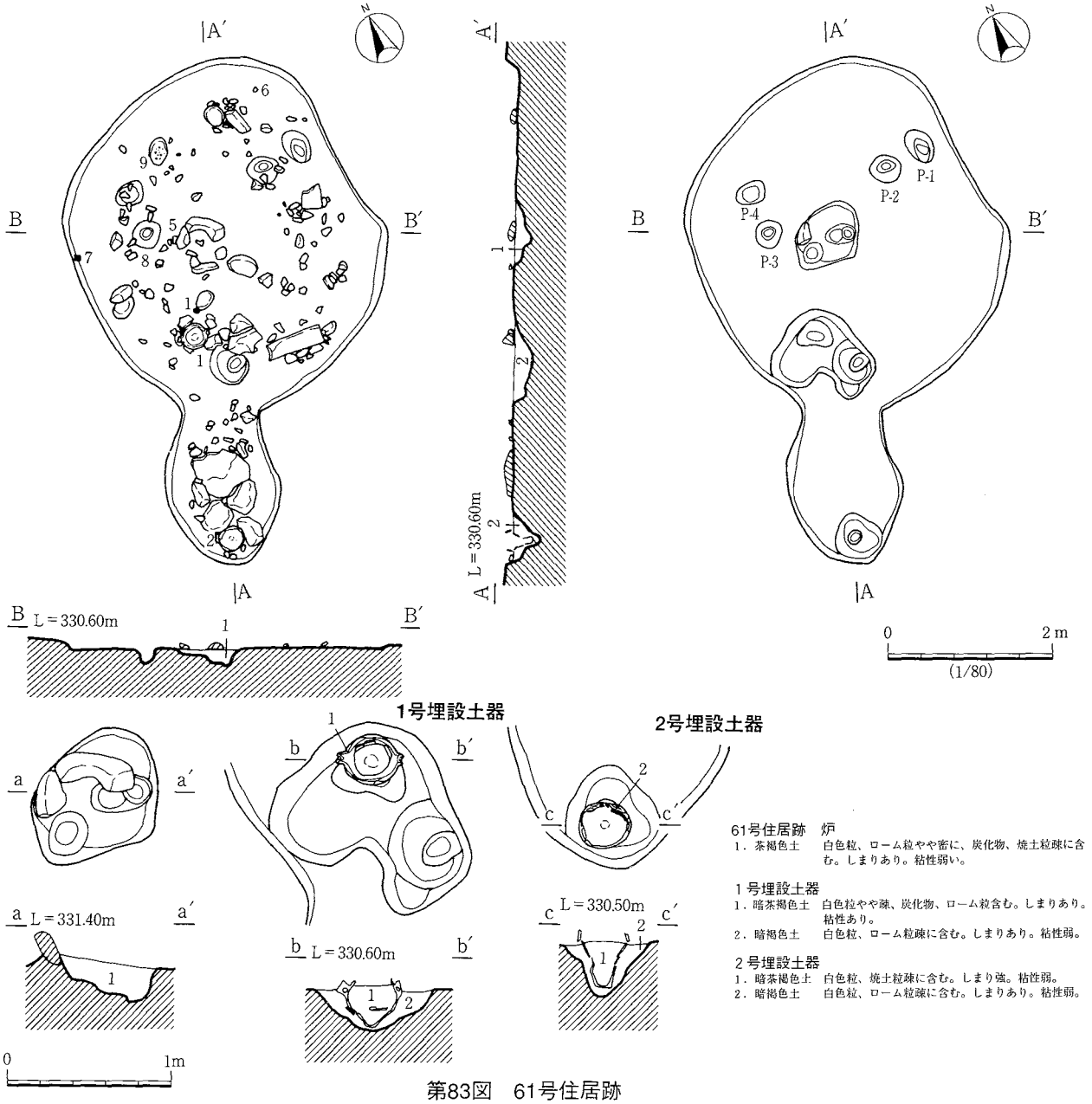
７は、口縁部が直立する深鉢で、口縁部無文下に断面三角形の隆線を巡らし、胴部に無節縄文（L）を施す。内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は灰褐色である。

８は、口縁部が直立する深鉢で、口縁部無文下に断面三角形の隆線を巡らす。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は灰褐色である。

９は、深鉢の胴部片である。文様は外面に間隔をあけて縄文（LR）を帯状に縦位施文する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

10は、深鉢の胴部片で、沈線でＶ字状区画と懸垂文を施し、区画内に無節縄文（L）を充填する。無文部と内面を研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は灰褐色である。

11は、石器で、輝石安山岩製の凹石である。

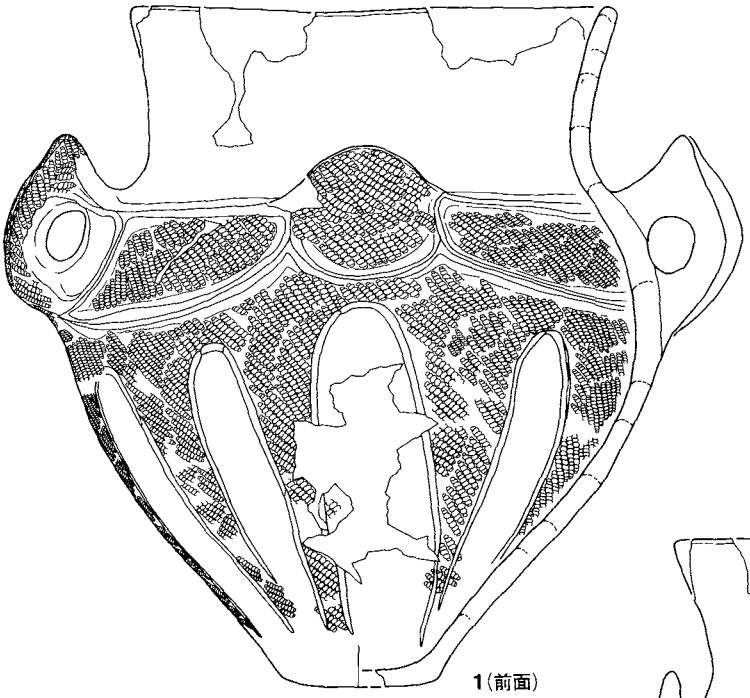


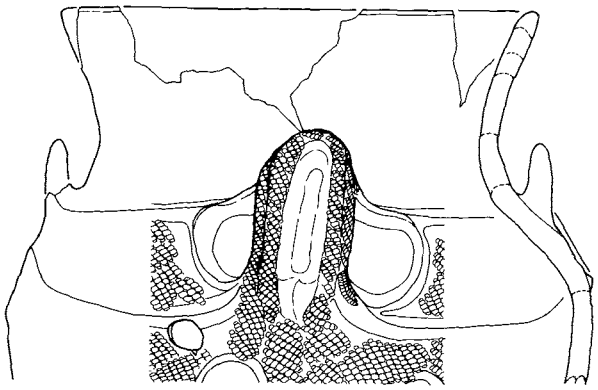
第83図　61号住居跡

61号住居跡　（第83・84・85図）

位置　／調査区東側のEh－92グリッドにおいて検出され、1号配石墓群の東に位置する。　切り合い関係　／65号住居跡、458・467・482・485号土坑と重複する。新旧関係は458号土坑⇨本跡⇨65号住居跡⇨485土坑（新⇨旧）で、467・482号土坑との前後関係は不明である。　平面形態　／柄鏡形の敷石住居と見られる。　規模　／全長5.95ｍ、主体部短径3.70ｍ、深さ0.13ｍである。　主軸方向　／N－19°－E。　覆土　／堅穴としての掘り込みは僅かな為、白色粒・ローム粒・炭化物を含んだ暗褐色土が単層で確認される。　柱穴　／規則性は見いだせないが、4本の掘り込みが確認される。それらの深度は、P－1が26cm、P－2が58cm、P－3が20cm、P－4が10cmである。　壁　／遺存する範囲においては緩斜する。　壁溝　／なし。

床面　／ほぼ一定している。　炉　／主体部の中央に付設され、楕円形状に15cm程度掘り窪めた後安山岩を炉石として据えているが、現位置を保っている可能性のあるものは西辺のみで、この他の炉石と見られる礫は離れて検出され、炉の周辺には焼土塊が散っている。　敷石　／主体部と張出部において敷石の残存が検出される。主体部に検出された敷石は僅かな残片で、板状の安山岩と小形で丸み持った安山岩が見られる。





0　10cm
(1/4)

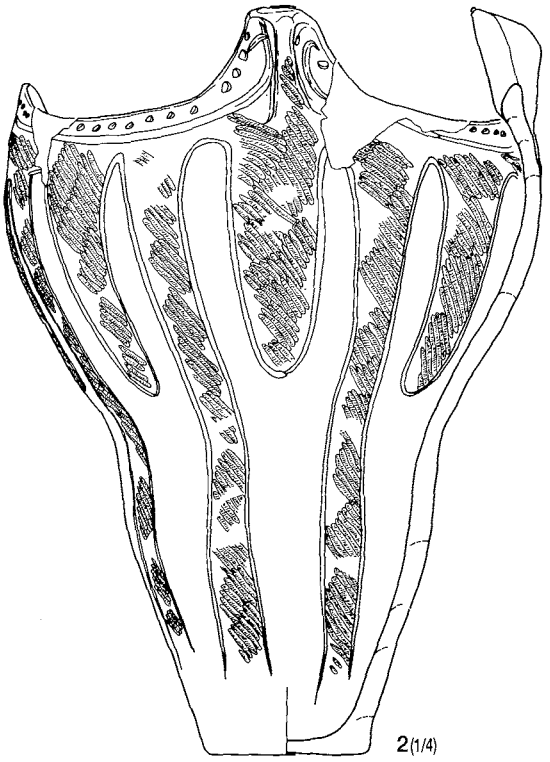
第84図　61号住居跡出土遺物（1）

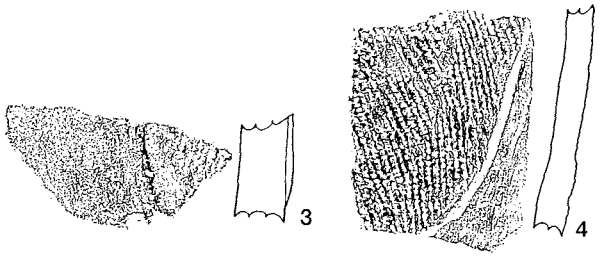
一方、張出部は、板状の安山岩と比較的偏平ではあるが長計40cm前後の丸みのある安山岩を使用している。**埋甕**　／主体部と張出部の接点と張出部の基部から確認されている。前者の埋甕は両耳壺で不整形に掘り下げ正位の状態で埋設されている。壺内の充填土は、白色粒・炭化物・ローム粒を含んだ粘性のある暗茶褐色土であった。張出部に位置している２号埋甕は、楕円形に掘り込み深鉢を埋設しているもので、土器内には白色粒・ローム粒をまばらに含んだ粘性の弱い暗褐色土が充填されていた。なお、いずれの埋甕ともに調査時においては蓋石は確認されなかった。　**遺物**　／張出部の先端より２の４単位波状口縁の深鉢と、主体部と張出部の接合部付近より１の両耳壺が埋設されていた。　**遺構の時期**　／前述の埋甕より判断すると加曽利Ｅ４式に比定され、中期末から後期初頭に位置づけられる。

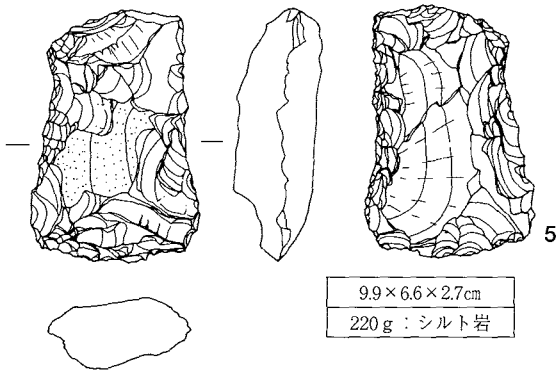
遺物

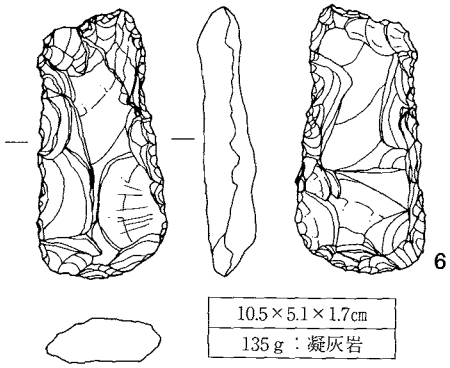
本遺構から出土した遺物のうち、掲載した土器は４点と少なく、いずれも加曽利Ｅ４式に比定される。

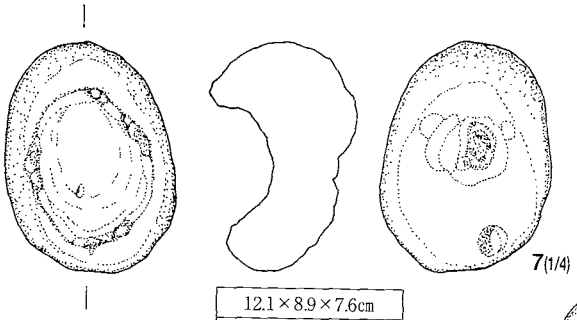
１は、両耳壺のほぼ完形である。肩部に隆帯で円形・楕円形の区画文を施し、橋状把手と山形把手を各１対付す。区画内と把手部には縄文（LR）を施文する。胴部には上端がアーチ状につながった懸垂沈線を施し、区画外に縄文を施す。無文部と内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黄褐色から黒褐色である。

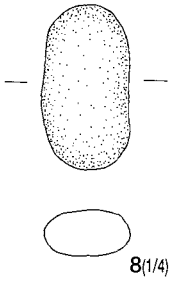


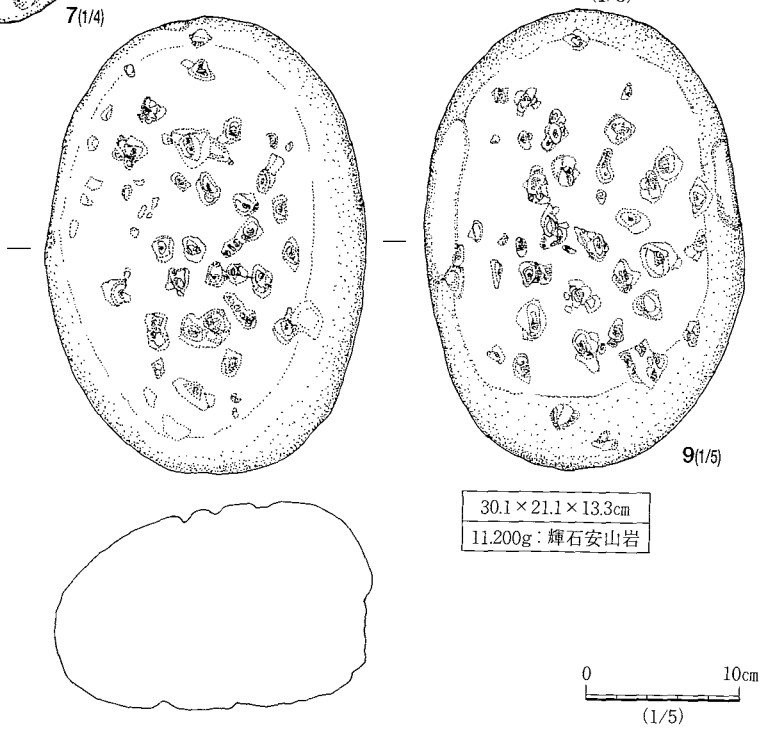












0　10cm
(1/3)

0　10cm
(1/4)

0　10cm
(1/5)

第85図　61号住居跡出土遺物（2）

2は、胴部中位が括れる4単位波状口縁の深鉢で、ほぼ完形である。波頂部のひとつは把手となる。口縁部に円形の刺突列と沈線が巡り、沈線は各波頂部で蕨手状を呈する。文様は口縁部と対応する位置にY字状の沈線区画を8単位施し、区画外を無節縄文（L）で充填する。無文部と内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黄褐色から黒褐色である。

3は、深鉢の胴部片で、断面三角形の隆帯区画内に縄文（RL）を充填施文し、内面を研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黄褐色である。

4は、深鉢の胴部片で、沈線区画内に無節縄文（L）を充填施文し、内面を研磨する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

5～9は、石器である。5・6は、打製石斧、7は、小形の石皿であるが、裏面に孔が穿たれている。

8は、磨石で、9は、大形の多孔石で、表裏両面に孔が穿たれている。

62号住居跡　（第86図）

位置　／調査区東側のEh－93グリッドにおいて検出され、1号配石墓群の東に位置する。一部が調査区外となる。　切り合い関係　／492号土坑と重複し、新旧関係は本跡が新しい構築である。　平面形態　／柄鏡形の敷石住居である。　規模　／全長4.75＋α m、主体部短径3.75 m、深さ0.22 mである。　主軸方向　／N－12°－E。　覆土　／住居跡の中央部においては2層に分層され、白色粒・ローム粒・炭化物を含んだ茶褐色土とこれにYP軽石が混じった暗茶褐色土が確認される。　柱穴　／調査範囲内においては検出されていない。　壁　／遺存する範囲においては外傾する。　壁溝　／なし。　床面　／ほぼ一定している。

炉　／主体部の中央に付設され、楕円形状に27㎝程掘り窪めた後安山岩を炉石として据えている。現位置を保っているものは3辺のみで、北側の炉石は発見されていない。　敷石　／第86図においては床面より検出され、浮いた状態の礫は取り除いて図示しているので、長計45㎝前後の丸みを持った安山岩を主体として主に主体部より検出されていることがわかる。なお、主体部は耕作により撹乱され、敷石が削り取られている。　埋甕　／炉の南70㎝に位置し、方形と円形を合わせた形で13㎝程掘り込み深鉢が据えられていた。蓋石は確認されていない。　遺物　／磨製石斧などが出土しているが、全体に少ない出土量である。　遺構の時期　／主体部と張出部の接合部付近から検出された埋甕から判断すると、加曽利E4式に比定され中期末から後期初頭と見られる。

遺物

本遺構より出土し掲載した土器は、1が加曽利E4式、2・3が加曽利E3式に比定される一群である。

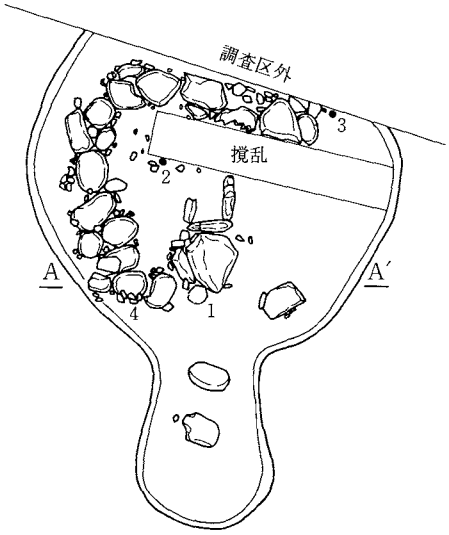
1は、胴部中位が括れ、口縁部が内湾する深鉢である。口縁部に沈線を巡らせ、胴部上半に波状文、下半に懸垂文を施す。沈線区画内は縄文（0段3条LR）で充填する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

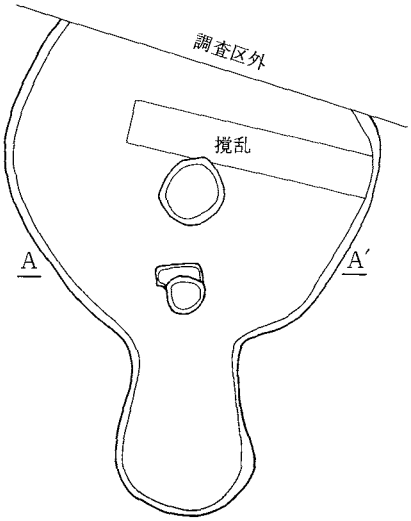
2は、大形の深鉢で、外面に縄文（L）を横位に施文する。胎土は細砂粒を含み、焼成は良好で、色調はにぶい橙色である。

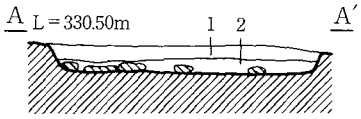
3は、深鉢の胴部片である。断面三角形の隆帯と凹線で文様を描き出し、縄文（RL）を充填施文する。胎土は細砂粒を含み、焼成は良好で、色調は黄土色である。

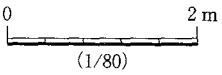
4・5は、石器である。

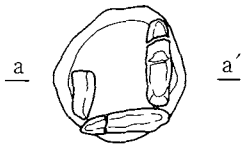
4は、磨製石斧の破片、5は、磨石の破片で煤が付着する。

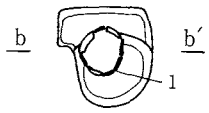


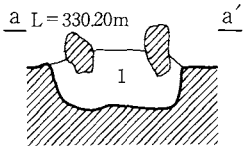


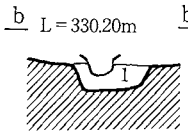


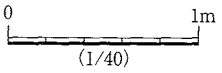








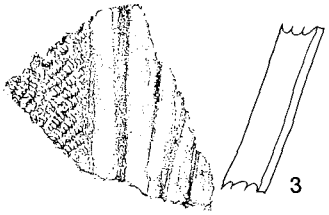


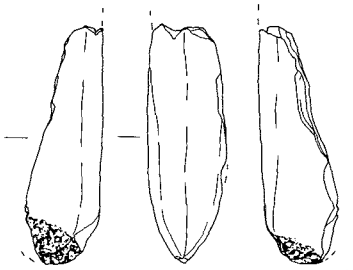


62号住居跡
1．茶褐色土　白色粒やや疎、ローム粒、炭化物疎に含む。しまりあり。粘性弱い。
2．暗茶褐色土　白色粒疎、ローム粒、炭化粒、ＹＰ軽石粒疎に含む。しまりあり。粘性弱い。

炉
1．暗褐色土　白色粒、ローム粒、焼土粒疎に含む。しまりあり。粘性弱い。

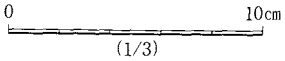
埋設土器
1．暗褐色土　白色粒、ローム粒疎に含む。しまりあり。粘性弱い。



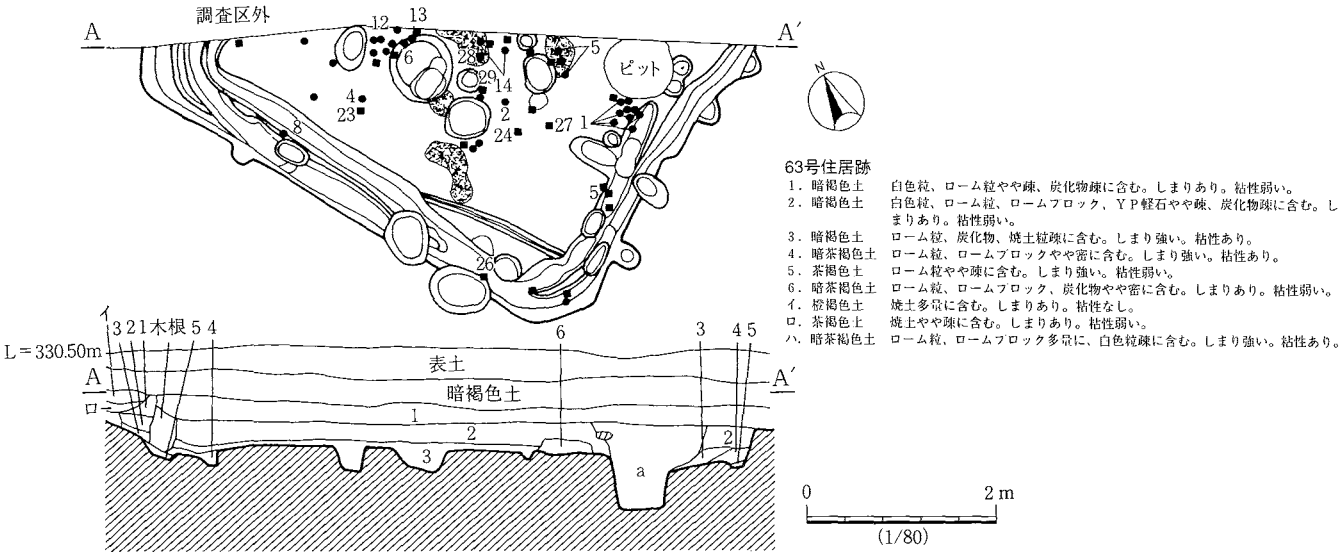


(9.3)×2.8×2.5cm
108g：輝緑岩

12.4×5.2×4.8cm
530g：輝石安山岩



第86図　62号住居跡・出土遺物



第87図　63号住居跡

63号住居跡　（第87・88・89図）

位置　／調査区東側のEg－92グリッドにおいて検出された。1/2以上が調査区外となる。　切り合い関係　／126号土坑と23号埋設土器に重複し、新旧関係は、23号埋設土器⇨本跡⇨126号土坑（新⇨旧）である。　平面形態　／方形を呈すると推測される。　規模　／長軸辺5.10ｍ、短軸辺3.20＋αｍ、深さ0.19ｍである。

主軸方向　／不明。　覆土　／暗褐色土・暗茶褐色土・茶褐色土が堆積し、このうち、白色粒・ローム粒・ロームブロック・YP軽石・炭化物を含んだ暗褐色土が主体をなす。　柱穴　／深さ30㎝前後のピットが確認される。　壁　／外傾する。　壁溝　／住居跡の形状に沿う形で幅15～30㎝、深さ16～25㎝の溝が二重に巡る。　床面　／多少の凹凸はあるが、ほぼ平坦である。また、所々アメーバー状に焼土が検出されている。　炉　／焼土は見られるものの炉は確認されていない。　遺物　／石器に比べて土器の出土量が多い。　遺構の時期　／出土遺物は黒浜式に比定される土器を主体としている。

遺物　本遺構より出土し掲載した土器はいずれも黒浜式に比定される一群である。

1は、胴部上半が開く4単位波状口縁の深鉢で、口唇部は角頭状を呈する。文様は縄文（RL）を地文に、胴部上半に2条単位の爪形文で菱形文を構成する。内面は研磨を施す。胎土は繊維を多量に含み、焼成は普通で、色調は黒褐色である。

2は、口縁部が大きく開く深鉢で、口唇部は角頭状を呈する。文様は外面全体に菱形羽状縄文を構築し、内面は擦痕状に研磨する。胎土は繊維を多量に含み、焼成は普通で、色調は明褐色である。

3は、波状口縁の深鉢で、口唇部は内削ぎ状である。胴部上半に数条の平行沈線で菱形文を構成し、内面は撫でる。胎土は繊維を多量に含み、焼成は普通で、色調は黄褐色である。

4は、口縁部が大きく開く波状口縁の深鉢である。文様は口唇部が角頭状、胴部上半に3条単位の爪形文で菱形文を構成する。内面は研磨を施す。胎土は繊維を多量に含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

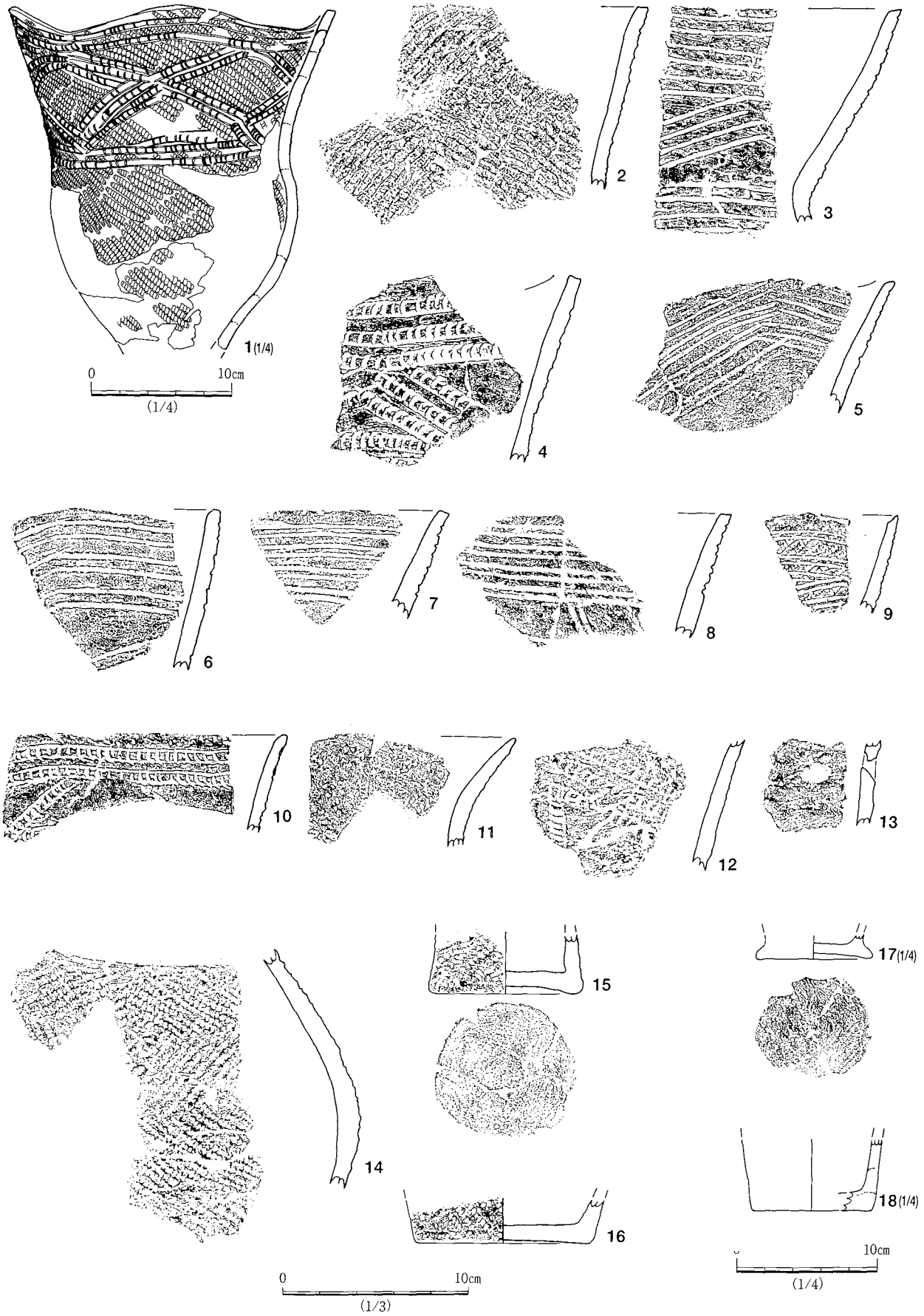
5は、波状口縁の深鉢で、口唇部は内削ぎ状である。胴部上半に数条の平行沈線で菱形文を構成し、内面は撫でる。胎土は繊維・片岩を多量に含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

6は、波状口縁の深鉢で、3と同様である。胎土は繊維を含み、焼成は普通で、色調は黒褐色である。

7は、波状口縁の深鉢で、口唇部は角頭状を呈する。胴部上半に数条の平行沈線で菱形文を構成すると見られる。内面は擦痕状に研磨が施される。胎土は繊維を多量に含み、焼成は普通で、色調は黄褐色である。

8は、波状口縁の深鉢で、3と同様である。胎土は繊維を含み、焼成は普通で、色調は灰褐色である。

9は、深鉢の口縁部片である。口唇部は内削ぎ状である。文様は縄文（LR）を地文に平行沈線を施し、内面を研磨する。胎土は繊維・雲母を少量含み、焼成は良好で、色調は明褐色である。



第88図　63号住居跡出土遺物（１）

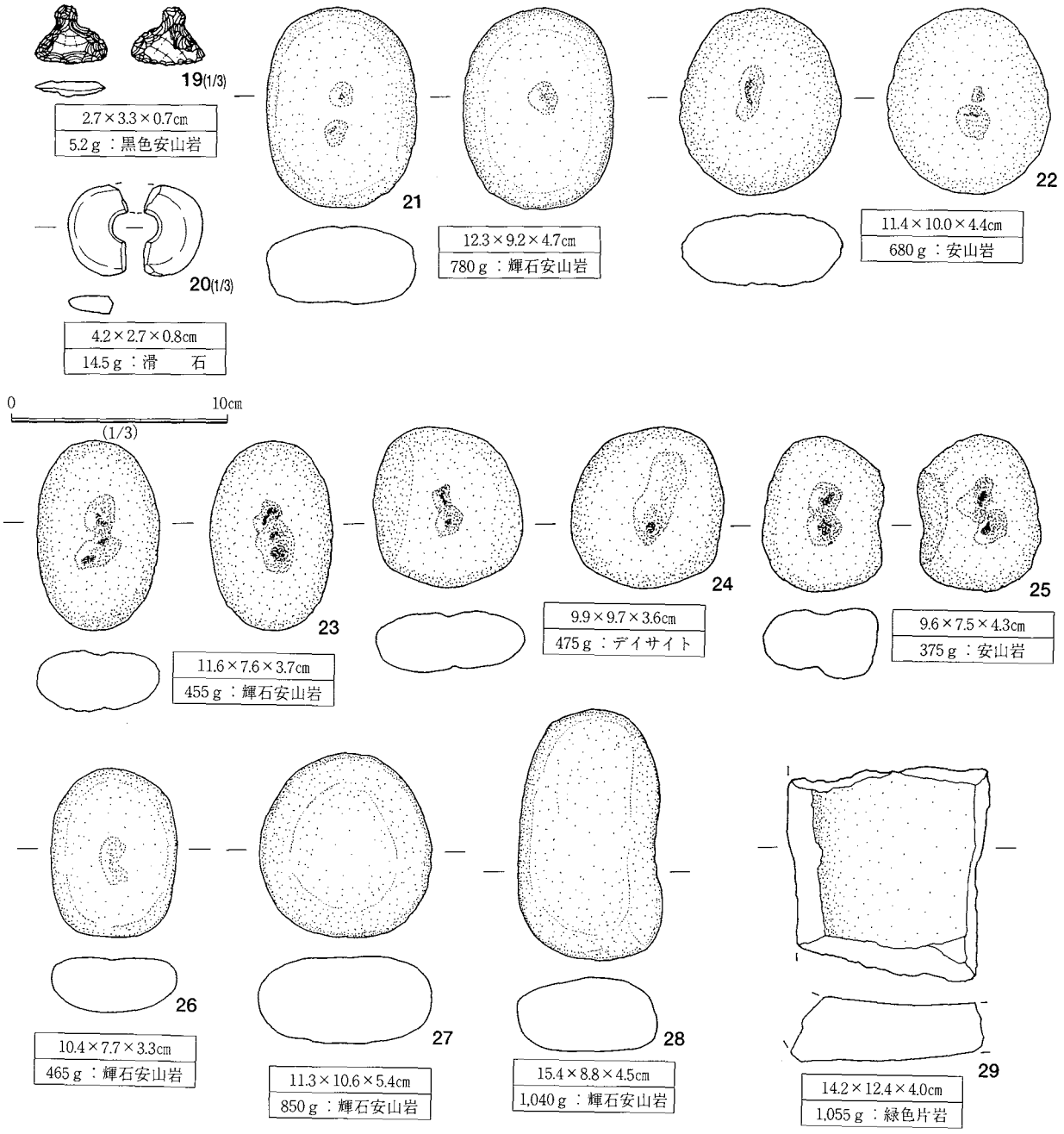
10は、深鉢の口縁部片で、口唇部は内削ぎ状である。口唇部に沿って爪形文を2条施し、内面を研磨する。胎土は繊維を少量、砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は明褐色である。

11は、口縁部が外反する深鉢で、外面に縄文（LR）を施文し、内面は研磨する。胎土は繊維・砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

12は、口縁部が大きく開く深鉢で、文様は4と同様である。胎土は繊維を多量に含み、焼成は普通で、色調は黄褐色である。

13は、深鉢の胴部片で、無文である。外面は横位の撫で、内面は研磨される。胎土は繊維を多量に含み、焼成は普通で、色調は灰褐色である。

14は、胴部中位が括れた深鉢で、胴部に菱形羽状縄文（RL・LR）を施し、内面を撫でる。胎土は繊維を多量に含み、焼成は普通で、色調は灰褐色である。



第89図　63号住居跡出土遺物（2）

15は、深鉢の胴部から底部片である。外面に縄文（LR）を施文し、内面・底部共に撫でる。胎土は繊維を多量に含み、焼成は普通で、色調は黄褐色である。

16は、深鉢の胴部から底部片である。外面に縄文（LR）を施文し、底面を研磨する。胎土は繊維を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

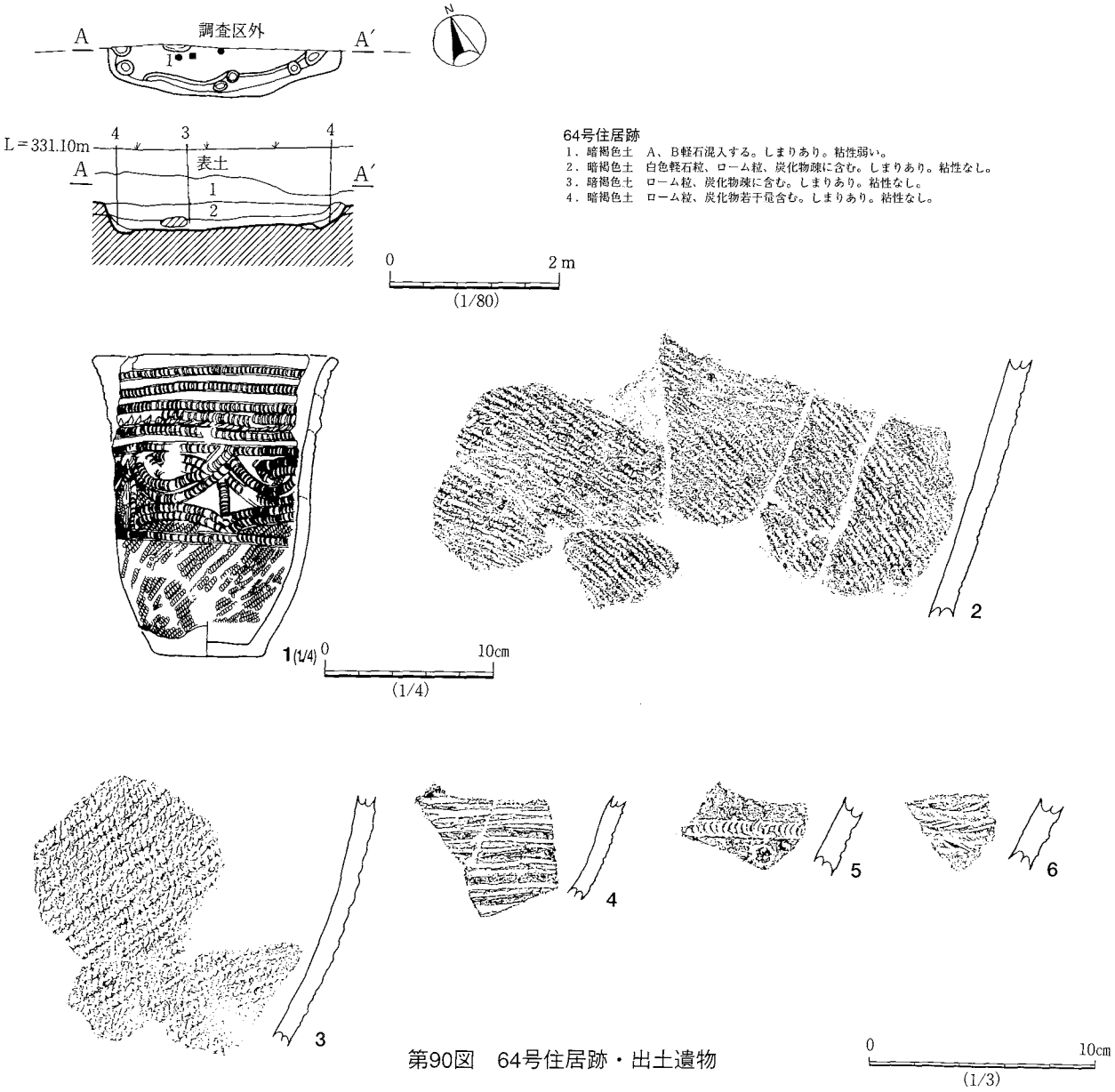
17は、底部端が突出する深鉢の底部片で、底面は研磨される。胎土は繊維・砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

18は、深鉢の胴部から底部片である。無文で、内外面及び底面は撫でられる。胎土は繊維を多量に含み、焼成は普通で、色調は黄褐色である。

19～29は、石器で、19は、小形の石匙、20は、抉状耳飾りである。21～28は、磨石及び凹石で、24・26は、一部に煤の付着が観察される。29は、石皿の破片である。

64号住居跡　（第90図）

位置　／調査区東側のEf－88グリッドにおいて検出された。大半が調査区外となる。　切り合い関係　／なし。　平面形態　／全容は不明である。　規模　／東西2.60ｍ、南北0.50＋αｍ、深さ0.28ｍである。



第90図　64号住居跡・出土遺物

主軸方向　／不明。　覆土　／暗褐色土・黄褐色土が堆積し、第90図で掲載したように含有物により相違が見られる暗褐色土が主体をなす。　柱穴　／深さ20cm前後の小ピットが6本確認される。　壁　／外傾する。　壁溝　／調査範囲内においては幅8～16cm、深さ4cmで壁下に巡る。　床面　／多少の起伏がある。　炉　／不明。　遺物　／調査区外へかけて比較的偏平ではあるが丸みを持った安山岩が検出されている。遺構の時期　／諸磯式の範疇に含まれる土器を主体とし、縄文前期後半と見られる。

遺物

本遺構より出土し掲載した土器のうち、1・6は諸磯b式、2～4は諸磯式の範疇に含まれると見られ、5は諸磯a式と見られる。

1は、口縁部が弱く外反する深鉢である。口縁部下に斜位の刻目を施した隆帯を巡らして文様を画す。口縁部には爪形文を横位に3条施文する。胴部には斜縄文（LR）を地文に、上位にパネル状の区画を施し、区画内に爪形文で対弧文を施文する。内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

2は、深鉢の胴部片で、外面に斜縄文（RL）施文し、一部に原体端部の結び目が見える。内面は研磨される。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

3は、深鉢の胴部片で、外面に斜縄文（LR）を施文し、内面を研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

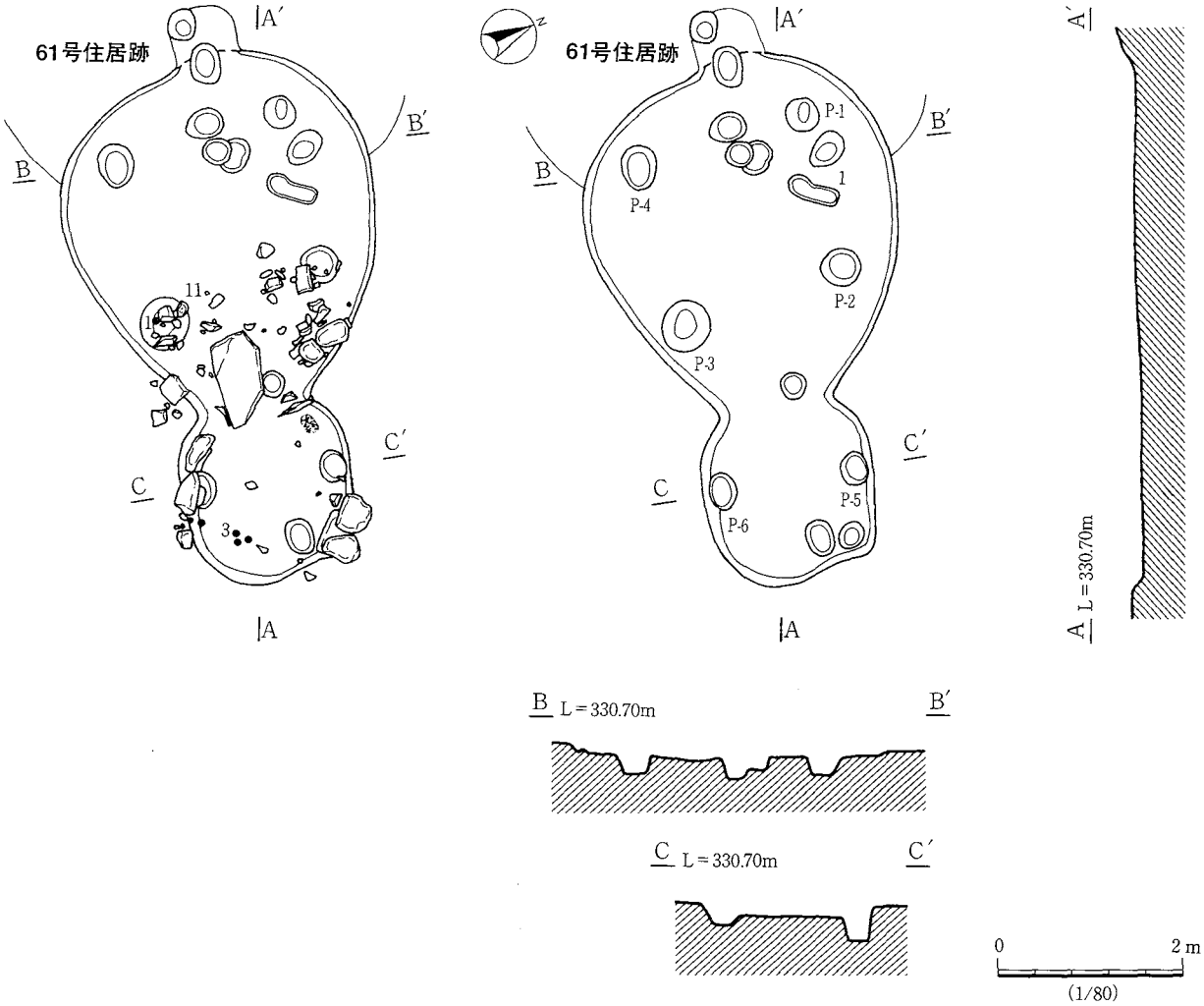
4は、深鉢の胴部片で、外面に斜縄文（LR）を施文し、内面は撫でる。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

5は、深鉢の胴部片で、爪形文と円形刺突で文様を構成し、内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は淡褐色である。

6は、深鉢の胴部片で、斜縄文（RL）を地文に浮線文で文様を施す。浮線文には斜位の刻目を付し、内面は撫でる。胎土は片岩を多量に含み、焼成は良好で、色調は淡褐色である。

65号住居跡　（第91・92図）

位置　／調査区東側のEh－92・93グリッドにおいて検出され、1号配石墓群の東に位置する。　切り合い関係　／61号住居跡、482・483号土坑と重複する。新旧関係は61号住居跡⇨本跡（新⇨旧）で、482・483号土坑との前後関係は不明である。　平面形態　／柄鏡形の敷石住居と見られる。　規模　／全長5.55m、主体部短径3.25m、張出部短計1.75m、深さ0.13mである。　主軸方向　／N－70°－W。　覆土　／竪穴としての掘り込みは僅かな為、白色粒・ローム粒・炭化物を含んだ暗褐色土が単層で確認されるに過ぎない。柱穴　／主体部においてP－1と4、2と3が対をなし、張出部において5と6が対をなす。各ピットの深さは、P－1が22cm、P－2が21cm、P－3が30cm、P－4が19cm、P－5が29cm、P－6が11cmである。この他のピットは13～27cmの間で、20cm前後の深さに集中する。　壁　／遺存する範囲においては緩斜する。　壁溝　／なし。　床面　／ほぼ一定している。　炉　／焼土は確認されているが炉と判断される遺構は見られない。　敷石　／主体部と張出部において敷石の残存が検出される。主体部に検出された敷石は僅かな残片で、板状の安山岩と小形で丸みを持った安山岩が見られる。　埋甕　／なし。　遺物　／全体的に少ない出土量である。　遺構の時期　／全体に遺物量が少ない為断定はできないが、加曽利E3式の土器片が量的には多いことより縄文中期末と見られる。



第91図　65号住居跡

遺物

本遺構から出土し掲載した土器はいずれも加曽利E3式に比定されるであろう一群である。

1は、大形の深鉢で、器面は比較的丁寧な研磨が施される。胎土は細砂粒を含み、焼成は普通で、色調は褐色である。

2は、深鉢の口縁部片である。口縁部下が無文部で、1本の凹線の下位に縄文（LR）を縦位に施文する。胎土は細砂粒を含み、焼成は良好で、色調は黄土色である。

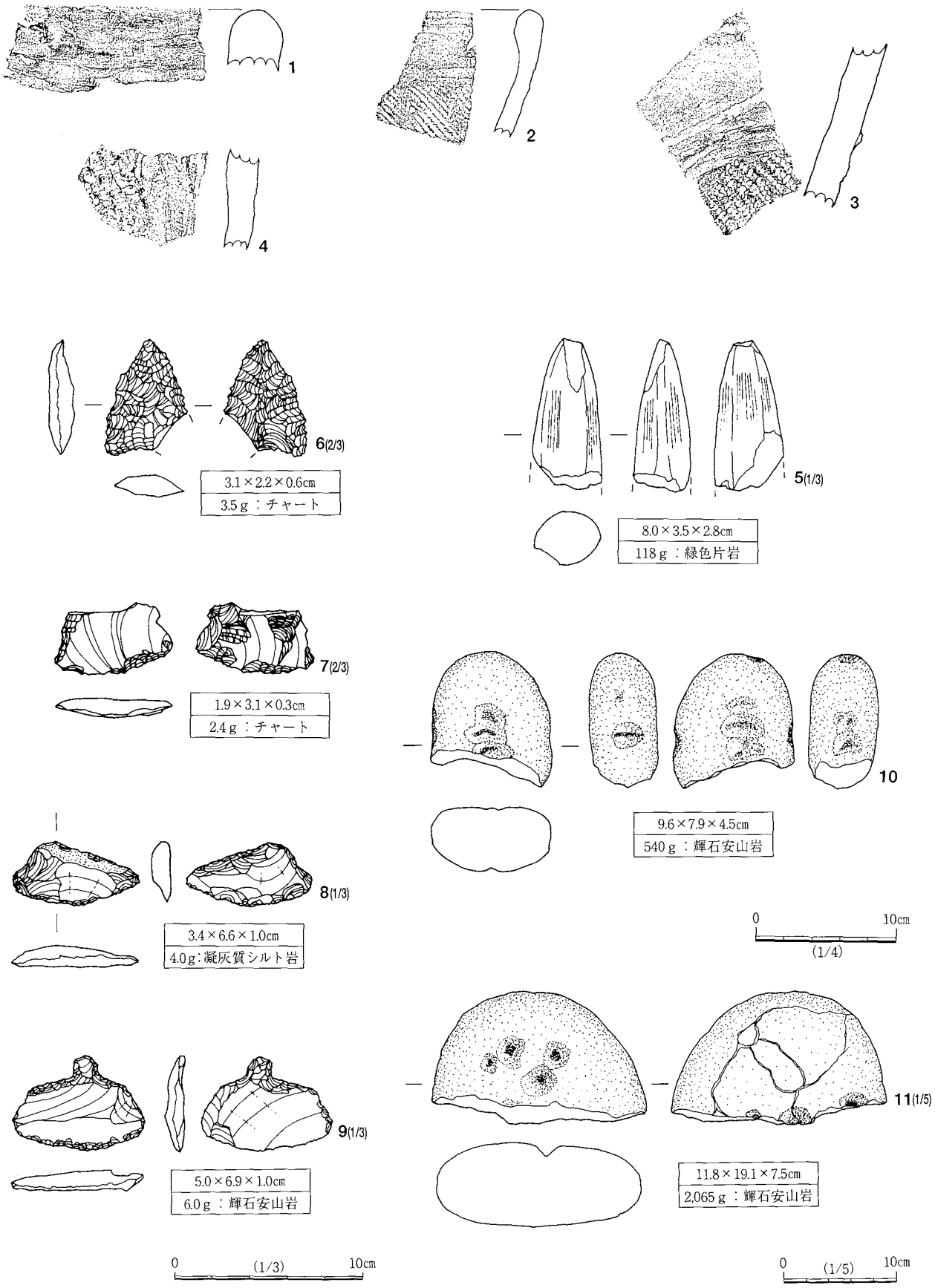
3は、大形の深鉢で、隆帯と沈線で文様を描き出す。区画内は縄文（RL）を充填施文する。胎土は砂粒を含み、焼成は普通で、色調は黄土色である。

4は、深鉢の胴部片で、凹線で器面を縦位に区画し、区画内に縄文（LR）を充填施文する。胎土は細砂粒を含み、焼成は普通で、色調は褐色である。

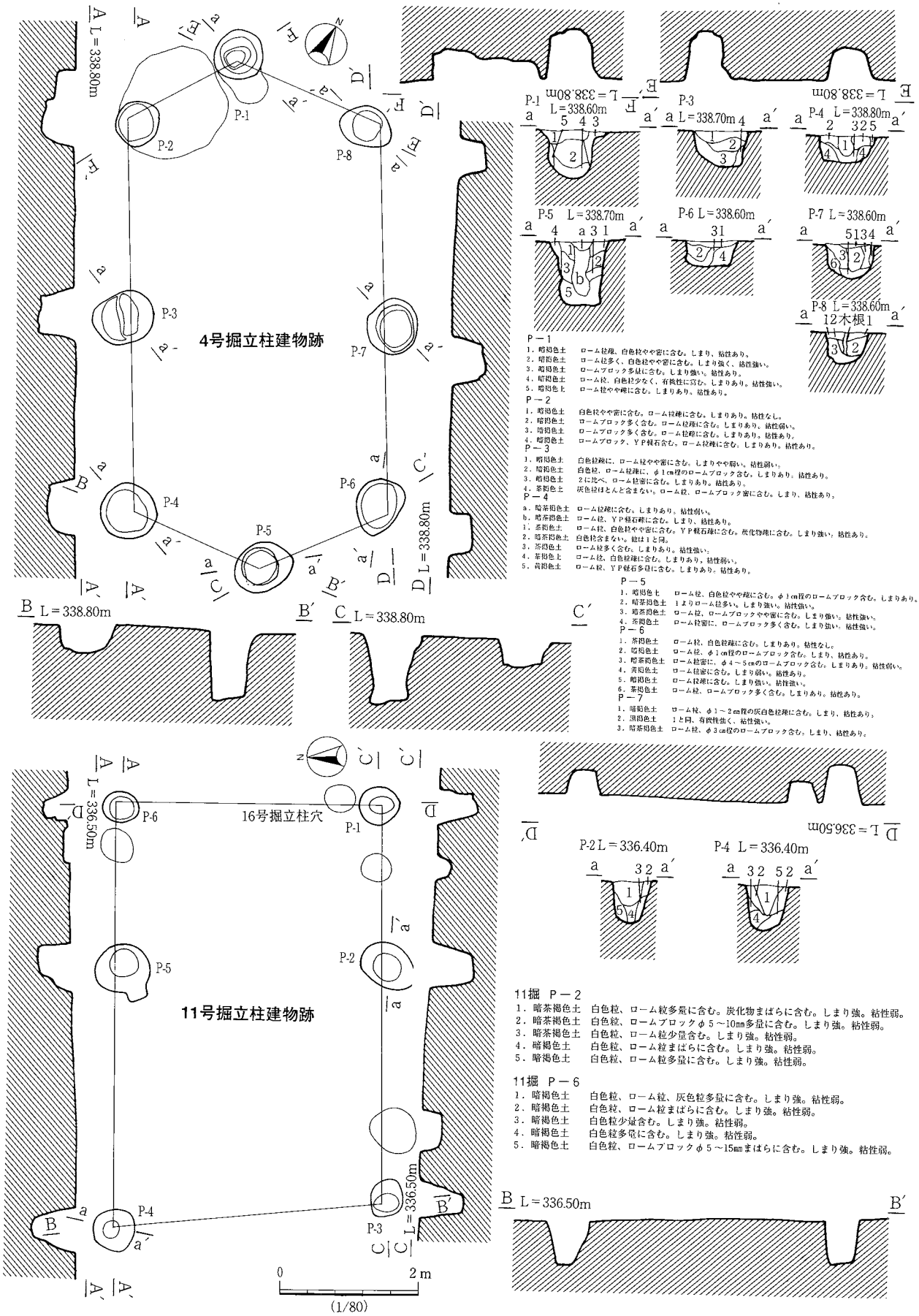
5～11は、石器である。

5は、磨製石斧の破片、6は、無茎の石鏃、7は、剥片石器、8は、スクレーパーあるいは石匙か。

9は、石匙で、10は、凹石、11は、多孔石である。



第92図　65号住居跡出土遺物



第93図　4・11号掘立柱建物跡

第２項　掘立柱建物跡

東部調査区の中央部及び西側部分において掘立柱建物跡が確認されている。建物は、柱穴内の覆土の観察と検出面の状況から縄文時代においては３棟が想定される。

４号掘立柱建物跡　（第93図）

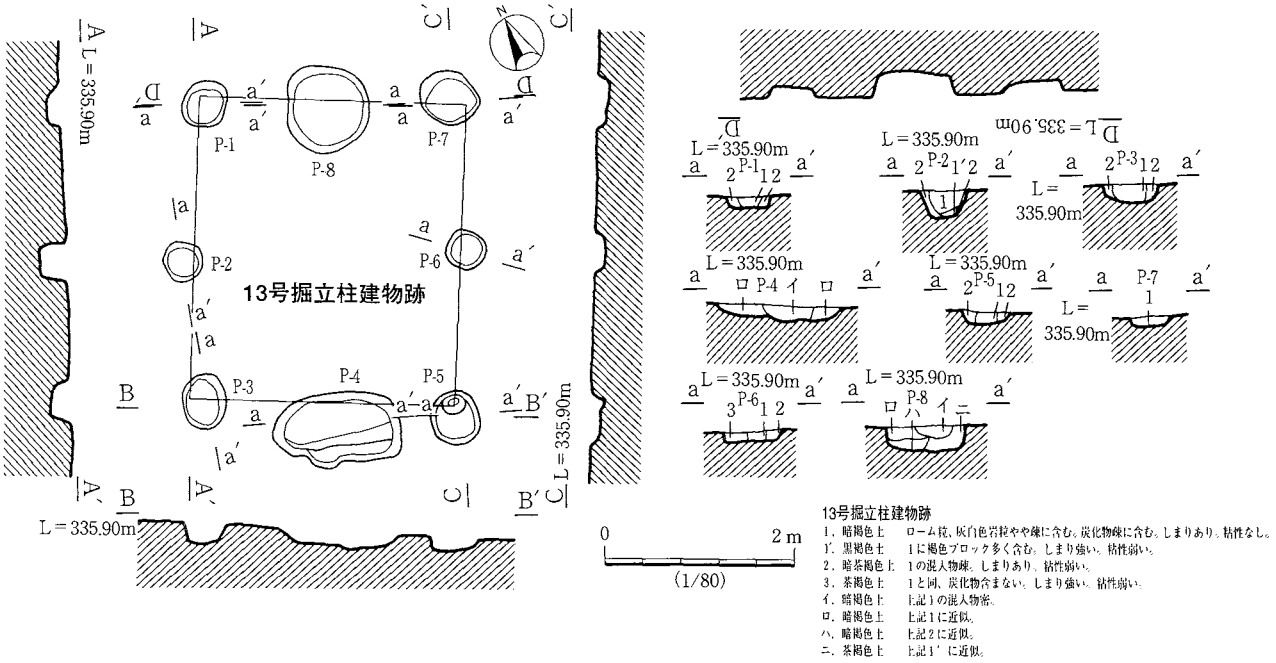
位置　／Dh－66グリッドにおいて検出された。　切り合い関係　／159号土坑と重複するが、新旧関係は不明である。　規模　／Ｐ－１は長径70cm、深さ70cm、Ｐ－２は長径65cm、深さ45cm、Ｐ－３は長径90cm、深さ55cm、Ｐ－４は長径80cm、深さ40cm、Ｐ－５は長径87cm、深さ97cm、Ｐ－６は長径80cm、深さ37cm、Ｐ－７は長径77cm、深さ48cm、Ｐ－８は長径77cm、深さ46cmで、Ｐ－１～２間が1.7ｍ、Ｐ－２～３間が2.8ｍ、Ｐ－３～４間が2.7ｍ、Ｐ－４～５間が2.2ｍ、Ｐ－５～６間が2.1ｍ、Ｐ－６～７間が2.4ｍ、Ｐ－７～８間が2.9ｍ、Ｐ－８～１間が2.3ｍを計測する。　長軸方向　／Ｎ－33°－Ｗ。

11号掘立柱建物跡　（第93図）

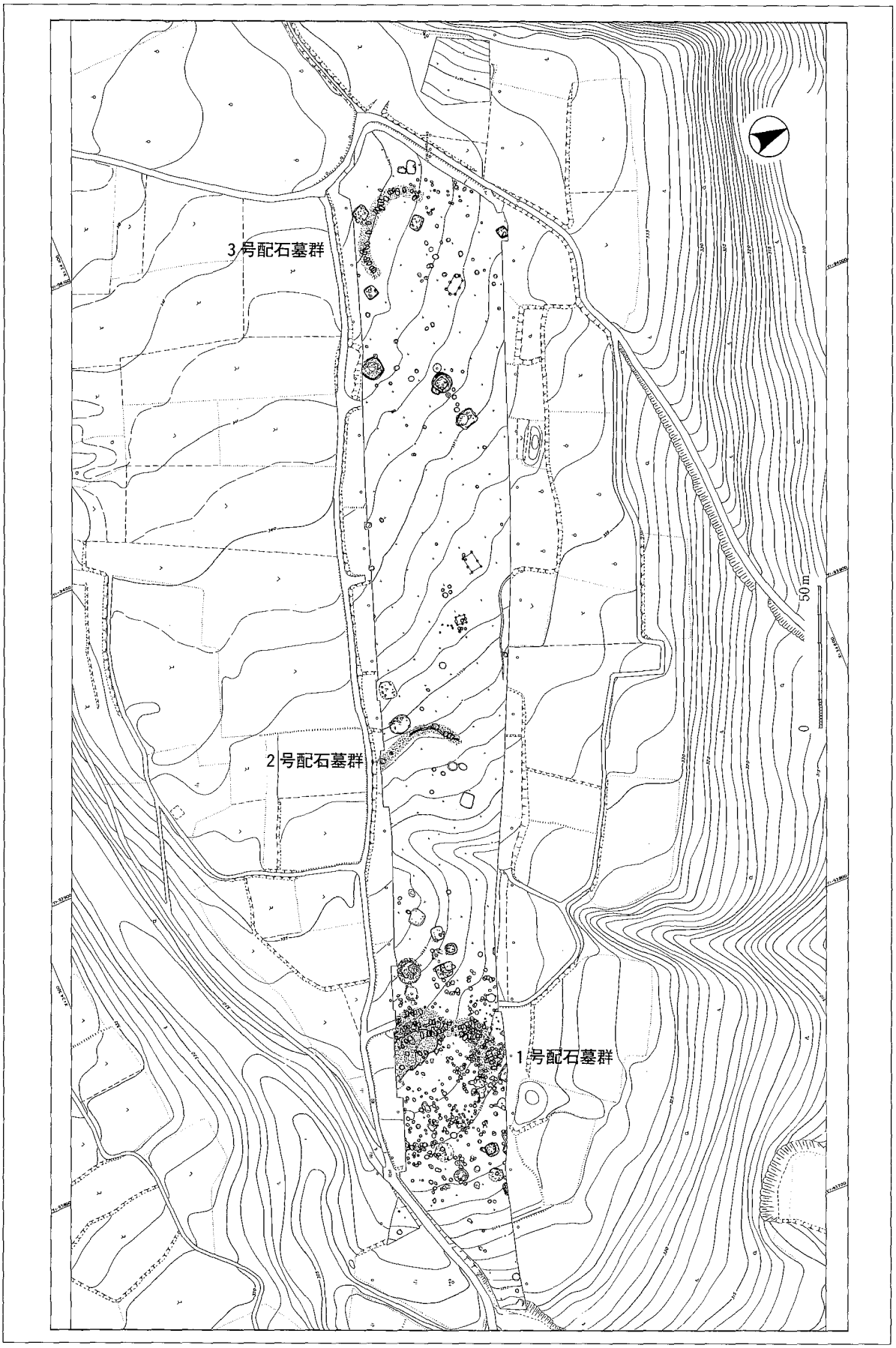
位置　／Ea－75グリッドにおいて検出された。　切り合い関係　／16号掘立柱建物跡と重複し本跡が古い構築である。　規模　／Ｐ－１は長径58cm、深さ53cm、Ｐ－２は長径80cm、深さ64cm、Ｐ－３は長径54cm、深さ62cm、Ｐ－４は長径60cm、深さ62cm、Ｐ－５は長径78cm、深さ49cm、Ｐ－６は長径52cm、深さ33cm、Ｐ－１～２間が2.3ｍ、Ｐ－２～３間が3.4ｍ、Ｐ－３～４間が3.9ｍ、Ｐ－４～５間が3.8ｍ、Ｐ－５～６間が2.3ｍ、Ｐ－６～１間が3.7ｍを計測する。　長軸方向　／Ｎ－81°－Ｅ。

13号掘立柱建物跡　（第94図）

位置　／Eb・Ec－77グリッドにおいて検出された。　切り合い関係　／なし。　規模　／Ｐ－１は長径50cm、深さ14cm、Ｐ－２は長径45cm、深さ30cm、Ｐ－３は長径58cm、深さ23cm、Ｐ－４は長径135cm、深さ19cm、Ｐ－５は直径58cm、深さ15cm、Ｐ－６は長径40cm 、深さ11cm、Ｐ－７は長径55cm、深さ14cm、Ｐ－８は長径84cm、深さ28cmで、Ｐ－１～ ２間が1.7ｍ、Ｐ－２～３間が1.5ｍ、Ｐ－３～４間が1.5ｍ、Ｐ－４～５間が1.4ｍ、Ｐ－５～６間が1.7ｍ、Ｐ－６～７間が1.7ｍ、Ｐ－７～８間が1.4ｍ、Ｐ－８～１間が1.4ｍを計測する。　長軸方向　／Ｎ－10°－Ｅ。



第94図　13号掘立柱建物跡



第95図　配石墓群位置図（1/2,000）

第３項　配石

本遺跡を特徴づける遺構として、東部調査区において検出された３群の配石墓群がある。

３群は、左図で示した様に調査区東から西へ１・２・３号配石墓群の名称を付して調査を行った。１号と２号の間は約100ｍ、２号と３号は約150ｍの距離を持ち、１号は調査区外へと延びてはいるが、その他の大半は調査区内に位置しての検出であった。

配石墓群は、上部配石である列石と、その下より検出された下部配石である配石墓から構成され、全体で大小合わせて4500個に及ぶ礫を用いて構築している。構築に際しては、その大多数に偏平で丸味のある輝石安山岩を使用し、また、詳細は各配石墓群の項にて記載しているが、１号と２号の２群には地山を整形した地業と捉えられる『整地部』の存在も確認されている。

上部配石である列石は、各群共に南・西部に集中しており、全体に弧状、つまり三日月形を呈し、特に１号は、比較的小規模な列石の集合体であることが明らかとなっている。弧の中心と思われる場所からは、明確にそれと思える資料は得られなかったが、列石の中心と想定される場所に立つと列石の先にはそびえ立つ妙義山が仰ぎ見られる。

列石の下より検出された下部配石である配石墓は、１号で49基、２号で５基、３号で24基が発見され、検出された配石墓は下記の様に分類が可能である。なお、配石墓の中には調査時において列石の内外の人為的埋土による礫を伴わない土坑も含んでいることから、本書作成時においてもそれを踏襲している。従って厳密に言えば名称は土壙墓とすべきであろうが、ここでは整理時に土壙墓と推定されている掘り込みも配石墓として取り扱った。

Ａ類…… 礫組で石棺型を呈する。

Ｂ類…… 長方形の掘り方の短辺に枕石を配するもの。

Ｃ類…… 前述の礫組の無い土壙墓

この中でＡ類は、更に礫積みの方法、蓋石の有無を加えると細分が可能で次の様になる。

Aa類……礫を横積みにした石棺型

Ab類……礫を立てて構築した石棺型

で、蓋石の伴うものをAa1類、あるいはAb1類と表記した。

検出された配石墓からは人骨は肉眼では確認できず、副葬品も僅かで３号配石墓群の３－９号墓から玉が１点出土しているのみである。覆土は、科学分析の為にサンプリングを行い、その他のすべての覆土についてフルイ掛け作業を実施しているが、土器の細片・石鏃・黒曜石の剥片のみの出土であった。これら少量ではあるが得られた土器を分類すると加曽利E3式にはじまり称名寺、堀之内を経て加曽利B2式に比定されるものであり、これらの遺物の他配石墓群周辺にて検出された遺物から３群の配石墓群は後期を主体とした所産と捉えられた。また、第１項住居跡においても記載したが、各配石墓の周辺からは、中期末から後期へかけての所産によるもので、住居跡として取り扱っているものの、通常検出される集落とは異質の様相が窺われる遺構が見られる。１号配石墓群の周辺からは柄鏡形の敷石住居が確認され、２号配石墓群に近接しては外周に礫を配した住居跡が、３号配石墓群からは住居跡の名称は付したものの、炉や柱穴を伴っていないいわば大形の竪穴が位置している。これらは、配石墓群自体の時間幅がある為すべてにおいて合致するものではないが、遺構の時期・検出状況・構造から配石墓の機能の一端を担うか、あるいは、深い関係を有するものと考えられる。

1号配石墓群

本配石墓群は、調査区の東部分に位置し、Eg－90・91・92、Eh－89・90・91・92、Ei－89・90・91、Ej－89・90・91、Fa－91グリッドにまたがって検出され、3群の中では規模及び使用された礫数において最も大きいものである。

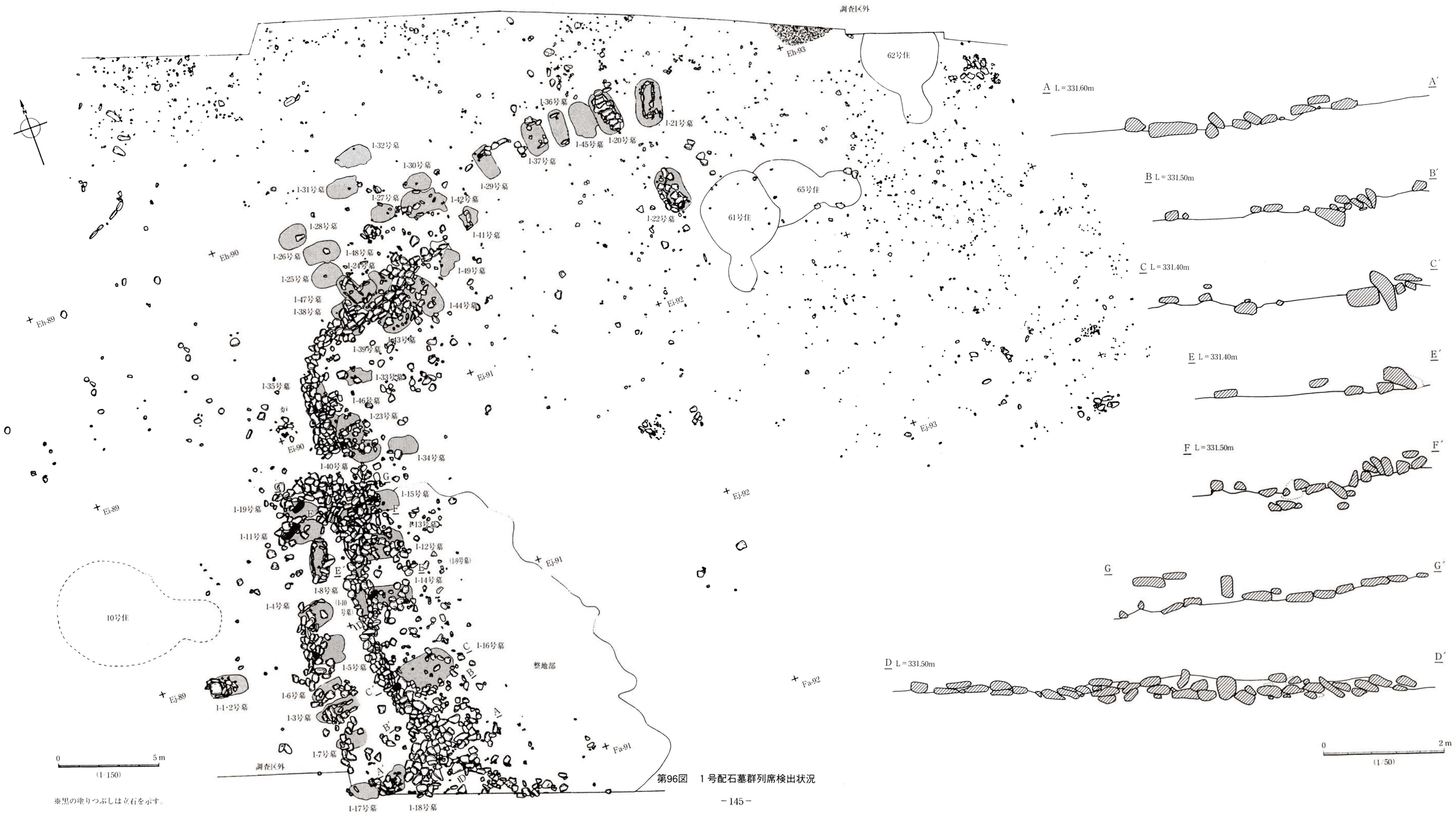
配石墓群は、上部配石である列石と、下部配石である配石墓により構成され、構築にあたって行われた整地作業が確認されている。

上部配石（列石）　列石は全体を見ると、北東から南東へかけて緩やかに弧状を描いているが、南側は調査区外となる為遺構全域の調査は実施できなかった。しかし、北側の列石の端部が確認されていることと、東側に列石が検出されていない状況から形状では弧状、つまり三日月形になるものと推定され、規模的には現状よりは大きくなると見られる。この列石は全体的には弧状であるが、細部を観察するといくつかの環状及び弧状に分けられ、特に南側では1－3～7号墓を覆っている列石とその東側の列石の様に二重に巡っていることが判り、これらが構築された結果として緩やかな弧状となったと理解される。使用された礫は、大小合わせて3,414個に上り、石材は、流紋岩と板状の安山岩を少量含んでいるが、そのほとんど100%に近い数は偏平で丸み持った輝石安山岩で占めている。構築状況では、第96図Dラインのエレベーション図や写真図版からもわかる様に礫が横積みで積み上げられ石垣状を呈する箇所も点在し、第96図に黒塗りで示した通り所々立石と見られる大形の礫も確認されている。立石は、直立しているものは少くなく、礫の形状から判断しているが、概して下部に配石墓が位置している。また、列石の外側のEh－90グリッドからは2基の石囲炉が検出され、Eh－93グリッド杭の北、調査区外へかけては被熱の痕跡が認められている。

下部配石（配石墓）　調査時において配石墓の番号を付したものは合計49基で、主として列石の下及びその周辺から検出されており、1－8・18・23・24・25・26・27・28・30・31・32・35・38・42・43・47・48・49号墓の18基を除いた配石墓は弧状を呈する列石の中心方向に主軸を持っていた。形態的には、上部配石を除去した段階で前述した分類に照らし合わせると、Aa類はなく、Ab類が10基（内Ab1類が3基）、B類が8基（内B1類が1基）、C類が27基、不明が4基で、その大多数がC類であった。なお、このC類の上部には立石と見られる大形の礫が確認されるものが多く見られている。

整地部　当群では、Ei－89・90、Ej－90・91、Fa－91グリッドより整地部の存在が確認されている。整地部は、浅間山起源のホウロク層と呼ばれる岩盤質ローム層と、下位の板鼻黄色軽石層（YP層）を東西10m程、南北18m以上、確認面よりの深さ30m程の範囲で掘り下げ、1－12・13・14・16号の配石墓を構築した後これを埋め戻し平坦にならしている。その後直径3m程の円形に列石を配したり、配石墓の上に立石を立てている。この整地作業は弧状を呈する列石の内側に実施されているもので、配石墓全体から見れば1/5程であった。

遺物　出土した遺物の大多数は土器と石器で占められている。土器については、配石墓群構築以前の前期の遺物を除くと加曽利E3式から称名寺、堀之内、加曽利B2式へ亘っての土器が出土している。配石墓の中からは前述した時期の遺物が見られるが、比較的堀之内・加曽利B形式の遺物が主体を占めている。石器では石棒・石皿・多孔石が見られ、特に図版番号219の石棒は、写真図版で示した様に1－3号墓の上部配石から直立した状態で出土している。この他土製品としては配石墓群の中ではないもののその付近から土偶の顔・胴・足の合計7点が出土し、このうちの図版番号112の脚部片からは赤彩の痕跡が認められている。なお、周辺部より検出されている敷石住居は、埋設土器の時期より加曽利E4段階と称名寺式の遺構に比定され、配石墓群構築時期の前半と合致する。



※黒の塗りつぶしは立石を示す。

第96図　1号配石墓群列席検出状況

第97図　1号配石墓群検出状況

1－1号墓　（第98図）

位置　／Ej－89グリッド。弧状列石の外側（西）にはずれて位置する。　切り合い関係　／1－2号墓、95号土坑と重複する。新旧関係は不明であるが、遺存状況から察して1－2号墓より新しい構築と見られる。

分類　／C類。ただし上部に配石が覆う。　規模　／長方形で、長軸1.85m、短軸0.90m、深さ60cmを計測する。　長軸方向　／N－77°－W。列石の中心方向と一致する。　覆土　／人為堆積を示す。　上部配石　／掘り込み西側の上部に長計72cm、短計50cm、厚さ12cm、重さ68kgの偏平で大形の礫を中心に長計40cm、重さ10kg前後を計る4個の礫を配した石組みが見られる。これらの石材は、偏平で丸みを持った輝石安山岩が多数を占め、数点の板状安山岩を含む。

1－2号墓　（第98図）

位置　／Ej－89グリッド。弧状列石の外側（西）にはずれて位置する。　切り合い関係　／1－1号墓、95号土坑と重複する。新旧関係は不明であるが、遺存状況から察して1－1号墓より古い構築と見られる。

分類　／不明。1－1号墓の南に僅かに検出されている。　規模　／不明であるが、深さは40cmを計測する。　長軸方向　／不明。　覆土　／不明。

1－3号墓　（第99図）

位置　／Ej－89グリッド。弧状列石の下部に位置する。　切り合い関係　／なし。西側が耕作の為撹乱される。　分類　／Ab1類。　規模　／長楕円形で、石棺の内計は長軸1.55m、短軸0.40m、深さ36cmを計測する。　長軸方向　／N－92°－W。列石の中心方向と一致する。　覆土　／堆積は2層に分層されるが、図示した2層は茶褐色を呈しており掘り方の埋め土の可能性がある。従って遺構使用時には、2層上面を底面とし、人為的に暗茶褐色土が充填されたと見られる。　配石　／遺構西側に長計64cm、厚さ16cm、重さ51kg前後を計測する2個の蓋石が遺存する。遺構は2段に掘り込まれ、石棺は、長軸方向に配した2個の礫を除いて中段に立てかけて構築される。東側は耕作による撹乱の為遺存していないが、西側の枕石部分に位置する礫は、長計36cm、短計35cm、厚さ11cm、重さ24kgで、長計45cm、厚さ9cm、重さ20kg前後を計る礫を片側に4個づつ、合計8個を用いて石組みを行う。これらの石材は、全て偏平で丸みを持った輝石安山岩で占められている。　遺物　／加曽利E3、称名寺Ⅱ、堀之内2、加曽利B式に比定されるであろう土器片が出土しているが、特に、図版番号4の称名寺Ⅱの土器片が石棺内よりの出土で、その他の遺物は上部からのものであった。

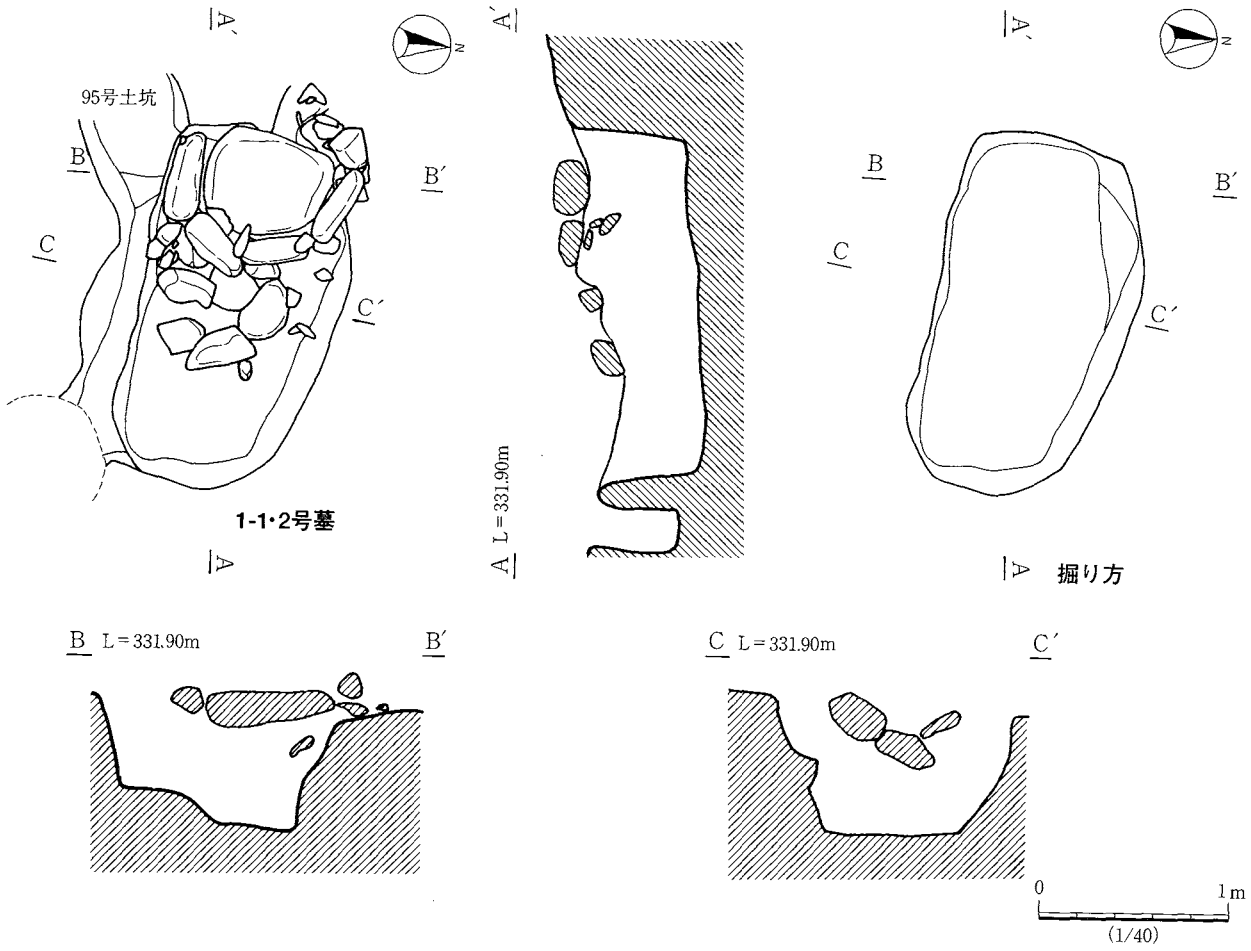
出土遺物

1は、深鉢の口縁部片で、口縁部下には刻みを施した隆帯を巡らせる。口縁部の内面には1条の凹線が巡り、内面は比較的丁寧な研磨を施す。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

2は、深鉢の胴部片で、押圧を施した隆帯を貼付している。胎土は細砂粒を含み、焼成は不良で、色調は灰褐色である。

3は、深鉢の胴部片で、凹線状の沈線で文様区画し、区画内に縄文（RL）を充填施文する。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は普通で、色調は黒褐色である。

4は、頸部が括れる深鉢で、胴部1/3程が遺存する。文様は列点状刺突を伴うJ字状で、X字状のモチーフで構成し、内面は撫でる。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黄褐色である。



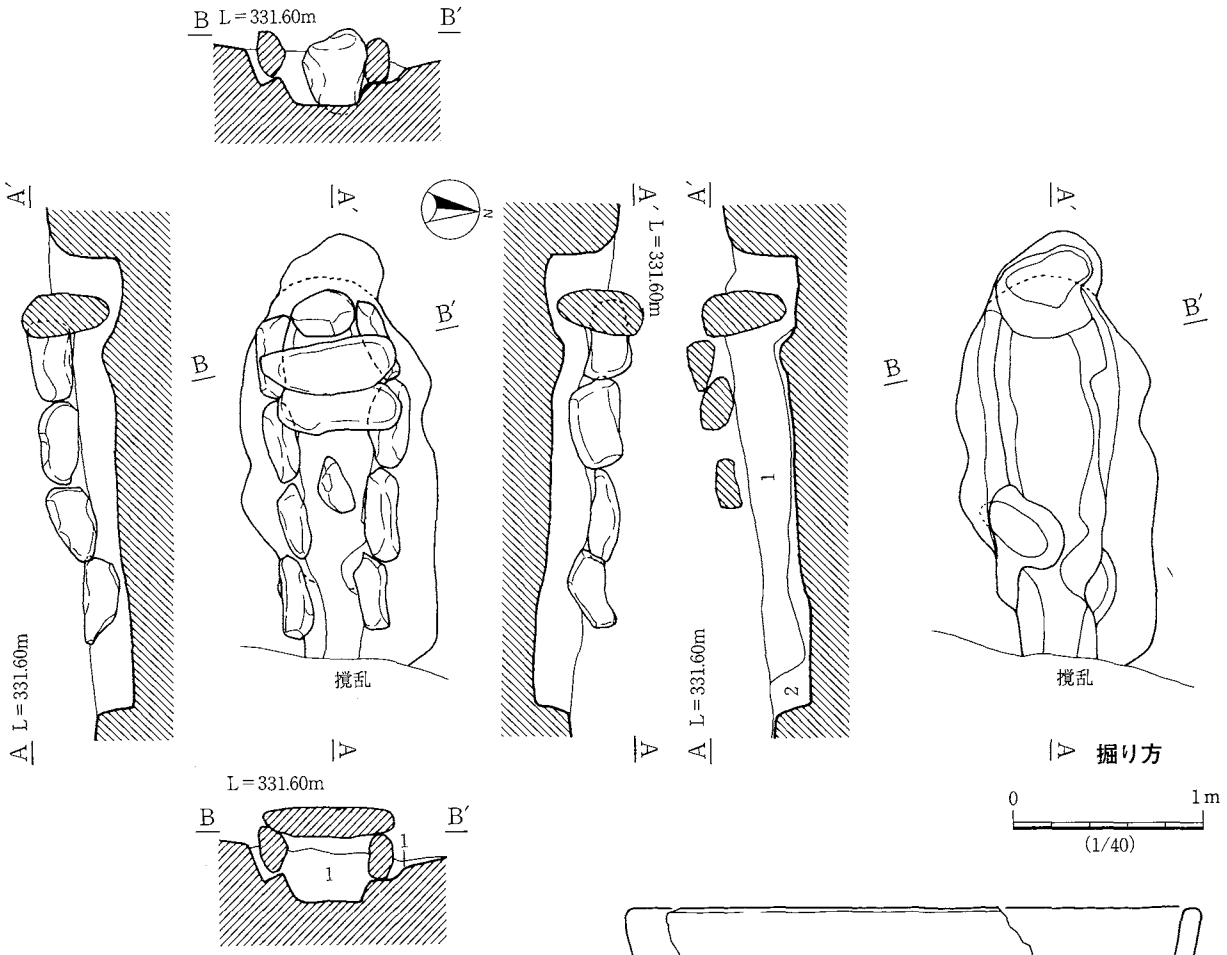
第98図　1－1・2号墓

1－4号墓　(第100図)

位置　／Ei－89グリッド。弧状列石の下部に位置する。　**切り合い関係**　／ピットと重複し本跡が新しい構築である。　**分類**　／Ab類。　**規模**　／長楕円形で、長軸1.58ｍ、短軸1.08ｍ、深さ20㎝を計測する。　**長軸方向**　／N－77°－E。列石の中心方向とはややずれる。　**覆土**　／人為堆積で、茶褐色土が単層で確認される。　**配石**　／遺構北側の側壁のみ遺存する。石組は、長計33～61㎝、短計20～30㎝、厚さ15～20㎝、重さ20㎏前後の偏平な礫を３個立てかけている。これらの石材は、全て輝石安山岩であった。　**遺物**　／加曽利B1式の土器片が上部より出土している。

出土遺物

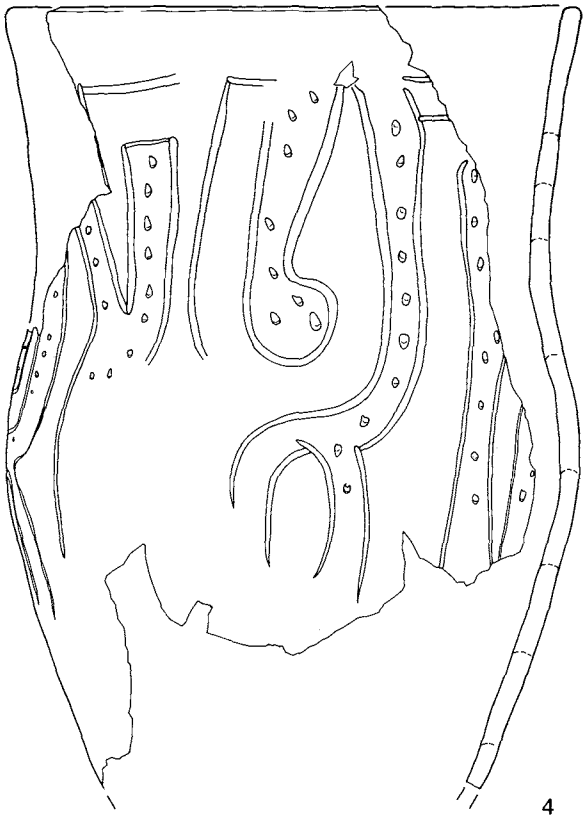
１は、内湾気味の口縁部を持つ鉢である。内外面は共に丁寧な研磨で、外面は口縁部下に沈線と刻目を施す。下位には沈線区画の帯縄文を巡らし、縦位沈線で区切り、円形刺突を施している。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は褐色である。



1－3号墓

1．暗茶褐色土　φ1～3㎜程のローム粒、φ1～2㎜程の白色細粒をやや密に含む。φ1㎜程の小ロームブロック、YPブロックを疎に含む。炭化物ポツポツ含む。しまりあり。粘性強い。

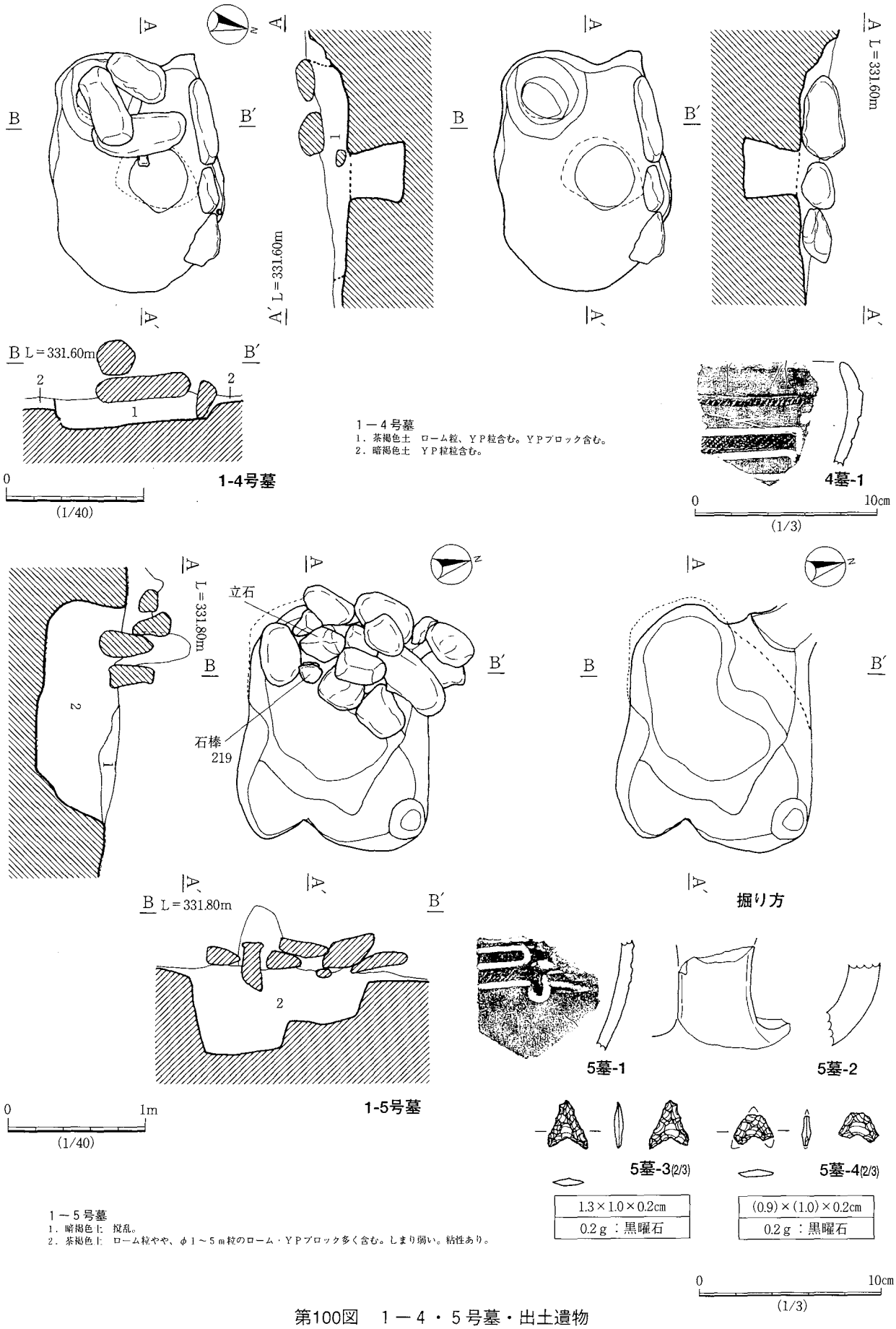
2．茶褐色土　しまり粘性あり。



0 10cm
(1/3)

0 10cm
(1/4)

第99図　1－3号墓・出土遺物



第100図　1－4・5号墓・出土遺物

1－5号墓　（第100図）

位置　／Ej－89グリッド。列石の下部に位置する。　切り合い関係　／なし。　分類　／C類。ただし上部に立石が構築される。　規模　／長軸1.62ｍ、短軸1.35ｍ、深さ60cmを計測する。　長軸方向　／N－83°－W。列石の中心方向とはややずれる。　覆土　／人為堆積を示す。　上部配石　／掘り込み西側の上部に長計70cm、短計25cm、厚さ22cm、重さ73kgの立石を中心に長計40cm、重さ24kg前後を計る礫を配置する。特に立石のそばには流紋岩製の石棒が検出された。石材は、石棒を除くと輝石安山岩である。なお、石棒は上部配石として取扱い第141図219番にて掲載している。　遺物　／加曽利E3式、加曽利B1式の土器片が上部から出土している。

出土遺物　（第101図）

1は、深鉢の胴部片で、沈線で区画された帯縄文を巡らし、沈線端部は上下が連結され、円形刺突を施す。胎土は細砂粒を含み、焼成は普通で、色調は黄土色である。

2は、両耳壺の把手で、撫でられる。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黄土色である。

3・4は、小形の無茎石鏃で、黒曜石製である。

1－6号墓　（第101図）

位置　／Ej－89グリッド。列石の下部に位置する。　切り合い関係　／ピットと重複する。　分類　／C類。　規模　／長楕円形。長軸1.71ｍ、短軸0.65ｍ、深さ45cmを計測する。　長軸方向　／N－83°－W。列石の中心方向とほぼ一致する。　覆土　／人為堆積を示す。　遺物　／後期土器片が出土している。

出土遺物

1は、深鉢の胴部片で、平行沈線を巡らす。胎土は細砂粒を含み、焼成は普通で、色調は黄土色である。

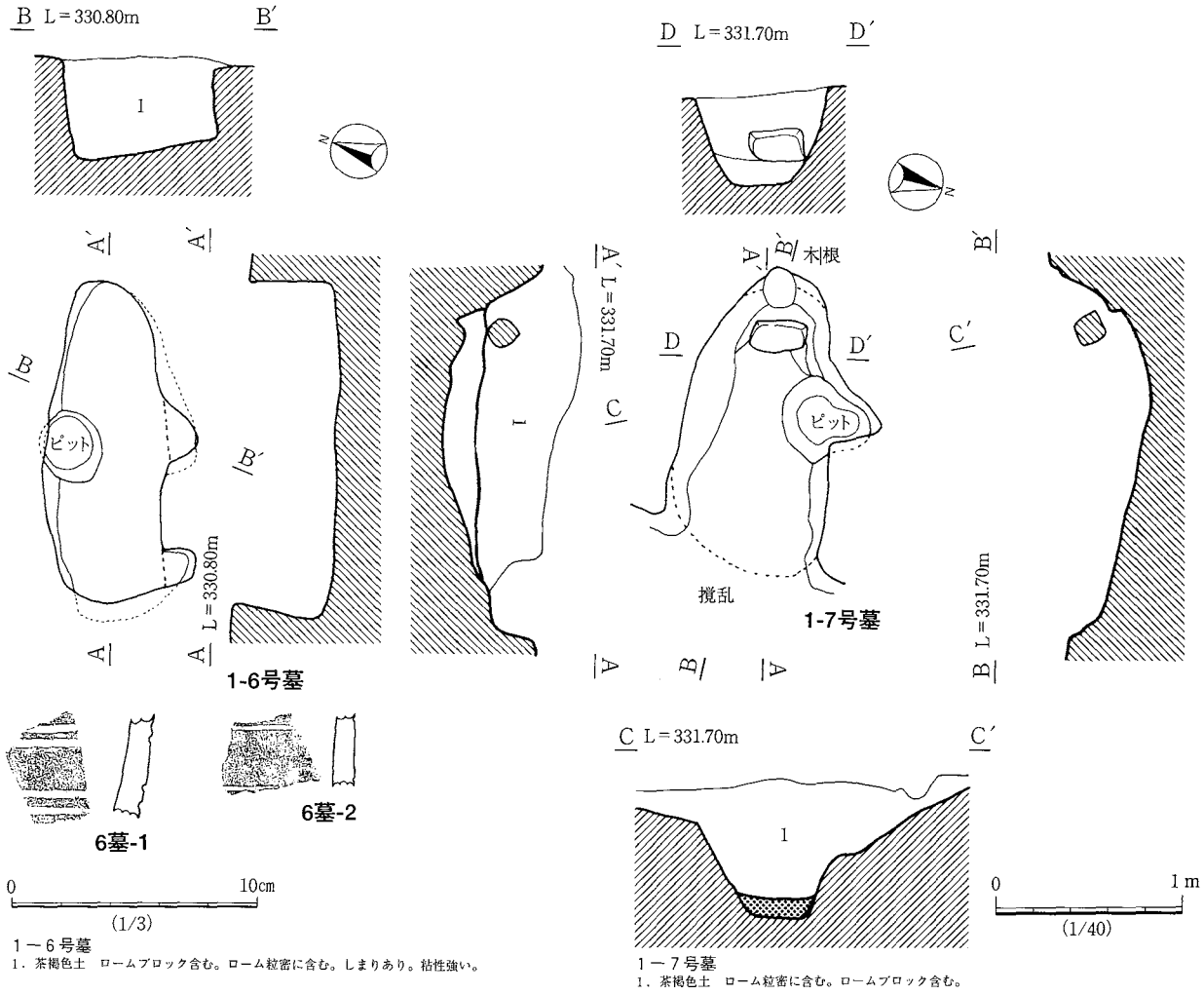
2は、深鉢の胴部片で、平行沈線を巡らす。胎土は細砂粒を含み、焼成は良好で、色調は茶褐色である。

1－7号墓　（第101図）

位置　／Ej－89グリッド。列石の下部に位置する。　切り合い関係　／ピットと重複し、西側部分が耕作の為撹乱される。　分類　／B類。　規模　／長楕円形で、長軸1.64ｍ、短軸0.81ｍ、深さは掘り方で66cm、使用時の床面で45cmを測る。　長軸方向　／N－87°－W。列石の中心方向と一致する。　覆土　／堆積は2層に分層されるが、下部は掘り方の埋め土で、使用時には人為的に茶褐色土が充填されていた。　配石　／西側の枕石のみ検出され、枕石は、長計30cm、厚さ15cm、重さ13kgを計測する。東側は撹乱されている為不明である。

1－8号墓　（第102図）

位置　／Ei－89グリッドに位置する。　切り合い関係　／なし。　分類　／Ab類。　規模　／長軸1.85ｍ、短軸0.46ｍ、深さは29cmを計測する。　長軸方向　／N－16°－E。列石の中心方向に直交する。　覆土　／堆積は暗褐色土が2層に分層される。2層は掘り方の埋め土で、上部を床面とし、従って1層は使用時の人為的埋め土となっている。　配石　／長楕円形に掘り込み、埋め土による床面の設定と同時に石棺を構築する。石棺は、南北に一つづつ合計2個の礫と、長計28～53cm、厚さ9～21cm、重さ8～28kgを計る礫を片側に5個づつを側壁とし、合せて12個を主体に石組みが行われる。石材はいずれも輝石安山岩であった。　遺物　／後期の土器片が上部より出土している。



第101図　1－6・7号墓、1－6号墓出土遺物

1－8号墓　出土遺物

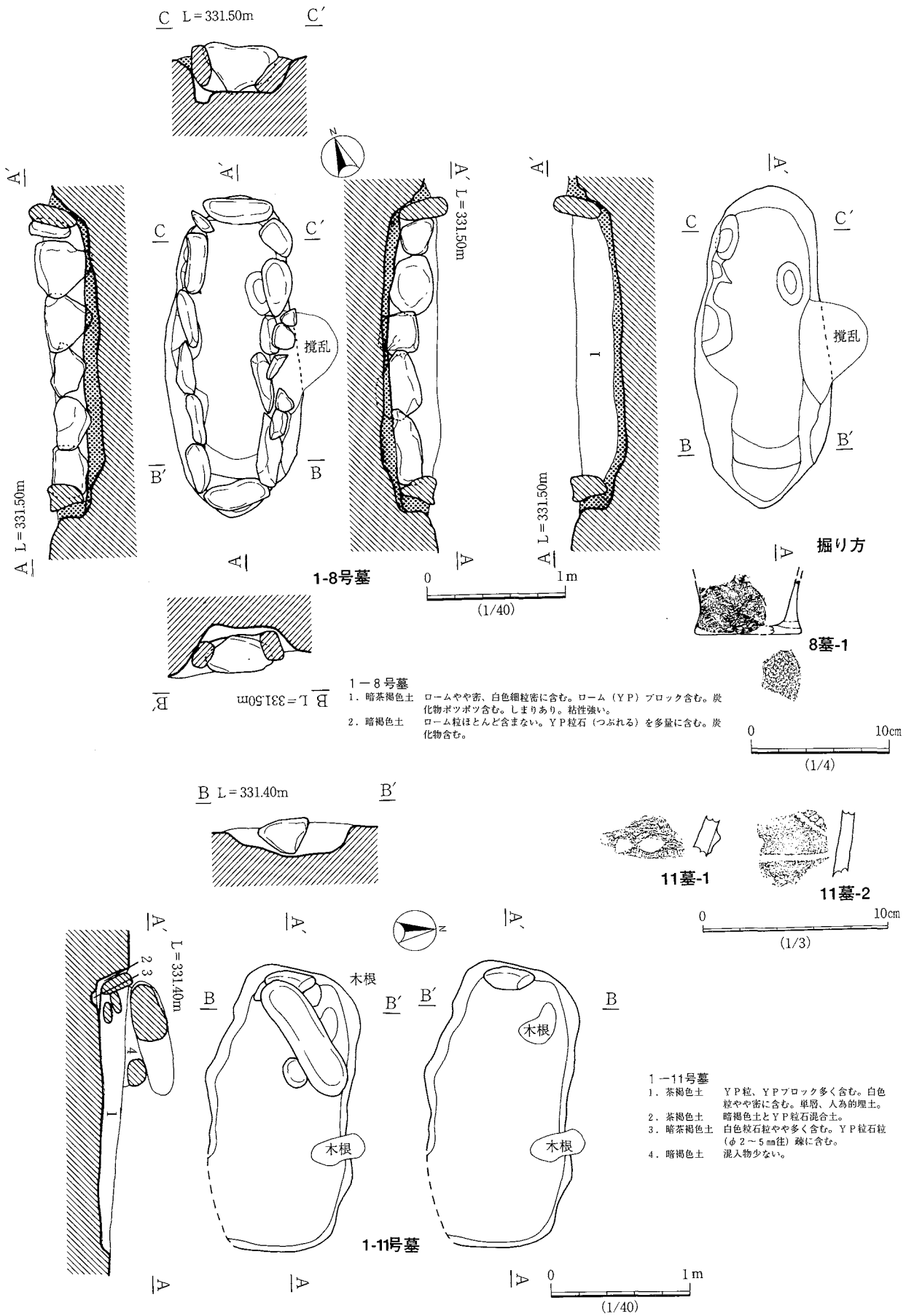
1は、深鉢の底部片で、下端は弱く突出し、底部に網代痕を残す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は橙色から褐色である。

1－9・10号墓

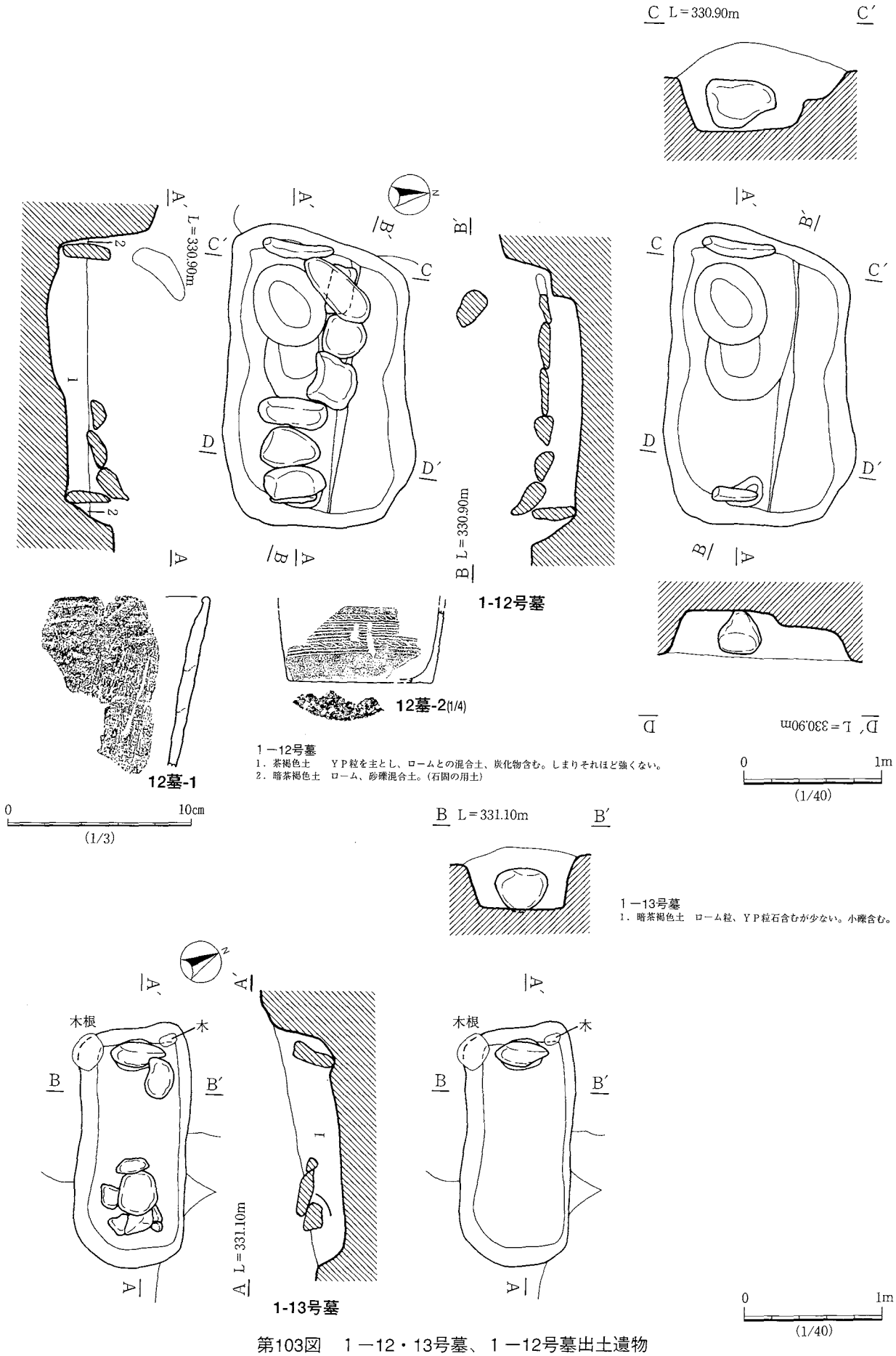
Ei－89・90グリッドに位置し、列石が石組状になっている為調査時に番号を付したものの、掘り込みを伴わず配石墓ではない可能性が高い。

1－11号墓　(第102図)

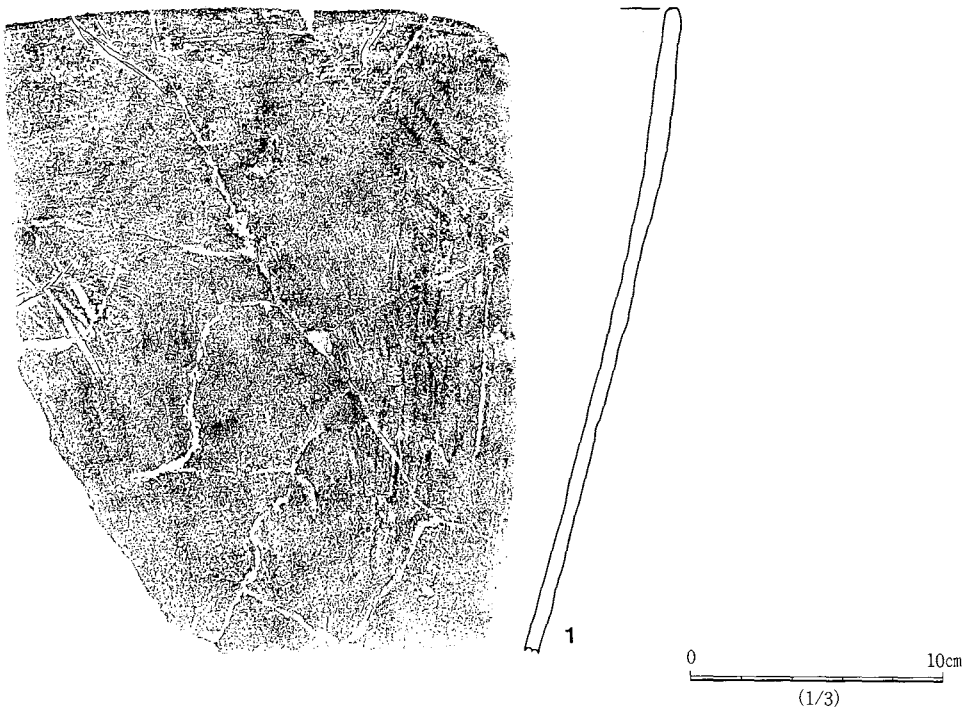
位置　／Ei－89グリッド。1－8号墓に近接する。　切り合い関係　／なし。　分類　／B類。上部配石(立石)が構築される。　規模　／長方形で、長軸1.85m、短軸0.92m、深さ21cmを計測する。　長軸方向　／N－87°－W。列石の中心方向と一致する。　覆土　／人為堆積を示す。　配石　／遺構西側の上部より長計92cm、短計32cm、重さ100kg以上計測不能の立石と推測される長楕円形の礫が倒れた状態確認されている。下部においては西側の枕石のみ検出され礫は、長計37cm、厚さ9cm、重さ13kgを計測する。いずれも輝石安山岩であった。　遺物　／上部より堀之内2式、加曽利B1式の土器片が出土している。



第102図　1－8・11号墓・出土遺物



第103図　1ー12・13号墓、1ー12号墓出土遺物



第104図　1－13号墓出土遺物

1－11号墓　出土遺物

1は、深鉢の胴部片で、押圧した隆帯を貼り付ける。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は普通で、色調は黄土色である。

2は、深鉢の胴部片で、文様は沈線で区画し縄文（LR）を施文する。胎土は砂粒を含み、焼成は普通で、色調は黒褐色である。

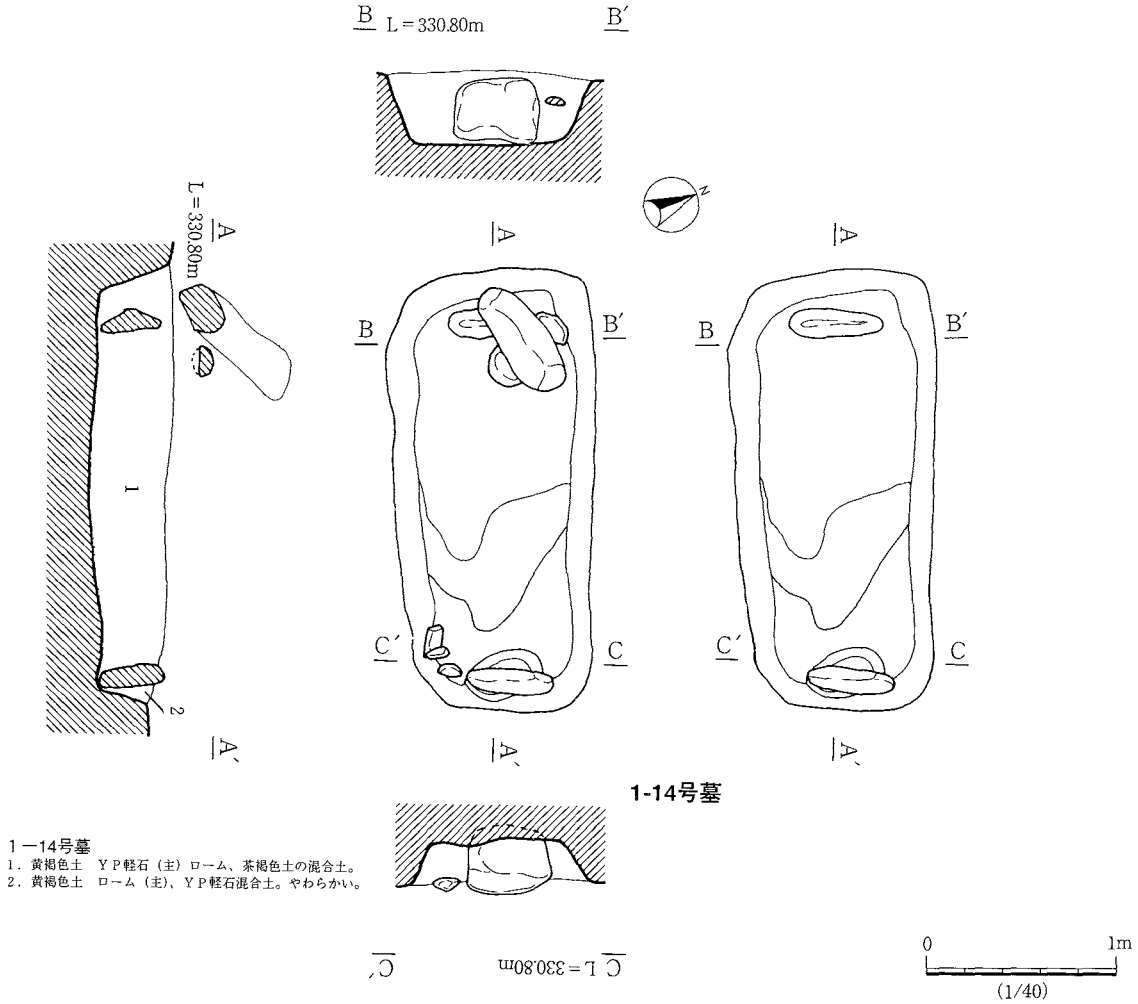
1－12号墓　（第103図）

位置　／Ei－90グリッド。整地部に位置している。　切り合い関係　／なし。　分類　／B1類。上部に立石が構築される。　規模　／方形で、長軸1.66ｍ、短軸1.30ｍ、深さ25㎝、枕石間は1.69ｍを計測する。長軸方向　／N－82°－W。列石の中心方向と一致する。　覆土　／人為堆積を示す。　配石　／遺構は整地部に2段に掘り込み、墓壙内の埋土を充填・配石、そして、整地部全体の埋め戻しを行い立石を据えている。立石は、長計60㎝、厚さ25㎝、重さ48kgである。配石のうち、枕石は、長計40㎝前後、短計28㎝前後、厚さ10㎝前後、重さ15kg前後の偏平な礫を固定する為に掘り込んだ窪みにすえる。この上に長計35～49㎝、厚さ6～11㎝、重さ10.4～11.3kgを計る合計6個の蓋石と想定される礫を載せる。このうち東側の3個は枕石の軸線上位置し、残る3個はこれからははずれている。石材は蓋石と共に輝石安山岩であった。　遺物　／上部より堀之内式、加曽利B1式の土器片が出土している。

出土遺物

1は、深鉢の口縁部片である。口縁部内面に凹線を巡らせ、内面は横位の撫で、外面は縦位の削りを施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は茶褐色から黒褐色である。

2は、深鉢の胴部から底部片で、胴部下半に集合沈線帯を施す。沈線帯には上下1条づつ、S字状入り組み文が付く。底部には網代痕が残り、内外面は共に研磨する。胎土は細砂粒少量含み、焼成は良好で、色調は黒色である。



第105図　１－14号墓

１－13号墓　（第103・104図）

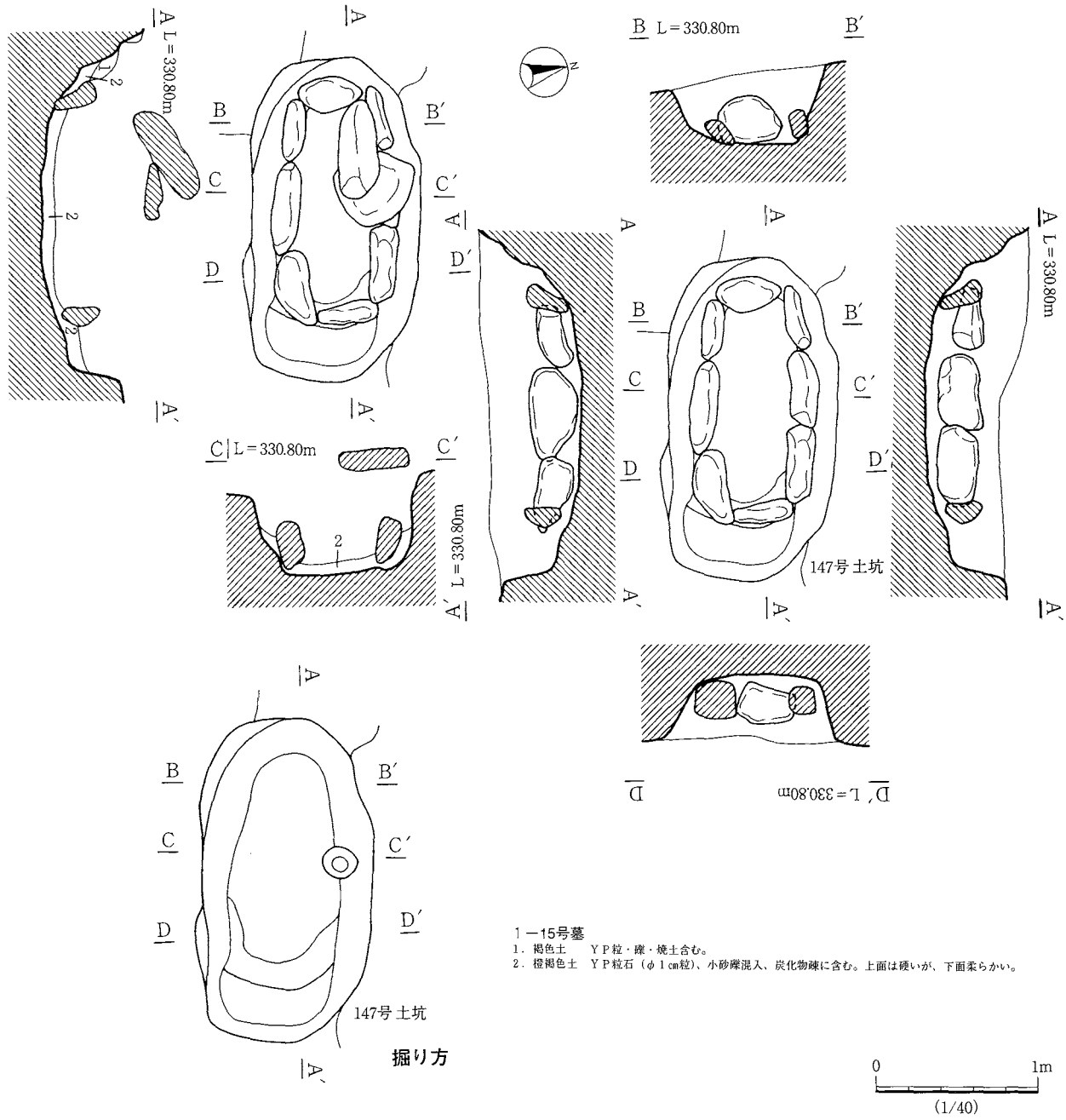
位置　／Ei－89グリッド。列石の下部に位置する。　切り合い関係　／１－15号墓と重複するが前後関係は不明である。　分類　／Ｂ類。上部配石？を伴う。蓋石の一種か。　規模　／長方形で、長軸1.75ｍ、短軸0.78ｍ、深さ32cmを計測する。　長軸方向　／Ｎ－74°－Ｗ。列石の中心方向と一致する。　覆土　／人為堆積を示す。　配石　／遺構東側の上部より蓋石状の配石が見られ、この配石は長計34cm、短計28cm、重さ14.5kgの礫を用いている。枕石は、西側のみ検出され、長計37cm、厚さ９cm、重さ13kgを計測する礫を固定する為に掘り込んだ窪みに据える。使用された石材はいずれも輝石安山岩であった。　遺物　／上部配石の下より堀之内？の土器片が出土している。

出土遺物

１は、直線的に開く深鉢である。内面は横位の撫で。外面の口縁部付近は横位、下位は縦位の撫でを施す。胎土は細砂粒を含み、焼成は良好で、色調は茶褐色から褐色である。

１－14号墓　（第105図）

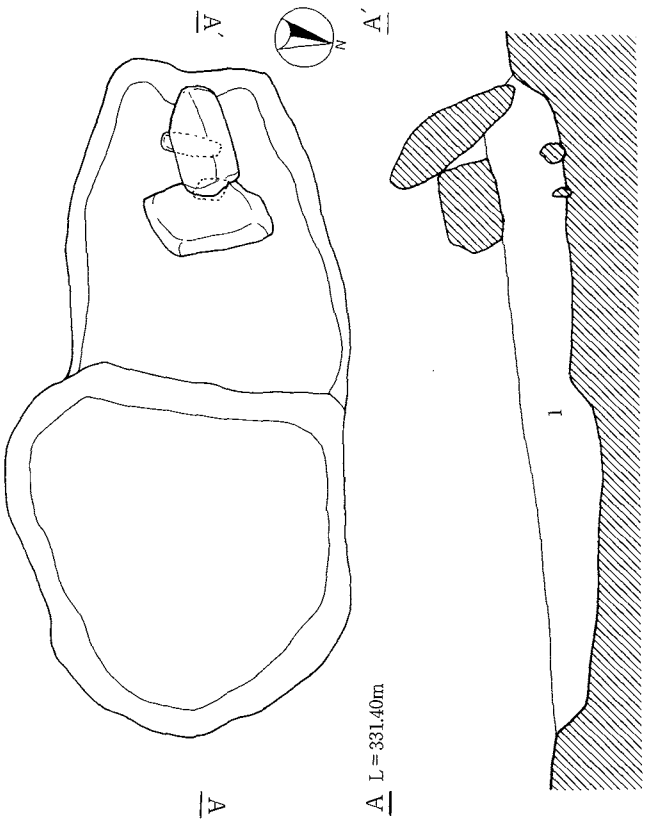
位置　／Ei－89グリッド。１－８号墓に近接する。　切り合い関係　／なし。　分類　／Ｂ類。上部配石（立石）が位置する。　規模　／長方形で、長軸1.85ｍ、短軸0.92ｍ、深さ21cmを計測する。　長軸方向　／Ｎ－87°－Ｗ。列石の中心方向と一致する。　覆土　／人為堆積を示す。　配石　／遺構西側の上部より長計92cm、短計32cm、重さ100kg以上計測不能の、立石と推測される長楕円形の礫が倒れた状態確認される。下部においては両端の枕石が検出され東側は礫を固定する為に掘り込みを行う。東側の枕石は長計46cm、厚さ13cm、重さ31.5kg、西側の枕石は長計47cm、厚さ15cm、重さ38.4kgを計測する。　遺物　／なし。



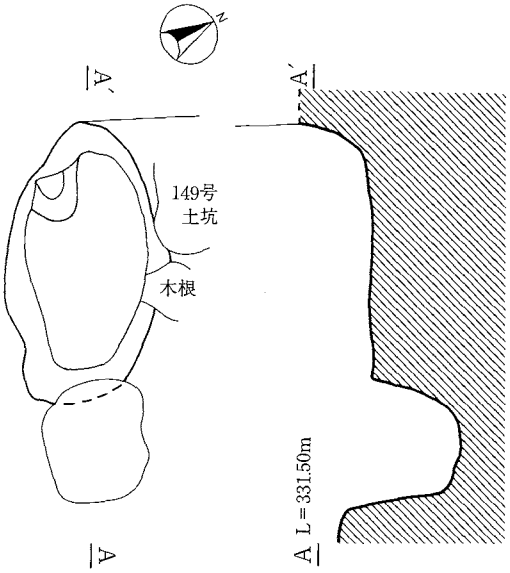
第106図　１－15号墓

１－15号墓　（第106図）

位置　／Ei－90グリッド。弧状列石の下部に位置する。　**切り合い関係**　／なし。　**分類**　／Ab類。立石と見られる上部配石が構築される。　**規模**　／長楕円形で、掘り方の長軸1.97ｍ、短軸1.05ｍ、深さ45cm、石棺の内計は長軸1.20cm、短軸0.46cmである。　**長軸方向**　／Ｎ－82°－Ｗ。列石の中心方向と一致する。**覆土**　／人為的堆積と見られる。２層は上面が硬化しており使用時底面の可能性を有する。　**配石**　／上部に立石と見られる長計62cm、短計0.25cm、重さ80kgの配石が確認される。下部配石は、長楕円形に掘り込まれ、埋め土による床面の設定と同時に石棺を構築する。石棺は、南北に一つづつ合計２個の礫と、長計38～58cm、厚さ13～21cm、重さ23kg前後を計る礫を、側壁に片側３個づつの、合せて８個の礫を主体に用いて石組みを行う。石材はいずれも輝石安山岩であった。　**遺物**　／なし。

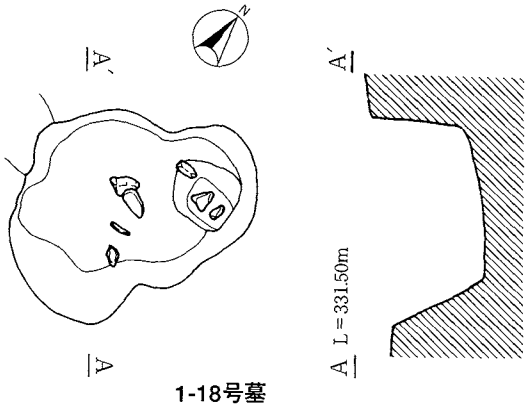


1-16号墓

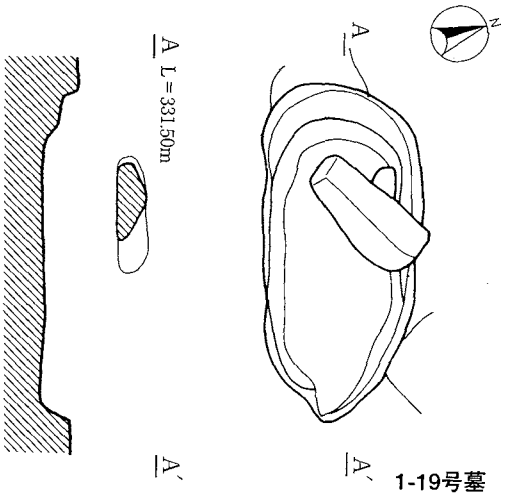


1-17号墓

1ー16号墓
1．暗褐色土　ローム粒、ロームブロック、φ1～3㎝程、YP粒、疎に含む。しまりあり。粘性弱。

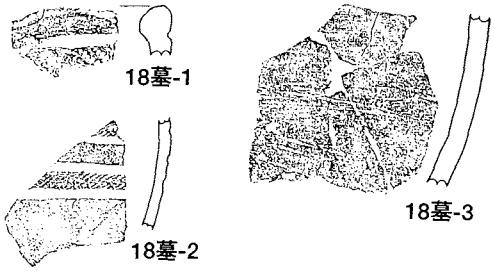


1-18号墓

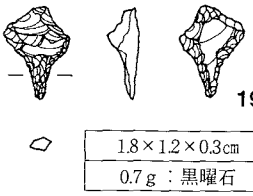


1-19号墓

0　1m
(1/40)



0　10cm
(1/3)



0　5cm
(2/3)

第107図　1ー16・17・18・19号墓、1ー18・19号墓出土遺物

1－16号墓　（第107図）

位置　／Ei－90グリッド。整地部に位置する。　切り合い関係　／墓の東側に土坑状の掘り込みが確認される。　分類　／B類か。上部に立石が構築される。　規模　／長方形で、長軸1.65＋α m、短軸1.45 m、深さ34cmを計測する。　長軸方向　／N－80°－E。列石の中心方向と一致する。　覆土　／人為堆積を示す。　配石　／遺構西側の上部より立石が見られ、立石は長計80cm、短計32cm、重さ100kgの大形の礫を用いている。枕石？は、西側のみ検出され、長計35cm、厚さ12cm、重さ7 kgと小礫の為枕石とは断定できない。使用された石材はいずれも輝石安山岩であった。　遺物　／なし。

1－17号墓　（第107図）

位置　／Ej－89グリッド。1－18号墓に近接する。　切り合い関係　／なし。　分類　／C類。上部に列石が覆う。　規模　／楕円形で、長軸1.44 m、短軸0.86 m、深さ15cm計測する。　長軸方向　／N－64°－W。列石の中心方向とはややずれる。　覆土　／人為堆積を示す。　配石　／墓の西側上部に弧状列石の一部が見られる。　遺物　／なし。

1－18号墓　（第107図）

位置　／Ej－89グリッド。1－17号墓に近接する。　切り合い関係　／なし。　分類　／C類。形状的には土壙状である。　規模　／円形に近い不整形で、長軸1.35 m、短軸0.98 m、深さ54cm計測する。　長軸方向　／N－48°－E。　覆土　／人為堆積を示す。　配石　／掘り込みの中位、底面上方25cm程の位置に7個の小礫が確認される。　遺物　／覆土中より以下の3点の土器片が出土している。1は、不明であるが、2は、加曽利B1式、3は、後期の範疇に含まれると見られる。

遺物

1は、深鉢の口縁部片で、口縁部下に沈線を巡らし、縄文（RL）を充填施文する。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は普通で、色調は黒褐色である。

2は、深鉢の胴部片で、内外面に丁寧な研磨を施し、外面に沈線区画の帯縄文（LR）を巡らす。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

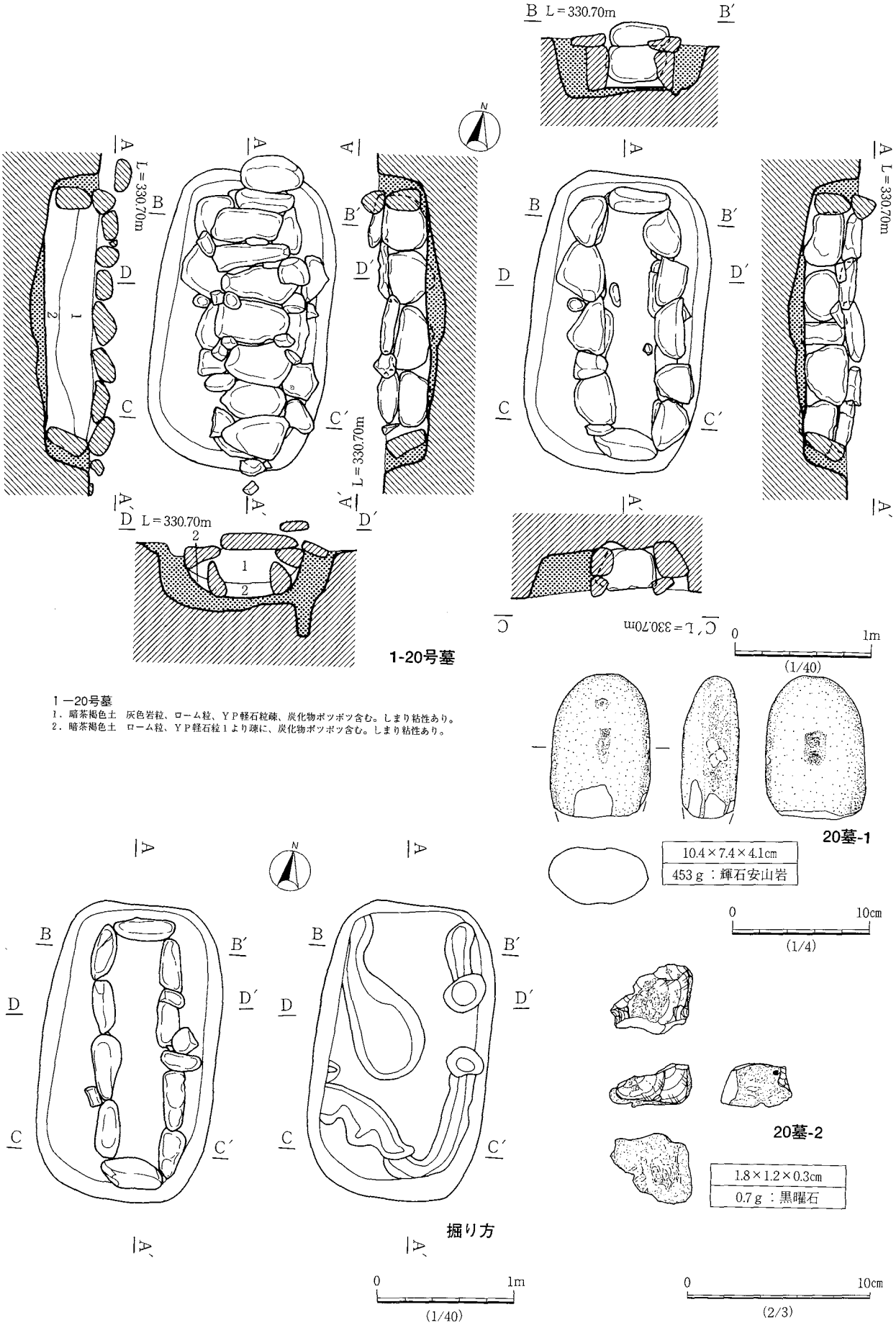
3は、深鉢の胴部片で、内外面共に撫でを施す。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

1－19号墓　（第107図）

位置　／Ei－89グリッド。弧状列石の下部に位置し、1－11号墓に近接する。　切り合い関係　／なし。　分類　／C類。上部に立石と見られる大形の礫が検出される。　規模　／長楕円形で、長軸1.76 m、短軸0.81 m、深さ15cmを計測する。　長軸方向　／N－74°－W。列石の中心方向と一致する。　覆土　／人為堆積を示す。　配石　／遺構西側の上部より立石と見られる長計71cm、短計24cm、重さ61.4kgの大形の礫が確認される。　遺物　／覆土中より石錐が1点出土している。

遺物

1は、黒曜石製の石錐である。



1－20号墓
1．暗茶褐色土　灰色岩粒、ローム粒、ＹＰ軽石粒疎、炭化物ポツポツ含む。しまり粘性あり。
2．暗茶褐色土　ローム粒、ＹＰ軽石粒１より疎に、炭化物ポツポツ含む。しまり粘性あり。

第108図　１－20号墓・出土遺物

1－20号墓　（第108図）

位置　／Eh－92グリッドに位置する。　**切り合い関係**　／なし。　**分類**　／Ab1類。　**規模**　／掘り方においては長軸2.15ｍ、短軸1.27ｍ、深さ45㎝。石棺の内計は長軸1.57ｍ、短軸0.35ｍをそれぞれ計測する。　**長軸方向**　／Ｎ－13°－Ｗ。　**覆土**　／石棺内は人為堆積を示し、暗褐色土が上下２層に分層される。**配石**　／長方形に掘り込み、埋め土による床面の設定と同時に石棺を構築する。構築方法については蓋石を載せ完成状態から構築段階がわかる様にさかのぼる形で図示している。石棺は、南北に一つづつ合計２個の礫と、長計35～48㎝、厚さ16㎝前後、重さ23.2～38.5㎏を計る礫を片側に４個づつ側壁として立てかけている。この上に長計22～45㎝、厚さ15㎝前後、重さ11.6～18.0㎏の同様な礫を石棺の内計線に沿う形で横位に積み、更に長計45～58㎝、厚さ12～16㎝、重さ22.0～42.4㎏を計る偏平な礫を主体とした蓋石を整然と載せる。蓋石を含めると合計３段積みになっており、全体で56個の礫を使用している。いずれも石材は輝石安山岩であった。なお、蓋石の間には粘土などを用いたパッキングはなされていなかった。　**遺物**　／凹石兼磨石と黒曜石の細片が出土している。

遺物

１は、凹石兼磨石で、表裏両面及び側面に凹みが確認される。

２は、黒曜石の細片である。

1－21号墓　（第109図）

位置　／Eh－92グリッドに位置する。　**切り合い関係**　／なし。　**分類**　／Ab類。　**規模**　／掘り方においては長軸2.42ｍ、短軸1.24ｍ、深さ26㎝。石棺の内計は長軸1.50ｍ、短軸0.37ｍを計測する。　**長軸方向**　／Ｎ－18°－Ｅ。　**覆土**　／石棺内は人為堆積を示し、暗褐色土が上下２層に分層される。　**配石**　／長方形に掘り込み、埋め土による床面の設定と同時に石棺を構築する。石棺は、南北に一つづつ合計２個の礫と、東壁は崩れているが長計28～53㎝、厚さ12～20㎝、重さ16.0～35.4㎏を計る偏平な礫を主体として片側に４個づつ立てかけ側壁としていたと見られる。いずれも石材は輝石安山岩であった。　**遺物**　／覆土中から堀之内２式と見られる土器片と凹石兼磨石が出土している。

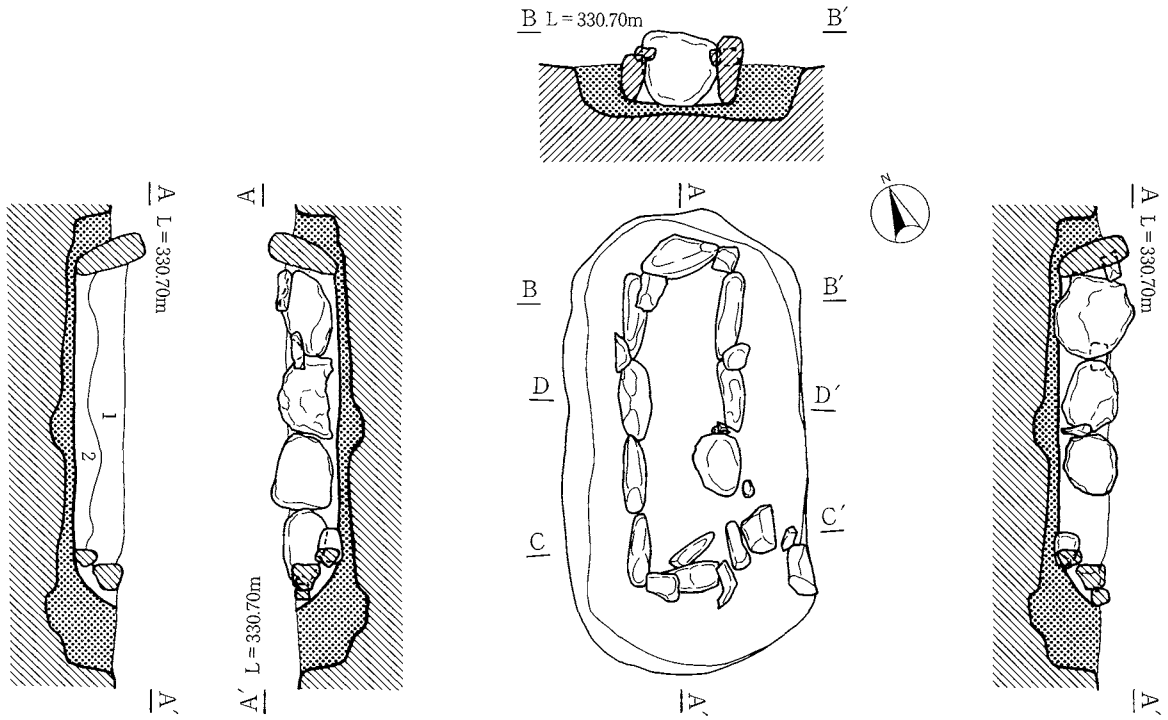
遺物

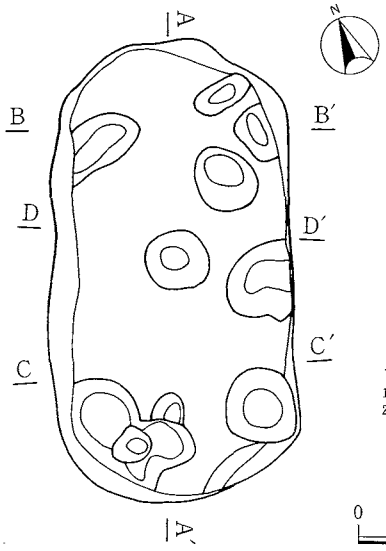
１は、深鉢の胴部片である。内面は丁寧な撫で、外面は沈線で幾何学文を区画し、区画内に縄文（LR）を充填施文する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄土色である。

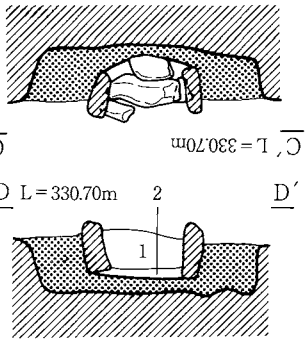
２は、凹石兼磨石で、表裏両面に凹みが確認される。

1－22号墓　（第110・111図）

位置　／Eh－92グリッドに位置する。　**切り合い関係**　／なし。　**分類**　／崩れている為判然としないがAb類に蓋石あるいは底石が伴う可能性がある。　**規模**　／長楕円形で、掘り方の長軸2.30ｍ、短軸1.24ｍ、深さ30㎝である。　**長軸方向**　／Ｎ－30°－Ｗ。　**覆土**　／ローム粒・灰色岩粒・炭化物まばらに含んだ暗茶褐色土が単層で確認され、人為的堆積と見られる。　**配石**　／遺存状況は良好とは言えないが、西壁側が比較的残り、石棺型を呈すると見られる。石棺は、埋め土による床面の設定と同時に構築しているものの、南側枕石は存在せず完形の両耳壺が検出され、配石構築以前の遺構残存か。配石に用いられている石材はいずれれも輝石安山岩である。　**遺物**　／図示した１は、南側枕石の位置に検出された両耳壺で、加曽利E3式、２・３が加曽利B2式と見られる。この他、分銅形の打製石斧、磨製石斧、凹石、石皿が出土している。





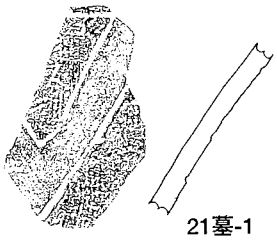


1-21号墓

1－21号墓
1．暗茶褐色土　ローム細粒、ＹＰ軽石粒（φ５㎜程）、白色粒を疎、炭化物ポツポツ含む。しまりあり。粘性やや弱い。
2．暗茶褐色土　１より混入物少なく、白色粒ほとんど含まない。

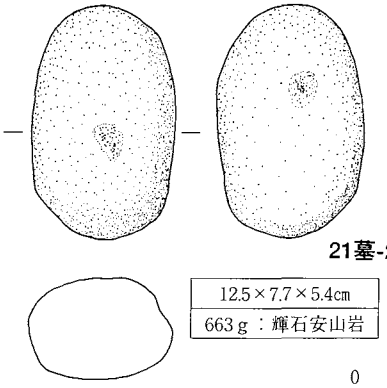
0　1m
(1/40)

掘り方



21墓-1

0　10cm
(1/3)

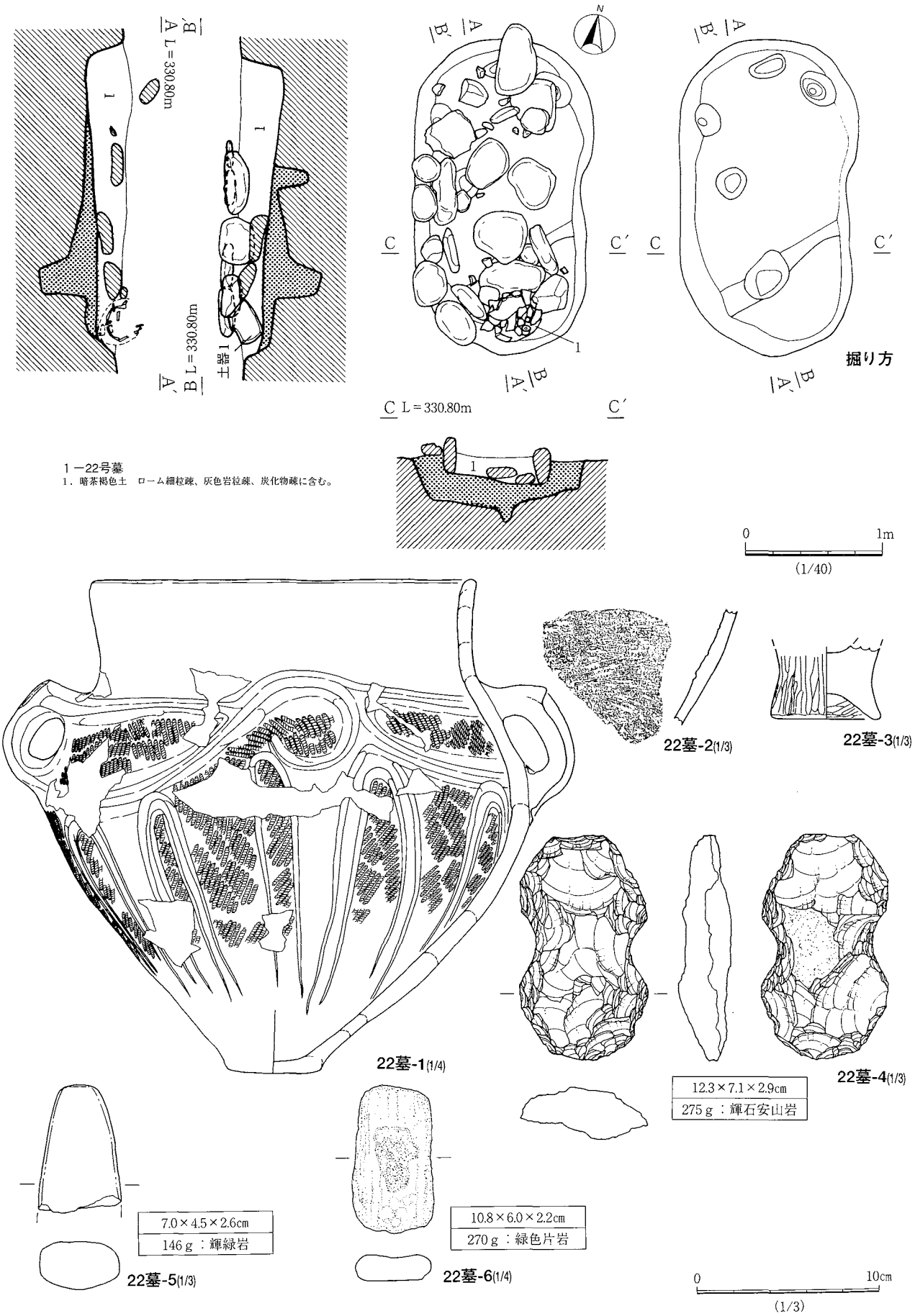


21墓-2

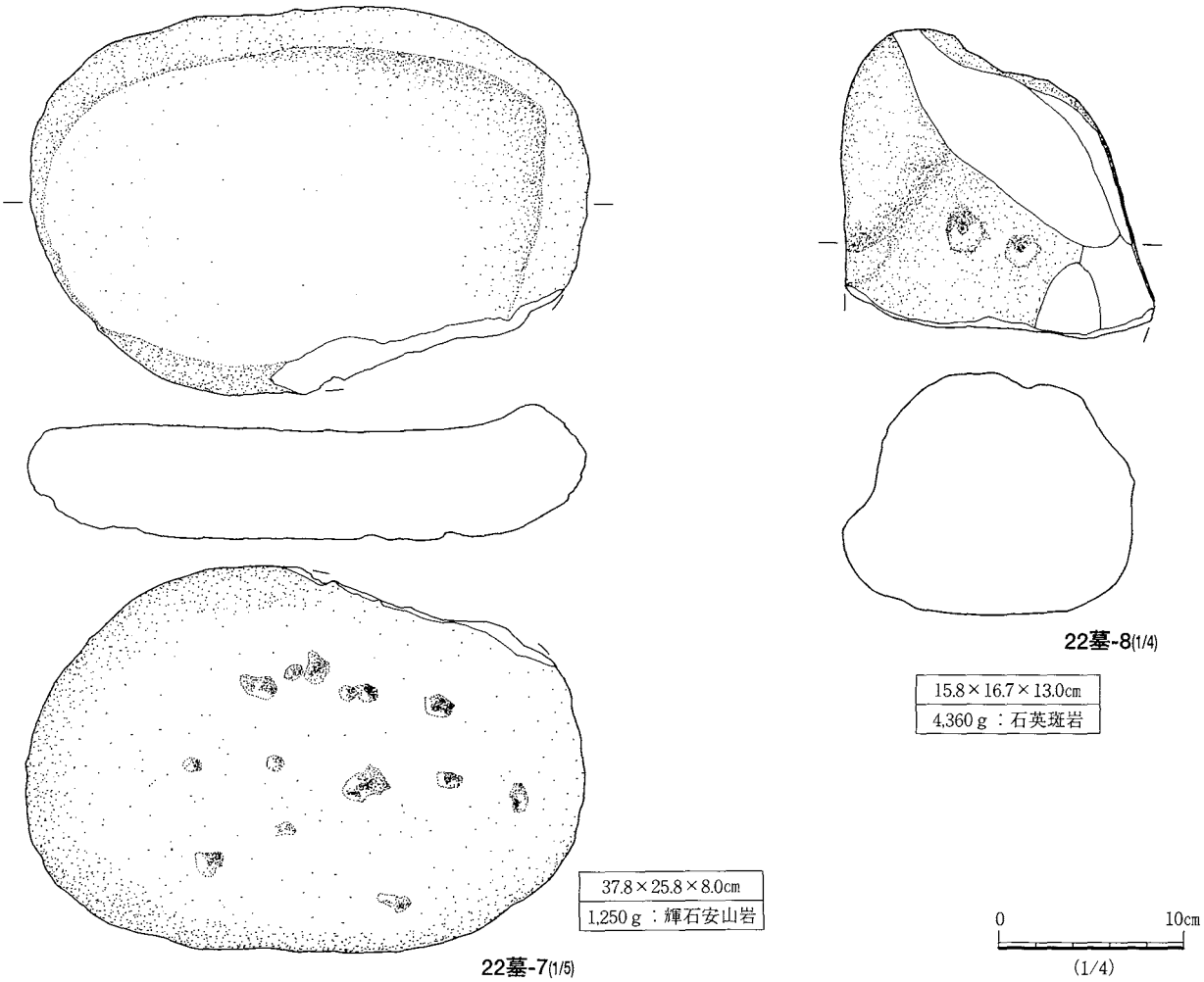
12.5×7.7×5.4cm
663ｇ：輝石安山岩

0　10cm
(1/4)

第109図　１－21号墓・出土遺物



第110図　1－22号墓・出土遺物（1）



第111図　1－22号墓出土遺物（2）

1－22号墓　出土遺物

1は、両耳壺である。肩部に耳状の橋状把手と渦巻文、楕円区画文で4単位の文様を構成し、胴部に2本単位の沈線で、逆U字状の区画を施す。内面は研磨する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は暗褐色から黄褐色である。

2は、浅鉢の胴部片で、外面は横位の篦削り、内面は沈線区画の帯縄文（LR）を巡らし、弧状の沈線で縦に区切る。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調はにぶい橙色である。

3は、台付き甕の台部片か。全面に丁寧な研磨を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は茶色である。

4は、分銅形の打製石斧である。

5は、輝緑岩製の磨製石斧片である。

6は、緑色片岩製の凹石である。

1－23号墓　（第112図）

位置　／Ei－90グリッド。弧状列石の下部に位置する。　切り合い関係　／1－40・46号墓と重複し、新旧関係では本跡が新しい構築である。　分類　／C類。上部に立石が構築される。　規模　／長軸1.70m、短軸1.46m、深さ55cmを計測する。　長軸方向　／N－24°－E。　覆土　／3層に分層される。　配石　／南側上部に立石を伴う。立石は長計65cm、幅25cm、重さ43.4kgで、やや斜めではあるが直立した状態で検出され、基部に直径17cmの玉石を配する。いずれも石材は耀石安山岩であった。　遺物　／なし。

1－24号墓　（第112図）

位置　／Eh－90グリッド。弧状列石の下部に位置する。　切り合い関係　／1－25・38・47・48号墓と重複し、新旧関係では本跡が新しい構築である。　分類　／Ab1類。蓋石を伴う可能性がある。　規模　／掘り方においては長軸1.75m、短軸0.89m、深さ32cm。石棺の内計は推定で長軸1.35m、短軸0.42mを計測する。　長軸方向　／N－24°－W。　覆土　／石棺内は人為堆積を示す。　配石　／長方形に掘り込み、石棺を構築する。石棺は、長計31～50cm、厚さ9～14cm、重さ10.2～28.6kgを計る偏平な礫を主体に立てかけている。また、北側枕石の上部付近には蓋石と見られる礫が残存する。配石の石材はいずれも輝石安山岩であった。　遺物　／覆土中から加曽利B1式と見られる土器片が出土している。

遺物

1は、深鉢の口縁部片で、内面が肥圧する。外面は口縁部下に押圧を施した隆帯を1本巡らせ、下位に沈線区画の雑な帯縄文（LR）を施す。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は不良で、色調は黄土色である。

1－47号墓　（第112図）

位置　／Eh－90グリッド。弧状列石の下部に位置する。　切り合い関係　／1－24・25・38・48号墓と重複し、新旧関係では、24号墓よりも古く、25・38・48号墓よりも新しい構築である。　分類　／Ab類。　規模　／掘り方においては長軸2.00m、短軸0.78m、深さ20cm。石棺の内計は推定で長軸1.65m、短軸0.45mを計測する。　長軸方向　／N－70°－E。　覆土　／石棺内は人為堆積を示す。　配石　／長方形に掘り込み、石棺を構築する。石棺は、長計21～50cm、厚さ9～16cm、重さ2.0～50.6kgを計る偏平な礫を主体に立てかけている。配石の石材はいずれも輝石安山岩であった。　遺物　／覆土中から後期の範疇に含まれる土器片が出土している。

遺物

1は、深鉢の口縁部片である。内外面は共に撫でる。平行沈線で弧状の文様を区画し、区画内には縄文（LR）を充填施文する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄土色である。

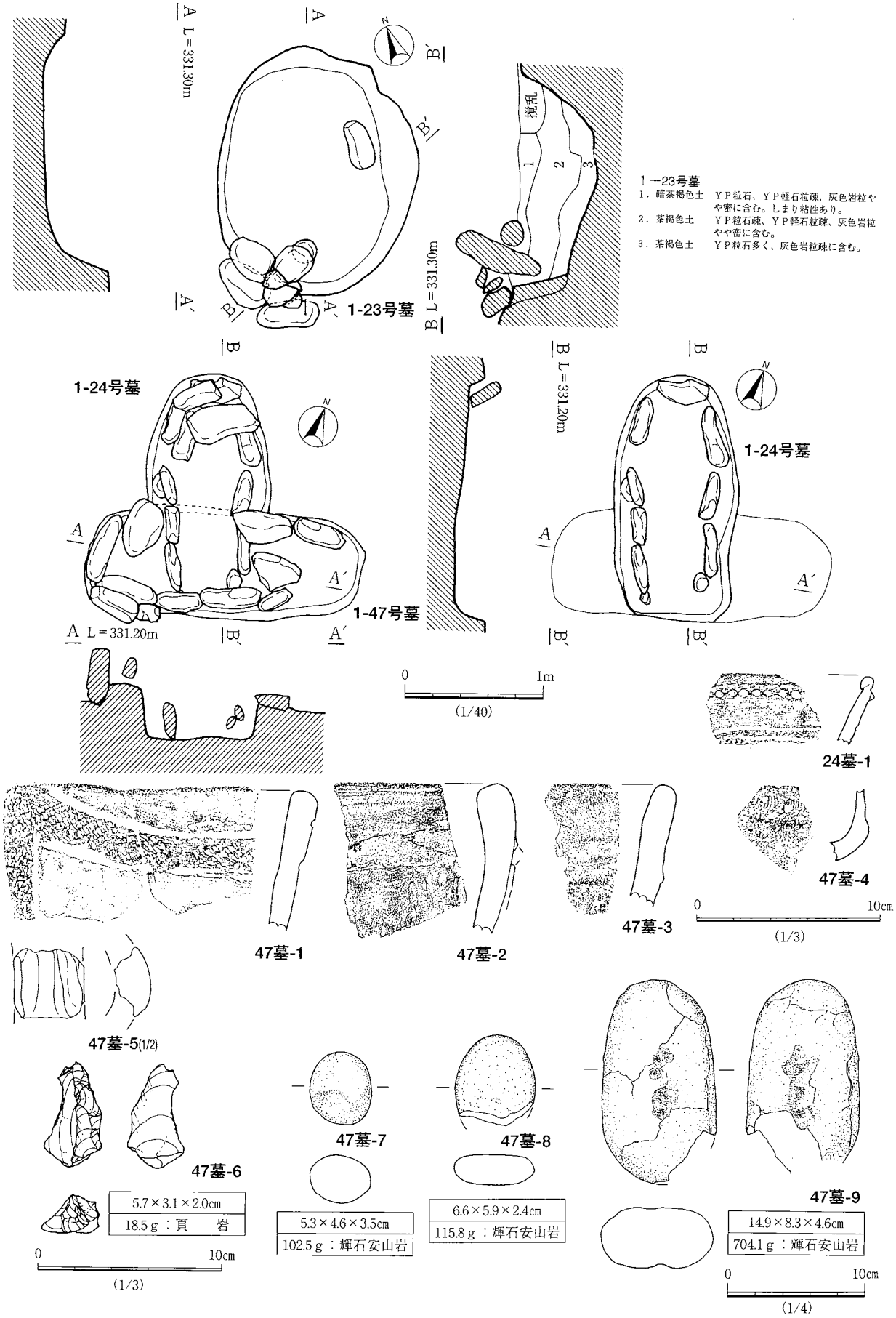
2・3は、口縁部が僅かに内湾する大形の深鉢である。内外面共に撫でが施され、口縁部下に横位に隆帯を貼付し、更に下位に隆帯を垂下している。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は普通で、色調は橙色である。

4は、器形は不明で、外面に細かな刻目状の撫でが施されている。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は普通で、色調は黄土色である。

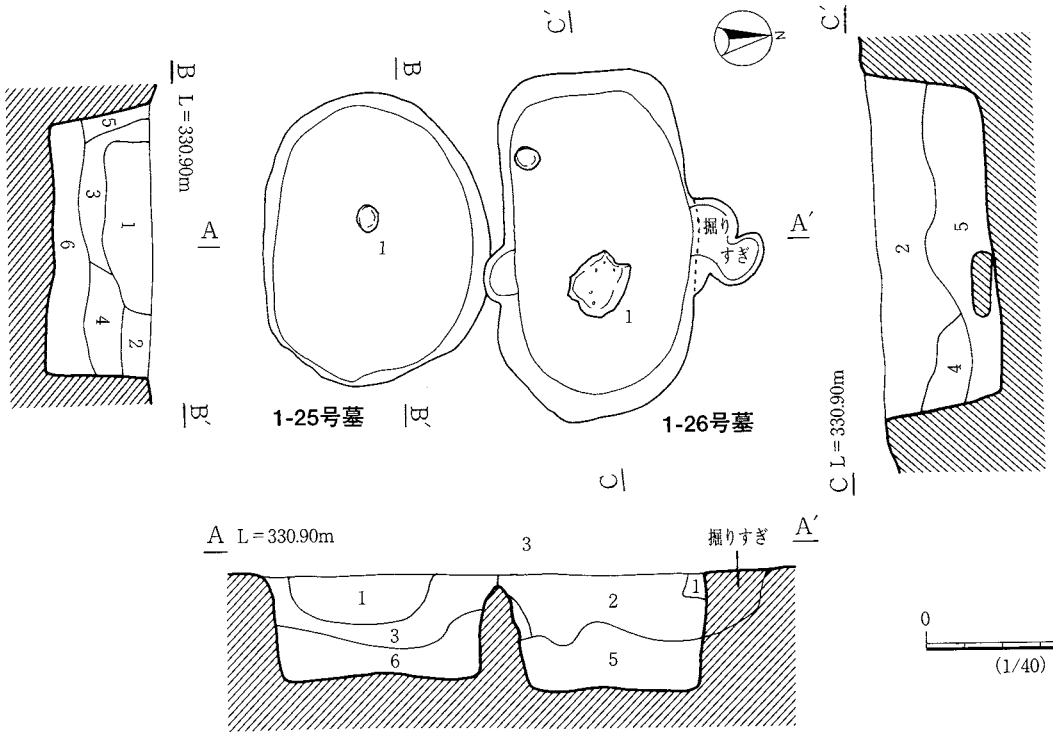
5は、耳栓か。表面には撫でが施されている。胎土は白色細粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

6は、剥片石器である。

7・8・9は、磨石及び凹石である。

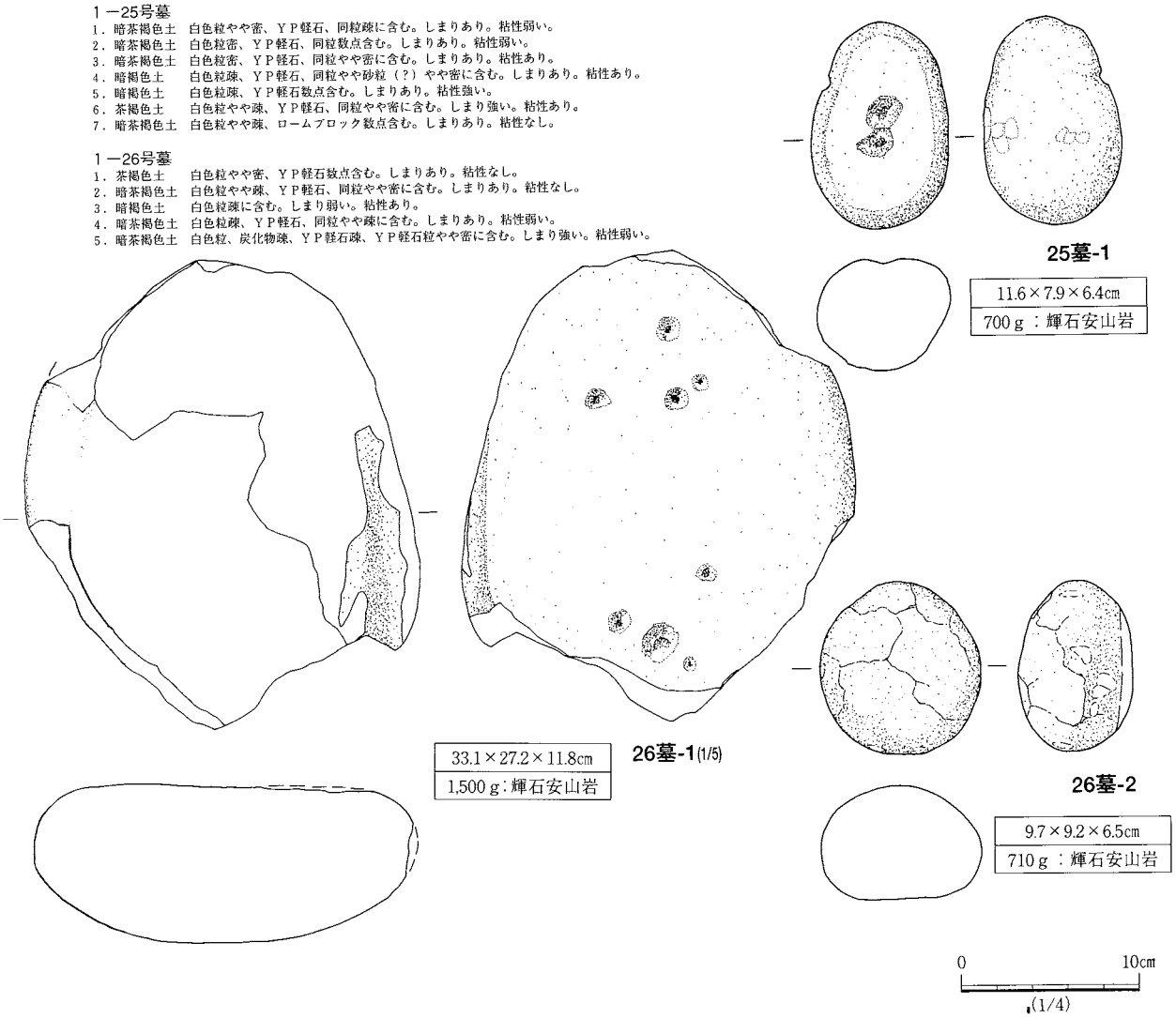


第112図　１－23・24・47号墓、１－24・47号墓出土遺物

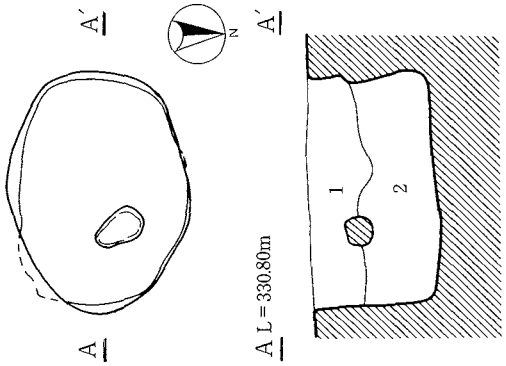


1－25号墓
1．暗茶褐色土　白色粒やや密、ＹＰ軽石、同粒疎に含む。しまりあり。粘性弱い。
2．暗茶褐色土　白色粒密、ＹＰ軽石、同粒数点含む。しまりあり。粘性弱い。
3．暗茶褐色土　白色粒密、ＹＰ軽石、同粒やや密に含む。しまりあり。粘性あり。
4．暗褐色土　白色粒疎、ＹＰ軽石、同粒やや砂粒（？）やや密に含む。しまりあり。粘性あり。
5．暗褐色土　白色粒疎、ＹＰ軽石数点含む。しまりあり。粘性強い。
6．茶褐色土　白色粒やや疎、ＹＰ軽石、同粒やや密に含む。しまり強い。粘性あり。
7．暗茶褐色土　白色粒やや疎、ロームブロック数点含む。しまりあり。粘性なし。

1－26号墓
1．茶褐色土　白色粒やや密、ＹＰ軽石数点含む。しまりあり。粘性なし。
2．暗茶褐色土　白色粒やや疎、ＹＰ軽石、同粒やや密に含む。しまりあり。粘性なし。
3．暗褐色土　白色粒疎に含む。しまり弱い。粘性あり。
4．暗茶褐色土　白色粒疎、ＹＰ軽石、同粒やや疎に含む。しまりあり。粘性弱い。
5．暗茶褐色土　白色粒、炭化物疎、ＹＰ軽石疎、ＹＰ軽石粒やや密に含む。しまり強い。粘性弱い。

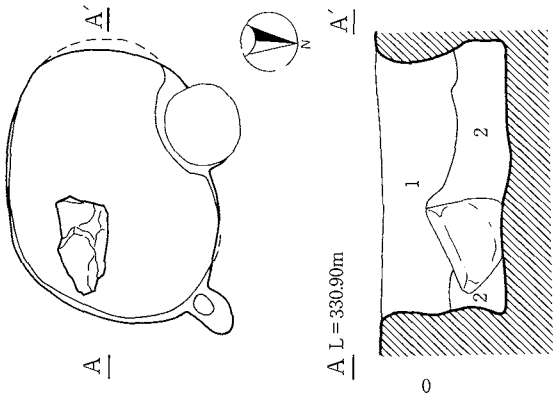


第113図　1－25・26号墓・出土遺物

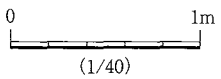


1-27号墓

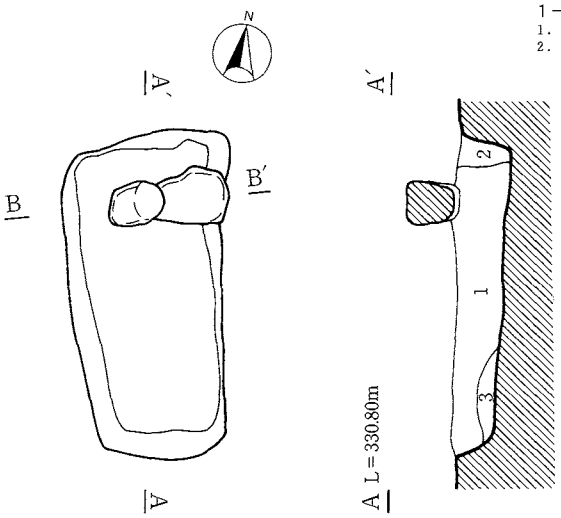
1ー27号墓
1．暗褐色土　ローム粒、灰色岩粒、ＹＰ軽石粒やや疎に含む。しまり粘性あり。
2．茶褐色土　ローム粒、ＹＰ軽石やや密、炭化物疎に含む。しまり粘性あり。



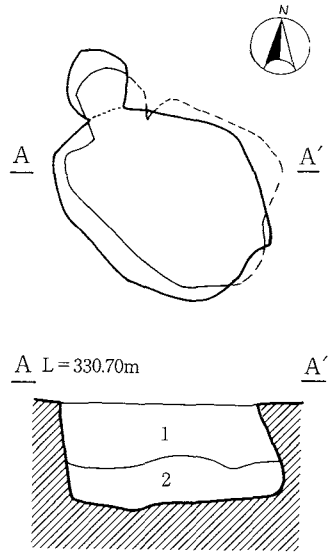
1-28号墓



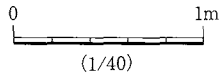
1ー28号墓
1．暗褐色土　　灰色岩粒やや密に、炭化物疎、ＹＰ軽石粒含む。しまり粘性あり。
2．暗茶褐色土　ＹＰ軽石（φ３㎜程）多量に、ＹＰ軽石粒、ローム粒やや密に含む。しまり粘性あり。



1-29号墓

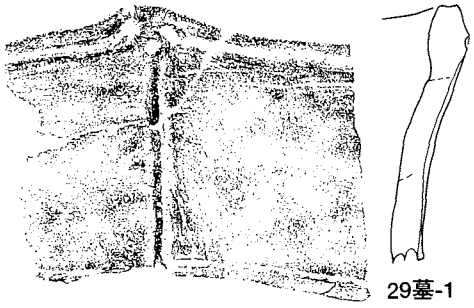


1-30号墓



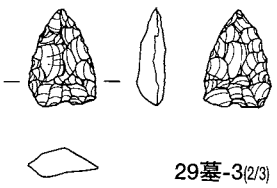
1ー29号墓
1．暗褐色土　ＹＰ軽石、ＹＰ軽石粒やや密、炭化物疎に含む。しまりあり。粘性弱い。
2．暗褐色土　ＹＰ軽石を含む。しまりあり。粘性あり。
3．暗褐色土　ＹＰ軽石粒疎に含む。しまりあり。粘性あり。

1ー30号墓
1．暗褐色土　ＹＰ軽石粒、白色粒密、ＹＰ軽石、同軽石粒やや密、炭化物疎に含む。しまり強い。粘性弱い。
2．黄褐色土　ＹＰ軽石が大半。しまり強い。粘性弱い。



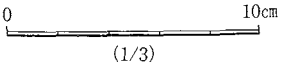
29墓-1

29墓-2



29墓-3(2/3)

2.0×1.8×5.0㎝
1.1ｇ：黒曜石



第114図　１ー27・28・29・30号墓、１ー29号墓出土遺物

１－25号墓　（第113図）

位置　／Eh－90グリッドに位置する。　切り合い関係　／１－24号墓と重複し、新旧関係では本跡が古い構築である。　分類　／Ｃ類。覆土中に小礫を伴う。　規模　／楕円形で、長軸1.54ｍ、短軸1.19ｍ、深さ53㎝を計測する。　長軸方向　／Ｎ－82°－Ｗ。　覆土　／６層に分層される。　遺物　／覆土中より磨石兼凹石が１点検出されている。

遺物

１は、輝石安山岩製の磨石兼凹石である。

１－26号墓　（第113図）

位置　／Eh－90グリッドに位置する。　切り合い関係　／474号土坑と重複する。　分類　／Ｃ類。底部に多孔石を伴う。　規模　／長方形で、長軸1.80ｍ、短軸0.96ｍ、深さ59㎝を計測する。　長軸方向　／Ｎ－90°－Ｗ。　覆土　／５層に分層される。　遺物　／覆土中より磨石が、また、底部から多孔石が出土している。

遺物

１は、輝石安山岩製の多孔石、２は、輝石安山岩製の磨石である。

１－27号墓　（第114図）

位置　／Eh－90グリッドに位置する。　切り合い関係　／474号土坑と重複する。　分類　／Ｃ類。覆土中に礫を伴う。　規模　／楕円形で、長軸1.28ｍ、短軸0.92ｍ、深さ65㎝を計測する。　長軸方向　／Ｎ－84°－Ｗ。　覆土　／人為堆積で、上下２層に分層される。　遺物　／なし。

１－28号墓　（第114図）

位置　／Eh－90グリッドに位置する。　切り合い関係　／なし。　分類　／Ｃ類。底部に礫が立った状態で検出されている。　規模　／楕円形で、長軸1.42ｍ、短軸1.11ｍ、深さ65㎝を計測する。　長軸方向　／Ｎ－87°－Ｅ。　覆土　／人為堆積で、上下２層に分層される。　遺物　／なし。

１－29号墓　（第114図）

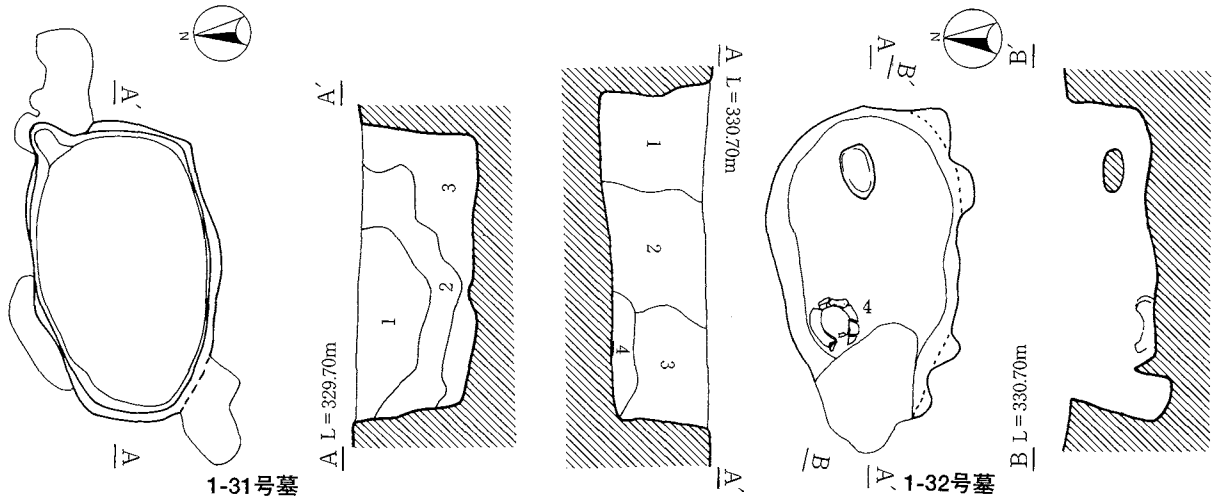
位置　／Eh－91グリッドに位置する。　切り合い関係　／455号土坑と重複し本跡が新しい構築である。　分類　／Ｃ類。上部に立石が構築されたと見られる。　規模　／長方形で、長軸1.70ｍ、短軸0.81ｍ、深さ22㎝を計測する。　長軸方向　／Ｎ－９°－Ｗ。　覆土　／人為堆積で、上下２層に分層される。　配石　／遺構北側上部に長計33㎝、短計20㎝、重さ30.5㎏の立石と見られる礫が位置する。　遺物　／覆土中より堀之内１式に比定されるであろう土器片と石鏃が出土している。

遺物

１は、口縁部が僅かに外反する甕形の深鉢で、口縁部に小突起を有する。突起部には円形刺突が施され、刺突文から口縁に沿って１本の沈線が巡る。口縁小突起部から胴部括れ部に向かって、１本の隆帯が貼り付けられ、括れ部には１本の沈線が巡る。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は褐色である。

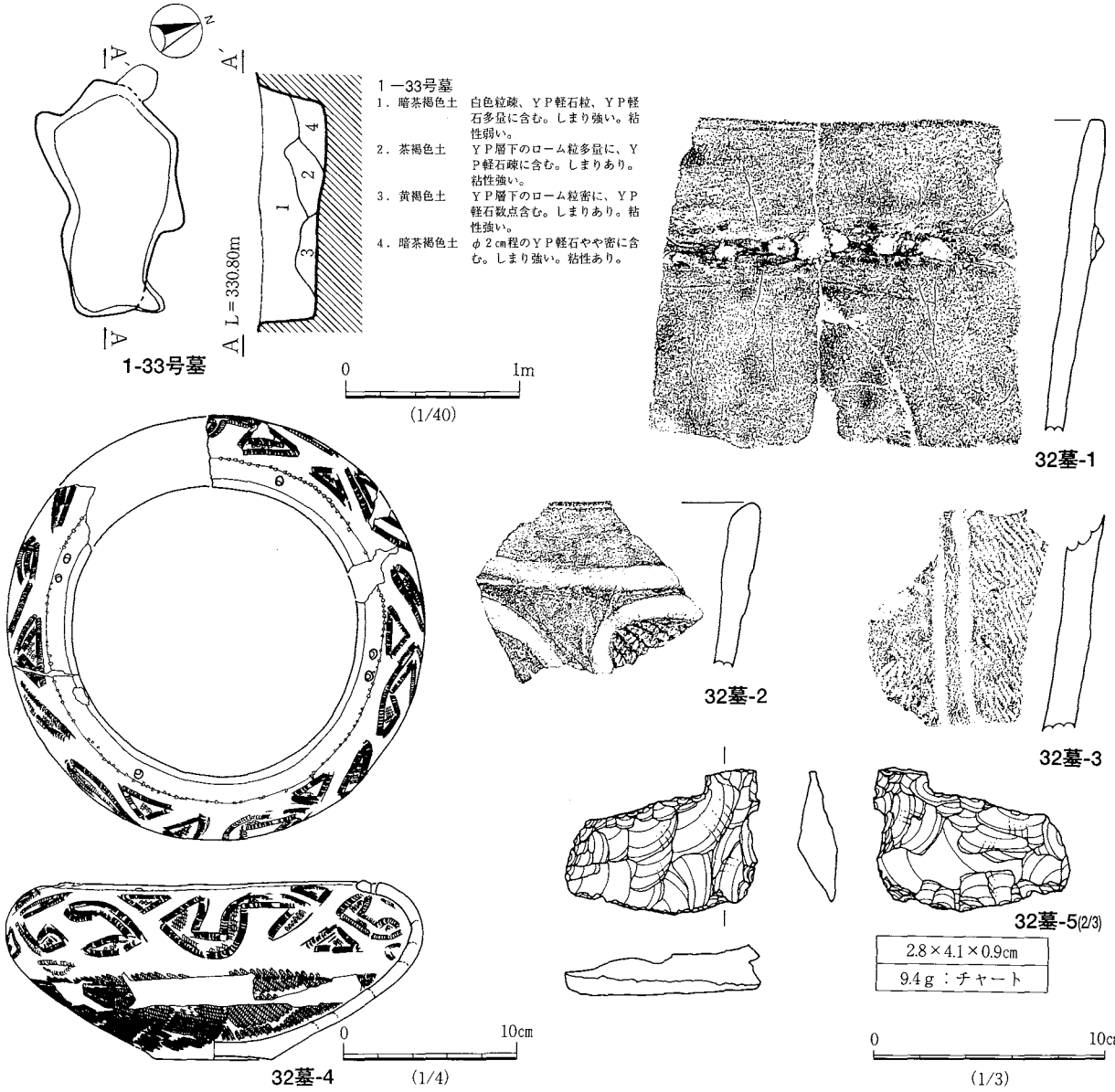
２は、深鉢の口縁部片で、内面に円形刺突と沈線を施す。外面は沈線を斜位に施し、１対の円形刺突で表現された８の字状貼付文が施される。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は不良で、色調は茶褐色である。

３は、黒曜石製の石鏃である。



1－31号墓
1．暗茶褐色土　白色粒やや密、ローム粒含む。ＹＰ軽石含む。炭化物疎に含む。しまりあり。粘性なし。
2．茶褐色土　１より白色粒少なく、ＹＰ軽石多く含む。しまりあり。粘性なし。
3．黄褐色土　ローム、ＹＢ軽石ブロック多く含む。しまり強い。粘性弱い。

1－32号墓
1．暗褐色土　白色粒疎、ＹＰ軽石、炭化物疎に含む。しまりあり。粘性弱い。
2．茶褐色土　ローム粒、ＹＰ軽石粒やや疎に、ロームブロック（φ５～６cm）含む。しまり強い。粘性なし。
3．茶褐色土　白色粒多量に、ローム粒、灰色岩粒含む。φ２～３cm程のロームブロック、ＹＰブロック含む。しまり強い。粘性なし。
4．黄褐色土　ＹＰ軽石粒多量に含む。しまり強い。粘性あり。



1－33号墓
1．暗茶褐色土　白色粒疎、ＹＰ軽石粒、ＹＰ軽石多量に含む。しまり強い。粘性弱い。
2．茶褐色土　ＹＰ層下のローム粒多量に、ＹＰ軽石疎に含む。しまりあり。粘性強い。
3．黄褐色土　ＹＰ層下のローム粒密に、ＹＰ軽石数点含む。しまりあり。粘性強い。
4．暗茶褐色土　φ２cm程のＹＰ軽石やや密に含む。しまり強い。粘性あり。

第115図　１－31・32・33号墓、１－32号墓出土遺物

1－30号墓　（第114図）

位置　／Eh－91グリッド。弧状列石の下部に位置する。　切り合い関係　／なし。　分類　／C類。　規模　／楕円形で、長軸1.15m、短軸0.92m、深さ58cmを計測する。　長軸方向　／N－72°－W。　覆土　／人為堆積で、上下2層に分層される。　遺物　／なし。

1－31号墓　（第115図）

位置　／Eg－90グリッド。弧状列石の外側に位置する。　切り合い関係　／なし。　分類　／C類。　規模　／楕円形で、長軸1.58m、短軸1.01m、深さ58cmを計測する。　長軸方向　／N－80°－W。　覆土　／3層に分層される。　遺物　／なし。

1－32号墓　（第115図）

配石墓として調査を行っている為、本項目においてもそれを踏襲したが、別遺構あるいは重複の可能性を有する。

位置　／Eg－90グリッド。弧状列石の外側に位置する。　切り合い関係　／ピットと重複する。　分類　／C類。　規模　／楕円形で、長軸1.20＋αm、短軸1.00m、深さ48cmを計測する。　長軸方向　／N－88°－W。　覆土　／4層に分層される。　遺物　／覆土中の加曽利E3式及び加曽利B式の土器片に混じって底部よりほぼ完形の諸磯a式と見られる浅鉢が出土している。

遺物

1は、大形の深鉢で、口縁部下に押圧を施した隆帯を1本貼付している。胴部外面は撫でが施され、他は無文である。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黄土色から褐色である。

2は、深鉢の口縁部片で、内外面共に丁寧に撫でが施されている。外面は凹線状の沈線で文様区画され、区画内に縄文（RL）を充填施文する。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

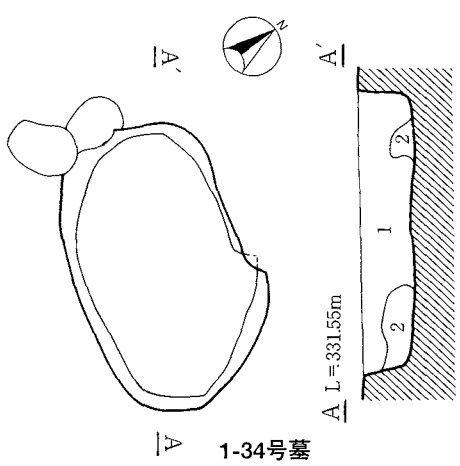
3は、深鉢の胴部片である。2本の平行沈線を懸垂し、器面を縦に区画する。区画内に縄文（RL）を充填施文する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は不良で、色調はにぶい橙色である。

4は、口縁部が強く内湾する浅鉢である。口唇部下に指なぞりを施して、その外側に刺突を加え、なぞり部に2個と1個の円孔を対抗する位置に施す。以下に斜縄文（RL）を施し、胴部上半に爪形文で木の葉状入組み文と三角文を配置して区画し、区画外の縄文を磨り消す。文様帯の下端は爪形文で画する。内面に研磨を施す。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

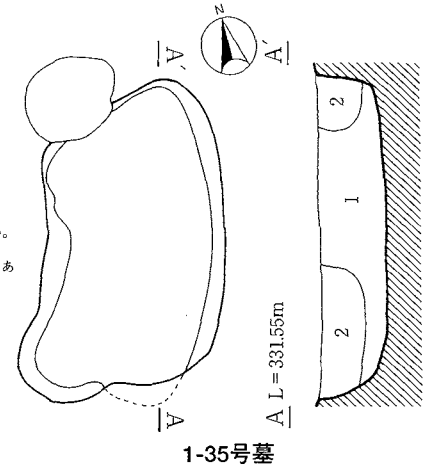
5は、チャート製の石匙である。

1－33号墓　（第116図）

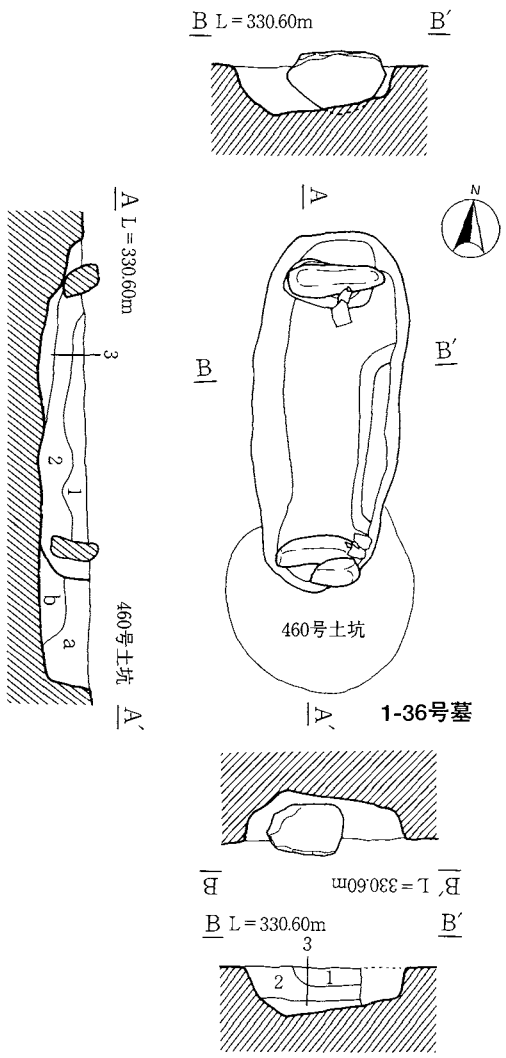
位置　／Eh－90グリッド。弧状列石の内側に位置する。　切り合い関係　／なし。　分類　／C類。　規模　／不整形で、長軸1.35m、短軸0.60m、深さ33cmを計測する。　長軸方向　／N－68°－W。　覆土　／4層に分層される。　遺物　／なし。



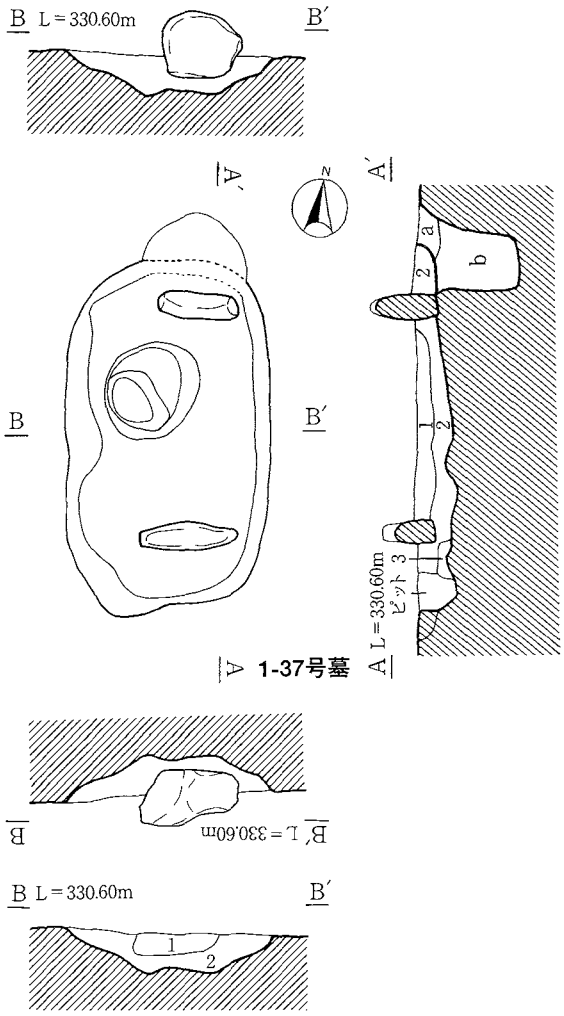
1ー34号墓
1．茶褐色土　ＹＰ軽石粒やや密に含む。しまり強い。粘性あり。
2．茶褐色土　ＹＰ下層、ローム多量に含む。しまりあり。粘性強い。



1ー35号墓
1．暗褐色土　ＹＰ軽石、ＹＰ軽石粒をやや密、灰色岩粒疎に含む。しまり粘性あり。
2．暗茶褐色土　ＹＰ軽石、ＹＰ軽石を密、炭化物疎に含む。しまり粘性あり。



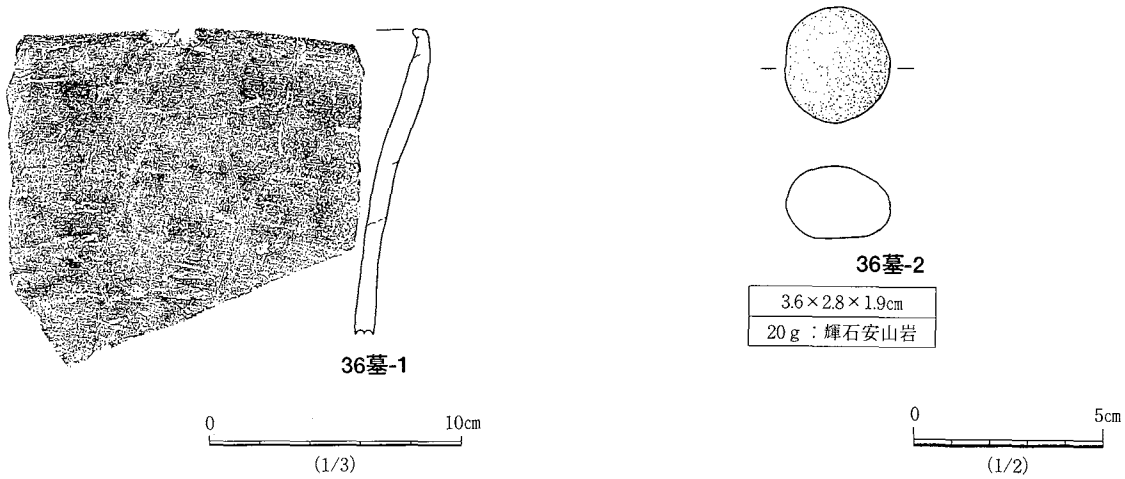
1ー36号墓
1．暗褐色土　ローム粒、灰色岩粒疎に含む。しまり粘性あり。
2．暗褐色土　ローム粒、小ロームブロック含む。しまり粘性あり。
3．暗褐色土　ロームブロック含む。
a．暗茶褐色土　ローム粒疎、φ５㎝程のロームブロック多く含む。しまりやや強い。粘性あり。
b．茶褐色土　ロームほとんど含まず、小ロームブロック含む。しまり強い。粘性あり。



1ー37号墓
1．暗褐色土　ローム粒、灰色岩粒疎に含む。しまり粘性あり。
2．暗褐色土　ローム粒やや密、小ロームブロック含む。しまり粘性あり。
3．黄褐色土　ローム粒、ロームブロック密に含む。しまり。粘性あり。
a．暗褐色土　ローム粒、ロームブロック疎に含む。
b．暗褐色土　ローム粒、ロームブロックやや多く、炭化物疎に含む。

0　1m
(1/40)

第116図　1ー34・35・36・37号墓



第117図　1－36号墓出土遺物

1－34号墓　（第116図）

位置　／Ei－90グリッド。弧状列石の内側に位置する。　切り合い関係　／452号土坑と重複し、新旧関係では本跡が新しい構築である。　分類　／C類。　規模　／楕円形で、長軸1.50m、短軸1.04m、深さ28cmを計測する。　長軸方向　／N－53°－W。　覆土　／人為堆積で、2層に分層される。　遺物　／なし。

1－35号墓　（第116図）

位置　／Eh－90グリッド。弧状列石の下部に位置する。　切り合い関係　／なし。　分類　／C類。　規模　／楕円形で、長軸1.55m、短軸1.01m、深さ35cmを計測する。　長軸方向　／N－19°－E。　覆土　／人為堆積で、2層に分層される。　遺物　／なし。

1－36号墓　（第116・117図）

位置　／Eh－90グリッドに位置する。　切り合い関係　／460号土坑と重複し、新旧関係では本跡が新しい構築である。　分類　／B類。　規模　／長軸1.89m、短軸0.79m、深さ25cm。枕石間は1.25mを計測する。　長軸方向　／N－5°－W。　覆土　／墓壙内は人為堆積を示し、暗褐色土が3層に分層される。　**配石**　／長方形に掘り込み、長計39・.50cm、厚さ9・10cm、重さ19.4・39.0kgの偏平な枕石を付設し、北側のみ固定する為の掘り込みが穿たれる。石材は輝石安山岩であった。　遺物　／後期土器片が出土している。

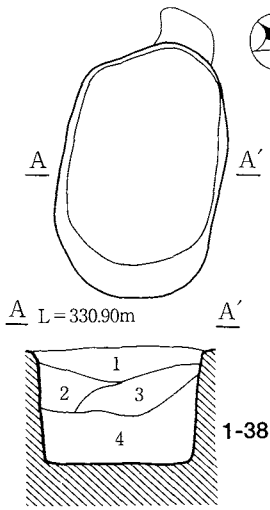
遺物

1は、深鉢の口縁部片で、口唇部が内面に僅かに突出する。内面は斜位の撫で。外面は横位の雑な磨きを施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は茶褐色から黒褐色である。

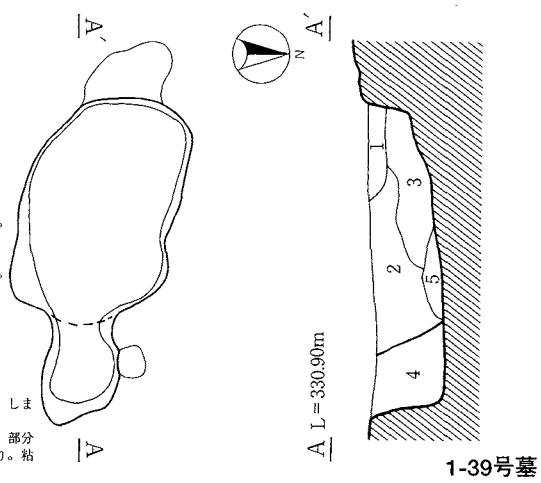
2は、輝石安山岩製の磨石である。

1－37号墓　（第116図）

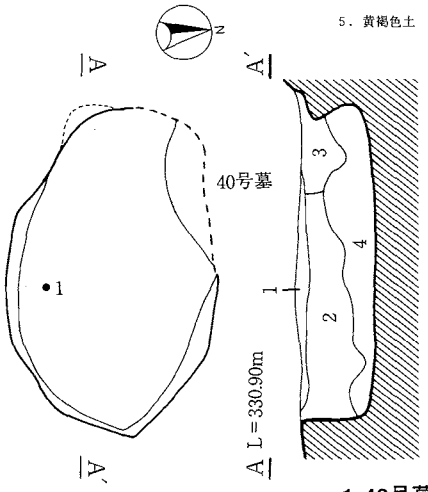
位置　／Eh－90グリッドに位置する。　切り合い関係　／ピットと重複する。　分類　／B類。　規模　／長軸1.80m、短軸1.08m、深さ20cm。枕石間は1.06mを計測する。　長軸方向　／N－7°－W。　覆土　／墓壙内は人為堆積を示し、暗褐色土が3層に分層される。　**配石**　／長方形に掘り込み、長計41・53cm、厚さ12・13cm、重さ25.6・31.6kgの偏平な枕石を付設する。石材は輝石安山岩であった。　遺物　／なし。



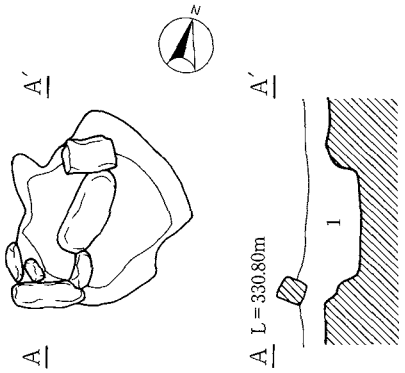
1ー38号墓
1．暗褐色土　白色、灰色粒、炭化物疎、ローム粒やや密に含む。しまりあり。粘性あり。
2．暗茶褐色土　ローム粒やや密、炭化物疎に含む。しまりあり。粘性弱い。
3．茶褐色土　ローム粒、小ロームブロックやや密に含む。しまり強い。粘性強い。
4．茶褐色土　ローム粒、小ロームブロック、ＹＰ軽石密に含む。しまり強い。粘性強い。



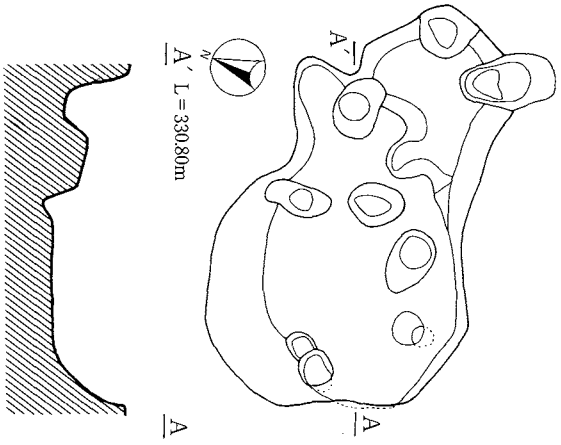
1ー39号墓
1．暗褐色土　ローム粒、ＹＰ軽石疎に含む。しまりあり。粘性弱い。
2．茶褐色土　ローム粒、ＹＰ軽石、炭化物、部分的にやや密に含む。しまりあり。粘性弱い。
3．茶褐色土　ローム粒、ロームブロック、ＹＰ軽石粒疎に含む。しまりあり。粘性あり。
4．暗褐色土　ローム粒、ロームブロック、ＹＰ軽石やや密に含む。しまり強い。粘性あり。
5．黄褐色土　ＹＰ軽石が大半。しまり強い。粘性あり。

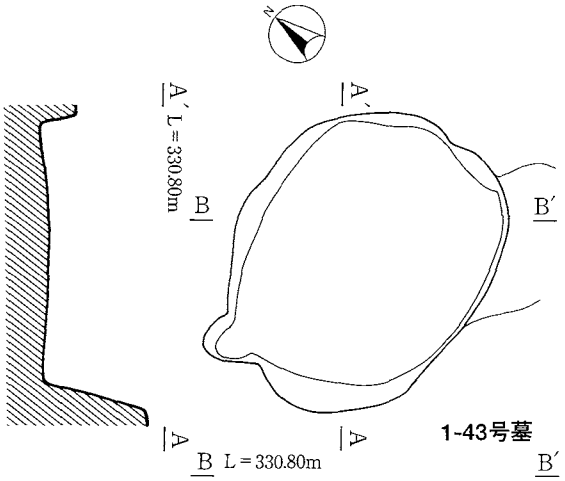


1ー40号墓
1．暗褐色土　ＹＰ軽石粒疎に含む。しまりあり。粘性あり。
2．暗茶褐色土　ＹＰ軽石粒、ＹＰ軽石、灰色岩粒やや密に含む。しまりあり。粘性あり。
3．暗茶褐色土　ＹＰ軽石粒、ＹＰ軽石、灰色岩粒疎に含む。しまりあり。粘性あり。
4．茶褐色土　ＹＰ軽石粒、ＹＰ軽石、ローム粒やや密に含む。しまりあり。粘性あり。

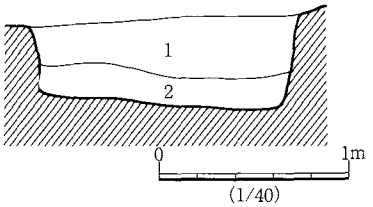


1ー41号墓
1．暗褐色土　ローム粒、灰色岩粒、炭化物疎に含む。小ロームブロック含む。





1ー43号墓
1．暗褐色土　白色粒やや密、ＹＰ軽石、炭化物疎に含む。
2．暗茶褐色土　白色粒、炭化物疎、ＹＰ軽石、ＹＰ軽石粒やや密に含む。



第118図　1ー38・39・40・41・42・43号墓

1－38号墓　（第118図）

位置　／Eh－90グリッド。弧状列石の下部に位置する。　切り合い関係　／1－47号墓・462号土坑と重複し、新旧関係では1－47号墓⇨本跡⇨462号土坑（新⇨旧）である。　分類　／C類。　規模　／楕円形で、長軸1.25m、短軸0.85m、深さ61cmを計測する。　長軸方向　／N－90°－W。　覆土　／人為堆積で、4層に分層される。　遺物　／なし。

1－39号墓　（第118図）

位置　／Eh－90グリッド。弧状列石の下部に位置する。　切り合い関係　／ピットと重複する。　分類　／C類。　規模　／楕円形で、長軸1.20m、短軸0.79m、深さ35cmを計測する。　長軸方向　／N－68°－W。　覆土　／人為堆積で、4層に分層される。　遺物　／なし。

1－40号墓　（第118・119図）

位置　／Ei－90グリッド。弧状列石の下部に位置する。　切り合い関係　／1－23号墓と重複し、新旧関係では本跡が古い構築である。　分類　／C類。　規模　／楕円形で、長軸1.95m、短軸1.04m、深さ42cmを計測する。　長軸方向　／N－60°－W。　覆土　／人為堆積で、4層に分層される。　遺物　／覆土中より堀之内2式及び加曽利B1式の土器片が、また、黒曜石の石核、スクレィパーが出土している。

遺物

1は、深鉢の口縁部片で、内外面に比較的丁寧な撫でを施し、口縁部内面に1本の沈線を巡らす。外面は縄文（RL）を縦位に施文後、沈線を横位に5本巡らし、部分的に縦位沈線で区切る。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調はにぶい橙色から黒褐色である。

2は、口縁部が内湾する深鉢で、内外面共に丁寧な研磨を施す。外面は口縁部の上端に沿って横位に弧状の沈線を施し、口縁部との間に縄文（RL）を施文する。弧状沈線の連結部上位には小規模の弧状沈線及び円形刺突を施す。胎土は砂粒・小礫を含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

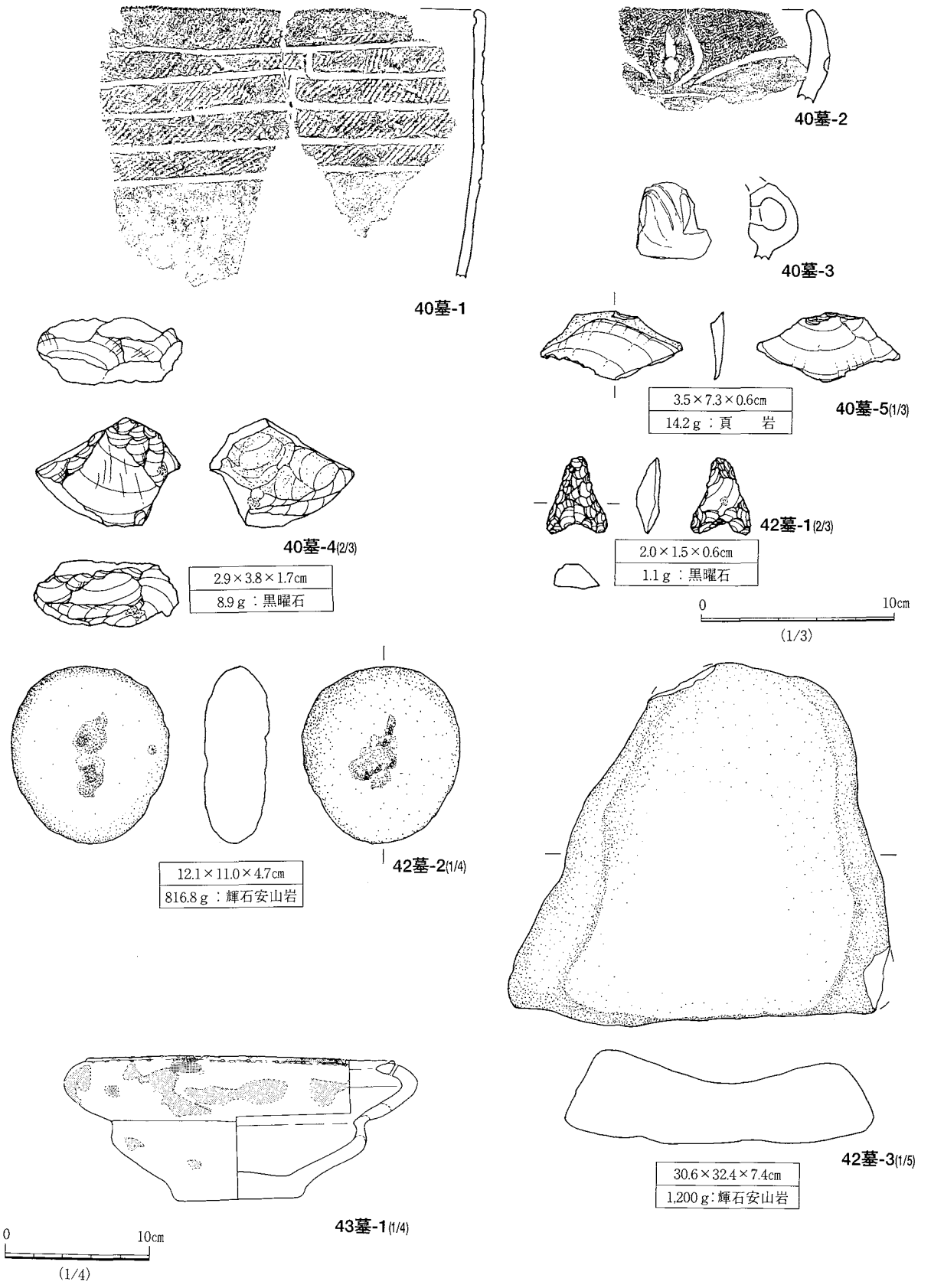
3は、深鉢に付く環状把手で、口唇部内面が突出する。胎土は細砂粒多量に含み、焼成は普通で、色調は黄褐色である。

4は、黒曜石の石核である。

5は、頁岩製のスクレィパーである。

1－41号墓　（第118図）

位置　／Ei－91グリッドに位置する。　切り合い関係　／476号土坑と重複し、新旧関係では本跡が新しい構築である。　分類　／Ab類と見られる。　規模　／石棺の内計は推定で、長軸0.70＋αm、短軸0.28m、深さ15cmを計測する。　長軸方向　／N－10°－W。　覆土　／判然としない。　配石　／石棺の下には不整形の掘り込みが確認されるが、伴うものか別遺構と重複するか不明である。石棺は、本遺跡中最も小規模で、南側枕石と一部側壁のみの残存で遺存状態は悪い。石材は輝石安山岩を用いており、使用している礫は長計18～46cm、厚さ5～11cm、重さ1.6～27.8kgの小形である。　遺物　／なし。



第119図　1－40・42・43号墓出土遺物

1－42号墓　（第118・119図）

位置　／Eh－91グリッド。弧状列石の下部に位置する。　切り合い関係　／なし。　分類　／C類。　規模　／不整形で、長軸1.72ｍ、短軸1.36ｍ、深さ30㎝を計測する。　長軸方向　／N－66°－E。　覆土　／人為堆積である。　遺物　／覆土中より石鏃、磨石兼凹石、石皿が出土している。

遺物

1は、無茎の石鏃で黒曜石製である。

2は、磨石兼凹石で、表裏両面に凹みが確認される。

3は、輝石安山岩製の石皿である。

1－43号墓　（第118・119図）

配石墓として調査を行っている為、本項目においてもそれを踏襲したが、別遺構の可能性がある。

位置　／Eh－90グリッド。弧状列石の下部に位置する。　切り合い関係　／477号土坑と重複し、新旧関係では本跡が新しい構築である。　分類　／C類。　規模　／楕円形で、長軸1.65ｍ、短軸1.30ｍ、深さ45㎝を計測する。　長軸方向　／N－68°－E。　覆土　／人為堆積で、上下2層に分層される。　遺物　／遺構に伴わないと判断されるが、覆土上部より諸磯ｂ式の浅鉢が出土しており図示した。

遺物

1は、頸部が強く括れ、口縁部が内折する浅鉢である。口唇部下に斜位の刻目が付く浮線文を1条施し、その直下に円孔列と撚糸圧痕を施すが、これ以外は無文である。外面には赤色塗彩が認められる。内面は軽い研磨が施される。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色から黒褐色である。

1－44号墓　（第120・121図）

位置　／Eh－90グリッド。弧状列石の下部に位置する。　切り合い関係　／なし。　分類　／B類あるいはA・C類か。　規模　／長楕円形で、長軸2.67ｍ、短軸1.54ｍ、深さ31㎝を計測する。　長軸方向　／N－27°－W。　覆土　／人為堆積を示す。　配石　／長楕円形に掘り込み、北端に輝石安山岩の礫を2個山形に組み合わせる。　遺物　／遺物の出土量は多く、土器では覆土中から加曽利E3式、堀之内2式、後期土器片が出土し、石器では石匙、石錘、磨石兼凹石、多孔石が出土している。

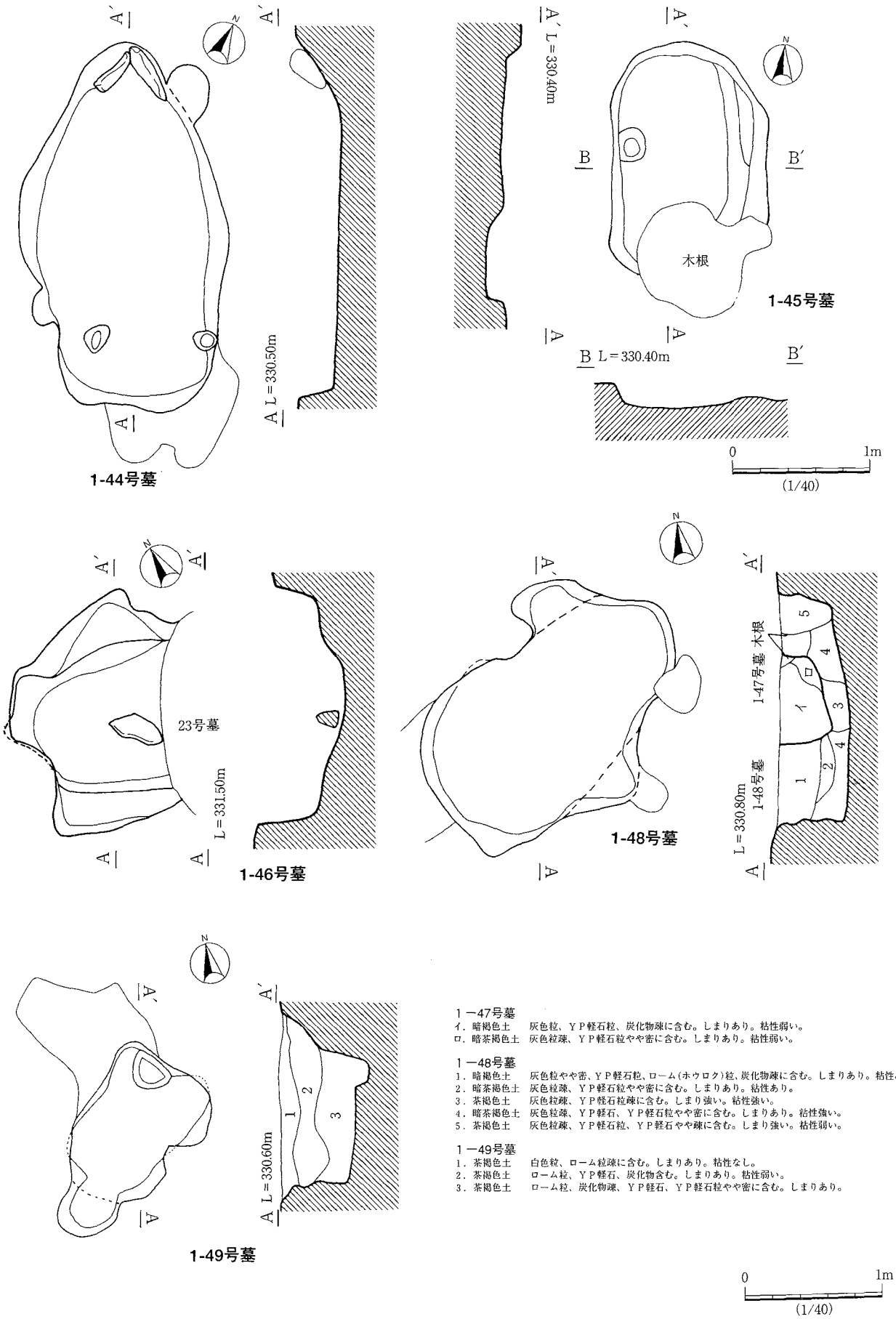
遺物

1は、深鉢の胴部片で、器面を撫でた後、2本の沈線で曲線的な区画文を描き、区画内に縄文（LR）を充填施文する。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は不良で、色調はにぶい橙色から黒褐色である。

2は、波状口縁の深鉢で、口縁部に沿って隆帯を巡らし、外面に縄文（LR）を斜位に施文する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

3は、浅鉢の口縁部片で、口縁部の内外面に、沈線渦巻を施した山形の突起を施し、突起中央には円孔を穿つ。突起両側に円形刺突を施し、刺突を連結するように口唇部に1本の沈線を巡らす。内外面共に丁寧に撫でる。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

4は、深鉢の底部片で、内外面共に雑な撫でを施す。胎土は白色粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は灰褐色である。



1－47号墓
イ．暗褐色土　灰色粒、ＹＰ軽石粒、炭化物疎に含む。しまりあり。粘性弱い。
ロ．暗茶褐色土　灰色粒疎、ＹＰ軽石粒やや密に含む。しまりあり。粘性弱い。

1－48号墓
1．暗褐色土　灰色粒やや密、ＹＰ軽石粒、ローム（ホウロク）粒、炭化物疎に含む。しまりあり。粘性あり。
2．暗茶褐色土　灰色粒疎、ＹＰ軽石粒やや密に含む。しまりあり。粘性あり。
3．茶褐色土　灰色粒疎、ＹＰ軽石粒疎に含む。しまり強い。粘性強い。
4．暗茶褐色土　灰色粒疎、ＹＰ軽石、ＹＰ軽石粒やや密に含む。しまりあり。粘性強い。
5．茶褐色土　灰色粒疎、ＹＰ軽石粒、ＹＰ軽石やや疎に含む。しまり強い。粘性弱い。

1－49号墓
1．茶褐色土　白色粒、ローム粒疎に含む。しまりあり。粘性なし。
2．茶褐色土　ローム粒、ＹＰ軽石、炭化物含む。しまりあり。粘性弱い。
3．茶褐色土　ローム粒、炭化物疎、ＹＰ軽石、ＹＰ軽石粒やや密に含む。しまりあり。

第120図　1－44・45・46・48・49号墓

5は、深鉢の底部片で、内外面共に撫でを施す。胎土は細砂を多量に含み、焼成は普通で、色調は茶褐色である。

6は、石匙で砂岩製である。

7は、輝緑岩製の石錘で、長楕円形を呈する。

8は、磨石兼凹石の破片で、表裏両面及び側面に凹みが観察される。

9は、磨石で、僅かに凹みが確認される。

10・11は、多孔石で、それぞれ輝石安山岩と砂岩を用いている。

1－45号墓　（第120図）

位置　／Eh－91グリッド。1－20号墓と1－36号墓の間に位置する。　切り合い関係　／なし。遺構の南側を木根により撹乱される。　分類　／C類。　規模　／楕円形で、木根により壊されている為推定の長軸1.75m、短軸1.00m、深さ14cmを計測する。　長軸方向　／N－3°－W。　覆土　／人為堆積を示す。

遺物　／なし。

1－46号墓　（第120図）

位置　／Ei－90グリッド。弧状列石の下部に位置する。　切り合い関係　／1－23号墓と重複し、新旧関係では本跡が古い構築である。　分類　／C類と推測される。底部近くに礫が確認されている。　規模　／1－23号墓に遺構東側の大半を壊されている為、詳細については不明であるが、残存値で、東西1.00＋αm、南北1.44m、深さ46cmを計測する。　長軸方向　／不明であるが東西方向に取る可能性が高い。　覆土　／人為堆積を示す。　遺物　／なし。

1－48号墓　（第120・121図）

位置　／Eh－90グリッド。弧状列石の下部に位置する。　切り合い関係　／1－24・47号墓と重複し、新旧関係では本跡が最も古い構築である。　分類　／C類。　規模　／楕円形で、所々木根により撹乱される。長軸2.15m、短軸1.32m、深さ52cmを計測する。　長軸方向　／N－50°－E。　覆土　／人為堆積を示す。　遺物　／覆土中ではあるが、加曽利E4式から称名寺Ⅰ式に比定されると見られる土器片が1点出土している。

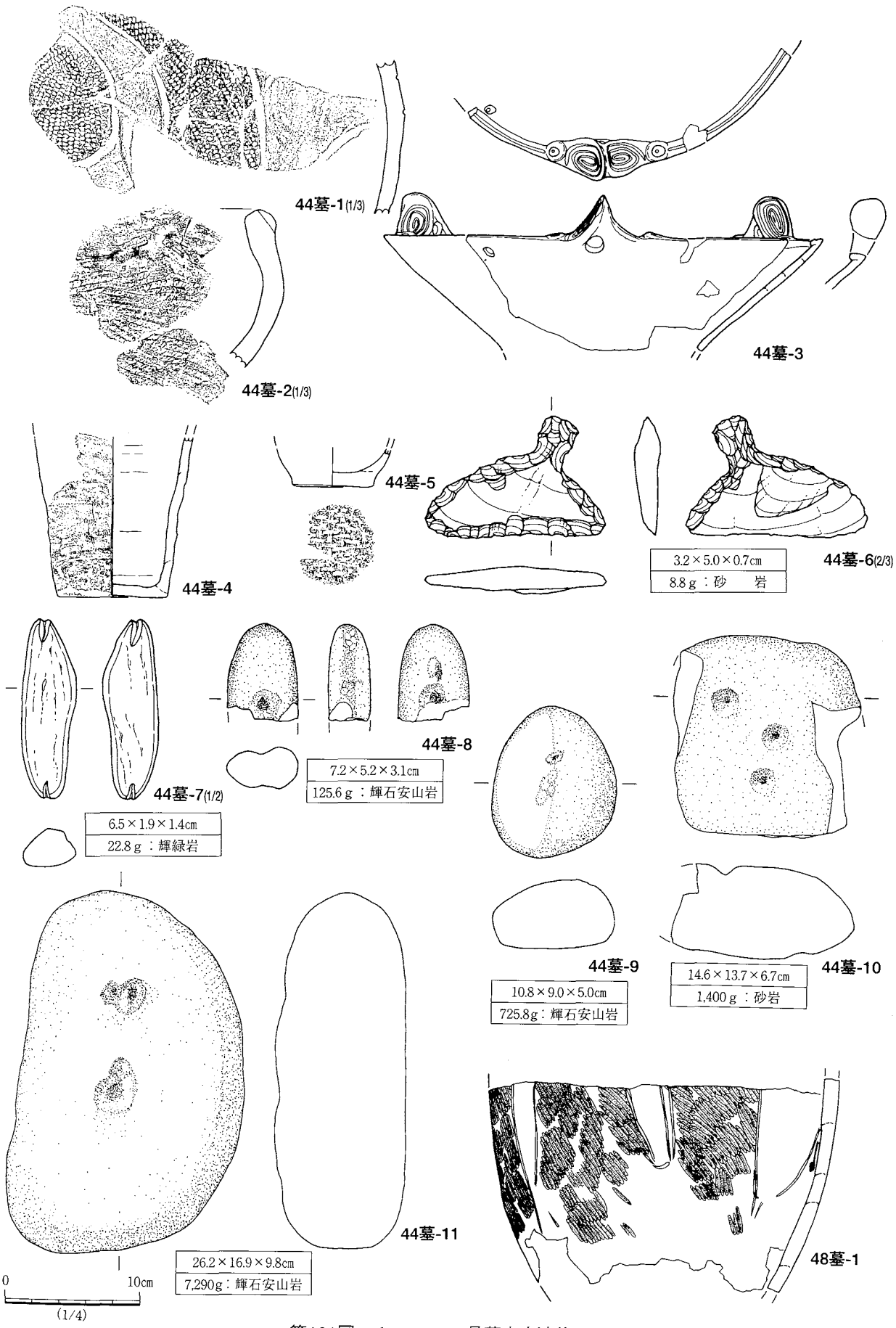
遺物

1は、深鉢の胴部下半片である。文様は、胴部に沈線でV字状の区画を施し、区画外を縄文（無節L）で充填する。区画内の無文部には研磨及び撫でを施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色から黒褐色である。

1－49号墓　（第120図）

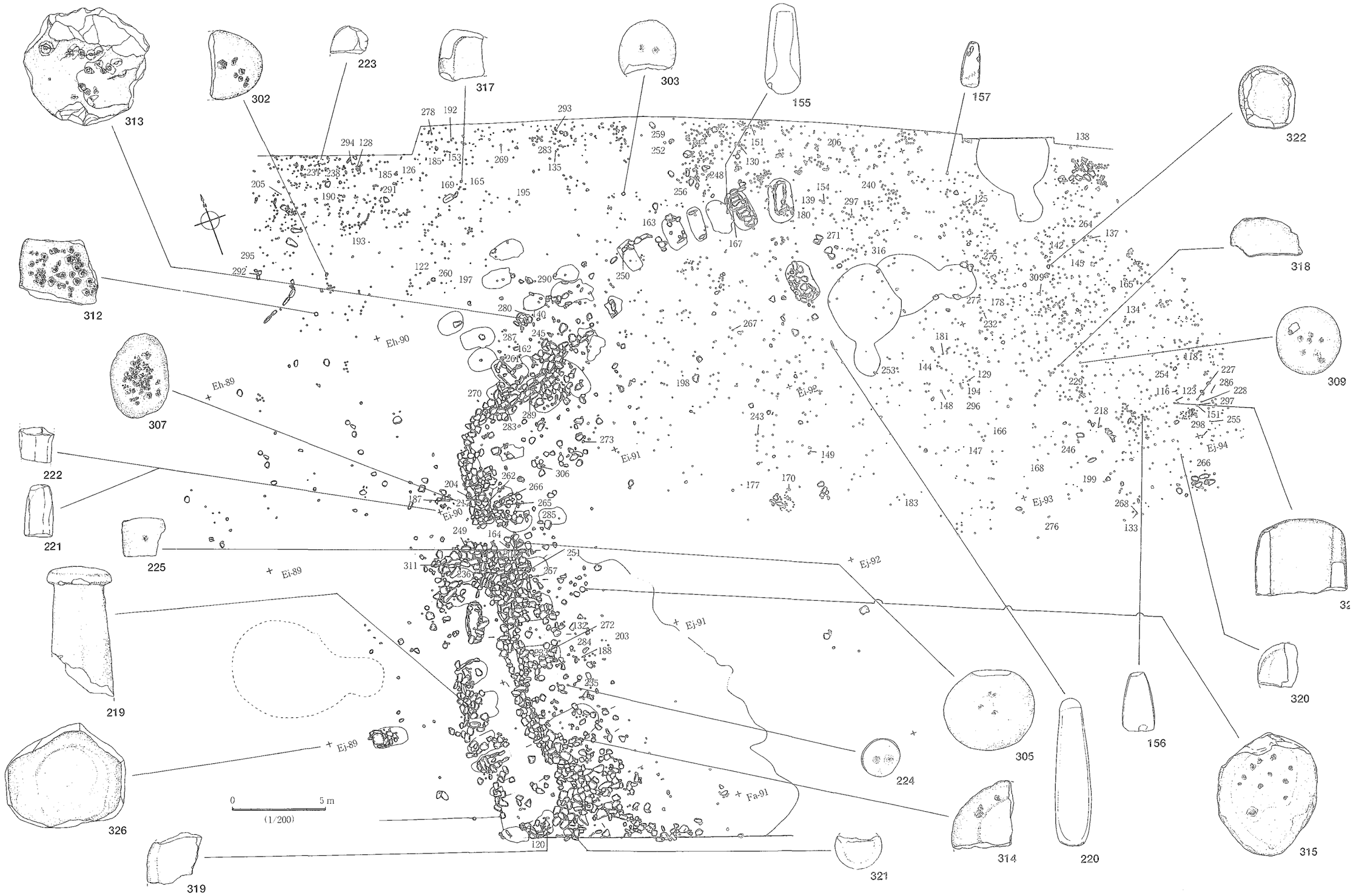
位置　／Eh－91グリッド。弧状列石のやや内側に位置する。　切り合い関係　／ピットと重複する。

分類　／C類。　規模　／長方形で、長軸1.03m、短軸0.78m、深さ54cmを計測する。　長軸方向　／N－48°－E。　覆土　／人為堆積を示し、3層に分層される。　遺物　／なし。



第121図　1－44・48号墓出土遺物

第122図　1号配石墓群　遺物分布図（土器・土製品）



第123図　1号配石墓群　遺物分布図（石製品）

1号配石墓群出土遺物

本項においては、1号配墓群周辺の包含層及び列石から出土した遺物を取り扱った。1号配石墓群は、縄文時代前期の遺構と複合している為、該期の遺物が多数出土しているが、ここでは割愛し、特に土器については後続する中期からの資料をできうる限り時期別に提示した。

掲載した土器のうち、1～5は加曽利E3式、6～10は加曽利E4式、11は称名寺式、12～16は称名寺Ⅰ式、17～19は堀之内1式、20～35・109・110は堀之内2式、111は堀之内式、36・37は十三稲葉式、38～43・45～48・50～55・58・59は加曽利B1式、44は加曽利B期の異系統、49は加曽利B2式、72は高井東式？、56・57・60～71・73～104、112～115は後期の範疇に含まれると見られ、105～108は不明である。

1は、口縁部が内湾する深鉢である。口縁部に隆帯と太沈線で渦巻文と弧状区画文を構成し、区画内を縄文（LR）で充填する。内面に研磨を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

2は、波状口縁部の深鉢である。口縁部に沿って隆帯を巡らし、胴部に断面三角形状の微隆帯状の隆帯で渦巻状の区画文を構成する。区画内には縄文（L）を充填施文後、隆帯の両側に撫でを施す。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい橙色から黒褐色である。

3は、両耳壺で、胴部上半に隆帯と沈線で楕円区画文を施し、下半は懸垂文がなく全面に条線を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

4は、深鉢の胴部片で、胴部に帯縄文（LR）と蕨手状沈線の懸垂文を施し、内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

5は、胴部中位が括れ、口縁部が強く内湾しながら開く深鉢である。胴部上半に隆帯で大柄の渦巻文を構成し、空白部には縄文（LR）を充填する。隆帯の両側にはなぞりを加え、内面は研磨を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

6は、深鉢の胴部片で、胴部に2本の微隆帯で縦長の楕円状区画文を施し、空白部を縄文（無節L）で充填する。内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

7は、胴部中位が括れる深鉢で、口縁部に楕円区画文を施し、区画内に縄文（無節L）を充填する。内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黒褐色である。

8は、口縁部が弱く内湾する深鉢で、口縁部を巡る隆帯から懸垂文を垂下し、隆帯間を縄文（無節L）で充填する。内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黒褐色である。

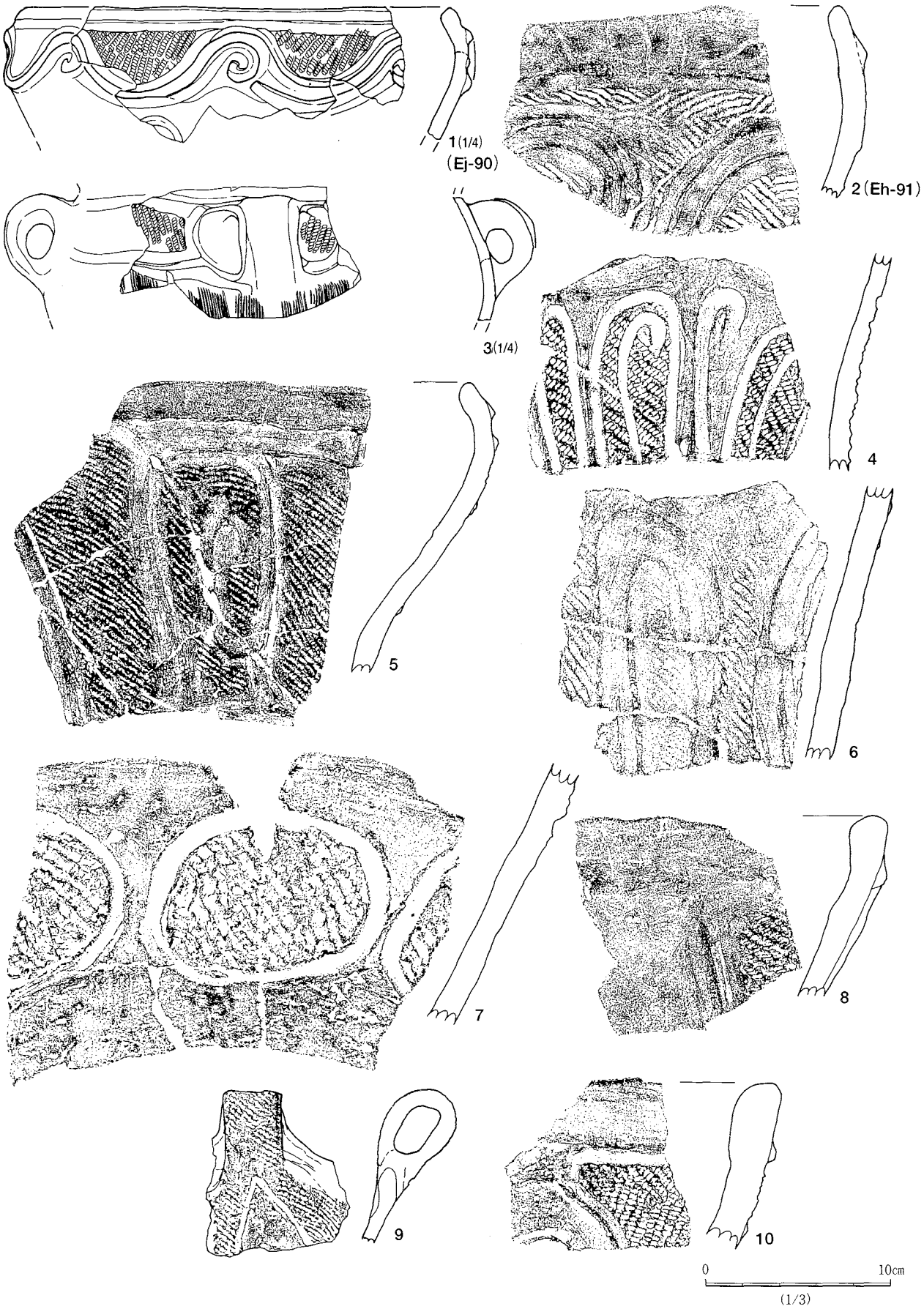
9は、口縁部が内湾する深鉢で、口縁に環状の把手を1個付す。胴部上半に沈線で波状区画を施し、区画内に縄文（LR）を施す。内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黒褐色である。

10は、口縁部が内湾する深鉢で、胴部上半に2本の隆帯で大柄な渦巻文を施し、空白部を縄文（LR）で充填する。内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

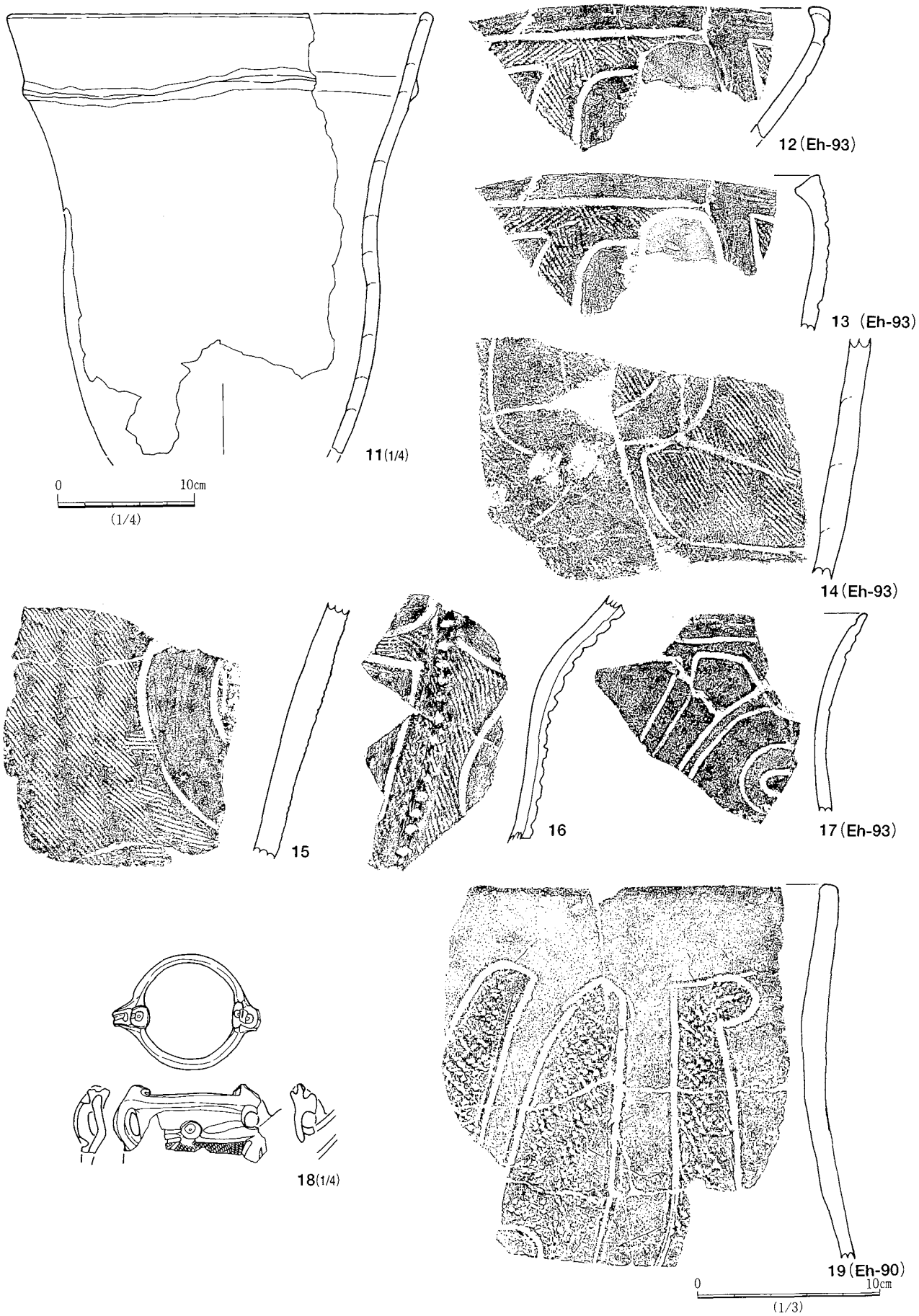
11は、胴部上位が括れる深鉢である。口唇下に無文部を設けて、隆帯を施す。内外面は共に撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

12は、深鉢の口縁部片で、口唇部は内面が突出する。文様は沈線で曲線的な区画文を描き、区画内に縄文（RL）を充填する。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は茶褐色である。

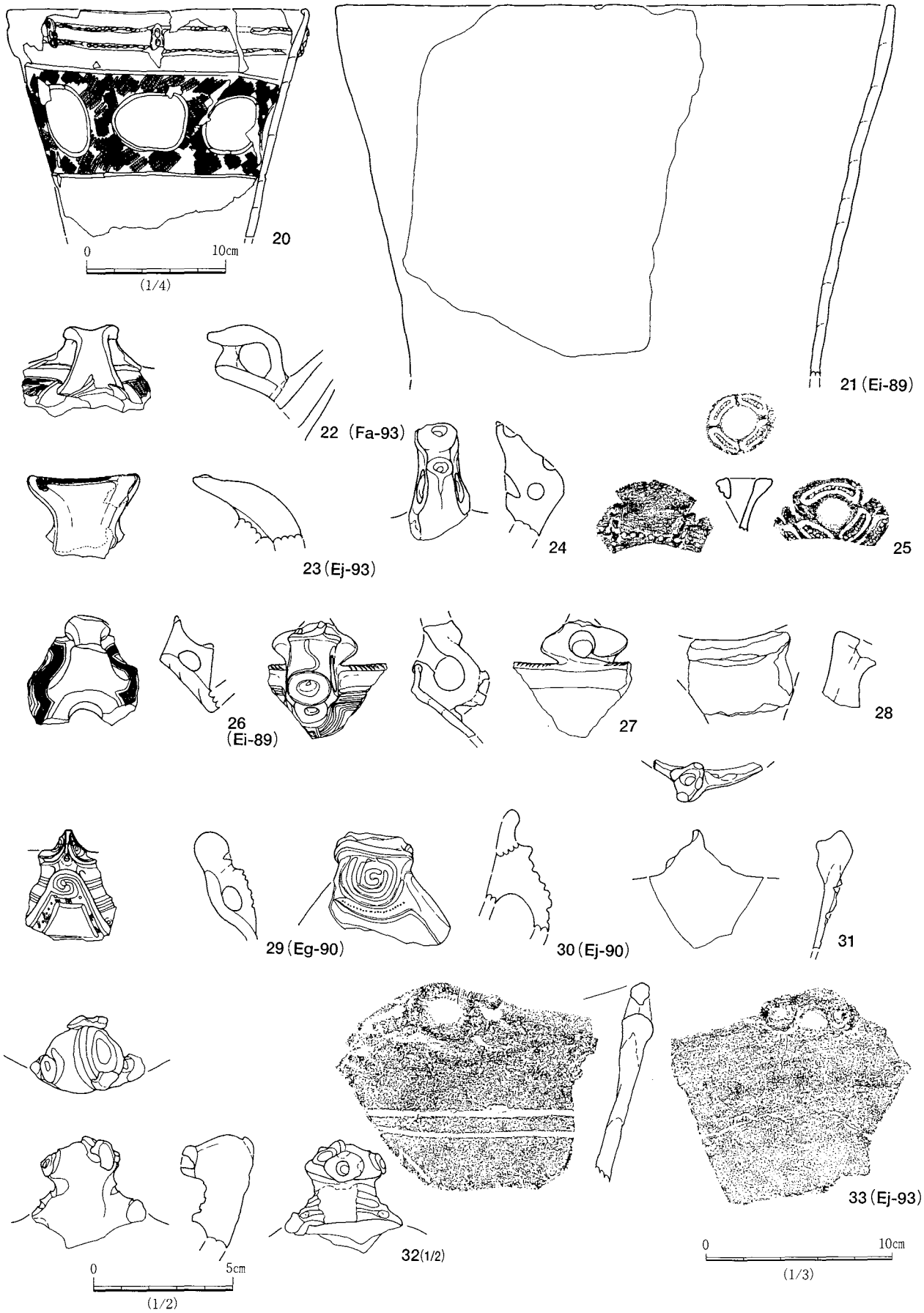
13は、口縁部が内湾する波状口縁の深鉢で、口唇部内面は突出する。文様は帯縄文（LR）と無文帯でJ字状モチーフを中心として構成する。内面に研磨を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。



第124図　1号配石墓群出土遺物（1）



第125図　1号配石墓群出土遺物（2）



第126図　1号配石墓群出土遺物（3）

14は、深鉢の胴部片である。文様は沈線でＪ字文を構成し、区画外に縄文（LR）を充填する。内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黄白色である。

15は、14と同一個体である。

16は、深鉢の胴部片で、太沈線で区画された帯状文で文様を構成する。文様は刻目を付した隆帯懸垂文で縦位に区画する。内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

17は、口縁部が小さく外反する深鉢である。口唇部の内面に沈線が１条巡り、外面には２本の平行沈線で大柄の渦巻文などを施し内面は撫でる。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

18は、注口土器で、注口部を欠損する。口縁部は無文で、上端が僅かに内湾する。頸部に沈線を巡らせ、２ヶ所に円形に刺突を施した円形貼付文を施す。胴部は沈線で文様を区画し、縄文（LR）を充填施文する。把手の上下には円形刺突を施し、沈線で連結する。把手の上部は小突起上で、円形刺突文を施文する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は不良で、色調はにぶい橙色から黒褐色である。

19は、胴部中位が括れる深鉢である。文様は、沈線でＸ字状、Ｊ字状のモチーフを構成し、区画内に縄文（LR）を充填する。内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色から黒褐色である。

20は、胴部が直線的に開く深鉢で、口唇部が内面に突出する。口縁部に、刻目を付した２本の隆線を施し、３個の刺突を施した貼付文を付す。胴部上半には、沈線で円形区画を施した縄文帯（LR）を構成する。無文部と内面は研磨する。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

21は、胴部中位が弱く括れる深鉢で、内外面に粗い撫でを施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は淡褐色である。

22は、注口土器で、把手は橋状で外面に研磨を施す。胴部には沈線で文様を構成し、縄文を充填する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

23は、注口土器の把手部で、板状を呈する。文様は外面上位の外周に沿って隆帯を付し、縄文（RL）と円形刺突を施す。器面は丁寧に研磨する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄土色である。

24は、注口土器に付く把手であろう。外面に２つ、内面に１つの大きな円形刺突を施す。内外面共に研磨する。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は灰褐色である。

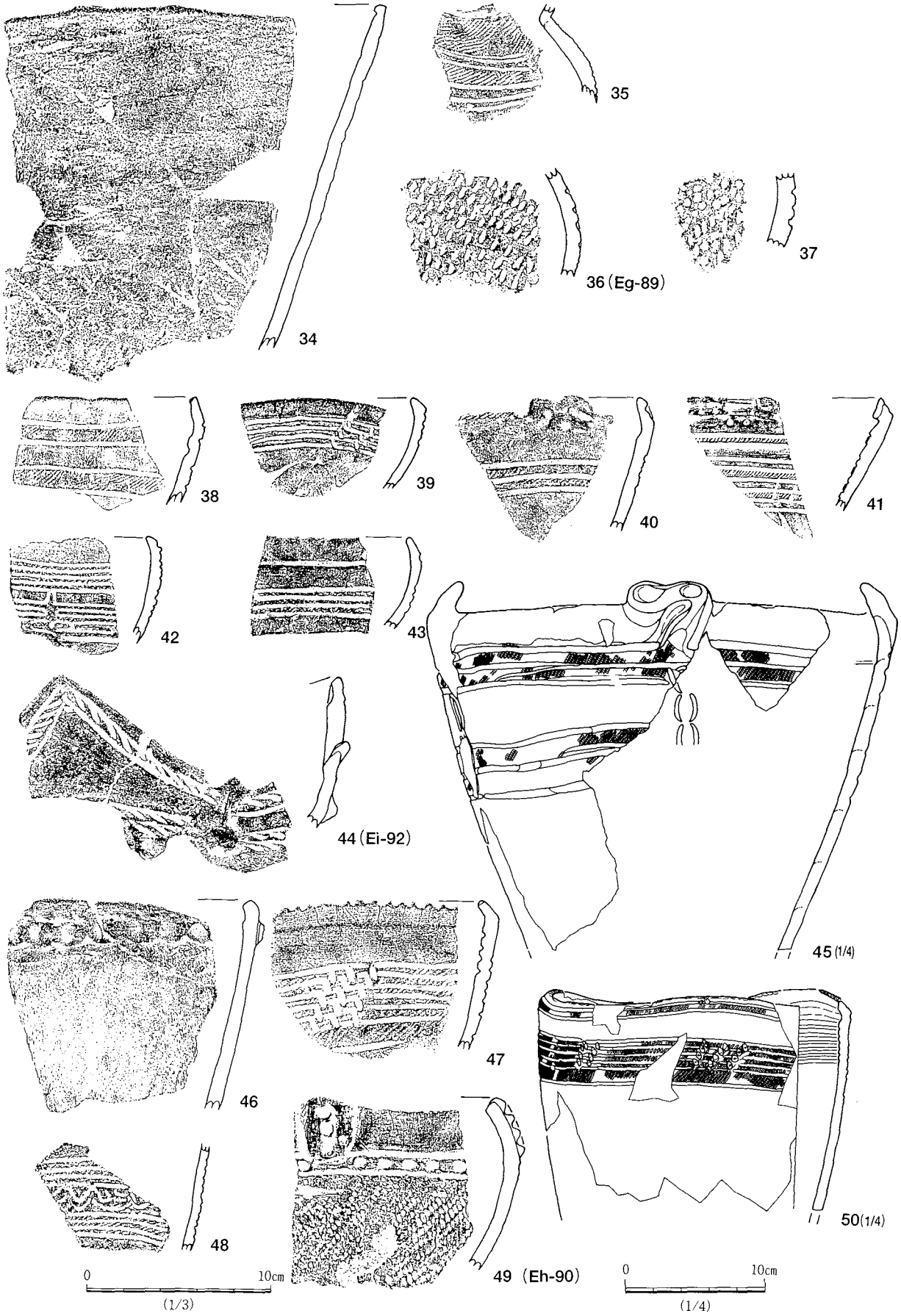
25は、胴部が直線的に開く深鉢である。口縁には刺突列と沈線で文様を施した環状把手を付し、内面把手下にも同文様を施す。外面口縁部には刻目を付した隆線を施し、縦位隆線との交点には円形の刺突を付す。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黒褐色である。

26は、注口土器である。注口部上面に橋状把手を付す。文様は帯縄文（LR）と集合沈線で構成し、内面は撫でる。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は灰褐色である。

27は、注口土器。口縁にボタン状、渦巻モチーフの貼付文を施した把手が付く。口唇部上面には羽状の刻目を施し、胴部は集合沈線で文様を構成する。外面は研磨、内面は撫でを施す。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は灰褐色である。

28は、注口土器の把手。内外面研磨。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

29は、注口土器の口縁部と思われる。口縁部突起から橋状把手が連続する。突起両側には沈線の渦巻を施し、正面に１つの円形刺突を施す。把手部外面には沈線の渦巻と平行沈線による区画を施し、沈線間に細かな刺突文を施す。胎土は微細砂粒を含み、焼成は普通で、色調は茶色である。



第127図　1号配石墓群出土遺物（4）

30は、注口土器の把手部と思われる。正面に沈線の渦巻と細かな刺突文、隆帯とを施す。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は普通で、色調は黄土色である。

31は、胴部が直線的に開く波状口縁の深鉢で、口唇部内面に沈線が巡り、波頂部に刺突を伴う突起が付く。文様は口縁部に刻目が付く隆線2条を施し、突起下に8の字文を付す。内外面は共に研磨する。胎土は細砂粒を少量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

32は、深鉢に付く把手である。頸部にボタン状貼付文や隆線で文様を施し、把手下内面に沈線を施文する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

33は、波状口縁で、胴部が直線的に開く深鉢である。口縁部には円形刺突を施した山形の突起を付し、口唇部上面の片側のみに沈線を巡らす。口縁部に無文帯を設けて、2条の沈線を施す。内外面は共に撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

34は、口縁部が僅かに内湾しながら開く深鉢で、口唇部内端が突出して段が付く。外面には横位の篦削り痕を明瞭に残す。内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

35は、注口土器で、体部上半に帯縄文と沈線で文様を構成する。内面は撫でる。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黄褐色である。

36は、胴部が丸い深鉢と見られ、外面全体に刺突を施す。内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

37は、36と同様で、胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄灰色である。

38は、口縁部が内折する深鉢で、口唇部内端に刻目を付し、口縁部内面に段と1本の沈線を施す。外面の胴部上半には帯縄文（LR）を2条施す。無文部と内面は研磨する。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は灰褐色である。

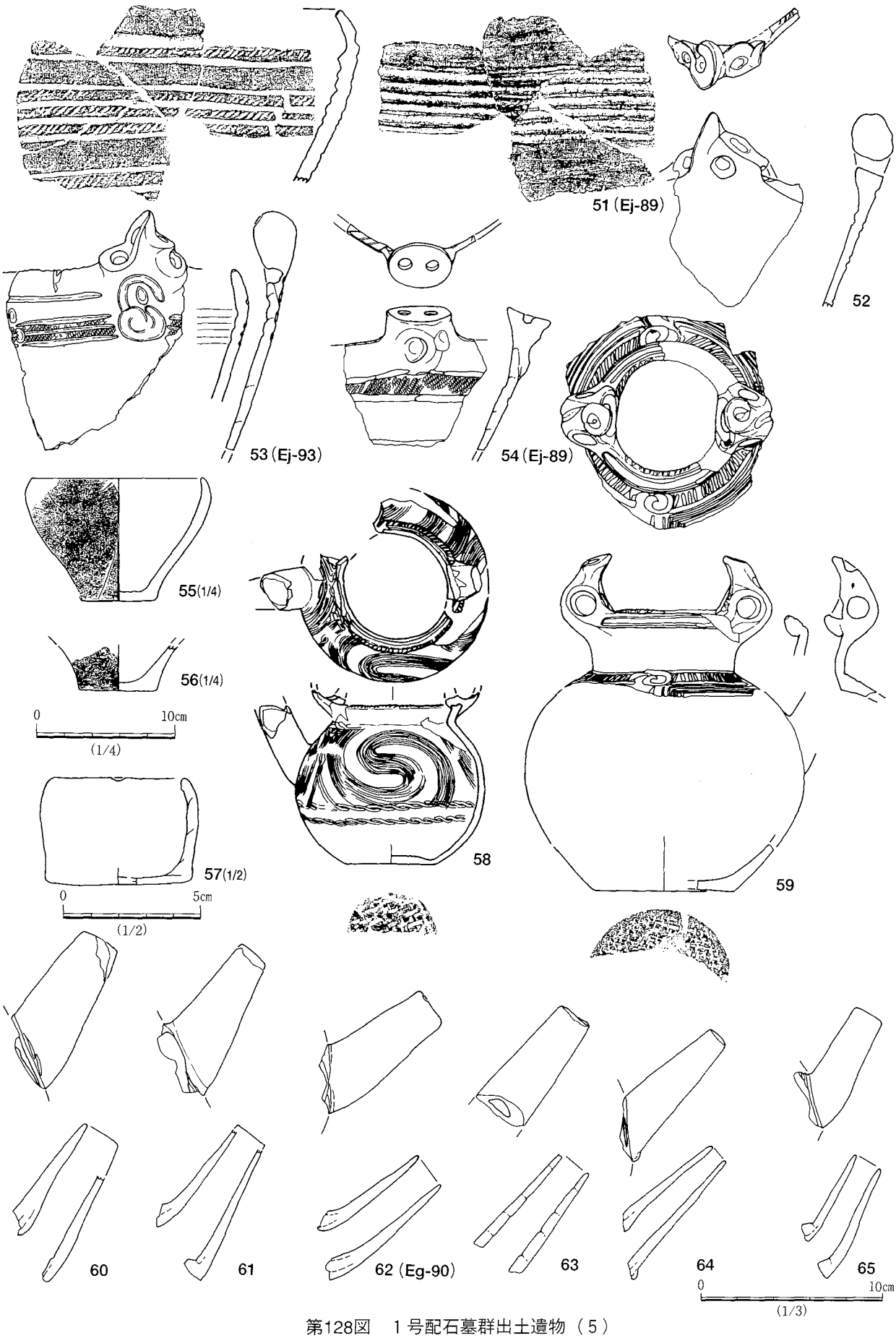
39は、ボール状の鉢で、口唇部外端が外削ぎ状である。文様は口縁部に4条の沈線を施し、その間に階段状の刻みを2列施す。内外面は共に研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

40は、胴部が直線的に開く深鉢で、内折する口唇部上面には斜位の刻目を付し、内面に段を持つ。口縁には円形の刺突が伴う山形の小突起が3つ複合した形で付く。文様は、胴部上半に3本の沈線による帯縄文（LR）を施す。内外面は共に研磨する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は淡褐色である。

41は、浅鉢の口縁部である。口唇部の内面に瘤状の貼付を2列施して鋸歯状の口唇を形成し、その間に刺突列を施す。また、文様の単位を示すのの字状貼付文と2個1対の円孔を施文する。胴部上半内面には、数条の沈線を施し、沈線間には1本おきに斜位の刻目を施文する。内外面は共に研磨する。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は普通で、色調は黒褐色である。

42は、口縁部が内湾する鉢である。口縁部に刻目が付く隆帯を施し、胴部上半に4本と5本の沈線による帯縄文（LR）を2帯施す。上位の帯縄文にはのの字状文を伴う。内外面は共に研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

43は、口縁部が内折する鉢である。口縁内折部に1本の沈線が巡る。胴部上半には4本の沈線による帯縄文（LR）を施し、沈線間に階段状の刻みを施す。内外面は共に研磨する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。



第128図　1号配石墓群出土遺物（5）

44は、口縁部が弱く内湾する、大きな波状口縁の深鉢である。口唇部は内削ぎ状で、内面に稜を持つ。波頂部内面には円形の押圧を加える、波頂間には口唇部とその下に貼瘤を施してその間を沈線で繋ぎ、更に口唇部の貼瘤の内面にも沈線を加える。文様は口唇部に沿って斜位の刻目を施した沈線帯を1条施し、貼瘤が付く頸部付近に同沈線帯を2条施文する。内外面に軽い研磨を施す。胎土は砂粒含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

45は、口縁部が内湾する深鉢で、口縁には8の字状の突起を付す。口唇部上面に斜位の刻目を施し、口縁部内面には段差が付く。胴部上半に3本の沈線による縄文帯（LR）を2帯施し、突起下とその間に対弧文を施文する。無文部と内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

46は、深鉢の口縁部片で、口唇部の内面に浅い沈線が巡る。口縁部に指頭状の押圧を加えた隆帯を施し、外面に撫で痕を残す。内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

47は、胴部が直線的に開く深鉢である。内折する口唇部上面に刻目を施して鋸歯状とし、口縁部内面には4本の沈線が巡る。外面の胴部上半には数条の沈線による帯縄文（LR）を施し、各沈線間に階段状の刻目を3列施す。無文部と内面は研磨する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

48は、口縁部が弱く外反する深鉢で、口唇部内面に沈線が巡る。口縁には上端に2個の刺突を施した小突起を付す。文様は胴部上位に4本の沈線による帯縄文（LR）を2帯施し、その間に入組波状文を施す。内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黒褐色である。

49は、口縁部が内湾する鉢である。文様は、口縁無文部下に列点状刺突を伴う2条の沈線を施し、以下に縄文（LR）を施す。口縁無文部には3個の刺突を伴う楕円形の貼付文が付く。内面は研磨する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黒褐色である。

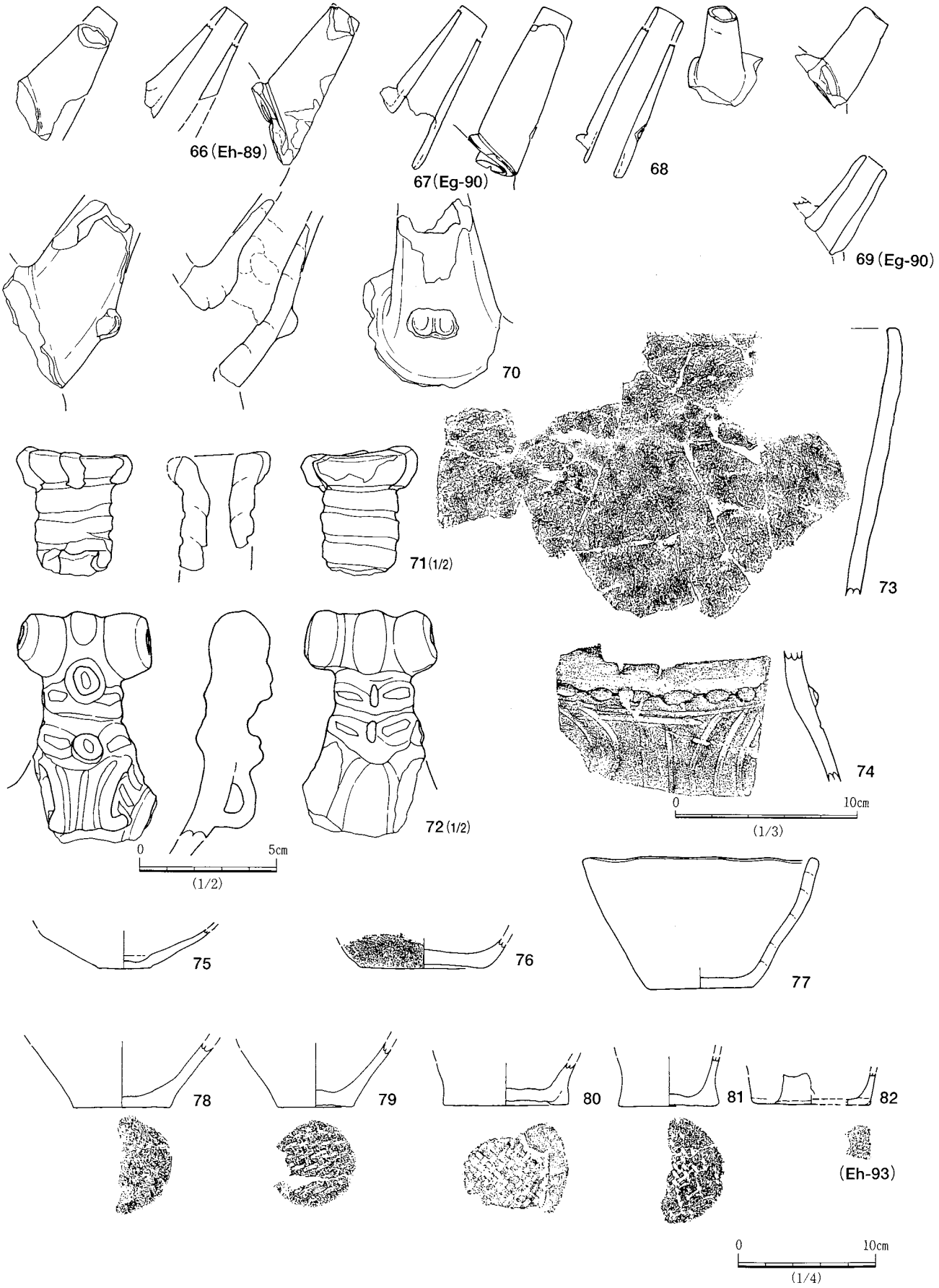
50は、口唇部が内折する3単位小波状口縁の深鉢で、口唇部上面に斜位の刻目を付す。内面には段が付き、その直下に6条の沈線が巡る。外面口縁部には細い帯縄文（LR）を施すが、帯縄文を画する上位の沈線は、波頂部で一方はクランク状に上方へ折れ、他方は端部に刺突を加える。胴部上半には、6本の沈線による帯縄文を施し、沈線間には波頂下に3条、その間には2条の階段状刻目を施す。無文部と内面は研磨する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

51は、口縁部上端が内折する深鉢で、口唇部上面に斜位の刻目を付す。口縁部内面に断面三角形の隆線1条と、太線6条を施す。口縁部外面には幅の狭い帯縄文（無節L）と4本の沈線による縄文帯を施し、沈線間に階段状の刻目を施す。内外面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒色である。

52は、胴部中程が括れる深鉢で、口縁部が内傾し、内面に段差と沈線が巡る。口唇部上面に斜位の刻目を施文する。口縁には8の字文をモチーフとする円孔付きの突起が付く。胴部上半に帯縄文（LR）を3条施し、突起下にのの字状文と対弧文を施す。内外面は研磨する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒色である。

53は、口縁部が内傾する波状口縁の深鉢で、波頂部には大きな円形刺突を伴う8の字モチーフの突起が付き、突起下にはのの字を重ねた8の字文を施す。口唇部上面に刻目を施し、口縁部内面には太沈線が3条巡る。外面口縁部には1条の沈線と3本の沈線による縄文帯（LR）を施し、波頂間の位置に2個1対の円形刺突を施す。内外面は共に研磨する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

54は、口縁部が弱く内傾する深鉢である。口唇部の上面に斜位の刻目が付き、口縁部内面に段が付く。口縁にはブタ鼻状の突起が施され、突起外面にはつの字状貼付文と2個の円形刺突が施される。外面の文様は帯縄文（LR）で、無文部と内面は研磨する。胎土は細砂粒を含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。



第129図　1号配石墓群出土遺物（6）

55は、口縁部が内湾する無文の鉢で、底面に網代痕が残る。内外面は共に研磨する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

56は、鉢か？。底面に網代痕が残る。内外面共に研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は橙白色である。

57は、口縁部がやや内傾するミニチュア土器で、内外面及び、底部に撫でを施す。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は暗褐色である。

58は、注口土器で、球形の体部に外傾する口縁部が付く。口縁に2個1対の把手を付すが欠損し、また、注口部はやや上方に傾いて付くが先端を欠損する。口唇部上面には斜位の刻目を付し、その内側には蓋受け状の隆線が巡る。文様は胴部上半に集合沈線帯で大形の入り組み文を3単位構成し、注口部には円形文を施す。この入り組み文は無文部が主文様となる。文様部は上端の頸部に1条、文様下に2条の入り組み状沈線で画する。外面は研磨して光沢を帯び、内面は撫でる。なお、底部には網代痕が付く。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黄褐色から黒褐色である。

59は、注口土器で、口縁には突起や刺突を施した1対の把手を付す。口唇部上面には斜位の刻目を付し、内折する口縁部には2本の沈線が巡る。頸部は無文で、その直下にのの字状文を伴う斜沈線帯と、集合沈線帯による文様帯を施す。底部には網代痕が付く。外面は研磨、内面は撫でる。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

60は、注口土器で、注口部の先端が一部欠損する。縦方向に丁寧な研磨を施し、わずかに光沢がある。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は普通で、色調は黒褐色である。

61は、注口土器である。外面は丁寧に研磨されており、接合部から剥離している。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黄土色である。

62は、注口土器の注口部である。器面は研磨される。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は橙色である。

63は、注口土器である。縦方向の研磨を施し、光沢がある。胎土は微砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は灰褐色である。

64は、注口土器である。基部下面に小隆帯を貼付する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は不良で、色調は黄土色である。

65は、注口土器である。基部胴部側に沈線が巡り、器面は研磨されていたものと思われるが、摩滅して不明瞭である。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は不良で、色調は黄土色である。

66は、注口土器の注口部である。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は灰褐色である。

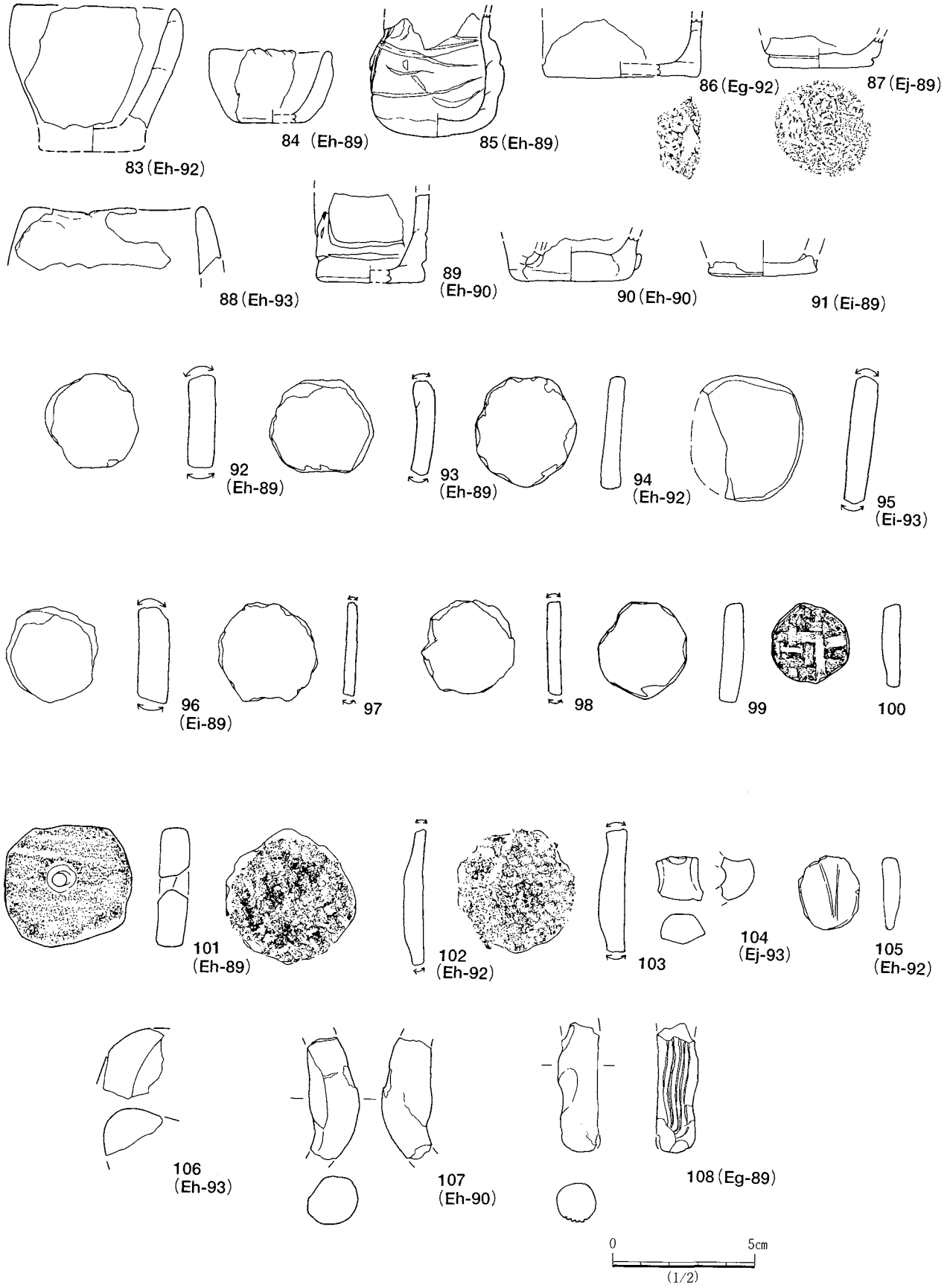
67は、注口土器の注口部で、器面は研磨する。胎土は微砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

68は、注口土器の注口部である。器面は研磨する。胎土は細砂粒を含み、焼成は良好で、色調は黄土色である。

69は、注口土器の注口部である。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は不良で、色調は黄土色である。

70は、注口土器である。下端に2つの瘤状貼付を施し、内外面共に撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黄褐色である。

71は、深鉢の口縁部の突起と思われる。中空の筒状で上部が広がり、側面に4つの短い隆帯が貼付され、筒状の部分に沈線が巡る。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黄土色から褐色である。



第130図　1号配石墓群出土遺物（7）

72は、深鉢に付く把手である。表裏に沈線や貼付文で文様を施し、把手下に小さな橋状把手が付く。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黄褐色である。

73は、深鉢の口縁部片で、内外面に粗い研磨を施す。胎土は砂粒を少量含み、焼成は普通で、色調は黒褐色である。

74は、頸部が括れる深鉢で、頸部に刻目を施した隆帯を巡らし、胴部に沈線で曲線的な懸垂文を施す。内面は撫でる。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

75は、鉢あるいは浅鉢と見られる。外面は撫で、内面は黒色で研磨される。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

76は、鉢か？。底面に網代痕が残る。内面は研磨する。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は普通で、色調は淡褐色である。

77は、椀形の鉢で、ほぼ完形である。内外面は軽く研磨する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は普通で、色調は黄褐色である。

78は、鉢か？。底面に網代痕が残る。内面は研磨する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

79は、鉢の胴部から底部片である。底面に網代痕が残る。内外面は共に撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄白色である。

80は、深鉢か？。底面に網代痕が残る。粗雑な作りである。内外面は共に粗く撫でる。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

81は、深鉢の底部片で、網代痕が残る。内外面は撫でる。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

82は、ミニチュア土器である。内外面に撫で、底部に網代痕を残す。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

83は、口縁部が僅かに内湾するミニチュア土器である。外面は比較的丁寧な撫でを施す。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は灰褐色である。

84は、ミニチュア土器である。内外面に指押さえの痕跡を残す。胎土は微砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黄土色である。

85は、胴部に張りを持ち、口縁部が短く直立するミニチュア土器である。胴部に雑な横位の沈線を施す。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は不良で、色調は黄土色である。

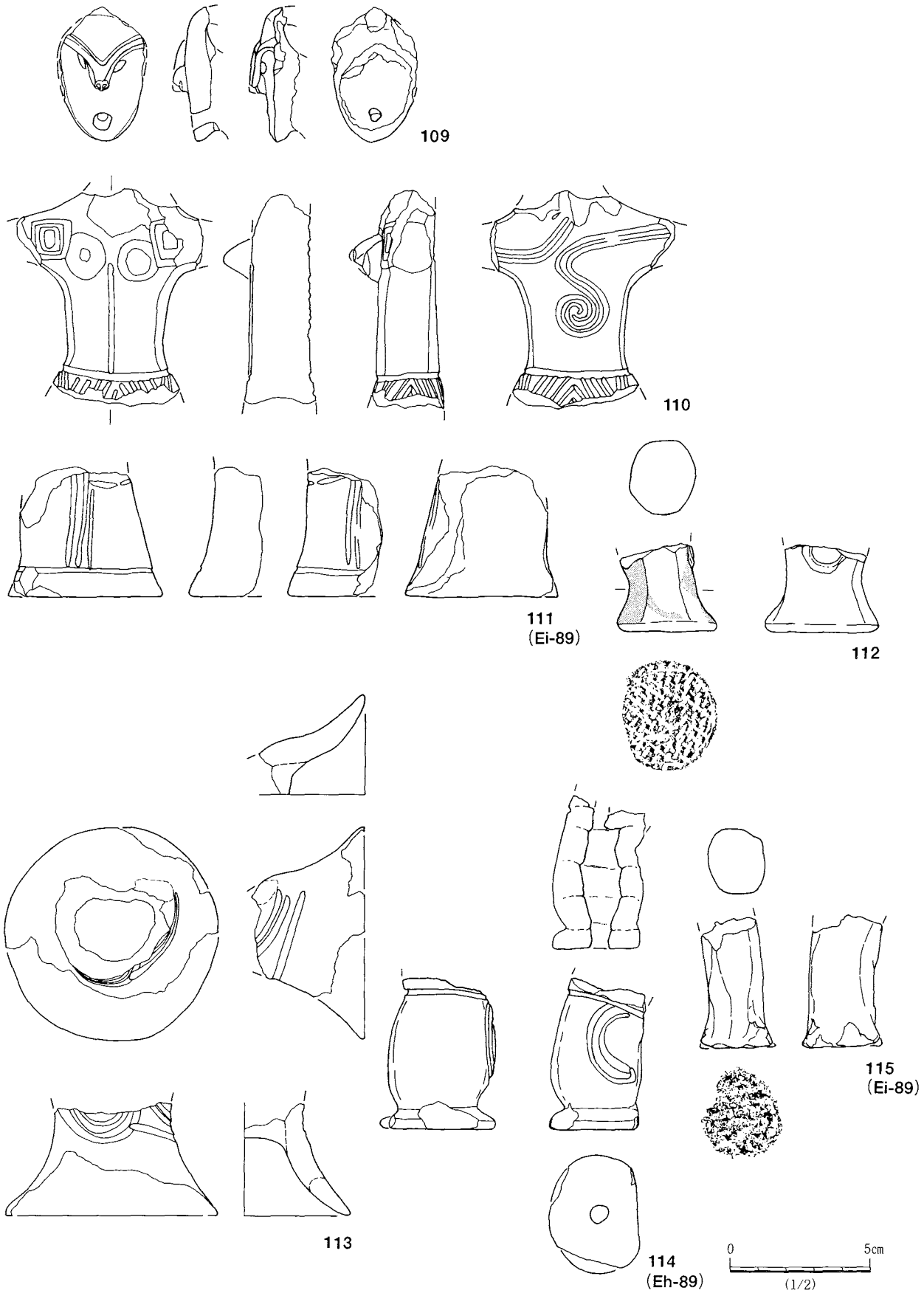
86は、ミニチュア土器である。内外面に撫でを施し、底部に網代痕を残す。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

87は、ミニチュア土器である。胴部下端に雑な沈線を巡らす。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は灰褐色である。

88は、ミニチュア土器である。内外面に指で押さえた痕跡を残す。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は茶褐色である。

89は、ミニチュア土器である。外面に沈線文様を施文する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は不良で、色調はにぶい橙色である。

90は、ミニチュア土器である。内外面に撫でを施す。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は茶色である。



第131図　1号配石墓群出土遺物（8）

91は、深鉢の底部片で、接合面で剝離する。胎土は細砂粒を含み、焼成は普通で、色調は暗褐色である。

92は、深鉢の胴部を利用した土製円盤である。周辺を7面の打ち欠きにより整形する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は灰褐色である。

93は、深鉢の胴部を利用した土製円盤である。周辺を7面の打ち欠きにより整形する。胎土は細砂粒を含み、焼成は普通で、色調は暗褐色である。

94は、土器片を利用した土製円盤である。周辺は打ち欠き後、7面の研磨で整形する。胎土は細砂粒を含み、焼成は良好で、色調は黒色である。

95は、深鉢の胴部を利用した土製円盤で、周辺は打ち欠き後、研磨で整形する。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は普通で、色調は暗褐色である。

96は、深鉢の胴部を転用した土製円盤である。周辺は7面の打ち欠きが認められる。胎土は細砂粒を含み、焼成は普通で、色調は灰褐色である。

97は、深鉢を転用した土製円盤である。周辺は8面の打ち欠きが認められる。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

98は、土器片を利用した土製円盤で、周辺は7面の打ち欠きにより整形する。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

99は、土器片を利用した土製円盤である。周辺は打ち欠き後、7面の研磨で整形する。胎土は細砂粒を含み、焼成は不良で、色調はにぶい橙色である。

100は、深鉢の底部を利用した土製円盤である。周辺は打ち欠き後、7面の研磨で整形する。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は灰褐色である。

101は、沈線文様を持つ土器片を転用した土製円盤である。中央に両側から穿孔し、周辺の整形は8面の打ち欠き後に研磨する。胎土は細砂粒を含み、焼成は不良で、色調はにぶい橙色である。

102は、深鉢の底部を利用した土製円盤である。周辺は9面の打ち欠きで整形し、片面に網代痕を残す。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は不良で、色調は黄土色から黒褐色である。

103は、土器底部を使用した土製円盤である。周囲は9回の調整を受ける。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は普通で、色調は黄褐色である。

104は、口縁部の突起である。器面に撫で及び円形刺突を施す。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は茶色である。

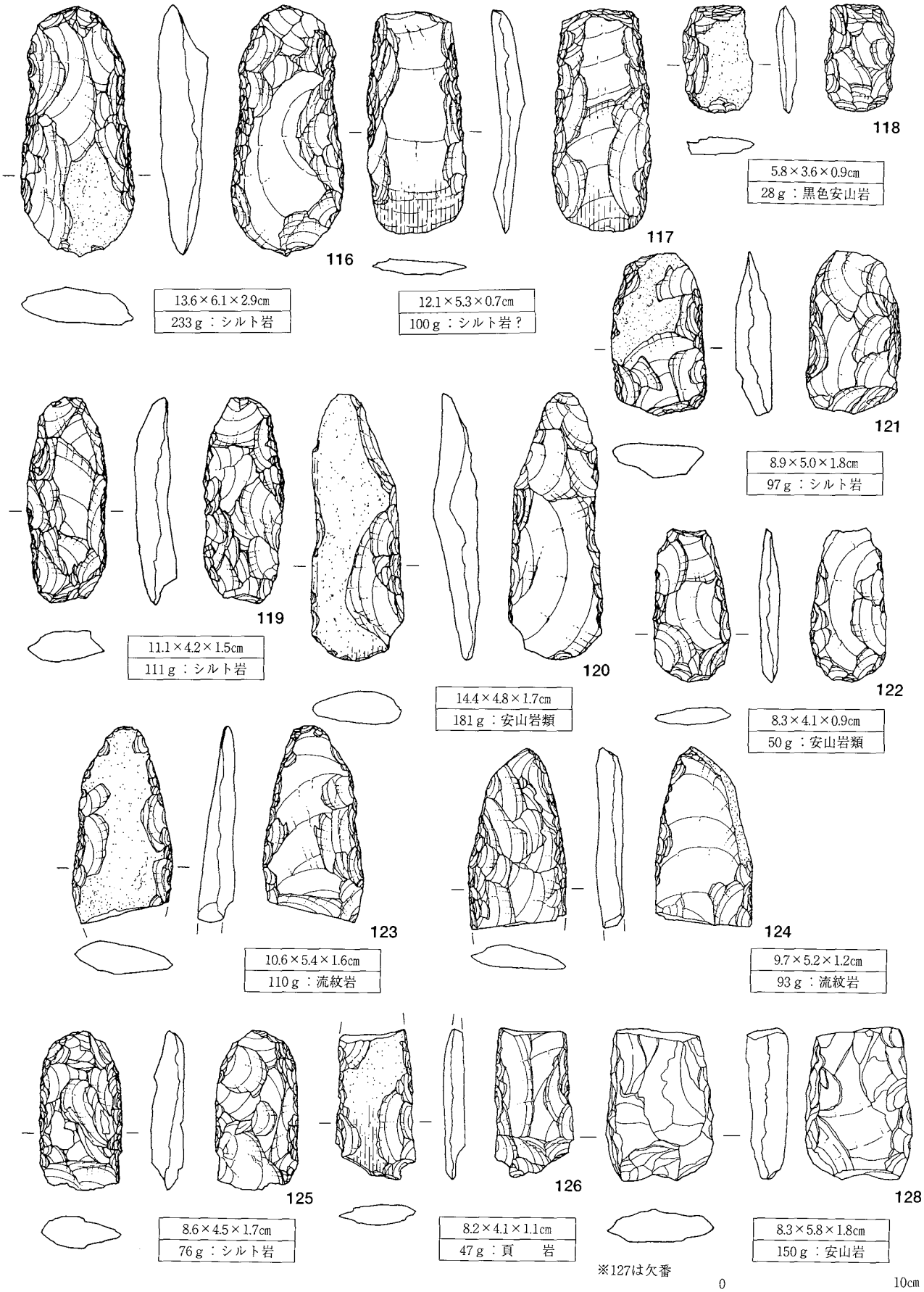
105は、不明の土製品で、片面に圧痕が認められる。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は橙色である。

106は、不明の土製品である。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黄褐色である。

107は、棒状の粘土塊である。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい橙色である。

108は、棒状の土製品か？。櫛状工具の条線と押圧を施す。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黄土色である。

109は、ハート形土偶の顔面部である。楕円形の顔に隆線で鼻と一体化したV字状の眉を施し、その下端につりあがった目を刺突で表現し、鼻にも2つの刺突を施す。口は円孔で表現するが、板状の顔面部を突き抜けており、筒形土偶と類似する。なお、頭頂部には体部とつながる把手の一部が残る。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は灰褐色である。



第132図　1号配石墓群出土遺物（9）

110は、ハート形の土偶の体部である。顔面が前に突き出し、後頭部に橋状把手が付くが、欠損している。肩は怒肩で、肩口に二重の方形区画を施す。胴部には乳房の間から正中線を施し、腰部には集合沈線で鋸歯状文を施す。腰部の突出は見られない。背面には2条の沈線が肩部から伸び、一方は首部へ、他方は背中で渦巻き文を描く。器面は軽く研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は灰褐色である。

111は、ハート形土偶の足部と見られる。足先は裾広がりの形態で、足裏に網代痕が付く。文様は側面と正面に2本の沈線を垂下させ、その間に鍵手状の沈線を加えて、下端を巡る沈線で画す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

112は、下端が広がる土偶の脚部である。下面に網代網を残し、外面に沈線の曲線文を描く。赤色塗彩を施す。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は茶褐色である。

113は、筒形土偶内匠タイプの脚部であろう。正面部は平坦化され、背面に沈線で渦巻状の文様を施文する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

114は、土偶の足部である。足の付け根に沈線を巡らし、正面にC字状の沈線文を施す。中空で足下面に1つの穿孔がある。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は灰褐色である。

115は、土偶の脚部である。器面に撫でを施し、脚部足下に縄文の痕跡がある。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄土色である。

116～128は、短冊形の打製石斧で、黒色安山岩・シルト岩・安山岩類・流紋岩・頁岩を素材とする。

129～132は、分銅形の打製石斧で、砂岩・デイサイト・シルト岩・安山岩類を素材とする。

133・134・136・169・170は、撥形の打製石斧であるが、169・170は弥生の石鏃の可能性を有する。

135・140～154は、打製石斧片でシルト岩・流紋岩・頁岩・黒色安山岩・輝緑岩・安山岩類を素材とする。

155～163は、定角式の磨製石斧で、161～163は未製品である。輝緑岩・砂岩・変質蛇紋岩・蛇紋岩・変質安山岩を素材とする。

164～168は、乳棒状の磨製石斧で、輝緑岩と安山岩類を素材とする。

171は、凹基無茎の石鏃で、黒曜石製である。

172～176は、楔形石器で、黒曜石・チャート・ジャスピライトを素材とする。

177～180は、石匙で、177～180が横形、181が縦形である。石材は、チャート・頁岩・砂岩である。

182～185・191はスクレイパーで、シルト岩・ジャスピライト・頁岩を素材とする。

186～188・191～192は、剥片石器で、シルト岩・流紋岩を素材とする。

193～200は、黒色安山岩・シルト岩・安山岩類・ジャスピライト・石英・チャートのコア類である。

201～211は、有溝石錘で、輝緑岩・デイサイト・泥岩・砂岩・雲母片岩を素材とする。

212は、方形を呈する軽石で、中央部に穿孔される。

213は、抉状耳飾り片で、蛇紋岩製である。

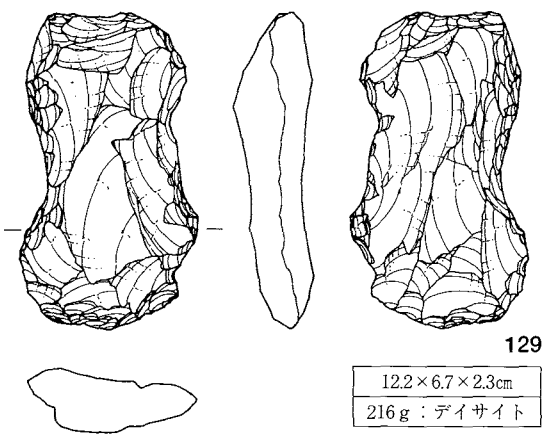
214～218は、石棒状石器で、片岩類・緑色片岩・黒色雲母片岩・輝緑岩を素材とする。

219～225は、石棒である。220は大形の磨製石斧あるいは石棒で、224・225は石棒の破片を転用した凹石である。この石棒は、素材に石英斑岩を用い、碓氷川上流部にあたる石棒工房跡の西野牧小山平遺跡の製作技法と同一で同遺跡製作と見られる。なお224は被熱の痕跡が確認される。

226～298は、磨石及び凹石で、素材は輝石安山岩が多数を占めている。

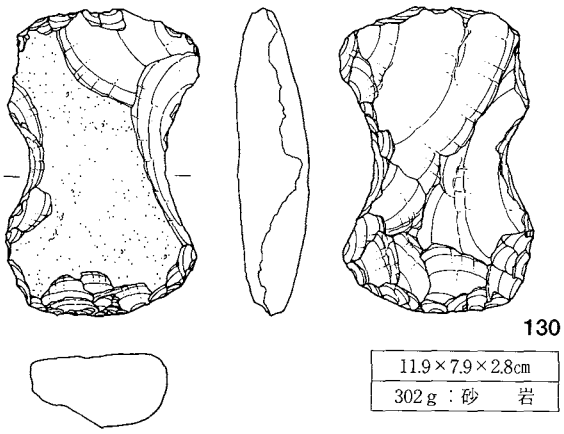
299～313・315は、多孔石である。

314・316～326は、石皿で、このうち314・316～318は多孔石としての使用が窺われる。



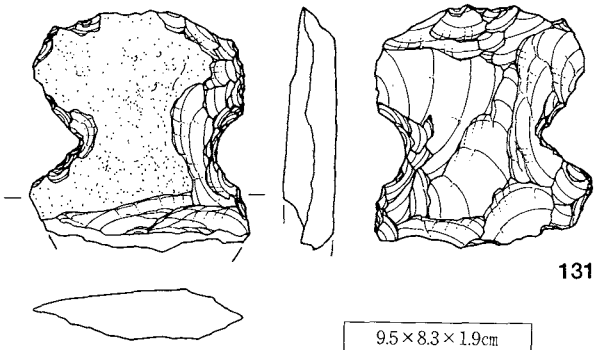
129

12.2×6.7×2.3cm
216g：デイサイト



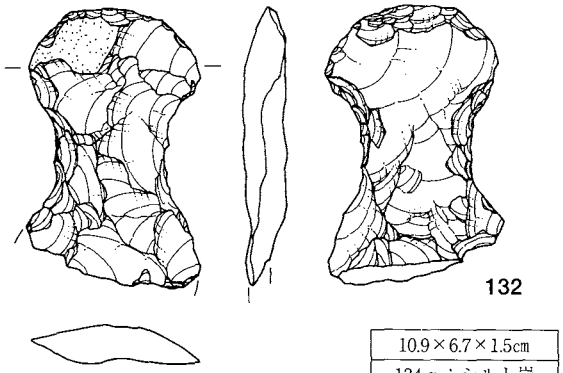
130

11.9×7.9×2.8cm
302g：砂　　岩



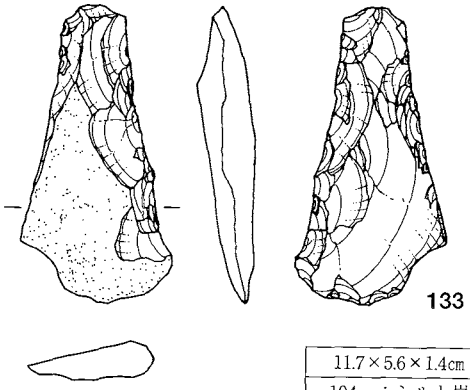
131

9.5×8.3×1.9cm
182g：安山岩類



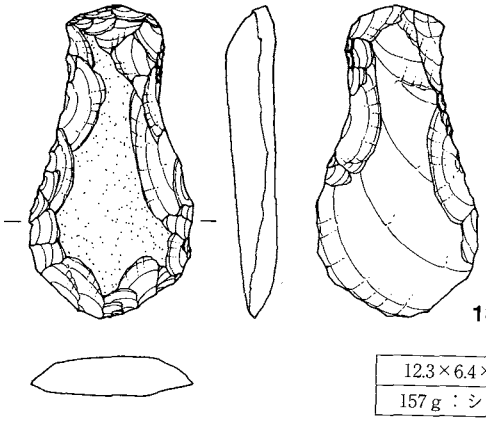
132

10.9×6.7×1.5cm
134g：シルト岩



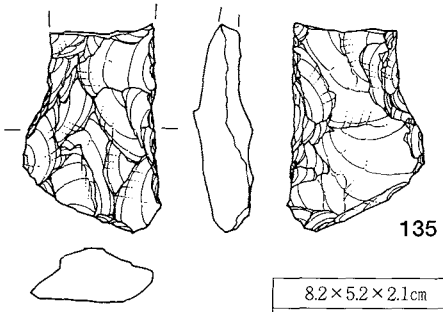
133

11.7×5.6×1.4cm
104g：シルト岩



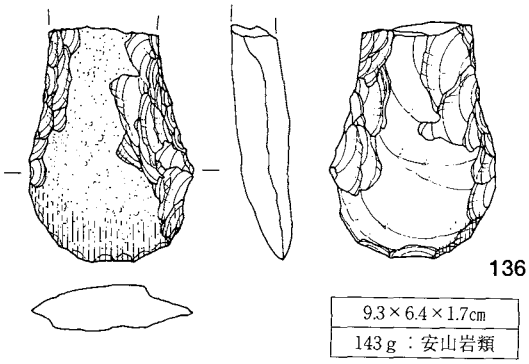
134

12.3×6.4×1.6cm
157g：シルト岩



135

8.2×5.2×2.1cm
86g：流紋岩

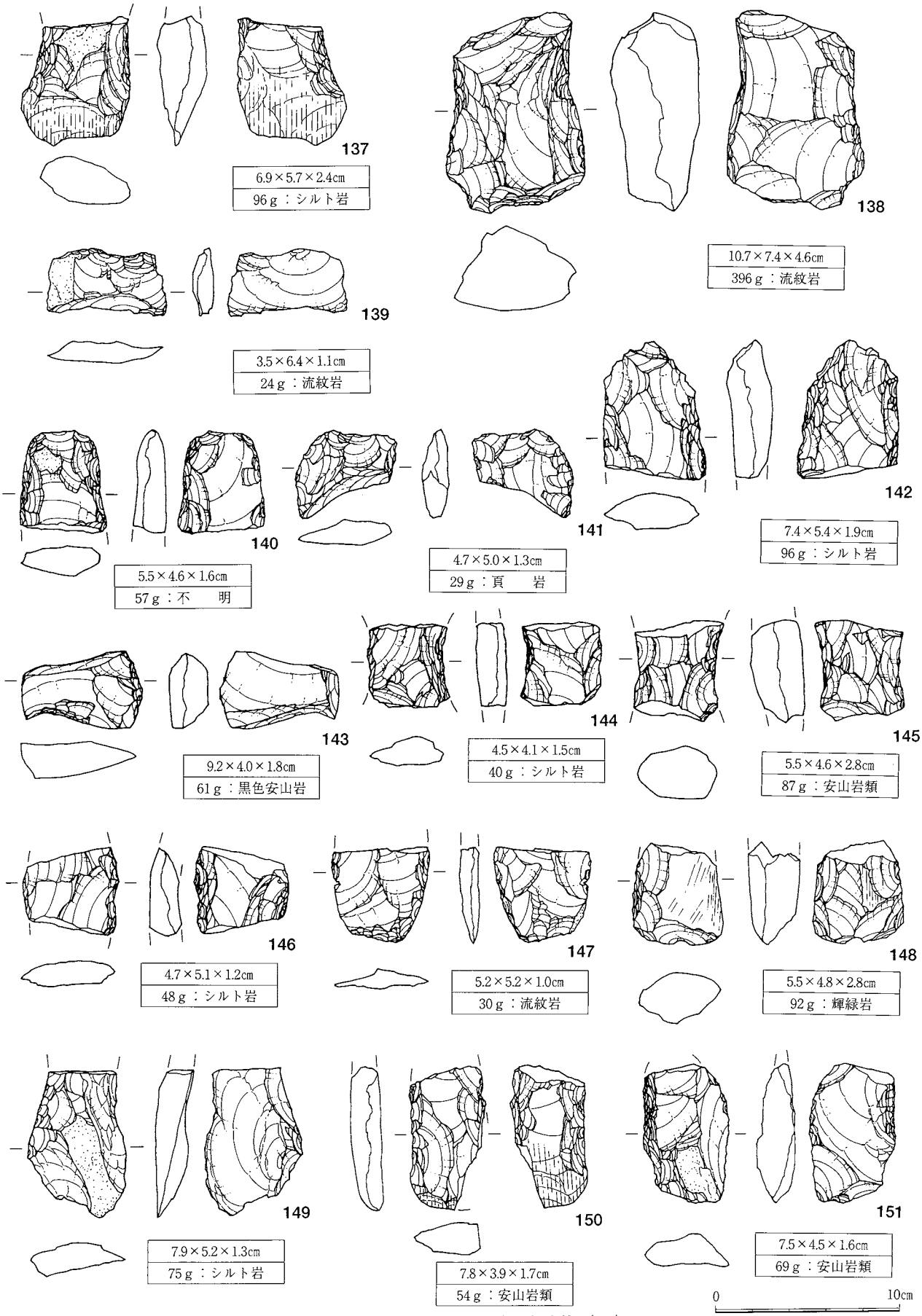


136

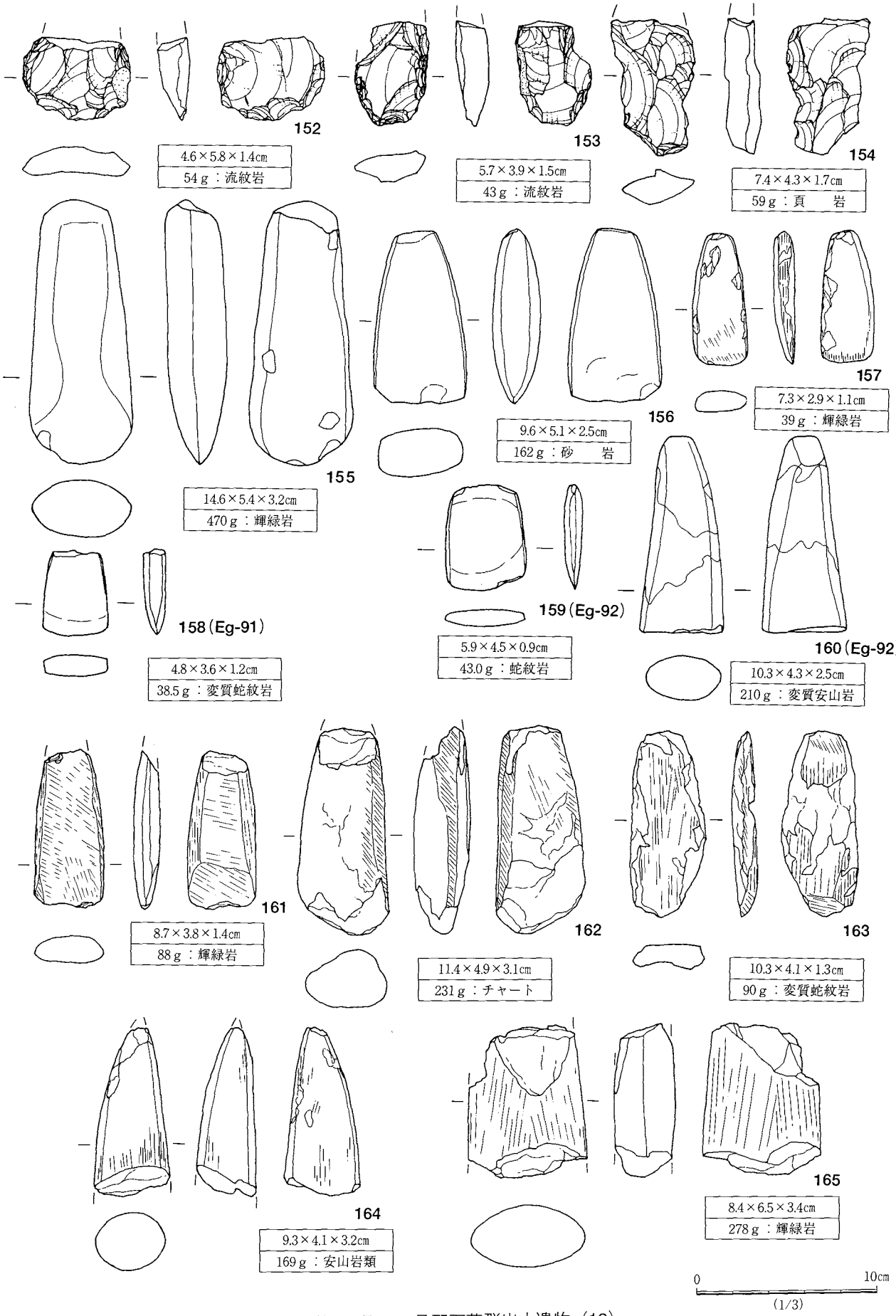
9.3×6.4×1.7cm
143g：安山岩類

0　　10cm
(1/3)

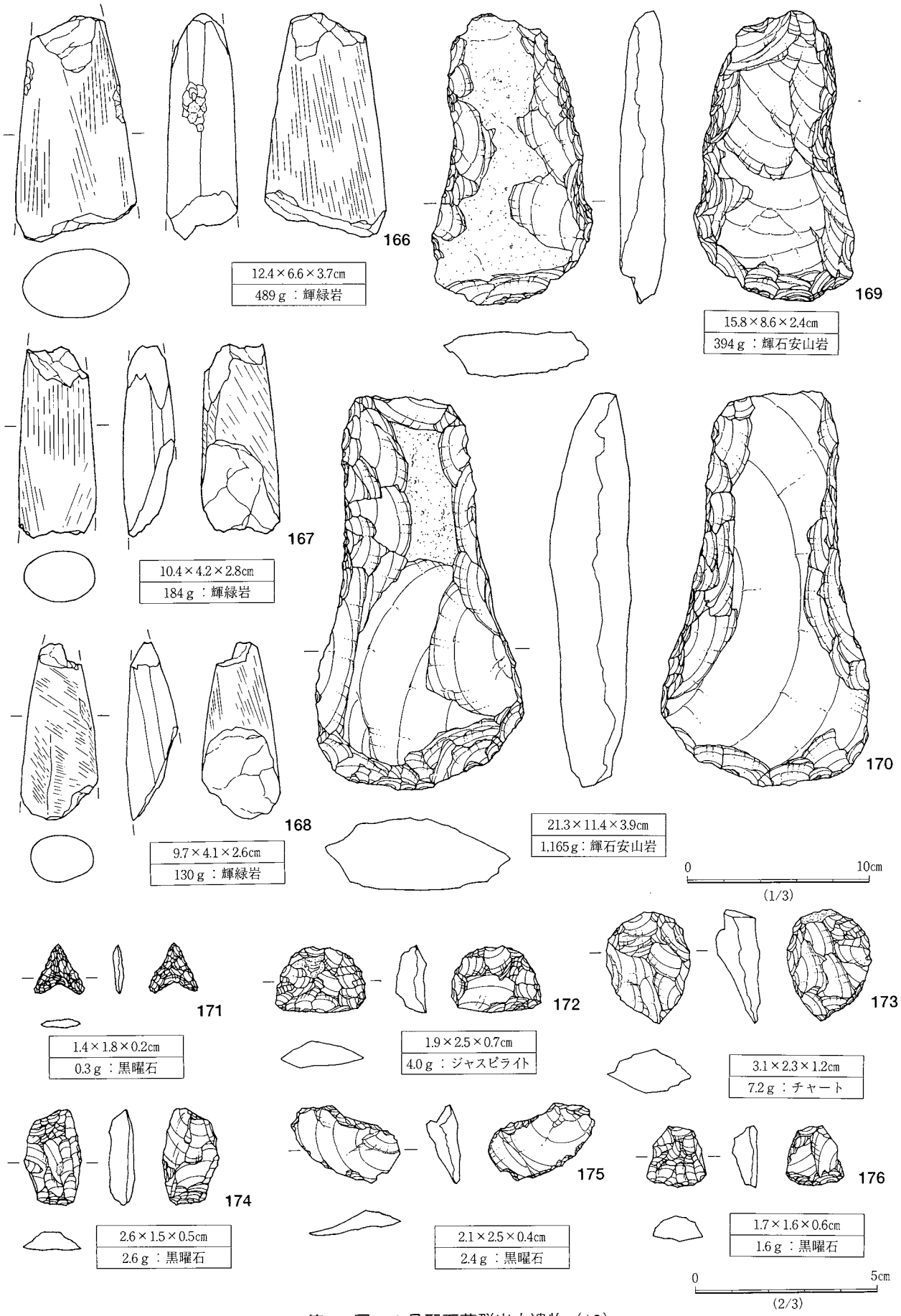
第133図　1号配石墓群出土遺物（10）



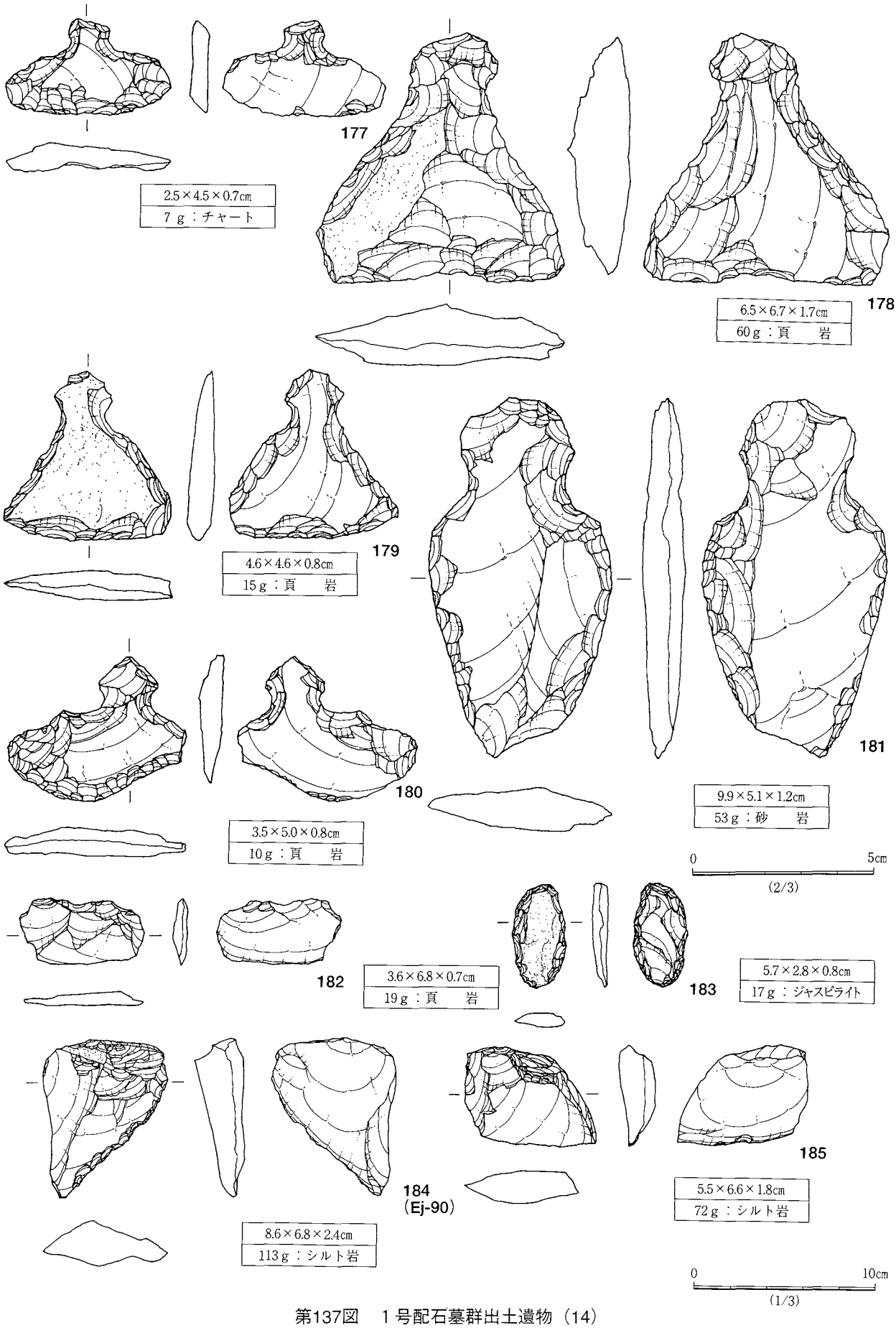
第134図　1号配石墓群出土遺物（11）



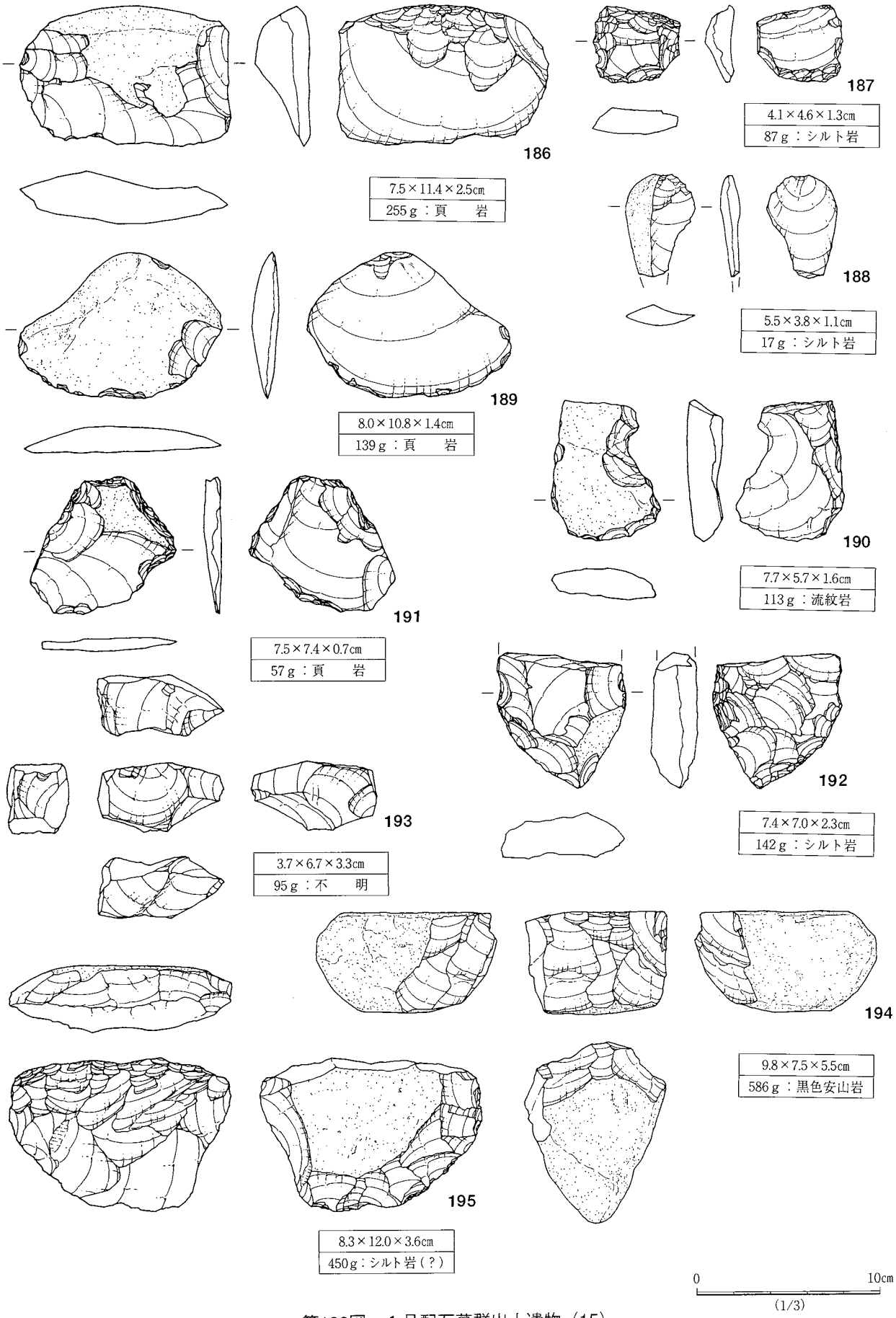
第135図　1号配石墓群出土遺物（12）



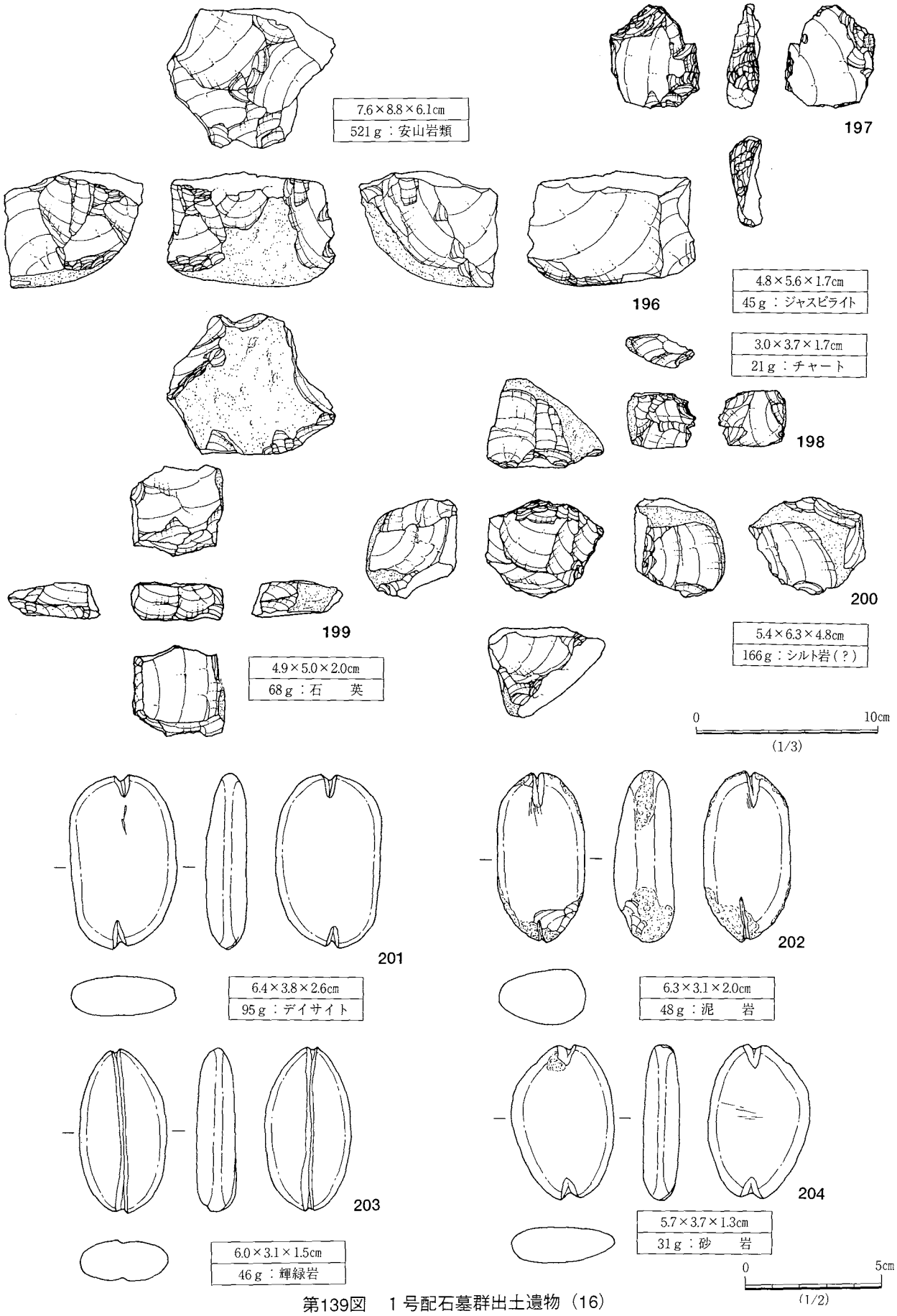
第136図　1号配石墓群出土遺物（13）



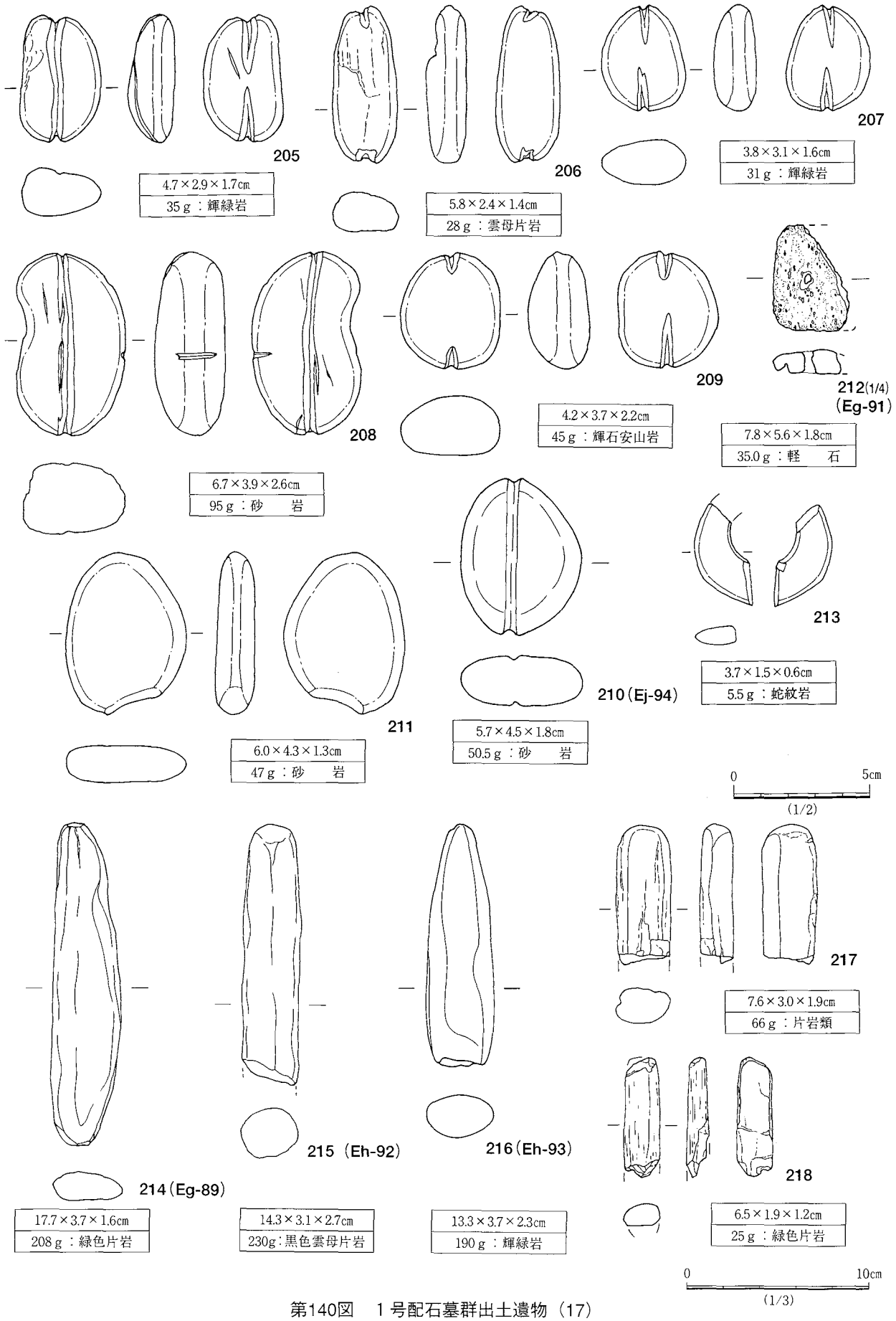
第137図　1号配石墓群出土遺物（14）



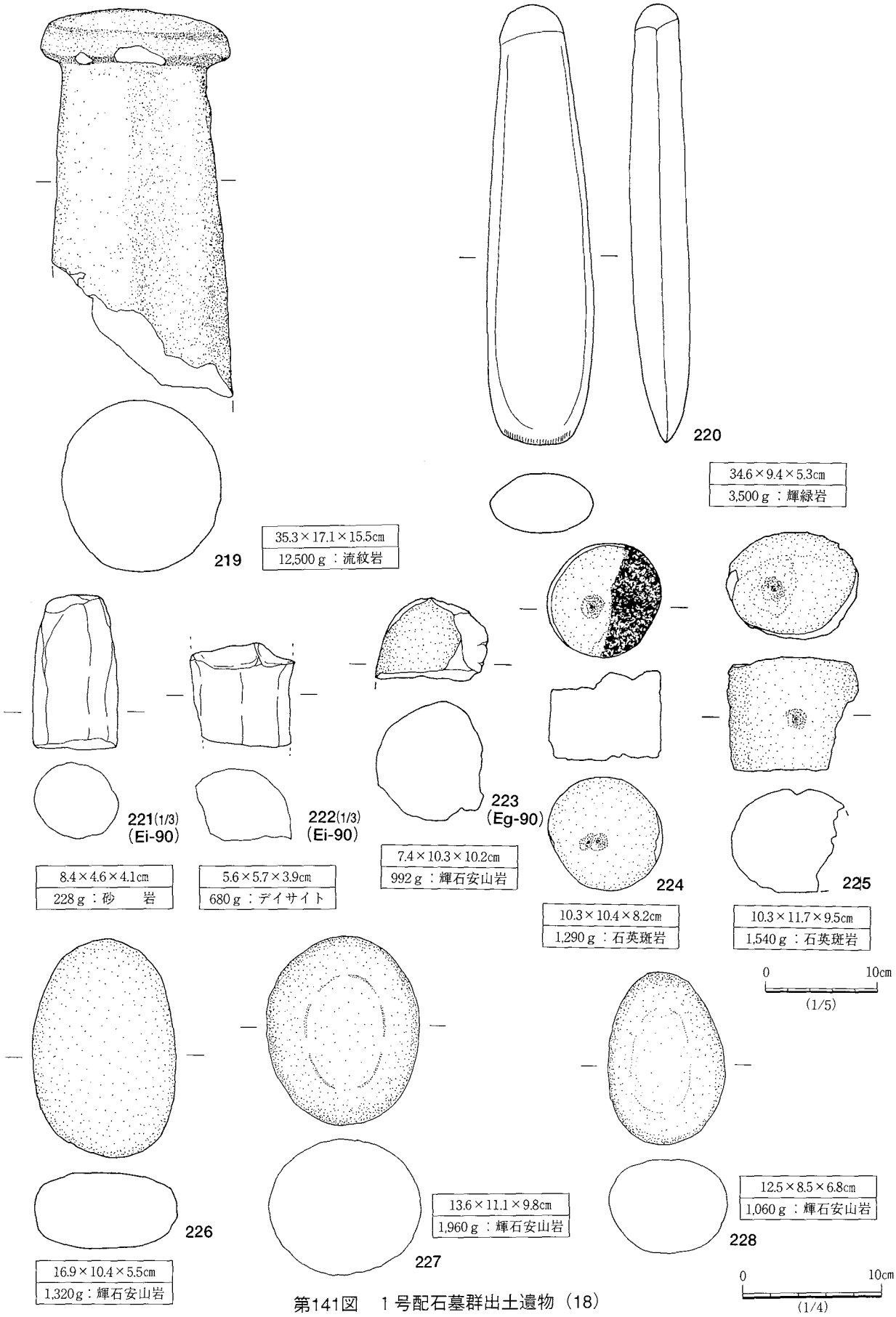
第138図　1号配石墓群出土遺物（15）



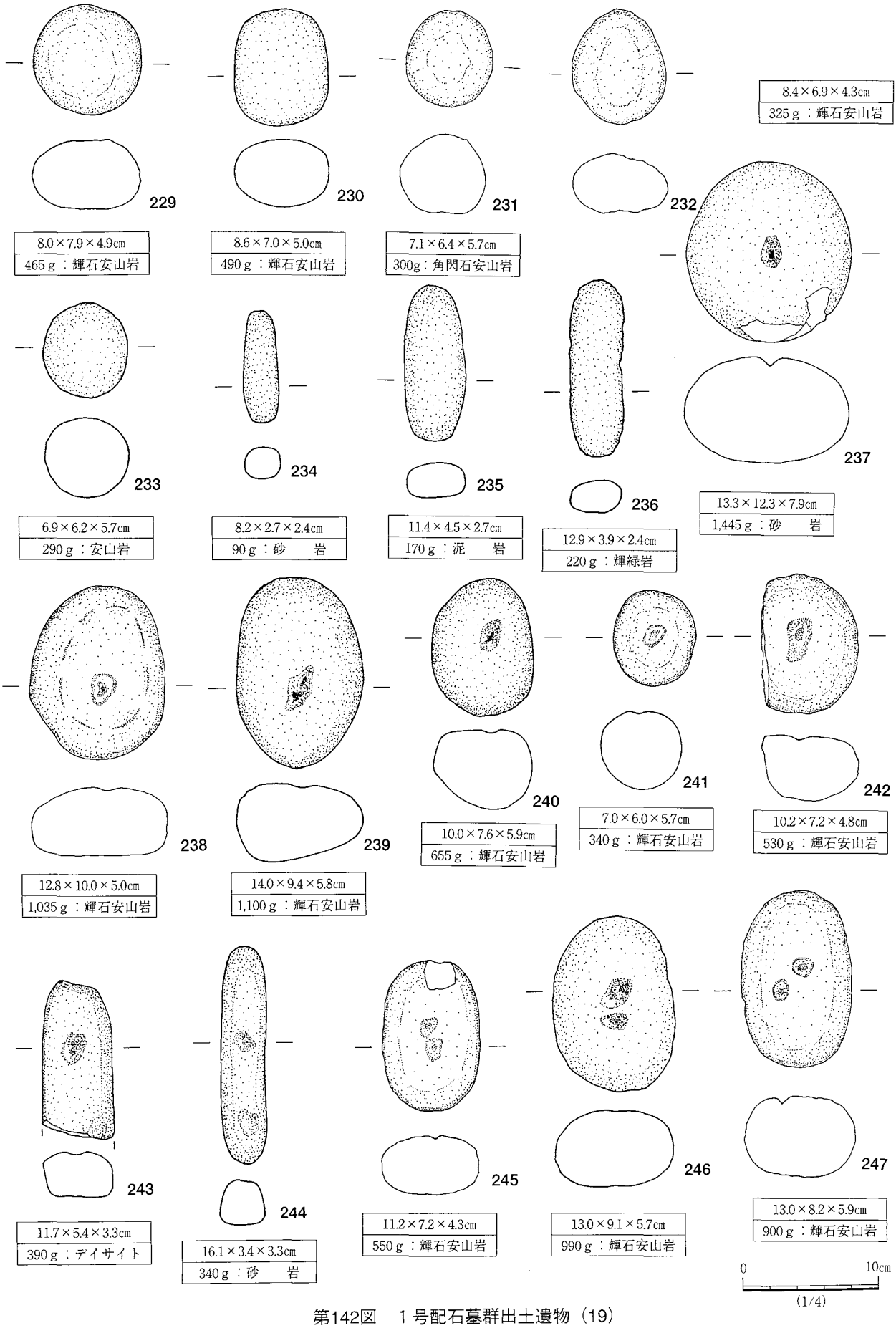
第139図　1号配石墓群出土遺物（16）



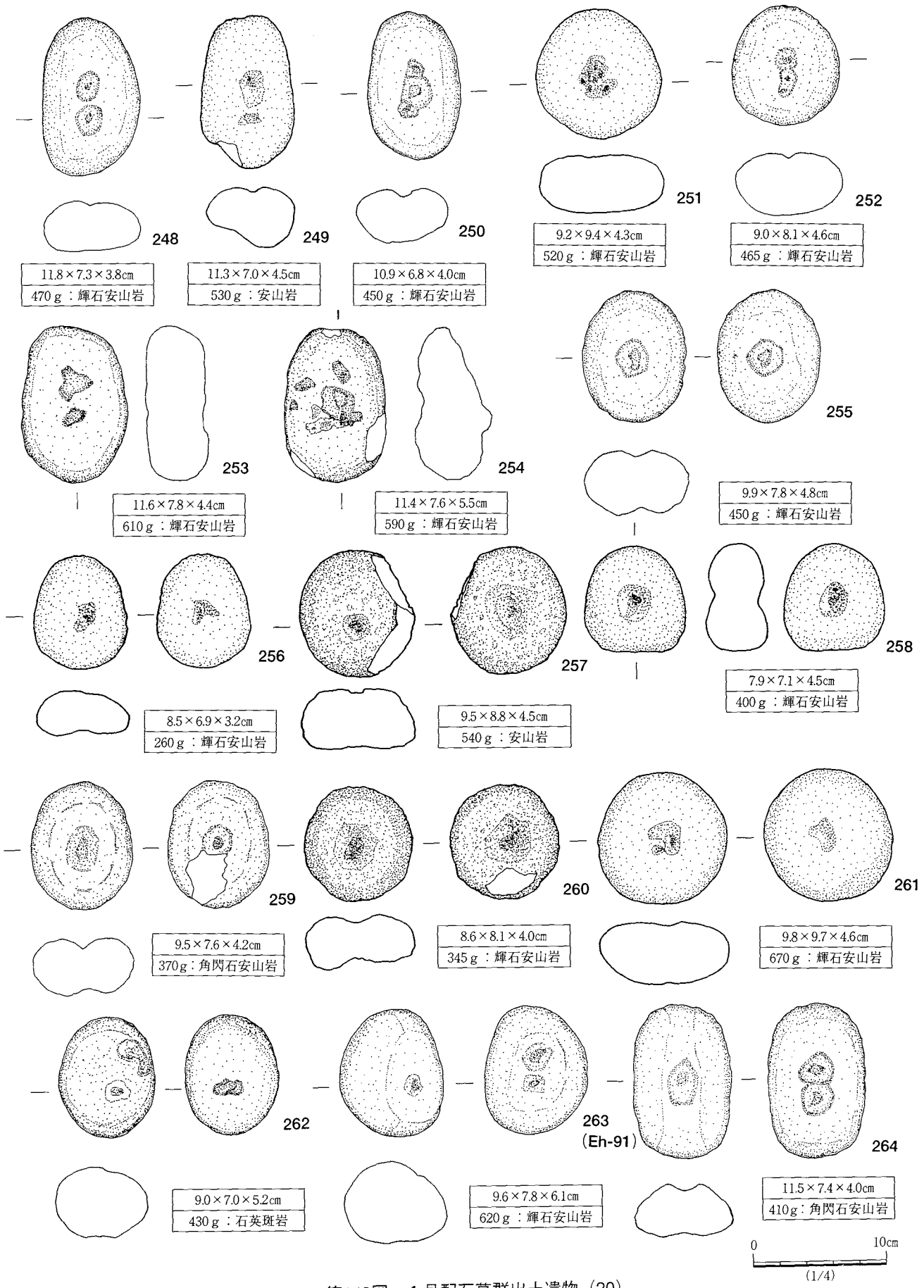
第140図　1号配石墓群出土遺物（17）



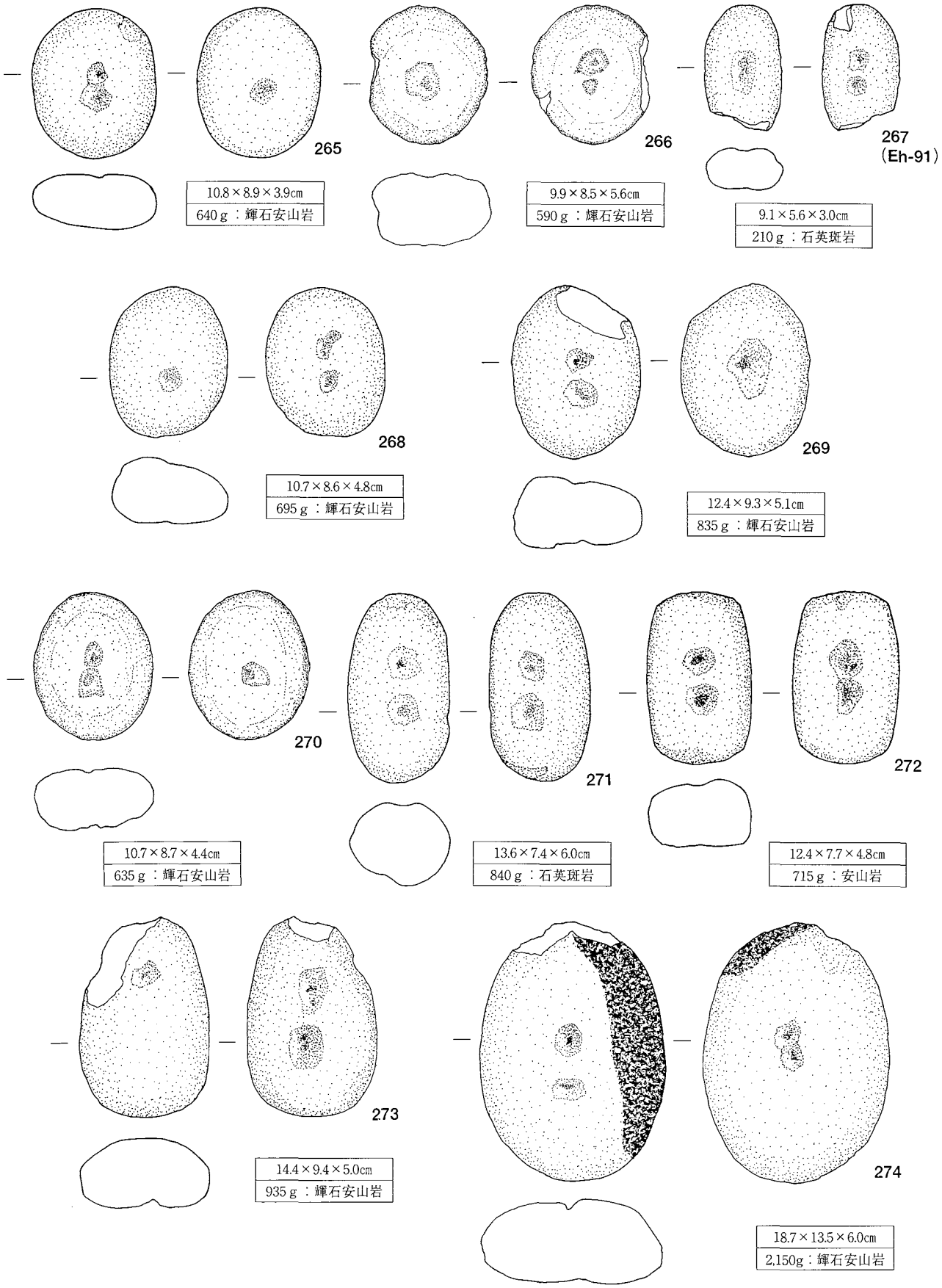
第141図　1号配石墓群出土遺物（18）



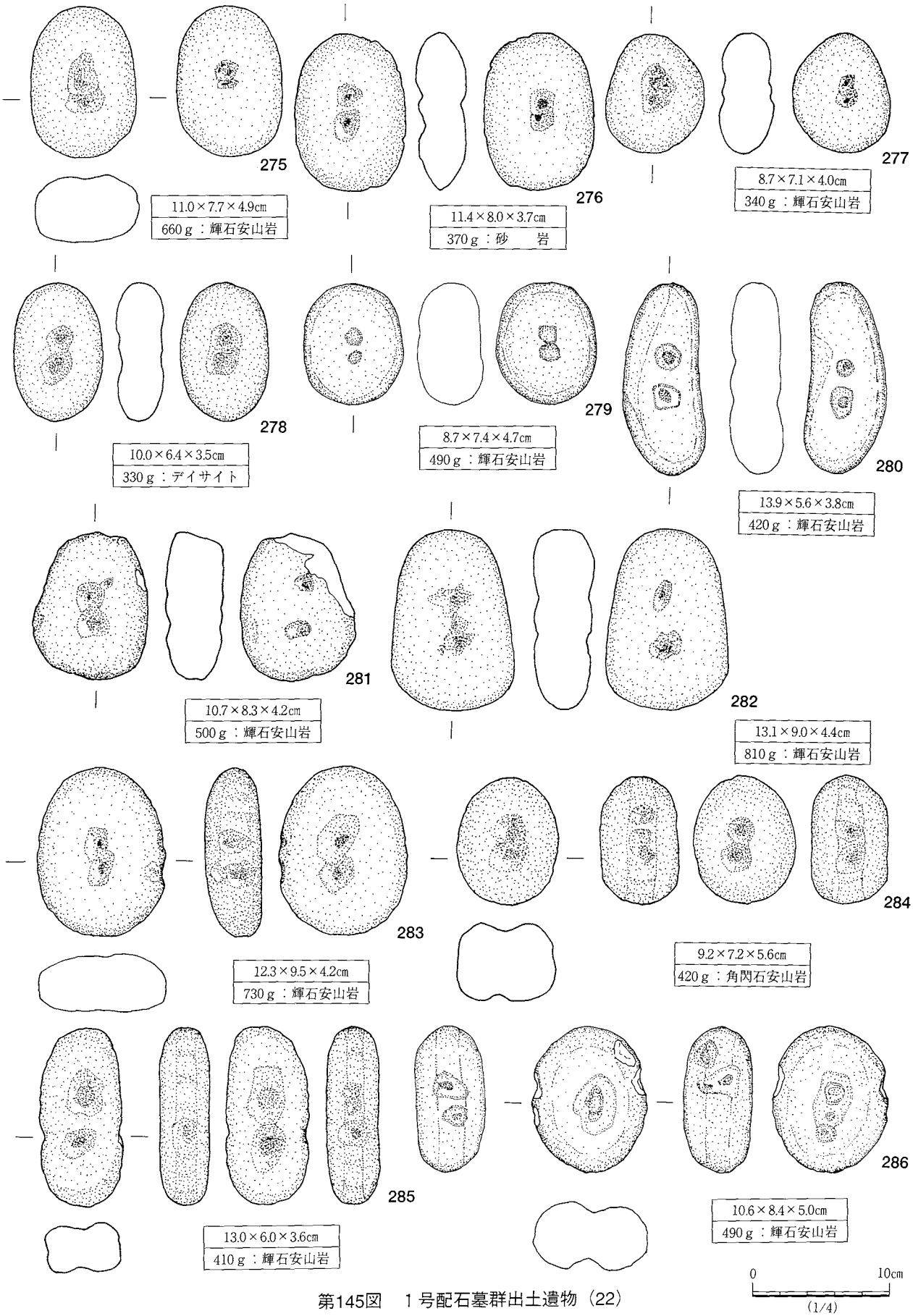
第142図　1号配石墓群出土遺物（19）



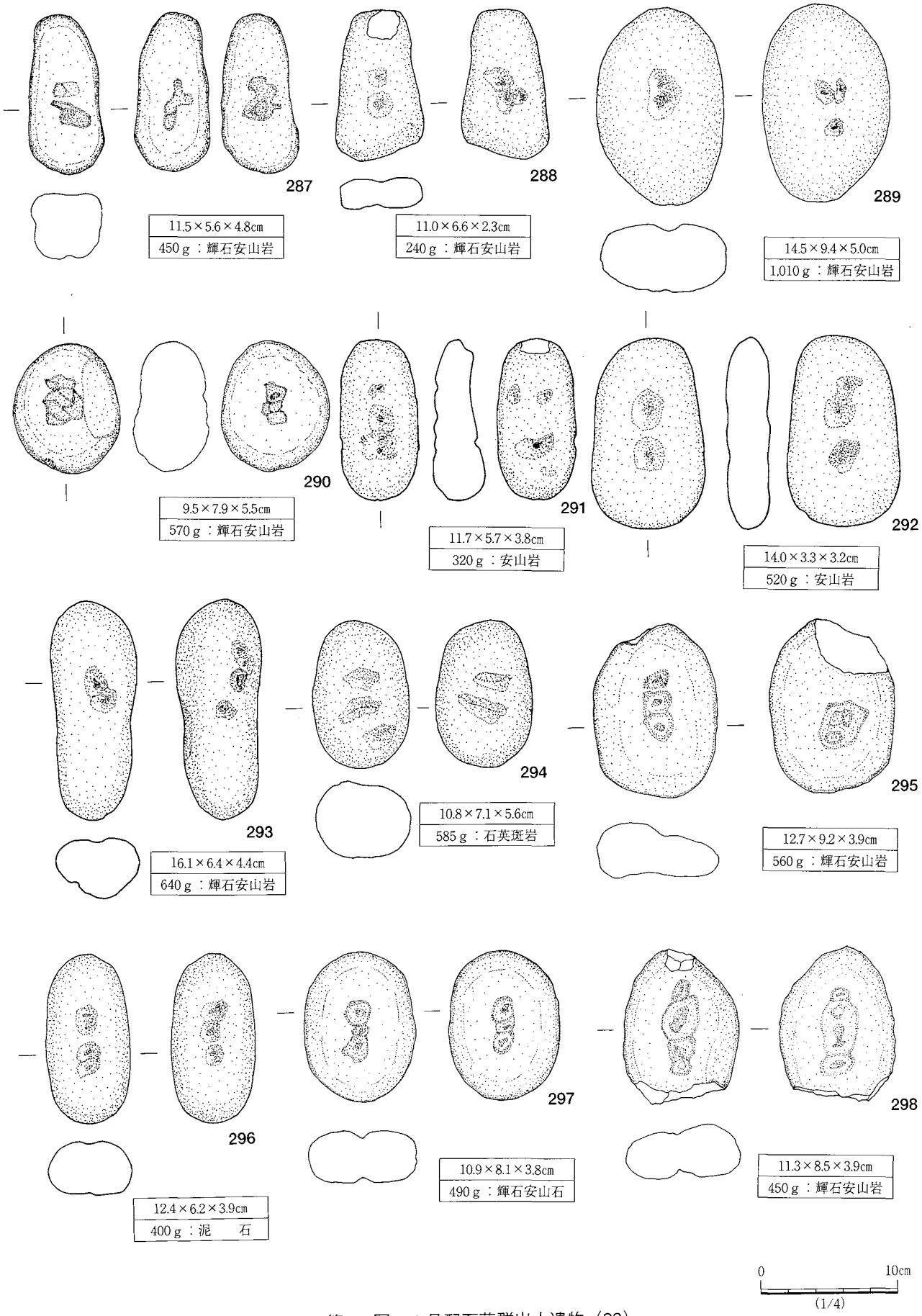
第143図　1号配石墓群出土遺物（20）



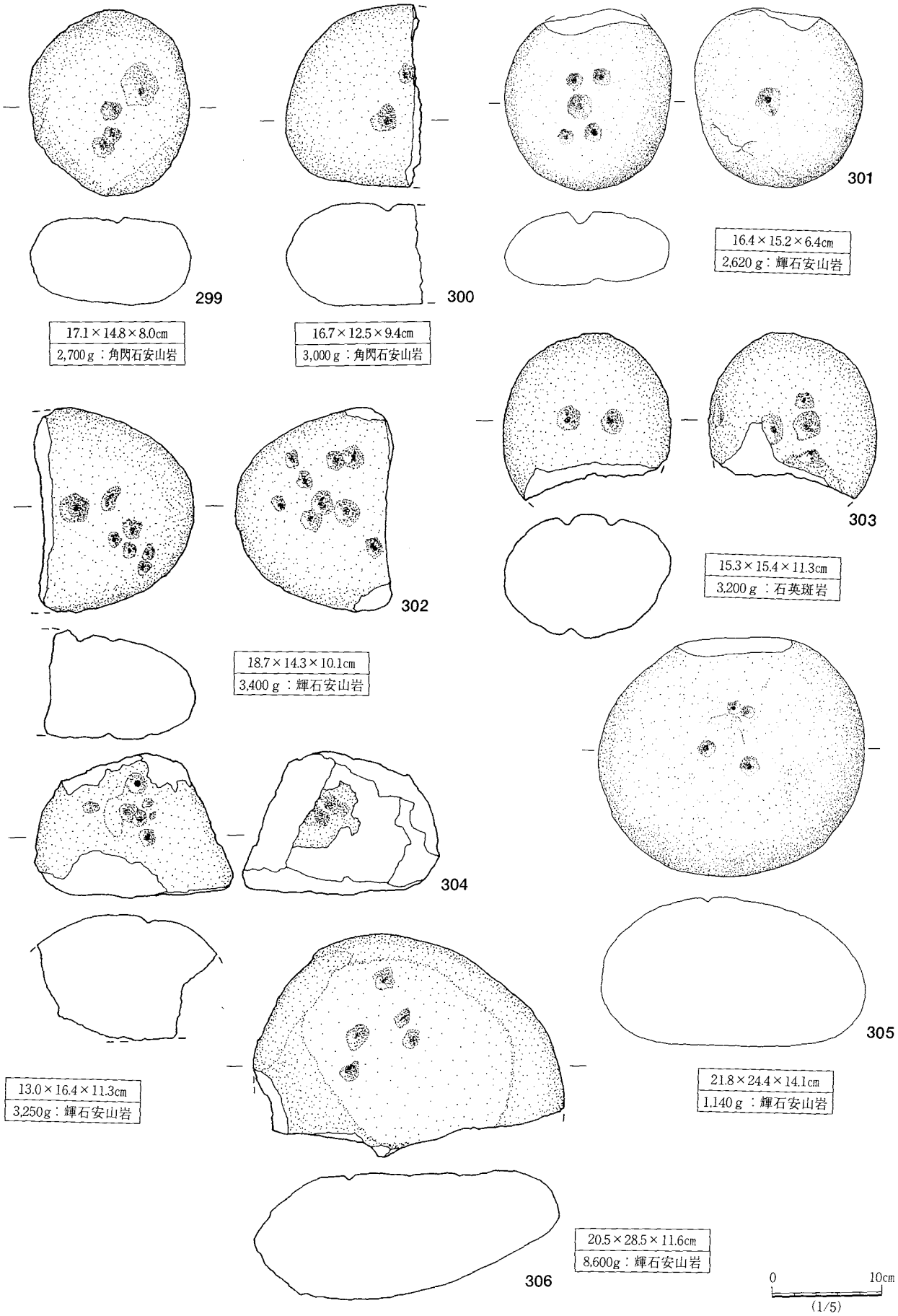
第144図　1号配石墓群出土遺物（21）



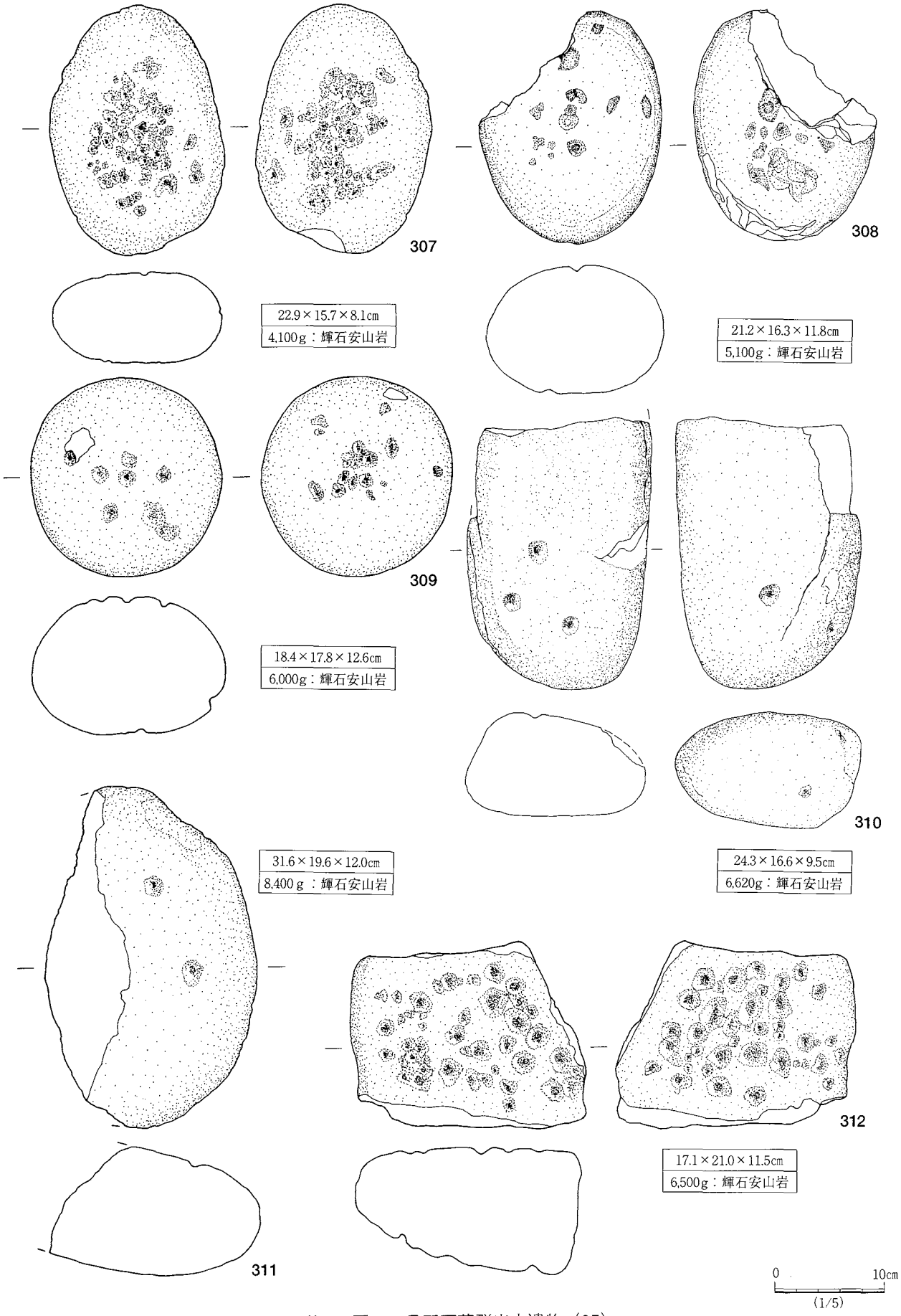
第145図　1号配石墓群出土遺物（22）



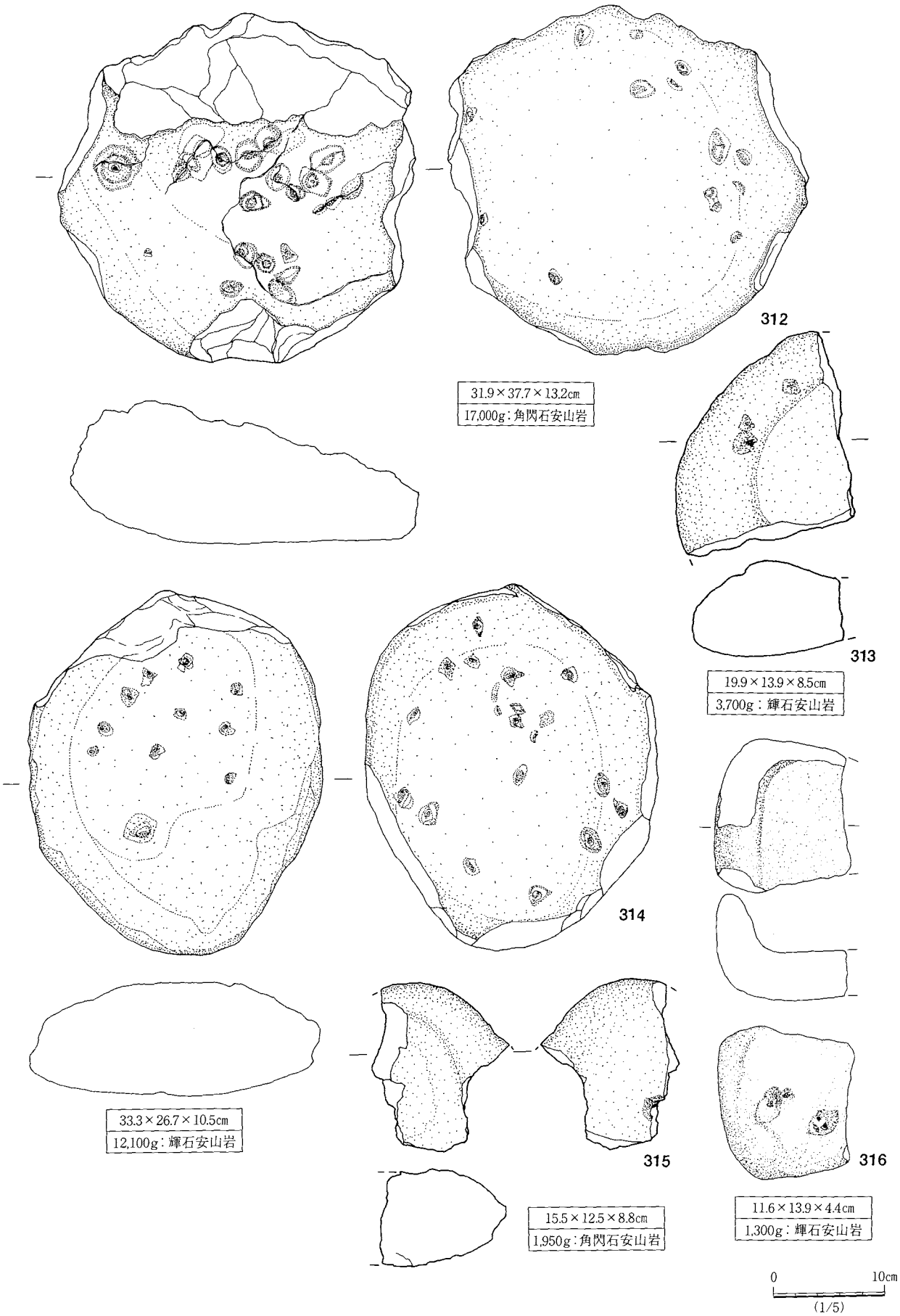
第146図　1号配石墓群出土遺物（23）



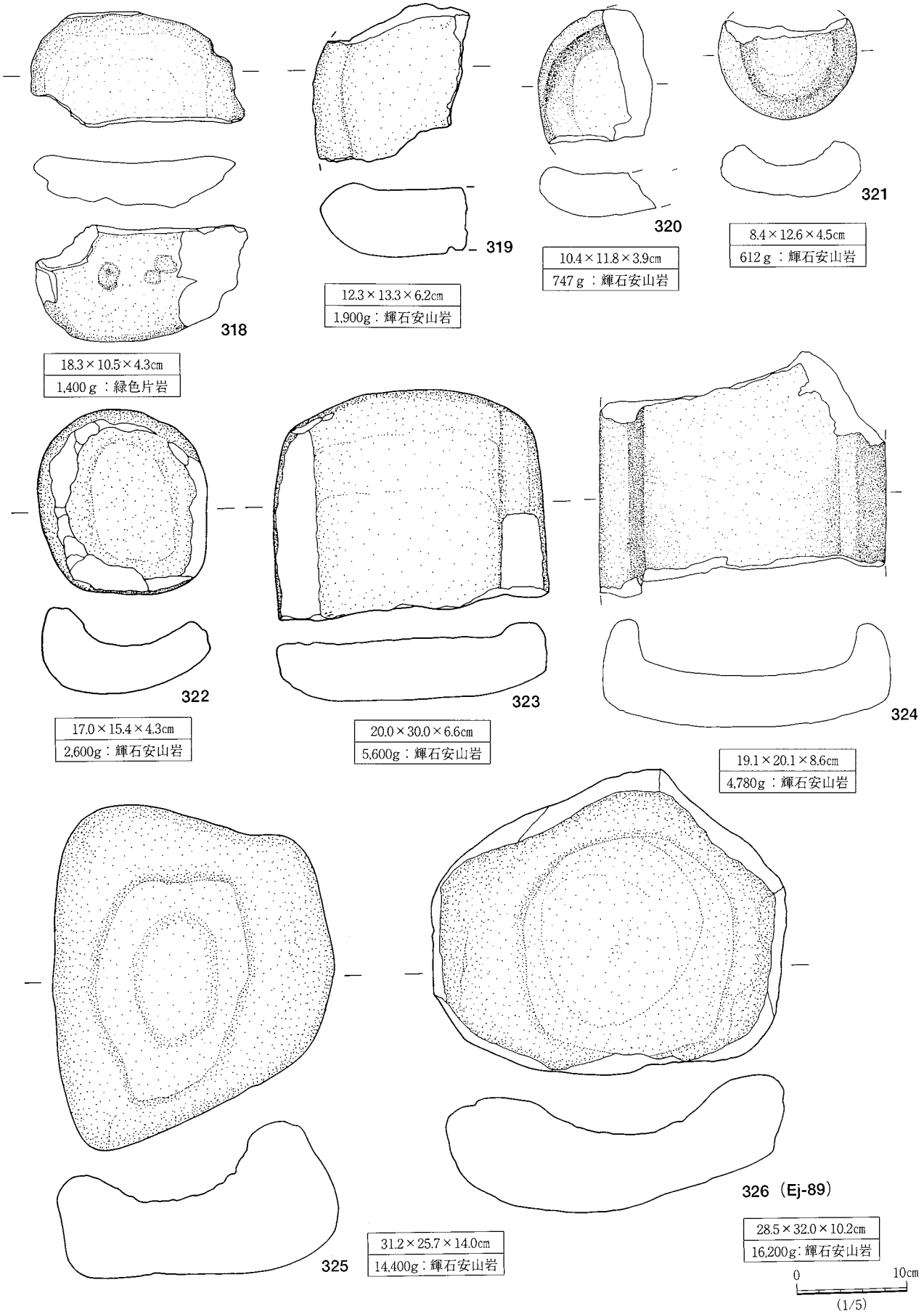
第147図　1号配石墓群出土遺物（24）



第148図　1号配石墓群出土遺物（25）



第149図　1号配石墓群出土遺物（26）



第150図　1号配石墓群出土遺物（27）

2号配石墓群

本配石墓群は、調査区のほぼ中央部に位置し、Ed－80・81、Ee－80・81、Ef－80・81、Eg－80・81グリッドにまたがって検出され、1号配石墓群とは約100m、3号配石墓群とは約150mの距離を持ち、3群の中では規模的に最も小さい遺構となっている。しかし、その構築状況は他の配石墓群と比べて、使用された礫数こそ少ないものの、緻密さが感じられる整然とした構築であった。

配石墓群は、上部配石である列石と、下部配石である配石墓により構成され、列石の構築にあたっては整地作業を行っている。明確に配石墓と判断される遺構は2－1号墓のみで、構築状況に関しても他の1・2号配石墓群とは趣を異にしている。

上部配石（列石）

列石は調査区の北東から南東へかけて緩やかに弧状を描いており、南東端が調査区外に位置する可能性があるものの、ほぼ全域が検出された状態で調査が実施されている。

全長は35mを測るが使用された礫は、大小合わせて397個と少ない。石材は、数点の流紋岩と板状の安山岩を含んでいるが、そのほとんどが偏平で丸みを持った輝石安山岩で占められている。Ee－80グリッドの列石は、第151図のCあるいはEの断面図や写真図版からもわかる様に、東下がりの緩斜面を溝状にカットし、そこへはめ込む形で礫を2段ないし3段の横積みにして石垣状に配したもので、全体に緩やかな弧状を呈する。列石の掘り方については第152図で示した通りである。更にこの石垣状の列石間には、立石が列石3個おきの等間隔で立てられていたが、下部よりは墓坑と見られる掘り込みは検出されなかった。また、列石の両端、Ed－80、Ef－80グリッドには列石と同様な礫により基部を囲い固定された所謂日時計形と称せられる立石が検出されている。

下部配石（配石墓・竪穴状遺構）

調査時において配石墓の番号を付したものは合計5基で、配石墓群の南部分に偏在して検出されている。このうち明確に石棺型を呈し、墓と認識でき得るものは2－1号墓のみで、この墓は列石の中心方向に主軸方向を持っている。2－2・3号墓は前述した日時計形の立石の下部より検出されたもので、墓として取り扱っているものの、形状的には1・3号配石墓群で検出されている墓坑とは異質な形態であり、墓坑であるか否かは判然とせず、科学分析の成果に依りたい。

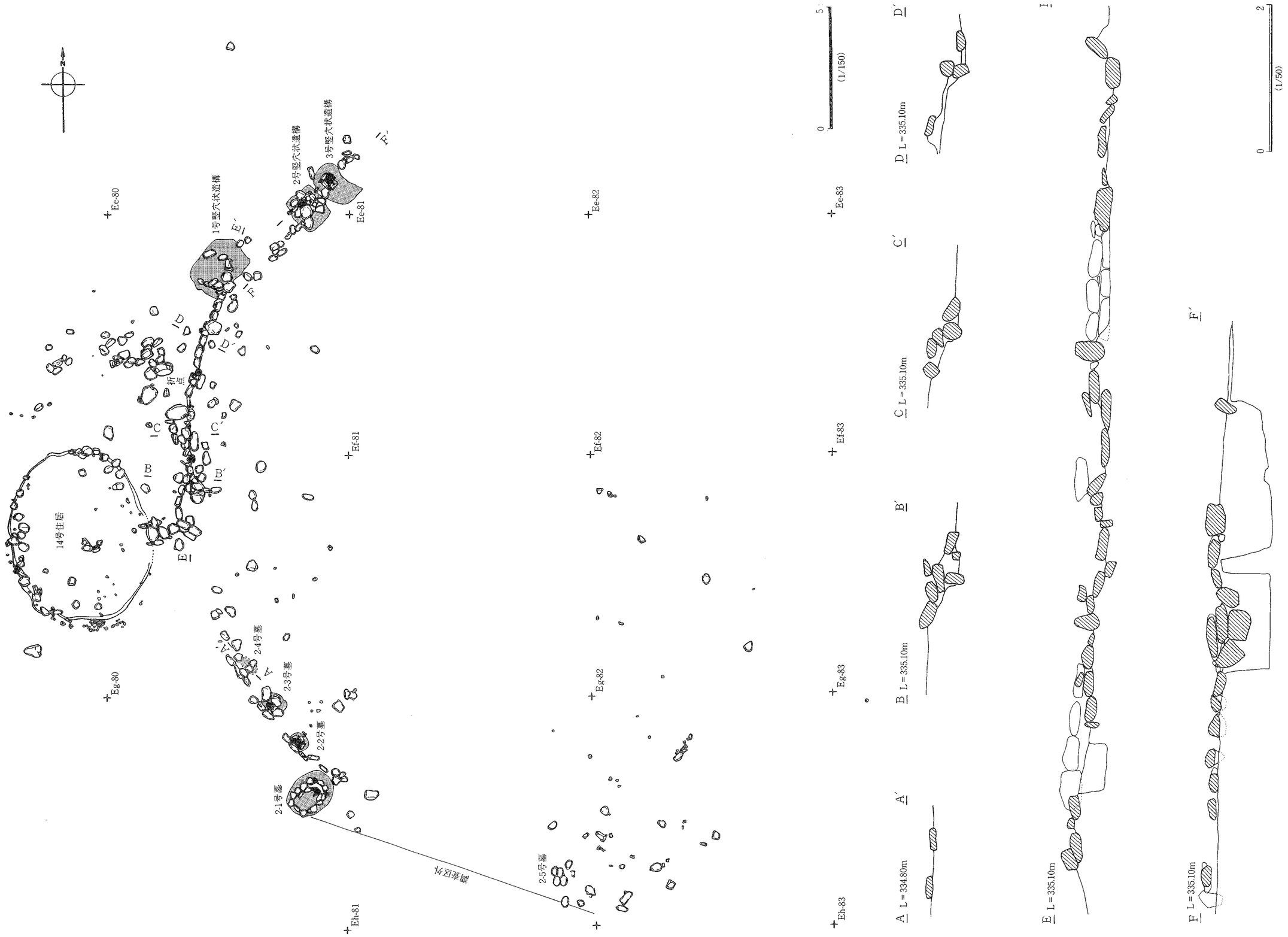
また、列石の北部分より検出された、所謂日時計形の立石の下からは、竪穴状遺構として調査を行った大形の掘り込みが確認されている。

遺物

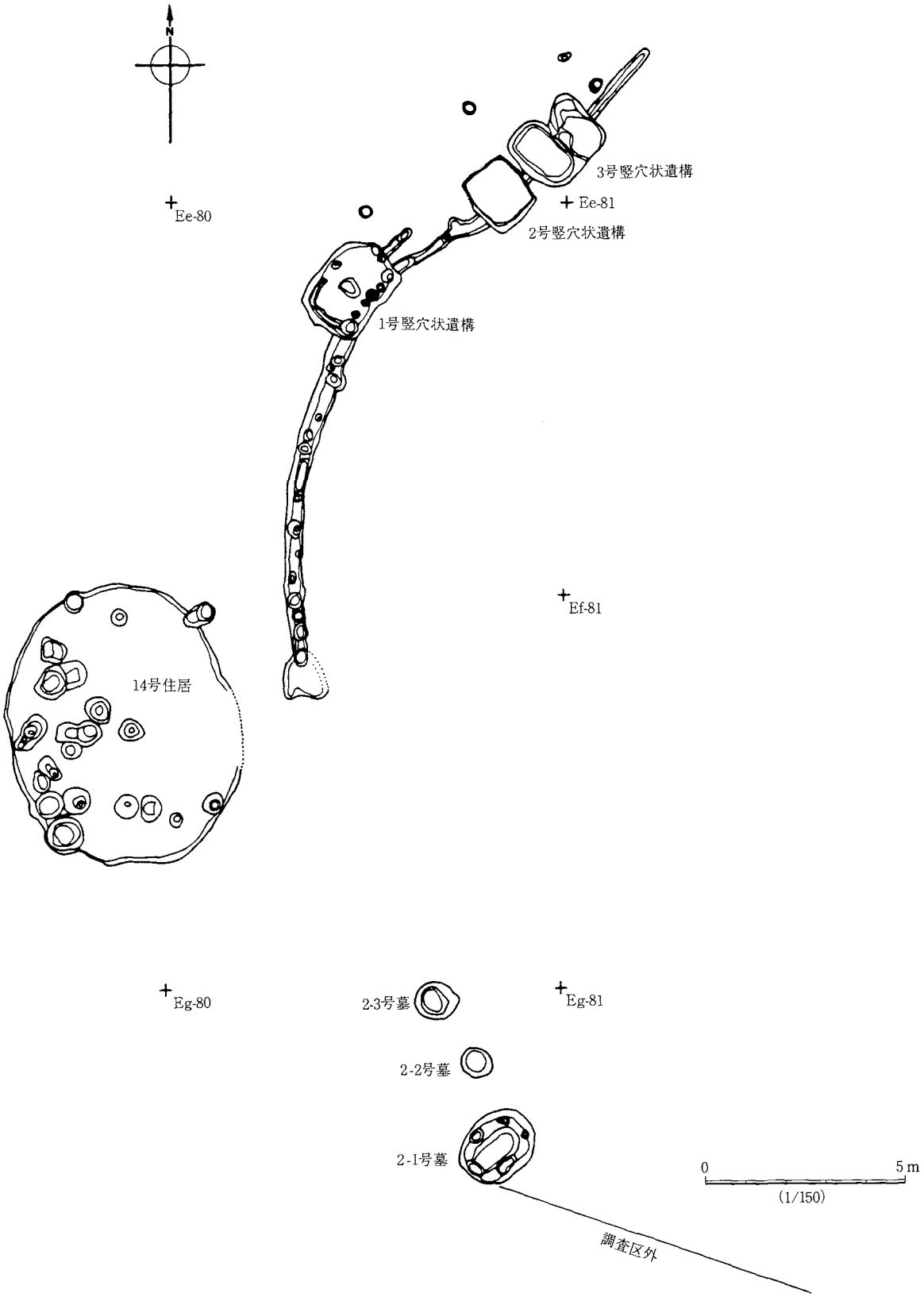
出土した遺物の大多数は土器と石器であるが、配石墓群の規模自体が小さい為か、全体的に出土量は少ない。土器については、加曽利E3式の可能性がある土器が最も古く、後期称名寺Ⅰ・Ⅱ式、堀之内1・2式が主体をなし、特に堀之内期の遺物が数量的には多い。

石器では、石棒・多孔石が出土し、特に、図版番号33の石棒の破片は、石英斑岩製で、石棒工房跡が検出されたことで知られる西野牧小山平遺跡（恩賀遺跡）生産と見られ、多孔石として再利用されている。

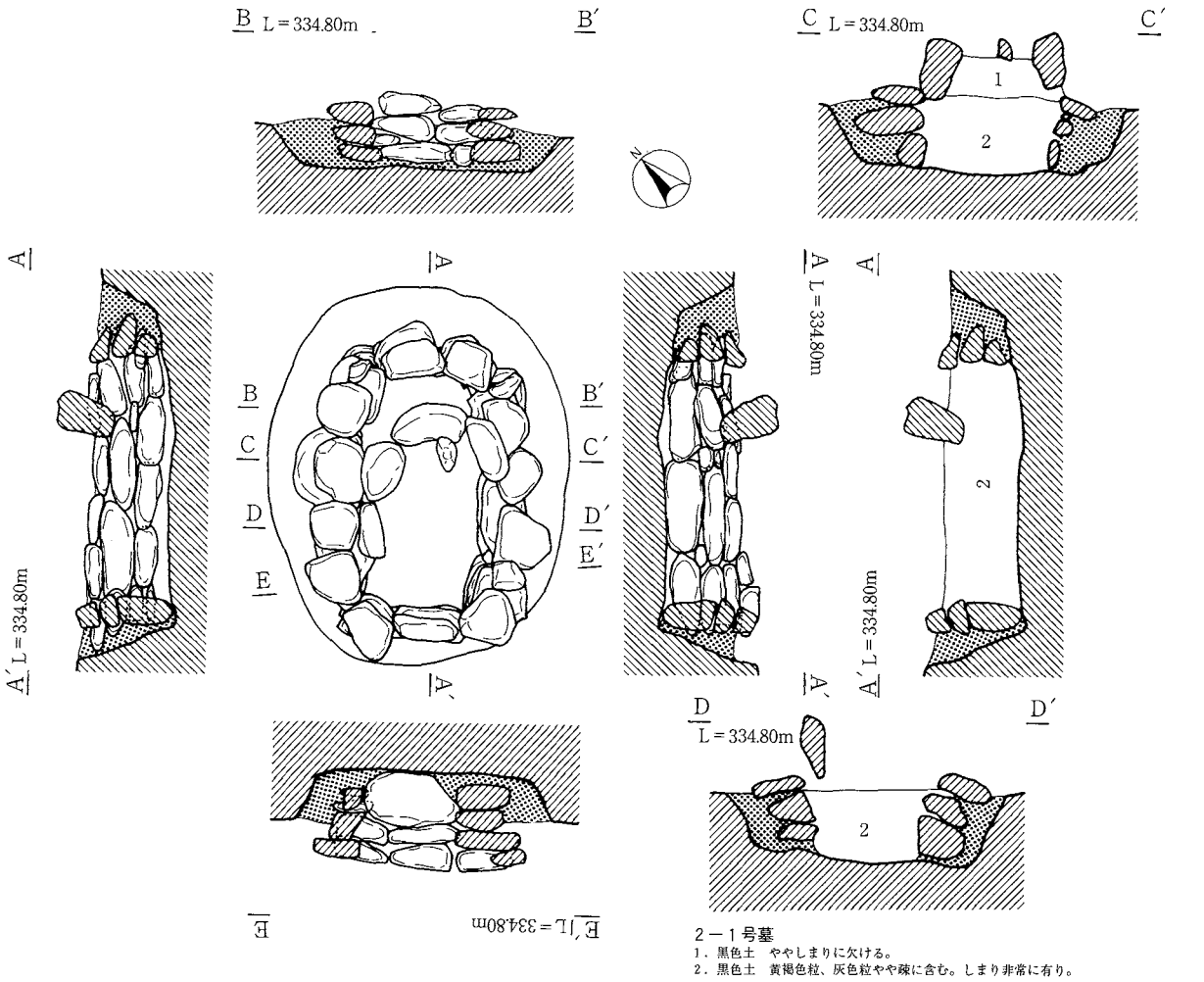
なお、本配石墓群の西側に近接して検出された14号住居跡は、出土遺物より堀之内期に比定され、外周に礫を配していた遺構、あるいは列石が張出部に相当している敷石住居の可能性があり、配石墓群との関係が示唆される。



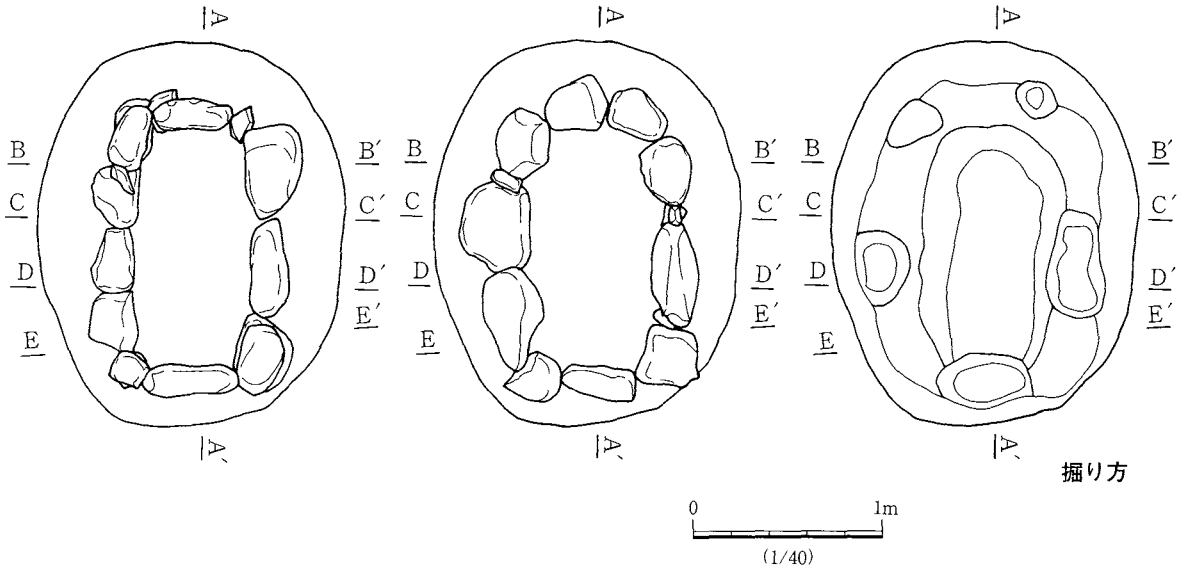
第151図　２号配石墓群列石検出状況（1/150）



第152図　2号配石墓群検出状況



2－1号墓
1．黒色土　ややしまりに欠ける。
2．黒色土　黄褐色粒、灰色粒やや疎に含む。しまり非常に有り。



第153図　2－1号墓

2－1号墓（第153図）

位置　／Eg－80グリッド。配石墓群の南部分に位置する。　切り合い関係　／なし。　分類　／Ａａ類。上部に立石状の配石が施される。　規模　／楕円形で、掘り方の長軸2.2ｍ、短軸1.4ｍ、深さ43㎝、石棺の内計は長軸1.22ｍ、短軸0.61ｍを計測する。　長軸方向　／Ｎ－41°－Ｅ。列石の中心方向と一致する。　覆土　／人為堆積で、上部に検出されている立石状の配石部分を含めると上下２層に分層される。石棺内の堆積は黄褐色粒・灰色粒を含んだ黒色土が単層で確認される。　配石　／楕円形に掘り込み、石棺を構築する。構築方法については完成状態から構築段階がわかる様にさかのぼる形で図示している。石棺は３段積みで最下段には長計24～60㎝、短計15～38㎝、厚さ10～22㎝、重さ3.6～31.2kgの偏平で丸味を持った安山岩を横積みで設置し、中段には長計10～56㎝、短計14～30㎝、厚さ11～18㎝、重さ4.0～46.8kgの下段と同様な安山岩を、上段は長計18～36㎝、短計16～26㎝、厚さ８～10㎝、重さ10.1～42.0kgの偏平で丸味のある安山岩を用いている。　遺物　／なし。

2－2号墓（第154図）

位置　／Eg－80グリッド。配石墓群の南部分に位置し、直線的に並ぶ列石の下部にあたる。　切り合い関係　／なし。　分類　／配石墓というよりは所謂日時計形立石の立石が低くなった形状である。　規模　／円形で、掘り方の長軸0.78ｍ、短軸0.73ｍ、深さ28㎝、石棺の内計は長軸0.38ｍ、短軸0.25ｍである。　長軸方向　／Ｎ－50°－Ｗ。　覆土　／人為堆積で、黄褐色粒・灰色粒をまばらに含んだ黒褐色土が単層で確認される。　配石　／楕円形に掘り込み、長計33.0㎝、短計25.0㎝、厚さ22.0㎝、重さ38.4kgの立石状の安山岩を中心に長計16.0～58.0㎝、短計11.0～24.0㎝、厚さ4.5～17.0㎝、重さ1.2～33.5kgの安山岩を配する。　遺物　／剥片石器が１点出土している。

遺物

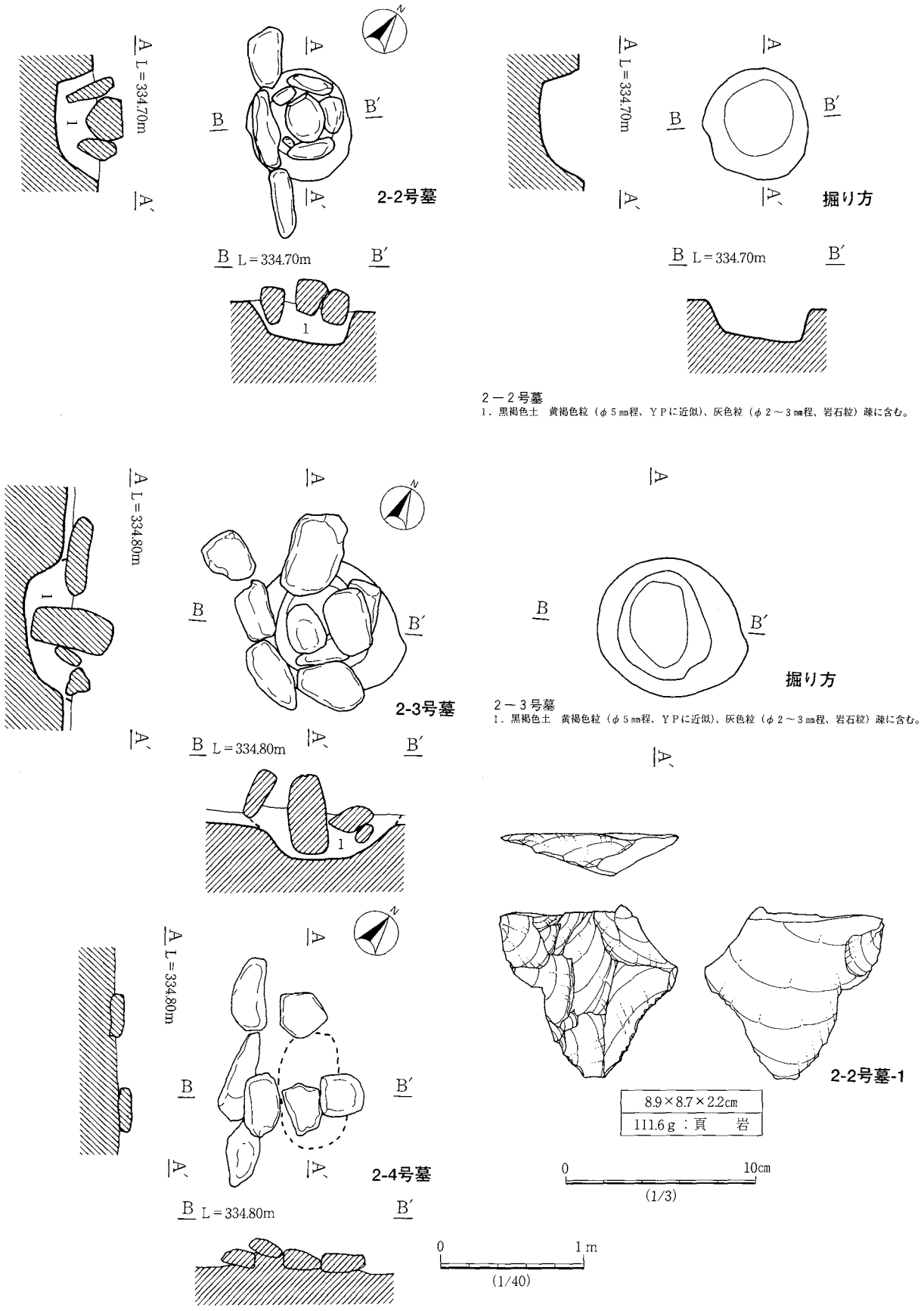
１は、頁岩製の剥片石器である。

2－3号墓（第154図）

位置　／Eg－80グリッド。配石墓群の南部分に位置し、直線的に並ぶ列石の下部にあたる。　切り合い関係　／なし。　分類　／配石墓というよりは所謂日時計形立石に類似する形状である。　規模　／円形で、掘り方の長軸1.04ｍ、短軸0.97ｍ、深さ33㎝、石棺の内計は長軸0.50ｍ、短軸0.40ｍである。　長軸方向　／Ｎ－23°－Ｗ。　覆土　／人為堆積で、黄褐色粒・灰色粒をまばらに含んだ黒褐色土が単層で確認される。配石　／楕円形に掘り込み、長計57㎝、短計29㎝、厚さ27㎝、重さ78kgの立石状の安山岩を中心に長計46～52㎝、短計21～27㎝、厚さ14～18㎝、重さ20～35kgの安山岩を配する。　遺物　／なし

2－4号墓（第154図）

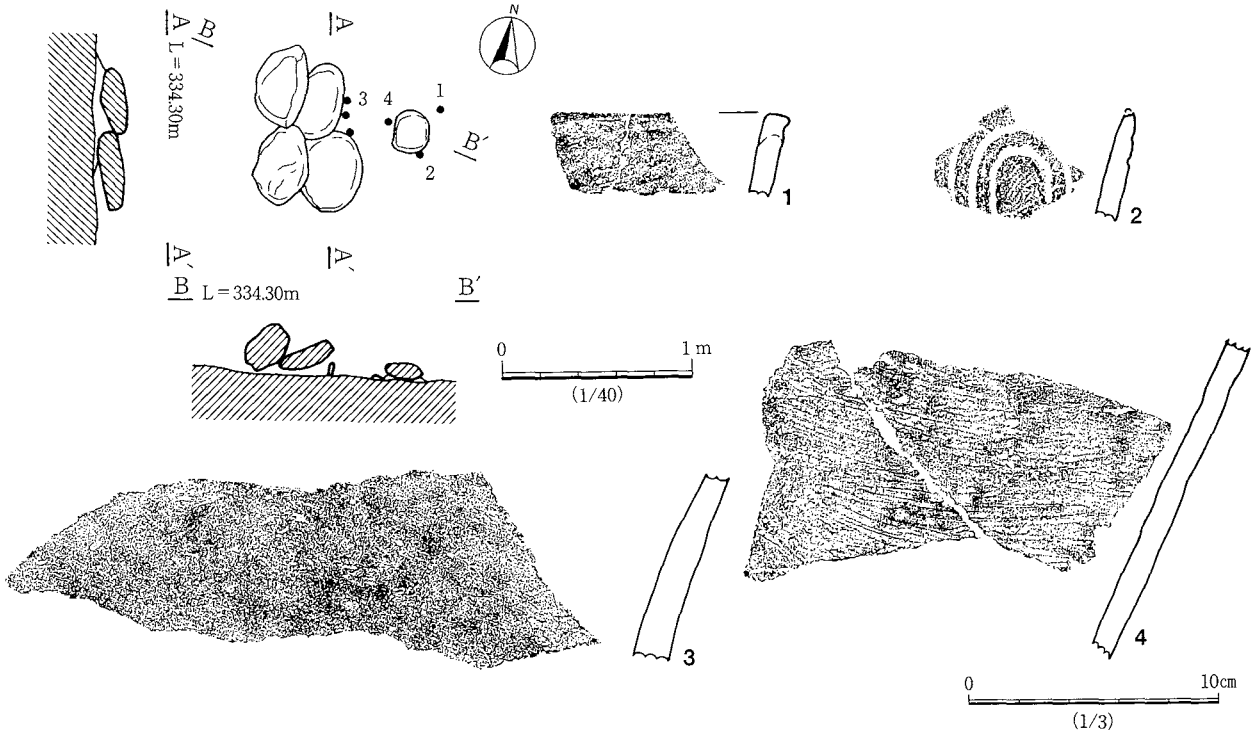
位置　／Ef－80グリッド。配石墓群の南部分に位置する。調査時において、遺構が黒色土層に構築されている為掘り込みは確認されず配石のみの検出である。　切り合い関係　／なし。　分類　／不明。　規模　／不明。　配石　／長計33～63㎝、短計25～27㎝、厚さ14～23㎝、重さ13.4～49.8kgの礫を配する。　遺物　／なし。



2－2号墓
1．黒褐色土　黄褐色粒（φ5㎜程、ＹＰに近似）、灰色粒（φ2～3㎜程、岩石粒）疎に含む。

2－3号墓
1．黒褐色土　黄褐色粒（φ5㎜程、ＹＰに近似）、灰色粒（φ2～3㎜程、岩石粒）疎に含む。

第154図　2－2・3・4号墓、2－2号墓出土遺物



第155図　２－５号墓・出土遺物

２－５号墓（第155図）

位置　／Eg－81グリッド。配石墓群の南部分に位置する。調査時において、遺構が黒色土層に構築されている為掘り込みは確認されず、配石墓として取り扱っているが詳細は不明である。　切り合い関係　／なし。　分類　／不明。　規模　／不明。　配石　／長計39～43㎝、短計24～29㎝、厚さ11～16㎝、重さ21.0～31.6kgの礫を配する。　遺物　／周辺より図示した土器が４点出土している。２が加曽利Ｂ１式に比定される他はいずれも後期の範疇に納まる。

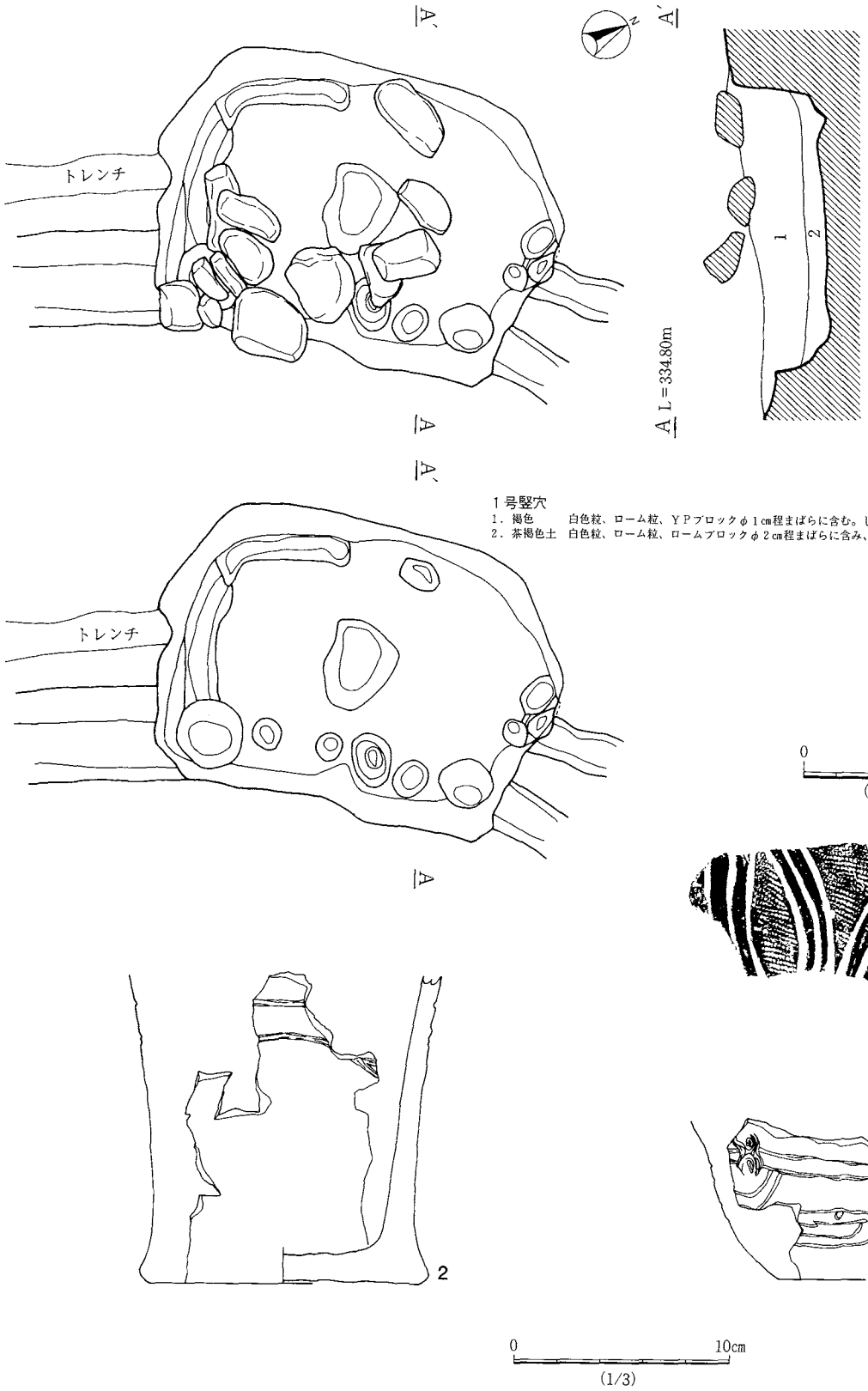
遺物

１は、平縁口縁の深鉢と思われる。口唇部は平坦で僅かに内傾する。胎土は砂粒・片岩を多量に含み、焼成は普通で、色調は褐色である。

２は、胴部が直線的に開く深鉢で、沈線により区画を施し、区画内に細かい縄文（ＬＲ）を充填する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調はにぶい橙色である。

３は、粗製の深鉢で、内外面共に研磨を施す。胎土は砂粒を少量含み、焼成は普通で、色調はにぶい橙色である。

４は、粗製の深鉢で、内外面共に横位の研磨を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黄土色から褐色である。



1号竪穴
1．褐色　白色粒、ローム粒、ＹＰブロックφ１cm程まばらに含む。しまり有。粘性弱。
2．茶褐色土　白色粒、ローム粒、ロームブロックφ２cm程まばらに含み、ＹＰ粒数点含む。しまり。粘性あり。

第156図　１号竪穴状遺構・出土遺物

1号竪穴状遺構（第156図）

位置　／Ee－80グリッド。列石の北部分に位置する。　切り合い関係　／上部に配石が覆い列石と接続する。　規模　／長軸2.52ｍ、短軸1.75ｍ、深さ48cmを計測し、大形の長方形を呈する。底面は全体的にほぼ平坦で、中央に長径55cm、短径46cm、深さ10cmの楕円形状の掘り込みを伴う。また、東壁下には直径16～50cm、深さ８cm前後の小ピットが、南壁から西壁中ほどの壁下には、幅21cm、深さ８cmの壁溝状の掘り込みが観察される。　長軸方向　／Ｎ－45°－Ｅ。　覆土　／人為堆積で褐色土・茶褐色土の上下２層に分層され、いずれも白色粒・ローム粒・ＹＰ粒あるいはＹＰブロックを含み、人為堆積と判断される。　遺物　／３点の土器が覆土中より出土している。

遺物

１は、鉢の胴部片である。外面は沈線による区画を施し、区画内には細かい縄文を充填する。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

２は、深鉢の胴部下端片である。外面に沈線による文様が構成される。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

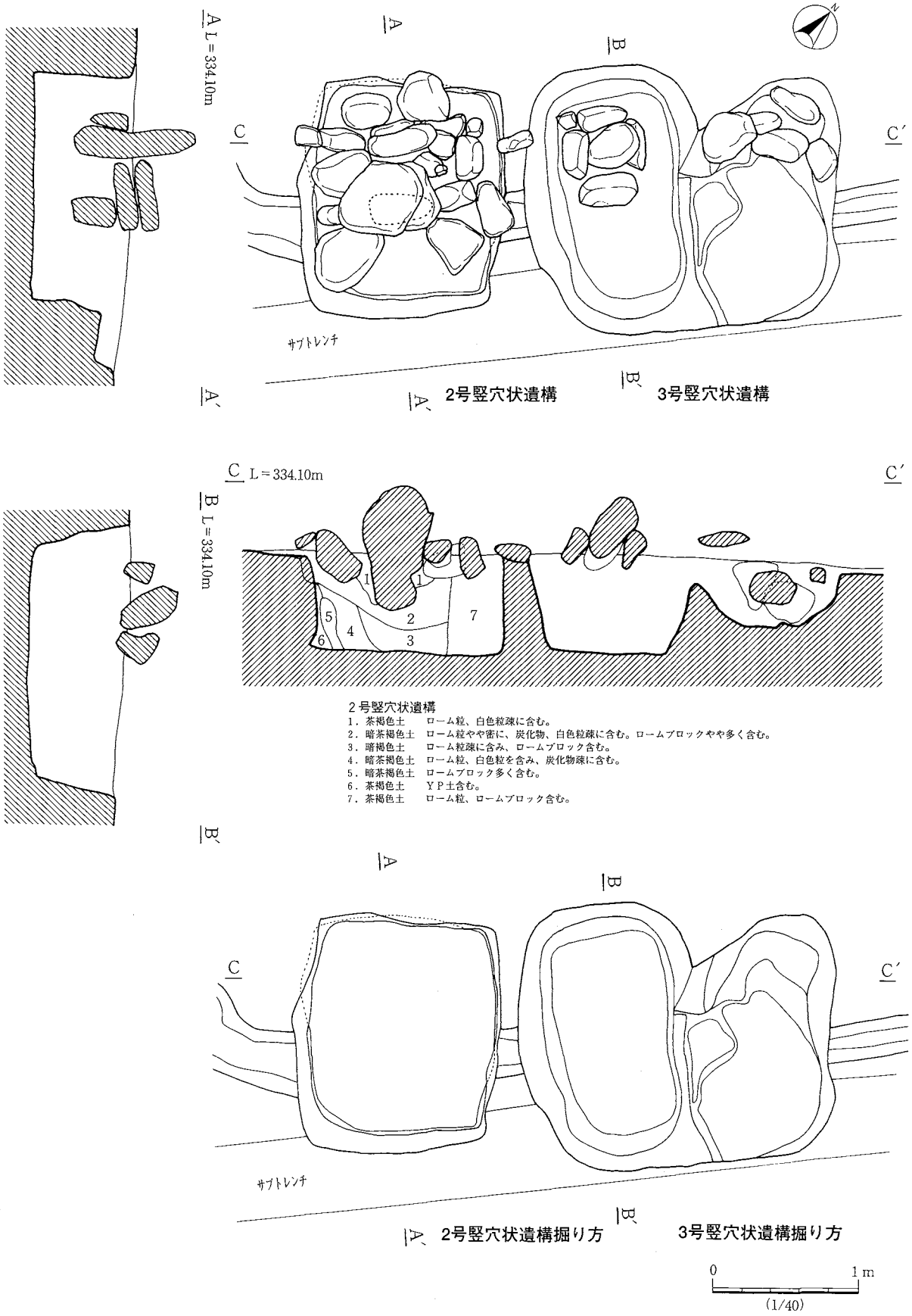
３は、鉢の胴部片である。外面は沈線による区画を施し、区画内には細かい縄文を充填する。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

2号竪穴状遺構（第157図）

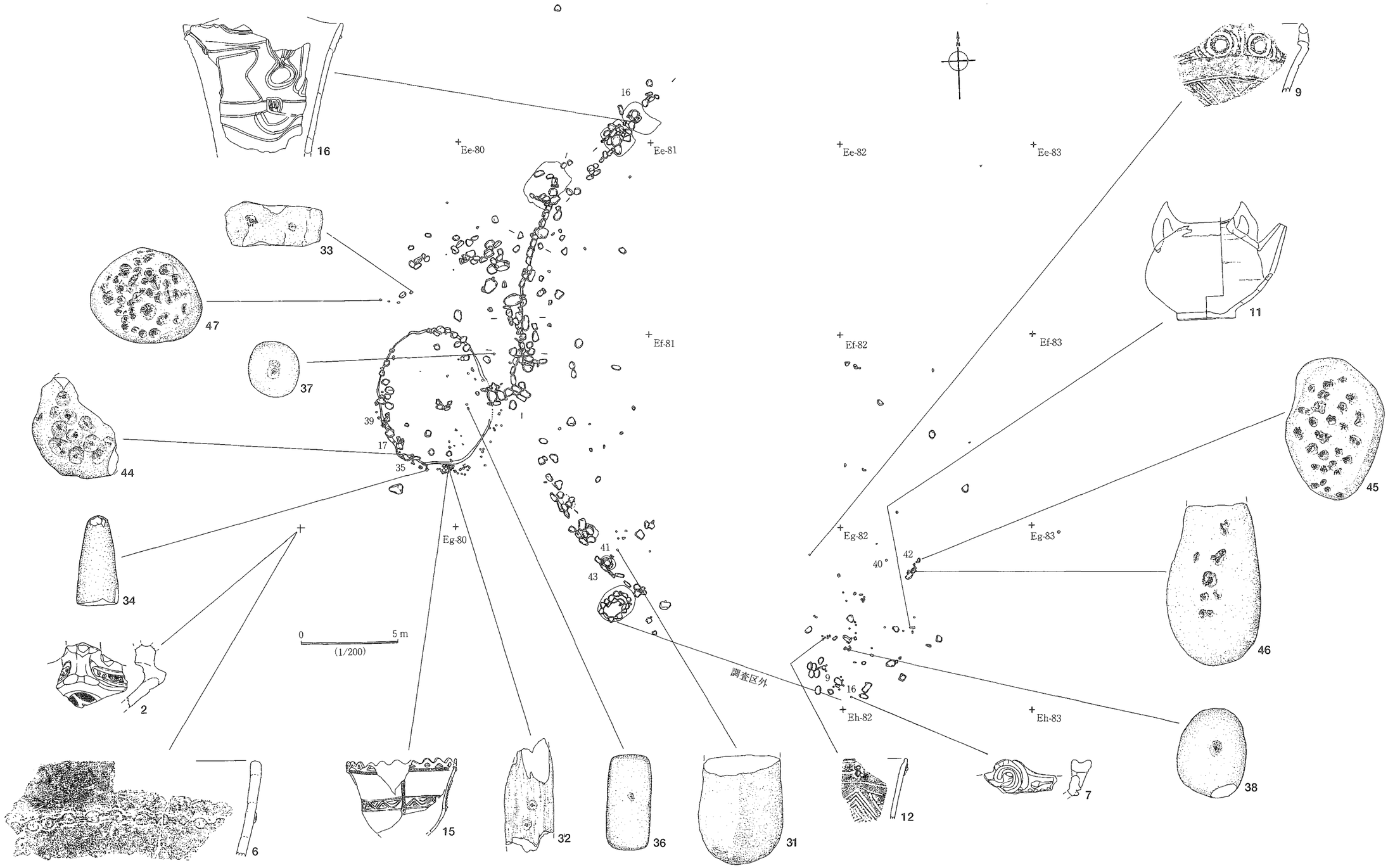
位置　／Ee－80・Ed－80グリッド。列石の北部分に位置し、３号竪穴状遺構と隣接する。　切り合い関係　／上部に所謂日時計形立石が構築される。　規模　／長軸1.66ｍ、短軸1.46ｍ、深さ70cmを計測し、方形を呈する。底面は全体的にほぼ平坦である。　長軸方向　Ｎ－42°－Ｗ。　覆土　／人為堆積で茶褐色土・暗茶褐色土・褐色土が７層に分層され、このうち２・７層からはまばらではあるが炭化物の含有が確認される。　配石　／直立した状態で検出された長計86cm、短計48cm、厚さ18cm、重さ100kg以上を計測する大形の立石を中心として基部に礫を配する。この際基部の礫は断面図からも窺われる様に立てた状態で方形状に配置し、その上に礫を横積みにしている。

3号竪穴状遺構（第157図）

位置　／Ed－80・81グリッド。列石の北部分に位置し、２号竪穴状遺構と隣接する。　切り合い関係　／上部に所謂日時計形立石が構築され、北側に風倒木状の痕跡が見られる。　規模　／長軸1.85ｍ、短軸1.25ｍ、深さ70cmを計測し、隅々に丸みを持った方形を呈する。底面はほぼ平坦である。　長軸方向　／Ｎ－45°－Ｗ。　覆土　／人為堆積を示す。　配石　／長計60cm、短計36cm、厚さ24cm、重さ60kgを計測する立石を中心として基部に礫を方形状に配置する。



第157図　２・３号竪穴状遺構



第158図　2号配石墓群遺物出土状況（1/200）

2号配石墓群出土遺物

本項においては、2号配石墓群周辺の包含層及び列石から出土した遺物を取り扱った。他の配石墓群と比較して規模的に最も小さい為か、出土遺物も相対的に少量であった。

掲載した土器のうち1は加曽利E3式の可能性があり、2・3は称名寺Ⅰ式、4～6は称名寺Ⅱ式、7～10は堀之内1式、11～17は堀之内2式、18～24は後期の範疇にそれぞれ包括されるものである。

1は、深鉢の口縁部片である。口縁部に沿って幅広の隆帯を巡らし、胴部に逆U字状の平行する懸垂文を施して、区画内に粒の大きな縄文を施文する。胎土は細砂粒を含み、焼成は良好で、色調は灰褐色である。

2は、突起を持つ深鉢と思われる。突起は橋状で、口縁部は強く内傾し、外面に沈線で区画文を施して、区画内に縄文（RL）を充填施文後、円形刺突文を施す。胴部は沈線で曲線的文様を描き縄文を充填する。胎土は細砂粒を含み、焼成は普通で、色調はにぶい橙色である。

3は、深鉢の把手である。把手上面に沈線と刺突でC字状文を施し、裏面は隆帯により文様を構成する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

4は、口縁部が内湾しながら開く深鉢である。口唇部が内折し、内面が突出する。口縁にはつぶれた橋状把手が付き、把手中央から刻目が付く隆線が垂下する。文様は2本の沈線のみで構成され、内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

5は、口縁部が外反し、口唇部が内折する深鉢である。外面に2本の沈線で文様を描き、内外面は研磨する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

6は、胴部が直線的に開く深鉢である。口縁部に指頭状押圧を加えた隆線を施し、内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

7は、深鉢の口縁部突起で、中央に円孔を施す。円孔の周囲に幅広の沈線を巡らし、沈線の両端に円形刺突を施す。口縁部に沿って両端に円形刺突を施した沈線を巡らし、下位に円形刺突を連続施文する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黄土色である。

8は、頸部が括れ口縁部が外反する深鉢である。口唇部の内外面に各々1条の沈線が巡る。口縁部は無文とし頸部に沈線を施す。内外面共に研磨する。胎土は細砂粒を含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

9は、波状口縁の深鉢で口縁突起部片である。山形の突起部に1対の円孔を穿つ。円孔の周囲には沈線を巡らし、口縁に沿って1本の沈線を施すと思われる。口縁部下に無文帯をもち、下位に直線的文様を施文する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

10は、頸部が括れる波状口縁部の深鉢で、口唇部は内折し突出する。外面に列点状刺突を伴う平行沈線で文様を施す。内面は研磨する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

11は、注口土器で注口部と把手が欠損する。やや下ぶくれの体部に小さく外傾する口縁部が付く。1対の橋状把手を付すが注口部と共に欠損する。口唇部内面に1本の沈線が巡る以外は無文である。突出する底部には網代痕が付く。外面は研磨、内面は撫でる。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

12は、深鉢の口縁部片で、短く内傾する。口縁部直下に円形刺突で表現した8の字状貼付文と、押圧を施した隆帯を巡らせ、下位に沈線で幾何学文を施し、区画内に縄文（LR）を充填施文する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黒褐色である。

13は、注口土器の口縁部から注口部片である。橋状把手の正面は板状を呈し、弧状の沈線を1本施す。胴部は沈線で文様を描き、縄文（RL）を充填施文する。内外面は研磨する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒色である。

14は、注口土器の把手部である。橋状を呈し、正面は８の字状と思われる。外面に丁寧な研磨を施し、内面は横位の削り状を呈する。胎土は微砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

15は、胴部がくの字状に内折し、口縁部が開く鉢である。内折する口唇部には透かしの付く鋸歯状の突起が付き、口唇部直下を巡る刻目を施した隆線から、同隆線を胴部内折まで垂下させ、端部に２つの円形刺突を施し８の字文を表現する。口縁部は無文とし、胴部内折部直上に沈線で鋸歯状三角文を帯状に施す。内外面は研磨され、外面に黒漆と思われる塗彩が一部残る。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒色である。

16は、胴部上半が外反する深鉢で、文様は沈線区画内に施した隆線による大きな８の字状の文様を中心に構成する。内面は軽く研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

17は、深鉢の胴部下半片である。胴部下半には帯縄文（ＬＲ）を施し、内外面は研磨する。底部に網代痕が付く。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

18は、注口土器の注口部片である。器面は研磨される。胎土は細砂粒を少量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

19は、注口土器の注口部片で、基部上面に隆帯を貼付する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

20は、注口土器の注口部片である。器面は研磨し、注口下面の基部に円形刺突を施した貼付文を施すと思われる。胎土は細砂粒を含み、焼成は普通で、色調は黄土色から黒色である。

21は、胴部上半が内湾する壺状の器形か。口縁部に橋状把手を付し、外面は軽く研磨、内面は粗い撫でを施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黒褐色である。

22は、ミニチュア土器で、器面に雑な撫でを施す。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黄土色から暗褐色である。

23は、ミニチュア土器で、器面に撫でを施す。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黄土色である。

24は、深鉢の底部で、網代痕を残す。胴部外面に丁寧な研磨を施す。胎土は細砂粒を含み、焼成は不良で、色調はにぶい橙色である。

25～47は、石器である。

25・26は、打製石斧片である。

27は、シルト岩製の石核である。

28は、輝緑岩製の磨製石斧で、刃部を欠損する。

29は、雲母片岩製の石錘である。

30は、砂岩製の有溝砥石である。

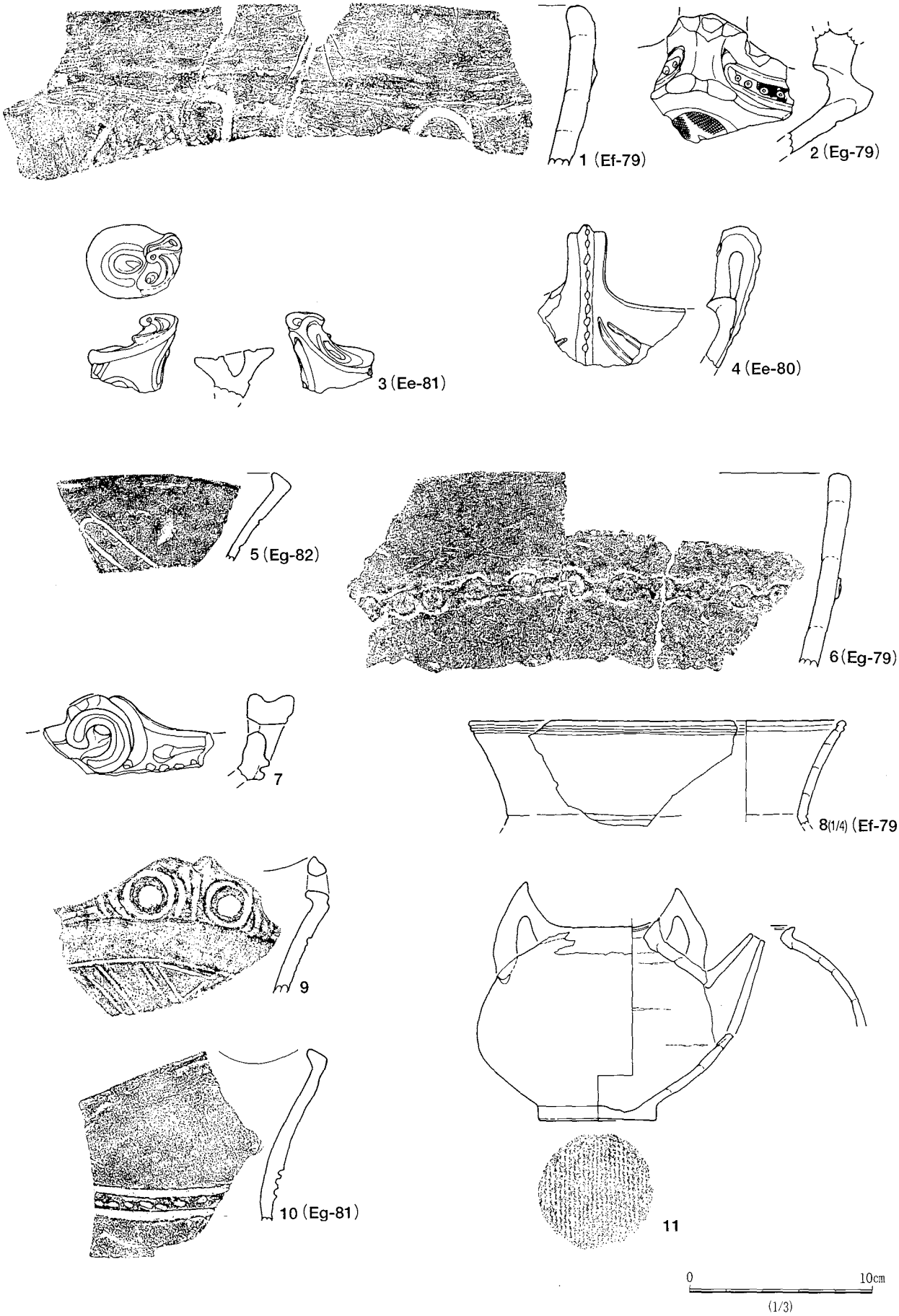
31・32は、石棒状遺物の破片で、それぞれ石英斑岩・緑色片岩を素材とし、表面に凹みが確認される。

33は、石棒の破片で、石英斑岩を素材とし、石棒工房跡である西野牧小山平遺跡（恩賀遺跡）で製作されたものと見られる。石棒としての用途を果たさなくなった時点で側面に孔が穿たれ再利用されたと見られる。

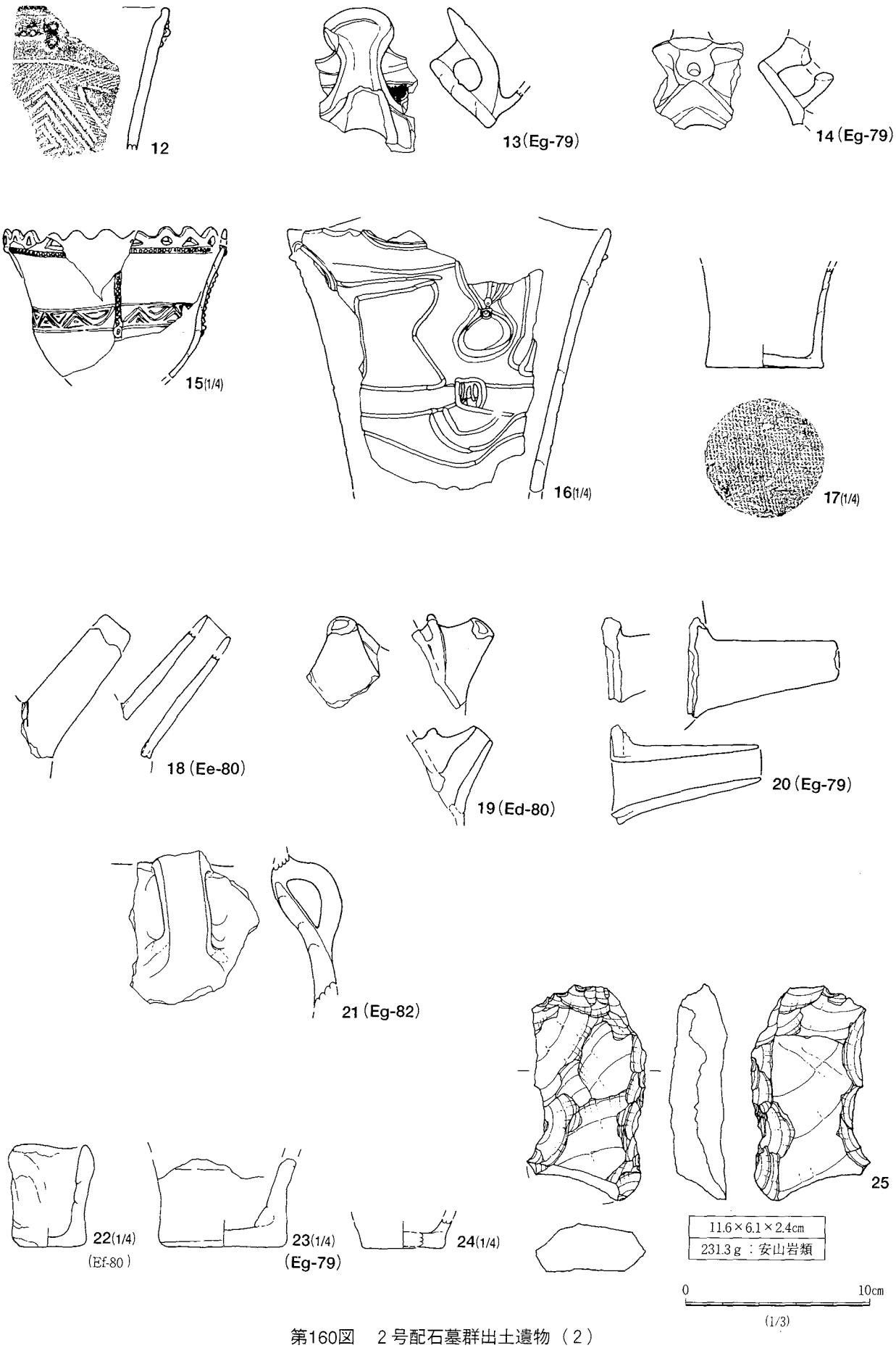
34は、玄武岩製？の敲石である。

35～43は、磨石及び凹石で、いずれも輝石安山岩を素材としているが、36のみは角閃石安山岩？を素材とし、形状も方形であるなど他の遺物とは異質であった。

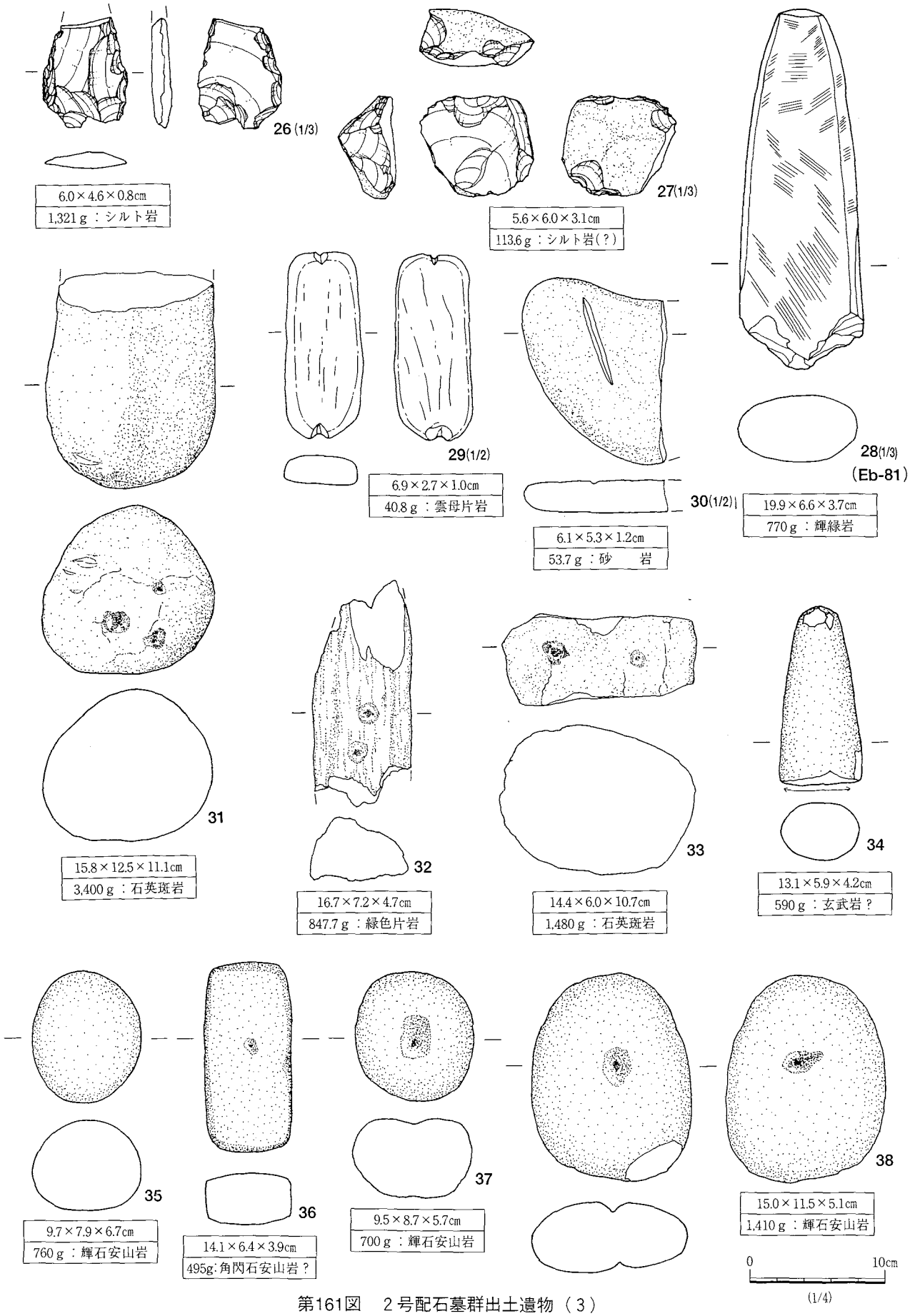
44～47は、多孔石で、いずれも大形で、46番を除いて表裏両面に凹みが確認されている。



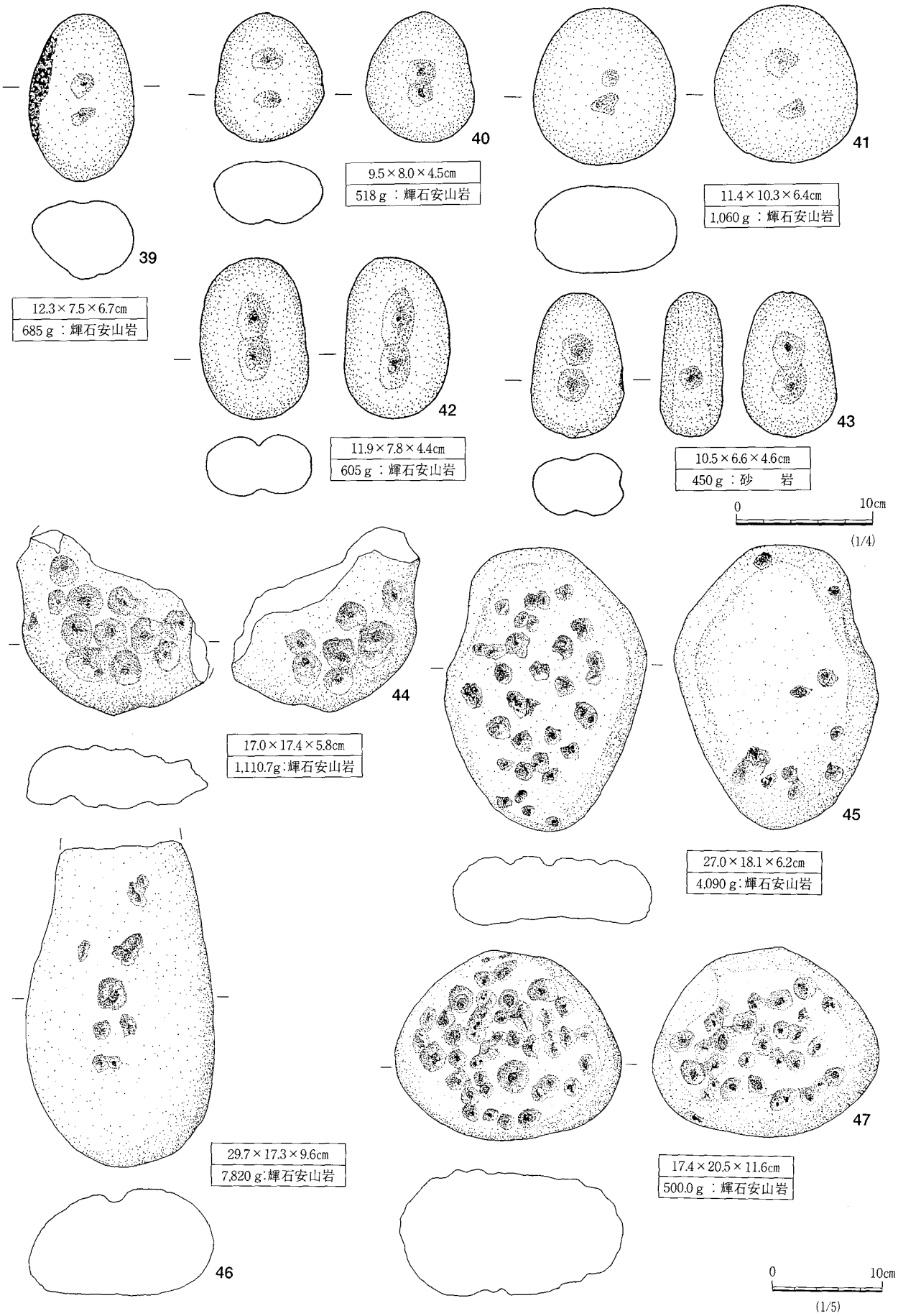
第159図　２号配石墓群出土遺物（１）



第160図　2号配石墓群出土遺物（2）

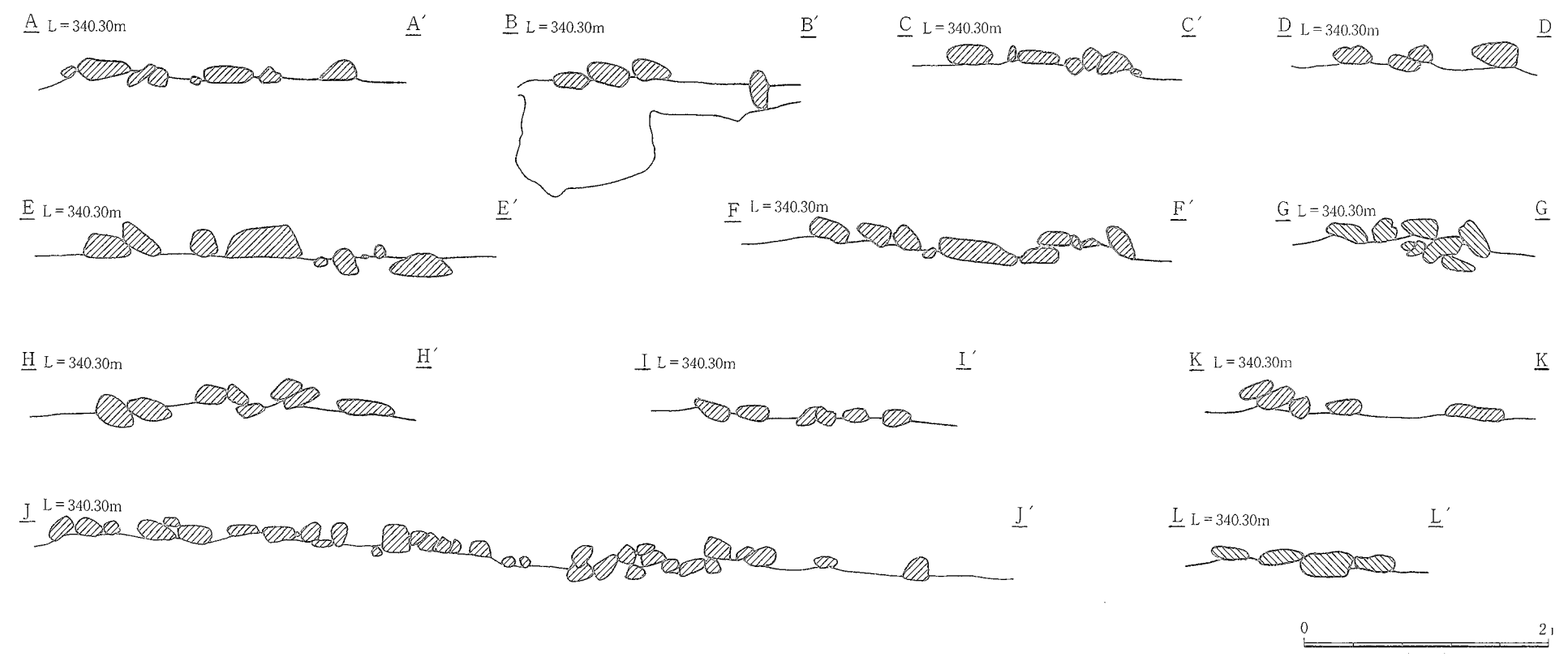


第161図　2号配石墓群出土遺物（3）



第162図　2号配石墓群出土遺物（4）

※黒の塗りつぶしは、立石を示す。



第163図　3号配石墓群列石検出状況　(1/150)

第164図　3号配石墓群検出状況（1/150）

3号配石墓群

本配石墓群は、東部調査区の西端部分に位置し、Dh－62・63、Di－62・63、Dj－62・63、Ea－63・65グリッドにまたがって検出され、幸いにして遺構のほぼ全域の調査を実施することができた。3群の配石墓群のなかでは最も西側にあり、2号配石墓群とは約150m、1号配石墓群とは更に約100mの距離を持つ。3群のなかでは規模及び使用された礫数・下部配石にあたる配石墓の数においてちょうど中間に位置している。

配石墓群は、上部配石である列石と、下部配石である配石墓により構成され、本遺構においては1・2号配石墓群で見られた整地作業は確認されていない。

上部配石（列石）

本配石墓群はほぼ全域の調査が行われ、配石の全体像を把握することができた。この結果、列石の全長は約40mで全体に西から南へかけて緩やかに弧状を呈しており、北端・南端共に端部が確認され列石の形状は円形とならないことが明らかとなっている。規模的には、使用された礫が大小合わせて520個と、1号配石墓群よりも小さく、2号配石墓群よりも大掛かりな構築となっている。使用された礫は、他の配石墓群と同様に少量の流紋岩と板状の安山岩を含んでいるが、そのほとんどは偏平で丸みを持った輝石安山岩で占められている。

構築状況は、全体的にまばらで、列石を施すにあたっての整地作業は認められない。列石の中には、第163図中において黒で塗りつぶした様に所々立石と推測される大形の礫が確認されているが、いずれも、直立しているものはなく倒れた状態である為礫の形状から立石と判断した。この立石の下には、概して配石墓が位置し、列石と直交、すなわち弧状を呈する列石の中心方向に主軸を持っていた。

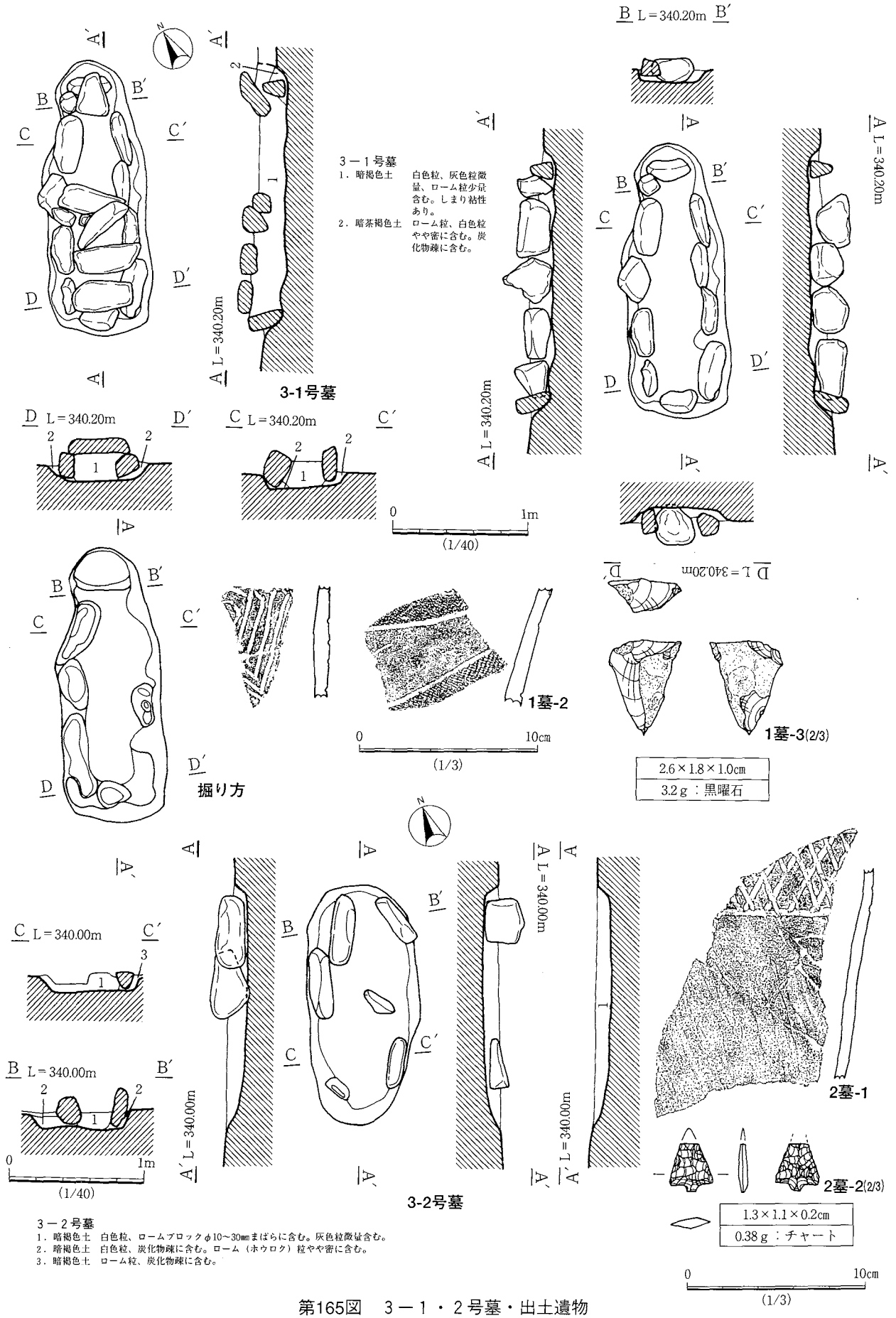
また、列石北端の外側からは24・25号の2軒の住居跡が検出されている。この2軒の遺構は、住居跡として取り扱ってはいるが、柱穴および炉が検出されていないなど、他の住居跡と異なった様相を呈している。本配石墓群とかかわりを持つ遺構であるか否か注目される存在である。

下部配石（配石墓）

調査時において、配石墓の番号を付したものは合計24基で、主として列石の下部から検出されており3－15・16・17号墓を除いた21基の配石墓は多少の振れはあるものの、おおむね弧状を呈する列石の中心方向に主軸を持っていた。形態的には、上部配石を除去した段階で第3項で前述した分類に照らし合わせると、Ab類が1基、Ab1類が1基、Ab類の可能性を有するもの2基、B類が4基、B類の可能性のあるもの3基、C類13基であった。これらの配石墓は、3－7号墓と8号墓、3－3号墓と3－10号墓、3－14号墓と15号墓、3－19号墓と20号墓のように重複関係が見られることや、形態別に偏在することが確認されるなど、ある一定期間にわたって構築されたと考えられる。

遺物

出土した遺物の大多数は、土器と石器で占められている。土器については、堀之内1式、堀之内2式、加曽利B1式、加曽利B2式、加曽利B3式の遺物が出土している。配石墓のなかからは、僅かではあるが堀之内2式、加曽利B1式の土器が検出されており、3－9号墓の床面からは蛇紋岩製の玉が、また、3－2・3・16・20号墓からは石鏃が出土している。相対的に他の配石墓群と比べて、墓坑のなかから検出される遺物は多かった。



第165図　3－1・2号墓・出土遺物

3－1号墓（第165図）

位置　／Dj－63グリッド、上部配石の下部に位置する。　切り合い関係　／なし。　分類　／Ab1類。規模　／掘り方においては長軸2.40m、短軸0.77m、深さ10cm。石棺の内計は長軸1.40m、短軸0.34mをそれぞれ計測する。　長軸方向　／N－26°－E。　覆土　／石棺内は人為堆積を示し、白色粒・灰色粒・ローム粒を含んだ暗褐色土が充填される。　配石　／長方形に掘り込み、壁際に礫を配する。石棺は、南北に1個ずつ合計2個の礫と長計40～47cm、短計24～28cm、厚さ13～15cm、重さ14.8～28.5kgを計る偏平な礫を片側に4個ずつ暗茶褐色土で固定し、更に、長計32～50cm、短計19～24cm、厚さ11cm前後、重さ10.6～29.0kgの蓋石を載せる。現況では5個しか確認されていないが、蓋石にずれが見られることから構築時には石棺全体に覆われていた可能性がある。　遺物　／細片であるが堀之内2式に比定される土器片2点と黒曜石の剥片が覆土中より出土している。

1は、深鉢の胴部片で、沈線による菱形の区画文を施す。胎土は白色細砂粒を少量含み、焼成は普通で、色調は黄土色から褐色である。

2は、深鉢の胴部片で、沈線により文様を区画する。区画内には縄文（LR）を充填施文し、円形刺突による8の字状貼付文を施すものと思われる。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は灰褐色である。

3は、黒曜石の剥片あるいは石器と見られる。

3－2号墓（第165図）

位置　／Dj－63グリッド、上部配石の下部に位置する。　切り合い関係　／なし。　分類　／Ab類の可能性がある。　規模　／掘り方においては長軸1.78m、短軸0.82m、深さ18cmを計測する。　長軸方向　／N－24°－E。　覆土　／人為堆積を示し、白色粒・灰色粒・ロームブロックを含んだ暗褐色土が充填される。　配石　／長楕円形に掘り込み、礫を配しているが、現況では長計44～50cm、短計17～22cm、厚さ12～20cm、重さ11.0～34.4kgを計る礫が5個しか遺存しておらず、石棺を構築していたとするには雑な配置状況である。しかし、側壁に残った礫は石棺を構築する際と同様な状態で、暗褐色土を用いて固定している。遺物　／細片であるが土器片1点とチャート製の石鏃が覆土中より出土している。

1は、深鉢の胴部片である。文様は格子状の沈線で構成し、内外面を丁寧に撫でる。胎土は細砂粒を含み、焼成は良好で、色調はにぶい橙色から黒褐色である。　2は、チャート製の有茎石鏃で先端部を欠損する。

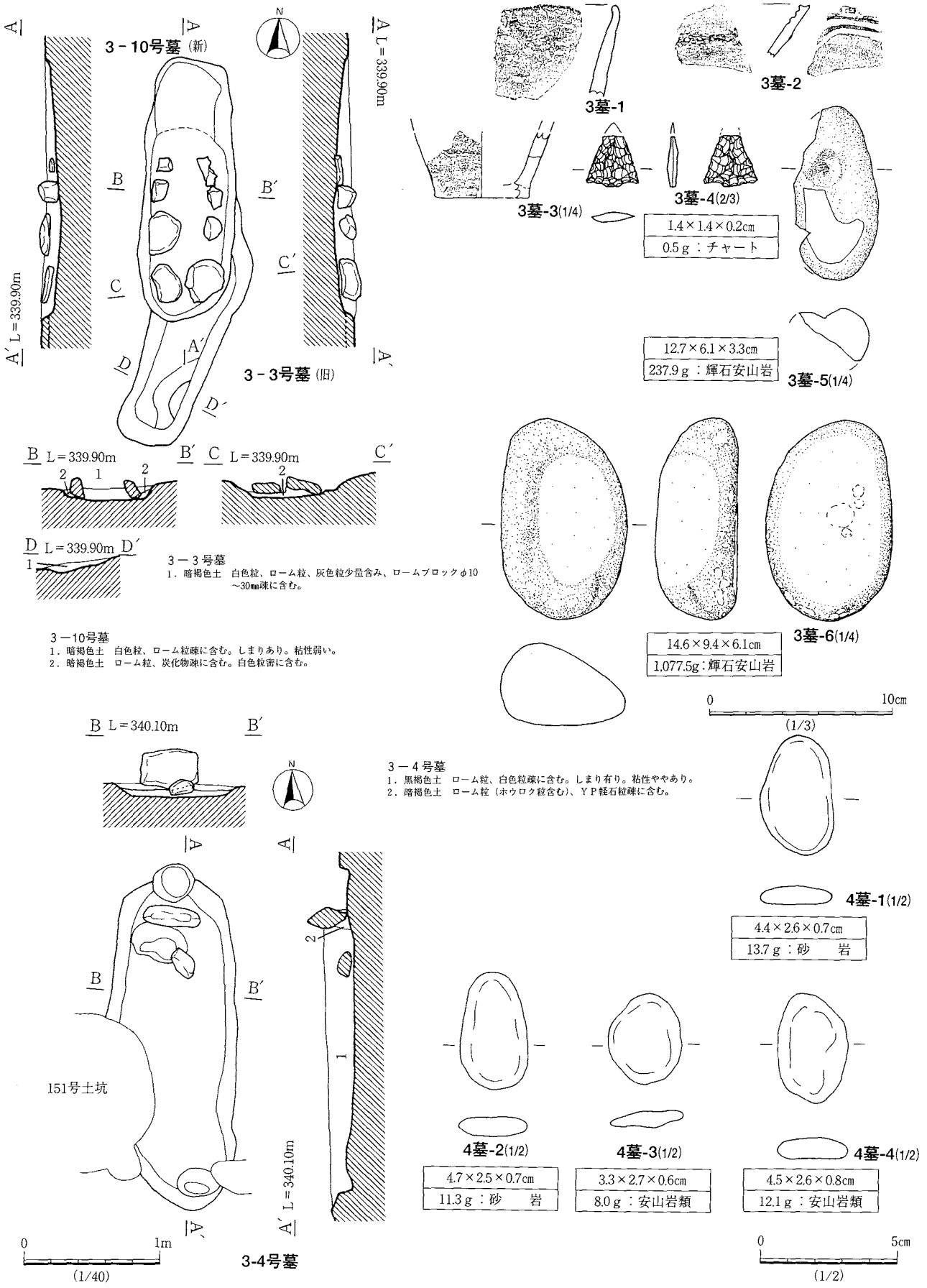
3－3号墓（第166図）

位置　／Dj－64グリッド、上部配石の下部に位置する。　切り合い関係　／3－10号墓と重複し、新旧関係では本跡が古い構築である。　分類　／C類か。　規模　／方形を呈し、掘り方においては長軸1.72m、短軸0.54m、深さ6cmを計測する。　長軸方向　／N－22°－W。　覆土　／人為堆積を示し、暗褐色土が充填される。　遺物　／堀之内2式の土器片とチャート製の石鏃、輝石安山岩製の凹石が出土している。

1は、深鉢の口縁部片で、口縁部が短く僅かに内湾し、内外面を撫でる。内面に炭化物の付着が観察される。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

2は、浅鉢の胴部片で、内外面共に丁寧な研磨を施す。外面は細かな押圧を施した隆帯を巡らし、内面には沈線を施す。胎土は白色粒を含み、焼成は良好で、色調は灰褐色である。

3は、深鉢の底部片である。内外面撫でる。胎土は砂粒を少量含み、焼成は普通で、色調は茶褐色である。



第166図　3－3・4・10号墓、3－3・4号墓出土遺物

3－4号墓（第166図）

位置　／Dj－64グリッド、上部配石の下部に位置する。　**切り合い関係**　／151号土坑と重複し、新旧関係では本跡が古い構築である。　**分類**　／B類。　**規模**　／掘り方においては長軸2.41ｍ、短軸0.96ｍ、深さ11cmを計測する。　**長軸方向**　／N－4°－E。　**覆土**　／人為堆積を示す。　**配石**　／長楕円形に掘り込み枕石を配する。現況では北側のみの検出で、長計38cm、短計28cm、厚さ11cm、重さ22kgを計る安山岩を暗褐色土で固定する。南側は礫を固定した掘り込みが確認される。　**遺物**　／偏平な自然礫が出土している。

1～4は、砂岩と安山岩の小礫で、いずれも板状であり、加工及び使用痕は観察されない。

3－5号墓（第167図）

位置　／Dj－64グリッド、上部配石の下部に位置する。　**切り合い関係**　／なし。　**分類**　／B類。　**規模**　／掘り方においては長軸2.23ｍ、短軸1.05ｍ、深さ10cmを計測する。　**長軸方向**　／N－3°－W。　**覆土**　／人為堆積を示す。　**配石**　／長楕円形に掘り込み、枕石を配している。現況では北側のみの検出で、長計42cm、短計21cm、厚さ10cm、重さ15.9kgを計る安山岩が配置される。　**遺物**　／剝片が出土している。

1は、ジャスピライトの剝片である。

3－6号墓（第167図）

位置　／Dj－64グリッド、上部配石の下部に位置する。　**切り合い関係**　／なし。　**分類**　／B類。　**規模**　／掘り方は長軸1.55ｍ、短軸0.90ｍ、深さ35cm、枕石間は1.04ｍを計測する。　**長軸方向**　／N－12°－W。　**覆土**　／人為堆積を示す。　**配石**　／長楕円形に掘り込み、枕石を配する。枕石は、長計30・36cm、短計29・28cm、厚さ9・12cm、重さ12.4・20.0kgを計る安山岩を暗褐色土で固定する。　**遺物**　／なし。

3－7号墓（第167図）

位置　／Dj－64グリッド、上部配石の下部に位置する。　**切り合い関係**　／3－8号墓と重複し、新旧関係では本跡が古い構築である。　**分類**　／C類。　**規模**　／方形でやや小形である。長軸1.30ｍ、短軸0.78ｍ、深さ29cmを計測する。　**長軸方向**　／N－0°。　**覆土**　／人為堆積を示す。　**遺物**　／なし。

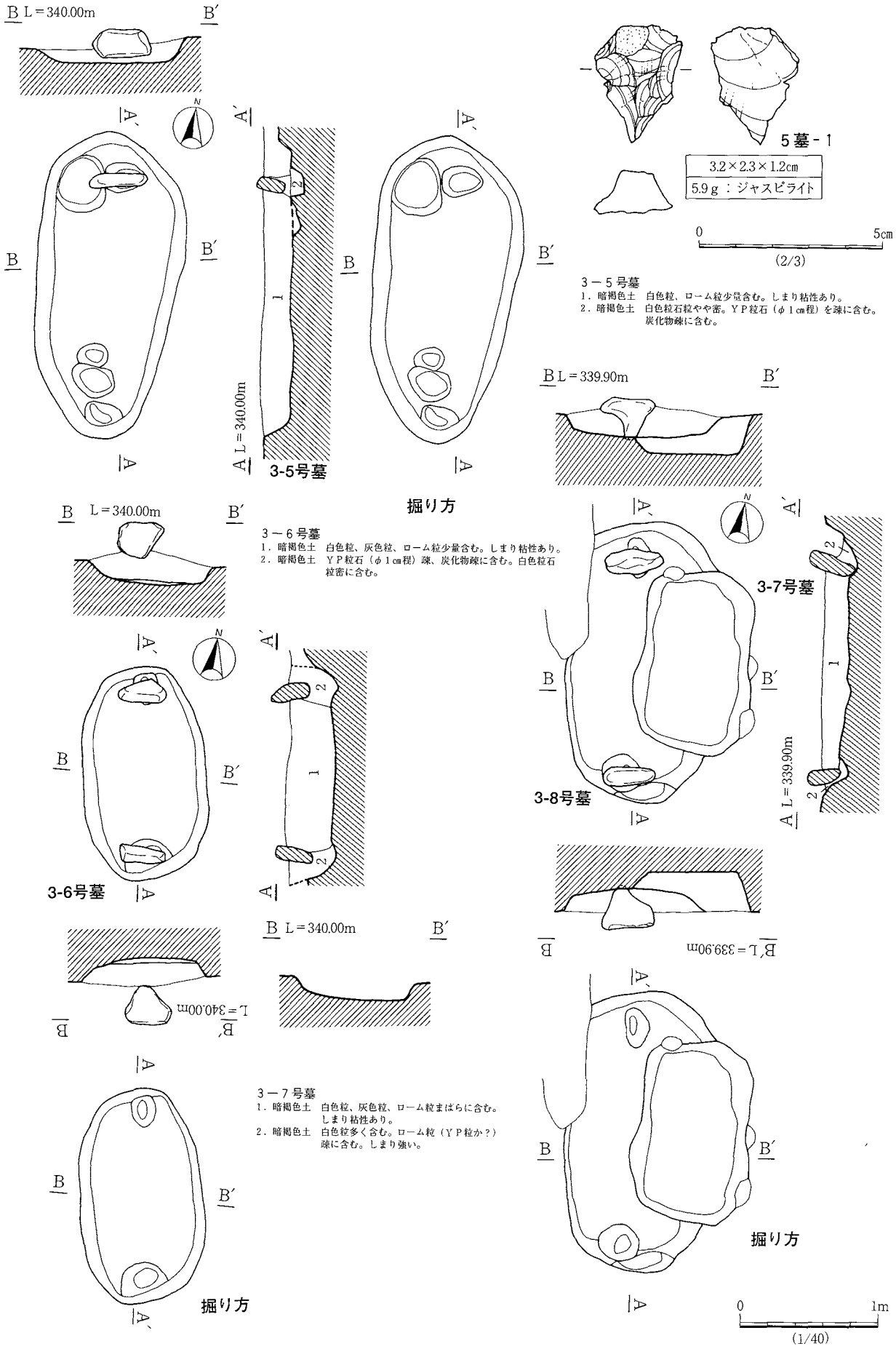
3－8号墓（第167図）

位置　／Dj－64グリッド、上部配石の下部に位置する。　**切り合い関係**　／3－7号墓と重複し、新旧関係では本跡が古い構築である。　**分類**　／B類。　**規模**　／掘り方においては長軸2.00ｍ、短軸の推定1.10ｍ、深さ19cm、枕石間は1.43ｍを計測する。　**長軸方向**　／N－10°－W。　**覆土**　／人為堆積を示す。　**配石**　／長楕円形に掘り込み、枕石を配している。枕石は、長計38・42cm、短計29・32cm、厚さ11・13cm、重さ20・19.4kgを計る安山岩で、枕石をはめ込む為の掘り込みと暗褐色土で固定される。　**遺物**　／なし。

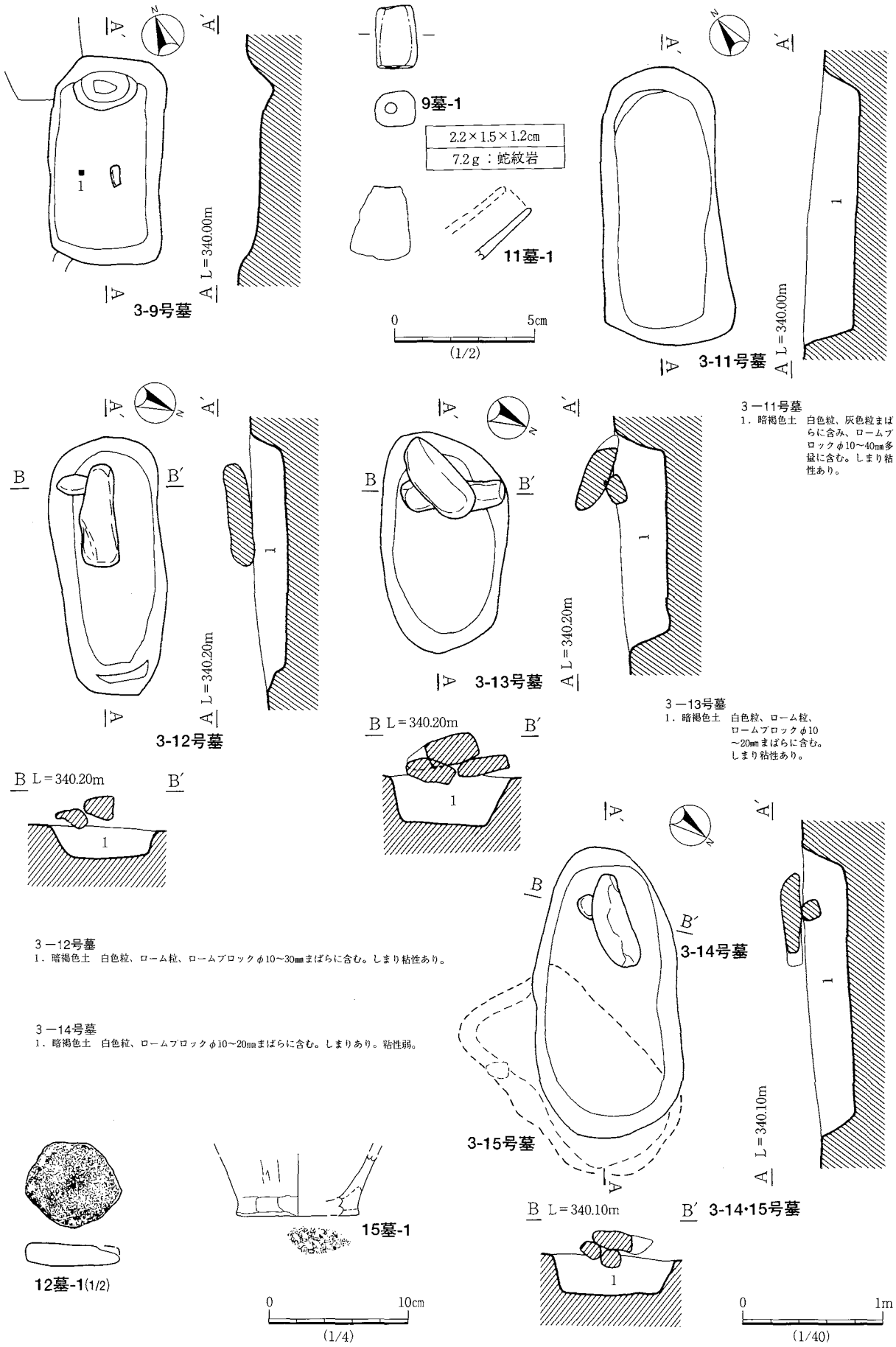
3－9号墓（第168図）

位置　／Dj－64グリッドに位置する。　**切り合い関係**　／なし。　**分類**　／C類。北壁下には楕円形の掘り込みが確認され、枕石が配された可能性がある。　**規模**　／方形で、長軸1.50ｍ、短軸0.81ｍ、深さ13cmを計測する。　**長軸方向**　／N－16°－E。　**覆土**　／人為堆積を示す。　**遺物**　／床面より玉が出土する。

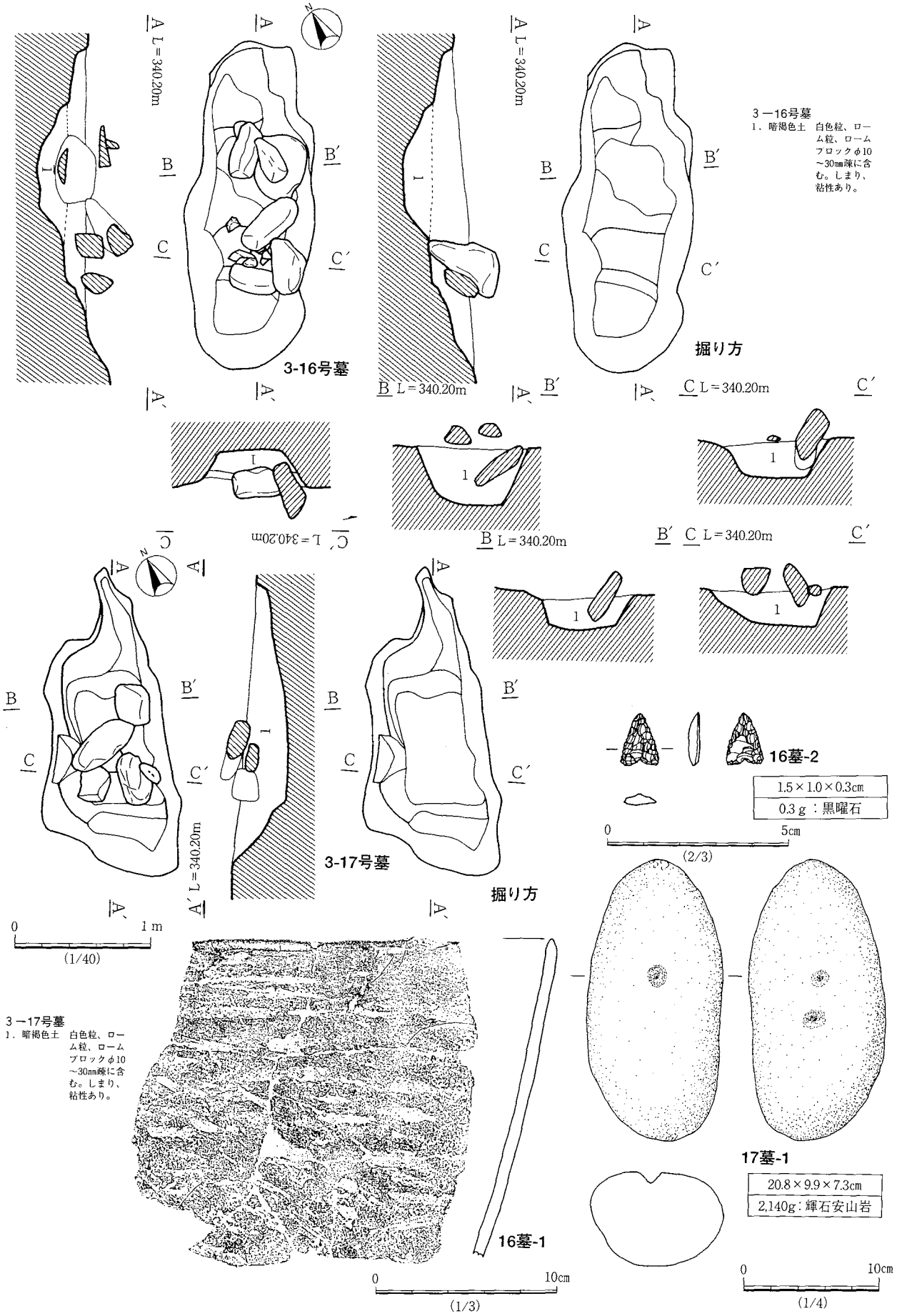
1は、蛇紋岩製で、管玉状である。



第167図　3－5・6・7・8号墓、3－5号墓出土遺物



第168図　3－9・11・12・13・14・15号墓、3－9・11・12・15号墓出土遺物



第169図　3－16・17号墓・出土遺物

3－10号墓（第168図）

位置　／Dj－63グリッド、上部配石の下部に位置する。　切り合い関係　／3－3号墓と重複し、新旧関係では本跡が新しい構築である。　分類　／Ab類か。　規模　／長楕円形で、長軸1.41m、短軸0.69m、深さ13cmを計測する。　長軸方向　／N－2°－W。　覆土　／人為堆積を示す。　配石　／長計12～28cm、短計12～20cm、厚さ5～7cm、重さ1～7.5kgの礫を用いる。北側の礫は小形で暗褐色土で固定される。一方、南側の礫の検出状況は、壁際に立てられていたものが内側へ倒れた可能性を示している。　遺物　／なし。

3－11号墓（第168図）

位置　／Dj－63グリッドに位置する。　切り合い関係　／なし。　分類　／C類。　規模　／長楕円形で、長軸1.99m、短軸0.84m、深さ34cmを計測する。　長軸方向　／N－37°－E。　覆土　／人為堆積を示し、白色粒・灰色粒・ロームブロックを含んだ暗褐色土が充填される。　遺物　／注口土器が出土している。

1は、注口土器の注口片で、表面は研磨される。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

3－12号墓（第168図）

位置　／Dj－62グリッド、上部配石の下部に位置している。　切り合い関係　／なし。　分類　／C類。上部に列石及び立石が構築される。　規模　／長楕円形で、長軸1.85m、短軸0.80m、深さ24cmを計測する。長軸方向　／N－37°－E。　覆土　／人為堆積を示し、白色粒・ローム粒・ロームブロックを含んだ暗褐色土が充填される。　配石　／上部に長計73cm、短計25cm、厚さ17cm、重さ52kgの立石と見られる大形の礫が倒れた状態で検出されている。　遺物　／覆土中より土器転用の円盤が出土している。

1は、土器転用の円盤で7打ち欠きで整形される。胎土は砂粒を含み、焼成は普通で、色調は褐色である。

3－13号墓（第168図）

位置　／Di－62・Dj－62グリッド、上部配石の下部に位置している。　切り合い関係　／なし。　分類　／C類。上部に列石及び立石が構築される。　規模　／長楕円形で、長軸1.58m、短軸0.91m、深さ35cmを計測する。　長軸方向　／N－64°－E。　覆土　／人為堆積を示し、白色粒・ローム粒・ロームブロックを含んだ暗褐色土が充填される。　配石　／上部に長計67cm、短計29cm、厚さ16cm、重さ55kgの立石と見られる大形の礫が倒れた状態で検出されている。　遺物　／なし。

3－14号墓（第168図）

位置　／Di－62グリッド、上部配石の下部に位置している。　切り合い関係　／3－15号墓と重複する。前後関係は不明である。　分類　／C類。上部に列石及び立石が構築される。　規模　／長楕円形で、長軸2.09m、短軸1.02m、深さ28cmを計測する。　長軸方向　／N－52°－E。　覆土　／人為堆積を示し、白色粒・ロームブロックを含んだ暗褐色土が充填される。　配石　／上部に長計72cm、短計23cm、厚さ13cm、重さ41.2kgの立石と見られる大形の礫が倒れた状態で検出されている。　遺物　／なし。

3－15号墓（第168図）

位置　／Di－62グリッド、上部配石の下部に位置している。　切り合い関係　／3－14号墓と重複し。前後関係は不明である。　分類　／C類の可能性が最も考えられる。　規模　／掘り込み遺存が僅かの為判

然としないが、長方形を呈すると見られ、推定で、長軸1.60ｍ、短軸0.95ｍを計測する。　**長軸方向**　／Ｎ－９°－Ｅ。　**遺物**　／後期の土器片が１点出土しているが、14号墓の遺物の可能性もある。

１は、深鉢の底部片で、内外面に雑な撫でを施す。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

３－16号墓（169図）

位置　／Di－62グリッド、上部配石の下部に位置している。　**切り合い関係**　／なし。　**分類**　／Ｂ類の可能性が考えられる。　**規模**　／掘り方は、長軸2.43ｍ、短軸0.97ｍ、深さ25㎝を計測する。　**長軸方向**　／Ｎ－32°－Ｅ。　**配石**　／長楕円形に掘り込み、白色粒・ローム粒・ロームブロックを含んだ暗褐色土を用いて床面を構築し、図示した破線がこの床面を表している。配石は長計35～54㎝、短計17～45㎝、厚さ９～13㎝、重さ10.5～50.0㎏の礫を用いているが、構築時の現位置を保っているのは南側の枕石とその東隣の礫で、他は移動していると見られる。　**遺物**　／後期の土器片と石鏃が出土している。

１は、深鉢の胴部片で、内外面に横位の撫でを施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

２は、黒曜石製の石鏃である。

３－17号墓（169図）

位置　／Di－62グリッド、上部配石の下部に位置している。　**切り合い関係**　／なし。　**分類**　／Ｃ類。上部に列石及び立石を伴う。　**規模**　／崩れた長方形で、長軸1.72ｍ、短軸0.85ｍ、深さ33㎝を計測する。　**長軸方向**　／Ｎ－29°－Ｅ。　**覆土**　／人為堆積を示し、白色粒・ローム粒・ロームブロックを含んだ暗褐色土が充填される。　**配石**　／上部に長計55㎝、短計25㎝、厚さ13㎝、重さ31㎏の立石と見られる大形の礫が倒れた状態で検出されている。　**遺物**　／凹石が上部より出土する。１は、輝石安山岩製の凹石である。

３－18号墓（170図）

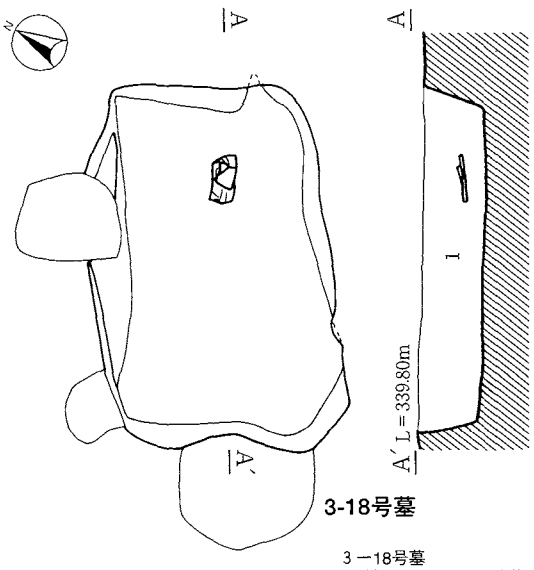
位置　／Di－62グリッド、上部配石の下部に位置している。　**切り合い関係**　／なし。　**分類**　／Ｃ類。　**規模**　／長方形で、長軸1.81ｍ、短軸1.29ｍ、深さ32㎝を計測する。　**長軸方向**　／Ｎ－60°－Ｅ。　**覆土**　／人為堆積を示す。　**遺物**　／覆土中層より堀之内２式・加曽利Ｂ１式の土器片が出土している。

１は、胴部が直線的に開く深鉢で、口唇部は内折する。口縁部に２条の隆線を施し、一定幅に刺突列、その他に縄文（ＬＲ）を付す。胴部上半に帯縄文で渦巻文と、三角形の区画の組み合わせた文様を構成し、無文部と内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

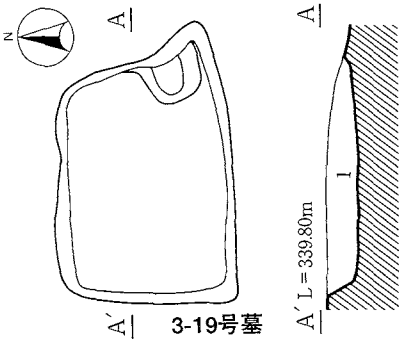
２は、深鉢の口縁部片で、内外面に丁寧な研磨を施す。口縁部にはのの字状の小突起が付され、口唇部には斜位の刻目を施す。外面は沈線区画の帯縄文（ＬＲ）があり、内面には断面が三角形状の隆帯を巡らし、間の凹部に円形刺突を施す。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

３－19号墓（170図）

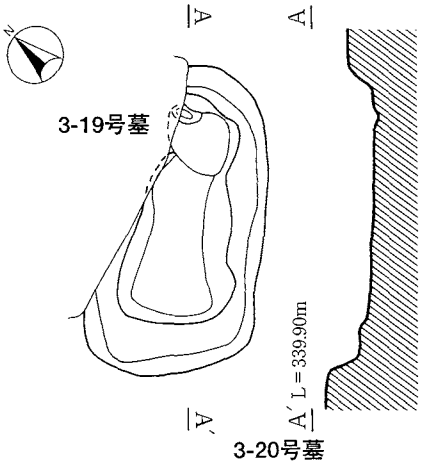
位置　／Di－62グリッド、上部配石の下部に位置している。　**切り合い関係**　／３－20号墓と重複し、新旧関係では本跡が新しい構築である。　**分類**　／Ｃ類。上部に列石が覆う。　**規模**　／長方形で、長軸1.24ｍ、短軸0.97ｍ、深さ17㎝を計測する。　**長軸方向**　／Ｎ－89°－Ｅ。　**覆土**　／人為堆積を示し、白色粒・灰色粒・ローム粒を含んだ暗褐色土が充填される。　**遺物**　／なし。

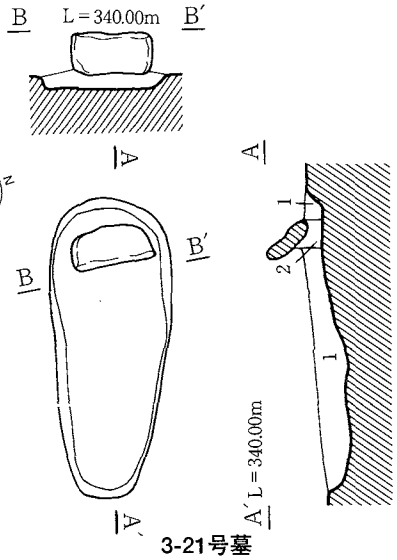


3－18号墓
1．黒褐色土　白色粒、灰色粒、ローム粒、ロームブロックφ10～40mm多量に含む。しまり、粘性あり。



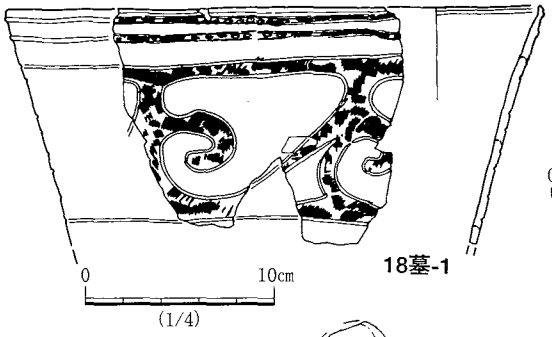
3－19号墓
1．暗褐色土　白色粒、灰色粒、ローム粒疎に含む。しまりあり。粘性弱い。

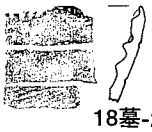




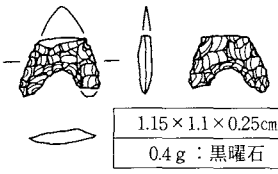
3－21号墓
1．茶褐色土
2．暗褐色土　ローム粒、白色軽石粒やや密に含む。炭化物疎に含む。

0　1 m
(1/40)



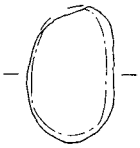


0　10cm
(1/3)
3-18号墓

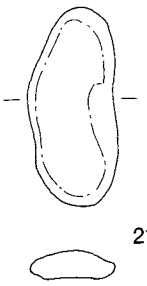


1.15×1.1×0.25cm
0.4g：黒曜石

0　5cm
(2/3)
3-20号墓



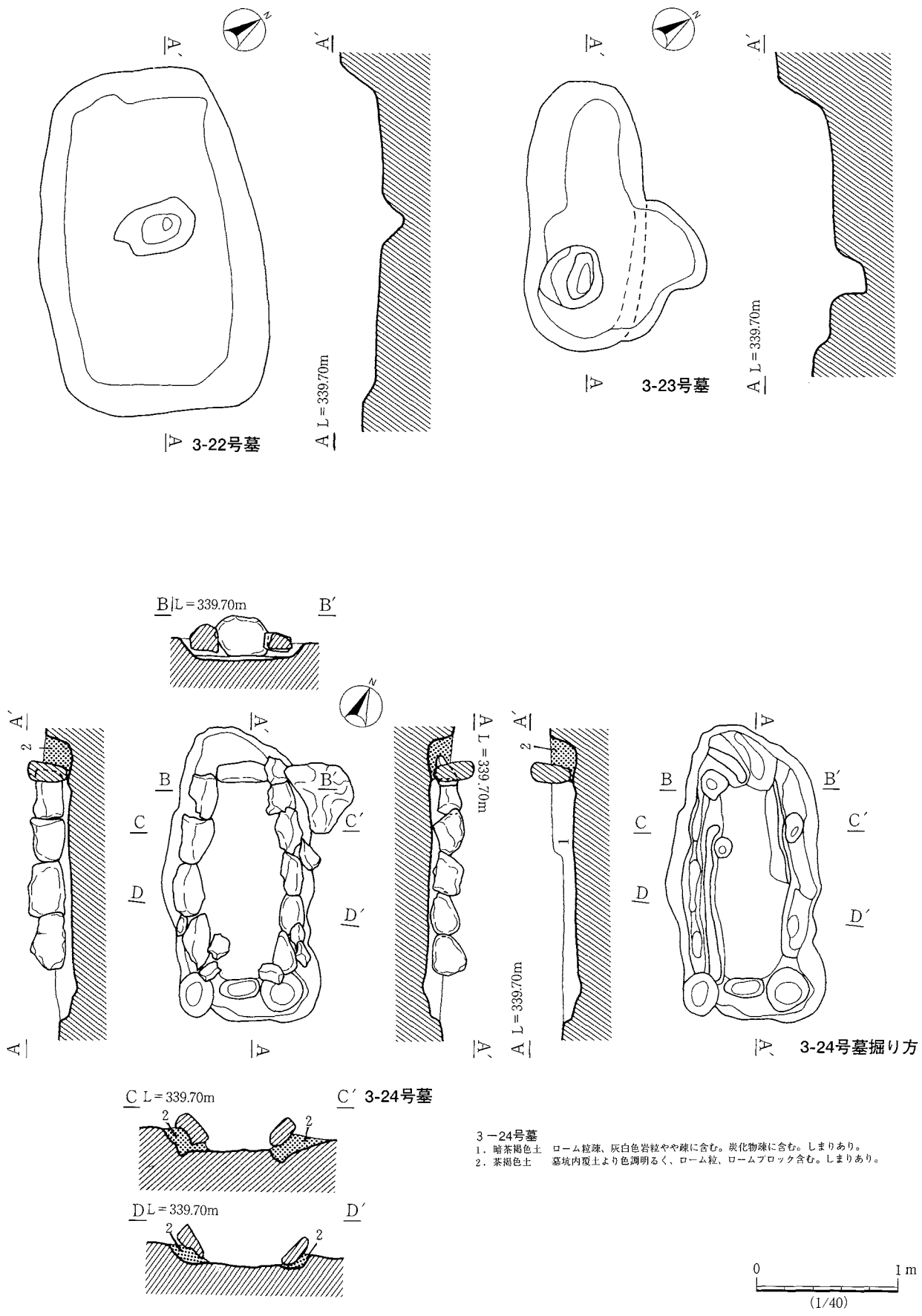
3.5×2.3×0.7cm
7.5g：黒色安山岩



5.2×2.3×0.7cm
13.6g：黒色安山岩

0　5cm
(1/2)

第170図　3－18・19・20・21号墓、3－18・20・21号墓出土遺物



第171図　3－22・23・24号墓

3－20号墓（第170図）

位置　／Di－62グリッド、上部配石の下部に位置している。　切り合い関係　／3－19号墓と重複し、新旧関係では本跡が古い構築である。　分類　／C類と見られる。　規模　／長方形と推測され、中央に僅かながら段が確認され、2段掘り状を呈する。長軸1.60m、短軸は推定で0.95m、深さ17cmを計測する。　長軸方向　／N－50°－E。　覆土　／人為堆積を示し、暗褐色土が充填される。　遺物　／石鏃が覆土中より出土している。

1は、黒曜石製の無茎石鏃である。

3－21号墓（第170図）

位置　／Di－62グリッド、上部配石の下部に位置している。　切り合い関係　／なし。　分類　／B類。規模　／掘り方は長楕円形で、長軸1.57m、短軸0.65m、深さ15cmを計測する。　長軸方向　／N－78°－W。覆土　／人為堆積を示す褐色土が堆積する。　配石　／長楕円形に掘り込み、枕石を配する。枕石は西側のみ検出され、長計43cm、短計20cm、厚さ8cm、重さ16.2kgの礫を暗褐色土で固定する。　遺物　／板状の自然礫が出土している。

1・2は、黒色安山岩の自然礫である。板状で、加工痕及び使用痕は確認されない。

3－22号墓（第171図）

位置　／Di－62グリッド、上部配石の下部に位置している。　切り合い関係　／なし。　分類　／C類。規模　／大形の長方形で、長軸2.24m、短軸1.61m、深さ29cmを測る。また、底部中央部に、長径60cm、深さ17cmを計測する楕円形の掘り込みが確認される。　長軸方向　／N－59°－W。　覆土　／人為堆積を示す。　遺物　／なし。

3－23号墓（第171図）

位置　／Dh－62グリッドに位置している。　切り合い関係　／なし。　分類　／C類。　規模　／楕円形で、長軸1.91m、短軸0.83m、深さ30cmを測る。また、底部南部分に、直径45cm、床面よりの深さ23cmを計測する楕円形の掘り込みが確認される。　長軸方向　／N－55°－W。　覆土　／人為堆積を示す。　遺物　／なし。

3－24号墓（第171図）

位置　／Dh－62・Dh－63グリッドに位置する。　切り合い関係　／なし。　分類　／Ab類。　規模　／掘り方においては長軸2.09m、短軸1.11m、深さ15cm。石棺の内計は長軸で推定1.40m、短軸0.55mをそれぞれ計測する。　長軸方向　／N－23°－W。　覆土　／石棺内は人為堆積を示し、白灰色岩粒・ローム粒を含んだ暗茶褐色土が充填される。　配石　／長楕円形に掘り込み、壁際に礫を配する。石棺は、南北に1個づつ合計2個の礫を配したと見られるが北側のみの残存である。南側の枕石が位置したであろう場所には楕円形の枕石を固定する為の掘り込みが確認されている。側壁は長計29～41cm、短計22～67cm、厚さ10～12cm、重さ8.8～26.0kgを計る偏平な礫を東側に5個、西側に4個づつ茶褐色土を用いて固定している。　遺物　／なし。

3号配石墓群出土遺物

本項においては、3号配石墓群周辺の包含層及び列石から出土した遺物を取り扱った。

掲載した土器のうち、1は堀之内1式、2～8は堀之内2式、9・10は加曽利B式の範疇。11～15、17・18は加曽利B1式、16は加曽利B3式、20は加曽利B2式、19・21～29は後期の範疇にそれぞれ比定される。

1は、深鉢の把手で上面がD字状を呈する。胎土は細砂粒を含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

2は、深鉢の口縁部片で、文様は沈線で直線的な区画文を描き、区画内に縄文（L）を充填する。外面に炭化物の付着が観察される。胎土は細砂粒を含み、焼成は良好で、色調は明褐色である。

3は、注口土器の把手である。S字状貼付文と渦巻文を施した楕円形貼付文を施し、外面は入念な研磨で光沢がある。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は灰褐色である。

4は、深鉢の突起と思われる。突起の正面に隆帯と円形刺突で表現した8の字状の文様を施し、両側に円形貼付文を施す。突起上面と基部には沈線を数本施す。内外面共に研磨する。胎土は微砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は茶褐色から黒褐色である。

5は、深鉢の円錐形の把手である。文様は沈線、刺突、貼付文を対称の位置に配置する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は灰褐色である。

6は、深鉢の口縁部突起である。突起上面に隆帯を貼付し、3つの円形刺突を施し、隆帯の両側に沈線を引く。更に突起の両側には沈線で表現した円形貼付文状の文様があり、突起基部には4本の沈線を施す。胎土は細砂粒を含み、焼成は普通で、色調は茶色である。

7は、深鉢の突起部である。瘤状の突起で、上部に1対の円形刺突と貼付文を施し、基部に沈線を3本施す。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

8は、深鉢の胴部片で、文様は口縁部に沿って押圧を施した隆帯を1本巡らし、上位に沈線を沿わす。隆帯上には円形刺突で表現した8の字状貼付文を施し、口縁部内面に1本の沈線を巡らす。胎土は砂粒を少量含み、焼成は普通で、色調は茶色である。

9は、口縁部が短くくの字状に内傾する深鉢で、文様は口縁に沿って沈線区画の帯縄文（LR）を数段巡らす。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調はにぶい橙色から黒褐色である。

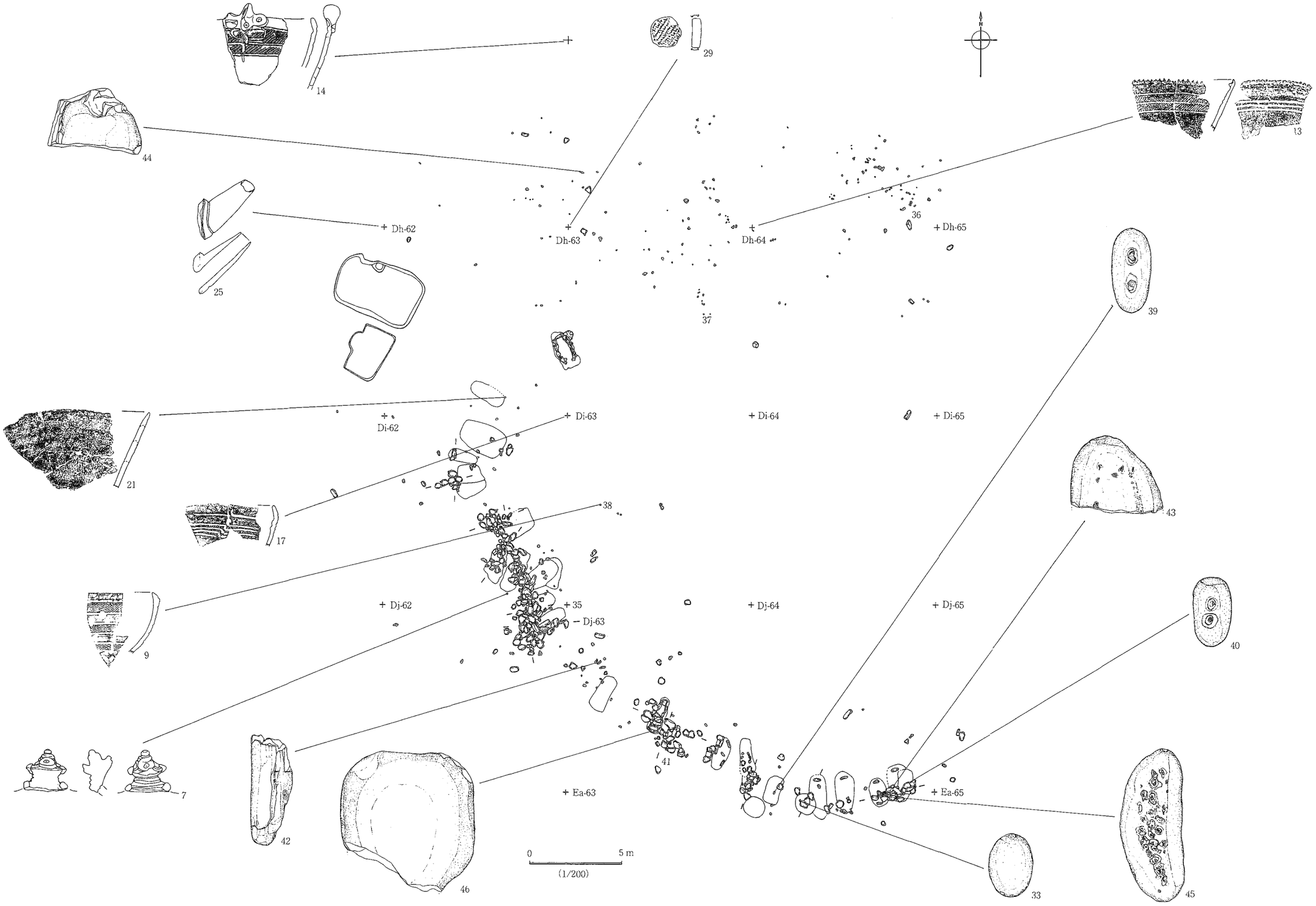
10は、注口土器の突起と思われる。全面に研磨を施し、沈線で文様を施文する。平坦部に円孔を穿ち、一端に押圧を施した隆帯を貼付する。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

11は、深鉢の胴部片である。沈線で文様を構成し、縄文（LR）を充填する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は褐色である。

12は、注口土器の口縁部片である。口縁内面に稜を持ち、把手部の基部は管状で、1本の沈線を施す。胴部には細沈線で文様を描き、沈線間に連続した斜位の刻目を施し、内外面を丁寧に研磨する。胎土は細砂粒を微量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

13は、胴部が直線的に開く深鉢である。弱く内傾する口唇部には刻目を施して鋸歯状口唇とし、内面の突帯との間に刺突列を施す。口縁部無文下に3本の沈線による帯縄文（LR）を施し、内面には3本の沈線を施す。無文部と内面は研磨する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

14は、口縁部が内傾する深鉢で、口縁には貝殻状の突起を中心に3個の貼付文を施す。突起下の内面には円孔が1個施され、口縁部の内面には段が付く。外面の口縁部には3本の沈線による縄文帯（LR）を施し、突起下に対弧文を施す。内外面は共に研磨する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒色である。



第172図　3号配石墓群　遺物分布図（1/200）

15は、深鉢の胴部片で、外面は無文、内面に帯縄文（ＬＲ）を施す。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は茶褐色である。

16は、口縁部がくの字状に内折する鉢で、口唇部は内削ぎ状である。口縁部に３本の沈線を施して、上位沈線間に縄文（無節Ｌ）を充填し、胴部に羽状沈線を２～３帯施文する。内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

17は、小形の深鉢である。口唇部に鋭い刻目を施し、内面に２本の平行沈線を巡らす。外面は口縁部の屈曲部に先端がＣ字状の沈線を横位に１帯巡らし、下位に３本の帯縄文を巡らせ、縦に刻みを施す。胎土は細砂粒を含み、焼成は普通で、色調は灰褐色である。

18は、深鉢の胴部片で、斜位の平行沈線を施文後、縄文（ＬＲ）施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は灰褐色から黒褐色である。

19は、深鉢の胴部片で、沈線で文様を描き、区画内に縄文（Ｌ）を充填する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は茶褐色である。

20は、深鉢の胴括れ部片である。括れ部は無文で、下位に２段の横位綾杉状の沈線を施す。胎土は細砂粒を含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

21は、粗製の深鉢で、内外面に雑な研磨を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒色である。

22は、深鉢の底部片で、網代痕を残す。内外面に撫でを施す。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調はにぶい橙色である。

23は、注口土器の注口部で、器面は丁寧な研磨を施す。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黒色である。

24は、注口土器の注口部で、基部に沈線を巡らし、下面に円形刺突を施した隆帯を貼付する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は褐色である。

25は、注口土器の注口部である。器面は研磨で、注口基部に沈線が巡る。胎土は細砂粒を含み、焼成は普通で、色調は黄土色から黒色である。

26は、注口土器の口縁部で、器面は研磨する。胎土は黒色鉱物を含み、焼成は不良で、色調は黄土色である。

27は、注口土器の注口部で、器面は研磨する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

28は、注口土器の注口部で、器面は研磨する。胎土は微砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

29は、転用の土製円盤である。片面に縄文（ＲＬ）を残し、周囲は６面に削って調整する。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は普通で、色調は灰褐色である。

30は、無茎の石鏃で、黒曜石製である。

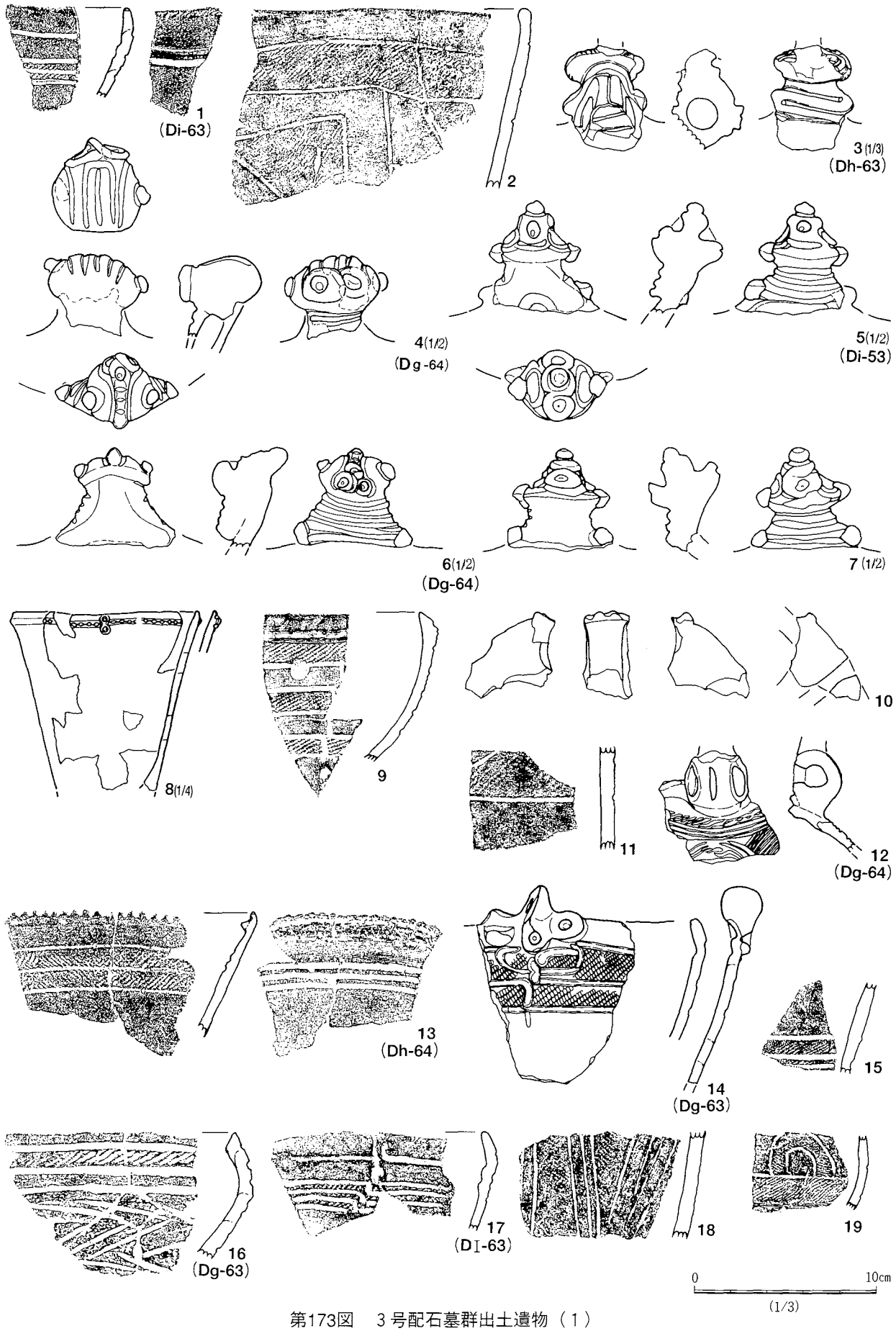
31は、石錐の破片と見られ、黒色安山岩製である。

32は、打製石斧の破片で、黒色安山岩製である。

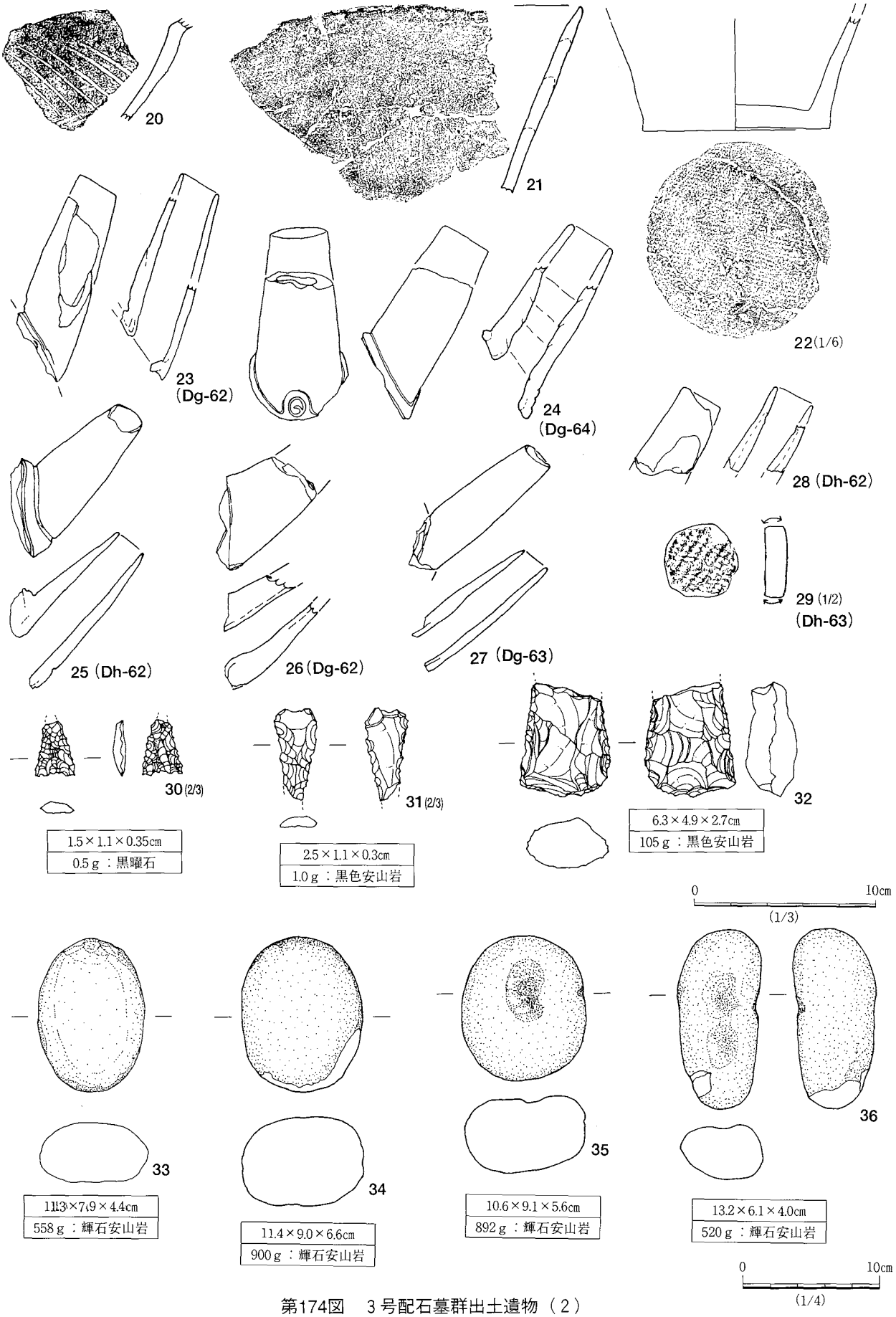
33・34・41は、磨石、35～40・42は、磨石及び凹石で、輝石安山岩、石英斑岩を素材とする。

43・45は、多孔石で、輝石安山岩を素材とし、表裏両面に孔が穿たれる。

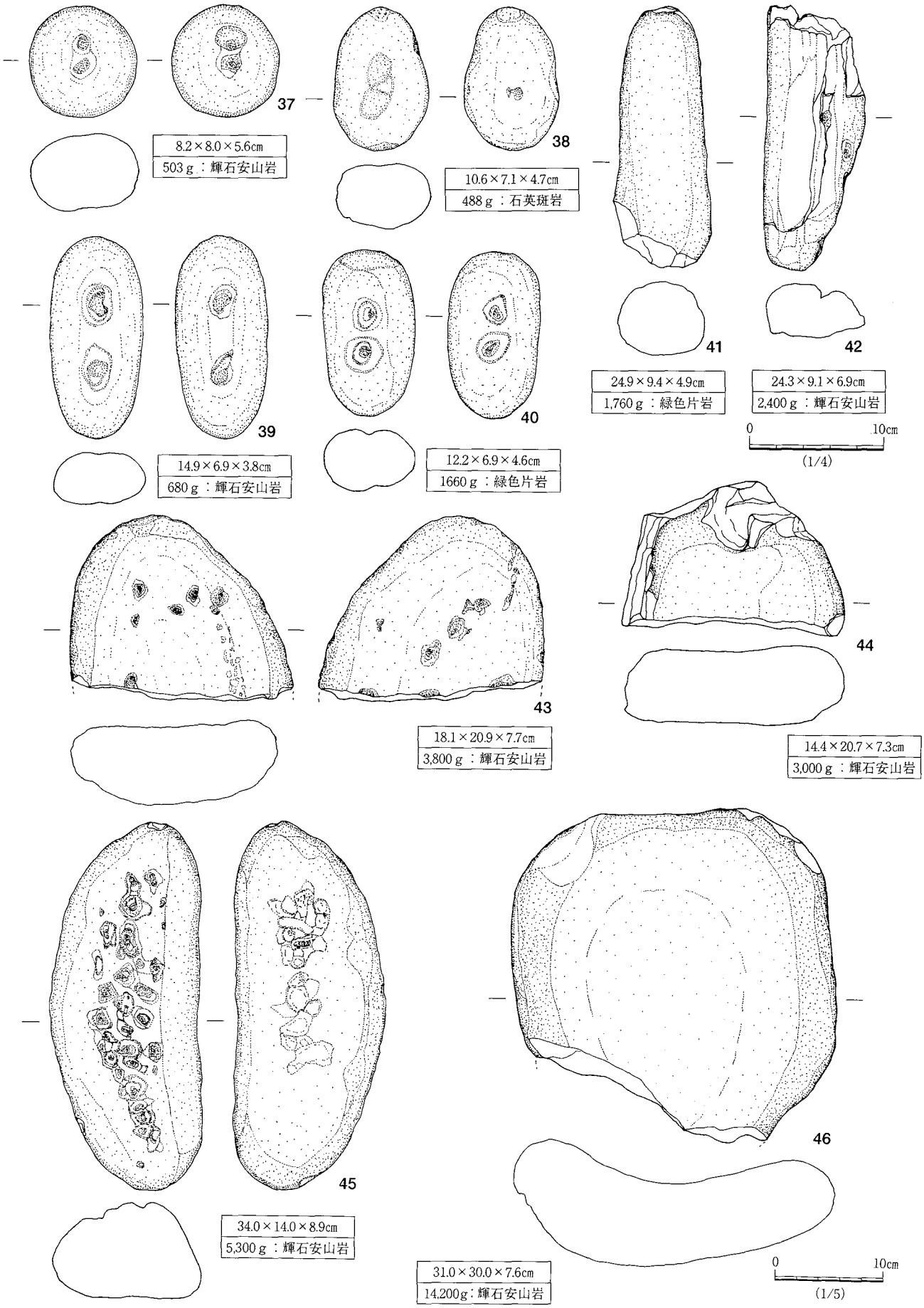
44・46は、輝石安山岩を素材とした石皿である。



第173図　3号配石墓群出土遺物（1）



第174図　3号配石墓群出土遺物（2）



第175図　3号配石墓群出土遺物（3）

第4項　集石

本遺跡においては8基の集石が確認されている。第3項の配石との区別については、使用されている礫の大きさや、礫の密集度、配石に見られる様な石棺型などの形状の違い、更には検出された位置を考慮して判断している。形状においては、掘り込みを伴うものと、掘り込みが確認されなかったものもに大別される。

1号集石（176図）

位置　／調査区東端のEj－99グリッドに位置する。　切り合い関係　／なし。　形態　／不整形の掘り込みの中に小礫が10個確認され、放り込まれた状態を示す。　規模　／長軸1.09ｍ、短軸0.87ｍ、深さ28㎝を計測する。　長軸方向　／Ｎ－31°－Ｗ。　遺物　／なし。

2号集石（176・177図）

位置　／調査区西端のDg－62グリッドに位置する。　切り合い関係　／なし。　形態　／円形の土坑内に12個の小礫が確認される。　規模　／長軸0.91ｍ、短軸0.81ｍ、深さ20㎝を計測する。　長軸方向　／Ｎ－70°－Ｗ。　遺物　／土器片が1点出土している。

遺物

1は、鉢の胴部片である。集合沈線で文様を構成し、ボタン状物を貼付する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

3号集石（176・177図）

位置　／調査区西端のDi－69グリッドに位置する。　切り合い関係　／なし。　形態　／円形の土坑内に15個の石器を含む小礫が確認される。　規模　／長軸0.99ｍ、短軸0.90ｍ、深さ23㎝を計測する。　長軸方向　／Ｎ－10°－Ｅ。　遺物　／集石を構成する礫には凹石、石皿を含み、これらの間には堀之内2式に比定される深鉢1個体分の破片が破砕した状態で出土している。

遺物

1は、頸部が括れる深鉢である。口縁部から肩部にかけて、横位方向の指頭状整形痕が観察され、内面に軽い研磨を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

2は、凹石で、輝石安山岩を素材とする。

3は、石皿及び多孔石で、裏面に孔が穿たれる。角閃石安山岩を素材とする。

4号集石（176・178図）

位置　／調査区東端のEi－91・92グリッドに位置する。　切り合い関係　／なし。　形態　／円形の土坑内に10個の石器を含む礫が確認される。　規模　／長軸1.35ｍ、短軸1.13ｍ、深さ13㎝を計測する。　長軸方向　／Ｎ－55°－Ｅ。　遺物　／集石を構成する礫には多孔石を含む。

遺物

1は、石棒状の多孔石で、表裏両面に孔が穿たれる。緑色片岩を素材とする。

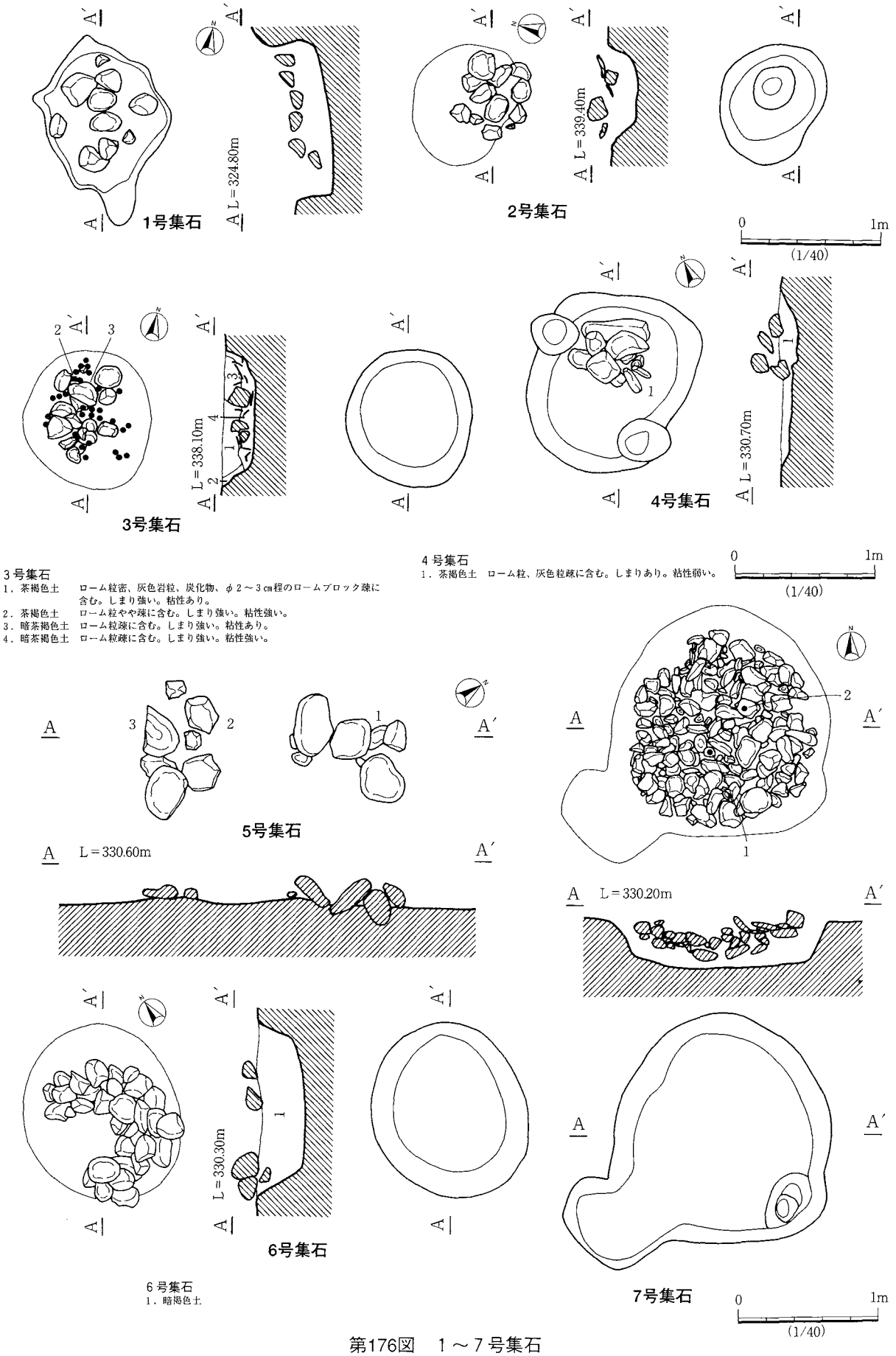
5号集石（176・178図）

位置　／調査区東端のEi－92グリッドに位置する。　切り合い関係　／なし。　形態　／石器を含む15点の礫を集める。掘り込みは検出されていない。　規模　／長軸1.90ｍ、短軸1.00ｍを計測する。　遺物　／集石を構成する礫には多孔石・石皿を含む。

遺物

1は、多孔石で、輝石安山岩を素材とする。

2・3は、石皿で、輝石安山岩を素材とする。



3号集石
1．茶褐色土　ローム粒密、灰色岩粒、炭化物、φ2～3㎝程のロームブロック疎に含む。しまり強い。粘性あり。
2．茶褐色土　ローム粒やや疎に含む。しまり強い。粘性強い。
3．暗茶褐色土　ローム粒疎に含む。しまり強い。粘性あり。
4．暗茶褐色土　ローム粒疎に含む。しまり強い。粘性強い。

4号集石
1．茶褐色土　ローム粒、灰色粒疎に含む。しまりあり。粘性弱い。

6号集石
1．暗褐色土

第176図　1～7号集石

6号集石（第176・179図）

位置　／調査区東端のEi－94グリッドに位置する。　**切り合い関係**　／なし。　**形態**　／円形の土坑内に31個の礫が確認される。　**規模**　／長軸1.26ｍ、短軸1.10ｍ、深さ30cmを計測する。　**長軸方向**　／Ｎ－38°－Ｅ。　**遺物**　／集石を構成する礫の間からは前期の土器片が出土している。

遺物

１は、深鉢の口縁部片、３は底部片である。両者共に外面全体に縄文（ＲＬ）を施文する。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

２は、深鉢の胴部である。縄文（ＬＲ）を施文する。胎土は砂粒を含み、焼成は普通で、色調は褐色である。

7号集石（第176・179図）

位置　／調査区東端のEi－93・Fa－93グリッドに位置する。　**切り合い関係**　／なし。　**形態**　／円形の土坑内に136個の礫が確認され、被熱の痕跡が観察される。　**規模**　／長軸1.63ｍ、短軸1.56ｍ、深さ32cmを計測する。　**長軸方向**　／Ｎ－13°－Ｅ。　**遺物**　／集石の間からは前期の土器片が出土している。

遺物

１は、深鉢の胴部片である。外面に縦位の集合沈線を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

２は、深鉢の胴部片である。外面に浮線文で渦巻文を構成し、浮線文に刻目を付す。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

8号集石（第177・179図）

位置　／調査区東端のEi－93・Fa－93グリッドに位置する。　**切り合い関係**　／なし。　**形態**　／円形の土坑内に11個の礫が確認される。　**規模**　／長軸1.11ｍ、短軸0.93ｍ、深さ26cmを計測する。　**長軸方向**　／Ｎ－55°－Ｅ。　**遺物**　／集石を構成する礫の間からは後期土器片が出土している。

遺物

１は、胴部が直線的に開く深鉢である。口唇部内面に沈線が１条巡り、口縁部には刻目を施した隆線１条と８の字文を施す。胴部上半に帯縄文で三角形の文様を構成する。無文部及び内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で。色調は淡褐色である。

２は、円筒状の深鉢である。口唇部内面に沈線が１条巡り、文様は１と同じだが、口縁部を巡る隆線は２条となっている。無文部と内面は研磨する。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

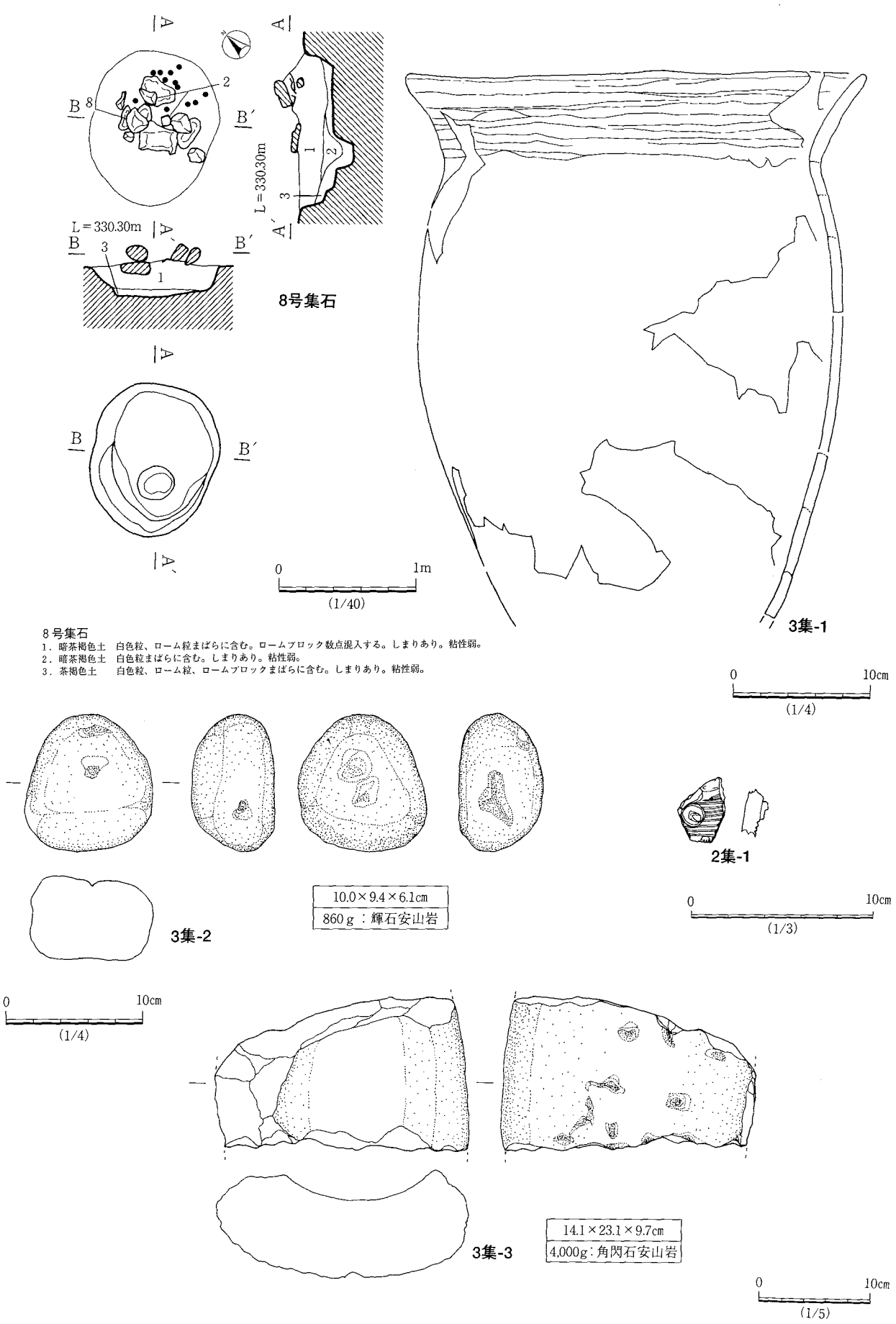
３は、深鉢の口縁部片である。口縁部に沿って３本の沈線を巡らし、鍵手状の沈線で区切る。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄土色である。

４は、胴部が円筒状の深鉢である。口縁部に斜位の撫で痕を残し、胴部は軽く研磨する。内面は研磨を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は淡褐色である。

５は、深鉢の口縁部片である。斜位の押圧を施した隆線を１本巡らし、縦位の８の字状貼付文を付す。胴部は沈線で雑な幾何学的な文様を施文する。胎土は砂粒含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

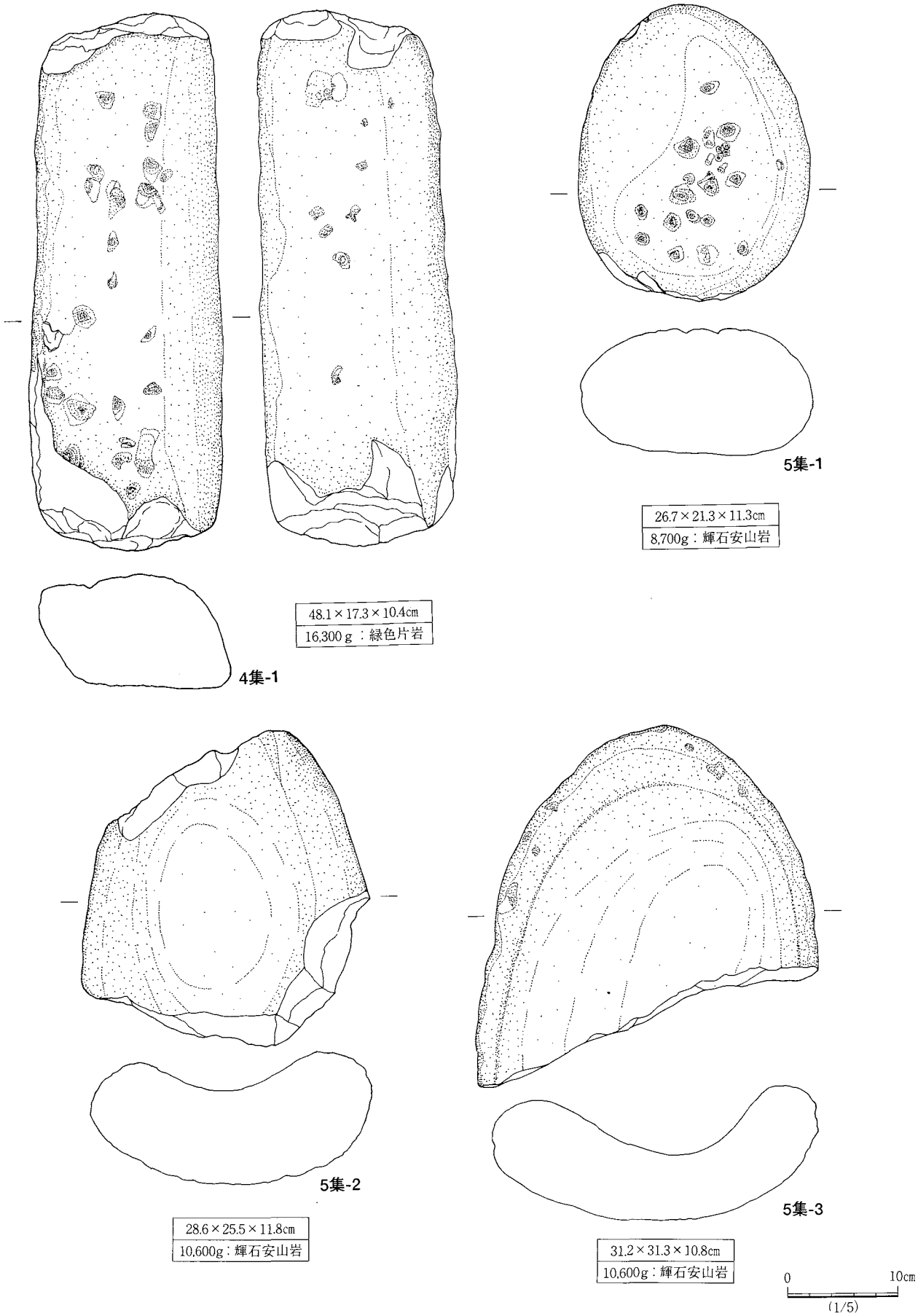
６は、胴部が直線的に開く深鉢である。口唇部内面に段が付き、口縁部に指頭状の刻目を施した隆線を施す以外は無文である。内外面共に撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は淡褐色である。

７は、胴部が直線的に開く深鉢である。口唇部内面に段が付く。口縁部に刻目を施した隆線を２条施し、８の字状貼付文を付す。胴部上半には、楕円区画を伴う帯縄文を施す。無文部と内面は研磨する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は淡褐色である。

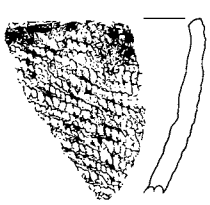


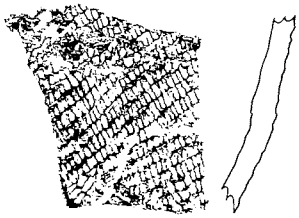
8号集石
1．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒まばらに含む。ロームブロック数点混入する。しまりあり。粘性弱。
2．暗茶褐色土　白色粒まばらに含む。しまりあり。粘性弱。
3．茶褐色土　白色粒、ローム粒、ロームブロックまばらに含む。しまりあり。粘性弱。

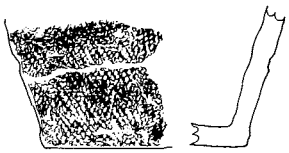
第177図　8号集石、2・3号集石出土遺物

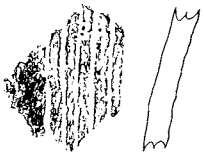


第178図　4・5号集石出土遺物

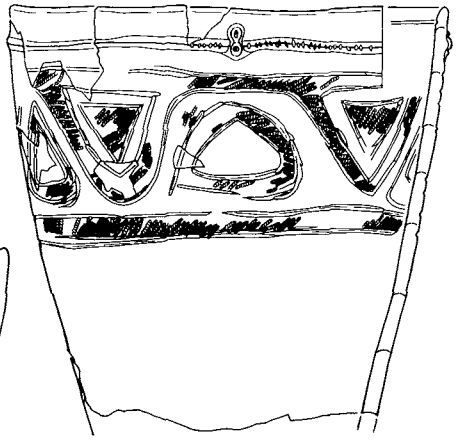

6集-1

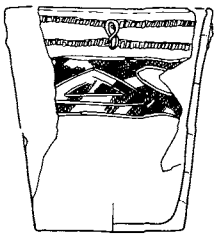

6集-2


6集-3


7集-1

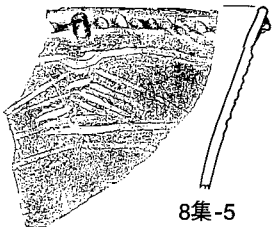
7集-2

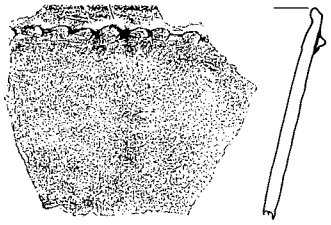

8集-1(1/4)


8集-2(1/4)

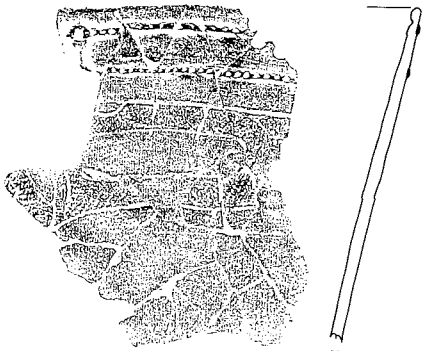
8集-3

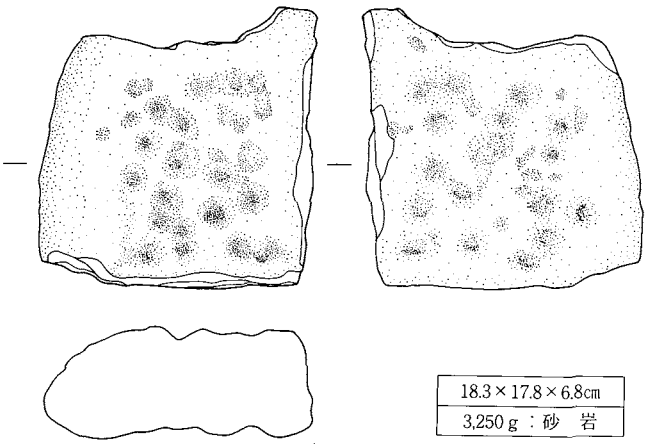
8集-4


8集-5


8集-6

0 10cm
(1/3)


8集-7


8集-8(1/5)

18.3×17.8×6.8cm
3,250 g ：砂　岩

0 10cm
(1/5)

第179図　6・7・8号集石出土遺物

第５項　埋設土器

本遺跡においては、縄文時代に屋外に埋設された土器が25基検出されている。その分布状況は調査区全域に及んでいるものの、東・西両側に偏在して確認される。埋設土器のなかには掘り方が存在したはずであるが、黒褐色土中に構築された為に、調査過程で土器のみ検出となったものがある。また、調査時に埋設土器とされていた遺構で、整理調査において土坑の名称の方がが適切と考えられる遺構も存在するが、本項ではそれらも含めて取り扱っている。

１号埋設土器（第180図）

位置　／調査区東部分、Fa－93グリッドに位置する。　切り合い関係　／２号住居跡と重複し、本跡が新しい構築である。　規模　／掘り方は楕円形で、長軸46cm、短軸34cm、検出面よりの深さ18cmを計測する。

埋設土器　／正位の状態に付設される。

１は、深鉢の胴部片である。内面に撫で、外面に縦位の条痕を施す。胎土は片岩を多量に含み、焼成は普通で、色調は茶褐色である。

３号埋設土器（第180図）

位置　／調査区東部分、Ej－93グリッドに位置する。　切り合い関係　／なし。　規模　／掘り方は確認されていない。　埋設土器　／正位の状態で付設される。　時期　／後期。

１は、深鉢の底部片である。外面に撫でを施し、底部中央に網代痕を残す。周辺は摩滅している。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は橙色である。

４号埋設土器（第180図）

位置　／調査区東部分、Ej－89グリッドに位置する。　切り合い関係　／なし。　規模　／掘り方は楕円形で、長軸40cm、短軸35cm、検出面よりの深さ12cmを計測する。　埋設土器　／正位の状態で付設される。

１は、底部片で、内外面共に撫でる。胎土は砂粒、小礫少量含み、焼成は普通で、色調は茶色である。

５号埋設土器（第180図）

位置　／調査区東部分、Eh－89グリッドに位置する。　切り合い関係　／なし。　規模　／掘り方は円形で、長軸26cm、短軸25cm、検出面よりの深さ18cmを計測する。　埋設土器　／正位の状態で付設され、暗褐色土が充填される。　時期／後期。

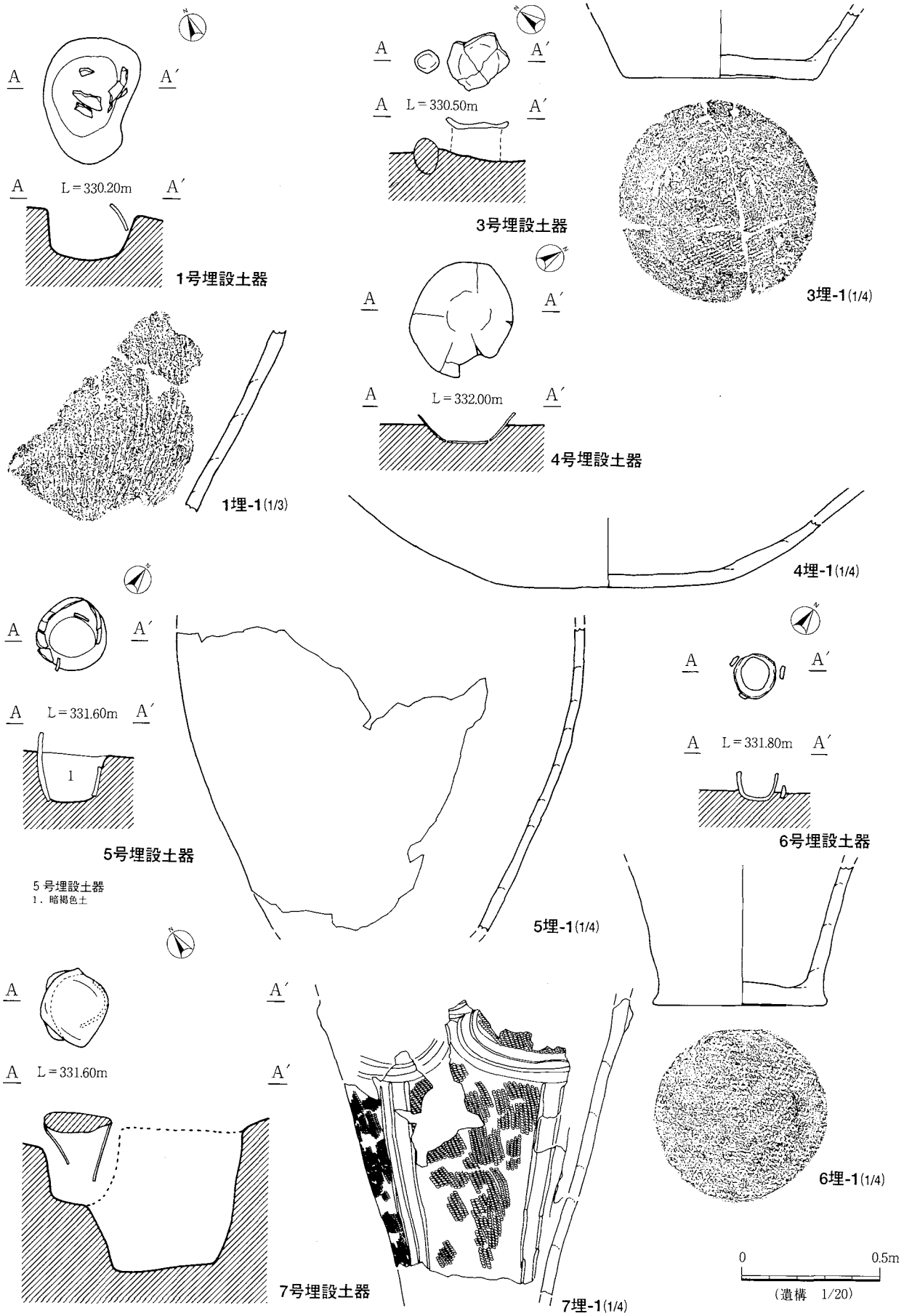
１は、深鉢の胴部片である。内面は横位の撫で、外面は比較的丁寧な縦位の撫でを施す。外面上位に炭化物が付着する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は茶から黒褐色である。

６号埋設土器（第180図）

位置　／調査区東部分、Eh－89グリッドに位置する。　切り合い関係　／なし。　規模　／掘り方は円形で、長軸16cm、短軸15cm、検出面よりの深さ10cmを計測する。　埋設土器　／正位の状態で付設される。

時期　／堀之内２式。

１は、深鉢の胴部下半から底部片である。底部には網代痕が確認され、内外面は軽く研磨される。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は明褐色である。



第180図　1・3・4・5・6・7号埋設土器

7号埋設土器（第180図）

位置　／調査区東部分、Ei－89グリッドに位置する。　切り合い関係　／91号土坑と重複し、本跡が新しい構築である。　規模　／掘り方は円形で、長軸30cm、短軸27cm、検出面よりの深さ30cmを計測する。　埋設土器　／正位の状態で付設され、蓋石を伴い、底部を欠損する。　時期　／加曽利Ｅ３式。

１は、口縁部が弱く内湾する深鉢である。口縁部に隆帯と沈線で渦巻文と楕円区画文を構成し、胴部に３本の沈線で懸垂文を施す。懸垂文間に縄文を充填施文する。内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黄褐色である。

8号埋設土器（第181図）

位置　／調査区西部分、Ea－65グリッドに位置する。　切り合い関係　／なし。　規模　／掘り方は確認されていない。　時期　／堀之内２式。

埋設土器　／

１は、口縁部が弱く開く深鉢である。口縁には突起が４単位付けられ、突起下には刻目が付く隆線で蛇行懸垂文を施す。口唇部上面と内面には沈線が巡る。口縁部と胴部中位に刻目が付く隆線を施して文様帯を画し、そのうちに帯縄文で波状文を構成する。無文部と内面は研磨を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は明褐色である。

２は、深鉢の底部片である。底面に網代痕を残す。胴部下端が僅かに突出し、面取りを施す。内外面は共に撫でる。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黄土色である。

9号埋設土器（第181図）

位置　／調査区西部分、Ea－65グリッドに位置する。　切り合い関係　／なし。　規模　／掘り方は確認されていない。　埋設土器　／正位の状態で付設される。　時期　／加曽利Ｂ１式。

１は、平縁口縁の深鉢である。外面は比較的丁寧な撫で、内面は横位の条痕を施した様な状態を呈する。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は普通で、色調は褐色である。

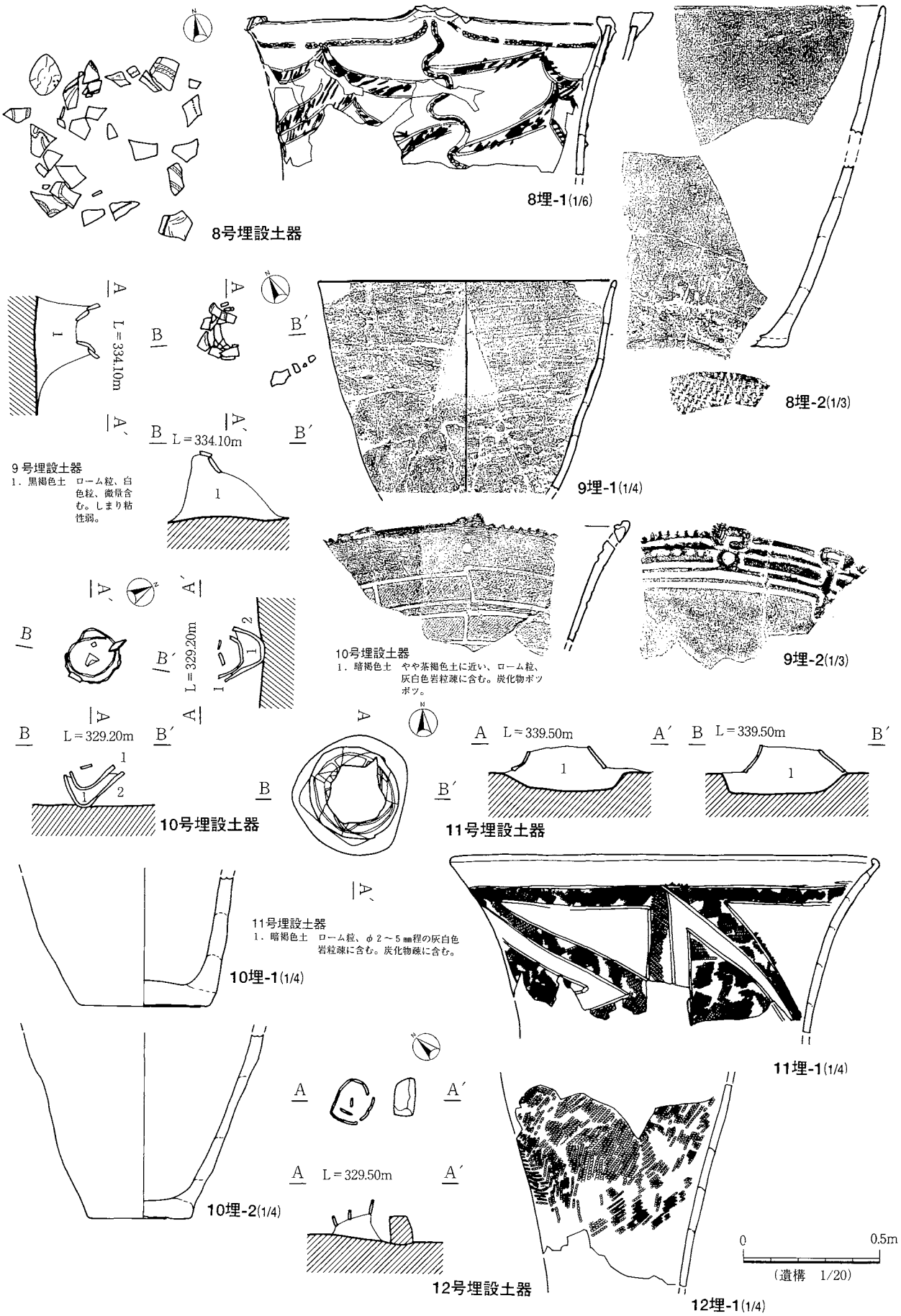
２は、深鉢の口縁部片である。内面に４本の沈線を施し、一部に円形刺突を連続施文する。口縁部にのの字状の小突起を貼付し、小突起の直下に円孔と釣針状の文様を施す。外面は沈線と帯縄文を巡らせ、小突起下で縦位沈線で区切る。内外面に丁寧な研磨を施す。外面に煤の付着が観察される。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

10号埋設土器（第181図）

位置　／調査区西部分、Eb－69グリッドに位置する。　切り合い関係　／なし。　規模　／掘り方は確認されていない。　埋設土器　／正位の状態で２個体が重って検出される。　時期　／後期前半。

１は、深鉢胴部下半から底部片である。内外面は粗い撫でを施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は明褐色である。

２は、深鉢の胴部下半から底部片である。底部に網代痕が残り、内外面は粗い撫でを施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。



第181図　8～12号埋設土器

11号埋設土器（第181図）

位置　／調査区西部分、Dh－63グリッドに位置する。　切り合い関係　／なし。　規模　／掘り方は円形で、長軸44cm、短軸41cm、検出面よりの深さ15cmを計測する。　埋設土器　／伏せた状態で検出される。時期　／堀之内２式。

１は、胴部がくの字状に内折し、口縁部が外反する鉢と見られる。口唇部は内折し、胴部上半に帯縄文で三角形を組み合わせた文様を構成する。無文部と内面には研磨を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

12号埋設土器（第181図）

位置　／調査区西部分、Dg－63グリッドに位置する。　切り合い関係　／なし。　規模　／掘り方は確認されていない。　埋設土器　／正位の状態で付設される。　時期　／堀之内２式？

１は、深鉢の胴部下半片である。外面に斜縄文を施し、下半の無文部と内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

13号埋設土器（第182図）

位置　／調査区西部分、Dg－64グリッドに位置する。　切り合い関係　／なし。　規模　／掘り方は円形で、長軸55cm、短軸50cm、検出面よりの深さ26cmを計測する。　埋設土器　／正位の状態で検出されたが、底部を欠損している。　時期　／後期前半である。

１は、深鉢の胴部下半片である。外面に粗い撫でと軽い研磨を、内面に粗い撫でを施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

14号埋設土器（第182図）

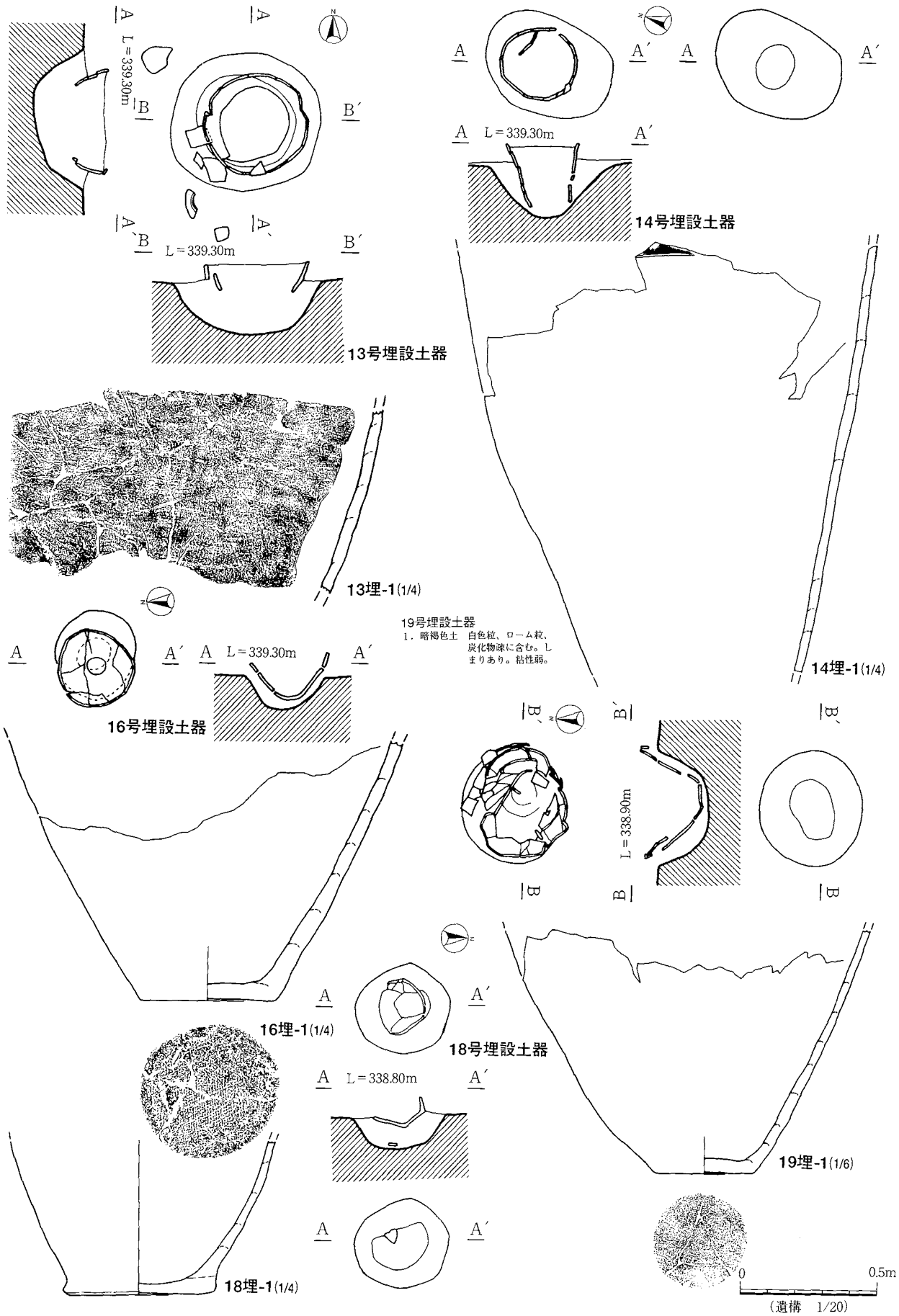
位置　／調査区西部分、Dh－64グリッドに位置する。　切り合い関係　／なし。　規模　／掘り方は楕円形で、長軸48cm、短軸35cm、検出面よりの深さ28cmを計測する。　埋設土器　／正位の状態で検出されたが、底部を欠損している。　時期　／堀之内２式。

１は、深鉢の胴部下半片である。胴部上半に帯縄文で文様を構成し、無文部と内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黄褐色である。

16号埋設土器（第182図）

位置　／調査区西部分、Dg－63グリッドに位置する。　切り合い関係　／なし。　規模　／掘り方は円形で、長軸35cm、短軸30cm、検出面よりの深さ20cmを計測する。　埋設土器　／正位の状態で付設される。時期　／後期。

１は、深鉢の胴部下半片である。底部に網代痕を残し、内外面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は褐色である。



第182図　13・14・16・18・19号埋設土器

18号埋設土器（第182図）

位置　／調査区西部分、Dg－65グリッドに位置する。　切り合い関係　／なし。　規模　／掘り方は円形で、長軸35㎝、短軸32㎝、検出面よりの深さ14㎝を計測する。　埋設土器　／倒位の状態で検出される。時期　／後期。

１は、深鉢の胴部下半から底部片である。内面は横位から斜位、外面は縦位の撫でを施す。底部は円板状に突出し、底面は摩滅してやや光沢がある。胎土は細砂粒を多量、小礫を少量含み、焼成は良好で、色調は黄土色である。

19号埋設土器（第182図）

位置　／調査区西部分、Df－64グリッドに位置する。　切り合い関係　／なし。　規模　／掘り方は楕円形で、長軸45㎝、短軸40㎝、検出面よりの深さ26㎝を計測する。　埋設土器　／正位の状態で付設される。時期　／堀之内２式。

１は、深鉢の胴部下半片である。底部に網代痕が確認され、内外面に粗い研磨を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は暗褐色から黄褐色である。

20号埋設土器（第183図）

位置　／Ef－87グリッドに位置する。　切り合い関係　／なし。　規模　／掘り方は楕円形で、長軸56㎝、短軸47㎝、検出面よりの深さ22㎝を計測する。　埋設土器　／正位の状態で付設されるが、底部を欠損している。　時期　／加曽利Ｅ３式。

１は、胴部上半が外反する深鉢である。口縁部に渦巻文と楕円区画文を構成する。胴部には蕨手状沈線を伴う無文懸垂帯を施し、その間に縄文を充填する。内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

21号埋設土器（第183図）

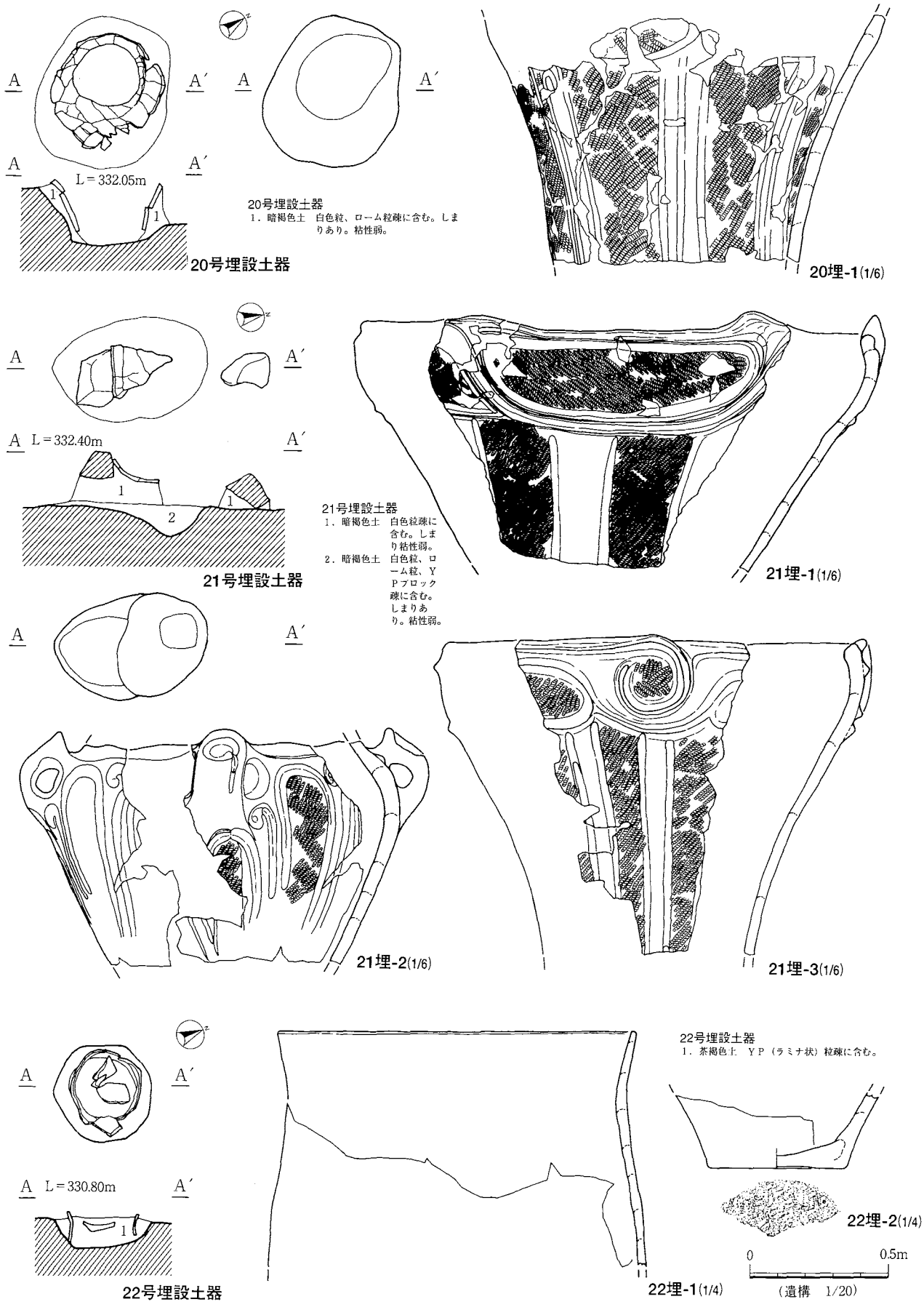
位置　／Ef－87グリッドに位置する。　切り合い関係　／なし。　規模　／掘り方は楕円形で、長軸57㎝、短軸37㎝、検出面よりの深さ25㎝を計測する。　時期　／加曽利Ｅ３式。

埋設土器　／

１は、口縁部が内湾する深鉢である。口縁に山形の小突起が４単位付き、隆帯と太沈線で弧状の区画文を構成し、胴部に幅広の無文懸垂帯を施す。無文部と内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黒褐色である。

２は、いわゆる両耳壺である。頸部を巡る隆帯に耳状の橋状把手が付く。胴部には逆Ｕ字状の区画文と蕨手状の沈線懸垂文で文様が構成される。内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

３は、口縁部が内湾する深鉢である。口縁部に隆帯で渦巻文と楕円区画文を構成し、胴部に幅広の無文懸垂文を施す。内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。



第183図　20～22号埋設土器

22号埋設土器（第183図）

位置　／調査区西部分、Eh－91グリッドに位置する。　切り合い関係　／なし。　規模　／掘り方は円形で、長軸36cm、短軸35cm、検出面よりの深さ12cmを計測する。　埋設土器　／正位の状態で付設される。時期　／堀之内２式

１は、頸部が弱く括れる深鉢である。内外面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

２は、深鉢の底部片である。１の底部と見られ。網代痕が確認される。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

23号埋設土器（第184図））

位置　／調査区西部分、Eg－92グリッドに位置する。　切り合い関係　／63号住居跡と重複し本跡が新しい構築である。　規模　／掘り方は楕円形で、長軸46cm、短軸40cm、検出面よりの深さ17cmを計測する。時期　／堀之内１式。

埋設土器　／

１は、深鉢の胴部片である。刻みを施した隆帯を連弧状と縦位に貼付し間に沈線を施す。胴部下半は無文で、撫でを施す。文様施文は全体に雑である。胎土は砂粒・片岩を多量に含み、焼成は普通で、色調は黄土色から黒褐色である。

24号埋設土器（第184図）

位置　／調査区西部分、Eh－93グリッドに位置する。　切り合い関係　／なし。　規模　／掘り方は楕円形で、長軸50cm、短軸44cm、検出面よりの深さ24cmを計測する。　埋設土器　／正位の状態で付設する。

１は、胴部中程が弱く括れる深鉢である。胴部上半に波状区画、下半に逆Ｕ字状の区画を構成する。上半にはＬＲ、下半にはＬＬの縄文を充填施文する。無文部と内面は粗い研磨を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は灰褐色から黄褐色である。

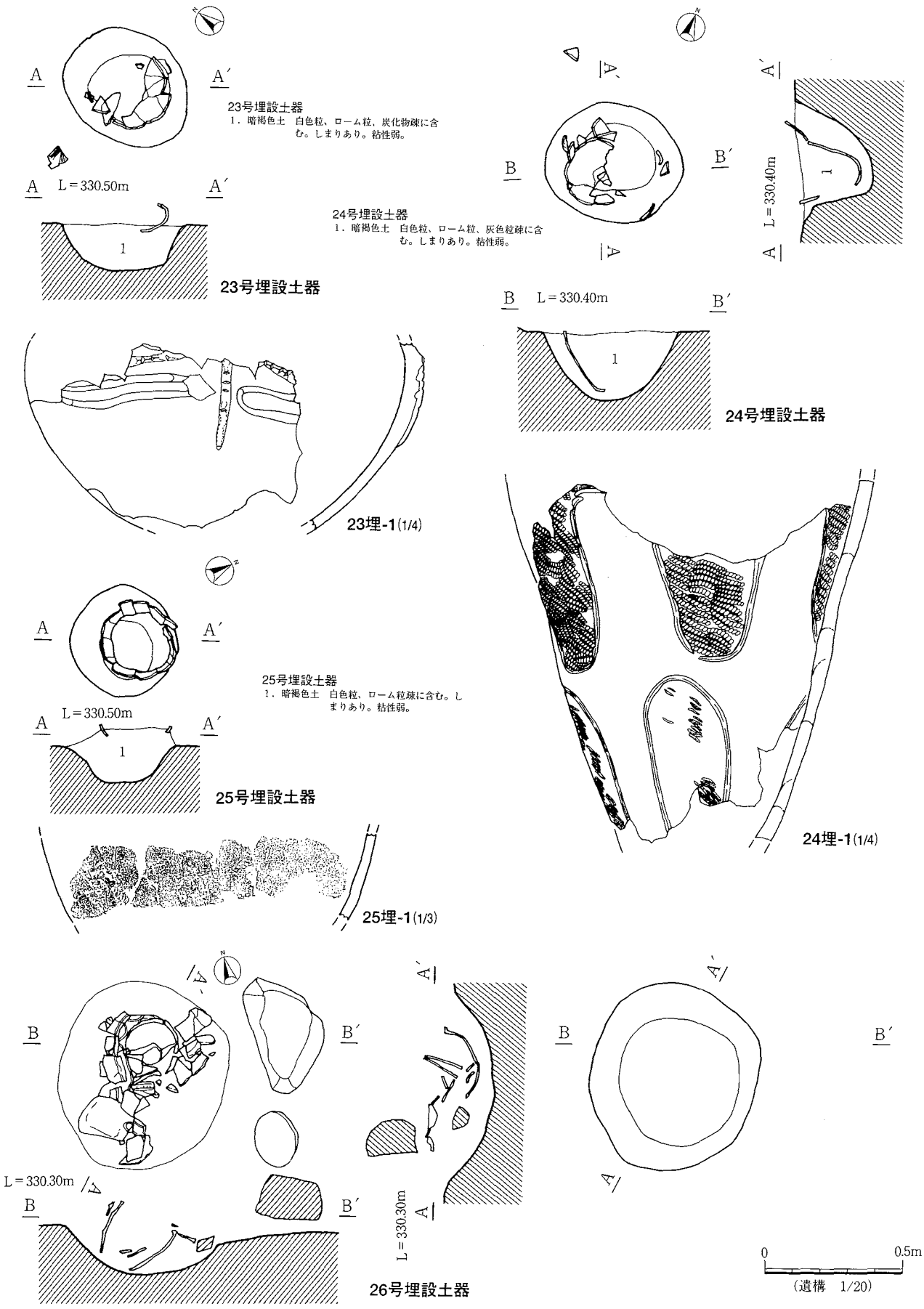
25号埋設土器（第184図）

位置　／調査区西部分、Di－92グリッドに位置する。　切り合い関係　／なし。　規模　／掘り方は円形で、長軸41cm、短軸40cm、検出面よりの深さ18cmを計測する。　埋設土器　／正位の状態で付設し、底部を欠損している。　時期　／後期。

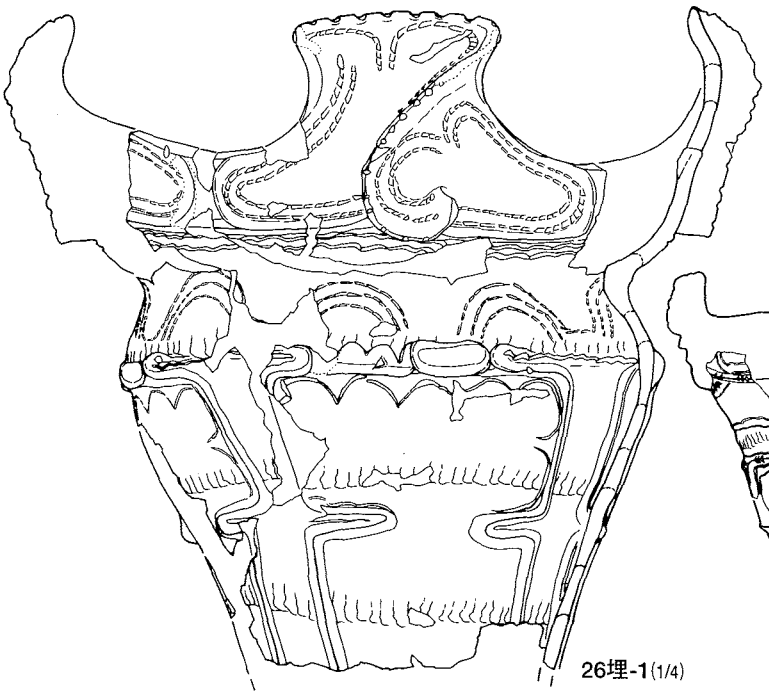
１は、深鉢の胴部片で、内外面に雑な研磨を施す。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい橙色である。

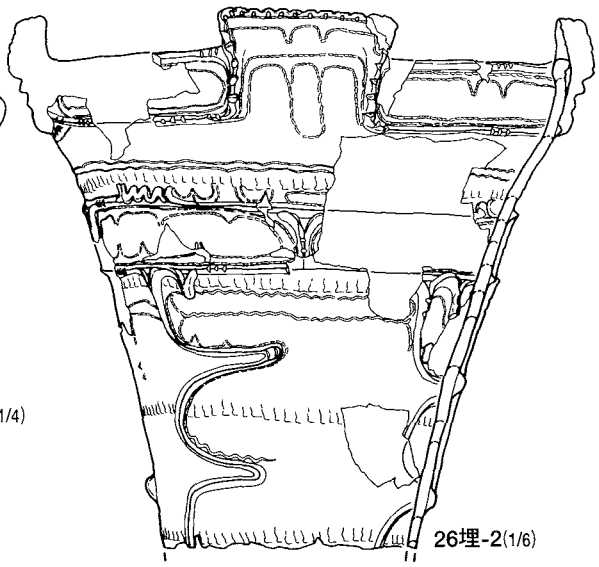
26号埋設土器（第184・185図）

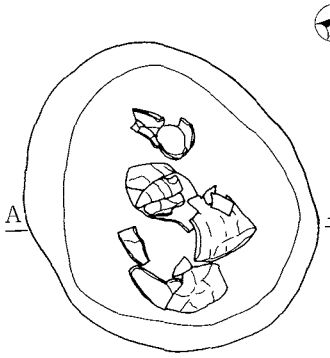
位置　／調査区西部分、Ei－94グリッドに位置する。　切り合い関係　／なし。　規模　／掘り方は円形で、長軸68cm、短軸60cm、検出面よりの深さ18cmを計測する。　埋設土器　／到位の状態で検出されている。時期　／阿玉台式。

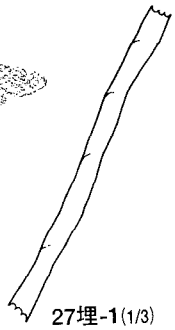


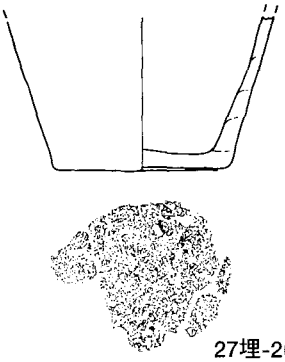
第184図　23～26号埋設土器

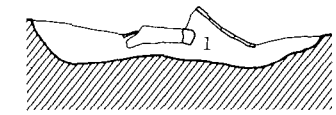






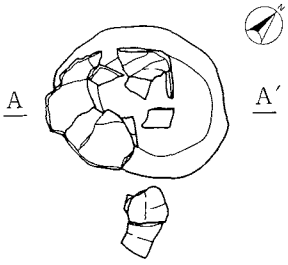




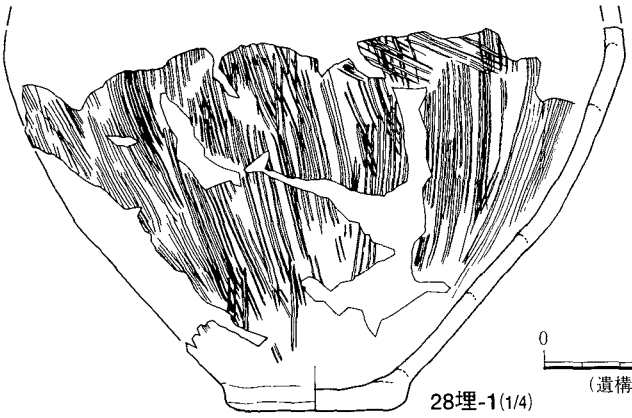


27号埋設土器
ＹＰ土層Ｒホウロク
ラミナ発達。

27号埋設土器

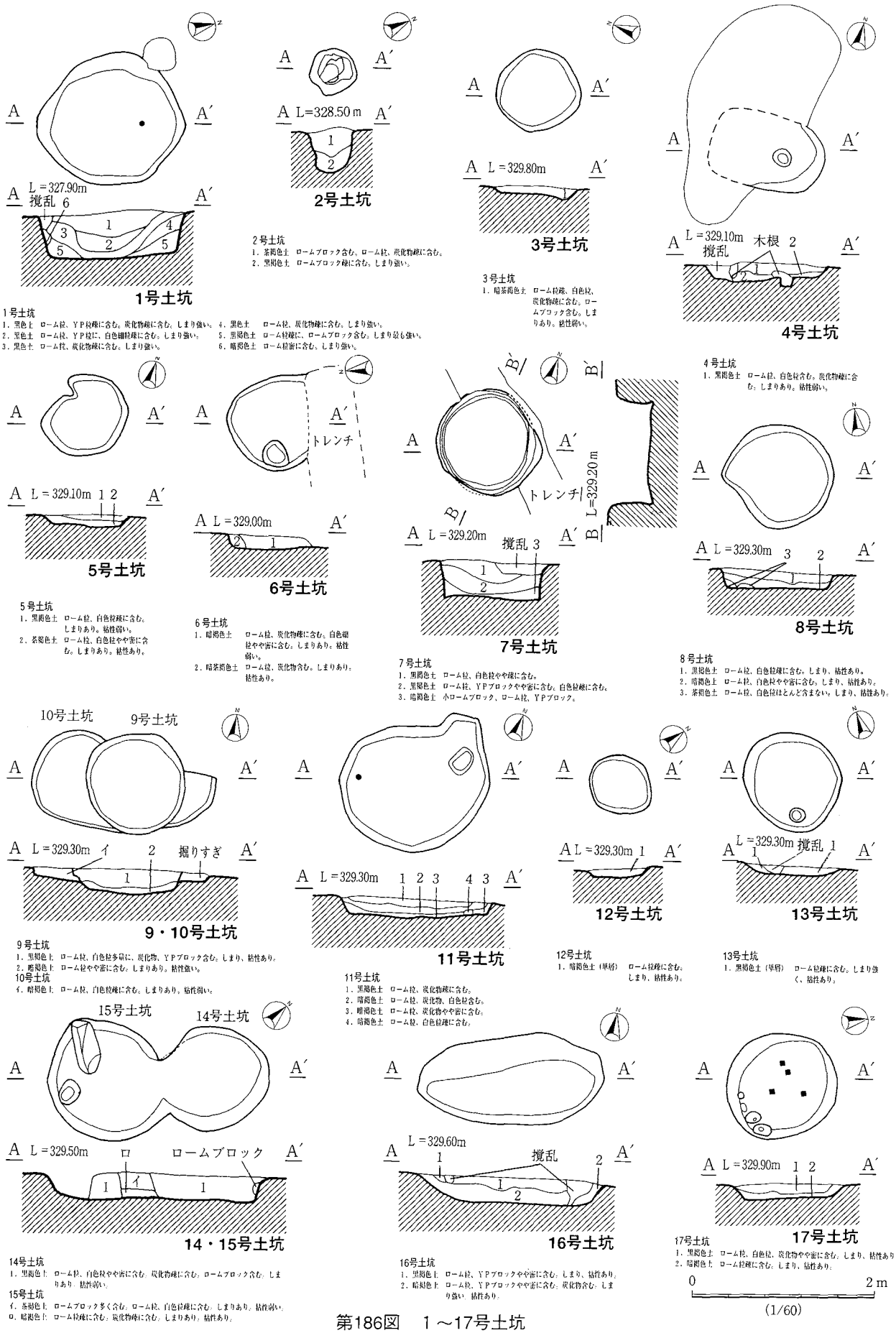


28号埋設土器



0 0.5m
（遺構 1/20）

第185図　27・28号埋設土器



1号土坑
1．黒色土　ローム粒、ＹＰ粒疎に含む。炭化物疎に含む。しまり強い。
2．黒色土　ローム粒、ＹＰ粒に、白色細粒疎に含む。しまり強い。
3．黒色土　ローム粒、炭化物疎に含む。しまり強い。
4．黒色土　ローム粒、炭化物疎に含む。しまり強い。
5．黒色土　ローム粒疎に、ロームブロック含む。しまり最も強い。
6．暗褐色土　ローム粒密に含む。しまり強い。

2号土坑
1．茶褐色土　ロームブロック含む。ローム粒、炭化物疎に含む。
2．黒褐色土　ロームブロック疎に含む。しまり強い。

3号土坑
1．暗茶褐色土　ローム粒疎、白色粒、炭化物疎に含む。ロームブロック含む。しまりあり。粘性弱い。

4号土坑
1．黒褐色土　ローム粒、白色粒含む。炭化物疎に含む。しまりあり。粘性弱い。

5号土坑
1．黒褐色土　ローム粒、白色粒疎に含む。しまりあり。粘性弱い。
2．茶褐色土　ローム粒、白色粒やや密に含む。しまりあり。粘性あり。

6号土坑
1．暗褐色土　ローム粒、炭化物疎に含む。白色細粒やや密に含む。しまりあり。粘性弱い。
2．暗茶褐色土　ローム粒、炭化物含む。しまりあり。粘性あり。

7号土坑
1．黒褐色土　ローム粒、白色粒やや疎に含む。
2．黒褐色土　ローム粒、ＹＰブロックやや密に含む。白色粒疎に含む。
3．暗褐色土　小ロームブロック、ローム粒、ＹＰブロック。

8号土坑
1．黒褐色土　ローム粒、白色粒疎に含む。しまり、粘性あり。
2．暗褐色土　ローム粒、白色粒やや密に含む。しまり、粘性あり。
3．茶褐色土　ローム粒、白色粒ほとんど含まない。しまり、粘性あり。

9号土坑
1．黒褐色土　ローム粒、白色粒多量に、炭化物、ＹＰブロック含む。しまり、粘性あり。
2．暗褐色土　ローム粒やや密に含む。しまりあり。粘性強い。

10号土坑
イ．暗褐色土　ローム粒、白色粒疎に含む。しまりあり。粘性弱い。

11号土坑
1．黒褐色土　ローム粒、炭化物疎に含む。
2．暗褐色土　ローム粒、炭化物、白色粒含む。
3．暗褐色土　ローム粒、炭化物やや密に含む。
4．暗褐色土　ローム粒、白色粒疎に含む。

12号土坑
1．暗褐色土（層厚）　ローム粒疎に含む。しまり、粘性あり。

13号土坑
1．黒褐色土（層厚）　ローム粒疎に含む。しまり強く、粘性あり。

14号土坑
1．黒褐色土　ローム粒、白色粒やや密に含む。炭化物疎に含む。ロームブロック含む。しまりあり。粘性弱い。

15号土坑
イ．茶褐色土　ロームブロック多く含む。ローム粒、白色粒疎に含む。しまりあり。粘性弱い。
ロ．暗褐色土　ローム粒疎に含む。炭化物疎に含む。しまりあり。粘性あり。

16号土坑
1．黒褐色土　ローム粒、ＹＰブロックやや密に含む。しまり、粘性あり。
2．暗褐色土　ローム粒、ＹＰブロックやや密に含む。炭化物含む。しまり強い。粘性あり。

17号土坑
1．黒褐色土　ローム粒、白色粒、炭化物やや密に含む。しまり、粘性あり。
2．暗褐色土　ローム粒疎に含む。しまり、粘性あり。

第186図　1～17号土坑

1は、頸部が強く括れ、口縁部が内湾しながら開く4単位波状口縁の深鉢である。口縁には扇状の大形把手が付く。把手には刻目が付く隆帯でS字文を施し、口縁部の楕円区画と一体化した構成をとる。また、口縁部隆帯に沿って2条単位の押印文を加える。頸部には2本の沈線による鋸歯文と3本の押印文による波状文を施す。胴部には隆帯によるクランク状の懸垂文を組み合わせて、上位の方形状の区画を構成している。なお、胴部と頸部の境には、沈線と隆帯で鋸歯文を施す。胎土は雲母・砂粒多量に含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

2は、口縁部が内湾する深鉢である。口縁部には大形のヒレ状把手が4単位付けられている。文様は口縁部と頸部下に隆帯で楕円形区画文を施し、胴部には蛇行状の隆帯懸垂文を施す。区画文や把手部には隆帯に沿って鋸歯状表現を伴う結節沈線が加えられる。隆帯の所々に施される3つの刻目も、鋸歯状表現に対応するものであろう。また、把手上端と頸部下隆帯には刻目や隆帯による鋸歯文を施す。把手部結節沈線から垂下する鋸歯文は結節沈線による。なお、ヒダ状整形痕は4条認められる。内面は研磨を施す。胎土は雲母・砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

27号埋設土器（第185図）

位置　／調査区西部分、Ei－92グリッドに位置する。調査時に埋設土器として取り扱ったが、土坑とした方が適切と考えられる。　切り合い関係　／なし。　規模　／掘り方は円形で、長軸85cm、短軸71cm、検出面よりの深さ71cmを計測する。　埋設時期　／黒浜式。

埋設土器　／倒位で検出されている。

1は、深鉢の胴部片である。外面に菱形構成の羽状縄文を施す。胎土は繊維を多量に含み、焼成は普通で、色調は黒褐色である。

2は、深鉢の胴部下半から底部片である。外面に縄文を施文する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は不良で、色調は橙色である。

28号埋設土器（第185図）

位置　／調査区西部分、Eh－98グリッドに位置する。　切り合い関係　／なし。　規模　／掘り方は楕円形で、長軸46cm、短軸40cm、検出面よりの深さ10cmを計測する。　時期　／後期。

埋設土器　／

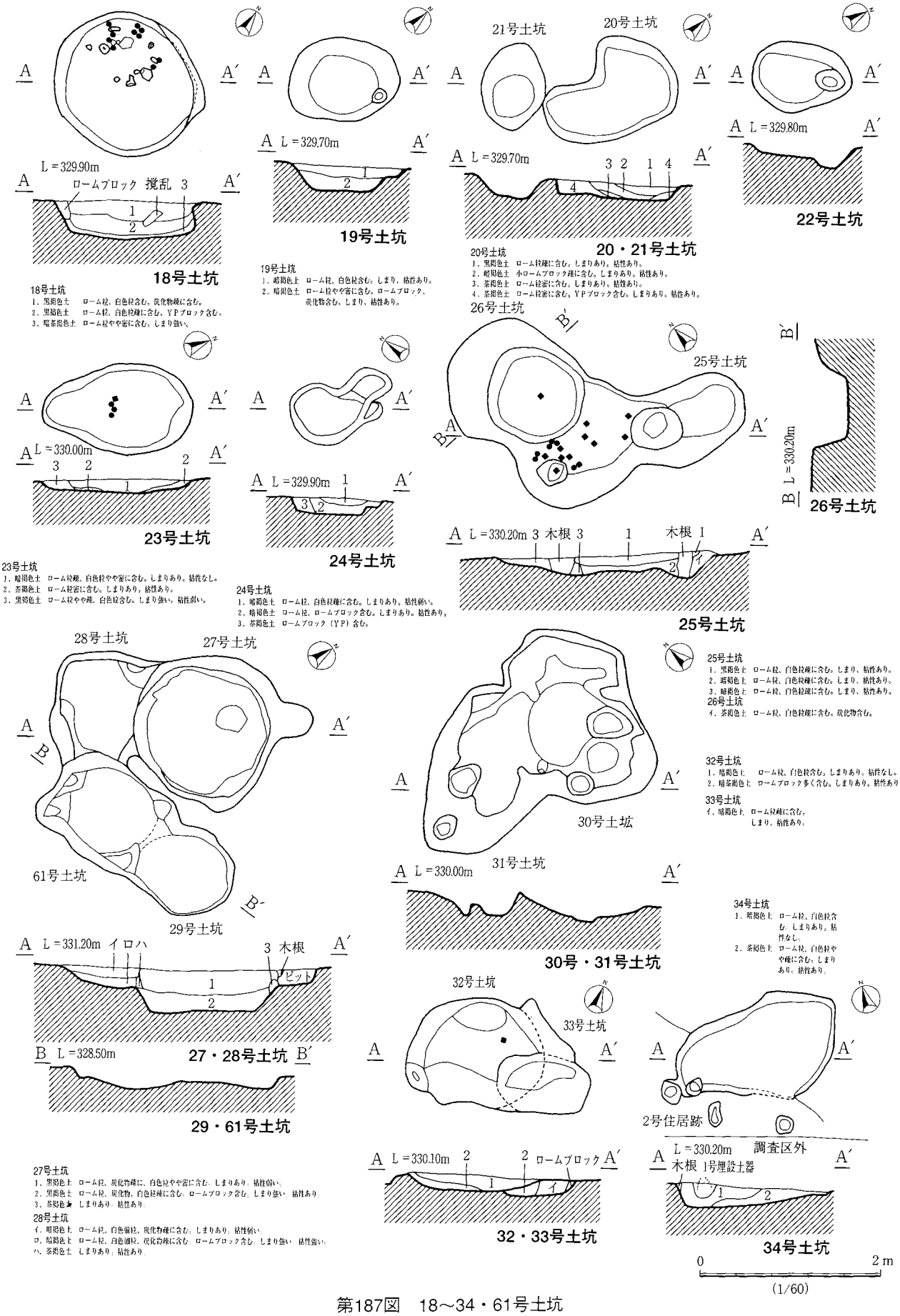
1は、粗製深鉢の胴部片である。外面に縦位から斜位の条線を施文する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は褐色から黒褐色である。

第6項　土坑

本遺跡から検出された縄文時代の土坑は、前期・中期・後期の各時期に亘るもので、調査区の中央部が希薄になる他は、東西に集中する傾向が窺われる。特に各配石墓群の周辺に密集度が高く、平面形態が円形基調、方形気味、不整形が見られ、特に円形及び楕円形が大多数を占めている。断面形状はU字状、凵字状、袋状に大別され、大形の袋状土坑が点在している。

また、土坑として取り扱ったもののなかにはピット状を呈するものがあり、建物あるいはそのほかの構築物が存在した可能性が指摘される。

なお、本遺跡から検出された土坑は400基を上回っている為、本項においては、遺構番号順に遺構別に出土遺物を提示した。各遺構の詳細については、表にまとめ項末に掲載したので参照して頂きたい。



18号土坑
1. 黒褐色土　ローム粒、白色粒含む。炭化物礫に含む。
2. 黒褐色土　ローム粒、白色粒礫に含む。YPブロック含む。
3. 暗茶褐色土　ローム粒やや密に含む。しまり強い。

19号土坑
1. 暗褐色土　ローム粒、白色粒含む。しまり、粘性あり。
2. 暗褐色土　ローム粒やや密に含む。ロームブロック、炭化物含む。しまり、粘性あり。

20号土坑
1. 黒褐色土　ローム粒礫に含む。しまりあり。粘性あり。
2. 暗褐色土　小ロームブロック礫に含む。しまりあり。粘性あり。
3. 茶褐色土　ローム粒密に含む。しまりあり。粘性あり。
4. 茶褐色土　ローム粒密に含む。YPブロック含む。しまりあり。粘性あり。

23号土坑
1. 暗褐色土　ローム粒礫、白色粒やや密に含む。しまりあり。粘性なし。
2. 茶褐色土　ローム粒密に含む。しまりあり。粘性あり。
3. 黒褐色土　ローム粒やや疎、白色粒含む。しまり強い。粘性弱い。

24号土坑
1. 暗褐色土　ローム粒、白色粒礫に含む。しまりあり。粘性弱い。
2. 暗褐色土　ローム粒、ロームブロック含む。しまりあり。粘性あり。
3. 茶褐色土　ロームブロック（YP）含む。

25号土坑
1. 黒褐色土　ローム粒、白色粒礫に含む。しまり、粘性あり。
2. 暗褐色土　ローム粒、白色粒礫に含む。しまり、粘性あり。
3. 暗褐色土　ローム粒、白色粒礫に含む。しまり、粘性あり。

26号土坑
4. 茶褐色土　ローム粒、白色粒礫に含む。炭化物含む。

32号土坑
1. 暗褐色土　ローム粒、白色粒含む。しまりあり。粘性なし。
2. 暗茶褐色土　ロームブロック多く含む。しまりあり。粘性あり。

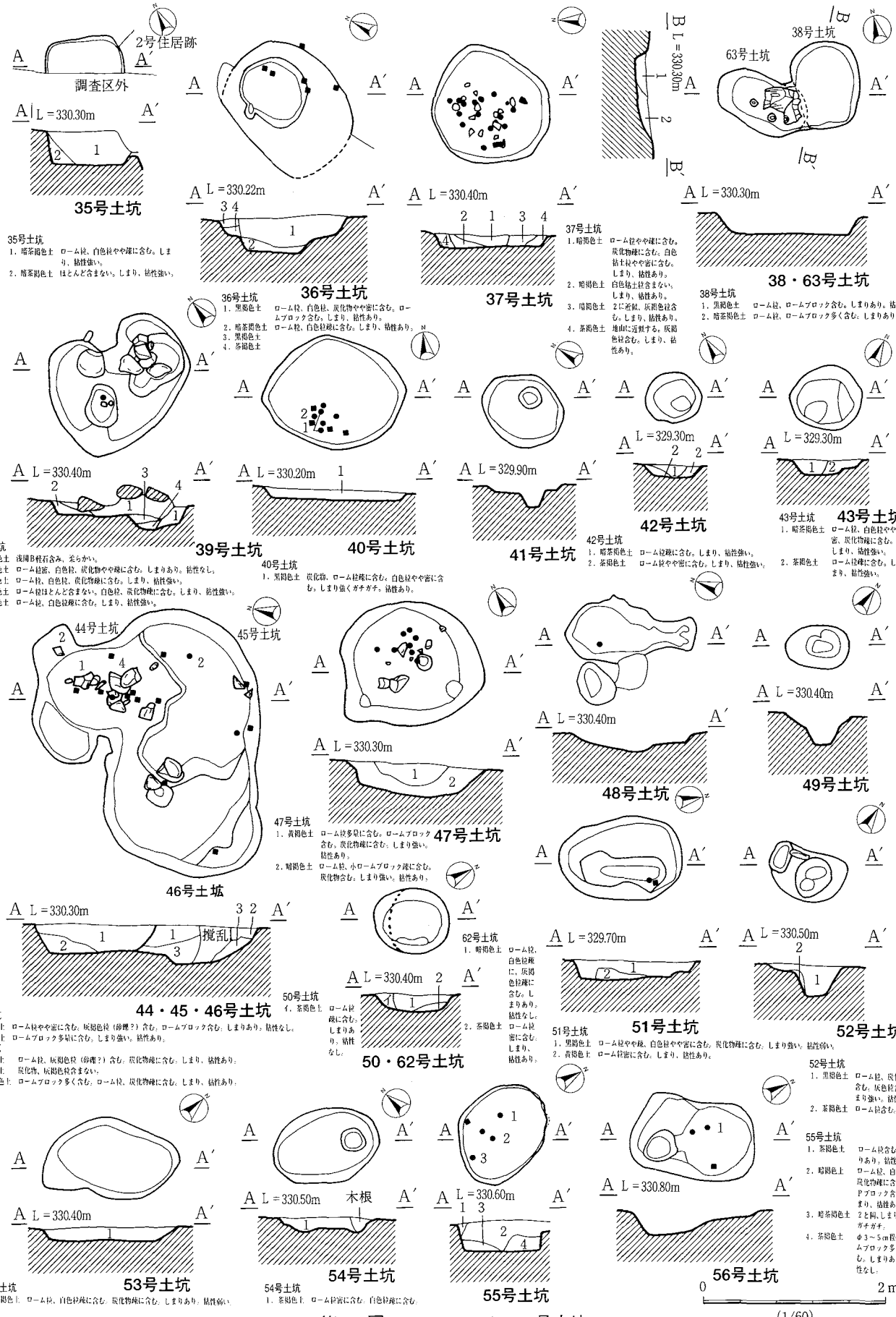
33号土坑
イ. 暗褐色土　ローム粒礫に含む。しまり、粘性あり。

34号土坑
1. 暗褐色土　ローム粒、白色粒含む。しまりあり。粘性なし。
2. 茶褐色土　ローム粒、白色粒やや礫に含む。しまりあり。粘性あり。

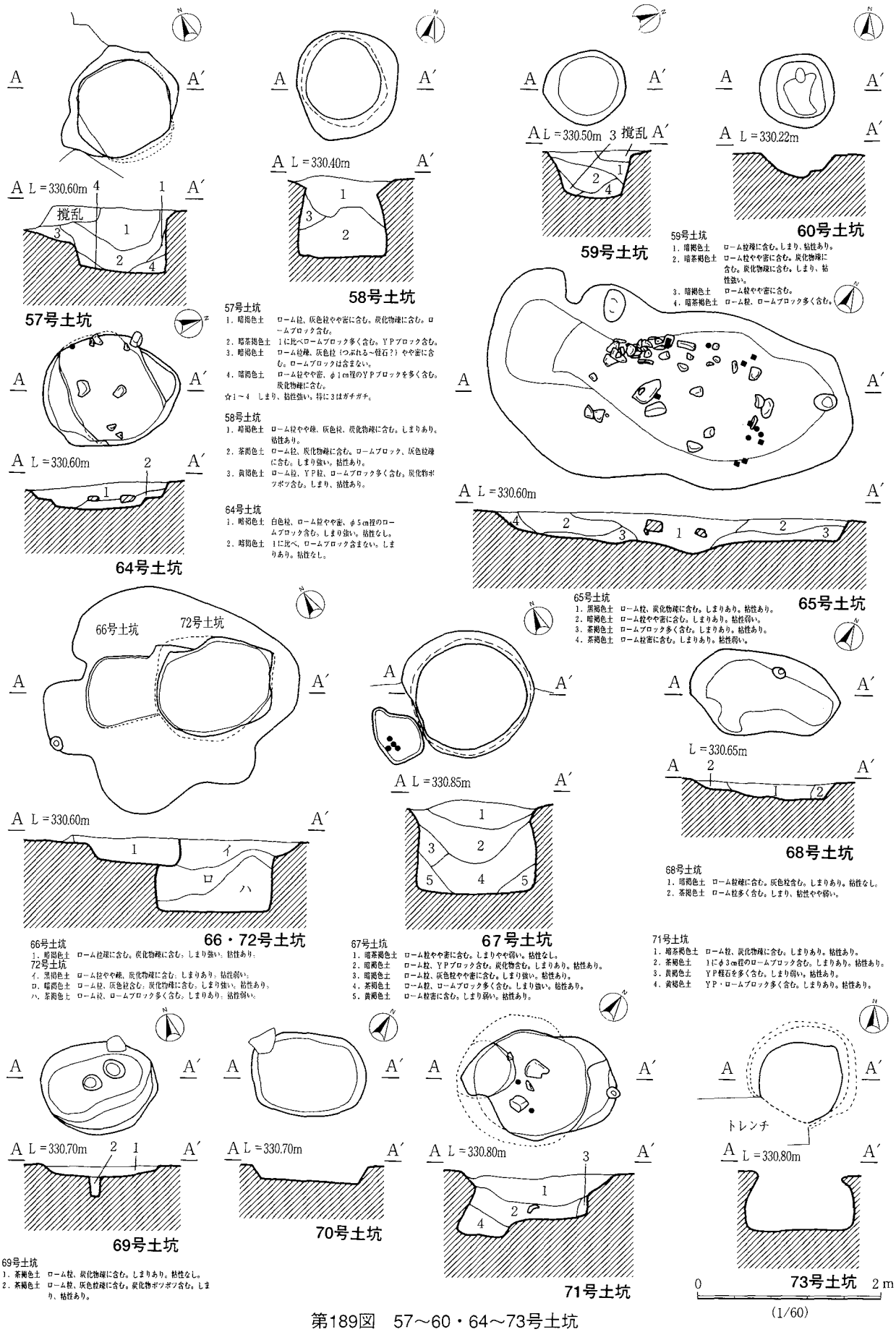
27号土坑
1. 黒褐色土　ローム粒、炭化物礫に、白色粒やや密に含む。しまりあり。粘性弱い。
2. 黒褐色土　ローム粒、炭化物、白色粒礫に含む。ロームブロック含む。しまり強い。粘性あり。
3. 茶褐色土　しまりあり。粘性あり。

28号土坑
イ. 暗褐色土　ローム粒、白色微粒、炭化物礫に含む。しまりあり。粘性弱い。
ロ. 暗褐色土　ローム粒、白色微粒、炭化物礫に含む。ロームブロック含む。しまり強い。粘性強い。
ハ. 茶褐色土　しまりあり。粘性あり。

第187図　18～34・61号土坑



第188図　35～56・62・63号土坑



57号土坑
1．暗褐色土　ローム粒、灰色粒やや密に含む。炭化物疎に含む。ローム ブロック含む。
2．暗茶褐色土　1に比べローム ブロック多く含む。YPブロック含む。
3．暗褐色土　ローム粒疎、灰色粒（つぶれる～粧石？）やや密に含む。ローム ブロックは含まない。
4．暗褐色土　ローム粒やや密、φ1cm程のYPブロックを多く含む。炭化物疎に含む。
☆1～4　しまり、粘性強い。特に3はガチガチ。

58号土坑
1．暗褐色土　ローム粒やや疎、灰色粒、炭化物疎に含む。しまりあり。粘性あり。
2．茶褐色土　ローム粒、炭化物疎に含む。ローム ブロック、灰色粒疎に含む。しまり強い。粘性あり。
3．黄褐色土　ローム粒、YP粒、ローム ブロック多く含む。炭化物ポツポツ含む。しまり、粘性あり。

64号土坑
1．暗褐色土　白色粒、ローム粒やや密、φ5cm程のローム ブロック含む。しまり強い。粘性なし。
2．暗褐色土　1に比べ、ローム ブロック含まない。しまりあり。粘性なし。

59号土坑
1．暗褐色土　ローム粒疎に含む。しまり、粘性あり。
2．暗茶褐色土　ローム粒やや密に含む。炭化物疎に含む。炭化物疎に含む。しまり、粘性強い。
3．暗褐色土　ローム粒やや密に含む。
4．暗茶褐色土　ローム粒、ローム ブロック多く含む。

65号土坑
1．黒褐色土　ローム粒、炭化物疎に含む。しまりあり。粘性あり。
2．暗褐色土　ローム粒やや密に含む。しまりあり。粘性弱い。
3．茶褐色土　ローム ブロック多く含む。しまりあり。粘性あり。
4．茶褐色土　ローム粒密に含む。しまりあり。粘性弱い。

66号土坑
1．暗褐色土　ローム粒疎に含む。炭化物疎に含む。しまり強い。粘性あり。
72号土坑
イ．黒褐色土　ローム粒やや疎、炭化物疎に含む。しまりあり。粘性弱い。
ロ．暗褐色土　ローム粒、灰色粒含む。炭化物疎に含む。しまり強い。粘性あり。
ハ．茶褐色土　ローム粒、ローム ブロック多く含む。しまりあり。粘性弱い。

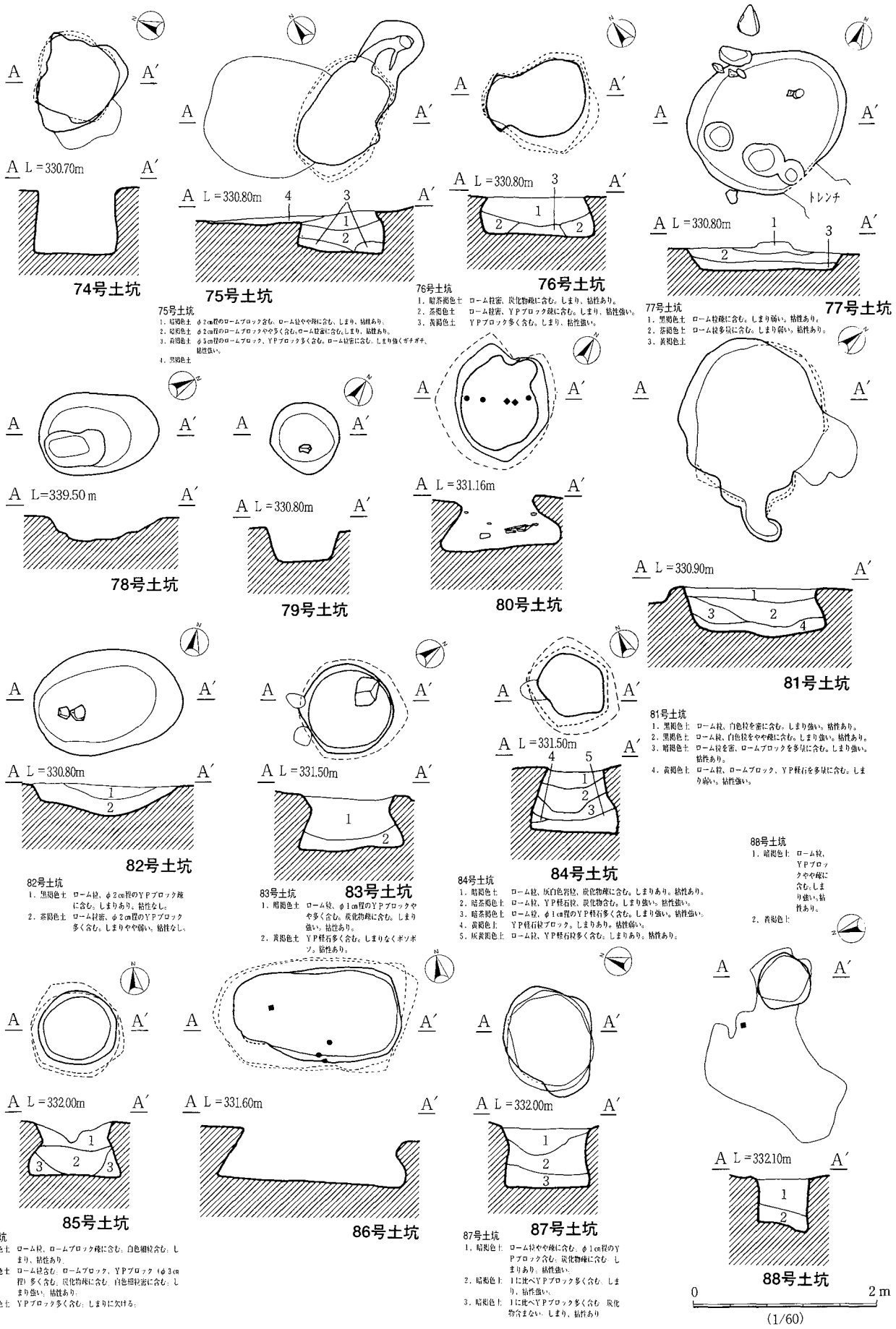
67号土坑
1．暗茶褐色土　ローム粒やや密に含む。しまりやや弱い。粘性なし。
2．暗褐色土　ローム粒、YPブロック含む。炭化物含む。しまりあり。粘性あり。
3．暗褐色土　ローム粒、灰色粒やや密に含む。しまり強い。粘性あり。
4．茶褐色土　ローム粒、ローム ブロック多く含む。しまり強い。粘性あり。
5．黄褐色土　ローム粒密に含む。しまり弱い。粘性あり。

68号土坑
1．暗褐色土　ローム粒疎に含む。灰色粒含む。しまりあり。粘性なし。
2．茶褐色土　ローム粒多く含む。しまり、粘性やや弱い。

71号土坑
1．暗茶褐色土　ローム粒、炭化物疎に含む。しまりあり。粘性あり。
2．茶褐色土　1にφ3cm程のローム ブロック含む。しまりあり。粘性あり。
3．黄褐色土　YP粧石を多く含む。しまり弱い。粘性あり。
4．黄褐色土　YP・ローム ブロック多く含む。しまりあり。粘性あり。

69号土坑
1．茶褐色土　ローム粒、炭化物疎に含む。しまりあり。粘性なし。
2．茶褐色土　ローム粒、灰色粒疎に含む。炭化物ポツポツ含む。しまり、粘性あり。

第189図　57～60・64～73号土坑



75号土坑
1．暗茶褐色土　φ2cm程のロームブロック含む。ローム粒やや疎に含む。しまり、粘性あり。
2．暗褐色土　φ2cm程のロームブロックやや多く含む。ローム粒密に含む。しまり、粘性あり。
3．赤褐色土　φ3cm程のロームブロック、YPブロック多く含む。ローム粒密に含む。しまり強くガチガチ、粘性強い。
4．黒褐色土

76号土坑
1．暗茶褐色土　ローム粒密、炭化物疎に含む。しまり、粘性あり。
2．茶褐色土　ローム粒密、YPブロック疎に含む。しまり、粘性強い。
3．黄褐色土　YPブロック多く含む。しまり、粘性強い。

77号土坑
1．黒褐色土　ローム粒疎に含む。しまり弱い。粘性あり。
2．茶褐色土　ローム粒多量に含む。しまり弱い。粘性あり。
3．黄褐色土

81号土坑
1．黒褐色土　ローム粒、白色粒を密に含む。しまり強い。粘性あり。
2．黒褐色土　ローム粒、白色粒をやや疎に含む。しまり強い。粘性あり。
3．暗褐色土　ローム粒を密、ロームブロックを多量に含む。しまり強い。粘性あり。
4．黄褐色土　ローム粒、ロームブロック、YP軽石を多量に含む。しまり弱い。粘性強い。

82号土坑
1．黒褐色土　ローム粒、φ2cm程のYPブロック疎に含む。しまりあり。粘性なし。
2．茶褐色土　ローム粒密、φ2cm程のYPブロック多く含む。しまりやや弱い。粘性なし。

83号土坑
1．暗褐色土　ローム粒、φ1cm程のYPブロックやや多く含む。炭化物疎に含む。しまり強い。粘性あり。
2．黄褐色土　YP軽石多く含む。しまりなくボソボソ。粘性あり。

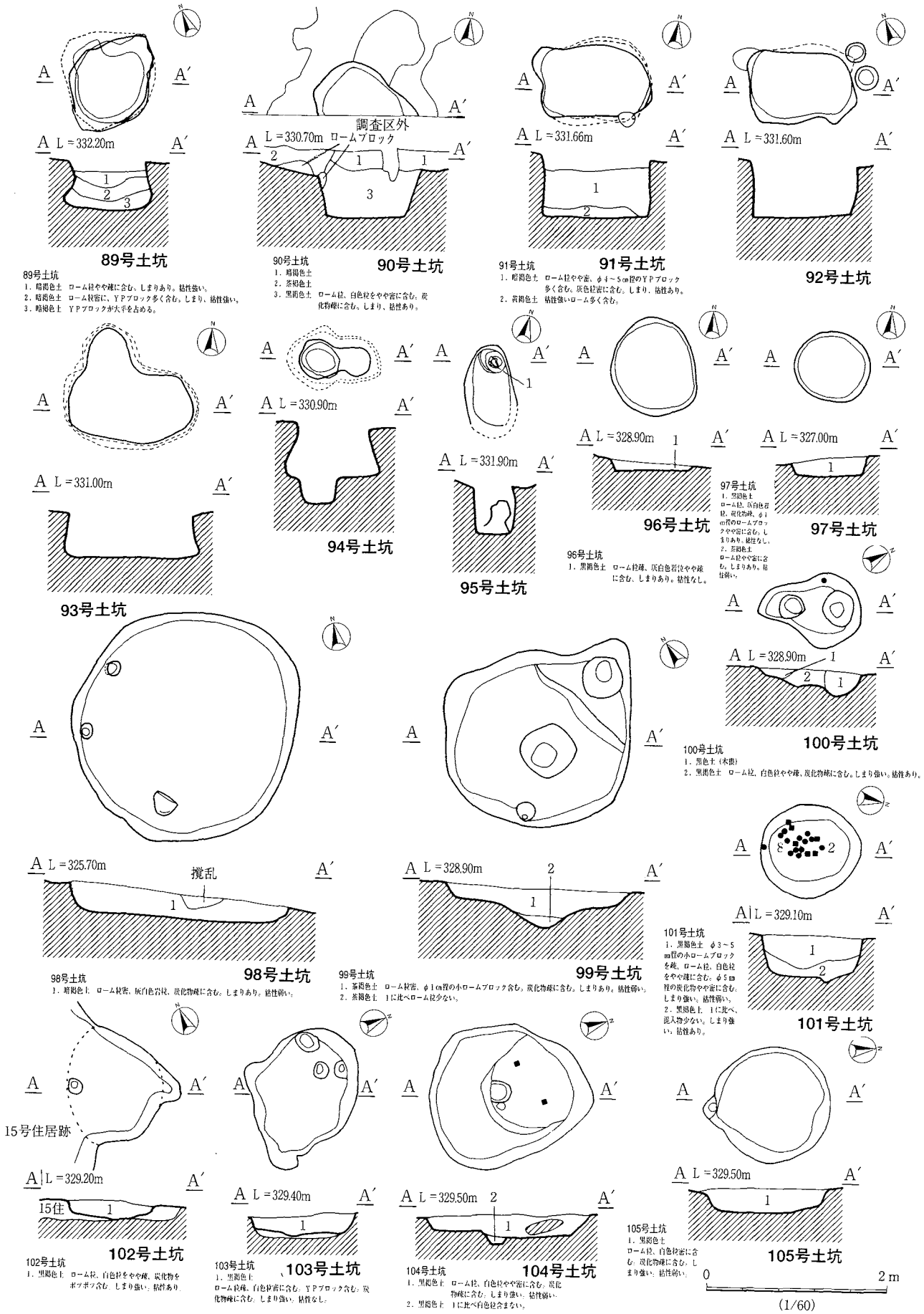
84号土坑
1．暗褐色土　ローム粒、灰白色岩粒、炭化物疎に含む。しまりあり。粘性あり。
2．暗茶褐色土　ローム粒、YP軽石粒、炭化物含む。しまり強い。粘性強い。
3．暗茶褐色土　ローム粒、φ1cm程のYP軽石多く含む。しまり強い。粘性強い。
4．黄褐色土　YP軽石粒ブロック。しまりあり。粘性弱い。
5．灰黄褐色土　ローム粒、YP軽石粒多く含む。しまりあり。粘性あり。

88号土坑
1．暗褐色土　ローム粒、YPブロックやや疎に含む。しまり強い。粘性あり。
2．黄褐色土

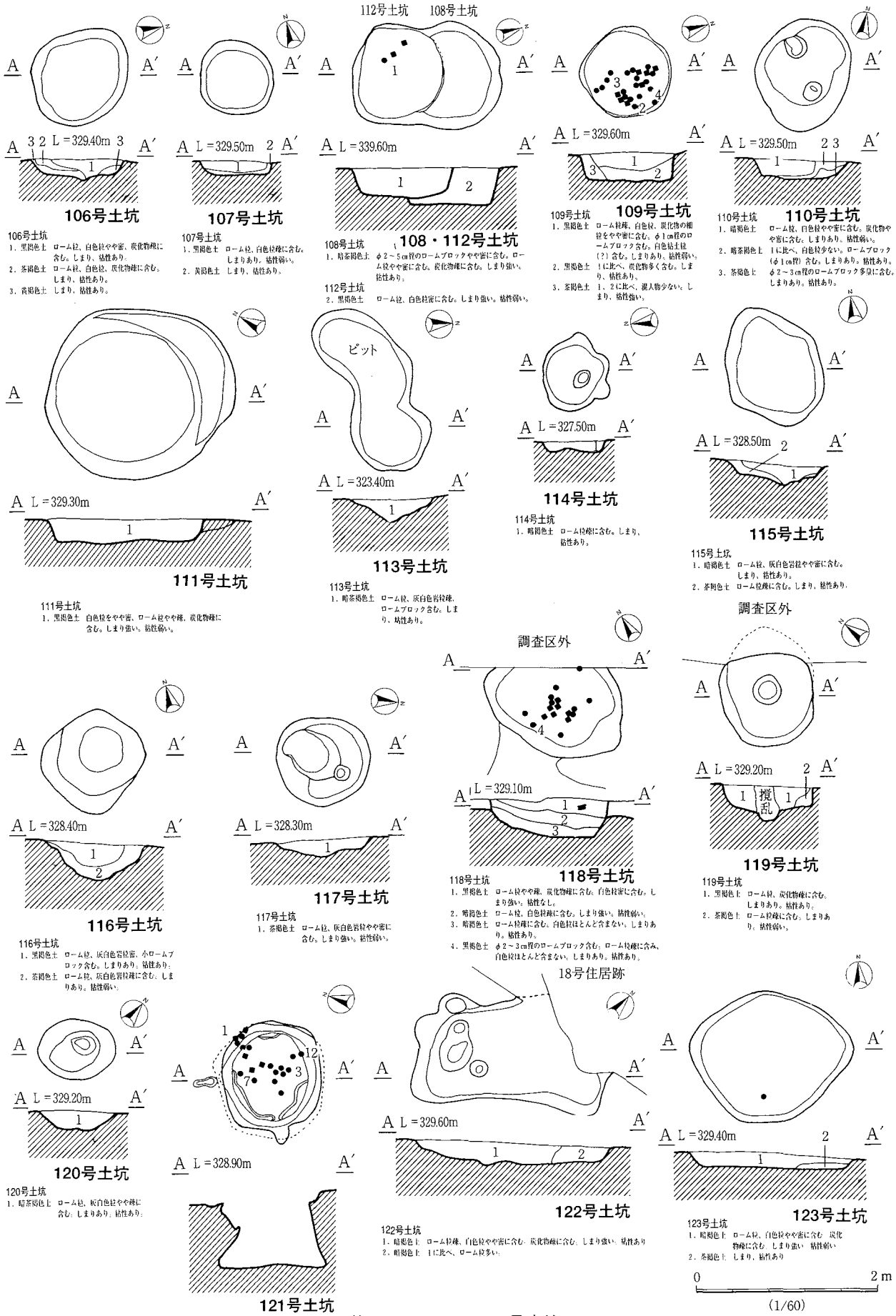
85号土坑
1．暗褐色土　ローム粒、ロームブロック疎に含む。白色細粒含む。しまり、粘性あり。
2．暗褐色土　ローム粒含む。ロームブロック、YPブロック（φ3cm程）多く含む。炭化物疎に含む。白色細粒密に含む。しまり強い。粘性あり。
3．黄褐色土　YPブロック多く含む。しまりに欠ける。

87号土坑
1．暗褐色土　ローム粒やや疎に含む。φ1cm程のYPブロック含む。炭化物疎に含む。しまりあり。粘性強い。
2．暗褐色土　1に比べYPブロック多く含む。しまり、粘性強い。
3．暗褐色土　1に比べYPブロック多く含む。炭化物含まない。しまり、粘性あり

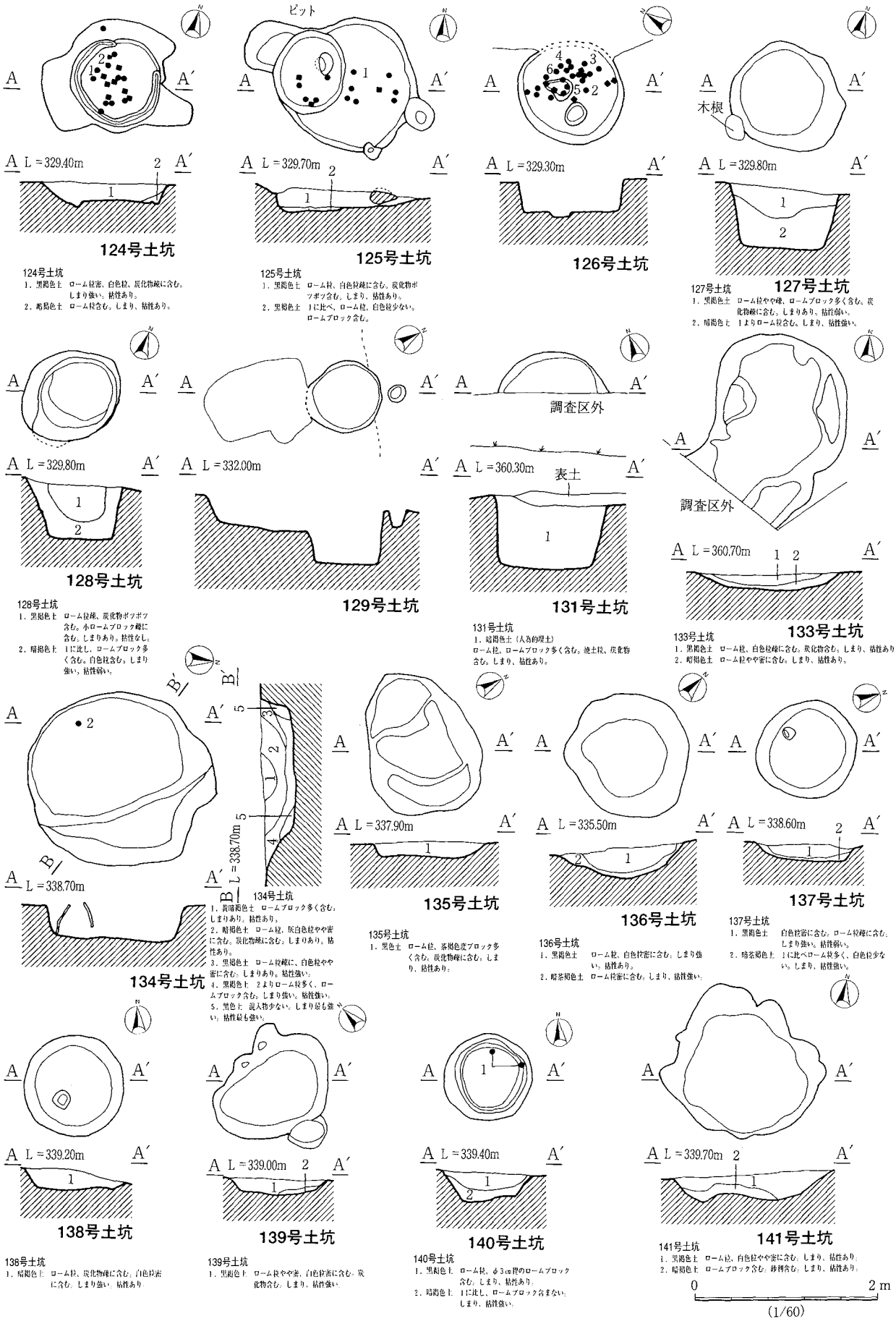
第190図　74～88号土坑



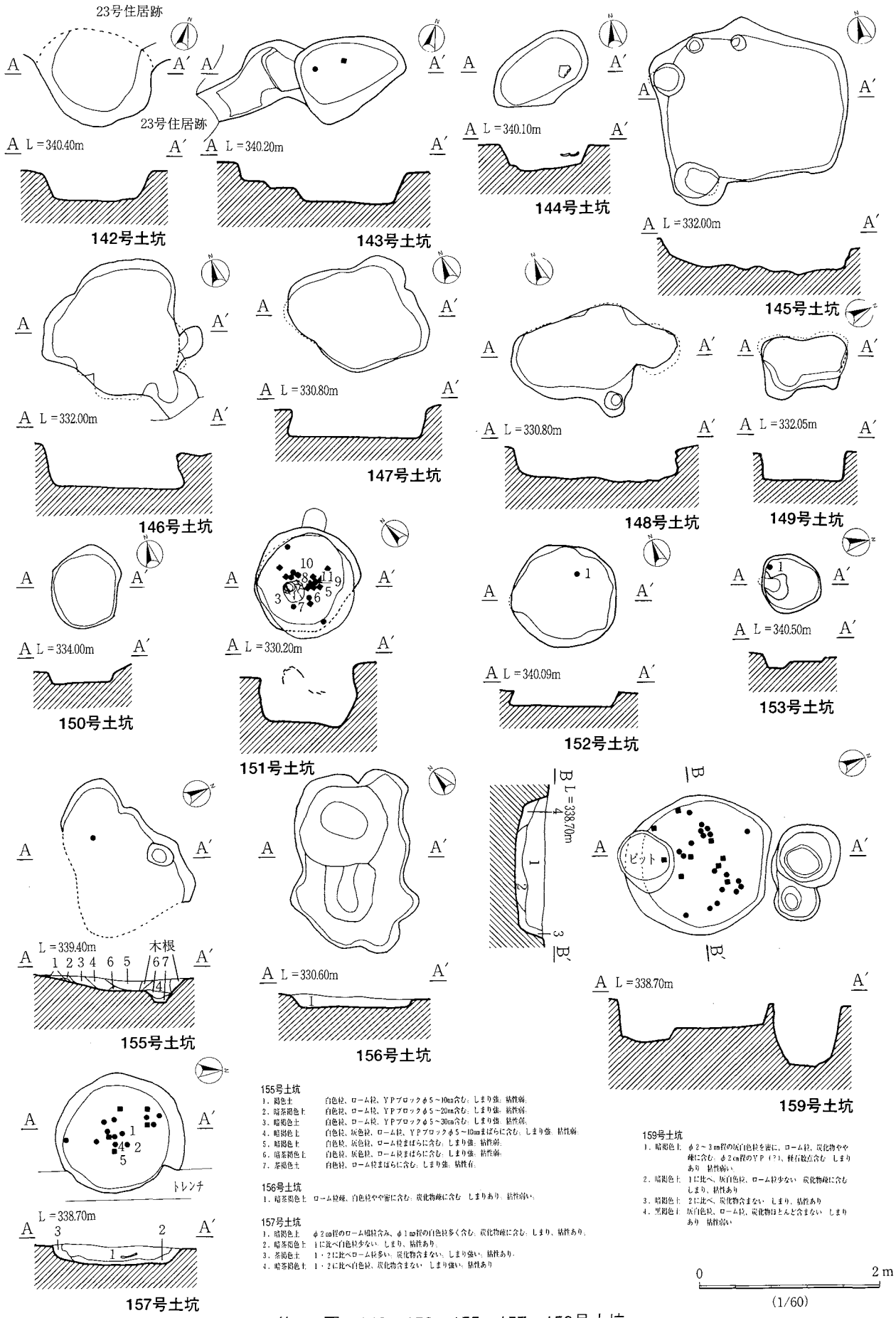
第191図　89～105号土坑



第192図　106～123号土坑



第193図　124～129・131・133～141号土坑



155号土坑
1．褐色土　白色粒、ローム粒、ＹＰブロックφ５～10mm含む．しまり強．粘性弱．
2．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒、ＹＰブロックφ５～20mm含む．しまり強．粘性弱．
3．暗褐色土　白色粒、ローム粒、ＹＰブロックφ５～30mm含む．しまり強．粘性弱．
4．暗褐色土　白色粒、灰色粒、ローム粒、ＹＰブロックφ５～10mmまばらに含む．しまり強．粘性弱．
5．暗褐色土　白色粒、灰色粒、ローム粒まばらに含む．しまり強．粘性弱．
6．暗茶褐色土　白色粒、灰色粒、ローム粒まばらに含む．しまり強．粘性弱．
7．茶褐色土　白色粒、ローム粒まばらに含む．しまり強．粘性有．

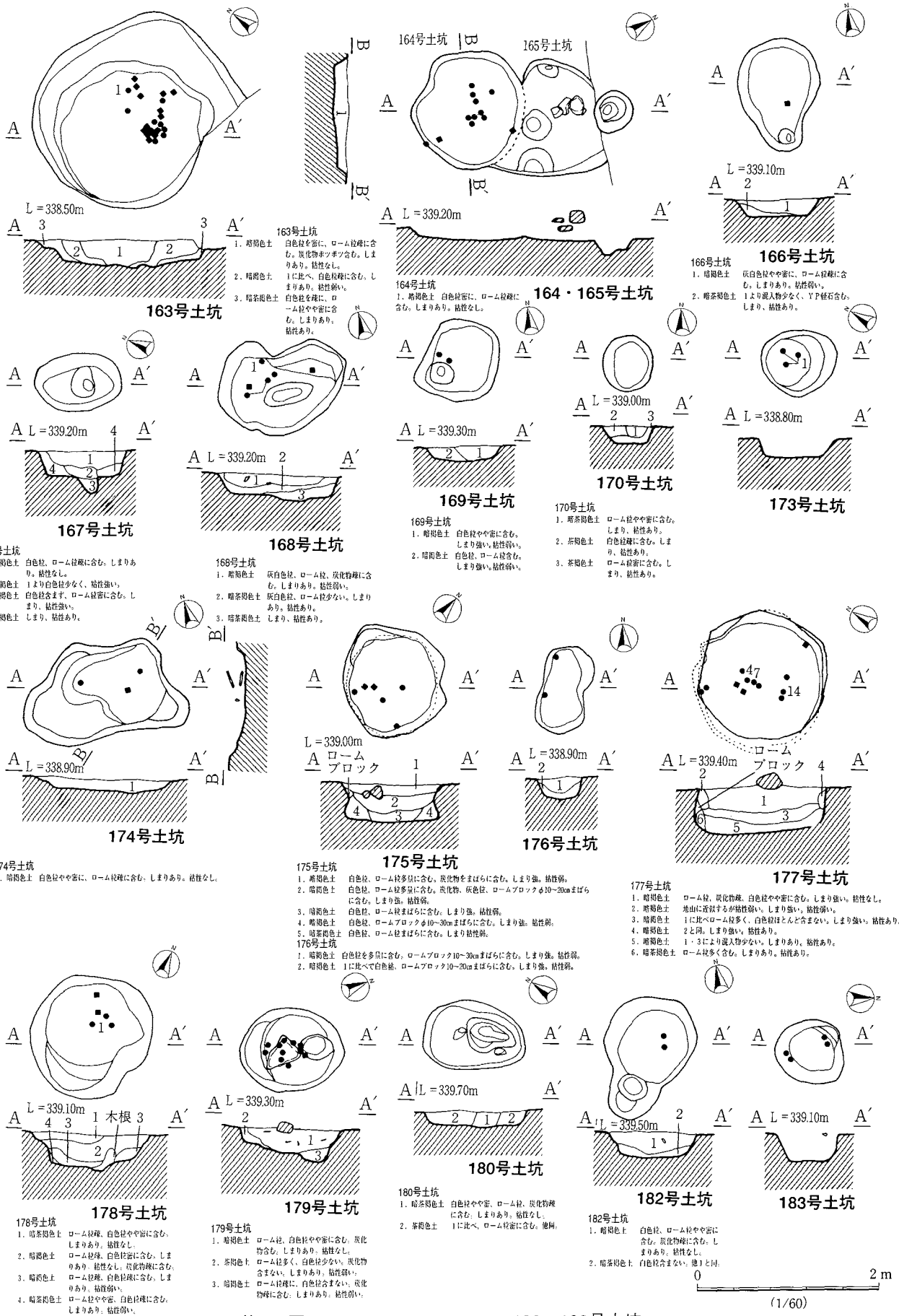
156号土坑
1．暗茶褐色土　ローム粒味、白色粒やや密に含む．炭化物疎に含む．しまりあり．粘性弱い．

157号土坑
1．暗褐色土　φ２mm程のローム塊粒含み、φ１mm程の白色粒多く含む．炭化物疎に含む．しまり、粘性あり．
2．暗茶褐色土　１に比べ白色粒少ない．しまり、粘性あり．
3．茶褐色土　１・２に比べローム粒多い．炭化物含まない．しまり強い．粘性あり．
4．暗茶褐色土　１・２に比べ白色粒、炭化物含まない．しまり強い．粘性あり

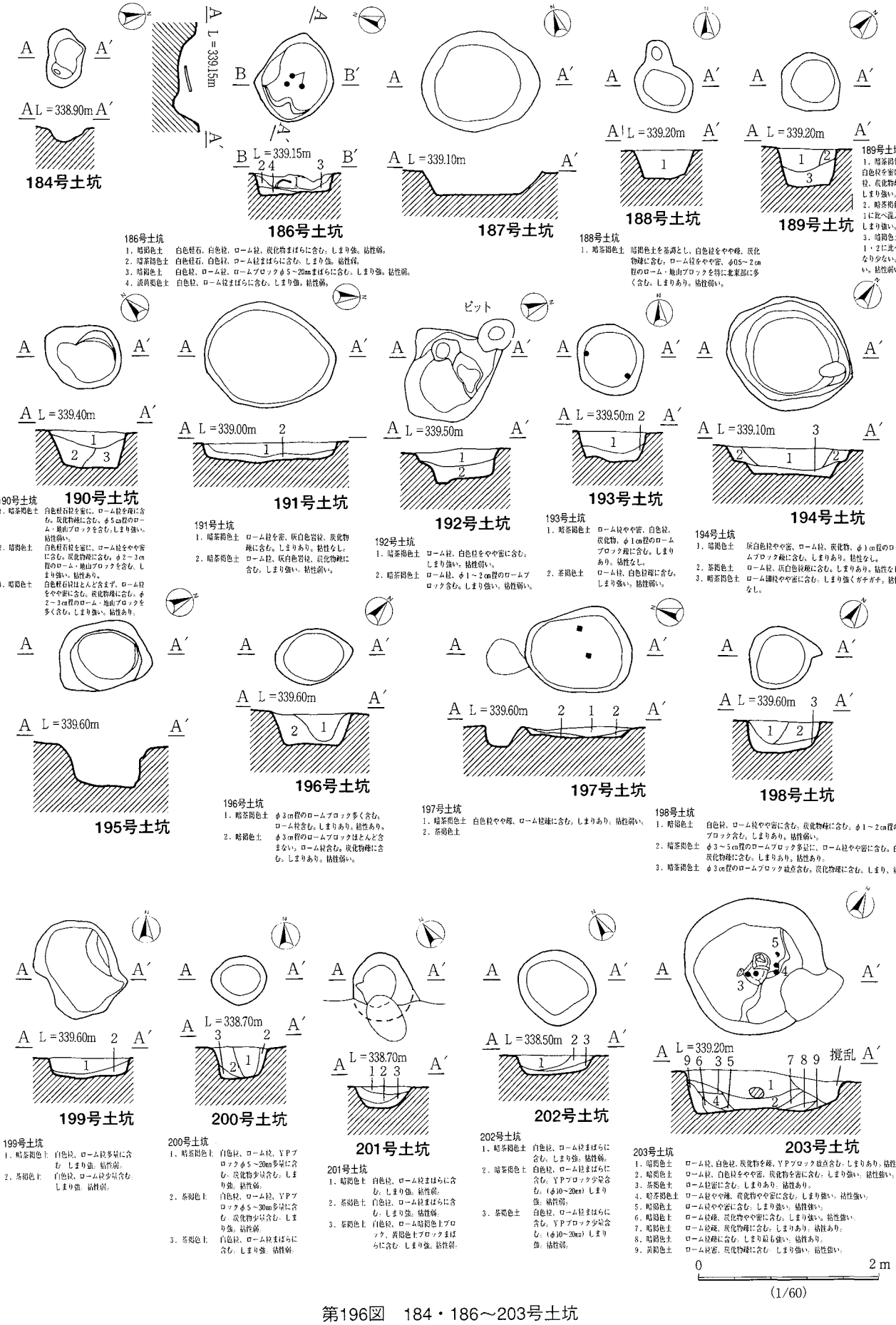
159号土坑
1．暗褐色土　φ２～３mm程の灰白色粒を密に、ローム粒、炭化物やや疎に含む．φ２cm程のＹＰ（？）、軽石粒点含む．しまりあり．粘性弱い
2．暗褐色土　１に比べ、灰白色粒、ローム粒少ない．炭化物疎に含む．しまり、粘性あり
3．暗褐色土　２に比べ、炭化物含まない．しまり、粘性あり
4．黒褐色土　灰白色粒、ローム粒、炭化物ほとんど含まない．しまりあり．粘性弱い

0　2 m
(1/60)

第194図　142～153・155～157・159号土坑



第195図　163～170・173～180・182・183号土坑



186号土坑
1．暗褐色土　白色軽石、白色粒、ローム粒、炭化物まばらに含む。しまり強。粘性弱。
2．暗茶褐色土　白色軽石、白色粒、ローム粒まばらに含む。しまり強。粘性弱。
3．暗褐色土　白色粒、ローム粒、ローム・ブロックφ5～20mmまばらに含む。しまり強。粘性弱。
4．淡黄褐色土　白色粒、ローム粒まばらに含む。しまり強。粘性弱。

188号土坑
1．暗茶褐色土　暗褐色土を基調とし、白色粒をやや疎、炭化物疎に含む。ローム粒をやや密、φ0.5～2cm程のローム・地山ブロックを特に北東部に多く含む。しまりあり。粘性弱い。

189号土坑
1．暗茶褐色土
白色粒を密に、ローム粒、炭化物疎に含む。しまり強い。粘性なし。
2．暗茶褐色土
1に比べ混入物少ない。しまり強い。粘性弱い。
3．暗褐色土
1・2に比べ混入物かなり少ない。しまり強い。粘性弱い。

190号土坑
1．暗茶褐色土　白色軽石粒を密に、ローム粒を疎に含む。炭化物疎に含む。φ5cm程のローム・地山ブロックを含む。しまり強い。粘性弱い。
2．暗褐色土　白色軽石粒を密に、ローム粒をやや密に含む。炭化物疎に含む。φ2～3cm程のローム・地山ブロックを含む。しまり強い。粘性あり。
3．暗褐色土　白色軽石粒はとんど含まず、ローム粒をやや密に含む。炭化物疎に含む。φ2～3cm程のローム・地山ブロックを多く含む。しまり強い。粘性あり。

191号土坑
1．暗茶褐色土　ローム粒を密、灰白色岩粒、炭化物疎に含む。しまりあり。粘性なし。
2．暗茶褐色土　ローム粒、灰白色岩粒、炭化物疎に含む。しまり強い。粘性弱い。

192号土坑
1．暗茶褐色土　ローム粒、白色粒をやや密に含む。しまり強い。粘性弱い。
2．暗茶褐色土　ローム粒、φ1～2cm程のローム・ブロック含む。しまり強い。粘性弱い。

193号土坑
1．暗茶褐色土　ローム粒やや密、白色粒、炭化物、φ1cm程のローム・ブロック疎に含む。しまりあり。粘性なし。
2．茶褐色土　ローム粒、白色粒疎に含む。しまり強い。粘性弱い。

194号土坑
1．暗褐色土　灰白色粒やや密、ローム粒、炭化物、φ1cm程のローム・ブロック疎に含む。しまりあり。粘性なし。
2．茶褐色土　ローム粒、灰白色粒疎に含む。しまりあり。粘性なし。
3．暗茶褐色土　ローム細粒やや密に含む。しまり強くガチガチ。粘性なし。

196号土坑
1．暗茶褐色土　φ3cm程のローム・ブロック多く含む。ローム粒含む。しまりあり。粘性あり。
2．暗褐色土　φ3cm程のローム・ブロックほとんど含まない。ローム粒含む。炭化物疎に含む。しまりあり。粘性弱い。

197号土坑
1．暗茶褐色土　白色粒やや疎、ローム粒疎に含む。しまりあり。粘性弱い。
2．茶褐色土

198号土坑
1．暗褐色土　白色粒、ローム粒やや密に含む。炭化物疎に含む。φ1～2cm程のローム・ブロック含む。しまりあり。粘性弱い。
2．暗茶褐色土　φ3～5cm程のローム・ブロック多量に、ローム粒やや密に含む。白色粒、炭化物疎に含む。しまりあり。粘性あり。
3．暗茶褐色土　φ3cm程のローム・ブロック岐点含む。炭化物疎に含む。しまり、粘性あり。

199号土坑
1．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒多量に含む。しまり強。粘性弱。
2．茶褐色土　白色粒、ローム粒少量含む。しまり強。粘性弱。

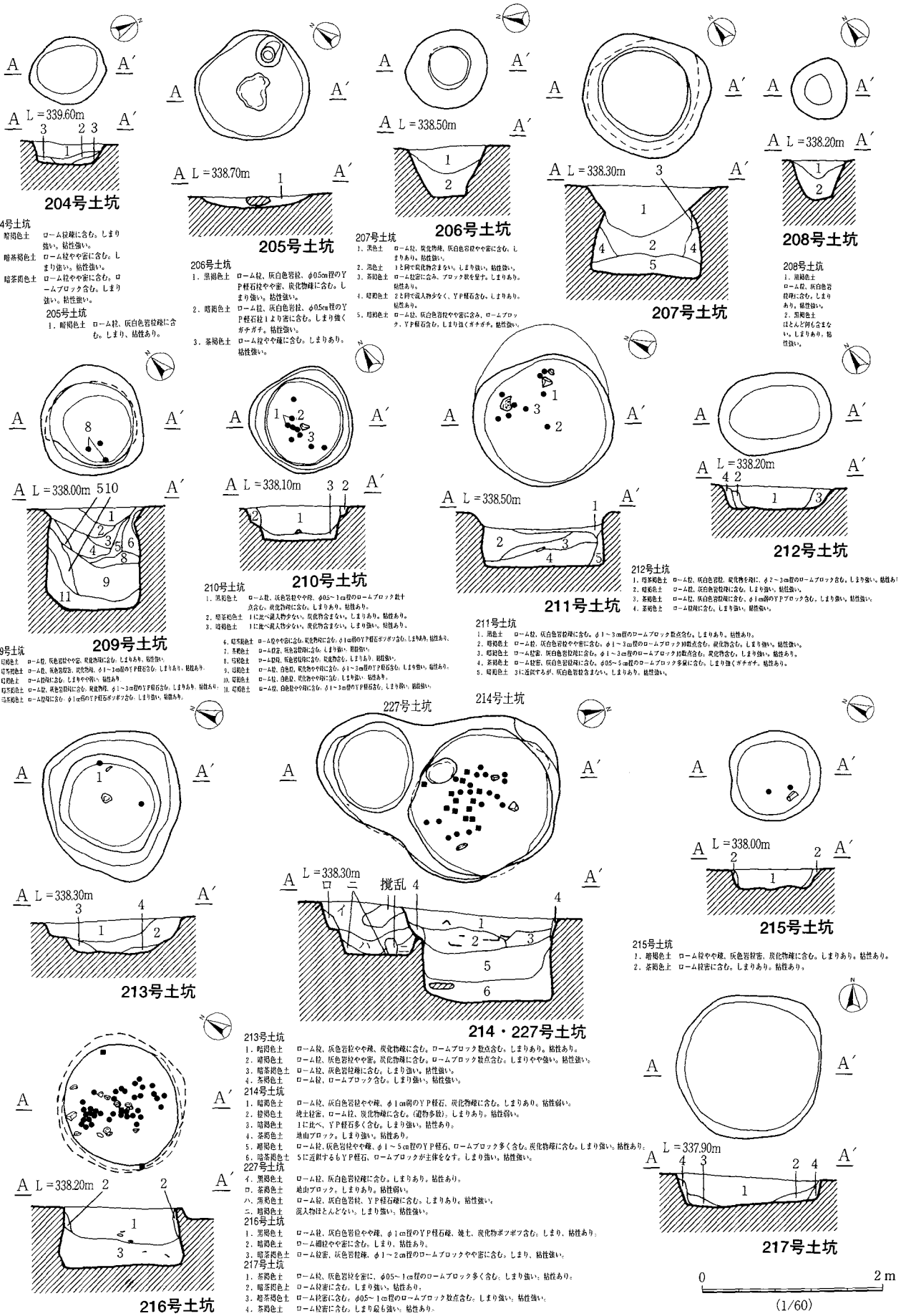
200号土坑
1．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒、YPブロックφ5～20cm多量に含む。炭化物少量含む。しまり強。粘性弱。
2．茶褐色土　白色粒、ローム粒、YPブロックφ5～30cm多量に含む。炭化物少量含む。しまり強。粘性弱。
3．茶褐色土　白色粒、ローム粒まばらに含む。しまり強。粘性弱。

201号土坑
1．暗褐色土　白色粒、ローム粒まばらに含む。しまり強。粘性弱。
2．茶褐色土　白色粒、ローム粒まばらに含む。しまり強。粘性弱。
3．茶褐色土　白色粒、ローム暗褐色土ブロック、黄褐色土ブロックまばらに含む。しまり強。粘性弱。

202号土坑
1．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒まばらに含む。しまり強。粘性弱。
2．暗褐色土　白色粒、ローム粒まばらに含む。YPブロック少量含む。(φ10～20cm)しまり強。粘性弱。
3．茶褐色土　白色粒、ローム粒まばらに含む。YPブロック少量含む。(φ10～20cm)しまり強。粘性弱。

203号土坑
1．暗褐色土　ローム粒、白色粒、炭化物を疎、YPブロック岐点含む。しまりあり。粘性強い。
2．暗褐色土　ローム粒、白色粒をやや密、炭化物を密に含む。しまり強い。粘性強い。
3．茶褐色土　ローム粒密に含む。しまりあり。粘性あり。
4．暗茶褐色土　ローム粒やや疎、炭化物やや密に含む。しまり強い。粘性強い。
5．暗褐色土　ローム粒やや密に含む。しまり強い。粘性強い。
6．暗褐色土　ローム粒疎、炭化物やや密に含む。しまり強い。粘性強い。
7．暗褐色土　ローム粒疎、炭化物疎に含む。しまりあり。粘性あり。
8．暗褐色土　ローム粒疎に含む。しまり最も強い。粘性あり。
9．黄褐色土　ローム粒密、炭化物疎に含む。しまり強い。粘性強い。

第196図　184・186～203号土坑



204号土坑
1．暗褐色土　ローム粒子を含む。しまり強い。粘性強い。
2．暗茶褐色土　ローム粒やや密に含む。しまり強い。粘性強い。
3．暗茶褐色土　ローム粒やや密に含む。ロームブロック含む。しまり強い。粘性強い。

205号土坑
1．暗褐色土　ローム粒、灰白色岩粒を含む。しまり、粘性あり。

206号土坑
1．黒褐色土　ローム粒、灰白色岩粒、φ0.5cm程のYP軽石粒やや密、炭化物粒に含む。しまり強い。粘性強い。
2．暗褐色土　ローム粒、灰白色岩粒、φ0.5cm程のYP軽石粒1より密に含む。しまり強くガチガチ。粘性強い。
3．茶褐色土　ローム粒やや粒に含む。しまりあり。粘性強い。

207号土坑
1．黒色土　ローム粒、炭化物粒、灰白色岩粒やや密に含む。しまりあり。粘性強い。
2．黒色土　1と同で炭化物含まない。しまり強い。粘性強い。
3．茶褐色土　ローム粒密に含み、ブロック状を呈す。しまりあり。粘性あり。
4．暗褐色土　2と同で混入物少なく、YP軽石含む。しまりあり。粘性あり。
5．暗褐色土　ローム粒、灰白色岩粒やや密に含み、ロームブロック、YP軽石含む。しまり強くガチガチ。粘性強い。

208号土坑
1．黒褐色土　ローム粒、灰白色岩粒粒に含む。しまりあり。粘性強い。
2．黒褐色土　ほとんど何も含まない。しまりあり。粘性強い。

209号土坑
1．暗褐色土　ローム粒、灰色岩粒やや密、炭化物粒に含む。しまりあり。粘性強い。
2．暗茶褐色土　ローム粒、灰色岩粒含、炭化物粒、φ1～1cm程のYP軽石含む。しまりあり。粘性あり。
3．暗褐色土　ローム粒粒に含む。しまりやや強い。粘性あり。
4．暗茶褐色土　ローム粒、灰色岩粒粒に含む。炭化物粒。φ1～3cm程のYP軽石含む。しまりあり。粘性あり。
5．暗茶褐色土　ローム粒粒に含む。φ1cm前のYP軽石やポツポツ含む。しまり強い。粘性あり。

210号土坑
1．黒褐色土　ローム粒、灰色岩粒やや粒。φ0.5～1cm程のロームブロック数十点含む。炭化物粒に含む。しまりあり。粘性あり。
2．暗茶褐色土　1に比べ混入物少ない。炭化物含まない。しまりあり。粘性あり。
3．暗褐色土　1に比べ混入物少ない。炭化物含まない。しまり強い。粘性あり。
6．暗茶褐色土　ローム粒やや密に含む。炭化物粒に含む。φ1cm前のYP軽石やポツポツ含む。しまりあり。粘性あり。
7．茶褐色土　ローム粒密、灰色岩粒粒に含む。しまり強い。粘性強い。
8．暗褐色土　ローム粒、灰色岩粒粒に含む。炭化物含む。しまりあり。粘性強い。
9．暗褐色土　ローム粒、白色粒、炭化物やや粒に含む。φ1～3cm程のYP軽石含む。しまり強い。粘性あり。
10．暗褐色土　ローム粒、白色粒、炭化物やや粒に含む。しまり強い。粘性あり。
11．暗褐色土　ローム粒、白色粒やや粒に含む。φ1～3cm程のYP軽石含む。しまり強い。粘性強い。

211号土坑
1．黒色土　ローム粒、灰白色岩粒粒に含む。φ1～3cm程のロームブロック数点含む。しまりあり。粘性あり。
2．暗褐色土　ローム粒、灰白色岩粒やや密に含む。φ1～3cm程のロームブロック10数点含む。炭化物含む。しまり強い。粘性強い。
3．暗褐色土　ローム粒密、灰白色岩粒粒に含む。φ1～3cm程のロームブロック10数点含む。炭化物含む。しまり強い。粘性あり。
4．茶褐色土　ローム粒密、灰白色岩粒粒に含む。φ0.5～5cm程のロームブロック多量に含む。しまり強くガチガチ。粘性あり。
5．暗褐色土　3に近似するが、灰白色岩粒含まない。しまりあり。粘性強い。

212号土坑
1．暗茶褐色土　ローム粒、灰白色岩粒、炭化物を粒に、φ2～3cm程のロームブロック含む。しまり強い。粘性あり
2．暗褐色土　ローム粒、灰白色岩粒粒に含む。しまり強い。粘性強い。
3．茶褐色土　ローム粒、灰白色岩粒粒に含む。φ1cm前のYPブロック含む。しまり強い。粘性強い。
4．茶褐色土　ローム粒粒に含む。しまり強い。粘性強い。

213号土坑
1．暗褐色土　ローム粒、灰色岩粒やや粒、炭化物粒に含む。ロームブロック数点含む。しまりあり。粘性あり。
2．暗褐色土　ローム粒、灰色岩粒やや密。炭化物粒に含む。ロームブロック数点含む。しまりやや強い。粘性強い。
3．暗茶褐色土　ローム粒、灰色岩粒粒に含む。しまり強い。粘性強い。
4．茶褐色土　ローム粒、ロームブロック含む。しまり強い。粘性強い。

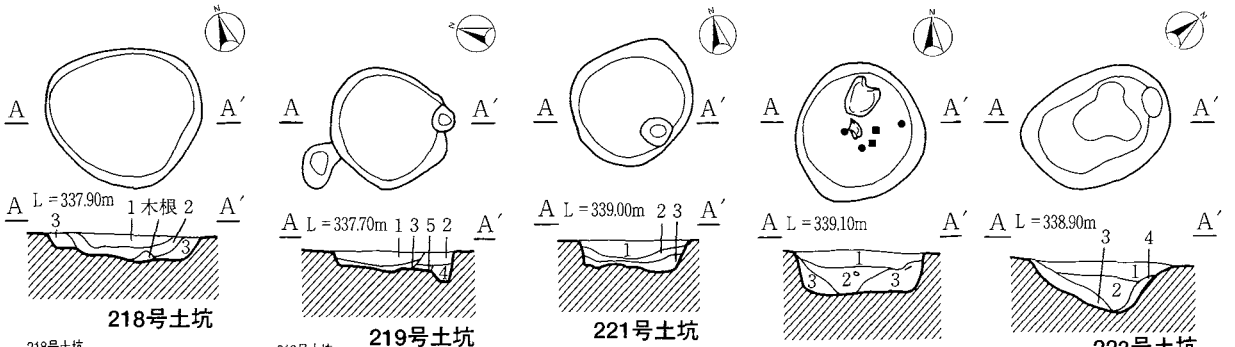
214号土坑
1．暗褐色土　ローム粒、灰白色岩粒やや粒、φ1cm前のYP軽石、炭化物粒に含む。しまりあり。粘性弱い。
2．暗褐色土　焼土粒密、ローム粒、炭化物粒に含む。(遺物多数)。しまりあり。粘性弱い。
3．暗褐色土　1に比べ、YP軽石多く含む。しまり強い。粘性あり。
4．茶褐色土　地山ブロック。しまり強い。粘性あり。
5．暗褐色土　ローム粒、灰色岩粒やや粒、φ1～5cm程のYP軽石、ロームブロック多く含む。炭化物粒に含む。しまり強い。粘性あり。
6．暗茶褐色土　5に近似するもYP軽石、ロームブロックが主体をなす。しまり強い。粘性強い。

227号土坑
イ．黒褐色土　ローム粒、灰白色岩粒粒に含む。しまりあり。粘性あり。
ロ．茶褐色土　地山ブロック。しまりあり。粘性弱い。
ハ．黒褐色土　ローム粒、灰白色岩粒、YP軽石粒に含む。しまりあり。粘性強い。
ニ．暗褐色土　混入物はほとんどない。しまり強い。粘性強い。

216号土坑
1．黒褐色土　ローム粒、灰白色岩粒やや粒、φ1cm程のYP軽石粒、焼土、炭化物ポツポツ含む。しまり、粘性あり。
2．暗褐色土　ローム細粒やや密に含む。しまり、粘性あり。
3．暗茶褐色土　ローム粒密、灰色岩粒粒、φ1～2cm程のロームブロックやや密に含む。しまり、粘性強い。

217号土坑
1．茶褐色土　ローム粒、灰色岩粒を密に、φ0.5～1cm程のロームブロック多く含む。しまり強い。粘性あり。
2．暗茶褐色土　ローム粒密に含む。しまり強い。粘性あり。
3．暗茶褐色土　ローム粒密に含む。φ0.5～1cm程のロームブロック数点含む。しまり強い。粘性強い。
4．茶褐色土　ローム粒密に含む。しまり最も強い。粘性あり。

第197図　204～217・227号土坑



218号土坑

218号土坑
1．暗茶褐色土　ローム粒、灰白色岩粒やや密、φ1cm程のローム ブロック若干含む。しまり強い。粘性強い。
2．暗茶褐色土　ローム粒、灰白色岩粒疎に含む。しまりあり。粘性あり。
3．暗褐色土　ローム粒疎に含む。しまりあり。粘性強い。

219号土坑

219号土坑
1．暗褐色土　ローム粒、灰白色岩粒、炭化物疎に含む。しまりあり。粘性弱い。
2．茶褐色土　ローム粒疎に含む。しまり強い。粘性強い。
3．茶褐色土　ローム粒、灰白色岩粒疎に含む。しまり強い。粘性強い。
4．茶褐色土　ローム細粒密に含む。しまり最も強い。粘性強い。
5．暗茶褐色土　ローム ブロック多く含む。しまり強い。粘性最も強い。

221号土坑

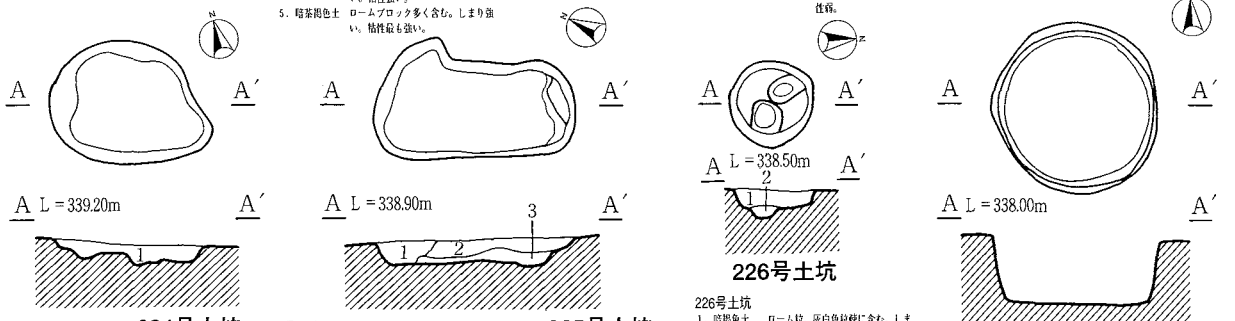
221号土坑
1．黒褐色土　ローム粒、灰色岩粒やや疎、炭化物疎に含む。しまりあり。粘性あり。
2．暗褐色土　ローム粒、灰色岩粒疎に含む。しまりあり。粘性あり。
3．暗茶褐色土　ローム粒、ローム細粒密に含む。しまり強い。粘性強い。

222号土坑

222号土坑
1．暗褐色土　白色粒、ローム粒まばらに含む。しまり強い。粘性弱。
2．暗褐色土　白色粒、ローム ブロックφ5～10cmまばらに含む。しまり強。粘性弱。
3．暗茶褐色土　白色粒、灰色粒、ローム ブロックφ5～30cm多量に含む。しまり強。粘性弱。

223号土坑

223号土坑
1．暗褐色土　白色粒、ローム粒まばらに含む。しまり強。粘性弱。
2．暗褐色土　白色粒、ローム ブロックまばらに含む。しまり強。粘性弱。
3．暗茶褐色土　白色粒、ローム ブロックφ10～30cmまばらに含む。YP ブロック少量含む。しまり強。粘性弱。
4．暗茶褐色土　白色粒、ローム ブロックφ10～30cmまばらに含む。しまり強。粘性弱。



224号土坑

224号土坑
1．暗茶褐色土　ローム粒、灰白色粒疎に含む。しまり、粘性強い。炭化物ポツポツ含む。

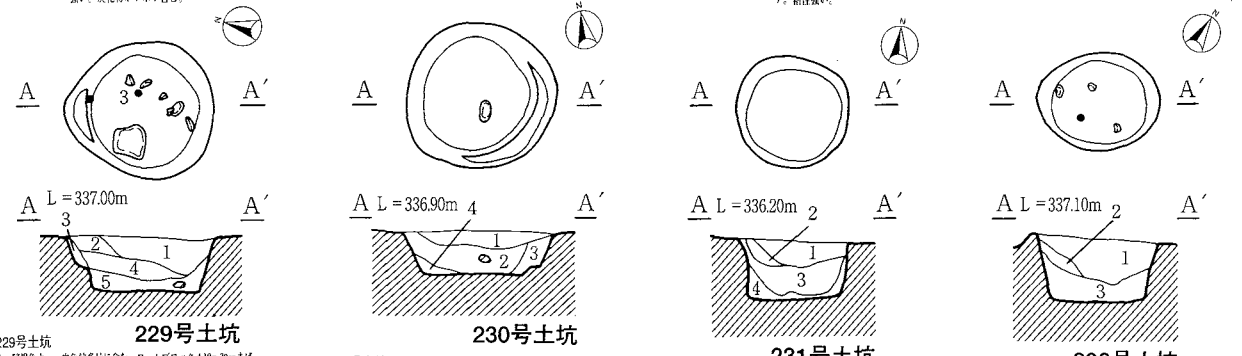
225号土坑

225号土坑
1．黒褐色土　ローム粒疎に含む。しまり強い。粘性あり。
2．暗褐色土　ローム粒疎に含む。φ0.5～2cm程のローム ブロック含む。しまり強い。粘性あり。
3．暗茶褐色土　ローム粒やや密に含む。φ5cm程のローム ブロック含む。しまり強い。粘性あり。

226号土坑

226号土坑
1．暗褐色土　ローム粒、灰白色粒疎に含む。しまり強い。粘性強い。
2．暗茶褐色土　ローム粒、灰白色粒疎に含む。ローム ブロック含む。しまり強くガチガチ。粘性強い。

228号土坑



229号土坑

229号土坑
1．暗褐色土　白色粒多量に含む。ローム ブロックφ10～30cmまばらに含む。炭化物まばらに含む。しまり有。粘性弱。
2．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒まばらに含む。しまり有。粘性弱。
3．暗茶褐色土　白色粒まばらに含む。しまり有。粘性弱。
4．暗茶褐色土　白色粒、炭化物まばらに含む。ローム ブロックφ10～40cm多量に含む。しまり有。粘性弱。
5．暗茶褐色土　白色粒、ローム ブロックφ10～20cmまばらに含む。しまり有。粘性弱。

230号土坑

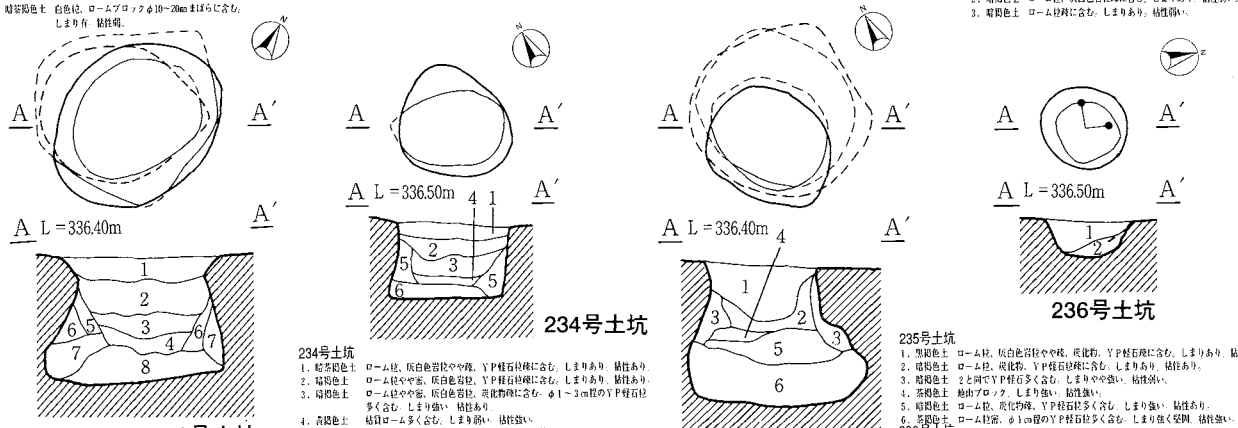
230号土坑
1．暗褐色土　ローム粒、白色粒密に含む。しまりあり。粘性あり。
2．暗褐色土　ローム粒、白色粒、炭化物疎に含む。しまりあり。粘性強い。
3．茶褐色土　ローム粒やや密、YP 軽石含む。しまり強い。粘性強い。
4．暗褐色土　混入物はとんどみられない。しまり強い。粘性強い。

231号土坑

231号土坑
1．黒褐色土　ローム粒、白色粒密、炭化物疎に含む。しまり強い。粘性あり。
2．暗褐色土　1に比べローム粒少ない。しまり強い。粘性あり。
3．暗褐色土　ローム粒、YP 軽石粒やや疎に含む。しまりあり。粘性あり。
4．黒褐色土　ローム粒、灰白色岩粒疎に含む。しまり強い。粘性あり。

232号土坑

232号土坑
1．黒褐色土　ローム粒、灰白色岩粒やや疎、炭化物、YP 軽石粒疎に含む。しまりあり。粘性弱い。
2．暗褐色土　ローム粒、灰白色岩粒疎に含む。しまりあり。粘性弱い。
3．暗褐色土　ローム粒疎に含む。しまりあり。粘性弱い。



233号土坑

3号土坑
暗褐色土　ローム粒、灰白色岩粒やや疎、炭化物疎、φ0.5cm程のYP軽石粒含む。しまりあり。粘性あり。
暗褐色土　1にφ1～2cm程のYP軽石粒多く含む。しまりあり　粘性あり。
暗褐色土　2と同で炭化物含まない。しまりあり。粘性あり
暗褐色土　ローム粒やや密、φ0.5cm程のYP軽石粒含む。しまりあり。粘性強い
暗褐色土　ローム粒、灰白色岩粒疎に含む。しまりあり。粘性あり。
黒褐色土　ローム粒疎に含む。しまりあり。粘性あり
黒褐色土　ローム粒やや疎、φ2cm程のYP軽石粒多く含む。しまりあり。粘性あり
黄褐色土　ローム粒多量に、φ2～3cm程のYP軽石粒含む。しまりやや弱い。粘性最も強い。

234号土坑

234号土坑
1．暗茶褐色土　ローム粒、灰白色岩粒やや疎、YP軽石粒疎に含む。しまりあり。粘性あり。
2．暗褐色土　ローム粒やや密、灰白色岩粒、YP軽石粒疎に含む。しまりあり。粘性あり。
3．暗褐色土　ローム粒やや密、灰白色岩粒、炭化物疎に含む。φ1～3cm程のYP軽石粒多く含む。しまり強い。粘性あり。
4．青褐色土　粘質ローム多く含む。しまり弱い。粘性強い。
5．暗褐色土　ローム粒、YP軽石粒疎に含む。しまり強い。粘性強い。
6．黄褐色土　4よりさらに粘質ローム多く含む。しまり強い。粘性最も強い。

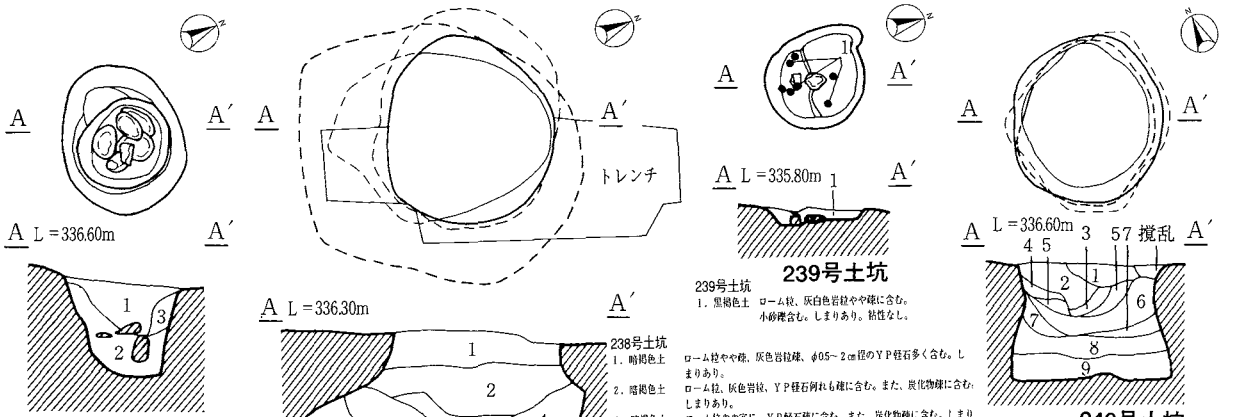
235号土坑

235号土坑
1．黒褐色土　ローム粒、灰白色岩粒やや疎、炭化物、YP軽石粒に含む。しまりあり。粘性弱い。
2．暗褐色土　ローム粒、炭化物、YP軽石粒疎に含む。しまりあり。粘性あり。
3．暗褐色土　2と同でYP軽石多く含む。しまりやや強い。粘性弱い。
4．茶褐色土　地山ブロック。しまり強い。粘性強い。
5．暗褐色土　ローム粒、炭化物疎、YP軽石粒多く含む。しまり強い。粘性あり。
6．茶褐色土　ローム粒密、φ1cm程のYP軽石粒多く含む。しまり強く堅固。粘性強い。

236号土坑
1．暗褐色土　ローム粒疎、灰白色岩粒やや密に含む。しまり強い。粘性なし。
2．茶褐色土　ローム粒疎、φ1cm程のローム ブロック含む。しまり強い。粘性弱い。

0　2 m
(1/60)

第198図　218・219・221～226・228～236号土坑

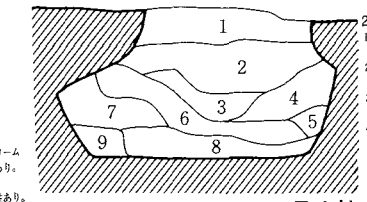


237号土坑

237号土坑
1．暗褐色土　ローム粒礫，灰白色岩粒やや密，φ2～3cm程のローム ブロック数点含む。炭化物ポツポツ含む。しまりあり。粘性なし。
2．黒褐色土　ローム粒，灰白色岩粒礫に含む。しまりあり。粘性あり。
3．暗褐色土　灰白色岩粒やや密，φ0.5cm程のＹＰ軽石ポツポツ含む。しまりあり。粘性弱い。

239号土坑

239号土坑
1．黒褐色土　ローム粒、灰白色岩粒やや礫に含む。小砂礫含む。しまりあり。粘性なし。

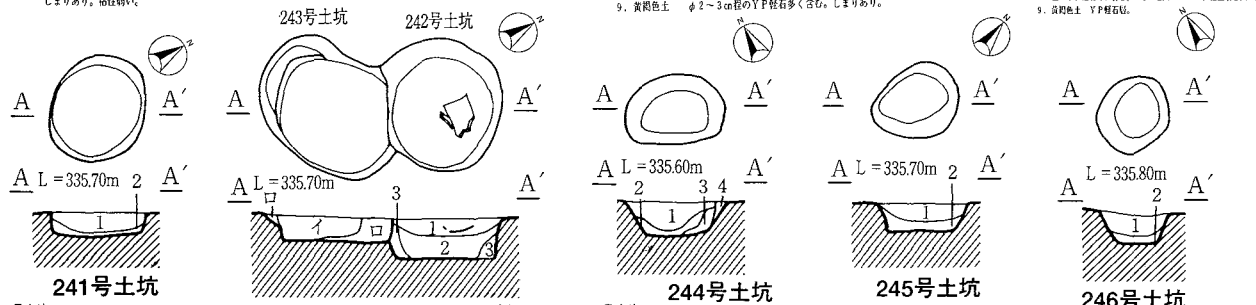


238号土坑

238号土坑
1．暗褐色土　ローム粒やや礫，灰色岩粒礫、φ0.5～2cm程のＹＰ軽石多く含む。しまりあり。
2．暗褐色土　ローム粒、灰色岩粒、ＹＰ軽石何れも礫に含む。また、炭化物礫に含む。しまりあり。
3．暗褐色土　ローム粒やや密に、ＹＰ軽石礫に含む。また、炭化物礫に含む。しまりあり。
4．茶褐色土　ローム粒やや礫に、ＹＰ軽石、ロームブロック含む。また、炭化物礫に含む。しまり強い。
5．黄褐色土　φ2cm程のＹＰ軽石と軽石粒多く含む。しまりあり。
6．暗茶褐色土　ローム粒やや密に、ＹＰ軽石（φ1cm弱）もやや密に含む。しまり強い。
7．暗褐色土　ローム粒密に、ＹＰ軽石（φ1cm弱）礫に含む。しまり強い。
8．暗茶褐色土　ローム粒やや密、ＹＰ軽石（φ2～3cm程）多く含む。しまり強くガチガチ。
9．黄褐色土　φ2～3cm程のＹＰ軽石多く含む。しまりあり。

240号土坑

240号土坑
1．暗茶褐色土　ローム粒、灰白色岩粒礫に含む。ＹＰ軽石礫に含む。しまり強い。粘性なし。
2．茶褐色土　ローム粒やや礫、灰白色岩粒、φ1cm程のＹＰ軽石多く含む。しまりあり。粘性
3．茶褐色土　2と同。灰白色岩粒含まない。しまりあり。粘性弱い。
4．暗褐色土　ローム粒、灰白色岩粒礫に含む。しまりやや弱い。粘性あり。
5．暗茶褐色土　ローム粒、灰白色岩粒やや密に含む。しまりあり。粘性あり。
6．黒褐色土　ローム粒、灰白色岩粒、炭化物、φ1cm程のＹＰ軽石礫に含む。しまり強い。粘
7．黒褐色土　混入物はとんどなし。しまり強い。粘性あり。
8．暗褐色土　ローム粒、φ0.5cm程の小ローム ブロックやや密、灰白色岩粒やや礫に含む。φ2程のＹＰ軽石礫に含む。しまり強くガチガチ。粘性最も強い。
9．黄褐色土　ＹＰ軽石層。



241号土坑

241号土坑
1．暗褐色土　ローム粒、炭化物礫、灰白色岩粒密に含む。しまりあり。粘性なし。
2．暗茶褐色土　1と同でしまり強く、粘性もつ。

242・243号土坑

242号土坑
1．暗褐色土　ローム粒、灰白色岩粒含む。炭化物やや礫に含む。しまりあり。粘性弱い。
2．暗褐色土　ローム粒、灰白色岩粒やや密、炭化物やや礫に含む。しまりあり。粘性あり。
3．暗茶褐色土　2にローム ブロック含む。しまりあり。粘性強い。

243号土坑
イ．暗褐色土　ローム粒、灰白色岩粒、炭化物礫に含む。ローム ブロック数点含む。しまりあり。粘性弱い。
ロ．暗茶褐色土　ローム粒、ローム ブロックやや多く含む。しまりあり。粘性あり、

244号土坑

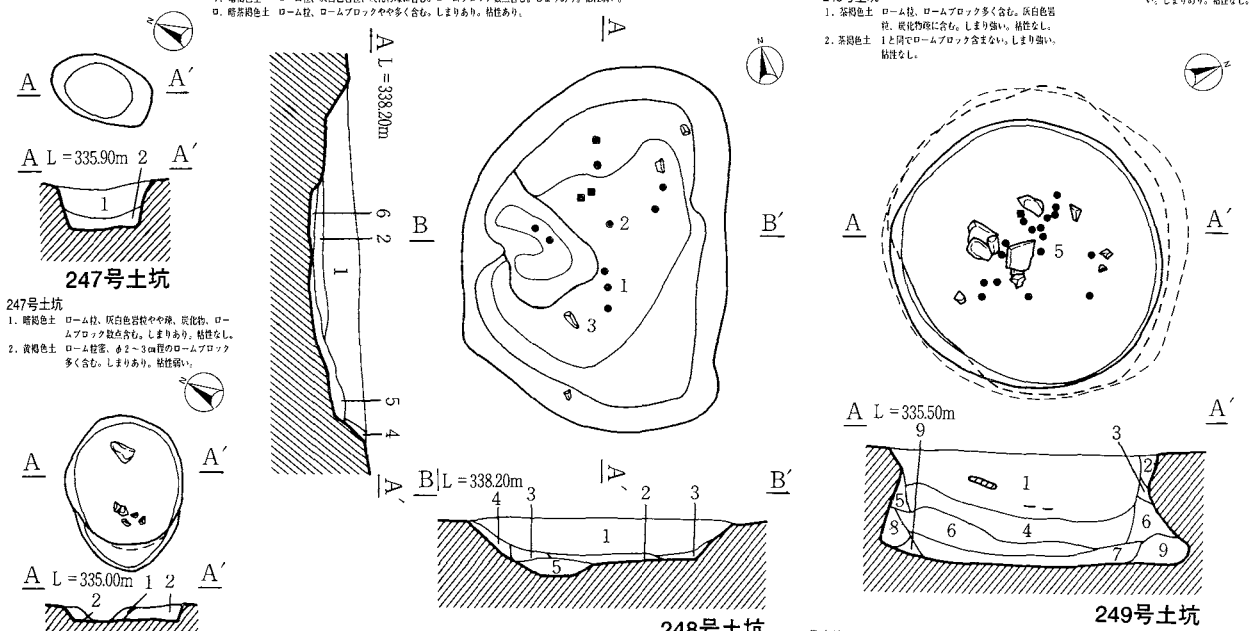
244号土坑
1．暗褐色土　ローム粒やや密、灰白色岩粒やや礫、炭化物、φ1cm弱の小ローム ブロック数点含む。しまりあり。粘性なし。
2．暗褐色土　1と同で量極端に少ない。しまりあり。粘性弱い。
3．暗茶褐色土　ローム粒やや密に含む。しまりあり。粘性なし。
4．黄褐色土　ローム粒やや密に含む。しまりあり。粘性弱い。φ1cm程のＹＰ軽石含む。しまりあり。粘性なし。

245号土坑

245号土坑
1．茶褐色土　ローム粒、ローム ブロック多く含む。灰白色岩粒、炭化物礫に含む。しまり強い。粘性なし。
2．茶褐色土　1と同でローム ブロック含まない。しまり強い。粘性なし。

246号土坑

246号土坑
1．暗褐色土　ローム粒、灰白色岩粒やや礫、ローム ブロック数点含む。しまりあり。粘性なし。
2．暗褐色土　1と同で灰白色岩粒含まない。しまりあり。粘性なし。



247号土坑

247号土坑
1．暗褐色土　ローム粒、灰白色岩粒やや礫、炭化物、ローム ブロック数点含む。しまりあり。粘性なし。
2．黄褐色土　ローム粒密、φ2～3cm程のローム ブロック多く含む。しまりあり。粘性弱い。

248号土坑

248号土坑
1．暗褐色土　ローム粒やや礫、灰白色粒礫に含む。しまり弱い。粘性あり。
2．茶褐色土　ローム粒やや密、灰白色粒やや密に含む。しまり弱い。粘性弱い。
3．茶褐色土　ローム粒やや密、φ1～3cm程のローム ブロック数点含む。しまり弱い。粘性弱い。
4．黄褐色土　ローム粒密、地山（茶褐色土）ブロック含む。しまりあり。粘性弱い。
5．黄褐色土　ローム粒密、φ1cm程のローム ブロック多く含む。しまりあり。粘性あり。

249号土坑

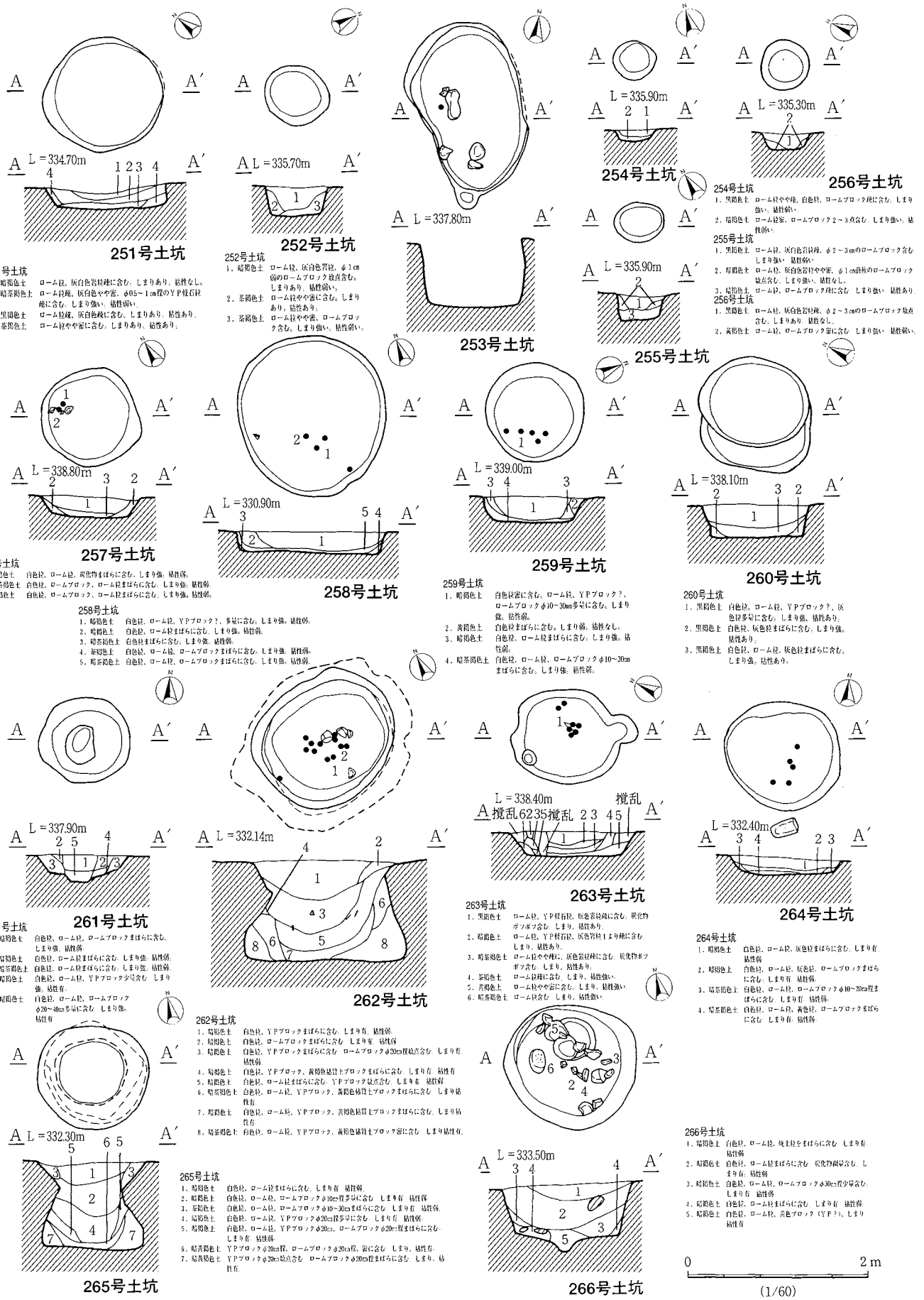
249号土坑
1．黒褐色土　ローム粒、灰白色岩粒やや礫、φ3cm程のＹＰ軽石ポツポツ含む。しまりあり。粘性あり。
2．暗褐色土　ローム粒やや密、灰白色岩粒やや礫に含む。しまり強い。粘性なし。
3．暗茶褐色土　ローム粒やや密、灰白色岩粒やや礫に含む。しまり強い。粘性弱い。
4．暗褐色土　ローム粒やや密、灰白色岩粒、φ2cm程のＹＰ軽石粒、炭化物、焼土粒含む。しまりあり。粘性あり。
5．暗褐色土　ローム粒礫、φ0.5cm程のローム ブロック礫に含む。しまりあり。粘性強い。
6．暗褐色土　ローム粒やや密、φ1～5cm程のローム ブロック、φ2cm程のＹＰ軽石粒多く含む。炭化物礫に含む。しまりあり。粘性強い。
7．黄褐色土　ローム粒やや密、ＹＰ軽石粒やや密に含む。しまり強い。粘性強い。
8．黄褐色土　7にローム ブロックやや多く含む。しまりあり。粘性強い。
9．黄褐色土　ＹＰ軽石砂粒ブロック。しまり弱い。粘性弱い。

250号土坑

250号土坑
1．黄褐色土　ローム粒、ローム ブロック多く含む。しまり強い。粘性弱い。
2．暗褐色土　ローム粒、灰白色岩粒礫に、ローム ブロック数点含む。しまり強い。粘性弱い。

0　2m
(1/60)

第199図　237～250号土坑



251号土坑
1．暗褐色土　ローム粒、灰白色岩粒雑に含む。しまりあり。粘性なし。
2．暗茶褐色土　ローム粒雑、灰白色やや密、φ05～1cm程のＹＰ軽石粒雑に含む。しまり強い。粘性弱い。
3．黒褐色土　ローム粒雑、灰白色雑に含む。しまりあり。粘性あり。
4．茶褐色土　ローム粒やや密に含む。しまりあり。粘性あり。

252号土坑
1．暗褐色土　ローム粒、灰白色岩粒、φ1cm弱のローム ブロック粒点含む。しまりあり。粘性弱い。
2．茶褐色土　ローム粒やや密に含む。しまりあり。粘性あり。
3．茶褐色土　ローム粒やや密、ローム ブロック含む。しまり強い。粘性弱い。

254号土坑
1．黒褐色土　ローム粒やや雑、白色粒、ローム ブロック雑に含む。しまり強い。粘性弱い。
2．暗褐色土　ローム粒密、ローム ブロック2～3点含む。しまり強い。粘性弱い。

255号土坑
1．黒褐色土　ローム粒、灰白色岩粒雑、φ2～3cmのローム ブロック含む。しまり強い。粘性弱い
2．暗褐色土　ローム粒、灰白色岩粒やや密、φ1cm前後のローム ブロック粒点含む。しまり強い。粘性なし。
3．暗褐色土　ローム粒、ローム ブロック雑に含む。しまり強い。粘性あり。

256号土坑
1．黒褐色土　ローム粒、灰白色岩粒雑、φ2～3cmのローム ブロック粒点含む。しまりあり。粘性なし。
2．黄褐色土　ローム粒、ローム ブロック密に含む。しまり強い。粘性弱い。

257号土坑
1．暗褐色土　白色粒、ローム粒、炭化物まばらに含む。しまり強。粘性弱。
2．暗茶褐色土　白色粒、ローム ブロック、ローム粒まばらに含む。しまり強。粘性弱。
3．暗褐色土　白色粒、ローム ブロック、ローム粒まばらに含む。しまり強。粘性弱。

258号土坑
1．暗褐色土　白色粒、ローム粒、ＹＰブロック？、多量に含む。しまり強。粘性弱。
2．暗褐色土　白色粒、ローム粒まばらに含む。しまり強。粘性弱。
3．暗茶褐色土　白色粒まばらに含む。しまり強。粘性弱。
4．茶褐色土　白色粒、ローム粒、ローム ブロックまばらに含む。しまり強。粘性弱。
5．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒、ローム ブロックまばらに含む。しまり強。粘性弱。

259号土坑
1．暗褐色土　白色粒密に含む。ローム粒、ＹＰブロック？、ローム ブロックφ10～30mm多量に含む。しまり強。粘性弱。
2．黄褐色土　白色粒まばらに含む。しまり弱。粘性なし。
3．暗褐色土　白色粒、ローム粒まばらに含む。しまり強。粘性弱。
4．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒、ローム ブロックφ10～30mmまばらに含む。しまり強。粘性弱。

260号土坑
1．黒褐色土　白色粒、ローム粒、ＹＰブロック？、灰色粒多量に含む。しまり強。粘性あり。
2．黒褐色土　白色粒、灰色粒まばらに含む。しまり強。粘性あり。
3．黒褐色土　白色粒、ローム粒、灰色粒まばらに含む。しまり強。粘性あり。

261号土坑
1．暗褐色土　白色粒、ローム粒、ローム ブロックまばらに含む。しまり強。粘性弱
2．暗褐色土　白色粒、ローム粒まばらに含む。しまり強。粘性弱。
3．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒まばらに含む。しまり強。粘性弱。
4．暗褐色土　白色粒、ローム粒、ＹＰブロック少量含む。しまり強。粘性有。
5．暗褐色土　白色粒、ローム粒、ローム ブロックφ20～40cm多量に含む。しまり強。粘性有

262号土坑
1．暗褐色土　白色粒、ＹＰブロックまばらに含む。しまり有。粘性弱。
2．暗褐色土　白色粒、ローム ブロックまばらに含む。しまり有。粘性弱
3．暗褐色土　白色粒、ＹＰブロック まばらに含む。ローム ブロックφ20cm程粒点含む。しまり有。粘性弱
4．暗褐色土　白色粒、ＹＰブロック、黄褐色粘質土ブロックまばらに含む。しまり有。粘性有
5．暗褐色土　白色粒、ローム粒まばらに含む。ＹＰブロック粒点含む。しまり有。粘性弱。
6．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒、ＹＰブロック、黄褐色粘質土ブロックまばらに含む。しまり粘性有。
7．暗褐色土　白色粒、ローム粒、ＹＰブロック、黄褐色粘質土ブロックまばらに含む。しまり粘性有。
8．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒、ＹＰブロック、黄褐色粘質土ブロック密に含む。しまり粘性有。

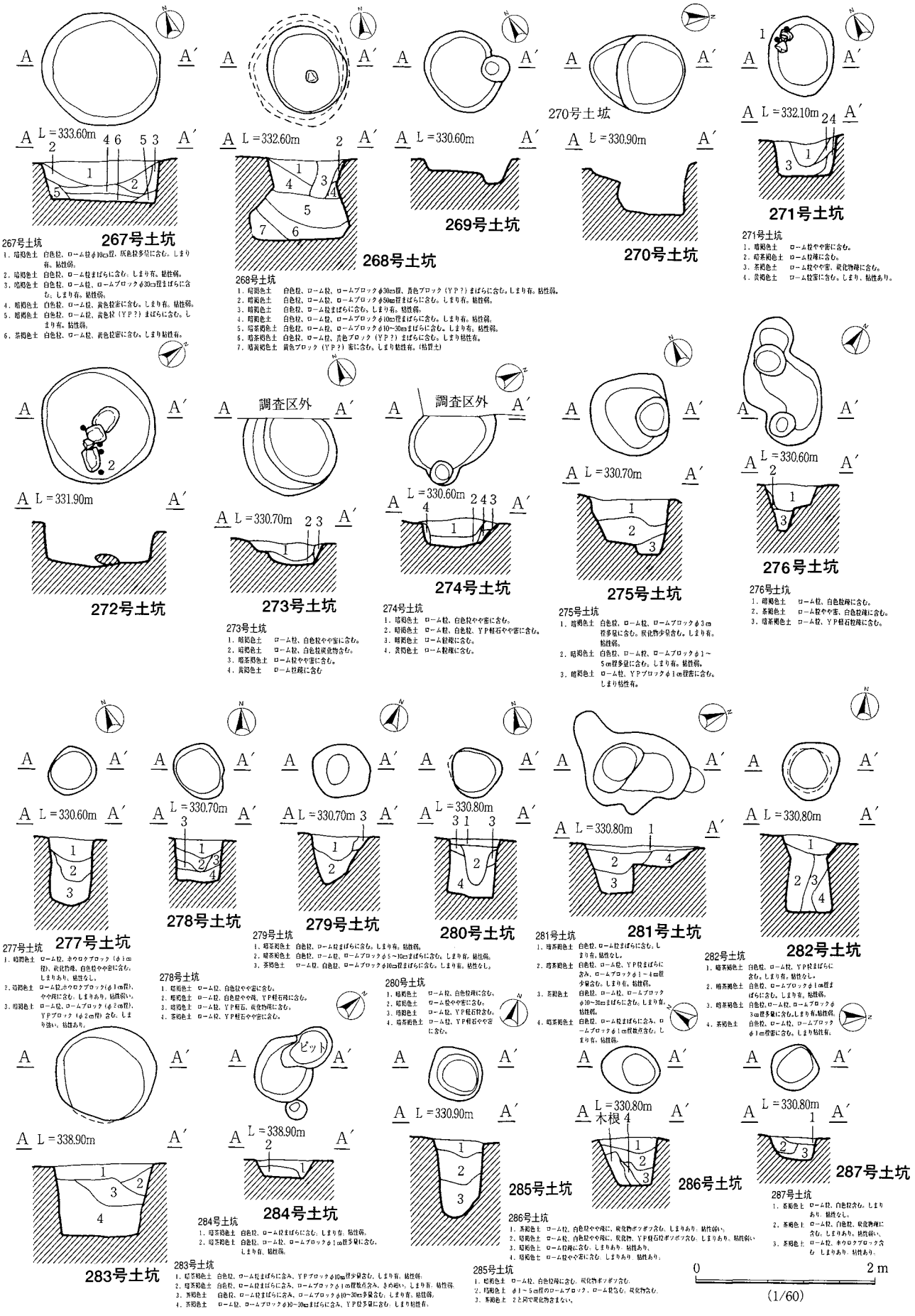
263号土坑
1．黒褐色土　ローム粒、ＹＰ軽石粒、灰色岩粒雑に含む。炭化物ポツポツ含む。しまり、粘性あり。
2．暗褐色土　ローム粒、ＹＰ軽石粒、灰色岩粒１より雑に含む。しまり、粘性あり。
3．暗茶褐色土　ローム粒やや雑に、灰色岩粒雑に含む。炭化物ポツポツ含む。しまり、粘性あり。
4．茶褐色土　ローム粒雑に含む。しまり、粘性強い。
5．黄褐色土　ローム粒やや密に含む。しまり、粘性強い。
6．暗茶褐色土　ローム粒含む。しまり、粘性強い。

264号土坑
1．暗褐色土　白色粒、ローム粒、灰色粒まばらに含む。しまり有。粘性弱
2．暗褐色土　白色粒、ローム粒、灰色粒、ローム ブロックまばらに含む。しまり有。粘性弱。
3．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒、ローム ブロックφ10～20mm程まばらに含む。しまり有。粘性弱。
4．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒、黄色粒、ローム ブロックまばらに含む。しまり有。粘性弱。

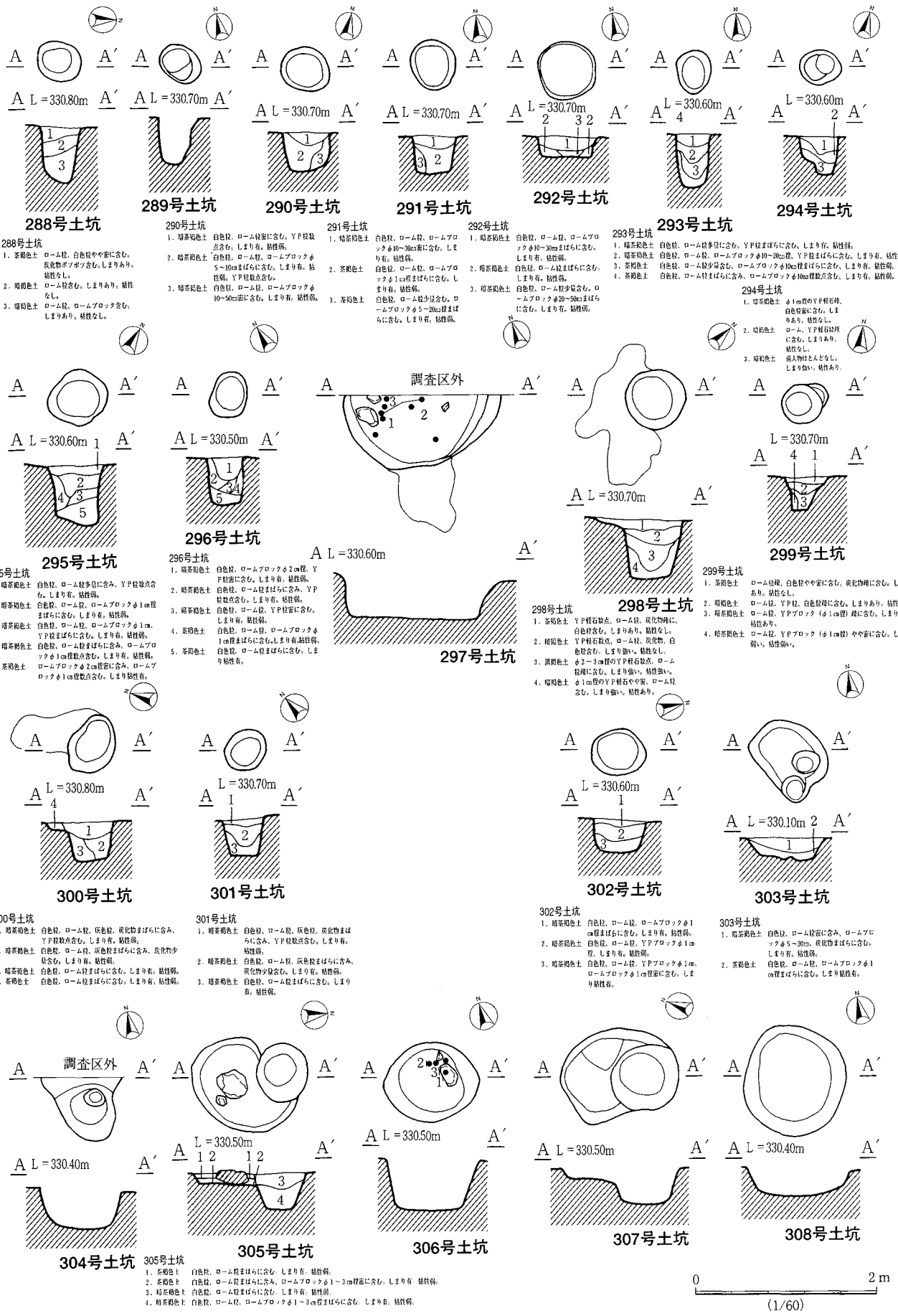
265号土坑
1．暗褐色土　白色粒、ローム粒まばらに含む。しまり有。粘性弱。
2．暗褐色土　白色粒、ローム粒、ローム ブロックφ10cm程多量に含む。しまり有。粘性弱。
3．茶褐色土　白色粒、ローム粒、ローム ブロックφ10～30cmまばらに含む。しまり有。粘性弱。
4．暗褐色土　白色粒、ローム粒、ＹＰブロックφ20cm程多量に含む。しまり有。粘性弱。
5．暗褐色土　白色粒、ローム粒、ＹＰブロックφ20cm、ローム ブロックφ20cm程まばらに含む。しまり有。粘性弱。
6．暗黄褐色土　ＹＰブロックφ20cm程、ローム ブロックφ20cm程、密に含む。しまり、粘性有。
7．暗黄褐色土　ＹＰブロックφ20cm粒点含む。ローム ブロックφ30cm程まばらに含む。しまり、粘性有。

266号土坑
1．暗褐色土　白色粒、ローム粒、焼土粒をまばらに含む。しまり有。粘性弱
2．暗褐色土　白色粒、ローム粒まばらに含む。炭化物微量含む。しまり有。粘性弱
3．暗褐色土　白色粒、ローム粒、ローム ブロックφ30cm程少量含む。しまり有。粘性弱
4．暗褐色土　白色粒、ローム粒まばらに含む。しまり有。粘性弱。
5．暗褐色土　白色粒、ローム粒、黄色ブロック（ＹＰ？）、しまり粘性有

第200図　251～266号土坑



第201図　267～287号土坑



288号土坑
1．茶褐色土　ローム粒、白色粒やや密に含む。炭化物ポツポツ含む。しまりあり。粘性なし。
2．暗褐色土　ローム粒含む。しまりあり。粘性なし。
3．暗褐色土　ローム粒、ロームブロック含む。しまりあり。粘性なし。

290号土坑
1．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒密に含む。YP粒数点含む。しまり有。粘性弱。
2．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒、ロームブロックφ5～10cmまばらに含む。しまり有。粘性弱。YP粒数点含む。
3．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒、ロームブロックφ10～50cm密に含む。しまり有。粘性弱。

291号土坑
1．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒、ロームブロックφ10～30cm密に含む。しまり有。粘性弱。
2．茶褐色土　白色粒、ローム粒、ロームブロックφ1cm程まばらに含む。しまり有。粘性弱。
3．茶褐色土　白色粒、ローム粒少量含む。ロームブロックφ5～20cm程まばらに含む。しまり有。粘性弱。

292号土坑
1．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒、ロームブロックφ10～30cmまばらに含む。しまり有。粘性弱。
2．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒まばらに含む。しまり有。粘性弱。
3．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒少量含む。ロームブロックφ20～50cmまばらに含む。しまり有。粘性弱。

293号土坑
1．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒多量に含む。YP粒まばらに含む。しまり有。粘性弱。
2．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒、ロームブロックφ10～20cm程、YP粒まばらに含む。しまり有。粘性弱。
3．茶褐色土　白色粒、ローム粒少量含む。ロームブロックφ10cm程まばらに含む。しまり有。粘性弱。
4．茶褐色土　白色粒、ローム粒まばらに含み、ロームブロックφ10cm程粒点含む。しまり有。粘性弱。

294号土坑
1．暗茶褐色土　φ1cm程のYP粒石礫、白色粒密に含む。しまりあり。粘性なし。
2．暗褐色土　ローム、YP粒石粒礫に含む。しまりあり、粘性なし。
3．暗褐色土　混入物ほとんどなし。しまり強い。粘性あり。

295号土坑
1．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒多量に含み、YP粒数点含む。しまり有。粘性弱。
2．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒、ロームブロックφ1cm程まばらに含む。しまり有。粘性弱。
3．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒、ロームブロックφ1cm、YP粒まばらに含む。しまり有。粘性弱。
4．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒まばらに含み、ロームブロックφ1cm程粒点含む。しまり有。粘性弱。
5．茶褐色土　ロームブロックφ2cm程密に含み、ロームブロックφ1cm程粒点含む。しまり粘性有。

296号土坑
1．暗茶褐色土　白色粒、ロームブロックφ2cm程、YP粒密に含む。しまり有。粘性弱。
2．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒まばらに含み、YP粒数点含む。しまり有。粘性弱。
3．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒、YP粒密に含む。しまり有。粘性弱。
4．茶褐色土　白色粒、ローム粒、ロームブロックφ1cm程まばらに含む。しまり有。粘性弱。
5．茶褐色土　白色粒、ローム粒まばらに含む。しまり粘性有。

298号土坑
1．茶褐色土　YP粒石粒点、ローム粒、炭化物礫に、白色粒含む。しまりあり。粘性なし。
2．暗褐色土　YP粒石粒点、ローム粒、炭化物、白色粒含む。しまり強い。粘性なし。
3．黒褐色土　φ2～3cm程のYP粒石粒点、ローム粒礫に含む。しまり強い。粘性強い。
4．暗褐色土　φ1cm程のYP粒石やや密、ローム粒含む。しまり強い。粘性あり。

299号土坑
1．茶褐色土　ローム粒礫、白色粒やや密に含む。炭化物礫に含む。しまりあり。粘性なし。
2．暗褐色土　ローム粒、YP粒、白色粒礫に含む。しまりあり。粘性あり。
3．暗茶褐色土　ローム粒、YPブロック（φ1cm程）礫に含む。しまりあり。粘性あり。
4．暗茶褐色土　ローム粒、YPブロック（φ1cm程）やや密に含む。しまり弱い。粘性弱い。

300号土坑
1．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒、灰色粒、炭化物まばらに含み、YP粒数点含む。しまり有。粘性弱。
2．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒、灰色粒まばらに含み、炭化物少量含む。しまり有。粘性弱。
3．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒まばらに含む。しまり有。粘性弱。
4．茶褐色土　白色粒、ローム粒まばらに含む。しまり有。粘性弱。

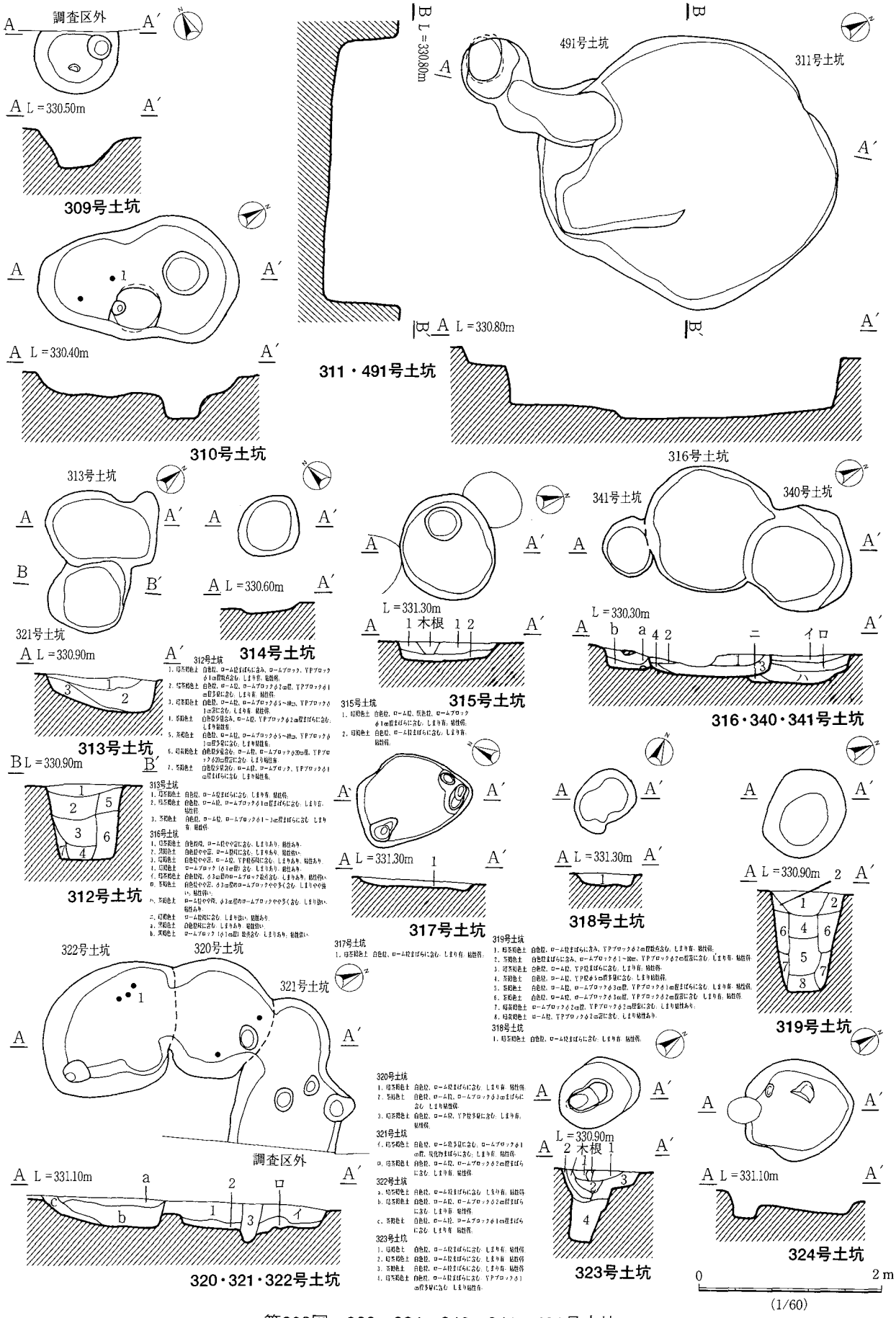
301号土坑
1．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒、灰色粒、炭化物まばらに含み、YP粒数点含む。しまり有。粘性弱。
2．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒、灰色粒まばらに含み、炭化物少量含む。しまり有。粘性弱。
3．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒まばらに含む。しまり有。粘性弱。

302号土坑
1．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒、ロームブロックφ1cm程まばらに含む。しまり有。粘性弱。
2．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒、YPブロックφ1cm程、しまり有。粘性弱。
3．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒、YPブロックφ1cm、ロームブロックφ1cm程密に含む。しまり粘性有。

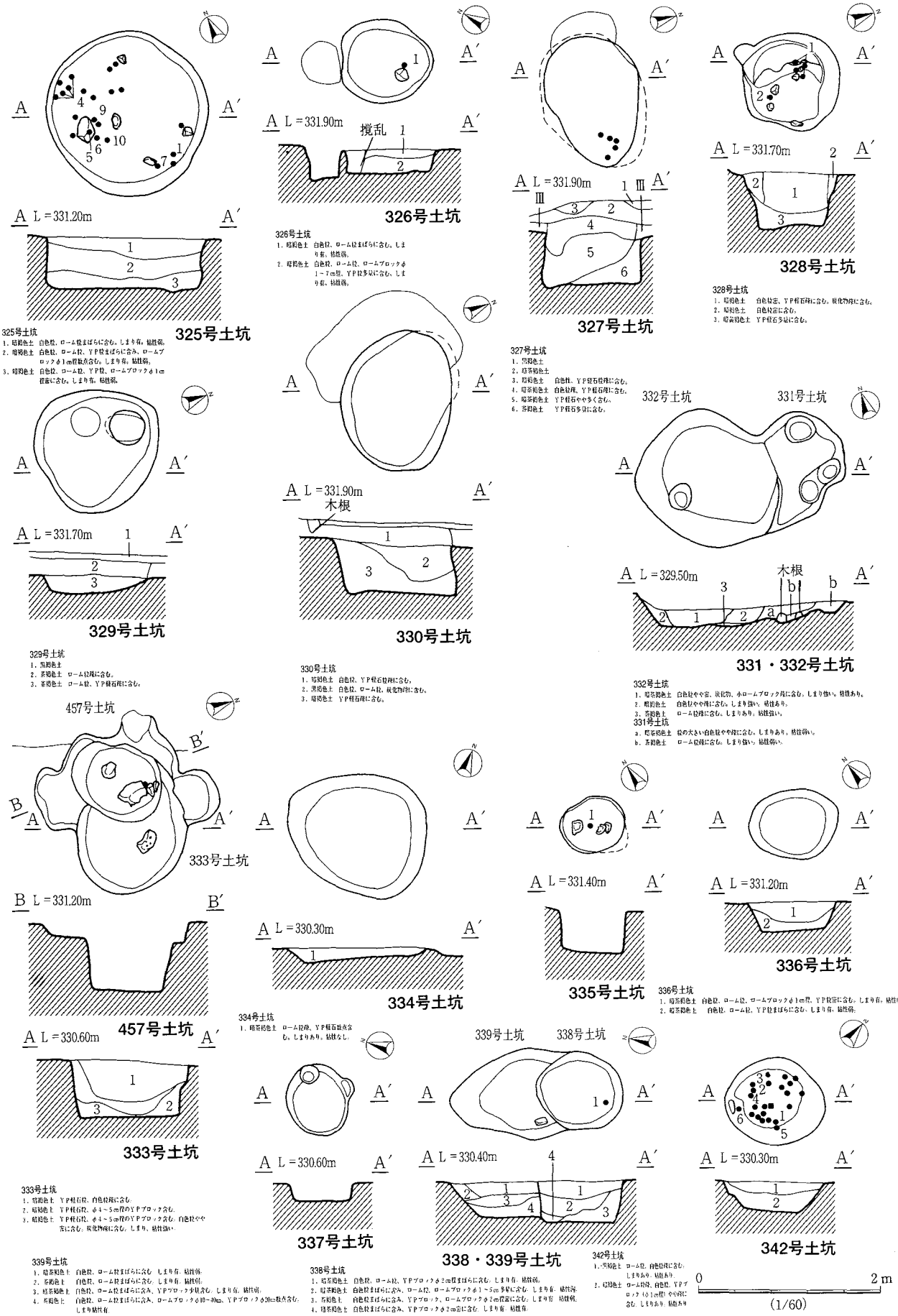
303号土坑
1．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒密に含み、ロームブロックφ5～30cm、炭化物まばらに含む。しまり有。粘性弱。
2．茶褐色土　白色粒、ローム粒、ロームブロックφ1cm程まばらに含む。しまり粘性有。

305号土坑
1．茶褐色土　白色粒、ローム粒まばらに含む。しまり有。粘性弱。
2．茶褐色土　白色粒、ローム粒まばらに含む。ロームブロックφ1～3cm程密に含む。しまり有。粘性弱。
3．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒まばらに含む。しまり有。粘性弱。
4．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒、ロームブロックφ1～3cm程まばらに含む。しまり有。粘性弱。

第202図　288～308号土坑



第203図　309～324・340・341・491号土坑



326号土坑
1. 暗褐色土　白色粒、ローム粒まばらに含む。しまり有。粘性弱。
2. 暗褐色土　白色粒、ローム粒、ロームブロック φ1～7cm程、YP粒多量に含む。しまり有。粘性弱。

325号土坑
1. 暗褐色土　白色粒、ローム粒まばらに含む。しまり有。粘性弱。
2. 暗褐色土　白色粒、ローム粒、YP粒まばらに含み、ロームブロック φ1cm程数点含む。しまり有。粘性弱。
3. 暗褐色土　白色粒、ローム粒、YP粒、ロームブロック φ1cm程密に含む。しまり有。粘性弱。

327号土坑
1. 黒褐色土
2. 暗茶褐色土
3. 暗褐色土　白色粒、YP粒石粒微に含む。
4. 暗茶褐色土　白色粒微、YP粒石粒に含む。
5. 暗茶褐色土　YP粒石やや多く含む。
6. 茶褐色土　YP粒石多量に含む。

328号土坑
1. 暗褐色土　白色粒密、YP粒石粒に含む。炭化物微に含む。
2. 暗褐色土　白色粒密に含む。
3. 暗黄褐色土　YP粒石多量に含む。

329号土坑
1. 黒褐色土
2. 茶褐色土　ローム粒微に含む。
3. 茶褐色土　ローム粒、YP粒石粒に含む。

330号土坑
1. 暗褐色土　白色粒、YP粒石粒に含む。
2. 黒褐色土　白色粒、ローム粒、炭化物微に含む。
3. 暗褐色土　YP粒石粒に含む。

332号土坑
1. 暗茶褐色土　白色粒やや密、炭化物、小ロームブロック粒に含む。しまり強い。粘性あり。
2. 暗褐色土　白色粒やや粗に含む。しまり強い。粘性あり。
3. 茶褐色土　ローム粒粒に含む。しまりあり。粘性強い。

331号土坑
a. 暗茶褐色土　粒の大きい白色粒やや粗に含む。しまりあり。粘性弱い。
b. 茶褐色土　ローム粒粒に含む。しまり強い。粘性弱い。

333号土坑
1. 暗褐色土　YP粒石粒、白色粒微に含む。
2. 暗褐色土　YP粒石粒、φ4～5cm程のYPブロック含む。
3. 暗褐色土　YP粒石粒、φ4～5cm程のYPブロック含む。白色粒やや密に含む。炭化物微に含む。しまり、粘性強い。

334号土坑
1. 暗茶褐色土　ローム粒微、YP粒石粒点含む。しまりあり。粘性なし。

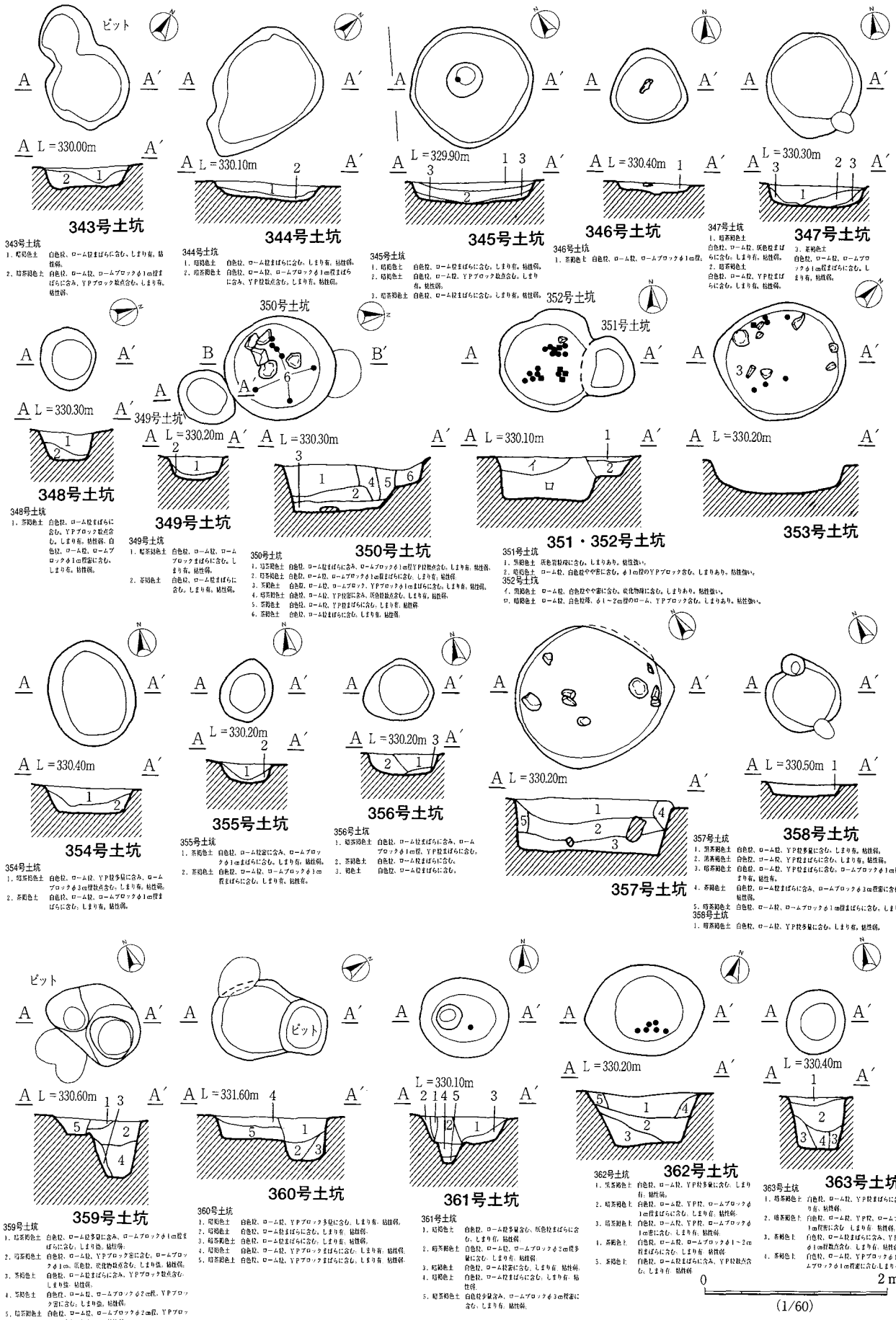
336号土坑
1. 暗茶褐色土　白色粒、ローム粒、ロームブロック φ1cm程、YP粒密に含む。しまり有。粘性弱。
2. 暗茶褐色土　白色粒、ローム粒、YP粒まばらに含む。しまり有。粘性弱。

339号土坑
1. 暗茶褐色土　白色粒、ローム粒まばらに含む。しまり有。粘性弱。
2. 茶褐色土　白色粒、ローム粒まばらに含む。しまり有。粘性弱。
3. 暗茶褐色土　白色粒、ローム粒まばらに含み、YPブロック少量含む。しまり有。粘性弱。
4. 茶褐色土　白色粒、ローム粒まばらに含み、ロームブロック φ10～40cm、YPブロック φ20cm数点含む。しまり粘性有。

338号土坑
1. 暗茶褐色土　白色粒、ローム粒、YPブロック φ2cm程まばらに含む。しまり有。粘性弱。
2. 暗茶褐色土　白色粒まばらに含み、ローム粒、ロームブロック φ1～5cm多量に含む。しまり有。粘性弱。
3. 茶褐色土　白色粒まばらに含み、YPブロック、ロームブロック φ2cm程密に含む。しまり有。粘性弱。
4. 暗茶褐色土　白色粒まばらに含み、YPブロック φ2cm密に含む。しまり有。粘性有。

342号土坑
1. 黒褐色土　ローム粒、白色粒微に含む。しまりあり。粘性あり。
2. 暗褐色土　ローム粒粒、白色粒、YPブロック（φ1cm程）やや微に含む。しまりあり。粘性あり

第204図　325～339・342・457号土坑



343号土坑
1．暗褐色土　白色粒、ローム粒まばらに含む。しまり有。粘性弱。
2．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒、ロームブロックφ1cm程まばらに含み、YPブロック粒点含む。しまり有。粘性弱。

344号土坑
1．暗褐色土　白色粒、ローム粒まばらに含む。しまり有。粘性弱。
2．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒、ロームブロックφ1cm程まばらに含み、YP粒粒点含む。しまり有。粘性弱。

345号土坑
1．暗褐色土　白色粒、ローム粒まばらに含む。しまり有。粘性弱。
2．暗褐色土　白色粒、ローム粒、YPブロック粒点含む。しまり有。粘性弱。
3．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒まばらに含む。しまり有。粘性弱。

346号土坑
1．茶褐色土　白色粒、ローム粒、ロームブロックφ1cm程。

347号土坑
1．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒、灰色粒まばらに含む。しまり有。粘性弱。
2．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒、YP粒まばらに含む。しまり有。粘性弱。
3．茶褐色土　白色粒、ローム粒、ロームブロックφ1cm程まばらに含む。しまり有。粘性弱。

348号土坑
1．茶褐色土　白色粒、ローム粒まばらに含む。YPブロック粒点含む。しまり有。粘性弱。白色粒、ローム粒、ロームブロックφ1cm程密に含む。しまり有。粘性弱。

349号土坑
1．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒、ロームブロックまばらに含む。しまり有。粘性弱。
2．茶褐色土　白色粒、ローム粒まばらに含む。しまり有。粘性弱。

350号土坑
1．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒まばらに含み、ロームブロックφ1cm程YP粒粒点含む。しまり有。粘性弱。
2．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒、ロームブロックφ1cm程まばらに含む。しまり有。粘性弱。
3．茶褐色土　白色粒、ローム粒、ロームブロック、YPブロックφ1cmまばらに含む。しまり有。粘性弱。
4．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒、YP粒密に含み、灰色粒粒点含む。しまり有。粘性弱。
5．茶褐色土　白色粒、ローム粒、YP粒まばらに含む。しまり有。粘性弱
6．茶褐色土　白色粒、ローム粒まばらに含む。しまり有。粘性弱。

351号土坑
1．黒褐色土　灰色雲粒塊に含む。しまりあり。粘性強い。
2．暗褐色土　ローム粒、白色粒やや密に含む。φ1cm程のYPブロック含む。しまりあり。粘性強い。

352号土坑
イ．黒褐色土　ローム粒、白色粒やや密に含む。炭化物塊に含む。しまりあり。粘性強い。
ロ．暗褐色土　ローム粒、白色粒塊、φ1～2cm程のローム、YPブロック含む。しまりあり。粘性強い。

354号土坑
1．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒、YP粒多量に含み、ロームブロックφ3cm程粒点含む。しまり有。粘性弱。
2．茶褐色土　白色粒、ローム粒、ロームブロックφ1cm程まばらに含む。しまり有。粘性弱。

355号土坑
1．茶褐色土　白色粒、ローム粒密に含み、ロームブロックφ1cmまばらに含む。しまり有。粘性弱。
2．茶褐色土　白色粒、ローム粒、ロームブロックφ1cm程まばらに含む。しまり有。粘性弱。

356号土坑
1．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒まばらに含み、ロームブロックφ1cm程、YP粒まばらに含む。
2．茶褐色土　白色粒、ローム粒まばらに含む。
3．褐色土　白色粒、ローム粒まばらに含む。

357号土坑
1．黒茶褐色土　白色粒、ローム粒、YP粒多量に含む。しまり有。粘性弱。
2．黄茶褐色土　白色粒、ローム粒、YP粒まばらに含む。しまり有。粘性弱。
3．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒、YP粒まばらに含む。ロームブロックφ1cm程少量含む。しまり有。粘性有。
4．茶褐色土　白色粒、ローム粒まばらに含み、ロームブロックφ3cm程密に含む。しまり有。粘性弱。
5．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒、ロームブロックφ1cm程まばらに含む。しまり有。粘性弱。

358号土坑
1．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒、YP粒多量に含む。しまり有。粘性弱。

359号土坑
1．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒多量に含み、ロームブロックφ1cm程まばらに含む。しまり強。粘性弱。
2．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒、YPブロック密に含む。ロームブロックφ1cm、灰色粒、炭化物粒点含む。しまり強。粘性弱。
3．茶褐色土　白色粒、ローム粒まばらに含み、YPブロック粒点含む。しまり強。粘性弱。
4．茶褐色土　白色粒、ローム粒、ロームブロックφ2cm程、YPブロック密に含む。しまり強。粘性弱。
5．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒、ロームブロックφ2cm程、YPブロック密に含む。しまり強。粘性弱。

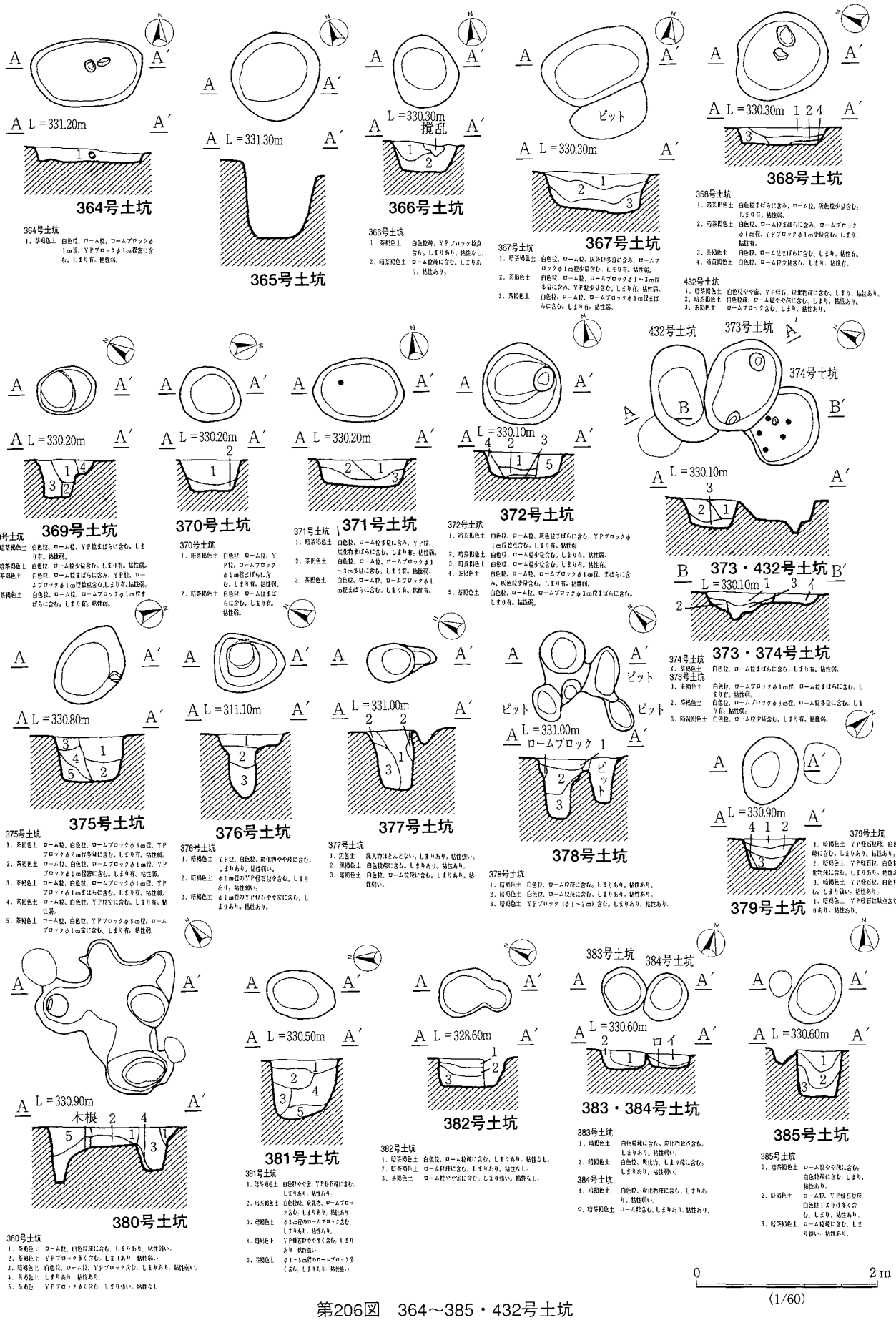
360号土坑
1．暗褐色土　白色粒、ローム粒、YPブロック多量に含む。しまり有。粘性弱。
2．暗褐色土　白色粒、ローム粒まばらに含む。しまり有。粘性弱。
3．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒まばらに含む。しまり有。粘性弱。
4．暗褐色土　白色粒、ローム粒、YPブロックまばらに含む。しまり有。粘性弱。
5．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒、YPブロックまばらに含む。しまり有。粘性弱。

361号土坑
1．暗褐色土　白色粒、ローム粒多量含む。灰色粒まばらに含む。しまり有。粘性弱。
2．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒、ロームブロックφ2cm程多量に含む。しまり有。粘性弱。
3．暗褐色土　白色粒、ローム粒密に含む。しまり有。粘性弱。
4．暗褐色土　白色粒、ローム粒まばらに含む。しまり有。粘性弱。
5．暗茶褐色土　白色粒少量含み、ロームブロックφ3cm程密に含む。しまり有。粘性弱。

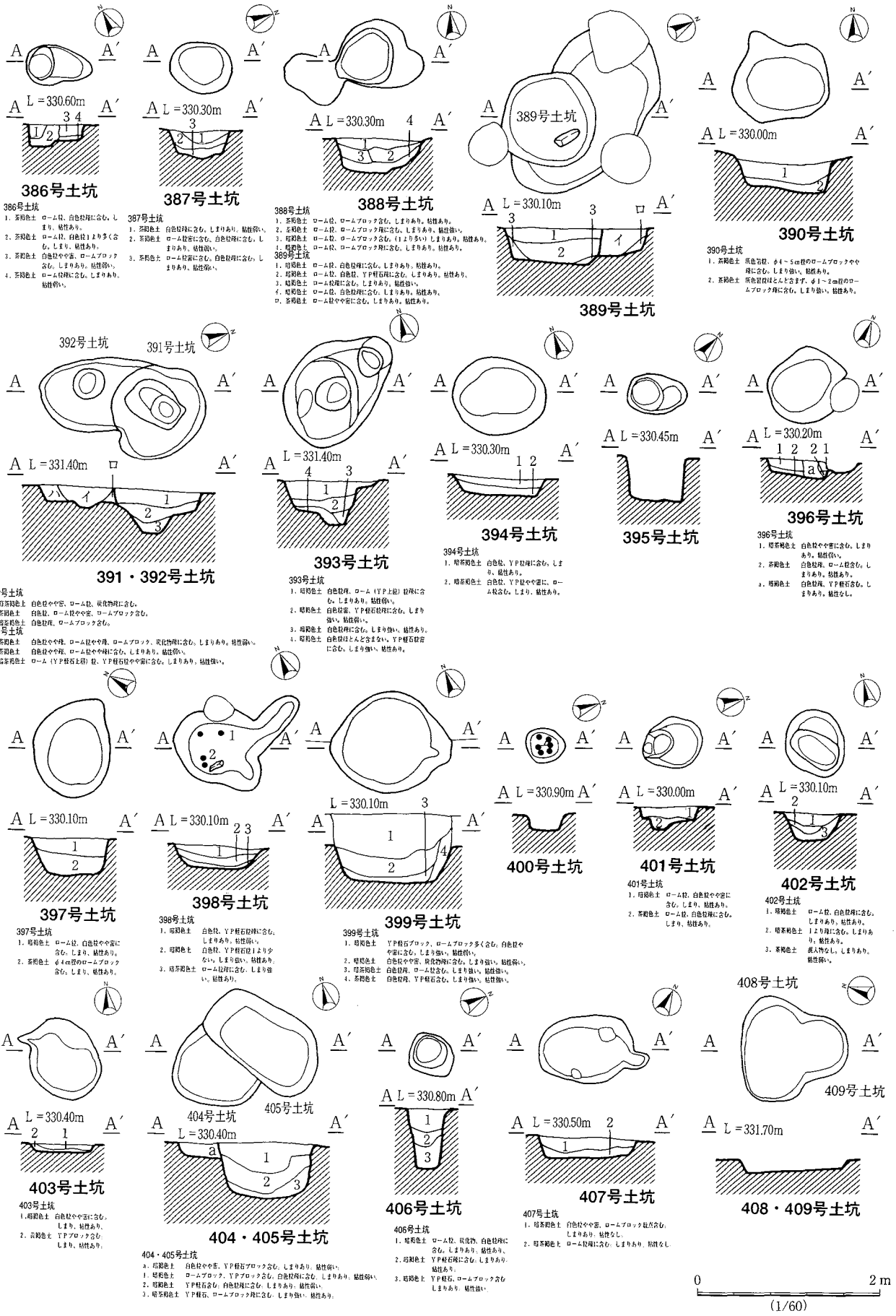
362号土坑
1．黒茶褐色土　白色粒、ローム粒、YP粒多量に含む。しまり有。粘性弱。
2．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒、YP粒、ロームブロックφ1cm程まばらに含む。しまり有。粘性弱。
3．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒、YP粒、ロームブロックφ1cm密に含む。しまり有。粘性弱。
4．茶褐色土　白色粒、ローム粒、ロームブロックφ1～2cm程まばらに含む。しまり有。粘性弱。
5．茶褐色土　白色粒、ローム粒まばらに含み、YP粒粒点含む。しまり有。粘性弱。

363号土坑
1．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒、YP粒まばらに含む。しまり有。粘性弱。
2．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒、YP粒、ロームブロックφ1cm程密に含む。しまり有。粘性弱。
3．茶褐色土　白色粒、ローム粒まばらに含み、YPブロックφ1cm程粒点含む。しまり有。粘性弱。
4．茶褐色土　白色粒、ローム粒、YPブロックφ1cm、ロームブロックφ1cm程密に含む。しまり有。粘性弱。

第205図　343～363号土坑



第206図　364～385・432号土坑



386号土坑
1. 茶褐色土　ローム粒、白色粒子に含む。しまり、粘性あり。
2. 茶褐色土　ローム粒、白色粒子より多く含む。しまり、粘性あり。
3. 茶褐色土　白色粒やや密、ロームブロック含む。しまりあり。粘性弱い。
4. 茶褐色土　ローム粒子に含む。しまりあり。粘性弱い。

387号土坑
1. 茶褐色土　白色粒子に含む。しまりあり。粘性弱い。
2. 茶褐色土　ローム粒密に含む。白色粒子に含む。しまりあり。粘性弱い。
3. 茶褐色土　ローム粒密に含む。白色粒子に含む。しまりあり。粘性弱い。

388号土坑
1. 茶褐色土　ローム粒、ロームブロック含む。しまりあり。粘性あり。
2. 茶褐色土　ローム粒、ロームブロック粒に含む。しまりあり。粘性強い。
3. 暗褐色土　ローム粒、ロームブロック含む。（1より多い）しまりあり。粘性あり。
4. 暗褐色土　ローム粒、ロームブロック粒に含む。しまりあり。粘性あり。

389号土坑
1. 暗褐色土　ローム粒、白色粒子に含む。しまりあり。粘性あり。
2. 暗褐色土　ローム粒、白色粒、YP軽石粒に含む。しまりあり。粘性あり。
3. 暗褐色土　ローム粒粒に含む。しまりあり。粘性強い。
イ. 暗褐色土　ローム粒、白色粒子に含む。しまりあり。粘性あり。
ロ. 茶褐色土　ローム粒やや密に含む。しまりあり。粘性あり。

390号土坑
1. 茶褐色土　灰色岩粒、φ4～5cm程のロームブロックやや粒に含む。しまり強い。粘性あり。
2. 茶褐色土　灰色岩粒ほとんど含まず、φ1～2cm程のロームブロック粒に含む。しまり強い。粘性あり。

392号土坑
イ. 暗茶褐色土　白色粒やや密、ローム粒、炭化物粒に含む。
ロ. 茶褐色土　白色粒、ローム粒やや密、ロームブロック含む。
ハ. 暗茶褐色土　白色粒粒、ロームブロック含む。

391号土坑
1. 茶褐色土　白色粒やや粒、ローム粒やや粒、ロームブロック、炭化物粒に含む。しまりあり。粘性弱い。
2. 茶褐色土　白色粒やや粒、ローム粒やや粒に含む。しまりあり。粘性弱い。
3. 暗茶褐色土　ローム（YP軽石上層）粒、YP軽石粒やや密に含む。しまりあり。粘性強い。

393号土坑
1. 暗褐色土　白色粒粒、ローム（YP上層）粒粒に含む。しまりあり。粘性弱い。
2. 暗褐色土　白色粒密、YP軽石粒粒に含む。しまり強い。粘性弱い。
3. 暗褐色土　白色粒粒に含む。しまり強い。粘性あり。
4. 暗褐色土　白色粒ほとんど含まない。YP軽石粒密に含む。しまり強い。粘性あり。

394号土坑
1. 暗茶褐色土　白色粒、YP粒粒に含む。しまり、粘性あり。
2. 暗茶褐色土　白色粒、YP粒やや密に、ローム粒含む。しまり、粘性あり。

396号土坑
1. 暗茶褐色土　白色粒やや密に含む。しまりあり。粘性弱い。
2. 茶褐色土　白色粒粒、ローム粒含む。しまりあり。粘性あり。
a. 暗褐色土　白色粒粒、YP軽石含む。しまりあり。粘性なし。

397号土坑
1. 暗褐色土　ローム粒、白色粒やや密に含む。しまり、粘性あり。
2. 茶褐色土　φ4cm程のロームブロック含む。しまり、粘性あり。

398号土坑
1. 暗褐色土　白色粒、YP軽石粒粒に含む。しまりあり。粘性弱い。
2. 暗褐色土　白色粒、YP軽石粒1より少ない。しまり強い。粘性あり。
3. 暗茶褐色土　ローム粒粒に含む。しまり強い。粘性あり。

399号土坑
1. 暗褐色土　YP軽石ブロック、ロームブロック多く含む。白色粒やや密に含む。しまり強い。粘性弱い。
2. 暗褐色土　白色粒やや密、炭化物粒に含む。しまり強い。粘性弱い。
3. 暗茶褐色土　白色粒粒、ローム粒含む。しまり強い。粘性強い。
4. 茶褐色土　白色粒粒、YP軽石含む。しまり強い。粘性強い。

401号土坑
1. 暗褐色土　ローム粒、白色粒やや密に含む。しまり、粘性あり。
2. 茶褐色土　ローム粒、白色粒粒に含む。しまり、粘性あり。

402号土坑
1. 暗褐色土　ローム粒、白色粒粒に含む。しまりあり。粘性あり。
2. 暗茶褐色土　1より粒に含む。しまりあり。粘性あり。
3. 茶褐色土　炭入物なし。しまりあり。粘性弱い。

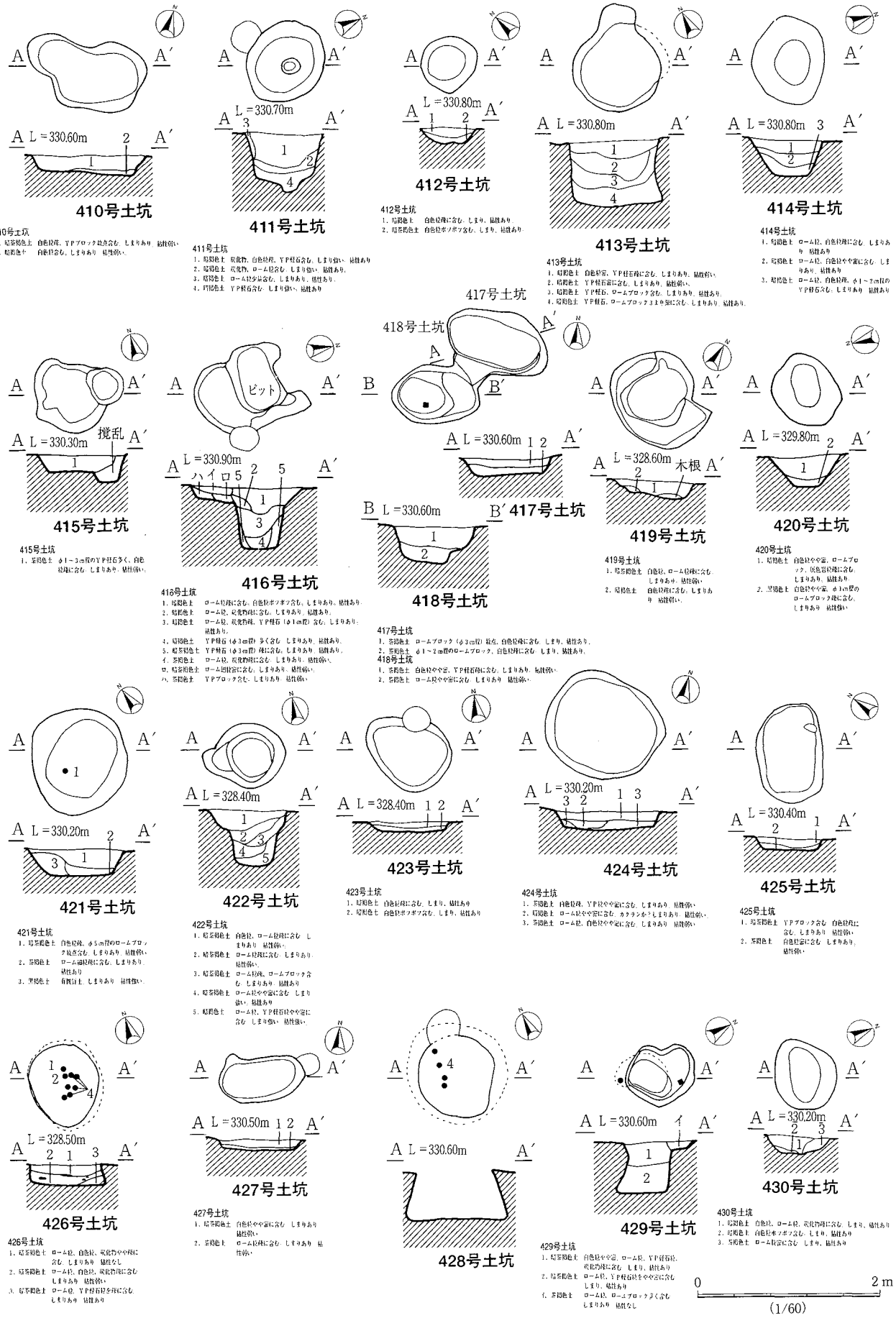
403号土坑
1. 暗褐色土　白色粒やや密に含む。しまり、粘性あり。
2. 茶褐色土　YPブロック含む。しまり、粘性あり。

404・405号土坑
a. 暗褐色土　白色粒やや密、YP軽石ブロック含む。しまりあり。粘性弱い。
1. 暗褐色土　ロームブロック、YPブロック含む。白色粒粒に含む。しまりあり。粘性弱い。
2. 暗褐色土　YP軽石含む。白色粒粒に含む。しまりあり。粘性弱い。
3. 暗茶褐色土　YP軽石、ロームブロック粒に含む。しまり強い。粘性あり。

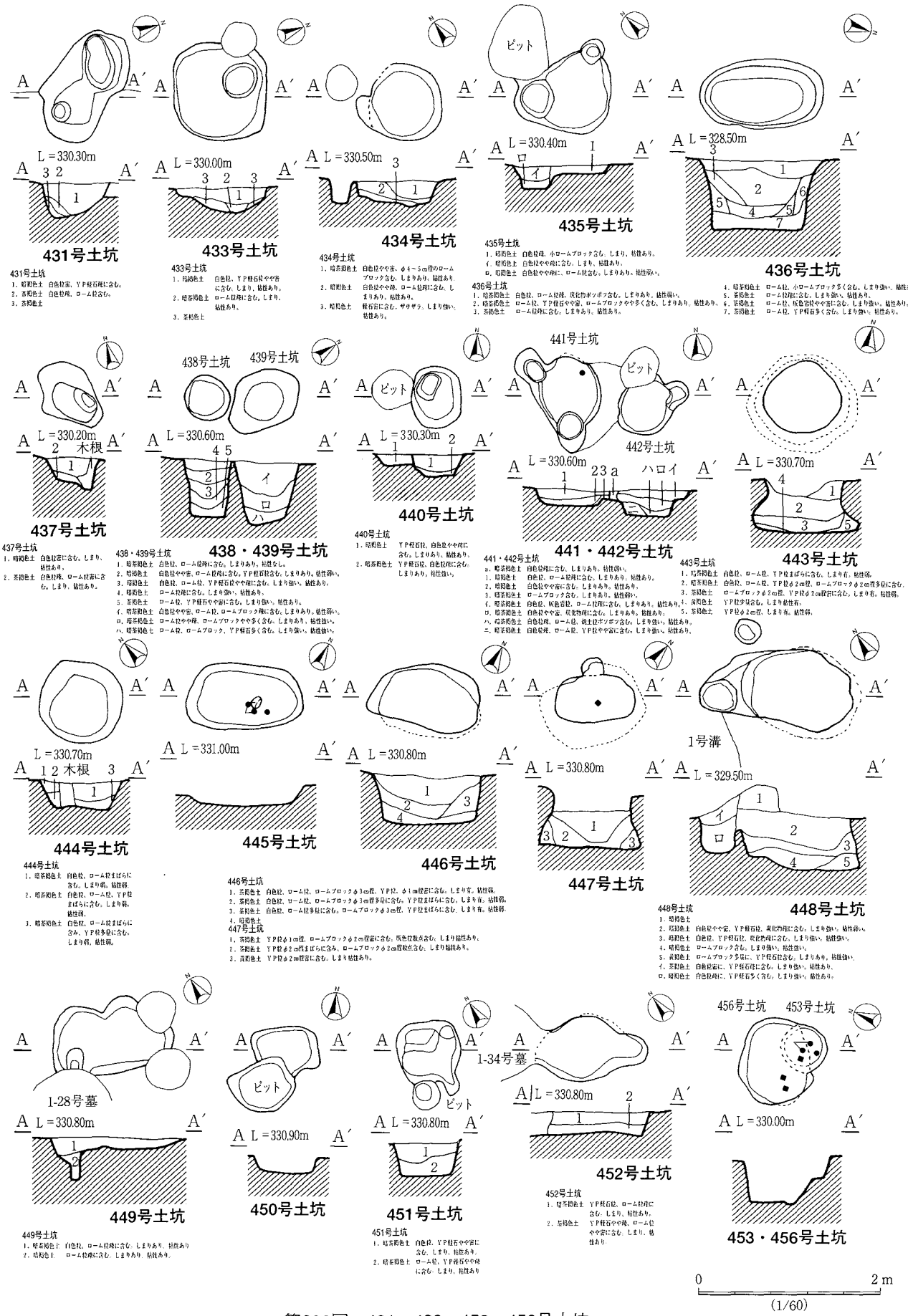
406号土坑
1. 暗褐色土　ローム粒、炭化物、白色粒粒に含む。しまりあり。粘性あり。
2. 暗褐色土　YP軽石粒に含む。しまりあり。粘性あり。
3. 暗褐色土　YP軽石、ロームブロック含む。しまりあり。粘性強い。

407号土坑
1. 暗茶褐色土　白色粒やや密、ロームブロック粒点含む。しまりあり。粘性なし。
2. 暗茶褐色土　ローム粒粒に含む。しまりあり。粘性なし。

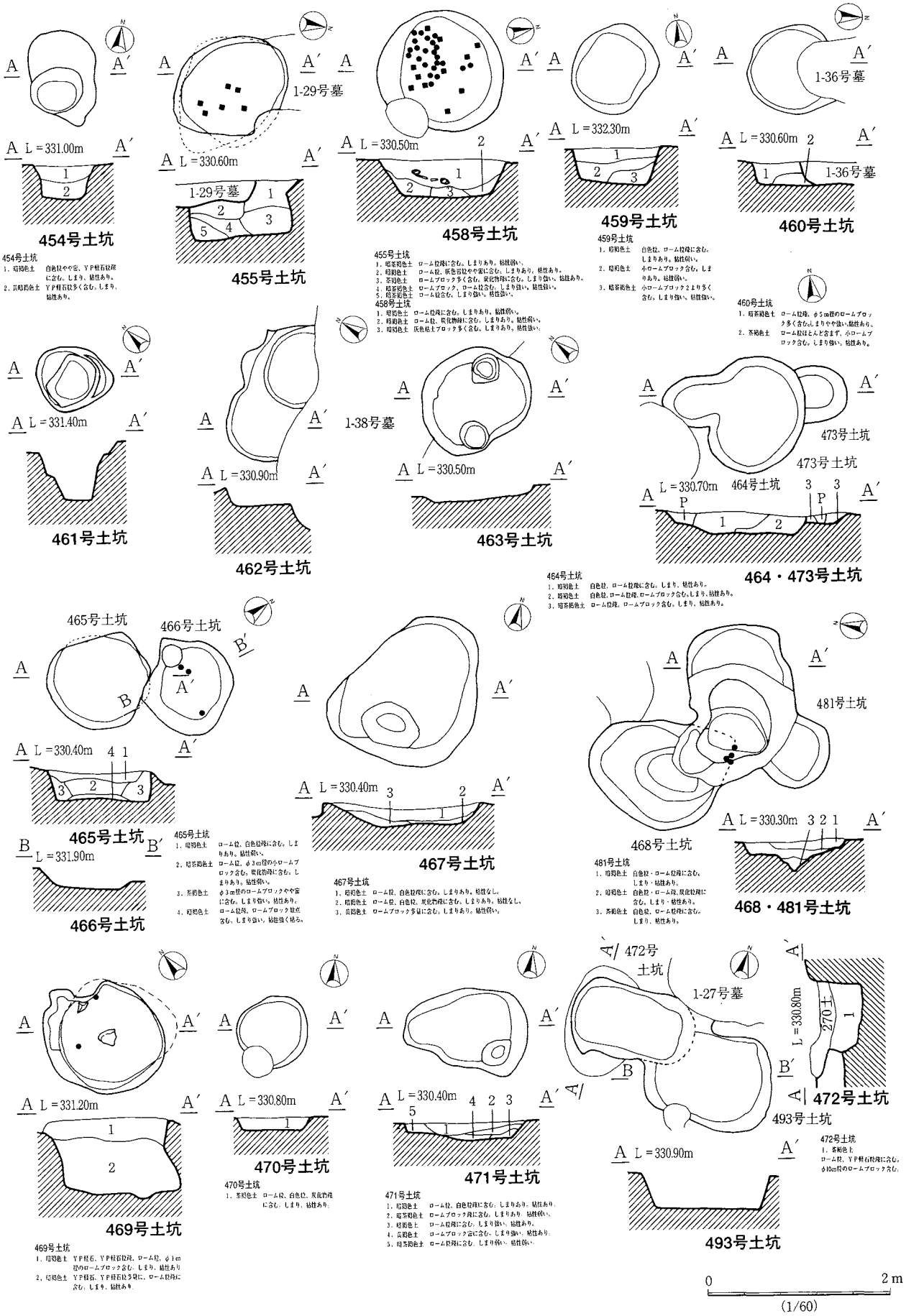
第207図　386～409号土坑



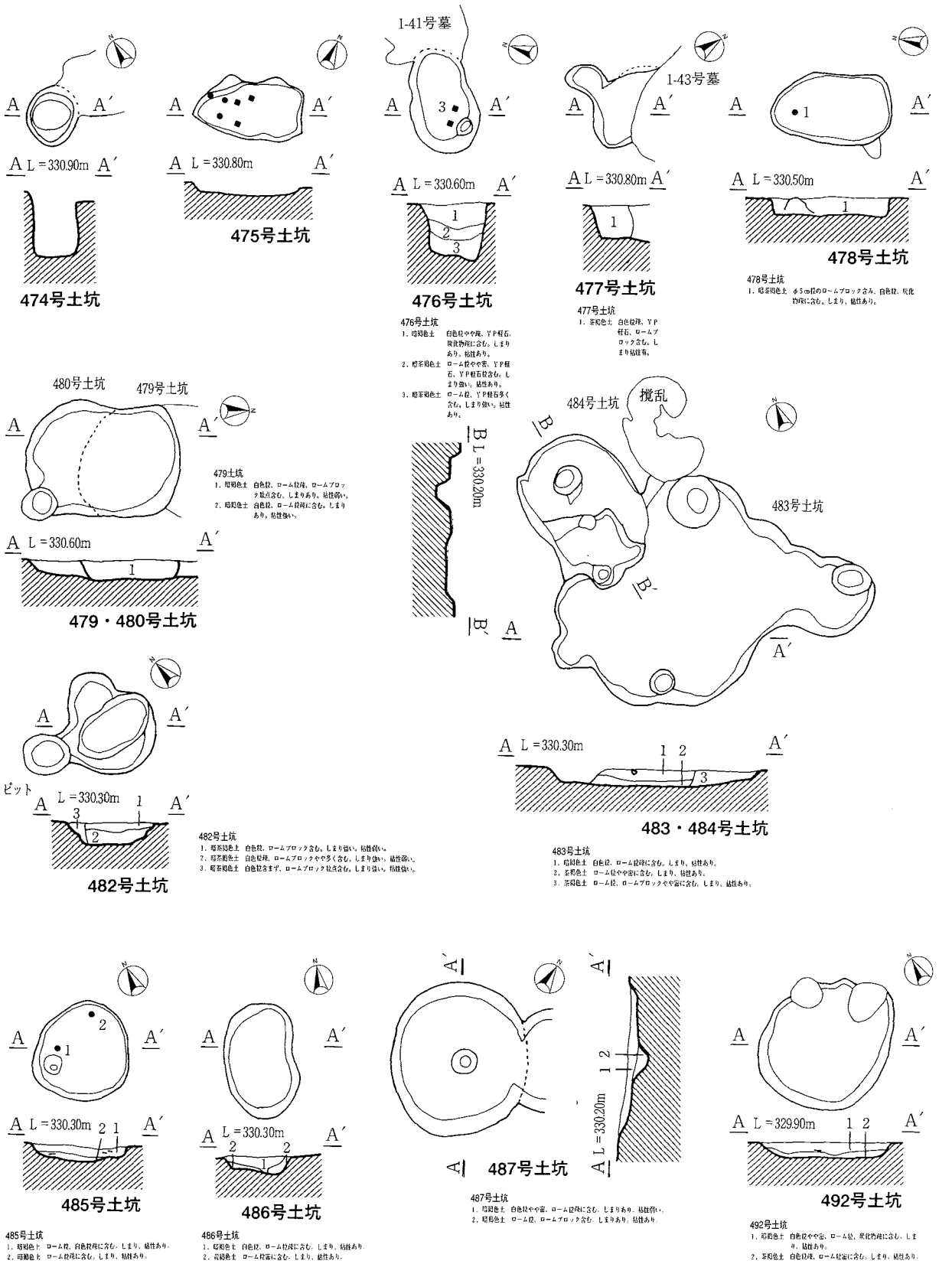
第208図　410～430号土坑



第209図　431・433～453・456号土坑



第210図　454・455・458～473・481・493号土坑



第211図　474～480・482～487・492号土坑

1号土坑　堀之内２式

１は、底部端が突出する深鉢で、底面に網代痕が残り内外面は研磨が施される。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

２は、深鉢で、口縁部に刻目を付した隆線を１条巡らし、８の字状の貼付文を施す。胴部上半に沈線区画縄文帯で渦巻文を構成し、無文部と内面は研磨する。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

３は、胴部上半が外反する波状口縁の深鉢で、口唇部の内端が突出する。口縁部に刻目を付した隆線を１条巡らし、沈線で文様を構成する。内面は撫でる。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

4号土坑　堀之内１式

１は、頸部がくの字状に括れる深鉢である。頸部に２条の沈線を巡らし以下に縄文（ＬＲ）を伴う文様を施文する。頸部には刺突を伴う円形貼付文が付く。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は淡褐色である。

7号土坑　加曽利Ｅ３式

１は、深鉢で、口縁部に隆帯で渦巻文と楕円区画文を構成し、区画内を斜縄文（０段多条ＬＲ）で充填する。胴部には懸垂文を施し、内面を研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

２は、短冊形の打製石斧である。３は、凹石で表裏両面及び側面に凹みが確認される。

11号土坑

１は、深鉢の胴部片である。文様は胴部上半に沈線で菱形文を構成すると見られ、内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は淡褐色である。

12号土坑

１は、深鉢で、隆帯で曲線的な文様を施文する。胎土は砂粒を含み、焼成は普通で、色調は黄褐色である。

14号土坑　加曽利Ｅ３式

１は、口縁部が内湾する深鉢で、口唇部上面に平坦面を持つ。隆帯で渦巻文と楕円区画文を構成し、区画内を縄文（ＲＬ）で充填する。内面は研磨を施す。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

15号土坑　加曽利Ｅ４式

１は、口縁部が直立する深鉢で、口縁部は無文である。下に断面三角形の隆帯を巡らせ、同隆帯、懸垂文間に縄文（ＬＲ）を充填する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

２は、頸部くの字状の浅鉢か。内外面を研磨する。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

16号土坑　加曽利Ｅ３式

１は、深鉢の口縁部片で、沈線区間内に縄文（付加条第１種ＲＬ＋ＬＬ）を充填施文する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黒褐色である。

２は、口縁部が内湾する深鉢で、口縁部に隆帯で楕円区画文を施し、区画内を条線で充填する。内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

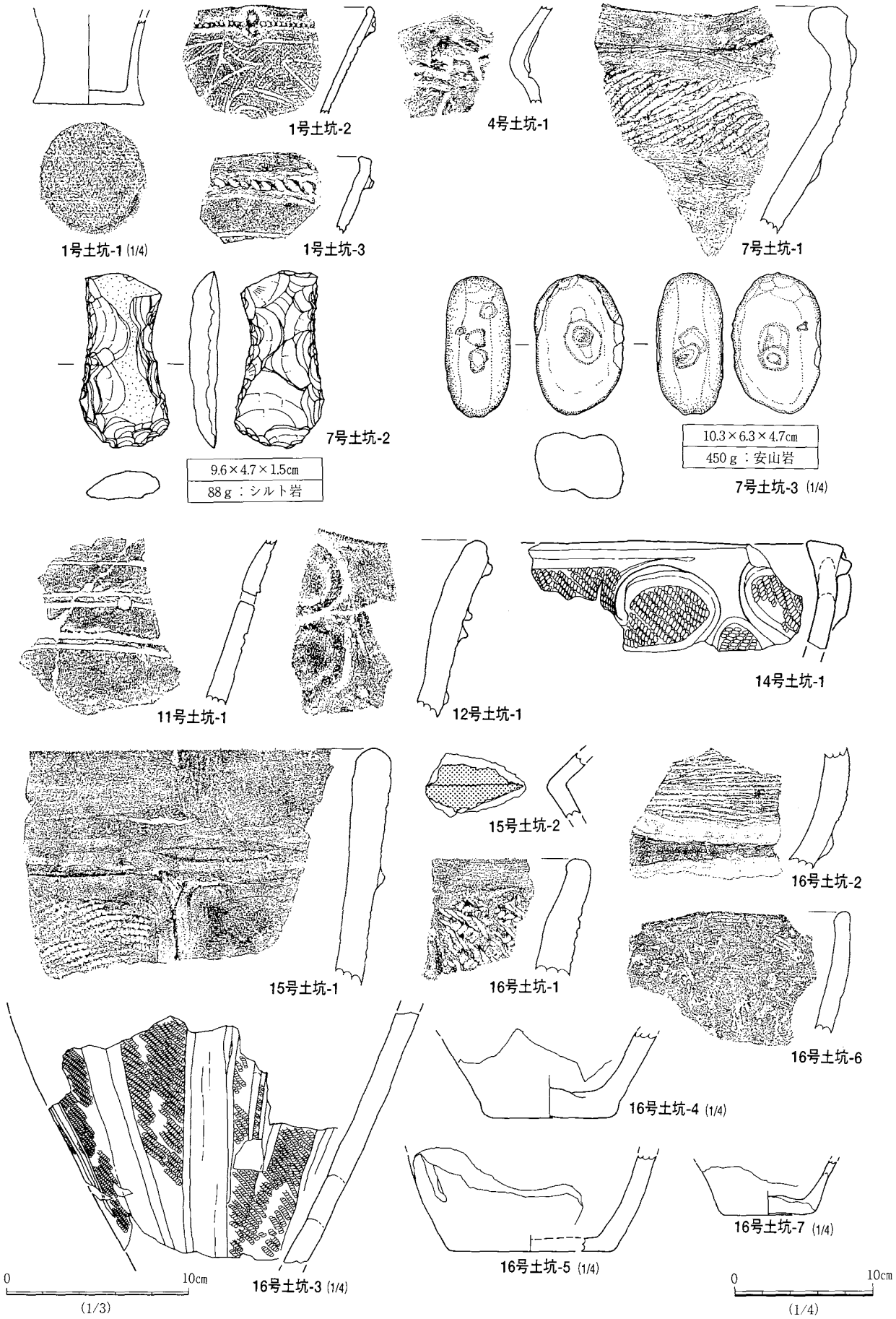
３は、深鉢の胴部下半片である。２条単位の低い隆帯や沈線による懸垂文間に、縄文（ＬＲ）を充填する。内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

４は、深鉢の底部片である。懸垂沈線間に縄文（ＬＲ）を充填施文する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黄褐色である。

５は、深鉢の底部片で懸垂沈線の一部が見える。胎土は砂粒を含み、焼成は普通で、色調は黄褐色である。

６は、深鉢で内外面共に器面調整が粗い。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は暗褐色である。

７は、深鉢の底部片である。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。



第212図　1・4・7・11・12・14～16号土坑出土遺物

18号土坑

1は、石皿の破片か。2は、凹石である。

19号土坑　加曽利Ｅ３式

1は、深鉢で口縁に山形の突起を付す。口縁部に隆帯で円形、楕円形の区画文を構成し、胴部は斜縄文を地文に太い沈線の懸垂文を施す。内面粗い研磨。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

25号土坑　諸磯式

1は、口縁部が外反する深鉢で、外面に斜縄文（ＲＬ）を施し、内面は研磨する。胎土は片岩・砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

2は、深鉢の胴部片で、外面に斜縄文（ＬＲ）を施す。内面は研磨する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

3・4・6は、凹石、5は、石皿の破片である。

27号土坑　堀之内２式

1は、深鉢で、口唇部内面の稜直下に隆線を施し、刺突を伴う円形の貼付文を付す。外面口縁部には斜めの刻みを施した隆線が巡り、8の字状の貼付文を付ける。胴部の文様は、弧状の描線を伴う帯縄文（ＬＲ）で構成され、無文部と内面は研磨が施される。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒色である。

2は、胴部が直線的に開く深鉢である。口唇部内面に稜線を施し、突出する小さな口唇部内端には、斜めの刻目を付す。外面口縁部には刻目を付した隆線を施して、文様は弧状区画を伴う帯縄文（ＬＲ）で構成し、無文部と内面は研磨を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

3は、胴部が直線的に開く深鉢である。口縁部には突起が付くものの欠損する。口縁部内面には帯縄文（反撚り縄文ＬＬ）と刺突で文様を構成する。外面口縁部には刻目を伴う隆線を施し、渦巻状の文様などが見られる。内面は研磨を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

4は、深鉢の底部片で、網代痕を残す。内外面に研磨が施される。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

5は、石錘の破片か。6は、石皿の破片、7は、磨石、8は、凹石である。

28号土坑　後期

1・2は、深鉢の口縁部片で、胴部上面に対弧文を伴う帯縄文（無節Ｌ）を数帯巡らす。無文部と内面は研磨される。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。2は、1と同一個体である。

3は、口縁部が直立する深鉢で、口縁部に指頭押圧を施した隆帯が1条巡る。口縁部外面と内面に研磨を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

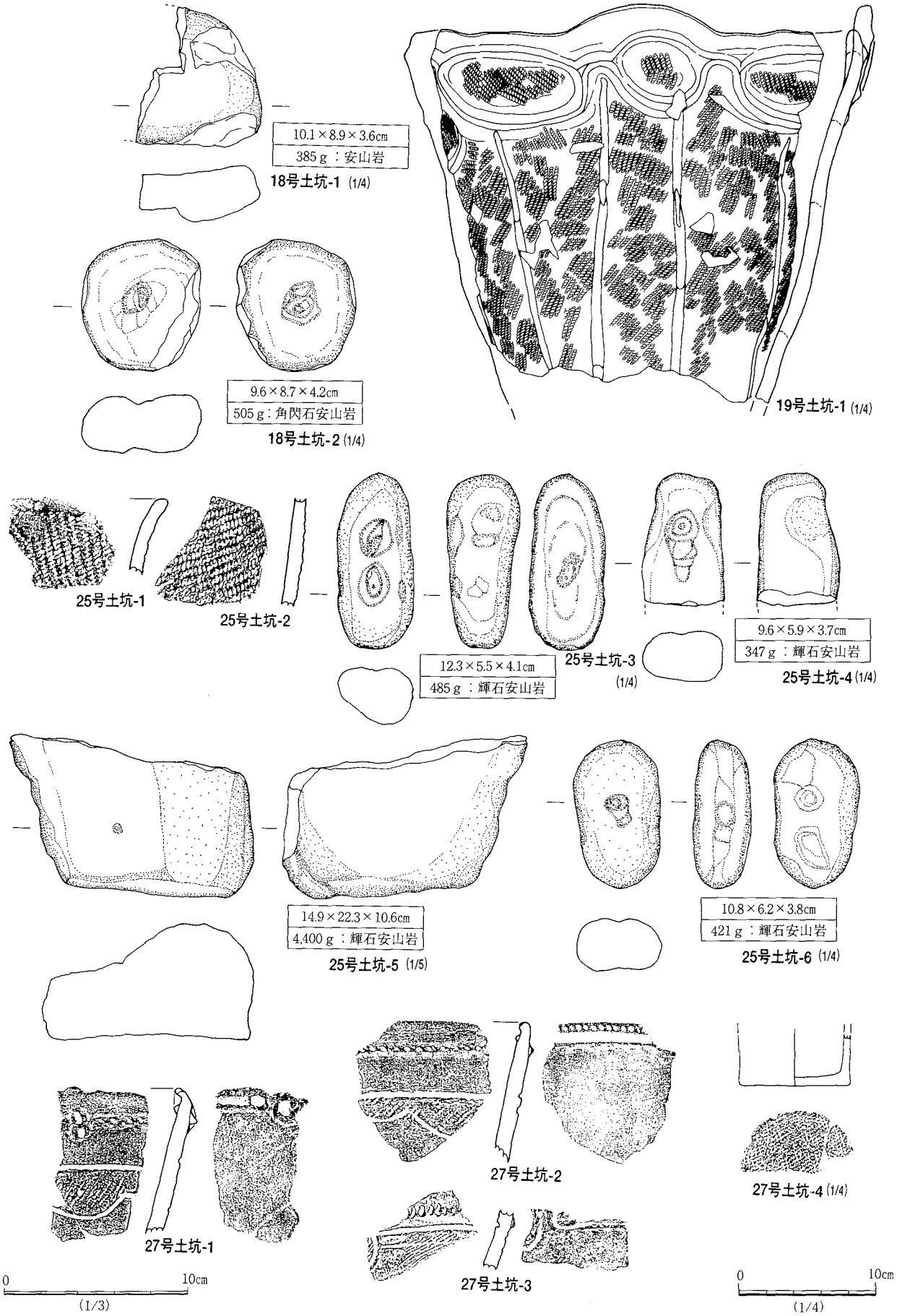
4は、胴部上半が直線的に開く深鉢で、口唇部内面に段を持つ。文様は、胴部上半に帯縄文（ＬＲ）と集合沈線で三角形・菱形を組み合わせた文様帯を構成する。内面は研磨を施す。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は淡褐色である。

5は、深鉢の口縁部片で、外面に粗い斜格子沈線を施す。内面に研磨を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は灰褐色である。

6は、深鉢の口縁部片で、内外面を粗く撫でる。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

7は、深鉢の底部片で、底部に網代痕を残す。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は淡褐色である。

8は、注口土器の注口部である。本体には沈線による文様が付く。注口部下端に粒状の貼付文が2個付き入念に研磨する。胎土は細砂粒を微量含み、焼成は良好で、色調は灰黒色である。



第213図　18・19・25・27号土坑出土遺物

29号土坑

1は、横形の石匙である。

30号土坑　堀之内2式

1は、口縁部が外反する深鉢である。口唇部に刻目を伴う縦位の隆線を施し、内面に刺突を伴う2条の沈線を施す。内外面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

2は、凹石で表裏両面及び側面に凹みが確認される。

34号土坑　諸磯a式

1は、頸部が括れ、口縁部が外反するミニチュア土器で、頸部に爪形文を横位に施文し、胴部と内面を研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は明褐色である。

35号土坑

1は、深鉢の胴部片である。斜縄文（ＲＬ）を地文に、2条単位の浮線文で文様を構成し、浮線文には斜位の刻目を付す。内面は軽く研磨される。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

2は、深鉢の口縁部片で、外面は無文化され、口唇部内面に沈線が巡る。内面に研磨を施す。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

36号土坑　黒浜式

1は、小形深鉢で、内外面に縦位の撫でを施す。胎土は繊維を含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である

2は、小形の深鉢で、内外面を撫でる。胎土は繊維を多量に含み、焼成は普通で、色調は暗褐色である。

3は、口縁部片で、内面は研磨される。胎土は繊維を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

4・5は、凹石である。

37号土坑　加曽利Ｂ1式

1は、胴部上半が外反する深鉢である。文様は帯縄文（ＬＲ）を構成し、帯縄文にはのの字状文が伴うと見られる。無文部と内面に研磨が施される。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は淡褐色である。

2は、深鉢の胴部片で、帯縄文（ＬＲ）を施し、無文部と内面に研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

3は、深鉢の口縁部片で、口縁部内面の段下に3条の沈線を施し、外面にも数条の沈線を施文する。内外面は研磨する。胎土は細砂粒を少量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

4は、浅鉢の口縁部片で、口縁部内面に数条の沈線を施し、その間を1本おきに斜位の刻目を施す。内外面は研磨する。胎土は細砂粒を少量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

5は、深鉢で、内外面に研磨を施す。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

6・7・8は、深鉢の底部片で、内面は研磨する。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

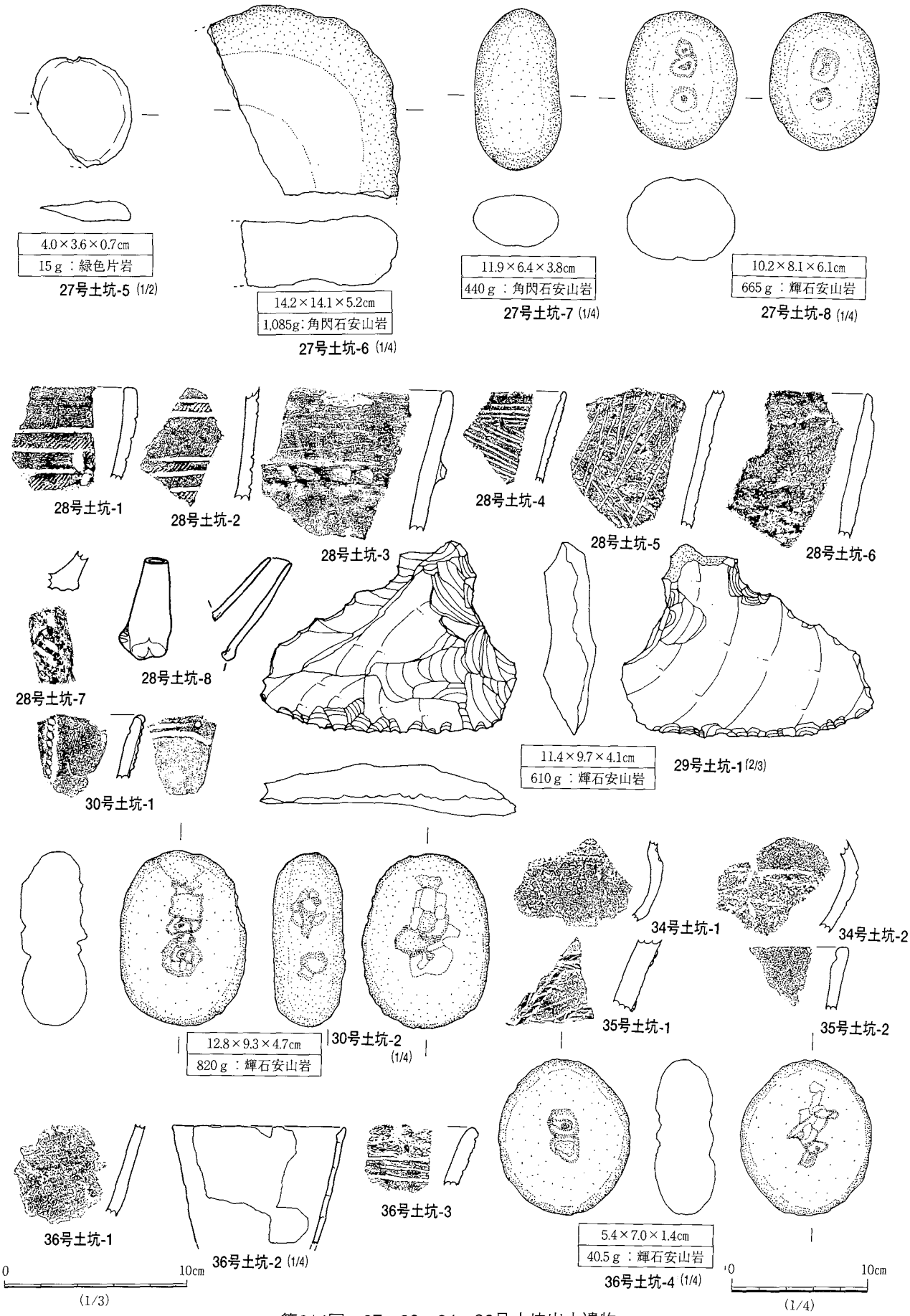
9は、石錘である。

39号土坑　堀之内1式

1は、胴部が膨らむ深鉢で、2本の沈線により区画文を構成し、区画内には縄文（ＬＲ）を充填する。沈線間に列点状刺突列を加え、内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

2は、波状口縁の深鉢で、外面に斜縄文（無節Ｌ）を施文し、内面は研磨する。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

3は、短冊形の打製石斧である。



第214図　27～30・34～36号土坑出土遺物

40号土坑　前期

1は、深鉢の胴部片で、斜縄文（ＬＲ）を地文に、条線で木の葉状の肋骨文を構成し、その上に円形刺突を施す。内面は研磨する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は淡褐色である。

2は、深鉢。外面に斜縄文（ＬＲ）を施文し、内面に研磨及び擦痕を残す。胎土は繊維を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

44号土坑　黒浜式

1は、深鉢の胴部片で、斜縄文（ＲＬ）にコンパス文を横位施文する。胎土は微細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は淡褐色である。

2は、小形石斧か、偏平で板状である。

45号土坑

1は、石皿である。

2は、凹石である。

47号土坑　後期

1は、壺形の土器か？。文様は肩部に帯縄文（ＬＲ）が巡り、無文部と内面は研磨する。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は灰褐色である。

48号土坑　後期

1は、深鉢の胴部片で、外面に横位の撫で、内面に研磨を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は暗褐色である。

49号土坑

1は、磨石である。

52号土坑

大形で石棒状の磨製石斧である。

55号土坑　黒浜式

1は、深鉢の胴部片である。外面に羽状縄文（ＲＬ・ＬＲ）を施文し、内面を撫でる。胎土は細砂粒を多量、繊維を少量含み、焼成は良好で、色調は明褐色である。

2は、深鉢の胴部片である。外面に菱形羽状縄文（ＲＬ・ＬＲ）を施文し、内面を撫でる。胎土は繊維を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

3は、深鉢の胴部片である。外面に斜縄文（無節Ｌ）を施文し、内面を研磨する。胎土は繊維を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

56号土坑　諸磯ａ式

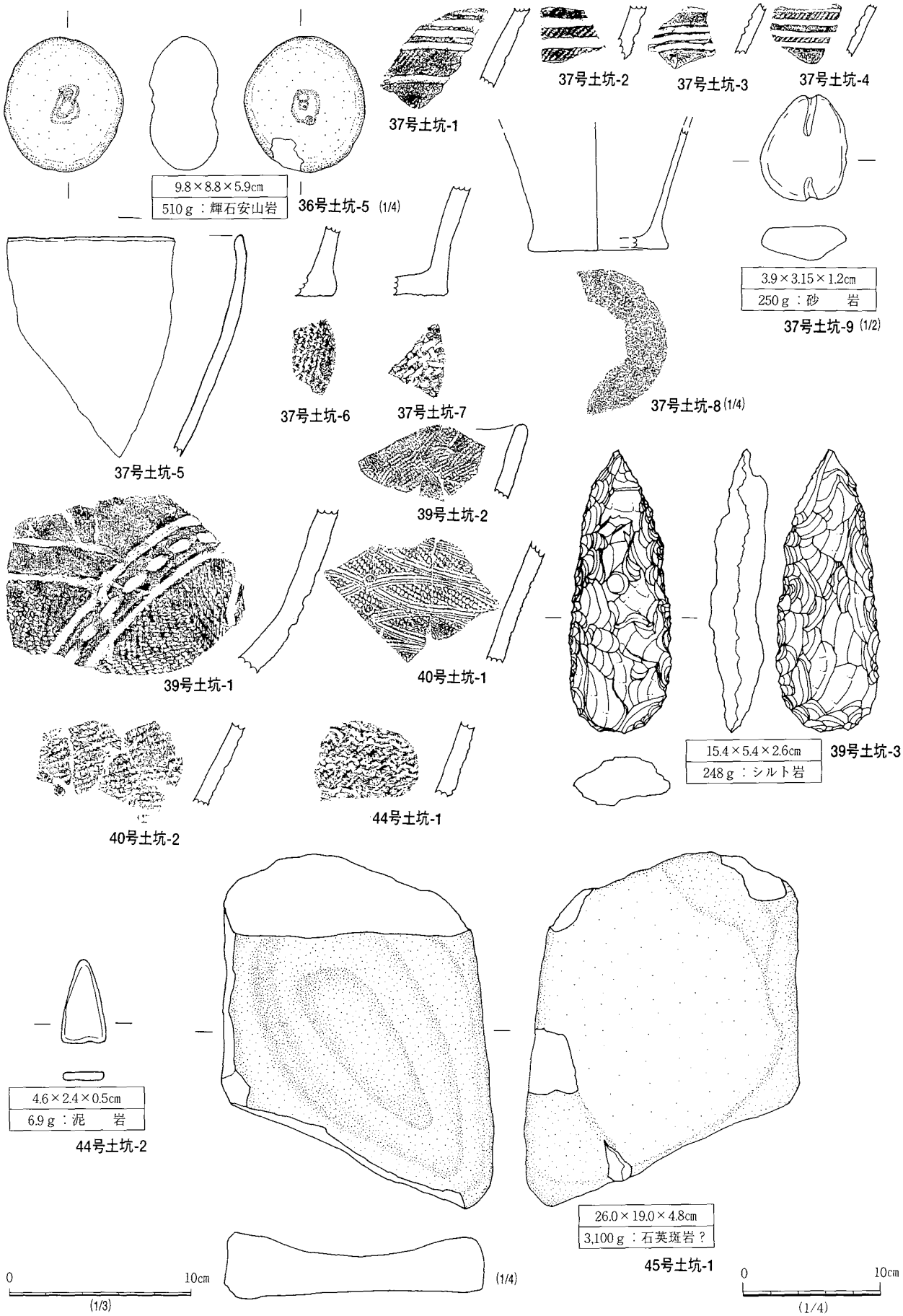
1は、深鉢の胴部片で、斜縄文（無節Ｌ）を地文に爪形文で文様を構成する。内面は研磨する。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黄白色である。

58号土坑　諸磯ｂ式

1は、深鉢の胴部で、内面は研磨する。胎土は砂粒を含み、焼成は普通で、色調は黄褐色である。

2は、口縁部がくの字状に内折する深鉢で、斜縄文（ＬＲ）を地文に浮線文で文様を構成する。浮線文には斜位の刻目を付し、内面は研磨する。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

3は、深鉢の胴部片で、外面に斜縄文（ＲＬ）を施文し、内面に軽い研磨を施す。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。



第215図　36・37・39・40・44・45号土坑出土遺物

61号土坑　後期

1は、深鉢の胴部片で、帯縄文（無節L）で文様を構成し、無文部と内面を研磨する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

65号土坑

1は、口縁部片で、外面に爪形文を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

2は、口縁部片で、沈線により縄文を区画する。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

3は、石錘で、上下2ケ所に切れ目が確認される。

66号土坑　諸磯b式

1は、深鉢の胴部片で、口縁部は肥厚する。文様は爪形文で構成し、内面を研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

2は、深鉢の胴部片で、外面に斜縄文（無節R）を施文し、内面を撫でる。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。3は、石器である。

67号土坑　前期

1は、深鉢の胴部片で、外面に斜縄文（RL）を施文し、内面を撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

2は、深鉢の胴部片で、結束縄文（結節第1種）を縦位に施文し、内面を撫でる。胎土は片岩・砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は明暗褐色である。

70号土坑　諸磯b式

1は、深鉢の胴部片である。文様は2条単位の爪形文で構成し、内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

71号土坑　堀之内式

1は、胴部上半が外傾する深鉢で、口唇部は内折する。文様は刻目が付く隆線を施し、上半に帯縄文（LR）で構成する。内面は研磨を施す。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黄褐色である。

2は、深鉢の胴部片で、沈線と帯縄文（LR）で渦巻文を描く。無文部と内面は研磨する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

3は、深鉢の胴部から底部片である。外面に斜縄文（LR）を施文後研磨を施す。内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

4は、深鉢の胴部片で、沈線区画内に縄文（LR）を充填し、内面を研磨する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

73号土坑　阿玉台式

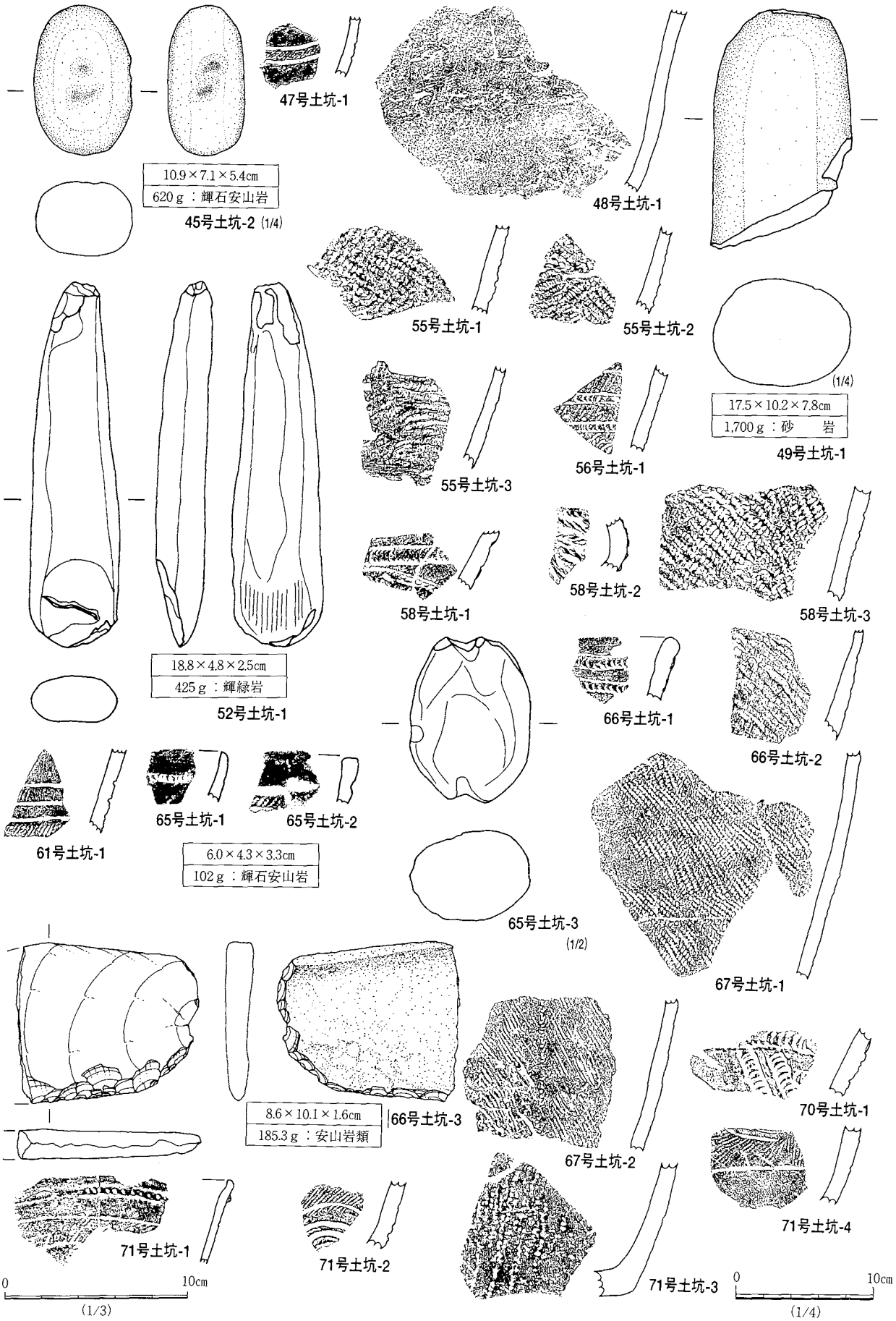
1・2は、深鉢の胴部片である。1は、口縁部近くの破片で、隆帯で区画文を構成する。胎土は砂粒・雲母を多量に含み、焼成は良好で、色調は茶褐色から黒褐色である。

2は、断面三角形の隆帯で帯状の区画文を構成し、隆帯に沿って平行沈線を施す。内面は撫でる。胎土は砂粒・雲母を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

74号土坑　後期

1は、波状口縁の深鉢で、内外面に研磨を施す。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

2は、口唇部が内折する深鉢で、口縁部に斜めの刻目を付した隆帯が巡る。内外面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。



第216図　45・47～49・52・55・56・58・61・65～67・70・71号土坑出土遺物

77号土坑

1は、凹石である。

78号土坑　堀之内1式

1は、口縁部がくの字状に内折する深鉢で、外面に撫で、内面に軽い研磨を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

79号土坑

1は、口縁部上半がくの字状に外傾する深鉢で、口縁部に隆帯で区画文を構成し、区画内に1本単位の押印文で文様を施す。内面は撫でる。胎土は雲母・砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

2は、口縁部が内湾し、上半がくの字状に外傾する深鉢で、口唇部外端の肥厚部に列点状の刺突を施す。口縁部に隆帯で区画文を構成し、区画内に鋸歯状沈線を2条施す。区画隆帯の内側は1列の押印文で縁取る。胎土は雲母・砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は淡褐色である。

80号土坑

1は、胴部上半に最大径を持ち、頸部が括れくの字状に外反する4単位波状口縁部の深鉢である。口縁部には刻目と円形刺突を施した環状の把手を付し、口縁部、頸部、胴部を隆帯で区画して内面に結節沈線と円形刺突を施す。頸部と胴部の間には、刻目を付した環状把手を4個付設する。内面は撫でる。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

2は、短冊形の打製石斧。3は、磨製石斧である。

82号土坑　後期

1は、注口土器片で、帯縄文（ＬＲ）を施す。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

2は、1と同一個体である。

83号土坑　後期

1は、口縁部が内湾する深鉢で、口唇部上面に斜位の刻目が付く。口縁部に斜位の刻目が伴う2本の沈線を巡らし、Ｃ字状の貼付文を施す。胴部にも沈線を巡らし、貼付文下にＳ字連鎖文を施す。内外面を入念に研磨する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は灰黒褐色である。

2は、深鉢で、口縁部に指頭で刻目を施した隆線を3条巡らせ、円形刺突を3個施す。口縁部内面に沈線が2条巡る。内面は研磨する。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

3は、深鉢の胴部片で、縄文帯（ＬＲ）で文様を構成し、内面を研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

4は、底部で、網代痕を残し。内外面を研磨する。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

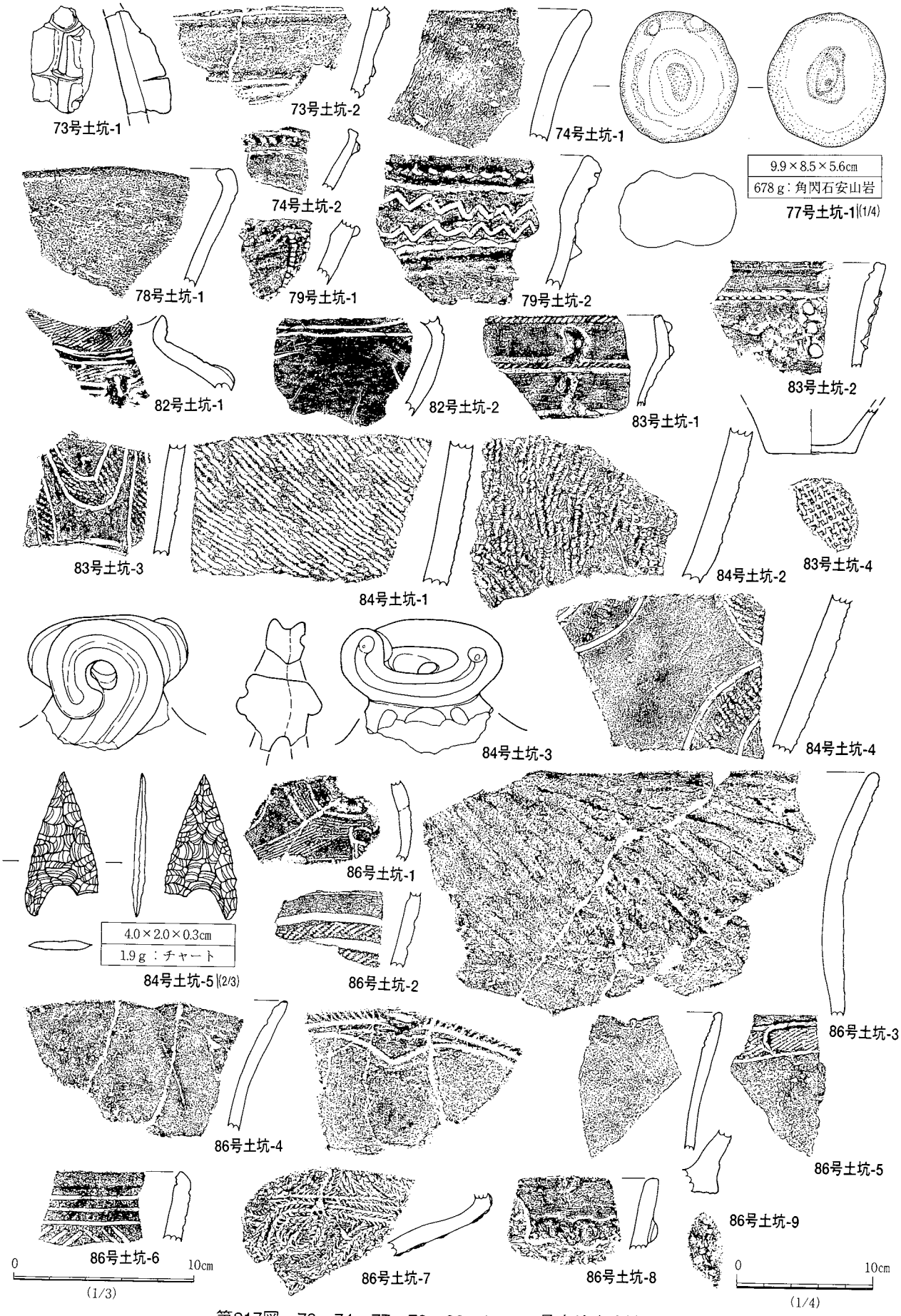
84号土坑　称名寺Ⅰ式

1は、深鉢の胴部片である。外面に縦位施文の斜縄文（無節Ｌ）を施し、内面は粗い研磨を施す。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

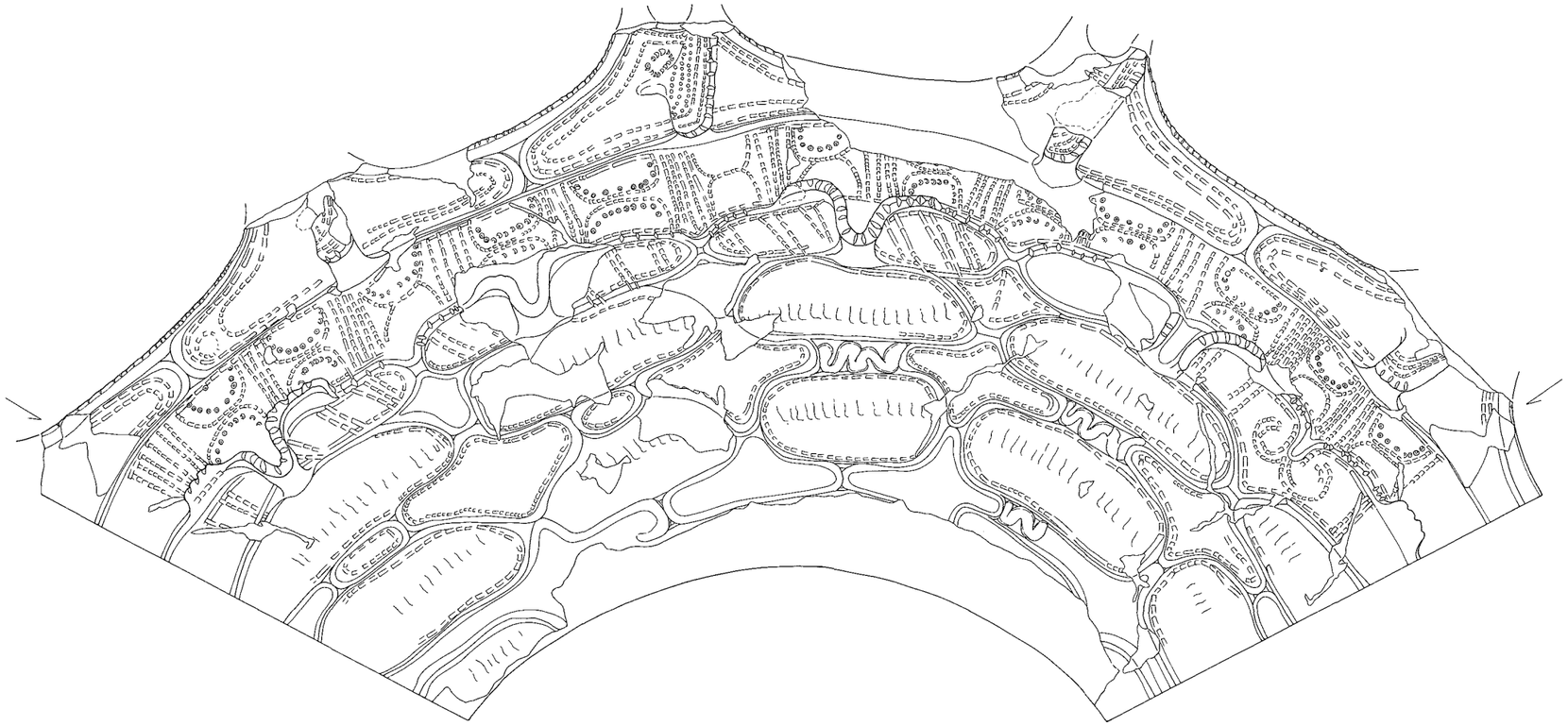
2は、深鉢の胴部片である。外面に縦位施文の斜縄文（前々段反撚りＲＬＬ）を施し、内面は粗く研磨する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

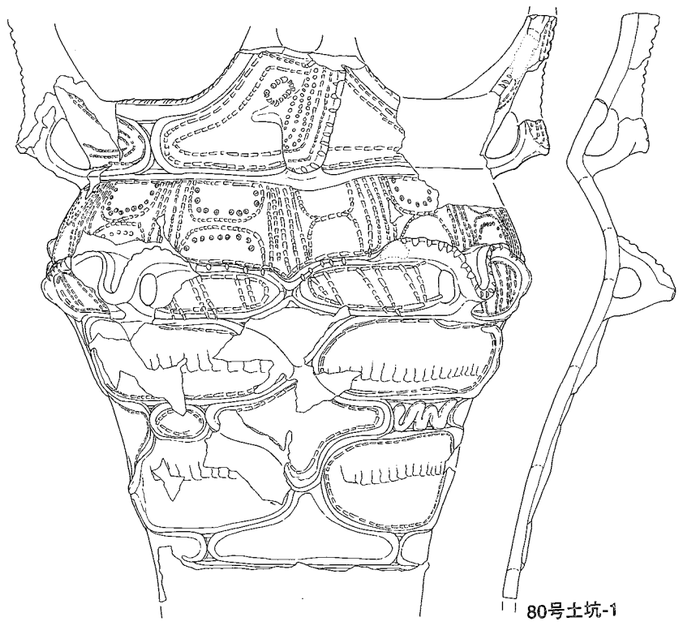
3は、深鉢の把手で、外面にＳ字状、内面にＣ字状の沈線を施し、沈線端部には刺突が伴う。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

4は、深鉢の胴部片である。帯縄文（ＬＲ）で曲線的な文様を構成し、内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。5は、無茎石鏃である。



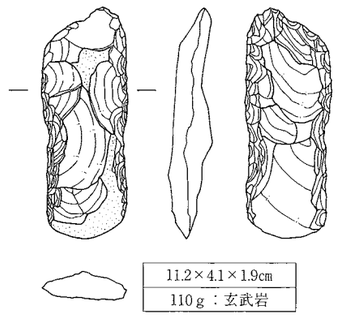
第217図　73・74・77～79・82～84・86号土坑出土遺物





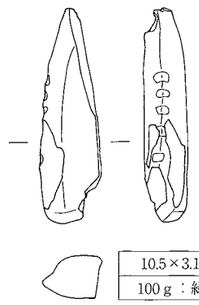
80号土坑-1

0 10cm
(1/4)



11.2×4.1×1.9cm
110g：玄武岩

80号土坑-2



10.5×3.1×2.1cm
100g：緑色片岩

80号土坑-3

0 10cm
(1/3)

第218図　80号土坑出土遺物

86号土坑　後期

1は、注口土器の胴部片で、条線で文様を構成し、注口部下に沈線でのの字状文を施す。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黒褐色である。

2は、深鉢の胴部片で、縄文帯（ＬＲ）を施し、無文部と内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は淡褐色である。

3は、口縁部が外反する深鉢で、胴部上半に指頭による斜位の撫でを施し。内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

4は、口縁部が外反する鉢で、口縁には沈線を伴う窪みを付し、口唇部の内端には斜位の刻目を付す。外面は無文で、口縁部内面に2本の沈線を施し、下方の1本は口縁窪み部下でＶ字状となる。内外面に軽い研磨を施す。胎土は片岩・砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黄褐色である。

5は、口縁部が外反する波状口縁の深鉢で、外面は無文とし、口縁部の内面に帯縄文（ＬＲ）を施す。外面には撫での痕跡が確認され、内面は軽い研磨を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は淡褐色である。

6は、深鉢の口縁部片で、内折する口唇部の内端に沈線が1条巡る。文様は胴部上半に3本単位の沈線で菱形文を構成し、内面は研磨の痕跡が確認される。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は淡褐色である。

7は、口縁部がくの字状に内折する波状口縁部の深鉢である。文様は斜縄文（ＲＬ）を地文に3本単位の浮線文で波頂部に渦巻文を構成し、沈線間には斜位の刻目を付け、浮線間には刺突を施す。内面は研磨する。胎土は片岩・砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

8は、口縁部が直立する深鉢で、口縁部に指頭で刻目を施した隆帯が巡る。内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

9は、深鉢の底部片である。底面に網代痕を残し、内外面に粗い調整を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は淡褐色である。

10は、大形の石匙である。

91号土坑　堀之内2式

1は、口縁部が弱く外反する深鉢で、口唇部は内折する。口縁部に帯縄文（ＬＲ）を施し、内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

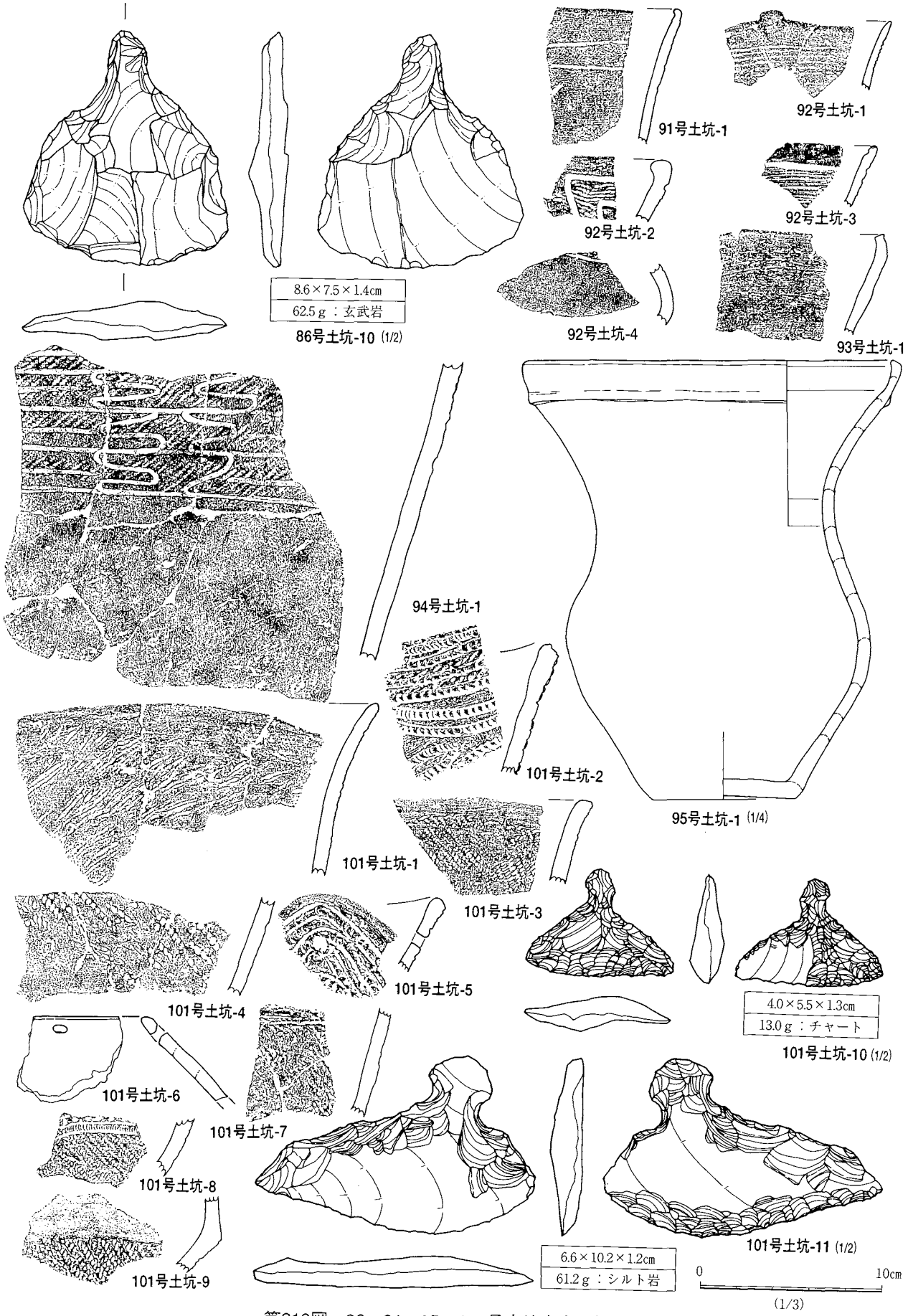
92号土坑　後期

1は、胴部上半が外反する小形の深鉢で、口唇部の内端がやや突出する。口縁部には2個の刺突を施した小突起を付し、胴部上半に、6本の沈線帯を施す。内外面は研磨する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黒色である。

2は、口縁部が外傾する深鉢で、口唇部の内端が突出する。帯縄文（無節Ｌ）で文様を構成し、内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は明褐色である。

3は、深鉢の口縁部片で、口唇部上面に刻目が付き、内面には沈線が巡る。文様は沈線区画内に条線を充填した帯縄文を施す。無文部と内面は研磨する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は普通で、色調は灰白色である。

4は、胴部が膨らむ鉢？か。胴部上半に帯縄文（ＬＲ）を施す。無文部は研磨で光沢があり、内面は粗い撫でが確認される。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は灰黒色である。



第219図　86・91～95・101号土坑出土遺物

93号土坑　後期

1は、口縁部が弱く内湾する鉢？か。胴部に横位の削り痕を残し、口縁部と内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は淡褐色である。

94号土坑　加曽利Ｂ１式

1は、大形の深鉢で、胴部上半に、幅広の帯縄文（ＬＲ）を施す。区画内には、等間隔に横沈線を施文し、その間を蛇行沈線で連結する。無文部と内面は研磨を施す。胎土は片岩・砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

95号土坑　称名寺式

1は、胴部中位が強く括れる深鉢で、口縁部に隆帯が1条巡る。口縁から胴上半部と内面に軽い研磨を施す。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

101号土坑　諸磯ｂ式

1は、口縁部が外反する深鉢で、外面に斜縄文（無節Ｌ）を施し、内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

2は、口縁部がくの字に内折する波状口縁の深鉢で、口唇部上面に斜位の刻目を付す。文様は爪形文で施し、口縁部の3条間のみに斜位の刻目を付して、内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

3は、口縁部が外反する深鉢で、外面に斜縄文（ＲＬ）を施し、内面は研磨する。胎土は片岩・砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

4は、深鉢の胴部片で、外面に斜縄文（ＲＬ）を施文し、内面は研磨する。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

5は、波状口縁の深鉢で、波頂下口縁に円孔を付す。文様は2～3条単位の爪形文で構成し、内面は研磨する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

6は、算盤玉状の有孔浅鉢である。口縁部外面に隆線状の肥厚部が見られ、内外面は研磨する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

7は、小形の深鉢で、胴部上半に爪形文、下半に斜縄文（無節Ｒ）を施し、内面は撫でる。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

8は、浅鉢の胴部片で、胴部上半に爪形文で文様を構成し下半に斜縄文（ＲＬ）を施す。爪形文間には刺突状の刻目を付し、内面に黒色漆の塗彩が残る。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

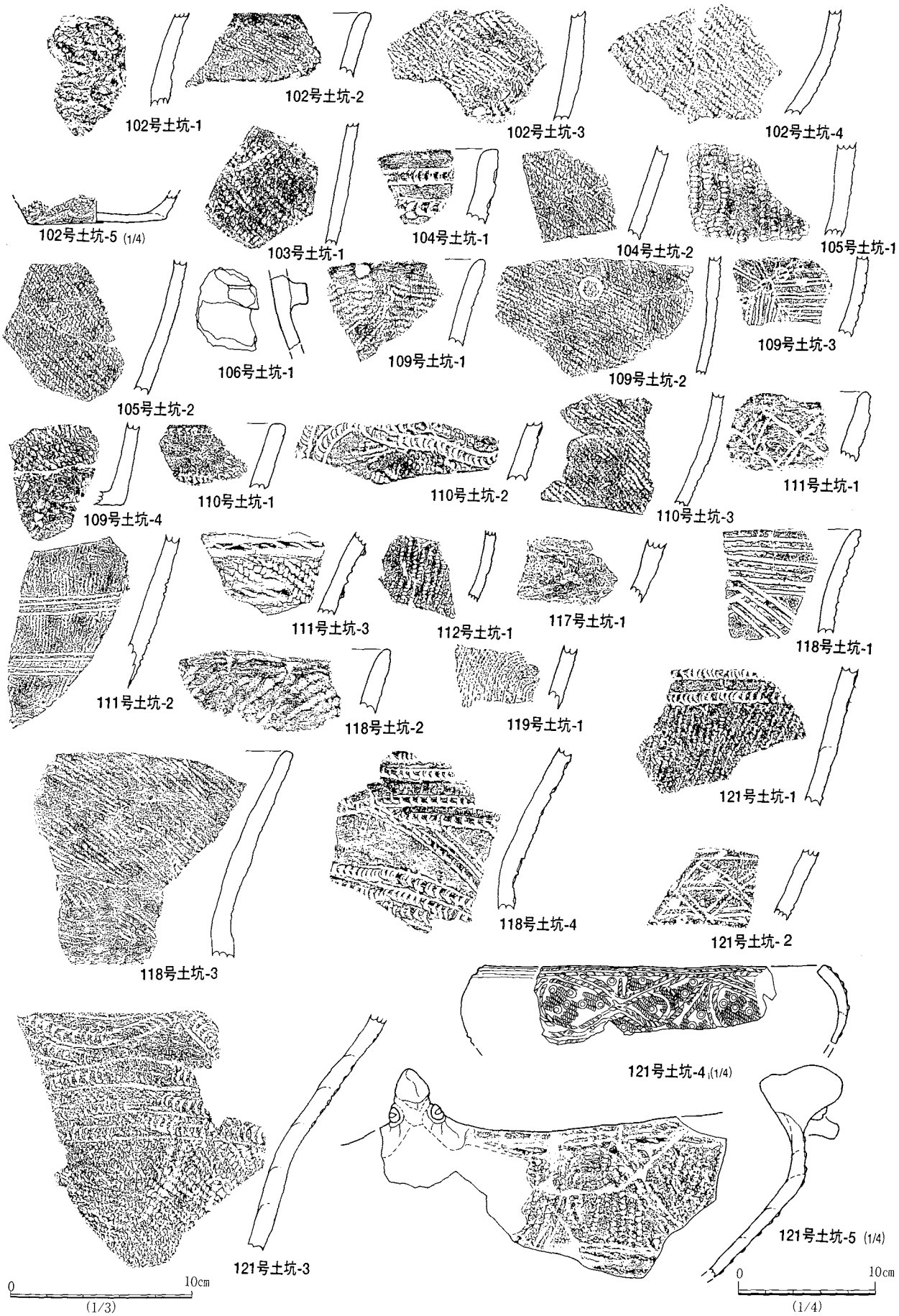
9は、胴部がくの字状に折れる浅鉢で、屈曲部以下に斜縄文（ＲＬ）を施し、無文部と内面は研磨する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は淡褐色である。

102号土坑　前期

1・3・4は、深鉢の胴部片、2は、口縁部片、5は、底部片である。1は、外面に斜縄文（無節Ｌ）を施し、内面は撫でる。胎土は繊維を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

2・3は、外面に斜縄文（ＲＬ）を施し、内面は研磨する。両者共に胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は2が黄褐色、3が黒褐色である。

4・5は、外面に斜縄文（ＲＬ）を施し、内面は撫でる。両者共に胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は褐色である。



第220図　102～106・109～112・117～119・121号土坑出土遺物

103号土坑　諸磯式

1は、深鉢の胴部片で、外面に斜縄文（ＲＬ）を施す。内面は撫で及び調整時の条線が残る。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄白色である。

104号土坑　前期

1は、深鉢の口縁部片で、口唇部は内削ぎ状である。文様は口縁部に爪形文を２～３条巡らし、内面は撫でる。胎土は繊維を多量に含み、焼成は普通で、色調は淡褐色である。

2は、深鉢の胴部片で、外面に斜縄文（ＲＬ）を施し、内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

105号土坑　前期

1・2は、深鉢の胴部片で、外面に斜縄文（ＲＬ）を施し、内面は撫でる。2は研磨。1は、胎土に片岩・繊維を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。2は、胎土に細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

106号土坑　阿玉台式

1は、深鉢の胴部片で、内面を撫でる。胎土は雲母・砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

109号土坑　諸磯ａ式

1は、波状口縁の深鉢で、波頂部口縁に刻目を施す。外面は斜縄文（ＲＬ）を施文し、内面は研磨する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

2は、深鉢の胴部片で、外面に斜縄文（ＲＬ）を施す。胴部上半に縦位の円形刺突列を施文し、原体端部の結び紐が見える。内面は研磨を施す。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

3は、深鉢の胴部片である。文様は平行沈線で菱形文を構成し、縦位区画線上に円形刺突列を施す。内面は研磨する。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は灰褐色である。

4は、深鉢の胴部から底部片である。外面に斜縄文（ＲＬ）を施し、内面は撫でる。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は灰褐色である。

110号土坑　前期

1は、深鉢の口縁部片で、口縁部に間隔をおいて爪形文を施し、内面は研磨する。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は灰褐色である。

2は、深鉢の胴部片で、斜縄文（ＲＬ）を地文に爪形文で文様を構成し、内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

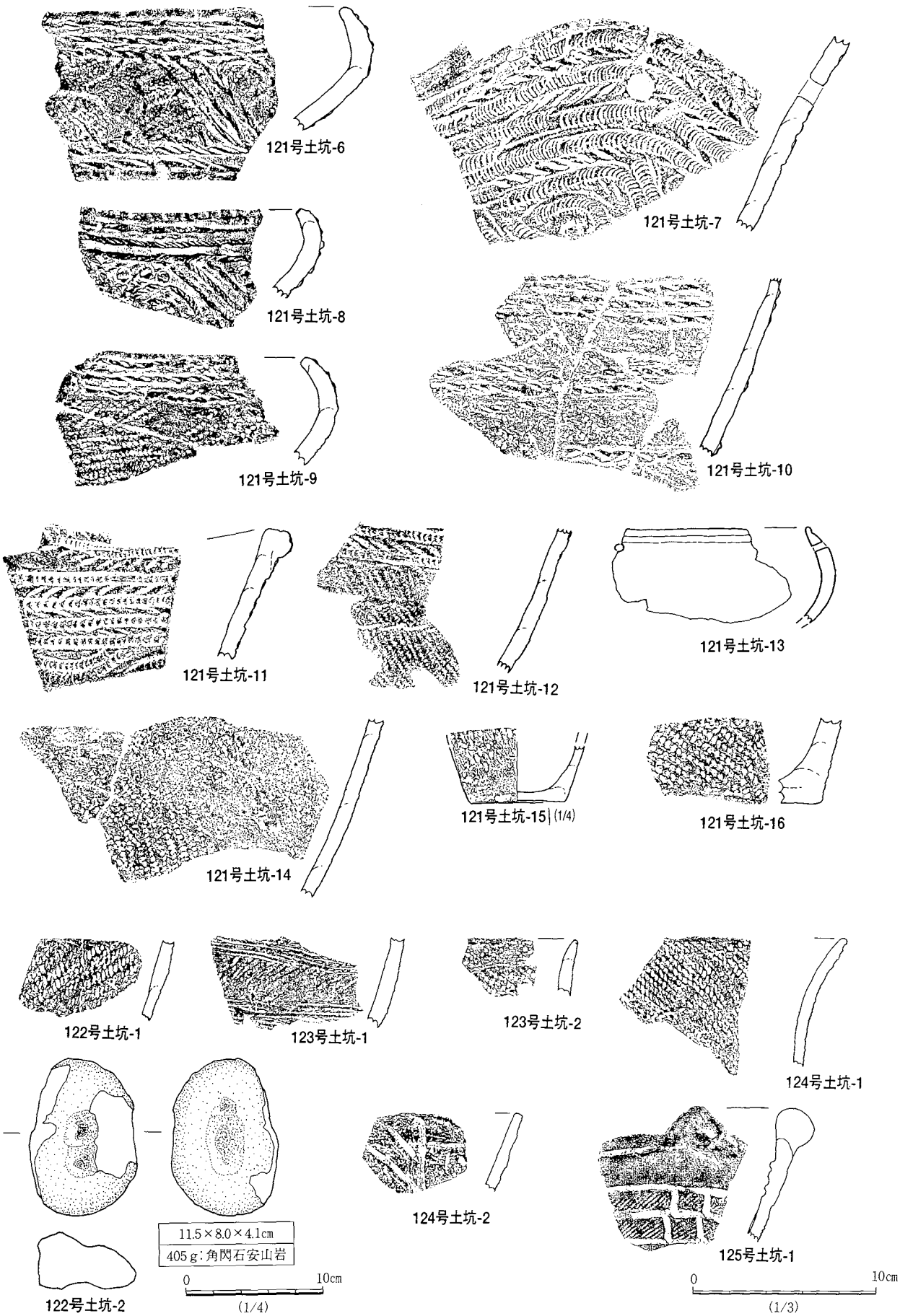
3は、深鉢の胴部片で、外面に斜縄文（ＲＬ）を施し、内面は研磨する。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は淡褐色である。

111号土坑　前期

1は、深鉢の口縁部片で、斜縄文（無節Ｌ）を地文に斜格子沈線を施し、内面は研磨する。胎土は繊維を多量に含み、焼成は良好で、色調は灰褐色である。

2は、深鉢の胴部片で、斜縄文（無節Ｌ）を地文に、２条単位の平行沈線を帯状に間隔をおいて施文し、内面は撫でる。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は淡褐色である。

3は、深鉢の胴部片で、斜縄文（ＲＬ）を地文に、２～３条単位の浮線文を帯状に間隔をおいて施文し、内面は研磨する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。



第221図　121～125号土坑出土遺物

112号土坑　諸磯式

1は、深鉢の胴部片で、外面に斜縄文（ＲＬ）を施し、内面は撫でる。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

117号土坑　黒浜式

1は、深鉢の胴部片で、外面に斜縄文（無節Ｒ）を施し、内面は撫でる。胎土は繊維を多量に含み、焼成は良好で、色調は灰褐色である。

118号土坑　黒浜式

1は、口縁部が外反する深鉢で、文様は胴部上半に2～3条の平行沈線で菱形文を構成すると見られ、内面は研磨する。胎土は繊維を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

2は、深鉢の口縁部片で、外面に斜縄文（無節Ｌ）を施し、内面は撫でる。胎土は繊維を多量に含み、焼成は普通で、色調は黒褐色である。

3は、口縁部が外反する深鉢で、外面に斜縄文（無節Ｒ）を施し、内面は撫でる。胎土は繊維を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

4．深鉢の胴部片で、文様は胴部上半に2～3条単位の爪形文で菱形文を構成し、内面は撫でる。胎土は片岩・繊維を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

119号土坑　諸磯ｂ式

1は、深鉢の胴部片で、斜縄文（ＲＬ）を地文に、集合沈線で渦巻文を施す。内面は撫でる。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

121号土坑　前期

1は、胴部上半が外に開く深鉢で、文様は胴部下半は地文（ＬＲ）のみで、上半に爪形文を施す。胎土は細砂粒を含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

2は、口縁部に向かって直線的に開く深鉢で、平行沈線で菱形文及び三角文を構成し、間に円形刺突を施す。胎土は細砂粒を含み、焼成は不良で、色調はにぶい橙色である。

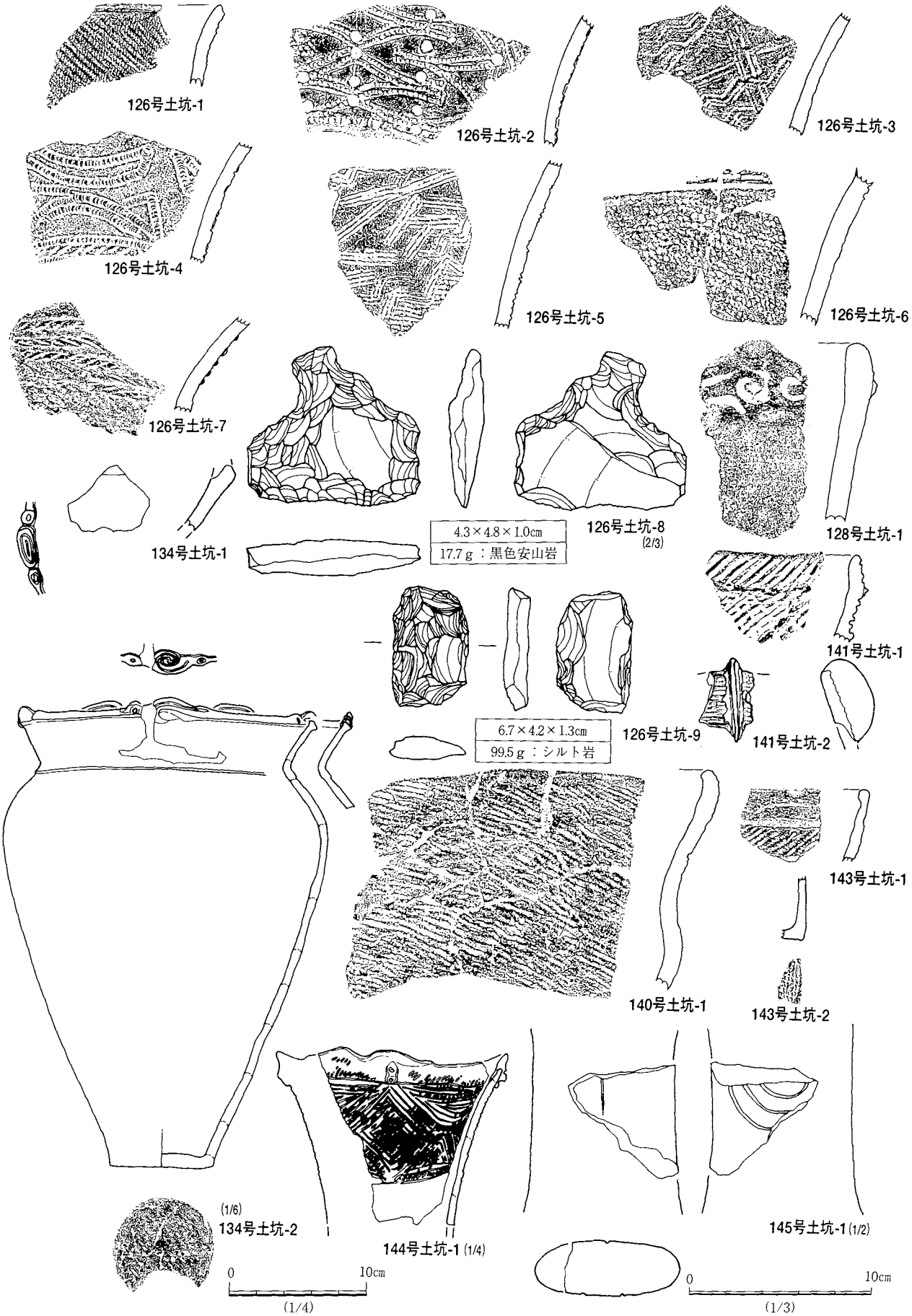
3は、胴部上半が直線的に開く深鉢で、文様は幅広の爪形文を3条横位に巡らし、更に上位に1条の爪形文を鋸歯状に施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

4は、口縁部が内湾する深鉢で、斜縄文（ＲＬ）を地文に、2条単位の浮線文でリボン状のモチーフを構成し、空白部に円形刺突を充填する。浮線文には斜位の刻目を付し、内面は撫でる。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

5は、口縁部が強く内湾する深鉢で、口縁部に4個の突起を付すと思われる。文様は縄文（ＲＬ）を地文に、粗い刻みを施した浮線文で平行、及び渦巻状の文様を構成する。胎土は砂粒を含み、焼成は不良で、色調は暗褐色である。

6は、口縁部が強く内湾する深鉢である。文様は縄文（ＲＬ）が地文で、口縁部と胴の括れ部に2～3本の刻みを施した浮線文を巡らし、間に浮線文で左巻の渦巻文を施す。胎土は砂粒を含み、焼成は普通で、色調は暗褐色である。

7は、波状口縁の深鉢で、口縁部は外面が肥厚する。文様は、波状口縁に沿う形で平行沈線を4本巡らし、更に下部には菱形文と三角文を使って構成する。平行沈線間は爪形文と斜位の刻目を充填施文し、菱形文中には円形刺突を、口縁部中央に1個の円孔をそれぞれ施す。胎土は片岩を含み、焼成は良好で、色調は褐色である。



第222図　126・128・134・140・141・143～145号土坑出土遺物

8は、口縁部が強く内湾する深鉢である。文様は斜位の条線が地文で、口縁部に沿って3本の刻みを施した浮線文を巡らし、下位に曲線的に浮線文と円形刺突を施す。口唇部には等間隔で竹管の押圧を施す。胎土は砂粒を含み、焼成は普通で、色調は暗褐色である。

9は、口縁部が強く内湾する深鉢で、4単位の小突起を持つと思われる。文様は縄文（ＲＬ）を地文とし、口縁部に沿って3本の刻みを施した浮線文が巡る。胎土は砂粒・片岩を多量に含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

10は、大形の深鉢で、縄文（ＲＬ）を地文に斜位及び山形に粗い刻みを施した3本単位の浮線文を横位に巡らす。胎土は砂粒を含み、焼成は普通で、色調は褐色である。

11は、波状口縁の深鉢で、波頂間に小突起を持つ。小突起部から口唇部に爪形文を1条施し、更に両側に粗い刻みを施す。胴部上半は爪形文で、平行及び曲線的な文様を構成する。胎土は砂粒を含み、焼成は不良で、色調は褐色である。

12は、胴部下半に僅かな張りを持つ深鉢で、文様は縄文（ＲＬ）を地文に、胴中位に爪形文と粗い斜位の刻目を交互に施す。胎土は砂粒を含み、焼成は普通で、色調は褐色である。

13は、胴部上半に強い張りを持ち、口縁部が短く直立する浅鉢である。内外面に比較的丁寧な撫で、口縁部外面に凹線を施す。胎土は片岩を多量に含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

14は、深鉢の胴部片で、胴部に粗い縄文（ＲＬ）施文する。胎土は砂粒を含み、焼成は普通で、色調は褐色である。

15. 深鉢の底部片である。縄文（ＲＬ）は極めて粗い施文で、外面は特に摩滅する。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調はにぶい橙色である。

16. 深鉢の底部片で、縄文（ＲＬ）は横位に施文する。胎土は砂粒を含み、焼成は普通で、色調はにぶい橙色である。

122号土坑　諸磯式

1は、深鉢の胴部片で、縄文（ＬＲ）を横位に施文する。胎土は細砂粒を含み、焼成は良好で、色調はにぶい橙色である。

2は、凹石で、表裏両面に凹みが確認される。

123号土坑　諸磯式

1は、深鉢の胴部片で、横位施文の縄文（ＬＲ）を地文とし半截竹管の集合沈線を横位に巡らす。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

2は、深鉢で、縄文（ＲＬ）を横位に施文する。胎土は細砂粒を含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

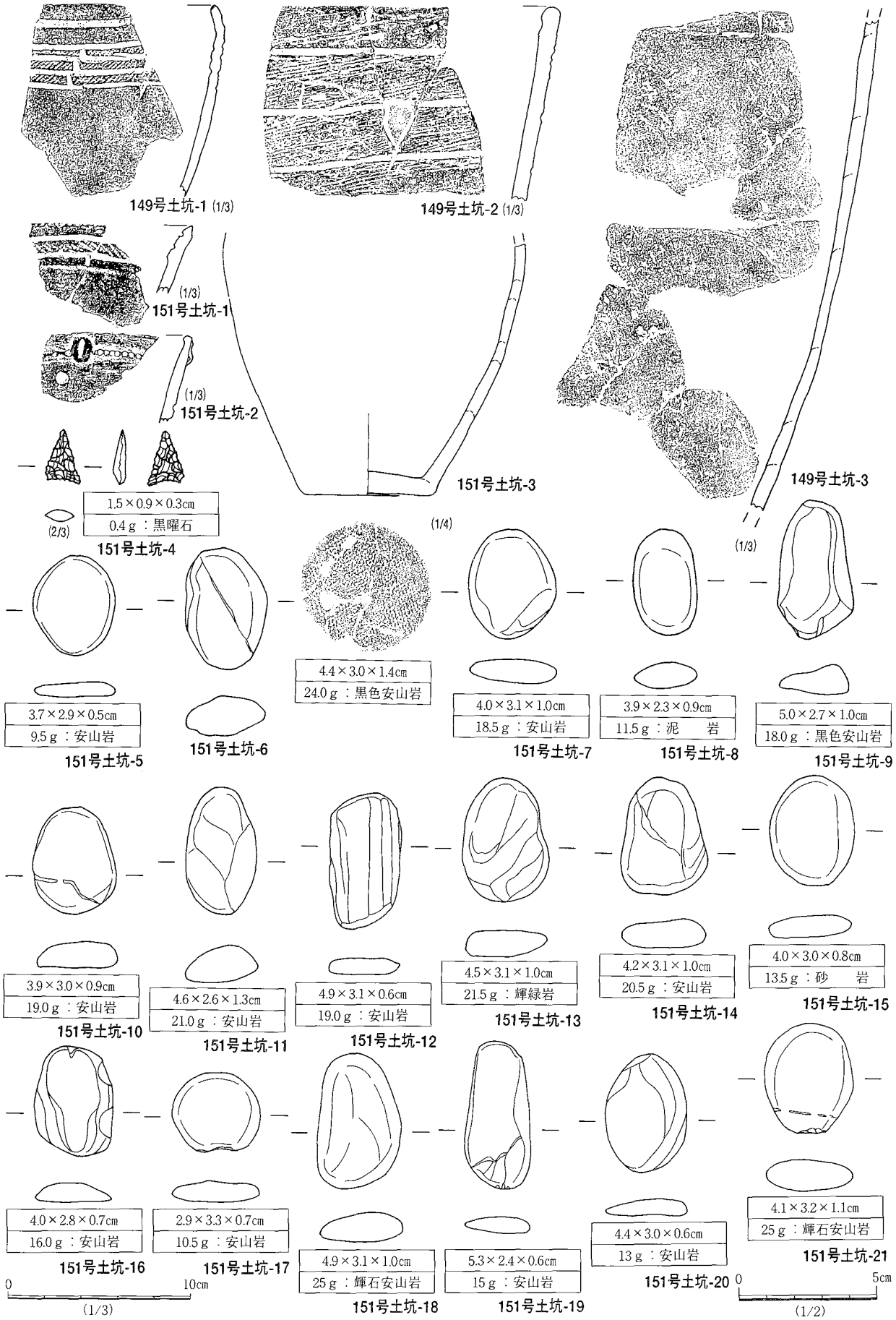
124号土坑　諸磯式

1は、口縁部が僅かに外に開く深鉢である。文様は外面全面にシャープに縄文（ＲＬ）を施文し、内面に撫でを施す。胎土は細砂粒を含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

2は、粗製の深鉢で、外面に縦位及び斜位の粗い沈線を施す。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

125号土坑　加曽利Ｂ１式

1は、口縁部が僅かに内折する深鉢で、巻貝状と瘤状の突起を付す。口唇部の上面に斜位の刻目を付け、口縁部外面に1条、内面に3条の沈線を巡らす。胴部上半に帯縄文（ＬＲ）を施し、突起下で沈線間を階段状に刻む。無文部と内面は研磨する。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。



第223図　149・151号土坑出土遺物

126号土坑　諸磯式

1は、口縁部が外反する深鉢で、外面に斜縄文（ＲＬ）を施し、内面は研磨する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

2は、胴部上半が外反する深鉢で、胴部上半に縦位平行沈線を基準に、爪形文で入組み木の葉文を構成する。平行沈線上の交点とその間に円形刺突列を施し、内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

3は、胴部上半が外反する深鉢で、胴部上半に条線で横位鋸歯状文を構成し、条線で縦位の列点状刺突列を加える。内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

4は、胴部上半が外反する深鉢である。文様は爪形文で、変形木の葉文で構成する。文様帯下を画す爪形文間には、斜位の刻目を付し、内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

5は、胴部上半が外反する深鉢で、上半に条線（3本歯）で鋸歯状と波状の文様を施し、下半に斜縄文（ＲＬ）を施す。内面は研磨する。胎土は片岩・砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は淡褐色である。

6は、胴部上半が外反する深鉢で、上半に平行沈線で文様を構成し、下半に斜縄文を施す。内面は撫でる。胎土は片岩・砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

7は、胴部上半が外反する深鉢で、斜縄文（ＲＬ）を地文に、1本単位の浮線文を横位に施文し、浮線文には斜位の刻目を付す。内面は撫でる。胎土は片岩・砂粒を含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

8は、石匙、9は、楔形石器あるいは打製石斧片か。

128号土坑　堀之内1式

1は、深鉢の口縁部片で、山形の突起を付す。口唇部下に隆帯を施し、その間に2本の沈線を施文する。突起下には渦巻文を施し、内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

134号土坑　堀之内式

1は、深鉢の口縁部片で、口縁部下に屈曲を持ち、内外面にボタン状の貼付文を施す。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

2は、頸部がくの字状に括れて、肩部が張る深鉢で、内折する口唇部の内端と外端が突出する。口縁には小突起を5単位付す。小突起は3つに分けられ、いずれも内面に文様を施す。中央の大きなものには楕円形と横位の沈線を施すが、1つだけは渦巻文を施し、その両側の小さなものには、一方に円文、他方には円孔を施す。小突起の外面には沈線が伴うものとないものとがある。なお、頸部には低い隆帯が巡り、外面の口縁部と胴部、内面は研磨する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

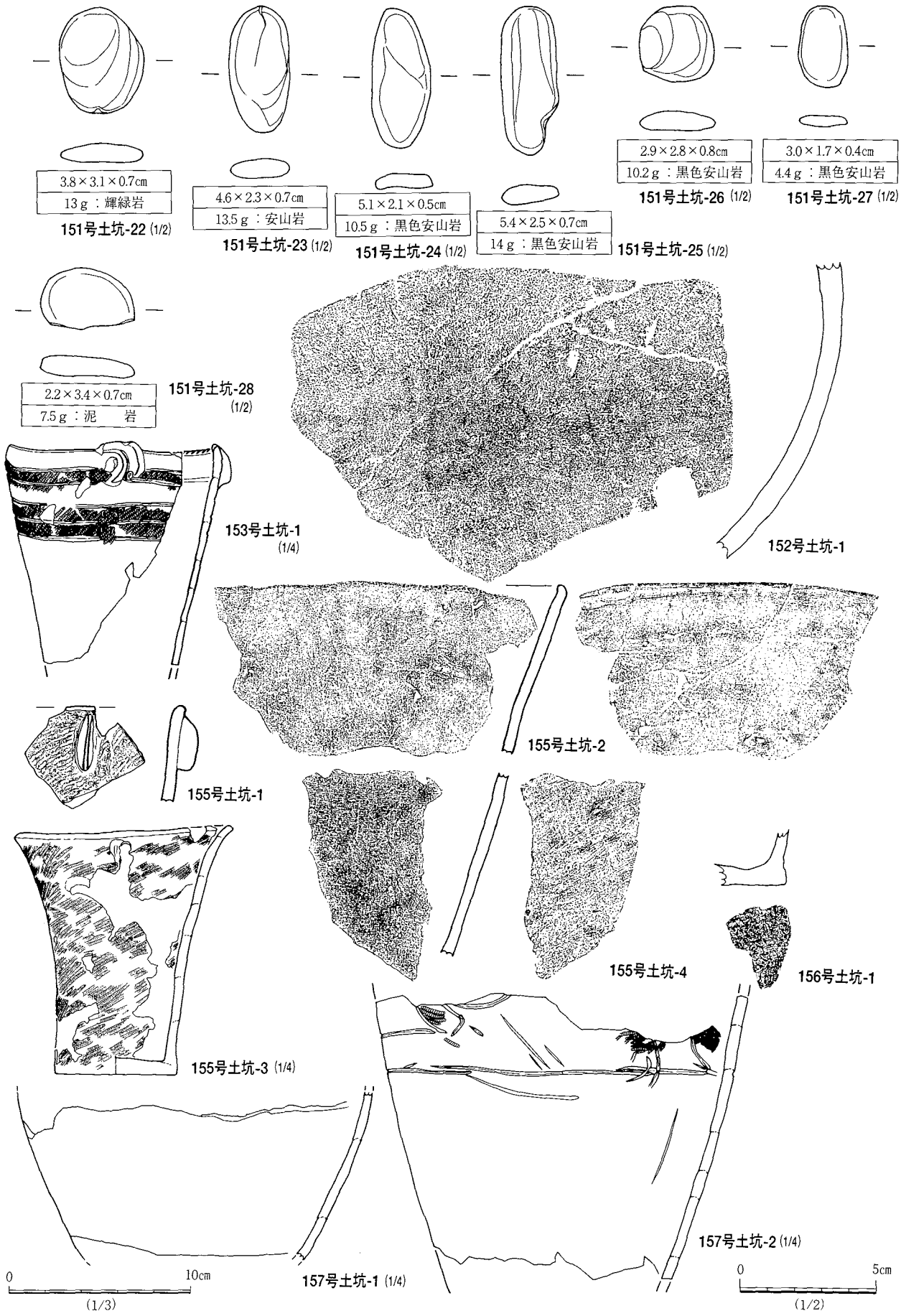
140号土坑　諸磯式

1は、胴部上半が開き口縁部が内湾する深鉢で、外面に縄文（ＲＬ）を施文する。口縁部が内側に僅かに突出する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は不良で、色調は褐色である。

141号土坑　前期

1は、波状口縁の深鉢で、口縁部に沿って隆帯を巡らし、口縁部と隆帯間に半截竹管による斜位の平行沈線を充填する。隆帯下は隆帯を区画し、区画内に半截竹管による爪形文を充填する。胎土は繊維を含み、焼成は普通で、色調は黄土色である。

2は、口縁部片で、半截竹管による集合沈線を地文とし、口縁部に貝殻状の貼付文を縦位に施す。胎土は細砂粒を含み、焼成は良好で、色調はにぶい橙色である。



第224図　151～153・155～157号土坑出土遺物

143号土坑　後期

1は、深鉢の口縁部片で、口縁部直下に沈線区画の縄文帯（ＲＬ）を巡らし、口縁部内面に１本の沈線を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

2は、底部片で、胴部下端は無文。底部に網代痕を残す。胎土は細砂粒を含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

144号土坑　堀之内２式

1は、胴部上半が外反する深鉢で、口唇部の内面に段が付く。口縁には２山の突起が付き、突起下には、８の字状貼付文を施す。胴部上半に斜縄文（ＬＲ）を施し、その上から集合沈線で、三角形と菱形を組み合わせた文様を構成し、図形内部の縄文を磨り消すが、消えてない部分が多い。無文部と内面は研磨を施す。胎土は砂粒を少量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

145号土坑　堀之内式

1は、土偶の胴部破片で、鋭い沈線を用い表面中央に縦位、背面に渦巻文を施す。胎土は細砂粒を含み、焼成は良好で、色調はにぶい橙色である。

149号土坑　加曽利Ｂ１式

1は、口縁部が僅かに内傾する深鉢で、口唇部に斜位の刻目を施す。外面は屈曲部上位に１本の平行沈線を施し、下位は縄文帯（ＬＲ）を４本の平行沈線及び縦位の短い沈線で分割し、帯縄文を構成する。内面には４本の沈線を巡らす。胎土は微砂粒を含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

2は、粗製の深鉢で、外面は斜位に条線を施文後、沈線を３本横位に巡らす。内面は口縁部直下に１本の幅広の沈線を施す。胎土は細砂粒を含み、焼成は良好で、色調は茶色である。

3は、粗製の深鉢で、胴部上位に横位及び縦位の沈線を施文する。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

151号土坑　後期

1は、口縁部が直線的に開き、上端が僅かに直立する。内面に強い２本の沈線を削り出して表現した隆帯を巡らし、沈線間に縄文（ＲＬ）を施文する。胎土は細砂粒を含み、焼成は良好で、色調は黄土色である。

2は、深鉢の口縁部片で、口縁部に沿って外面に刻みを付した貼付文が見られ、胴部の文様は沈線で描くものと思われる。口縁部内面直下に１本の沈線を巡らし、外面に１個の補修孔が確認される。胎土は細砂粒を含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

3は、深鉢の底部片で、網代痕が確認され、内外面に粗い研磨を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

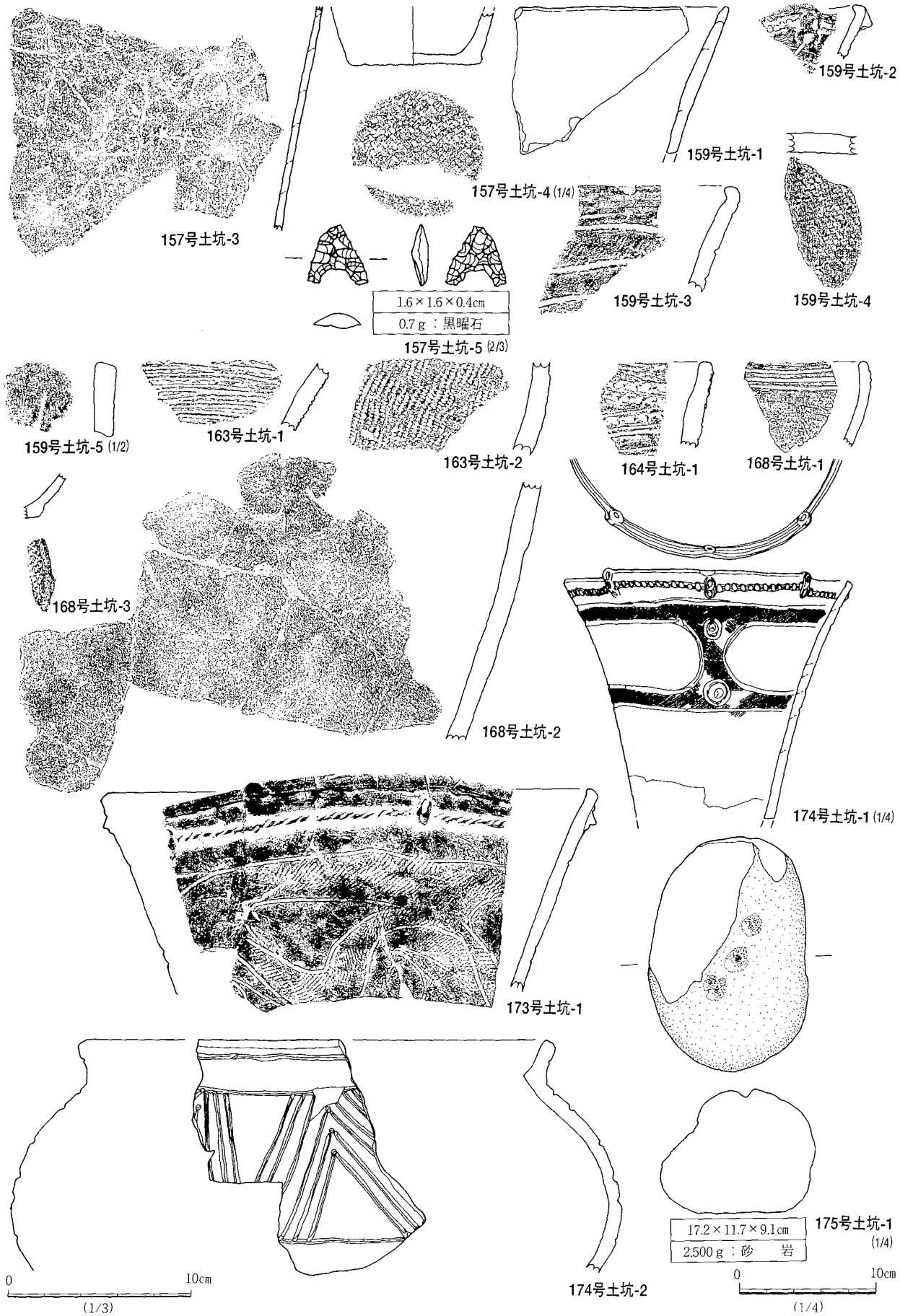
4は、無茎の石鏃、５～27は、安山岩・泥岩・砂岩・黒色安山岩・輝安山岩・輝緑岩の自然石である。いずれも偏平で、石錘の素材の可能性が考えられる。

152号土坑　後期

1は、無文の深鉢の胴部片で、器面の摩滅が著しい。胎土は砂粒を含み、焼成は不良で、色調は茶褐色である。

153号土坑　加曽利Ｂ１式

1は、口縁部が内湾する深鉢で、口縁部には貼付文を伴う突起を付し、口唇部上面に斜位の刻目を付す。口縁部には１帯の帯縄文（ＬＲ）を施し、若干の空白をおいて３本沈線による帯縄文と、突起下に対弧文を施文する。無文部と内面は研磨する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。



第225図　157・159・163・164・168・173～175号土坑出土遺物

155号土坑

1は、深鉢の口縁部片で、外面に縄文（L）施文後、口縁直下に貼付文を施す。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

2は、口縁部が僅かに短く内湾する深鉢で、内外面共に撫でる。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

3は、口縁部が外反する深鉢で、外面全体に斜縄文（無節L）を施し、口縁部におそらく1対の耳状貼付文を付すが、欠落している。内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

4は、深鉢の胴部片で、内外面共に撫でる。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

156号土坑　後期

1は、深鉢の底部片で、胴部下端は無文。底部に網代痕を残す。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は黄土色である。

157号土坑　後期

1は、深鉢の胴部下半片で、無文である。外面は軽い研磨、内面は撫でる。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黄褐色である。

2は、深鉢の胴部片で、胴部上位に縄文（RL？）と沈線区画文を施文する。胴部上位外面に炭化物の付着が観察される。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は不良で、色調はにぶい橙色である。

3は、口縁部が直線的に開く深鉢で、雑な器面調整である。胎土は細砂粒を含み、焼成は不良で、色調は黄土色である。

4は、深鉢の底部片で、胴部下端は無文、底部に網代痕を残す。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は茶褐色である。

5は、無茎の石鏃である。

159号土坑　堀之内2式

1は、口縁部が外反する深鉢で、口縁部内面に沈線が1条巡る。外面は無文、内外面は研磨する。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

2は、口縁部が外反する波状口縁の深鉢で、口唇部は内折する。波頂部に押圧を加え、口縁部に刺突を施した隆帯を巡らし、波頂下に8の字状の貼付文を施す。文様は帯縄文（LR）で構成する。無文部と内面は研磨する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黒色である。

3は、口縁部が外反する深鉢で、口唇部は内折する。外面に帯縄文（LR）を施し、無文部と内面は研磨する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

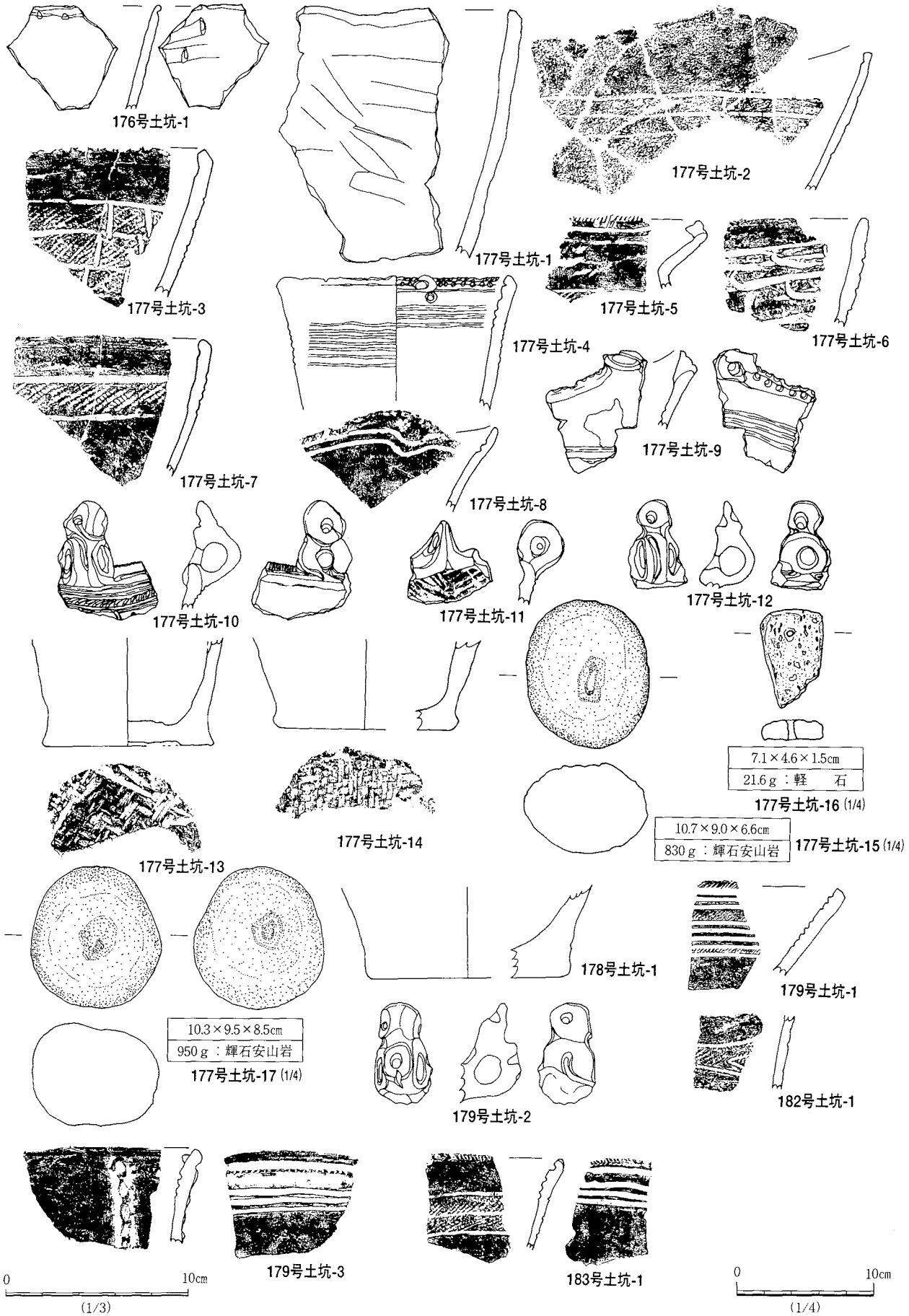
4は、深鉢の底部片で、網代痕を残し、内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

5は、土器の無文部を使用した土製円盤である。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

163号土坑　諸磯式

1は、深鉢の胴部片で、集合沈線により文様構成し、内面は研磨が施される。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

2は、深鉢の胴部片で、外面に斜縄文（LR）を施文し、内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黒褐色である。



第226図　176～179・182・183号土坑出土遺物

164号土坑　黒浜式

1は、深鉢の口縁部片で、文様は平行沈線を爪形文で構成する。内面は撫でる。胎土は繊維を多量に含み、焼成は普通で、色調は黄褐色である。

168号土坑　後期

1は、口縁部が内湾する深鉢で、口縁部に3条の沈線が巡り、内外面共に研磨する。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

2は、深鉢の胴部片で、外面は研磨、内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黒褐色である。

3は、鉢の底部片か。底部に網代痕を残す。内面は研磨する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

173号土坑　後期

1は、深鉢の口縁部片である。口縁部には刻目が付く隆線が巡り、帯縄文（ＬＲ）を施す。無文部と内面は研磨する。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

174号土坑　後期

1は、胴部上半が外反する深鉢で、口唇部内面に沈線が巡る。口縁部は4分割の対向する位置が1段高い作りになっており、内面には刺突を伴う円形の貼付文3個と、それを繋ぐ沈線を施す。外面口縁部には刻目が付く隆線が巡り、内面の貼付文に対応して8の字状貼付文を施し、その中央の口唇部を内側へ折り曲げる。胴部上半には上下2条の帯縄文（ＬＲ）を施し、中央の8の字状文下を連続して、そこに1対の円文を加える。無文部と内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は灰褐色である。

2は、口縁部がくの字に外反する鉢である。外面は沈線により文様を構成し、内外面共に撫でる。胎土は、砂粒を含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

175号土坑

1は、凹石である。

176号土坑

1は、深鉢の口縁部片である。口唇部外面に沈線が巡り、内外面共に撫でる。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

177号土坑

1は、深鉢の口縁部片で、内外面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

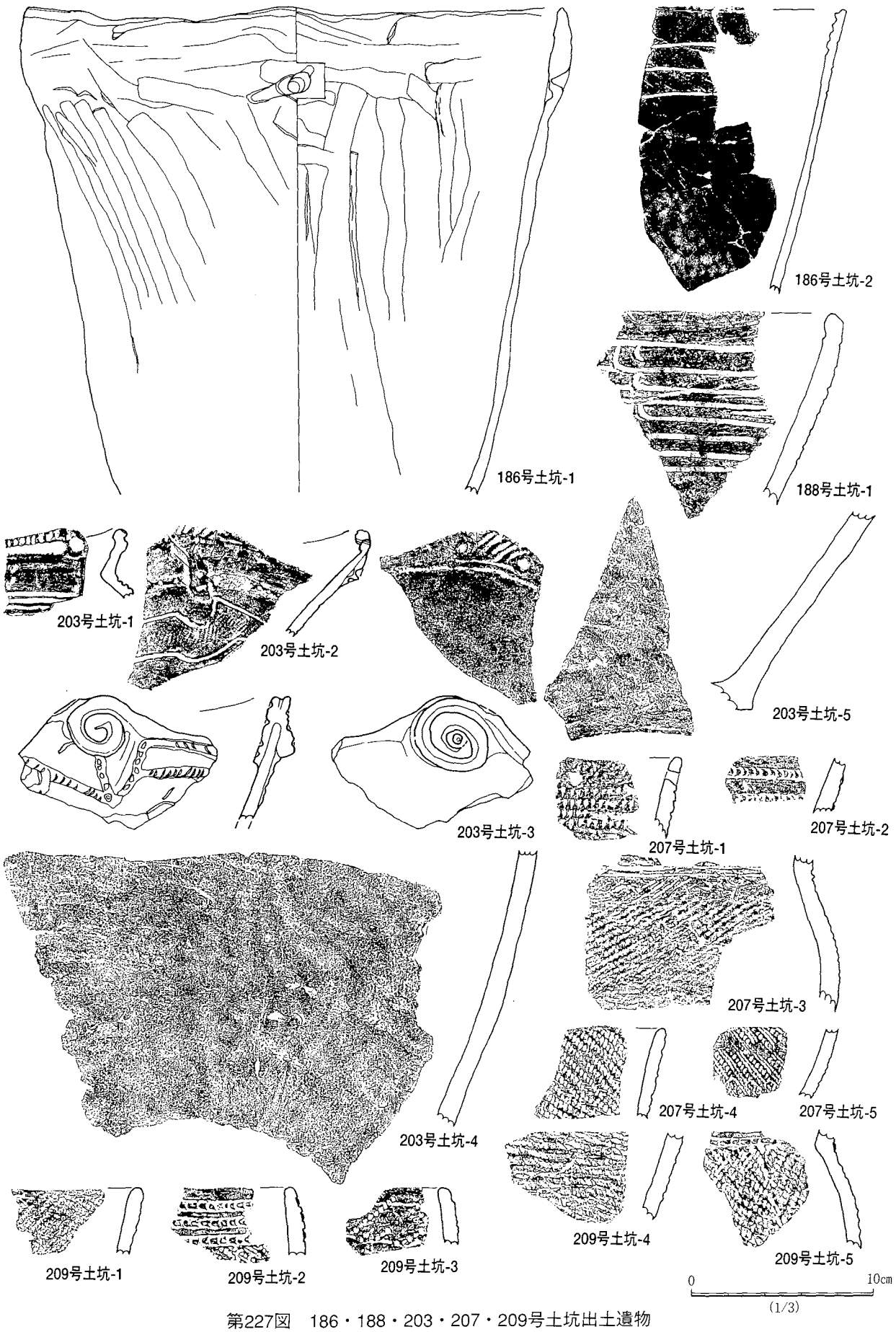
2は、波状口縁の深鉢である。外面は沈線により構成される。胎土は砂粒含み、焼成は普通で、色調は褐色である。

3は、深鉢の口縁部片で、口唇部は弱く内湾し、上面に刻目が付く。文様は帯縄文（ＬＲ）で構成し、無文部と内面は研磨する。胎土は砂粒を含み、少量は焼成は良好で、色調は黒褐色である。

4は、口唇部が弱く内湾する深鉢で、上面に刻目が付く。内外面に沈線による文様が施され、無文部と内面は研磨される。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

5は、注口土器の口縁部片と見られ、口唇部の内面に隆帯を施した刻目を入れる。外面に帯縄文の痕跡を残し、無文部と内面は研磨する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

6は、深鉢の口縁部片で、内面は研磨する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は褐色である。



第227図　186・188・203・207・209号土坑出土遺物

7は、鉢の口縁部片である。文様は帯縄文（ＬＲ）で構成し、無文部と内面は研磨する。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

8は、波状口縁の深鉢で、口唇部上面に刻目、内面に2条の沈線を巡らす。内外面に研磨を施す。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

9は、突起を持つ波状口縁の深鉢である。口唇部上面に円形刺突列を、内外面に沈線文を施す。内外面共に研磨する。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

10は、深鉢の突起片である。突起は8の字をモチーフとし、口唇部上面に刻目を付し、その直下に斜沈線帯と集合沈線帯により文様を構成する。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

11は、深鉢の突起片である。外面に沈線の集合体と見られる文様が確認される。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

12は、深鉢の突起片で、突起は8の字をモチーフとする。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

13・14は、深鉢の底部片である。底部端は突出し、底面に網代痕を残す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

15・17は、凹石、16は、軽石製の浮きで、台形状を呈し、穿孔される。

178号土坑

1は、深鉢の底部片である。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

179号土坑

1は、鉢の口縁部で、内面に数条の沈線を施し、その間に斜位の刻目を施す。内外面は共に研磨する。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は普通で、色調は黒褐色である。

2は　深鉢の突起片である。突起は8の字をモチーフとする。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

3は、深鉢の口縁部片である。外面は刻目を施した隆帯を垂下させ、内面は刻目を付した隆帯を施し、3条の沈線が巡る。胎土は砂粒は多量に含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

182号土坑

1は、深鉢の胴部片で、外面に帯縄文（ＬＲ）を施す。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

183号土坑

1は、深鉢の胴部片である。口唇部の上面に刻目を施し、外面は2条の帯縄文、内面に3条の沈線が巡る。内外面共に研磨する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黒褐色土である。

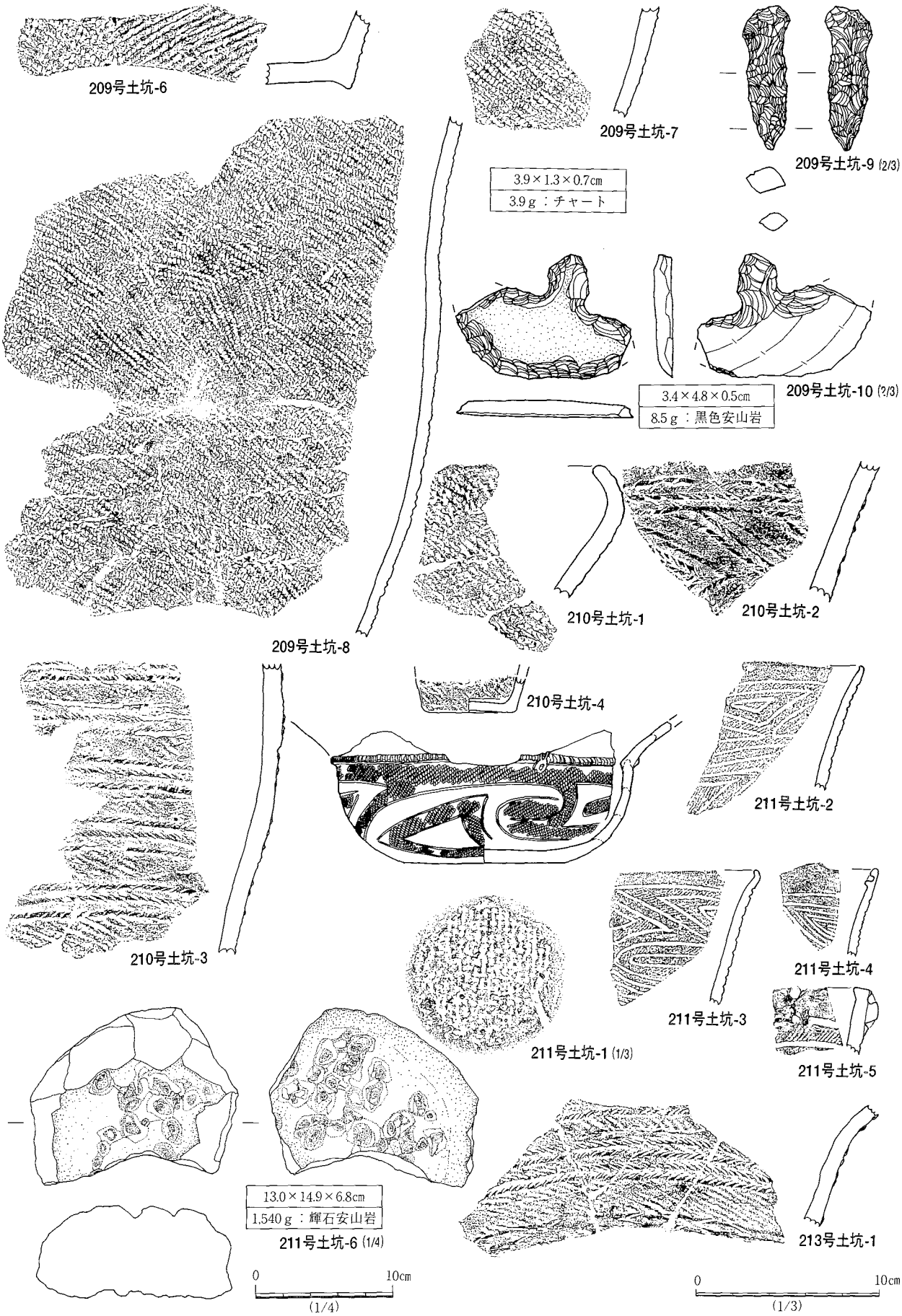
186号土坑

1は、深鉢である。口縁部直下に内外面に穿孔されるが貫通していない。内外面共ににヘラ状工具により整形される。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は褐色である。

2は、深鉢の口縁部片である。外面は帯縄文、内面は沈線が巡り、内外面共に研磨を施す。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で色調は黒褐色である。

188号土坑

1は、口唇部がやや内傾する鉢である。文様は沈線により構成する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は褐色である。



第228図　209～211・213号土坑出土遺物

203号土坑　堀之内２式

１は、波状口縁の深鉢で、口縁部に沈線１条を巡らせ、内端に刻目を施す。波頂下には円形刺突を付し隆線を垂下させる。無文部と内面は研磨する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

２は、波状口縁の深鉢で、波頂部内面に刻目と刺突を施す。外面は隆帯と８の字状の貼付文を施す。胴部は帯縄文（ＬＲ）で構成し、無文部と内面は研磨する。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

３は、波状口縁の深鉢で、波頂部内外面に渦巻文を施す。外面に刻目を付した２本の隆線が巡り、波頂下でＶ字状となる。内面は研磨する。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

４は、深鉢の胴部片で、内外面は粗く研磨する。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

５は、４の底部と見られる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

207号土坑　前期

１は、口縁部が直立する深鉢で、斜縄文（ＬＲ）を地文に、口縁部に４条の半截竹管刺突列を施文する。補修孔が２ケ所確認される。内面は撫でる。胎土は繊維を多量に含み、焼成は普通で、色調は黄褐色である。

２は、深鉢の口縁部片で、口縁部に爪形文を数条施文する。内面は軽く研磨する。胎土は繊維を少量含み、焼成は普通で、色調は黄褐色である。

３は、頸部がくの字状に外折する深鉢で、口頸部に平行沈線等で文様を構成し、胴部に斜縄文（ＬＲ）を施す。内面は撫でる。胎土は繊維を多量に含み、焼成は普通で、色調は黒褐色である。

４は、深鉢の口縁部片で、外面に斜縄文（ＲＬ）を施文する。内面は撫でる。胎土は片岩・砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は淡褐色である。

５は、深鉢の胴部片で、外面に斜縄文（付加条第１種ＲＬ＋Ｌ・Ｌ）を施文する。内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

209号土坑　前期

１は、口縁部が弱く内湾する深鉢で、外面に菱形羽状縄文（ＲＬ・ＬＲ）を施す。内面は研磨する。胎土は砂粒を多量、繊維を少量含み、焼成は良好で、色調は淡褐色である。

２は、深鉢の口縁部片で、口縁部に爪形文３条を施し、以下に縄文（ＲＬ）を地文に爪形文で菱形の文様を構成すると見られる。内面は研磨する。胎土は繊維を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

３は、口縁部が弱く内湾する深鉢で、外面に斜縄文（ＬＲ）を施す。内面は研磨する。胎土は繊維を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

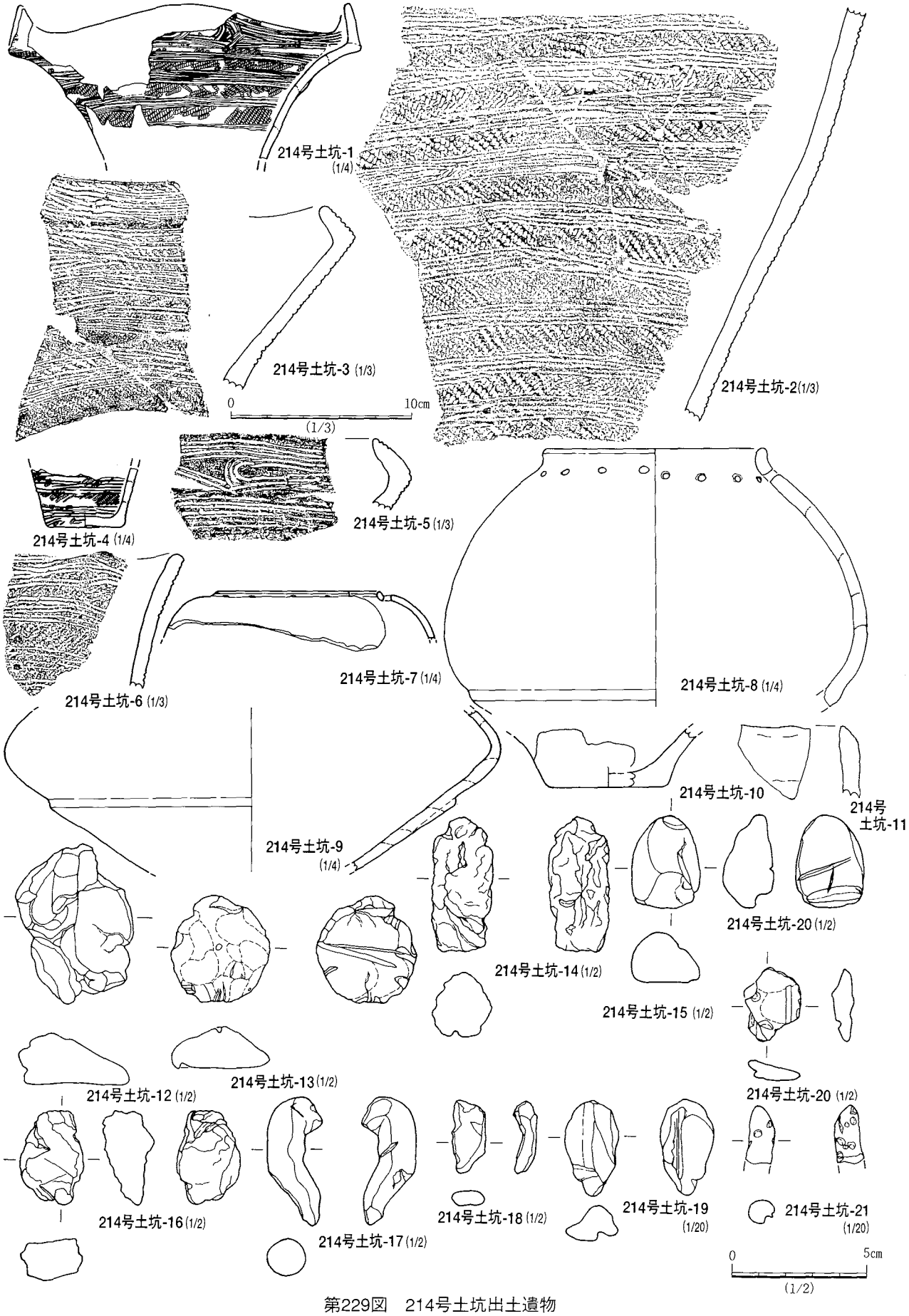
４は、深鉢の胴部片で、外面に斜縄文（無節Ｒ）を施す。内面は撫でる。胎土は繊維を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

５は、頸部がくの字状に外折する深鉢で、文様は頸部を爪形文で構成し、胴部に菱形羽状縄文（ＲＬ・ＬＲ）を施す。内面は撫でる。胎土は繊維・砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は灰褐色である。

６は、深鉢の底部片で、やや上げ底状である。外面に菱形羽状縄文を構成し、内面は撫でる。胎土は繊維・砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は明褐色である。

７は、深鉢の胴部片で、外面に斜縄文（ＲＬ）を施文し、内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

８は、口縁部が弱く外反する深鉢で、外面に斜縄文（ＲＬ）を施し、下半部には結節縄（Ｌ）を付加する。内面は研磨する。胎土は片岩・砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は明褐色である。



第229図　214号土坑出土遺物

210号土坑　諸磯式

1は、口縁部がくの字状に内折する深鉢で、外面に斜縄文（ＲＬ）を施文し、内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

2は、深鉢の胴部片で、斜縄文（ＬＲ）を地文に、3本単位の浮線文で、胴部上半に菱形状の文様を構成する。浮線文には斜位の刻目を付し、内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

3は、深鉢の胴部片で、斜縄文（ＲＬ）を地文に、3本単位の浮線文を横位多帯に施文する。浮線文には斜位の刻目を付し、内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

4は、深鉢の胴部から底部片で、外面に斜縄文（ＲＬ）を施し、内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

211号土坑　堀之内2式

1は、頸部がくの字状に外折して開く鉢で、刻目が付く隆線上に、8の字状の貼付文を3単位施す。胴部の文様は帯縄文（ＬＲ）による三角文と渦巻文で構成し、底部には網代痕が残る。内外面は研磨する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

2は、口縁部が弱く外反する深鉢で、口唇部が内折し内面に段を持つ。文様は、胴部上半に帯縄文（ＬＲ）で三角形・楕円形を組み合わせた文様を構成し、無文部と内面に研磨を施す。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

3は、2と同一個体である。

4は、口縁部が弱く外反する深鉢で、口縁に小突起が付く。口唇部内面の肥厚部には沈線が施され、突起下には円形の刺突が付く。文様は胴部上半に帯縄文（ＬＲ）で三角形の区画文を構成し、区画内は垂沈線で充填される。無文部と内面は研磨する。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

5は、深鉢の口縁部片で、口唇部が内側に突出する。上面は平坦で、口縁部に8の字状貼付文が付く。文様は帯縄文（ＬＲ）で構成し、無文部と内面は研磨する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は淡褐色である。

6は、多孔石で表裏両面に孔が確認される。

213号土坑　諸磯ｂ式

1は、胴部上半が外反する深鉢で、斜縄文（ＲＬ）を地文に、2本単位の浮線文を横位多帯施文する。内面は粗い研磨を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は淡褐色である。

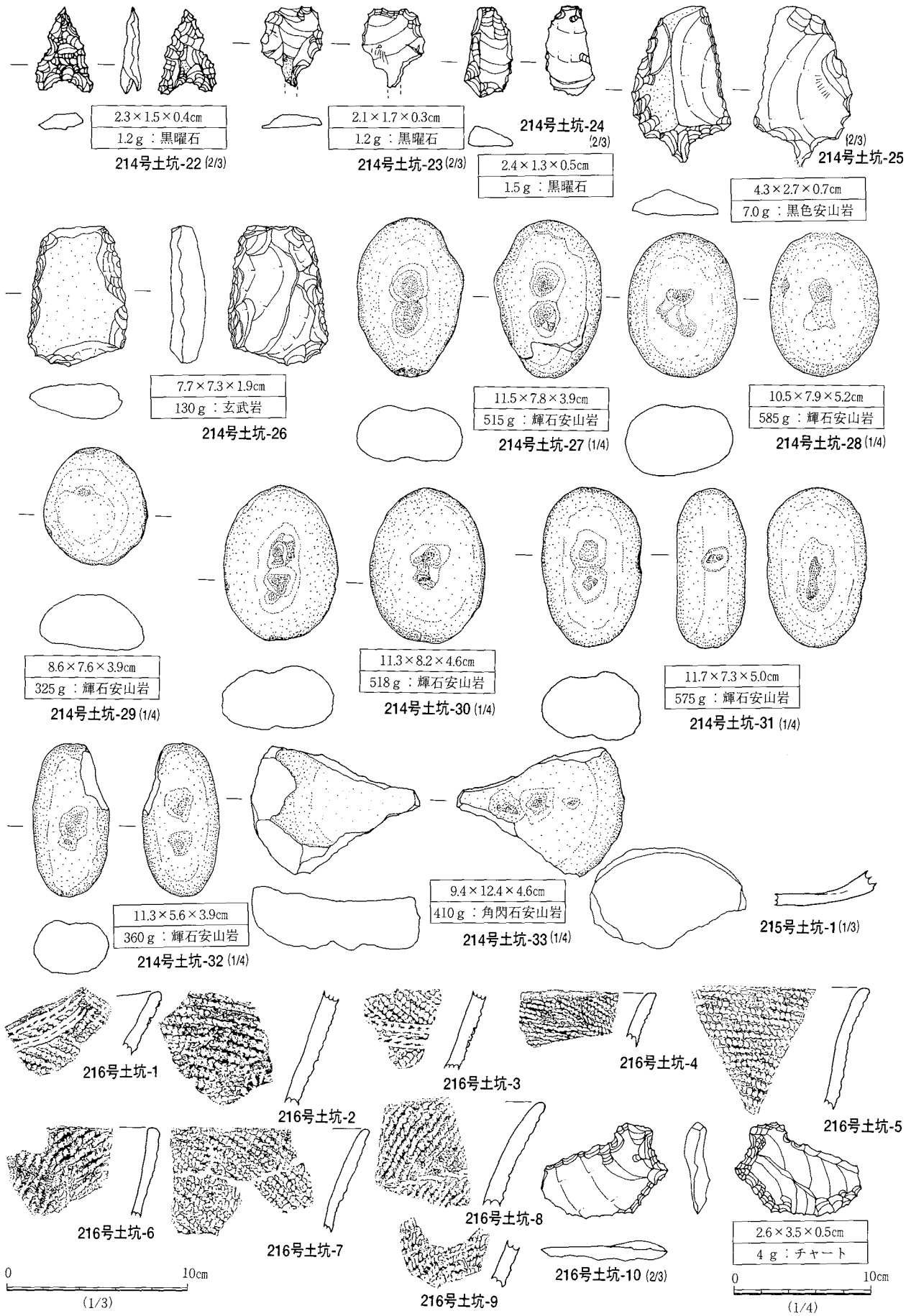
214号土坑

1は、胴部上半が外反し、口縁部がくの字状に強く内折する4単位波状口縁の深鉢である。文様は頸部下に隆帯を付し、斜縄文（無節Ｌ）を地文に、波頂部に集合沈線で渦巻文を構成する。以下に横位集合沈線帯を多段に施文し、内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は灰褐色である。

2は、深鉢の胴部片で、斜縄文（ＲＬ）を地文に、集合沈線を横位に多段施文する。内面は粗い研磨を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

3は、口縁部がくの字状に内折する波状口縁の深鉢で、斜縄文（ＲＬ）を地文に、集合沈線を横位に多段施文する。内面は粗い研磨を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

4は、深鉢の口縁から胴部片で、斜縄文（無節Ｌ）を地文に、集合沈線を横位に多段施文する。内面は粗い研磨を施す。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。



第230図　214～216号土坑出土遺物

5は、口縁部がくの字状に内折する波状口縁の深鉢で、口縁部に2条単位の平行沈線で菱形文を構成し、頸部以下に同沈線帯を横位に多段施文する。菱形文には蕨手状の文様を施し、内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

6は、口縁部が外反する波状口縁の深鉢で、斜縄文（ＬＲ）を地文に、集合沈線帯を横位に多段施文する。内面に研磨を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

7は、浅鉢で、口縁部が強く直立し、胴部が強く張り、肩部に等間隔に円孔を穿つ。内面は粗い撫でを施し、外面は丁寧に研磨する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

8は、丸胴状の浅鉢で、胴部下半に段が付く。口縁部は短く直立し、頸部に円孔を施す。内外面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

9は、胴部下位に段を有する偏平な浅鉢で、内外面に丁寧な研磨を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は茶色である。

10は、深鉢の底部片で無文である。底面は摩滅し光沢がある。胎土は細砂粒を少量に含み、焼成は良好で、色調は黄土色である。

11は、手捏の土器で内外面に雑な撫でを施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黄土色である。

12は、粘土塊で、板状の圧痕が確認される。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄土色である。

13は、粘土塊で、片面中央に円形刺突があり、他面及び側面に圧痕や刻みが見られる。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黄土色である。

14は、棒状の粘土塊である。整形の痕跡は確認されない。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は普通で、色調は茶褐色である。

15は、粘土塊で、片面に棒状の圧痕及び刻目が見られる。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

16は、粘土塊である。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

17は、棒状の粘土塊である。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

18は、板状の粘土塊で、両側面が面取りされている。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

19は、粘土塊で、棒状の圧痕が見られる。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は不良で、色調はにぶい橙色である。

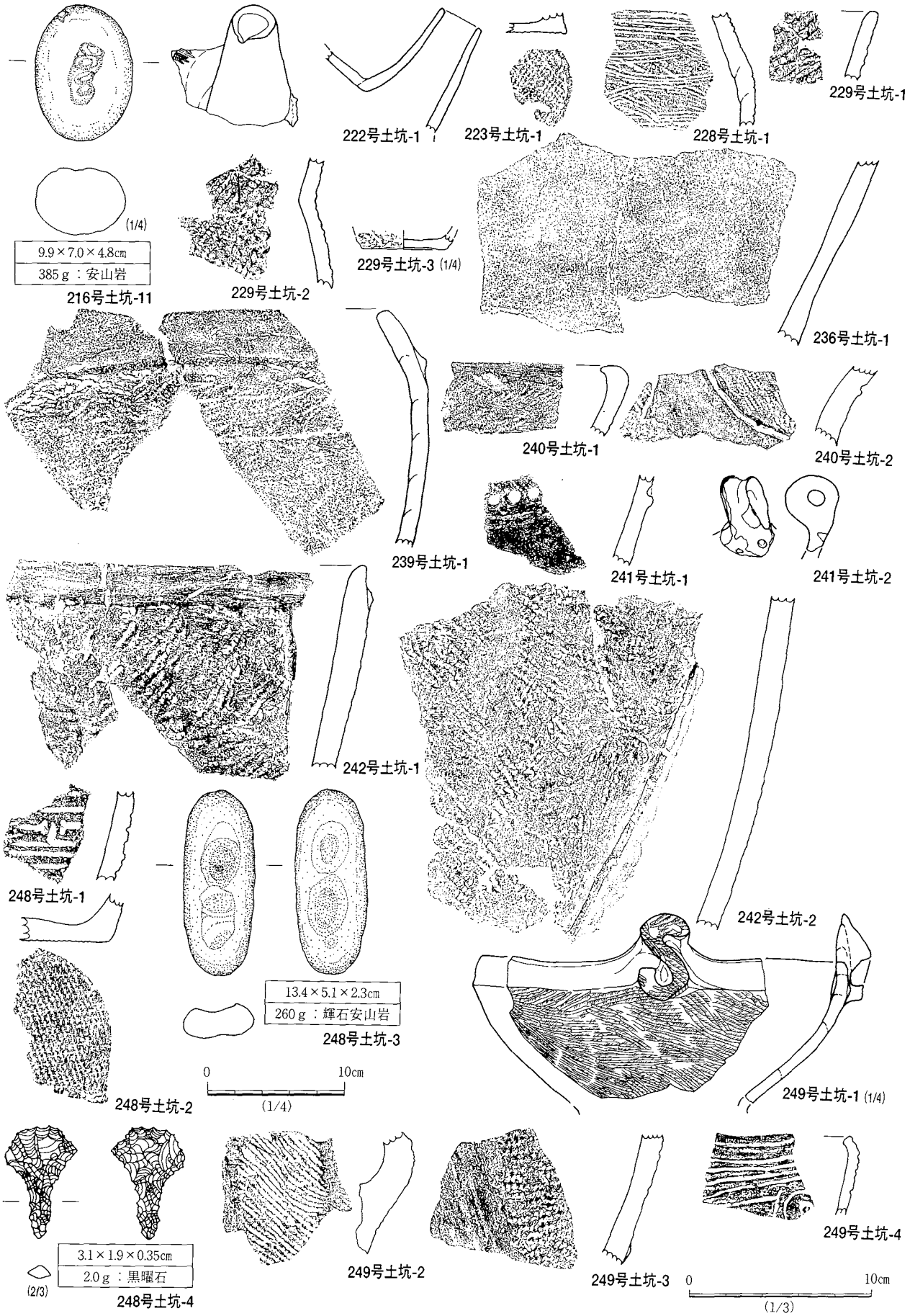
20は、粘土塊で、片面に指紋の痕跡が残る。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は普通で、色調はにぶい橙色である。

21は、棒状の粘土塊で、表面に小礫の抜けた小穴が見られる。胎土は細砂粒を微量含み、焼成は良好で、色調はにぶい橙色である。

22は、無茎の石鏃、23は、石錐、24は、剥片石器、25は、石錐あるいは縦形の石匙と見られる。26は、打製石斧片、27～32は、凹石、33は、石皿で裏面に凹みが確認される。

215号土坑　諸磯式

1は、浅鉢と見られる丸底状の底部で、胴部下半に段差が付く。外面に赤色塗彩が残り、内面を撫でる。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は普通で、色調は淡褐色である。



第231図　216・222・223・228・229・236・239～242・248・249号土坑出土遺物

216号土坑　前期

1は、口縁部が弱く内湾する波状口縁の深鉢で、菱形羽状縄文（ＲＬ・ＬＲ）を地文に、口縁部に爪形文を２条施す。内面は研磨する。胎土は繊維を少量含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

2は、深鉢の胴部片で、外面に羽状縄文を施文し、内面を軽く研磨する。胎土は繊維を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

3は、深鉢の胴部片で、菱形羽状縄文を地文に、爪形文を２条横位に施文する。内面は軽い研磨を施す。胎土は繊維を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

4は、口縁部が外反する深鉢で、外面に斜縄文（ＲＬ）を施文し、内面を研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は褐色である。

5は、口縁部が外反する深鉢で、外面に斜縄文（ＲＬ）を施文し、内面を撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

6は、口縁部が内湾する深鉢で、外面に斜縄文（無節Ｌ）を施文し、内面を研磨する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

7は、口縁部が外反する深鉢で、外面に斜縄文（ＲＬ）を施文し、内面を研磨する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

8は、口縁部が外反する深鉢で、外面に斜縄文（無節Ｌ）と結節縄文（Ｌ）を施文し、内面を研磨する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

9は、深鉢の胴部片で、外面に斜縄文（ＬＲ）を施文し、内面を撫でる。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

10は、横形の石匙、11は、凹石である。

222号土坑　堀之内２式

1は、注口土器の注口部である。注口部及び体部は研磨が施され、体部は細沈線で区画し、区画内に縄文を施文する。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

223号土坑　後期

1は、深鉢の底部片で、胴部下端は無文、底部に網代痕を残す。胎土は細砂粒を含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

228号土坑　諸磯ｂ式

1は、胴部下半に弱い張りを持つ深鉢で、縄文（ＲＬ）を地文に横位に施文し、その後、半截竹管による平行沈線を横位と弧状に施文する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は普通で、色調は褐色である。

229号土坑　黒浜式

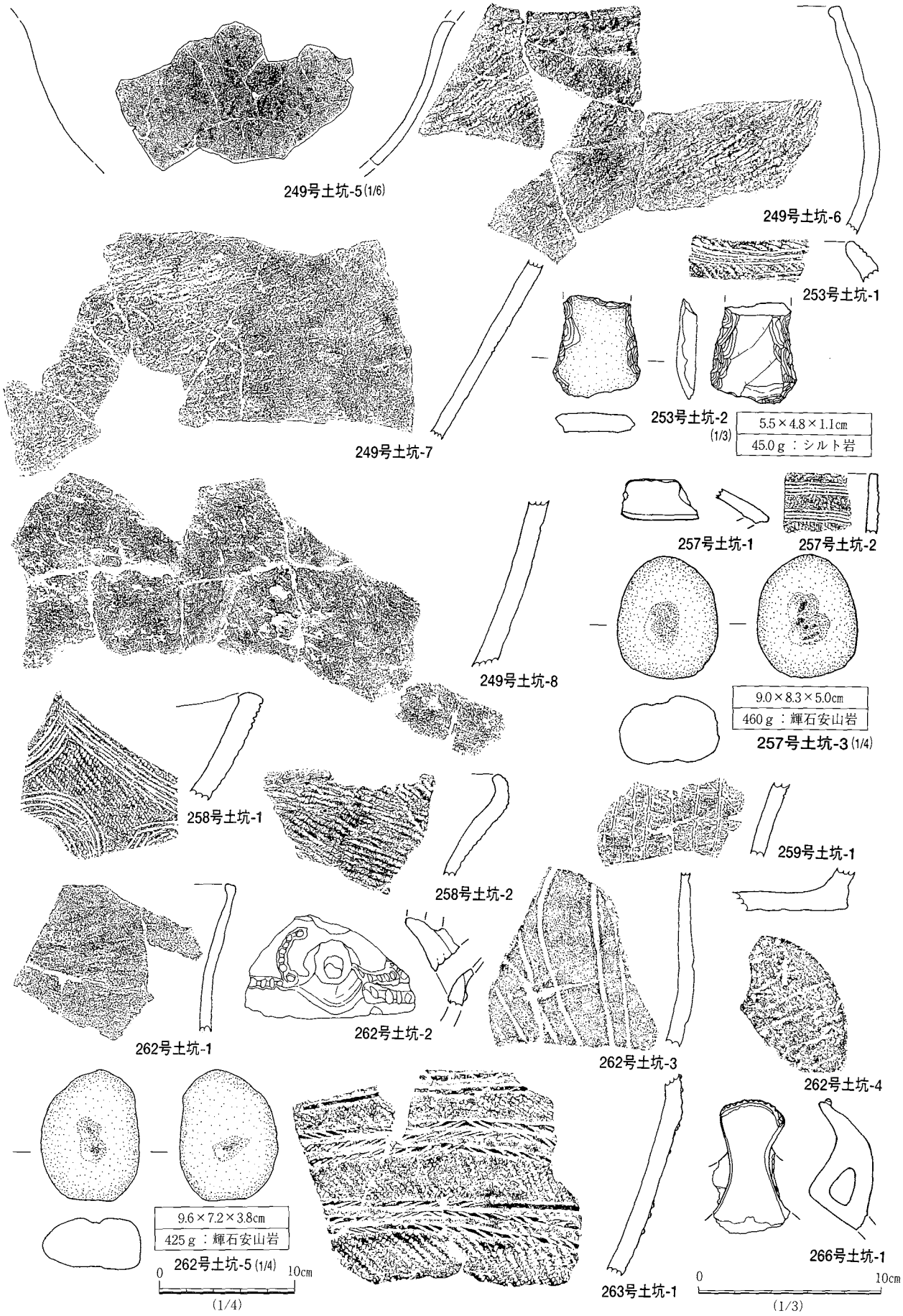
1は、深鉢の口縁部片で、縄文（Ｌ）を横位に施文する。胎土は繊維・細砂粒を含み、焼成は良好で、色調は茶褐色である。

2は、胴部に強い括れを持つ深鉢で、縄文（ＬＲ）は横位に施文する。胎土は繊維・細砂粒を含み、焼成は普通で、色調は茶褐色である。

3は、深鉢の底部で、胴部下端まで縄文（ＲＬ）を施文する。胎土は細砂粒を含み、焼成は普通で、色調は茶褐色である。

236号土坑　後期

1は、無文の深鉢で、外面を撫で光沢がある。胎土は細砂粒を含み、焼成は不良で、色調は灰褐色である。



第232図　249・253・257～259・262・263・266号土坑出土遺物

239号土坑　加曽利Ｅ４式

１は、口縁部が内湾する深鉢で、口縁部に断面三角形の隆帯を施し、以下に縄文（無節Ｌ）を施文する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黄褐色である。

240号土坑　称名寺Ⅰ式

１は、口縁部が弱く内湾する深鉢で、口唇部が内折する。外面に斜縄文（無節Ｌ）を施し、内面は撫でる。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は灰褐色である。

２は、深鉢の胴部片で、帯縄文（ＬＲ）による曲線的な文様を構成し、内面を撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

241号土坑　加曽利Ｅ４式

１は、深鉢の頸部片と見られる。文様は断面三角形の隆帯区画内に縄文（ＬＲ）を充填し、隆帯に沿って円形の刺突列を加える。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は明褐色である。

２は、ひねりを加えた橋状把手で、把手下には刺突列の一部が見える。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は明褐色である。

242号土坑　加曽利Ｅ４式

１は、深鉢の口縁部片である。文様は口縁部を巡る隆帯から、同隆帯を垂下させ、区画内に縄文（ＬＲ）を充填施文する。内面は研磨を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

２は、１と同一個体である。

248号土坑

１は、深鉢の胴部片で、横位沈線帯の一部に短沈線と刺突を加えて、鋸歯状文を表現する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

２は、深鉢の底部で、網代痕を残し内面は撫でる。胎土は砂粒を含み、焼成は普通で、色調は褐色である。

３は、凹石、４は、石錐である。

249号土坑　後期

１は、波状口縁の深鉢で、波頂部に８の字状の貼付文を施す。口縁部には断面三角形の隆帯を巡らし、以下縄文（無節Ｌ）を施文する。内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

２は、両耳壺の橋状把手片で、外面に斜縄文（無節Ｌ）を縦位に施文する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黄褐色である。

３は、深鉢の胴部片で、断面三角形の隆帯区画部を、縦位施文の斜縄文（ＬＲ）で充填する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黄褐色である。

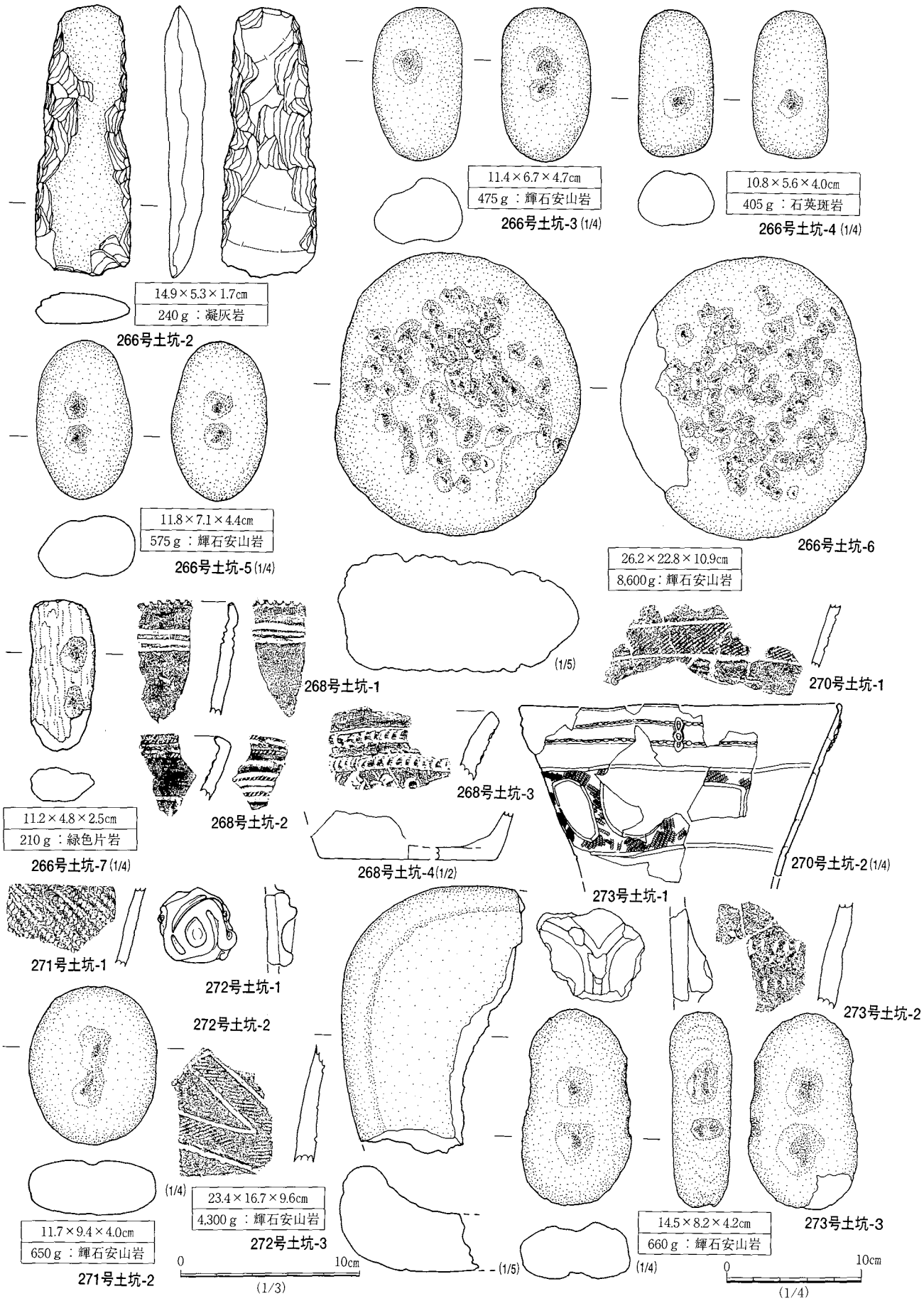
４は、波状口縁の深鉢で、口縁部に沈線が１本巡る。文様は波頂下の渦巻文と、その間を繋ぐ沈線で構成されると見られる。内面は研磨される。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

５は、深鉢の胴部片で、内外面に粗い研磨を施す。胎土は砂粒を含み、焼成は普通で、色調は灰褐色である。

６は、口縁部が内湾する深鉢で、外面に斜縄文（無節Ｌ）を施文する。内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

７は、６と同一個体である。

８は、深鉢の胴部片で、無文である。外面は粗い削りの後、軽く研磨する。内面は撫でる。胎土は砂粒を



第233図　266・268・270～273号土坑出土遺物

253号土坑

1は、注口土器の口縁部片か。外面に帯縄文が確認され、内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

2は、打製石斧片である。

257号土坑　前期

1は、有孔深鉢の鍔部片で、内外面に撫でを施す。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

2は、深鉢の胴部片である。口唇部は平坦に整えられる。胴部外面は縄文（ＲＬ）を施文後、細い半截竹管による4本単位の平行沈線を横位に施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調はにぶい橙色である。

3は、凹石である。

258号土坑　諸磯ｂ式

1は、山形の突起を持つ波状口縁の深鉢で、突起部は口縁部と比較してやや厚い。外面は縄文（ＲＬ）を施文後、突起に沿って4本単位の平行沈線を施し、下位に半截竹管で曲線的な文様を描く。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調はにぶい橙色である。

2は、胴部上位に張りを持ち、口縁部が僅かに内湾する深鉢である。外面に縄文（ＲＬ）を横位、斜位に施文する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

259号土坑　黒浜式

1は、深鉢の胴部片で、斜位から横位に鋭い沈線を施文した後、鋭い平行沈線を縦位に施す。胎土は細砂粒・繊維を含み、焼成は良好で、色調は灰褐色である。

262号土坑　堀之内1式

1は、強く外反する口縁の深鉢で、口唇部は短く内側に屈曲する。胎土は細砂粒を含み、焼成は不良で、色調はにぶい橙色である。

2は、深鉢の胴括れ部片で、2本単位の沈線で文様を描く。外面に炭化物が付着する。胎土は細砂粒を含み、焼成は不良で、色調は褐色である。

3は、深鉢の胴部片で、2本の平行沈線で文様を構成する。胎土は細砂粒を含み、焼成は不良で、色調は褐色である。

4は、深鉢の底部片で、胴部下端は無文となっている。底部には圧痕状の凹凸が確認されるが、いわゆる網代の痕跡か否かは判然としない。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は不良で粗く、色調はにぶい橙色である。

5は、凹石である。

263号土坑　諸磯ｂ式

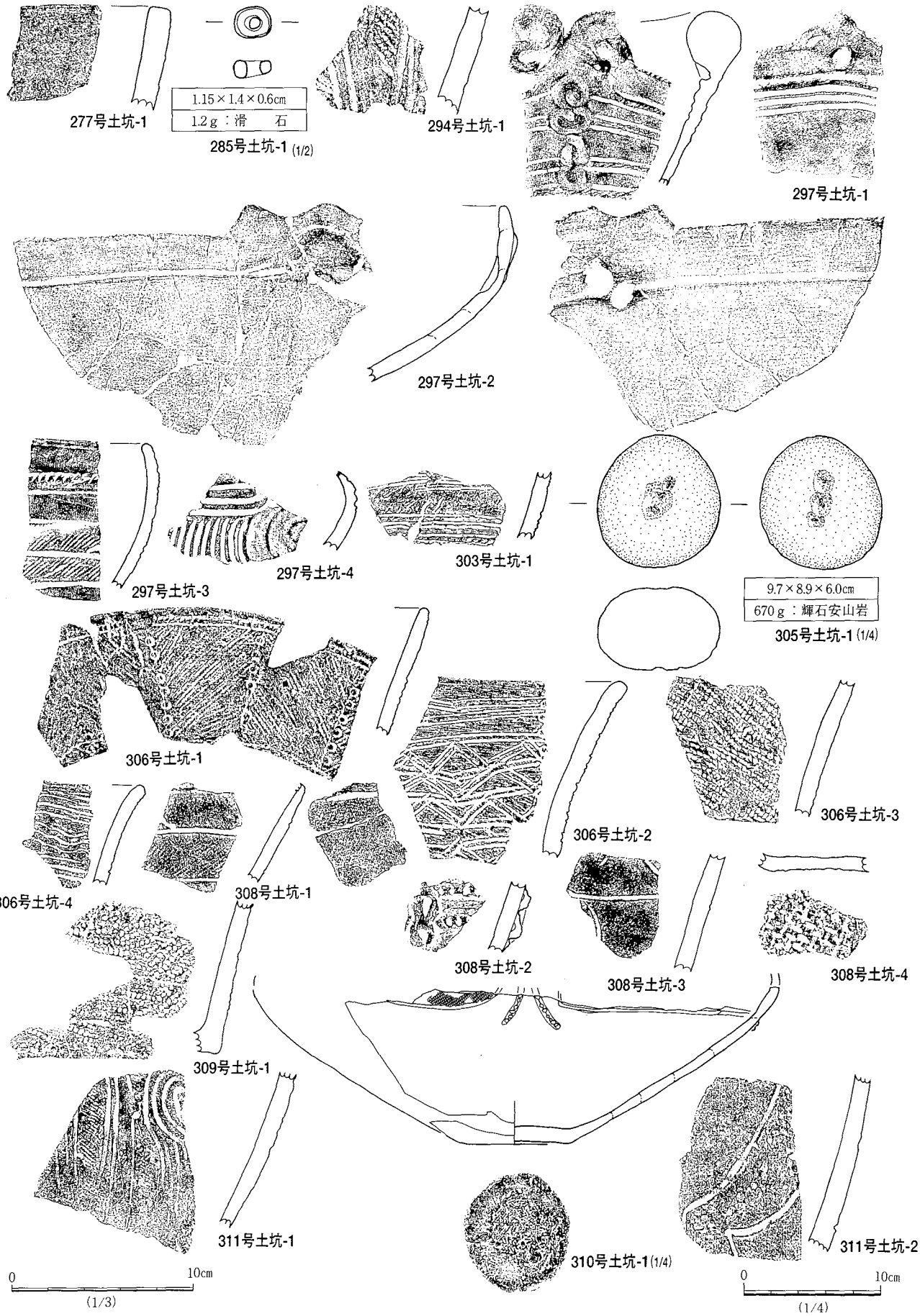
1は、深鉢の胴部片である。文様構成は、縄文（ＲＬ）を横位に施文した後、斜位の刻みを施した3本単位の浮線文を横位に貼り付ける。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は不良で、色調は黒褐色である。

266号土坑

1は、短冊形の打製石斧、3～5は、輝石安山岩を素材とする凹石である。

6は、大形の多孔石で、表裏両面に孔が穿たれる。

7は、緑色片岩を素材とする凹石で、形状は石棒状である。



第234図　277・285・294・297・303・305・306・308～311号土坑出土遺物

268号土坑

1は、口頸部が直線的に開く深鉢で、口唇部は弱く内湾し、上面に刻目が付く。口縁部外面に3条、内面に2条の沈線を施す。内外面は軽く研磨する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

2は、口縁部がくの字状に内折する鉢で、口唇部上面に斜めの刻目が付く。口縁部には不連続の沈線が巡り、内折部との間にも斜めの刻目が施される。胴部上半には数条の沈線を巡らし、その間を階段状に連結する。内面にも4条の沈線を施し、沈線間には1本おきに斜めの刻目を施している。内外面は研磨する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

3は、口縁部が僅かに外反する深鉢で、口縁部に爪形文を2条施し、その下に同爪形文を鋸歯状に施文する。空白部には円形刺突を施し、内面は研磨する。胎土は片岩・砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は淡褐色である。

4は、小形の深鉢で、外面は軽く研磨する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は普通で、色調は黒褐色である。

270号土坑　堀之内2式

1は、深鉢の胴部片で、胴部上半に帯縄文（L R）を横位に施文する。無文部と内面を軽く研磨する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黄褐色である。

2は、胴部が直線的に開く深鉢で、口唇部は内折する。口縁部に刻目を付けた隆線を2条施し、その上に棒状の粘土を貼付して刺突を加える。胴部には帯縄文（L R）で円形、方形の区画文を構成する。無文部と内面は研磨する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は普通で、色調は淡褐色である。

271号土坑　諸磯式

1は、深鉢の胴部片で、外面に斜縄文（R L）を施文し、内面を研磨する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黄褐色から黒褐色である。

2は、凹石である。

272号土坑　堀之内2式

1は、土器の貼付文部分を使用した土製円盤である。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黄褐色である。

2は、胴部上半が外反する深鉢で、帯縄文（L R）を用いて三角形の文様を構成する。内面は撫でる。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は灰褐色である。

3は、石皿の破片である。

273号土坑　阿玉台Ⅰb～Ⅱ式

1は、深鉢の胴部片で、隆帯で楕円区画文を施し、内面は撫でる。胎土は雲母・砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

2は、深鉢の胴部片で、胴部に押引き状の刺突列を2条施し、内面は撫でる。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

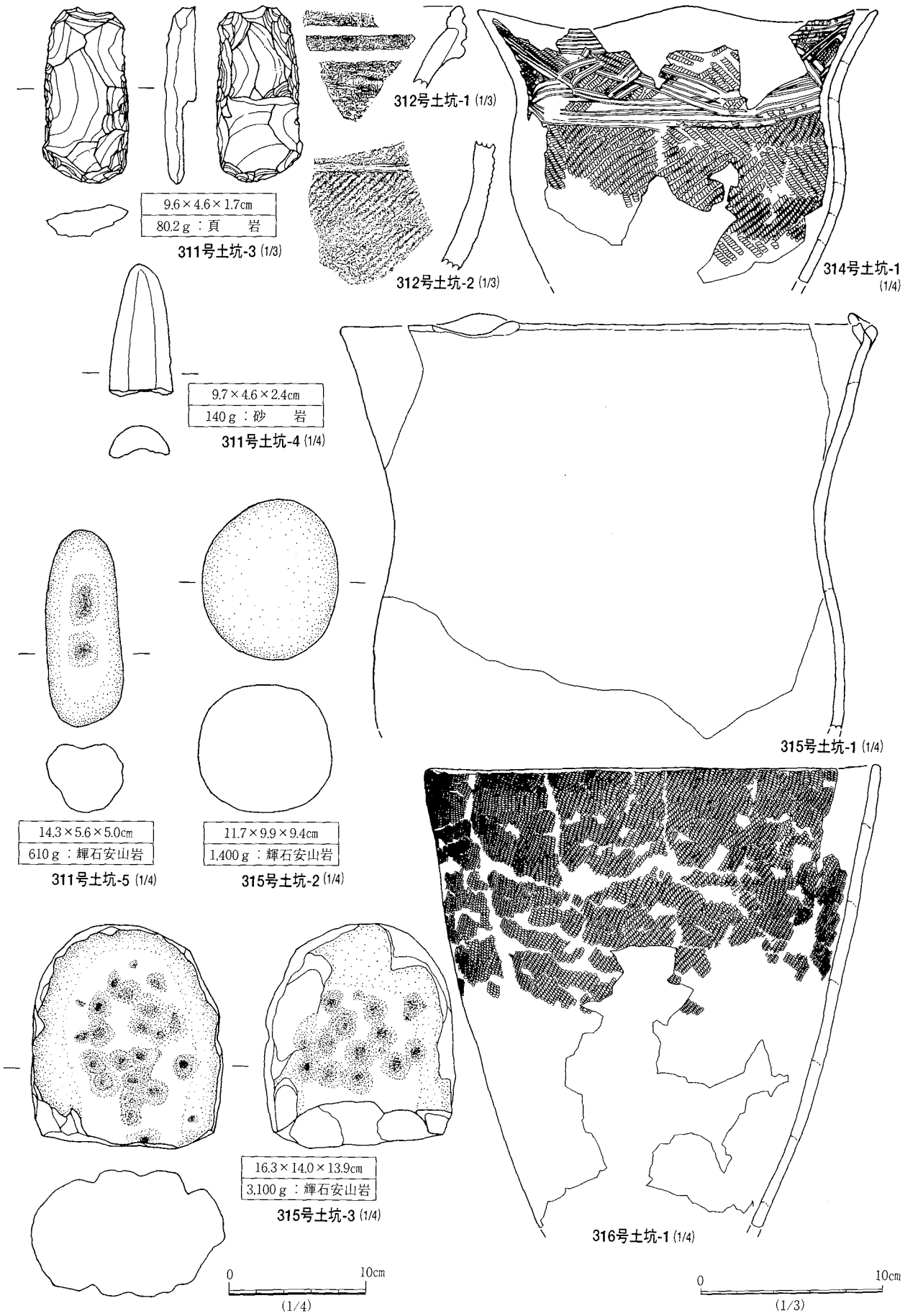
3は、凹石である。

277号土坑　後期

1は、深鉢の口縁部片で、口縁部に幅広の無文部をもうけて沈線を巡らす。内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

285号土坑

1は、滑石製の玉である。



第235図　311・312・314～316号土坑出土遺物

294号土坑　加曽利Ｅ３式

１は、深鉢の胴部片で、３本単位の太沈線による懸垂文間を縦位施文の縄文（ＬＲ）で充填する。内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

297号土坑　加曽利Ｂ式

１は、口縁部がくの字状に内折する波状口縁の深鉢で、波頂部にはＳ字状把手が付き、把手下内面には把手部と同じ円形の窪みが付く。口唇部上面には刻目を付し、内面には段があり、その下に３条の沈線が巡る。胴部上半には幅の狭い帯縄文（ＬＲ）を４条施し、把手下にＳ字状文を２単位施す。Ｓ字状文はのの字文へ変化している。内外面は研磨する。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

２は、口縁部が内湾する大形の深鉢で、口唇部の上面に斜位の刻目を付す。口縁には３山の突起を付し、外面に貼付文、内面には押圧による２つの窪みを施す。口縁部内外面には段を巡らし、胴部と画す。胴部外面は撫で、口縁部と内面は研磨する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

３は、口縁部が内湾する鉢で、口縁部に２条の沈線を施し、間に斜めの刻目を付す。胴部には帯縄文（ＬＲ）を施文する。無文部と内面は研磨する。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は普通で、色調は黄灰色である。

４は、口縁部が内湾する鉢で、把手が付くタイプと見られる。口縁部に３条の沈線が巡り、胴部上半に２本の隆線で大きな渦巻文を施し、その両側に弧状沈線を同心円状に施す。内面は研磨する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

303号土坑　諸磯ｂ式

１は、深鉢の胴部片で、まばらに施文した斜縄文（無節Ｌ）を地文に、集合沈線を横位に多段施文する。内面は軽い研磨を施す。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

303号土坑

１は、凹石である。

306号土坑　諸磯式

１は、口縁部が弱く内湾する深鉢で、頸部の上下を爪形文で区画し、その間を細沈線で分割して、各区画内に交互に斜行する条線を充填する。分割細沈線上には円形刺突を施し、内面は軽い研磨を施す。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黄褐色である。

２は、口縁部が外反する深鉢で、文様は平行沈線による鋸歯状文で構成し、内面は研磨する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

３は、深鉢の胴部片で、外面に斜縄文（ＲＬ）を施し、内面は撫でる。２の胴部と見られる。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

４は、口縁部が外反する深鉢で、文様は条線による波状文で構成し、内面は研磨する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

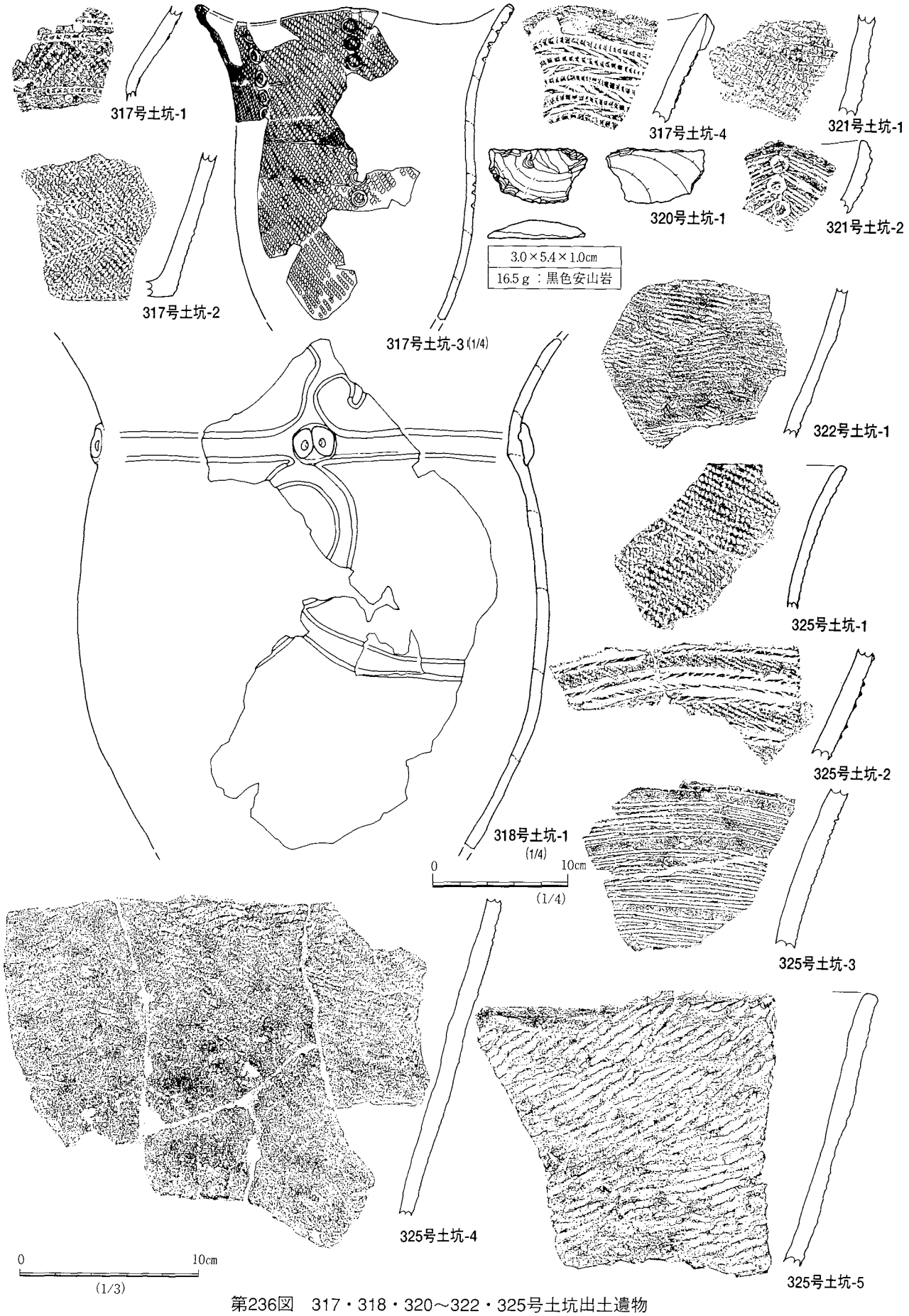
308号土坑　堀之内２式

１は、胴部が直線的に開く深鉢で、口唇部は内折する。口縁下に帯縄文（ＬＲ）を施し、無文部と内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

２は、深鉢の口縁部片で、口縁部に刻目を施した隆線２本を施し、８の字状の貼付文を付す。内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

３は、深鉢の胴部片で、内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は淡褐色である。

４は、深鉢の底部片で、網代痕を残す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は淡褐色である。



第236図　317・318・320～322・325号土坑出土遺物

309号土坑　黒浜式

1は、深鉢の胴部から底部片で、外面に縄文（ＬＲ）を不規則に施文する。内面と底部は研磨を施す。胎土は繊維を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

310号土坑　堀之内２式

1は、胴部がくの字状に内折する鉢で、胴部上半に帯縄文（ＬＲ）と刻目を施した隆線で文様を構成する。底部には網代痕、無文部と内面は粗い研磨を施す。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

311号土坑　堀之内１式

1は、深鉢の胴部片で、３条単位の沈線で渦巻文と懸垂文を施し、その間に縄文（ＬＲ）を充填する。無文部と内面は研磨を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

2は、深鉢の胴部片で、帯縄文（ＬＲ）で文様を構成し、内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

3は、短冊形の打製石斧。4は、磨石の破片か。5は、凹石である。

312号土坑　堀之内１式

1は、深鉢の胴部片で、斜縄文（ＬＲ）を地文に沈線を施し、沈線区画内の縄文を磨り消す。内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色から黒褐色である。

2は、頸部が外反し、口縁部が内折する深鉢で、内傾する口縁部に２本の沈線を施す。内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

314号土坑　黒浜式

1は、頸部が括れる波状口縁の深鉢で、羽状縄文（０段３条ＲＬ・ＬＲ）を地文に頸部に２～３条の平行沈線で菱形文を構成する。内面は研磨する。胎土は繊維・雲母を含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

315号土坑　堀之内２式

1は、頸部が括れる口縁の深鉢で、口縁には内側に湾入した特異な突起を付し、口唇部内面には折り返し状の段を付す。内外面は軽い研磨を施す。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

2は、磨石。3は、多孔石である。

316号土坑　堀之内２式

1は、胴部が直線的に開く深鉢で、胴部上半に斜縄文（ＬＲ）を施す。下半と内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は灰褐色である。

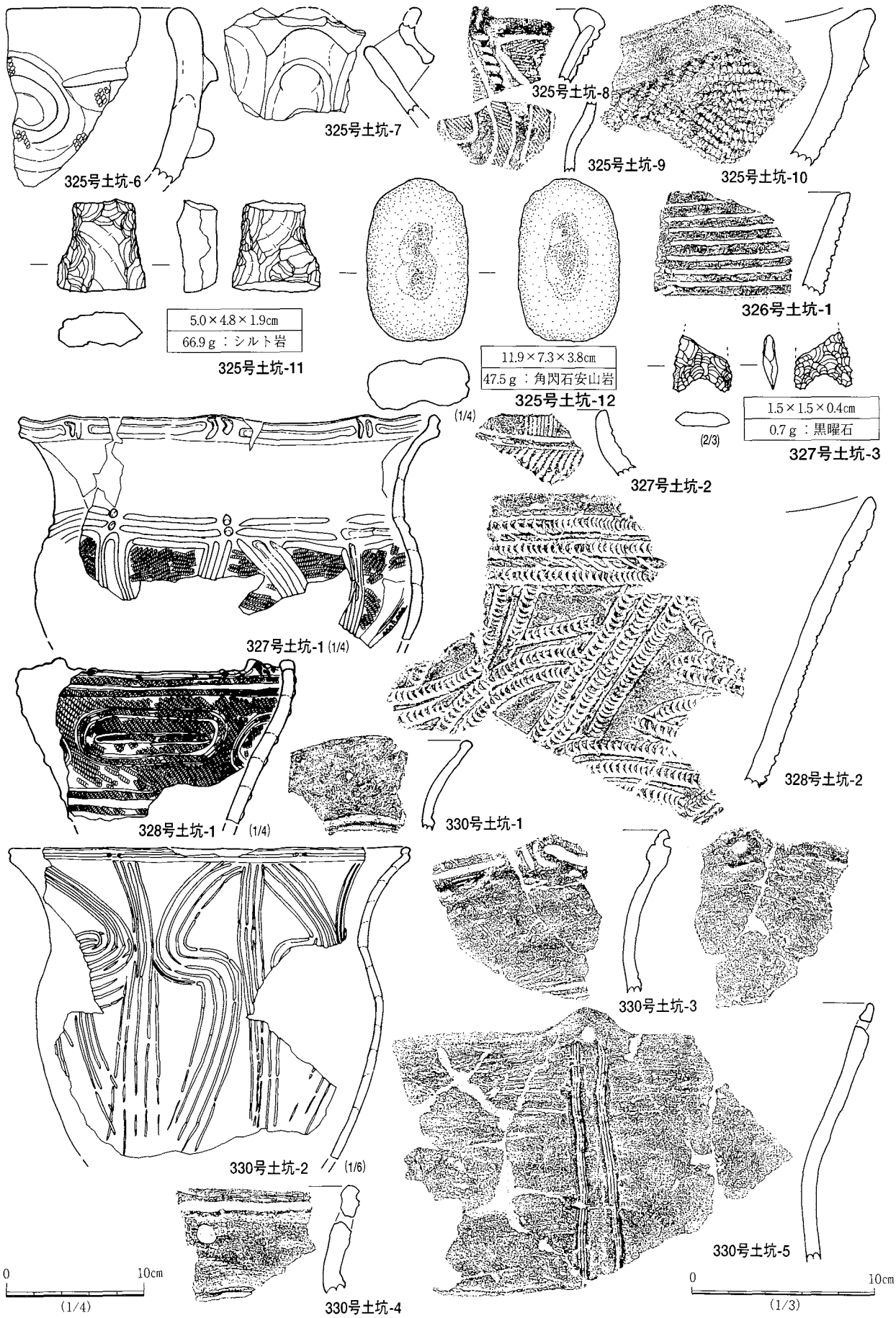
317号土坑　前期

1は、頸部が括れ、口縁部が弱く内湾する深鉢で、菱形羽状縄文（ＲＬ・ＬＲ）の施文帯に合わせて、爪形文で区画文を構成する。爪形文間の縄文は磨り消して、円形刺突を施す。内面は研磨する。胎土は繊維を多量に含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

2は、深鉢の胴部から底部片で、外面に斜縄文（ＲＬ）を施文し、内面と底部に研磨を施す。胎土は片岩・砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は明褐色である。

3は、口縁部が外反する４単位波状口縁の深鉢で、各波頂部には刻目を付す。文様は斜縄文（ＲＬ）を地文に、各波頂下とその間に縦位の円形刺突を施す。地文部には原体端部の結び目が見える。内面は撫でる。胎土は片岩・砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は淡褐色である。

4は波状口縁の深鉢で、口縁部は折り返し状に肥厚する。文様は数条単位の爪形文で構成し、爪形文間には、斜位の刻目を付す。内面は撫でる。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は灰褐色である。



第237図　325～328・330号土坑出土遺物

318号土坑　堀之内１式

１は、頸部が括れる深鉢で、頸部に２本の沈線と眼鏡状の貼付文を施す。頸部と胴部上半に２本の沈線で曲線的なモチーフを構成し、内面は撫でる。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

320号土坑

１は、剥片石器である。

321号土坑　前期

１は、深鉢の胴部片で、外面に斜縄文（０段３条ＲＬ）を施文し、内面は撫でる。胎土は繊維を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

２は、口縁部が内湾する波状口縁の深鉢で、頸部を斜行沈線で構成する。波頂下に円形刺突を縦位に施し、内面は研磨する。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

322号土坑　諸磯ａ式

１は、深鉢の胴部片で、口縁部に条線で文様帯を構成し、胴部に斜縄文（無節Ｒ）を施す。内面は粗い研磨を施す。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

325号土坑

１は、口縁部が外反する波状口縁の深鉢で、外面に斜縄文（ＲＬ）を施文し、内面は撫でる。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

２は、深鉢の胴部片で、斜縄文（ＲＬ）を地文に、２～３条単位の浮線文を横位に多段施文する。内面は研磨を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

３は、深鉢の胴部片で、集合沈線を横位に多段施文する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は灰褐色である。

４は、胴部上半が僅かに内傾する深鉢で、外面に斜縄文（無節Ｌ）を施文し、上半は横位施文、下半は縦位施文で、胴部下半には施されない。内面は粗く撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は褐色である。

５は、４と同一個体である。

６は、口縁部が内湾する深鉢で、隆帯に渦巻文を構成する。隆帯の一部には縄文（ＲＬ）を施し、内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

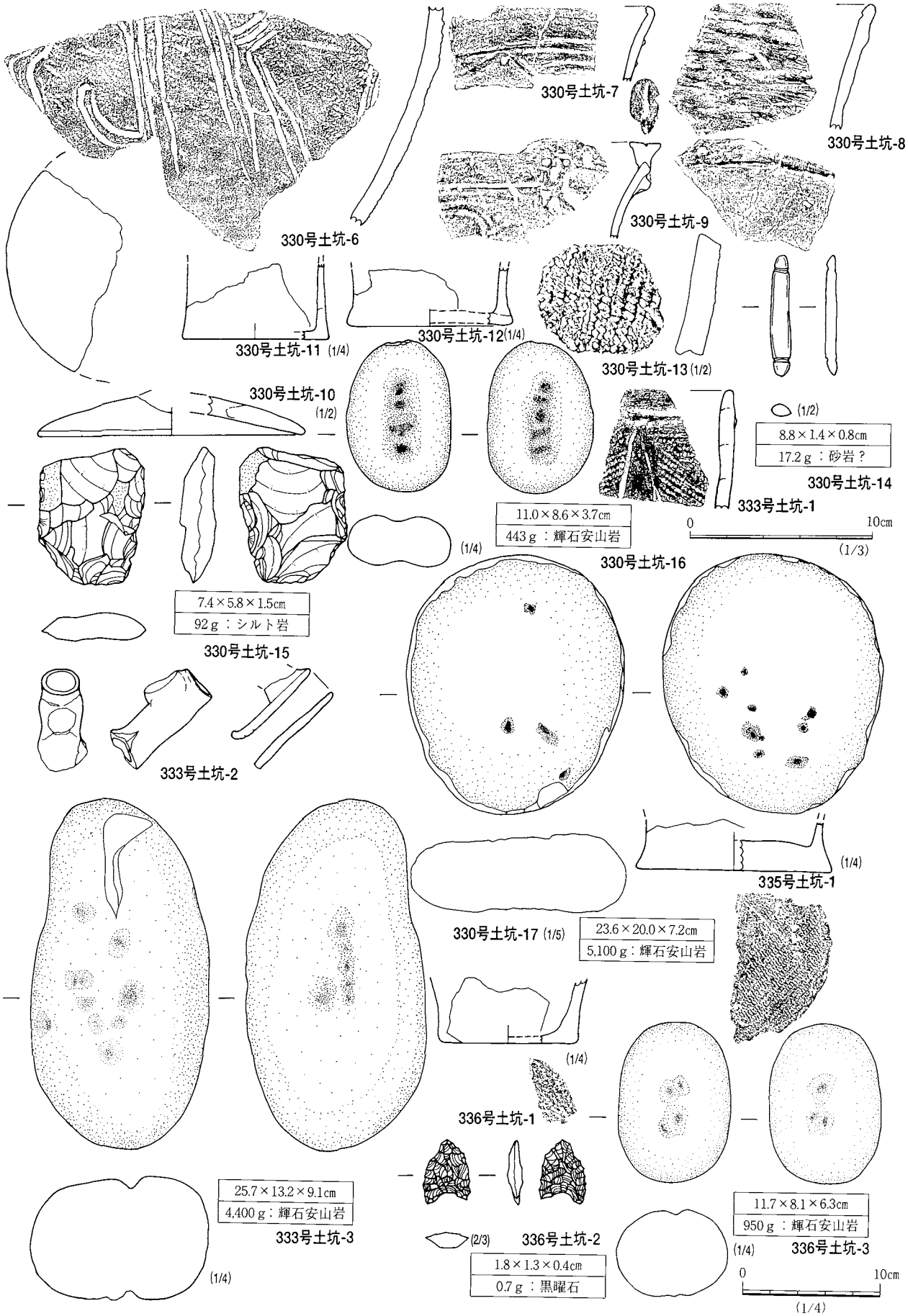
７は、南瓜形の浅鉢で、口縁部には吊手紐を通す環状の把手を付設する。文様は、２本単位の断面三角形の微隆帯で構成する。内外面は共に研磨を施す。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は明褐色である。

８は、口縁部が外傾する深鉢で、口唇部は内折する。帯縄文（ＬＲ）で構成する胴部の文様は、斜めの刻目を施した縦位隆帯で分割し、隆帯は口唇部上にせり上がり突起となる。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

９は、８の胴部下半である。

10は、口縁部が内湾する波状口縁の深鉢で、口唇部内端は突出する。口縁無文帯下に隆帯を施し、以下に縄文（ＬＲ）を付し、この施文は隆帯上にも及ぶ。内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

11は、打製石斧片。12は、凹石である。



第238図　330・333・335・336号土坑出土遺物

326号土坑　黒浜式

1は、口縁部片で、口縁部下に平行沈線を数段施す。胎土は繊維・細砂粒を含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

327号土坑

1は、頸部が括れ、口縁部が外反する小波状口縁の深鉢で、くの字状に内折する。口唇部外面には沈線を施し、波頂部下の短沈線を繋ぐ。頸部には波頂部の位置に2個1対の円形刺突を施し、その間を2本の沈線で繋ぎ、胴部には3本の沈線による磨り消し縄文手法の文様を構成する。無文部と内面に研磨を施す。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色から黒褐色である。

2は、胴部に強い張りを持ち、口縁部が短く外反する深鉢である。口縁部下に半截竹管による平行沈線を1本巡らし、口縁部には貝殻腹縁を使用した集合沈線を施す。平行沈線の下位には貝殻腹縁を連続的に縦位に押圧する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は茶色である。

328号土坑　諸磯b式

1は、胴部に強い張りを持ち、口縁部には浮線による刻目を施し、片流れ状の突起を付す。斜縄文を地文に、口唇部下と頸部に2本の浮線文を施し、その間に横位沈線を伴う楕円区画文を構成する。浮線文には縄文（RL）を施し、内面は研磨する。胎土は片岩・砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は茶色である。

2は、波状口縁の深鉢で、3単位の爪形文で菱形状の区画文を構成し、区画内にも爪形文を充填する。胎土は砂粒を含み、焼成は普通で、色調は褐色である。

330号土坑　堀之内式

1は、口縁部が外反する深鉢で、口唇部内面に段を持つ。口縁部は無文化し、頸部に2本の沈線を施す。内外面は軽く研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は淡褐色である。

2は、頸部が括れ、口縁部が外反する深鉢で、内折する口唇部外面を巡る沈線は、端部に施した刺突で断続する。胴部には4本単位の沈線で懸垂文を施し、その間に同沈線で入組み状の文様を施文し、内外面は軽く研磨する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は灰褐色である。

3は、口縁部が外反する深鉢で、口縁には山形の小突起が付き、突起の内外面には刺突や沈線で円形文を施し、内折する口唇部外面の沈線は、この円形文が起点となる。口縁部は無文化して、頸部に2本の沈線を施す。内外面は撫でる。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は淡褐色である。

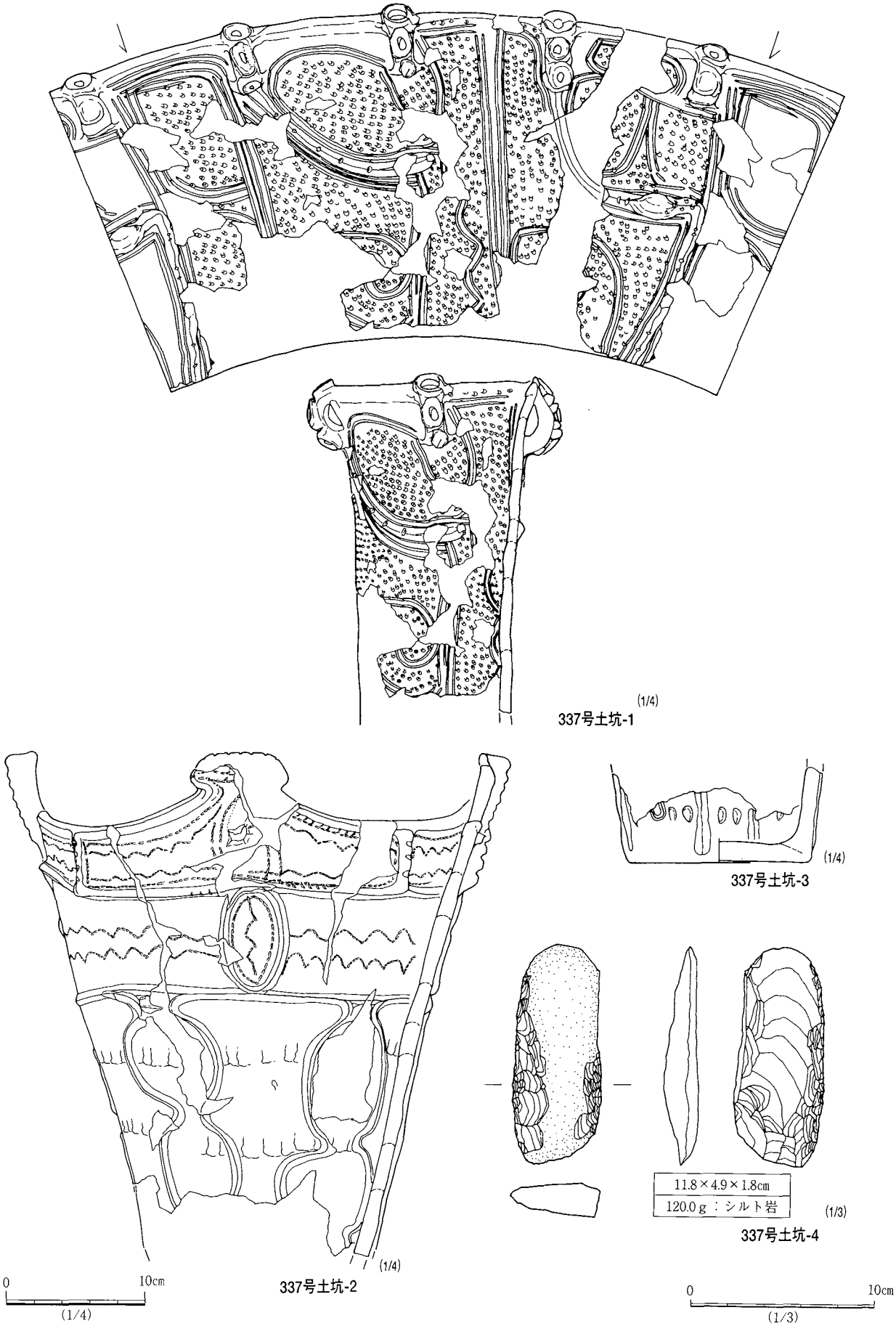
4は、口縁部が外傾する深鉢で、口唇部内面に段が付く。口唇部外端と頸部に沈線を施し、口縁部の円孔は補修孔が確認される。内外面は粗く研磨される。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

5は、口縁部が外反する深鉢で、口縁には円孔を施した山形の小突起を付す。口縁部は突起下に施した2本の垂線以外は無文となる。内外面粗く研磨する。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

6は、深鉢の胴部片で、2～3本の沈線で渦巻、J字、斜行線などの図形を伴う懸垂文を構成し、間に縄文（LR）を充填する。無文部と内面は研磨する。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

7は、口縁部が外反する深鉢で、口唇部は内折する。口縁にはS字文がモチーフ化された突起を付し、突起下には8の字状の貼付文と2個の円形刺突を施す。口唇部下に無文帯を設けて隆線を施し、以下に同隆線で文様を構成する。内面は研磨する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黒褐色である。

8は、口縁部が外反する深鉢で、外面に斜行する指撫でを施す。内面は軽い研磨を施す。胎土は細かい砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。



第239図　337号土坑出土遺物

9は、7と同一個体である。

10は、土製の蓋で、内外面に研磨する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色から黒褐色である。

11は、深鉢の胴部から底部片で、内外面に入念な撫でを施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

12は、深鉢の胴部片で、内外面に入念な撫でを施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

13は、土製円盤で、土器片を利用する。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黄褐色から黒褐色である。

14は、石棒のミニチュアで、両頭が確認される。15は、打製石斧片。16は、凹石。17は、多孔石である。

333号土坑　後期

1は、口縁部が僅かに内湾する深鉢である。口縁部に断面三角形の隆帯を施し、胴部に大柄な鋸歯状区画を構成して、区画内に縄文（ＬＲ）を充填する。無文部と内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

2は、注口土器の注口部で、口縁と注口端部を繋ぐ把手部が欠落する。外面は研磨を施す。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は明褐色である。

3は、大形の多孔石である。

335号土坑　後期

1は、深鉢の底部片で、端部が突出し、底面に網代痕が付く。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

336号土坑　後期

1は、深鉢の底部片で、端部がやや突出し、底面に網代痕が付く。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

2は、無茎の石鏃。3は、凹石である。

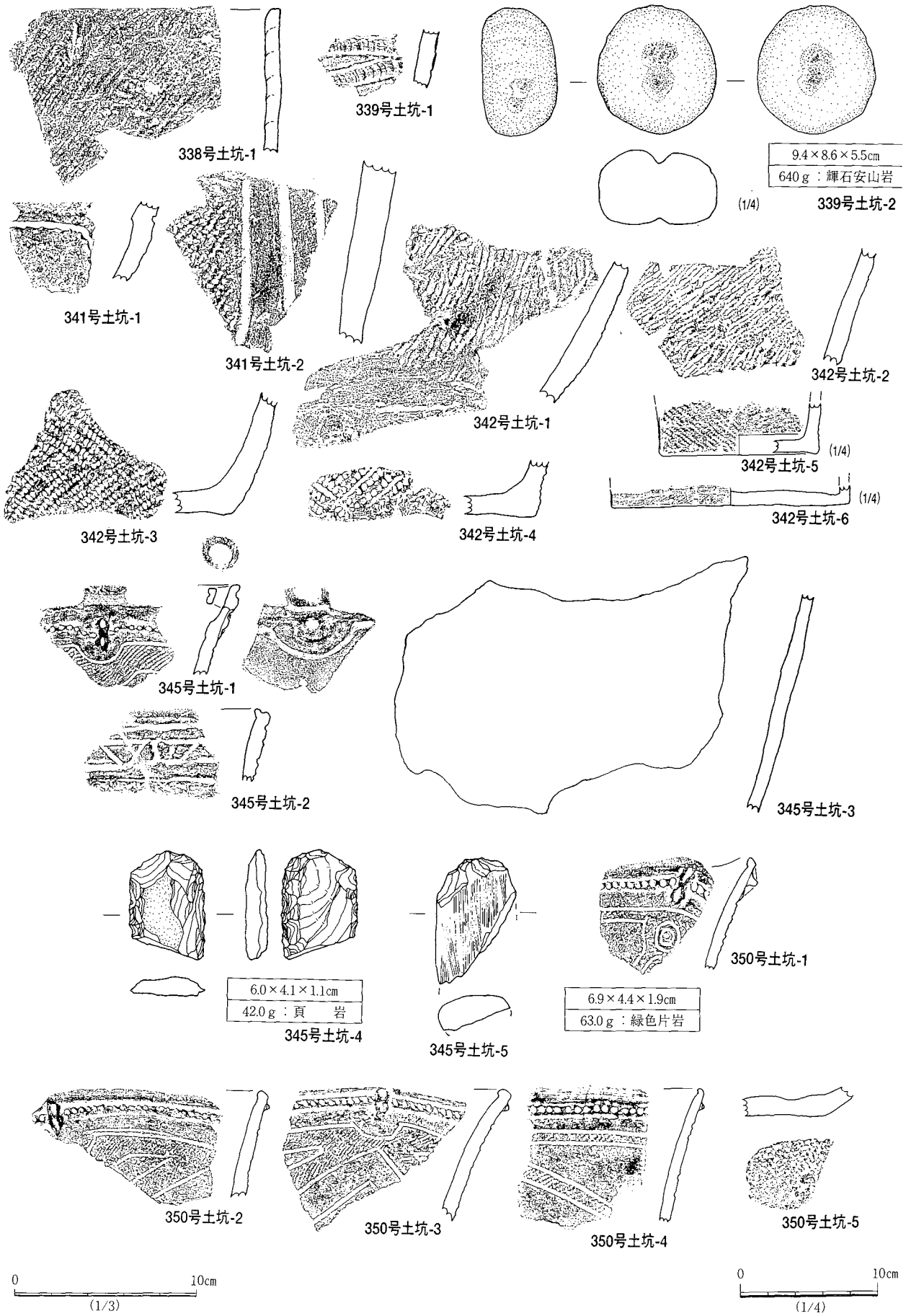
337号土坑　中期

1は、口縁部が小さく外傾する円筒状の深鉢で、口縁部の内面は肥厚する。口縁部には、環状の貼付文を3個施した橋状把手が4単位付設される。文様は、把手からのびる2本のクランク状隆帯懸垂文を中心に、2条単位の平行沈線で縦位に区画する。隆帯懸垂文下には渦巻文、その他には方形状の区画文を構成し、区画内には円形刺突を充填施文する。内面は撫でる。胎土は片岩・砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

2は、胴部が直線的に開く4単位波状口縁の深鉢で、波頂部にはＳ字状隆帯と結節沈線を施した楕円形の把手を付す。口縁部、頸部、胴部を隆帯で区画し、口縁部は波頂間に刻目が付く縦位隆帯で分割する。頸部と胴部は2本の波状隆帯で分割し、口縁部と、頸部区画内には、2条単位の結節沈線による波状文を施す。また、頸部と胴部には、波状隆帯の屈曲部に合わせて幅広の刺突列を施す。内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

3は、深鉢の胴部から底部片で、2本単位の隆帯懸垂文を4単位施し、底部上5㎝の位置に爪形状の刺突列を1列施文する。内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は橙色である。

4は、短冊形の打製石斧である。



第240図　338・339・341・342・345・350号土坑出土遺物

338号土坑　黒浜式

1は、深鉢の口縁部片で、口唇部は角頭状である。外面に斜縄文（ＬＲ）を施し、内面は研磨する。胎土は片岩・繊維を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

339号土坑　黒浜式

1は、深鉢の胴部片で、幅広の連続爪形文を施す。胎土は細砂粒を少量と繊維を含み、焼成は良好で、色調は茶褐色である。

2は、凹石である。

341号土坑　中期

1は、口縁部が内湾する深鉢で、口唇部は外傾する。口縁部には隆帯で楕円区画文を施文し、隆帯の内側に沿う形でペン先状の押印文を1列施す。胎土は雲母・砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は明褐色である。

2は、深鉢の胴部片で、3本の沈線による懸垂文間に縦位施文の斜縄文（ＲＬ）を充填する。内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

342号土坑　黒浜式

1・2は、深鉢の胴部片、3～6は深鉢の胴部～底部片である。

1は、外面には斜縄文（無節Ｌ）を施文する。胎土は繊維を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

2は、外面に斜縄文（直前段撚りＬＬ）を施し、内面は粗く撫でる。胎土は繊維を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

3は、外面に菱形構成の羽状縄文（ＲＬ・ＬＲ）を施し、内面及び底面は研磨する。胎土は繊維を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

4は、外面に羽状縄文（付加条第1種ＲＬ＋1、ＬＲ＋ｒ）を施し、内面及び底面は研磨する。胎土は繊維・片岩を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

5は、外面に菱形構成の羽状縄文（ＲＬ・ＬＲ）を施し、内面及び底面は研磨する。胎土は繊維を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

6は、斜縄文（或いは菱形羽条か）を地文に、平行沈線で文様を構成し、底面は研磨する。胎土は繊維を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

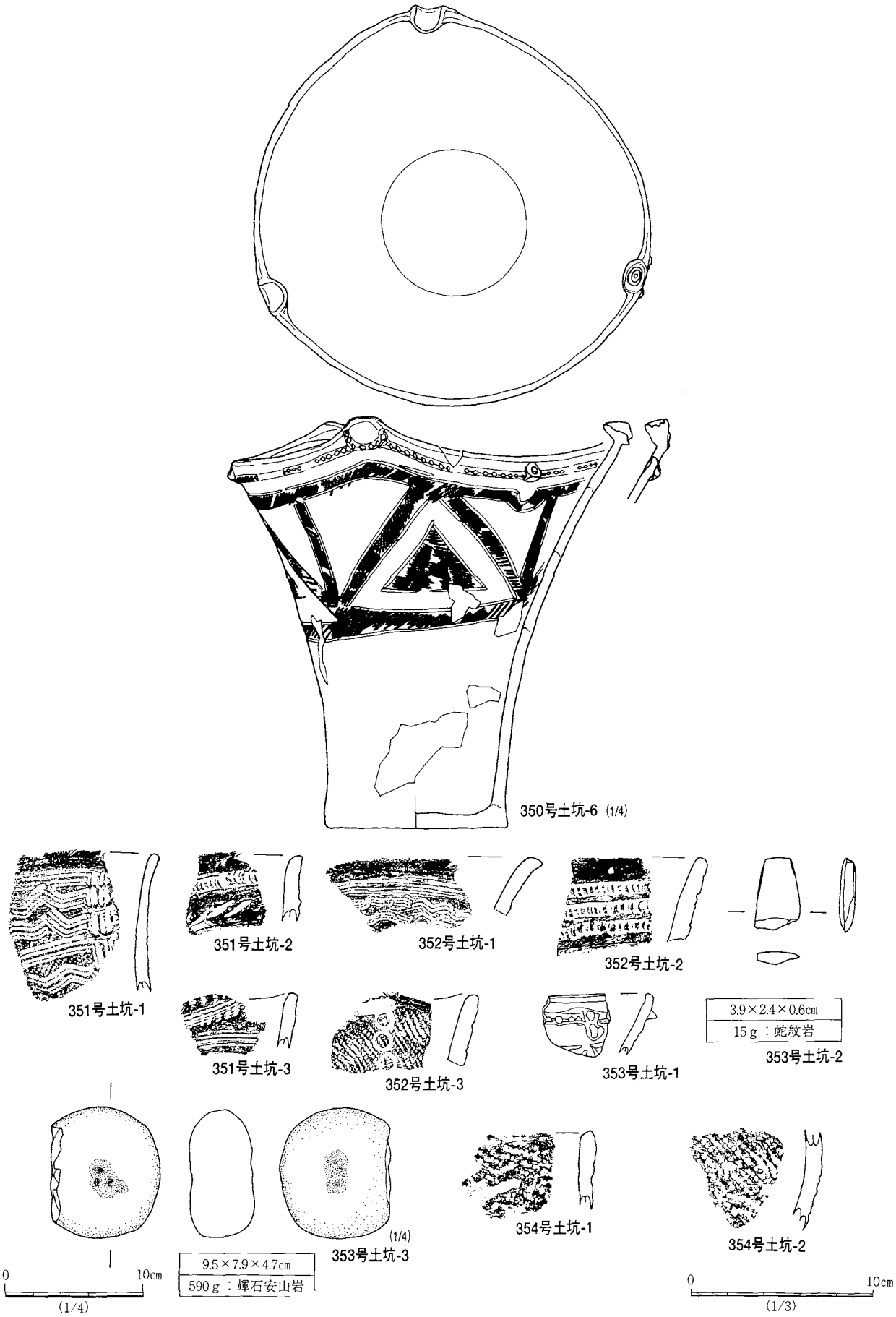
345号土坑　堀之内2式

1は、胴部が外傾する深鉢で、口唇部の内面に段が付く。口縁に円環状の突起を施し、その両側の口唇部に平坦面をつくる。口縁部には刻目の付く隆帯を施し、突起下に8の字状の貼付文を施す。文様は帯縄文（ＬＲ）で構成するが、貼付文下は弧状に迂回しており、内面の突起下にも同様に弧状の貼り付けを施す。内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は灰褐色である。

2は、胴部が外傾する深鉢で、口唇部の内端は突出し、上面に沈線を施す。口縁部に数本の沈線を施し、そのうちの2帯目の沈線間に鋸歯状沈線を加える。内外面は粗く研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は灰褐色である。

3は、深鉢の胴部片で無文である。内外面は研磨が施され光沢がある。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

4は、打製石斧片。5は、磨製石斧片である。



第241図　350～354号土坑出土遺物

350号土坑　堀之内２式

１は、口縁部が外反する波状口縁の深鉢で、口唇部の内端は突出する。口縁部に刻目が付く隆帯を施し、波頂下に８の字状の貼付文を付す。文様は帯縄文（ＬＲ）で波頂下に円文を構成し、無文部と内面を研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は灰褐色である。

２は、胴部が外傾する深鉢で、口唇部の内端は突出する。口縁部を巡る刻目が付いた隆線に、８の字状の貼付文を施し、文様は帯縄文（ＬＲ）で三角形の区画文を構成する。無文部と内面は研磨を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

３は、２と同一個体である。

４は、１と同一個体である。

５は、底部が方形状の鉢と見られ、底面に網代痕が付き、内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

６は、胴部上半が外反する３単位波状口縁の深鉢で、口唇部は内面に突出する。波頂部には内側へ折り曲げた半円形の突起を付すが、そのうちの１つは外面に円形の隆帯、上面に円文を施した突起となる。口縁部には刻目を付した隆帯を巡らせ、波頂間に８の字状貼付文を施す。文様は胴部上半に帯縄文（ＬＲ）による三角文で構成し、無文部と内面は研磨する。底部には網代痕が残る。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

351号土坑

１は、深鉢の口縁部片で、縄文を地文に沈線を多段施文する。胎土は繊維を含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

２は、深鉢の口縁部片で、外面に爪形文が確認される。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

３は、波状口縁の深鉢で、口唇部上面に刻み、直下に集合沈線により文様を構成する。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

352号土坑

１は、深鉢の口縁部片で、集合沈線を波状に施文する。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

２は、深鉢の口縁部片で、爪形文を多段施文する。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

３は、波状口縁の深鉢で、縄文（ＲＬ）を縦位の円形刺突列を施す。内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

353号土坑

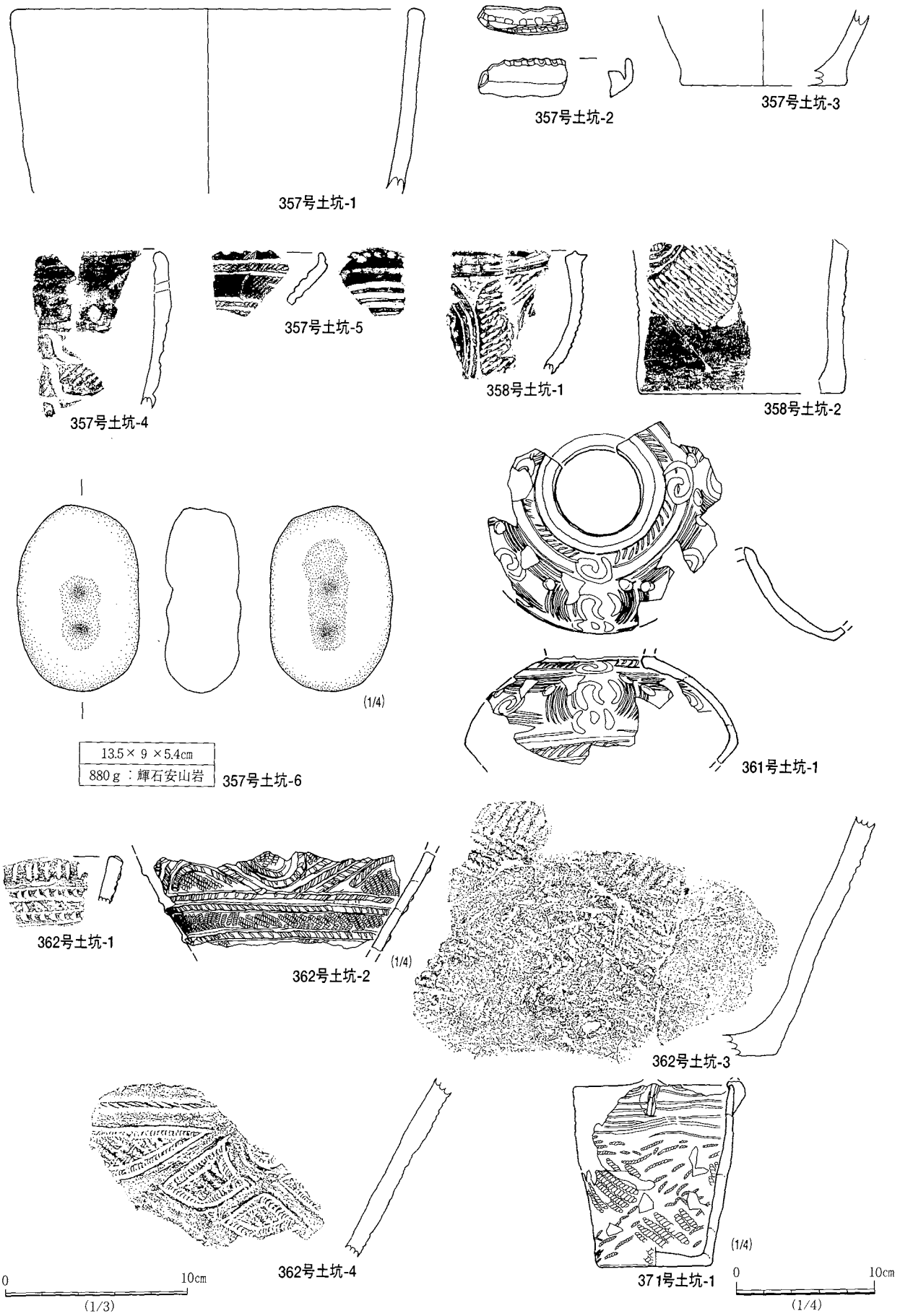
１は、鉢の口縁部片で、刻みを付した隆帯が施される。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

２は、蛇紋岩製の小形磨製石斧。３は、凹石である。

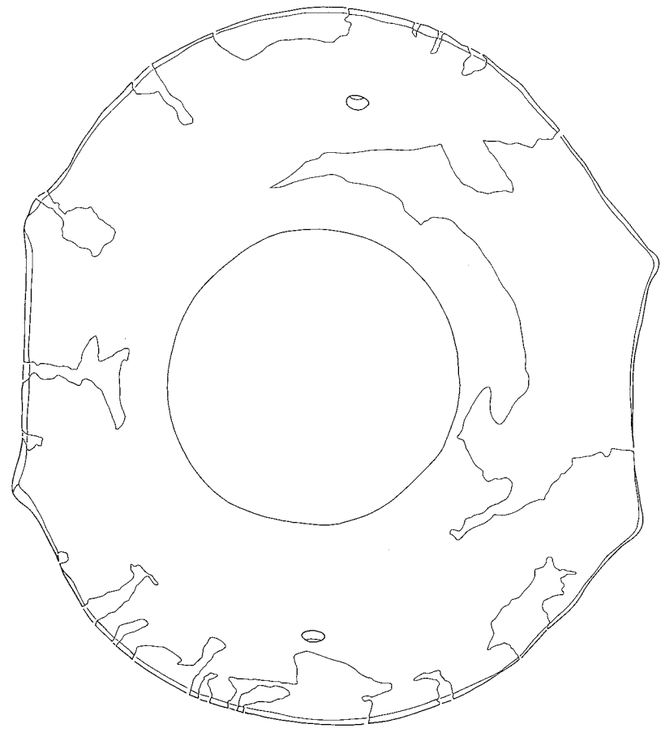
354号土坑

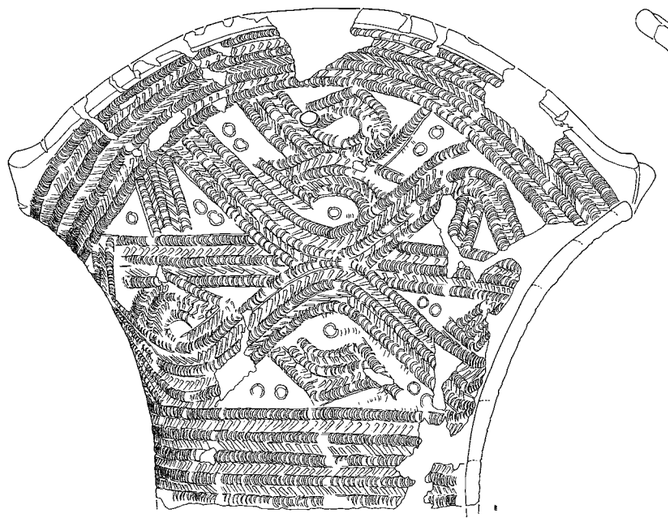
１は、深鉢の口縁部片である。外面は縄文（ＲＬ）を施文し、内面を研磨する。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

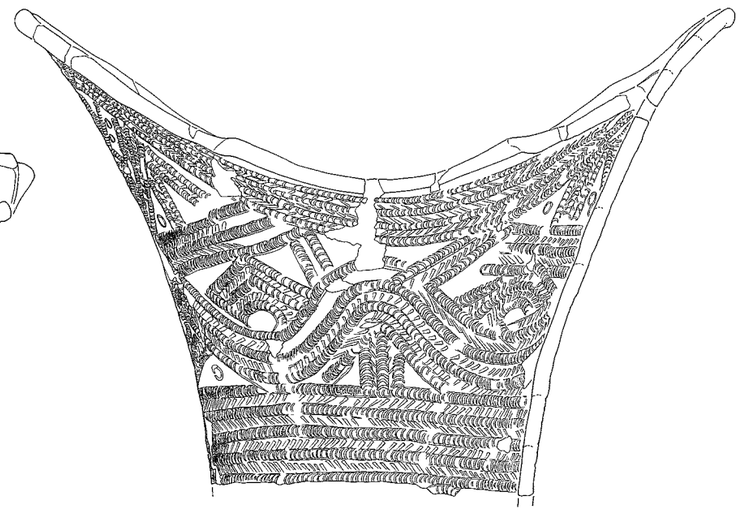
２は、鉢の胴部片である。外面は縄文（ＲＬ）を施文し、内面を研磨する。胎土は砂粒を含み、色調は褐色である。

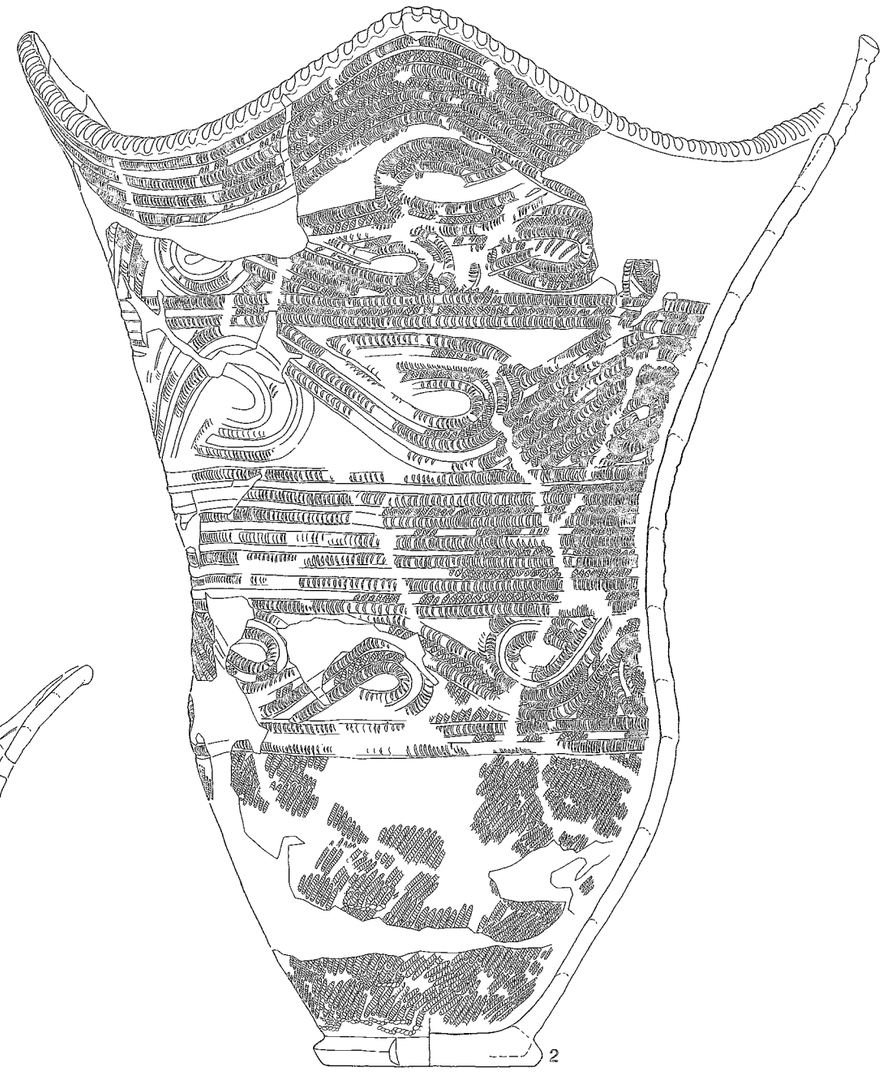


第242図　357・358・361・362・371号土坑出土遺物









0 10cm
(1/4)

第243図　365号土坑出土遺物

357号土坑

1は、無文の深鉢である。内外面共に撫でる。胎土は砂粒を含み、焼成は普通で、色調は褐色である。

2は、口縁部片である。口唇部上面に刻目、内面に円形刺突列を施し、内外面は研磨する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

3は、深鉢の底部片である。内外面を撫でる。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

4は、深鉢の口縁部片で、口唇部直下に円孔を穿ち、内外面共に研磨する。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

5は、口縁部片で、口唇部上面に刻目、外面に帯縄文、内面に沈線文をそれぞれ施し、内外面共に研磨する。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

6は、凹石である。

358号土坑

1は、深鉢の口縁部片である。口唇下に隆帯を巡らし、縄文を施文する。内面に研磨を施す。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

2は、1の下半部と見られる。

361号土坑　加曽利Ｂ１式

1は、体部が算盤玉状の注口土器である。文様は頸部下に斜沈線を巡らし、体部に集合沈線とのの字状文で文様帯を構成する。集合沈線の屈曲部には浅い円形の刺突を加え、外面は研磨して光沢があり、一部に黒色漆が残る。内面は撫でる。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

362号土坑　諸磯ｂ式

1は、深鉢の口縁部片で、爪形文と斜位の刻目を交互に巡らし、口唇部に刻目を施す。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

2は、口縁部が内湾する深鉢で、結束羽状縄文（ＲＬ・ＬＲ）を地文に、口縁部に2条単位の浮線文で、渦巻文を伴う菱形モチーフを施文する。浮線文には斜位の刻目を付し、内面は撫でる。胎土は片岩・砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

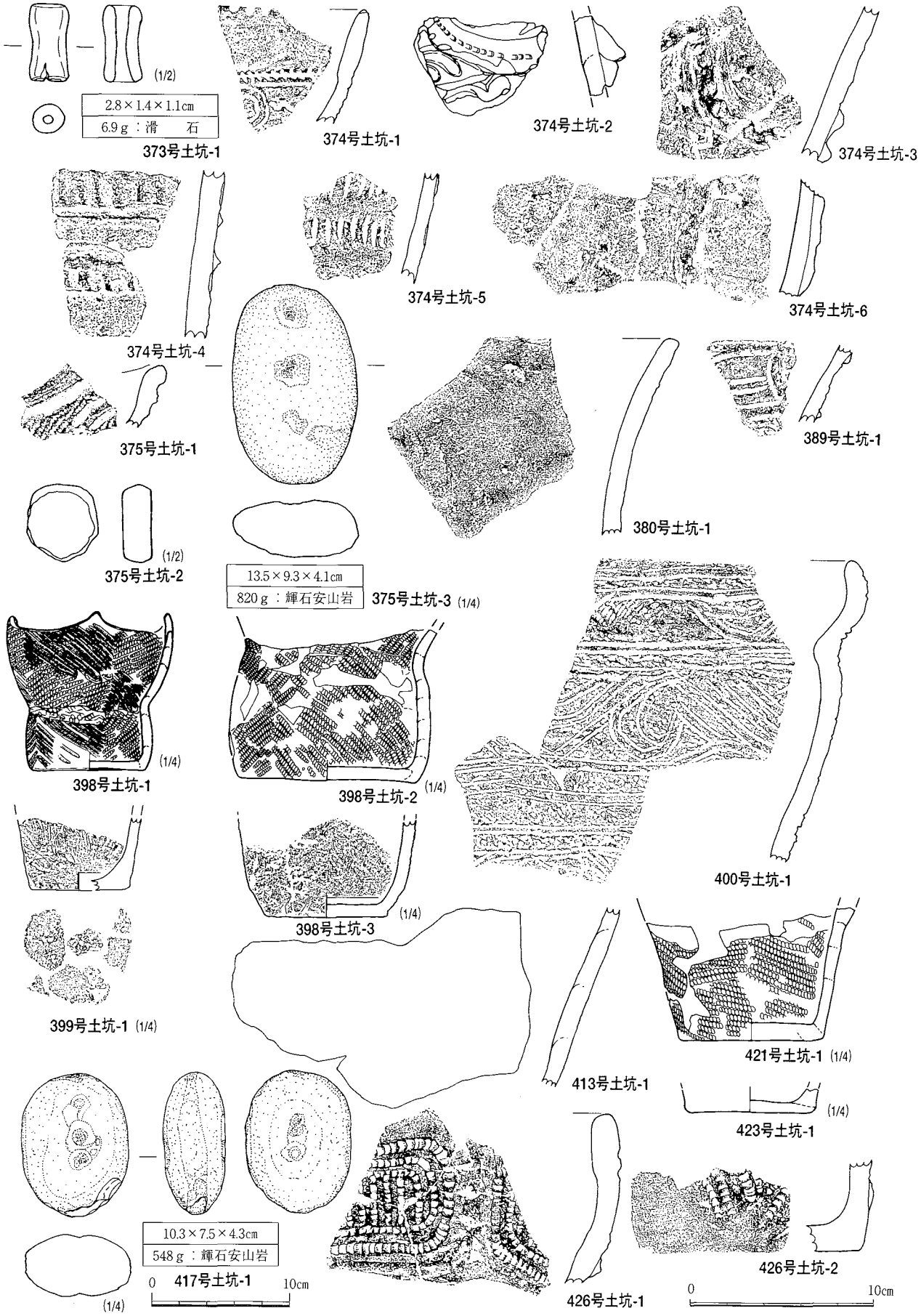
3は、深鉢の底部片で、結節縄文（ＬＲ＋ＲＬ）を横位に施文し、羽状縄文を構成する。胎土は砂粒を含み、焼成は不良で、色調は灰褐色である。

4は、深鉢の胴部片である。爪形文で菱形状の区画文を構成する。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

365号土坑　諸磯ｂ式

1は、口縁部が外反する2単位大波状口縁の深鉢で、波頂下には大きな円孔を施し、波底部には山形の小突起を2つづつ付す。口縁部に4条、胴部に5条の爪形文を施して文様帯を画し、その間に3条単位の爪形文で波状文様と蕨手文を構成する。爪形文間には斜位の刻目を付し、空白部には円形刺突を施す。内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は淡褐色である。

2は、口縁部が僅かに内湾しながら開く4単位波状口縁の深鉢である。外削ぎ状で、幅広の口唇部上面に刻目が付き、2～3条の爪形文による蕨手文を伴う波状文を頸部に2帯、胴部に1帯施文する。各文様は同様の爪形文で区画し、爪形文間には縄文を施文する。胴部にも斜縄文を施すが、一部は文様帯の地文となる。底部端には突帯を施すが、対向する2か所は突帯が省かれ、窪みが付く。底面と内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。



第244図　373～375・380・389・398～400・413・417・421・423・426号土坑出土遺物

371号土坑　黒浜式

1は、小形の深鉢で、口縁部に山形と貼付文を伴う突起を1対づつ付す。口縁部に平行沈線を、胴部に菱形の羽状縄文を施し、底部と内面は研磨する。胎土は繊維を含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

373号土坑

1は、滑石製の玉で、管玉状である。

374号土坑　阿玉台Ⅰｂ～Ⅱ式

1は、口縁部が僅かに内湾する深鉢で、口縁には刻目を施した鰭状の把手を付す。文様は口縁部に平行沈線と爪形文で区画文を構成し、区画内に鋸歯状沈線を施す。内面は撫でる。胎土は片岩・砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

2は、深鉢の口縁部片で、刻目を施した鰭状隆帯で楕円区画文を構成し、隆帯の内側に押印文を施す。内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

3は、深鉢の胴部片で、胴部に弧状の隆帯懸垂文と鋸歯状沈線を施す。隆帯には刻目を付し、内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

4は、深鉢の胴部片である。文様はひだ状痕に沿って、断面三角形の隆帯を横位に施し、内面は撫でる。胎土は片岩・砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

5は、深鉢の胴部片で、胴部に幅広の爪形状刺突列を2列施し、内面は撫でる。胎土は雲母・砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

6は、深鉢の胴部片で、胴部に押圧を施した隆帯で懸垂文を施す。内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は明褐色である。

375号土坑　加曽利Ｅ３式

1は、口縁部が内湾する波状口縁の深鉢で、文様は太沈線で施し、区画内に縄文（ＬＲ）を充填する。内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

2は、土製円盤で、土器片を使用する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は灰褐色である。

3は、凹石である。

380号土坑

1は、口縁部が外反する深鉢と見られ、内外面を軽く研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

389号土坑　勝坂1式

1は、深鉢の胴部片である。文様は隆帯で多段に区画文を構成し、区画内に2本の沈線を施す。隆帯は沈線や押印文で縁取る。内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

398号土坑　黒浜式

1は、頸部が括れ、口縁部が内湾しながら開く4単位波状口縁の深鉢である。胴部下半が欠落したような特異な形態で、底部は上げ底を呈する。外面全体に菱形構成の羽状縄文を施文し、頸部に刺突状の痕跡があるが、判読できない。内面は撫でる。胎土は繊維を多量に含み、焼成は普通で、色調は黄褐色である。

2は、頸部が括れる深鉢である。胴部下半が欠損したような特異な形態である。外面に菱形構成の羽状縄文を施し、内面は撫でる。胎土は繊維を多量に含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

3は、深鉢の胴部から底部片である。文様は菱形構成の羽状縄文（無節Ｌ・Ｒ）を施し、内面は研磨する。胎土は繊維・片岩を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

399号土坑　晩期？

1は、深鉢の胴部から底部片で、外面に縦位の条痕状整形痕を残す。底面は研磨、内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

400号土坑　諸磯ｂ式

1は、頸部がくの字状に折れる深鉢で、斜縄文（ＲＬ）を地文に、２本の平行沈線で横帯区画を施し、間に渦巻文と波状文を施文する。内面は研磨する。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

413号土坑

1は、深鉢の胴部片で、無文である。外面は撫で、内面に粗い研磨を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

417号土坑

1は、凹石である。

421号土坑　黒浜式

1は、深鉢の胴部下半片で、外面に斜縄文（ＲＬ・Ｒ）を施し、内面は撫でる。胎土は繊維を多量に含み、焼成は普通で、色調は黄褐色である。

423号土坑　中期

1は、深鉢の胴部下半片で、内面は撫でる。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

426号土坑　中期

1は、口縁部が内湾する深鉢で、口縁には二山の突起を付す。口縁部に隆帯と２～３列の押印文で楕円区画文を施し、区画内を同じ押印文で充填する。縦位の隆帯部には帯状の粘土を貼り付けて突起状に加飾し、内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

2は、深鉢の胴部から底部片で、斜行する隆帯の両側に２列の押印文を施す。１の底部と見られる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

3は、把手で、Ｓ字状の鰭に刻目と押印文を施す。胎土は雲母・砂粒を少量に含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

4は、深鉢で、口唇部の内面が肥厚する。口縁には刻目が付くヒレ状突起を付し、突起から続く刻目が付いた隆帯で分割する。口縁部下を巡る隆帯との間に平行沈線で楕円区画文を施し、口唇部下の平行沈線には爪形文による縁取がなされる。区画内には片端部に渦巻文、中央に鋸歯状沈線を施す。頸部には幅の狭い楕円区画文を構成し、胴部には２条の平行沈線区画内に斜格子沈線を充填する。胴部区画内の隅には三角形の印刻文を施し、内面は撫でる。胎土は片岩・砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

428号土坑　中期

1は、深鉢で、口縁部に巻貝状の突起を付す。隆帯と幅広の押印文で楕円区画文を施し、区画内をペン先状の押印文で充填する。内面は研磨する。胎土は片岩を多量に含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

2・3は、1と同一個体である。

4は、口縁部が弱く外傾する深鉢で、口縁部に１条の押印文で幅の狭い楕円区画文を施し、内面には、印刻風の深い沈線を施す。内面は撫でる。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

5．深鉢の胴部片で、低隆帯や平行沈線で多帯区画し、区画内に斜格子や三角印刻文を施す。内面は撫でる。胎土は片岩を多量に含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

6は、短冊形の打製石斧である。

431号土坑　諸磯ｂ式

１は、深鉢。２～３条単位の爪形文で、波状文を構成し、爪形文間には刻目を付す。内面は研磨を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

441号土坑　阿玉台Ⅱ式

１は、波状口縁の深鉢で、Ｓ字状の扇状把手を付す。隆帯や口唇部に沿って１列の押印文を施し、胴部にヒレ状の整形痕を残す。内面は撫でる。胎土は雲母・砂粒を含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

445号土坑

１・２は、抉状耳飾りを、勾玉としたものか。

448号土坑　堀之内式

１は、頸部がくの字状に外折する深鉢で、口唇部は内折する。口縁には沈線と円孔でＳ字状の小突起を付し、口唇部外端には沈線が巡り。内面は撫でる。胎土は細砂粒を含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

２は、注口土器の把手である。縁辺部が肥厚する作りで、平坦部は入念に研磨する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は灰褐色である。

３は、底部片で、網代痕が付く。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

449号土坑

１は、滑石製の玉で、側面に沈線が巡る。

450号土坑　諸磯ｂ式

１は、深鉢で、斜縄文（ＲＬ）を地文に、３本単位の浮線文を施す。浮線文には斜位の刻目を付し、浮線間には刺突列を加え、内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

453号土坑　加曽利Ｂ２式

１は、深鉢で、口唇部は内面に突出する。幅広の帯縄文（ＬＲ）間に蛇行沈線と横沈線で表現する。指頭状の刻目を付した隆帯を施し、内面は撫でる。胎土は片岩・砂粒を含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

457号土坑

１は、石皿で、表裏両面に凹みが確認される。

458号土坑　加曽利Ｂ式

１は、口縁部が内傾する鉢で、口縁部下と胴部屈曲部に帯縄文（ＬＲ）を１帯巡らし、間に帯縄文と対弧文を組合わせて文様を構成する。内外面は研磨する。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

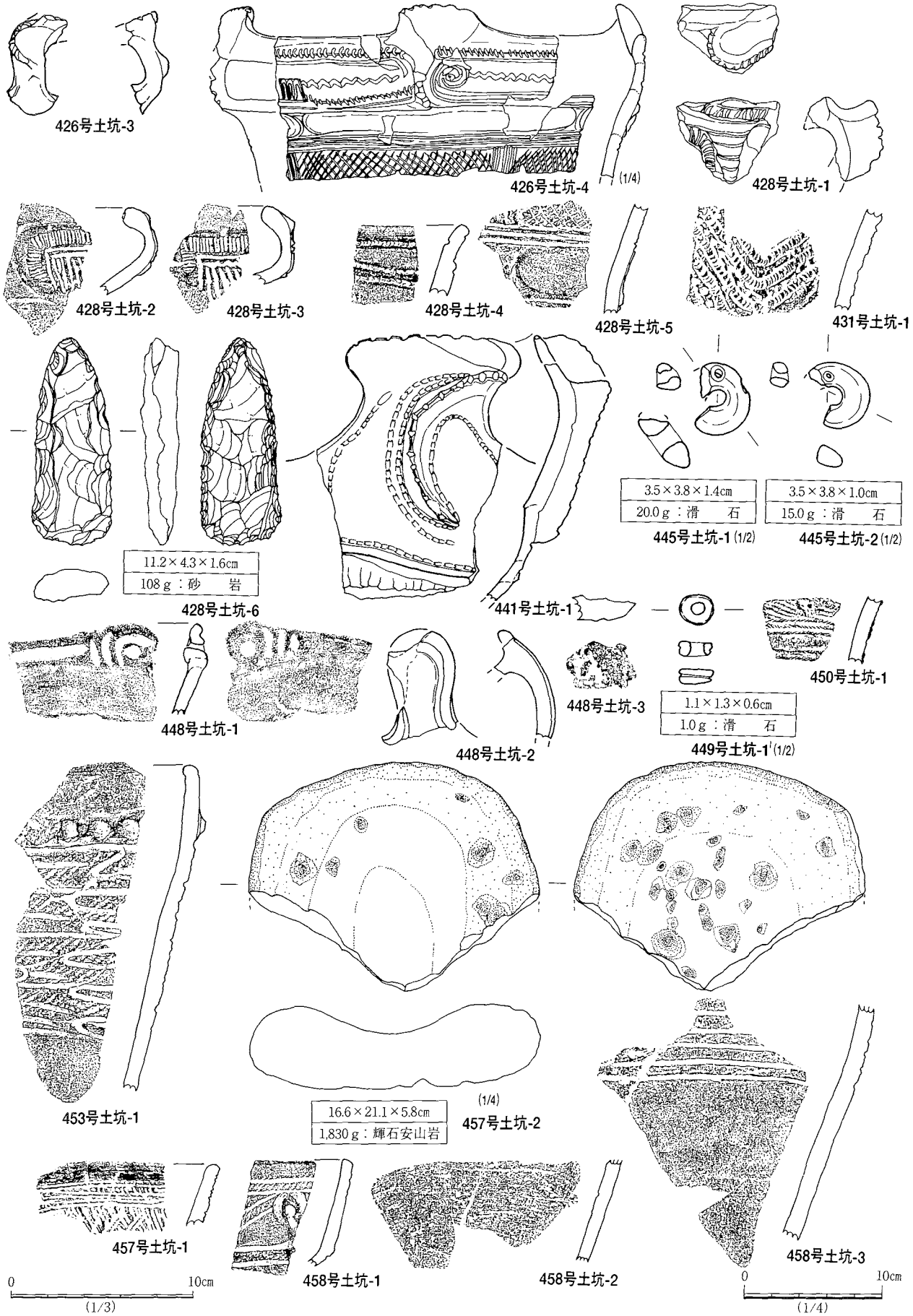
２は、浅鉢で、外面は器面を削った様な跡を残す。内面は研磨し、平行沈線を巡らして縄文（ＬＲ）を沈線間に充填する。無文帯と帯縄文部に対弧文を施す。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

３は、深鉢で、撫での後上半に平行沈線を巡らす。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

４は、胴部が直線的に開き、口縁部が内折する小波状口縁の深鉢で、口唇部の上面に斜位の刻目を付す。頸部に細い帯縄文（ＬＲ）と５本の沈線による帯縄文を施し、その間にのの字状文等を施す。無文部と内面は研磨する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は灰褐色である。

５は、突起を有し口縁部が内湾する深鉢で、口唇部に斜位の刻目を施す。突起には円孔が穿たれ、側面と隆帯には円形刺突で表現した８の字文がある。胴部は沈線を組み合わせた帯縄文（ＬＲ）を数条巡らす。内外面に研磨を施し、外面に炭化物が付着する。胎土は細砂粒を含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

６は、波状口縁の深鉢で、口縁部直下に雑な沈線を１本巡らし、胴部に縄文（ＬＲ）を横位に施文する。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は黄土色から暗褐色である。



第245図　426・428・431・441・445・448～450・453・457・458号土坑出土遺物

7は、口縁部が内湾して開く深鉢で、口唇部の外面に指頭押圧を加えた隆線が、内面には沈線が巡る。外面全体に斜縄文（ＬＲ）を施し、頸部に弧線を組み合わせて文様帯を構成する。文様を画す横位沈線や隆線との接点には、円形の浅い刺突を加え、内面は研磨する。胎土は細粒を含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

8は、口縁部が直線的に開く深鉢で、内外面を研磨し光沢がある。底部に細かな網代痕を残す。胎土は細砂粒を含み、焼成は普通で、色調はにぶい橙色である。

9は、底部片で、外面は斜位の削りにより無文である。底部には網代痕らしき圧痕が確認され、胴部下半に炭化物が付着する。胎土は片岩を含み、焼成は良好で、色調は茶色である。

459号土坑　加曽利Ｅ４式

1は、口縁部が僅かに内湾する深鉢で、口縁部に断面三角形の隆帯を施し、そこから下がる同隆帯懸垂文間に縄文（ＲＬ）を充填する。内面は撫でる。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は淡褐色である。

2は、無茎の石鏃である。

460号土坑

1は、口縁部が僅かに内湾しながら開く深鉢で、口唇部は尖頭状を呈し、内外面は粗く研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

463号土坑　黒浜式

1は、頸部が括れる深鉢で、胴部に一定間隔の無文帯を挟んで、縄文帯（無節Ｒ・Ｌ）を施す。内外面は粗く研磨する。胎土は繊維を多量に含み、焼成は普通で、色調は黒褐色から黄褐色である。

2は、深鉢の口縁部片で、外面に羽状縄文（ＲＬ・ＬＲ）を施し、内面は撫でる。胎土は繊維・片岩を多量に含み、焼成は普通で、色調は明褐色である。

3は、深鉢の胴部から底部片で、上げ底状を呈する。外面に斜縄文（無節Ｌ）を施す。内面は撫でる。胎土は繊維を多量に含み、焼成は良好で、色調は明褐色である。４は、無茎の石鏃である。

464号土坑　諸磯式

1は、浅鉢と見られ、内外面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

465号土坑

1・3は、深鉢の胴部片である。数条の爪形文間に斜位の刻目を施す。内面は研磨する。胎土は片岩を少量含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

2は、深鉢の胴部片である。斜縄文（ＲＬ）を地文に、２～３条単位の浮線文で文様を構成する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

467号土坑　加曽利Ｅ４式

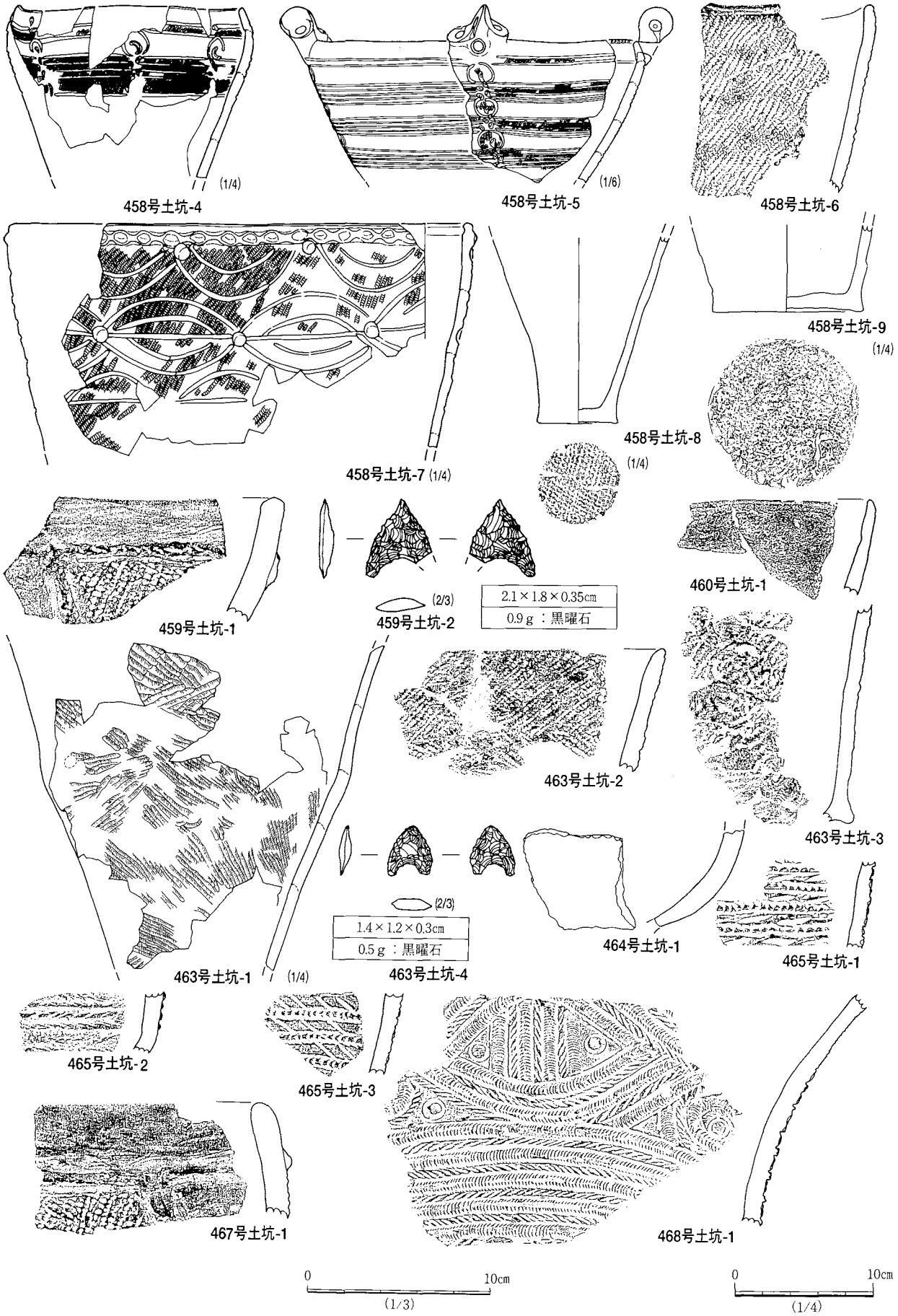
1は、深鉢である。胴部との境に隆帯を１本巡らす。横位の隆帯から垂下させ器面を縦区画し区画内に縄文（ＲＬ）を充填する。隆帯に沿い撫でを施す。胎土は細砂粒を含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

468号土坑

1・3は、深鉢の胴部片で、胴部上半は斜位の刻目を付した浮線状文の隆帯と爪形文のセットで菱形状の区画文を構成し、区画内に浮線状文の隆帯と爪形文を縦位に充填し、円形刺突文を施す。下半は同文様セットを横位に巡らす。内面は横位、斜位の研磨を施す。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

2は、深鉢の口縁部片で、口縁部に短い粘土紐を数本貼付し、斜位の刻みを施す。胴部の文様は爪形文で構成し、これは口唇部にも施す。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

4は、小形深鉢の底部片である。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は灰褐色である。



第246図　458～460・463～465・467・468号土坑出土遺物

469号土坑　加曽利Ｅ４式

１は、頸部が弱く内湾する深鉢で、口唇下に幅広く無文部を設けて隆帯を施し、胴部に同隆帯でＶ字状の区画を施す。区画内は縄文（ＲＬ）を充填する。内面は軽く研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は灰褐色である。

２は、深鉢の口縁部から胴部片である。口縁部に無文帯を持ち、胴部との境に雑な隆帯を１本巡らしている。胴部は縄文（ＬＲ）を間隔をあけて縦位施文する。口縁部の外面に炭化物の付着が観察される。また、口縁部には突起があった可能性がある。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は灰褐色である。

３は、橋状の口縁突起を持つ深鉢で、突起部から口縁部に沿って細かい隆帯を巡らし胴部と区画する。胴部には縄文が施されていたようだが、撚り方向は不明である。口縁突起の背面に円形の貼付文を施している。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は黄土色から茶色である。

474号土坑

１・２は、抉状耳飾りを、勾玉としたものか。

475号土坑　諸磯ｂ式

１は、胴部がくの字状に折れ口縁部が外反する浅い鉢で、胴部に斜縄文（ＲＬ）を施す。口縁部と内面を研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

２は、深鉢の胴部片で、外面に斜縄文（ＲＬ）を施文し、内面を撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

３は、深鉢の底部片で、端に梯子状施文の浮線文を施す。横位の浮線文には斜位の刻目を付し、内面を撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

４は、抉状耳飾り。５は、抉状耳飾りを、勾玉としたものか。

476号土坑　花積下層式

尖底の深鉢で、尖底部に縦位施文の縄文（ＲＬ）を施し、内面を撫でる。胎土は繊維・砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

478号土坑　堀之内２式

胴部がくの字状に内折れし、口縁部が外反する鉢である。口縁にひねりを加えた山形の突起を４単位付し、口唇部は外削ぎ状で、内面に段が付く。胴部上半に帯縄文（ＬＲ）で菱形と三角形を組み合わせた文様を構成し、無文部と内面は軽く研磨する。底部に網代痕が残る。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

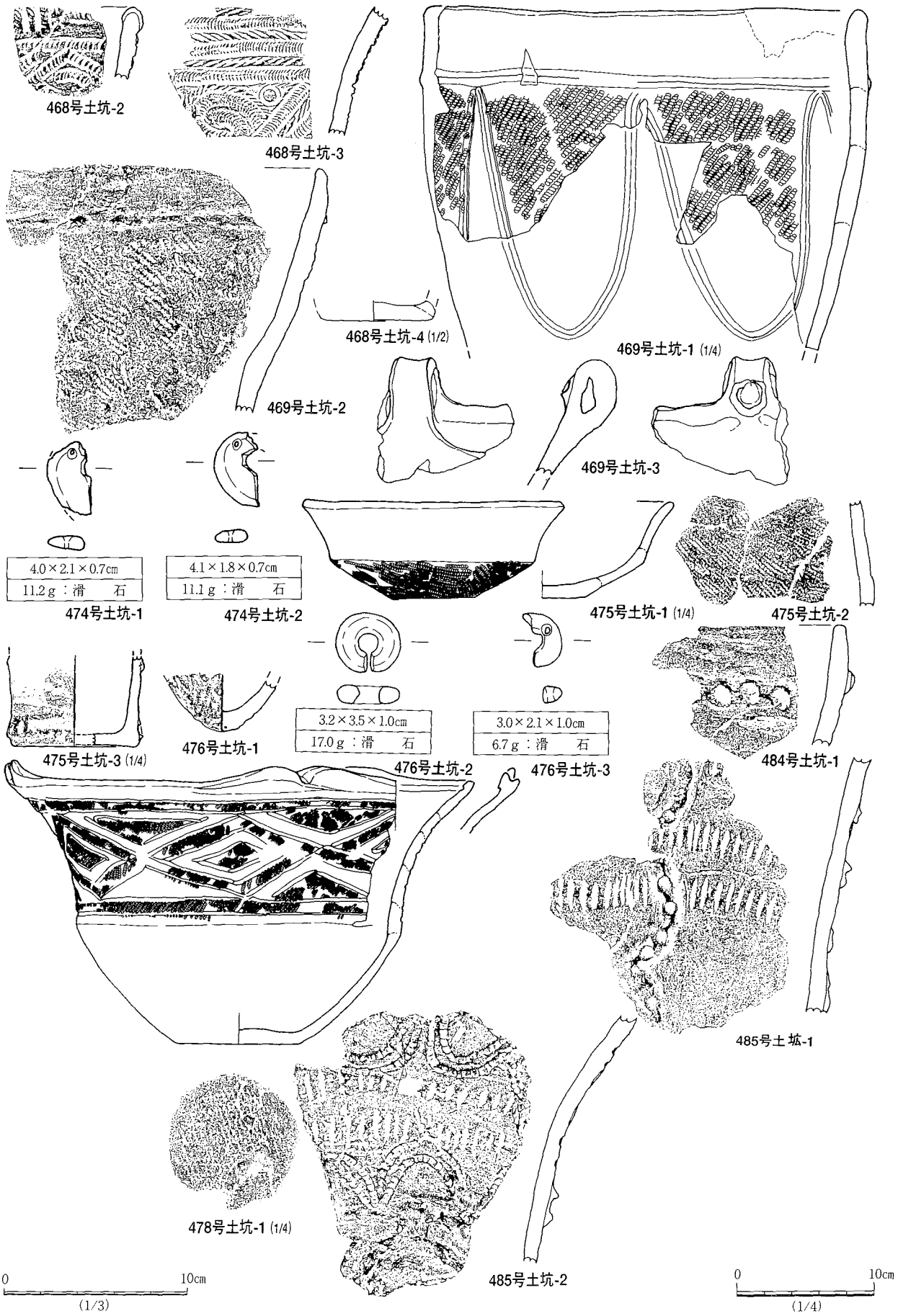
484号土坑　加曽利Ｂ１式

１は、深鉢の口縁部片で、口縁部に指頭押圧した隆帯を施し、内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

485号土坑　阿玉台Ⅱ式

１は、深鉢の胴部片で、指頭押圧を施した波状隆帯の懸垂文を施し、幅広の横位刺突列を数条施文する。内面は撫でる。胎土は雲母・砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

２は、胴部上半が外反する深鉢で、胴部上半を２列の押引文による波状文と幅広の刺突列で文様を構成し、下半に指頭押圧を加えた隆帯懸垂文を施す。内面は撫でる。１と同一個体と見られる。胎土は雲母・砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は褐色である。



第247図　468・469・474～476・478・484・485号土坑出土遺物

第５表　縄文時代土坑一覧表（１）

土坑番号	位　　置	平面形態	規　　模 長軸×短軸×深さ（cm）	主軸方向	断面形	備　　考
1	Ｆｃ－97グリッド	円　形	164×146×50	Ｎ－４°－Ｅ	凵　状	
2	Ｆｃ－96グリッド	円　形	52×50×47	Ｎ－65°－Ｗ	Ｕ　状	
3	Ｆａ－95グリッド	円　形	96×88×12	Ｎ－10°－Ｗ	皿　状	
4	Ｆａ－95グリッド	楕円形	不明×不明×16	Ｎ－18°－Ｅ	皿　状	
5	Ｆａ－95グリッド	不整形	92×86×14	Ｎ－67°－Ｅ	皿　状	
6	Ｆａ－95グリッド	不　明	102×90×16	Ｎ－82°－Ｗ	ピット有	
7	Ｆａ－95グリッド	円　形	112×110×40	Ｎ－５°－Ｗ	凵　状	
8	Ｅｊ－95、Ｆａ－95 グリッド	円　形	124×112×20	Ｎ－85°－Ｗ	皿　状	
9	Ｆａ－95グリッド	円　形	110×109×27	Ｎ－74°－Ｅ	皿　状	10号土坑と重複し、本跡が新しい
10	Ｆａ－95グリッド	楕円形？	202×60×16	Ｎ－80°－Ｅ	皿　状	９号土坑と重複し、本跡が古い
11	Ｆａ－95グリッド	不整形	170×152×24	Ｎ－15°－Ｅ	ピット有	
12	Ｆａ－94グリッド	円　形	66×64×10	Ｎ－57°－Ｗ	皿　状	
13	Ｆａ－94グリッド	円　形	110×106×10	Ｎ－76°－Ｗ	ピット有	
14	Ｆａ－94グリッド	楕円形	132×114×30	Ｎ－55°－Ｗ	凵　状	15号土坑と重複し、本跡が新しい
15	Ｆａ－94グリッド	円　形	130×112×32	Ｎ－55°－Ｗ	ピット有	14号土坑と重複し、本跡が古い
16	Ｆａ－94グリッド	楕円形	206×96×29	Ｎ－10°－Ｗ	皿　状	
17	Ｆａ－94グリッド	円　形	120×116×16	Ｎ－５°－Ｅ	皿　状	
18	Ｆａ－94グリッド	円　形	104×158×42	Ｎ－60°－Ｅ	凵　状	
19	Ｆａ－94グリッド	楕円形	122×92×25	Ｎ－45°－Ｅ	ピット有	
20	Ｆａ－94グリッド	不整形	110×100×14	Ｎ－40°－Ｗ	皿　状	
21	Ｆａ－94グリッド	楕円形	94×70×27	Ｎ－40°－Ｗ	皿　状	
22	Ｆａ－94グリッド	楕円形	152×94×22	Ｎ－35°－Ｗ	ピット有	
23	Ｆａ－94グリッド	楕円形	166×98×14	Ｎ－20°－Ｅ	皿　状	
24	Ｆａ－94グリッド	不整形	104×67×16	Ｎ－45°－Ｗ	皿　状	ピットと重複する
25	Ｆａ－93、Ｆａ－94 グリッド	不整形	120×86×14	Ｎ－50°－Ｗ	皿　状	26号土坑と重複する
26	Ｆａ－93グリッド	楕円形？	232×142×26	Ｎ－１°－Ｗ	凵　状	25号土坑と重複する
27	Ｆａ－93グリッド	円　形	184×168×27	Ｎ－35°－Ｅ	凵　状	28号土坑と重複する
28	Ｆａ－93グリッド	不　明	114＋α×90＋α×14	Ｎ－35°－Ｅ	皿　状	27・61号土坑と重複する
29	Ｆａ－93、Ｆａ－94 グリッド	楕円形	108×106×25	Ｎ－20°－Ｗ	皿　状	61号土坑と重複する
30	Ｆａ－93グリッド	不整形	208×160×29	Ｎ－15°－Ｅ	凹　凸	31号土坑と重複し、新旧関係は不明である
31	Ｆａ－93グリッド	不整形	160×134×17	Ｎ－80°－Ｅ	凹　凸	30号土坑と重複し、新旧関係は不明である
32	Ｆａ－93グリッド	楕円形	154×120×20	Ｎ－12°－Ｗ	皿　状	33号土坑と重複し、本跡が新しい
33	Ｆａ－93グリッド	楕円形	104×63×18	Ｎ－５°－Ｗ	皿　状	32号土坑と重複し、本跡が古い
34	Ｆａ－93グリッド	楕円形	174×98×26	Ｎ－70°－Ｗ	皿　状	２号住居跡と重複する
35	Ｆａ－93グリッド	方形？	94×38＋α×36	Ｎ－73°－Ｗ	凵　状	２号住居跡と重複し、本跡が新しい
36	Ｅｊ－94グリッド	楕円形	150×114×34	Ｎ－32°－Ｅ	２段掘り	１号住居跡と重複し、本跡が古い
37	Ｅｊ－93、Ｅｊ－94 グリッド	円　形	132×128×14	Ｎ－75°－Ｅ	皿　状	
38	Ｅｊ－93グリッド	楕円形	96×74×14	Ｎ－10°－Ｅ	皿　状	63号土坑と重複し、本跡が古い
39	Ｅｊ－93グリッド	不整形	156×98×26	Ｎ－80°－Ｗ	２段掘り	
40	Ｅｊ－93グリッド	楕円形	156×122×10	Ｎ－83°－Ｗ	皿　状	

第６表　縄文時代土坑一覧表（２）

土坑番号	位　　置	平面形態	規　　模 長軸×短軸×深さ（cm）	主軸方向	断面形	備　　考
41	Ｆａ－93グリッド	円　形	９２×８２×１０	Ｎ－13°－Ｗ	ピット有	
42	Ｆａ－93グリッド	円　形	６２×５６×１２	Ｎ－23°－Ｅ	皿状	
43	Ｆａ－93グリッド	円　形	８０×７０×１４	Ｎ－25°－Ｗ	２段掘り	
44	Ｅｊ－93グリッド	不　明	１４６×１２６×３２	Ｎ－10°－Ｅ	不明	45・46号土坑と重複し45号土坑より新しく46号土坑とは不明
45	Ｅｊ－93グリッド	不　明	１７６×９６×４４	Ｎ－82°－Ｗ	不明	44・46号土坑と重複し44号土坑より古く46号土坑とは不明
46	Ｆａ－93グリッド	不　明	１６８×９４×３２	Ｎ－11°－Ｗ	不明	44・45号土坑と重複し、新旧関係は不明
47	Ｆａ－93グリッド	楕円形	１５２×１３６×３０	Ｎ－67°－Ｗ	Ｕ状	
48	Ｆａ－93グリッド	楕円形	１３４×７０×２０	Ｎ－53°－Ｗ	皿状	
49	Ｅｊ－93グリッド	楕円形	７０×４８×３０	Ｎ－55°－Ｅ	２段掘り	
50	Ｅｊ－93グリッド	楕円形	８２×７２×２０	Ｎ－20°－Ｅ	皿状	62号土坑と重複し、本跡が新しい
51	Ｆａ－93、Ｆａ－94グリッド	楕円形	１３４×８８×２２	Ｎ－10°－Ｅ	皿状	
52	Ｅｊ－93グリッド	楕円形	８６×５６×３８	Ｎ－55°－Ｅ	Ｕ状	
53	Ｅｊ－93グリッド	楕円形	１４４×９０×１６	Ｎ－50°－Ｗ	皿状	
54	Ｅｊ－93グリッド	楕円形	１１６×８２×１６	Ｎ－50°－Ｗ	ピット有	
55	Ｅｊ－92、Ｅｊ－93グリッド	楕円形	１１４×８８×２６	Ｎ－60°－Ｗ	楕円形	
56	Ｅｊ－93グリッド	楕円形	１３６×８６×１０	Ｎ－２°－Ｗ	皿状	
57	Ｅｊ－92グリッド	円　形	１０４×１００×７２	Ｎ－26°－Ｅ	袋状	
58	Ｅｊ－93グリッド	円　形	１１６×１０８×８４	Ｎ－75°－Ｅ	袋状	
59	Ｅｊ－92グリッド	円　形	９２×９０×４０	Ｎ－10°－Ｅ	凵状	
60	Ｅｊ－92グリッド	円　形	８２×７８×３０	Ｎ－85°－Ｅ	２段掘り	
61	Ｆａ－93グリッド	楕円形	１１６×１０６×２６	Ｎ－70°－Ｅ	皿状	28・29号土坑と重複する
62	Ｅｊ－93グリッド	不　明	８２×７２×２０	Ｎ－20°－Ｅ	不明	50号土坑と重複し、本跡が古い
63	Ｅｊ－93グリッド	楕円形	１０４×５６×２０	Ｎ－52°－Ｗ	皿状	38号土坑と重複し、本跡が新しい
64	Ｅｊ－92、Ｆａ－92グリッド	楕円形	１５０×１２０×２４	Ｎ－20°－Ｅ	２段掘り	
65	Ｅｊ－92グリッド	不整形	３９０×９５×３４	Ｎ－68°－Ｅ	皿状	
66	Ｅｊ－92グリッド	方形？	２４６×１２４×２６	Ｎ－25°－Ｗ	凵状	72号土坑と重複し、本跡が新しい
67	Ｅｊ－92グリッド	円　形	１２２×１１４×９４	Ｎ－74°－Ｗ	袋状	
68	Ｅｊ－92グリッド	楕円形	１６２×８８×２２	Ｎ－65°－Ｅ	皿状	
69	Ｆａ－92グリッド	楕円形	１２６×１０２×１２	Ｎ－78°－Ｅ	ピット有	
70	Ｆａ－92グリッド	楕円形	１２８×９０×１６	Ｎ－24°－Ｅ	皿状	
71	Ｆａ－91グリッド	不整形	１６８×１２×７０	Ｎ－54°－Ｅ	２段掘り	
72	Ｅｊ－91、Ｆａ－91グリッド	楕円形	２０４×１５８×６２	Ｎ－14°－Ｗ	凵状	66号土坑と重複し、本跡が古い
73	Ｅｊ－91、Ｅｊ－92グリッド	円　形	９２×８６×６２	Ｎ－87°－Ｅ	袋状	
74	Ｅｉ－92、Ｅｊ－92グリッド	不整形	９６×８８×６８	Ｎ－20°－Ｗ	袋状	
75	Ｅｊ－91グリッド	不整形	１８６×８２×３６	Ｎ－65°－Ｅ	袋状	ピットと重複する
76	Ｅｊ－91グリッド	不整形	１１０×８０×４２	Ｎ－52°－Ｗ	袋状	
77	Ｅｊ－90、Ｅｊ－91、Ｆａ－90、Ｆａ－91グリッド	楕円形	１７２×１５６×２０	Ｎ－67°－Ｅ	皿状	
78	Ｅｊ－91グリッド	楕円形	１３２×８８×２６	Ｎ－60°－Ｅ	２段掘り	
79	Ｅｊ－90、Ｅｊ－91グリッド	円　形	７７×７６×３４	Ｎ－29°－Ｗ	Ｕ状	
80	Ｅｉ－90、Ｅｉ－91グリッド	楕円形	１０２×８２×５０	Ｎ－29°－Ｗ	袋状	

第７表　縄文時代土坑一覧表（３）

土坑番号	位　　置	平面形態	規　　模 長軸×短軸×深さ（cm）	主軸方向	断面形	備　　考
81	Ｅｉ－90、Ｅｉ－91グリッド	不整形	216×146×34	Ｎ－60°－Ｗ	袋　状	
82	Ｅｉ－90、Ｅｊ－90グリッド	楕円形	164×114×34	Ｎ－10°－Ｗ	Ⅲ　状	
83	Ｅｉ－89グリッド	円　形	100×90×60	Ｎ－30°－Ｅ	袋　状	
84	Ｅｈ－89、Ｅｉ－89グリッド	円　形	64× 50× 66	Ｎ－60°－Ｗ	袋　状	
85	Ｅｉ－89グリッド	円　形	86×80×58	Ｎ－2°－Ｅ	袋　状	
86	Ｅｉ－89グリッド	楕円形	174×102×46	Ｎ－11°－Ｅ	袋　状	
87	Ｅｊ－88、Ｅｊ－89グリッド	円　形	114×96×54	Ｎ－70°－Ｅ	袋　状	
88	Ｅｊ－88グリッド	円　形	64×62×58	Ｎ－80°－Ｗ	凵　状	
89	Ｅｊ－88グリッド	楕円形	96×86×54	Ｎ－23°－Ｅ	袋　状	
90	Ｆａ－90グリッド	不　明	70＋α×54＋α×54	不　　明	凵　状	1/2程が調査区外となる
91	Ｅｉ－89グリッド	方　形	122×88×62	Ｎ－82°－Ｅ	凵　状	
92	Ｅｉ－89グリッド	方　形	118×80×60	Ｎ－16°－Ｅ	凵　状	９号住居跡と重複し、本跡が新しい
93	Ｅｉ－91グリッド	不整形	136×120×46	Ｎ－5°－Ｗ	袋　状	
94	Ｅｉ－90グリッド	不整形	78×17×86	Ｎ－64°－Ｅ	２段掘り	
95	Ｅｊ－89グリッド	楕円形	100×56×52	Ｎ－5°－Ｗ	凵　状	９号住居跡、１－１号墓と重複する
96	Ｆａ－97、Ｆａ－98、Ｅｊ－97、Ｅｊ－98ｸﾞﾘｯﾄﾞ	楕円形	108×90×16	Ｎ－5°－Ｗ	Ⅲ　状	
97	Ｅｊ－98グリッド	円　形	86×76×16	Ｎ－10°－Ｗ	Ⅲ　状	
98	Ｅｊ－99グリッド	円　形	250×242×32	Ｎ－8°－Ｅ	Ⅲ　状	
99	Ｅｊ－95グリッド	不　明	202×192×43	Ｎ－56°－Ｗ	２段掘り	
100	Ｅｊ－95グリッド	不整形	125×77×27	Ｎ－34°－Ｅ	２段掘り	
101	Ｅｊ－95グリッド	円　形	111×104×46	Ｎ－16°－Ｗ	Ｕ　状	
102	Ｅｊ－95グリッド	不　明	127×120（推）×23	Ｎ－21°－Ｅ	Ⅲ　状	15号住居跡と重複する
103	Ｅｊ－95グリッド	不整形	160×125×27	Ｎ－55°－Ｗ	Ｕ　状	
104	Ｅｊ－94グリッド	楕円形	181×151×25	Ｎ－18°－Ｅ	Ｕ　状	
105	Ｅｊ－94グリッド	円　形	135×127×27	Ｎ－4°－Ｅ	Ｕ　状	
106	Ｅｊ－94、Ｅｊ－95グリッド	円　形	111×100×23	Ｎ－12°－Ｗ	Ⅲ　状	
107	Ｅｊ－94グリッド	円　形	89×82×16	Ｎ－32°－Ｗ	Ⅲ　状	
108	Ｅｊ－94グリッド	円形？	113×59＋α×33	Ｎ－60°－Ｗ	凵　状	112号土坑と重複し、本跡が古い
109	Ｅｊ－94グリッド	円　形	112×98×32	Ｎ－16°－Ｅ	凵　状	
110	Ｅｊ－94、Ｅｊ－95、Ｅｉ－94、Ｅｉ－95ｸﾞﾘｯﾄﾞ	楕円形	125×103×21	Ｎ－1°－Ｗ	Ⅲ　状	
111	Ｅｉ－95、Ｅｊ－95グリッド	楕円形	209×184×24	Ｎ－39°－Ｗ	Ⅲ　状	
112	Ｅｊ－94グリッド	円　形	110×102×41	Ｎ－68°－Ｗ	Ｕ　状	108号土坑と重複し、本跡が新しい
113	Ｅｊ－96、Ｅｊ－97グリッド	不整形	190×71×25	Ｎ－78°－Ｅ	Ｖ　状	ピットと重複する
114	Ｅｊ－97グリッド	楕円形	87×70×11	Ｎ－73°－Ｗ	ピット有	
115	Ｅｉ－96、Ｅｊ－96グリッド	楕円形	139×109×22	Ｎ－19°－Ｗ	Ⅲ　状	
116	Ｅｉ－96グリッド	円　形	117×114×31	Ｎ－10°－Ｅ	Ｕ　状	
117	Ｅｉ－96グリッド	円　形	105×96×19	Ｎ－5°－Ｗ	Ⅲ　状	
118	Ｅｉ－95、Ｅｉ－96グリッド	楕円形	150×93＋α×45	Ｎ－63°－Ｗ	Ｕ　状	一部調査区外となる
119	Ｅｉ－95グリッド	楕円形？	103×102×38	Ｎ－38°－Ｗ	Ｕ　状	一部調査区外となる
120	Ｅｈ－95、Ｅｉ－95グリッド	楕円形	87×68×39	Ｎ－48°－Ｅ	ピット有	

第８表　縄文時代土坑一覧表（４）

土坑番号	位　　置	平面形態	規　　模 長軸×短軸×深さ（㎝）	主軸方向	断面形	備　　考
121	Ｅｉ－95グリッド	円　形	124×110×92	N－69°－E	袋　状	17号住居跡と重複し、本跡が新しい
122	Ｅｉ－94グリッド	方形カ	173×109×23	N－44°－E	凹　凸	18号住居跡と重複し、本跡が古い
123	Ｅｈ－94グリッド	楕円形	183×143×17	N－88°－W	皿　状	
124	Ｅｈ－94グリッド	円　形	146×123×23	N－82°－E	Ｕ　状	
125	Ｅｈ－94グリッド	円　形	187×144×25	N－57°－W	２段掘り	ピットと重複する
126	Ｅｈ－94グリッド	円　形	116×110×37	N－20°－W	ピット有	20号住居跡と重複し、本跡が古い
127	Ｅｉ－94グリッド	円　形	124×109×66	N－88°－W	Ｕ　状	
128	Ｅｉ－94グリッド	円　形	116×93×57	N－37°－E	凵　状	
129	Ｅｉ－89、Ｅｊ－89グリッド	円　形	81×77×60	N－29°－E	凵　状	10号住居跡と重複し、本跡が古い
131	Ｅｅ－75、Ｅｅ－76グリッド	円形カ	149×43＋α×77	N－70°－W	凵　状	1/2程が調査区外となる
133	Ｅｅ－74グリッド	不整形	184＋α×140×17	N－30°－E	皿　状	一部が調査区外となる
134	Ｅｄ－72、Ｅｄ－73グリッド	円　形	194×191×37	N－56°－W	凵　状	
135	Ｅｄ－72、Ｅｄ－73グリッド	不整形	164×116×18	N－87°－E	皿　状	
136	Ｅｆ－78グリッド	円　形	137×133×31	N－47°－E	Ｕ　状	
137	Ｅａ－68、Ｅｂ－68グリッド	円　形	108×105×18	N－22°－E	皿　状	
138	Ｅｂ－68グリッド	円　形	109×107×17	N－２°－E	ピット有	
139	Ｅｂ－67グリッド	不整形	140×99×23	N－86°－W	皿　状	13号住居跡と重複し、本跡が古い
140	Ｅｂ－67グリッド	円　形	96×94×33	N－88°－E	凵　状	
141	Ｅａ－66グリッド	不整形	174×147×21	N－85°－E	凹　凸	
142	Ｄｊ－62グリッド	楕円形カ	123×105（推）×34	N－72°－E	凵　状	23号住居跡と重複し、本跡が新しい
143	Ｄｊ－63グリッド	不整形	228×92×37	N－67°－E	凵　状	23号住居跡と重複し、本跡が新しい
144	Ｄｉ－62グリッド	楕円形	113×68×30	N－65°－E	凵　状	
145	Ｅｉ－90グリッド	方　形	212×180×26	N－88°－W	凹　凸	ピットと重複する
146	Ｅｉ－90グリッド	不整形	176×145×38	N－88°－W	凵　状	
147	Ｅｉ－90グリッド	不整形	163×132×32	N－54°－W	凵　状	
148	Ｅｉ－90グリッド	不整形	185×87×37	N－85°－W	凵　状	
149	Ｅｊ－89グリッド	不整形	94×54×29	N－33°－E	凵　状	
150	Ｅａ－64グリッド	楕円形	93×84×17	N－12°－E	凵　状	
151	Ｅｂ－63、Ｅｂ－64グリッド	円　形	118×109×61	N－34°－W	凵　状	３－４号墓と重複し、本跡が新しい
152	Ｅａ－63、Ｅａ－64グリッド	円　形	117×111×18	N－78°－W	凵　状	３－９号墓と重複する
153	Ｄｉ－63グリッド	円　形	65×63×10	N－85°－W	２段掘り	
155	Ｄｈ－64グリッド	不整形	167×122×12	N－90°－E	ピット有	
156	Ｄｈ－65グリッド	不整形	193×120×26	N－47°－E	皿　状	
157	Ｄｈ－65グリッド	円　形	143×127＋α×21	N－１°－E	皿　状	
158	欠　　番					４号掘立柱建物跡の柱穴となる
159	Ｄｈ－66グリッド	円　形	158×154×30	N－19°－E	凵　状	４号掘立柱建物跡と重複する
160	欠　　番					４号掘立柱建物跡の柱穴となる
161	欠　　番					４号掘立柱建物跡の柱穴となる
162	欠　　番					４号掘立柱建物跡の柱穴となる
163	Ｄｇ－65グリッド	不整形	217×183×28	N－65°－E	凹　凸	

第９表　縄文時代土坑一覧表（５）

土坑番号	位　　置	平面形態	規　　模 長軸×短軸×深さ（cm）	主軸方向	断面形	備　　考
164	Ｄｉ－65グリッド	楕円形	129×115×18	Ｎ－62°－Ｗ	皿　状	165号土坑と重複し、本跡が新しい
165	Ｄｈ－65、Ｄｉ－65グリッド	不　明	127×119＋α×15	Ｎ－60°－Ｗ	皿　状	164号土坑と重複し、本跡が古い
166	Ｄｉ－65グリッド	不整形	124×89×19	Ｎ－５°－Ｅ	皿　状	
167	Ｄｉ－65グリッド	楕円形	97×63×27	Ｎ－19°－Ｗ	ピット有	
168	Ｄｉ－65グリッド	不整形	134×90×27	Ｎ－83°－Ｗ	凹　凸	
169	Ｄｊ－66グリッド	楕円形	89×81×17	Ｎ－28°－Ｅ	ピット有	
170	Ｄｈ－65グリッド	楕円形	61×55×19	Ｎ－２°－Ｅ	凵　状	
171	欠　　番					４号掘立柱建物跡の柱穴となる
172	欠　　番					４号掘立柱建物跡の柱穴となる
173	Ｄｉ－67グリッド	楕円形	84×74×19	Ｎ－22°－Ｅ	凵　状	
174	Ｄｉ－67グリッド	不整形	160×106×15	Ｎ－87°－Ｅ	皿　状	
175	Ｄｉ－67、Ｄｊ－67グリッド	楕円形	119×107×41	Ｎ－47°－Ｗ	袋　状	
176	Ｄｇ－63グリッド	不整形	97×45×24	Ｎ－13°－Ｅ	凵　状	
177	Ｄｈ－64グリッド	円　形	141×140×52	Ｎ－24°－Ｗ	袋　状	
178	Ｄｈ－63グリッド	楕円形	137×127×37	Ｎ－０°－Ｅ	Ｕ　状	
179	Ｄｇ－63グリッド	楕円形	113×87×27	Ｎ－１°－Ｅ	ピット有	
180	Ｄｈ－62グリッド	楕円形	113×75×17	Ｎ－37°－Ｗ	皿　状	
181	欠　　番					５号掘立柱建物跡の柱穴となる
182	Ｄｈ－63グリッド	不整形	141×93×29	Ｎ－32°－Ｅ	Ｕ　状	ピットと重複する
183	Ｄｇ－63グリッド	円　形	70×69×30	Ｎ－１°－Ｅ	凵　状	
184	Ｄｇ－63グリッド	不整形	64×55×17	Ｎ－88°－Ｗ	Ｕ　状	
186	Ｄｈ－64グリッド	楕円形	99×80×22	Ｎ－80°－Ｗ	凵　状	
187	Ｄｈ－64グリッド	楕円形	129×110×27	Ｎ－77°－Ｗ	皿　状	
188	Ｄｇ－63グリッド	楕円形	76×65×31	Ｎ－０°－Ｅ	凵　状	ピットと重複する
189	Ｄｇ－63グリッド	円　形	65×64×42	Ｎ－45°－Ｗ	凵　状	
190	Ｄｇ－63グリッド	楕円形	89×74×40	Ｎ－26°－Ｗ	凵　状	
191	Ｄｈ－64グリッド	楕円形	147×116×22	Ｎ－１°－Ｗ	皿　状	
192	Ｄｇ－62グリッド	不整形	147×87×34	Ｎ－18°－Ｗ	ピット有	ピットと重複する
193	Ｄｇ－62、Ｄｈ－62グリッド	円　形	79×74×33	Ｎ－９°－Ｗ	凵　状	
194	Ｅａ－67グリッド	楕円形	135×125×31	Ｎ－57°－Ｅ	２段掘り	21号住居と重複し、本跡が古い
195	Ｄｈ－62グリッド	楕円形カ	101×77×47	Ｎ－21°－Ｅ	凵　状	
196	Ｄｈ－62グリッド	楕円形	85×61×34	Ｎ－47°－Ｅ	凵　状	
197	Ｄｈ－62グリッド	楕円形	161×91×11	Ｎ－15°－Ｗ	皿　状	
198	Ｄｈ－82グリッド	楕円形	70×69×35	Ｎ－36°－Ｗ	凵　状	
199	Ｄｈ－62、Ｄｈ－63グリッド	不整形	108×79×21	Ｎ－21°－Ｗ	凵　状	
200	Ｅｂ－69グリッド	円　形	62×54×34	Ｎ－47°－Ｗ	凵　状	
201	Ｅｂ－69グリッド	不整形	48＋α×64×24	Ｎ－29°－Ｅ	Ｕ　状	
202	Ｅｂ－70グリッド	円　形	90×81×22	Ｎ－40°－Ｗ	凵　状	
203	Ｄｇ－63グリッド	円　形	158×156×46	Ｎ－15°－Ｅ	凵　状	
204	Ｄｈ－62、Ｄｈ－63グリッド	円　形	83×73×24	Ｎ－20°－Ｅ	凵　状	

第10表　縄文時代土坑一覧表（６）

土坑番号	位　　置	平面形態	規　　模 長軸×短軸×深さ（cm）	主軸方向	断面形	備　　考
205	Ｄｉ－65グリッド	円　形	123×120×11	Ｎ－43°－Ｗ	ピット有	
206	Ｄｇ－66グリッド	円　形	９２×８４×５６	Ｎ－51°－Ｗ	Ｕ　状	
207	Ｄｇ－66グリッド	円　形	142×133×97	Ｎ－60°－Ｗ	袋　状	
208	Ｄｇ－66グリッド	円　形	７０×６３×４２	Ｎ－46°－Ｅ	Ｕ　状	
209	Ｄｇ－66グリッド	円　形	121×111×113	Ｎ－30°－Ｅ	Ｕ　状	
210	Ｄｇ－66グリッド	円　形	120×116×37	Ｎ－34°－Ｅ	凵　状	
211	Ｅａ－69、Ｅａ－70グリッド	円　形	156×144×61	Ｎ－18°－Ｗ	凵　状	
212	Ｄｉ－69、Ｄｊ－69グリッド	楕円形	１２４×８８×２６	Ｎ－60°－Ｗ	凵　状	
213	Ｄｊ－69グリッド	楕円形	169×148×38	Ｎ－60°－Ｅ	２段掘り	
214	Ｄｊ－70グリッド	楕円形	201×170×98	Ｎ－17°－Ｅ	凵　状	227号土坑と重複し、本跡が新しい
215	Ｄｊ－70グリッド	円　形	103×103×20	Ｎ－18°－Ｅ	凵　状	
216	Ｄｊ－70グリッド	円　形	146×125×65	Ｎ－58°－Ｅ	袋　状	
217	Ｄｊ－70グリッド	円　形	173×160×34	Ｎ－38°－Ｅ	凵　状	
218	Ｄｊ－70グリッド	楕円形	119×111×18	Ｎ－44°－Ｗ	皿　状	
219	Ｄｊ－71グリッド	円　形	９８×８６×１５	Ｎ－71°－Ｅ	ピット有	
221	Ｄｂ－63グリッド	円　形	１０６×９６×２１	Ｎ－36°－Ｅ	ピット有	
222	Ｄｇ－63グリッド	円　形	112×102×35	Ｎ－19°－Ｅ	凵　状	
223	Ｄｇ－64グリッド	楕円形	１１８×８６×３９	Ｎ－21°－Ｅ	Ｖ　状	
224	Ｄｇ－63グリッド	不整形	１３２×９８×１３	Ｎ－61°－Ｗ	凹　凸	
225	Ｄｂ－63グリッド	不整形	１５９×９６×１６	Ｎ－29°－Ｗ	凹　凸	
226	Ｄｂ－64グリッド	円　形	７１×６６×１４	Ｎ－88°－Ｗ	ピット有	
227	Ｄｊ－70グリッド	円　形	123×108×56	Ｎ－41°－Ｗ	凵　状	214号土坑と重複し、本跡が古い
228	Ｄｊ－69、Ｄｊ－70グリッド	円　形	１３４×１３２×５２	Ｎ－１°－Ｅ	凵　状	35号住居跡と重複し、本跡が古い
229	Ｄｈ－71グリッド	円　形	118×107×43	Ｎ－10°－Ｗ	凵　状	
230	Ｄｊ－73グリッド	円　形	121×116×34	Ｎ－57°－Ｅ	凵　状	
231	Ｄｊ－74グリッド	円　形	８９×８８×４７	Ｎ－85°－Ｅ	凵　状	
232	Ｅｂ－74グリッド	楕円形	９７×７６×５０	Ｎ－68°－Ｅ	凵　状	
233	Ｅｂ－76グリッド	楕円形	146×116×100	Ｎ－20°－Ｅ	袋　状	
234	Ｅｃ－76グリッド	楕円形	９４×９０×６０	Ｎ－０°－Ｅ	凵　状	
235	Ｅｂ－76グリッド	楕円形	106×92×112	Ｎ－０°－Ｅ	袋　状	
236	Ｅｂ－75グリッド	円　形	６８×６４×２９	Ｎ－８°－Ｅ	Ｕ　状	
237	Ｅａ－75グリッド	楕円形	１１８×９６×７４	Ｎ－76°－Ｗ	Ｕ　状	
238	Ｅｃ－76グリッド	楕円形	150×140×120	Ｎ－90°－Ｅ	袋　状	
239	Ｅｄ－77グリッド	不整形	８１×７９×１３	Ｎ－11°－Ｅ	皿　状	
240	Ｅｂ－77グリッド	円　形	130×121×92	Ｎ－９°－Ｅ	袋　状	
241	Ｅｂ－77グリッド	円　形	９２×６５×２１	Ｎ－30°－Ｗ	凵　状	
242	Ｅｂ－77グリッド	楕円形	１０７×９０×３３	Ｎ－60°－Ｗ	凵　状	243号土坑と重複し、本跡が古い
243	Ｅｂ－77、Ｅｃ－77グリッド	円　形	１２４×９０×２１	Ｎ－69°－Ｅ	凵　状	242号土坑と重複し、本跡が新しい
244	Ｅｃ－77グリッド	楕円形	７３×５２×２５	Ｎ－66°－Ｗ	凵　状	
245	Ｅｃ－77グリッド	楕円形	７０×６２×２２	Ｎ－51°－Ｅ	凵　状	

第11表　縄文時代土坑一覧表（７）

土坑番号	位　　置	平面形態	規　　模 長軸×短軸×深さ（cm）	主軸方向	断面形	備　　考
246	Ｅｃ－77グリッド	楕円形	６１×５４×２６	Ｎ－64°－Ｅ	Ｕ　状	
247	Ｅｃ－77グリッド	楕円形	８０×５０×３６	Ｎ－10°－Ｅ	凵　状	
248	Ｄｊ－70、Ｅａ－70グリッド	不整形	282×207×25	Ｎ－12°－Ｅ	２段掘り	
249	Ｅａ－78グリッド	円　形	206×190×90	Ｎ－75°－Ｅ	袋　状	
250	Ｅｂ－79、Ｅｄ－79グリッド	円　形	123×93×12	Ｎ－48°－Ｅ	皿　状	
251	Ｅｅ－79グリッド	円　形	134×123×13	Ｎ－48°－Ｗ	凵　状	
252	Ｅｃ－77グリッド	楕円形	７２×６７×３２	Ｎ－28°－Ｅ	凵　状	
253	Ｄｂ－65グリッド	円　形	190×125×74	Ｎ－22°－Ｗ	凵　状	38号住居跡と重複し、本跡が新しい
254	Ｅｃ－77グリッド	楕円形	４８×４３×１２	Ｎ－76°－Ｗ	皿　状	
255	Ｅｃ－77グリッド	円　形	５７×４４×３０	Ｎ－75°－Ｗ	凵　状	
256	Ｅａ－78グリッド	円　形	５６×５５×１７	Ｎ－83°－Ｅ	皿　状	
257	Ｄｊ－68グリッド	円　形	115×110×24	Ｎ－46°－Ｗ	凵　状	
258	Ｅａ－68グリッド	円　形	180×164×23	Ｎ－12°－Ｅ	凵　状	
259	Ｅａ－68グリッド	円　形	112×110×30	Ｎ－66°－Ｗ	凵　状	
260	Ｅａ－70グリッド	楕円形カ	188×101×37	Ｎ－22°－Ｗ	凵　状	
261	Ｅｂ－71グリッド	円　形	103×94×30	Ｎ－87°－Ｅ	ピット有	
262	Ｅｇ－86グリッド	楕円形	158×154×110	Ｎ－62°－Ｗ	袋　状	
263	Ｄｊ－68、Ｄｊ－69グリッド	不整形	140×105×24	Ｎ－23°－Ｗ	皿　状	ピットと重複する
264	Ｅｈ－87グリッド	楕円形	131×122×18	Ｎ－81°－Ｗ	皿　状	11号住居跡と重複する
265	Ｅｇ－87グリッド	円　形	114×110×96	Ｎ－79°－Ｅ	袋　状	55号住居跡と重複し、本跡が新しい
266	Ｅｅ－81、Ｅｅ－82グリッド	円　形	149×136×60	Ｎ－78°－Ｗ	ピット有	
267	Ｅｅ－81グリッド	円　形	131×125×48	Ｎ－75°－Ｗ	凵　状	
268	Ｅｇ－87グリッド	円　形	９７×８５×９１	Ｎ－18°－Ｅ	袋　状	55号住居と重複し、本跡が新しい
269	Ｅｉ－92、Ｅｊ－92グリッド	不整形	９８×９１×１６	Ｎ－56°－Ｗ	皿　状	ピットと重複する
270	Ｅｈ－90グリッド	楕円形	１０７×８４×２８	Ｎ－１°－Ｗ	凵　状	472・493号土坑と重複する
271	Ｅｈ－88グリッド	楕円形	８８×７３×４１	Ｎ－28°－Ｅ	凵　状	11号住居跡と重複し、本跡が古い
272	Ｅｇ－88グリッド	円　形	128×128×46	Ｎ－51°－Ｗ	凵　状	57・58・59号住居跡と重複し、本跡が新しい
273	Ｅｇ－90グリッド	楕円形カ	86＋α×101×24	Ｎ－12°－Ｗ	２段掘り	一部が調査区外となる
274	Ｅｇ－90グリッド	楕円形カ	106×61＋α×28	Ｎ－４°－Ｗ	凵　状	一部が調査区外となる
275	Ｅｇ－90グリッド	円　形	９０×８８×５０	Ｎ－20°－Ｅ	ピット有	
276	Ｅｇ－90グリッド	不整形	１４２×８６×５２	Ｎ－49°－Ｗ	ピット有	
277	Ｅｇ－90グリッド	円　形	５２×４４×７６	Ｎ－０°－Ｅ	凵　状	
278	Ｅｇ－90グリッド	楕円形	６４×５４×４８	Ｎ－30°－Ｗ	凵　状	
279	Ｅｇ－90グリッド	円　形	６４×５８×５３	Ｎ－69°－Ｅ	Ｖ　状	
280	Ｅｇ－90グリッド	円　形	５４×５４×６４	Ｎ－14°－Ｗ	凵　状	
281	Ｅｇ－90グリッド	不整形	１８０×９１×２２	Ｎ－18°－Ｅ	皿　状	ピットと重複する
282	Ｅｇ－90グリッド	円　形	６８×６４×８４	Ｎ－44°－Ｅ	凵　状	
283	Ｅｇ－90グリッド	円　形	112×111×80	Ｎ－39°－Ｅ	凵　状	
284	Ｅｇ－89、Ｅｇ－90グリッド	円形カ	７４×６３×１８	Ｎ－47°－Ｗ	皿　状	ピットと重複する
285	Ｅｇ－90グリッド	円　形	６５×６１×８６	Ｎ－54°－Ｗ	Ｕ　状	

第12表　縄文時代土坑一覧表（８）

土坑番号	位　　置	平面形態	規　　模 長軸×短軸×深さ（cm）	主軸方向	断面形	備　　考
286	Ｅｇ－90グリッド	楕円形	６６×５１×４８	Ｎ－33°－Ｗ	Ｕ　状	
287	Ｅｇ－90グリッド	円　形	５４×５４×２６	Ｎ－18°－Ｅ	Ｕ　状	
288	Ｅｇ－90グリッド	円　形	５０×４７×６０	Ｎ－36°－Ｅ	Ｕ　状	
289	Ｅｇ－90グリッド	楕円形	４７×４０×５０	Ｎ－26°－Ｗ	Ｕ　状	
290	Ｅｇ－90グリッド	円　形	５７×４８×４３	Ｎ－88°－Ｗ	凵　状	
291	Ｅｇ－91グリッド	円　形	５６×５０×４２	Ｎ－15°－Ｗ	凵　状	
292	Ｅｇ－90グリッド	円　形	６２×６２×２２	Ｎ－84°－Ｗ	凵　状	
293	Ｅｇ－90グリッド	楕円形	４８×３９×６０	Ｎ－２°－Ｅ	Ｕ　状	
294	Ｅｇ－90グリッド	楕円形	４４×３８×２７	Ｎ－80°－Ｅ	Ｕ　状	
295	Ｅｇ－91グリッド	円　形	６４×５８×６６	Ｎ－46°－Ｅ	凵　状	
296	Ｅｇ－91グリッド	楕円形	５０×３８×５１	Ｎ－60°－Ｅ	凵　状	
297	Ｅｇ－91グリッド	円形カ	173×82＋α×50	Ｎ－76°－Ｗ	凵　状	1/2が調査区外となる
298	Ｅｇ－91グリッド	円　形	６８×６６×６３	Ｎ－42°－Ｅ	凵　状	
299	Ｅｇ－91グリッド	円　形	５０×４４×３８	Ｎ－36°－Ｅ	Ｕ　状	
300	Ｅｇ－91グリッド	楕円形	６９×４８×２２	Ｎ－73°－Ｗ	凵　状	
301	Ｅｇ－91グリッド	円　形	５０×４４×４２	Ｎ－90°－Ｅ	凵　状	
302	Ｅｇ－91グリッド	円　形	６１×５３×３６	Ｎ－12°－Ｅ	凵　状	
303	Ｅｇ－91グリッド	不整形	８７×６９×２３	Ｎ－45°－Ｗ	ピット有	
304	Ｅｇ－91グリッド	楕円形	70＋α×60×58	Ｎ－１°－Ｅ	Ｕ　状	
305	Ｅｇ－91グリッド	不整形	１２０×９３×４１	Ｎ－32°－Ｅ	皿　状	ピットと重複する
306	Ｅｇ－91グリッド	楕円形	１０３×８６×５９	Ｎ－76°－Ｗ	Ｕ　状	
307	Ｅｇ－91グリッド	不整形	１３２×９５×４２	Ｎ－16°－Ｗ	２段掘り	
308	Ｅｇ－91グリッド	円　形	123×114×26	Ｎ－78°－Ｗ	皿　状	
309	Ｅｇ－91グリッド	円形カ	75＋α×90×38	Ｎ－42°－Ｅ	Ｕ　状	
310	Ｅｇ－91、Ｅｇ－92グリッド	不整形	２２０×１３８×２４	Ｎ－31°－Ｅ	ピット有	
311	Ｅｇ－89、Ｅｇ－90グリッド	楕円形	323×290×80	Ｎ－18°－Ｅ	凵　状	60号住居跡、491号土坑と重複し、491号土坑⇨本跡⇨60号住居跡（新⇨旧）
312	Ｅｇ－89グリッド	円形カ	90×74＋α×82	Ｎ－28°－Ｅ	皿　状	313号土坑と重複する
313	Ｅｇ－89グリッド	楕円形	122×78＋α×34	Ｎ－38°－Ｅ	凵　状	312号土坑と重複する
314	Ｅｉ－92、Ｅｊ－92グリッド	円　形	７６×６６×５	Ｎ－０°－Ｅ	皿　状	
315	Ｅｈ－89グリッド	楕円形	118×103×20	Ｎ－84°－Ｅ	ピット有	
316	Ｅｈ－92グリッド	円形カ	115＋α×133×24	Ｎ－37°－Ｅ	皿　状	340・341号土坑と重複し、本跡が最も新しい
317	Ｅｇ－88グリッド	不整形	１２７×９１×８	Ｎ－56°－Ｅ	ピット有	
318	Ｅｇ－88グリッド	不整形	７２×５６×１４	Ｎ－31°－Ｅ	皿　状	
319	Ｅｇ－88グリッド	楕円形	９８×８３×１１２	Ｎ－59°－Ｗ	Ｕ　状	
320	Ｅｂ－89グリッド	楕円形	130×123＋α×24	Ｎ－55°－Ｗ	皿　状	321・322号土坑と重複し、322号土坑⇨本跡⇨321号土坑（新⇨旧）
321	Ｅｂ－89グリッド	楕円形カ	165＋α×42＋α×30	Ｎ－65°－Ｗ	皿　状	320号土坑と重複し、本跡が古い
322	Ｅｂ－89、Ｅｇ－89グリッド	不整形	１８０×１４２×３２	Ｎ－27°－Ｗ	皿　状	320号土坑と重複し、本跡が新しい
323	Ｅｇ－89グリッド	楕円形	９２×６８×７８	Ｎ－12°－Ｅ	２段掘	
324	Ｅｂ－88、89グリッド	楕円形	101＋α×112×14	Ｎ－27°－Ｅ	皿　状	ピットと重複する
325	Ｅｂ－88グリッド	円　形	１８２×１７８×５６	Ｎ－31°－Ｅ	凵　状	

第13表　縄文時代土坑一覧表（９）

土坑番号	位　　置	平面形態	規　　模 長軸×短軸×深さ（cm）	主軸方向	断面形	備　　考
326	Ｅｈ－88グリッド	円　形	101×92×26	N－29°－W	凵　状	
327	Ｅｈ－88グリッド	楕円形	146×106×92	N－90°－E	袋　状	
328	Ｅｈ－88グリッド	円　形	110×106×63	N－90°－E	凵　状	
329	Ｅｈ－88グリッド	円　形	143×136×44	N－29°－W	ピット有	
330	Ｅｈ－88グリッド	楕円形	153×120×78	N－62°－W	凵　状	
331	Ｅｇ－88、Ｅｇ－89グリッド	不　明	82＋α×100×15	N－75°－E	不　明	332号土坑と重複する
332	Ｅｇ－88、Ｅｇ－89グリッド	楕円形カ	154＋α×148×36	N－68°－W	Ⅲ　状	331号土坑と重複する
333	Ｅｇ－89グリッド	楕円形カ	82＋α×122×62	N－65°－W	凵　状	457号土坑と重複する
334	Ｅｇ－90グリッド	楕円形	152×128×12	N－73°－E	Ⅲ　状	
335	Ｅｈ－89グリッド	楕円形	70×62×46	N－62°－W	凵　状	
336	Ｅｈ－89グリッド	楕円形	92×78×32	N－49°－W	U　状	
337	Ｅｈ－91グリッド	楕円形	80×77×20	N－58°－E	凵　状	
338	Ｅｇ－92グリッド	円　形	96×86×46	N－9°－E	凵　状	339号土坑と重複し、本跡が新しい
339	Ｅｇ－92グリッド	楕円形カ	98＋α×100×39	N－9°－W	U　状	338号土坑と重複し、本跡が古い
340	Ｅｈ－92グリッド	円　形	122×114×30	N－41°－E	Ⅲ　状	316号土坑と重複し、本跡が古い
341	Ｅｈ－92グリッド	円　形	66×57×21	N－37°－E	Ⅲ　状	316号土坑と重複し、本跡が古い
342	Ｅｈ－92グリッド	円　形	110×98×35	N－50°－E	U　状	
343	Ｅｇ－93、Ｅｈ－93グリッド	不整形	178×90×21	N－40°－W	U　状	ピットと重複する
344	Ｅｈ－93グリッド	不整形	153×106×18	N－12°－W	Ⅲ　状	
345	Ｅｈ－93グリッド	円　形	138×131×21	N－70°－W	ピット有	
346	Ｅｉ－92・Ｅｊ－92グリッド	円　形	83×82×9	N－67°－W	Ⅲ　状	
347	Ｅｊ－93グリッド	円　形	114×105×22	N－15°－E	Ⅲ　状	
348	Ｅｊ－93グリッド	円　形	68×60×30	N－72°－W	U　状	
349	Ｅｊ－93グリッド	円　形	68×56×26	N－40°－E	U　状	
350	Ｅｊ－93グリッド	円　形	125×115×50	N－13°－E	凵　状	ピットと重複する
351	Ｅｈ－93グリッド	円　形	69×43＋α×23	N－10°－E	Ⅲ　状	352号土坑と重複する
352	Ｅｈ－92、Ｅｈ－93グリッド	円　形	113×105＋α×48	N－22°－E	凵　状	351号土坑と重複する
353	Ｅｇ－92、Ｅｈ－92グリッド	円　形	143×128×34	N－48°－E	Ⅲ　状	
354	Ｅｉ－92、Ｅｉ－93グリッド	楕円形	116×94×29	N－90°－E	U　状	
355	Ｅｉ－93グリッド	楕円形	70×56×49	N－17°－E	U　状	
356	Ｅｉ－93グリッド	円　形	78×67×22	N－90°－E	U　状	
357	Ｅｉ－93グリッド	円　形	172×155×58	N－58°－W	凵　状	
358	Ｅｈ－91グリッド	円　形	82×78×13	N－67°－W	Ⅲ　状	
359	Ｅｈ－91グリッド	不整形	75×58×64	N－48°－E	２段掘	ピットと重複する
360	Ｅｇ－91、Ｅｇ－92グリッド	楕円形カ	127×84×25	N－35°－E	Ⅲ　状	ピットと重複する
361	Ｅｉ－93、Ｅｉ－94グリッド	楕円形	98×88×30	N－85°－W	ピット有	
362	Ｅｉ－93グリッド	楕円形	135×101×55	N－64°－E	凵　状	
363	Ｅｇ－92グリッド	円　形	69×63×55	N－11°－E	凵　状	
364	Ｅｉ－89グリッド	楕円形	122×76×13	N－85°－W	Ⅲ　状	
365	Ｅｇ－88、Ｅｇ－89グリッド	円　形	100×85×82	N－57°－W	凵　状	

第14表　縄文時代土坑一覧表（10）

土坑番号	位　　置	平面形態	規　　模 長軸×短軸×深さ（cm）	主軸方向	断面形	備　　考
366	Ｅｉ－93グリッド	円　形	８２×７２×３２	Ｎ－０°－Ｅ	凵　状	
367	Ｅｉ－93グリッド	楕円形	１１８×７３×４２	Ｎ－57°－Ｅ	凵　状	ピットと重複する
368	Ｅｉ－93グリッド	楕円形	１０４×９１×１９	Ｎ－70°－Ｗ	皿　状	
369	Ｅｉ－93グリッド	楕円形	６４×５１×４２	Ｎ－30°－Ｗ	２段掘り	
370	Ｅｉ－93グリッド	円　形	６８×６０×３５	Ｎ－58°－Ｅ	凵　状	
371	Ｅｉ－93グリッド	楕円形	１０２×７０×３０	Ｎ－85°－Ｗ	凵　状	
372	Ｅｉ－93グリッド	円　形	９１×８７×２６	Ｎ－10°－Ｅ	ピット有	
373	Ｅｉ－93グリッド	楕円形	１０５×７８×２０	Ｎ－88°－Ｗ	ピット有	374号・432号土坑と重複し、本跡が新しい
374	Ｅｉ－93グリッド	円形カ	66＋α×89×10	Ｎ－17°－Ｗ	凵　状	373号土坑と重複し、本跡が古い
375	Ｅｇ－89グリッド	楕円形	９４×６８×４９	Ｎ－44°－Ｗ	凵　状	
376	Ｅｈ－89グリッド	楕円形	77×64×10　70	Ｎ－24°－Ｗ	２段掘り	
377	Ｅｈ－89グリッド	楕円形	７４×４３×６６	Ｎ－34°－Ｗ	Ｕ　状	ピットと重複する
378	Ｅｈ－89、Ｅｈ－90グリッド	円　形	136×107×67	Ｎ－13°－Ｅ	Ｕ　状	ピットと重複する
379	Ｅｇ－89グリッド	楕円形	７６×６２×３３	Ｎ－32°－Ｗ	Ｕ　状	
380	Ｅｇ－89、Ｅｇ－90グリッド	不整形	179×160×20　46	Ｎ－23°－Ｅ	凹　凸	ピットと重複する
381	Ｅｈ－91グリッド	楕円形	７６×５４×６６	Ｎ－19°－Ｅ	Ｕ　状	
382	Ｅｈ－91グリッド	不整形	７６×５６×３３	Ｎ－８°－Ｗ	凵　状	
383	Ｅｈ－91グリッド	円　形	５２×５０×２０	Ｎ－０°－Ｅ	凵　状	
384	Ｅｈ－91グリッド	円　形	５４×４５×１４	Ｎ－０°－Ｅ	凵　状	
385	Ｅｈ－91グリッド	楕円形	６９×５１×５０	Ｎ－35°－Ｅ	凵　状	
386	Ｅｈ－91グリッド	楕円形	７２×４４×１９	Ｎ－53°－Ｗ	凵　状	ピットと重複する
387	Ｅｊ－93グリッド	楕円形	６７×５８×２６	Ｎ－49°－Ｅ	凵　状	
388	Ｅｊ－93グリッド	不整形	１３８×７８×３６	Ｎ－76°－Ｅ	Ｕ　状	
389	Ｅｉ－93、Ｅｉ－94グリッド	円　形	107×102×35	Ｎ－33°－Ｅ	凵　状	ピットと重複する
390	Ｅｉ－94グリッド	不整形	１０６×９８×３４	Ｎ－88°－Ｗ	凵　状	
391	Ｅｈ－89グリッド	楕円形	112×100×48	Ｎ－46°－Ｗ	ピット有	392号土坑と重複し、本跡が新しい
392	Ｅｈ－89グリッド	楕円形カ	８６×７８×２０	Ｎ－９°－Ｅ	ピット有	391号土坑と重複し、本跡が古い
393	Ｅｈ－89グリッド	楕円形	１３９×９３×３２	Ｎ－66°－Ｅ	ピット有	ピットと重複する
394	Ｅｈ－93、Ｅｉ－93グリッド	楕円形	１０１×８４×１９	Ｎ－72°－Ｗ	皿　状	
395	Ｅｇ－90グリッド	楕円形	６４×４５×５０	Ｎ－50°－Ｅ	凵　状	
396	Ｅｉ－93グリッド	楕円形	70＋α×84×18	Ｎ－71°－Ｅ	凵　状	ピットと重複する
397	Ｅｉ－93グリッド	楕円形	１１０×８２×４１	Ｎ－25°－Ｗ	Ｕ　状	
398	Ｅｈ－93グリッド	不整形	１００×８４×２４	Ｎ－67°－Ｗ	Ｕ　状	ピットと重複する
399	Ｅｈ－93グリッド	楕円形	134×112×40	Ｎ－67°－Ｗ	Ｕ　状	
400	Ｅｉ－93グリッド	円　形	４１×３６×２０	Ｎ－20°－Ｅ	凵　状	
401	Ｅｉ－93グリッド	楕円形	７４×５６×２３	Ｎ－13°－Ｅ	２段掘り	
402	Ｅｉ－93グリッド	楕円形	７５×６４×２８	Ｎ－１°－Ｗ	Ｕ　状	
403	Ｅｉ－92グリッド	不整形	９２×７３×　９	Ｎ－16°－Ｗ	皿　状	
404	Ｅｉ－92グリッド	楕円形カ	92×66（＋α）×15	Ｎ－35°－Ｗ	皿　状	405号土坑と重複し、本跡が古い
405	Ｅｉ－92グリッド	楕円形	１３７×７５×６０	Ｎ－27°－Ｗ	凵　状	404号土坑と重複し、本跡が新しい

第15表　縄文時代土坑一覧表（11）

土坑番号	位　　置	平面形態	規　　模 長軸×短軸×深さ（㎝）	主軸方向	断面形	備　　考
406	Ｅｈ－90グリッド	楕円形	４８×４６×６５	Ｎ－43°－Ｅ	Ｕ　状	
407	Ｅｉ－92グリッド	楕円形	１００×７３×２２	Ｎ－65°－Ｅ	皿　状	
408	Ｅｉ－92グリッド	楕円形カ	115×69＋α×15	Ｎ－65°－Ｅ	皿　状	409号土坑と重複する
409	Ｅｉ－92グリッド	楕円形カ	65×48＋α×10	Ｎ－63°－Ｅ	皿　状	408号土坑と重複する
410	Ｅｉ－91、Ｅｉ－92グリッド	不整形	１３０×６７×２１	Ｎ－87°－Ｗ	皿　状	ピットと重複する
411	Ｅｂ－89グリッド	楕円形	９８×８１×６１	Ｎ－25°－Ｗ	ピット有	
412	Ｅｂ－89、Ｅｇ－89グリッド	円　形	６１×６０×１８	Ｎ－43°－Ｅ	皿　状	
413	Ｅｇ－90グリッド	楕円形	１１７×９７×８０	Ｎ－26°－Ｅ	凵　状	
414	Ｅｇ－90、Ｅｈ－90グリッド	楕円形	９８×７９×２８	Ｎ－77°－Ｗ	Ｕ　状	
415	Ｅｇ－89・90グリッド	不整形	９６×７６×１８	Ｎ－76°－Ｗ	皿　状	
416	Ｅｇ－89グリッド	楕円形	１２３×９３×６７	Ｎ－８°－Ｅ	凵　状	ピットと重複する
417	Ｅｉ－91グリッド	楕円形	１１７×７１×２１	Ｎ－65°－Ｗ	皿　状	
418	Ｅｉ－91グリッド	楕円形	９５×６３×４０	Ｎ－85°－Ｅ	２段掘り	
419	Ｅｉ－91グリッド	不整形	１０８×８５×１８	Ｎ－45°－Ｗ	皿　状	
420	Ｅｉ－94グリッド	楕円形	７７×６６×３３	Ｎ－62°－Ｅ	Ｕ　状	
421	Ｅｉ－93グリッド	楕円形	１１７×１０７×２９	Ｎ－44°－Ｅ	皿　状	
422	Ｅｈ－92グリッド	楕円形	９０×７１×６０	Ｎ－90°－Ｅ	Ｕ　状	
423	Ｅｈ－92グリッド	楕円形	９７×７８×１２	Ｎ－45°－Ｗ	皿　状	
424	Ｅｉ－93グリッド	楕円形	１２４×１１０×２０	Ｎ－70°－Ｗ	皿　状	
425	Ｅｉ－92グリッド	楕円形	１０８×７３×１３	Ｎ－50°－Ｅ	皿　状	
426	Ｅｈ－91グリッド	楕円形	８８×７７×２３	Ｎ－17°－Ｅ	袋　状	
427	Ｅｉ－92グリッド	楕円形	９３×４７×１１	Ｎ－84°－Ｅ	皿　状	
428	Ｅｈ－91グリッド	楕円形	８９×８２×５３	Ｎ－17°－Ｅ	袋　状	
429	Ｅｈ－91グリッド	不整形	７５×６２×５４	Ｎ－23°－Ｅ	凵　状	
430	Ｅｉ－93グリッド	楕円形	７８×６９×２０	Ｎ－25°－Ｅ	Ｕ　状	
431	Ｅｈ－93、Ｅｉ－93グリッド	楕円形	１２５×７１×３８	Ｎ－58°－Ｗ	Ｕ　状	
432	Ｅｉ－93グリッド	楕円形	110×60＋α×29	Ｎ－62°－Ｅ	Ｕ　状	373号土坑と重複し、本跡が古い
433	Ｅｉ－94グリッド	方　形	109×101×27	Ｎ－30°－Ｗ	ピット有	
434	Ｅｈ－91グリッド	円　形	９０×８５×２９	Ｎ－60°－Ｗ	凵　状	
435	Ｅｈ－91、Ｅｈ－92グリッド	不整形	１０６×８６×２５	Ｎ－51°－Ｗ	ピット有	ピットと重複する
436	Ｅｈ－92グリッド	楕円形	１３６×７７×７６	Ｎ－15°－Ｗ	凵　状	
437	Ｅｉ－93グリッド	不整形	８５×５８×３７	Ｎ－37°－Ｗ	Ｕ　状	
438	Ｅｈ－91グリッド	円　形	５０×４９×６３	Ｎ－36°－Ｅ	凵　状	
439	Ｅｈ－91グリッド	楕円形	８５×６５×６６	Ｎ－11°－Ｗ	Ｕ　状	
440	Ｅｈ－92グリッド	楕円形	69×55＋α×26	Ｎ－１°－Ｗ	ピット有	ピットと重複する
441	Ｅｈ－91グリッド	楕円形カ	１０６×７２×１７	Ｎ－０°－Ｅ	皿　状	ピットと重複する
442	Ｅｈ－91グリッド	楕円形カ	７８×５６×２９	Ｎ－70°－Ｅ	皿　状	ピットと重複する
443	Ｅｉ－91グリッド	円　形	８４×７８×５７	Ｎ－82°－Ｅ	袋　状	
444	Ｅｉ－91グリッド	円　形	９０×８９×２９	Ｎ－50°－Ｗ	凵　状	
445	Ｅｉ－91グリッド	楕円形	１２５×７１×１７	Ｎ－62°－Ｅ	皿　状	

第16表　縄文時代土坑一覧表（12）

土坑番号	位　　置	平面形態	規　　模 長軸×短軸×深さ（cm）	主軸方向	断面形	備　　考
446	Ｅｉ－91グリッド	楕円形	121×72×51	N－63°－E	凵　状	
447	Ｅｈ－91、Ｅｉ－91グリッド	楕円形	87×50×62	N－47°－E	袋　状	
448	Ｅｈ－89グリッド	楕円形	177×99×61	N－57°－W	袋　状	ピットと重複する
449	Ｅｇ－90、Ｅｈ－90グリッド	不整形	130×72×12	N－55°－W	皿　状	1－28号墓と重複し、本跡が古い
450	Ｅｇ－90、Ｅｈ－90グリッド	楕円形	71×56×18	N－88°－E	皿　状	ピットと重複する
451	Ｅｈ－90グリッド	不整形	97×71×35	N－28°－E	凵　状	ピット重複する
452	Ｅｉ－90グリッド	不整形	121×71×22	N－54°－W	皿　状	1－34号墓と重複し、本跡が古い
453	Ｅｉ－90グリッド	円形カ	52×49（推）×45	N－55°－E	不　明	456号土坑と重複する
454	Ｅｈ－90、Ｅｉ－90グリッド	楕円形	97×71×38	N－13°－W	凵　状	
455	Ｅｈ－91グリッド	楕円形	135×109×60	N－34°－W	凵　状	1－29号墓と重複し、本跡が古い
456	Ｅｈ－90、Ｅｉ－90グリッド	楕円形	93×52＋α×26	N－53°－E	袋　状	453号土坑と重複する
457	Ｅｇ－89グリッド	楕円形	162×98＋α×76	N－5°－E	凵　状	333号土坑と重複する
458	Ｅｈ－92グリッド	円　形	141×137×43	N－7°－E	U　状	61号住居跡と重複し、本跡が新しい
459	Ｅｈ－92グリッド	楕円形	100×87×40	N－40°－E	凵　状	
460	Ｅｈ－91グリッド	円　形	97×54＋α×27	N－78°－E	凵　状	1－36号墓と重複し、本跡が古い
461	Ｅｇ－89、Ｅｈ－89グリッド	楕円形	84×70×59	N－49°－W	2段掘り	1号溝と重複し、本跡が古い
462	Ｅｈ－90グリッド	不　明	161×72×20	N－87°－E	2段掘り	1－38号墓と重複し、本跡が古い
463	Ｅｇ－91グリッド	楕円形	120×111×12	N－38°－W	ピット有	
464	Ｅｈ－90、Ｅｈ－91グリッド	不整形	153×125×25	N－55°－W	皿　状	473号土坑と重複し、本跡が新しい
465	Ｅｈ－92グリッド	円　形	112×103×32	N－32°－E	凵　状	1－22号墓と重複し、本跡が古い
466	Ｅｈ－92グリッド	楕円形	100×88×17	N－30°－W	皿　状	
467	Ｅｈ－92グリッド	不整形	170×135×19	N－10°－E	皿　状	61号住居跡と重複する
468	Ｅｈ－92、Ｅｉ－92グリッド	不整形	143×113×33	N－21°－E	2段掘り	481号土坑と重複する
469	Ｅｇ－89グリッド	円　形	116×114×78	N－58°－W	袋　状	
470	Ｅｈ－90グリッド	円　形	78×71×13	N－13°－W	皿　状	270・472号土坑と重複し、本跡が古い
471	Ｅｈ－92グリッド	不整形	136×87×20	N－84°－E	皿　状	
472	Ｅｈ－90グリッド	楕円形カ	122×80×58	N－90°－E	凵　状	270・493号土坑と重複し、493号土坑より新しい
473	Ｅｈ－91グリッド	楕円形カ	61×47＋α×11	N－31°－E	皿　状	464号土坑と重複し、本跡が古い
474	Ｅｈ－90グリッド	楕円形	63×52×63	N－32°－E	凵　状	1－27号墓と重複する
475	Ｅｈ－90、Ｅｈ－91、Ｅｉ－90、Ｅｉ－91グリッド	不整形	111×59×10	N－69°－E	皿　状	
476	Ｅｈ－91グリッド	楕円形	109×69×60	N－63°－E	凵　状	1－41号墓と重複し、本跡が古い
477	Ｅｈ－90グリッド	不　明	79×44＋α×34	N－45°－W	不　明	1－43号墓と重複し、本跡が古い
478	Ｅｈ－91、Ｅｇ－91グリッド	楕円形	124×72×17	N－10°－W	凵　状	
479	Ｅｈ－91グリッド	楕円形カ	111×101×20	N－86°－W	皿状カ	1－45号墓、480号土坑と重複し、1－45号墓⇒本跡⇒480号土坑（新⇒旧）である
480	Ｅｈ－91グリッド	不　明	116×58＋α×20	N－85°－W	皿状カ	1－45号墓、479号土坑と重複し、本跡が古い
481	Ｅｈ－92、Ｅｉ－92グリッド	不整形	205×112×31	N－45°－E	2段掘り	468号土坑と重複する
482	Ｅｈ－92グリッド	不整形	142×110×23	N－73°－W	2段掘り	61・65号住居跡と重複する
483	Ｅｈ－92、Ｅｈ－93グリッド	不整形	333×214×18	N－83°－W	皿　状	65号住居跡・484号土坑と重複する
484	Ｅｈ－92グリッド	楕円形	151×109×11	N－15°－W	ピット有	483号土坑と重複する
485	Ｅｈ－92グリッド	円　形	104×96×16	N－32°－E	皿　状	61号住居跡と重複し、本跡が古い

第17表　縄文時代土坑一覧表（13）

土坑番号	位　　置	平面形態	規　　模 長軸×短軸×深さ（cm）	主軸方向	断面形	備　　考
486	Ｅｈ－92グリッド	楕円形	118×71×17	Ｎ－10°－Ｅ	凵　状	
487	Ｅｈ－92グリッド	円　形	157×143×23	Ｎ－33°－Ｗ	皿　状	
488	欠　　番					
489	欠　　番					
490	欠　　番					
491	Ｅｇ－89グリッド	楕円形	174×70×63	Ｎ－37°－Ｅ	袋　状	311号土坑と重複し、本跡が新しい
492	Ｅｈ－93グリッド	楕円形	140×120×15	Ｎ－48°－Ｅ	皿　状	62号住居跡と重複し、本跡が古い
493	Ｅｈ－90グリッド	楕円形	140×102×36	Ｎ－3°－Ｅ	凵　状	270・470・472号土坑と重複し、270・472号土坑より古い

第７項　遺構外出土遺物

本項においては、表採で得られた資料をはじめとして、縄文前期から後期へかけての遺構外あるいは明確に遺構に伴わない遺物を掲載した。掲載にあたって土器は、紙面上の制約により代表的な遺物、問題のある遺物に限って提示した。石器についても代表的な形態を図化したうえでグリッド毎に集計し、表を作成している。なお、各遺物の出土位置については図版中に（　）で表記している。

１～82は、土器・土製品である。１～４は、黒浜式。５～７は、諸磯ａ式。８～20は、諸磯ｂ式。21は、諸磯ｂ式か。22は、諸磯ｃ式。23・48は、諸磯式。24は、浮島式。25は、浮島式か。26は、興津式。27～29は、十三菩提式。30～32は、前期。33は、下島式か。34・35は、五領ヶ台式。36・37は阿玉台Ⅰｂ式。38～40は、阿玉台Ⅱ式。41は、勝坂１式。42は、勝坂２式。43～45は、加曽利Ｅ３式。46は、加曽利Ｅ４式。47は、中期。49・50は、堀之内１式。51～61は、堀之内２式。62は、堀之内式。63～66は、加曽利Ｂ１式。67・68は加曽利Ｂ２式。63は、加曽利Ｂ３式。70～79は、後期。80～82は、縄文。にそれぞれ包括される一群である。

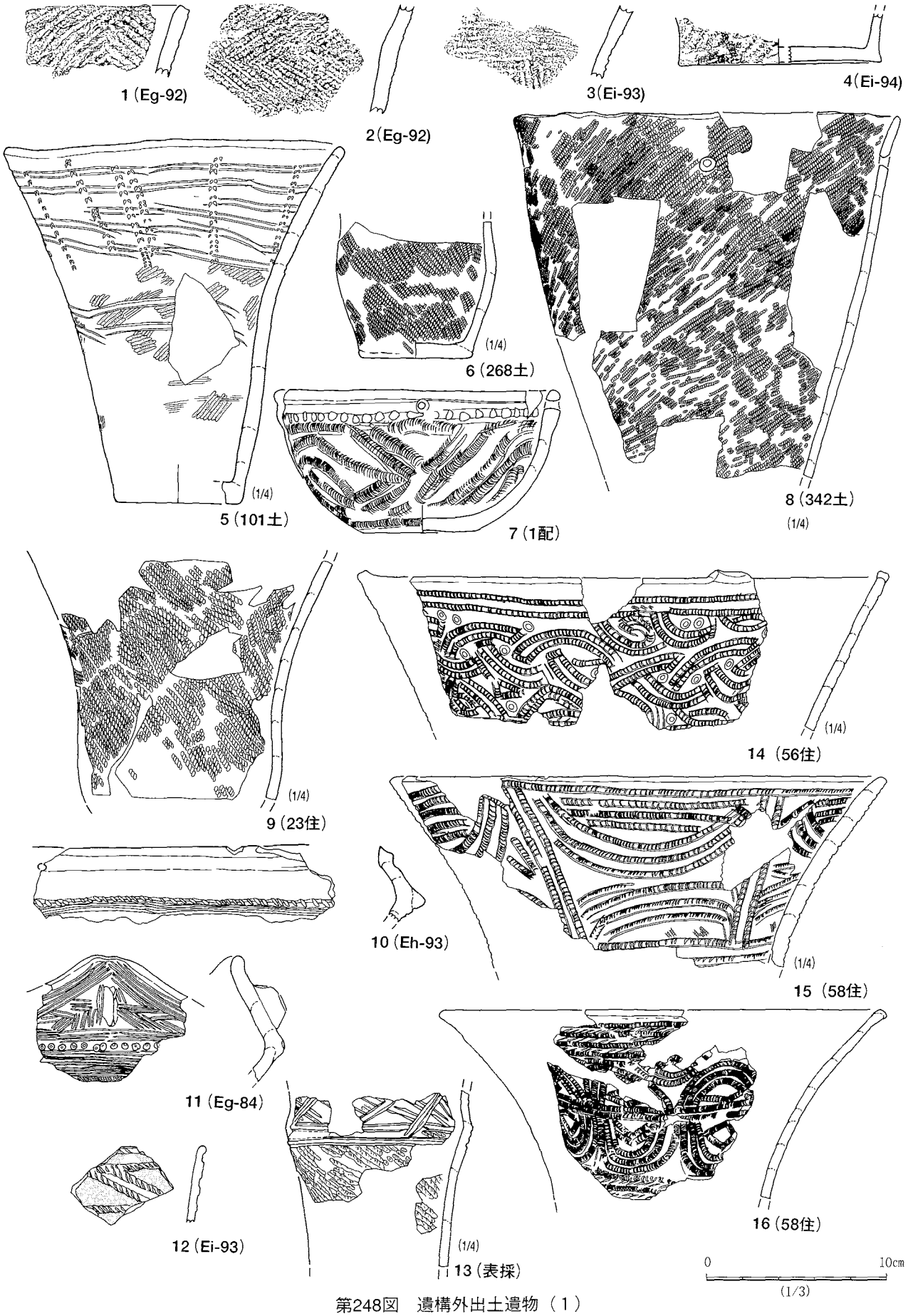
１は、深鉢の口縁部片で、口唇部は平坦である。外面に縄文（Ｌ）を羽状に施文する。胎土は繊維を含み、焼成は良好で、色調は茶色である。

２は、深鉢の胴部片である。文様は２種の原体を交互に横位施文し、羽状縄文を施す。胎土は砂粒・片岩を多量に含み、焼成は普通で、色調は茶色である。

３は、深鉢の胴部片である。外面は原体の施文方向を変えて羽状縄文を施す。胎土は繊維を含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

４は、深鉢の底部片である。底面は丁寧な撫で、胴部には縄文（ＬＲ）を横位に施文する。胎土は繊維を含み、焼成は良好で、色調は茶褐色である。

５は、胴部上半が外反する深鉢である。口縁部に２条の平行沈線を３帯施し、その間に縦位の列点状刺突列を施文する。頸部以下には斜縄文（無節Ｌ）を施文し。内面は軽く研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色から黄褐色である。



第248図　遺構外出土遺物（1）

6は、胴部中位が括れる深鉢である。文様は外面に斜縄文（ＲＬ）を施し、内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

7は、椀形の鉢である。口唇部外端に縄文（ＲＬ）を回転施文し、口縁部を巡る隆帯には刺突状の刻目を施す。胴部には爪形文で木の葉状の入組み文と三角文を組み合わせた文様を構成する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黄褐色である。

8は、口縁部が小さく外反する深鉢である。外面全体に斜縄文（ＬＲ）を施し、内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

9は、胴部上半が大きく開く深鉢である。外面に斜縄文を施文する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は暗褐色である。

10は、肩部がくの字状に内折する浅鉢である。口唇部外端に肥厚帯が巡り、肩部に斜位の刻目を施し、その直下に平行沈線を１条施文する。内外面を共に研磨する。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

11は、強く内傾する山形突起を持つ深鉢である。突起外面に貼付文を施し、胴部に巡らした集合沈線と口縁部に沿って施した平行沈線によって三角形に区画し、区画内に平行沈線を充填する。胴部は縄文施文後、横位に集合沈線を巡らし、屈曲部に１列の竹管による円形刺突を施す。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は茶色である。

12は、薄手の鉢あるいは深鉢と見られる。文様は斜位の刻目が付く２条単位の浮線文で構成し、空白部に赤色塗彩を施す。内面の口縁部も赤色塗彩を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

13は、深鉢の胴部下半片である。文様は斜縄文（Ｒ）を地文に、胴部上半に平行沈線で斜格子文を構成する。内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は淡褐色である。

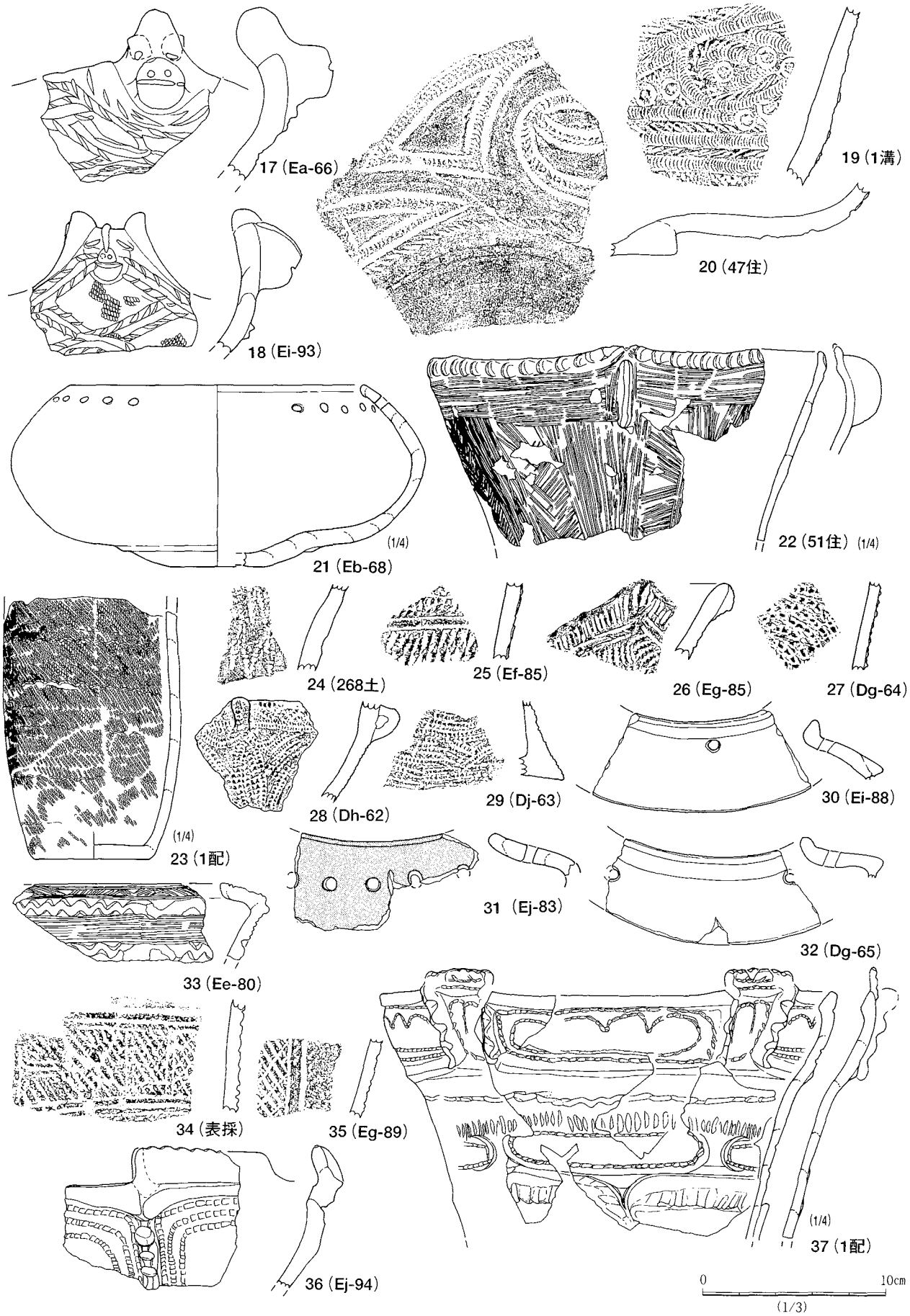
14は、胴部上半が直線的に開く深鉢である。口縁部に低平な小突起を付す。胴部上半に２条単位の爪形文で弧線を組み合わせた文様を構成し、空白部に円形刺突を施す。斜縄文（ＲＬ）を地文とするが、大半の部分が爪形文の施文前に磨り消される。内面は研磨が施される。胎土は片岩を多量に含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

15は、胴部上半が開く深鉢である。文様は、胴部上半にパネル状の区画を施し、区画内に３条単位の爪形文で木の葉状の文様を施文する。下半部には斜縄文（ＲＬ）を施文し、内面は研磨する。胎土は片岩・砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は明褐色である。

16は、胴部上半が外反する深鉢である。口縁部と胴部には爪形文を数条巡らして文様帯を画し、その間に３条単位の爪形文で弧状の文様を組み合わせ、更に空白部には菱形、Ｖ字状の文様を施す。文様帯を画す爪形文間には斜位の刻目を付す。内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

17は、円形刺突と沈線で表現した猪と思われる突起を持つ深鉢である。胴部外面には雑な刻みを施した浮線文を貼付する。地文ははっきりせず不明である。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調はにぶい橙色である。

18は、山形の突起を持つ深鉢である。突起部には隆帯と刺突及び、浮線文で表現した猪と思われる突起を持ち、胴部には縄文（ＲＬ）を施文後、刻みを施した浮線文を貼付する。胎土は細砂粒を微量含み、焼成は良好で、色調は灰褐色である。



第249図　遺構外出土遺物（２）

19は、深鉢の胴部片である。斜縄文（ＲＬ）を地文に、２～３条の爪形文で帯状区画の文様を構成し、無文部には円形刺突を施す。なお、爪形文間には斜位の刻目を付す。内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は灰黒色である。

20は、胴部下半に段を持つ浅鉢である。爪形文で三角形や木の葉形の区画文を旋文し、文様帯下を斜位の刻目を付した浮線文１条で画す。区画内には赤色塗彩が残る。内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黒褐色である。

21は、口縁部が内傾し、底部が僅かに突出する浅鉢である。底部の付近には１本の突帯を巡らし、口縁部に沿う形で等間隔に円孔を穿つ。胎土は砂粒・片岩を多量に含み、焼成は普通で、色調は茶色から黒褐色である。

22は、口縁部が弱く内湾する深鉢である。口縁部を内側へ窪めた部分に耳状の貼付文を施し、口唇部外端に抉った様な刺突列を施す。文様は集合沈線で、縦位構図の文様を構成する。内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は淡褐色である。

23は、胴部が円筒状の深鉢で、外面に結節を伴う斜縄文（ＲＬ）を施す。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

24は、深鉢の胴部片で、外面に貝殻腹縁による鋸歯文を横位に多段旋文する。内面は研磨する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は淡褐色である。

25は、深鉢の胴部片で、文様は、貝殻腹縁文を横位に連続施文した後、半截竹管による沈線を横位に巡らす。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は茶色である。

26は、山形の突起を持つ深鉢である。突起部には貼付文を施し、口縁部に沿って刻目と半截竹管による平行沈線を施文する。更に下位に貝殻腹縁文を充填する。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

27は、深鉢の胴部片で、地文に細沈線を施し、結節状浮線文で渦巻状の文様を描く。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は暗褐色である。

28は、深鉢の胴部片で、小把手を付す。器面は、結節状浮線文で曲線的な文様を描く。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は灰褐色である。

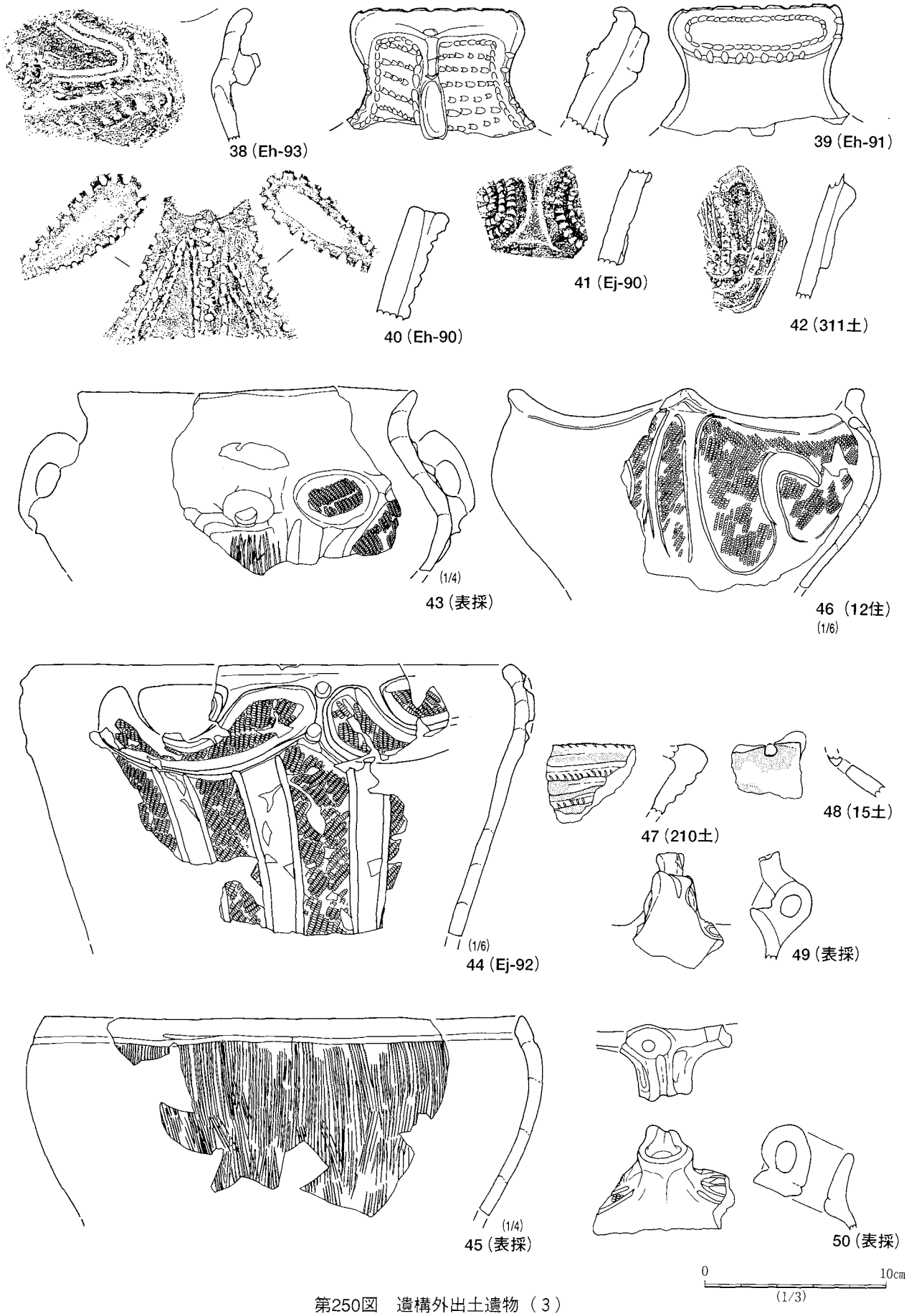
29は、深鉢の底部片で、下端が広がる器形である。器面は結節状浮線文を充填する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は茶色である。

30は、口縁部が短く直立する浅鉢である。外面は比較的丁寧に研磨し、肩部に円孔を穿つ。胎土は細砂粒を含み、焼成は良好で、色調は茶色である。

31は、肩部に強い屈曲を持つ浅鉢で、内外面共に丁寧な研磨を施す。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調はにぶい橙色から褐色である。

32は、口縁部が短く直立する浅鉢で、肩部に等間隔の円孔を穿つ。胎土は細砂粒を含み、焼成は普通で、色調は褐色から黒褐色である。

33は、口縁部がくの字状に内折する深鉢である。文様は集合沈線と三角形印刻文による鋸歯文を多用して構成する。頸部を巡る隆帯も鋸歯状に印刻し、突起を伴うが欠落している。内面は撫でる。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。



第250図　遺構外出土遺物（3）

34は、深鉢の胴部片である。文様は数条の平行沈線により楕円に区画し、区画内を同平行沈線による斜行線や、斜格子沈線で充填する。内面は撫でる。胎土は雲母・砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

35は、深鉢の胴部片である。文様は、斜縄文（ＬＲ）を地文として、幅広の平行沈線で区画文を施し、区画内を斜格子沈線で充填する。内面は撫でを施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

36は、口縁部が内湾する深鉢である。文様は、口縁部には隆帯で楕円区画文を構成し、区画内には隆帯に沿って鋸歯文を伴う結節沈線を施す。なお、口縁部区画内の結節沈線は幅広の施文となる。内面は撫でる。胎土は雲母・砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

37は、口縁部が内湾する深鉢で、口唇部の内面に稜を持つ。口縁にはヒレ状の把手を付し、把手両端部の下端には指頭押圧を施した棒状の隆帯を付す。口縁部と頸部下に隆帯で楕円区画文を施し、胴部にはＹ字状の隆帯懸垂文を施す。楕円区画内には１本単位の押引文を加えるが、口縁部では上方の押引文が鋸歯状となる。頸部下の楕円区画文では上方の隆帯を略す。頸部には鋸歯状沈線とキャタピラ状の刺突文を施し、胴部にはヒダ状の整形痕が見られる。内面は研磨する。胎土は雲母・砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

38は、頸部が強く括れる波状口縁の深鉢である。口縁部に隆帯で楕円状の区画文を施し、隆帯に沿って２条の結節沈線を加える。頸部下にヒレ状の整形痕が巡り、内面は撫でる。胎土は片岩・砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

39は、波状口縁の深鉢である。波頂部に付く大形の扇状把手で、把手内面に隆帯で楕円区画文を施す。外面は中央部を隆帯で分割し、全面に列点状刺突列を施す。内面は撫でる。胎土は雲母・砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

40は、波状口縁の深鉢で、波頂部に付く大形の山形把手である。文様は、中央部に刻目が付く隆帯を施し、口唇部隆帯に沿って２列の結節沈線を施す。内面は撫でる。胎土は雲母・砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

41は、深鉢の胴部片で、隆帯による楕円区画内に２～３条の幅広結節沈線を施す。内面は研磨する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

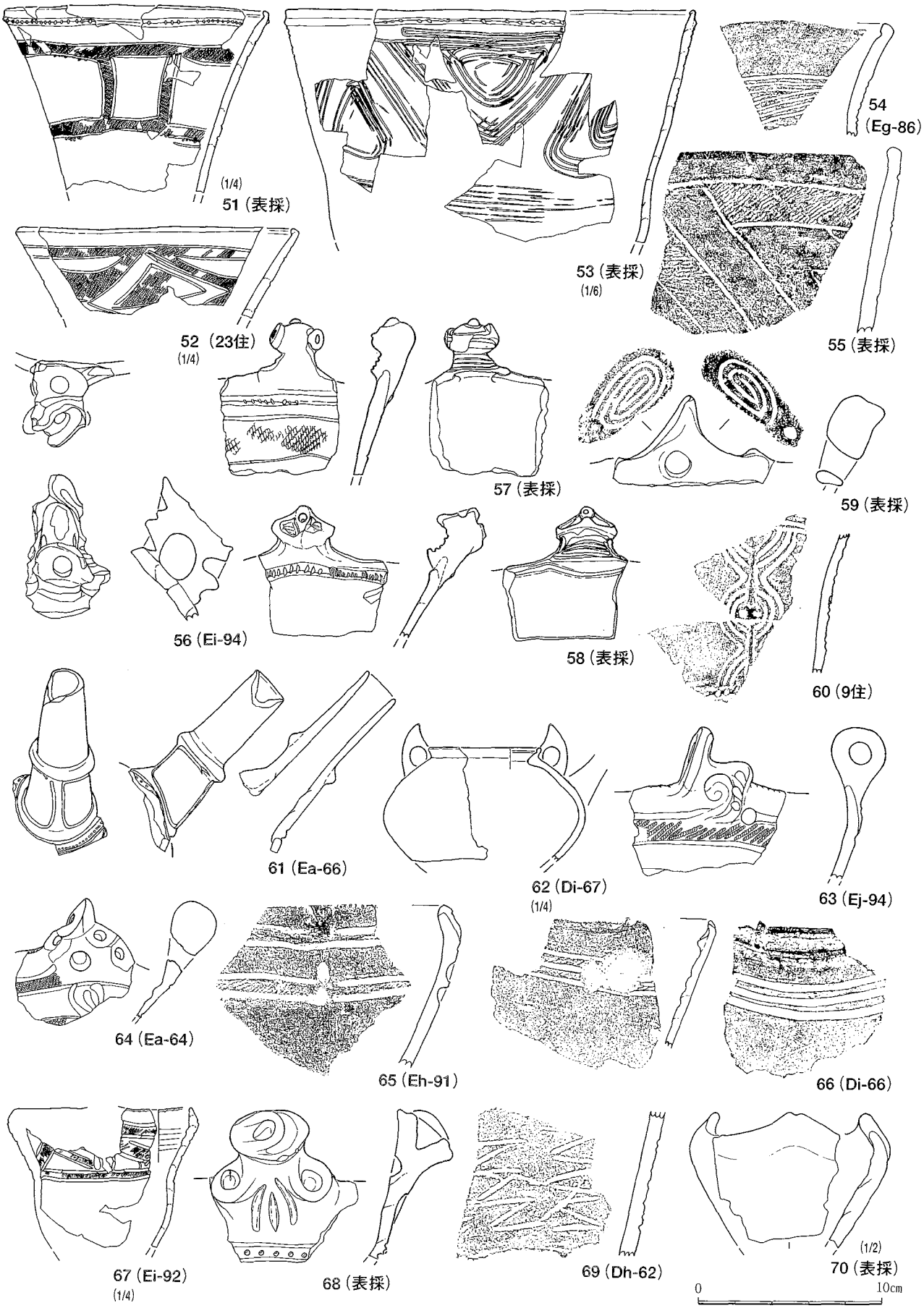
42は、深鉢の胴部片で、隆帯で渦巻文を施し、空白部を平行沈線の文様で充填する。隆帯の両側は押引文で縁取り、内面は撫でる。胎土は砂粒を少量に含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

43は、いわゆる両耳壺で、橋状把手は欠損する。胴部上半に隆帯と沈線で楕円区画文を施し、下半には懸垂文を施す。各区画内は縄文（ＬＲ）で充填するが、胴部では条線も併用する。内面は粗い研磨を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

44は、大形深鉢の胴部片である。口縁部に隆帯と沈線で区画文を構成し、区画内を縄文で充填する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は灰褐色である。

45は、口縁部が内湾する浅鉢である。口縁部に沈線を施し、以下に縦位の条線を施文する。内面は粗い研磨を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は灰褐色である。

46は、波状口縁の深鉢で、胴部に括れを持ち、口縁部へ大きく広がり内湾する。波頂部下に逆Ｕ字文を配し、左右に縄文部（ＲＬ）を区画してＪ字文とする。胎土は砂粒を含み、焼成は普通で、色調はにぶい橙色である。



第251図　遺構外出土遺物（4）

47は、胴部がくの字状に屈曲する浅鉢である。屈曲部には爪形状の刻目を付し、文様は斜位の刻目を伴う太い平行沈線で構成する。外面に赤色塗彩が残る。胎土は雲母・砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は淡褐色である。

48は、有孔浅鉢か。外面に赤色塗彩が一部残る。内外面共に研磨する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

49は、注口土器で、突起部は管状で、内面に円形の窪みを施す。文様は、突起外面と口縁部下に沈線を施す。胎土は細砂粒を微量含み、焼成は普通で、色調はにぶい橙色から黒褐色である。

50は、口縁部がくの字状に内折する注口付浅鉢である。注口部には橋状把手が付き、把手接合部口唇にはボタン状貼付文を施す。口縁部に帯縄文（ＲＬ）で文様帯を構成し、内面は軽い研磨を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

51は、胴部が外反しながら開く深鉢で、口唇部は内折する。口縁部には刻目が付く隆線を施し、胴部上半に帯縄文（ＬＲ）で方形区画を構成する。無文部と内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

52は、胴部が直線的に開く深鉢で、口唇部は内折する。胴部上半に帯縄文（ＬＲ）で三角文を構成し、無文部と内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は淡褐色である。

53は、胴部が直線的に開く深鉢で、口唇部の内面は折り返し状である。文様は、口縁部に刻目を施した隆線を巡らし、胴部上半に半截竹管による集合沈線で三角文を構成する。内面は軽い研磨を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は淡褐色である。

54は、胴部上半が外反する深鉢で、口唇部の内面が肥厚する。文様は、口縁部無文下に集合沈線で三角文を構成すると見られる。内外面は共に研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

55は、胴部が直線的に開く深鉢で、口唇部は内面に突出する。胴部上半に帯縄文（無節Ｌ）で三角文を構成し、内面は研磨する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

56は、注口土器の把手で、刺突を伴う円形貼付文を多用した装飾を施す。外面は入念に研磨する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は灰褐色である。

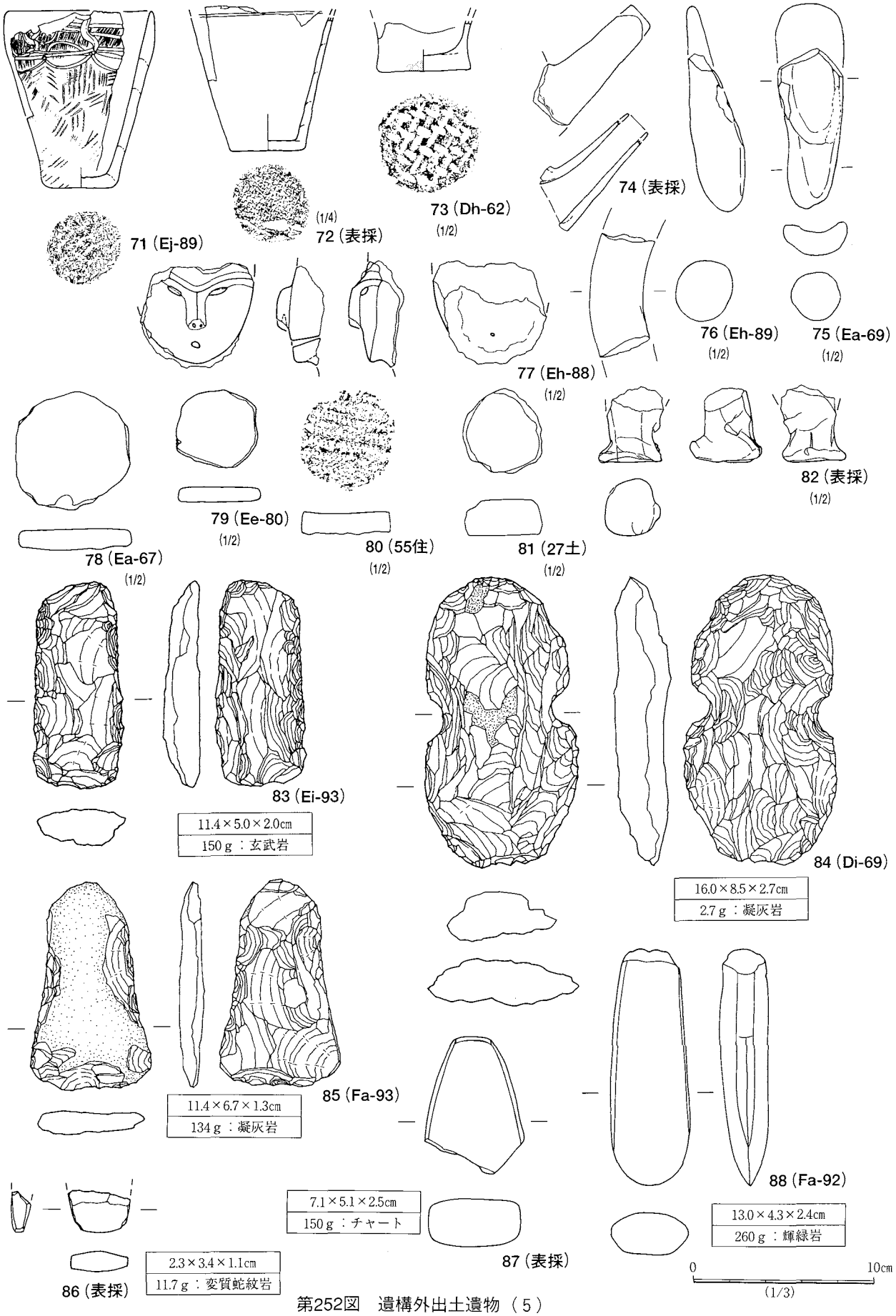
57は、口縁部が外反する深鉢である。口縁にはボタン状貼付文などが施された球状の突起が付き、口唇部の内面には沈線が巡る。外面口縁部には刻目が付く隆線と帯縄文（無節Ｌ）が施される。無文部と内面は研磨する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

58は、口縁部が外反する波状口縁の深鉢である。波頂部に四角錘状の把手を付し、口唇部内面には沈線が巡る。外面は口縁部に刻目が付く隆線を施す以外は無文である。内外面共に軽い研磨を施す。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黒褐色である。

59は、突起を持つ深鉢で、突起下に円孔を穿つ。山形の突起の両側には沈線で渦巻を描き、横に円形刺突を施す。胎土は細砂粒を含み、焼成は普通で、色調は灰褐色である。

60は、朝顔形に広がる深鉢で、口縁部直下に２条の沈線を巡らし、胴部中位に細い隆帯を巡らして胴部文様帯を構成する。胎土は細砂粒を含み、焼成は良好で、色調は灰褐色である。

61は、注口土器の注口部である。注口基部と中位に突帯を巡らせ、突帯間を沈線で２分割し、注口基部の胴部側に沈線と細やかな刺突文を施す。胎土は細砂粒を含み、焼成は普通で、色調は灰褐色である。



第252図　遺構外出土遺物（5）

62は、注口土器と思われる。張りのある体部と短く外反する口縁部を持ち、口縁部内面に１本の沈線が巡る。外面は丁寧に研磨する。胎土は細砂粒を微量含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

63は、口縁部が内傾する深鉢で、口縁部には耳状の把手を付す。口唇部の上面には斜位の刻目を施し、口縁部内面には段が付く。外面の胴部上半に帯縄文（ＬＲ）を施文し、無文部と内面は研磨する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は淡褐色である。

64は、口縁部が内傾する波状口縁の深鉢で、口唇部に斜位の刻目が付き、口縁部の内面に段差と１条の沈線が巡る。口縁波頂部には８の字文をモチーフとする突起と円孔が施される。頸部の文様は２条の帯縄文（ＬＲ）をのの字文で構成する。無文部と内面は研磨する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

65は、口縁部が内湾する深鉢で、口唇部上面に斜位の刻目を付す。口縁部に２個の貼瘤を施して２本の沈線を巡らし、その下に２個の刺突と帯縄文（ＬＲ）を施す。無文部と内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

66は、胴部が直線的に開く波状口縁の深鉢で、口唇部は内折し、内面に突帯が巡る。波頂部よりの口唇部には粘土紐を貼り付けて鋸歯状とし、その内面に刺突を施す。口縁部外面に３本の沈線による帯縄文（ＬＲ）、内面に３本の沈線を施す。内外面共に研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

67は、胴部が括れ、口縁部が内折する波状口縁の深鉢である。口唇部上面に刻目が付き、胴部上半に帯縄文で三角形の文様を構成し、波頂下に対弧文を施す。無文部と内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒色である。

68は、口縁部が内傾する深鉢である。口縁には上面に円形刺突とつの字状隆帯を施した突起が付き、その両側に円形刺突、直下に川の字状文、内面にも円形刺突が施される。口縁部には刺突列を伴う沈線が巡る。内外面は研磨する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

69は、頸部が括れる深鉢であろう。外面に羽状沈線を施文する。内面は軽い研磨を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

70は、波状口縁の深鉢である。口縁部上端は短く内傾する。口縁波頂部外面には剝離した痕跡があり、小突起を付すと思われる。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

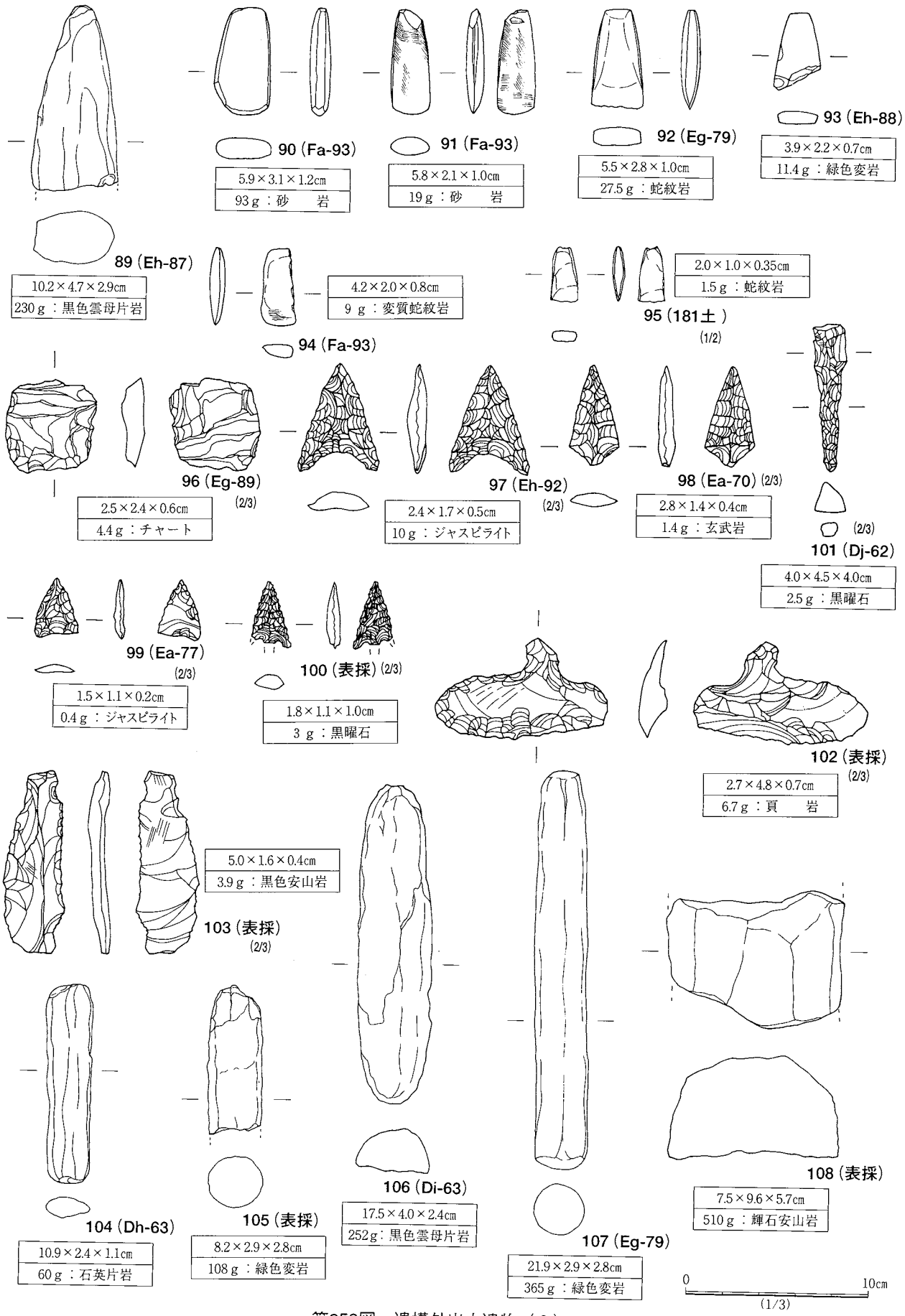
71は、胴部が直線的に開く小形の深鉢である。口縁部に斜行条線を地文とする沈線区画帯を施し、その直下に沈線波状文を施して波頂部に刺突を付す。文様帯には蛇行懸垂文が伴う。胴部には無節縄文をランダムに施文する。内外面は共に研磨を施す。底部の網代痕は撫で消している。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

72は、深鉢である。胴部に沈線が巡り、底部に網代痕が付く。内外面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

73は、ミニチュア土器である。外面に撫で、底部に網代痕を残す。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

74は、注口土器の注口部である。胎土は細砂粒を含み、焼成は不良で、色調は黄土色である。

75は、土製のスプーンの把手部と思われる。器面は撫でで整形する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は不良で、色調は灰褐色である。



第253図　遺構外出土遺物（6）

76は、注口土器の把手片である。器面は丁寧な研磨を施す。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は褐色から黒褐色である。

77は、土偶の顔部である。隆帯をＹ字状に貼付して眉と鼻を表現し、鼻孔は刺突で描く。目はつり上がった列点状の刺突、口は円形の刺突で表す。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい橙色である。

78は、口縁部の土器片を利用した土製円盤である。周辺は８面の打ち欠き後、研磨で整形する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

79は、土器片を利用した土製円盤である。周辺は６面の雑な研磨で整形する。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は暗褐色である。

80は、土製円盤である。斜縄文を施した土器片を利用する。胎土は片岩・繊維を少量含む、焼成は良好で、色調は褐色である。

81は、土製円盤である。土器片を利用する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は灰褐色である。

82は、土偶の足部か。端部が円盤状に広がっている。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は灰褐色である。

83～121は、石器及び石製品である。

83～85は打製石斧である。

83は、短冊形の打製石斧、84は、分銅形の打製石斧、85は、撥形の打製石斧である。

86～94は磨製石斧である。

86・87は、底角式磨製石斧で、86は、頭部片である。88は、頭部が欠損しているが、乳棒状磨製石斧になるものか。89は、乳棒状の磨製石斧である。90～95は、磨製石斧のミニチュアである。94は、小形磨製石斧の刃部片を再び加工しミニチュア品としたものである。

96は、楔形石器である。

97～100は石鏃である。

97は、基部に抉入のある凹基無茎鏃である。98は、基部が突出する凸基有茎鏃である。99は、基部が直線的な平基無茎鏃である。100は、基部に抉入のある凹基有茎鏃である。

101は、石錐で、長い錐部を持つ。

102・103は石匙で、102は、横形の石匙で、103は、縦形の石匙である。

104～107・109・110は、石棒状の石製品で無頭である。108は、石棒の破片と見られ、敲打により整形を施す。

111は、敲石である。

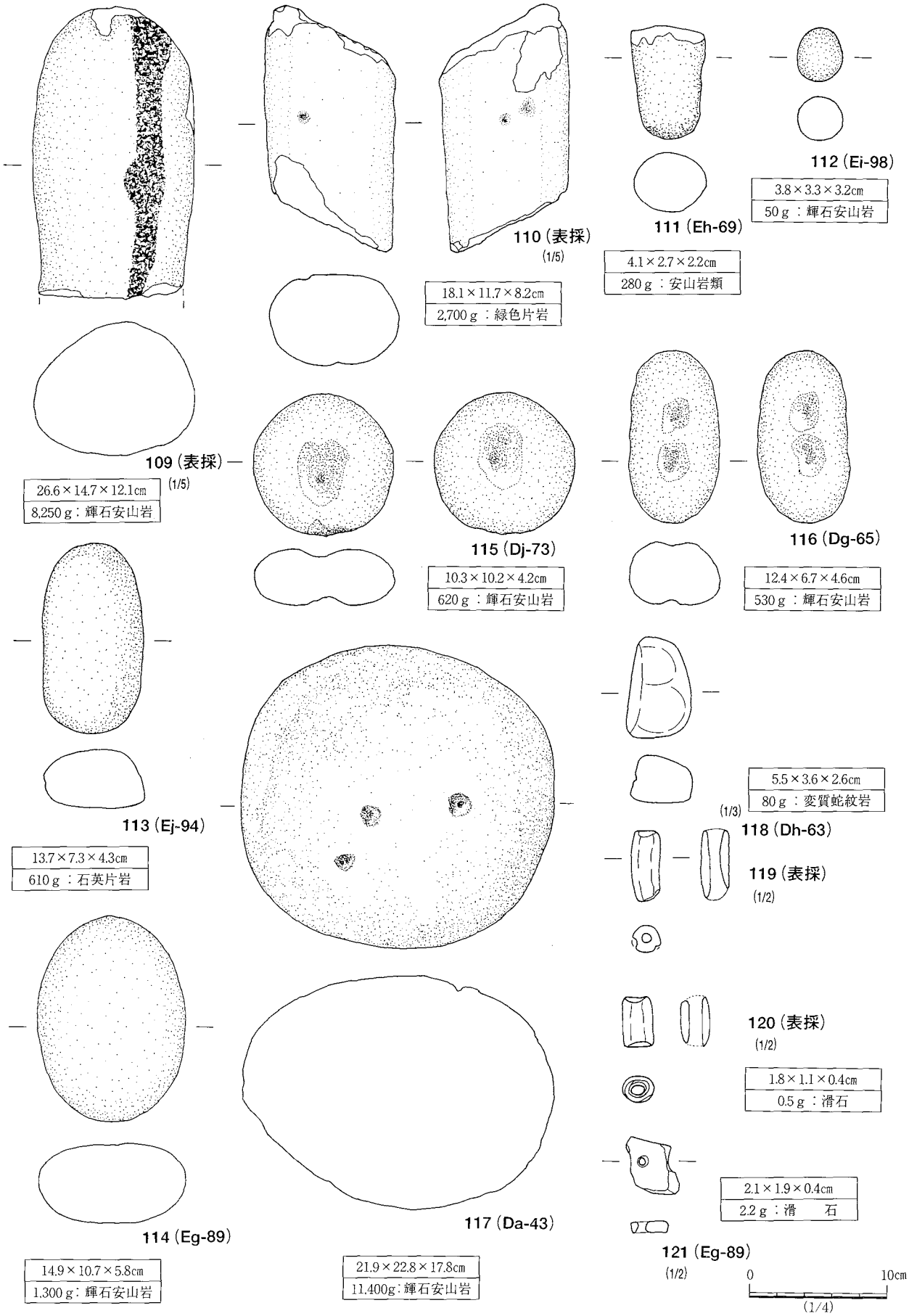
112～114は磨石で、112が円形、113が長楕円形、114が楕円形である。

115・116は、凹石である。115は、表裏両面に一ヶ所づつ凹みが確認される。116は、長楕円形で表裏両面に２ヶ所づつ凹みが確認される。

117は、大形の多孔石である。

118は、変質蛇紋岩の原石で、ミニチュアあるいは小形の磨製石斧を製作する際の素材の可能性がある。

119～121は滑石製の玉類である。



第254図　遺構外出土遺物（7）

第18表　遺構外出土遺物石器集計表（1）

遺物名 / グリッド名	打製石斧				磨製石斧		石鏃				石匙		凹石					磨石				石皿	敲石	石錐	石錘	石棒	石核	多孔石	スクレイパー	その他
	短冊形	分銅形	撥形	不明	乳棒形	定角形	凹基無茎鏃	平基無茎鏃	凸基有茎鏃	不明	横形	縦形	円形一孔	楕円一孔	円形二孔	楕円二孔	長楕円二孔	円形	楕円形	長楕円形	小形円形									
Da-42																														
Da-45	1												1							1										
Dj-62		1											1				1					1		2					3	
Dj-65				1	1								2					2							1				1	
Dj-66																		2		1		1								
Di-62			1	1			1												1	3										
Di-69					1										1													1		
Di-63		1		1														1		1						1				
Dh-62	2				2										1		1				1									
Da-64																		1												
Di-64																		1												
Dj-73													1		1															
Di-67													3												1					
Dj-69																		1			1									
Dh-67													1							1	1									
Df-59																1														
Dg-65		1		1			1					1	2			1				1	1								1	
Di-66											1							1							1					
Dj-63								1										2		1					1					浮1
Dh-65						1											1	1												
De-64																			1											
Di-68	1																			1										
Dh-63				1	1												2									1			2	磨製品1
Dg-64	1	1	1	3				1					1		1		1												1	
Di-65	1			1			1						1																	
Dj-64		1												1						1	1									
Dj-93					1																									
Dh-64		1				1																								
Dh-93		1																												
Df-62				1																										
Dd-59				1																										
Dg-63				1			1	1																					1	
Dj-72																													1	
Dg-72																													1	
De-65																													1	
Dj-68										1																			1	
Dj-67							1																						1	
Dj-74											2																			

第19表　遺構外出土遺物石器集計表（2）

遺物名	打製石斧				磨製石斧		石鏃				石匙		凹石					磨石				石皿	敲石	石錐	石錘	石棒	石核	多孔石	スクレイパー	その他
グリッド名	短冊形	分銅形	撥形	不明	乳棒形	定角形	凹基無茎鏃	平基無茎鏃	凸基有茎鏃	不明	横形	縦形	円形一孔	楕円一孔	円形二孔	楕円二孔	長楕円二孔	円形	楕円形	長楕円形	小形円形									
Ea-65	1	1																			1	1						1	2	
Ea-74											1							1		1									1	
Eb-74																												1		
Ed-73					1											1														
Ef-79	1			1														1		1		2						1		
Ef-80													1			1					2								1	
Ef-85				1	1													1								2				
Eg-79		1	1			1	1	1	1				1												1					
Eg-89	2			2	2		1	1		1			2		1				2	1	1				1	2		2		楔2 ペンダント1
Eh-91	3	2	2	1								1	2		1			1		1	1	1				1				
Eh-92	5		3	2	4		3	1		1			2				1	3			4			1	3	1	1		1	
Eh-93	5	1	1	5	3		1						3				1	2		1	3	2					2	1	4	楔1
Eh-23																			1											
Ei-89				2									1		1			2	1	2								1		
Ei-90								1			1							1								2				
Ei-93	5		2	1	1			1			1			1	2		2	1	2		3								5	
Ej-89	1	2	1					1					2	2	1			2	1		2		1		1		1			
Ej-90	1	1							1	1			2					2		1					3					
Ej-91		1	1	1				1					1					1	2										1	
Eg-90	1	1		2	1		4	2		1			3	1		1		2			1	1			1	1	1	1	1	装飾品1
Ej-94	2																	2		1	3	1			3					
Eg-84																						1								
Eb-68			1										1			1		3	1	1										
Ef-81				2															1								1			
Ei-69							1							1				2			1									
Eh-83				2									1								1									
Eh-89	3	2	1	3	1						2		2	1		1		2		1	2				2				1	
Eg-92	2			2	2	1	2		1	1						1				1	1			1			2		1	
Ee-78													1																	
Eb-67			1												1															
Ee-76													1																	
Ea-72					1								1																	
Eh-94	1		1	1	1								2					1		1	1						1		1	
Ej-88													2		1															
Ed-72													1																	
Ef-88	1	2		1							3				1														1	
Eh-81													1																	
Eg-82	2	1		6									2								2									
Ea-80													1																	

第20表　遺構外出土遺物石器集計表（3）

遺物名 / グリッド名	打製石斧				磨製石斧		石鏃				石匙		凹石					磨石				石皿	敲石	石錐	石錘	石棒	石核	多孔石	スクレイパー	その他
	短冊形	分銅形	撥形	不明	乳棒形	定角形	凹基無茎鏃	平基無茎鏃	凸基有茎鏃	不明	横形	縦形	円形一孔	楕円一孔	円形二孔	楕円二孔	長楕円二孔	円形	楕円形	長楕円形	小形円形									
Eh-90				2													1	1		1	1				2					
Ei-39													1																	
Eg-81	1	1																1												
Ei-88	3	1	1	1	2	1	1	2					1		2			1			1								2	
Eg-85	1																	1		1										
Ef-89																		1												
Ef-90																		1												
Eg-69																		1												
Ei-79																		1												
Ei-92	1			1									1				1			1	1				1		1		2	
Ej-92			1	1					1				3	1															1	
Ed-74			2	2									1				1	1			1								1	
Eg-91						1		3.		3.	1		1					4		1	2								2	浮1
Ea-85																		1			1									
Ej-87													1																	
Ec-74																		1												
Ej-86													1																	
Ee-83																		1												
Ei-94	1			1			1											1			3				1				4	
Eh-88	1		2	4	1	1												1											1	
Ei-83													1																	
Eg-70																		1												
Ea-67		1	1															1												
Eg-3																1														
Eh-85																	1													
Eh-87				1	1						1																1			
Eh-84																		1											1	
Ea-66																					1									
Ei-91	2	1									1			1							1									
Ed-83													1																	
Ei-85																					1									
Eg-88								1													1								1	楔1
Eh-39																					1									
Eg-66																					1									
Eb-62	1	2	1				1														1								1	
Ea-60																				1										
Ee-60																					1									
Ei-98																					1									
Ej-93		1																							1					

第21表　遺構外出土遺物石器集計表（4）

遺物名 / グリッド名	打製石斧				磨製石斧		石鏃				石匙		凹石					磨石				石皿	敲石	石錐	石錘	石棒	石核	多孔石	スクレイパー	その他
	短冊形	分銅形	撥形	不明	乳棒形	定角形	凹基無茎鏃	平基無茎鏃	凸基有茎鏃	不明	横形	縦形	円形一孔	楕円一孔	円形二孔	楕円二孔	長楕円二孔	円形	楕円形	長楕円形	小形円形									
Eg-65																											1			
Eb-69																							1							
Eb-81					1																									
Eg-2					1																									
Eh-82					1																									
Ee-81	1	1								1																				
Ej-79		1																												
Ee-79		1																												
Ee-80	2	1						1																						
Eg-64			1																											
Ef-86			1																											
Eg-93			1	1																										
Eh-80				1																										
Eh-69	1																													
Ea-61			1																											
Ea-70			1					1			1																			
Ef-84	1																												1	
Ea-1	1																													
Ei-51	1																													
Ee-89				1																										
Ed-79				1																										
Eg-94				1																										
Ea-64				1				1																						
Eb-90	1																													
Ee-69				1																										
Eh-50																													1	
Ee-82																									1					
Ea92																									1					
Ea-91																									1					
Fa-93	1		5	1	2	2								1			1	3	1	4	2									
Fb-92																		1												
Fa-82															1															
Fa-92	1	1	1		2		1		1				1			1	1	2							1					
Fh-89																		1												
Ff-92																		1												
Fa-91				2													1													
Fb-89													1																	
Fi-90													1																	
Fa-90																					1									
Fc-96		1																												
Fg-94	1																													
Fe-93																													1	
Fa-94																									1					
Fb-96																					1									

第22表　遺構外出土石器石材表

遺物名	打製石斧				磨製石斧		石鏃				石匙		凹石					磨石				スクレイパー	石皿	敲石	石錐	石錘	石棒	石核	多孔石	スクレイパー	その他
グリッド名	短冊形	分銅形	撥形	不明	乳棒形	定角形	凹基無茎鏃	平基無茎鏃	凹基無茎鏃	不明	横形	縦形	円形一孔	楕円一孔	円形二孔	楕円二孔	長楕円二孔	円形	楕円形	長楕円形	小形円形										
輝石安山岩	3		1										56	6	18	1	11	73	13	20	46		8				2		6		
チャート						1	3	2		2	6	1										1									楔4
砂岩	10		13	14	3	1							6	1			1			2	1	4	1			1	1				
シルト岩	15	12	11	19							3	3										26				4		10			
珪質砂岩																															
頁岩	26	2	7	21	2																	2									
軽石																															浮2
輝緑岩		1			10	1										1		1								9					
滑石																															装飾品2
緑色片岩		1	1		12	1														3			2			3	2		1		
ホルンフェルス					1																										
雲母片岩														1			1			1							3				
デイサイト		3											7	2		12	2	3		4	6					1					
石英斑岩													2			1		1		3	3										
黒岩安山岩	2	6	3	7			1		1		6	2										17						2			
黒色雲母片岩	1				1																										
黒曜石							18	13	5	6															4			5			
変質安山岩					1																			1							
安山岩	1	8			1																			1		6					磨製品1
変質蛇紋岩					3	3																									
蛇紋岩					2	2																									
黒色片岩	1		1																												
凝灰岩	1	1		5																											
ジャスピライト							1	1		1																					
玄武岩	3			3				2																							
硬質砂岩							1																								
流紋岩	1		1	2																											

第２節　弥生時代

本遺跡からは、弥生時代に比定される遺構と極少量の遺物が出土している。

第１項　埋設土器

２号埋設土器

位置　／調査区東部分、Ｆａ－93グリッドに位置する。　切り合い関係　／２号住居跡と重複し、本跡が新しい構築である。　規模　／掘り方は楕円形で、長軸58cm、短軸42cm、検出面よりの深さ14cmを計測する。

埋設土器　／正位の状態で付設される。　時期　／前期水神平式。

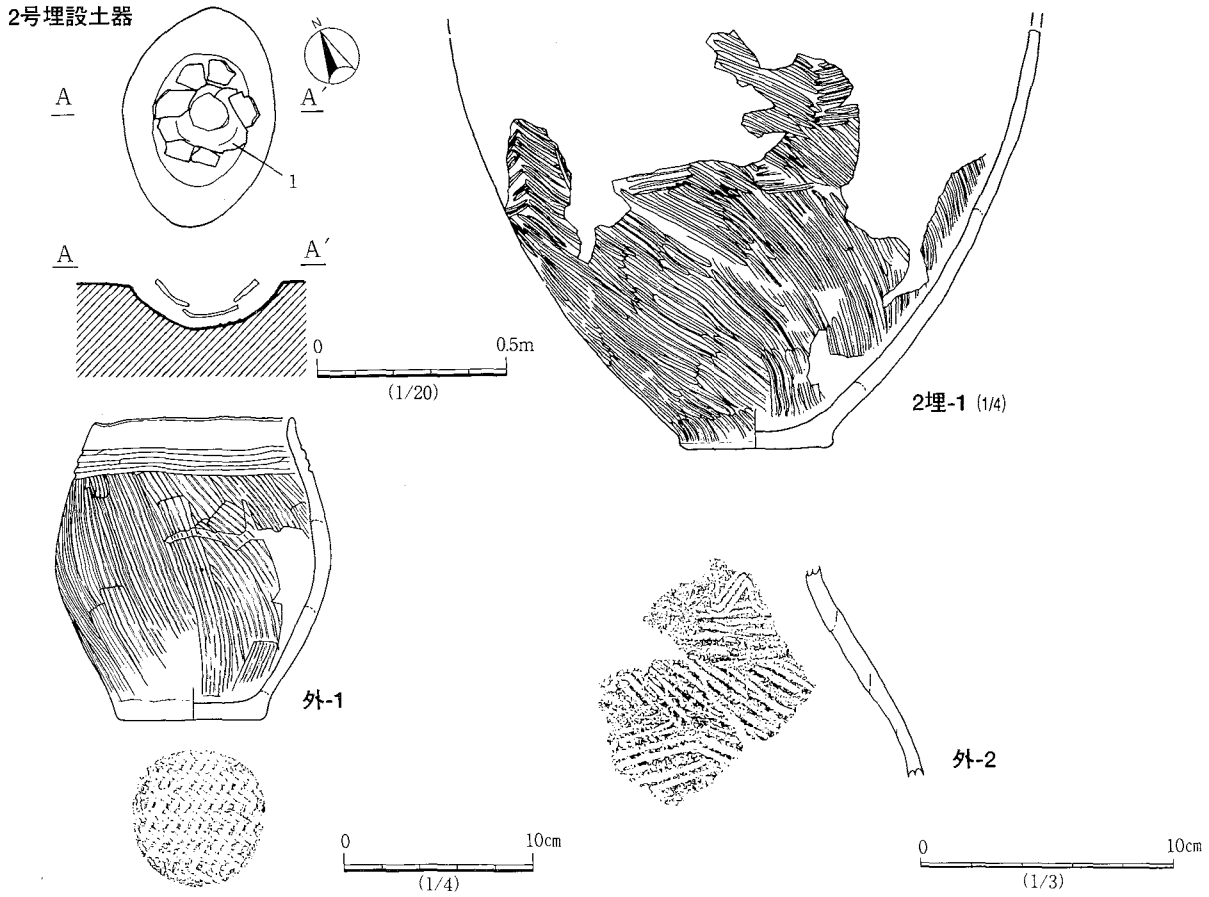
１は、胴部下半に丸みを持つ甕である。胴部中位に鋸歯状の文様を構成し、下位には斜向する深く粗い条痕文を施文する。内面には擦痕状の撫でを施す。底部は無文である。胎土は大粒の砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は灰黄色から黒灰色である。

第２項　遺構外出土遺物

今回の調査においては、弥生前期前半と分類不明の弥生土器がそれぞれ１点づつ出土している。

１は、樽形の壺である。外面に斜行する条痕を施し、口縁部に３本の深い沈線を施文して、口縁部の条痕を磨り消し、ミガキを施す。内面にもミガキを施すが、粗い整形痕跡を残す。底部には網代痕が確認される。胎土は片岩・砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は暗褐色である。

２は、壺である。上位に粗い波状文と横位条痕を巡らし、下位には斜位の条痕を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい橙色から褐色である。



第255図　２号埋設土器、遺構外出土遺物

第３節　古代

第１項　住居跡

東部調査区においては、合計65軒の住居跡が検出され、このうち縄文時代の所産である遺構を除いた20軒が古代の範疇に納まる。時期はいずれも平安時代に比定されるもので、調査区の中央部にやや集中する傾向を示すが、ほぼ全域に点在し分布している。形態は、主軸方向が長い長方形が数的には多く、カマドは、礫及び粘土を構材として住居跡の東壁あるいは北壁に付設され、東壁に付設されているものが圧倒的に多い。出土遺物は、該期の土器類を主体としているが、北陸地域からの搬入品と見られる遺物も出土している。

３号住居跡　（第257図）

位置　／Ｆａ－91グリッド。　切り合い関係　／４号住居跡と重複し、本跡が新しい構築である。　平面形態　／住居跡の南側が調査区外となる為全容は不明であるが、方形を呈すると思われる。　主軸方向　／Ｎ－30°－Ｅ。　規模　／東西4.1ｍ，南北2.8ｍ＋α、深さ56㎝。　柱穴　／調査範囲内では検出されていない。　壁　／外傾する。　壁溝　／幅12～40㎝、深さ８～12㎝で東・西の壁下に検出される。北壁下には検出されていない。　床面　／直床でほぼ平坦である。　貯蔵穴　／住居跡北西隅に設置され、平面形態はやや丸みを帯びた方形で、長計68㎝、短計56㎝、深さ30㎝を測る。　カマド　／住居跡北壁の中程に礫を使用し付設される。袖は礫を直立させ内壁とし、外側を粘性のある暗褐色土で支え、天井部には礫を使用していたと見られる。火床面は円形に掘り窪められ、燃焼部から煙道部までは緩やかに移行し、煙道部は壁外に削り出される。　覆土　／上層にＢ軽石を含む黄白色層が被覆する。　遺物　／床面より灰釉高台付碗、土師器甕、貯蔵穴付近に須恵器高台付坏、壁溝に土師器耳皿が出土している。　遺構の時期　／10世紀前半。

出土遺物

１は、須恵器の高台付坏で、カマドから出土し、1/3の残存である。底部は回転糸切りで、体部は直線的に開き、高台は貼り付けられ外端設置の形状を示す。口径は復元で13.8㎝、底径は復元で5.8㎝、器高は5.1㎝である。胎土は長石・石英を多量に含み、色調は灰色である。

２は、灰釉陶器の高台付碗で、住居跡の床面から出土し、2/3の残存である。底部はロクロナデで、体部は内湾気味に立ち上がり、釉は漬け掛けで、高台はハの字形を呈し安定する。口径は16.4㎝、底径は復元で5.4㎝、器高は5.8㎝である。胎土は黒色粒を含み緻密で、色調は灰色である。

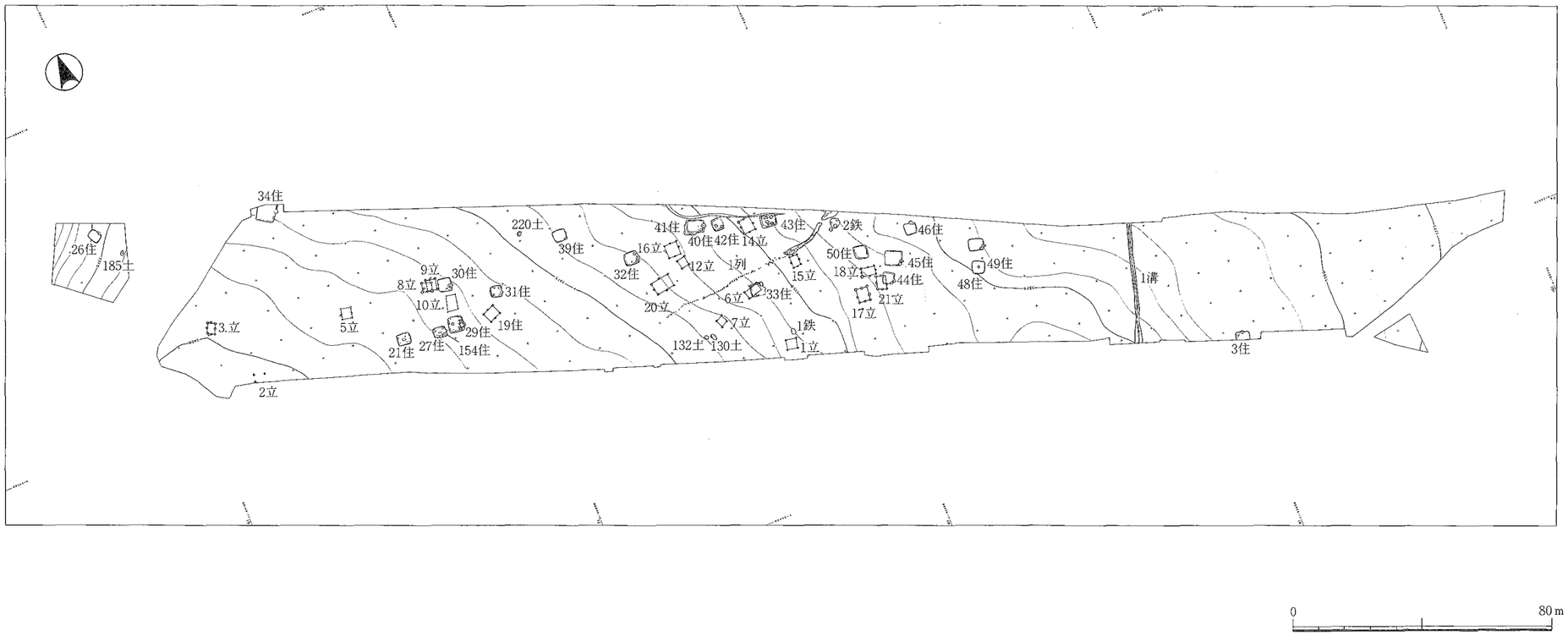
３は、須恵器の坏で、カマドからの出土である。体部片はやや内湾気味に立ち上がり、外面には墨書が見られ、口縁部は外反する。口径は復元で16.0㎝、胎土は長石を含み、色調は灰色である。

４は、土師器の小型甕で、カマドから出土し、1/2の残存である。底部は平底で、体部は内湾気味に立ち上がり、内面には撫で、外面にはヘラ削りが施され、口縁部はやや外反している。口径は復元で13.5㎝、底径は復元で6.0㎝、器高は12.7㎝である。胎土は大粒の長石・石英を多量に含み、色調は褐色である。

５は、土師器の甕で、住居跡の床面から出土し、口縁部から胴部上半片である。胴部上半は内湾気味で、内面にヘラ撫で、外面にヘラ削りの後撫で、胴部上半片と口縁部にヨコ撫でを施し、口縁部は外反する。口径は24.4㎝で、胎土は長石・石英を含み、色調は褐色である。

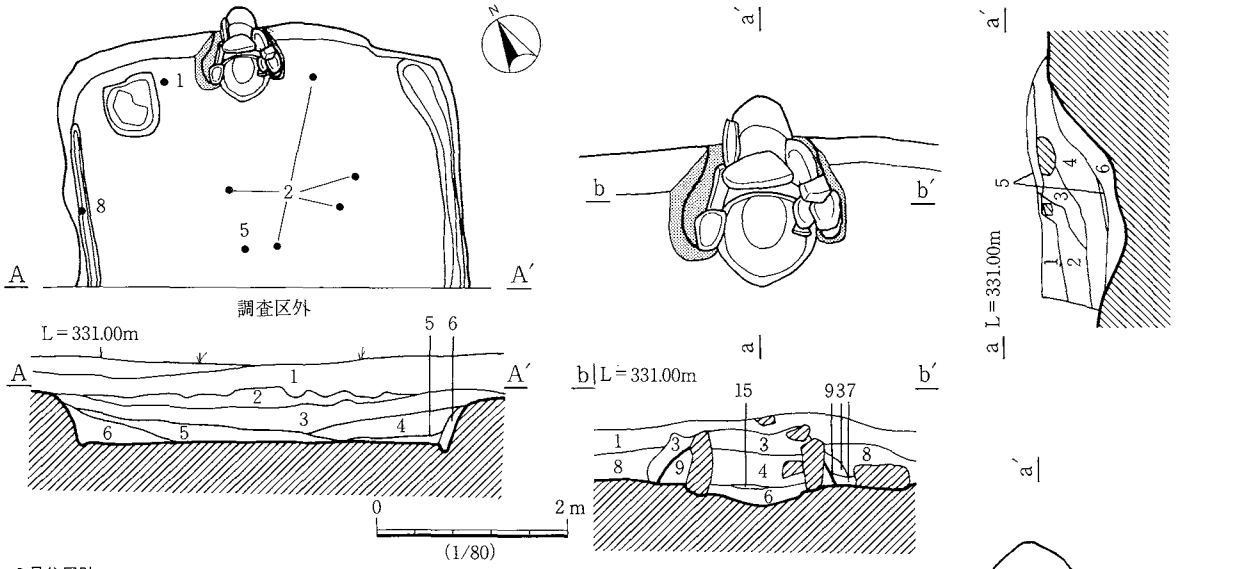
６は、須恵器の甕で、カマドから出土し、口縁部から胴部上半片である。胴部上半は内湾し、口縁部は直線的に開く。口径は復元で13.6㎝、胎土は長石・石英を含み、色調は暗灰色である。

７は、須恵器の羽釜で、カマドから出土し、口縁部片である。口縁部は内湾し、鍔は貼りつけられている。口径は復元で24.0㎝、胎土は長石・石英・白石粒を含み、色調は灰色である。



住……住居跡
立……掘立柱建物跡
鉄……製鉄跡
土……土坑
列……柵列

第256図　東部調査区 遺構配置図（古代）

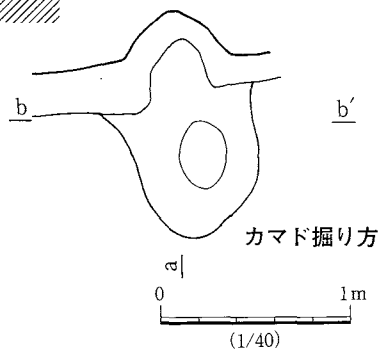


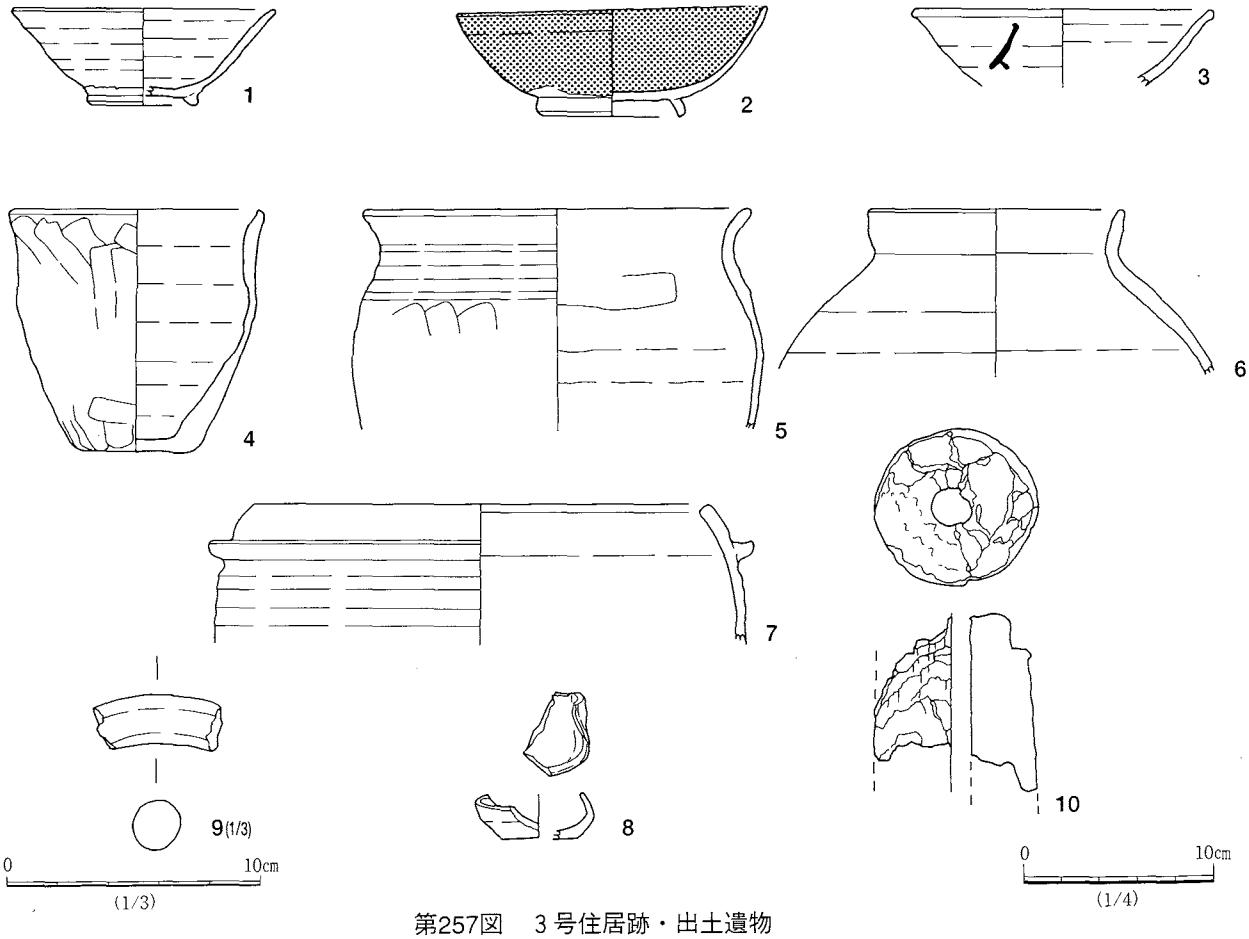
3号住居跡

1層　暗灰色土　A軽石を含む耕作土。
2層　黄白色土　B軽石層。
3層　黒色土　締まりややあり。粘性あまりない。
4層　黒褐色土　ローム粒子を微量に含む。締まりあり。粘性ややあり。
5層　暗褐色土　ローム粒子を少量含む。締まりあり。粘性ややあり。
6層　褐色土　ローム粒子をやや多く含む。締まりややあり。粘性弱い。
7層　黒色土　ローム粒子、焼土粒子を微量に、白色の軽石を少量含む。

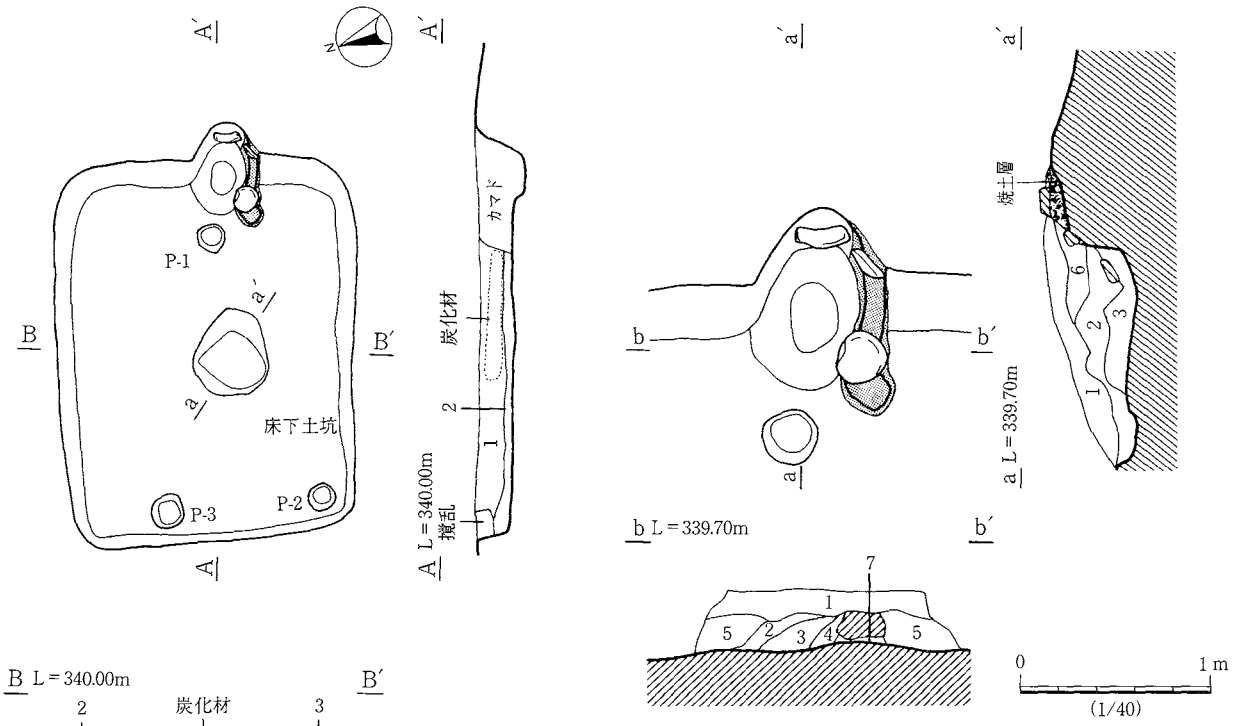
3号住居跡　カマド

1．黒色土　ローム、軽石粒子（1～2φ）含む。しまりやや弱く。粘性弱い。
2．黒褐色土　炭化物少量含む。ローム粒子、軽石（1～2φ）含む。しまりやや弱く。粘性弱い。
3．褐色土　かまど部分ちらばり、炭化材含み、しまりやや弱い。粘性ややあり。
4．暗褐色土　焼土少量含む。しまり弱く。粘性あり。
5．赤褐色土　焼土層。しまり弱く。粘性弱い。
6．褐色土　ローム粒子、焼土少量含む。しまり弱く。粘性ややあり。
7．暗褐色土　ロームブロック（30φ）微量含む。しまり弱い。粘性ややあり。
8．黒褐色土　ロームブロック（20～30φ）、炭化物含む。しまりやや弱い。粘性ややあり。
9．暗褐色土　ロームブロック、粒子を少量含む。しまり強く。粘性ややあり。





第257図　3号住居跡・出土遺物



21号住居跡

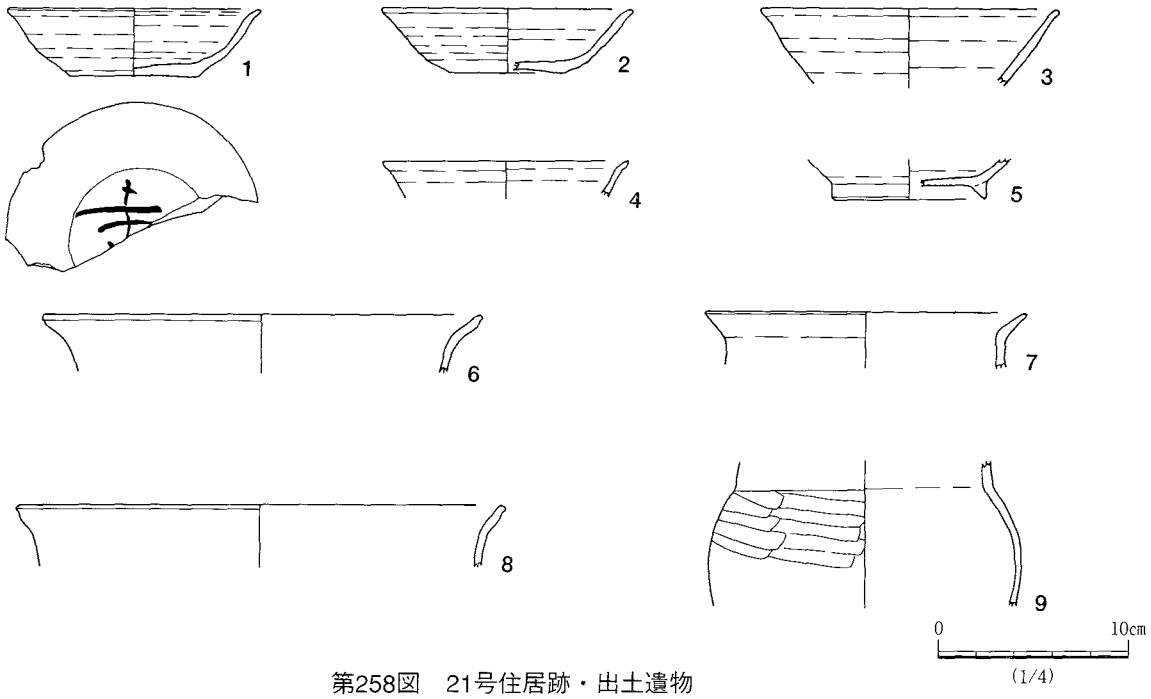
1．黒色土　炭化物多量に含む。しまり、粘性ともなし。
2．黒褐色土　しまりあり。粘性はよわい。ローム粒子を少量含む。
3．暗褐色土　しまりあり。粘性はよわい。ローム粒子を微量含む。

21号住居跡　床下土坑

1．暗褐色土　ロームブロック、10～20mmφ含む。(少量) 軽石（B？）5～10mmφ少量含む。しまりやや強く。粘性なし。
2．褐色土　ロームブロック、30～50mmφ含む。しまり強く。粘性なし。

21号住居跡　カマド

1．黒褐色土　炭化粒子を少量含む。しまりあり。粘性弱い。
2．暗褐色土　ローム粒子をやや多く含む。しまり、粘性弱い。
3．黒色土　炭化粒子、炭化材をやや多く含む。しまり、粘性弱い。
4．暗褐色土　ローム粒子をやや多く含む。しまり、粘性弱い。
5．暗褐色土　ローム粒子を微量に含む。しまりあり。粘性弱い。
6．暗褐色土　ローム粒子を少量、炭化粒子を微量に含む。しまり、粘性弱い。
7．暗褐色土　ローム粒子をやや多く含む。しまりあり。粘性ややあり。



第258図　21号住居跡・出土遺物

8は、土師器の耳皿で、住居跡西側の壁溝から出土し、1/3の残存である。底部は回転糸切りで、皿部は丸く折り曲げられ、内面にヘラミガキが施される。口縁部は欠損する。底径は復元で4.8cm、器高は2.4cmで、胎土は長石・石英・白色粒を含み、色調は褐色である。

9は、棒状土製品で、覆土中より出土し、用途は不明である。残存長は5.0cmで、直径は1.9cmである。胎土は長石・石英・砂粒を含み、色調は明褐色である。

10は、羽口で、先端部分が溶解している。口径は8.6cmで、胎土は長石・石英を含み、色調は褐色である。

21号住居跡　（第258図）

位置　／Ｅａ－67グリッド。　切り合い関係　／194号土坑と重複し、本跡が新しい構築である。　平面形態　／方形。　主軸方向　／Ｎ－70°－Ｗ。　規模　／東西4.1ｍ、南北3.2ｍ、深さ36cm。　柱穴　／３本が検出され、Ｐ－１が直径32cm、深さ22cm、Ｐ－２が直径38cm、深さ20cm、Ｐ－３が直径28cm、深さ21cmを計測する。　壁　／外傾する。　壁溝　／なし。　床面　／直床でほぼ平坦である。　カマド　／住居跡東壁の中程に礫を使用して付設されたと見られる。袖は右袖のみの残存で粘性のある暗褐色土を使用して構築される。燃焼部は楕円形に掘り窪め煙道は壁外へ削り込まれる。　床下土坑　／住居跡中央部に調査時において土坑とした掘り込みが確認された。計測値は長計92cm、短計80cm、深さ24cmである。　覆土　／第１層黒色土中に炭化材の含有が確認される。　遺物　／カマドから須恵器坏・長頸壺、覆土に土師器坏・甕・須恵器高台付坏が出土している。　遺構の時期　／９世紀後半。

出土遺物

1は、土師器の坏で、覆土中から出土し、1/2の残存である。底部は回転糸切りで、外面に「寺」の墨書が見られ、体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部は外反している。口径は13.3cm、底径は6.6cm、器高は3.4cmである。胎土は長石・白色粒を含み、色調は褐灰色である。

2は、須恵器の坏で、カマドから出土し、1/4の残存である。底部は回転糸切りで、体部は下端に丸みを持ち、直線的に立ち上がる。口径は復元で13.0cm、底径は復元で6.0cm、器高は3.4cmである。胎土は白色粒を含み、生め細かく、色調は灰白色である。

3は、須恵器の坏で、カマドから出土し、体部から口縁部片である。体部は直線的に立ち上がる。口径は復元で15.7cmである。胎土は白色粒を含み、生み細かく、色調は灰白色である。

4は、須恵器の長頸壺、カマドから出土し、口縁部片である。口縁部はやや外反している。口径は復元で13.8cmである。胎土は長石・白色粒を含み、黒斑があり、色調は暗灰色である。

5は、須恵器の高台付坏で、覆土中から出土し、底部片である。底部は回転糸切りで、高台から体部下端にかけてロクロ撫でが施される。体部は内湾気味に立ち上がり、高台は貼り付けられ外端設置の形状を示す。口径は復元で7.8cmで、胎土は長石・石英・白色粒を含み、色調は灰色である。

6は、土師器の甕で、覆土中から出土し、口縁部片である。口縁部は外反し、外面にヨコ撫でが施される。口径は復元で23.1cm、胎土は長石・石英・白色粒を含み、色調は褐色である。

7は、土師器の甕で、覆土中から出土し、口縁部片である。口縁部は外反し、外面にヨコ撫でが施される。口径は復元で16.8cm、胎土は長石・石英・白色粒を含み、色調は褐色である。

8は、土師器の甕で、覆土中から出土し、口縁部片である。口縁部は外反し、外面にヨコ撫でが施される。口縁は復元で25.4cm、胎土は長石・石英・角閃石・白色粒を含み、色調は褐色である。

9は、土師器の甕で、覆土中より出土し、胴部上半片である。胴部は内湾し、外面に横位のヘラ削り、内面にヘラ撫でが施され、外面にヨコ撫でが施される。胎土は長石・石英・角閃石を含み、色調は褐色である。

26号住居跡　（第259図）

位置　／Ｄｄ－59グリッド。　切り合い関係　／なし。　平面形態　／方形。　主軸方向　／Ｎ－60°－Ｅ。　規模　／東西3.1ｍ、南北3.8ｍ、深さ20㎝。　柱穴　／なし。　壁　／緩斜する。　壁溝　／なし。

床面　／直床であるが、やや中央部が高くなる。　カマド　／住居跡東壁の中程に付設される。天井部は遺存せず、袖部は粘土を用いて構築される。燃焼部は円形に掘り窪められ、煙道は壁外に削り込まれる。

覆土　／暗褐色土が単層で確認される。　遺物　／カマド内に須恵器坏・長頸壺、覆土中から土師器坏・甕・鉢などが出土している。　遺構の時期　／９世紀後半。

出土遺物

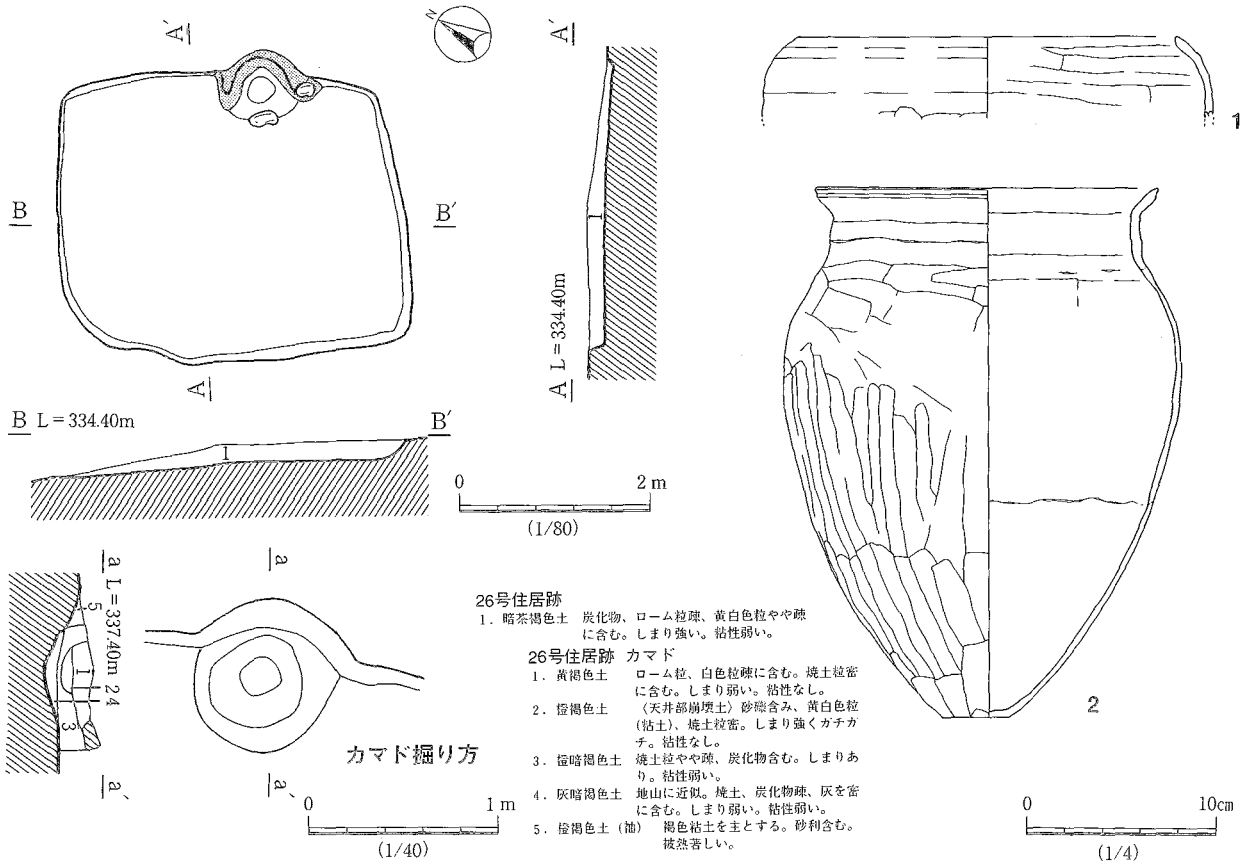
１は、土師器の鉢である。体部内外面共にヘラ撫で、口縁部はヨコ撫でが施される。胎土は細砂粒・白色粒を含み、色調は黄橙色である。

２は、土師器の甕で、胴部上半に最大径を持ち、口縁部はコの字状に外反する。胴部及び底部外面はヘラ削り、内面はヘラ撫で、口縁部はヨコ撫でが施される。胎土は細砂粒・白色粒を含み、色調は橙色である。

27号住居跡　（第260図）

位置　／Ｅａ－68グリッド。　切り合い関係　／154号土坑と重複し、本跡が古い構築である。　平面形態　／主軸方向が長い長方形。　主軸方向　／Ｎ－77°－Ｗ。　規模　／東西3.9ｍ、南北3.2ｍ、深さ16㎝。

柱穴　／住居跡中央から南壁へかけて２基の小ピットが確認される。中央部の小ピットは長径44㎝、深さ15㎝、もう１基は直径20㎝、深さ10㎝を測る。また、住居跡北東隅には貯蔵穴であろうか長径85㎝、短径50㎝、深さ15㎝の長楕円形の掘り込みが確認される。　壁　／僅かな検出である。　壁溝　／なし。　床面　／直床でほぼ平坦である。　カマド　／住居跡東壁の中程に付設されるが遺存状態は悪く、掘り方のみの検出である。煙道は壁外に削り込まれる。　覆土　／暗褐色土が３層に分層されている。　遺物　／住居跡中央の小ピットより羽口が出土している。　遺構の時期　／９世紀後半。



第259図　26号住居跡・出土遺物

出土遺物

1は、須恵器の坏の体部片である。口径は復元で15.6cmを計測する。胎土は長石・石英を含み、色調は灰色である。

2は、須恵器の高台付坏の底部片である。高台はやや三日月状で、体部は内湾しながら立ち上がる。底径は復元で8.4cmを計測する。胎土は長石・黒色粒を含む。

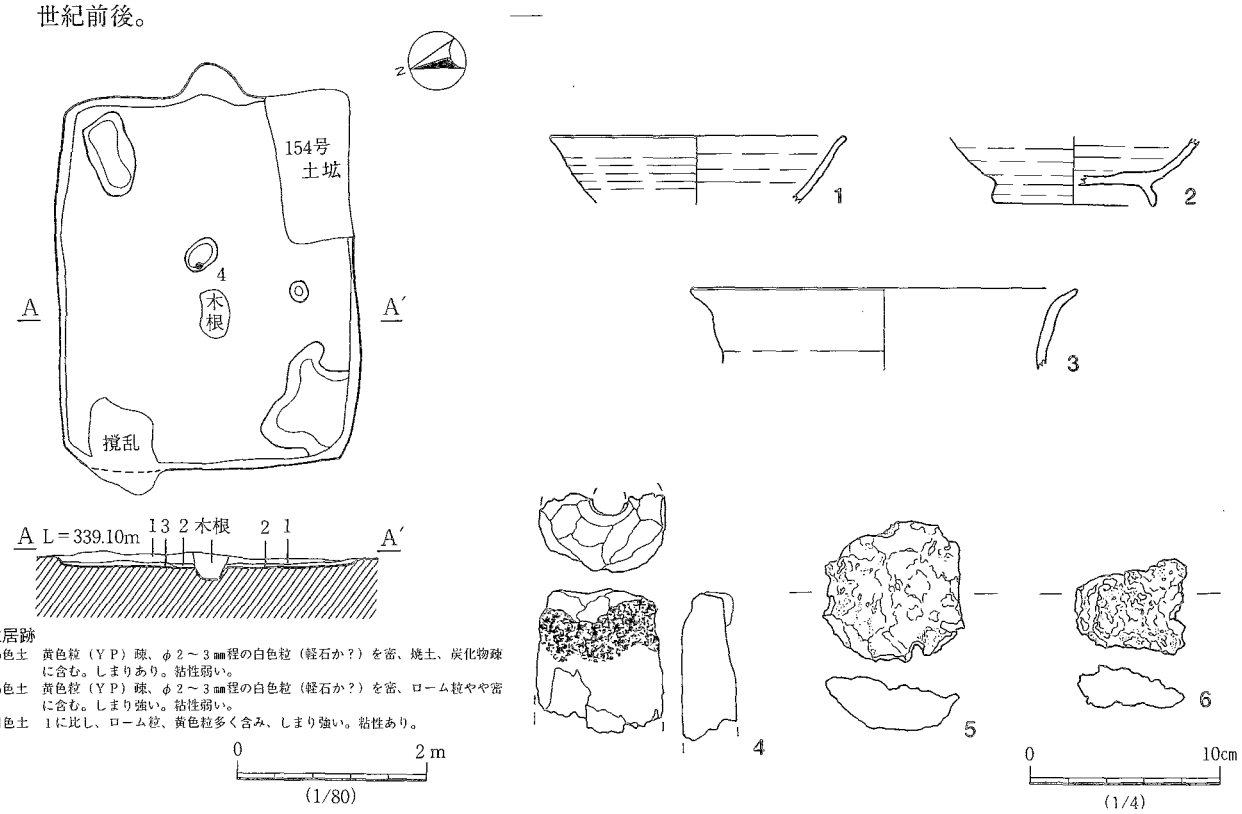
3は、土師器の甕の口縁部片である。口縁部はヨコ撫でが施される。口径は復元で20.4cmを計測する。胎土は長石・石英・角閃石を含み、色調は褐色である。

4は、羽口で、先端部分が溶解している。口径は6.6cm、送風口は口径2.0cmである。胎土は長石・石英を含み、色調は褐色である。

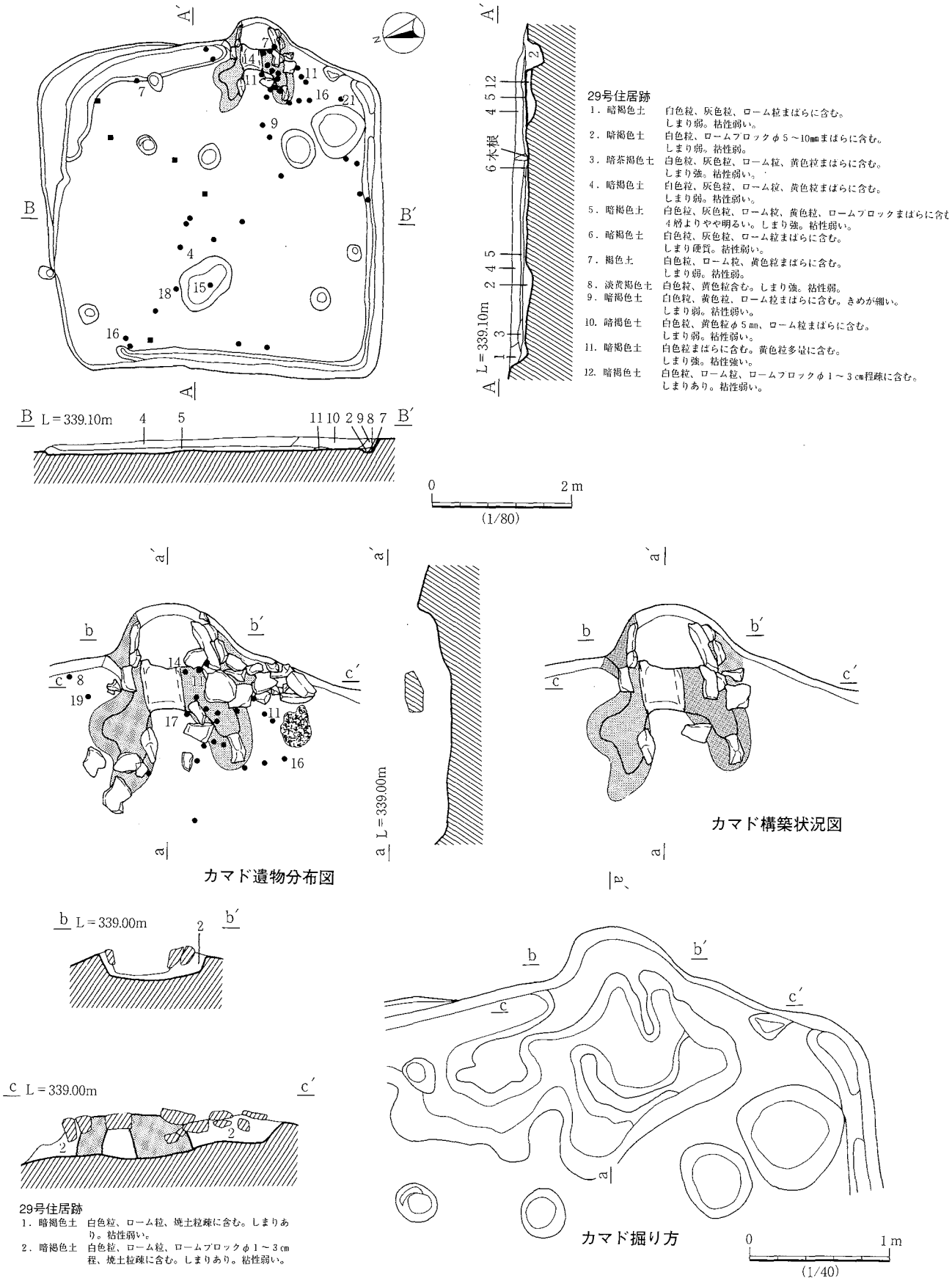
5・6は、鉄滓である。

29号住居跡　(第261・262図)

位置　／Ｅａ－69グリッド。　切り合い関係　／なし。　平面形態　／正方形。　主軸方向　／Ｎ－75°－Ｗ。　規模　／東西4.7ｍ、南北4.9ｍ、深さ20cm。　柱穴　／柱穴となり得るかは不明であるが、８基のピットが確認される。いずれも掘り込みは15cm程であった。　壁　／住居跡南壁は遺存が悪い。　壁溝　／住居跡北壁から東壁、カマド部分を除いた西壁の壁下に巡る。幅10～44cm、深さ10～28cmを測る。　床面　／多少の起伏があるものの全体的にはほぼ平坦である。　カマド　／住居跡西壁の北寄りに礫を使用して付設される。袖は礫と粘質土を用いて構築され礫組みの天井部が遺存する。燃焼部から煙道部へは緩やかに移行し、煙道部は壁外に削り込まれる。　覆土　／覆土は白色粒・灰色粒・ローム粒を含んだ暗褐色土を主体とする。　遺物　／カマド内から土師器の甕・坏、須恵器の甕？・坏・高台付碗・羽釜・瓶類、覆土から土師器の甕・坏・高台付坏、須恵器の坏・高台付坏・壺・碗・瓶類などが出土している。　遺構の時期　／10世紀前後。



第260図　27号住居跡・出土遺物



第261図　29号住居跡

出土遺物

1は、土師器の坏で、カマドから出土する。底部は手持ヘラ削り、内面は放射状のヘラミガキを施す。口径は14.8cm、底径は6.6cm、器高は4.4cmである。胎土は長石・石英・雲母を含み、色調は褐色である。

2は、土師器の坏で、覆土中から出土する。底部は手持ヘラ削り、体部はロクロ撫で、内面は黒色処理、放射状ヘラミガキが施される。底径は復元で6.8cm、胎土は長石・石英を含み、色調は明褐色である。

3は、土師器の坏で、カマドから出土する。体部は内湾気味に立ち上がり、内面は黒色処理を施す。口径は復元で7.2cm、胎土は長石・石英・白色粒を含み、色調は明褐色である。

4は、土師器の坏で、覆土中から出土する。底部は回転糸切りで、外面にはロクロ撫でを施す。口径は復元で13.2cm、底径はで8.0cm、器高は3.6cmである。胎土は長石・石英を含み、色調は褐色である。

5は、土師器の高台付坏で、覆土中から出土する。高台は貼り付け後、ロクロ撫でが施され、内面に黒色処理を施す。底径は復元で7.2cm、胎土は長石・石英・白色粒を含み、色調は褐色である。

6は、須恵器の坏で、カマドから出土する。底部は回転糸切りで、口縁部に煤の付着が見られる。口径は14.0cm、底径は8.0cm、器高は3.5cmである。胎土は長石を含み、色調は灰白色である。

7は、須恵器の坏で、覆土中から出土する。底部は回転糸切りで、口径は復元で13.4cm、底径は7.4cm、器高は3.4cmである。胎土は長石・石英・白色粒を含み、黒斑があり、色調は灰色である。

8は、須恵器の坏で、カマドから出土する。底部は回転糸切りで、体部は内湾気味に立ち上がる。底径は7.0cmで、胎土は長石・白色粒を含み、色調は灰色である。

9は、須恵器の坏で、カマドから出土する。底部は回転糸切りで、口径は復元で12.8cm、底径は復元で7.2cm、器高は3.3cmである。胎土は長石含み、色調は灰色である。

10は、須恵器の坏で、覆土中から出土する。底部は回転糸切りで、体部から口縁部にかけて外面にロクロナデが施される。口径は復元で14.0cm、底径は復元で9.0cm、器高は3.4cmである。胎土は長石・石英を含み、色調は灰白色である。

11は、須恵器の高台付碗で、カマドから出土する。ロクロ撫でが施され、口径は16.4cm、底径は8.5cm、器高は5.6cmである。胎土は長石・白色粒を含み、色調は灰白色である。

12は、須恵器の高台付坏で、覆土中から出土する。ロクロ撫でが施され、底径は8.0cmで、胎土は長石を含み、色調は灰白色である。

13は、須恵器の碗で、覆土中から出土する。体部は内湾気味に立ち上がり、内面は撫でられる。口径は21.8cmで、胎土は長石・石英・白色粒を含み、色調は褐灰色である。

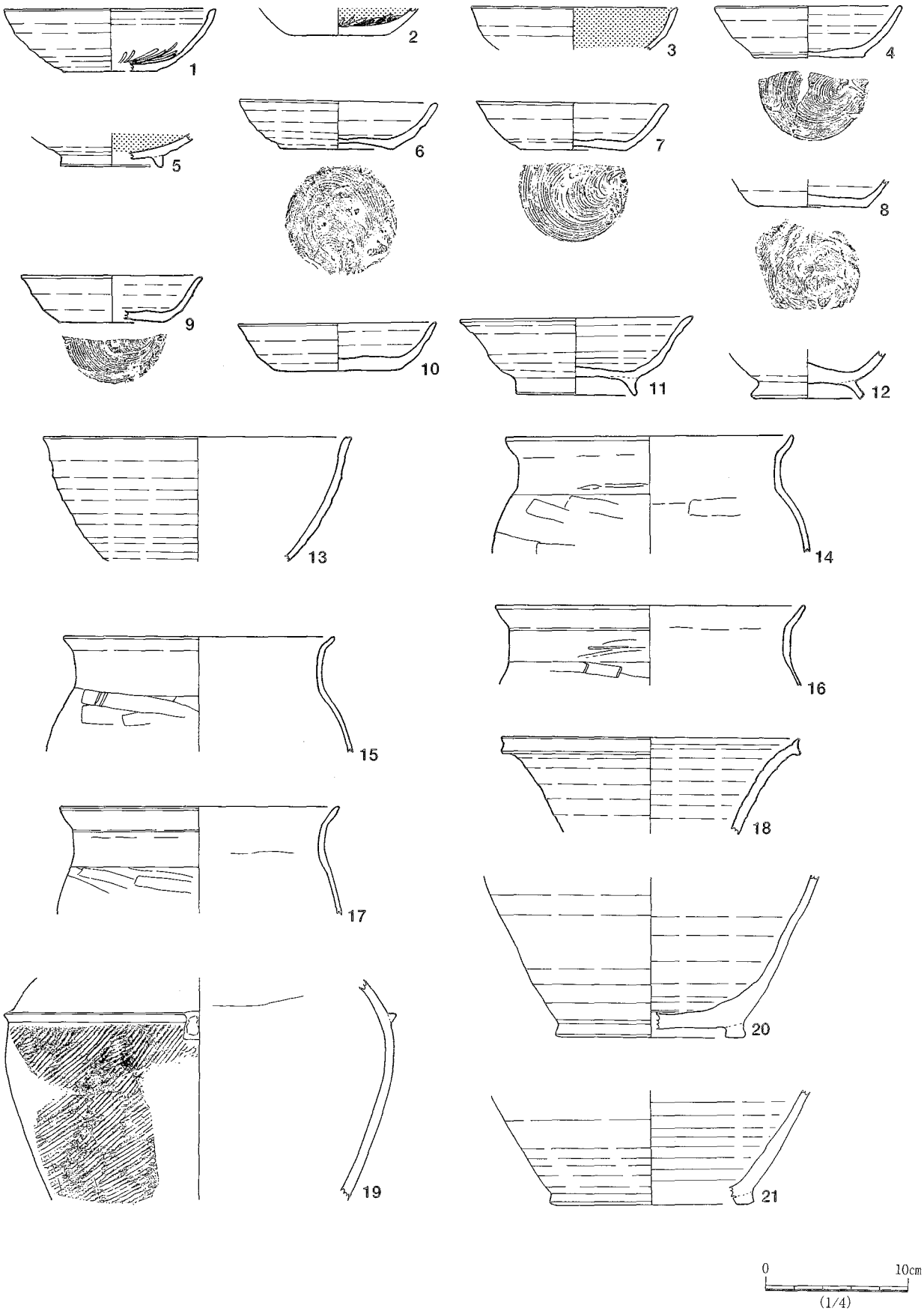
14は、土師器の甕で、カマドから出土する。外面はヘラ削り、内面はヘラ撫でが施され、口縁部にヨコ撫でを施す。口径は復元で20.4cm、胎土は長石・石英・角閃石・白色粒を含み、色調は褐色である。

15は、土師器の甕で、覆土中から出土する。外面に横位のヘラ削り、口縁部にヨコ撫でを施す。口径は復元で19.2cm、胎土は長石・石英を含み、色調は褐色である。

16は、土師器の甕で、カマドから出土する。外面に横位のヘラ削り、口縁部にヨコ撫でを施す。口径は復元で21.8cm、胎土は長石・石英・角閃石を含み、色調は褐色である。

17は、土師器の甕で、カマドから出土する。外面にヘラ削り、口縁部にヨコ撫でを施す。口径は復元で19.6cm、胎土は長石・石英・角閃石・白色粒を含み、色調は褐色である。

18は、須恵器の壺で、覆土中から出土する。口縁部はくの字状に外反し、口唇部は上方につまみ上げられる。口径は復元で21.2cm、胎土は大粒の長石・石英・白色粒を含む。



第262図　29号住居跡出土遺物

19は、須恵器の羽釜で、カマドから出土する。胴部は球形状を呈し、上方に鍔が張り付けられ、外面には叩き、内面には撫でが施される。胎土は長石・石英・白色粒を含み、色調は灰色である。

20は、須恵器の瓶類で、カマドから出土する。下端の外面に回転ヘラケズリが施され、内面には自然釉が見られる。底径は復元で13.4cm、胎土は長石・石英・白色粒を含み、色調は灰色である。

21は須恵器の瓶類で、覆土中から出土する。外面に撫でを施し、高台は張り付けられる。底径は復元で14.4cm、胎土は長石・白色粒を含み、色調は褐灰色である。

30号住居跡（第263・264図）

位置　／Ｄｊ－69グリッド。　**切り合い関係**　／51・52・53号住居跡と重複し、本跡が最も新しい構築である。　**平面形態**　／方形。　**主軸方向**　／Ｎ－80°－Ｗ。　**規模**　／東西4.0ｍ、南北3.9ｍ、深さ16cm。

柱穴　／住居跡南壁際の中程に確認され、長径60cm、短径33cm、深さ15cmを計測する。　**壁**　／僅かな遺存である。　**壁溝**　／なし。　**床面**　／直床でほぼ平坦である。　**カマド**　／住居跡東壁の南寄りに付設される。袖は粘土を用いて構築しているが、遺存状態は悪い。火床面は楕円形に掘り窪め、煙道は段を持って緩やかに立ち上がり、壁外へ削り込まれる。　**覆土**　／ローム粒・白色粒・炭化物を含んだ暗褐色土を主体とする。　**遺物**　／カマド内に集中して出土している。　**遺構の時期**　／10世紀前半。

出土遺物

1は、土師器の坏で、カマドからの出土である。底部は回転糸切りで、体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部はやや外反する。口径は7.0cm、底径は5.6cm、器高は5.1cmである。胎土は大粒の長石・石英を多量に含み、色調は褐色である。

2・3・4は、須恵器の坏である。底部は回転糸切りで、体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部はやや外反する。2は、1/2の残存で、体部下端に「土」の墨書が見られる。口径は13.2cm、底径は6.4cm、器高は4.3cmである。胎土は長石・石英・雲母を含み、色調は暗灰色である。3は、2/3の残存で、口径は12.6cm、底径は5.4cm、器高は4.0cmである。胎土は長石・石英を含み、色調は暗灰色である。4は、1/2の残存で、口径は13.0cm、底径は6.0cm、器高は3.9cmである。胎土は長石・石英を含み、色調は褐灰色である。

5は、須恵器の坏で、1/4の残存である。容量の深い坏で、底部は回転糸切り、体部は内湾気味に立ち上がる。口径は13.0cm、底径は5.6cm、器高は5.5cmである。胎土は長石・石英を多量に含み、色調は黒褐色である。

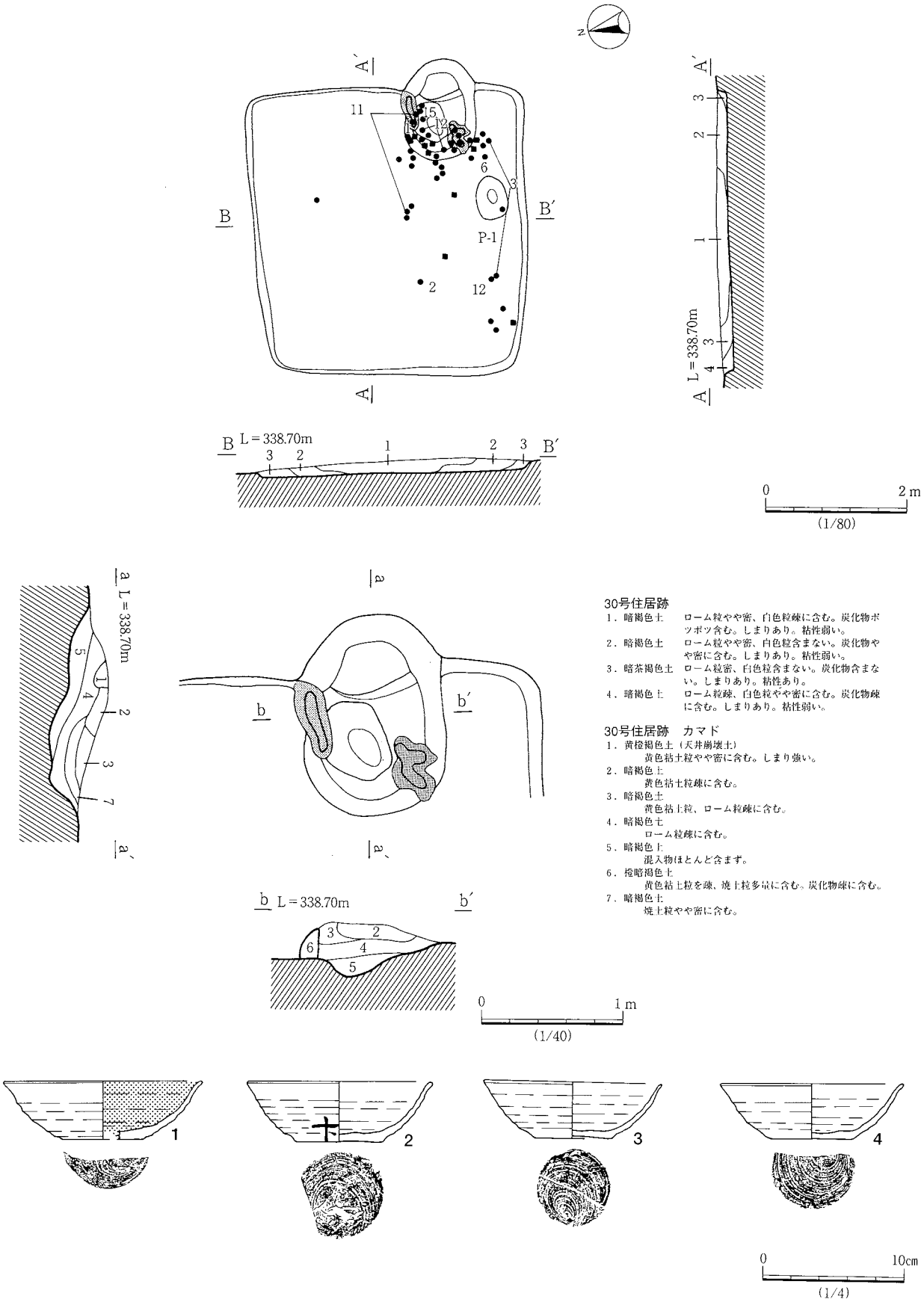
6は、須恵器の坏で、1/2の残存である。底部は回転糸切りで、内面にまばらに煤の付着が見られる。口径は13.3cm、底径は6.5cm、器高は3.6cmである。胎土は長石・石英を含み、色調は灰白色である。

7は、須恵器の坏で、1/3の残存である。底部は回転糸切りで、体部は内湾気味に立ち上がる。口径は12.2cm、底径は6.8cm、器高は3.1cmである。胎土は長石・石英・角閃石を含み、色調は褐灰色である。

8は、土師器の甕の胴部下半から底部片である。底部は平底で、胴部外面にヘラ削りが施される。底径は4.8cmである。胎土は長石・石英・角閃石を含み、色調は褐色である。

9～16は、土師器の甕の口縁部片から胴部上半片である。口縁部はコの字状を呈し、胴部上半は横位のヘラ削り、内面はヘラ撫で、口縁部はヨコ撫でが施される。9は、口径21.6cmで、胎土は長石・石英・角閃石を含み、色調は赤褐色である。10は、口径19.2cmで、胎土は長石・石英・雲母を含み、色調は褐色である。

11は、口径24.2cmで、胎土は長石・石英・角閃石を含み、色調は暗褐色である。12は、口径19.8cmで、胎土は長石・石英・白色粒を含み、色調は赤褐色である。13は、口径20.0cmで、胎土は長石・石英・雲母・角閃石を含み、色調は褐色である。14は、口径21.4cmで、胎土は長石・石英・角閃石を含み、色調は褐色である。



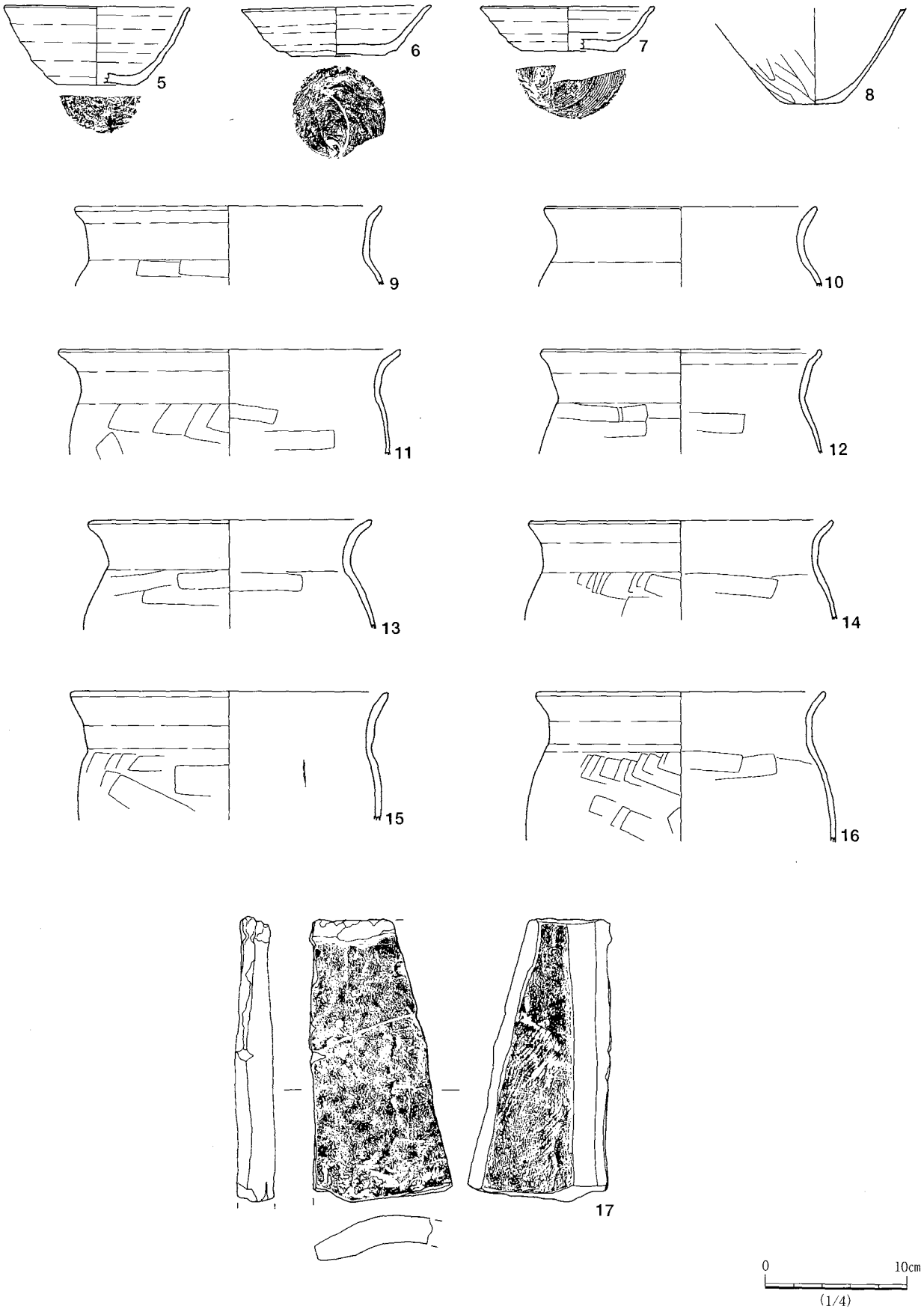
30号住居跡

1．暗褐色土　ローム粒やや密、白色粒疎に含む。炭化物ポツポツ含む。しまりあり。粘性弱い。
2．暗褐色土　ローム粒やや密、白色粒含まない。炭化物やや密に含む。しまりあり。粘性弱い。
3．暗茶褐色土　ローム粒密、白色粒含まない。炭化物含まない。しまりあり。粘性あり。
4．暗褐色土　ローム粒疎、白色粒やや密に含む。炭化物疎に含む。しまりあり。粘性弱い。

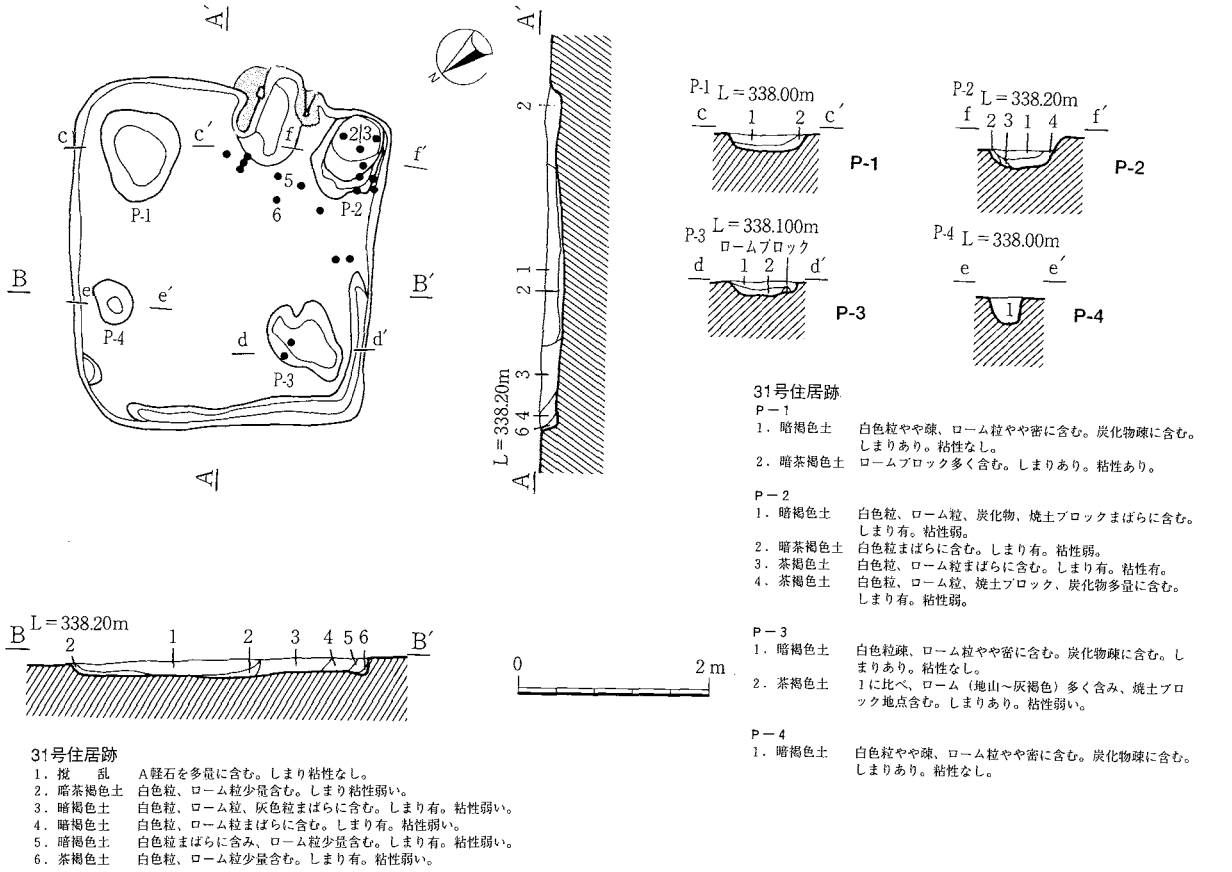
30号住居跡　カマド

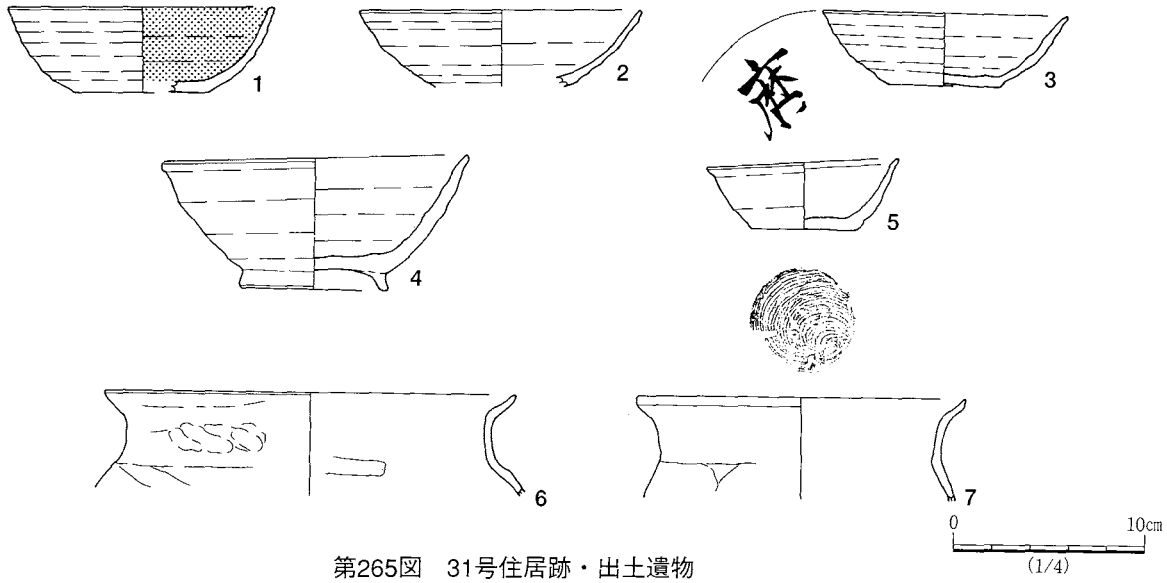
1．黄橙褐色土（天井崩壊土）
　黄色粘土粒やや密に含む。しまり強い。
2．暗褐色土
　黄色粘土粒疎に含む。
3．暗褐色土
　黄色粘土粒、ローム粒疎に含む。
4．暗褐色土
　ローム粒疎に含む。
5．暗褐色土
　混入物ほとんど含まず。
6．橙暗褐色土
　黄色粘土粒を疎、焼土粒多量に含む。炭化物疎に含む。
7．暗褐色土
　焼土粒やや密に含む。

第263図　30号住居跡・出土遺物（1）



第264図　30号住居跡出土遺物（２）





第265図　31号住居跡・出土遺物

15は、口径22.4cmで、胎土は長石・石英・角閃石・白色粒を含み、色調は褐色である。16は、口径20.4cmで胎土は長石・石英・角閃石・白色粒を含み、色調は褐色である。

17は、丸瓦の狭端部左片である。端部は面取りが為され、凸面に雑な撫でを施し、凹面に布目圧痕が残存する。狭端部は残存で5.6cm、厚さ2.2cmである。胎土は長石・石英を含み、色調は灰白色である。

31号住居跡（第265図）

位置　／Ｅａ－70グリッド。　切り合い関係　／なし。　平面形態　／主軸方向が長い長方形。　主軸方向　／Ｎ－52°－Ｗ。　規模　／東西3.6ｍ、南北3.2ｍ、深さ20cm。　柱穴　／４本が検出され、Ｐ－１が直径80cm、深さ16cm、Ｐ－２が直径74cm、深さ18cm、Ｐ－３が直径70cm、深さ16cm、Ｐ－４が直径36cm、深

さ27cmを計測する。このうちＰ－１・２は、貯蔵穴の可能性を有する。　壁　／外傾する。　壁溝　／南壁中央部より西壁へかけて壁下に巡り、幅10～21cm、深さ３～５cmを測る。　床面　／直床でほぼ平坦である。　カマド　／住居跡東壁の南寄りに付設され、主軸方向はＮ－35°－Ｗである。袖部は粘土を用いて構築し、ハの字状に僅かながら残存する。火床面は、楕円形に掘り窪め、煙道は急激に立ち上がり、壁外へ削り込まれる。　覆土　／ローム粒・白色粒を含んだ暗褐色土を主体とする。　遺物　／Ｐ－２及びカマド付近に集中している。　遺構の時期　／10世紀前後。

出土遺物

１は、土師器の坏の体部片である。体部は内湾気味に立ち上がり、内面に黒色処理を施す。口径は14.0cm、底径は7.0cm、器高は4.5cmである。胎土は長石・石英を含み、色調は褐灰色である。

２は、須恵器の坏の体部片である。体部は内湾気味に立ち上がる。口径は14.8cmである。胎土は長石・石英・白色粒を含み、色調は黒褐色である。

３は、須恵器の坏の完形品である。底部は回転糸切りで、体部は内湾気味に立ち上がり、外面に「麿」の墨書が見られる。口径は12.8cm、底径は5.8cm、器高は3.8cmである。胎土は長石・石英・雲母を含み、色調は暗灰褐色である。

４は、須恵器の高台付碗の完形品である。底部は回転糸切りで、高台はハの字状を呈し、貼り付けの後ロクロ撫でを施す。体部は内湾気味に立ち上がり、外面を撫でる。内面に漆が付着し、パレットとして使用されたものと推定される。口径は18.0cm、底径は7.8cm、器高は7.2cmである。胎土は長石・石英を含み、色調は灰白色である。

５は、土師器の小形の坏で、1/2の残存である。底部は回転糸切りで、体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部がやや外反する。内外面に黒色処理らしき痕跡を残す。口径は10.2cm、底径は5.6cm、器高は3.5cmである。胎土は長石・石英を含み、色調は黒色である。

６は、土師器の甕の口縁部片である。口縁部はコの字状に外反する。胴部上半に横位のヘラ削り、内面にヘラ撫で、口縁部にヨコ撫でを施す。口径は20.4cmを計り、胎土は長石・石英・角閃石を含み、色調は褐色である。

７は、土師器の甕の口縁部片である。口縁部はコの字状に外反し、口唇部が上方につまみ出される。胴部上半は横位のヘラ削り、口縁部はヨコ撫でを施す。口径は17.2cmを計る。胎土は長石・石英・雲母を含み、色調は暗褐色である。

32号住居跡（第266図）

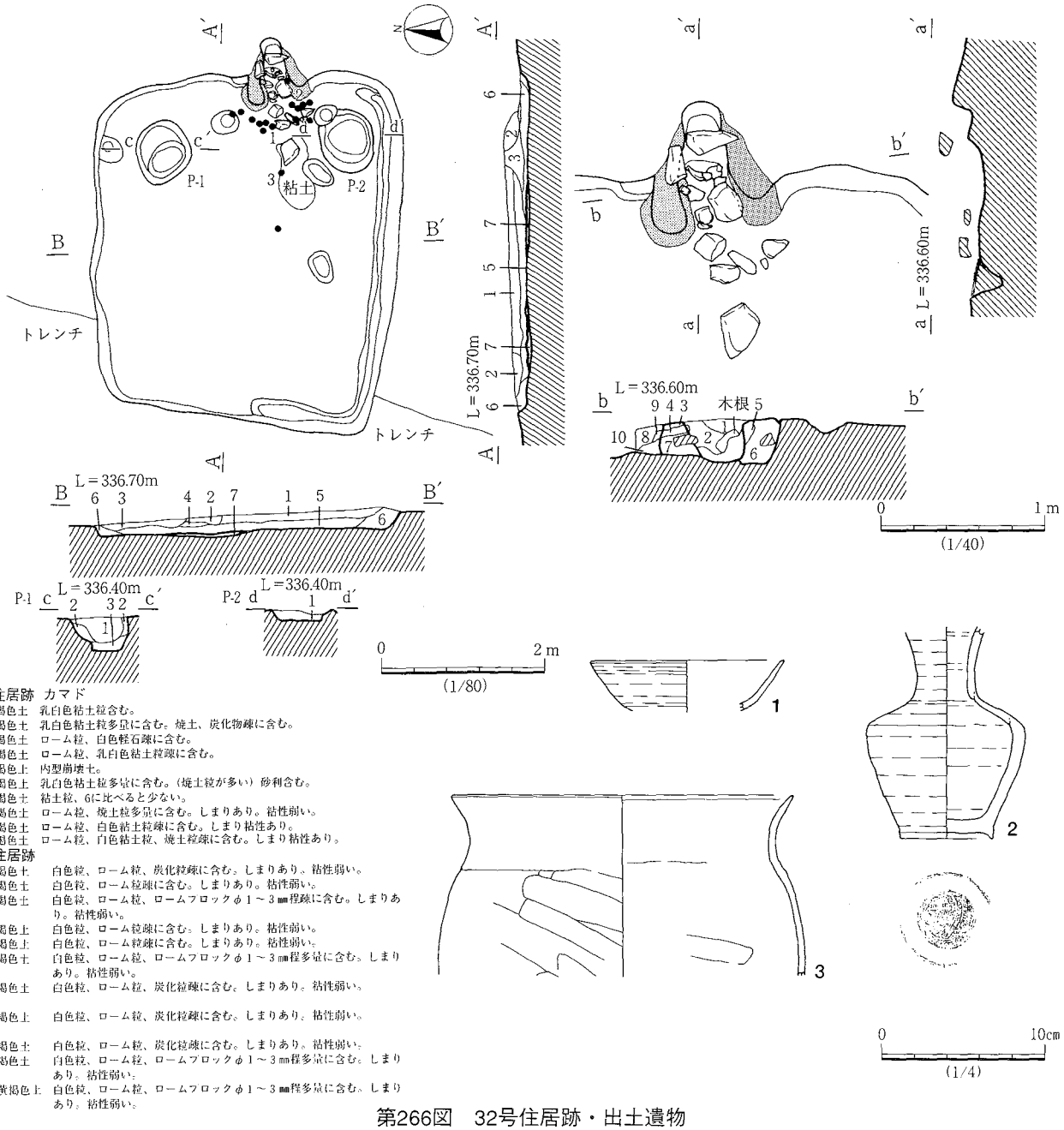
位置　／Ｅａ－74・75グリッド。　切り合い関係　／なし。　平面形態　／主軸方向が長い長方形。　主軸方向　／Ｎ－90°。　規模　／東西4.2ｍ、南北3.8ｍ、深さ20cm。　柱穴　／住居跡東壁側に２基が検出される。Ｐ－１は直径78cm、深さ40cmで、Ｐ－２は直径77cm、深さ12cmを計測する。このうちＰ－２は、住居跡南東隅に位置し、貯蔵穴の可能性を有する。　壁　／外傾する。　壁溝　／幅11～24cm、深さ１～５cmで、住居跡の南壁より西壁中央部の壁下に巡る。　床面　／直床でほぼ平坦である。　カマド　／住居跡東壁のほぼ中央に付設される。カマドは礫と粘土を用いて構築していたと見られ、カマド内には構材と見られる礫が散乱している。袖部は粘土を用いており、ハの字状に遺存する。燃焼部は、ほぼ平坦で、被熱の痕跡は確認されず、煙道へは段を持って移行し、壁外へ削り込まれる。　覆土　／ローム粒・白色粒・炭化粒を含んだ暗褐色土を主体とする。　遺物　／カマド周辺に集中し、カマド手前に粘土塊が検出されている。　遺構の時期　／10世紀前後。

出土遺物

1は、須恵器の坏の体部片で、カマド付近からの出土である。体部は内湾気味に立ち上がる。口径は12.0cmを計る。胎土は長石・石英を含み、色調は暗灰色である。

2は、須恵器の長頸壺で、カマド付近から出土し、ほぼ完形である。胴部は内湾気味に立ち上がり、肩で屈曲し、口縁部は外反する。底部は回転糸切りによる切り離しで、断面が逆三角形状の低い高台を有する。また、底部には線刻が確認される。底径は5.8cm、器高は13.0cmである。胎土は大粒の長石・石英・白色粒を多量に含み、色調は暗灰色である。

3は、土師器の甕の口縁部から胴部上半片である。口縁部はコの字状を呈し、胴部上半はヘラ削り、内面はヘラ撫で、口縁部はヨコ撫でが施される。口径は21.2cmである。胎土は長石・石英・角閃石を含み、色調は褐色である。



第266図　32号住居跡・出土遺物

33号住居跡（第267図）

位置　／Ｅｄ－78グリッド。　切り合い関係　／６号掘立柱建物跡と重複し、前後関係は不明である。　平面形態　／主軸方向が長い長方形。　主軸方向　／Ｎ－75°－Ｗ。　規模　／東西4.0ｍ、南北3.7ｍ。　柱穴／なし。　壁　／遺存せず不明である。　壁溝　／幅10～20cm、深さ２～６cmで、南壁中程より西壁、北壁を経て東壁カマド手前までの壁下に巡る。　床面　／住居跡南東隅には掘り方が確認されるが、他は直床でほぼ平坦である。　カマド　／住居跡東壁の中央に付設されるが、遺存状態は悪い。煙道は段を持ち壁外へ削り込まれる。　覆土　／検出面よりの掘り込みが僅かな為確認されてない。　遺物　／住居跡中央からカマド周辺及び南壁へかけて集中している。　遺構の時期　／９世紀後半。

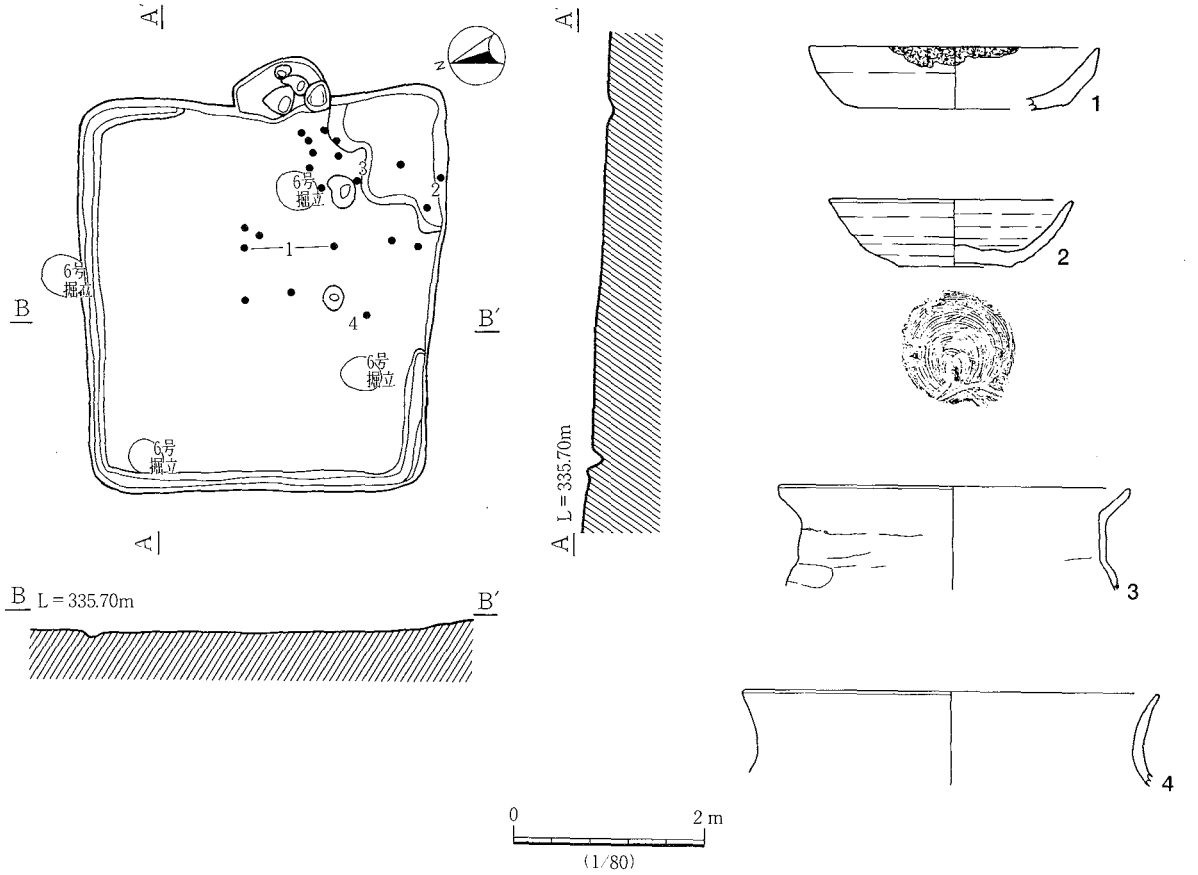
出土遺物

１は、非ロクロの土師器の坏の体部片である。底部は平底で、体部は直線的に立ち上がる。外面全体に撫でを施す。内外面の口縁部に煤の付着が見られる。口径は15.2cm、器高は3.2cmである。胎土は長石・石英・白色粒・砂粒を含み、色調は黄褐色である。

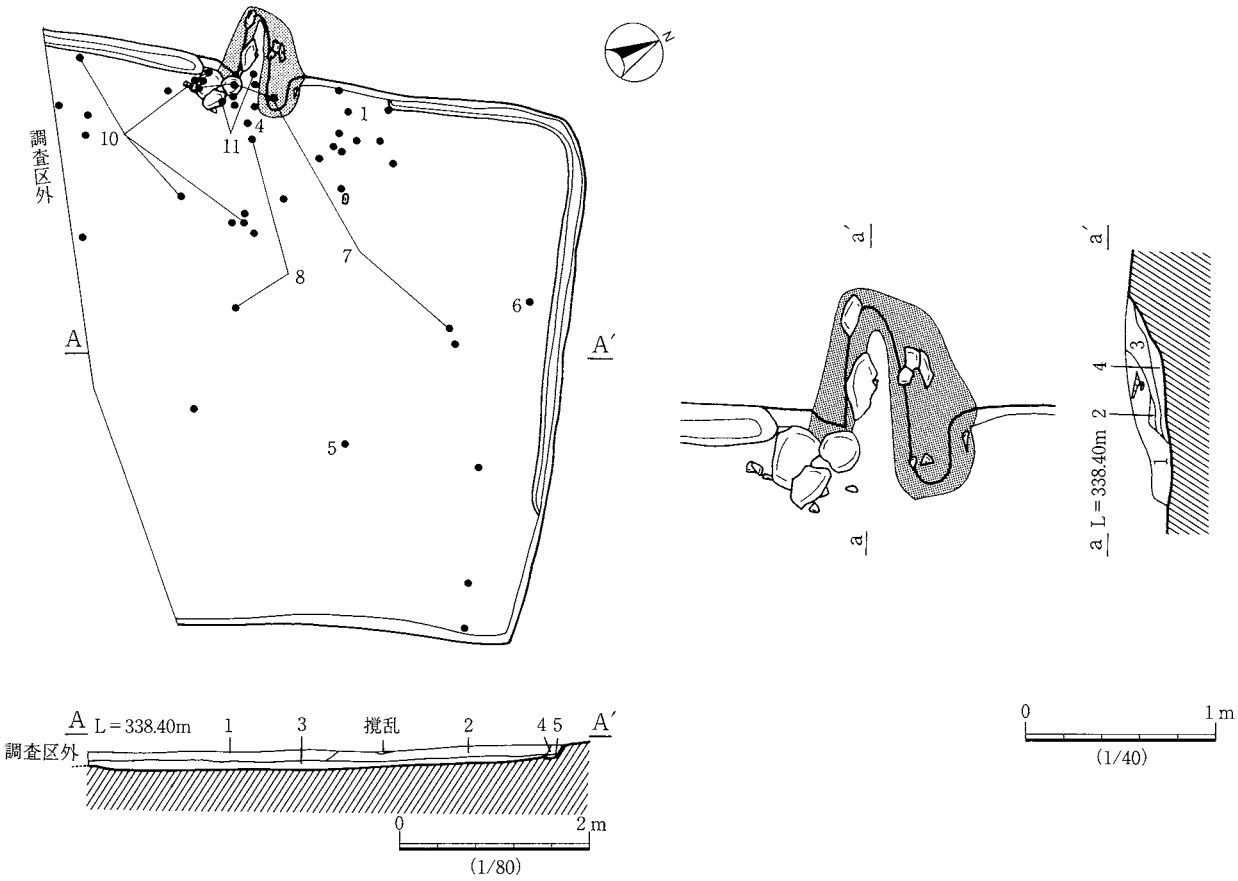
２は、須恵器の坏の完形品である。底部は回転糸切りで、体部は内湾気味に立ち上がる。口径は13.2cm、底径は6.0cm、器高は3.5cmである。胎土は長石・石英を含み、色調は灰色である。

３は、土師器の坏の口縁部片である。口縁部はコの字状を呈し、胴部上半はヘラ削り、内面はヘラ撫で、口縁部はヨコ撫でが施される。口径は18.4cmを計り、胎土は長石・石英・雲母・角閃石を含み、色調は褐色である。

４は、土師器の坏の口縁部片である。口縁部は緩やかに外反し、ヨコ撫でが施される。口径は21.8cmで、胎土は長石・石英・雲母・角閃石を含み、色調は暗褐色である。



第267図　33号住居跡・出土遺物

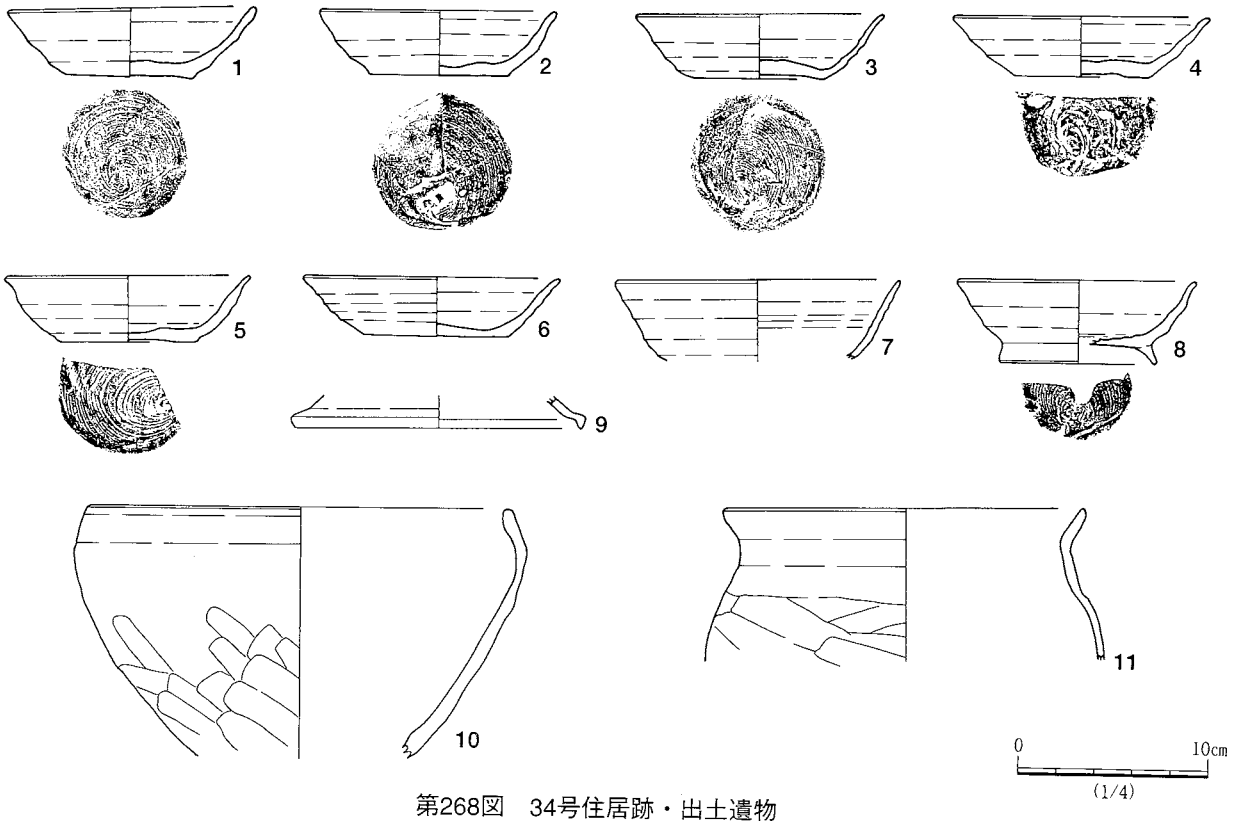


34号住居跡

1．暗褐色土　白色粒、ローム粒まばらに含む。しまり強。粘性弱。
2．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒、炭化物多量に含む。しまり強。粘性弱。
3．暗茶褐色土　白色粒、ローム粒まばらに含む。しまり強。粘性弱。
4．暗褐色土　白色粒少量含む。しまり強。粘性弱。
5．暗褐色土　白色粒、ローム粒まばらに含む。しまり強。粘性弱。

カマド

1．暗褐色土　焼土粒、炭化物疎に含む。しまり弱い。粘性なし。
2．橙褐色土　焼土ブロック。しまり強い。粘性なし。
3．橙茶褐色土　焼土粒多量に含む。砂粒含む。しまり弱い。粘性なし。
4．暗褐色土　ローム粒、焼土粒疎に含む。しまり強い。粘性なし。



第268図　34号住居跡・出土遺物

34号住居跡（第268図）

位置　／Ｄｆ－64・65グリッド。1/3程が調査区外となる。　**切り合い関係**　／38号住居跡と重複し、本跡が新しい構築である。　**平面形態**　／住居跡の南側が調査区外となる為全容は不明であるが、主軸方向の短い長方形を呈すると思われる。　**主軸方向**　／Ｎ－60°－Ｗ。　**規模**　／東西5.7ｍ、南北5.8＋αｍ、深さ20cm。　**柱穴**　／なし。　**壁**　／外傾する。　**壁溝**　／幅10～22cm、深さ２～８cmで、カマド部分を除いた西壁と北壁下に巡る。　**床面**　／直床でほぼ平坦である。　**カマド**　／住居跡西壁のほぼ中央に付設されていると思われる。袖は粘土を用いて構築し、ハの字状に遺存する。燃焼部から煙道へは緩やかに移行し、煙道は壁外へ削り込まれる。　**覆土**　／白色粒・ローム粒・炭化物を含んだ暗褐色土を主体とする。　**遺物**　／カマド周辺に集中して出土している。　**遺構の時期**　／10世紀前後。

出土遺物

１は、土師器の坏の完形品である。底部は回転糸切りで、体部は直線的に立ち上がり、外面にロクロ撫でを施す。口径は13.0cm、底径は6.8cm、器高は3.8cmである。胎土は長石・石英・角閃石・白石粒を多量に含み、色調は明褐色である。

２は、須恵器の坏で、2/3の残存である。底部は回転糸切りで、体部は内湾気味に立ち上がる。口径は12.5cm、底径は7.4cm、器高は3.5cmである。胎土は長石・黒色粒を含み、色調は暗灰色である。

３は、須恵器の坏のほぼ完形品である。底部は回転糸切りで、体部は直線的に立ち上がる。体部外面にロクロ撫でを施す。口径は13.0cm、底径は6.8cm、器高は3.4cmである。胎土は長石・石英・白色粒を含み、色調は暗灰色である。

４は、須恵器の坏で、1/3の残存である。底部は回転糸切りで、体部は直線的に立ち上がる。口径は13.6cm、底径は7.0cm、器高は3.2cmである。胎土は長石を含み、生目細かく、色調は灰色である。

５は、須恵器の坏で、1/3の残存である。底部は回転糸切りで、体部は内湾気味に立ち上がる。口径は12.6cm、底径は7.4cm、器高は3.5cmである。胎土は長石を含み、生目細かく、色調は灰色である。

６は、須恵器の坏で、1/2の残存である。体部は直線的に立ち上がる。口径は13.5cm、底径は7.5cm、器高は3.1cmである。胎土は長石・石英・角閃石・白色粒を多量に含み、色調は暗灰色である。

７は、須恵器の坏で、1/2の残存である。体部は内湾気味に立ち上がる。口径は14.8cm、器高は4.2cmである。胎土は長石・石英・白色粒を含み、色調は灰色である。

８は、須恵器の高台付坏で、2/3の残存である。底部は回転糸切りで、高台貼り付けの後、ロクロ撫でを施す。体部は内湾気味に立ち上がり、外面にロクロ撫でを施す。口径は12.6cm、底径は8.4cm、器高は4.4cmである。胎土は長石・黒色粒を含み、色調は暗灰色である。

９は、須恵器の蓋の口縁部片である。口縁端部は垂下する。口径は15.0cmである。胎土は長石・白色粒を含み、色調は灰色である。

10は、須恵器の鉢で、2/3の残存である。胴部は直線的に立ち上がり、上方に最大径を持ち、口縁部は内傾する。胴部外面中程から下半はヘラ削り、口縁部はヨコ撫でが施される。口径は22.4cmを計り、胎土は長石・石英・白色粒を含み、色調は明褐色である。

11は、土師器の甕の口縁部から胴部上半片である。口縁部はコの字状を呈し、胴部上半はヘラ削り、口縁部はヨコ撫でが施される。口径は17.0cmを計り、胎土は長石・石英・角閃石・白色粒を含み、色調は赤褐色である。

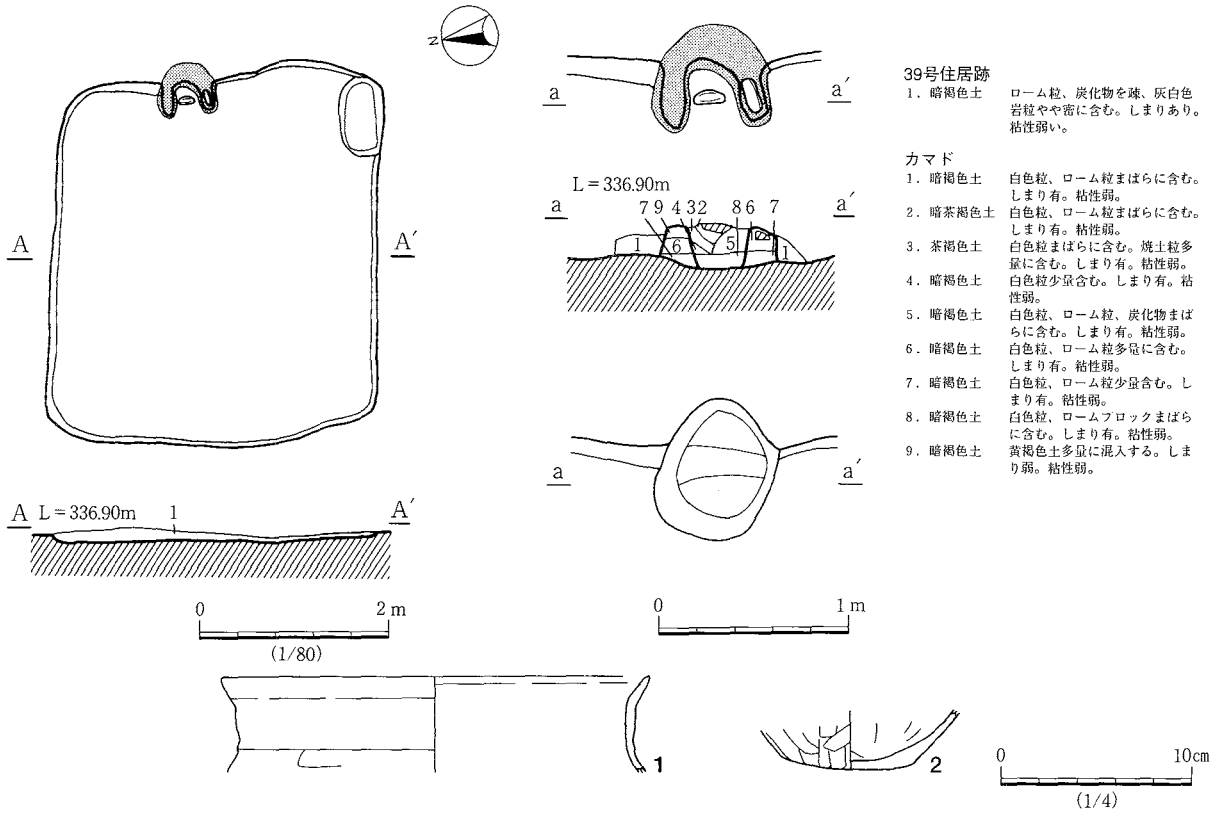
39号住居跡（第269図）

位置　／Ｄｊ－73グリッド。　切り合い関係　／なし。　平面形態　／主軸方向が長い長方形。　主軸方向　／Ｎ－77°－Ｗ。　規模　／東西3.9ｍ、南北3.5ｍ、深さ10cm。　貯蔵穴　／住居跡南東角に位置し、隅角の丸い長方形で、長計84cm、短計28cm、深さ40cmを計測する。　壁　／僅かな遺存である。　壁溝　／なし。　床面　／直床でほぼ平坦である。　カマド　／住居跡東壁の中央からやや北寄りに付設さる。袖部は暗褐色土で構築され、ハの字状に遺存する。被熱の痕跡は見られず、煙道は壁外へ削り込まれる。　覆土　／白色粒・ローム粒を含んだ暗褐色土を主体とする。　遺物　／覆土中からの遺物を図示した。覆土は薄い為伴うと見られる。

出土遺物

１は、土師器の甕の口縁部片である。口縁部はコの字状を呈し、胴部上半は横位のヘラ削り、口縁部はヨコ撫でが施される。口径は22.6cmである。胎土は長石・石英・雲母・角閃石を多量に含み、色調は褐色である。

２は、土師器の甕の底部片である。底部は丸底気味で、外面はヘラ削り、内面はヘラ撫でが施される。底径は6.5cmである。胎土は長石・石英・金雲母・角閃石を含み、色調は褐色である。



第269図　39号住居跡・出土遺物

40号住居跡（第270・271図）

位置　／Ｅａ－76・77グリッド。　切り合い関係　／41号住居跡と重複し、本跡が新しい構築である。平面形態　／主軸方向が長い長方形。　主軸方向　／Ｎ－67°－Ｗ。　規模　／東西5.4ｍ、南北3.5ｍ、深さ32cm。　貯蔵穴　／住居跡南東角に付設される。形状は隅角に丸みを持った方形で、長計80cm、短計76cm、深さ15cmを計測する。　壁　／外傾する。　壁溝　／なし。　床面　／多少の起伏があるもののほぼ平坦である。　カマド　／住居跡東壁のほぼ中央に付設される。カマドは粘土と砂岩を用いて構築し、天井部が残存する。袖部はハの字状に遺存し、内壁には礫が直立した状態で検出されたが、左袖部には崩壊した構材が散乱する状態である。火床面は10cm程掘り窪められ、使用頻度が高く、焼土粒・灰・炭化物が顕著に見られる。　覆土　／ローム粒・灰白色岩粒・炭化物を含んだ暗褐色土を主体とする。　遺物　／全体に出土遺物は多く、好資料が得られている。中でも図版番号８の小型甕は、北陸地域からの搬入品で注目される。　遺構の時期　／10世紀前後。

出土遺物

１は、土師器の坏で、1/2の残存である。底部は回転糸切りで、体部は内湾気味に立ち上がる。内面に黒色処理が施される。口径は13.4cm、底径は6.6cm、器高は4.1cmで、胎土は長石・石英・白色粒を多量に含み、色調は暗褐色である。

２は、土師器の坏の底部片である。底部は回転糸切りで、外面に「乙ヵ」の墨書が見られる。底径は6.6cmで、胎土は長石・石英・角閃石を多量に含み、色調は褐色である。

３は、須恵器の坏で、1/4の残存である。体部は内湾気味に立ち上がり、外面に撫でが施される。口径は14.6cm、底径は8.0cm、器高は4.0cmで、胎土は長石・石英・白色粒を含み、色調は灰白色である。

４は、須恵器の坏で、ほぼ完形である。底部は回転糸切りで、体部は内湾気味に立ち上がる。口径は13.8cm、底径は7.5cm、器高は4.6cm、胎土は長石・石英・白色粒を含み、色調は灰色である。

５は、須恵器の坏の体部片である。体部は直線的に開き、口縁部はやや外反する。口径は13.4cm、底径は5.8cm、器高は3.8cmで、胎土は長石・石英・白色粒を含み、色調は灰色である。

６は、須恵器の高台付坏の底部片である。底部は回転糸切りで、高台は貼り付けられ、ロクロ撫でを施す。底径は3.6cmで、胎土は大粒の長石・石英を多量に含み、色調は暗褐色である。

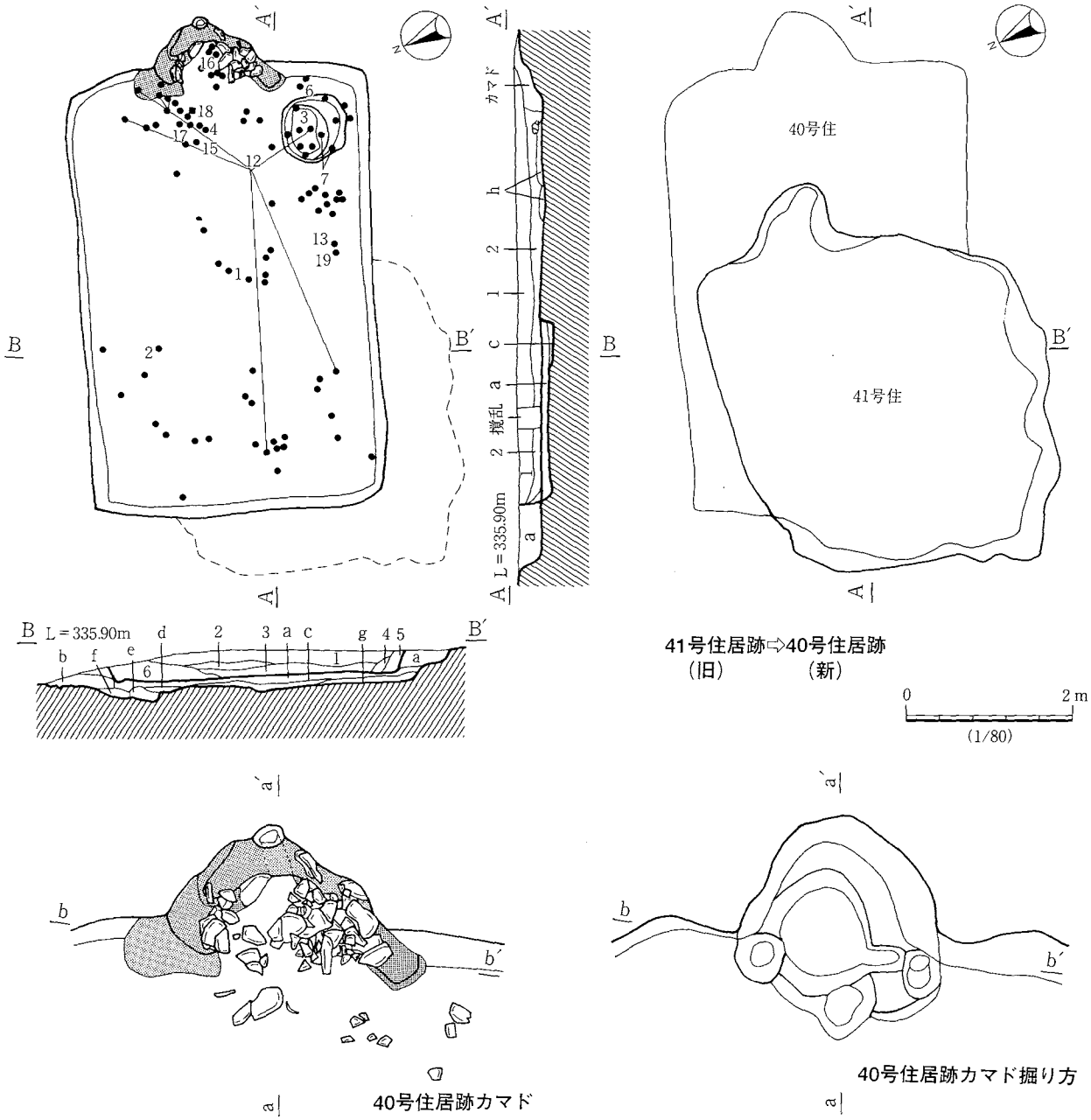
７は、土師器の皿の体部片である。体部外面に撫でを施す。口径は14.0cmで、胎土は大粒の長石・石英を多量に含み、色調は灰白色である。

８は、土師器の小型甕で、1/3の残存である。胴部は中程に最大径を持ち、口縁部はくの字状を呈し、口縁部はヨコ撫で外面にカキ目調整を施す。口径は12.4cm、器高は復元で11.5cm、胎土は長石・石英・白色粒を含み、色調は赤褐色である。

９は、土師器の甕の口縁部片である。口縁部はコの字状を呈し、ヨコ撫でが施される。口径は11.4cmである。胎土は長石・石英・角閃石を含み、色調は暗褐色である。

10は、土師器の甕の口縁部から胴部上半片である。口縁部はくの字状を呈し、大きく外反する。口径は27.2cmで、胎土は長石・石英・角閃石を含み、色調は褐色である。

11は、土師器の甕の口縁部から胴部上半片で、口縁部はコの字状を呈し、胴部上半はヘラ削り、内面はヘラ撫で、口縁部はヨコ撫でが施される。口径は19.0cmで、胎土は長石・石英・角閃石を含み、色調は褐色である。



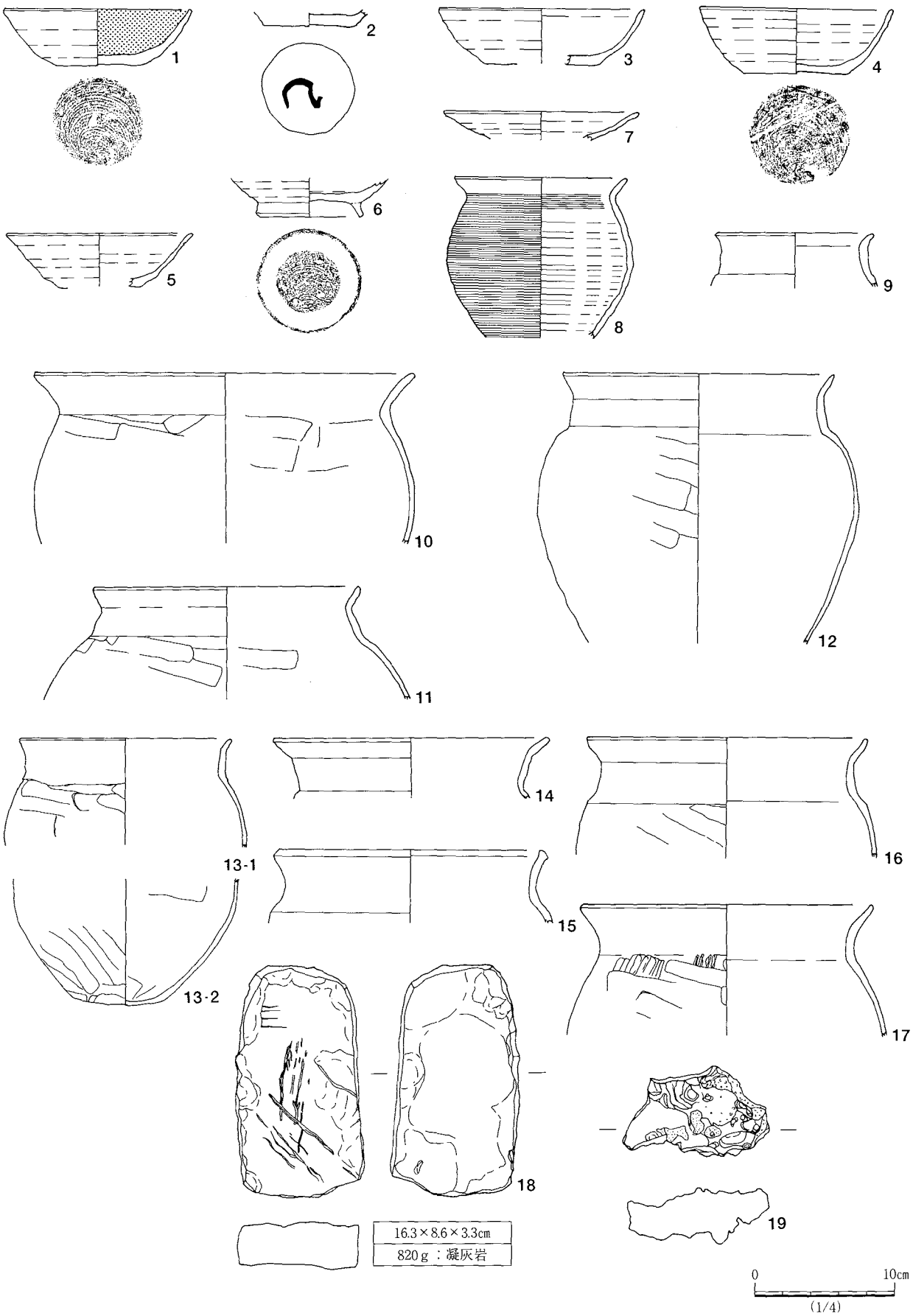
40・41号住居跡

1．暗褐色土　ローム粒やや密、灰白色岩粒、炭化物、小ロームブロック疎に含む。しまりあり。粘性弱い。
2．暗褐色土　ローム粒疎、灰白色岩粒、炭化物疎に含む。しまりあり。粘性弱い。
3．暗褐色土　ローム粒、灰白色岩粒やや疎、炭化物、焼土粒疎に含む。しまりあり。粘性弱い。
4．暗褐色土　ローム粒、灰白色岩粒、炭化物やや密、φ1cm程のＹＰ軽石粒含む。しまりあり。粘性弱い。
5．暗褐色土　ローム粒やや密、φ1cm弱のＹＰ軽石粒、φ2cm程のロームブロックを含む。しまり強い。粘性弱い。
6．茶褐色土　ローム粒やや密、φ1cm弱のＹＰ軽石粒、φ3～5cm程のロームブロックを含む。しまりあり。粘性弱い。
a．暗褐色土　ローム粒、灰白色岩粒、炭化物疎に含む。しまり強い。粘性あり。
b．黄褐色土　6よりロームブロックさらに多く含む。しまり強い。粘性弱い。
c．暗褐色土　ローム粒、ＹＰ軽石粒やや密に含む。しまり強い。粘性あり。
d．茶褐色土　ローム粒密、φ2cm程のロームブロック疎に含む。しまり強い。粘性弱い。
e．黄褐色土　φ3～5cm程のロームブロック多量に含む。しまり強い。粘性弱い。
f．黄褐色土　φ1cm前後のロームブロック多量に含む。しまりあり。粘性弱い。
g．暗褐色土　ローム粒疎、φ2cm程のロームブロック含む。しまり強い。粘性弱い。
h．黄白色土　黄白色粘土粒多量に、焼土粒やや密に含む。（カマド崩壊土）しまり強い。粘性弱い。

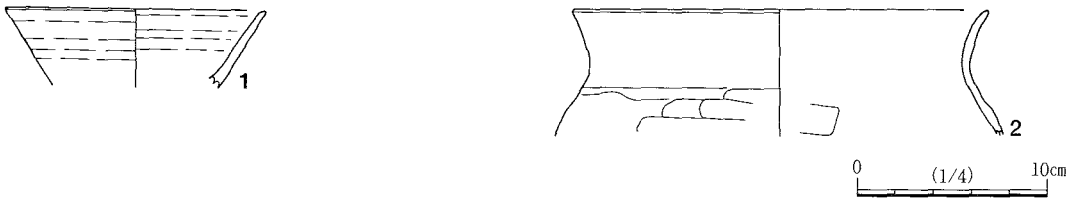
40号住居跡　カマド

1．黄白色土　粘土ブロック。
2．茶褐色土　黄白色粘土粒、ローム粒やや密に含む。
3．暗褐色土　黄白色粘土粒疎、砂利やや多く含む。しまり強い。
4．暗褐色土　内面被熱顕著。しまり強い。
5．暗褐色土　ローム粒、黄白色粘土粒やや密に含む。しまり強くガチガチ。
6．黄褐色土　ローム粒多量につき固めてある。しまり強くガチガチ。
7．橙色土（火床部）　焼土粒が大半を占め、下層に灰、炭化物含む。

第270図　40・41号住居跡



第271図　40号住居跡出土遺物



第272図　41号住居跡出土遺物

12は、土師器の甕の口縁部から胴部上半片である。胴部上半に最大径を持ち、口縁部はコの字状を呈する。胴部はヘラ削り、口縁部はヨコ撫でが施される。口径は19.0cmで、胎土は長石・石英・角閃石・砂粒を多量に含み、色調は褐色である。

13－１、２は、土師器の甕で、13－１は口縁部から胴部上半である。胴部上半は内湾気味で、外面にヘラ削りが施される。口縁部はコの字状を呈し、ヨコ撫でを施す。口径は15.2cm、器高は7.7cmで、胎土は長石・石英・白色粒を多量に含み、色調は暗褐色である。13－２は胴部下半から底部片である。底部は丸底気味の平底で、胴部は内湾気味に立ち上がる。胴部はヘラ削り、内面はヘラ撫でが施される。底径は5.2cm、器高は9.0cmで、胎土は長石・石英・白色粒を多量に含み、色調は暗褐色である。

14は、土師器の甕の口縁部片である。口縁部はコの字状を呈し、ヨコ撫でが施される。口径は19.8cmで、胎土は長石・石英・角閃石を含み、色調は褐色である。

15は、土師器の甕の口縁部片である。口縁部はくの字状を呈し、ヨコ撫でが施される。口径は19.6cmで、胎土は長石・石英・白色粒を含み、色調は明褐色である。

16は、土師器の甕の口縁部から胴部上半片である。口縁部はコの字状を呈し、胴部上半にヘラ削り、口縁部にヨコ撫でが施される。口径は20.0cmで、胎土は長石・石英・角閃石を含み、色調は褐色である。

17は、土師器の甕の口縁部から胴部上半片である。口縁部はコの字状を呈し、ヨコ撫でが施される。口径は21.0cmで、胎土は長石・石英・砂粒を含み、色調は褐色である。

18は、砥石で良く使い込まれ、中央部が最も磨耗している。材質は凝灰岩で、長さ16.3cm、幅8.6cm、厚さ3.3cm、重さ820ｇである。

19は、鉄滓で、長さ6.5cm、幅10.4cm、厚さ3.8cm、重さ290ｇである。

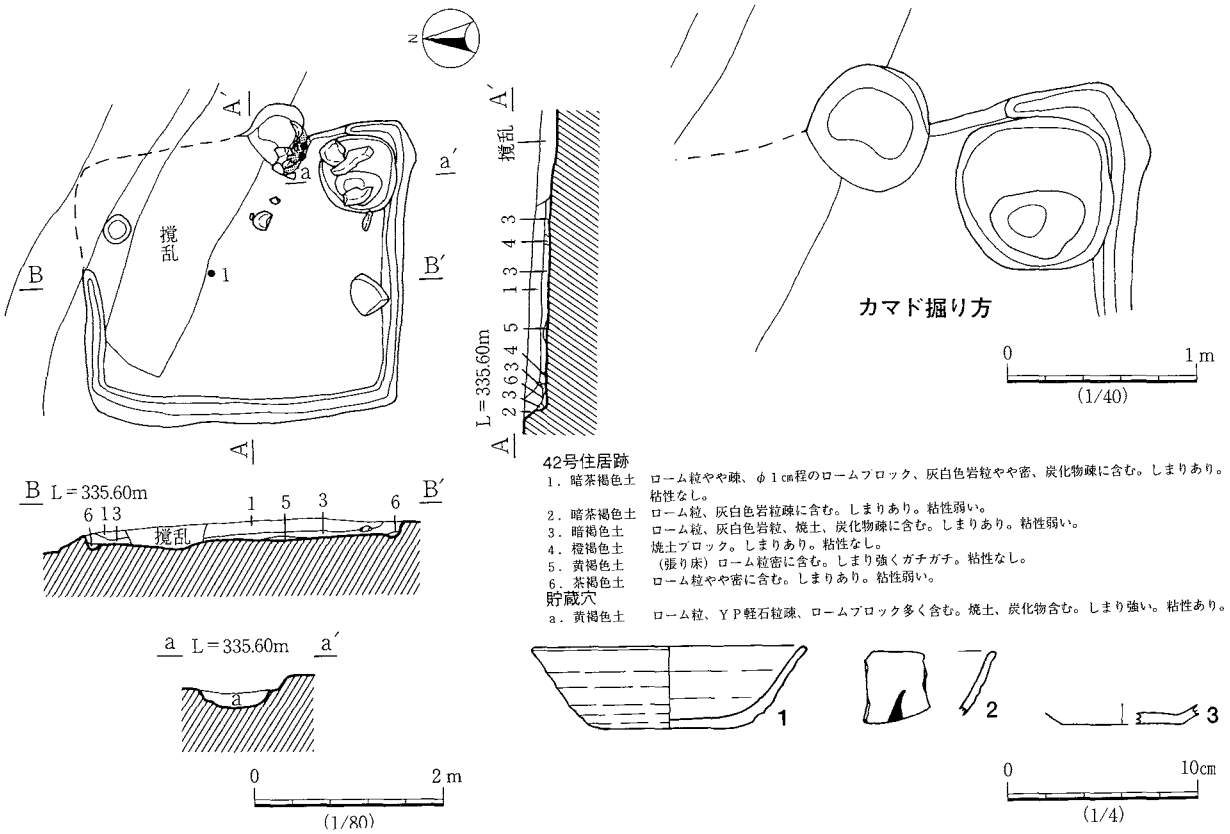
41号住居跡（第270・272図）

位置　／Ｅａ－76・77グリッド。　切り合い関係　／40号住居跡と重複し、本跡が古い構築である。　平面形態　／不整形。　主軸方向　／Ｎ－76°－Ｗ。　規模　／東西4.0ｍ、南北4.0ｍ、深さ40cm。　柱穴　／なし。　壁　／外傾する。　壁溝　／なし。　床面　／ほぼ平坦である。掘り方が確認される。　カマド　／住居跡東壁の北寄りに付設されていたと見られるが、詳細は不明である。　覆土　／ローム粒・ロームブロックを含んだ暗褐色土を主体とする。　遺物　／覆土中より坏・甕が出土している。

出土遺物

１は、須恵器の坏の体部片で、口径は13.6cmを計測する。胎土は長石・石英を含み、色調は灰色である。

２は、土師器の甕の口縁部片である。胴部上半に横位のヘラ削り、内面にヘラ撫で、口縁部にヨコ撫でを施す。口径は21.8cmを計る。胎土は長石・石英・角閃石・金雲母を含み、色調は褐色である。



第273図　42号住居跡・出土遺物

42号住居跡（第273図）

位置　／Ｅａ－77グリッド。　切り合い関係　／なし。　平面形態　／主軸方向の短い長方形。　主軸方向　／Ｎ－90°。　規模　／東西3.0ｍ、南北3.4ｍ、深さ20cm。　貯蔵穴　／住居跡南東角に位置し、直径80cm、深さ16cmを計測する。　壁　／外傾する。　壁溝　／幅10～20cm、深さ６～８cmで、東壁より南壁、西壁を経て北壁下に巡る。　床面　／ほぼ平坦である。　カマド　／住居跡東壁の中央からやや南寄りに付設される。遺存状態は悪く粘土を使用した袖が右袖のみ残存する。　覆土　／ローム粒・灰白色岩粒・炭化物を含んだ暗褐色土を主体とする。　遺物　／墨書土器が１点出土している。　遺構の時期　／10世紀前後。

出土遺物

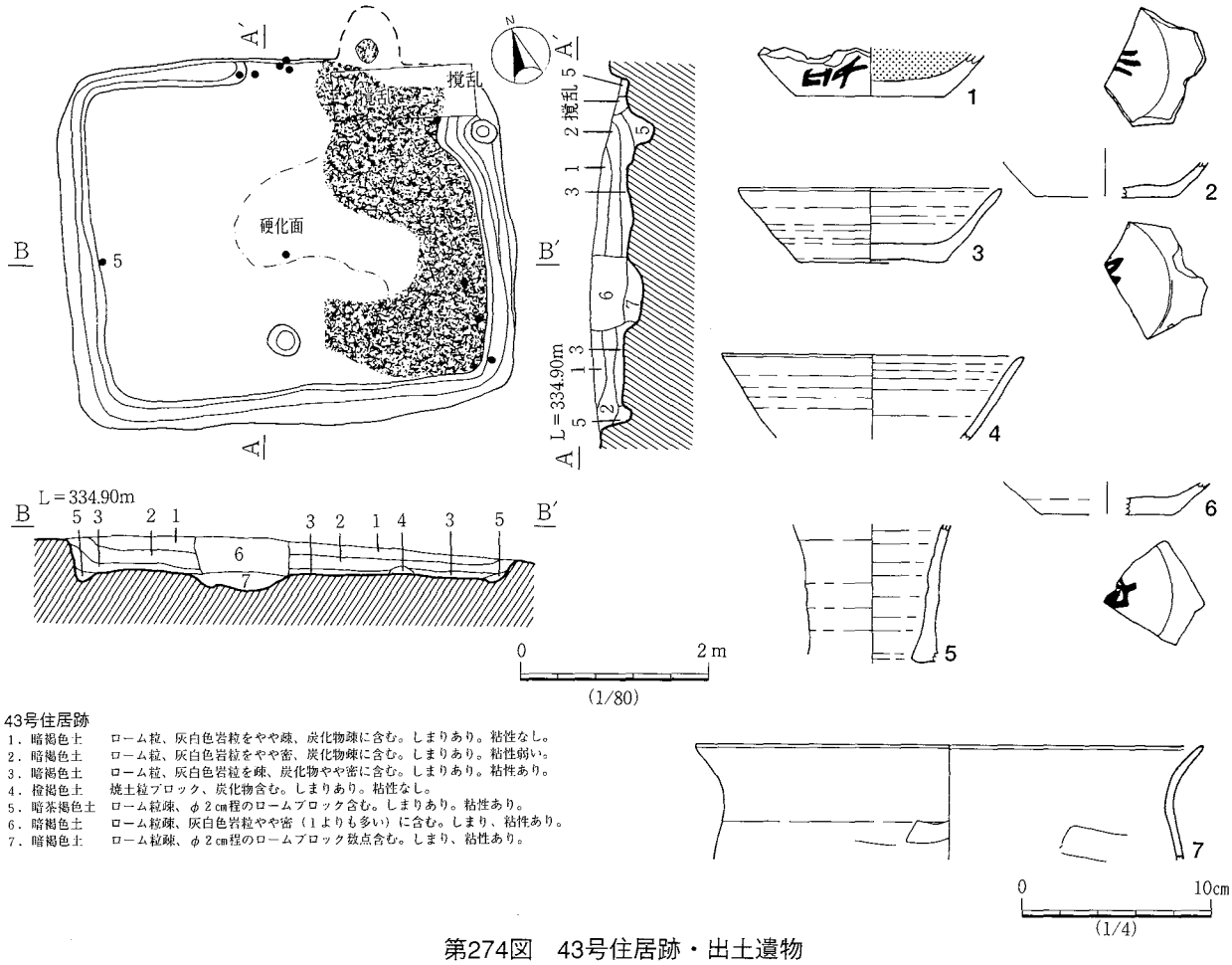
１は、須恵器の坏で、1/3の残存である。底部は回転糸切りで、体部は直線的に立ち上がり、外面にロクロ撫でが施される。口径は14.2cm、底径は7.6cm、器高は4.3cmである。胎土は長石・石英・白色粒を含み、色調は褐灰色である。

２は、須恵器の坏の体部片で、外面に墨書が見られる。胎土は長石・石英・白色粒を含み、色調は灰色である。

３は、須恵器の坏で、カマドからの出土である。底部は回転糸切りで、体部外面に撫でが施される。底径は6.4cmを計り、胎土は長石・白色粒を含み色調は褐灰色である。

43号住居跡（第274図）

位置　／Ｅｄ－79グリッド。　切り合い関係　／なし。　平面形態　／主軸方向の短い長方形。　主軸方向　／Ｎ－10°－Ｅ。　規模　／東西4.8ｍ、南北3.8ｍ、深さ34cm。　柱穴　／なし。　壁　／遺存の良い所では、ほぼ垂直に立ち上がる。　壁溝　／幅14～24cm、深さ５～10cmで、東壁より南・西壁を経て、北壁



第274図　43号住居跡・出土遺物

の中央までの壁下に巡る。　床面　／多少の起伏があるものの、ほぼ平坦である。住居跡の中央部から東側へかけて良く踏み固められ硬化する。また、住居跡東部分に被熱の痕跡が確認される。　カマド　／住居跡北壁の東寄りに付設されたと見られるが遺存状態は悪い。　覆土　／ローム粒・灰白色岩粒・炭化物を含んだ暗褐色土を主体とする。　遺物　／壁際に多く出土している。　遺構の時期　／9世紀後半。

出土遺物

1は、土師器の坏である。底部は回転糸切りで、体部外面に「蝎ゐ」の墨書が見られ、内面は黒色処理が施される。底径は7.8cmで、胎土は長石・石英・白色粒を含み、色調は褐色である。

2は、須恵器の坏の底部片である。底部は回転糸切りで、外面に墨書が見られる。胎土は長石・白色粒を含み、色調は暗灰色である。

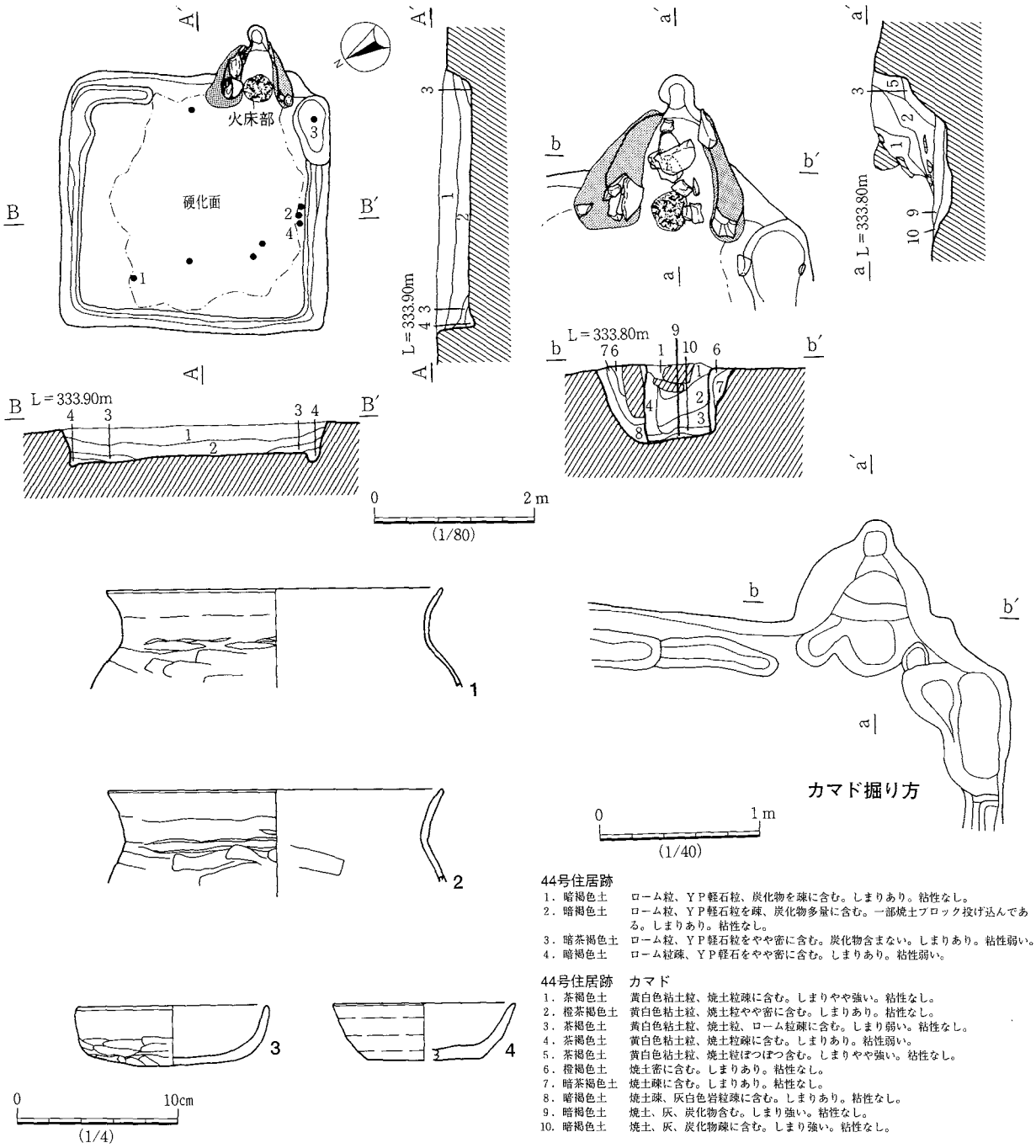
3は、須恵器の坏で、4/5の残存である。底部は回転糸切りで、体部は直線的に開く。口径は14.0cm、底径は7.5cm、器高は3.9cmで、胎土は長石・白色粒を含み、色調は灰白色である。

4は、須恵器の坏の体部片である。体部は直線的に開く。口径は16.0cmで、胎土は長石を含み、色調は灰白色である。

5は、須恵器の長頸壺の頸部片である。頸部は外反する。胎土は長石を含み、色調は灰白色である。

6は、須恵器の坏の底部片である。底部は回転糸切りで、外面に墨書が見られる。底径は7.0cmで、胎土は長石を含み、色調は灰色である。

7は、土師器の甕の口縁部片である。口縁部はコの字状で、ヨコ撫でを施す。胴部上半は横位のヘラ削り、内面はヘラ撫でを施す。口径は27.0cm、胎土は長石・石英・角閃石・白色粒を含み、色調は褐色である。



44号住居跡

1．暗褐色土　ローム粒、ＹＰ軽石粒、炭化物を疎に含む。しまりあり。粘性なし。
2．暗褐色土　ローム粒、ＹＰ軽石粒を疎、炭化物多量に含む。一部焼土ブロック投げ込んである。しまりあり。粘性なし。
3．暗茶褐色土　ローム粒、ＹＰ軽石粒をやや密に含む。炭化物含まない。しまりあり。粘性弱い。
4．暗褐色土　ローム粒疎、ＹＰ軽石をやや密に含む。しまりあり。粘性弱い。

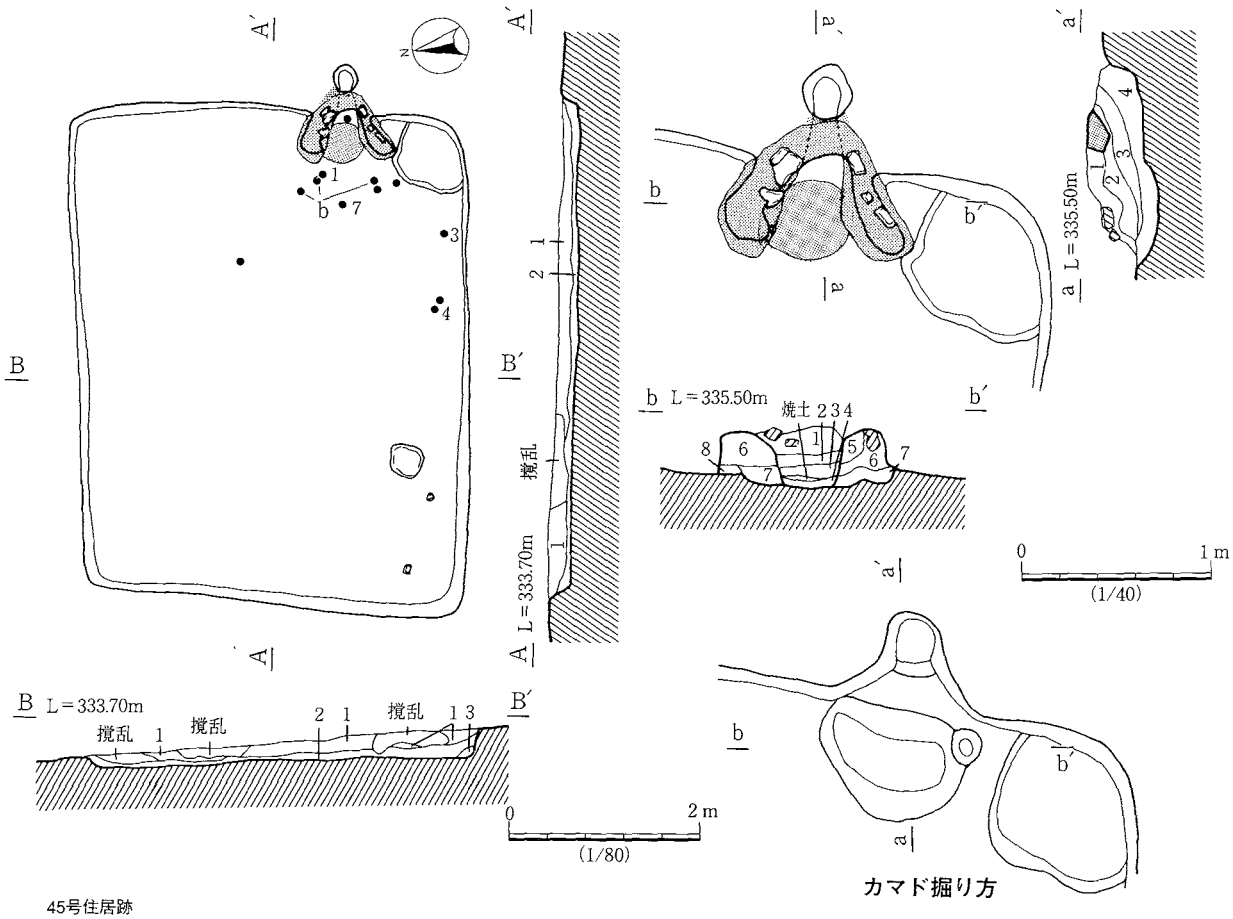
44号住居跡　カマド

1．茶褐色土　黄白色粘土粒、焼土粒疎に含む。しまりやや強い。粘性なし。
2．橙茶褐色土　黄白色粘土粒、焼土粒やや密に含む。しまりあり。粘性なし。
3．茶褐色土　黄白色粘土粒、焼土粒、ローム粒疎に含む。しまり弱い。粘性なし。
4．茶褐色土　黄白色粘土粒、焼土粒疎に含む。しまりあり。粘性弱い。
5．茶褐色土　黄白色粘土粒、焼土粒ぽつぽつ含む。しまりやや強い。粘性なし。
6．橙褐色土　焼土密に含む。しまりあり。粘性なし。
7．暗茶褐色土　焼土疎に含む。しまりあり。粘性なし。
8．暗褐色土　焼土疎、灰白色岩粒疎に含む。しまりあり。粘性なし。
9．暗褐色土　焼土、灰、炭化物含む。しまり強い。粘性なし。
10．暗褐色土　焼土、灰、炭化物疎に含む。しまり強い。粘性なし。

第275図　44号住居跡・出土遺物

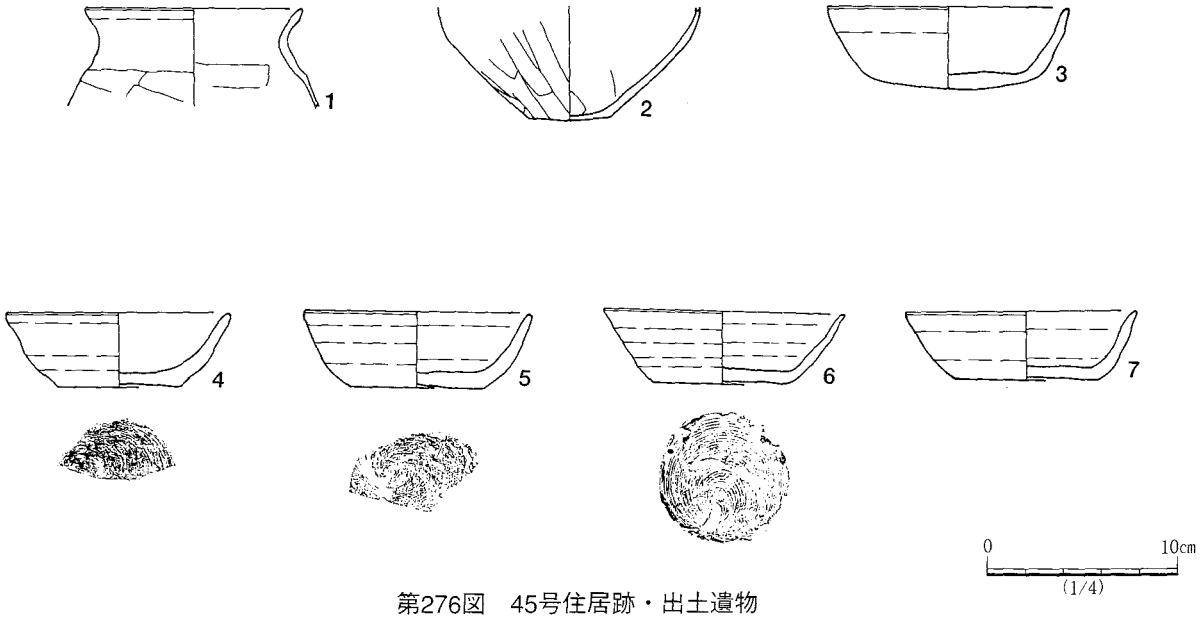
44号住居跡（第275図）

位置　／Ｅｅ－81・82グリッド。　切り合い関係　／21号掘立柱建物跡と重複し、本跡が新しい構築である。　平面形態　／方形。　主軸方向　／　Ｎ－30°－Ｗ。　規模　／東西3.2ｍ、南北3.3ｍ、深さ38㎝。　柱穴　／なし。　壁　／ほぼ垂直に立ち上がる。　壁溝　／幅７～30㎝、深さ２～12㎝で、カマド周辺部を除いた壁下に巡る。　床面　／直床でほぼ平坦である。住居跡中央部を中心に広く踏み固められ硬化している。　カマド　／住居跡東壁の中央より南側に付設される。構材には礫と粘土を用いている。袖はハの字状に遺存し、火床部は被熱の痕跡が顕著に残る。煙道は壁外へ削り込まれ、急激に立ち上がる。　覆土　／ローム粒・ＹＰ軽石粒を含んだ暗褐色土を主体とする。　遺物　／非ロクロの土師器坏が出土している。遺構の時期　／９世紀後半。



45号住居跡
1．暗褐色土　ローム粒、灰白色岩粒疎に含む。しまりあり。粘性弱い。
2．暗茶褐色土　ローム粒、灰白色岩粒やや疎に含む。炭化物疎に含む。しまり、粘性あり。
3．暗茶褐色土　ローム粒疎に含む。しまりあり。粘性弱い。

45号住居跡　カマド
1．茶褐色土　黄白色粘土粒、焼土粒やや密、炭化物疎に含む。しまりあり。粘性弱い。
2．橙褐色土　黄白色粘土粒疎、焼土粒密に含む。しまり強くガチガチ。粘性なし。
3．暗褐色土　焼土粒、炭化物疎に含む。しまりあり。粘性弱い。
4．黒褐色土　焼土粒疎、灰多く含む。しまり弱い。粘性なし。
5．橙褐色土　焼土粒多量に含む。灰白色粘土粒疎に含む。しまりあり。粘性なし。
6．暗褐色土　焼土粒疎、灰白色粘土粒疎に含む。しまり強い。粘性なし。
7．暗褐色土　焼土粒疎に含む。しまり強くガチガチ。粘性なし。
8．黒褐色土　灰白色岩粒疎に含む。しまりあり。粘性弱い。



第276図　45号住居跡・出土遺物

出土遺物

1は、土師器の甕の口縁部片である。口縁部はコの字状を呈し、胴部上半は横位のヘラ削り、口縁部はヨコ撫でが施される。口径は21.0cmで、胎土は長石・石英・白色粒を含み、色調は暗褐色である。

2は、土師器の甕の口縁部片である。口縁部はくの字状を呈し、胴部上半は横位のヘラ削り、内面はヘラ撫で、口縁部はヨコ撫でが施される。口径は21.0cmで、胎土は長石・石英を多量に含み、色調は褐色である。

3は、土師器の坏の完形品である。底部は平底気味の丸底である。体部外面はヘラ削り、内面は撫で、口縁部はヨコ撫でが施される。口径は12.2cm、器高は3.8cmで、胎土は長石・石英を含み、色調は褐色である。

4は、須恵器の坏で、1/4の残存である。底部は回転糸切りで、体部外面にロクロ撫でが施される。口径は11.4cm、底径は7.0cm、器高は3.6cmで、胎土は長石を含み、色調は灰白色である。

45号住居跡（第276図）

位置　／Ｅｄ－82・Ｅｅ－82グリッド。　**切り合い関係**　／なし。　**平面形態**　／主軸方向が長い長方形。　**主軸方向**　／Ｎ－78°－Ｗ。　**規模**　／東西5.2ｍ、南北4.1ｍ、深さ20cm。　**貯蔵穴**　／住居跡南東角に位置し、形状は方形気味の楕円形で、長径は91cm、短径65cm、深さ10cmである。　**壁**　／外傾する。　**壁溝**　／なし。　**床面**　／直床でほぼ平坦である。　**カマド**　／住居跡東壁の中央より南側に付設される。粘土を用いて構築し、天井部が遺存する。袖はハの字状を呈する。燃焼部は楕円形に掘り窪められ、明瞭に灰層が確認される。煙道部は壁外へ削り込まれ、急激に立ち上がる。　**覆土**　／ローム粒・灰白色岩粒を含んだ暗褐色土を主体とする。　**遺物**　／カマド付近に集中して出土している。　**遺構の時期**　／９世紀後半。

出土遺物

1は、土師器の甕の口縁部片である。口縁部はくの字状を呈し、胴部上半は横位のヘラ削り、内面はヘラ撫で、口縁部はヨコ撫でが施される。口径は11.4cmで、胎土は長石・白色粒を含み、色調は赤褐色である。

2は、土師器の甕の底部片である。底部は丸底気味の平底で、胴部は内湾しながら立ち上がる。胴部に縦位のヘラ削り、内面はヘラ撫でが施される。底径は4.4cmを計り、胎土は長石・石英・白色粒を含み、色調は暗褐色である。

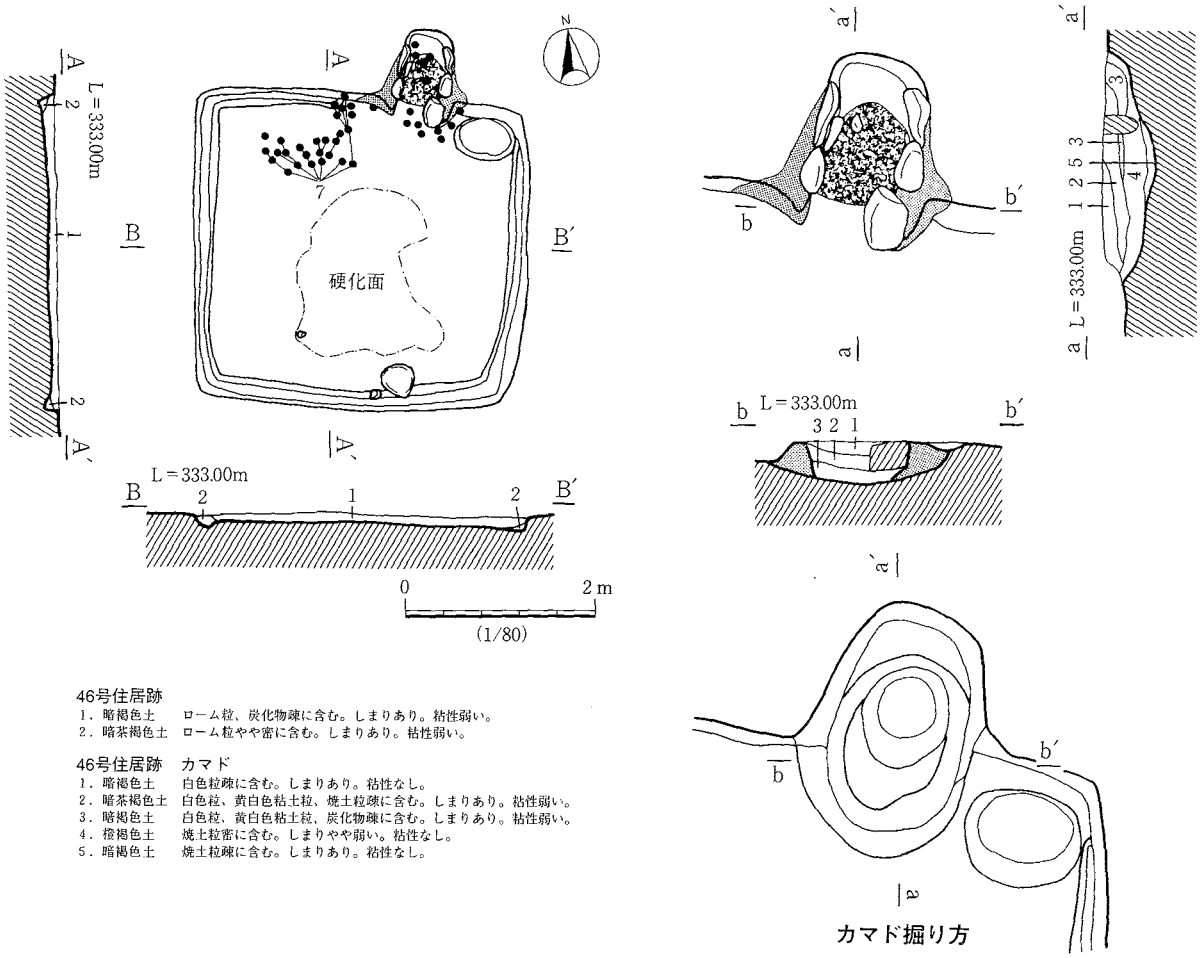
3は、非ロクロの土師器の坏で、2/3の残存である。底部は丸底気味で、体部は内湾しながらに立ち上がる。内面は撫で、口縁部はヨコ撫でが施される。口径は12.7cm、器高は4.4cmで、胎土は長石・石英・白色粒を含み、色調は橙色である。

4は、土師器の坏で、1/3の残存である。底部は回転糸切りで、体部は内湾気味に立ち上がり、ロクロ撫でが施される。口径は12.0cm、底径は6.4cm、器高は3.9cmで、胎土は大粒の長石・石英を含み、色調は明褐色である。

5は、土師器の坏で、1/3の残存である。底部は回転糸切りで、体部は内湾気味に立ち上がり、ロクロ撫でが施される。口径は12.6cm、底径は7.0cm、器高は4.0cmで、胎土は大粒の長石・石英を含み、色調は明褐色である。

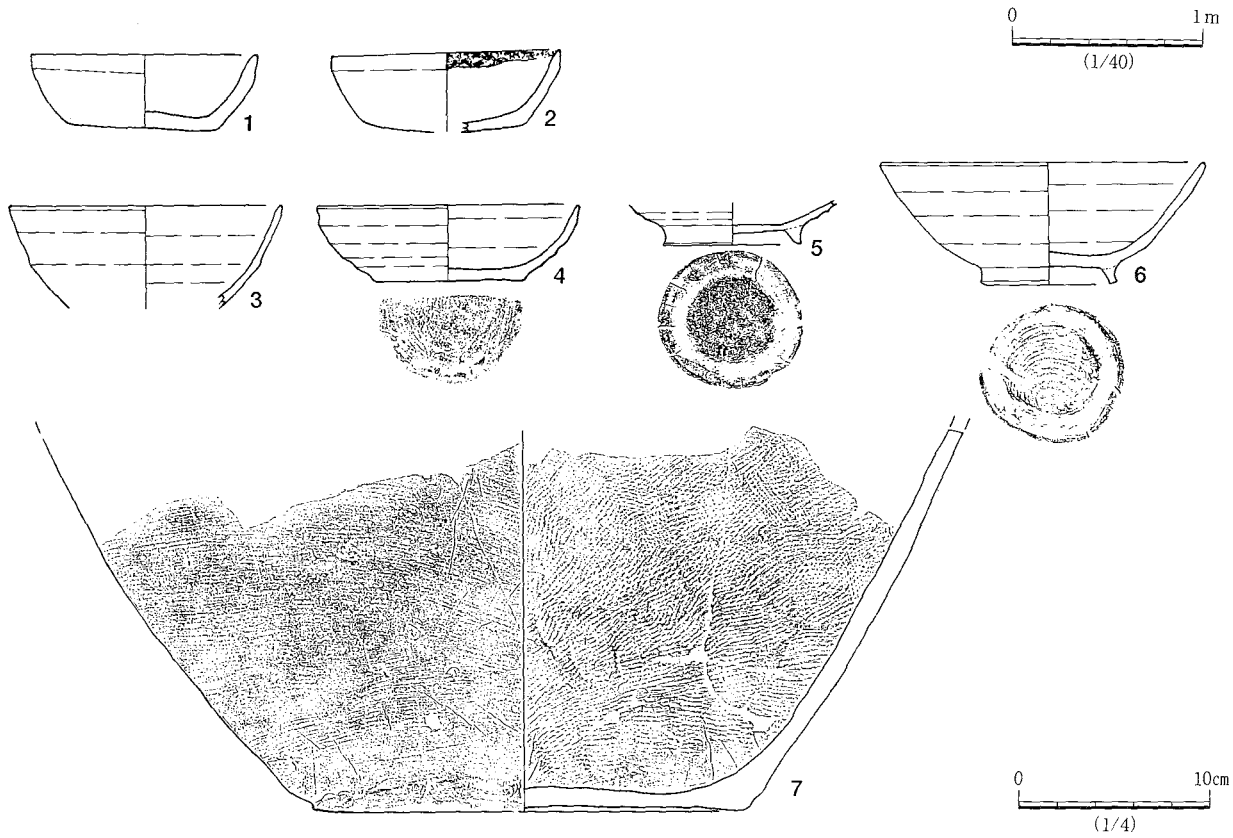
6は、須恵器の坏で、ほぼ完形である。底部は回転糸切りで、体部は内湾気味に立ち上がり、ロクロ撫でが施される。口径は12.7cm、底径は7.2cm、器高は4.0cmで、胎土は長石・白色粒を含み、黒斑が目立つ。色調は灰色である。

7は、須恵器の坏で、2/3の残存である。底部は回転糸切りで、周縁部は手持ちヘラ削りが施される。体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部はやや外反する。体部はロクロ撫でが施される。口径は12.2cm、底径は3.5cm、器高は7.6cmで、胎土は長石・石英・角閃石を含み、色調は灰白色である。



46号住居跡
1．暗褐色土　ローム粒、炭化物疎に含む。しまりあり。粘性弱い。
2．暗茶褐色土　ローム粒やや密に含む。しまりあり。粘性弱い。

46号住居跡　カマド
1．暗褐色土　白色粒疎に含む。しまりあり。粘性なし。
2．暗茶褐色土　白色粒、黄白色粘土粒、焼土粒疎に含む。しまりあり。粘性弱い。
3．暗褐色土　白色粒、黄白色粘土粒、炭化物疎に含む。しまりあり。粘性弱い。
4．橙褐色土　焼土粒密に含む。しまりやや弱い。粘性なし。
5．暗褐色土　焼土粒疎に含む。しまりあり。粘性なし。



第277図　46号住居跡・出土遺物

46号住居跡（第277図）

位置　／Ｅｄ－83グリッド。　切り合い関係　／なし。　平面形態　／方形。　主軸方向　／Ｎ－10°－Ｅ。　規模　／東西3.5ｍ、南北3.3ｍ、深さ10㎝。　貯蔵穴　／住居跡北東角に位置し、形状は楕円形で、長径は64㎝、短径43㎝、深さ30㎝である。　壁　／外傾する。　壁溝　／幅10～20㎝、深さ５㎝前後で、カマドを除いた壁下に巡る。　床面　／直床でほぼ平坦である。中央部が良く踏み固められ硬化する。　カマド　／住居跡北壁の中央より東側に付設され、主軸方向はＮ－20°－Ｅである。礫と粘土を用いて構築し、内壁には構材である礫が確認される。燃焼部は壁外へ削り込まれ、煙道は急激に立ち上がる。　覆土　／ローム粒・炭化物を含んだ暗褐色土を主体とする。　遺物　／カマド内及びその周辺に集中して出土している。遺構の時期　／10世紀前後。

出土遺物

１は、土師器の坏で、4/5の残存である。底部はヘラ削り、体部外面は撫で、口縁部はヨコ撫でが施される。口径が11.8㎝、底径は8.0㎝、器高は4.0㎝で、胎土は大粒の長石・石英・白色粒を含み、色調は橙色である。

２は、土師器の坏で、ほぼ完形である。底部は丸底気味の平底で、体部は直線的に開き、外面に撫で、口縁部はヨコ撫でが施される。口縁部内面に煤の付着が見られる。口径は12.0㎝、底径は8.5㎝、器高は4.3㎝で、胎土は長石・石英・白色粒を含み、色調は褐色である。

３は、須恵器の坏の体部片で、体部は内湾気味に立ち上がり、外面に撫でが施される。口径は14.4㎝で、胎土は長石・石英・白色粒を含み、色調は灰白色である。

４は、須恵器の坏で、1/3の残存である。体部は内湾気味に立ち上がり、内外面に撫でが施される。胎土は長石・石英を含み、色調は灰白色である。

５は、須恵器の高台付坏の底部片である。底部外面にロクロ撫で、内面に撫でを施す。底径は7.2㎝で、胎土は長石・石英を含み、色調は灰白色である。

６は、須恵器の高台付坏で、2/3の残存である。底部は回転糸切りで、高台は貼り付けられ、外面にロクロ撫でが施される。体部はやや内湾気味に立ち上がり、口径は17.6㎝、底径は7.2㎝、器高は6.4㎝で、胎土は大粒の長石・石英を多量に含み、色調は灰色である。

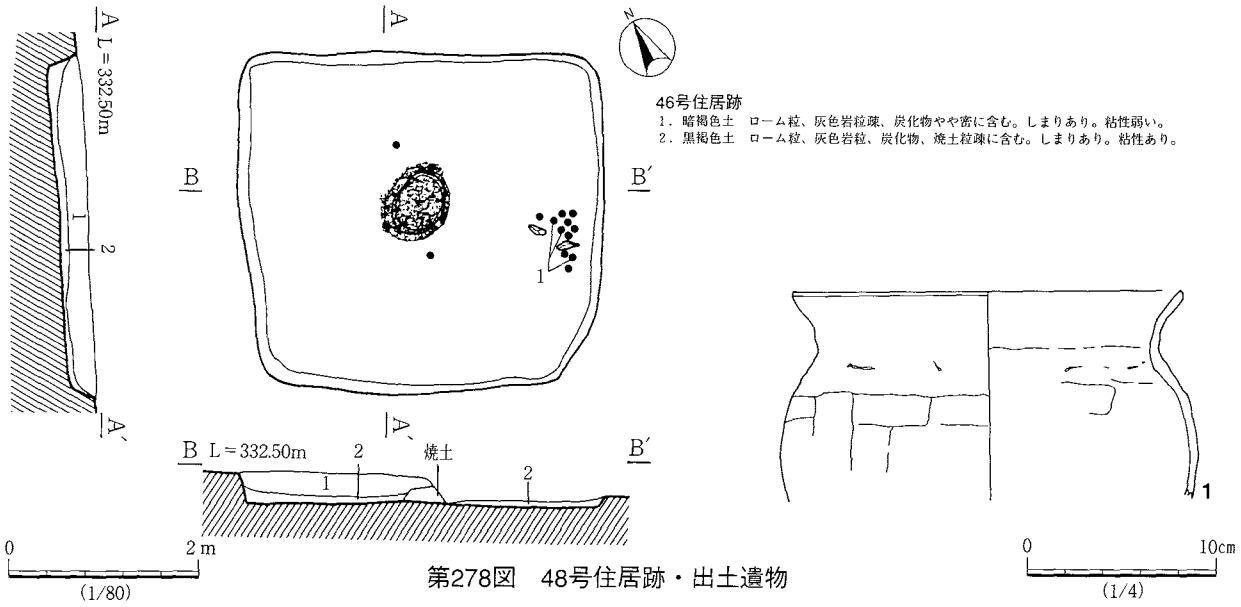
７は、須恵器の甕の胴部下半片である。底部は平底で、体部は内湾気味に立ち上がる。外面は叩き後撫で、底部は撫でを施す。底径は22.8㎝で、胎土は細砂粒・黒色鉱物を含み、色調は灰色である。

48号住居跡（第278図）

位置　／Ｅｆ－84グリッド。　切り合い関係　／なし。　平面形態　／方形。　長軸方向　／Ｎ－63°－Ｗ。　規模　／東西3.9ｍ、南北3.6ｍ、深さ30㎝。　柱穴　／なし。　壁　／ほぼ垂直に立ち上がる。　壁溝　／なし。　床面　／直床でほぼ平坦である。　カマド　／カマドは検出されていないが、中央部に被熱の痕跡が確認される。　覆土　／ローム粒・灰色岩粒・炭化物を含んだ暗褐色土を主体とする。　遺物　／住居跡東壁付近に集中して出土している。

出土遺物

１は、土師器の甕の口縁部から胴部上半片である。体部は内湾し、口縁部はコの字状を呈する。体部外面に縦位、横位のヘラ削り、内面にヘラ撫で、口縁部にヨコ撫でが施される。口径は20.4㎝で、胎土は長石・石英・角閃石を含み、色調は明褐色である。



第278図　48号住居跡・出土遺物

49号住居跡（第279図）

位置　／Ｅｅ－84・85グリッド。　切り合い関係　／なし。　平面形態　／主軸方向が長い長方形。　主軸方向　／Ｎ－67°－Ｗ。　規模　／東西4.5ｍ、南北3.4ｍ、深さ29cm。　貯蔵穴　／住居跡南東角に位置し、形状は楕円形で、長径は94cm、短径74cm、深さ30cmである。　壁　／遺存の良い所ではほぼ垂直に立ち上がる。　壁溝　／幅10～20cm、深さ４～７cmで、住居跡東壁を除いた壁下に巡る。　床面　／直床でほぼ平坦である。　カマド　／住居跡東壁の中央よりやや南側に付設される。カマドは礫と粘土を用いて構築され、燃焼部は楕円形に掘り窪め、煙道は壁外に削り込み、緩やかに立ち上がる。　覆土　／黄色軽石粒・ローム粒を含んだ暗褐色土を主体とする。　遺物　／住居跡北東隅に比較的多く出土している。　遺構の時期　／９世紀後半。

出土遺物

１は、須恵器の坏の完形品である。底部は回転糸切りで、体部は下端に丸味を持ち、直線的に立ち上がる。口径は12.0cm、底径は6.1cm、器高は3.2cmで、胎土は大粒の長石・石英を多量に含み、色調は暗灰色である。

２は、須恵器の高台付坏で、1/2の残存である。底部は回転糸切りで、体部は直線的に立ち上がる。口径は13.8cm、底径は6.8cm、器高は5.2cmで、胎土は長石・砂粒を含み、色調は灰白色である。

３は、須恵器の高台付坏で、2/3の残存である。底部は回転糸切りで、ロクロ撫でが施され、体部は内湾気味に立ち上がる。底径は8.2cmで、胎土は長石・砂粒を含み、色調は灰白色である。

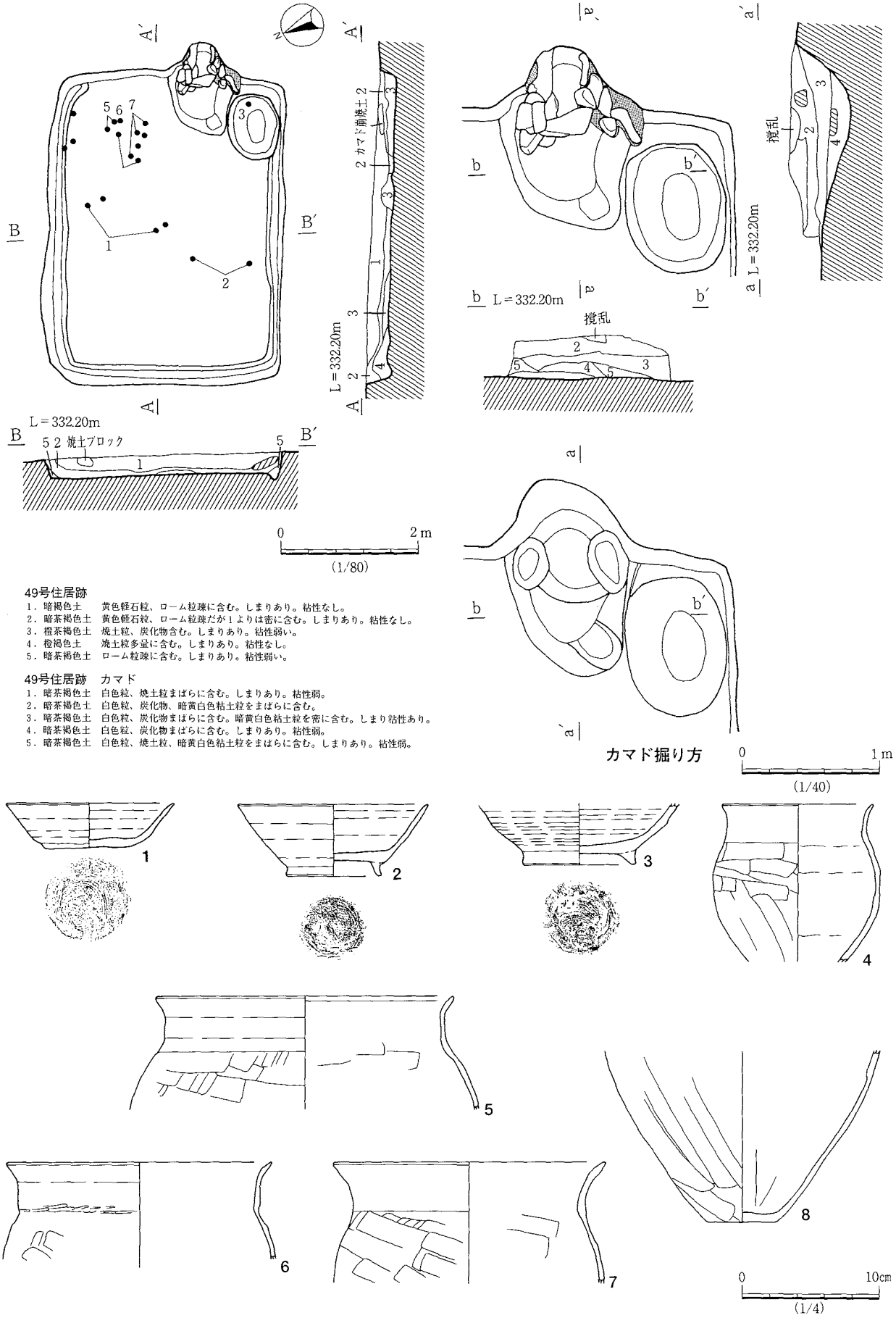
４は、土師器の甕である。胴部中程に最大径を持ち、口縁部は緩やかに外反する。胴部はヘラ削り、口縁部はヨコ撫でを施す。口径は11.0cmで、胎土は長石・石英・角閃石を含み、色調は褐色である。

５は、土師器の甕の口縁部片である。口縁部はコの字状を呈し、胴部はヘラ削り、内面はヘラ撫で、口縁部はヨコ撫でを施す。口径は21.6cmで、胎土は長石・石英・雲母を含み、色調は暗褐色である。

６は、土師器の甕の口縁部片である。口縁部はコの字状を呈し、胴部はヘラ削り、口縁部はヨコ撫でを施す。口径は19.2cmで、胎土は長石・石英・角閃石を含み、色調は褐色である。

７は、土師器の甕の口縁部片で、口縁部はコの字状気味に外反する。胴部はヘラ削り、内面はヘラ撫で、口縁部はヨコ撫でを施す。口径は19.6cmで、胎土は長石・石英・雲母・角閃石を含み、色調は褐色である。

８は、土師器の甕の胴部下半片である。底部は平底で、胴部にヘラ削り、内面にヘラ撫でが施される。底径は5.0cmで、胎土は長石・石英・金雲母・角閃石を含み、色調は褐色である。



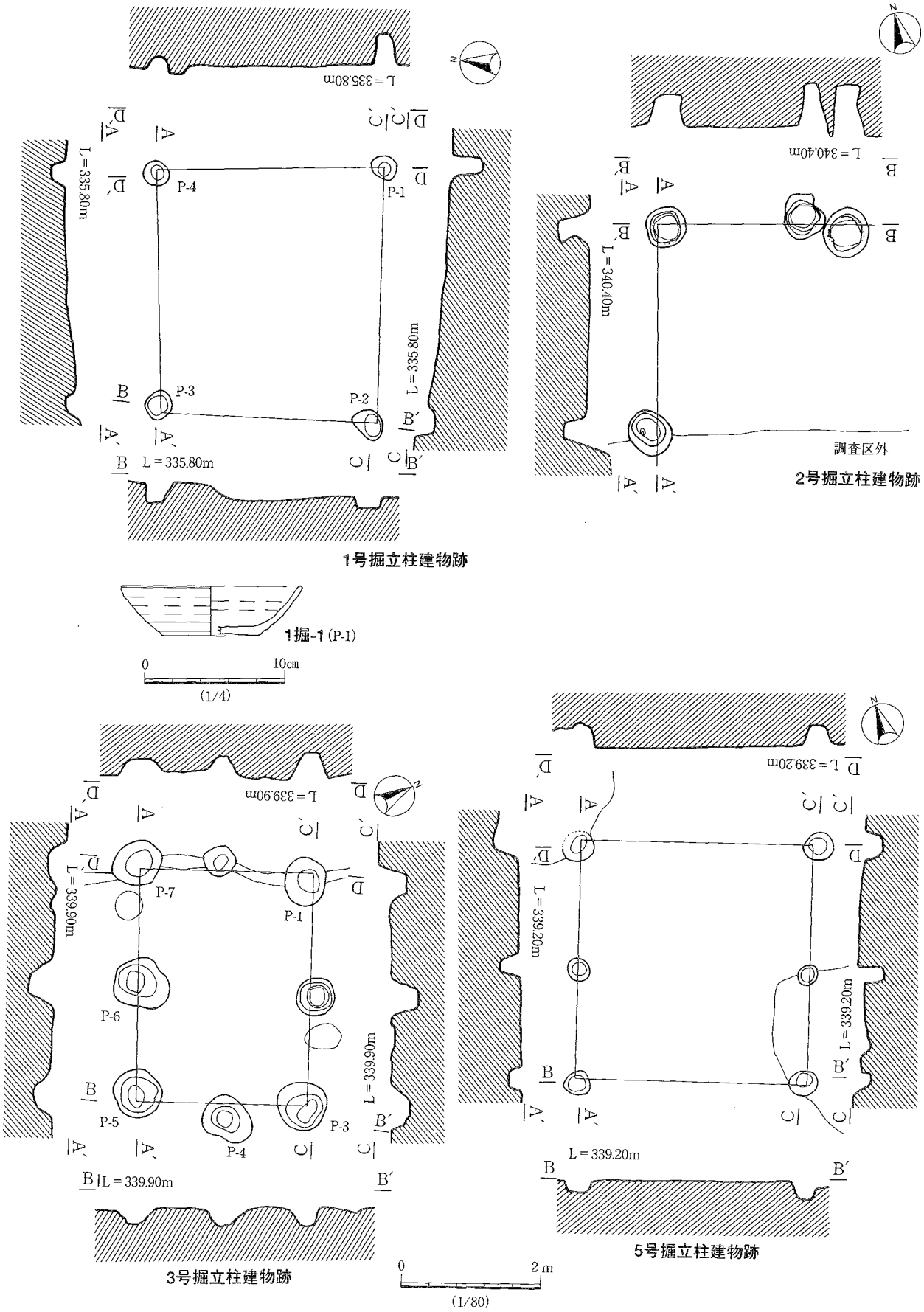
49号住居跡

1．暗褐色土　黄色軽石粒、ローム粒疎に含む。しまりあり。粘性なし。
2．暗茶褐色土　黄色軽石粒、ローム粒疎だが1よりは密に含む。しまりあり。粘性なし。
3．橙茶褐色土　焼土粒、炭化物含む。しまりあり。粘性弱い。
4．橙褐色土　焼土粒多量に含む。しまりあり。粘性なし。
5．暗茶褐色土　ローム粒疎に含む。しまりあり。粘性弱い。

49号住居跡　カマド

1．暗茶褐色土　白色粒、焼土粒まばらに含む。しまりあり。粘性弱。
2．暗茶褐色土　白色粒、炭化物、暗黄白色粘土粒をまばらに含む。
3．暗茶褐色土　白色粒、炭化物まばらに含む。暗黄白色粘土粒を密に含む。しまり粘性あり。
4．暗茶褐色土　白色粒、炭化物まばらに含む。しまりあり。粘性弱。
5．暗茶褐色土　白色粒、焼土粒、暗黄白色粘土粒をまばらに含む。しまりあり。粘性弱。

第279図　49号住居跡・出土遺物



第280図　1・2・3・5号掘立柱建物跡、1号掘立柱建物跡出土遺物

第２項　掘立柱建物跡

東部調査区から検出された掘立柱建物跡は合計18棟で、調査区のほぼ全域に分布している。これらはいずれも住居跡に近接しており、住居跡と同様な分布状況にある。

建物跡は小規模なものであるが、住居跡と共に本時期において基幹となる遺構である。規模は、１間×１間が５棟、２間×１間が６棟、２間×２間が６棟、規模不明が１棟で、桁行2.4～6.0ｍ（８～20尺）、梁行2.4～3.9ｍ（８尺～13尺）であった。主軸方向は、東西棟が５棟、南北棟が７棟、不明が６棟となっている。これらの建物跡はすべて側柱式で、柱穴の配置状況はやや不規則な状況にある。機能期間については、出土遺物及び覆土の状況から住居跡とほぼ同時期に営まれたと判断される。

１号掘立柱建物跡　（第280図）

位置　／Ｅｇ－78グリッドに位置する。　切り合い関係　／12号住居跡と重複し、本跡が新しい構築である。　形態　／桁行１間、梁行１間の平面規格を持つ。形状は桁・梁とも各辺の寸法がやや歪み僅かながら台形状となっている。　主軸方向　／Ｎ－80°－Ｗ。　規模　／桁行の全長3.3ｍ（11尺）、梁行の全長3.3ｍ（11尺）を測る。　柱穴　／配置は不規則となっている。柱掘り方は楕円形で、長径28～48㎝、深さ18～42㎝である。　遺物　／Ｐ－１から須恵器の坏が出土している。

出土遺物

１は、須恵器の坏で、1/2の残存である。底部は回転糸切りで、体部は内湾気味に立ち上がる。周縁部に回転ヘラ削り、体部内外面にロクロ撫でが施される。口径は13.0㎝、底部は7.0㎝、器高は3.5㎝で、胎土は長石・石英・角閃石を含み、色調は明褐色である。

２号掘立柱建物跡（第280図）

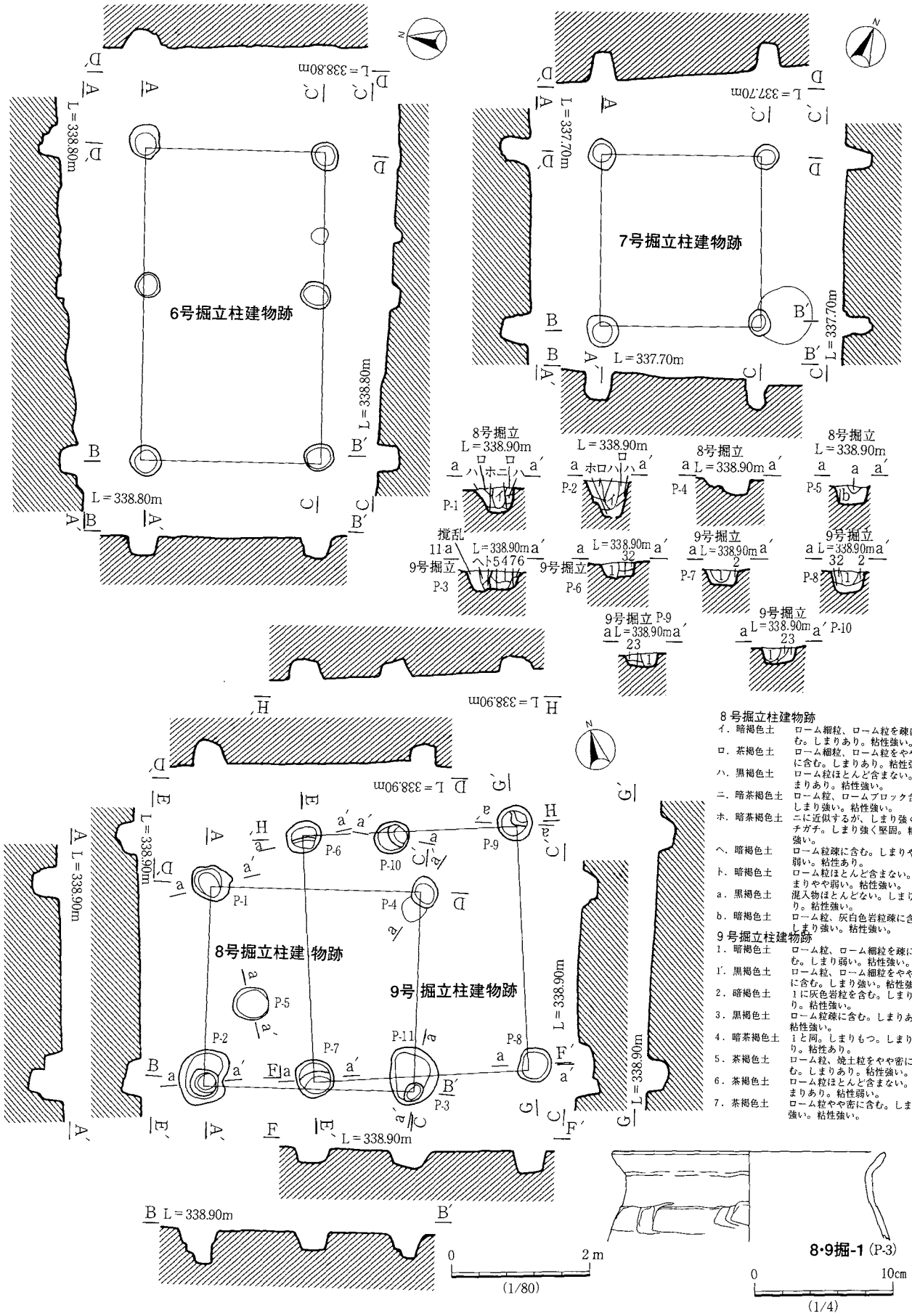
位置　／Ｄｊ－62・63グリッドに位置し、遺構は調査区外へ延びている。　切り合い関係　／23号住居跡と重複し、本跡が新しい構築である。　形態　／本跡は、調査区外へ延びる為全域の調査を実施できず、詳細は不明であるが、桁行１間、梁行１間のほぼ正方形を呈する可能性がある。　柱穴　／柱掘り方はいずれも楕円形で、長径60～70㎝、深さ30～73㎝である。

３号掘立柱建物跡（第280図）

位置　／Ｄｈ－62グリッドに位置する。　切り合い関係　／なし。　形態　／桁行２間、梁行２間の平面規格を持つ東西棟である。形状は桁・梁とも各辺の寸法が概ね一致する長方形となっている。　主軸方向／Ｎ－25°－Ｅ。　規模　／桁行の全長3.3ｍ（11尺）、梁行の全長2.4ｍ（８尺）を測る。　柱穴　／東西梁行のＰ－４・８は外側にずれる。棟持ち柱か。柱掘り方は楕円形で、長径48～84㎝、深さ20～40㎝である。遺物　／なし。

５号掘立柱建物跡（第280図）

位置　／Ｄｉ－66・Ｄｊ－66グリッドに位置する。　切り合い関係　／なし。　形態　／桁行２間、梁行１間の平面規格を持つ南北棟である。形状は桁・梁とも各辺の寸法が一致する完全な正方形となっている。主軸方向　／Ｎ－14°－Ｅ。　規模　／桁行の全長3.3ｍ（11尺）、梁行の全長3.3ｍ（11尺）を測る。　柱穴／規則的に配置され、柱掘り方は円形で、直径32～46㎝、深さ16～30㎝である。　遺物　／なし。



第281図　6・7・8・9号掘立柱建物跡、8・9号掘立柱建物跡出土遺物

6号掘立柱建物跡（第281図）

位置　／Ｅｄ－77・78グリッドに位置する。　切り合い関係　／33号住居跡と重複するが、前後関係は不明である。　形態　／桁行２間、梁行１間の平面規格を持つ東西棟である。形状は桁・梁とも各辺の寸法が一致する完全な長方形となっている。　主軸方向　／Ｎ－76°－Ｅ。　規模　／桁行の全長4.5ｍ（15尺）、梁行の全長2.7ｍ（９尺）を測る。　柱穴　／ほぼ規則的に配置され、柱掘り方は楕円形で、長径36～49㎝、深さ４～32㎝である。　遺物　／なし。

7号掘立柱建物跡（第281図）

位置　／Ｅｄ－76グリッドに位置する。　切り合い関係　／なし。　形態　／桁行１間、梁行１間の平面規格を持つ。形状は桁・梁とも各辺の寸法が一致する完全な正方形である。　主軸方向　／Ｎ－23°－Ｗ。　規模　／桁行の全長2.4ｍ（８尺）、梁行の全長2.4ｍ（８尺）を測る。　柱穴　／ほぼ規則的に配置され、柱掘り方は楕円形で、長径36～49㎝、深さ34～42㎝である。　遺物　／なし。

8号掘立柱建物跡（第281図）

位置　／Ｄｊ－68グリッドに位置する。　切り合い関係　／９号掘立柱建物跡と重複するが、前後関係は不明である。　形態　／桁行１間、梁行１間の平面規格を持つ。形状は桁・梁とも各辺の寸法がほぼ一致する正方形である。　主軸方向　／Ｎ－14°－Ｅ。　規模　／桁行の全長3.3ｍ（11尺）、梁行の全長3.0ｍ（10尺）を測る。　柱穴　／ほぼ規則的に配置され、柱掘り方は楕円形で、長径31～88㎝、深さ20～50㎝である。　遺物　／９号掘立柱建物跡のＰ－11と重複するＰ－３から土師器の甕が出土している。

出土遺物

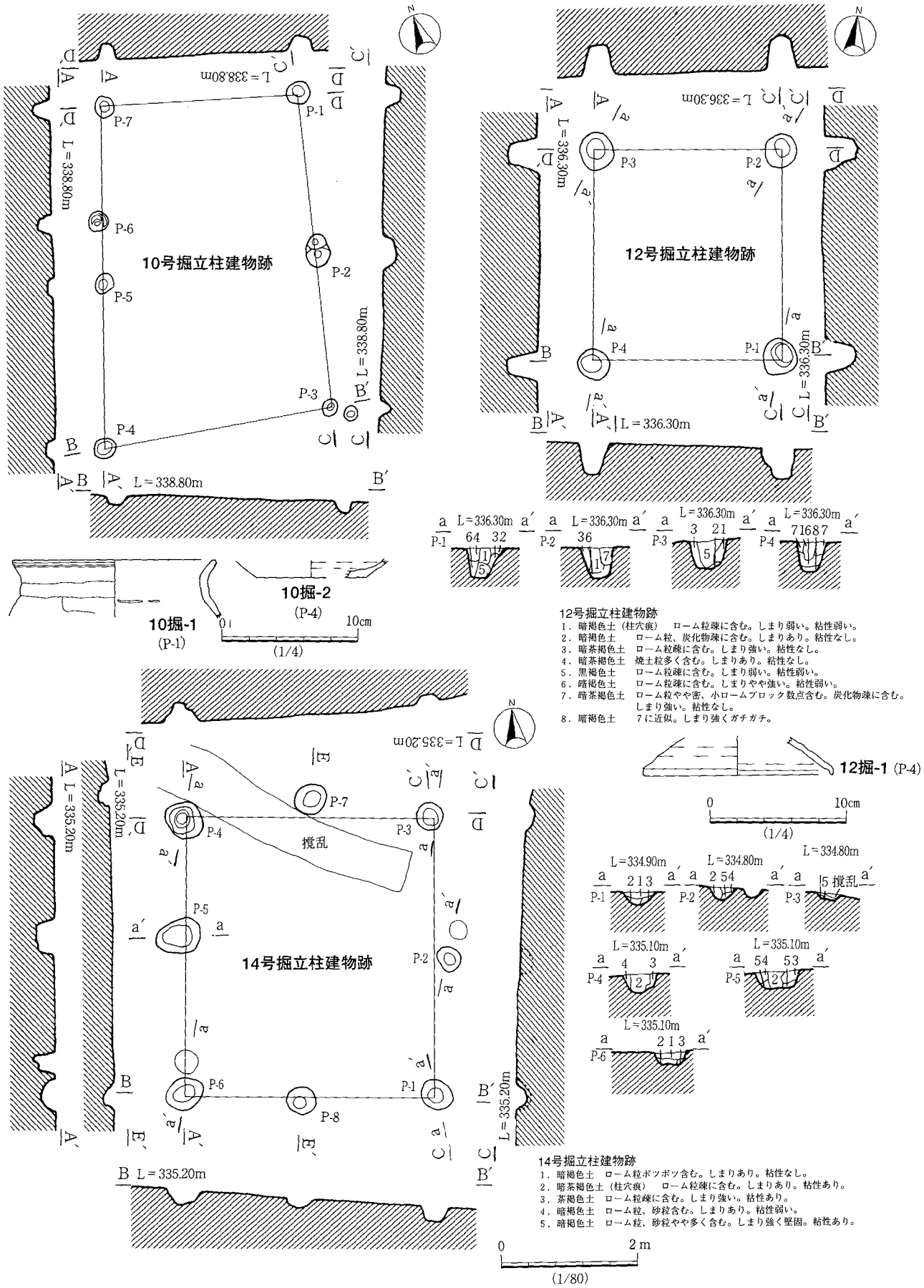
１は、土師器の甕の口縁部片である。口縁部はコの字気味に外反し、胴部上半に横位のヘラ削り、口縁部にヨコ撫でが施される。口径は20.0㎝で、胎土は長石・石英・角閃石・砂粒を含み、色調は橙色である。

9号掘立柱建物跡（第281図）

位置　／Ｄｊ－68・69グリッドに位置する。　切り合い関係　／８号掘立柱建物跡と重複するが、前後関係は不明である。　形態　／桁行１間、梁行１間の平面規格を持つ南北棟である。形状は桁・梁とも各辺の寸法がほぼ一致する長方形となっている。　主軸方向　／Ｎ－10°－Ｅ。　規模　／桁行の全長3.6ｍ（12尺）、梁行の全長3.0ｍ（10尺）を測る。　柱穴　／ほぼ規則的に配置され、柱掘り方は楕円形で、長径50～83㎝、深さ22～32㎝である。Ｐ－10・11は棟持ち柱か。　遺物　／８号掘立柱建物跡のＰ－３と重複するＰ－11から土師器の甕が出土している。詳細は８号掘立柱建物跡の出土遺物に記載した。

10号掘立柱建物跡（第282図）

位置　／Ｄｊ－69・Ｅａ－69グリッドに位置する。　切り合い関係　／なし。　形態　／桁行２間、梁行１間の平面規格を持つ南北棟である。形状は桁・梁とも各辺の寸法は一致せず、全体に北辺が短い略台形状となっている。　主軸方向　／Ｎ－10°－Ｅ。　規模　／西辺の桁行の全長は5.1ｍ（17尺）、東辺は4.5ｍ（15尺）、北辺の梁行の全長は3.0ｍ（10尺）、南辺は3.3ｍ（11尺）を測る。　柱穴　／配置は不規則である。柱掘り方は楕円形で、長径27～35㎝、深さ８～27㎝である。　遺物　／柱掘り方より土師器の小型甕、須恵器の坏が出土している。



第282図　10・12・14号掘立柱建物跡、10・12号掘立柱建物跡出土遺物

出土遺物

１は、土師器の小型甕の口縁部片である。口縁部はコの字状を呈する。胴部外面に横位のヘラ削り、内面にヘラ撫で、口縁部にヨコ撫でが施される。口径は15.0㎝で、胎土は長石・石英・角閃石を含み、色調は褐色である。

２は、須恵器の坏の底部片である。底部は回転糸切りで、内面に煤の付着が見られる。底径は8.0㎝で、胎土は長石・石英・角閃石・砂粒を含み、色調は灰白色である。

12号掘立柱建物跡（第282図）

位置　／Ｅｄ－76グリッドに位置する。　切り合い関係　／なし。　形態　／桁行１間、梁行１間の平面規格を持つ。形状は桁・梁とも各辺の寸法が一致する正方形である。　主軸方向　／Ｎ－20°－Ｗ。　規模　／桁行の全長3.0ｍ（10尺）、梁行の全長2.7ｍ（９尺）を測る。　柱穴　／規則的に配置される。柱掘り方は楕円形で、長径46～54㎝、深さ44～50㎝である。　遺物　／Ｐ－４の柱掘り方から須恵器の蓋が１点出土している。

出土遺物

１は、須恵器の蓋の口縁部片である。口縁端部は折れて垂下する。口径は14.0ｍで、胎土は生目が細かく、色調は灰色である。

14号掘立柱建物跡（第282図）

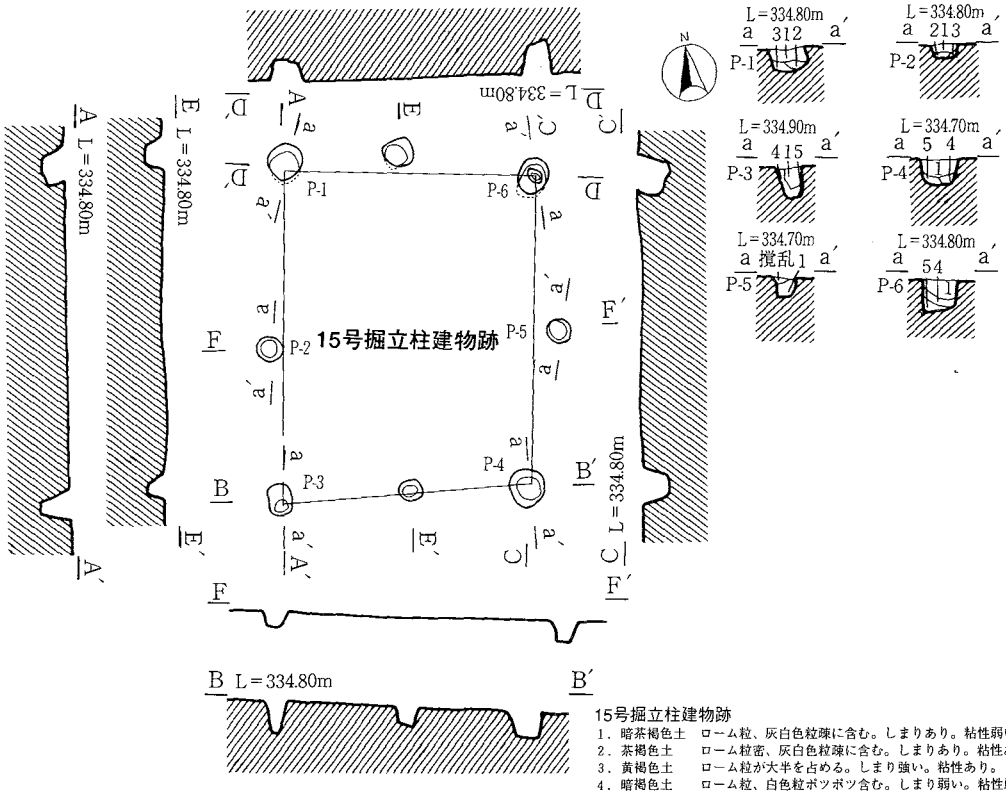
位置　／Ｅｂ－78グリッドに位置する。　切り合い関係　／なし。　形態　／桁行２間、梁行２間の平面規格を持つ南北棟である。形状は桁・梁とも各辺の寸法がほぼ一致する長方形となっている。　主軸方向　／Ｎ－４°－Ｗ。　規模　／桁行の全長4.2ｍ（14尺）、梁行の全長3.6ｍ（12尺）を測る。　柱穴　／配置はやや乱れており、柱掘り方は楕円形で、長径36～68㎝、深さ10～31㎝である。　遺物　／なし。

15号掘立柱建物跡（第283図）

位置　／Ｅｃ－79グリッドに位置する。　切り合い関係　／なし。　形態　／桁行２間、梁行２間の平面規格を持つ南北棟である。形状は全体に東辺が短い略台形状となっている。　主軸方向　／Ｎ－２°－Ｅ。　規模　／西辺の桁行の全長は3.6ｍ（12尺）、東辺は3.3ｍ（11尺）、梁行の全長は南・北ともに2.7ｍ（９尺）を測る。　柱穴　／配置は乱れており、柱掘り方は楕円形で、長径24～40㎝、深さ16～34㎝である。　遺物　／なし。

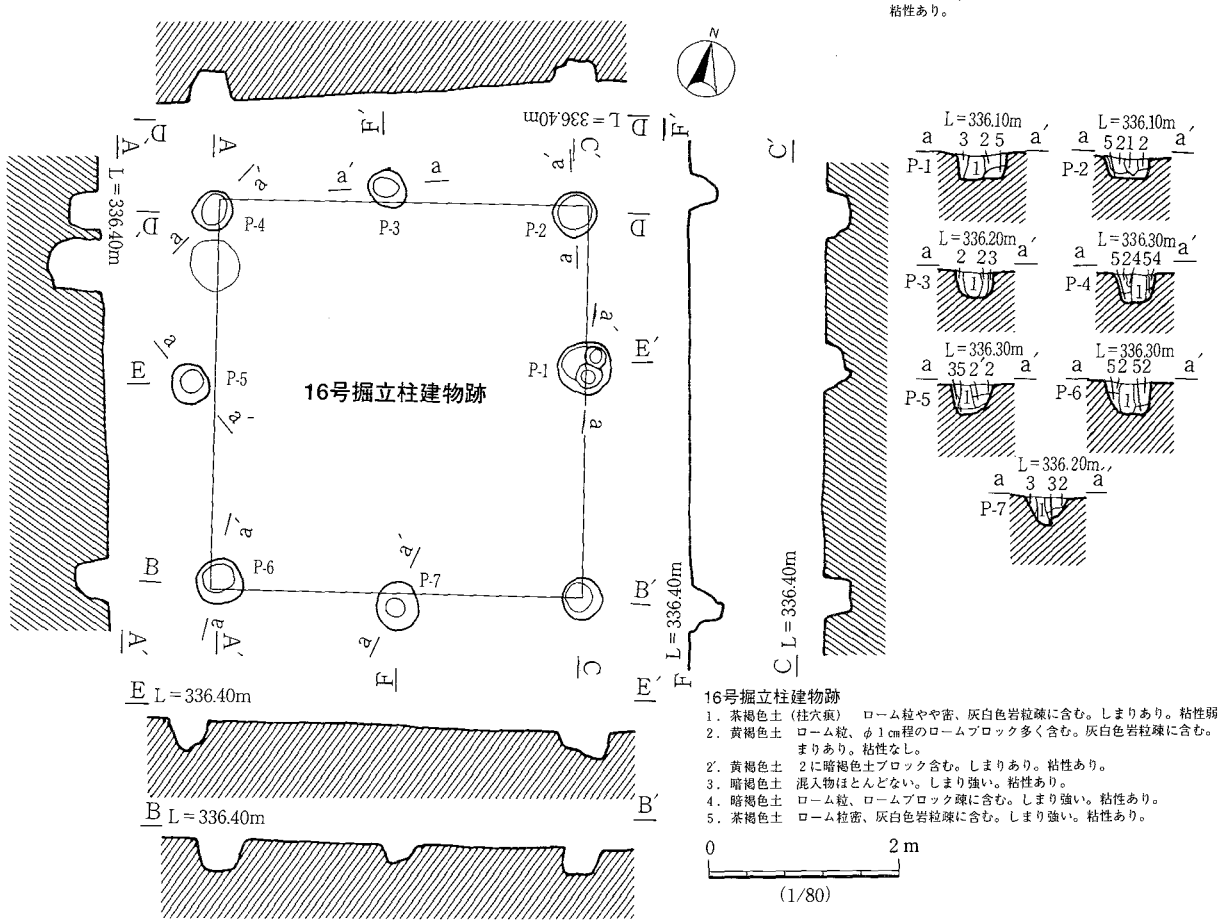
16号掘立柱建物跡（第283図）

位置　／Ｅａ－75・76、Ｅｂ－75・76グリッドに位置する。　切り合い関係　／11号掘立柱建物跡と重複し、新旧関係では本跡が新しい構築である。　形態　／桁行２間、梁行２間の平面規格を持つ。桁・梁とも各辺の寸法がほぼ一致する正方形である。　主軸方向　／Ｎ－４°－Ｅ。　規模　／桁行の全長4.2ｍ（14尺）、梁行の全長3.9ｍ（13尺）を測る。　柱穴　／配置は乱れており、柱掘り方は楕円形で、長径41～57㎝、深さ18～35㎝である。　遺物　／なし。



15号掘立柱建物跡

1．暗茶褐色土　ローム粒、灰白色粒疎に含む。しまりあり。粘性弱い。
2．茶褐色土　ローム粒密、灰白色粒疎に含む。しまりあり。粘性あり。
3．黄褐色土　ローム粒が大半を占める。しまり強い。粘性あり。
4．暗褐色土　ローム粒、白色粒ポツポツ含む。しまり弱い。粘性弱い。
5．茶褐色土　ローム粒、φ1cm程のロームブロック含む。しまりあり。粘性あり。



16号掘立柱建物跡

1．茶褐色土（柱穴痕）　ローム粒やや密、灰白色岩粒疎に含む。しまりあり。粘性弱い。
2．黄褐色土　ローム粒、φ1cm程のロームブロック多く含む。灰白色岩粒疎に含む。しまりあり。粘性なし。
2′．黄褐色土　2に暗褐色土ブロック含む。しまりあり。粘性あり。
3．暗褐色土　混入物ほとんどない。しまり強い。粘性あり。
4．暗褐色土　ローム粒、ロームブロック疎に含む。しまり強い。粘性あり。
5．茶褐色土　ローム粒密、灰白色岩粒疎に含む。しまり強い。粘性あり。

第283図　15・16号掘立柱建物跡

17号掘立柱建物跡（第284図）

位置　／Ｅｅ－80・81グリッドに位置する。　切り合い関係　／なし。　形態　／桁行２間、梁行２間の平面規格を持つ南北棟である。形状は略台形状となっている。　主軸方向　／Ｎ－10°－Ｅ。　規模　／桁行の全長は東・西ともに4.2ｍ（14尺）、南辺の梁行の全長は3.6ｍ（12尺）、北辺は3.9ｍ（13尺）を測る。　柱穴　／配置はやや不規則である。柱掘り方は楕円形で、長径60～78㎝、深さ48～59㎝である。　遺物　／細片のため図示しなかったが、須恵器の長頸壷と見られる遺物が出土している。

18号掘立柱建物跡（第284図）

位置　／Ｅｄ－81、Ｅｅ－81グリッドに位置する。　切り合い関係　／なし。　形態　／桁行２間、梁行２間の平面規格を持つ東西棟である。形状は全体に北辺が短い略台形状となっている。　主軸方向　／Ｎ－80°－Ｗ。　規模　／桁行の南辺の全長は4.5ｍ（15尺）、北辺は3.9ｍ（13尺）、梁行の全長は東・西ともに2.7ｍ（９尺）を測る。　柱穴　／配置は不規則である。柱掘り方は楕円形で、長径28～80㎝、深さ37～54㎝である。　遺物　／なし。

19号掘立柱建物跡（第284図）

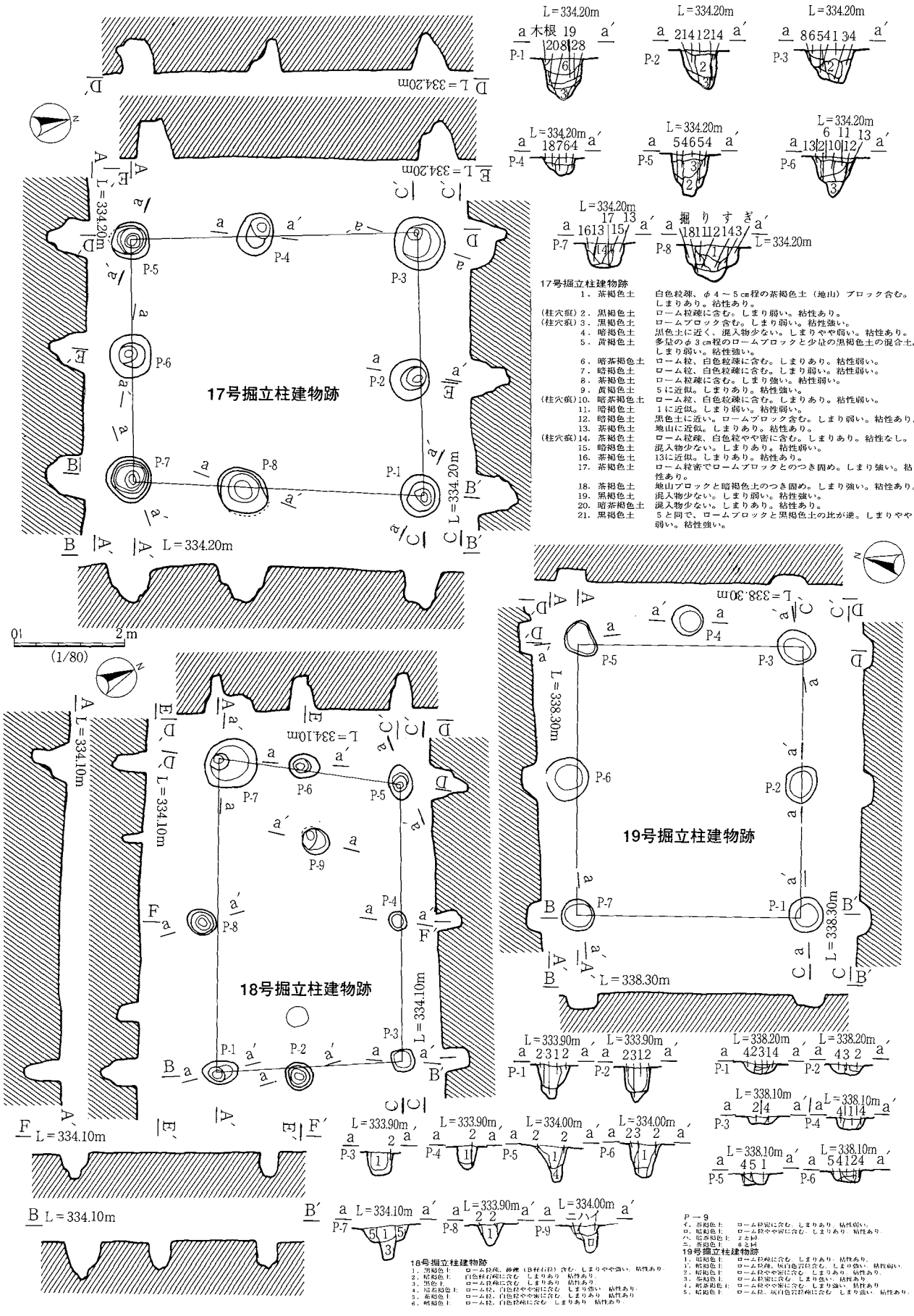
位置　／Ｅａ－70グリッドに位置する。　切り合い関係　／なし。　形態　／桁行２間、梁行１間の平面規格を持つ東西棟である。形状は桁・梁とも各辺の寸法が一致する完全な長方形となっている。　主軸方向　／Ｎ－66°－Ｅ。　規模　／桁行の全長3.9ｍ（13尺）、梁行の全長3.3ｍ（11尺）を測る。　柱穴　／ほぼ規則的に配置し、柱掘り方は楕円形で、長径48～64㎝、深さ15～24㎝である。　遺物　／なし。

20号掘立柱建物跡（第285図）

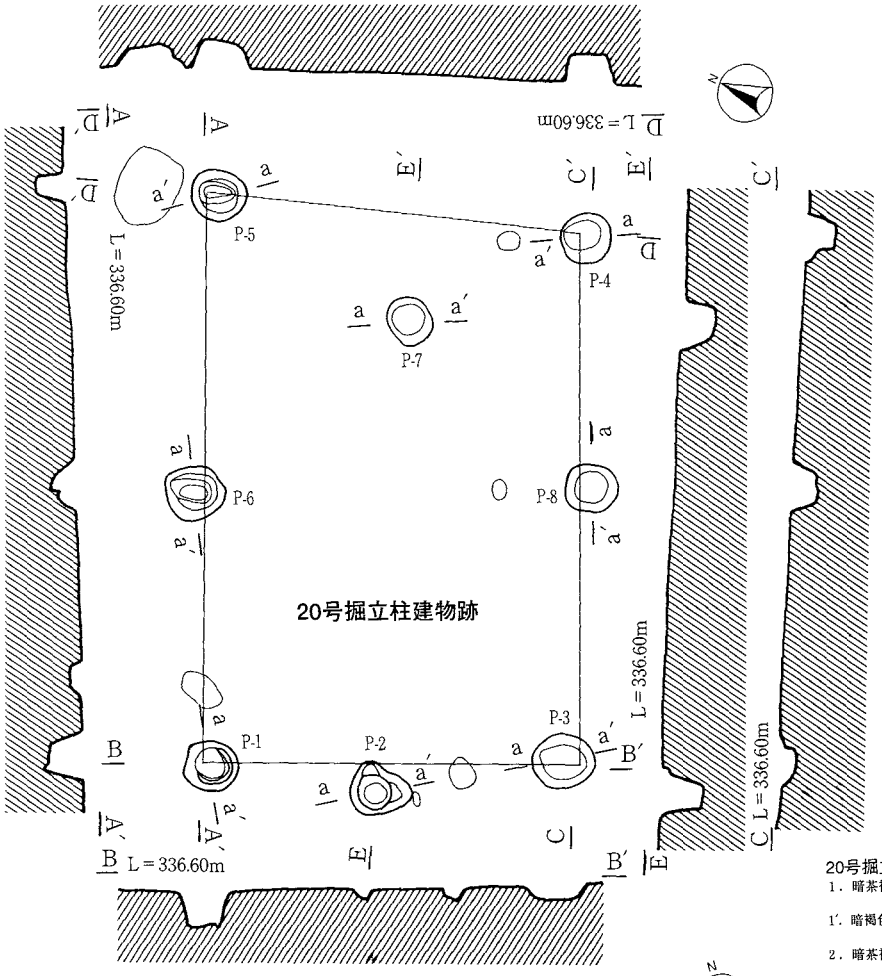
位置　／Ｅｂ－75、Ｅｃ－75グリッドに位置する。　切り合い関係　／なし。　形態　／桁行２間、梁行１間の平面規格を持つ東西棟である。形状は南辺がやや短い略台形状となっている。　主軸方向　／Ｎ－75°－Ｅ。　規模　／南辺の桁行の全長は5.1ｍ（17尺）、北辺は6.0ｍ（20尺）、梁行の全長は東・西ともに3.9ｍ（13尺）を測る。　柱穴　／配置はやや乱れており、柱掘り方は楕円形で、長径50～60㎝、深さ15～46㎝である。　遺物　／なし。

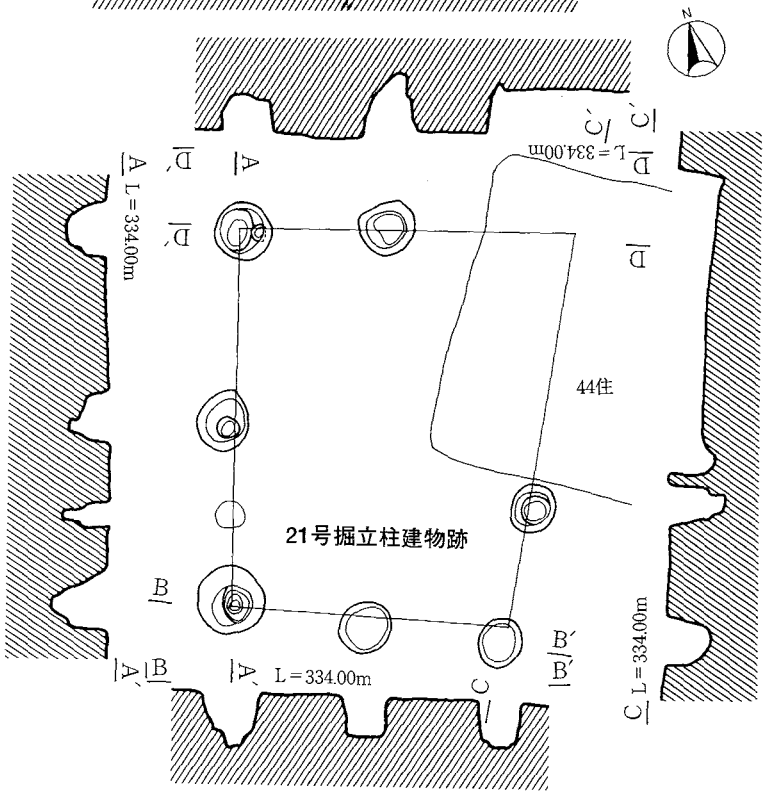
21号掘立柱建物跡（第285図）

位置　／Ｅｅ－81グリッドに位置する。　切り合い関係　／44号住居跡と重複し、本跡が古い構築である。　形態　／44号住居跡と重複する為、本跡の北東部分の詳細は不明だが、桁行２間、梁行１間で、桁・梁ともに各辺の寸法が一致せず略台形状を呈すると推定される。　主軸方向　／Ｎ－16°－Ｅ。　規模　／桁行西辺の全長は3.9ｍ（13尺）、梁行南辺の全長は3.0ｍ（10尺）を測る。　柱穴　／配置は不規則である。柱掘り方は楕円形で、長径50～70㎝、深さ42～58㎝である。　遺物　／なし。



第284図　17・18・19号掘立柱建物跡





20号掘立柱建物跡

1．暗茶褐色土　ローム粒疎、白色岩粒やや密に含む。しまりあり。粘性弱い。
1′．暗褐色土　ローム粒、白色岩粒やや密に含む。しまりあり。粘性弱い。
2．暗茶褐色土　ローム粒、白色岩粒やや密、炭化物、ＹＰ軽石粒疎に含む。しまりあり。粘性弱い。
3．茶褐色土　ローム粒、白色岩粒疎に含む。ロームブロック含む。しまり強くガチガチ。粘性あり。
4．暗茶褐色土　ローム粒疎、白色岩粒やや密、炭化物、ＹＰ軽石粒数点含む。しまり強い。粘性あり。
5．茶褐色土　ローム粒疎、φ２cm程のロームブロック含む。しまり強くガチガチ。粘性弱い。
6．暗褐色土　ローム粒、φ0.5cm程のＹＰ軽石粒やや密、白色岩粒ポツポツ含む。しまり強い。粘性あり。
7．暗褐色土　ローム粒、ＹＰ軽石粒疎、白色岩粒やや密に含む。しまり強い。粘性あり。
8．黄暗褐色土　ローム粒やや密、φ２cm程のロームブロック含む。しまり強くガチガチ。粘性あり。
9．黄暗褐色土　ローム粒密、φ２cm程のロームブロック多量に含む。しまり強くガチガチ。粘性強い。
10．黄褐色土　ローム粒密に含む。

0　2m
(1/80)

第285図　20・21号掘立柱建物跡

第３項　製鉄跡

本遺跡で調査された製鉄遺構は、小鍛冶跡と想定される２基である。いずれも単独の遺構として検出されたものであり、住居跡とほぼ同時期に機能して、集落内の鍛冶生産の一端を担っていたものと考えられる。

１号製鉄跡　（第287図）

位置　／Ｅｅ－78グリッドに位置する。地形的には東に向け僅かながら傾斜しているが肉眼ではほぼ平坦な状況にある。　切り合い関係　／認められず１号掘立柱建物跡に近接する。　形態　／遺構の総体は、鍛冶炉と見られる掘り込みと、排滓坑、それを収め込む浅い掘り込みである。　鍛冶炉　／遺構東部分に直径80cmを測る円形の掘り込み中に存在したと考えられるが、被熱の痕跡は確認されるものの、炉床は検出されなかった。排滓坑との間にはフイゴの設置痕跡であろうか、長さ70cm、幅28cmで僅かに窪む。　排滓坑　／鍛冶炉の西側に隅丸方形で検出され、長軸1.00ｍ、短軸0.90ｍ、深さ57cmを計測する。底面からは小鉄滓が集中して出土している。鍛冶炉と排滓坑を収める掘り込みは僅かに窪む程度のもので、東西1.6ｍ、南北2.3ｍの方形状を呈する。床面はほぼ平坦であり作業場として用いられた可能性が考えられる。　遺物　／１は、羽口で先端部が溶解する。口径8.3cm、送風口口径2.6cmで、胎土は大粒の長石・石英を含む。

２号製鉄跡　（第287図）

位置　／Ｅｃ－81グリッドに位置する。　切り合い関係　／認められず１号溝に近接する。　形態　／遺構の総体は、排滓坑とそれを収め込む浅い掘り込み及び小ピットである。　鍛冶炉　／中央に被熱の痕跡が確認されるが鍛冶炉との判断は付け難い。　排滓坑　／２ケ所確認され、Ｐ－１は隅丸方形で、長軸1.00ｍ、短軸0.88ｍ、深さ55cm、Ｐ－２は、楕円形で、長軸1.10ｍ、短軸0.87ｍ、深さ50cmを計測する。両者の底面からは小鉄滓が集中して出土している。Ｐ－１を収める掘り込みは僅かに窪む程度で、東西3.0ｍ、南北2.8ｍの円形状を呈し、底面は多少の起伏はあるが全体的には平坦である。また、長径20～42cm、深さ10～20cmを測る小ピットが確認される。　遺物　／１は、土師器台付甕の脚部である。ヘラ撫でが施され、胎土は長石・石英を含む。２は、羽口の先端部片で、口径は7.4cmである。３・４・５・６は、鉄滓である。

第４項　溝

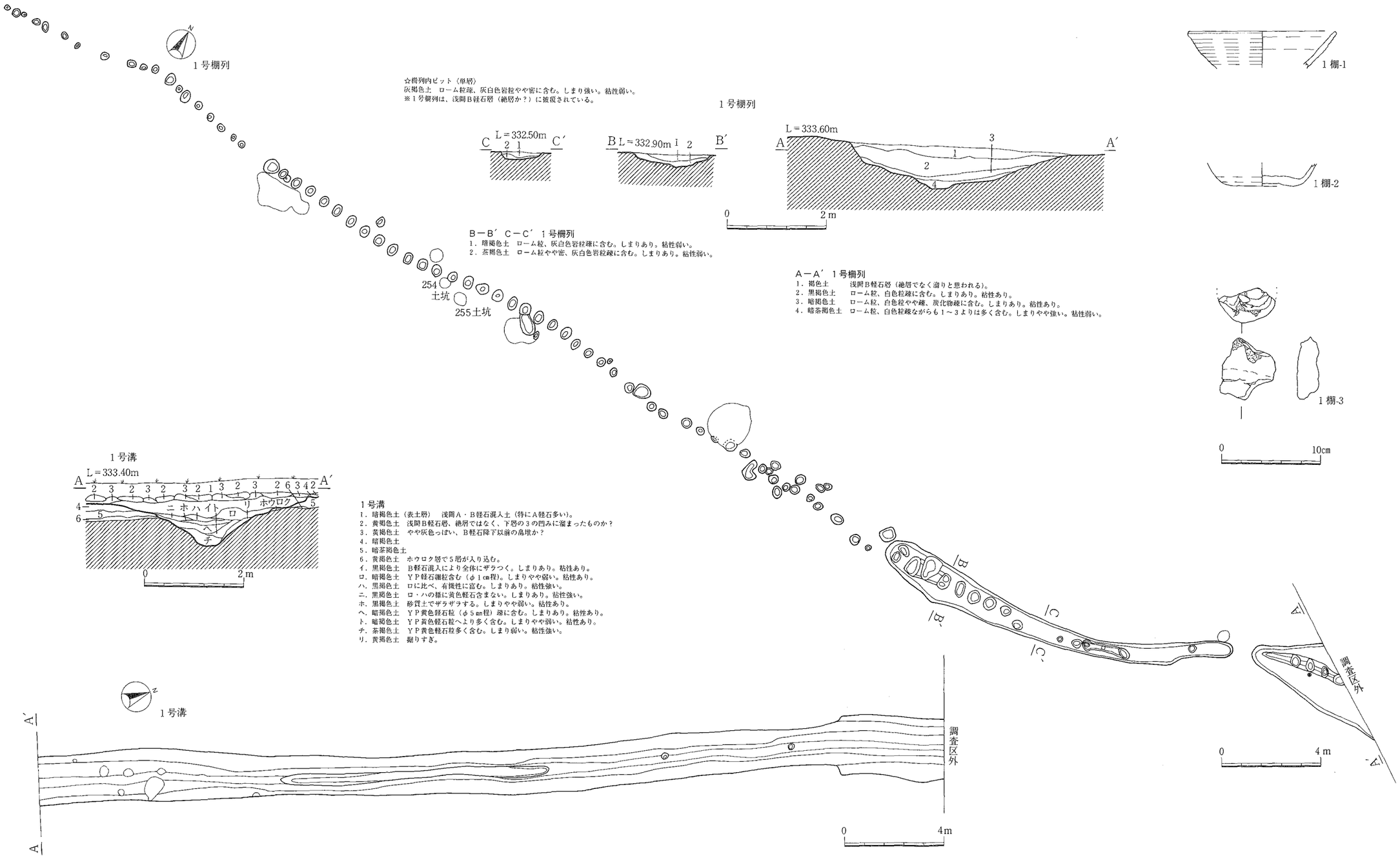
１号溝　（第286図）

位置　／Ｅｆ－89、Ｅｇ－89、Ｅｈ－88、89、Ｅｉ－88、Ｅｊ－88グリッドに位置する。　形態・規模　／本跡は、約18°東偏する南北溝で直線的に延びる。確認現長は37ｍを測り、更に南北の調査区外へと続く。規模は上端幅1.8ｍ、下端幅0.50ｍ、確認面よりの深さ70cm前後を測り、検出全長の中程が僅かに窪む他は基底レベルは概ね一様である。断面形状は開いた凵字状、いわゆる薬研形状を示し、掘り込み中程で傾斜角度を変え僅かではあるが段を持つ。　覆土　／上部にＢ軽石の被覆が認められる。

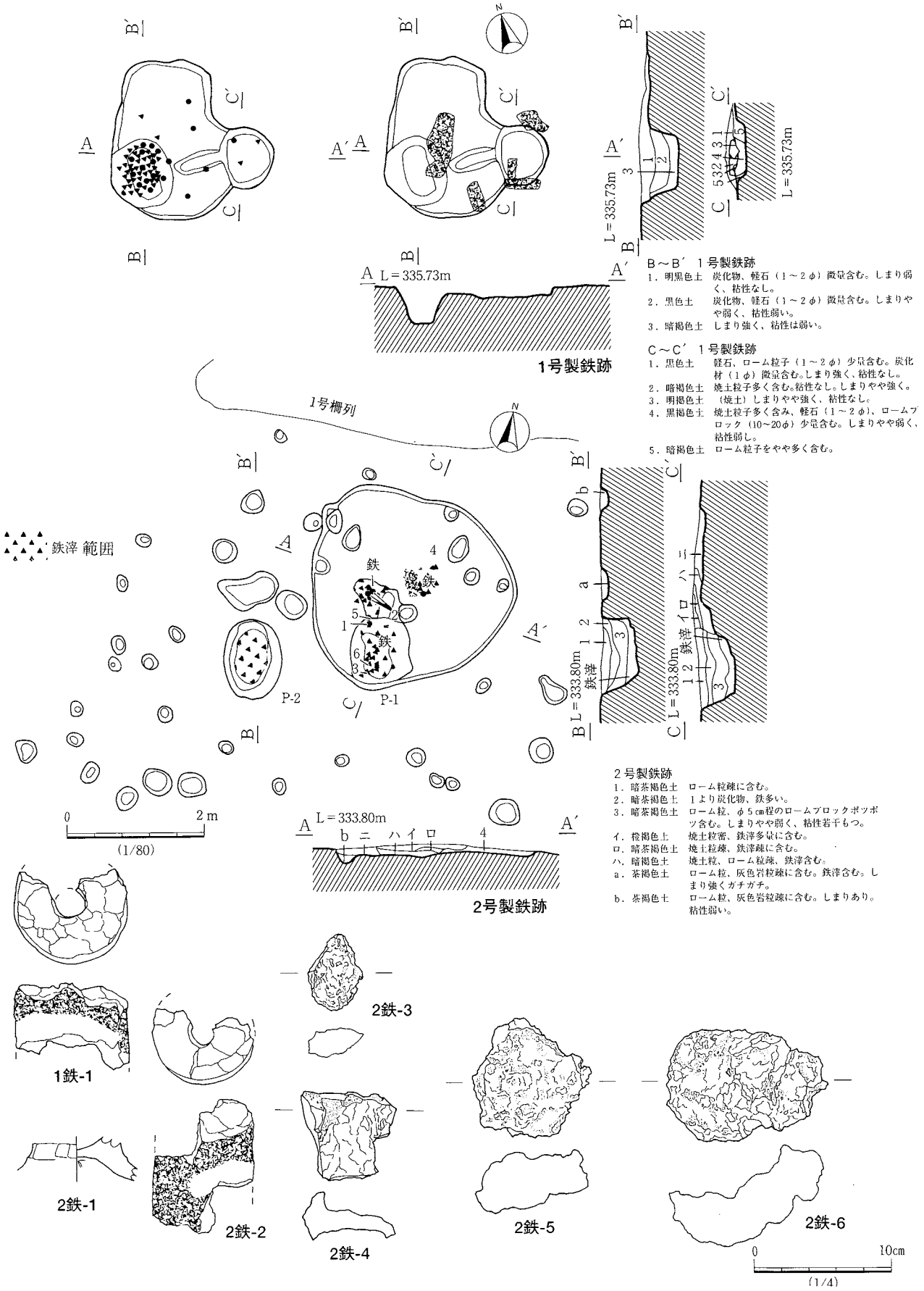
第５項　柵列

１号柵列　（第286図）

位置　／Ｅｃ－75・76・77・78・79・80・81、Ｅｂ－80・81グリッドに位置する。　形態・規模　／本跡は、約86°東偏する東西列で、確認現長は60ｍを測り更に東へ延びる。形態は東部分を長さ19.5ｍ、幅0.70～4.20ｍ、深さ20～85cmで掘り込み、底面よりピットが確認される。西部分になるとピットだけの検出となり、ピットの直径は40cm代に集中し、深さは７～25cm、各ピットの間隔は20cm前後を計測する。　覆土　／東部分の掘り込みの上部にＢ軽石の被覆が認められ、本遺構はそれ以前の所産である。　遺物　／１は、須恵器の坏の体部片で、口径は復元で15.0cmを計る。胎土は長石を含み黒斑が見られる。２は、須恵器の坏の底部片である。回転糸切りによる切り離しで、胎土は長石・白石粒を含む。３は、羽口で、胎土は長石・小砂利を含む。



第286図　1号溝・1号柵列・出土遺物



第287図　1・2号製鉄跡・出土遺物

第6項　土坑

古代に属する土坑は合計5基で、出土遺物及び覆土の状況から判断して、集落と同時期に構築されたものと見られる。形状は、円形基調（円形・楕円形）、方形基調（長方形）、不整形に大別され、概ねしっかりとした掘り込みとなっている。

本項において出土遺物は、154号土坑から得られた資料3点を掲載した。

遺物

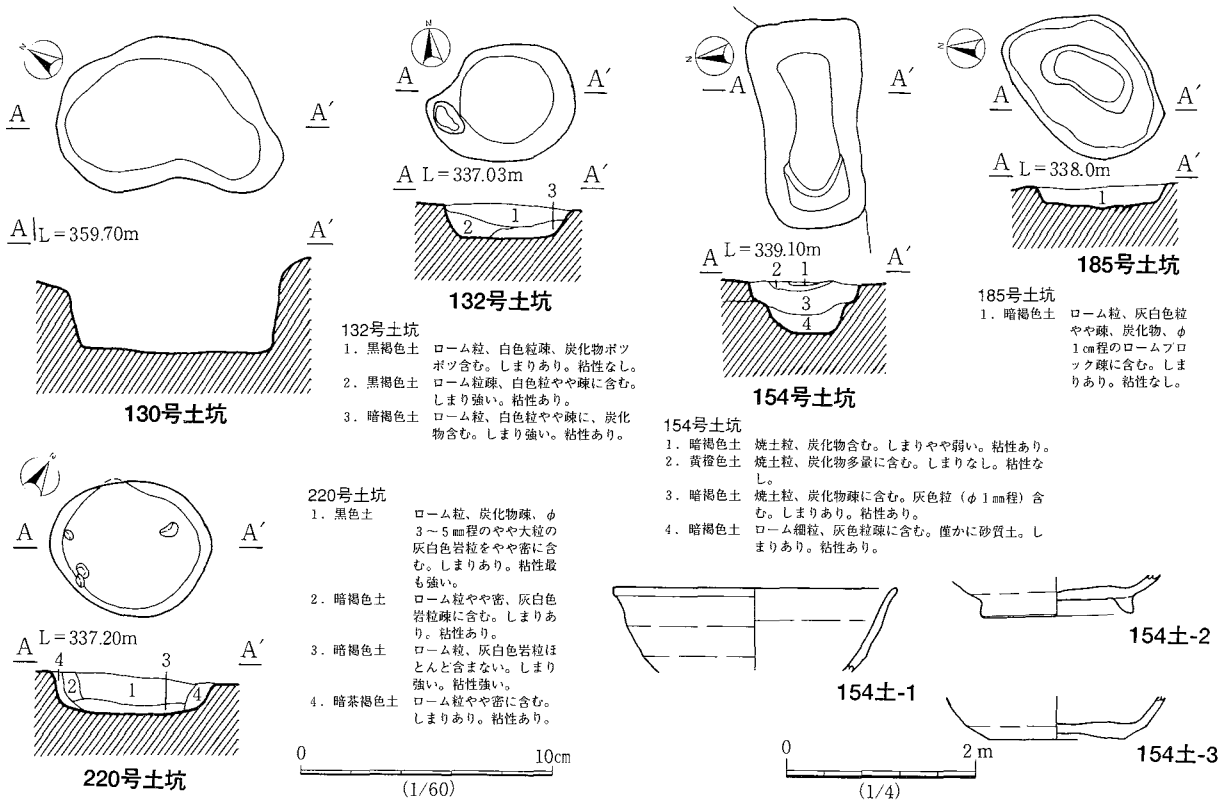
1は、須恵器の坏の体部片で、口径は復元で15cmを計る。胎土は、長石・石英含み、色調は褐灰色である。

2は、須恵器の高台付坏の底部片である。高台は付設後ロクロ撫でを施し、底径は復元で8.0cmを計る。胎土は長石・石英を含み、色調は灰白色である。

3は、須恵器の坏の底部片で、回転糸切りによる切り離しである。底径は復元で7.0cmである。胎土は長石・石英を含み、色調は灰白色である。

第23表　古代土坑一覧表

土坑番号	位　　置	平面形態	規　　模 長軸×短軸×深さ（cm）	主軸方向	断面形状	備　　考
130	Ｅｄ・Ｅｅ－76グリッド	不整形	168×111×65	Ｎ－34°－Ｗ	凵　状	
132	Ｅｄ・Ｅｅ－76グリッド	円　形	116×93×27	Ｎ－79°－Ｅ	皿　状	
154	Ｅａ－68　　グリッド	方　形	163×82×41	Ｎ－84°－Ｅ	二段掘り	須恵器の坏が出土
185	Ｄｅ－62　　グリッド	楕円形	139×99×16	Ｎ－24°－Ｅ	皿　状	
220	Ｄｉ－72　　グリッド	円　形	128×108×29	Ｎ－57°－Ｅ	皿　状	



第288図　130・132・154・185・220号土坑、154号土坑出土遺物

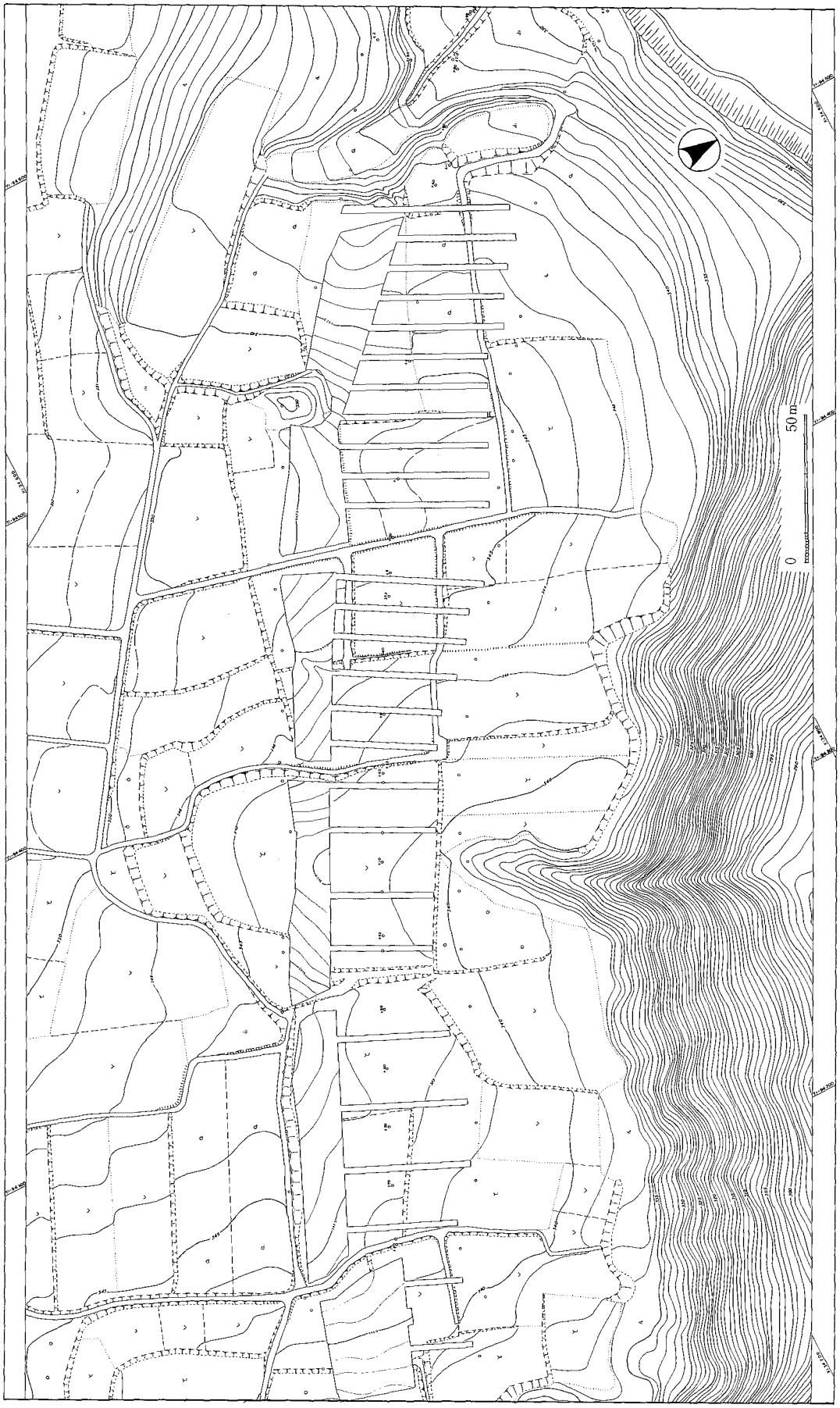
西部調査区

第１章　遺跡の立地

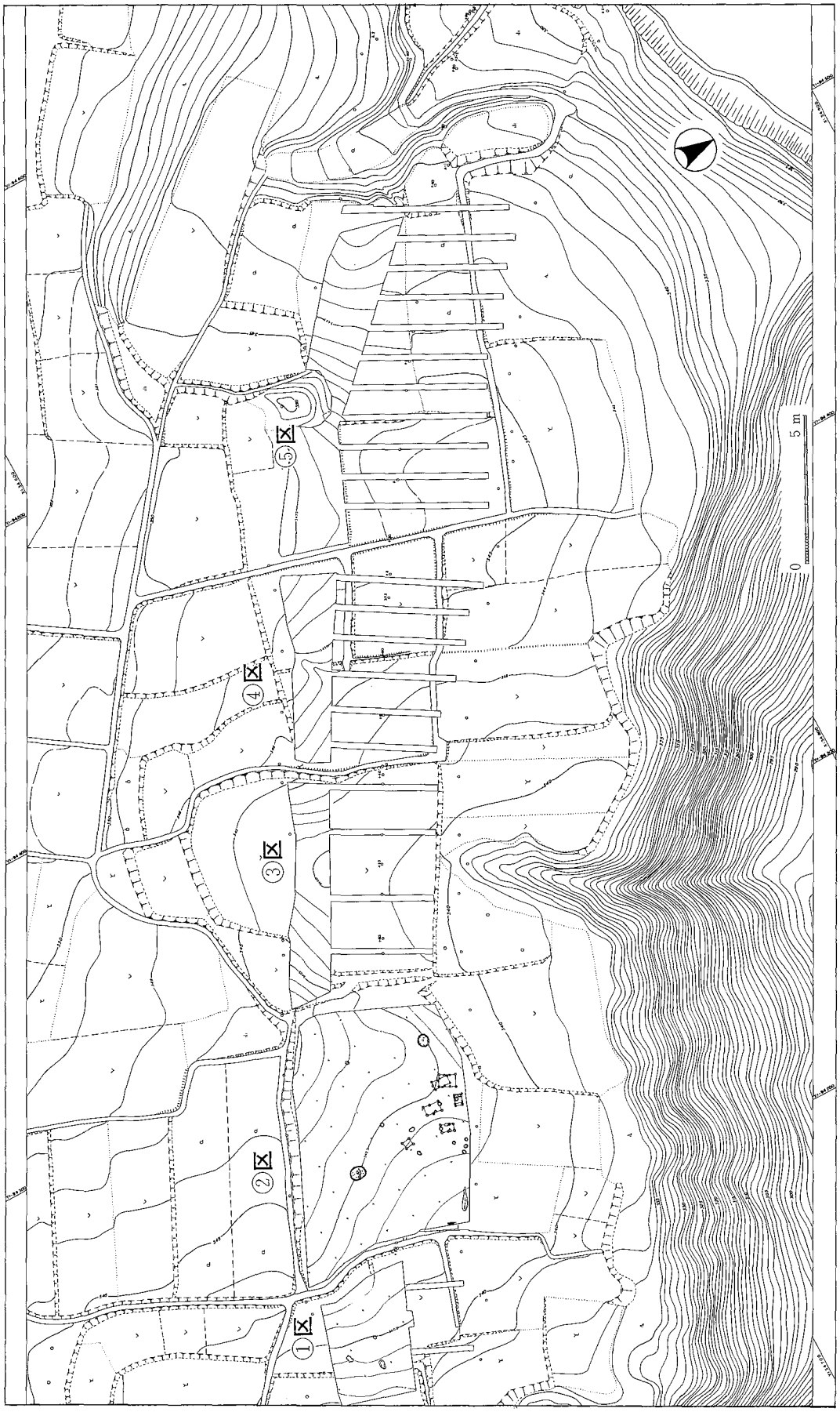
調査区は、碓氷川の南岸で、表妙義の山陵から派生した西横野丘陵上に位置する行田梅木平遺跡（旧名行田Ⅱ遺跡）の西部分にあたり、谷を挟んで東側に東部調査区が存在する。西部調査区の現況は、桑あるいは葱類の畑地で、標高343ｍ前後の平坦地から、西側へ向け緩やかに傾斜し碓氷川へ向け広がる谷に至る。谷の対岸には新堀東源ヶ原遺跡が位置している。

調査区は、東西約400ｍ、南北50ｍと細長く、南北方向に10～20ｍ毎で幅２ｍのトレンチを設定し確認調査を実施した。この結果、調査区のうち西側の大部分は谷に向け緩やかに傾斜する斜面である為か、遺構は検出されず確認調査のみで終了している。遺構が検出されたのは東部分の平坦地で、縄文時代の住居跡、歴史時代の掘立柱建物跡などの遺構や遺物が確認された。特に、歴史時代の遺構は、設定された調査区の北側に偏在しており、北へ向け更に遺跡は広がる。調査区の北側は、耕地として土地利用が図られ、現況ではほぼ平坦な地形となり、50ｍ程の距離を持って碓氷川へ向け急激に下降している。

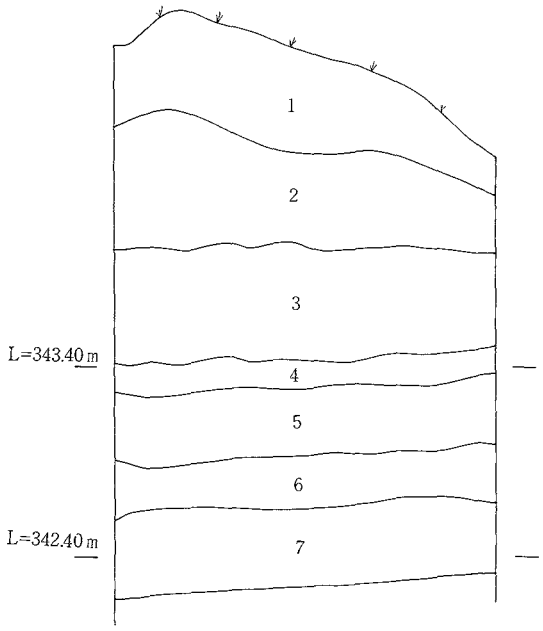
第289図　調査区位置図



第290図　西部調査区トレンチ設定図



第291図　西部調査区設定図



1．表土層　黒褐色土である。無数の草木根が入り込んでいる。軟らかく、しまりは悪い。粘性は比較的よい。

2．灰褐色土（A軽石層）　φ1～30mm位のA軽石がぎっしりつまっている層である。所々にφ5～10mm位のYP粒が混入しているが、故的には微量である。押すとボロボロ落ちてくる。草木根が入り込んでいる。※ただしこれは、A軽石を人為的に寄せ納めたものである。

3．暗褐色土　ややグレー色ぽい感じがする。A軽石が混入している土層。φ2・3～15mm位のA軽石が混入している。またφ3～10mm位のYP粒も微量含まれている。しまりは比較的悪く、粘性もあまりない。

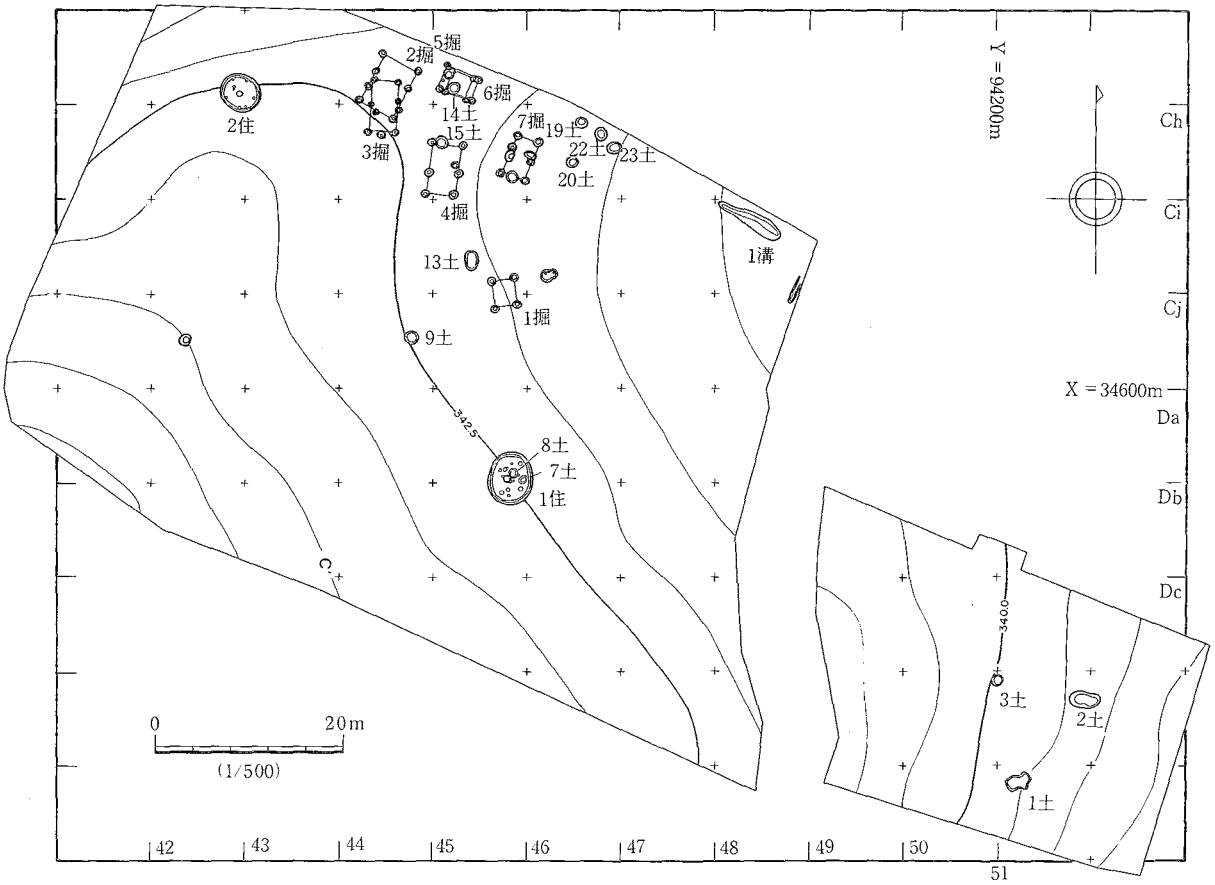
4．黄褐色土（B軽石層）　φ1～15mm位のB軽石がぎっしりつまっている層である。色は黄褐色をベースに茶褐色の部分も弱冠みられる。しまりはやや良い感じがする。粘性はない。φ2～5mm前後のYP粒も微量含まれている。

5．黒褐色土　YP粒φ2～15mm少量、B軽石φ2～5mm微量含まれている。白色φ1～2mm前後（軽石）粒を微量含む。炭化物等は確認できず、しまりはやや良く、粘性も比較的良い。

6．暗褐色土　(5)と比べ、やや茶褐色ぽい感じである。YP粒φ2～30mm位のもの少量、ロームブロックφ2～10mm前後のものを少量含む。白色（軽石）粒φ1mm前後のものを少量含む。しまりはやや良く、粘性も比較的よい。

7．暗褐色土　色は(5)とあまり変らない。YP粒φ2～15mmやや多く含み、ロームブロックφ2～10mmをやや多く含む。白色（軽石）粒φ1～3mm前後のものをやや多く含む。(5)、(6)と比べると含有物はやや多い感じがする。しまりもやや良く、粘性もある。

第292図　基本堆積土層図



第293図　西部調査区遺構配置図

第２章　調査の方法と経過

第１節　調査の方法

本遺跡は、群馬県教育委員会が昭和59年に実施した現地踏査によって遺跡の存在が確認されたものである。従って発掘調査は、東部調査区と同様に、遺構の分布状況・時期・性格を把握することから着手した。これにあたっては調査区を①～⑤区に区割りし、パイロット道路部分は全面表土排土、本線道路部分に対しては10ｍ毎にトレンチを設定し確認調査を実施した。

この結果、②区に遺構が認められた為、本調査区域を確定し、調査に望んだ。

調査区には東部調査区と合わせて国家座標に従って10ｍ四方のグリッドを被せ、東部調査区と連携し通すかたちで、南北方向にアルファベッド、東西方向に算用数字を付して区別した。遺構実測や遺物取り上げなどすべてこれを基準とした。また、遺構外遺物の取り上げやその他の調査時におけるグリッド呼称は北西杭の番号を用いた。

各遺構の調査方法については、東部調査区と同一であり、詳細については東部調査区第２章第１節調査の方法を参照して頂きたい。

第２節　調査の経過

以下は、西部調査区における調査の日誌抄である。

平成元年６月　東部調査区と併行して西部調査区の調査を開始する。
調査にあたっては、まず、調査区を①～⑤の５区に区割りし、重機を使用して15ｍ幅のパイロット道路部分の表土を除去する。また、北側の本線道路部分には10ｍ毎に２ｍのトレンチを設定し、遺構確認の為の掘り下げを開始する。表土除去後包含層の除去も実施したが、遺構が確認されたのは①区と②区のみであった。この為②区のみ拡張して本調査を実施することとなった。

10月　②区の表土除去作業を、重機を使用して慎重に行う。これにより西部調査区の本調査に着手する。

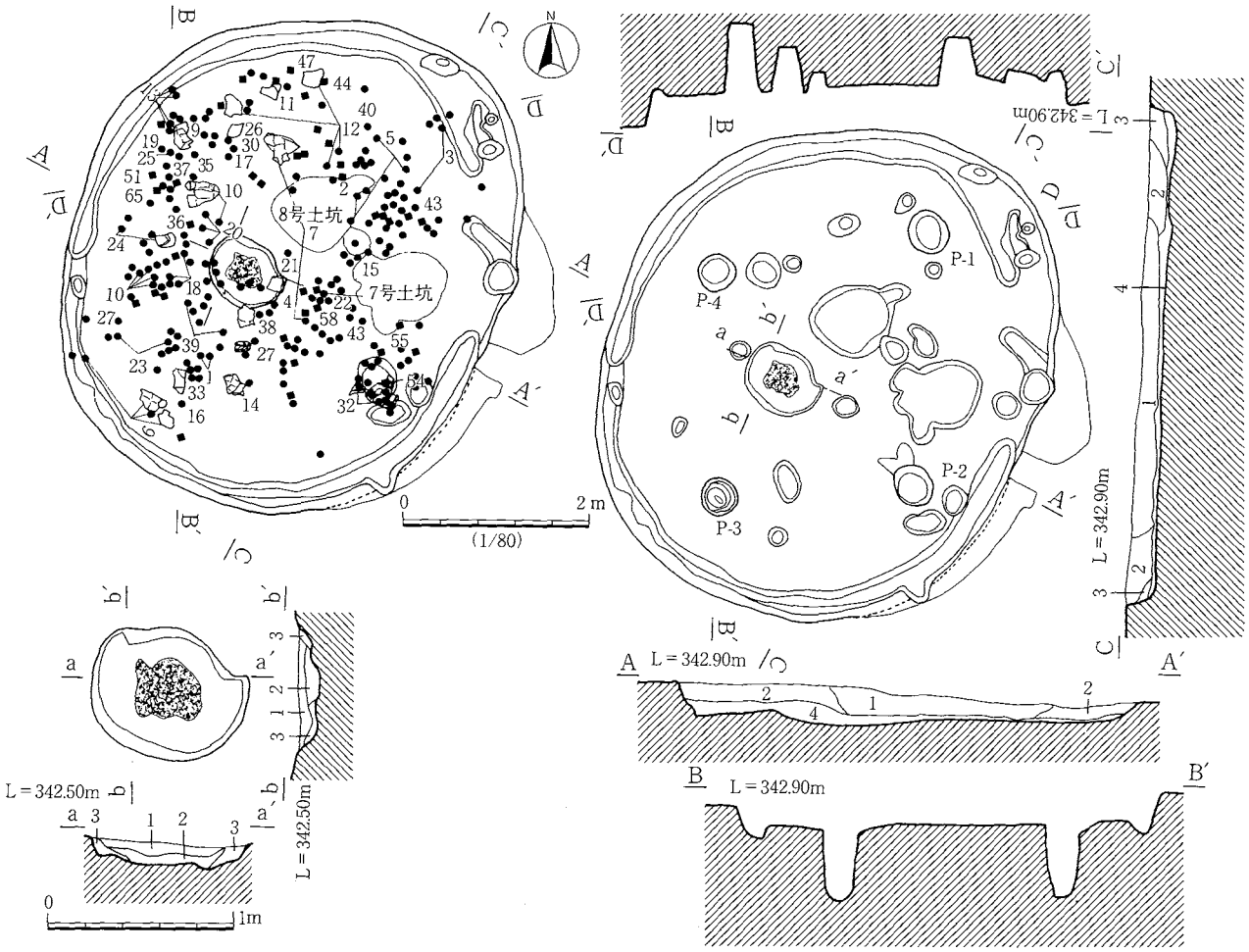
11月　遺構確認の結果、縄文時代の住居跡・土坑、歴史時代の掘立柱建物跡・土坑・溝状遺構を検出する。これらの調査終了をもって西部調査区の調査対象面積約32,000㎡の全調査を終了し、解放する。

第３章　基本堆積土層

基本層序については、②区のトレンチ設定時に記録したもので、調査区のほぼ中央部に位置している。試掘坑の設定地は北向け傾斜している。

第292図は、試掘坑の西壁で記録した基本堆積土層図である。

第１層は耕作により攪乱された表土層で、黒褐色土を呈している。第２層は、Ａ軽石層であるが、人為的に集めたものと捉えられる。第３層は、暗褐色土でＡ軽石の混入が確認される。第４層は、Ｂ軽石層で、歴史時代の遺構調査の際に鍵層となる堆積土層である。第５層は黒褐色土でＹＰ粒・Ｂ軽石を含み、以下、第６・７層の暗褐色層へ続く。この第６層の上面が縄文時代の遺構確認面となっている。



1号住居跡　炉跡

1．　暗褐色土　ＹＰ粒φ２～３㎜微量、ロームブロックφ２～10㎜微量、白色（軽石）粒少量含む。炭化材φ１㎜位のものを少量含み、やや硬くしまり、粘性はやや弱い。

2．　暗褐色土　(1)よりもやや明るい。ＹＰ粒、ロームブロックφ２～３㎜少量含む。白色（軽石）粒　少量、炭化材φ２～５㎜やや多く含む。やや硬くしまり、粘性はやや弱い。所々に焼土のブロックφ２～４㎜入り込んでいる。

3．　黄褐色土　ＹＰ粒φ２㎜位のもの微量、ロームブロックφ３～５㎜少量、白色（軽石）粒を微量含む。しまりは比較的よく、粘性は、やや弱い。

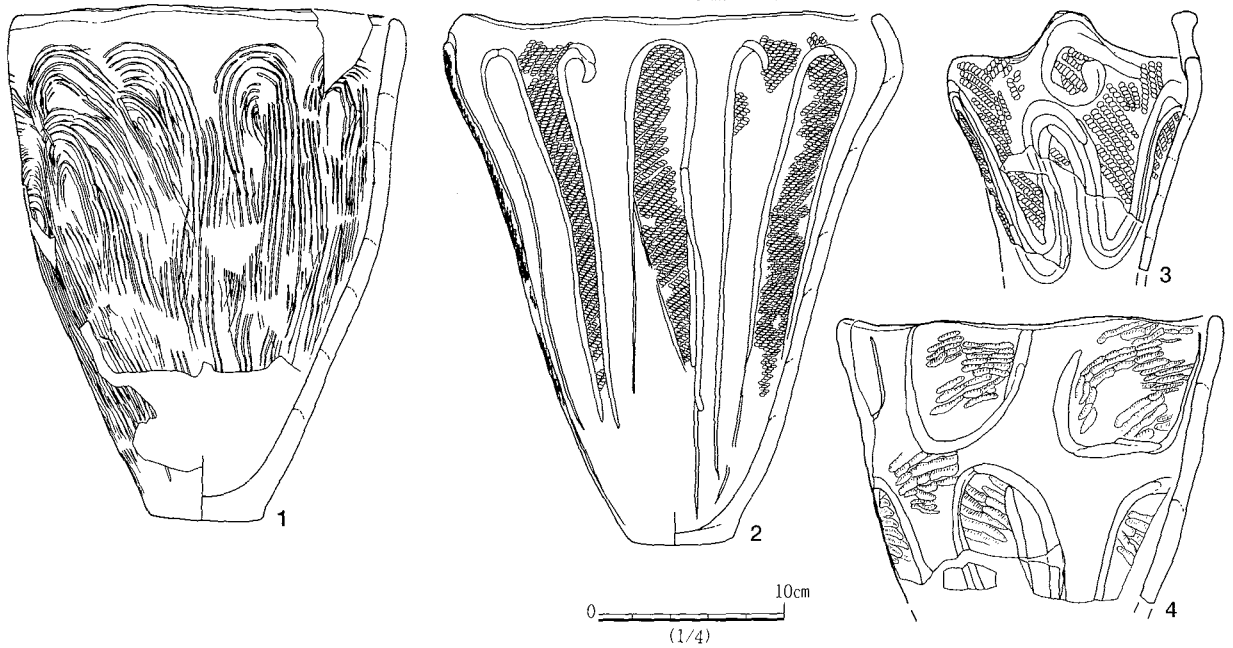
1号住居跡

暗褐色土　ＹＰφ３～20㎜やや多く含む。ローム粒φ１～２㎜前後のもの、ブロックφ５～10㎜少量含む。炭化物φ１～10㎜位のものやや多く含む。白色（軽石）粒を非常に多く含む。硬くしまっており、粘性はあまりない。所々に根痕が入り込んでいる。

暗褐色土　(1)よりやや暗い感じ。ＹＰ粒、ローム粒φ１～２㎜、ロームブロック最大、７㎜位のもの少量含む。白色（軽石）粒はやや多く含むが(1)程ではない。炭化物φ２～３㎜位のものを微量含む。しまりはやや強く、粘性もややある。所々根痕が入り込んでいる。

暗褐色土　色は(2)と同じ位。含有物は比較的少ない、ローム粒φ１㎜前後、ブロックφ５㎜位、ＹＰ粒φ１～５㎜位のもの少量含む。白色（軽石）粒も少量含む。しまりはやや強く、粘性もややある。炭化物もφ１～２㎜位のもの微量。

暗褐色土　ＹＰ粒φ１～30㎜位のもの少量、含有物の大きさにバラつきあり、ロームブロックが入り込んでいるが、所々黄褐色である。床面である。白色（軽石）粒は少なく、硬くしまっている。粘性はやや悪い。



第294図　１号住居跡・出土遺物（１）

第４章　検出された遺構と遺物

第１節　縄文時代

西部調査区からは、縄文時代に比される住居跡２軒、土坑22基が検出されている。住居跡は中期、土坑は前期及び中期の所産によるもので、中期の遺構が主体となっている。

第１項　住居跡

１号住居跡　（第294・295・296・297・298・299・300図）

位置　／Ｄａ－45・Ｄｂ－45グリッドにまたがって検出された。　切り合い関係　／なし。　平面形態　／楕円形を呈する。　規模　／長軸5.5ｍ、短軸4.65ｍ、確認面よりの深さ28cmを計測する。　長軸方向　／Ｎ－25°－Ｅ。　覆土　／ピットと壁溝部分の堆積を除くと合計４層が確認される。いずれもＹＰ粒・ローム粒・ロームブロックなどを含んだ暗褐色土で、混入物の量及び混入物の相違により分層される。　柱穴　／小形の掘り込みが多数確認され、このうちＰ－１～４が主柱穴に相当する。Ｐ－１は、長径48cm、深さ54cm、Ｐ－２は、長径50cm、深さ54cm、Ｐ－３は、長径39cm、深さ80cm、Ｐ－４は、長径40cm、深さ80cmを計測する。　壁　／外傾する。　壁溝　／幅20～27cm、深さ5～10cmで東壁部分の一部を除いた壁下に巡る。床面　／ローム層中を床面としているが、凹凸が激しく一定していない。　炉　／住居跡中央部のやや西寄りに付設され、長径84cm、短径68cmの楕円形で、深さ20cm程に掘り窪め、中央部が赤変硬化している。　遺物　／深鉢類が住居跡全域より多量に出土している。　遺構の時期　／加曽利Ｅ３式の土器を主体としていることより縄文中期後半と見られる。

遺物

１は、胴部上位で僅かに括れて口縁部へ広がる深鉢である。文様は、口縁部直下より胴部へ、７～８本の条線を逆Ｕ字形に垂下する。器面調整及び施文はやや粗雑である。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は橙色である。

２は、底部は小さく口縁部がキャリパー形に開き波状口縁を呈する深鉢である。口縁部直下より逆Ｕ字形と蕨手状文を垂下して、ほぼ交互に単節縄文帯（ＲＬ）と無文帯を配置する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調はにぶい橙色である。

３は、口縁部が膨らんで僅かに内湾する深鉢で、口縁部に舌状の小突起を１個持つ。突起の下にのの字状の沈線を、胴部に２本の波状沈線を施し、沈線間は無文とする。他は縄文（ＬＲ）を縦位に充填する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい褐色である。

４は、口縁部が僅かに波状を呈する深鉢で、口縁部より無節縄文（Ｌ）を縦位に施文したＵ字形と逆Ｕ字形の区形を上下に配置する。外面に粗雑、内面に丁寧な調整を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調はにぶい橙色である。

５は、口縁部が緩やかに内湾するキャリパー形の深鉢で、口縁部には文様帯として大きな波状凹線を施し、縄文（ＲＬ）を横位に施文する。また、波頂部より逆Ｕ字形の凹線を垂下させ、縄文（ＲＬ）を縦位に施文して胴部文様帯とする。無文帯には蕨手文を付す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調はにぶい橙色である。

第295図　1号住居跡出土遺物（2）

6は、口縁部が緩やかに内湾するキャリパー形の深鉢で、文様構成は、口縁部の直下に楕円の刻目を巡らし、これを凹線で区画する。胴上部は波状と逆Ｓ字、下部は逆Ｕ字と蕨手文を施し、無文帯にも蕨手文を施す。区画内に縄文（ＲＬ）を縦位に施文する。胎土は、砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調はにぶい黄橙色である。

7は、深鉢で、口縁部が内湾し、端部は肥厚する。口縁部の文様は渦巻文と楕円文を組み合わせて配置し、胴部は無文帯を挟んで渦巻文を施す。縄文（ＲＬ）を充填施文する。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調はにぶい橙色である。

8は、口縁部が僅かに内湾して立ち上がる深鉢である。文様構成は、口縁部に隆帯による横Ｓ字、楕円を組み合わせて文様帯を形作る。更に、胴部は沈線によって逆Ｕ字と、Ｓ字形を垂下させて無文部と縄文（ＲＬ）を縦位・横位にそれぞれ施文した区画を配す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい橙色である。

9は、キャリパー形？の深鉢で、口縁部文様帯に凹線を波状に巡らし、縄文（ＲＬ）を横位に充填施文する。胴部は逆Ｕ字形を垂下し、縄文（ＲＬ）を縦位に充填する。無文部に蕨手文を配置し、内面に粗雑な調整を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調はにぶい橙色である。

10は、口縁部が膨らみ大きく内湾する深鉢である。口縁部には１個の突起を持つ。文様構成は、突起より口縁部へは沈線をそわせ、縄文（ＬＲ）を横位に充填する。胴部は、逆Ｕ字形と蕨手文を交互に配し、逆Ｕ字形の区画内に縄文（ＬＲ）を縦位に充填する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい赤褐色である。

11は、把手状と山形の波頂部を持つ波状口縁の深鉢で、口縁部文様帯として変形の横Ｓ字と楕円形を交互に組み合わせ、縄文（ＲＬ）を横位に施文する。胴部は凹線を垂下して、縄文（ＲＬ）を縦位施文した縄文帯と無文帯を交互に配置し、縄文帯に蕨手文を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調はにぶい黄褐色である。

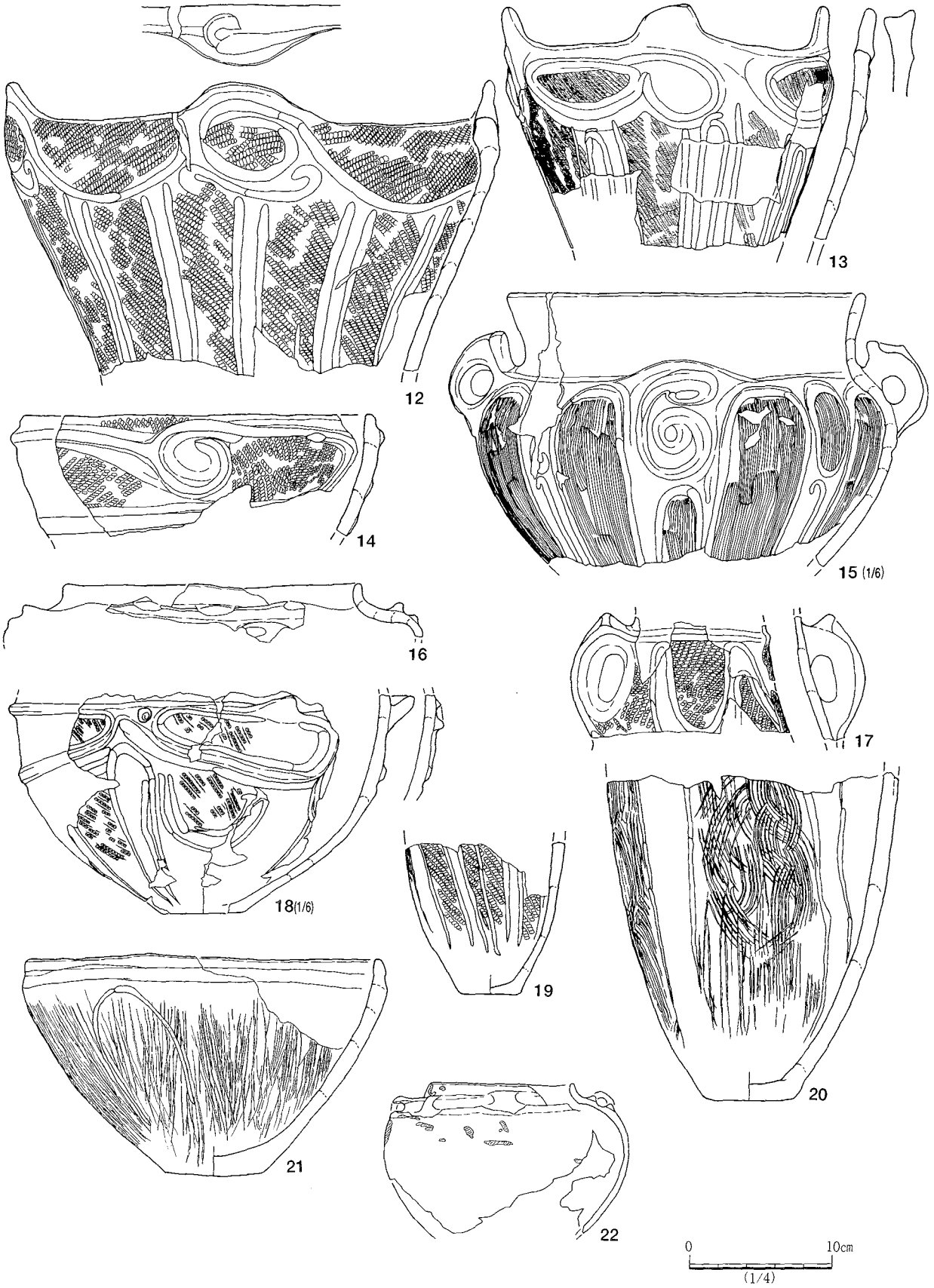
12は、４単位の波状口縁の深鉢で、口縁部は内湾して内稜を持つ。口縁部の文様帯は波状部から沈線による横Ｓ字状文を組み合わせる。胴部は２本１対の沈線を垂下する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい黄橙色である。

13は、４単位の波状口縁の深鉢で、口縁部が僅かに内湾する。波状部の相対する１対は、端部にのの字状の凹みを施す。口縁部の文様帯は雲彩文で、胴部は逆Ｕ字形を挟んで２本の沈線を垂下して無文部を構成する。胎土は砂粒を含み、焼成は普通で、色調はにぶい黄橙色である。

14は、口縁部は内湾して頸部が僅かに括れる深鉢である。文様構成は、口縁部に隆帯で横位の入組み文を施文し、内区に縄文を充填後、隆帯わきを強く撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は灰黄褐色である。

15は、橋状把手を持つ両耳壷で、胴上部に丸い張りを持ち、頸部は括れて立ち上がる。口縁部は無文で、胴部は縦位の渦巻文を中心に、条線を地文として逆Ｕ字形、楕円形の沈線を垂下させる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒色である。

16は、胴部に丸く張りを持ち、肩部で強く内屈し、口縁部は短く立ち上がる鉢である。肩部に隆帯を巡らし、小さな橋状把手を数個配置する。胴部は隆帯と凹線による渦巻様の文様を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は褐灰色である。



第296図　1号住居跡出土遺物（3）

17は、片耳の壺で、丸い胴部より緩やかに括れる肩部に凸帯を巡らして、無文の口縁部が立ち上がる。頸部より橋状把手を付し、縦Ｓ字文を付す。胴上部に縄文（ＲＬ）を縦位施文後、２本の凹線による波状文を施し、２本の凹線間を磨り消す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は褐灰色である。

18は、広口壺で、胴上部に４単位と思われる山形把手を付す。胴上部の肩部に巡らせた隆帯から半円状に隆帯を付け、楕円形の区画を作る。胴部は凹線による半円、逆Ｕ字形の縦区画に縄文帯（複節ＲＬＲ＋無節Ｒ、横）と幅広の無文帯を設ける。調整は粗雑である。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調はにぶい橙色である。

19は、胴部が僅かに膨らみをもつ小形の深鉢である。文様構成は、縄文（ＬＲ）を縦位に施文後、沈線を垂下し、縄文帯と交互に磨り消しによる無文帯を配する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は橙色である。

20は、胴部が僅かに膨らむ深鉢である。文様構成は、胴部に沈線を垂下して区画内に条線を蛇行、交差させて充填する。全体に粗雑な調整である。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい黄橙色である。

21は、口縁部が僅かに内湾する深鉢である。文様構成は、口縁部の直下に凹線を巡らし、縦位に条線を地文とし粗く施して、逆Ｕ字状の凹線を垂下する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒色である。

22は、小形平縁の壺様の鉢で、胴上部が丸く張り、頸部が大きく内湾し、口縁部は短く立ち上がる。肩部に２段の隆帯を巡らし、小さな橋状把手を付す。胎土は細砂粒を多量に含み、焼成はやや軟質で、色調は褐灰色である。

23は、胴上部で大きく張り、頸部がしまって口縁部が短く立ち上がる壺様の鉢である。肩部にはやや小ぶりの橋状突起を持つ。胴部は粘土貼り付けによる隆帯と幅広の沈線による渦巻、楕円、逆Ｕ字形、蕨手形を配し、立体的造形を呈する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい褐色である。

24は、23と同一の器形だが、橋状突起の形状が異なる。文様も同一の意匠である。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調はにぶい褐色である。

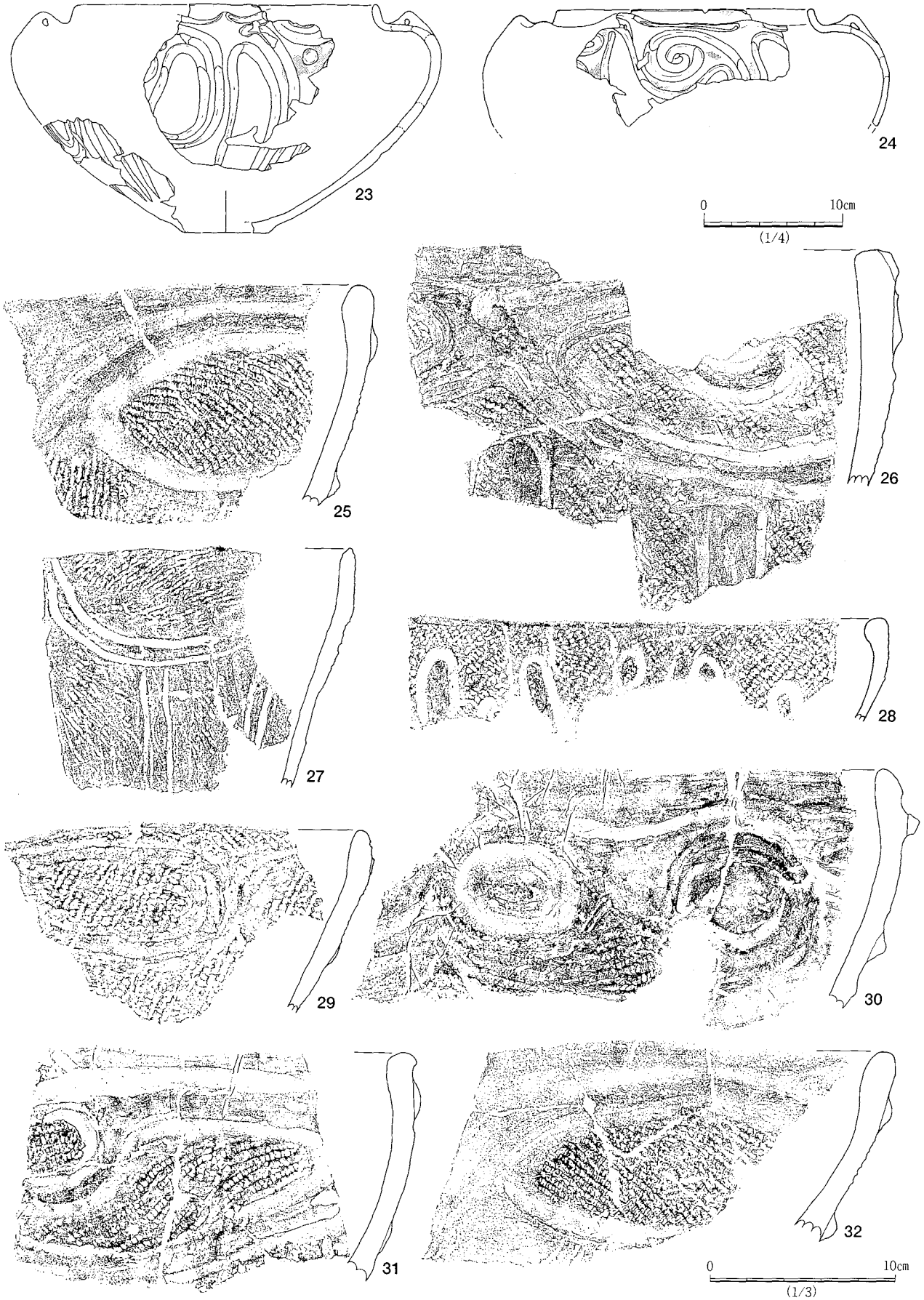
25は、大形の深鉢で、口縁部が僅かに内湾し、口縁端部は肥厚する。口縁部は隆帯による入組文で、縄文（ＲＬ）を施文後、隆帯のわきに撫でを施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい橙色である。

26は、口縁部が僅かに内湾する大形の深鉢である。口縁部は、隆帯による横位のＳ字状文と楕円文の組み合わせ文を配する。口縁部直下の無文部に横位の蕨手文を施し、縄文（ＬＲ）を縦位に施文後、逆Ｕ字形に沈線を垂下して縄文部と無文部を区画する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい橙色である。

27は、大形の深鉢で、口縁部は内湾し、端部が肥厚して内稜を持つ。口縁部は隆帯による横位のＳ字状文、楕円状の組み合わせ文を施し、縄文（ＬＲ）を縦位に施文後、隆帯のわきに撫でを施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい橙色である。

28は、深鉢で、口縁部が僅かに内湾する。口縁部は横位の縄文（Ｌ）を地文として、２本の沈線をＵ字形に連続して施す。胴部は縄文（Ｌ）を縦位に施文後、２本の沈線を垂下して縄文部と無文部を区画する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい橙色である。

29は、深鉢で、口縁部は僅かに内湾する。縦位の縄文（ＲＬ）を地文として楕円文を配し、口縁部は隆帯、



第297図　１号住居跡出土遺物（４）

胴部は沈線を垂下して区画する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は褐色である。

30は、大形の深鉢で、口縁部が僅かに内湾する。口縁部は隆帯による横Ｓ字文、円形文、楕円文を組合わせて配置し、隆帯のわきを強く撫でて隆帯の高さを強調する。縄文（ＬＲ）を一部に充填する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい橙色である。

31は、大形の深鉢で、口縁部が僅かに内湾する。口縁部は隆帯による横位の入組文と縄文（ＬＲ）を充填し、胴部は沈線を垂下して区画する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい橙色である。

32は、大形の深鉢で、口縁部が僅かに内湾し、端部が肥厚する。口縁部は隆帯による横位の入組文、縄文（ＲＬ）を施文後、隆帯のわきに撫でを施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は黒褐色である。

33は、大形の深鉢で、口縁端部が肥厚する。口縁部は隆帯による楕円形横位の組み合わせ文で、縄文（ＲＬ）を横位に充填する。胴部は沈線を垂下して、縄文部と無文部を区画し、縄文施文後、沈線、撫でを施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は赤褐色である。

34は、深鉢で、口縁部は縄文（ＲＬ）を地文に、２本の沈線でＵ字状に連線させる。弧の間に２本の沈線を垂下し、縄文部と無文部を区画して配置する。胎土は砂粒を含み、焼成は普通で、色調はにぶい褐色である。

35は、深鉢で、口縁部は内湾し胴部は括れを持ち口縁端部は肥厚する。口縁部直下より逆Ｕ字形に沈線を垂下させ縄文（ＬＲ）を縦位に充填する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい橙色である。

36は、大形の深鉢で、口縁部は頸部で括れ、外反して広がる。口縁部に無文帯を持つ。胎土は砂粒を含み、焼成は普通で、色調はにぶい褐色である。

37は、大形の深鉢で、口縁部は内湾し、端部が肥厚する。口縁部は隆帯による横位のＳ字状文を施文し、縄文（ＲＬ）を施文後、隆帯のわきに沈線を施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい黄橙色である。

38は、波状口縁の深鉢で、口縁部は内湾し、端部が肥厚して内稜を持つ。波頂部を基点に、隆帯による横位の渦巻文と楕円文の組み合わせにより施文する。縄文（ＬＲ）は縦位に充填後撫で調整し、更に胴部に２本の沈線によって縄文部と無文部を区画する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は橙色である。

39は、深鉢で、条線を縦、波状、縄状に施文後、沈線を垂下して無文部を区画する。胎土は砂粒を含み、焼成は普通で、色調は橙色である。

40は、胴部が直線的に開く器台で、胴部の４方向に穿孔し、渦巻と蛇行する垂線をおろす。１区画のみ直線で縦の区画を作る。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調はにぶい橙色である。

41～68は、石器である。

41・42・43は、短冊形の打製石斧である。42は、撥形であるが側面が欠損した可能性がある。

44～54は、打製石斧片で、輝石安山岩・シルト岩・頁岩・流紋岩を素材としている。

55は、スクレパーで、黒色安山岩製である。

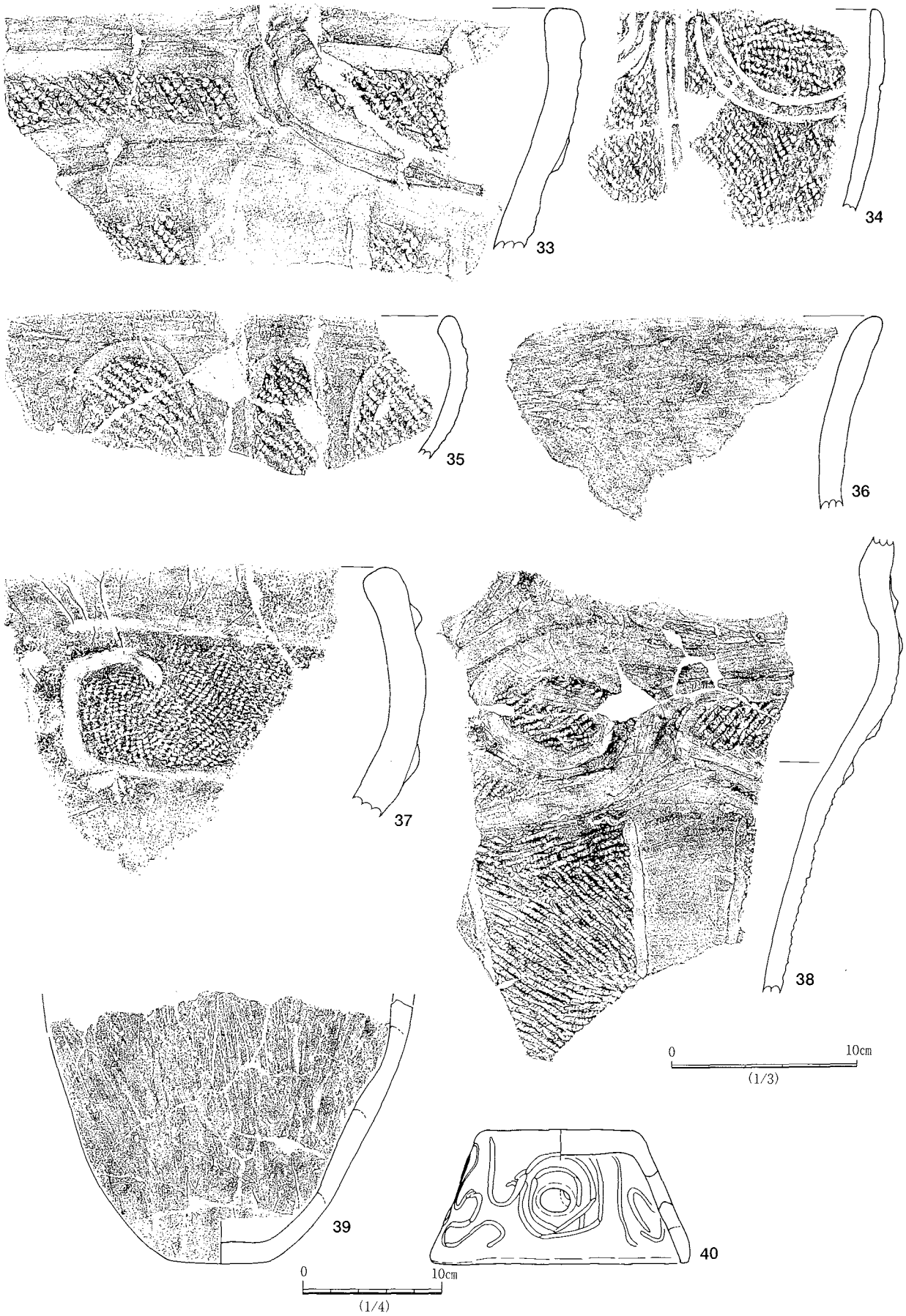
56は、蛇紋岩製の抉状耳飾りである。

57・58・59は、凹基無茎鏃で、黒曜石製である。

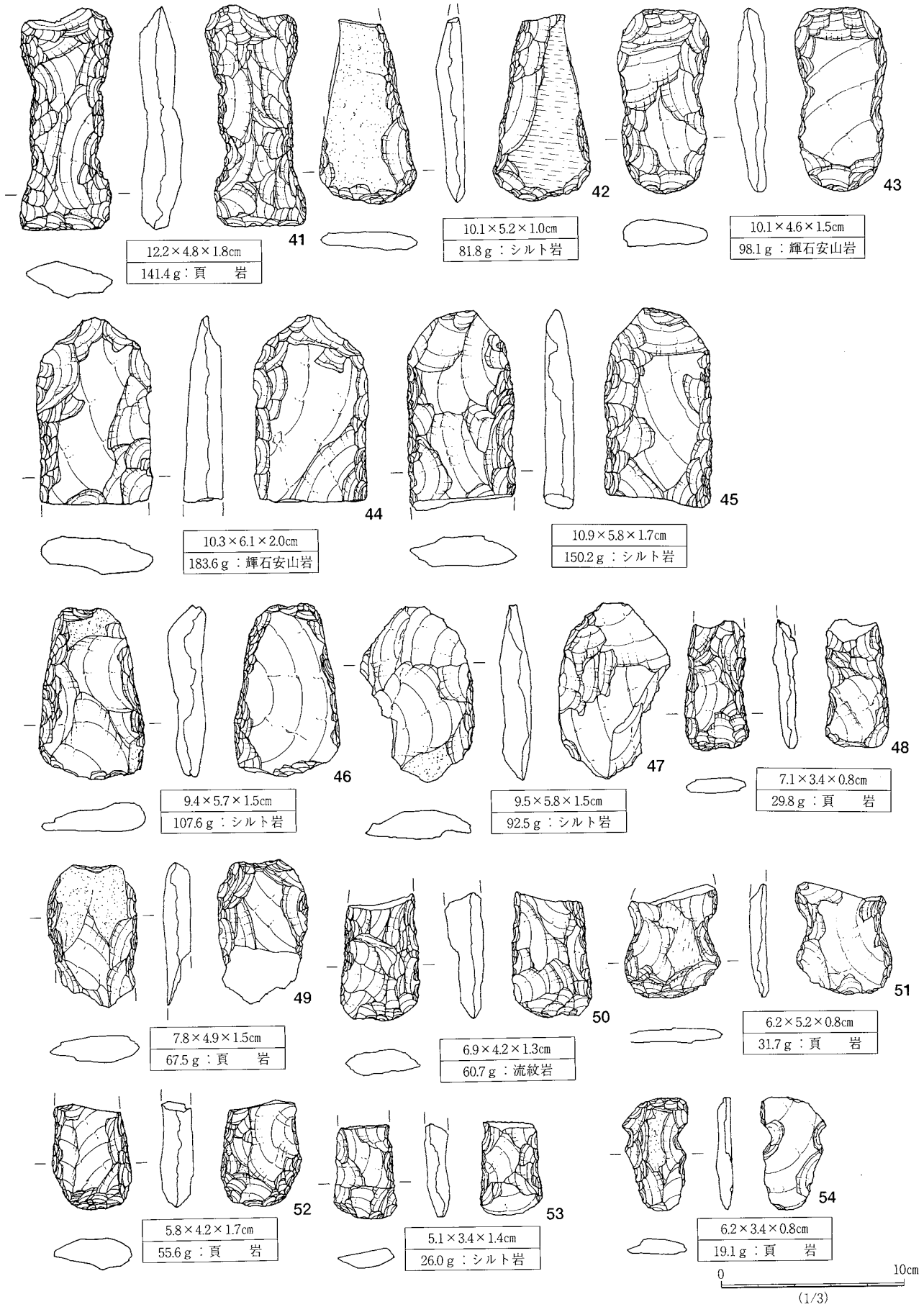
60・61・62は、黒曜石の剥片石器である。

63・66は、凹石である。

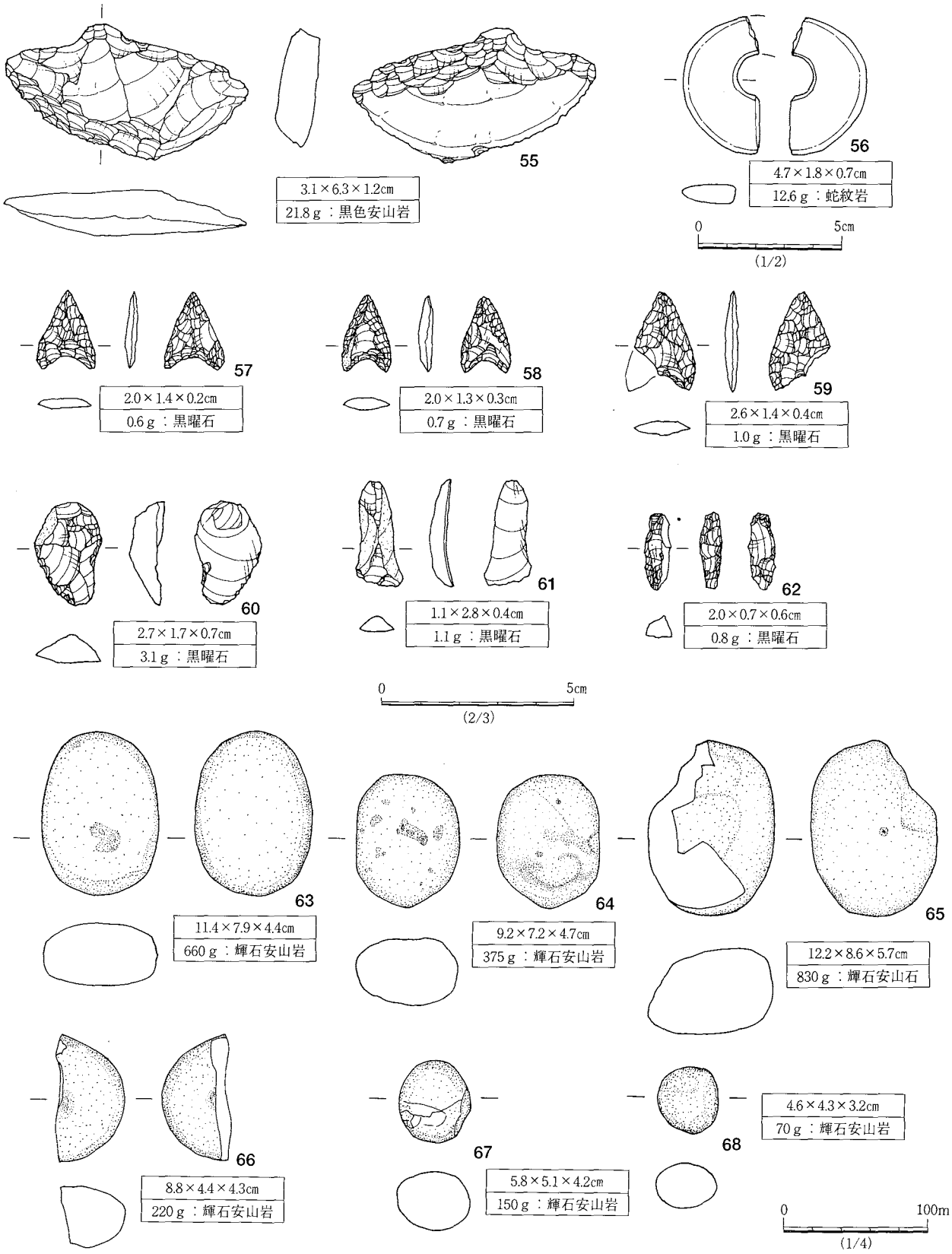
64・65・67・68は、磨石で、67・68は、小形で円形である。



第298図　1号住居跡出土遺物（5）



第299図　1号住居跡出土遺物（6）



第300図　1号住居跡出土遺物（7）

2号住居跡（第301・302・303・304・305・306・307図）

位置　／Ｃｇ－42・43・Ｃｈ－42・43グリッドに検出された。　切り合い関係　／なし。　平面形態　／楕円形を呈する。　規模　／長軸3.9ｍ、短軸3.7ｍ、確認面よりの深さ30㎝を計測する。　長軸方向　／Ｎ－60°－Ｗ。　覆土　／ピットと壁溝部分及び攪乱を除くと合計３層が確認される。いずれもＹＰ粒・ローム粒・ロームブロックなどを含んだ暗褐色土で、混入物の量及び混入物の相違により分層される。　柱穴　／小形の掘り込みが多数確認され、このうちＰ－１～４が主柱穴に相当する可能性が考えられる。いずれも深さは30㎝前後を計測する。　壁　／ほぼ垂直に立ち上がる。　壁溝　／幅10～22㎝、深さ10㎝前後で西壁部分の一部を除いた壁下に巡る。　床面　／ローム層中を床面としているが、凹凸が激しく一定していない。　炉　／住居跡中央部に付設された石囲い炉で、長計75㎝、短計69㎝の方形に20㎝程掘り窪め、比較的偏平な安山岩を用いて構築している。炉の内計は、30㎝四方の正方形であった。　遺物　／深鉢類が住居跡全域より多量に出土している。　遺構の時期　／加曽利Ｅ３式の土器が多く出土していることより縄文中期後半と見られる。

遺物

１は、深鉢で、口縁部は肥厚し、僅かながら内面に稜を持つ。文様帯は、渦巻き、円形、楕円形を組み合わせて、隆帯により区画する。胴部は３本１組の沈線を垂下し、縄文部と無文部を配置する。一ヵ所のみに逆Ｕ字形の沈線を垂下する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい黄橙色である。

２は、３単位と思われる波状口縁の深鉢で、口縁部は僅かに内湾して立ち上がる。波頂部を基点に横位の蕨手文を施す。胴部は逆Ｕ字形、渦巻文を垂下して、縄文（ＲＬ）を充填施文した部分と無文部を区画する。胎土は砂粒を含み、焼成は普通で、色調はにぶい橙色である。

３は、深鉢で、胴部下位で膨らんで、僅かに括れて広がり、口縁部は内湾する。口縁部文様帯は楕円形の区画を４単位配し、Ｓ字状の沈線を組み合わせる。胴部は縄文（ＲＬ）施文後沈線を垂下して、無文部と区画する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は橙色である。

４は、口縁部が僅かに内湾する深鉢で、口縁部は隆帯によって横位のＳ字文、楕円文の組み合せ文を施す。縄文（ＲＬ）を横位に施文後、隆帯のわきに撫でを施し、胴部は縄文を施文後、沈線によってＵ字形、逆Ｕ字形と沈線を連続して垂下させる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は橙色である。

５は、口縁部が僅かに内湾する深鉢で、口縁部は隆帯によって横位の文様帯を構成し、楕円、円、横Ｓ字状文を組み合わる。胴部は２本の沈線を垂下して、縄文（ＬＲ）を横位に施文した部分と無文部を区画する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい橙色である。

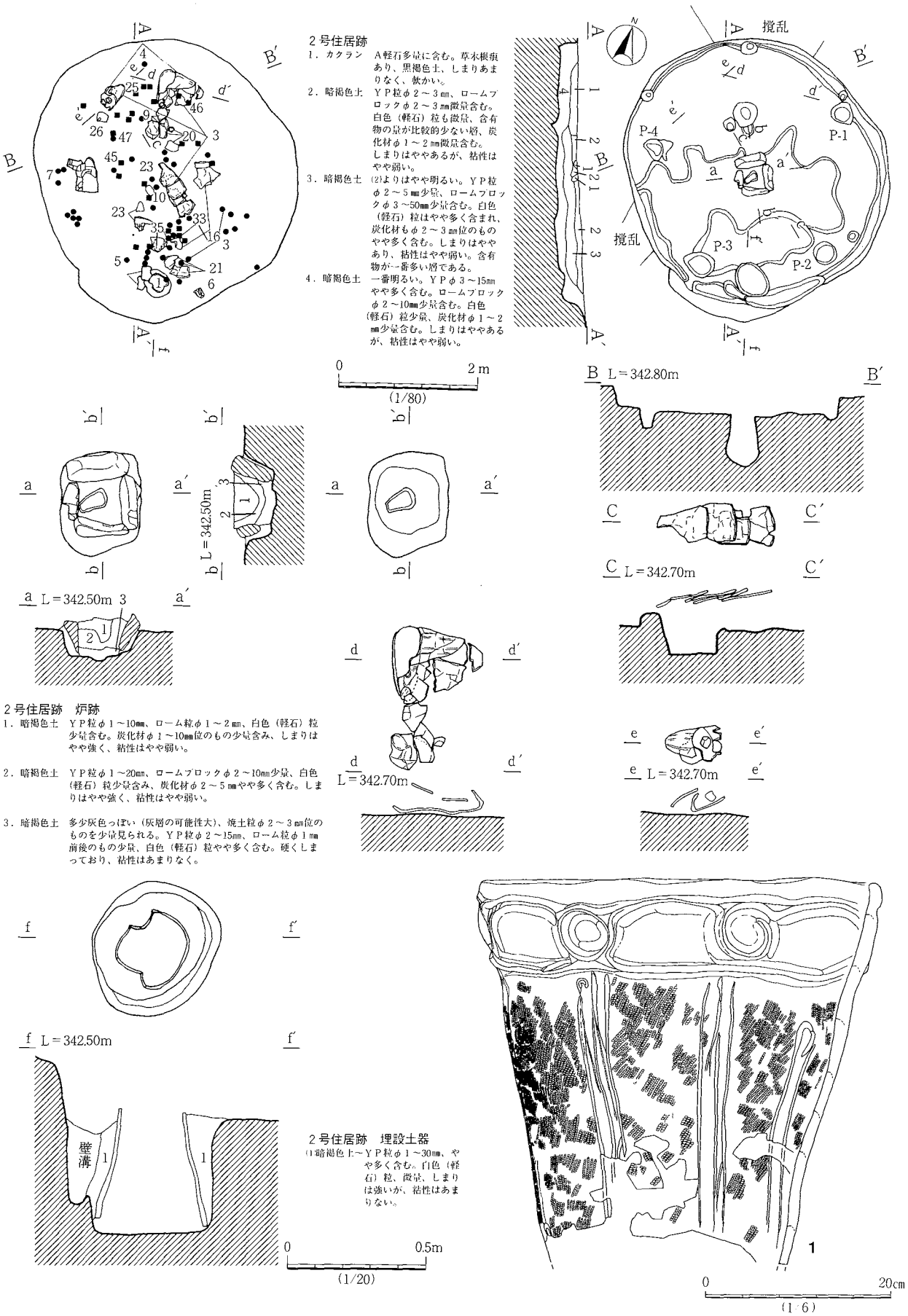
６は、小形の深鉢で、胴部中央に括れを持つ。口縁部は、縄文（ＲＬ）を縦位に施文後、沈線を垂下して無文部と区画し、無文部には蕨手文を配す。胎土は砂粒を含み、焼成は普通で、色調はにぶい橙色である。

７は、小形の深鉢で、キャリパー形を呈し、小形の把手を一カ所付す。５本一組の縦位の条線を地文とする。胎土は、砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調はにぶい黄橙色である。

８は、深鉢で、底部よりわずかに開く。縦位に施した５本単位の条線を地文とし、凹線を逆Ｕ字形に垂下する。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は橙色である。

９は、鉢で、胴上部に丸く張りを持ち頸部で括れて立ち上がる。口縁部は無文で胴上部に横位文様帯を配し、隆帯による横Ｓ字状と楕円文を組み合わせる。胴部に逆Ｕ字形と２本１組の沈線を垂下し無文部と縄文（ＲＬ）を縦位施文した部分を区画する。胎土は砂粒を含み、焼成は普通で、色調はにぶい黄橙色である。

10は、深鉢で、口縁部が僅かに内湾する。口縁部は低い隆帯によって楕円形に区画し、縦の区画に４～６個の円形刺突文を施す。胴部は２本の沈線を垂下して無文（Ｒ）を充填した部分と無文部を配置する。



第301図　２号住居跡・出土遺物（１）

胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい黄橙色である。

11は、口縁部に4単位の把手を持つ深鉢で、キャリパー形を呈する。口縁部文様帯として隆帯で4単位を横位に連続して組み合わせる。胴部は縄文（ＲＬ）を横位に施文後、凹線により楕円、逆U字状を区画して、無文部には蕨手文を充填する。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調はにぶい黄橙色である。

12は、口縁部が内湾する深鉢である。口縁部に無文帯を巡らし、胴部は条線を縦位に、頸部に太い沈線を巡らして口縁部と区画する。外面は丁寧な箆磨きが施される。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調はにぶい橙色である。

13は、波状口縁部の深鉢で、口縁部はやや内傾する。波頂部を基点に横位文様帯を構成し、胴部は逆U字状の沈線を垂下する。胎土は砂粒を含み、焼成は普通で、色調はにぶい橙色である。

14は、深鉢の口縁部片である。口縁部下に太い沈線を巡らし、沈線内に縄文を充填施文する。胎土は砂粒を含み、焼成は普通で、色調はにぶい橙色である。

15は、キャリパー形を呈する波状口縁の深鉢である。文様は縄文を横位に施文後、沈線により楕円、逆U字状を区画する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい橙色である。

16は、胴部が直線的な深鉢で、胴部に縄文（ＲＬ）を縦位に施文後、幅広の沈線を2本1組で垂下し、縄文を磨り消す。一部分に垂線をひいた後、縄文を施文する手順が見られる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調はにぶい黄橙色である。

17は、深鉢の把手片である。口縁部直下に橋状把手を持ち縄文を施文する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調はにぶい黄橙色である。

18は、深鉢の口縁部片である。口縁部は無文で、直下に縄文と沈線による楕円形の区画文を構成する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい橙色である。

19は、口縁部が僅かに内湾する深鉢で、口縁部は隆帯によって横位の文様帯を構成し、楕円、円状文を組み合わせる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい橙色である。

20は、胴部に丸い張りをもつ壺様の鉢で、幅広の沈線による渦巻状の文様を配する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は灰黄褐色である。

21は、口縁部が僅かに内湾する深鉢で、口縁部は隆帯によって横位の文様帯を構成し、楕円、円、横S字状文を組み合わせる。胴部は2本の沈線を垂下して、縄文（ＬＲ）を横位に施文した部分と無文部を区画する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい橙色である。

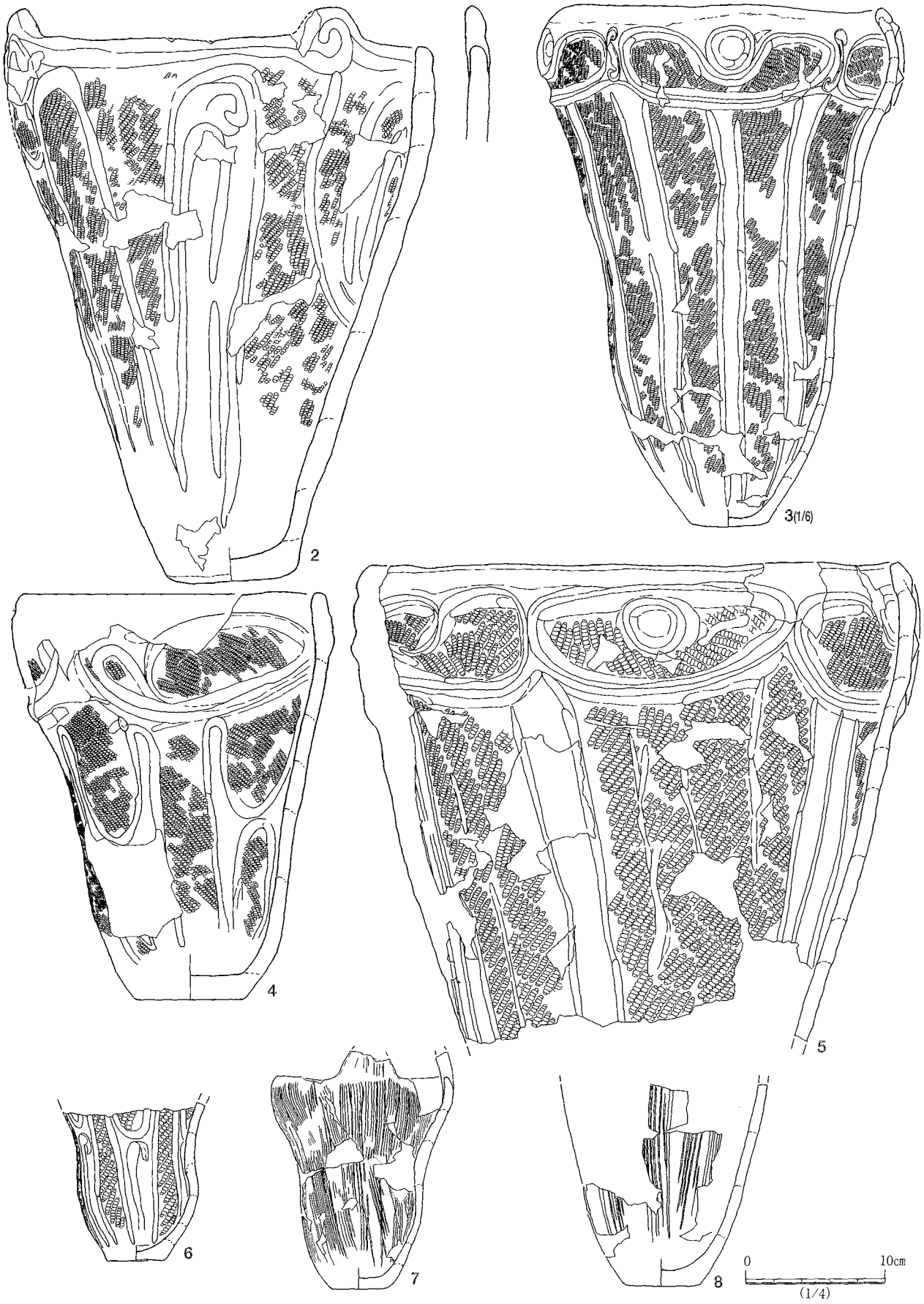
22は、胴部が直線的で口縁部が内傾する深鉢である。口縁部は無文帯で、胴部との境に太い沈線を巡らし区画する。胴部は縄文を縦位に施文後、沈線2本1組で垂下し、縄文を磨り消す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調はにぶい黄橙色である。

23は、キャリパー形の深鉢の胴部片である。中央に沈線と円形刺突により区画し、上半に沈線と縄文を、下半に沈線の条線を用いて文様を構成する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

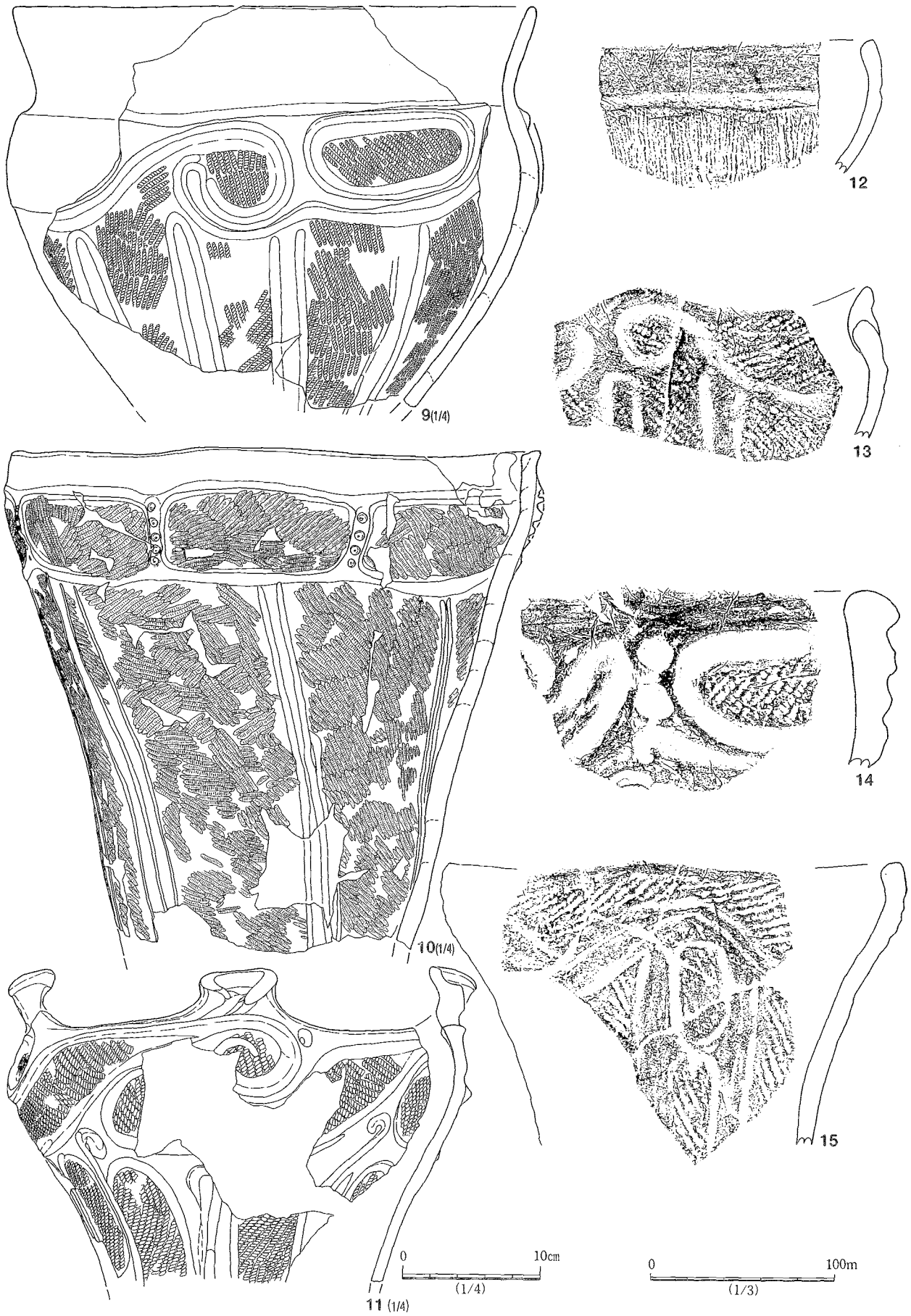
24は、胴上部で大きく張り、頸部がしまって口縁部が短く立ち上がる壺様の鉢である。肩部にはやや小ぶりの橋状突起を持つ。胴部は粘土貼り付けによる隆帯と幅広の沈線による渦巻、楕円、逆U字形、蕨手形を配し、立体的造形を呈する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調はにぶい褐色である。

25・26は、深鉢の胴部片で、2本の沈線を垂下して、縄文を横位に施文した部分と無文部を区画する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は褐色である。

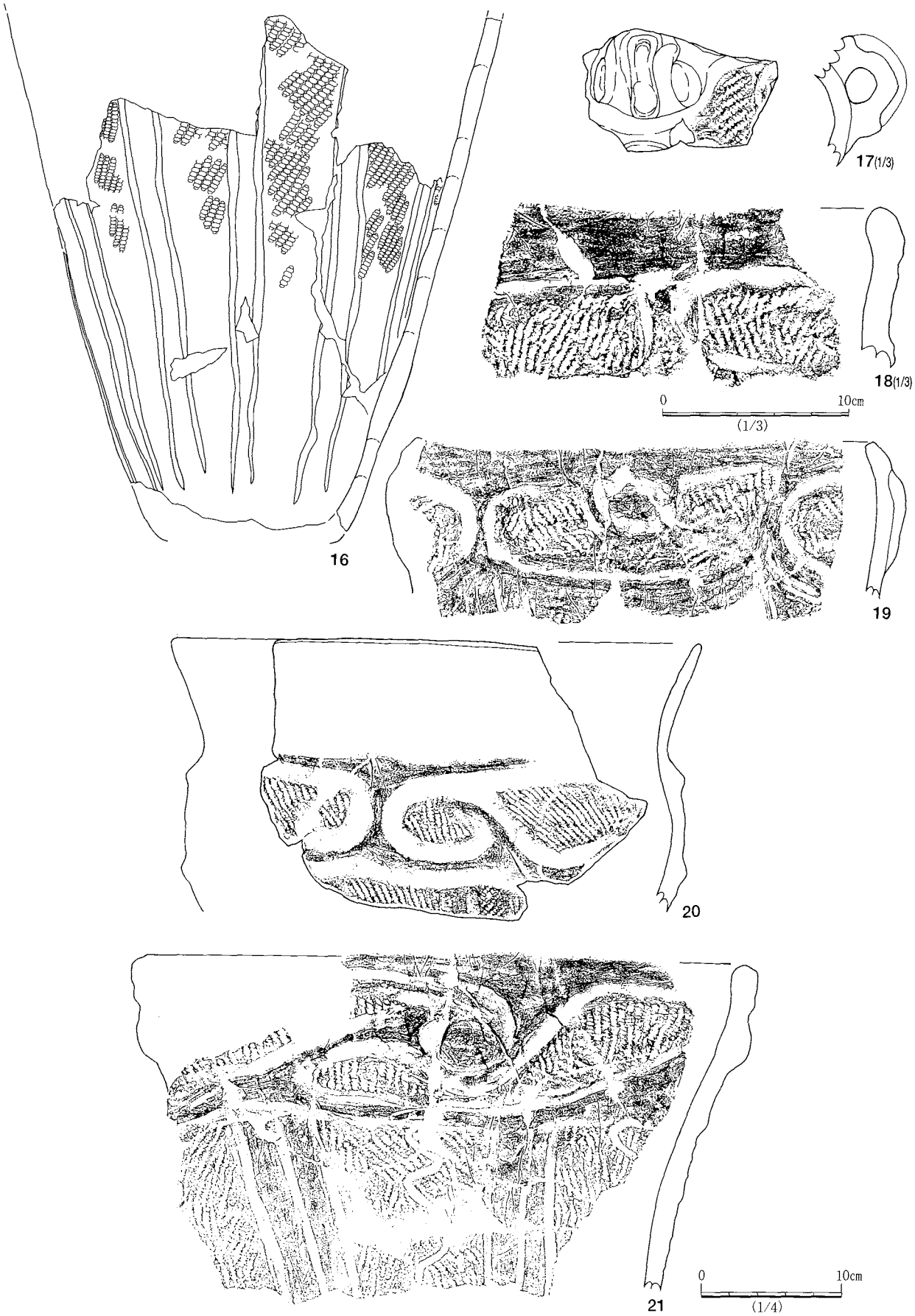
27～36は、打製石斧、37は、横形の石匙、38・39は、剥片石器、40は、石錐、41～52は、磨石である。



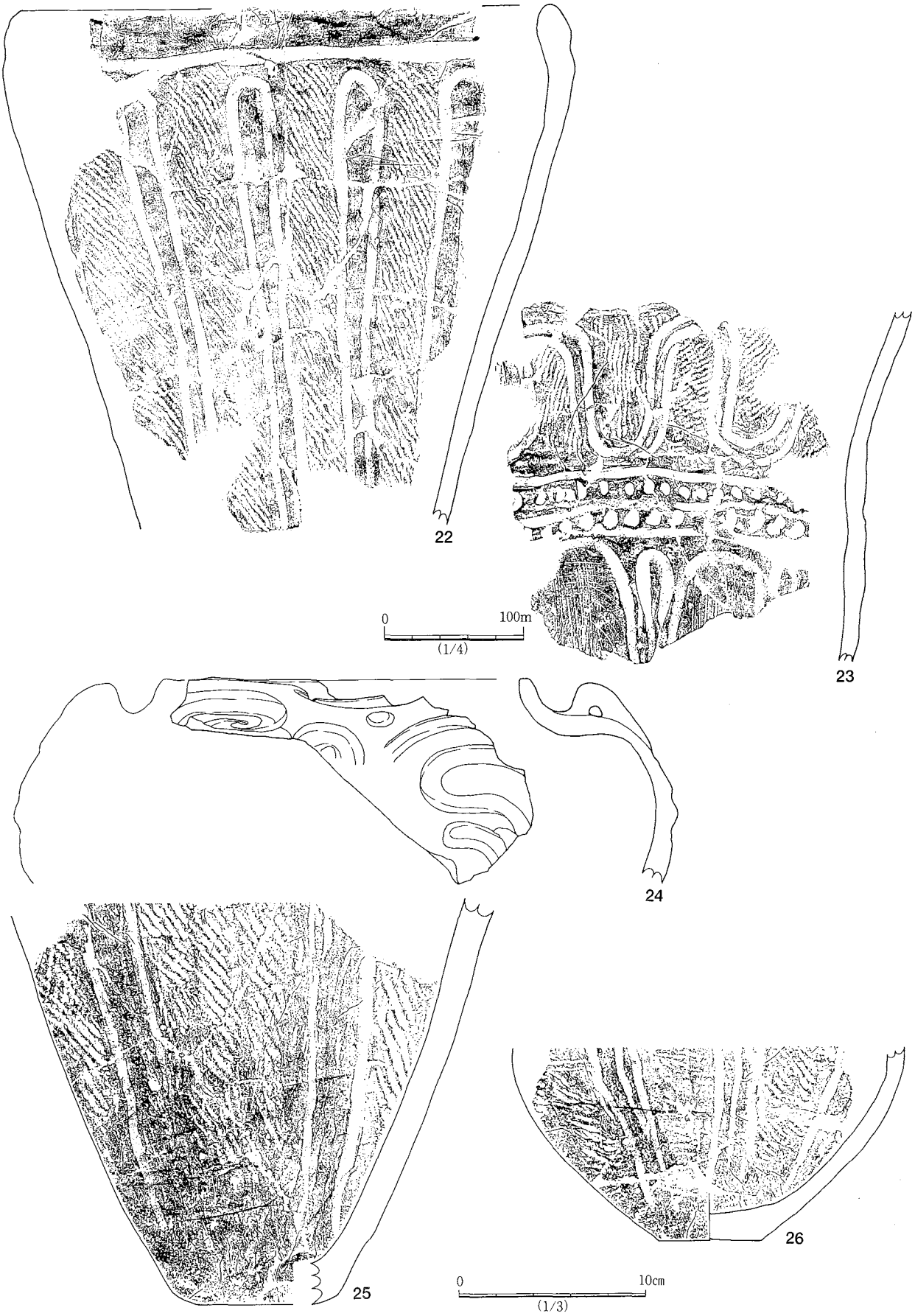
第302図　２号住居跡出土遺物（２）



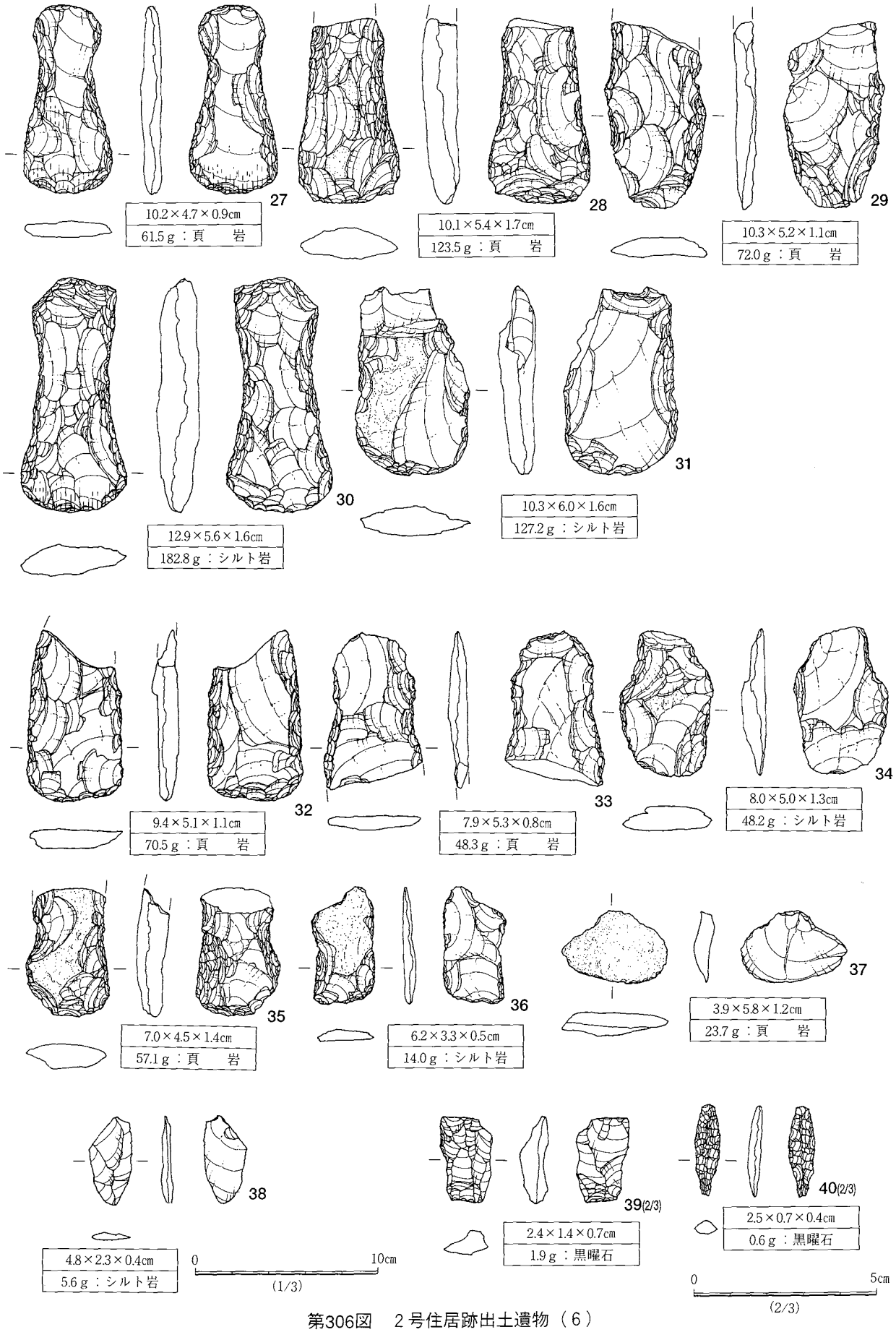
第303図　2号住居跡出土遺物（3）



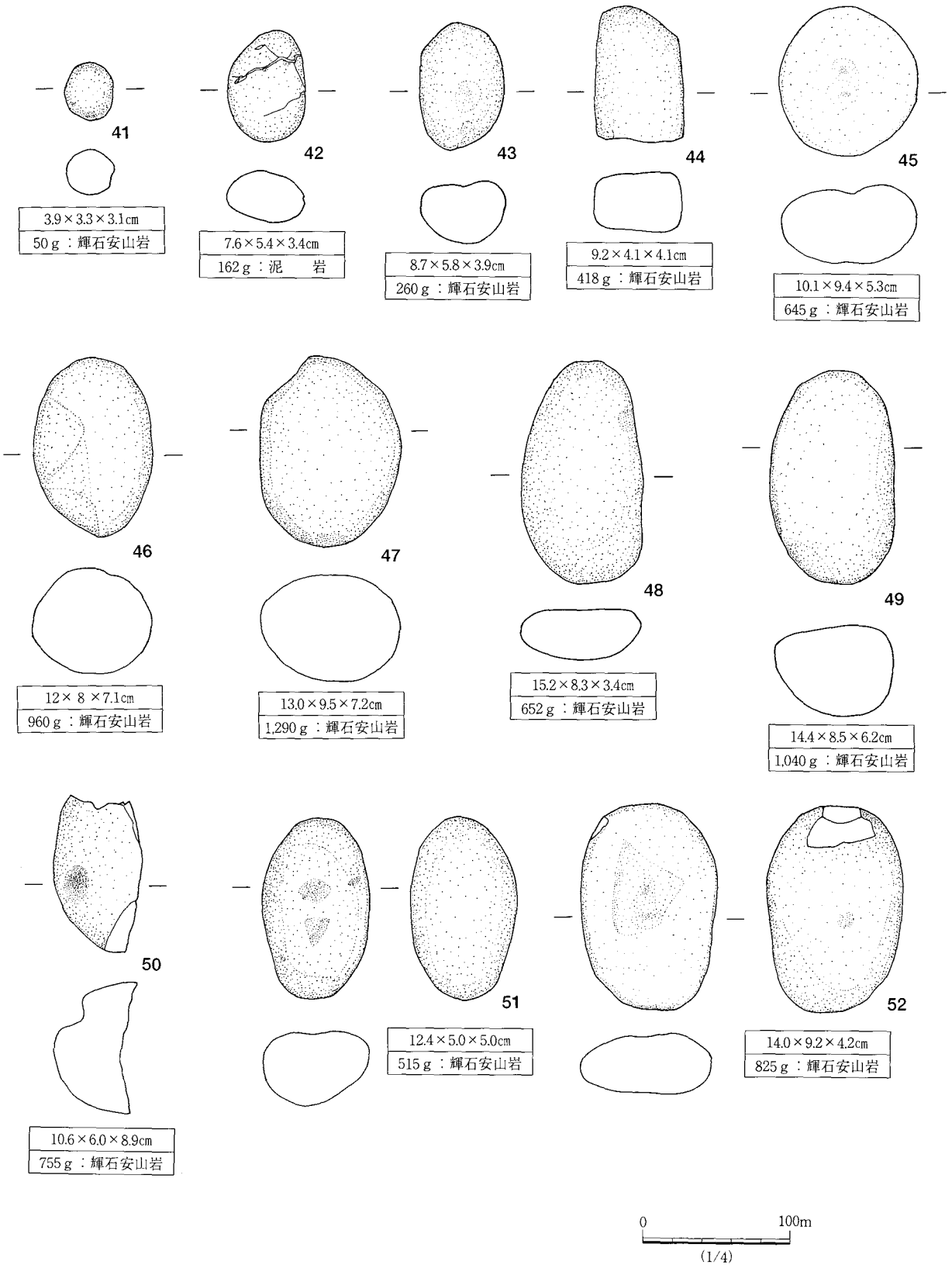
第304図　２号住居跡出土遺物（４）



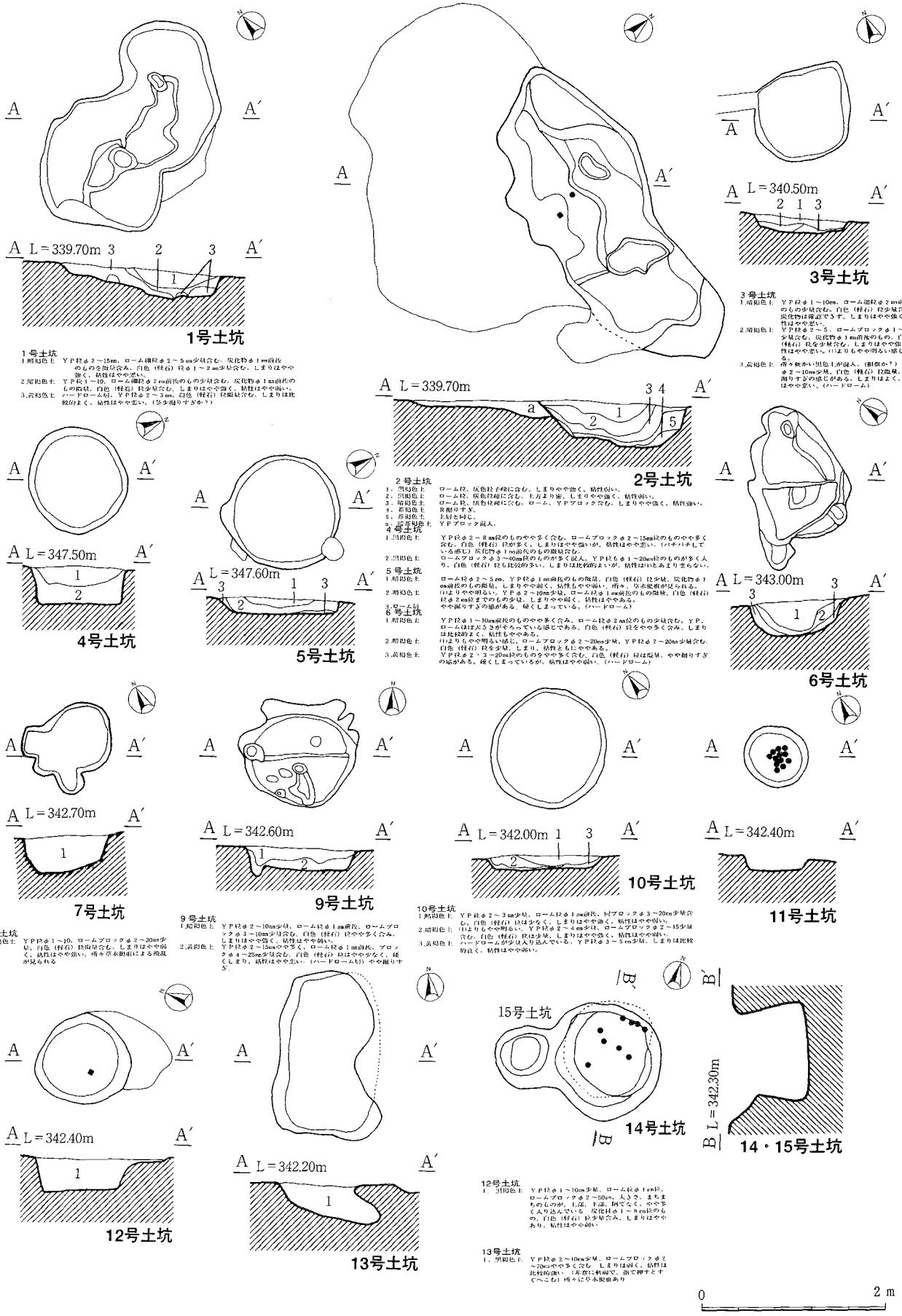
第305図　2号住居跡出土遺物（5）



第306図　2号住居跡出土遺物（6）



第307図　2号住居跡出土遺物（7）



1号土坑
1.暗褐色土　ＹＰ粒φ２～15mm、ローム細粒φ２～５mm少量含む。炭化物φ１mm前後のものを微量含み、白色（軽石）粒φ１～２mm少量含む。しまりはやや強く、粘性はやや悪い。
2.暗褐色土　ＹＰ粒１～10、ローム細粒φ２mm前後のもの少量含む。炭化物φ１mm前後のもの微量、白色（軽石）粒少量含む。しまりはやや強く、粘性はやや弱い。
3.黄褐色土　ハードローム層、ＹＰ粒φ２～３mm、白色（軽石）粒微量含む。しまりは比較的よく、粘性はやや悪い。（多少掘りすぎか？）

2号土坑
1.黒褐色土　ローム粒、灰色粒子球に含む。しまりやや強く、粘性弱い。
2.黒褐色土　ローム粒、灰色粒球に含む。上方より密。しまりやや強く、粘性弱い。
3.暗褐色土　ローム粒、灰色粒球に含む。ローム、ＹＰブロック含む。しまりやや強く、粘性強い。
4.茶褐色土　Ｒ掘りすぎ。
5.茶褐色土　上層と同じ。
a.暗茶褐色土　ＹＰブロック混入。

3号土坑
1.暗褐色土　ＹＰ粒φ１～10cm、ローム細粒φ２mm前後のものの少量含む。白色（軽石）粒少量含み、炭化物は確認できず、しまりはやや強く、粘性はやや悪い。
2.暗褐色土　ＹＰ粒φ２～５、ロームブロックφ１～３mm少量含む。炭化物φ１mm前後のもの、白色（軽石）粒を少量含む。しまりはやや強く、粘性はやや悪い。(1)よりもやや明るい感じがする。
3.黄褐色土　所々軟かい黒色土が混入。（根痕か？）ＹＰ粒φ２～10mm少量、白色（軽石）粒微量、やや掘りすぎの感じがある。しまりはよく、粘性はやや悪い。（ハードローム）

4号土坑
1.黒褐色土　ＹＰ粒φ２～８mm位のものやや多く含む。ロームブロックφ２～15mm位のものやや多く含む。白色（軽石）粒が多く、しまりはやや強いが、粘性はやや悪い。（バチバチしている感じ）炭化物φ１mm前後のもの微量含む。
2.黒褐色土　ロームブロックφ３～40mm位のものが多く混入。ＹＰ粒もφ１～20mm位のものが多く入り、白色（軽石）粒も比較的多い。しまりは比較的よいが、粘性は(1)とあまり変らない。

5号土坑
1.暗褐色土　ローム粒φ２～５cm、ＹＰ粒φ１mm前後のもの微量、白色（軽石）粒少量、炭化物φ１mm前後のもの微量、しまりやや弱く、粘性もやや弱い。所々、草木根痕が見られる。
2.暗褐色土　(1)よりやや明るい。ＹＰφ２～10mm少量、ローム粒φ１mm前後のもの微量、白色（軽石）粒φ２mm位までのもの少量、しまりやや弱く、粘性はややある。
3.ローム層　やや掘りすぎの感がある。硬くしまっている。（ハードローム）

6号土坑
1.暗褐色土　ＹＰ粒φ１～10mm前後のものやや多く含み、ローム粒φ２mm位のもの少量含む。ＹＰ、ロームはほとんどさがそろっている感じである。白色（軽石）粒をやや多く含み、しまりは比較的よく、粘性もややある。
2.暗褐色土　(1)よりもやや明るい感じ、ロームブロックφ２～20mm少量、ＹＰ粒φ２～20mm少量含む。白色（軽石）粒を少量、しまり、粘性ともにややある。
3.黄褐色土　ＹＰ粒φ２～３～20mm位のものをやや多く含む。白色（軽石）粒は微量、やや掘りすぎの感がある。硬くしまっているが、粘性はやや弱い。（ハードローム）

7号土坑
1.黒褐色土　ＹＰ粒φ１～10、ロームブロックφ２～30mm少量、白色（軽石）粒微量含む。しまりはやや弱く、粘性はやや強い。所々草木根痕による微乱が見られる

9号土坑
1.暗褐色土　ＹＰ粒φ２～10mm少量、ローム粒φ１mm前後、ロームブロックφ３～10mm少量含む。白色（軽石）粒やや多く含み、しまりはやや強く、粘性はやや弱い。
2.黄褐色土　ＹＰ粒φ２～15mmやや多く、ローム粒φ１mm前後、ブロックφ４～25mm少量含む。白色（軽石）粒はやや少なく、硬くしまり、粘性はやや悪い。（ハードローム層）やや掘りすぎ。

10号土坑
1.暗褐色土　ＹＰ粒φ２～３mm少量、ローム粒φ１mm前後、同ブロックφ３～20mm少量含む。白色（軽石）粒は少なく、しまりはやや強く、粘性はやや弱い。
2.暗褐色土　(1)よりもやや明るい。ＹＰ粒φ２～４mm少量、ロームブロックφ２～15少量含む。白色（軽石）粒は少量、しまりはやや強く、粘性はやや弱い。
3.黄褐色土　ハードロームが少量入り込んでいる。ＹＰ粒φ３～５mm少量、しまりは比較的良く、粘性はやや弱い。

12号土坑
1.黒褐色土　ＹＰ粒φ１～10cm少量、ローム粒φ１cm位、ロームブロックφ２～50cm、大きさ、まちまちのものが、上部、下部、隔てなく、やや多く入り込んでいる。炭化材φ１～８cm位のもの、白色（軽石）粒少量含み、しまりはややあり、粘性はやや弱い

13号土坑
1.黒褐色土　ＹＰ粒φ２～10cm少量、ロームブロックφ２～70cmやや多く含む。しまりは弱く、粘性は比較的強い。（非常に軟弱で、指で押すとすぐへこむ）所々に草木根痕あり

第308図　1～7・9～15号土坑

第２項　土坑

縄文時代に属する土坑は、合計22基で、前期の遺構も確認されているが中期が主体となっている。形状は、円形・楕円形・不整形に大別され、概ねしっかりとした掘り込みとなっている。

２号土坑　　黒浜式　　１は、深鉢の底部片である。文様は羽状縄文（ＲＬ、ＬＲ）を施文し、底面は研磨が施される。胎土は片岩を多量に含み、焼成は普通で、色調は黄褐色である。

９号土坑　　加曽利Ｅ３式　　１は、深鉢の胴部片である。文様は太沈線で懸垂文を施し、その間に縄文（ＲＬ）が施文され、内面に研磨が確認される。胎土は砂粒を含み、焼成は普通で、色調は灰褐色である。

11号土坑　　加曽利Ｅ３式　　１は、深鉢の胴部上半で、1/3の残存である。胴部は外傾し、文様は口縁部に沈線を１条施し、胴部に蕨手状懸垂文と逆Ｕ字状懸垂文をセットで４単位施す。懸垂文の上端には円形刺突を付す。内面は撫でが施される。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は普通で、色調は灰褐色である。

２は、深鉢の口縁部～胴部片である。口縁部が内湾する波状口縁で、文様は渦巻文と楕円区画文で口縁部文様帯を構成し、胴部に３本の沈線と蛇行沈線で懸垂文を施す。口縁部区画内は縄文（ＲＬ）が充填されるが胴部には施されない。内面は研磨される。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

３は、深鉢の口縁部片である。平縁で、文様構成は１と同じだが、楕円区画内を縦位の沈線で充填している。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

４は、深鉢の胴部片である。文様は沈線による懸垂文間に縄文（ＲＬ）を充填し、更に垂沈線は上端が蕨手状となっている。内面に研磨が施される。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

12号土坑　　加曽利Ｅ３式　　１は、深鉢の胴部片である。文様構成は３本の沈線の懸垂文間に縄文（ＲＬ）を充填施文する。内面には撫でを施す。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で色調は黄褐色である。

２は、深鉢の胴部片である。文様は胴部施文帯（縄文ＲＬ）に、１本の沈線懸垂文を施す。内面は研磨する。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。

第３項　遺構外出土遺物

本項では、表採などの遺構に伴わない遺物を取り扱った。１は草創期終末から早期初頭、２は早期？、３は十三菩提式？、４・５は加曽利Ｅ３式である。６は石棒の破片で西野牧小山平遺跡生産品と見られる。

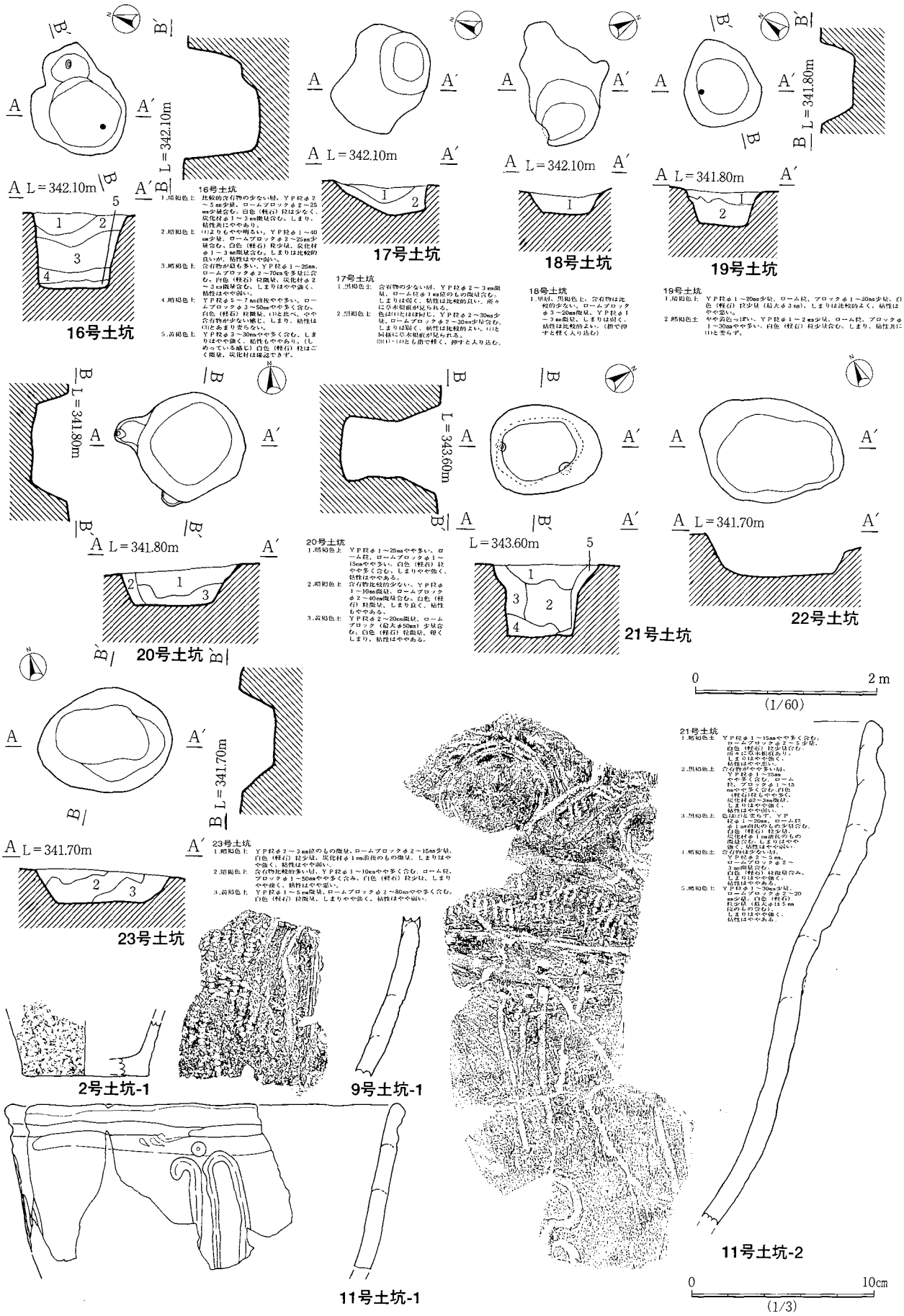
１は、尖底深鉢の口縁部片である。文様は楕円押型文を口縁部に横位、以下は縦位に密接施文する。内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は淡褐色である。

２は、深鉢の胴部片で、貝殻腹縁文の刺突と思われる文様を斜位に施す。胎土は繊維、細砂粒を少量含み、焼成は普通で、色調は暗褐色である。

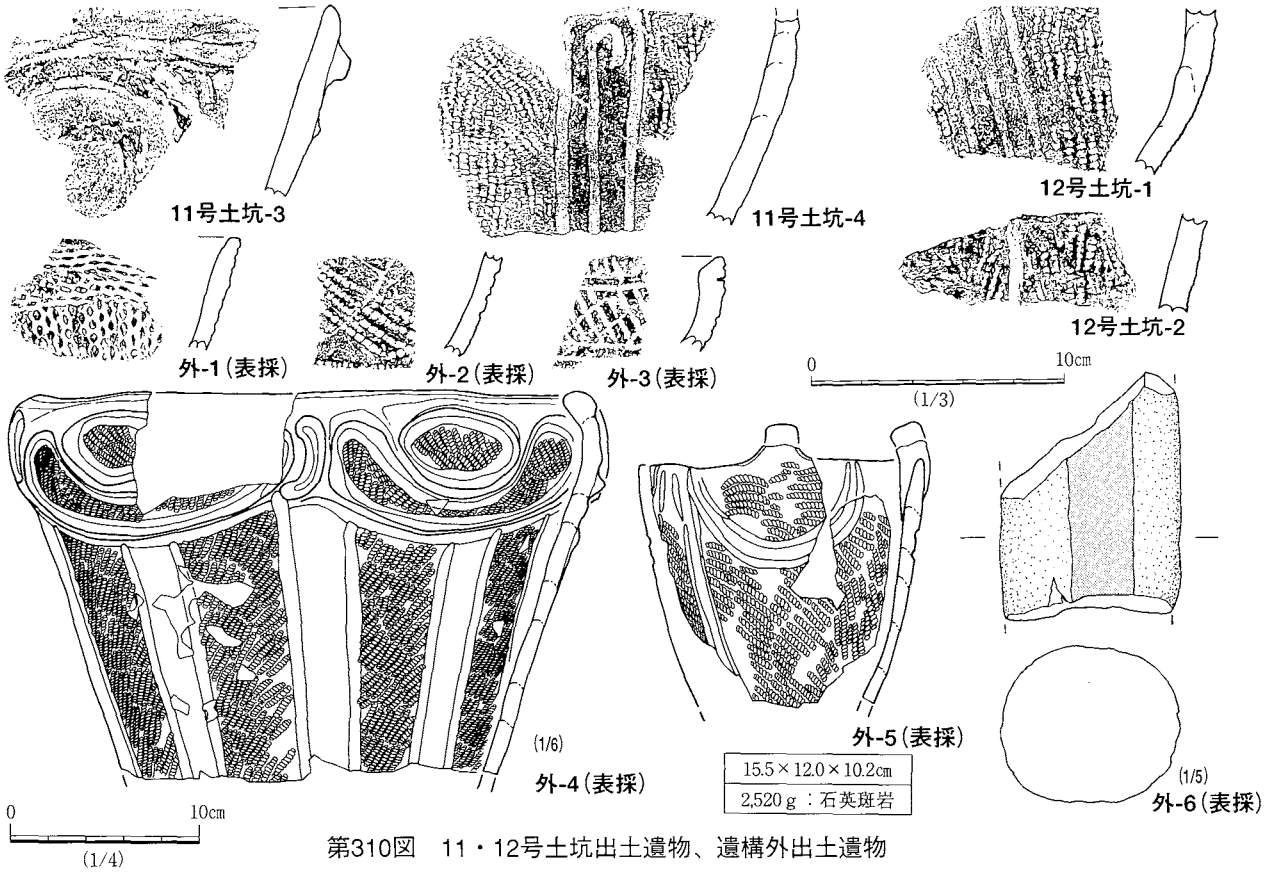
３は、深鉢の口縁部片である。口唇部は内傾し、内面は肥厚する。口縁部から斜位に半截竹管で強い並行線を施し、さらに格子状になるように細い平行沈線を施文する。この後、口縁部に沿って半截竹管による平行沈線を巡らす。胎土は細砂粒を少量含み、焼成は普通で、色調は黄土色である。

４は、深鉢の胴部上半で、1/2の残存である。口縁部は内湾し、口縁部に隆帯と沈線で渦巻文と楕円区画文を構成し、胴部に幅広の懸垂無文帯を施す。内面は撫でる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黄褐色である。

５は、小形の深鉢の胴部上半で1/4の残存である。胴部が直線的に開き、口縁には山形の突起を付す。斜縄文（ＲＬ）を地文に、２本の沈線で懸垂文と弧線文を施し、沈線間の縄文を磨り消す。内面に粗い研磨が見られる。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好で、色調は黒褐色である。



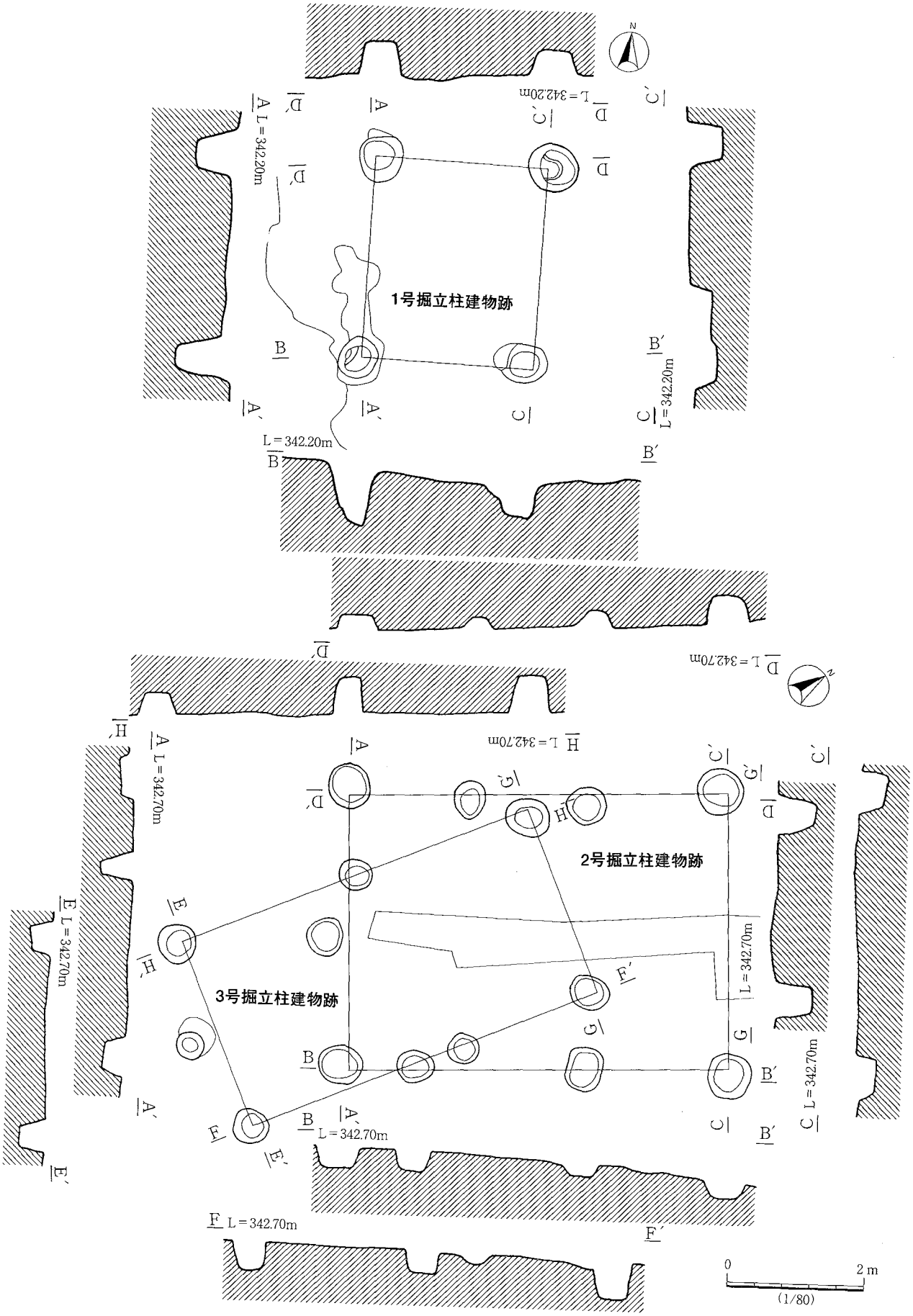
第309図　16～23号土坑、2・9・11号土坑出土遺物



第310図　11・12号土坑出土遺物、遺構外出土遺物

第24表　縄文時代土坑一覧表

土坑番号	位置	平面形態	規模 長軸×短軸×深さ(cm)	主軸方向	断面形	備考
1	パイロット道路部分	不整形	249×116×30	N－75°－E	凹面有	
2	パイロット道路部分	不整形	312×120×44	N－78°－W	凹面有	
3	パイロット道路部分	方形	100×96×15	N－60°－W	皿状	
4	パイロット道路部分	円形	114×105×40	N－30°－E	凵状	
5	パイロット道路部分	円形	152×120×18	N－58°－E	皿状	
6	パイロット道路部分	不整形	148×102×38	N－32°－E	U状	1号住居内
7	Va-45・46、Vb-45・46グリッド	不整形	100×70×53	N－70°－E	凵状	
9	Cj－44 グリッド	不整形	127×100×40	N－89°－W	凹面有	
10	Ch－45 グリッド	円形	130×123×14	N－29°－E	皿状	
11	Ch－45 グリッド	円形	70×65×15	N－65°－W	皿状	
12	Ch－45 グリッド	円形	101×96×33	N－18°－W	凵状	
13	Ci－45 グリッド	方形	178×83×40	N－10°－W	袋状	15号土坑と重複する
14	Cg－45 グリッド	円形	176×126×(28)95	N－76°－E	袋状	14号土坑と重複する
15	Cg－45 グリッド	円形	176×126×95	N－76°－E	凵状	
16	Cg－45 グリッド	不整形	118×98×84	N－60°－E	凵状	
17	Ch－45 グリッド	不整形	113×80×31	N－90°－W	U状	
18	Ch－45 グリッド	不整形	135×76×24	N－68°－W	皿状	
19	Ch－46 グリッド	円形	95×83×37	N－38°－E	U状	
20	Ch－46 グリッド	円形	143×118×40	N－65°－W	凵状	
21	Cj－49 グリッド	楕円形	120×95×106	N－34°－E	袋状	
22	Ch－46 グリッド	楕円形	160×114×45	N－40°－W	U状	
23	Ch－46 グリッド	楕円形	147×113×38	N－84°－W	皿状	



第311図　1・2・3号掘立柱建物跡

第２節　古代

本調査区からは、古代に属する掘立柱建物跡・土坑・溝状遺構が検出されている。いずれも調査区の北側に偏在することより、遺構は更に北側へ広がるものと推定される。

第２項　掘立柱建物跡

掘立柱建物跡は、合計７棟で、調査区の北部分に偏在して確認されている。

建物跡は、小規模なものを主体としており、本時期において基幹となる遺構である。付近よりは瓦が多量に出土していることにより、瓦を伴う遺構は今回の調査では確認されていないが、掲載した建物跡はそれらに付属するもの、あるいは機能の一部を担うものの可能性が指摘される。規模は、１間×１間が３棟、２間×１間が４棟で、桁行は3.0～5.7ｍ（10～19尺）、梁行は2.4～3.9ｍ（８～13尺）を測る。主軸方向は、いずれも南北棟の側柱式で、柱穴は比較的規則的に配されていた。

１号掘立柱建物跡（第311図）

位置　／Ｃｉ－45・Ｃｊ－45グリッドに位置する。　**切り合い関係**　／なし。　**形態**　／桁行１間、梁行１間の平面規格を持つ。形状は桁・梁とも各辺の寸法が一致する完全な長方形となっている。　**主軸方向**　／Ｎ－５°－Ｗ。　**規模**　／桁行の全長3.0ｍ（10尺）、梁行の全長2.4ｍ（８尺）を測る。　**柱穴**　／規則的に配置される。柱掘り方はいずれも楕円形で、長径60～76㎝、深さ34～80㎝である。　**遺物**　／なし。

２号掘立柱建物跡（第311図）

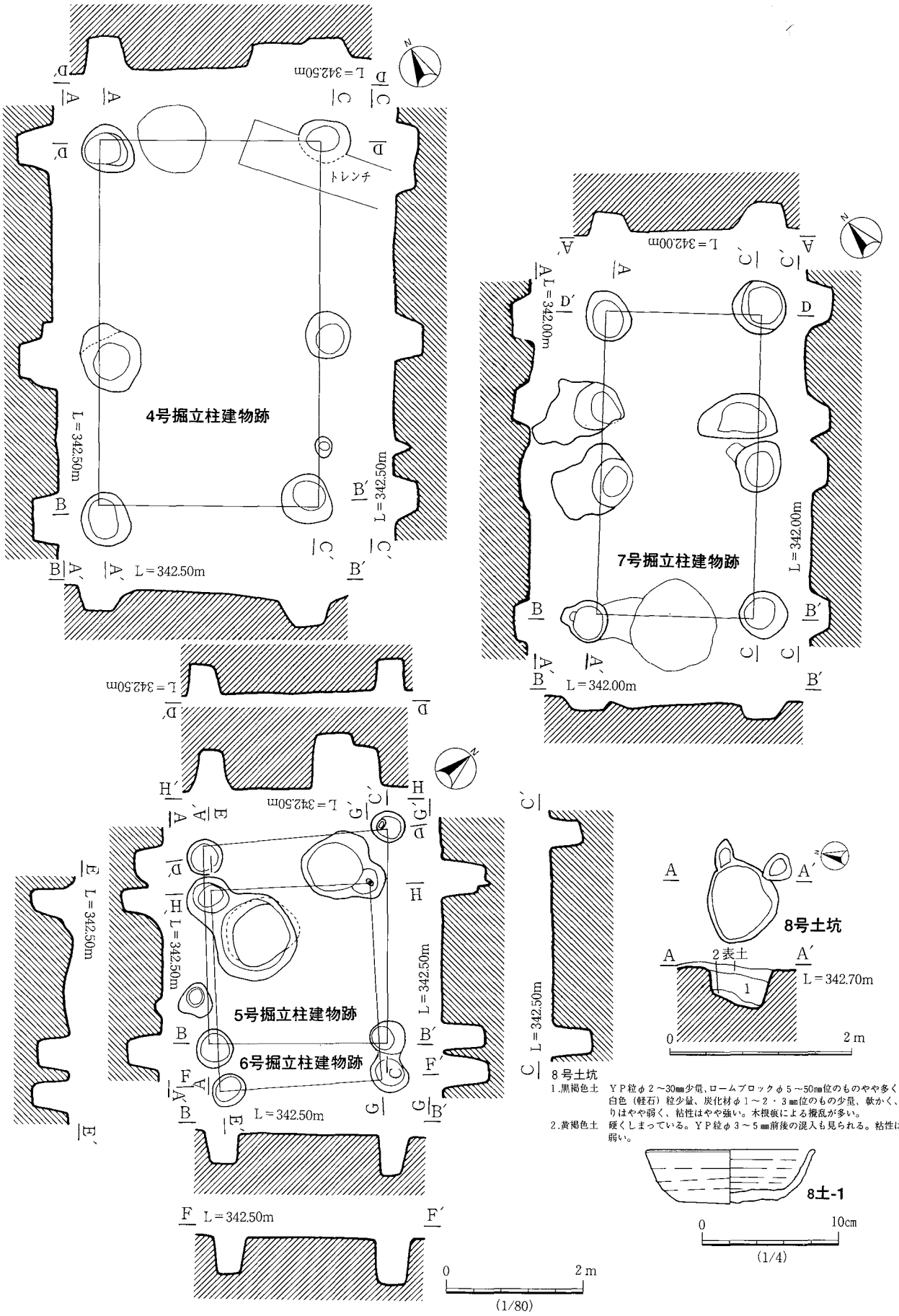
位置　／Ｃｇ－44・Ｃｈ－44グリッドに位置する。　**切り合い関係**　／３号掘立柱建物跡と重複し、前後関係は不明である。　**形態**　／桁行２間、梁行１間の平面規格を持つ南北棟である。形状は桁・梁とも各辺の寸法が一致する完全な長方形となっている。　**主軸方向**　／Ｎ－30°－Ｅ。　**規模**　／桁行の全長5.7ｍ（19尺）、梁行の全長3.9ｍ（13尺）を測る。　**柱穴**　／配置はやや規則的である。柱掘り方は楕円形で直径56～66㎝、深さ14～54ｍである。　**遺物**　／なし。

３号掘立柱建物跡（第311図）

位置　／Ｃｇ－44・Ｃｈ－44グリッドに位置する。　**切り合い関係**　／２号掘立柱建物跡と重複し、前後関係は不明である。　**形態**　／桁行２間、梁行１間の平面規格を持つ南北棟である。形状は桁・梁とも各辺の寸法が一致する完全な長方形となっている。　**主軸方向**　／Ｎ－８°－Ｅ。　**規模**／桁行の全長5.4ｍ（18尺）、梁行の全長3.0ｍ（10尺）を測る。　**柱穴**　／配置は規則的である。柱掘り方は楕円形で、長径44～66㎝、深さ32～52㎝である。　**遺物**　／なし。

４号掘立柱建物跡（第312図）

位置　／Ｃｈ－44・45グリッドに位置する。　**切り合い関係**　／なし。　**形態**　／桁行２間、梁行１間の平面規格を持つ南北棟である。形状は桁・梁とも各辺の寸法が一致する完全な長方形となっている。　**主軸方向**　／Ｎ－30°－Ｅ。　**規模**　／桁行の全長5.4ｍ（18尺）、梁行の全長3.3ｍ（11尺）を測る。　**柱穴**　／配置はやや乱れている。柱掘り方は楕円形で、長径67～89㎝、深さ34～54㎝である。　**遺物**　／なし。



第312図　4・5・6・7号掘立柱建物跡、8号土坑・出土遺物

5号掘立柱建物跡（第312図）

位置　／Ｃｇ－45グリッドに位置する。　切り合い関係　／６号掘立柱建物跡、14・15号土坑と重複し、前後関係は不明である。　形態　／桁行１間、梁行１間の平面規格を持つ。形状は桁の両辺の寸法は一致せず、全体に西辺がやや短い略台形状である。　主軸方向　／Ｎ－47°－Ｗ。　規模　／西辺の桁行の全長3.0ｍ（10尺）、東辺は3.3ｍ（11尺）、梁行の全長は南・北ともに2.7ｍ（９尺）を測る。　柱穴　／配置はやや乱れており、柱掘り方は楕円形で、長径47～54㎝、深さ48～61㎝である。　遺物　／なし。

6号掘立柱建物跡（第312図）

位置　／Ｃｇ－45グリッドに位置する。　切り合い関係　／５号掘立柱建物跡、14・15号土坑と重複し、前後関係は不明である。　形態　／桁行１間、梁行１間の平面規格を持つ南北棟である。形状は桁・梁とも各辺の寸法が一致する完全な長方形である。　主軸方向　／Ｎ－50°－Ｗ。　規模　／桁行の全長3.0ｍ（10尺）、梁行の全長2.4ｍ（８尺）を測る。　柱穴　／ほぼ規則的に配置され、柱掘り方は楕円形で、長径50～58㎝、深さ54～65㎝である。　遺物　／なし。

7号掘立柱建物跡（第312図）

位置　／Ｃｈ－45・46グリッドに位置する。　切り合い関係　／８号土坑と重複するが、前後関係は不明である。　形態　／桁行２間、梁行１間の平面規格を持つ南北棟である。形状は桁・梁とも各辺の寸法が一致する完全な長方形である。　主軸方向　／Ｎ－42°－Ｅ。　規模　／桁行の全長4.5ｍ（15尺）、梁行の全長2.4ｍ（８尺）を測る。　柱穴　／ほぼ規則的に配置され、柱掘り方は楕円形で、長径58～76㎝、深さ22～38㎝である。　遺物　／なし。

第３項　土坑

8号土坑（第312図）

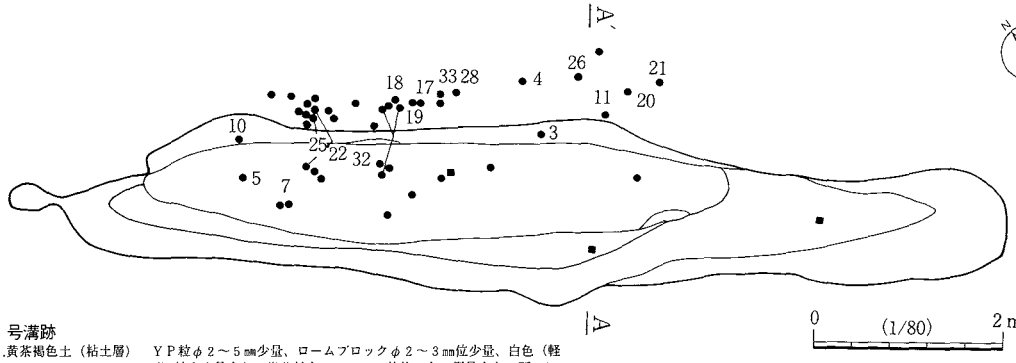
位置　／Ｃｈ－45グリッドに位置する。　切り合い関係　／７号掘立柱建物跡と重複するが、前後関係は不明である。　形態　／楕円形で、東側に小ピットが確認される。断面形状は凵状である。　主軸方向　／Ｎ－71°－Ｅ。　規模　／上端の長計85㎝、短計80㎝、深さ45㎝を測る。　覆土　／炭化材の混入が確認される。　遺物　／土師器の坏が出土している。

出土遺物

１は、須恵器の坏の完形品である。体部は内湾しながら立ち上がり、下端に丸みを帯びる。口径は12.4㎝、底径は7.4㎝、器高は3.4㎝を測り、胎土は長石・石英を含み、色調は灰白色である。

第25表　古代土坑一覧表

土坑番号	位　置	平面形態	規　模 長軸×短軸×深さ（㎝）	主軸方向	断面形	備　考
8	Ch－45　グリッド	楕円形	85×80×45	Ｎ－71°－Ｅ	凵　状	須恵器坏出土



1号溝跡

1.黄茶褐色土（粘土層）　ＹＰ粒φ２～５㎜少量、ロームブロックφ２～３㎜位少量、白色（軽石）粒を少量含む。炭化材もφ１～２㎜前後のもの微量含む。所々に草木根痕あり。しまりはやや弱く、粘性は比較的良い。
※瓦の出土はこの層からのものが多い。粘土質の土層である。

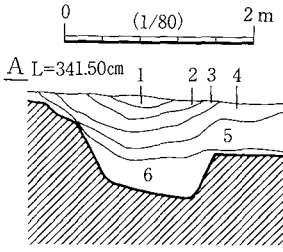
2.黒褐色土　含有物の大きさがだいたいそろっている層で、量的にも他のものと比べやや多い。ＹＰ粒φ１～10㎜、ロームブロックφ２～８㎜位少量、白色（軽石）粒を少量含む。炭化材φ１～10㎜少量含む。しまりはやや弱く、粘性は比較的良い。草木根痕が所々にみられる。

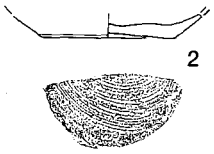
3.黄灰褐色土（粘土層）　１と比べやや黄色っぽい。ＹＰ粒φ２～20㎜やや多く含む。ローム粒少量、ロームブロックφ２～３㎜少量含む。白色（軽石）粒微量含み、しまりはやや弱く、粘性はややある。

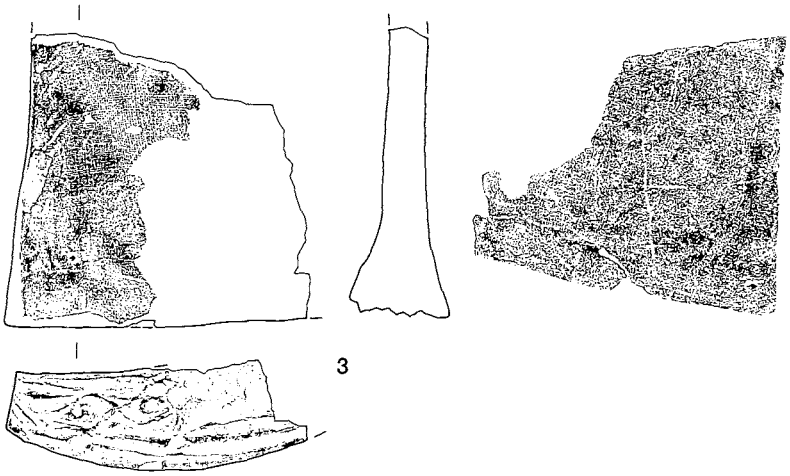
4.暗褐色土　ＹＰ粒φ１～３㎜位少量、白色（軽石）粒少量含む。ローム粒φ１～２㎜位のもの少量含む。炭化材φ１～20㎜位ものを少量、しまりはやや弱いか、粘性はややある。

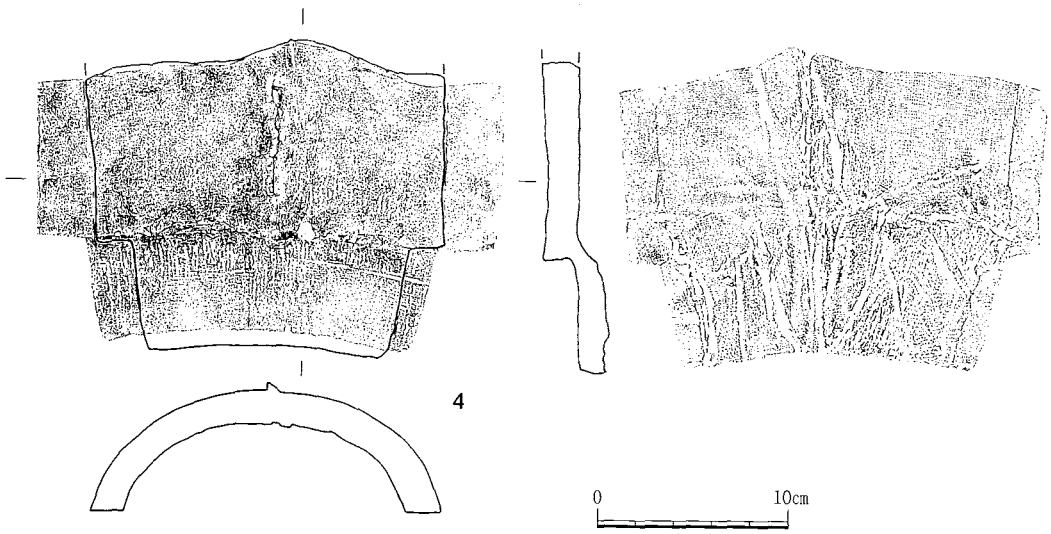
5.暗褐色土　４よりやや明るい。含有物の少ない層、ＹＰ粒φ３～５㎜微量、ローム粒φ１㎜前後少量含む。白色（軽石）粒を少量含み、しまりはやや強く、粘性はややある。

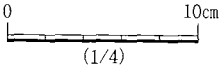
6.暗褐色土　ＹＰ粒φ２～５㎜少量、ロームブロックφ２～70㎜位のもの少量含む。所々、ローム層が見られる。白色（軽石）粒少量含む。しまりはやや強く、粘性はややある。











第313図　1号溝状遺構・出土遺物（１）

第３項　溝状遺構（性格不明遺構）

１号溝状遺構（第313図）

位置　／調査区北東端のＣｉ－48グリッドに位置する。遺構はほぼ平坦な地形上に立地する。　形態・規模　／本跡は、約32°西偏する東西溝で名称においては性格不明遺構とした方が適切かもしれない。確認現長は10.5ｍを計測し、幅広の形状を示す。規模は、上端幅1.76ｍ、下端幅1.0ｍで、東部より緩やかに落ち込み、西側へかけて深くなる。西側の部分が最も深く、検出面よりの深さは1.0ｍ前後を計り、基底面のレベルは概ね一定している。一方、東部は浅く、30cm程である。断面は開いた凵状を基本として、南側に浅い掘り込みが見られ肩を持つ。　覆土　／レンズ状に６層の堆積が確認される。特に１・２層の黄褐色土層、黒褐色土層中には瓦の出土が確認される。量的には１層中が最も多い状況であった。調査にあたっては溝状遺構あるいは性格不明遺構として認識しているが、形状及び瓦の出土位置から判断して、瓦を伴う遺構の関連施設か、また逆に、瓦の層位的な出土位置から判断して、関連しない別遺構とも考えられる。いずれにしろ北部に瓦を伴う遺構の存在が指摘される。　遺物　／須恵器の坏と多量の瓦が覆土上層及び周辺から出土し、瓦溜状を呈している。

出土遺物

１は、須恵器の坏の口縁部片である。体部は内湾し、口縁部は外反する。体部はロクロ調整が施される。口径は12.0cmで、胎土は細砂粒・黒色鉱物粒・白色粒を含み、色調は灰色である。

２は、須恵器の坏で、1/2の残存である。底部は回転糸切りで、ロクロ調整が施される。底径は7.0cmで、胎土は細砂粒・黒色鉱物粒を含み、色調は灰白色である。

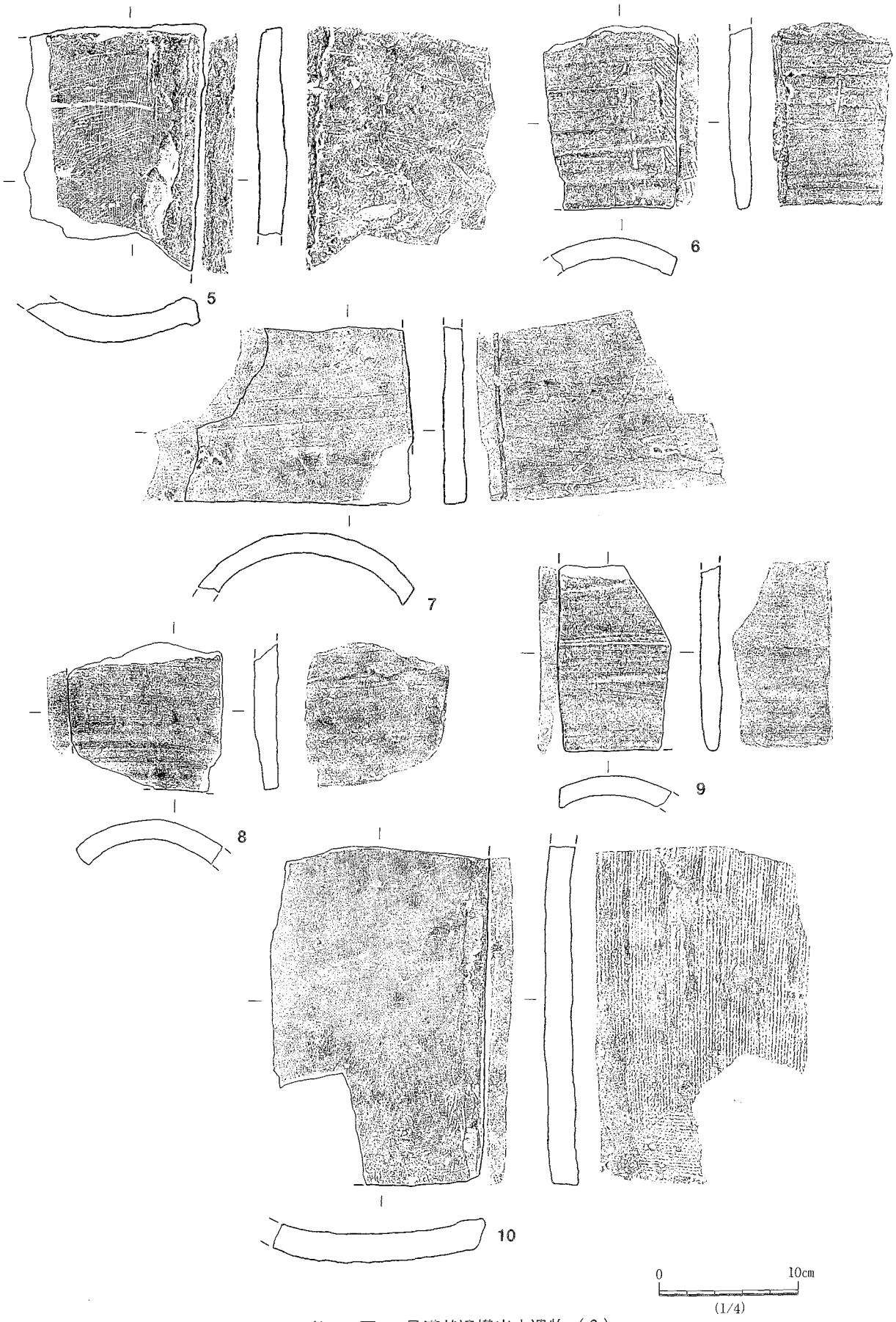
３は、軒平瓦の瓦当部左端である。凹面は布目圧痕が確認され、広端部にヨコ撫で、凸面はヨコ撫での後、一部縦撫でが施される。側面は縦撫でが施され、凹面側に面取りが為される。瓦当面は笵の二度押しの為、文様がはっきりしない。上野国分寺のＰ301と同笵の可能性がある。胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は表面は灰白色、断面は淡褐色である。

４は、丸瓦の玉縁部である。凹面に布目圧痕が残り、布の閉じ合わせ面を有する。凸面は縦方向の縄叩きの後、全面にヨコ撫でが施され、中央に重ね焼きの痕跡が見られる。側面は縦撫でが施され、面取りは為されていない。狭端面は円周方向に撫でを施す。焼き歪みの為か、上下につぶれた形態をしている。玉縁長は5.4cm、厚さは1.8cmで、胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は灰から暗褐色である。

５は、平瓦の広端部左隅である。凹面に糸切り痕、布目圧痕が見られ、広端にヨコ削り、側端に粗い撫でが施される。凸面は粗い不整方向の撫で、側面は粗い縦撫でが施され、側面の凸面側に面取りが為される。広端面に粗いヨコ撫でが見られ、全体的に粗い整形が為されている。厚さは1.8cmで、胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は灰色である。

６は、丸瓦の広端部右隅である。凹面の全面にヨコ撫で、極一部に布目圧痕が残る。凸面は全面にヨコ撫で、側面は縦撫でが施され、側面の凹・凸両面に極狭い面取りが為される。広端面は無調整である。厚さは1.4cmで、胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は灰白色である。

７は、丸瓦の広端部右隅である。凹面の全面にヨコ撫で、凸面も全面にヨコ撫でが施され、凸面の側端付近に木目圧痕が残る。側面は撫での後、一部に木目圧痕が見られ、凹面側に極狭い面取りが為される。広端面は凹、凸面と一体のヨコ撫でが施される。厚さは1.7cmで、胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は灰白色である。



第314図　1号溝状遺構出土遺物（2）

8は、丸瓦の玉縁部と思われる。凹面の全面にヨコ撫で、凸面も全面にヨコ撫でが施され、凸面の側端付近に細かい縦削りが施される。側面に縦削りが見られ、面取りは為されていない。狭端面は凹・凸面と一体の横撫でが施される。厚さは1.7㎝で、胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は表面は黒色、断面は灰白色である。

9は、丸瓦の広端部左隅である。凹面の全面にヨコ撫で、凸面も全面にヨコ撫でが施される。側面に縦撫でが見られ、凹面側に極狭い面取りが為される。広端面は凹・凸面と一体のヨコ撫でが施される。厚さは1.3㎝で、胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は灰白色である。

10は、平瓦の狭端部右隅である。凹面は糸切り痕、布目圧痕が見られ、側端に縦削り、狭端部に粗いヨコ削りが施される。凸面の全面に、縦方向（狭端付近のみ横方向）のローラー状の縄圧痕が確認され、離れ砂が残る。側面は縦削りが施され、凹面側に極狭い面取りが為される。狭端面は無調整で、一部に布目圧痕が残る。厚さは1.9㎝で、胎土は砂粒を含み、焼成は焼き締め、色調は暗灰色で、凸面には自然降灰が付着している。

11は、平瓦の狭端部左隅である。凹面は糸切り痕、布目圧痕が見られ、側端に縦削り、狭端部にヨコ削りが施され、離れ砂が残る。凸面はNo.10と同様の縦方向の縄圧痕が確認され、離れ砂が残る。側面は縦撫でが施され、面取りは為されていない。狭端面はヨコ撫でが施される。厚さは1.5㎝で、胎土は砂粒・黒色粒子を含み、焼成は良好で、色調は暗灰色である。

12は、平瓦の広端部右隅である。凹面は糸切り痕、布目圧痕が見られ、広端にヨコ削りが施される。凸面は細かい平行叩きが施される。平行叩きは摩滅の為不明瞭だが、矢羽根状と推測される。側面は縦撫での可能性があるが不明である。広端面はヨコ撫でが施される。厚さは1.6㎝で、胎土は多量の細粒と、赤色粒子を含み、焼成はやや甘く軟質で、色調は表面が灰白色、断面が淡褐色である。

13は、平瓦の部位不明の小破片である。凹面は不整方向の撫でが見られ、一部に布目圧痕が残る。凸面はNo.10と同じ特徴の縦方向の縄圧痕が全面に残り、離れ砂が確認される。厚さは1.9㎝で、胎土は砂粒を含み、焼成はやや甘く軟質で、色調は灰白色である。

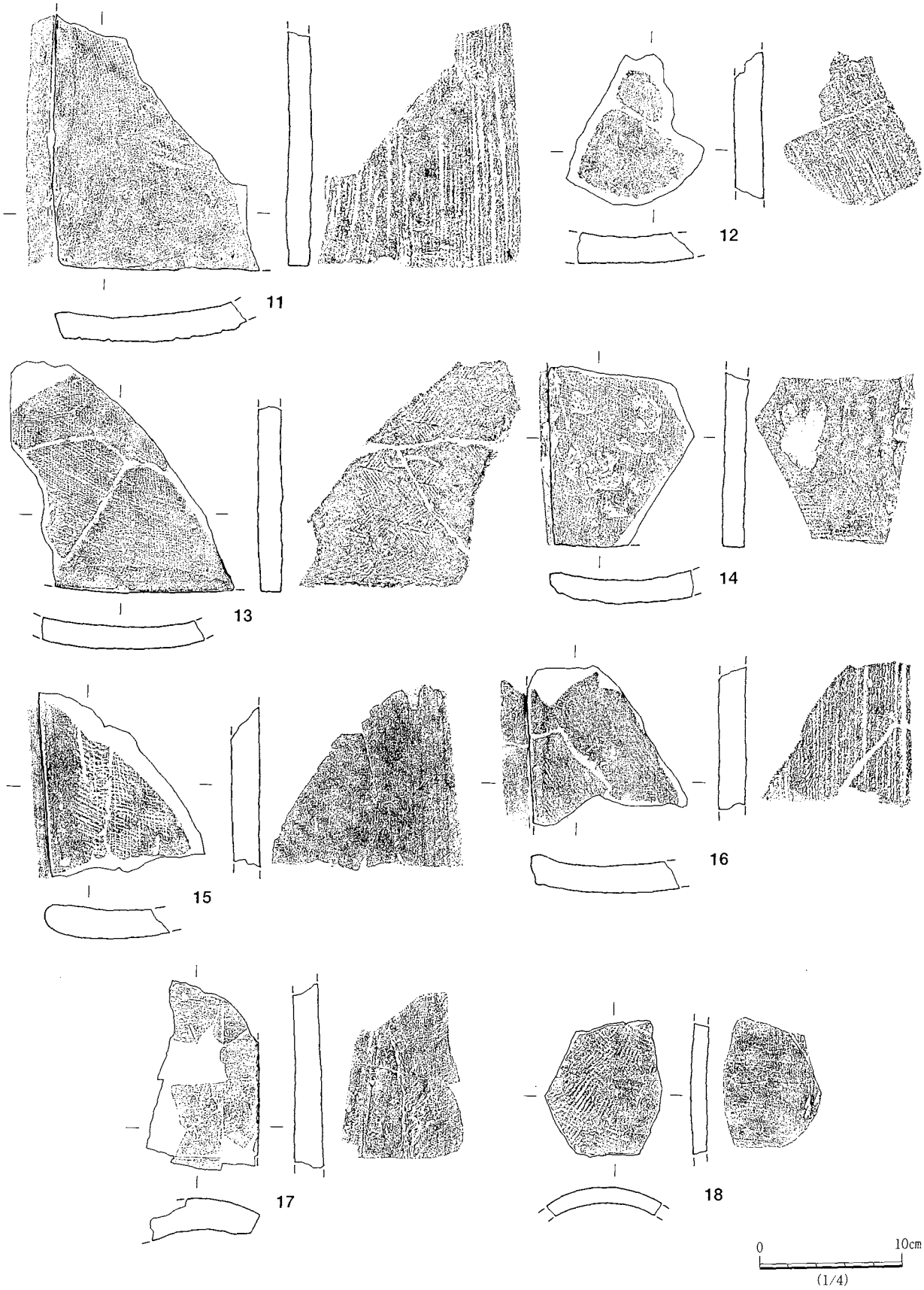
14は、平瓦の狭端部左隅である。凹面は糸切り痕、布目圧痕が見られ、凸面はNo.10と同じ特徴の縦方向（狭端部付近のみ横方向）の縄圧痕が残り、離れ砂が確認される。側面は縦撫でが施され、凹面側に面取りが為される。狭端面はヨコ削りが施される。厚さは1.6㎝で、胎土は砂粒を含み、焼成はやや甘く軟質で、色調は灰白色である。

15は、平瓦の側端部付近の小破片である。凹面は糸切り痕、粗い布目痕が見られ、側端付近に縦撫でが施される。凸面は全面に縦撫でが確認され、側面は凹・凸面と一体の縦撫でが施され、丸くなっている。厚さは2.2㎝で、胎土は砂粒を含み、焼成はやや甘く軟質で、色調は灰白色である。

16は、平瓦の側端部付近の小破片である。凹面は糸切り痕、布目圧痕が見られ、凸面はNo.10と同じ特徴の縦方向の縄圧痕が残り、側面は縦撫でが施され、凹面側に面取りが為される。厚さは1.9㎝で、胎土は砂粒を含み、焼成はやや甘く軟質で、色調は灰白色である。

17は、丸瓦の可能性のある側端部付近の小破片である。凹面は布目圧痕が見られ、布の綴じ合わせ面を有し、側端に縦削りが施される。凸面は全面にヨコ撫で、側面は粗い撫でが施される。厚さは1.8㎝で、胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は灰白色である。

18は、丸瓦の可能性のある部位不明の小破片である。凹面は全面にヨコ撫で、凸面は粗い撫での後、平行叩きが施される。厚さは1.0㎝で、胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は灰白色である。



第315図　1号溝状遺構出土遺物（3）

19は、丸瓦の可能性のある側端部付近の小破片である。凹面は全面にヨコ撫で、凸面は全面にヨコ撫で、一部に布目圧痕が見られる。側面は縦削りが施され、凹面側に極狭い面取りが為される。厚さは1.5㎝で、胎土は多量の砂粒を含み、焼成は良好で、色調は灰白色である。

20は、平瓦の側端部付近である。凹面は布目圧痕、凸面は全面に縦撫でが施される。側面は凸面と一体の縦撫でが施され、凹面側に面取りが為される。厚さは2.0㎝で、胎土は砂粒・黒色粒子を含み、焼成は良好で、色調は灰色である。

21は、平瓦の部位不明の小破片である。凹面は布目圧痕が残り、凸面は全面に縦撫でが施される。厚さは2.0㎝で、胎土は砂粒・黒色粒子を含み、焼成は良好で、色調は灰色である。

22は、平瓦の側端部付近である。凹面は布目圧痕が残り、側端に極狭い縦削りが施される。凸面は全面に縦撫で、側面は縦撫でが施され、凸面側に面取りが為される。厚さは1.2㎝で、胎土は砂粒・赤色粒子を含み、焼成はやや甘く軟質で、色調は表面が黒色、断面が灰白色である。

23は、平瓦の部位不明の小破片である。凹面は布目圧痕が残り、凸面は縦撫でが施される。厚さは1.8㎝で、胎土は砂粒・黒色粒子を含み、焼成は良好で、色調は灰白色である。

24は、平瓦の側端部付近の小破片である。凹面はNo.10と同じ特徴の縦方向の縄圧痕が残り、側面は縦撫でを施す。胎土は砂粒を含み、焼成はやや甘く軟質で、色調は灰色である。

25は、平瓦の側端部付近の小破片である。凹面は糸切り痕、布目圧痕が残り、側端に狭い縦撫でが施される。側面は縦削りが施され、面取りは為されていない。厚さは1.9㎝で、胎土は砂粒を含み、焼成はやや甘く軟質で、色調は灰から暗灰色である。

26は、平瓦の側端部付近の小破片である。凹面は糸切り痕、布目圧痕が残り、側端は縦削りが施される。凸面はNo.10と同じ特徴の縦方向の縄圧痕が見られ、離れ砂が残る。側面は縦撫でが施され、凹面側に布目圧痕が確認できる。厚さは1.8㎝で、胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は暗灰色である。

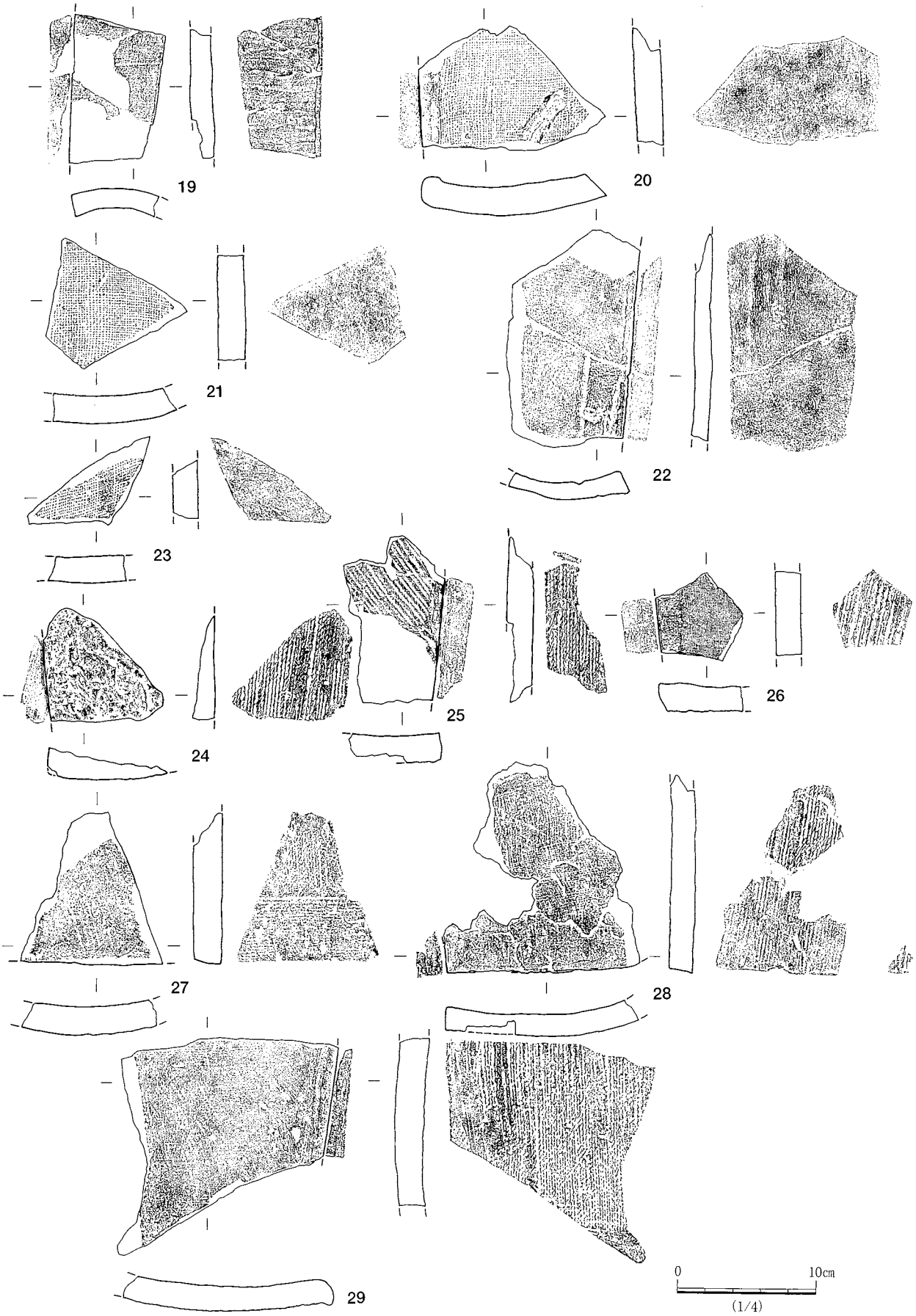
27は、平瓦の狭端部左隅である。凹面は糸切り痕、布目圧痕が残り、側端は縦撫で、狭端部にヨコ撫でが施される。凸面はNo.10と同じ特徴の縦方向の縄圧痕が見られ、離れ砂が残る。厚さは1.8㎝で、胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は黒灰色である。

28は、平瓦の側端部付近の小破片である。凹面は糸切り痕、布目痕が残り、凸面はNo.10と同じ特徴の縦方向（端部付近は横方向）の縄圧痕が残る。端面はヨコ撫で施され、摩滅が激しく調整は不明である。厚さは2.0㎝で、胎土は細砂・赤色粒子を含み、焼成は甘く軟質で、色調は淡褐色である。

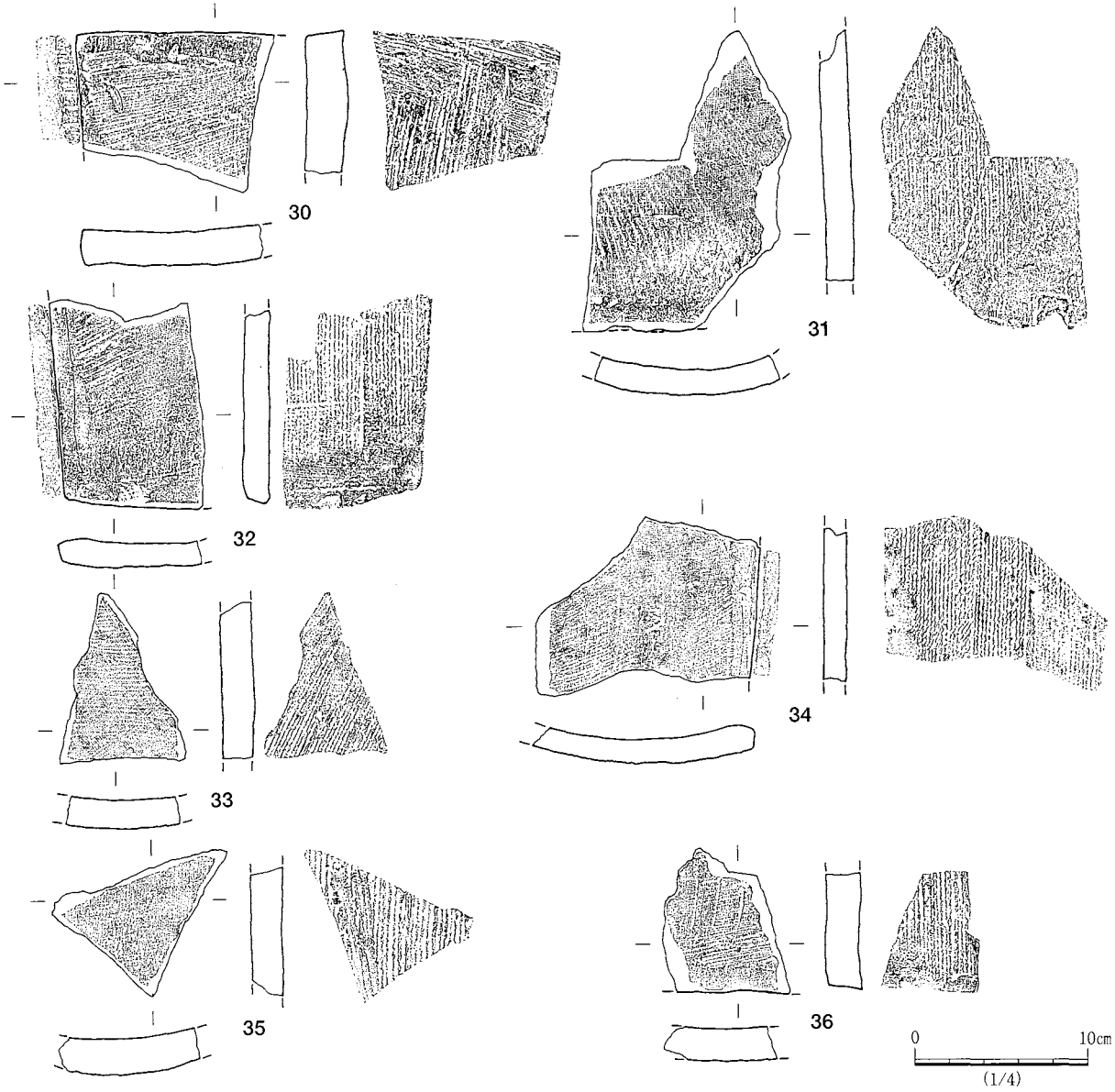
29は、平瓦の側端部付近である。凹面は布目圧痕が残り、凸面はNo.10と同じ特徴の縦方向の縄圧痕が見られ、離れ砂が残る。側面は縦方向の撫でが施され、凹・凸両面の面取りが確認される。厚さは2.1㎝で、胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は赤紫色である。

30は、平瓦の広端部左隅である。凹面は糸切り痕、布目圧痕が残り、側端に縦削り、広端にヨコ削りが施される。凸面は糸切り痕、No.10と同じ特徴の縦方向の縄圧痕が見られ、離れ砂が残る。側面は縦削り、広端面はヨコ削りが施される。厚さは2.0㎝で、胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は赤紫色である。

31は、平瓦の端部付近である。凹面は糸切り痕、布目痕が残り、端部にヨコ撫でが施される。凸面はNo.10と同じ特徴の縦方向の縄圧痕が見られ、離れ砂が残る。端面はヨコ削りが施される。厚さは1.6㎝で、胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は赤紫色である。



第316図　1号溝状遺構出土遺物（4）



第317図　１号遺構状遺構出土遺物（５）

32は、平瓦の狭端部左隅である。凹面は糸切り痕、布目圧痕が残り、側端に縦削りが施される。凸面はNo.10と同じ特徴の縦方向の縄圧痕が見られ、離れ砂が残る。側面は縦削りが施され、凹面側に面取りが為される。狭端面はヨコ削り、一部に布目圧痕が確認され、凹面側に面取りが為される。厚さは1.6cmで、胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は淡褐色である。

33は、平瓦の側端部付近である。凹面は糸切り痕、布目痕が残り、凸面はNo.10と同じ特徴の縦方向の縄圧痕が見られ、離れ砂が残る。側面は縦削り、凹面側に面取りが施される。厚さは1.4cmで、胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は赤褐から赤紫色である。

34は、平瓦の部位不明の小破片である。凹面は糸切り痕、布目痕が残り、凸面はNo.10と同じ特徴の縦方向の縄圧痕が見られ、離れ砂が残る。厚さは1.8cmで、胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は赤紫色である。

35は、平瓦の端部付近である。凹面は糸切り痕、布目痕が残り、端部付近にヨコ削りが施される。凸面はNo.10と同じ特徴の縦方向の縄圧痕が見られ、離れ砂が残る。端面はヨコ削りが施される。厚さは1.9cmで、胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は赤紫色である。

36は、平瓦の部位不明の小破片である。凹面は布目圧痕が残り、凸面はNo.10と同じ特徴の縦方向の縄圧痕が見られ、離れ砂が残る。厚さは1.7cmで、胎土は砂粒を含み、焼成は良好で、色調は赤紫色である。

調査の成果

行田梅木平遺跡は、西横野丘陵に位置し、北には碓氷川が関東平野へ向け東流する。遺跡の立地する丘陵上の地勢は、西から東へかけて緩やかに高度を減じるが、肉眼ではほぼ平坦な安定した地形で、太古より人々の生活には適していたと見られ、様々な遺構・遺物が検出されている。本稿においては、これら得られた調査の成果を確認しまとめとしたい。

調査の成果

本遺跡は、約２年半に及んだ発掘調査により、縄文時代、弥生時代、平安時代の各時代の長きに亘り営まれた複合遺跡であることが明らかとなった。

縄文時代では、遺構は伴わなかったものの西部調査区より草創期終末から早期初頭に位置づけられる押型文系の土器を最古としている。遺構としては前期、黒浜式・諸磯式の住居跡・土坑、中期の住居跡・土坑、後期の住居跡・土坑・配石墓群を主体とし、特に中期末から後期へかけて検出された配石墓群は、別項において問題点を整理したが本遺跡を特長づける遺構となっている。

弥生時代においては、東海地方西部の前期水神平式の遺構が調査され、埋設土器として取り扱った。遺構の性格については、再葬墓などの可能性が指摘されるが、これと同時期の遺構は調査区内からは検出されていない。本遺構は調査区際の検出である為この点を考慮し、今後、遺跡隣接地の調査成果に期待したい。なお、周辺の遺跡に目を向けると、関越自動車道上越線に伴う事前調査が行われた本遺跡より藤岡側の八城二本杉東遺跡において、時期は下るものの後期の遺構が発見されており、弥生時代の人々にとって活動範囲であったことが窺われる。

古代では、平安時代の住居跡・掘立柱建物跡を中心として構成される集落跡が確認されている。これらの遺構に出土遺物より年代を与えると、９世紀第４四半期から10世紀第１四半期の範疇に集中し、更に各住居跡・掘立柱建物跡などの切り合い関係、配置状況から推し量って少なくとも２時期以上に細分されるものと考えられる。古代において特筆される問題点は、東部調査区の31号住居跡で出土した漆が付着した土器である。この遺物は、永嶋正春国立歴史民俗博物館助教授の鑑定で、漆のパレットとして用いられたことが明らかとなり、周辺に漆工房の存在する可能性が示唆される。また、西部調査区からは、軒丸瓦・丸瓦・平瓦が多量に出土し、このなかには上野国分寺と同笵の瓦が確認される。瓦が出土している西部調査区の１号溝状遺構は、調査区北端に位置していることより、更に出土範囲は広がるものと想定される。調査区の北はほぼ平坦な地形であり、瓦を伴う何らかな施設の存在する可能性は高いものと想像される。更に、東部調査区からはこれと関連するものであろうか『寺』と記された墨書土器も出土している。本遺跡より碓氷川を越えた軽井沢側には緑釉陶器や円面硯をはじめとして多量の同時期の遺物が出土した五料平遺跡や東山道坂本駅と推定され話題を集めた原遺跡など平安期の遺跡が点在し、注目される地域でもある。

今回の調査は、幅約50ｍ、長さ約１㎞に及ぶ細長い調査区の設定であり、いわば巨大なトレンチといった様相を呈している。従って検出された遺構は、更に広がりを持つことは明らかであり、広大な遺跡の一部を調査したと位置づけられる。

※スクリントーンで表したのが
個別の列石構築状況である。

第318図　1号配石墓群構築状況図

配石墓群について

行田梅木平遺跡において特筆される遺構は、３群が確認された配石墓群である。配石遺構は、縄文時代の人間生活のなかである目的を持って、多数の石により構築された遺構である。この目的については「墳墓説」・「祭祀説」などの諸説があり、論争の起こるところであるが、縄文時代の精神文化を物語る遺跡であることは周知のことであろう。本遺跡は、調査時から縄文時代の精神構造をさぐる遺跡として注目され、また、先達て出版された『縄文時代研究事典』においても本遺跡は配石墓群を伴う遺跡として紹介されている。

配石墓群は、東部調査区から検出されたもので、３群のうちの１号は調査区外への広がりが窺われ、規模は更に大きくなると推測される。一方、３号に関しては全容を知り得る状況で、上部配石である列石と下部配石である墓坑により構成されている。なお、配石墓が読んで字の如く墓であるかは、パリノ・サーヴェイ㈱に委託した土壌分析に依らねばならないが、脱稿時には分析が終了しておらず形状から墓と判断して記述した。分析結果は関越自動車道関連遺跡を集めた科学分析編に収録している。

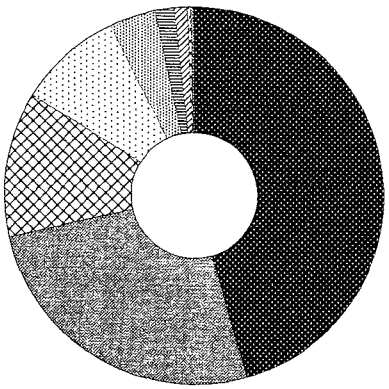
上部配石の構造

上部配石である列石については、１号配石墓群は、南側が調査区外となり未調査であるが、３群のなかでは一番大規模な構築で、約3400個の礫を使用しての構築であった。２号配石墓群では、約400個の礫を使用し、全周約35ｍの弧状列石が構築されている。３群のなかでは規模的に一番小さいが、緻密さが感じられる整然とした構築状況であった。３号配石墓群では、約500個の礫を使用して、全周約40ｍの弧状列石が構築されている。これらに使用された礫は、少量の流紋岩と板状の安山岩を含むものの、大多数は偏平で丸みを持った輝石安山岩で占められている。各配石墓群の使用された礫の規模を重さにより表したのが円グラフであり、これによると重さ10kg以下の礫の使用が最も多く全体を見ると１号で約71％、２号で約35％、３号で約66％にあたっている。使用された礫は石材鑑定の結果、本遺跡の北に東流する碓氷川より持ち込まれたものであり、比較的容易に運搬可能な重さのものを使って列石を構築したと解釈される。構築にあたっては全体に弧状で、所謂三日月状を呈しているが、１号配石墓の構造を細分して見ると、第318図に示した通り、小規模ないくつかの弧状ないし環状列石の集合体であることが判る。１号は使用された礫数も他の配石墓群と比べて圧倒的に多く、出土遺物からも時間幅が窺われ、長期間に亘って構築された結果であることが明らかとなっている。一方、２・３号について、特に２号配石墓群は、構築方法が他とは明らかに相違し、整地作業を行った上規則正しく整然とあたかも石垣状に列石を配しており、緻密さが感じられる構築であった。出土遺物も一時期に集中していることより１号とは対照的に短期間で作られたものと考えられる。

また、この上部配石である列石は、下部配石である配石墓の上を覆っているものであり、所々に立石が確認される。概して立石の下には配石墓が位置しているなど、偶然の所産と考えるには不自然であり、下部の墓坑を意識して列石を構築しているものと捉えられた。

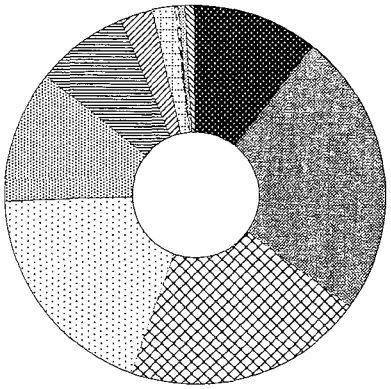
配石墓の構造

列石の下部に検出された配石墓は、いくつかの形態に分類が可能である。詳細については第３項において述べた様に、大まかに分けると石棺型と墓坑の長軸線上の両端に２個の枕石を配した枕石型の配石墓、配石を伴わない墓坑とに大別される。石棺型については構築方法や蓋石の有無で更に細分されるが、蓋石は、１－３号墓では移動が確認されることから、抜き取られ調査時においては遺存しないものも存在すると考えられる。各配石墓群から検出された石棺型を構築した礫の規模は、棒グラフで示した通りで、使用された礫の大きさは列石と同様な状況にある。



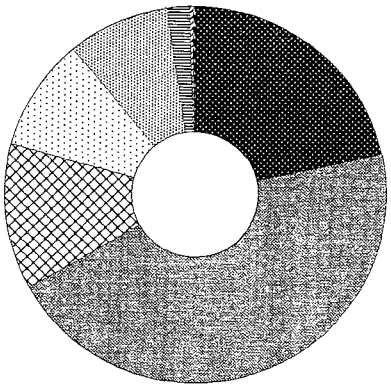
1号配石墓群

- 0～1㎏未満 （45．6％）
- 1以上～10㎏未満 （25．7％）
- 10以上～20㎏未満 （12．5％）
- 20以上～30㎏未満 （ 8．9％）
- 30以上～40㎏未満 （ 4．0％）
- 40以上～50㎏未満 （ 1．7％）
- 50以上～60㎏未満 （ 0．9％）
- 60以上～70㎏未満 （ 0．3％）
- 70以上～80㎏未満 （ 0．2％）
- 80以上～90㎏未満 （ 0．1％）
- 90以上～100㎏未 （ 0．0％）
- 100㎏以上 （ 0．1％）



2号配石墓群

- 0～1㎏未満 （10．6％）
- 1以上～10㎏未満 （24．4％）
- 10以上～20㎏未満 （20．6％）
- 20以上～30㎏未満 （18．9％）
- 30以上～40㎏未満 （11．4％）
- 40以上～50㎏未満 （ 7．8％）
- 50以上～60㎏未満 （ 2．8％）
- 60以上～70㎏未満 （ 1．9％）
- 70以上～80㎏未満 （ 0．3％）
- 80以上～90㎏未満 （ 0．0％）
- 90以上～100㎏未 （ 0．6％）
- 100㎏以上 （ 0．8％）



3号配石墓群

- 0～1㎏未満 （21．4％）
- 1以上～10㎏未満 （45．2％）
- 10以上～20㎏未満 （12．4％）
- 20以上～30㎏未満 （ 9．8％）
- 30以上～40㎏未満 （ 8．7％）
- 40以上～50㎏未満 （ 1．7％）
- 50以上～60㎏未満 （ 0．4％）
- 60以上～70㎏未満 （ 0．0％）
- 70以上～80㎏未満 （ 0．2％）
- 80以上～90㎏未満 （ 0．0％）
- 90以上～100㎏未 （ 0．0％）
- 100㎏以上 （ 0．0％）

列石使用礫計測グラフ

構築方法は、墓坑を掘り下げその中に、礫の配置部分を掘り込み礫をはめ込む形、あるいはそのまま礫組を行い、所謂裏込め状態に土で固定し底面を設定するものである。この構築方法を持って枕石型を見ると、石棺墓の礫が抜き取られた結果枕石型になったとは考えられず、明らかに配石墓の形態は２種類は存在し、土壙墓を加えると３種類になることが判明している。この形態の相違については、単純に被葬者の違いに起因するものあるいは時間差などが思いつくが、３号配石墓から検出された枕石型の配石墓は偏在して確認されることにより、時間差に起因する可能性が高いものと判断された。

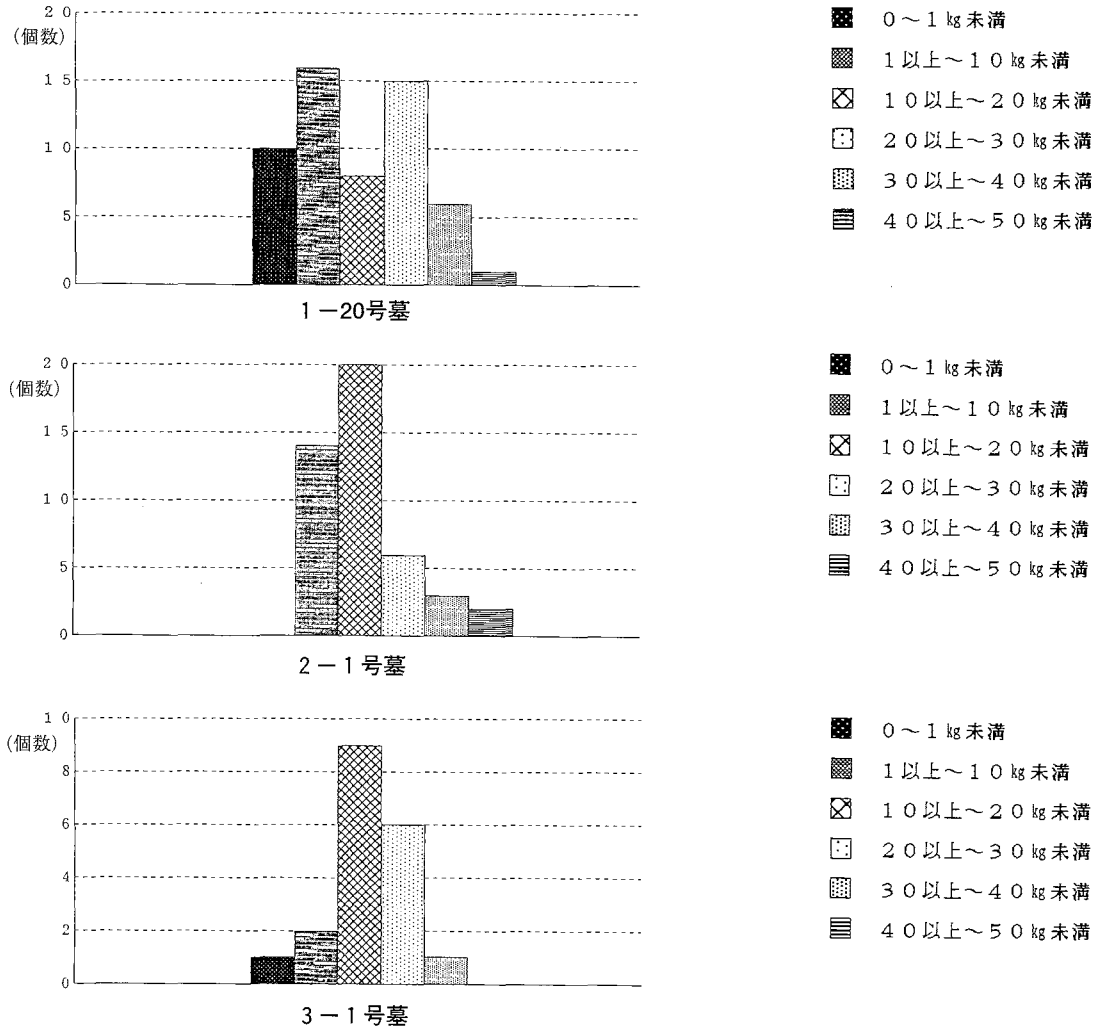
配石墓群の時期

配石墓群の時期については、配石墓そのものから出土した遺物は少なく、その少ない遺物と列石及びその周辺より出土した土器より年代を与えると次の通りとなる。１号配石墓群においては、浅間山起源のホウロク層と呼ばれる岩盤質ローム層と下位のＹＰ層を、不整形ではあるが、東西10ｍ程、南北18ｍ以上、深さ30㎝程の範囲で掘り下げ、配石墓を数基構築した後これを含めて埋め戻し平坦にならしていることや、１－24号墓（Ab1類）と47号墓（Ab類）に重複関係が見られることから一定期間に亘って構築されたことが窺われる。では具体的にはどうであろうか。１－22号墓（Ab類か）からは、加曽利Ｅ３式に比定される両耳壺が出土している。ただ本遺構は石棺型を呈しているものの、遺存状態が悪く、時期の古い他の遺構に重複して構築されたとの見方があるなど、遺構に伴い遺構の時期を端的に示すものか否か判断に苦しむ。いずれにしろ列石及び周辺からは中期末の遺物や同時期の敷石住居が確認されることより、配石墓群の構築は少なくとも加曽利Ｅ４式期には開始されていた可能性が窺われ、１－３号墓（Ab1類）の称名寺Ⅱ式期を経て堀之内式期、加曽利Ｂ１ないし２式期まで継続して構築していることが明らかとなった。これに対して２号配石墓群は、前述した様に検出状況に相違が見られ、更に堀之内２式の遺物を主体としており短期間に構築されたものと判断される。一方、３号配石墓群は、３－３（C類か）と10号墓（Ab類か）、３－７（C類）と８号墓（C類）、３－14（C類）と15号墓（C類か）、３－19（C類）と20号墓（C類）において重複が確認され、出土遺物では３－１（Ab1類）・３号墓からは堀之内２式の土器片が、３－18号墓（C類）からは堀之内２式と加曽利Ｂ１式の遺物が出土し、周辺からは、堀之内１式から加曽利Ｂ２式へかけての資料が得られ、１号配石墓群と同様に長期間に亘って構築されてたことが明らかとなっている。

まとめ

配石墓の構築は、縄文時代後期において、配石墓の上に列石を覆うことにより完成したと見られ、縄文人の精神生活に触れる遺跡といえよう。特に１・３号配石墓群は長期間に使用された墓域で、列石は墓域機能の一端を担うものと解釈されるが、２号配石墓群は、検出されている墓坑の数やその構築状況から墓域というよりは、むしろ葬送などに伴う何らかな祭祀の場として機能していたと推測される。各配石墓を見ると弧状の角度が僅かずつ変化しており、弧の中心部に立つと背後に妙義山を仰ぎ見られ、あくまでも推測の域を脱しないが、構築にあたっては妙義山を意識していたのではないかと考えられる状況にあった。また、今回の調査においては、配石墓群を構築した人々の集落と想定される遺構は検出されておらず、奇しくも墓域と集落の分化が窺われる結果となっている。配石について群馬県においては、最近の発掘調査の増加に伴って調査事例も多く管見に触れる代表的遺跡を挙げると、田篠中原遺跡、深沢遺跡、長根安坪遺跡、五料野ヶ久保遺跡、横俵遺跡群大道遺跡、天神原遺跡、十二原Ⅱ遺跡・久森遺跡・行沢大竹遺跡などが列記され、中期前半から晩期へかけての所産と捉えられている。これらを概観すると、環状列石を検出している遺跡数は少

なく、配石墓を検出する例が圧倒的に多かった。これら列石の構築は、縄文時代中期前半の所産と捉えられる十二原Ⅱ遺跡を初見として、中期末の加曽利Ｅ３～４式にかけて認められている。続く後・晩期に至ると明確に列石と断定できるものはなくなり、配石墓の構築へと変遷しているようである。このことを踏まえて見ると配石遺構の構築は、列石のみの構築で下部に遺構を伴わないもの、列石の周辺部に配石墓や土壙墓が検出されるもの、列石の下部より配石墓や土壙墓が検出されるもの、列石を伴わず配石墓や礫により構築された遺構が検出されるもの、に大別され、更に列石及び配石墓の構造により細分化される。下部より検出された配石墓は、科学分析の結果や骨片・骨粉の出土等から、その呼称の通り墓としての機能と考えられ、その上に構築されている列石は墓域を示すものと解釈が出来る。しかし、２号配石の事例や、中期の環状列石の中には墓坑を伴わないもの、あるいは環状列石の外側に墓坑が位置するものが見られ、列石は墓域なり何らかな墓機能の一端を担うものと考えられるが、墓と直接的に結びつかない遺構も存在する可能性を示している。いずれにしろこれまでの調査事例から列石の構築は前半においては整然と造られ、徐々に崩れ全体を覆う様になり、配石墓の構築が主体になると仮説が立てられる。これはあくまでも仮



配石墓使用礫計測グラフ

説であるが、各遺構の詳細を分析すると、配石の構造について時期的な変遷が捉えられると考えられる。また、配石墓の形態についても、現在のところ各遺構内における相違は確認されるものの、行田梅木平遺跡の様に多種類ではない。本遺跡における形態の相違は何から生じているのであろうか、一つには時間差に起因するものと考えられ、被葬対象者の違いによるという解釈もできる。多くの場合、環状を呈する墓の集合体は、随時構築された墓の最終段階を示すもので、時間差に起因しているものと考えられるが、行田梅木平遺跡の場合も同様に、配石墓群内における時間差は捉えられた。しかし、配石墓が形態的にどの様に変遷するかなど検討の余地は残しており、時間差のみに結論づけるのは早急の様に思う。今後、これらの分析・検討することによって縄文時代の精神文化についての更なる知見が得られることを期待したい。

参考文献

石井克己　1985　「文化財レポート子持村押手遺跡の配石遺構について」『群馬文化』第20号

菊池　実　1988　「縄文時代の環状列石－群馬県内における調査事例から－」『東国史論　3』　群馬考古学協会

菊池　実　1988　「群馬県内における縄文時代の配石遺構覚書」『群馬の考古学』創立十周年記念論集（財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

下城正　他　1989　「縄文時代後期における配石墓の構造－深沢遺跡の形成過程を中心として－」『研究紀要』6　㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団

ニュー・サイエンス社　1987　『考古学ジャーナル』No.285

群馬県　1988　『群馬県史』資料編１　原始古代１

山梨県考古学協会秋期大会資料集　1990　『シンポジウム　縄文時代屋外配石の変遷－地域的特色とその画期－』

東村教育委員会　1978　『佐波郡東村曲沢遺跡』

群馬県教育委員会　㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団　1986　『三後沢遺跡　十二原Ⅱ遺跡』一般国道17号線（月夜野バイパス）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－Ⅱ－

群馬県教育委員会　㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団　東日本旅客鉄道㈱　1987　『深沢遺跡　前田原遺跡』上越新幹線関係埋蔵文化財発掘調査報告第10集

山梨県教育委員会　1989　『金生遺跡Ⅱ（縄文時代編）県営圃場整備事業に伴う発掘調査報告書』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第41集

群馬県教育委員会　㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団　日本道路公団　1990　『田篠中原遺跡』㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第112集　関越自動車道（上越線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書第５集

抄　　録

フリガナ	オクナダウメキダイライセキ（オクナダニイセキ）
書名	行田梅木平遺跡（行田Ⅱ遺跡）
副書名	関越自動車道（上越線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書
編著者名	間宮　政光
編集機関	山武考古学研究所　〒286　千葉県成田市並木町221番地
発行機関	日本道路公団・群馬県教育委員会・松井田町遺跡調査会
発行年月日	西暦１９９７年　３月３１日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
オクナダウメキダイラ 行田梅木平 イセキ 遺跡	グンマケンウスイグンマツイ 群馬県碓氷郡松井 ダマチオクナダ 田町行田1270他	10401		36° 18′ 27″	138° 47′ 01″	19881001～ 19881227 19890401～ 19910221	28.260㎡	関越自動車道 （上越線） 建設工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
行田梅木平 遺跡 東部調査区	集落跡 墓跡	縄文時代 弥生時代 平安時代	住居跡　65軒 掘立柱建物跡　28棟 配石墓群　3群 配石墓（1号配石墓群）　47基 配石墓（2号配石墓群）　5基 配石墓（3号配石墓群）　24基 集石　8基 土坑　483基 埋設土器　26基 野外炉　2基 溝　1条 製鉄跡　2基 柵列　1列	縄文土器：花積下層式、黒浜式、諸磯a・b・c式、北白川下層式、浮島式、十三菩提式、興津式、五領ヶ台式、阿玉台Ⅰa・Ⅰb・Ⅱ式、勝坂1・2式、加曽利E3・4式、称名寺式Ⅰ・Ⅱ式・堀之内1・2式、三十稲葉式、加曽利B1・2式土製品：土偶・土製円盤 石器：打製石斧・磨製石斧・石匙・石錐・石鏃・楔型石器・剥片石器・石棒・石剣・石錘・敲石・有溝砥石・磨石・凹石・多孔石・石皿・抉状耳飾・玉類 弥生土器：永神平式 土師器：坏・高台付坏・甕・耳皿 須恵器：坏・高台付坏・甕・長頸壺 灰釉陶器：椀 その他：墨書土器・瓦・鉄滓	東部調査区において特筆される遺構は縄文時代後期の所産と捉えられる3群の配石墓群である。配石墓群は上部配石である列石と、下部配石である墓坑により構成され、全体で大小合わせて約4500個の礫を用いて構築している。列石は、弧状呈し、1号に関しては加曽利E4式から称名寺式、堀之内式を経て加曽利B2式までの長期にわたって構築されたものでいくつかの列石の集合体であることとが明らかとなっている。一方、2号は、1・3号に比べ整然とした構築で出土遺物より堀之内期の短期間で構築されたことが判明し対照的な結果を得ている。下部配石である墓坑は、概ね列石の下部に位置し、形態的には石棺型、枕石型、土壙墓に分類される。
西部調査区	集落跡	縄文時代 歴史時代	住居跡　2軒 掘立柱建物跡　7棟 溝状遺構　1条 土坑　23基	縄文土器：草創期終末・黒浜式・諸磯b式・十三菩提式・加曽利E3・4式 石器：打製石斧・石棒・磨石・凹石・多孔石 須恵器：坏 その他：軒平瓦・平瓦・丸瓦	本調査区の北端に位置する1号溝状遺構から多量の瓦が出土し、中には上野国分寺と同笵の瓦が確認される。調査区の北側はほぼ平坦な地形を示しており、瓦を伴う何らかの遺構が埋没する可能性を示している。

行田梅木平遺跡

（行田Ⅱ遺跡）

関越自動車道（上越線）地域
埋蔵文化財発掘調査報告書
本　文　編

印刷　平成９年３月１日
発行　平成９年３月31日

編　集　山武考古学研究所
発　行　日本道路公団
　　群馬県教育委員会
　　松井田町遺跡調査会
印　刷　㈱文化総合企画
　　千葉県印旛郡富里町日吉台1-23-12
　　Tel（0476）93-0593